HITACHI
Inspire the Next

帳票システム構築支援　uCosminexus　EUR（イーユーアール）

uCosminexus EUR Print Manager

帳票出力

文法・操作書

3020-7-538-40

■対象製品

R-1521D-18 uCosminexus EUR Print Manager 08-70（適用 OS：Windows Server 2003，Windows Server 2008）
R-1521D-28 uCosminexus EUR Print Manager - Report Server 08-70（適用 OS：Windows Server 2003，Windows Server 2008）
R-1M21D-18 uCosminexus EUR Print Manager 08-70（適用 OS：AIX 5L V5.3，AIX V6.1，AIX V7.1）
R-1M21D-28 uCosminexus EUR Print Manager - Report Server 08-70（適用 OS：AIX 5L V5.3，AIX V6.1，AIX V7.1）
R-1921D-18 uCosminexus EUR Print Manager 08-70（適用 OS：HP-UX 11i V2(IPF)，HP-UX 11i V3(IPF)）
R-1921D-28 uCosminexus EUR Print Manager - Report Server 08-70（適用 OS：HP-UX 11i V2(IPF)，HP-UX 11i V3(IPF)）
R-1S21D-18 uCosminexus EUR Print Manager 08-70（適用 OS：Red Hat Enterprise Linux AS 4，Red Hat Enterprise Linux ES 4，Red Hat Enterprise Linux 5，Red Hat Enterprise Linux 5 Advanced Platform）
R-1S21D-28 uCosminexus EUR Print Manager - Report Server 08-70（適用 OS：Red Hat Enterprise Linux AS 4，Red Hat Enterprise Linux ES 4，Red Hat Enterprise Linux 5，Red Hat Enterprise Linux 5 Advanced Platform）
これらの製品は，ISO9001 および TickIT の認証を受けた品質マネジメントシステムで開発されました。

■輸出時の注意

本製品を輸出される場合には，外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上，必要な手続きをお取りください。
なお，ご不明な場合は，弊社担当営業にお問い合わせください。

■商標類

Acrobat は，Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
Active Directory は，米国 Microsoft Corporation の，米国およびその他の国における登録商標または商標です。
ActiveX は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Adobe，および Flash は，Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
Adobe，および Reader は，Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社) の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
AIX は，米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。
AIX 5L は，米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。
HP-UX は，Hewlett-Packard Company のオペレーティングシステムの名称です。
Internet Explorer は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Itanium は，アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。
J2EE は，Oracle Corporation 及びその子会社，関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。
Java は，Oracle Corporation 及びその子会社，関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商

標です。
JavaScript は，Oracle Corporation 及びその子会社，関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。
JDK は，Oracle Corporation 及びその子会社，関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。
JSP は，Oracle Corporation 及びその子会社，関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。
Linux は，Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。
Microsoft および Hyper-V は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Microsoft Internet Information Services は，米国 Microsoft Corporation の商品名称です。
Microsoft Office Excel は，米国 Microsoft Corporation の商品名称です。
Red Hat は，米国およびその他の国で Red Hat, Inc. の登録商標もしくは商標です。
RPM は，RPM Package Manager の略称です。
UNIX は，The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。
Visual Basic は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Windows は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Windows Server は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Windows Vista は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

■マイクロソフト製品のスクリーンショットの使用について

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

■マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは，マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

<table>
<tr><th>製品名称</th><th colspan="3">表　記</th></tr>
<tr><td>Active Directory(R)</td><td colspan="3">Active Directory</td></tr>
<tr><td>ActiveX(R)</td><td colspan="3">ActiveX</td></tr>
<tr><td>Microsoft(R) Office Excel(R)</td><td colspan="3">Excel</td></tr>
<tr><td>Microsoft(R) Internet Information Services</td><td colspan="3">IIS</td></tr>
<tr><td>Microsoft(R) Internet Explorer(R)</td><td colspan="3" rowspan="2">Internet Explorer</td></tr>
<tr><td>Windows(R) Internet Explorer(R)</td></tr>
<tr><td>Microsoft(R) Visual Basic(R)</td><td colspan="3">Visual Basic</td></tr>
<tr><td>Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional
Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise
Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate</td><td colspan="2">Windows 7</td><td rowspan="2">Windows</td></tr>
<tr><td>Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition</td><td>Windows Server 2003 Editions</td><td>Windows Server 2003</td></tr>
</table>

製品名称	表　記	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition	Windows Server 2003 R2	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition	Windows Server 2003 R2 x64	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition	Windows Server 2003 x64	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM) Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM) Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise Edition	Windows Server 2008 Editions	Windows Server 2008
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter	Windows Server 2008 R2	
Microsoft(R) Windows Vista(R) Business Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate	Windows Vista	
Microsoft(R) Windows(R) XP Home Edition Operating System Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System	Windows XP	

このほかに，このマニュアルでは，Windows Server 2003 x64，Windows Server 2003 R2 x64，Windows Server 2008 Editions（64 ビット版），および Windows Server 2008 R2 を総称して，64 ビット版の Windows Server と表記することがあります。

■発行

2011 年 8 月　3020-7-538-40

■著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2009, 2011, Hitachi, Ltd.
All Rights Reserved. Copyright (C) 2009, 2011, Hitachi Solutions, Ltd.

変更内容

変更内容（3020-7-538-40） uCosminexus EUR Print Manager 08-70，uCosminexus EUR Print Manager - Report Server 08-70

追加・変更内容	変更個所
AIX V7.1 をサポートしました。	―
次の説明を追加しました。 • 蓄積印刷の流れ • 蓄積時に設定できる属性情報	2.1.1，2.1.2
帳票を指定したページ数で分割して蓄積できるようになりました。また，入力データ中のキーワードで帳票を仕分けして蓄積できるようになりました。 これに伴い，次の項目を追加，変更しました。 • 印刷先定義ファイル，EURPM 分割定義ファイル，および EURPM 仕分け定義ファイルの説明を追加しました。 • ActiveX 起動部品に，SplitFileName プロパティ，SplitFilePath プロパティ，および SplitMode プロパティを追加しました。 • Java 起動部品に，setSplitFileData メソッド，setSplitFileName メソッド，setSplitFilePath メソッド，および setSplitMode メソッドを追加しました。 • COBOL 起動部品に，SPLITMODE パラメタ，SPLITFILENAME パラメタ，および SPLITFILEPATH パラメタを追加しました。 • コマンド起動部品に，/split オプション，/splitf オプション，および /splitfp オプションを追加しました。 • 分割，または仕分けした印刷データを蓄積するときのコーディング例を追加しました。 • EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）に，SPLIT キー，および SPLITMODE キーを追加しました。 • EUR Print Manager のインストール後に作成されるフォルダに，「Split」を追加しました。また，印刷先定義ファイル，EURPM 分割定義ファイル，および EURPM 仕分け定義ファイルのサンプルファイルがインストールされるようになりました。 • 用語解説に，次の用語を追加しました。 ・印刷先定義 ・仕分け	2.1.1，2.1.2，2.2.2，2.2.3，2.2.4，9.2.2，9.4，9.10.1，9.11.5，9.11.6，10.2.2，10.4，10.12.1，10.13.8，10.13.9，11.3，11.5.1，11.6.2，11.6.3，12.2.2，12.3.2，12.6，15.1.1，15.1.3，15.6，15.6.3，15.9，15.10，16.1(1)，16.2，16.2.16，16.2.20(1)，16.2.23，16.2.30，17.1(3)(b)，付録 B.2，付録 F.1，付録 F.2，付録 G.7，付録 H
蓄積ファイルの蓄積期限日を日数で指定できるようになりました。また，蓄積期限日のデフォルト値を，環境設定ファイルで変更できるようになりました。 これに伴い，次の項目を追加，変更しました。 • EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）に SPOOLLIMIT キーを追加しました。 • ActiveX 起動部品の SpoolLimit プロパティの説明を変更しました。 • Java 起動部品の setSpoolLimit メソッドの説明を変更しました。 • COBOL 起動部品の SPOOLLIMIT パラメタの説明を変更しました。 • コマンド起動部品の /lm オプションの説明を変更しました。	2.1.3(1)(b)，2.2.4，9.4，10.4，11.3，12.2.2，16.1(2)，16.3，16.3.12

追加・変更内容	変更個所
帳票を分割または仕分けして蓄積した場合，蓄積直後に蓄積した蓄積ファイルのジョブ ID の一覧を，EUR Print Manager から取得できるようになりました。 これに伴い，次の項目を追加，変更しました。 • ActiveX 起動部品に，GetJobIDList メソッドを追加しました。また，GetJobID メソッドの説明を変更しました。 • Java 起動部品に，getJobIDList メソッドを追加しました。また，getJobID メソッドの説明を変更しました。 • COBOL 起動部品に，PrintReport2 関数を追加しました。また，PrintReport 関数の戻り値 JOBID の説明を変更しました。 • コマンド起動部品に，/alljob オプションを追加しました。 • EUR Print Manager のインストール時に，PrintReport2 関数用のインタフェース領域定義ファイルがインストールされるようになりました。	2.2.4，9.2.1，9.3，10.2.2，10.4，11.1.1，11.2，11.3，12.2.2，12.3.2，付録 B.4
ダウンロードパッケージ（CAB 形式ファイル）でのインストールの場合，EUR Print Manager - Client Print ActiveX または EUR Print Manager - Client Preview ActiveX を標準ユーザー権限でインストールできるようになりました。 これに伴い，次の項目を追加，変更しました。 • ユーザー単位インストール用のダウンロードパッケージを追加しました。 • インストール方法，アンインストール方法，および移行方法の説明を変更しました。 • 蓄積管理 GUI の環境設定ファイル（EURPMRSGUI.ini）に，PATH_MACHINE キーを追加しました。 • クライアント PC の環境に応じてインストールに使用するダウンロードパッケージを切り替えるためのコーディング例を追加しました。 • インストール，およびアンインストールに必要なユーザー権限の説明を追加しました。	3.2.2(3)，8.1.3(2)，9.11.7，10.13.10，16.1(5)，16.6，16.6.2，18.5.1，付録 A.4，付録 B，付録 B.10(2)，付録 B.11，付録 C，付録 C.6
次の ActiveX 部品のプロパティに，複数の値を指定する場合の指定例を追加しました。 • ExclusionPrinterDriver プロパティ • ExclusionPrinterName プロパティ	8.5
蓄積ファイルの格納ファイル名に 8 けたの通し番号を設定できるようになりました。 これに伴い，次の項目を変更しました。 • ActiveX 起動部品の SpoolFileName プロパティ • Java 起動部品の setSpoolFileName メソッド • COBOL 起動部品の SPOOLFILENAME パラメタ	9.4，10.4，11.3
次の起動部品の説明に，複数の帳票セットを指定する場合の指定例を追加しました。 • ActiveX 起動部品の BookmarkFileName プロパティ，DataFileName プロパティ，UserDataFileName プロパティ • Java 起動部品の setBookmarkFileData メソッド，setDataFileData メソッド，setMultiBookmarkFileName メソッド，setMultiDataFileName メソッド，setMultiUserDataFileName メソッド，setUserDataFileData メソッド	9.4，10.4

追加・変更内容	変更個所
Java 起動部品，および RS-Java 起動部品の設定方法の説明を変更しました。	10.1.2(2)，10.6.2(2)
64 ビットプログラムから COBOL 起動部品を呼び出す場合の呼び出し規約について，説明を追加しました。	11.1.2
Internet Explorer 9 をサポートしました。	18.1.14，18.7(5)

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

今版では，2 章の一部の目次構成を変更しました。旧版との対応は次のようになっています。

旧（3020-7-538-30）	新（3020-7-538-40）
2.1 蓄積印刷とは	2.1 蓄積印刷とは 2.2.1 印刷データの蓄積の流れ
2.1.1 蓄積したデータの印刷（拠点サーバ）	2.5.1 拠点サーバのプリンタで印刷する
2.1.2 蓄積したデータの印刷（クライアント PC）	2.5.2 クライアント PC のプリンタで印刷する
2.1.3 蓄積したデータの統合	2.4 蓄積したデータの統合
2.2.1 蓄積ファイルの格納先の設定	2.1.3 蓄積ファイルの格納先の設定
2.2.2 印刷データを蓄積する手順	2.2.4 印刷データを蓄積する手順
2.4 蓄積ファイルからの印刷	2.5 蓄積ファイルからの印刷（再印刷）

はじめに

このマニュアルは，EUR Designerで設計した帳票を，次に示すプログラムプロダクトを使用して帳票出力する方法について説明したものです。

- R-1521D-18　uCosminexus EUR：イーユーアール Print Manager
- R-1521D-28　uCosminexus EUR：イーユーアール Print Manager - Report Server
- R-1M21D-18　uCosminexus EUR：イーユーアール Print Manager
- R-1M21D-28　uCosminexus EUR：イーユーアール Print Manager - Report Server
- R-1921D-18　uCosminexus EUR：イーユーアール Print Manager
- R-1921D-28　uCosminexus EUR：イーユーアール Print Manager - Report Server
- R-1S21D-18　uCosminexus EUR：イーユーアール Print Manager
- R-1S21D-28　uCosminexus EUR：イーユーアール Print Manager - Report Server

■対象読者

このマニュアルは，EUR Designerで設計した帳票を分散印刷する方を対象としています。
また，次に示す内容を理解していることを前提とします。

- Microsoft(R) Windows(R) Operating System の知識
- AIX の知識
- HP-UX の知識
- Linux(R) の知識
- ActiveX(R) の知識
- Visual Basic Script または Microsoft(R) Visual Basic(R) の知識
- Java^{TM} の知識
- COBOL の知識
- EUR Print Service の知識

■読書手順

このマニュアルは，次に示す利用目的によって，記述個所を選択して読めます。

利用目的		記述個所
EUR Print Manager の概要を知りたい。		1.1
拠点サーバでの印刷について知りたい。	印刷手順	1.2
	拠点サーバの設定	4.1
	拠点プリンタクラスの設定	4.3
	帳票振り分け定義の設定	4.4
	拠点サーバでの印刷	4.6.1

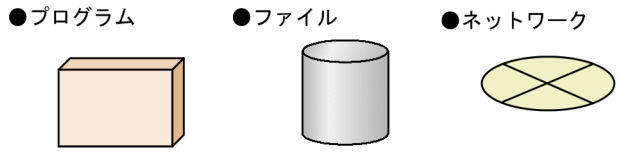
利用目的		記述個所
EUR Print Service と連携した拠点サーバでの印刷について知りたい。	印刷手順	1.3
	拠点サーバの設定	4.1
	拠点プリンタクラスの設定	4.3
クライアント PC での自動印刷または全自動印刷について知りたい。	印刷手順	1.4
	クライアントプリンタクラスの設定	4.5
	クライアント PC での自動印刷または全自動印刷	4.6.2
クライアント PC での対話型印刷または対話型印刷プレビュー表示について知りたい。	印刷手順	1.5
	クライアント PC での対話型印刷	4.6.3
クライアント PC への配布印刷について知りたい。	印刷手順	1.6
	クライアント PC への配布印刷	4.6.5
Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷について知りたい。	印刷手順	1.7
	Web ブラウザを使用した印刷（自動印刷）	4.6.6
	Web ブラウザを使用した印刷（プレビュー画面からの印刷）	4.6.7
	Web ブラウザを使用した印刷（ダイアログでの印刷）	4.6.8
	Web ブラウザを使用した印刷（ヘルパクライアント印刷）	4.6.9
	Web 出力で使用する ActiveX 部品を使用した印刷	8 章
コマンドを使用したクライアント PC での印刷について知りたい。	印刷手順	1.8
	クライアントコマンドを使用した印刷	4.6.10, 14 章
EUR Viewer を使用したクライアント PC での印刷について知りたい。	印刷手順	1.9
	EUR Viewer を使用した印刷	4.6.11
Adobe Reader を使用したクライアント PC での印刷について知りたい。	印刷手順	1.10
	Adobe Reader を使用した印刷	4.6.12
Excel を使用したクライアント PC での印刷について知りたい。	印刷手順	1.11
	Excel を使用した印刷	4.6.13
印刷管理サーバの直接印刷について知りたい。	印刷手順	1.12
	印刷管理サーバの設定	4.2
	印刷管理サーバを使用した印刷	4.6.14

利用目的			記述個所
複数の帳票を一つの印刷データに統合して出力する方法について知りたい。	統合手順（EPF 形式ファイル）		1.13
	統合手順（蓄積ファイル）		2.4
蓄積印刷について知りたい。	蓄積印刷の概要		2.1
	印刷データの蓄積	蓄積の流れ	2.2.1
		分割した印刷データを蓄積する	2.2.2
		仕分けした印刷データを蓄積する	2.2.3
		蓄積手順	2.2.4
	蓄積ファイルの操作		2.3
	蓄積ファイルからの印刷（再印刷）	拠点サーバのプリンタで印刷する	2.5.1
		クライアント PC のプリンタで印刷する	2.5.2
GUI による蓄積管理について知りたい。	蓄積管理 GUI の概要		3.1
	準備しておくこと		3.2
	画面構成		3.3
	蓄積管理 GUI の操作		3.4
	蓄積ファイルからの印刷手順		3.5
蓄積ファイルのセキュリティ管理方法について知りたい。			5 章
EUR Print Manager の起動管理方法について知りたい。			6 章
EUR Print Manager - Report Server の起動管理方法について知りたい。			7 章
Web ブラウザを使用して帳票を印刷するための ActiveX 部品を使用した帳票出力について知りたい。			8 章
業務アプリケーションと連携した帳票出力について知りたい。	ActiveX 起動部品，および RS-ActiveX 起動部品を使用した帳票出力		9 章
	Java 起動部品，および RS-Java 起動部品を使用した帳票出力		10 章
	COBOL 起動部品を使用した帳票出力		11 章
	コマンド起動部品を使用した帳票出力		12 章
	RS- コマンド起動部品を使用した帳票出力		13 章
EUR Print Manager で扱うファイルについて知りたい。	扱えるファイルの種類および文字コード		15.1
	印刷データファイル		15.2
	印刷定義ファイル		15.3
	ユーザーデータファイル		15.4

利用目的		記述個所
	蓄積ファイル	15.5
	構成定義ファイル	15.6
	ActiveX クライアント情報ファイル	15.7
	印刷日時出力定義ファイル	15.8
	EURPM 分割定義ファイル	15.9
	EURPM 仕分け定義ファイル	15.10
	環境設定ファイル	15.11
	EURPM 起動管理定義ファイル	15.12
実行環境について知りたい。	環境設定ファイルの項目一覧	16.1
	環境設定ファイル（EUR Print Manager）	16.2
	環境設定ファイル（EUR Print Manager - Adapter）	16.3
	環境設定ファイル（EUR Print Manager - Report Server）	16.4
	環境設定ファイル（EUR Print Manager - Report Server Adapter）	16.5
	環境設定ファイル（蓄積管理 GUI）	16.6
	環境設定ファイル（EUR Print Manager - Client）	16.7
	環境設定ファイル（EURPM 制御コマンド）	16.8
	環境設定ファイル（EURPM-RS 制御コマンド）	16.9
	EPF 形式ファイルを出力する場合の実行環境の設定	16.10
	環境設定ファイルの詳細コード	16.11
障害が発生した場合の対処方法について知りたい。		17 章
EUR Print Manager の使用上の注意について知りたい。		18 章
製品をインストールする前に，旧バージョンとの互換性について知りたい。		付録 A
インストールの方法とインストール後のフォルダ構成について知りたい。		付録 B
アンインストールの方法について知りたい。		付録 C
システムの負荷分散と多重化を目的としたシステム構成とその構築方法について知りたい。		付録 D
表示言語とエンコーディングについて知りたい。		付録 E
EUR Print Manager と対応する各製品のバージョンについて知りたい。		付録 F
このマニュアルを読むに当たっての参考情報について知りたい。		付録 G
EUR Print Manager の用語について知りたい。		付録 H

■図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用している記号を，次のように定義します。



■このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号について，次に示します。

記　号	意　　味
［　］	画面の名称，メニュー項目，ダイアログボックス，ダイアログボックスのボタンなど，画面に表示されている項目を示します。 （例）［ファイル］－［新規作成］を選択する。 　メニューバーの［ファイル］を選んで，プルダウンメニューの［新規作成］を選択することを示します。
｜	横に並べられた複数の項目に対する項目間の区切りを示し，「または」を意味します。 （例）A ｜ B 　「A，または B を指定する」ことを示します。
{　}	この記号で囲まれている複数の項目のうちから一つを選択することを示します。項目が横に並べられ，記号｜で区切られている場合は，そのうちの一つを選択します。 （例）{A ｜ B ｜ C} 　「A，B，または C のどれかを指定する」ことを示します。
〔　〕	この記号で囲まれている項目は省略してもよいことを示します。複数の項目が横に並べて記述されている場合には，すべてを省略するか，記号 {　} と同じくどれか一つを選択します。 （例 1）〔A〕 　「何も指定しない」か「A と指定する」ことを示します。 （例 2）〔B ｜ C〕 　「何も指定しない」か「B，または C と指定する」ことを示します。
＿	括弧で囲まれた複数項目のうち 1 項目に対し使用され，括弧内のすべてを省略したときシステムがとる標準値を示します。 （例）〔A ｜ B ｜ C〕 　「A，B，C のどれも指定しなかった場合，システムは C が指定されたときと同じ処理をする」ことを示します。
斜体	可変を意味します。

目次

1 EUR Print Manager の概要 1

1.1 EUR Print Manager とは 2

1.1.1 各拠点に配置したサーバでの印刷 2

1.1.2 クライアント PC での印刷 4

1.1.3 印刷管理サーバでの直接印刷 8

1.1.4 複雑なプリンタ出力を画面で定義 9

1.1.5 複数の形式のファイルを出力 10

1.1.6 複数の帳票を統合して出力 11

1.1.7 英語環境用のインタフェースを提供 11

1.1.8 業務アプリケーションとの連携 12

1.2 拠点サーバでの印刷 14

1.2.1 拠点サーバでの印刷手順 15

1.3 EUR Print Service と連携した拠点サーバでの印刷 19

1.3.1 EUR Print Service と連携した拠点サーバでの印刷手順 21

1.4 クライアント PC での自動印刷 25

1.4.1 帳票を自動印刷する手順 26

1.5 クライアント PC での対話型印刷 30

1.5.1 帳票を対話型印刷する手順 32

1.6 クライアント PC への配布印刷 35

1.6.1 帳票を配布印刷する手順 37

1.7 Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷 45

1.7.1 Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷（ActiveX クライアント印刷） 45

1.7.2 Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷（ヘルパクライアント印刷） 50

1.8 コマンドを使用したクライアント PC での印刷 55

1.8.1 コマンドを使用したクライアント PC での印刷手順 56

1.9 EUR Viewer を使用したクライアント PC での印刷 59

1.9.1 EUR Viewer を使用したクライアント PC での印刷手順 60

1.10 Adobe Reader を使用したクライアント PC での印刷 62

1.10.1 Adobe Reader を使用したクライアント PC での印刷手順 63

1.11 Excel を使用したクライアント PC での印刷 66

1.11.1 Excel を使用したクライアント PC での印刷手順 67

1.12 印刷管理サーバを使用した直接印刷 69

1.12.1 印刷管理サーバを使用した直接印刷の手順 70

1.13 複数の EPF 形式ファイルの統合 72
1.13.1 複数の EPF 形式ファイルを統合する手順 75

2 蓄積印刷 77
2.1 蓄積印刷とは 78
2.1.1 蓄積印刷の流れ 78
2.1.2 蓄積時に設定できる属性情報 81
2.1.3 蓄積ファイルの格納先の設定 82
2.2 印刷データの蓄積 84
2.2.1 印刷データの蓄積の流れ 84
2.2.2 分割した印刷データを蓄積する 85
2.2.3 仕分けした印刷データを蓄積する 87
2.2.4 印刷データを蓄積する手順 88
2.3 蓄積ファイルの操作 102
2.3.1 蓄積ファイルの一覧取得 102
2.3.2 蓄積ファイルの属性値の取得 104
2.3.3 蓄積ファイルの属性値の変更 106
2.3.4 蓄積ファイルの取得 109
2.3.5 蓄積ファイルのメモリ取得 112
2.3.6 蓄積ファイルの削除 113
2.3.7 蓄積期限が切れた蓄積ファイルの一括削除 114
2.4 蓄積したデータの統合 116
2.5 蓄積ファイルからの印刷（再印刷） 118
2.5.1 拠点サーバのプリンタで印刷する 119
2.5.2 クライアント PC のプリンタで印刷する 122

3 GUI による蓄積管理 129
3.1 GUI による蓄積管理とは 130
3.1.1 蓄積管理 GUI の機能 131
3.2 準備しておくこと 133
3.2.1 Web/AP サーバの設定 133
3.2.2 クライアント PC の設定 135
3.2.3 蓄積管理 GUI の表示方法 137
3.2.4 業務アプリケーションとの連携 137
3.3 画面構成 141

3.3.1 メイン画面 141
3.3.2 メニュー領域 141
3.3.3 ツリー領域 142
3.3.4 リストビュー領域 144
3.3.5 状態表示領域 147
3.4 蓄積管理 GUI の操作 149
3.4.1 蓄積管理ユーザの設定 149
3.4.2 拠点サーバのサーバ情報の取得 150
3.4.3 蓄積ファイルの一覧取得 150
3.4.4 蓄積ファイルの属性値の参照 151
3.4.5 蓄積ファイルの属性値の変更 153
3.4.6 蓄積ファイルの削除 157
3.4.7 蓄積期限が切れた蓄積ファイルの一括削除 158
3.4.8 蓄積ファイルの検索 158
3.5 蓄積ファイルからの印刷 163
3.5.1 プレビュー表示 163
3.5.2 印刷 166

4 出力先の設定と帳票の印刷 171
4.1 拠点サーバの設定 172
4.1.1 拠点サーバの登録 174
4.1.2 拠点サーバの変更 176
4.1.3 拠点サーバの削除 177
4.2 印刷管理サーバのプリンタクラスの設定 178
4.2.1 印刷管理サーバのプリンタクラスの登録 180
4.2.2 印刷管理サーバのプリンタクラスの変更 182
4.2.3 印刷管理サーバのプリンタクラスの削除 184
4.3 拠点プリンタクラスの設定 186
4.3.1 拠点プリンタクラスの登録 187
4.3.2 拠点プリンタクラスの変更 190
4.3.3 拠点プリンタクラスの削除 192
4.4 帳票振り分け定義の設定 193
4.4.1 帳票振り分け定義の登録 194
4.4.2 帳票振り分け定義の変更 197
4.4.3 帳票振り分け定義の削除 200
4.5 クライアントプリンタクラスの設定 201

4.5.1 クライアントプリンタクラスの追加 203
4.5.2 クライアントプリンタクラスの変更 205
4.5.3 クライアントプリンタクラスの削除 206
4.5.4 クライアントプリンタクラスの設定の配布 206
4.5.5 プリンタ非表示の設定 208
4.6 帳票の印刷 209
4.6.1 拠点サーバでの印刷 210
4.6.2 クライアント PC での自動印刷または全自動印刷 211
4.6.3 クライアント PC での対話型印刷 211
4.6.4 クライアント PC での対話型印刷プレビュー表示 219
4.6.5 クライアント PC への配布印刷 220
4.6.6 Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷（自動印刷） 221
4.6.7 Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷（プレビュー画面からの印刷） 221
4.6.8 Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷（ダイアログでの印刷） 222
4.6.9 Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷（ヘルパクライアント印刷） 224
4.6.10 コマンドを使用したクライアント PC での印刷 227
4.6.11 EUR Viewer を使用した印刷 228
4.6.12 Adobe Reader を使用した印刷 229
4.6.13 Excel を使用した印刷 229
4.6.14 印刷管理サーバを使用した印刷 229

5 蓄積ファイルのセキュリティ管理 231
5.1 セキュリティ管理の概要 232
5.2 蓄積管理ユーザを定義する（Windows 環境の場合） 235
5.2.1 蓄積管理ユーザの登録 236
5.2.2 蓄積管理ユーザ定義の変更 241
5.2.3 蓄積管理ユーザの削除 244
5.3 蓄積管理ユーザを定義する（UNIX/Linux 環境の場合） 245

6 EUR Print Manager の起動管理 247
6.1 起動管理の概要 248
6.1.1 自動起動の設定 248
6.2 ［EUR Print Manager 起動管理］ダイアログを使用して管理する（Windows 環境の場合） 250
6.2.1 起動管理定義の登録 251

6.2.2 起動管理定義の変更 253
6.2.3 起動管理定義の削除 254
6.3 EURPM 制御コマンドを使用して管理する 255
6.3.1 EURPM 制御コマンドのファイル名 255
6.3.2 EURPM 制御コマンドのオプション一覧 255
6.3.3 EURPM 制御コマンドの形式と指定例 257
6.3.4 エラー情報 265

7 EUR Print Manager - Report Server の起動管理 269
7.1 起動管理の概要 270
7.1.1 自動起動の設定 270
7.2 EURPM-RS 制御コマンドを使用して管理する（UNIX/Linux 環境の場合） 272
7.2.1 EURPM-RS 制御コマンドのファイル名 272
7.2.2 EURPM-RS 制御コマンドのオプション一覧 272
7.2.3 EURPM-RS 制御コマンドの形式と指定例 273
7.2.4 エラー情報 275

8 ActiveX 部品を使用した帳票出力 279
8.1 Web 出力で使用する ActiveX 部品 280
8.1.1 ActiveX 部品のファイル名 280
8.1.2 ActiveX 部品の使用方法 280
8.1.3 EUR Print Manager - Client Print ActiveX,および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX の使用方法 284
8.2 パラメタ，メソッド，プロパティ一覧 286
8.2.1 パラメター覧 286
8.2.2 メソッド一覧 287
8.2.3 プロパティ一覧 287
8.3 パラメタ仕様 289
8.4 メソッド仕様 296
8.5 プロパティ仕様 299

9 ActiveX 起動部品および RS-ActiveX 起動部品を使用した帳票出力 303
9.1 ActiveX 起動部品 304
9.1.1 ActiveX 起動部品のファイル名 304
9.1.2 ActiveX 起動部品のプログラム ID とコントロール名 304

9.1.3 ActiveX 起動部品が提供するクラス 304
9.1.4 ActiveX 起動部品の構文 305
9.2 ActiveX 起動部品のメソッドとプロパティ一覧 307
9.2.1 ActiveX 起動部品が提供するメソッド一覧 307
9.2.2 ActiveX 起動部品が提供するプロパティ一覧（出力メソッド） 308
9.2.3 ActiveX 起動部品が提供するプロパティ一覧（情報取得メソッド） 315
9.3 ActiveX 起動部品のメソッド仕様 316
9.4 ActiveX 起動部品のプロパティ仕様 337
9.5 RS-ActiveX 起動部品 386
9.5.1 RS-ActiveX 起動部品のファイル名 386
9.5.2 RS-ActiveX 起動部品のプログラム ID とコントロール名 386
9.5.3 RS-ActiveX 起動部品が提供するクラス 386
9.5.4 RS-ActiveX 起動部品の構文 387
9.6 RS-ActiveX 起動部品のメソッドとプロパティ一覧 389
9.6.1 RS-ActiveX 起動部品が提供するメソッド一覧 389
9.6.2 RS-ActiveX 起動部品が提供するプロパティ一覧 389
9.7 RS-ActiveX 起動部品のメソッド仕様 396
9.8 RS-ActiveX 起動部品のプロパティ仕様 410
9.9 環境設定ファイル 439
9.10 エラー情報 440
9.10.1 ActiveX 起動部品実行時のエラー情報一覧 440
9.10.2 RS-ActiveX 起動部品実行時のエラー情報一覧 442
9.10.3 Err.Number プロパティ（終了コード） 443
9.10.4 Err.Description プロパティ（メッセージ文） 444
9.11 コーディング例 445
9.11.1 プリンタ出力のコーディング例 445
9.11.2 PDF 形式ファイル出力のコーディング例 446
9.11.3 EUR 形式ファイル出力のコーディング例 447
9.11.4 蓄積のコーディング例 448
9.11.5 分割した印刷データを蓄積するときのコーディング例 449
9.11.6 仕分けした印刷データを蓄積するときのコーディング例 450
9.11.7 EUR Print Manager - Client Print ActiveX，または EUR Print Manager - Client Preview ActiveX を自動でインストールして帳票を出力するときのコーディング例 451

10 Java 起動部品および RS-Java 起動部品を使用した帳票出力 455
10.1 Java 起動部品 456

10.1.1 Java 起動部品の JDK バージョン 456
10.1.2 Java 起動部品の設定方法 456
10.1.3 Java 起動部品が提供するパッケージ 457
10.2 EURPMAdapterForJava クラス 458
10.2.1 EURPMAdapterForJava クラスのコンストラクタ 458
10.2.2 EURPMAdapterForJava クラスのメソッド一覧 459
10.3 EURPMException クラス 470
10.3.1 EURPMException クラスのメソッド一覧 470
10.4 EURPMAdapterForJava クラスのメソッド仕様 471
10.5 EURPMException クラスのメソッド仕様 570
10.6 RS-Java 起動部品 573
10.6.1 RS-Java 起動部品の JDK バージョン 573
10.6.2 RS-Java 起動部品の設定方法 573
10.6.3 RS-Java 起動部品が提供するパッケージ 574
10.7 EURPMLSAdapterForJava クラス 575
10.7.1 EURPMLSAdapterForJava クラスのコンストラクタ 575
10.7.2 EURPMLSAdapterForJava クラスのメソッド一覧 576
10.8 EURPMLSException クラス 583
10.8.1 EURPMLSException クラスのメソッド一覧 583
10.9 EURPMLSAdapterForJava クラスのメソッド仕様 584
10.10 EURPMLSException クラスのメソッド仕様 640
10.11 環境設定ファイル 642
10.12 例外情報 643
10.12.1 Java 起動部品実行時の例外情報一覧 643
10.12.2 RS-Java 起動部品実行時の例外情報一覧 645
10.12.3 getErrorCode メソッド（終了コード） 647
10.12.4 getErrorLevel メソッド（エラーレベル） 647
10.12.5 getKey メソッド（メッセージ ID） 647
10.12.6 getMessage メソッド（メッセージ文） 647
10.12.7 getOutputData メソッド 648
10.13 コーディング例 649
10.13.1 プリンタ出力のコーディング例 649
10.13.2 EPF 形式ファイル出力のコーディング例 649
10.13.3 Excel 形式ファイル出力のコーディング例 651
10.13.4 メモリ入出力のコーディング例 652
10.13.5 クライアント PC への配布印刷のコーディング例 653
10.13.6 クライアント PC への蓄積データの配布印刷のコーディング例 654

10.13.7 複数の EPF 形式ファイルを統合して出力するときのコーディング例 655
10.13.8 分割した印刷データを蓄積するときのコーディング例 656
10.13.9 仕分けした印刷データを蓄積するときのコーディング例 657
10.13.10 EUR Print Manager - Client Print ActiveX，または EUR Print Manager - Client Preview ActiveX を自動でインストールして帳票を出力するときのコーディング例 658

11 COBOL 起動部品を使用した帳票出力 663
11.1 COBOL 起動部品 664
11.1.1 COBOL 起動部品の構成 664
11.1.2 COBOL 起動部品の呼び出し規約 665
11.2 関数一覧 666
11.3 関数仕様 667
11.4 環境設定ファイル 806
11.5 エラー情報 807
11.5.1 エラー情報一覧 807
11.5.2 RTNCODE（終了コード） 809
11.5.3 ERRORMESSAGE（メッセージ） 809
11.6 コーディング例 810
11.6.1 複数様式帳票出力のコーディング例 810
11.6.2 分割した印刷データを蓄積するときのコーディング例 811
11.6.3 仕分けした印刷データを蓄積するときのコーディング例 812

12 コマンド起動部品を使用した帳票出力 815
12.1 コマンド起動部品 816
12.1.1 コマンド起動部品のファイル名 816
12.2 eurpmc コマンドに指定するオプション 817
12.2.1 コマンド起動部品が提供する機能（メソッド） 817
12.2.2 コマンド起動部品が提供する機能（プロパティ） 818
12.2.3 オプションを指定するときの注意 825
12.3 eurpmc コマンドの構文 826
12.3.1 帳票を印刷する場合 826
12.3.2 帳票を蓄積する場合 828
12.3.3 EPF 形式ファイルを出力する場合 830
12.3.4 複数の EPF 形式ファイルを統合して出力する場合 832
12.3.5 EUR 形式ファイルを出力する場合 833

12.3.6 PDF 形式ファイルを出力する場合 834
12.3.7 Excel 形式ファイルを出力する場合 836
12.3.8 出力先一覧を取得する場合 836
12.3.9 プリンタクラス一覧を取得する場合 837
12.3.10 プリンター覧を取得する場合 838
12.3.11 トレイ一覧を取得する場合 839
12.3.12 印刷管理サーバプリンタクラス一覧を取得する場合 840
12.3.13 印刷管理サーバプリンター覧を取得する場合 841
12.3.14 印刷管理サーバプリンタのトレイ一覧を取得する場合 841
12.4 環境設定ファイル 843
12.5 エラー情報 844
12.5.1 eurpmc コマンドの終了コード 844
12.5.2 エラーメッセージのフォーマット 844
12.6 コーディング例 846

13 RS- コマンド起動部品を使用した帳票出力 847
13.1 RS- コマンド起動部品 848
13.1.1 RS- コマンド起動部品のファイル名 848
13.2 eurpmlsc コマンドに指定するオプション 849
13.2.1 RS- コマンド起動部品が提供する機能（メソッド） 849
13.2.2 RS- コマンド起動部品が提供する機能（プロパティ） 850
13.2.3 オプションを指定するときの注意 853
13.3 eurpmlsc コマンドの構文 856
13.3.1 蓄積ファイルの一覧を取得する場合 856
13.3.2 蓄積ファイルの属性値を取得する場合 857
13.3.3 蓄積ファイルの属性値を変更する場合 858
13.3.4 蓄積ファイルを蓄積データ印刷する場合 860
13.3.5 蓄積ファイルを取得する場合 862
13.3.6 蓄積ファイルを削除する場合 863
13.3.7 プリンタクラス一覧を取得する場合 864
13.3.8 プリンター覧を取得する場合 865
13.3.9 トレイ一覧を取得する場合 865
13.4 環境設定ファイル 867
13.5 エラー情報 868
13.5.1 eurpmlsc コマンドの終了コード 868
13.5.2 エラーメッセージのフォーマット 868

14 クライアントコマンドを使用した帳票出力 869
14.1 クライアントコマンド 870
14.2 クライアントコマンドのオプション一覧 871
14.3 クライアントコマンドの形式 873
14.4 クライアントコマンドの指定例 875
14.5 エラー情報 876

15 帳票出力で使用するファイル 877
15.1 EUR Print Manager で扱えるファイル 878
15.1.1 EUR Print Manager で扱えるファイルの種類 878
15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意 879
15.1.3 EUR Print Manager で扱える文字コード 880
15.1.4 ファイル転送時の文字コード変換 884
15.2 印刷データファイル 889
15.2.1 EPF 形式ファイル 889
15.2.2 EUR 形式ファイル 890
15.2.3 PDF 形式ファイル 890
15.2.4 Excel 形式ファイル 890
15.3 印刷定義ファイル 891
15.4 ユーザーデータファイル 892
15.5 蓄積ファイル 893
15.6 構成定義ファイル 897
15.6.1 出力先定義ファイル 897
15.6.2 印刷管理サーバプリンタクラス定義ファイル 898
15.6.3 印刷先定義ファイル 900
15.6.4 拠点プリンタクラス定義ファイル 906
15.6.5 帳票振り分け定義ファイル 906
15.6.6 蓄積管理ユーザ定義ファイル 907
15.6.7 クライアントプリンタクラス定義ファイル 912
15.7 ActiveX クライアント情報ファイル 914
15.7.1 ActiveX クライアント情報ファイルの配置 914
15.7.2 ActiveX クライアント情報ファイルの用途 915
15.7.3 ActiveX クライアント情報ファイルの配置に関する注意 916
15.8 印刷日時出力定義ファイル 917

15.8.1 印刷日時出力定義ファイルの作成 917
15.8.2 印刷日時出力定義ファイルの指定例 921
15.9 EURPM 分割定義ファイル 922
15.10 EURPM 仕分け定義ファイル 925
15.11 環境設定ファイル 928
15.12 EURPM 起動管理定義ファイル 929
15.12.1 Windows 環境の場合 929
15.12.2 UNIX/Linux 環境の場合 929

16 実行環境の設定 931
16.1 環境設定ファイルの項目一覧 932
16.2 環境設定ファイル（EUR Print Manager） 940
16.2.1 EURPM 941
16.2.2 EURPMLS 942
16.2.3 EURPMCL 942
16.2.4 FORM 942
16.2.5 CONF 942
16.2.6 TEMP 942
16.2.7 MULTI 943
16.2.8 DOCINFO 943
16.2.9 DBINFO 943
16.2.10 REPLACEITEM 943
16.2.11 SCRIPTCNT 944
16.2.12 PREFERENCE 944
16.2.13 PSENV 944
16.2.14 PDF 944
16.2.15 PRINTDATE（PATH セクション） 945
16.2.16 SPLIT（PATH セクション） 945
16.2.17 LOGFILE 945
16.2.18 LOGLEVEL 945
16.2.19 LOGSIZE 946
16.2.20 PATHMODE 946
16.2.21 TEMPFILEDEL 948
16.2.22 SOCKBUFFSIZE 948
16.2.23 SPLITMODE 948
16.2.24 GENERAL 949

16.2.25 EURPS 949
16.2.26 CONNECT 950
16.2.27 ERRIGNORE 950
16.2.28 PSENVFILENAME 951
16.2.29 PRINTDATE（FILE セクション） 951
16.2.30 SPLIT（FILE セクション） 952
16.3 環境設定ファイル（EUR Print Manager - Adapter） 954
16.3.1 EURPM（PORT セクション） 955
16.3.2 EURPM（IPADDRESS セクション） 955
16.3.3 LOGFILE 956
16.3.4 LOGLEVEL 956
16.3.5 LOGSIZE 956
16.3.6 PRINTMODE 957
16.3.7 DEFAULTPRINTMODE 957
16.3.8 SOCKBUFFSIZE 958
16.3.9 DATABUFFSIZE 958
16.3.10 DISPPRINTDLG 959
16.3.11 FILEOUTPUTDESTINATION 960
16.3.12 SPOOLLIMIT 960
16.3.13 OUTPUT 961
16.3.14 EPFOUTPUT 961
16.3.15 EUROUTPUT 961
16.3.16 PDFOUTPUT 961
16.3.17 DESTLIST 962
16.3.18 PRTCLSLIST 962
16.3.19 XLSXOUTPUT 962
16.3.20 MERGEOUTPUT 962
16.4 環境設定ファイル（EUR Print Manager - Report Server） 963
16.4.1 EURPMLS 964
16.4.2 EURPMCL 964
16.4.3 CONF 964
16.4.4 TEMP 964
16.4.5 ESF 965
16.4.6 LOGFILE 965
16.4.7 LOGLEVEL 965
16.4.8 LOGSIZE 966
16.4.9 TEMPFILEDEL 966

16.4.10 ESFAUTODEL 966
16.4.11 SOCKBUFFSIZE 966
16.4.12 SPLOUTLINELIMIT 967
16.4.13 ESFID 967
16.4.14 GENERAL 967
16.4.15 EURPS 968
16.4.16 PRINTEXECMODE 968
16.4.17 CONNECT 969
16.4.18 ERRIGNORE 969
16.5 **環境設定ファイル**（EUR Print Manager - Report Server Adapter） 971
16.5.1 EURPMLS（PORT **セクション**） 972
16.5.2 EURPMLS（IPADDRESS **セクション**） 972
16.5.3 LOGFILE 973
16.5.4 LOGLEVEL 973
16.5.5 LOGSIZE 973
16.5.6 PRINT 974
16.5.7 GETFILE 974
16.5.8 FILELIST 974
16.5.9 FILEOPERATE 974
16.5.10 DELETE 974
16.5.11 PRTCLSLIST 975
16.5.12 OUTPUTFILE 975
16.5.13 SOCKBUFFSIZE 975
16.6 **環境設定ファイル**（**蓄積管理** GUI） 977
16.6.1 PATH 977
16.6.2 PATH_MACHINE 978
16.6.3 EPFDATAMAXSIZE 978
16.6.4 DEFAULTPRINTDLG 978
16.7 **環境設定ファイル**（EUR Print Manager - Client） 979
16.7.1 EURPMCL 980
16.7.2 CONF 980
16.7.3 TEMP 980
16.7.4 LOGFILE 980
16.7.5 LOGLEVEL 980
16.7.6 LOGSIZE 981
16.7.7 EVENTLOGLEVEL 981
16.7.8 TEMPFILEDEL 981

16.7.9 SOCKBUFFSIZE 981
16.7.10 CONNECT 982
16.7.11 ERRIGNORE 982
16.8 環境設定ファイル（EURPM 制御コマンド） 984
16.8.1 TEMP 985
16.8.2 LOGFILE 985
16.8.3 LOGLEVEL 986
16.8.4 LOGSIZE 986
16.8.5 START 986
16.8.6 STOP 986
16.9 環境設定ファイル（EURPM-RS 制御コマンド） 987
16.9.1 TEMP 988
16.9.2 LOGFILE 988
16.9.3 LOGLEVEL 988
16.9.4 LOGSIZE 989
16.9.5 START 989
16.9.6 STOP 989
16.10 EPF 形式ファイルを出力する場合の実行環境の設定 990
16.10.1 EURPS_EPFDPI 991
16.10.2 EURPS_EPF_IMAGE_COMPRESS 992
16.11 環境設定ファイルの詳細コード 994

17 障害対策 995
17.1 保守情報の採取 996
17.2 ログの取得 1003
17.2.1 イベントログ 1003
17.2.2 syslog 1005
17.2.3 EURPM ログ 1005
17.2.4 ログの出力例 1010
17.2.5 ログファイル出力時にエラーが発生した場合のメッセージ 1011

18 使用上の注意 1013
18.1 帳票出力する場合の注意 1014
18.1.1 使用できない機能 1014
18.1.2 連続して印刷する場合の注意 1014

18.1.3 JP1 と連携した仕分け印刷をする場合の注意 1014
18.1.4 ヘルパクライアント印刷をする場合の注意 1014
18.1.5 EPF 形式ファイルを出力および印刷する場合の注意 1015
18.1.6 ActiveX 部品の EPFFileURL パラメタに関する注意 1015
18.1.7 ファイル転送時間を省略する場合の注意 1016
18.1.8 エンコーディングが異なる環境でファイル転送する場合の注意 1018
18.1.9 COBOL 起動部品を使用する場合の注意 1018
18.1.10 コマンド構文に指定できる文字列の長さ 1019
18.1.11 複数様式定義ファイルを指定して印刷する場合の注意 1019
18.1.12 印刷およびファイル出力実行時のファイル転送の分割転送サイズ 1019
18.1.13 ページ数の多い帳票を出力する場合の注意 1020
18.1.14 Web ブラウザを使用して帳票を印刷またはプレビュー表示する場合の注意 1020
18.2 蓄積フォルダの指定についての注意 1021
18.3 実行環境についての注意 1022
18.3.1 環境設定ファイルを更新した場合の注意 1022
18.3.2 構成定義ファイルを更新した場合の注意 1022
18.4 実行ユーザーとアクセス権 1023
18.4.1 実行ユーザーがローカルシステムアカウントの場合，またはファイルの転送をスキップする場合 1024
18.4.2 EUR Print Manager - Client を新規にインストールした場合の注意 1024
18.5 Windows 環境での注意 1025
18.5.1 Windows 環境共通の注意事項 1025
18.5.2 Windows Server 2008 での注意 1025
18.5.3 64 ビット版の Windows Server での注意 1028
18.5.4 Windows Vista および Windows 7 での注意 1030
18.6 UNIX/Linux 環境での注意 1032
18.7 蓄積管理 GUI についての注意 1034
18.8 エラーメッセージについての注意 1036

付録 1037
付録 A 旧バージョンとの互換性 1038
付録 A.1 EUR Print Manager，および EUR Print Manager - Adapter の互換性 1038
付録 A.2 EUR Print Manager - Report Server，および EUR Print Manager - Report Server Adapter の互換性 1039
付録 A.3 EUR Print Manager - Client の互換性 1040
付録 A.4 EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX の互換性 1041

付録 B　インストール 1043
付録 B.1　EUR Print Manager のインストール 1044
付録 B.2　EUR Print Manager のインストール後に作成されるフォルダ 1046
付録 B.3　EUR Print Manager - Adapter のインストール 1051
付録 B.4　EUR Print Manager - Adapter のインストール後に作成されるフォルダ 1053
付録 B.5　EUR Print Manager - Report Server のインストール 1057
付録 B.6　EUR Print Manager - Report Server のインストール後に作成されるフォルダ 1058
付録 B.7　EUR Print Manager - Report Server Adapter のインストール 1063
付録 B.8　EUR Print Manager - Report Server Adapter のインストール後に作成されるフォルダ 1066
付録 B.9　EUR Print Manager - Client のインストール 1068
付録 B.10　EUR Print Manager - Client のインストール後に作成されるフォルダ 1074
付録 B.11　EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX のインストール 1077
付録 C　アンインストール 1083
付録 C.1　EUR Print Manager のアンインストール 1084
付録 C.2　EUR Print Manager - Adapter のアンインストール 1085
付録 C.3　EUR Print Manager - Report Server のアンインストール 1086
付録 C.4　EUR Print Manager - Report Server Adapter のアンインストール 1087
付録 C.5　EUR Print Manager - Client のアンインストール 1089
付録 C.6　EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX のアンインストール 1089
付録 D　システムの負荷分散と多重化 1093
付録 D.1　システム構成の概要 1093
付録 D.2　ロードバランサを使用した構成 1094
付録 D.3　IP アドレス指定で処理の振り分けを行う構成 1096
付録 D.4　ポート番号指定で処理の振り分けを行う構成 1098
付録 E　表示言語とエンコーディング 1101
付録 F　EUR Print Manager と対応する各製品のバージョン 1103
付録 F.1　Windows 環境で EUR Print Manager 08-70 を使用する場合 1103
付録 F.2　UNIX/Linux 環境で EUR Print Manager 08-70 を使用する場合 1105
付録 G　このマニュアルの参考情報 1108
付録 G.1　関連マニュアル 1108
付録 G.2　EUR バージョン 8 での製品体系の変更 1108
付録 G.3　EUR バージョン 8 でのマニュアル体系の変更 1109
付録 G.4　このマニュアルでの表記 1109
付録 G.5　このマニュアルで使用する略語 1111

付録 G.6　適用 OS の違いによる機能相違点の表記 1112
付録 G.7　関連するプログラムプロダクト 1112
付録 G.8　KB（キロバイト）などの単位表記について 1114
付録 H　用語解説 1115

索引 1119

1 EUR Print Manager の概要

この章では，EUR Print Manager，EUR Print Manager - Report Server，および EUR Print Manager - Client の概要と，EUR Print Manager で帳票を出力する流れについて説明しています。
また，EUR Print Manager を使った印刷方法と，帳票を出力する手順について説明します。

1.1 EUR Print Manager とは

1.2 拠点サーバでの印刷

1.3 EUR Print Service と連携した拠点サーバでの印刷

1.4 クライアント PC での自動印刷

1.5 クライアント PC での対話型印刷

1.6 クライアント PC への配布印刷

1.7 Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷

1.8 コマンドを使用したクライアント PC での印刷

1.9 EUR Viewer を使用したクライアント PC での印刷

1.10 Adobe Reader を使用したクライアント PC での印刷

1.11 Excel を使用したクライアント PC での印刷

1.12 印刷管理サーバを使用した直接印刷

1.13 複数の EPF 形式ファイルの統合

1.1 EUR Print Manager とは

EUR Print Manager は，EUR で設計した帳票を各拠点に配置したサーバ（拠点サーバ）やクライアント PC に分散して印刷するソフトウェアです。

EUR Print Manager は，次に示すさまざまな印刷方法で Web 環境での分散印刷や出力先選択印刷ができます。

- 分散拠点での帳票自動印刷を実現します。
  センタ印刷サーバから分散拠点に配置されたプリンタで印刷できます。配信データは圧縮形式なので，ネットワークの負荷も軽減できます。
- クライアントプリンタへの帳票自動印刷を実現します。
  センタ印刷サーバからクライアント PC に接続されたプリンタで出力できます。出力先プリンタは任意に選択できるので，プリンタの障害発生時にも柔軟に対応できます。
- Web システム環境での柔軟な構成を実現します。
  Web/AP サーバと印刷サーバを分散サーバ構成で構築できます。また，ActiveX，Java，COBOL，およびコマンドのインタフェースを用意しているので，さまざまなアプリケーションから利用できます。印刷結果は，EPF 形式，EUR 形式，PDF 形式，および Excel 形式のどれかを選択できるので，利用形態に合わせた配信形式を柔軟に選択できます。

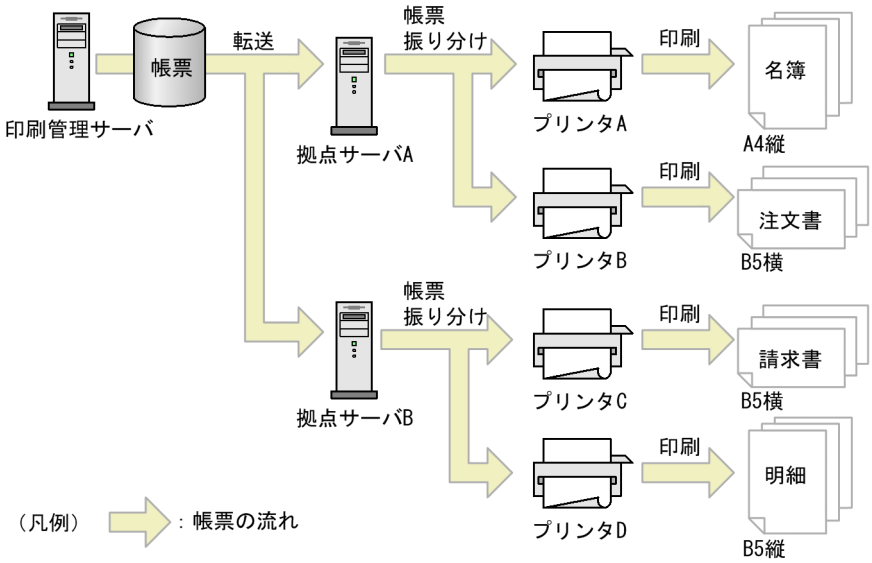
1.1.1 各拠点に配置したサーバでの印刷

EUR Print Manager では，印刷管理サーバから各拠点に配置したサーバ（拠点サーバ）に帳票を振り分けます。拠点サーバが帳票を受信すると，指定したプリンタから自動で印刷されます。そのため，拠点サーバでは，帳票を印刷するたびに印刷環境を設定する手間が掛かりません。

拠点サーバで印刷するには，Windows 版の EUR Print Manager - Report Server が必要です。拠点サーバが UNIX/Linux 環境の場合は，拠点サーバでの印刷はできません。

拠点サーバでの印刷の流れを次に示します。

図 1-1　拠点サーバでの印刷の流れ



拠点サーバでの印刷方法は，目的によって次のように使い分けられます。

出力先をわかりやすい任意の名前で管理したい場合

出力先に任意の名前（プリンタクラス名）を付けられるため，出力先を簡単に管理できます。プリンタクラスは，プリンタとトレイを組み合わせて定義したものです。帳票の出力先をプリンタクラス名で指定すると，プリンタとトレイを一度に指定して印刷することもできます。拠点サーバのプリンタクラスの設定については「4.3 拠点プリンタクラスの設定」を参照してください。

帳票を OS 上のプリンタで指定して印刷したい場合

帳票の出力先を OS 上のプリンタ名で直接指定して印刷できます。OS 上のプリンタ名の指定方法については「1.2　拠点サーバでの印刷」，または「1.3　EUR Print Service と連携した拠点サーバでの印刷」を参照してください。

帳票名ごとに出力するプリンタを変更したい場合

帳票振り分け定義を使って，帳票名ごとに，指定したプリンタに自動で振り分けて印刷します。帳票振り分け定義を使うと，セパレータ出力などのトレイ振り分けができます。また，同じ名前の帳票を別のプリンタに出力することもできます。帳票名ごとに出力するプリンタを変更する方法については「1.2　拠点サーバでの印刷」を参照してください。

JP1 と連携した仕分け印刷をしたい場合

拠点サーバの EUR Print Service と連携して印刷することで，JP1 と連携した仕分け印刷ができます。JP1 と連携した仕分け印刷の方法については「1.3　EUR Print Service と連携した拠点サーバでの印刷」を参照してください。

帳票を任意の時点で印刷したり，再印刷したりしたい場合

印刷管理サーバから受信された帳票（印刷データ）を拠点サーバに蓄積できます。拠点サーバに蓄積された印刷データにリクエストを送ることで，プリンタの空き時間を利用して印刷したり，同じ帳票を何度も印刷したりできます。蓄積した印刷データの印刷方法については「2. 蓄積印刷」または「3. GUI による蓄積管理」を参照してください。

印刷リクエストの処理件数を制御して印刷したい場合

印刷リクエストが集中した場合，マルチスレッドによる印刷リクエスト処理の並列処理数を指定することで，印刷管理サーバの処理負荷を軽減できます。特に，蓄積印刷での印刷リクエストでは，リクエストを受け付けると順次に処理されるため，一定件数以上の印刷処理が実行されることでの印刷管理サーバの処理負荷を抑止できます。

印刷リクエスト処理の並列処理数は，環境設定ファイルの THREAD セクションで設定します。環境設定ファイルについては，「16. 実行環境の設定」を参照してください。

1.1.2 クライアント PC での印刷

EUR Print Manager では，印刷管理サーバからクライアント PC に帳票を振り分けて，クライアント PC で帳票を印刷することができます。また，業務アプリケーションから印刷管理サーバを経由して配布された帳票を，複数のクライアント PC で印刷することもできます。

クライアント PC で印刷するには，EUR Print Manager のコンポーネントの一つである EUR Print Manager - Client が必要です。EUR Print Manager - Client には，EUR Print Manager - Client Print ActiveX および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX が含まれます。

クライアント PC での印刷方法を次に示します。

- 印刷時にダイアログでプリンタを設定する**対話型印刷**
- 印刷プレビューが表示されたあとにダイアログでプリンタを設定する**対話型印刷プレビュー表示**
- 自動で帳票を印刷する**自動印刷**
- 印刷実行時に印刷中ダイアログを表示させない**全自動印刷**
- 帳票を複数のクライアント PC に配布して印刷する**配布印刷**
- クライアント PC の Web ブラウザからの印刷
- クライアント PC でのコマンド実行による印刷

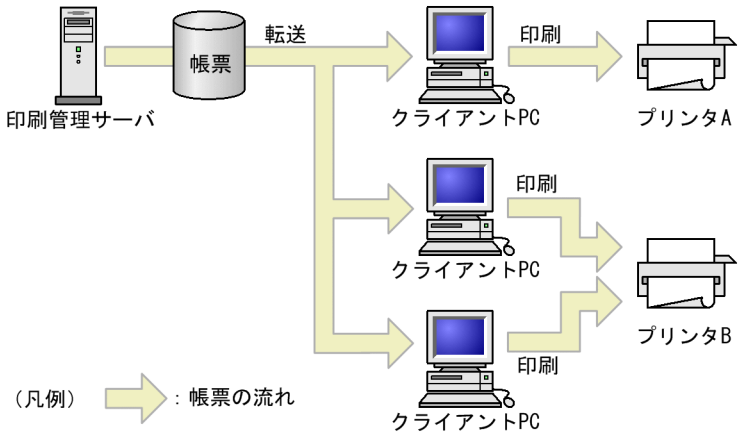
クライアント PC の印刷方法では，用途に合わせて複数の形式のファイルを出力できます。クライアント PC での印刷方法は，目的によって次のように使い分けられます。

帳票を自動で印刷したい場合

印刷先のプリンタを設定しておくと，帳票を自動で印刷できます。また，自動で帳

票を印刷する際に，印刷中を示すダイアログを表示させないで印刷することもできます。設定方法については「1.4　クライアント PC での自動印刷」を参照してください。
クライアント PC での自動印刷の流れを次に示します。

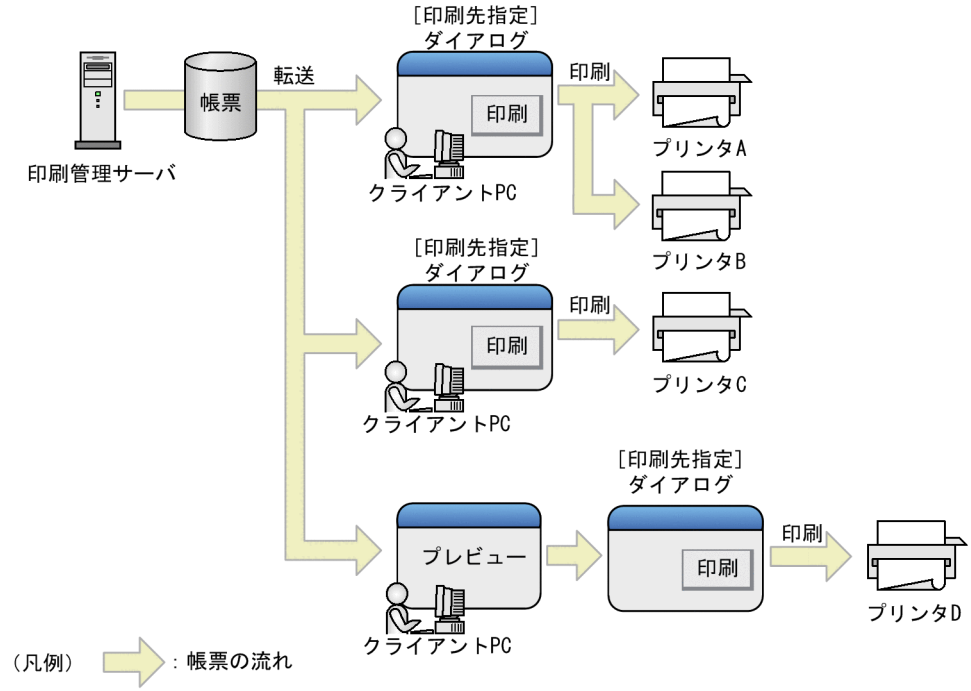
図 1-2　クライアント PC での自動印刷の流れ



帳票を受信するたびに印刷先を選択したい場合

帳票を受信するとダイアログを表示して，印刷先をダイアログで選択してから印刷できます。また，帳票を受信すると印刷プレビューを表示して，印刷先をダイアログで選択してから印刷したり，帳票受信時に印刷を許可しないで，プレビュー表示だけさせたりすることもできます。設定方法については「1.5　クライアント PC での対話型印刷」を参照してください。
クライアント PC での対話型印刷の流れを次に示します。

図 1-3　クライアント PC での対話型印刷の流れ

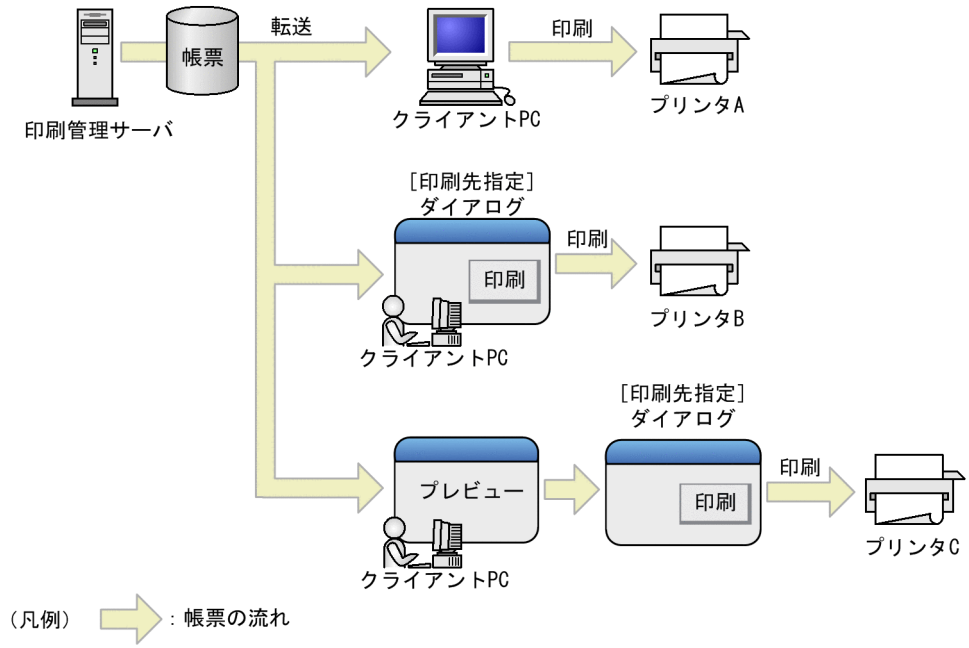


帳票を複数のクライアント PC に配布して印刷したい場合

同一の帳票を複数のクライアント PC に配布して印刷できます。設定方法については「1.6　クライアント PC への配布印刷」を参照してください。

クライアント PC への配布印刷の流れを次に示します。

図 1-4　クライアント PC への配布印刷の流れ

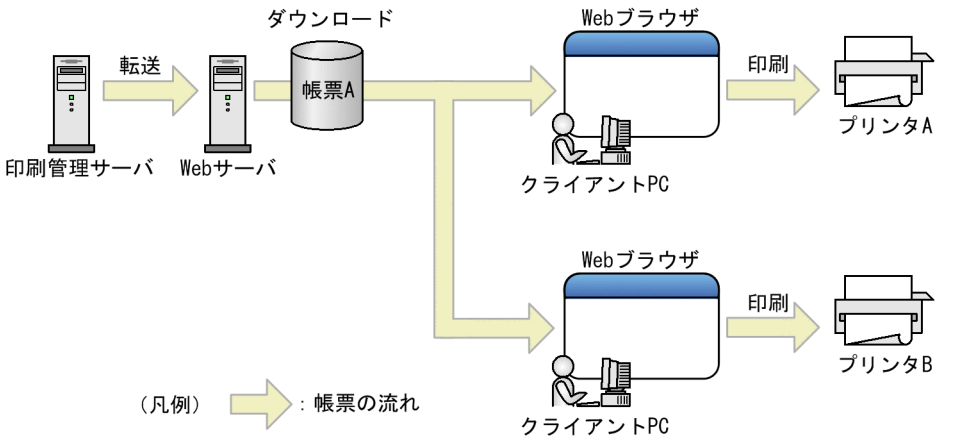


クライアント PC の Web ブラウザから帳票を印刷したい場合

ActiveX 部品を使用して，帳票を Web 上で表示，および印刷できます。設定方法については「1.7　Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷」を参照してください。

Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷の流れを次に示します。

図 1-5　Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷の流れ



クライアント PC での Web 出力では ActiveX を使用していますが，システムセキュリティポリシーなどで ActiveX を使用しない運用もできます。ActiveX を使用しな

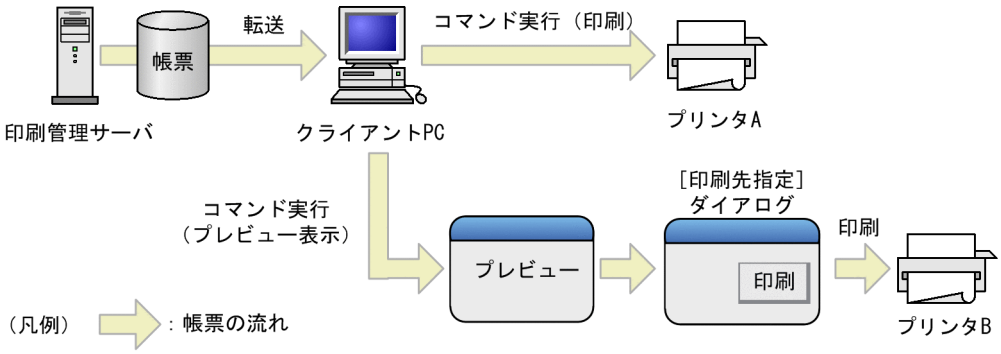
いクライアント PC での Web 出力を，**ヘルパクライアント印刷**といいます。クライアント PC で帳票を操作すると，EUR Print Manager - Client のビューア機能が Web ブラウザのヘルパアプリケーションとなってプレビュー，または印刷できます。Web ブラウザのヘルパアプリケーションとして実行する方法については，「1.7.2 Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷（ヘルパクライアント印刷）」を参照してください。

クライアント PC でのコマンド実行によって帳票を印刷したい場合

クライアント PC でコマンドを実行することで，帳票をプレビュー表示，および印刷できます。設定方法については「1.8　コマンドを使用したクライアント PC での印刷」を参照してください。

コマンドを使用したクライアント PC での印刷の流れを次に示します。

図 1-6　コマンドを使用したクライアント PC での印刷の流れ



帳票を任意の時点で印刷または再印刷したい場合

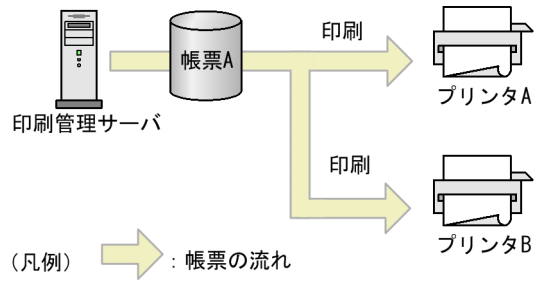
印刷管理サーバから受信した帳票（印刷データ）を拠点サーバに蓄積できます。拠点サーバに蓄積された印刷データにリクエストを送ることで，プリンタの空き時間を利用して印刷したり，同じ帳票を何度も印刷したりできます。蓄積した印刷データの印刷方法については「2.　蓄積印刷」または「3.　GUI による蓄積管理」を参照してください。

1.1.3　印刷管理サーバでの直接印刷

印刷管理サーバに，EUR Print Manager と EUR Print Service を配置することで，印刷管理サーバだけで直接印刷できます。これにより，EUR Print Manager - Report Server がなくても印刷管理サーバから直接，印刷できます。設定方法については「1.12　印刷管理サーバを使用した直接印刷」を参照してください。

印刷管理サーバでの直接印刷の流れを次に示します。

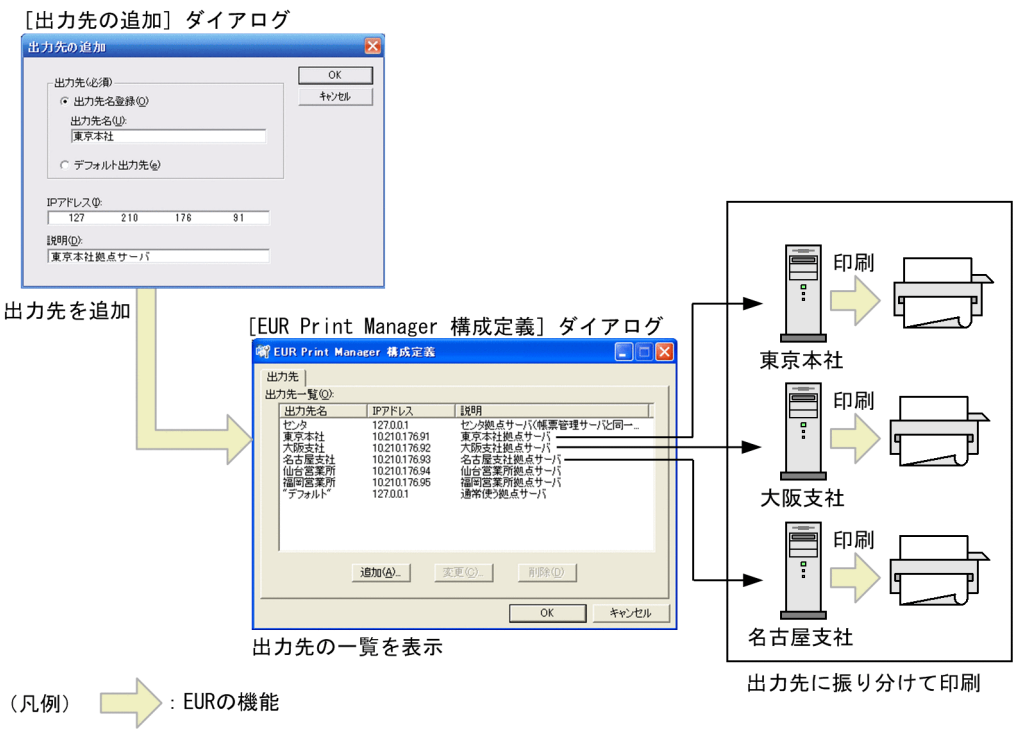
図 1-7　印刷管理サーバでの直接印刷の流れ



1.1.4　複雑なプリンタ出力を画面で定義

EUR Print Manager では，複雑なプリンタ出力の設定を画面で簡単に定義できます。判別しにくい IP アドレスにわかりやすい名前を付けたり，出力先プリンタとトレイをまとめて定義したりできるため，出力先の設定が簡単にできます。

図 1-8　出力先を画面で定義



出力先の IP アドレスに名前を付けて定義できる

IP アドレスに名前を付けて**出力先名**として定義できます。出力先名を付けることで，IP アドレスの指定が簡単にできます。出力先名は，拠点サーバで設定できます。IP アドレスを指定する代わりに出力先名を指定するだけで，拠点サーバを指定

できます。

プリンタとトレイを組み合わせて定義できる

プリンタとトレイを組み合わせたものを**プリンタクラス**として定義できます。プリンタとトレイを一度に指定できるので，出力先を効率良く設定できます。プリンタクラスは，拠点サーバのプリンタとクライアント PC のプリンタの両方で設定できます。出力先プリンタとトレイを指定するときは，プリンタとトレイを指定する代わりにプリンタクラス名を指定できます。

帳票名ごとに自動的にプリンタを定義できる

帳票名ごとに自動的にプリンタを定義して印刷できます。帳票名ごとに自動的にプリンタを定義することを**帳票振り分け定義**といいます。帳票振り分け定義をするためには，帳票名を振り分けグループに分類して，帳票名ごとにプリンタクラスを設定します。帳票名を振り分けグループに分類することで，同じ名前の帳票を別のプリンタで印刷できます。帳票振り分け定義は拠点サーバで設定できます。

1.1.5 複数の形式のファイルを出力

EUR Print Manager では，ユーザーの利用方法に合わせて帳票を複数の形式のファイルに出力できます。

EUR Print Manager で出力できるファイルの形式と，使用できる印刷方法を次に示します。

表 1-1 出力できるファイルの形式と使用できる印刷方法

ファイルの形式	使用できる印刷方法
EPF 形式ファイル	拠点サーバでの印刷 クライアント PC での自動印刷 クライアント PC での全自動印刷 クライアント PC での対話型印刷 クライアント PC での対話型印刷プレビュー表示 クライアント PC への配布印刷 Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷 コマンドを使用したクライアント PC での印刷 蓄積したデータの印刷（拠点サーバ） 蓄積したデータの印刷（クライアント PC）
EUR 形式ファイル	EUR Print Service と連携した拠点サーバでの印刷 EUR Viewer を使用したクライアント PC での印刷
PDF 形式ファイル	Adobe Reader を使用したクライアント PC での印刷
Excel 形式ファイル	Excel を使用したクライアント PC での印刷

EPF 形式ファイルに変換した帳票は，拠点サーバやクライアント PC のプリンタに印刷できます。また，Web ブラウザを使用してクライアント PC のプリンタで印刷できます。EPF 形式ファイルを出力するためには EUR Print Service が必要です。

EUR 形式ファイルに変換した帳票は，既存の EUR 環境を使用して印刷できます。EUR Print Service と連携して拠点サーバのプリンタで印刷したり，EUR Viewer を使用してクライアント PC のプリンタで表示，および印刷したりできます。

PDF 形式ファイルに変換した帳票は，Adobe Reader を使用してクライアント PC で表示，および印刷できます。

Excel 形式ファイルに変換した帳票は，Excel を使用してクライアント PC で表示，および印刷できます。

1.1.6　複数の帳票を統合して出力

EUR Print Manager では，複数の帳票を一つに統合して出力できます。複数の帳票を一つに統合することで，印刷時にほかのユーザーが出力した帳票と混在してしまうのを防げます。また，複数の帳票を同じ出力先で印刷したい場合に，出力先のプリンタやトレイを何度も指定したり確認したりする手間を省けます。

帳票を統合する方法には，次の 2 種類があります。

- EPF 形式の印刷データを統合する方法
- 蓄積した印刷データを統合する方法

EPF 形式の印刷データを統合する方法については，「1.13　複数の EPF 形式ファイルの統合」を参照してください。また，蓄積した印刷データを統合する方法については，「2.4　蓄積したデータの統合」を参照してください。

統合後の帳票は，次のどれかの方法で印刷できます。

- クライアント PC への配布印刷
- Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷
- 蓄積したデータの印刷（拠点サーバ）
- 蓄積したデータの印刷（クライアント PC）

また，蓄積した印刷データを統合した場合，統合後の帳票を次のどちらかの方法で取得できます。

- 蓄積ファイルの取得
- 蓄積ファイルのメモリ取得

1.1.7　英語環境用のインタフェースを提供

EUR Print Manager では，英語環境用のインタフェースを提供しています。企業の海外拠点など，主に英語を使用する環境で EUR Print Manager を利用する場合に便利です。

英語環境への対応状況を，製品ごとに次の表に示します。

表 1-2 英語環境への対応状況

製品	GUI	メッセージ
EUR Print Manager	○	○
EUR Print Manager - Adapter	―	○
EUR Print Manager - Report Server（蓄積管理 GUI 以外）	○	○
EUR Print Manager - Report Server（蓄積管理 GUI）	×	×
EUR Print Manager - Report Server Adapter	―	○
EUR Print Manager - Client	○	○
EUR Print Manager - Client Print ActiveX	○	○
EUR Print Manager - Client Preview ActiveX	○	○

（凡例）
○：英語環境に対応しています。
×：英語環境に対応していません。
―：GUI はありません。

なお，表示言語は，ユーザーが EUR Print Manager を使用する環境（ロケール）によって切り替わります。詳細については，「付録 E　表示言語とエンコーディング」を参照してください。

1.1.8 業務アプリケーションとの連携

業務アプリケーションと連携して，ユーザーの開発環境に合わせた帳票出力ができます。業務アプリケーションと EUR Print Manager は，EUR Print Manager - Adapter で接続します。

業務アプリケーションと連携して帳票を出力するには，次の 4 種類の方法があります。

- **ActiveX 起動部品を使用した帳票出力**
  ActiveX 起動部品を使用して，IIS サーバの Visual Basic Script や Visual Basic プログラムから EUR Print Manager を起動して帳票を出力できます。
  ActiveX 起動部品を使用した帳票出力については，「9.　ActiveX 起動部品および RS-ActiveX 起動部品を使用した帳票出力」を参照してください。
- **Java 起動部品を使用した帳票出力**
  Java 起動部品を使用して，JSP や Java サーブレットから EUR Print Manager を起動して帳票を出力できます。Java 起動部品を使用すると，アプリケーションと同期を取って出力処理を実行できます。
  Java 起動部品を使用した帳票出力については，「10.　Java 起動部品および RS-Java 起動部品を使用した帳票出力」を参照してください。
- **COBOL 起動部品を使用した帳票出力**
  COBOL 起動部品を使用して，COBOL プログラムから EUR Print Manager を起動し

て帳票を出力できます。
COBOL 起動部品を使用した帳票出力については，「11. COBOL 起動部品を使用した帳票出力」を参照してください。

- **コマンド起動部品を使用した帳票出力**
  コマンド起動部品を使用して，サーバ側で動作するプログラムから EUR Print Manager を起動して帳票を出力できます。
  コマンド起動部品を使用した帳票出力については，「12. コマンド起動部品を使用した帳票出力」を参照してください。

また，蓄積した帳票を印刷する場合は，業務アプリケーションと蓄積先のサーバの EUR Print Manager - Report Server を，EUR Print Manager - Report Server Adapter で接続します。拠点サーバの EUR Print Manager - Report Server に蓄積されている印刷データファイルに対して，業務アプリケーションから操作するには，次の 3 種類の方法があります。

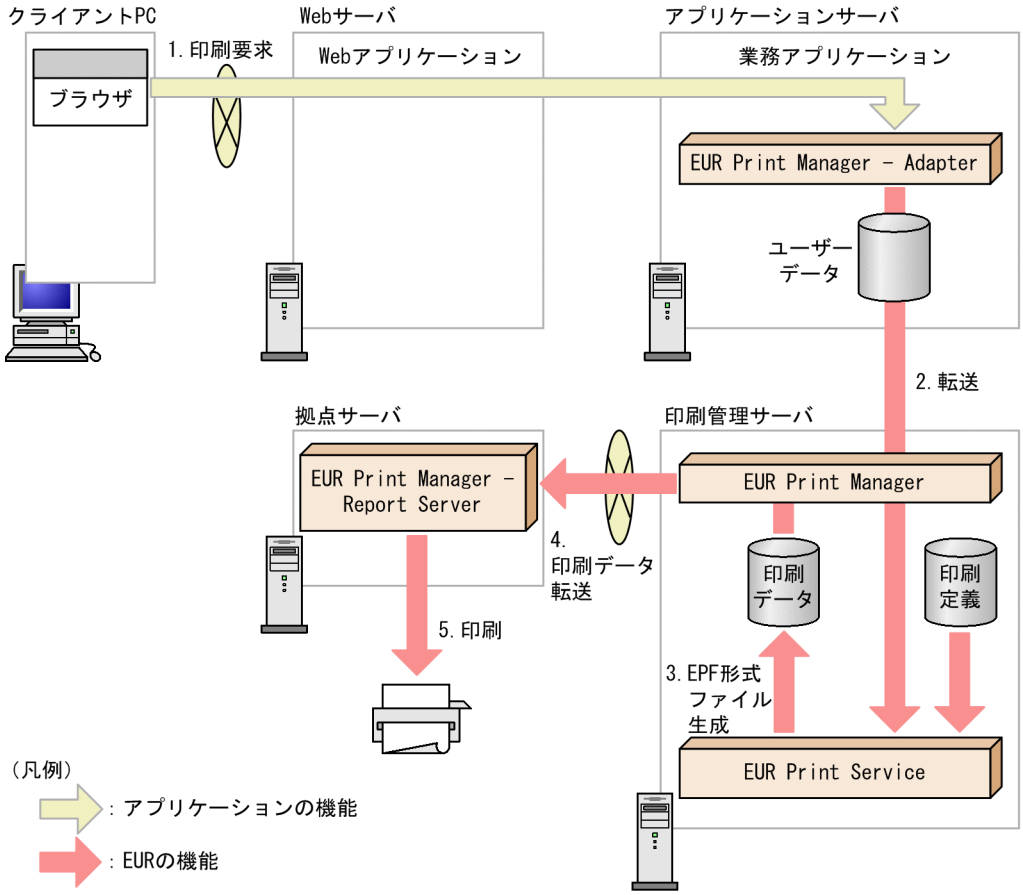
- RS-ActiveX **起動部品を使用した帳票出力**
  ActiveX 起動部品を使用した帳票出力と同様に，IIS サーバの Visual Basic Script や Visual Basic プログラムから EUR Print Manager - Report Server を起動して，蓄積されている印刷データファイルを操作できます。
  RS-ActiveX 起動部品を使用した帳票出力については，「9. ActiveX 起動部品および RS-ActiveX 起動部品を使用した帳票出力」を参照してください。
- RS-Java **起動部品を使用した帳票出力**
  Java 起動部品を使用した帳票出力と同様に，JSP や Java サーブレットから EUR Print Manager - Report Server を起動して，蓄積されている印刷データファイルを操作できます。
  RS-Java 起動部品を使用した帳票出力については，「10. Java 起動部品および RS-Java 起動部品を使用した帳票出力」を参照してください。
- RS- **コマンド起動部品を使用した帳票出力**
  eurpmlsc コマンドのオプションにジョブ ID，メソッド種別などを指定することで，EUR Print Manager - Report Server を起動して，蓄積されている印刷データファイルを操作できます。
  RS- コマンド起動部品を使用した帳票出力については，「13. RS- コマンド起動部品を使用した帳票出力」を参照してください。

1.2 拠点サーバでの印刷

各拠点のプリンタで帳票を印刷できます。拠点サーバでの印刷では，EPF 形式ファイルを使用します。EPF 形式ファイルを拠点サーバで受信すると，指定したプリンタに帳票を自動で振り分けます。

拠点サーバでの印刷のシステム構成を次に示します。なお，拠点サーバで印刷するには，拠点サーバに Windows 版の EUR Print Manager - Report Server が必要です。拠点サーバが UNIX/Linux 環境の場合は，拠点サーバでの印刷はできません。

図 1-9 拠点サーバでの印刷のシステム構成



1. **印刷要求**
   印刷要求が業務アプリケーションに送られます。
2. **転送**
   EUR Print Manager - Adapter は，ユーザーデータファイルを印刷管理サーバの EUR Print Manager に転送します。

3. EPF 形式ファイル生成
   転送されたユーザーデータファイルとあらかじめ印刷管理サーバに配置しておいた印刷定義ファイルから，印刷データ（EPF 形式ファイル）が生成されます。

4. 印刷データ転送
   EUR Print Manager は，生成された印刷データ（EPF 形式ファイル）を拠点サーバに転送します。

5. 印刷
   各拠点のプリンタから印刷されます。

1.2.1 拠点サーバでの印刷手順

拠点サーバで帳票を印刷する手順を次に示します。

(1) 拠点サーバの設定

拠点サーバの設定方法を次に示します。

1. 出力先の拠点サーバの指定
   出力先の拠点サーバは，IP アドレスまたは IP アドレスに名前を付けた出力先名（出力先定義）のどちらかを指定できます。IP アドレスは印刷管理サーバで設定します。
   - 拠点サーバの出力先定義
     拠点サーバの IP アドレスに名前を付けて，出力先名として定義します。帳票出力時に出力先名を選択すると，指定した拠点サーバに帳票が出力されます。
     出力先定義を設定する方法については「4.1　拠点サーバの設定」を参照してください。

2. 拠点サーバのプリンタの指定
   拠点サーバのプリンタは，プリンタ名とトレイ名の直接指定，拠点サーバのプリンタとトレイを組み合わせたプリンタクラス，および帳票振り分け定義のどれかを指定できます。プリンタ名とトレイ名の直接指定は，印刷管理サーバで設定します。
   - 拠点サーバのプリンタクラス定義
     拠点サーバのプリンタとトレイを組み合わせたものを，プリンタクラスとして定義します。帳票出力時にプリンタクラスを選択すると，指定したプリンタのトレイに帳票が出力されます。
     拠点サーバのプリンタクラス定義を設定する方法については「4.3　拠点プリンタクラスの設定」を参照してください。
   - 帳票振り分け定義
     帳票名を分類して，帳票名ごとにプリンタクラスを設定します。帳票名を分類するグループを振り分けグループといいます。帳票名ごとに自動的にプリンタを定義することを，帳票振り分け定義といいます。帳票出力時に振り分けグループを選択すると，セパレータ出力などのトレイ振り分けができます。また，帳票名ごとに自動的にプリンタを定義して印刷することもできます。
     帳票振り分け定義を設定する方法については「4.4　帳票振り分け定義の設定」を参照してください。

(2) 印刷管理サーバの設定

印刷管理サーバの設定方法を次に示します。

1. **印刷方法の設定**

帳票を印刷する方法を設定します。
印刷方法を設定する項目を，次に示します。

印刷方法の設定	起動部品の設定項目	指定する値
印刷方法	ActiveX 起動部品：PrintMode プロパティ Java 起動部品：setPrintMode メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（PRINTMODE パラメタ）	3（拠点サーバで印刷する）
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /pm オプション	sv（拠点サーバで印刷する）
出力するファイル形式	ActiveX 起動部品：PrintKind プロパティ Java 起動部品：setPrintKind メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（PRINTKIND パラメタ）	0（EPF 形式ファイルを出力する）
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /pk オプション	epf（EPF 形式ファイルを出力する）

2. **拠点サーバの設定**

拠点サーバの指定方法を設定します。拠点サーバの指定方法は，出力先名と IP アドレスの 2 種類の指定方法を選択できます。
拠点サーバを設定する項目を，次に示します。

拠点サーバの設定	起動部品の設定項目	指定する値
サーバの指定方法	ActiveX 起動部品：ServerSelectMode プロパティ Java 起動部品：setServerSelectMode メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（SERVERSELECTMODE パラメタ）	0（出力先名で指定する） 1（IP アドレスで指定する）
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /srm オプション	dest（出力先名で指定する） sv（IP アドレスで指定する）
出力先名	ActiveX 起動部品：DestinationName プロパティ Java 起動部品：setDestinationName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（DESTNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /dest オプション	出力先名（80 バイト以内の文字列）
IP アドレス	ActiveX 起動部品：ServerAddress プロパティ Java 起動部品：setServerAddress メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（SERVERADDR パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /svr オプション	255.255.255.255 形式

3. **プリンタの設定**

拠点サーバのプリンタの指定方法を設定します。拠点サーバのプリンタの指定方法は，プリンタクラス名，プリンタ名，および帳票振り分け定義の 3 種類の指定方法を選択できます。

拠点サーバのプリンタを設定する項目を，次に示します。

拠点サーバのプリンタの設定		起動部品の設定項目	指定する値
プリンタの指定方法		ActiveX 起動部品：PrinterSelectMode プロパティ Java 起動部品：setPrinterSelectMode メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（PRINTERSELECTMODE パラメタ）	0（プリンタクラス名で指定する） 1（プリンタ名で指定する） 2（帳票振り分け定義で指定する）
		コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /sm オプション	class（プリンタクラス名で指定する） printer（プリンタ名で指定する） group（帳票振り分け定義で指定する）
プリンタクラス名		ActiveX 起動部品：PrinterClassName プロパティ Java 起動部品：setPrinterClassName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（PRINTERCLASSNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /prc オプション	プリンタクラス名（80 バイト以内の文字列）
プリンタ名	OS 上のプリンタ名	ActiveX 起動部品：ServerPrinterName プロパティ Java 起動部品：setServerPrinterName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（SERVERPRINTERNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /lsp オプション	プリンタ名（80 バイト以内の文字列）
	OS 上のプリンタのトレイ名	ActiveX 起動部品：ServerTrayName プロパティ Java 起動部品：setServerTrayName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（SERVERTRAYNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /lst オプション	トレイ名（80 バイト以内の文字列）
帳票振り分け定義		ActiveX 起動部品：GroupName プロパティ Java 起動部品：setGroupName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（GROUPNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /group オプション	帳票振り分け定義（80 バイト以内の文字列）

4. **帳票ファイルの設定**

印刷する帳票ファイル名を設定します。

帳票ファイルを設定する項目を，次に示します。

帳票ファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
帳票ファイルの名前	ActiveX 起動部品：ReportFileName プロパティ Java 起動部品：setReportFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（REPORTNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /rf オプション	帳票ファイル名（255 バイト以内の文字列）

5. **マッピングデータファイル，または帳票セット指定ファイルの設定**

   マッピングデータファイル名，または帳票セット指定ファイル名のどちらかを設定します。

   マッピングデータファイル，または帳票セット指定ファイルを設定する項目を，次に示します。

ユーザーデータファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
マッピングデータファイルの名前	ActiveX 起動部品：DataFileName プロパティ Java 起動部品：setDataFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（MAPPINGDATA パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /map オプション	マッピングデータファイル名（255 バイト以内の文字列）
帳票セット指定ファイルの名前	ActiveX 起動部品：MultiReportSetFileName プロパティ Java 起動部品：setMultiReportSetFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（REPORTSETFILE パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /mrs オプション	帳票セット指定ファイル名（255 バイト以内の文字列）

6. **ユーザーデータファイル，印刷定義ファイル，および印刷付加情報の設定**

   必要に応じて，ユーザーデータファイル（ユーザ定義データファイルなど），印刷定義ファイル（複数様式情報定義ファイル，文書情報設定ファイル，置き換え表管理情報ファイルなど）および印刷付加情報（印刷開始ページ，印刷部数，ページ番号など）を設定します。

7. **拠点サーバでの印刷**

   印刷管理サーバから印刷データを拠点サーバに送ると，各拠点の指定したプリンタで帳票が印刷されます。正しく印刷されない場合は，設定を確認してください。

参考

起動部品はアプリケーションサーバで設定します。詳細については次の章を参照してください。

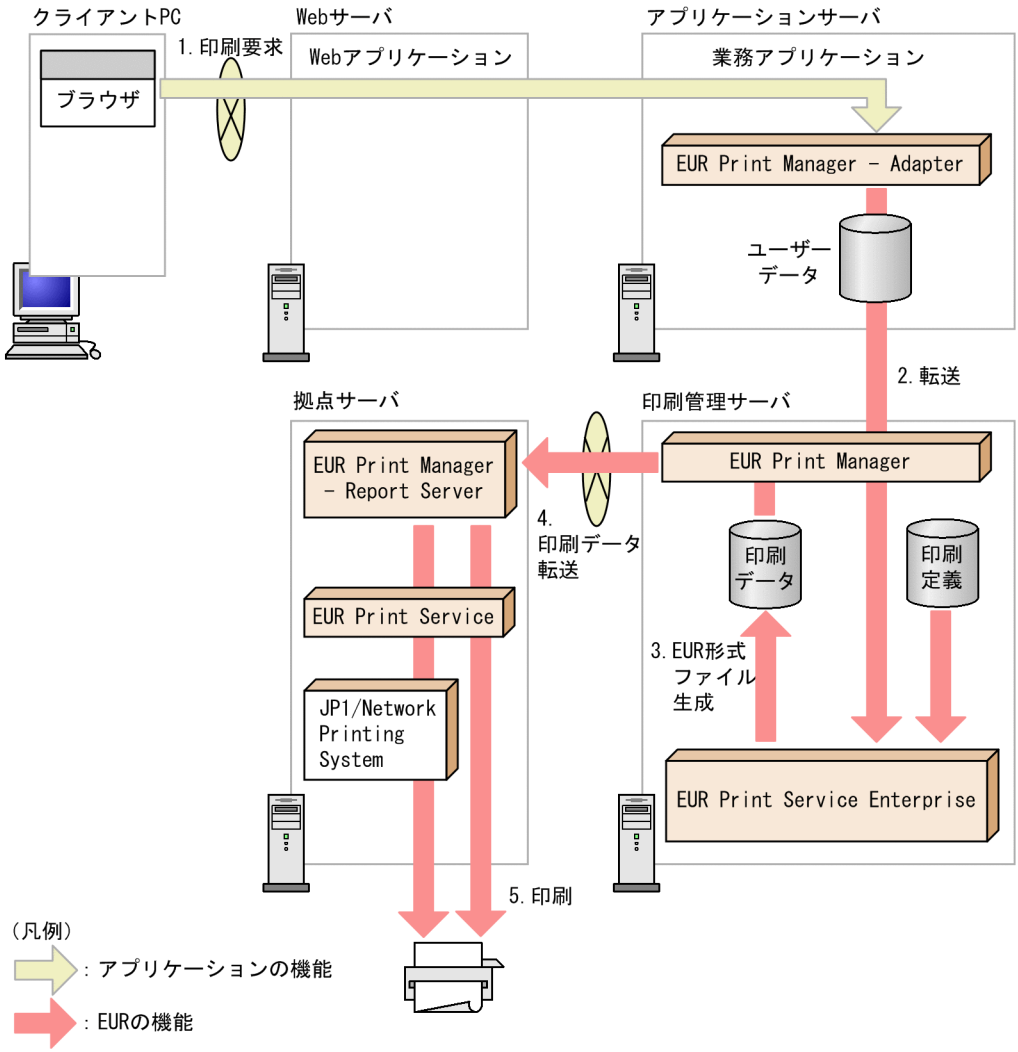
- 「9. ActiveX 起動部品および RS-ActiveX 起動部品を使用した帳票出力」
- 「10. Java 起動部品および RS-Java 起動部品を使用した帳票出力」
- 「11. COBOL 起動部品を使用した帳票出力」
- 「12. コマンド起動部品を使用した帳票出力」

1.3 EUR Print Service と連携した拠点サーバでの印刷

拠点サーバの EUR Print Service と連携して，各拠点のプリンタで帳票を印刷できます。拠点サーバの EUR Print Service と連携して印刷することで，JP1 と連携した仕分け印刷ができます。

EUR Print Service と連携した拠点サーバでの印刷のシステム構成を次に示します。なお，拠点サーバで印刷するには，拠点サーバに Windows 版の EUR Print Manager - Report Server が必要です。拠点サーバが UNIX/Linux 環境の場合は，拠点サーバでの印刷はできません。

図 1-10 EUR Print Service と連携した拠点サーバでの印刷のシステム構成



1. **印刷要求**
   印刷要求が業務アプリケーションに送られます。
2. **転送**
   EUR Print Manager - Adapter は，ユーザーデータファイルを印刷管理サーバの EUR Print Manager に転送します。
3. **EUR 形式ファイル生成**
   転送されたユーザーデータファイルとあらかじめ印刷管理サーバに配置しておいた印刷定義ファイルから，EUR Print Service Enterprise が印刷データ（EUR 形式ファイル）を生成します。

4. **印刷データ転送**
   EUR Print Manager は，生成された印刷データ（EUR 形式ファイル）を拠点サーバに転送します。

5. **印刷**
   各拠点のプリンタから印刷されます。

JP1 と連携した仕分け印刷については，マニュアル「EUR サーバ帳票出力」を参照してください。

1.3.1　EUR Print Service と連携した拠点サーバでの印刷手順

EUR Print Service と連携して，拠点サーバで帳票を印刷する手順を次に示します。

(1) 拠点サーバの設定

拠点サーバの設定方法を次に示します。

1. **出力先の拠点サーバの指定**
   出力先の拠点サーバは，IP アドレスまたは IP アドレスに名前を付けた出力先名（出力先定義）のどちらかを指定できます。IP アドレスは印刷管理サーバで設定します。
   - **拠点サーバの出力先定義**
     拠点サーバの IP アドレスに名前を付けて，出力先名として定義します。帳票出力時に出力先名を選択すると，指定した拠点サーバに帳票が出力されます。
     出力先定義を設定する方法については「4.1　拠点サーバの設定」を参照してください。

2. **拠点サーバのプリンタの指定**
   拠点サーバのプリンタは，プリンタ名とトレイ名の直接指定，拠点サーバのプリンタとトレイを組み合わせたプリンタクラスのどちらかを指定できます。プリンタ名とトレイ名の直接指定は印刷管理サーバで設定します。
   - **拠点サーバのプリンタクラス定義**
     拠点サーバのプリンタとトレイを組み合わせたものを，プリンタクラスとして定義します。帳票出力時にプリンタクラスを選択すると，指定したプリンタのトレイに帳票が出力されます。
     拠点サーバのプリンタクラス定義を設定する方法については「4.3　拠点プリンタクラスの設定」を参照してください。

(2) 印刷管理サーバの設定

印刷管理サーバの設定方法を次に示します。

1. **印刷方法の設定**
   帳票を印刷する方法を設定します。出力するファイル形式を EUR 形式に設定すると，EUR Print Service と連携して拠点サーバで印刷できます。
   印刷方法を設定する項目を，次に示します。

印刷方法の設定	起動部品の設定項目	指定する値
印刷方法	ActiveX 起動部品：PrintMode プロパティ Java 起動部品：setPrintMode メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（PRINTMODE パラメタ）	3（拠点サーバで印刷する）
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /pm オプション	sv（拠点サーバで印刷する）
出力するファイル形式	ActiveX 起動部品：PrintKind プロパティ Java 起動部品：setPrintKind メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（PRINTKIND パラメタ）	1（EUR 形式ファイルを出力する）
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /pk オプション	eur（EUR 形式ファイルを出力する）

2. **拠点サーバの設定**

拠点サーバの指定方法を設定します。拠点サーバの指定方法は，出力先名と IP アドレスの 2 種類の指定方法を選択できます。

拠点サーバを設定する項目を，次に示します。

拠点サーバの設定	起動部品の設定項目	指定する値
サーバの指定方法	ActiveX 起動部品：ServerSelectMode プロパティ Java 起動部品：setServerSelectMode メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（SERVERSELECTMODE パラメタ）	0（出力先名で指定する） 1（IP アドレスで指定する）
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /srm オプション	dest（出力先名で指定する） sv（IP アドレスで指定する）
出力先名	ActiveX 起動部品：DestinationName プロパティ Java 起動部品：setDestinationName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（DESTNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /dest オプション	出力先名（80 バイト以内の文字列）
IP アドレス	ActiveX 起動部品：ServerAddress プロパティ Java 起動部品：setServerAddress メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（SERVERADDR パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /svr オプション	255.255.255.255 形式

3. **プリンタの設定**

拠点サーバのプリンタの指定方法を設定します。拠点サーバのプリンタの指定方法は，プリンタクラス名とプリンタ名の 2 種類の指定方法を選択できます。

拠点サーバのプリンタを設定する項目を，次に示します。

拠点サーバのプリンタの設定		起動部品の設定項目	指定する値
プリンタの指定方法		ActiveX 起動部品：PrinterSelectMode プロパティ Java 起動部品：setPrinterSelectMode メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（PRINTERSELECTMODE パラメタ）	0（プリンタクラス名で指定する） 1（プリンタ名で指定する）
		コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /sm オプション	class（プリンタクラス名で指定する） printer（プリンタ名で指定する）
プリンタクラス名		ActiveX 起動部品：PrinterClassName プロパティ Java 起動部品：setPrinterClassName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（SERVERPRINTERNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /prc オプション	プリンタクラス名（80 バイト以内の文字列）
プリンタ名	OS 上のプリンタ名	ActiveX 起動部品：ServerPrinterName プロパティ Java 起動部品：setServerPrinterName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（SERVERPRINTERNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /lsp オプション	プリンタ名（80 バイト以内の文字列）
	OS 上のプリンタのトレイ名	ActiveX 起動部品：ServerTrayName プロパティ Java 起動部品：setServerTrayName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（SERVERTRAYNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /lst オプション	トレイ名（80 バイト以内の文字列）

4. 帳票ファイルの設定

印刷する帳票ファイル名を設定します。

帳票ファイルを設定する項目を，次に示します。

帳票ファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
帳票ファイルの名前	ActiveX 起動部品：ReportFileName プロパティ Java 起動部品：setReportFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（REPORTNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /rf オプション	帳票ファイル名（255 バイト以内の文字列）

5. **マッピングデータファイル，または帳票セット指定ファイルの設定**
   マッピングデータファイル名，または帳票セット指定ファイル名のどちらかを設定します。
   マッピングデータファイル，または帳票セット指定ファイルを設定する項目を，次に示します。

ユーザーデータファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
マッピングデータファイルの名前	ActiveX 起動部品：DataFileName プロパティ Java 起動部品：setDataFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（MAPPINGDATA パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /map オプション	マッピングデータファイル名（255 バイト以内の文字列）
帳票セット指定ファイルの名前	ActiveX 起動部品：MultiReportSetFileName プロパティ Java 起動部品：setMultiReportSetFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（REPORTSETFILE パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /mrs オプション	帳票セット指定ファイル名（255 バイト以内の文字列）

6. **ユーザーデータファイル，印刷定義ファイル，および印刷付加情報の設定**
   必要に応じて，ユーザーデータファイル（ユーザ定義データファイルなど），印刷定義ファイル（複数様式情報定義ファイル，文書情報設定ファイル，置き換え表管理情報ファイルなど）および印刷付加情報（印刷開始ページ，印刷部数，ページ番号など）を設定します。

7. **拠点サーバでの印刷**
   印刷管理サーバから印刷データを拠点サーバに送ると，各拠点の指定したプリンタのトレイで帳票が印刷されます。正しく印刷されない場合は，設定を確認してください。

参考

起動部品はアプリケーションサーバで設定します。詳細については次の章を参照してください。

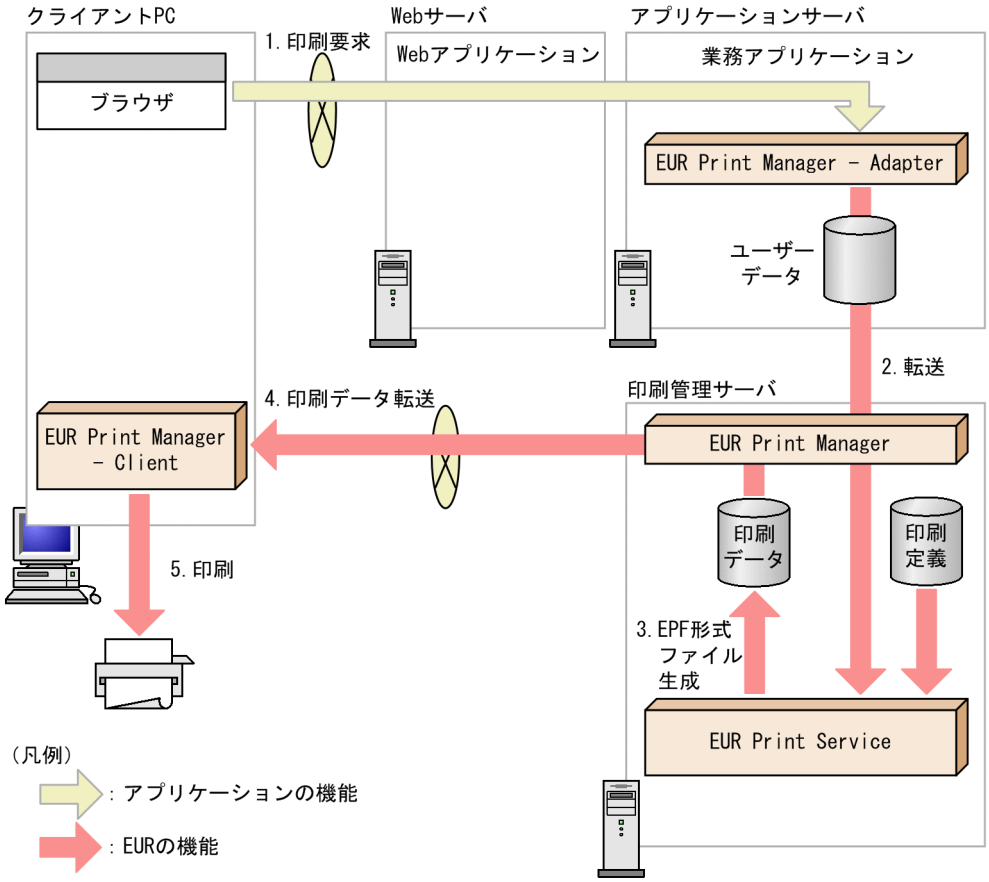
- 「9. ActiveX 起動部品および RS-ActiveX 起動部品を使用した帳票出力」
- 「10. Java 起動部品および RS-Java 起動部品を使用した帳票出力」
- 「11. COBOL 起動部品を使用した帳票出力」
- 「12. コマンド起動部品を使用した帳票出力」

1.4　クライアント PC での自動印刷

クライアント PC のプリンタで帳票を自動印刷できます。自動印刷では，帳票はあらかじめ設定したプリンタに自動で印刷されます。データ受信時にクライアント PC を操作する必要はありません。また，印刷実行時に印刷中ダイアログを表示させないで，自動で印刷させることもできます。

クライアント PC での自動印刷のシステム構成を次に示します。

図 1-11　クライアント PC での自動印刷のシステム構成



1. **印刷要求**
   印刷要求が業務アプリケーションに送られます。

2. **転送**
   EUR Print Manager - Adapter は，ユーザーデータファイルを印刷管理サーバの EUR Print Manager に転送します。

3. **EPF 形式ファイル生成**
   転送されたユーザーデータファイルとあらかじめ印刷管理サーバに配置しておいた印刷定義ファイルから，印刷データ（EPF 形式ファイル）が生成されます。

4. **印刷データ転送**
   EUR Print Manager は，生成された印刷データ（EPF 形式ファイル）をクライアント PC に転送します。

5. **印刷**
   クライアント PC のプリンタから自動印刷されます。

クライアント PC で自動印刷するには，クライアント PC に EUR Print Manager - Client が必要です。

1.4.1 帳票を自動印刷する手順

クライアント PC で帳票を自動印刷する手順を次に示します。

(1) クライアント PC の設定

クライアント PC での自動印刷では，クライアント PC のプリンタクラスを設定します。

クライアント PC のプリンタクラスは各クライアント PC で設定しますが，設定内容をクライアントプリンタクラス定義ファイルに保存して，ひな型として各クライアント PC に配布することもできます。配布したファイルを使えば，各クライアント PC でプリンタクラスを設定する手間が省けます。

クライアント PC の自動印刷での設定方法を次に示します。

1. **出力先の設定**
   クライアント PC のプリンタクラス，プリンタ名とトレイ名の直接指定のどちらかで出力先を指定できます。プリンタ名とトレイ名の直接指定は印刷管理サーバで設定します。
   - **クライアント PC のプリンタクラス**
     クライアント PC のプリンタとトレイを組み合わせたものを，プリンタクラスとして管理します。帳票出力時にプリンタクラスを選択すれば，指定したプリンタのトレイに帳票が出力されます。
     クライアント PC のプリンタクラスを設定する方法については「4.5　クライアントプリンタクラスの設定」を参照してください。

(2) 印刷管理サーバの設定

印刷管理サーバの設定方法を次に示します。

1. **印刷方法の設定**
   帳票を印刷する方法を設定します。
   印刷方法を設定する項目を，次に示します。

印刷方法の設定	起動部品の設定項目	指定する値
印刷方法	ActiveX 起動部品：PrintMode プロパティ Java 起動部品：setPrintMode メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（PRINTMODE パラメタ）	1（クライアント PC で印刷する）
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /pm オプション	cl（クライアント PC で印刷する）

2. **クライアント PC の設定**

クライアント PC の IP アドレスを指定します。

クライアント PC を設定する項目を，次に示します。

クライアント PC の設定	起動部品の設定項目	指定する値
IP アドレス	ActiveX 起動部品：ClientAddress プロパティ Java 起動部品：setClientAddress メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（CLIENTADDR パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /client オプション	255.255.255.255 形式

3. **ダイアログの設定**

帳票を受信したときにダイアログを表示するかどうかを設定します。

ダイアログを設定する項目を，次に示します。

ダイアログの設定	起動部品の設定項目	指定する値
ダイアログを表示するかどうか	ActiveX 起動部品：DispPrintDlg プロパティ Java 起動部品：setDispPrintDlg メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（DISPPRINTDLG パラメタ）	1（自動印刷） 3（全自動印刷）※
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /dialog オプション	auto（自動印刷） fullauto（全自動印刷）※

注※　印刷実行時に印刷中のダイアログが表示されません。

4. **クライアント PC のプリンタの設定**

クライアント PC のプリンタを設定します。クライアント PC のプリンタの設定方法は，プリンタクラス名とプリンタ名の 2 種類の指定方法を選択できます。

クライアント PC のプリンタを設定する項目を，次に示します。

クライアント PC のプリンタ		起動部品の設定項目	指定する値
プリンタクラス名		ActiveX 起動部品：PrinterClassName プロパティ Java 起動部品：setPrinterClassName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（PRINTERCLASSNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /prc オプション	プリンタクラス名（80 バイト以内の文字列）
プリンタ名	OS 上のプリンタ名	ActiveX 起動部品：ClientPrinterName プロパティ Java 起動部品：setClientPrinterName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（CLIENTPRINTERNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /p オプション	プリンタ名（80 バイト以内の文字列）
	OS 上のプリンタのトレイ名	ActiveX 起動部品：ClientTrayName プロパティ Java 起動部品：setClientTrayName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（CLIENTTRAYNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /t オプション	トレイ名（80 バイト以内の文字列）

5. **帳票ファイルの設定**

印刷する帳票ファイル名を設定します。

帳票ファイルを設定する項目を，次に示します。

帳票ファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
帳票ファイルの名前	ActiveX 起動部品：ReportFileName プロパティ Java 起動部品：setReportFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（REPORTNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /rf オプション	帳票ファイル名（255 バイト以内の文字列）

6. **マッピングデータファイル，または帳票セット指定ファイルの設定**

マッピングデータファイル名，または帳票セット指定ファイル名のどちらかを設定します。

マッピングデータファイル，または帳票セット指定ファイルを設定する項目を，次に示します。

ユーザーデータファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
マッピングデータファイルの名前	ActiveX 起動部品：DataFileName プロパティ Java 起動部品：setDataFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（MAPPINGDATA パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /map オプション	マッピングデータファイル名（255 バイト以内の文字列）
帳票セット指定ファイルの名前	ActiveX 起動部品：MultiReportSetFileName プロパティ Java 起動部品：setMultiReportSetFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（REPORTSETFILE パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /mrs オプション	帳票セット指定ファイル名（255 バイト以内の文字列）

7. **ユーザーデータファイル，印刷定義ファイル，および印刷付加情報の設定**
   必要に応じて，ユーザーデータファイル（ユーザ定義データファイルなど），印刷定義ファイル（複数様式情報定義ファイル，文書情報設定ファイル，置き換え表管理情報ファイルなど）および印刷付加情報（印刷開始ページ，印刷部数，ページ番号など）を設定します。

8. **クライアント PC での印刷**
   プリンタクラスを指定した場合は，対応するプリンタに自動で印刷されます。印刷するプリンタとトレイを指定した場合は，指定したプリンタに自動で印刷されます。プリンタクラス，またはプリンタの指定がない場合は，通常使うプリンタに自動で印刷されます。正しく印刷されない場合は，プリンタの設定を確認してください。

参考

起動部品はアプリケーションサーバで設定します。詳細については次の章を参照してください。

- 「9. ActiveX 起動部品および RS-ActiveX 起動部品を使用した帳票出力」
- 「10. Java 起動部品および RS-Java 起動部品を使用した帳票出力」
- 「11. COBOL 起動部品を使用した帳票出力」
- 「12. コマンド起動部品を使用した帳票出力」

1.5 クライアント PC での対話型印刷

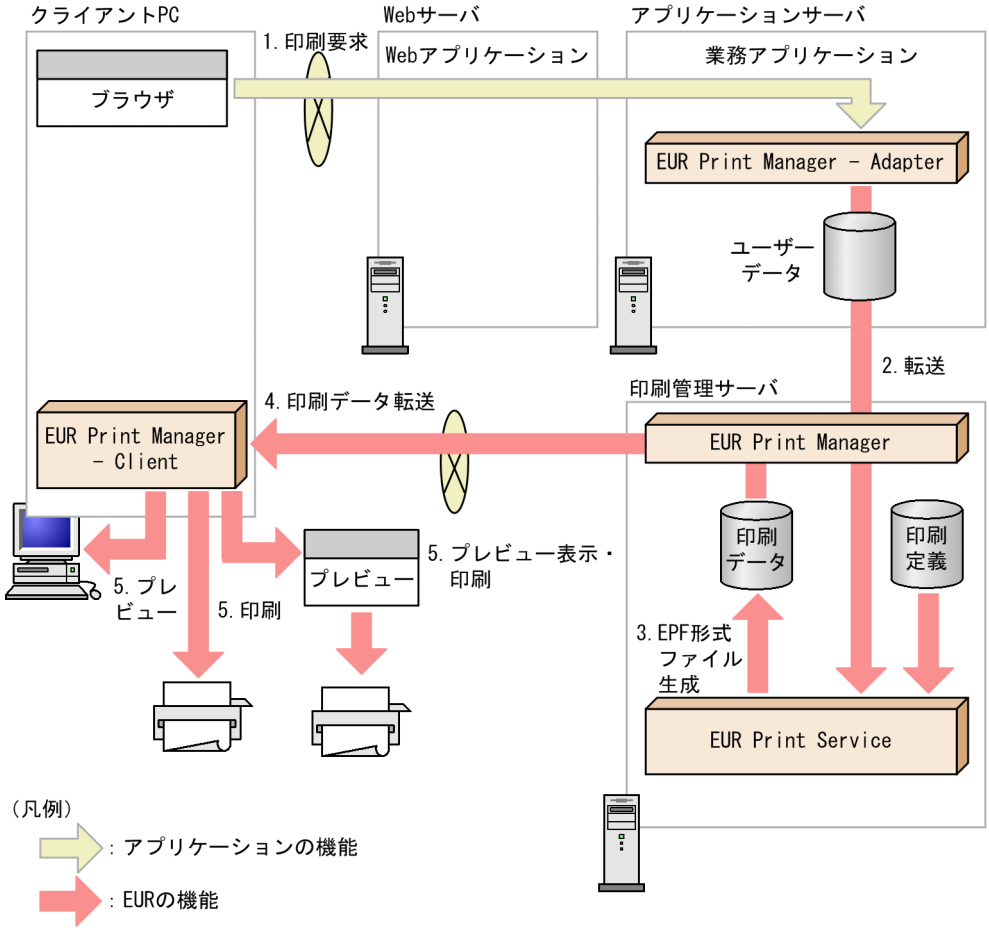
クライアント PC で，印刷したいプリンタとトレイを設定して帳票を印刷できます。クライアント PC が帳票を受信すると，印刷先を設定するダイアログが表示されます。ダイアログでプリンタとトレイを設定して帳票を印刷します。また，クライアント PC が帳票を受信すると，印刷プレビューが表示され，そのあと，ダイアログでプリンタとトレイを設定して帳票を印刷することもできます。

帳票受信時にクライアント PC で印刷先を設定する印刷方法を，クライアント PC での対話型印刷といいます。また，印刷プレビューを表示したあと，印刷先を設定する印刷方法を，対話型印刷プレビュー表示といいます。

帳票受信時に印刷を許可しないで，プレビュー表示だけさせることもできます。この方法を，対話型印刷プレビュー表示限定といいます。

クライアント PC での対話型印刷のシステム構成を次に示します。

図 1-12　クライアント PC での対話型印刷のシステム構成



1. **印刷要求**
   印刷要求が業務アプリケーションに送られます。

2. **転送**
   EUR Print Manager - Adapter は，ユーザーデータファイルを印刷管理サーバの EUR Print Manager に転送します。

3. **EPF 形式ファイル生成**
   転送されたユーザーデータファイルとあらかじめ印刷管理サーバに配置しておいた印刷定義ファイルから，印刷データ（EPF 形式ファイル）が生成されます。

4. **印刷データ転送**
   EUR Print Manager は，生成された印刷データ（EPF 形式ファイル）をクライアント PC に転送します。

5. **プレビュー，印刷，またはプレビュー表示印刷**
   クライアント PC からのプレビュー表示，印刷実行，またはプレビュー表示印刷がで

きます。印刷するときは，印刷先をダイアログで指定します。

クライアント PC での対話型印刷をするためには，クライアント PC に EUR Print Manager - Client が必要です。

1.5.1 帳票を対話型印刷する手順

クライアント PC で帳票を対話型印刷する手順を次に示します。

(1) 印刷管理サーバの設定

印刷管理サーバの設定方法を次に示します。

1. **印刷方法の設定**
   帳票を印刷する方法を設定します。
   印刷方法を設定する項目を，次に示します。

印刷方法の設定	起動部品の設定項目	指定する値
印刷方法	ActiveX 起動部品：PrintMode プロパティ Java 起動部品：setPrintMode メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（PRINTMODE パラメタ）	1（クライアント PC で印刷する）
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /pm オプション	cl（クライアント PC で印刷する）

2. **クライアント PC の設定**
   クライアント PC の IP アドレスを指定します。
   クライアント PC を設定する項目を，次に示します。

クライアント PC の設定	起動部品の設定項目	指定する値
IP アドレス	ActiveX 起動部品：ClientAddress プロパティ Java 起動部品：setClientAddress メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（CLIENTADDR パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /client オプション	255.255.255.255 形式

3. **ダイアログの設定**
   帳票を受信したときにダイアログを表示するかどうかを設定します。または，帳票を受信したときに印刷プレビューを表示したあとに，ダイアログを表示するかどうかを設定します。
   ダイアログを設定する項目を，次に示します。

ダイアログの設定	起動部品の設定項目	指定する値
ダイアログを表示するかどうか	ActiveX 起動部品：DispPrintDlg プロパティ Java 起動部品：setDispPrintDlg メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（DISPPRINTDLG パラメタ）	0（対話型印刷） 2（対話型印刷プレビュー表示） 4（対話型印刷プレビュー表示限定）※
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /dialog オプション	dialog（対話型印刷） preview（対話型印刷プレビュー表示） pvonly（対話型印刷プレビュー表示限定）※

注※　印刷は実行できません。

4. **プリンタクラス名の設定**

同じ帳票が送られてきたときに，前回印刷時に指定したプリンタ名とトレイ名をデフォルト表示するためには，帳票のプリンタクラス名で前回印刷時の情報を記憶させます。

プリンタクラス名を設定する項目を，次に示します。

プリンタクラス名の設定	起動部品の設定項目	指定する値
プリンタクラス名	ActiveX 起動部品：PrinterClassName プロパティ Java 起動部品：setPrinterClassName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（PRINTERCLASSNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /prc オプション	プリンタクラス名（80 バイト以内の文字列）

5. **帳票ファイルの設定**

印刷する帳票ファイル名を設定します。

帳票ファイルを設定する項目を，次に示します。

帳票ファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
帳票ファイルの名前	ActiveX 起動部品：ReportFileName プロパティ Java 起動部品：setReportFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（REPORTNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /rf オプション	帳票ファイル名（255 バイト以内の文字列）

6. **マッピングデータファイル，または帳票セット指定ファイルの設定**

マッピングデータファイル名，または帳票セット指定ファイル名のどちらかを設定します。

マッピングデータファイル，または帳票セット指定ファイルを設定する項目を，次に

示します。

ユーザーデータファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
マッピングデータファイルの名前	ActiveX 起動部品：DataFileName プロパティ Java 起動部品：setDataFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（MAPPINGDATA パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /map オプション	マッピングデータファイル名（255 バイト以内の文字列）
帳票セット指定ファイルの名前	ActiveX 起動部品：MultiReportSetFileName プロパティ Java 起動部品：setMultiReportSetFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（REPORTSETFILE パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /mrs オプション	帳票セット指定ファイル（255 バイト以内の文字列）

7. **ユーザーデータファイル，印刷定義ファイル，および印刷付加情報の設定**
   必要に応じて，ユーザーデータファイル（ユーザ定義データファイルなど），印刷定義ファイル（複数様式情報定義ファイル，文書情報設定ファイル，置き換え表管理情報ファイルなど）および印刷付加情報（印刷開始ページ，印刷部数，ページ番号など）を設定します。

8. **クライアント PC での印刷**
   印刷管理サーバから印刷データをクライアント PC に送ると，クライアント PC に［印刷先指定］ダイアログが表示されます。ダイアログを操作して帳票を印刷する手順については，「4.6.3　クライアント PC での対話型印刷」を参照してください。

参考

起動部品はアプリケーションサーバで設定します。詳細については次の章を参照してください。

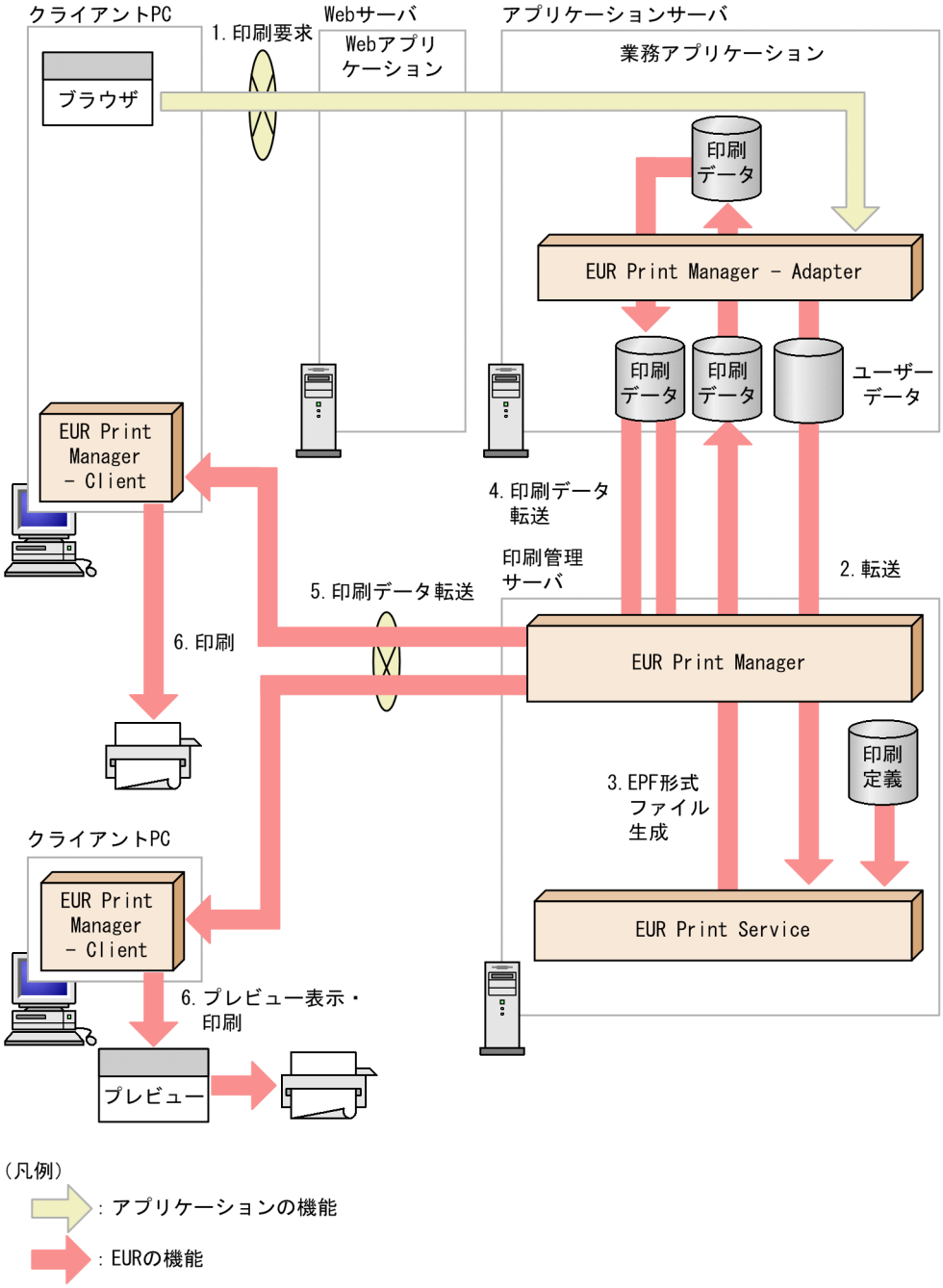
- 「9.　ActiveX 起動部品および RS-ActiveX 起動部品を使用した帳票出力」
- 「10.　Java 起動部品および RS-Java 起動部品を使用した帳票出力」
- 「11.　COBOL 起動部品を使用した帳票出力」
- 「12.　コマンド起動部品を使用した帳票出力」

1.6 クライアント PC への配布印刷

業務アプリケーションから印刷管理サーバを経由して配布された帳票を，複数のクライアント PC で印刷できます。クライアント PC に配布された帳票は，あらかじめ設定したプリンタに自動で印刷したり（自動印刷），ダイアログでプリンタとトレイを設定して印刷したり（対話型印刷）できます。

クライアント PC への配布印刷のシステム構成を次に示します。

図 1-13 クライアント PC への配布印刷のシステム構成



印刷データの生成

1. **印刷要求**

   印刷要求が業務アプリケーションに送られます。

2. **転送**
   EUR Print Manager - Adapter は，ユーザーデータファイルを印刷管理サーバの EUR Print Manager に転送します。

3. EPF **形式ファイル生成**
   転送されたユーザーデータファイルとあらかじめ印刷管理サーバに配置しておいた印刷定義ファイルから，印刷データ（EPF 形式ファイル）が生成されます。
   なお，手順 1. ～手順 3. で生成された印刷データが複数ある場合，一つの印刷データに統合することもできます。印刷データの統合方法については，「1.13 複数の EPF 形式ファイルの統合」を参照してください。

配布印刷

手順 3. で生成した印刷データを，手順 4. ～手順 5. を繰り返すことで複数のクライアント PC に配布します。

4. **印刷データ転送（**EUR Print Manager - Adapter **から** EUR Print Manager **へ）**
   EUR Print Manager - Adapter は，生成された印刷データ（EPF 形式ファイル）を EUR Print Manager に転送します。

5. **印刷データ転送（**EUR Print Manager **からクライアント** PC **へ）**
   EUR Print Manager は，転送された印刷データ（EPF 形式ファイル）をクライアント PC に転送します。

6. **印刷，プレビュー表示印刷**
   クライアント PC では，プリンタからの印刷やプレビュー表示ができます。

クライアント PC で配布印刷するには，クライアント PC に EUR Print Manager - Client が必要です。

1.6.1 帳票を配布印刷する手順

クライアント PC で帳票を配布印刷する手順を次に示します。

(1) 配布された帳票を自動印刷する場合

配布された帳票をクライアント PC で自動印刷する場合の手順を次に示します。

EPF 形式ファイルの生成

1. **帳票ファイルの設定**
   印刷する帳票ファイル名を設定します。
   帳票ファイルを設定する項目を，次に示します。

帳票ファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
帳票ファイルの名前	ActiveX 起動部品：ReportFileName プロパティ Java 起動部品：setReportFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（REPORTNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /rf オプション	帳票ファイル名（255 バイト以内の文字列）

2. EPF 形式ファイルの設定

EPF 形式ファイル名を設定します。

EPF 形式ファイルを設定する項目を，次に示します。

EPF 形式ファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
EPF 形式ファイル名	ActiveX 起動部品：EPFFileName プロパティ Java 起動部品：setEPFFileName メソッド COBOL 起動部品：OutputEPFReport 関数（EPFFILENAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /epfn オプション	EPF 形式ファイル名（255 バイト以内の文字列）

3. マッピングデータファイル，または帳票セット指定ファイルの設定

マッピングデータファイル名，または帳票セット指定ファイル名のどちらかを設定します。

マッピングデータファイル，または帳票セット指定ファイルを設定する項目を，次に示します。

ユーザーデータファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
マッピングデータファイルの名前	ActiveX 起動部品：DataFileName プロパティ Java 起動部品：setDataFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（MAPPINGDATA パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /map オプション	マッピングデータファイル名（255 バイト以内の文字列）
帳票セット指定ファイルの名前	ActiveX 起動部品：MultiReportSetFileName プロパティ Java 起動部品：setMultiReportSetFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（REPORTSETFILE パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /mrs オプション	帳票セット指定ファイル名（255 バイト以内の文字列）

4. ユーザーデータファイル，印刷定義ファイル，および印刷付加情報の設定

必要に応じて，ユーザーデータファイル（ユーザ定義データファイルなど），印刷定義ファイル（複数様式情報定義ファイル，文書情報設定ファイル，置き換え表管理情報ファイルなど）および印刷付加情報（印刷開始ページ，印刷部数，ページ番号など）を設定します。

5. プリンタクラス名の設定

同じ帳票が送られてきたときに，前回印刷時に指定したプリンタ名とトレイ名をデフォルト表示するためには，帳票のプリンタクラス名で前回印刷時の情報を記憶させます。

クライアント PC のプリンタ	起動部品の設定項目	指定する値
プリンタクラス名	ActiveX 起動部品：PrinterClassName プロパティ Java 起動部品：setPrinterClassName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（PRINTERCLASSNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /prc オプション	プリンタクラス名（80 バイト以内の文字列）

配布印刷

6. **印刷管理サーバの設定**

設定項目を次に示します。

- **帳票ファイルの設定**

配布する帳票ファイル名を設定します。

帳票ファイル名には，手順 2. で生成した EPF 形式ファイル名を設定します。

EPF 形式ファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
EPF 形式ファイル名	ActiveX 起動部品：EPFFileName プロパティ Java 起動部品：setEPFFileName メソッド COBOL 起動部品：OutputEPFReport 関数（EPFFILENAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /epfn オプション	EPF 形式ファイル名（255 バイト以内の文字列）

- **印刷方法の設定**

帳票を印刷する方法を設定します。

印刷方法の設定	起動部品の設定項目	指定する値
印刷方法	ActiveX 起動部品：PrintMode プロパティ Java 起動部品：setPrintMode メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（PRINTMODE パラメタ）	5（クライアント PC で配布印刷する）
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /pm オプション	clds（クライアント PC で配布印刷する）

- **クライアント PC の設定**
  クライアント PC の IP アドレスを指定します。

クライアント PC の設定	起動部品の設定項目	指定する値
IP アドレス	ActiveX 起動部品：ClientAddress プロパティ Java 起動部品：setClientAddress メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（CLIENTADDR パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /client オプション	255.255.255.255 形式

- **ダイアログの設定**
  帳票を受信したときにダイアログを表示するかどうかを設定します。

ダイアログの設定	起動部品の設定項目	指定する値
ダイアログを表示するかどうか	ActiveX 起動部品：DispPrintDlg プロパティ Java 起動部品：setDispPrintDlg メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（DISPPRINTDLG パラメタ）	1（自動印刷） 3（全自動印刷）※
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /dialog オプション	auto（自動印刷） fullauto（全自動印刷）※

注※　印刷実行時に印刷中のダイアログが表示されません。

- **クライアント PC のプリンタの設定**
  クライアント PC のプリンタを設定します。クライアント PC のプリンタの設定方法は，プリンタクラス名とプリンタ名の 2 種類の指定方法を選択できます。

クライアント PC のプリンタ		起動部品の設定項目	指定する値
プリンタ名	OS 上のプリンタ名	ActiveX 起動部品：ClientPrinterName プロパティ Java 起動部品：setClientPrinterName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（CLIENTPRINTERNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /p オプション	プリンタ名（80 バイト以内の文字列）

クライアント PC のプリンタ		起動部品の設定項目	指定する値
	OS上のプリンタのトレイ名	ActiveX 起動部品：ClientTrayName プロパティ Java 起動部品：setClientTrayName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（CLIENTTRAYNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /t オプション	トレイ名（80 バイト以内の文字列）

- **クライアント PC での印刷**

  EPF 形式ファイルの生成時にプリンタクラスを指定した場合は，対応するプリンタに自動で印刷されます。印刷するプリンタとトレイを指定した場合は，指定したプリンタに自動で印刷されます。プリンタクラス，またはプリンタの指定がない場合は，通常使うプリンタに自動で印刷されます。正しく印刷されない場合は，プリンタの設定を確認してください。

参考

起動部品はアプリケーションサーバで設定します。詳細については次の章を参照してください。

- 「9. ActiveX 起動部品および RS-ActiveX 起動部品を使用した帳票出力」
- 「10. Java 起動部品および RS-Java 起動部品を使用した帳票出力」
- 「11. COBOL 起動部品を使用した帳票出力」
- 「12. コマンド起動部品を使用した帳票出力」

(2) 配布された帳票を対話型印刷する場合

配布された帳票をクライアント PC で対話型印刷する場合の手順を次に示します。

EPF 形式ファイルの生成

1. **帳票ファイルの設定**

   印刷する帳票ファイル名を設定します。

   帳票ファイルを設定する項目を，次に示します。

帳票ファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
帳票ファイルの名前	ActiveX 起動部品：ReportFileName プロパティ Java 起動部品：setReportFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（REPORTNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /rf オプション	帳票ファイル名（255 バイト以内の文字列）

2. EPF 形式ファイルの設定

EPF 形式ファイル名を設定します。

EPF 形式ファイルを設定する項目を，次に示します。

EPF 形式ファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
EPF 形式ファイル名	ActiveX 起動部品：EPFFileName プロパティ Java 起動部品：setEPFFileName メソッド COBOL 起動部品：OutputEPFReport 関数（EPFFILENAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /epfn オプション	EPF 形式ファイル名（255 バイト以内の文字列）

3. マッピングデータファイル，または帳票セット指定ファイルの設定

マッピングデータファイル名，または帳票セット指定ファイル名のどちらかを設定します。

マッピングデータファイル，または帳票セット指定ファイルを設定する項目を，次に示します。

ユーザーデータファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
マッピングデータファイルの名前	ActiveX 起動部品：DataFileName プロパティ Java 起動部品：setDataFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（MAPPINGDATA パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /map オプション	マッピングデータファイル名（255 バイト以内の文字列）
帳票セット指定ファイルの名前	ActiveX 起動部品：MultiReportSetFileName プロパティ Java 起動部品：setMultiReportSetFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（REPORTSETFILE パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /mrs オプション	帳票セット指定ファイル名（255 バイト以内の文字列）

4. ユーザーデータファイル，印刷定義ファイル，および印刷付加情報の設定

必要に応じて，ユーザーデータファイル（ユーザ定義データファイルなど），印刷定義ファイル（複数様式情報定義ファイル，文書情報設定ファイル，置き換え表管理情報ファイルなど）および印刷付加情報（印刷開始ページ，印刷部数，ページ番号など）を設定します。

5. プリンタクラス名の設定

同じ帳票が送られてきたときに，前回印刷時に指定したプリンタ名とトレイ名をデフォルト表示するためには，帳票のプリンタクラス名で前回印刷時の情報を記憶させます。

クライアント PC のプリンタ	起動部品の設定項目	指定する値
プリンタクラス名	ActiveX 起動部品：PrinterClassName プロパティ Java 起動部品：setPrinterClassName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（PRINTERCLASSNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /prc オプション	プリンタクラス名（80 バイト以内の文字列）

配布印刷

6. **印刷管理サーバの設定**

設定項目を次に示します。

- **帳票ファイルの設定**

配布する帳票ファイル名を設定します。

帳票ファイル名には，手順 2. で生成した EPF 形式ファイル名を設定します。

EPF 形式ファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
EPF 形式ファイル名	ActiveX 起動部品：EPFFileName プロパティ Java 起動部品：setEPFFileName メソッド COBOL 起動部品：OutputEPFReport 関数（EPFFILENAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /epfn オプション	EPF 形式ファイル名（255 バイト以内の文字列）

- **印刷方法の設定**

帳票を印刷する方法を設定します。

印刷方法の設定	起動部品の設定項目	指定する値
印刷方法	ActiveX 起動部品：PrintMode プロパティ Java 起動部品：setPrintMode メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（PRINTMODE パラメタ）	5（クライアント PC で配布印刷する）
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /pm オプション	clds（クライアント PC で配布印刷する）

- **クライアント PC の設定**

クライアント PC の IP アドレスを指定します。

クライアント PC の設定	起動部品の設定項目	指定する値
IP アドレス	ActiveX 起動部品：ClientAddress プロパティ Java 起動部品：setClientAddress メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（CLIENTADDR パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /client オプション	255.255.255.255 形式

- **ダイアログの設定**
  帳票を受信したときにダイアログを表示するかどうかを設定します。または，帳票を受信したときに印刷プレビューを表示したあとに，ダイアログを表示するかどうかを設定します。

ダイアログの設定	起動部品の設定項目	指定する値
ダイアログを表示するかどうか	ActiveX 起動部品：DispPrintDlg プロパティ Java 起動部品：setDispPrintDlg メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（DISPPRINTDLG パラメタ）	0（対話型印刷） 2（対話型印刷プレビュー表示） 4（対話型印刷プレビュー表示限定）※
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /dialog オプション	dialog（対話型印刷） preview（対話型印刷プレビュー表示） pvonly（対話型印刷プレビュー表示限定）※

注※　印刷は実行できません。

- **クライアント PC での印刷**
  印刷管理サーバから印刷データをクライアント PC に送ると，クライアント PC に［印刷先指定］ダイアログが表示されます。ダイアログを操作して帳票を印刷する手順については，「4.6.3　クライアント PC での対話型印刷」を参照してください。

参考

起動部品はアプリケーションサーバで設定します。詳細については次の章を参照してください。

- 「9.　ActiveX 起動部品および RS-ActiveX 起動部品を使用した帳票出力」
- 「10.　Java 起動部品および RS-Java 起動部品を使用した帳票出力」
- 「11.　COBOL 起動部品を使用した帳票出力」
- 「12.　コマンド起動部品を使用した帳票出力」

1.7　Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷

Web ブラウザを使用して，帳票をクライアント PC でプレビュー表示，および印刷できます。Web ブラウザを使用して，帳票をクライアント PC で印刷することを Web 出力といいます。

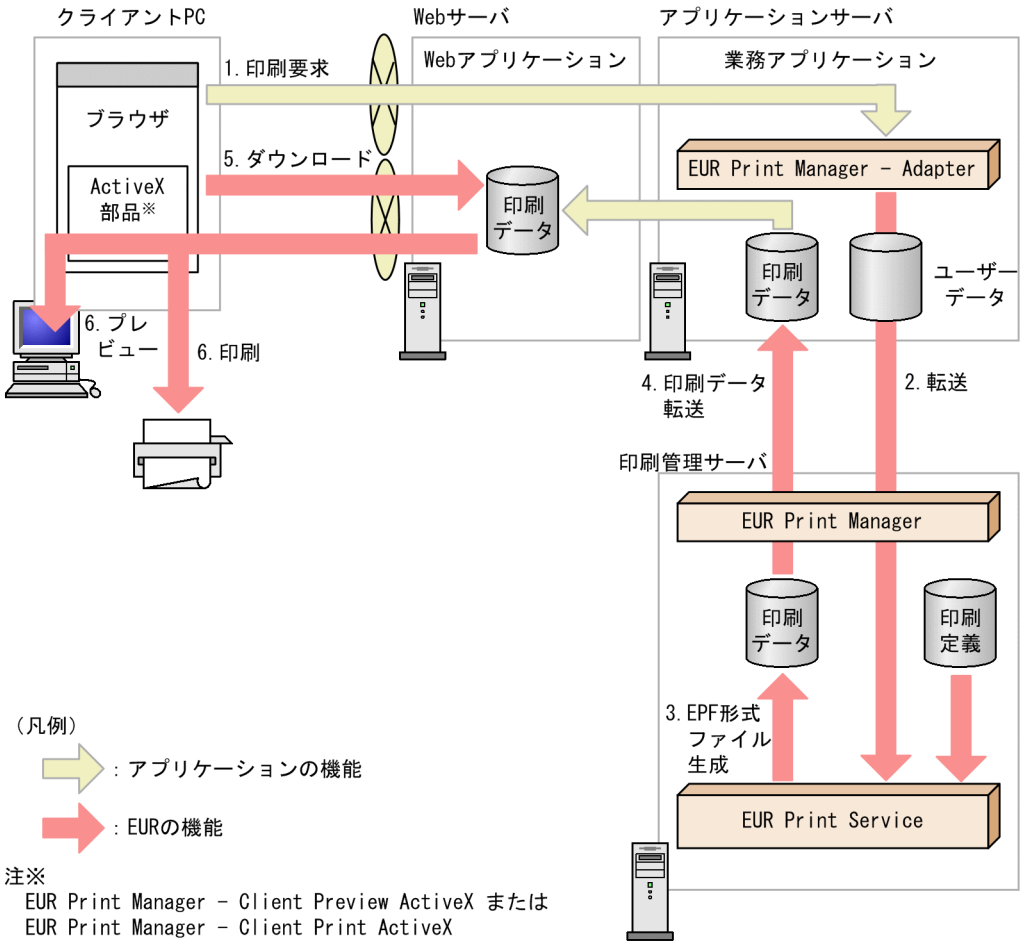
Web 出力の設定には，ActiveX 部品を使用する方法と ActiveX 部品を使用しない方法があります。ActiveX 部品を使用する方法を ActiveX クライアント印刷といい，ActiveX 部品を使用しない方法をヘルパクライアント印刷といいます。

1.7.1　Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷（ActiveX クライアント印刷）

ActiveX 部品の設定については，「8.　ActiveX 部品を使用した帳票出力」を参照してください。

ActiveX クライアント印刷でのシステム構成を次に示します。

図 1-14　ActiveX クライアント印刷のシステム構成



1. **印刷要求**
   印刷要求が業務アプリケーションに送られます。

2. **転送**
   EUR Print Manager - Adapter は，ユーザーデータファイルを印刷管理サーバの EUR Print Manager に転送します。

3. **EPF 形式ファイル生成**
   転送されたユーザーデータファイルとあらかじめ印刷管理サーバに配置しておいた印刷定義ファイルから，印刷データ（EPF 形式ファイル）が生成されます。
   なお，手順 1. ～手順 3. で生成された印刷データが複数ある場合，一つの印刷データに統合することもできます。印刷データの統合方法については，「1.13　複数の EPF 形式ファイルの統合」を参照してください。

4. **印刷データ転送**
   EUR Print Manager は，生成された印刷データ（EPF 形式ファイル）をアプリケー

ションサーバに転送します。

5. **ダウンロード**
クライアント PC の Web ブラウザから，Web サーバにアクセスして印刷データ（EPF 形式ファイル）をダウンロードします。
Web サーバとアプリケーションサーバが別マシンであったり，ネットワークを共有していたりする場合は，アプリケーション側でアプリケーションサーバの印刷データ（EPF 形式ファイル）を Web サーバに転送しておいてください。

6. **プレビュー，または印刷**
クライアント PC からプレビュー，または印刷できます。

ActiveX クライアント印刷には，［印刷先指定］ダイアログを操作して印刷する場合と，プレビュー画面を表示して印刷する場合の 2 種類の方法があります。

［印刷先指定］ダイアログを操作して印刷する場合は，EUR Print Manager - Client Print ActiveX をインストールする必要があります。

プレビュー画面を表示して印刷する場合は，EUR Print Manager - Client Preview ActiveX をインストールする必要があります。

（1） ActiveX クライアント印刷の手順

ActiveX クライアント印刷の手順を次に示します。

（a） クライアント PC の設定

クライアント PC の設定方法を次に示します。

1. **プリンタの指定方法の設定**
プリンタの指定方法には，次の 3 種類の方法があります。
- 印刷するプリンタとトレイを指定する
- 通常使うプリンタを指定する
- ダイアログでプリンタを選択する

プリンタの指定方法と関係する部品の設定項目を，次に示します。指定方法のどれか一つを設定してください。

プリンタの指定方法		ActiveX 部品の設定項目	指定する値
印刷するプリンタとトレイを指定する※1	OS 上のプリンタ名	PrinterName パラメタ	プリンタ名（80 バイト以内の文字列）
	OS 上のプリンタのトレイ名	TrayName パラメタ	トレイ名（80 バイト以内の文字列）
通常使うプリンタを指定する※2		NoSetPrinterDlg パラメタ	YES（通常使うプリンタを指定する） NO（通常使うプリンタを指定しない）

プリンタの指定方法	ActiveX 部品の設定項目	指定する値
ダイアログでプリンタを選択する	DefaultPrintDlg パラメタ	YES（OS 標準の印刷先指定ダイアログを表示する） NO（EUR Print Manager の印刷先指定ダイアログを表示する）

注※ 1

印刷するプリンタとトレイを指定した場合，通常使うプリンタの指定，およびダイアログでのプリンタ選択はできません。

注※ 2

通常使うプリンタを指定した場合，ダイアログでのプリンタ選択はできません。

2. **印刷するファイルの設定**

印刷するファイルをダウンロードする URL を設定します。設定する ActiveX 部品のパラメタは，EPFFileURL パラメタです。

参考

ActiveX クライアント印刷で使用する ActiveX 部品については「8. ActiveX 部品を使用した帳票出力」を参照してください。

(b) 印刷管理サーバの設定

印刷管理サーバの設定方法を次に示します。

1. **帳票ファイルの設定**

印刷する帳票ファイル名を設定します。

帳票ファイルを設定する項目を，次に示します。

帳票ファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
帳票ファイルの名前	ActiveX 起動部品：ReportFileName プロパティ Java 起動部品：setReportFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（REPORTNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /rf オプション	帳票ファイル名（255 バイト以内の文字列）

2. EPF **形式ファイルの設定**

EPF 形式ファイル名を設定します。

EPF 形式ファイルを設定する項目を，次に示します。

EPF 形式ファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
EPF 形式ファイル名	ActiveX 起動部品：EPFFileName プロパティ Java 起動部品：setEPFFileName メソッド COBOL 起動部品：OutputEPFReport 関数（EPFFILENAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /epfn オプション	EPF 形式ファイル名（255 バイト以内の文字列）

3. **マッピングデータファイル，または帳票セット指定ファイルの設定**

   マッピングデータファイル名，または帳票セット指定ファイル名のどちらかを設定します。

   マッピングデータファイル，または帳票セット指定ファイルを設定する項目を，次に示します。

ユーザーデータファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
マッピングデータファイルの名前	ActiveX 起動部品：DataFileName プロパティ Java 起動部品：setDataFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（MAPPINGDATA パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /map オプション	マッピングデータファイル名（255 バイト以内の文字列）
帳票セット指定ファイルの名前	ActiveX 起動部品：MultiReportSetFileName プロパティ Java 起動部品：setMultiReportSetFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（REPORTSETFILE パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /mrs オプション	帳票セット指定ファイル名（255 バイト以内の文字列）

4. **ユーザーデータファイル，印刷定義ファイル，および印刷付加情報の設定**

   必要に応じて，ユーザーデータファイル（ユーザ定義データファイルなど），印刷定義ファイル（複数様式情報定義ファイル，文書情報設定ファイル，置き換え表管理情報ファイルなど）および印刷付加情報（印刷開始ページ，印刷部数，ページ番号など）を設定します。

5. **クライアント PC での印刷**

   印刷方法によって，手順が異なります。

   自動で印刷する場合

   印刷するプリンタとトレイを指定した場合，および通常使うプリンタを指定した場合は，指定したプリンタに自動で印刷されます。自動で印刷する手順については，「4.6.6　Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷（自動印刷）」を参照してください。

   帳票のプレビュー画面を表示してから印刷する場合

   帳票を受信すると，プレビュー画面が表示されます。帳票のプレビュー画面を表示してから印刷する手順については，「4.6.7　Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷（プレビュー画面からの印刷）」を参照してください。

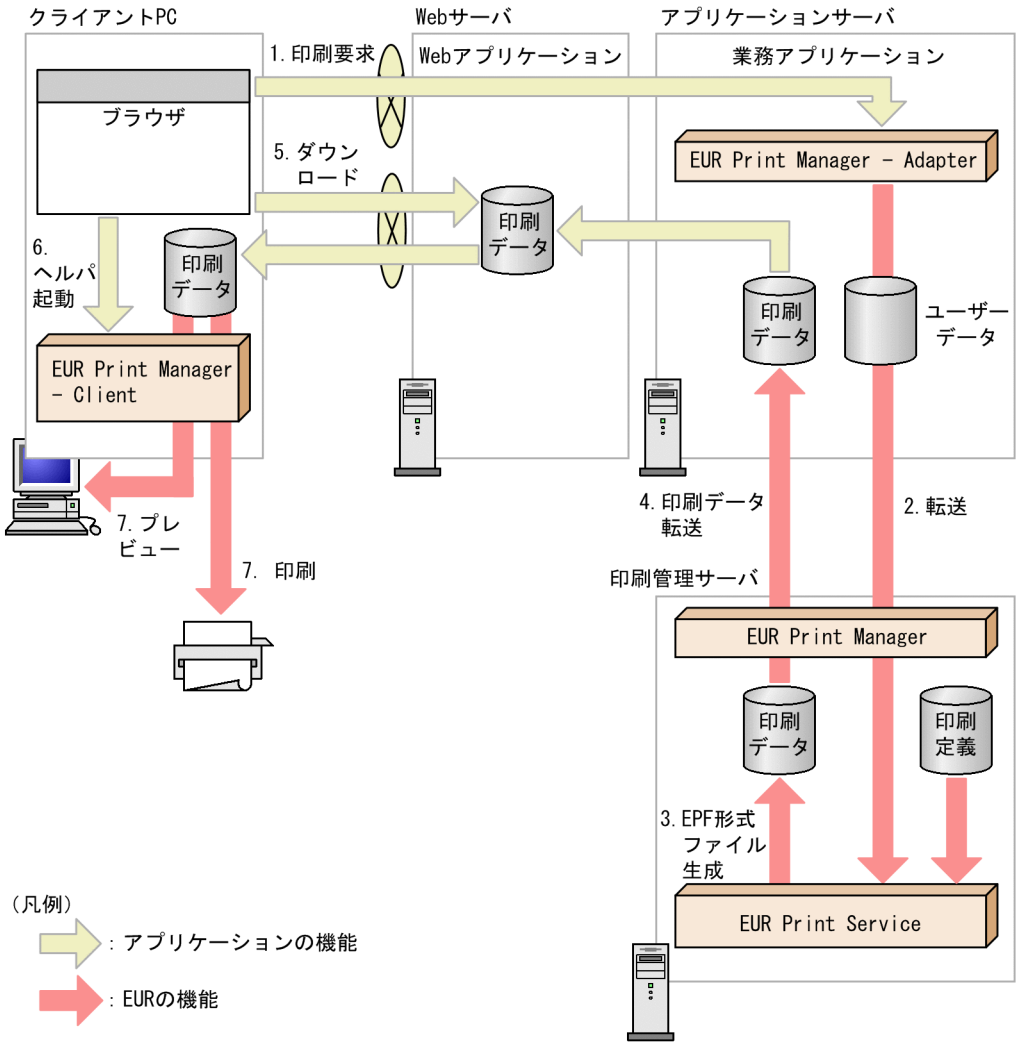
ダイアログを操作して印刷する場合

帳票を受信すると，自動で帳票が印刷されるか，印刷ダイアログが表示されます。ダイアログを操作して印刷する手順については，「4.6.8　Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷（ダイアログでの印刷）」を参照してください。

1.7.2　Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷（ヘルパクライアント印刷）

ヘルパクライアント印刷でのシステム構成を次に示します。

図 1-15　ヘルパクライアント印刷のシステム構成



1. **印刷要求**

印刷要求が業務アプリケーションに送られます。

2. **転送**
   EUR Print Manager - Adapter は，ユーザーデータファイルを印刷管理サーバの EUR Print Manager に転送します。

3. EPF **形式ファイル生成**
   転送されたユーザーデータファイルとあらかじめ印刷管理サーバに配置しておいた印刷定義ファイルから，印刷データ（EPF 形式ファイル）が生成されます。
   EPF 形式ファイルの拡張子は次の二つです。
   - *.epf：プレビューする EPF 形式ファイル
   - *.epp：直接印刷する EPF 形式ファイル

   EPF 形式ファイルは，複数の帳票セットを一つの EPF 形式ファイルに出力した場合も，複数様式で指定した場合も，クライアント PC で出力できます。
   なお，手順 1. ～手順 3. で生成された印刷データが複数ある場合，一つの印刷データに統合することもできます。印刷データの統合方法については，「1.13　複数の EPF 形式ファイルの統合」を参照してください。

4. **印刷データ転送**
   EUR Print Manager は，生成された印刷データ（EPF 形式ファイル）をアプリケーションサーバに転送します。
   Web ブラウザのヘルパアプリケーションとして実行する場合は，アプリケーションサーバに転送するとき，次に示す EPF 形式ファイルの MIME タイプを HTTP ヘッダに指定します。
   - 帳票をプレビューする場合
     「application/vnd.hitachi.eurpm-view」を指定します。
   - 帳票を直接印刷する場合
     「application/vnd.hitachi.eurpm-print」を指定します。

5. **ダウンロード**
   クライアント PC の Web ブラウザから，Web サーバにアクセスして印刷データ（EPF 形式ファイル）をダウンロードします。
   Web サーバとアプリケーションサーバが別マシンであったり，ネットワークを共有していたりする場合は，アプリケーション側でアプリケーションサーバの印刷データ（EPF 形式ファイル）を Web サーバに転送しておいてください。

6. **ヘルパ起動**
   クライアント PC にインストールされた EUR Print Manager - Client を起動します。

7. **プレビュー，または印刷**
   ダウンロードした印刷データ（EPF 形式ファイル）をプレビュー，または印刷できます。プレビュー，または印刷するには，次に示す二つの方法があります。
   - Web ブラウザのヘルパアプリケーションとしての実行
   - EPF 形式ファイルをダブルクリック実行

操作 4. の代わりに，EPF 形式ファイルをメール送信する運用もできます。この場合，

メール受信者は，添付された EPF 形式ファイルを HTML 上に配置し，ダブルクリックすることでプレビュー，または印刷ができます。

(1) ヘルパクライアント印刷の手順

ヘルパクライアント印刷の手順を次に示します。

(a) クライアント PC の設定（直接印刷の場合だけ）

EPF 形式ファイルを直接印刷するときは，クライアント PC のプリンタクラスを設定します。

クライアント PC のプリンタクラスは各クライアント PC で設定しますが，設定内容をクライアントプリンタクラス定義ファイルに保存して，ひな型として各クライアント PC に配布することもできます。配布したファイルを使えば，各クライアント PC でプリンタクラスを設定する手間が省けます。

クライアント PC の設定方法を次に示します。

1. **出力先の設定**
   クライアント PC のプリンタを，プリンタクラスで指定します。プリンタクラスの指定がない場合は，通常使うプリンタで出力されます。
   - **クライアント PC のプリンタクラス**
     クライアント PC のプリンタとトレイを組み合わせたものを，プリンタクラスとして管理します。帳票出力時にプリンタクラスを選択すれば，指定したプリンタのトレイに帳票が出力されます。
     クライアント PC のプリンタクラスを設定する方法については「4.5　クライアントプリンタクラスの設定」を参照してください。

(b) 印刷管理サーバの設定

印刷管理サーバの設定手順を次に示します。

1. **クライアント PC のプリンタの設定**
   EPF 形式ファイルを直接印刷する場合だけ，クライアント PC のプリンタをプリンタクラス名で設定します。
   クライアント PC のプリンタを設定する項目を，次に示します。

クライアント PC のプリンタ	起動部品の設定項目	指定する値
プリンタクラス名	ActiveX 起動部品：PrinterClassName プロパティ Java 起動部品：setPrinterClassName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（PRINTERCLASSNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /prc オプション	プリンタクラス名（80 バイト以内の文字列）

2. **帳票ファイルの設定**

印刷する帳票ファイル名を設定します。

帳票ファイルを設定する項目を，次に示します。

帳票ファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
帳票ファイルの名前	ActiveX 起動部品：ReportFileName プロパティ Java 起動部品：setReportFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（REPORTNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /rf オプション	帳票ファイル名（255 バイト以内の文字列）

3. EPF **形式ファイルの設定**

EPF 形式ファイル名を設定します。

EPF 形式ファイルを設定する項目を，次に示します。

EPF 形式ファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
EPF 形式ファイル名	ActiveX 起動部品：EPFFileName プロパティ Java 起動部品：setEPFFileName メソッド COBOL 起動部品：OutputEPFReport 関数（EPFFILENAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /epfn オプション	EPF 形式ファイル名（255 バイト以内の文字列）

4. **マッピングデータファイル，または帳票セット指定ファイルの設定**

マッピングデータファイル名，または帳票セット指定ファイル名のどちらかを設定します。

マッピングデータファイル，または帳票セット指定ファイルを設定する項目を，次に示します。

ユーザーデータファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
マッピングデータファイルの名前	ActiveX 起動部品：DataFileName プロパティ Java 起動部品：setDataFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（MAPPINGDATA パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /map オプション	マッピングデータファイル名（255 バイト以内の文字列）
帳票セット指定ファイルの名前	ActiveX 起動部品：MultiReportSetFileName プロパティ Java 起動部品：setMultiReportSetFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（REPORTSETFILE パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /mrs オプション	帳票セット指定ファイル名（255 バイト以内の文字列）

5. **ユーザーデータファイル，印刷定義ファイル，および印刷付加情報の設定**

必要に応じて，ユーザーデータファイル（ユーザ定義データファイルなど），印刷定義ファイル（複数様式情報定義ファイル，文書情報設定ファイル，置き換え表管理情報ファイルなど）および印刷付加情報（印刷開始ページ，印刷部数，ページ番号な

ど）を設定します。

6. **クライアント PC での印刷**
   - EPF 形式ファイルをプレビューする場合
     プレビュー画面を表示してから印刷する手順については，「4.6.9　Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷（ヘルパクライアント印刷）」を参照してください。
   - EPF 形式ファイルを直接印刷する場合
     プリンタクラスを指定した場合は，対応するプリンタに自動で印刷されます。プリンタクラスの指定がない場合は，通常使うプリンタに自動で印刷されます。正しく印刷されない場合は，プリンタの設定を確認してください。

参考

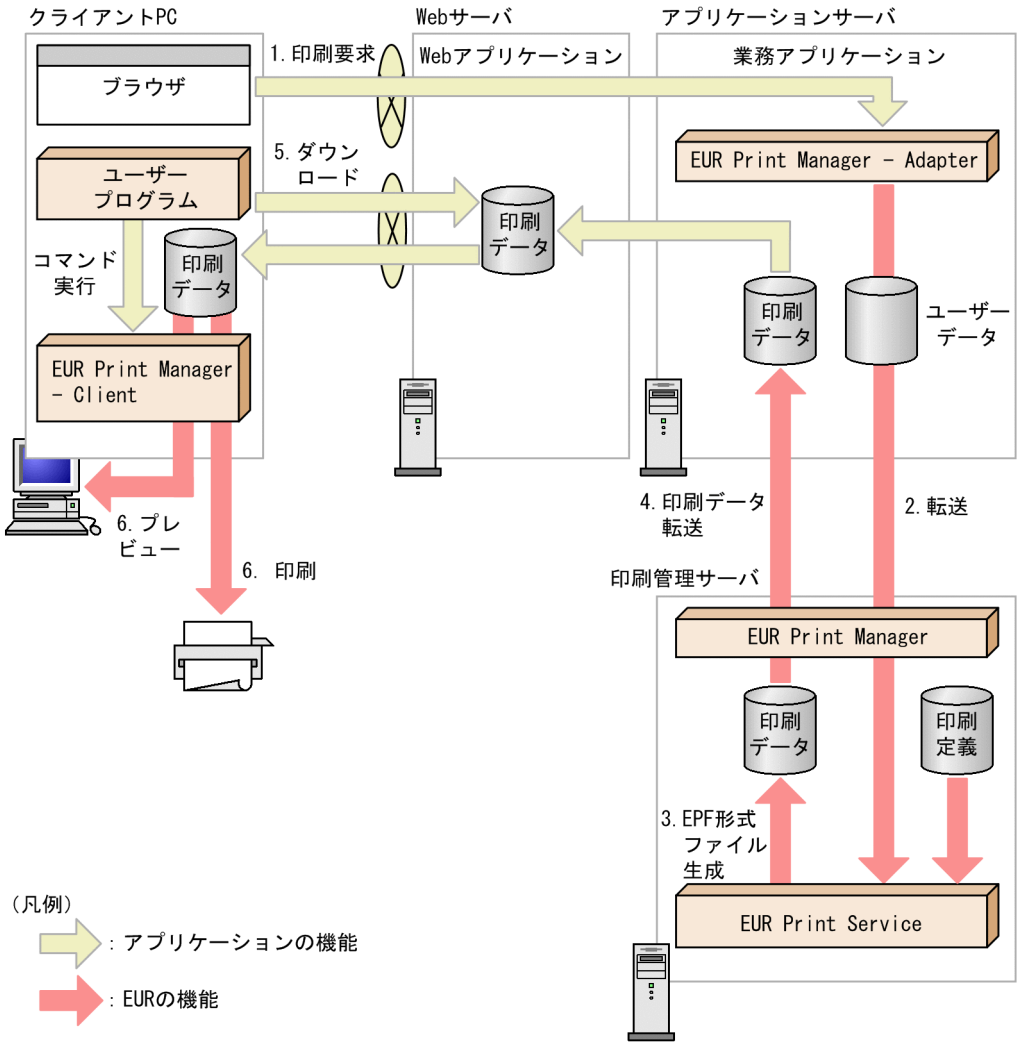
起動部品はアプリケーションサーバで設定します。詳細については次の章を参照してください。
- 「9.　ActiveX 起動部品および RS-ActiveX 起動部品を使用した帳票出力」
- 「10.　Java 起動部品および RS-Java 起動部品を使用した帳票出力」
- 「11.　COBOL 起動部品を使用した帳票出力」
- 「12.　コマンド起動部品を使用した帳票出力」

1.8　コマンドを使用したクライアント PC での印刷

コマンドを使用して，帳票をクライアント PC でプレビュー表示，および印刷できます。このときに使用するコマンドを，**クライアントコマンド**といいます。

コマンドを使用したクライアント PC での印刷のシステム構成を次に示します。

図 1-16　コマンドを使用したクライアント PC での印刷のシステム構成



1. **印刷要求**
   印刷要求が業務アプリケーションに送られます。

2. **転送**
   EUR Print Manager - Adapter は，ユーザーデータファイルを印刷管理サーバの EUR Print Manager に転送します。

3. **EPF 形式ファイル生成**
   転送されたユーザーデータファイルとあらかじめ印刷管理サーバに配置しておいた印刷定義ファイルから，印刷データ（EPF 形式ファイル）が生成されます。
   なお，手順 1. ～手順 3. で生成された印刷データが複数ある場合，一つの印刷データに統合することもできます。印刷データの統合方法については，「1.13　複数の EPF 形式ファイルの統合」を参照してください。

4. **印刷データ転送**
   EUR Print Manager は，生成された印刷データ（EPF 形式ファイル）をアプリケーションサーバに転送します。

5. **ダウンロード**
   クライアント PC のユーザープログラムから，Web サーバにアクセスして印刷データ（EPF 形式ファイル）をダウンロードします。
   Web サーバとアプリケーションサーバが別マシンであったり，ネットワークを共有していたりする場合は，アプリケーション側でアプリケーションサーバの印刷データ（EPF 形式ファイル）を Web サーバに転送しておいてください。

6. **コマンドによるプレビュー，または印刷**
   コマンドを使用して，ダウンロードした印刷データ（EPF 形式ファイル）をプレビュー，または印刷できます。

1.8.1　コマンドを使用したクライアント PC での印刷手順

コマンドを使用してクライアント PC で帳票を印刷する手順を次に示します。

(1) 印刷管理サーバの設定

印刷管理サーバの設定手順を次に示します。

1. **帳票ファイルの設定**
   印刷する帳票ファイル名を設定します。
   帳票ファイルを設定する項目を，次に示します。

帳票ファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
帳票ファイルの名前	ActiveX 起動部品：ReportFileName プロパティ Java 起動部品：setReportFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（REPORTNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /rf オプション	帳票ファイル名（255 バイト以内の文字列）

2. EPF 形式ファイルの設定

EPF 形式ファイル名を設定します。

EPF 形式ファイルを設定する項目を，次に示します。

EPF 形式ファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
EPF 形式ファイル名	ActiveX 起動部品：EPFFileName プロパティ Java 起動部品：setEPFFileName メソッド COBOL 起動部品：OutputEPFReport 関数（EPFFILENAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /epfn オプション	EPF 形式ファイル名（255 バイト以内の文字列）

3. マッピングデータファイル，または帳票セット指定ファイルの設定

マッピングデータファイル名，または帳票セット指定ファイル名のどちらかを設定します。

マッピングデータファイル，または帳票セット指定ファイルを設定する項目を，次に示します。

ユーザーデータファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
マッピングデータファイルの名前	ActiveX 起動部品：DataFileName プロパティ Java 起動部品：setDataFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（MAPPINGDATA パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /map オプション	マッピングデータファイル名（255 バイト以内の文字列）
帳票セット指定ファイルの名前	ActiveX 起動部品：MultiReportSetFileName プロパティ Java 起動部品：setMultiReportSetFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（REPORTSETFILE パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /mrs オプション	帳票セット指定ファイル名（255 バイト以内の文字列）

4. ユーザーデータファイル，印刷定義ファイル，および印刷付加情報の設定

必要に応じて，ユーザーデータファイル（ユーザ定義データファイルなど），印刷定義ファイル（複数様式情報定義ファイル，文書情報設定ファイル，置き換え表管理情報ファイルなど）および印刷付加情報（印刷開始ページ，印刷部数，ページ番号など）を設定します。

5. クライアント PC での印刷

クライアントコマンドを実行して，帳票を印刷します。帳票の印刷方法には，次の二つの方法があります。

- EPF 形式ファイルを直接印刷する
- EPF 形式ファイルをプレビューして印刷する

印刷方法の詳細については，「4.6.10　コマンドを使用したクライアント PC での印刷」を参照してください。

参考

起動部品はアプリケーションサーバで設定します。詳細については次の章を参照してください。

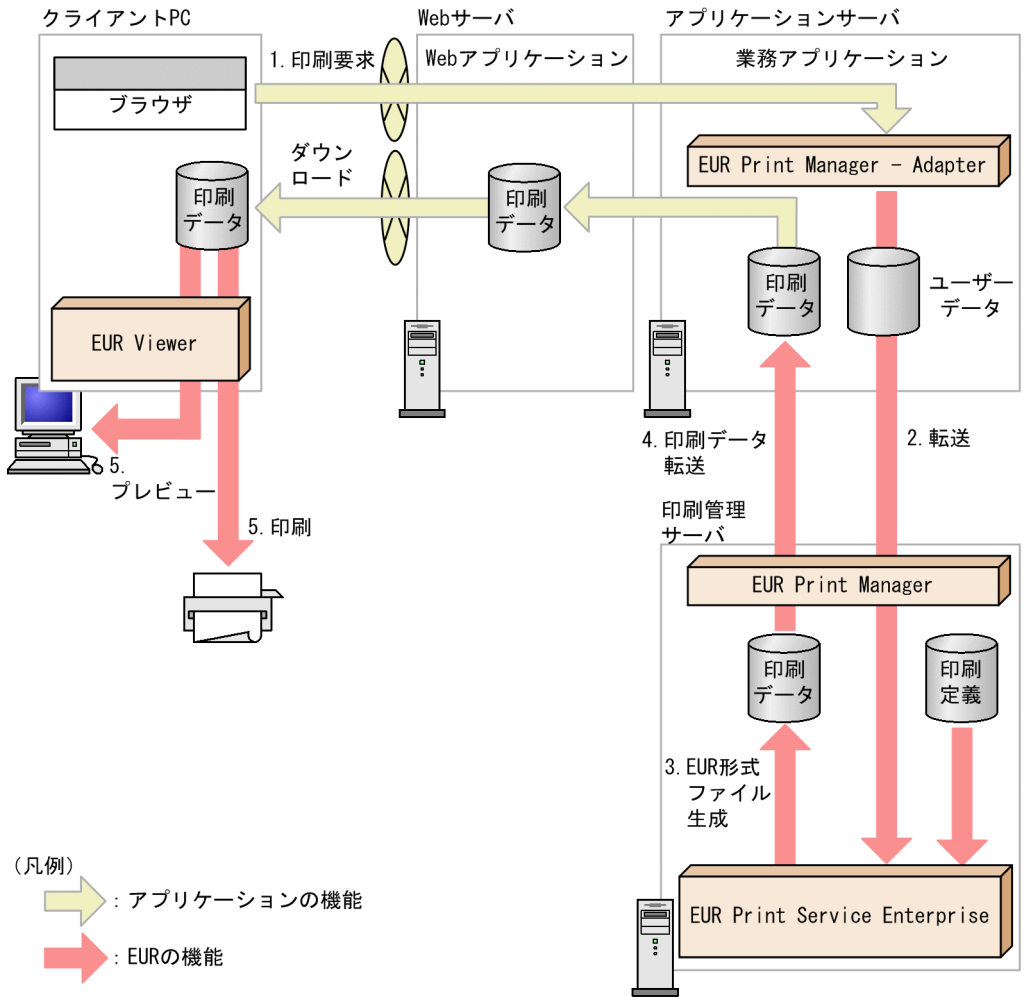
- 「9. ActiveX 起動部品および RS-ActiveX 起動部品を使用した帳票出力」
- 「10. Java 起動部品および RS-Java 起動部品を使用した帳票出力」
- 「11. COBOL 起動部品を使用した帳票出力」
- 「12. コマンド起動部品を使用した帳票出力」

1.9　EUR Viewer を使用したクライアント PC での印刷

クライアント PC にインストールした EUR Viewer を使用して印刷できます。EUR Viewer を使用すると，帳票の印刷前にプレビュー画面を表示できます。

EUR Viewer を使用したクライアント PC での印刷のシステム構成を次に示します。

図 1-17　EUR Viewer を使用したクライアント PC での印刷のシステム構成



1. **印刷要求**
   印刷要求が業務アプリケーションに送られます。

2. **転送**
   EUR Print Manager - Adapter は，ユーザーデータファイルを印刷管理サーバの

EUR Print Manager に転送します。

3. **EUR 形式ファイル生成**
   転送されたユーザーデータファイルとあらかじめ印刷管理サーバに配置しておいた印刷定義ファイルから，EUR Print Service Enterprise が印刷データ（EUR 形式ファイル）を生成します。
4. **印刷データ転送**
   EUR Print Manager は，生成された印刷データ（EUR 形式ファイル）をアプリケーションサーバに転送します。
5. **プレビュー，または印刷**
   クライアント PC からプレビュー，または印刷できます。クライアント PC からプレビュー，または印刷するときは，印刷データ（EUR 形式ファイル）をアプリケーションサーバからダウンロードする必要があります。

1.9.1 EUR Viewer を使用したクライアント PC での印刷手順

クライアント PC で EUR Viewer を使用して帳票を印刷する手順を次に示します。

1. **帳票ファイルの設定**
   印刷する帳票ファイル名を設定します。
   帳票ファイルを設定する項目を，次に示します。

帳票ファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
帳票ファイルの名前	ActiveX 起動部品：ReportFileName プロパティ Java 起動部品：setReportFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（REPORTNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /rf オプション	帳票ファイル名（255 バイト以内の文字列）

2. **EUR 形式ファイルの設定**
   EUR 形式ファイル名を設定します。
   EUR 形式ファイルを設定する項目を，次に示します。

EUR 形式ファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
EUR 形式ファイル名	ActiveX 起動部品：EURFileName プロパティ Java 起動部品：setEURFileName メソッド COBOL 起動部品：OutputEURReport 関数（EURFILENAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /eurn オプション	EUR 形式ファイル名（255 バイト以内の文字列）

3. **マッピングデータファイル，または帳票セット指定ファイルの設定**
   マッピングデータファイル名，または帳票セット指定ファイル名のどちらかを設定します。
   マッピングデータファイル，または帳票セット指定ファイルを設定する項目を，次に示します。

ユーザーデータファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
マッピングデータファイルの名前	ActiveX 起動部品：DataFileName プロパティ Java 起動部品：setDataFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（MAPPINGDATA パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /map オプション	マッピングデータファイル名（255 バイト以内の文字列）
帳票セット指定ファイルの名前	ActiveX 起動部品：MultiReportSetFileName プロパティ Java 起動部品：setMultiReportSetFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（REPORTSETFILE パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /mrs オプション	帳票セット指定ファイル名（255 バイト以内の文字列）

4. **ユーザーデータファイル，印刷定義ファイル，および印刷付加情報の設定**
   必要に応じて，ユーザーデータファイル（ユーザ定義データファイルなど），印刷定義ファイル（複数様式情報定義ファイル，文書情報設定ファイル，置き換え表管理情報ファイルなど）および印刷付加情報（印刷開始ページ，印刷部数，ページ番号など）を設定します。

5. **クライアント PC での印刷**
   印刷管理サーバから印刷データをクライアント PC に送り，クライアント PC で EUR Viewer を起動して，帳票を表示します。EUR Viewer を操作して帳票を印刷する手順については，「4.6.11　EUR Viewer を使用した印刷」を参照してください。

参考

起動部品はアプリケーションサーバで設定します。詳細については次の章を参照してください。

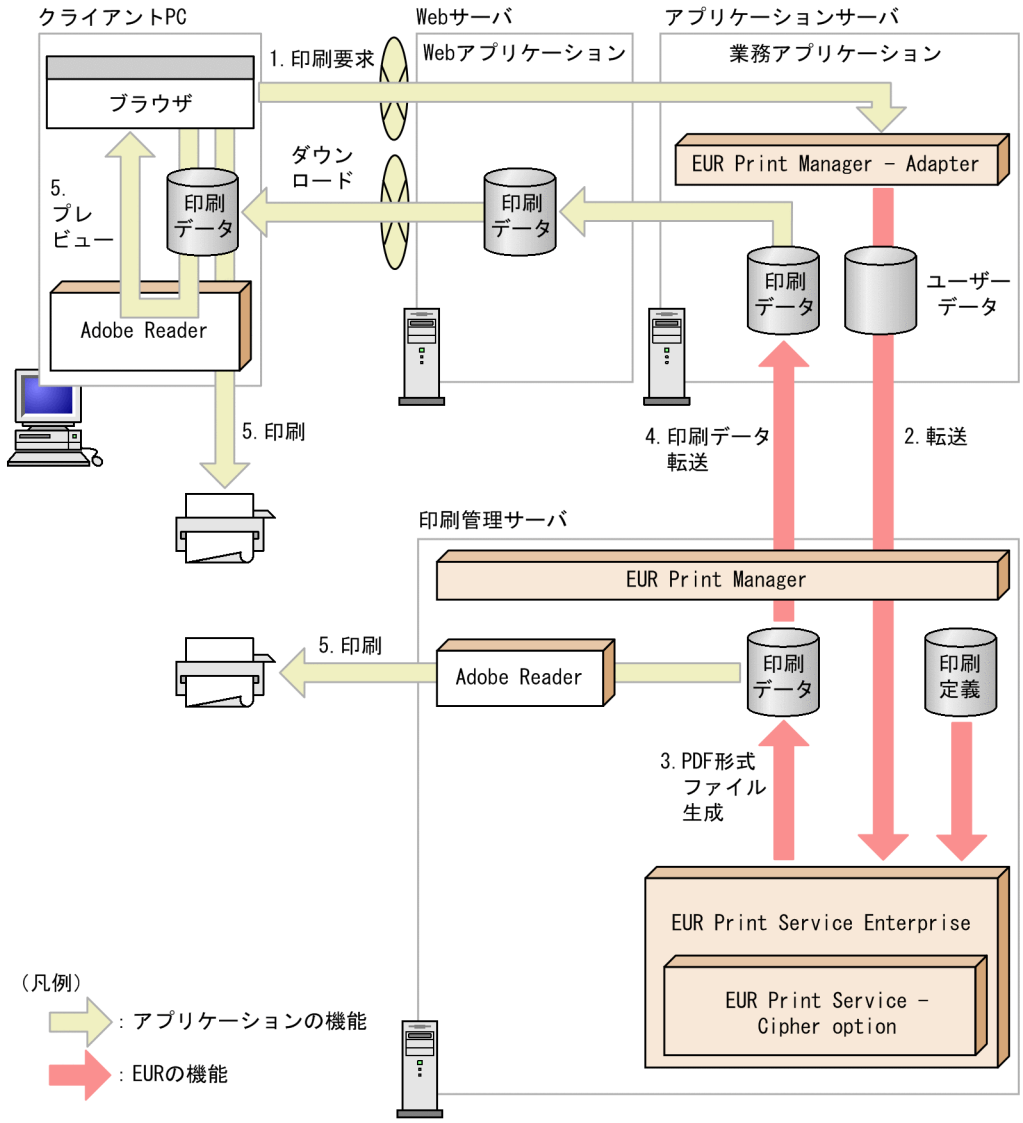
- 「9.　ActiveX 起動部品および RS-ActiveX 起動部品を使用した帳票出力」
- 「10.　Java 起動部品および RS-Java 起動部品を使用した帳票出力」
- 「11.　COBOL 起動部品を使用した帳票出力」
- 「12.　コマンド起動部品を使用した帳票出力」

1.10　Adobe Reader を使用したクライアント PC での印刷

クライアント PC にインストールした Adobe Reader を使用して印刷できます。Adobe Reader を使用すると，帳票の印刷前にプレビュー画面を表示できます。

Adobe Reader を使用したクライアント PC での印刷のシステム構成を次に示します。

図 1-18　Adobe Reader を使用したクライアント PC での印刷のシステム構成



1. **印刷要求**
   印刷要求が業務アプリケーションに送られます。
2. **転送**
   EUR Print Manager - Adapter は，ユーザーデータファイルを印刷管理サーバの EUR Print Manager に転送します。
3. **PDF 形式ファイル生成**
   転送されたユーザーデータファイルとあらかじめ印刷管理サーバに配置しておいた印刷定義ファイルから，EUR Print Service Enterprise が印刷データ（PDF 形式ファイル）を生成します。
   暗号化 PDF 形式ファイルを生成する場合は，EUR Print Service - Cipher option も必要です。
4. **印刷データ転送**
   PDF 形式ファイルを EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに出力する設定にしている場合，EUR Print Manager は，生成された印刷データ（PDF 形式ファイル）をアプリケーションサーバに転送します。PDF 形式ファイルを EUR Print Manager 稼働マシンに出力する設定にしている場合は転送しません。
5. **プレビュー，または印刷**
   PDF 形式ファイルを EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに出力する設定にしている場合，クライアント PC の Adobe Reader でプレビュー，または印刷できます。クライアント PC の Adobe Reader からプレビュー，または印刷するときは，印刷データ（PDF 形式ファイル）をアプリケーションサーバからダウンロードする必要があります。
   PDF 形式ファイルを EUR Print Manager 稼働マシンに出力する設定にしている場合，印刷管理サーバの Adobe Reader でプレビュー，または印刷できます。

PDF 形式ファイルを仕分けして出力する場合，PDF 形式ファイルの出力先は，印刷管理サーバにある EUR Print Service Enterprise の環境変数（EURPS_OUTPUTPATH）に依存します。EUR Print Service Enterprise の環境変数（EURPS_OUTPUTPATH）については，マニュアル「EUR サーバ帳票出力」を参照してください。

1.10.1 Adobe Reader を使用したクライアント PC での印刷手順

クライアント PC で Adobe Reader を使用して帳票を印刷する手順を次に示します。

1. **帳票ファイルの設定**
   印刷する帳票ファイル名を設定します。
   帳票ファイルを設定する項目を，次に示します。

帳票ファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
帳票ファイルの名前	ActiveX 起動部品：ReportFileName プロパティ Java 起動部品：setReportFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（REPORTNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /rf オプション	帳票ファイル名（255 バイト以内の文字列）

2. PDF 形式ファイルの設定

PDF 形式ファイル名および出力先を設定します。

PDF 形式ファイルを設定する項目を，次に示します。

PDF 形式ファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
PDF 形式ファイル名	ActiveX 起動部品：PDFFileName プロパティ Java 起動部品：setPDFFileName メソッド COBOL 起動部品：OutputPDFReport 関数（PDFFILENAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /pdfn オプション	PDF 形式ファイル名（255 バイト以内の文字列）
ファイルの出力先	ActiveX 起動部品：FileOutputDestination プロパティ Java 起動部品：setFileOutputDestination メソッド COBOL 起動部品：OutputPDFReport 関数（FILEOUTPUTDESTINATION パラメタ）	0（EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに出力する） 1（EUR Print Manager 稼働マシンに出力する）
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /foutdest オプション	adp（EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに出力する） pm（EUR Print Manager 稼働マシンに出力する）

3. マッピングデータファイル，または帳票セット指定ファイルの設定

マッピングデータファイル名，または帳票セット指定ファイル名のどちらかを設定します。

マッピングデータファイル，または帳票セット指定ファイルを設定する項目を，次に示します。

ユーザーデータファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
マッピングデータファイルの名前	ActiveX 起動部品：DataFileName プロパティ Java 起動部品：setDataFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（MAPPINGDATA パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /map オプション	マッピングデータファイル名（255 バイト以内の文字列）

ユーザーデータファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
帳票セット指定ファイルの名前	ActiveX 起動部品：MultiReportSetFileName プロパティ Java 起動部品：setMultiReportSetFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（REPORTSETFILE パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /mrs オプション	帳票セット指定ファイル名（255 バイト以内の文字列）

4. **ユーザーデータファイル，印刷定義ファイル，および印刷付加情報の設定**

   必要に応じて，ユーザーデータファイル（ユーザ定義データファイルなど），印刷定義ファイル（複数様式情報定義ファイル，文書情報設定ファイル，置き換え表管理情報ファイルなど）および印刷付加情報（印刷開始ページ，印刷部数，ページ番号など）を設定します。

5. **印刷**

   PDF 形式ファイルを EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに出力する設定にしている場合，印刷管理サーバから印刷データをクライアント PC に送り，クライアント PC で Adobe Reader を起動して，帳票を表示します。

   PDF 形式ファイルを EUR Print Manager 稼働マシンに出力する設定にしている場合，印刷管理サーバで Adobe Reader を起動して，帳票を表示します。

   Adobe Reader で帳票を印刷する手順については，「4.6.12　Adobe Reader を使用した印刷」を参照してください。

参考

起動部品はアプリケーションサーバで設定します。詳細については次の章を参照してください。

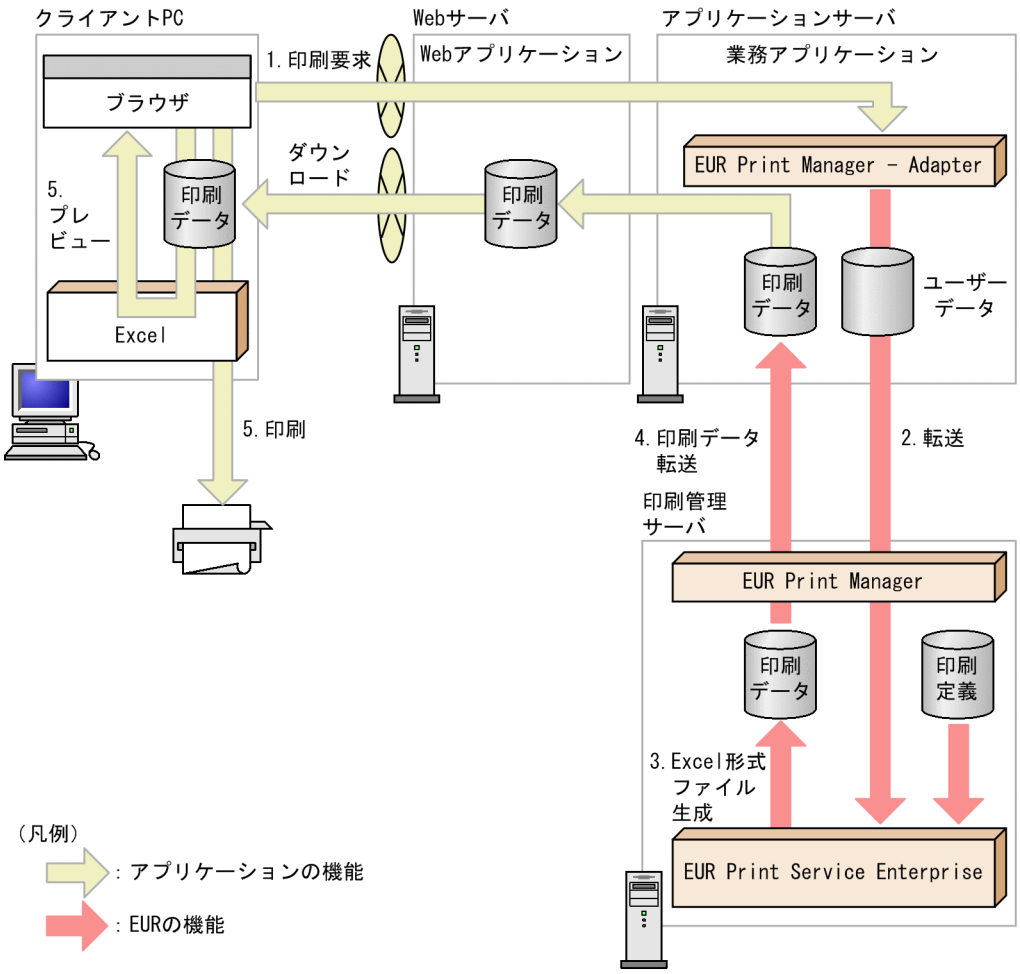
- 「9.　ActiveX 起動部品および RS-ActiveX 起動部品を使用した帳票出力」
- 「10.　Java 起動部品および RS-Java 起動部品を使用した帳票出力」
- 「11.　COBOL 起動部品を使用した帳票出力」
- 「12.　コマンド起動部品を使用した帳票出力」

1.11　Excel を使用したクライアント PC での印刷

クライアント PC にインストールした Excel を使用して印刷できます。

Excel を使用したクライアント PC での印刷のシステム構成を次に示します。

図 1-19　Excel を使用したクライアント PC での印刷のシステム構成



1. **印刷要求**
   印刷要求が業務アプリケーションに送られます。
2. **転送**
   EUR Print Manager - Adapter は，ユーザーデータファイルを印刷管理サーバの EUR Print Manager に転送します。

3. **Excel 形式ファイル生成**
   転送されたユーザーデータファイルとあらかじめ印刷管理サーバに配置しておいた印刷定義ファイルから，EUR Print Service Enterprise が印刷データ（Excel 形式ファイル）を生成します。
4. **印刷データ転送**
   EUR Print Manager は，生成された印刷データ（Excel 形式ファイル）をアプリケーションサーバに転送します。
5. **プレビュー，または印刷**
   クライアント PC の Excel でプレビュー，または印刷できます。クライアント PC の Excel からプレビュー，または印刷するときは，印刷データ（Excel 形式ファイル）をアプリケーションサーバからダウンロードする必要があります。

1.11.1 Excel を使用したクライアント PC での印刷手順

クライアント PC で Excel を使用して帳票を印刷する手順を次に示します。

1. **帳票ファイルの設定**
   印刷する帳票ファイル名を設定します。
   帳票ファイルを設定する項目を，次に示します。

帳票ファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
帳票ファイルの名前	ActiveX 起動部品：ReportFileName プロパティ Java 起動部品：setReportFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（REPORTNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /rf オプション	帳票ファイル名（255 バイト以内の文字列）

2. **Excel 形式ファイルの設定**
   Excel 形式ファイル名を設定します。
   Excel 形式ファイルを設定する項目を，次に示します。

Excel 形式ファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
Excel 形式ファイル名	ActiveX 起動部品：XLSXFileName プロパティ Java 起動部品：setXLSXFileName メソッド COBOL 起動部品：OutputXLSXReport 関数（XLSXFILENAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /xlfn オプション	Excel 形式ファイル名（255 バイト以内の文字列）

3. **マッピングデータファイル，または帳票セット指定ファイルの設定**
   マッピングデータファイル名，または帳票セット指定ファイル名のどちらかを設定します。
   マッピングデータファイル，または帳票セット指定ファイルを設定する項目を，次に

示します。

ユーザーデータファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
マッピングデータファイルの名前	ActiveX 起動部品：DataFileName プロパティ Java 起動部品：setDataFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（MAPPINGDATA パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /map オプション	マッピングデータファイル名（255 バイト以内の文字列）
帳票セット指定ファイルの名前	ActiveX 起動部品：MultiReportSetFileName プロパティ Java 起動部品：setMultiReportSetFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（REPORTSETFILE パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /mrs オプション	帳票セット指定ファイル名（255 バイト以内の文字列）

4. **ユーザーデータファイル，印刷定義ファイル，および印刷付加情報の設定**
   必要に応じて，ユーザーデータファイル（ユーザ定義データファイルなど），印刷定義ファイル（複数様式情報定義ファイル，文書情報設定ファイル，置き換え表管理情報ファイルなど）および印刷付加情報（印刷開始ページ，印刷部数，ページ番号など）を設定します。

5. **クライアント PC での印刷**
   印刷管理サーバから印刷データをクライアント PC に送り，クライアント PC で Excel を起動して，帳票を表示します。Excel で帳票を印刷する手順については，「4.6.13　Excel を使用した印刷」を参照してください。

参考

起動部品はアプリケーションサーバで設定します。詳細については次の章を参照してください。

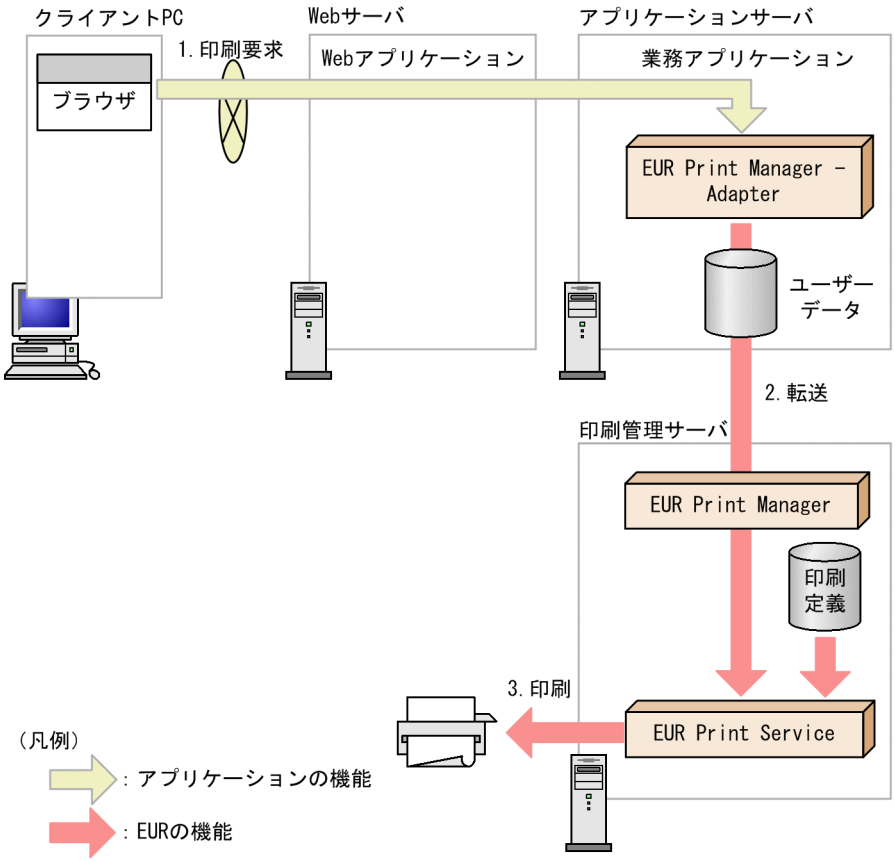
- 「9.　ActiveX 起動部品および RS-ActiveX 起動部品を使用した帳票出力」
- 「10.　Java 起動部品および RS-Java 起動部品を使用した帳票出力」
- 「11.　COBOL 起動部品を使用した帳票出力」
- 「12.　コマンド起動部品を使用した帳票出力」

1.12　印刷管理サーバを使用した直接印刷

印刷管理サーバだけで帳票を印刷できます。EUR Print Service が指定したプリンタに直接，印刷します。

印刷管理サーバでの印刷のシステム構成を次に示します。

図 1-20　印刷管理サーバでの印刷のシステム構成



1. **印刷要求**
   印刷要求が業務アプリケーションに送られます。
2. **転送**
   EUR Print Manager - Adapter は，ユーザーデータファイルを印刷管理サーバの EUR Print Manager に転送します。
3. **印刷**
   印刷管理サーバに登録されているプリンタに対し，EUR Print Service から直接印刷されます。

1.12.1 印刷管理サーバを使用した直接印刷の手順

印刷管理サーバから直接，帳票を印刷する手順を次に示します。

1. **印刷方法の設定**

帳票を印刷する方法を設定します。
印刷方法を設定する項目を次に示します。

印刷方法の設定	起動部品の設定項目	指定する値
印刷方法	ActiveX 起動部品：PrintMode プロパティ Java 起動部品：setPrintMode メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（PRINTMODE パラメタ）	4（印刷管理サーバで直接印刷する）
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /pm オプション	pm（印刷管理サーバで直接印刷する）

2. **プリンタの設定**

プリンタの指定方法を設定します。プリンタの指定方法は，プリンタクラス名とプリンタ名の 2 種類の指定方法を選択できます。
プリンタを設定する項目を，次に示します。

印刷管理サーバのプリンタの設定		起動部品の設定項目	指定する値
プリンタの指定方法		ActiveX 起動部品：PrinterSelectMode プロパティ Java 起動部品：setPrinterSelectMode メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（PRINTERSELECTMODE パラメタ）	0（プリンタクラス名で指定する） 1（プリンタ名で指定する）
		コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /sm オプション	class（プリンタクラス名で指定する） printer（プリンタ名で指定する）
プリンタクラス名		ActiveX 起動部品：PrinterClassName プロパティ Java 起動部品：setPrinterClassName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（PRINTERCLASSNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /prc オプション	プリンタクラス名（80 バイト以内の文字列）
プリンタ名	OS 上のプリンタ名	ActiveX 起動部品：ServerPrinterName プロパティ Java 起動部品：setServerPrinterName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（SERVERPRINTERNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /lsp オプション	プリンタ名（80 バイト以内の文字列）

印刷管理サーバのプリンタの設定		起動部品の設定項目	指定する値
	OS上のプリンタのトレイ名	ActiveX 起動部品：ServerTrayName プロパティ Java 起動部品：setServerTrayName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数（SERVERTRAYNAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /lst オプション	トレイ名（80 バイト以内の文字列）

3. **ユーザーデータファイルおよび印刷定義ファイルの設定**
   必要に応じて，ユーザーデータファイル（ユーザ定義データファイルなど），および印刷定義ファイル（複数様式情報定義ファイル，文書情報設定ファイル，置き換え表管理情報ファイルなど）を設定します。

4. **印刷**
   印刷管理サーバから指定したプリンタのトレイで帳票が印刷されます。正しく印刷されない場合は，設定を確認してください。

参考

起動部品はアプリケーションサーバで設定します。詳細については次の章を参照してください。

- 「9. ActiveX 起動部品および RS-ActiveX 起動部品を使用した帳票出力」
- 「10. Java 起動部品および RS-Java 起動部品を使用した帳票出力」
- 「11. COBOL 起動部品を使用した帳票出力」
- 「12. コマンド起動部品を使用した帳票出力」

1.13 複数の EPF 形式ファイルの統合

複数の EPF 形式ファイルを一つに統合して出力できます。統合後の EPF 形式ファイルは，クライアント PC に配布したり，Web ブラウザからダウンロードしたりすることで，プレビュー表示や印刷ができます。

複数の EPF 形式ファイルを統合して出力するには，次の条件をすべて満たす必要があります。

- 統合対象の EPF 形式ファイルの数が，2 ～ 10,000 ファイルであること。
- 統合対象の EPF 形式ファイルの合計ページ数が，999,999 ページ以下であること。
- 統合対象の EPF 形式ファイルを，印刷用のデータ形式に変換したときのファイルサイズの合計が，2GB 以下であること。
- 統合対象の EPF 形式ファイルが，すべて存在していること。
- 統合対象のすべての EPF 形式ファイルにアクセスできること。
- 統合対象のすべての EPF 形式ファイルで，印刷データの解像度（DPI 値）が同じであること。

統合後の EPF 形式ファイルの属性情報を次の表に示します。

表 1-3 統合後の EPF 形式ファイルの属性情報

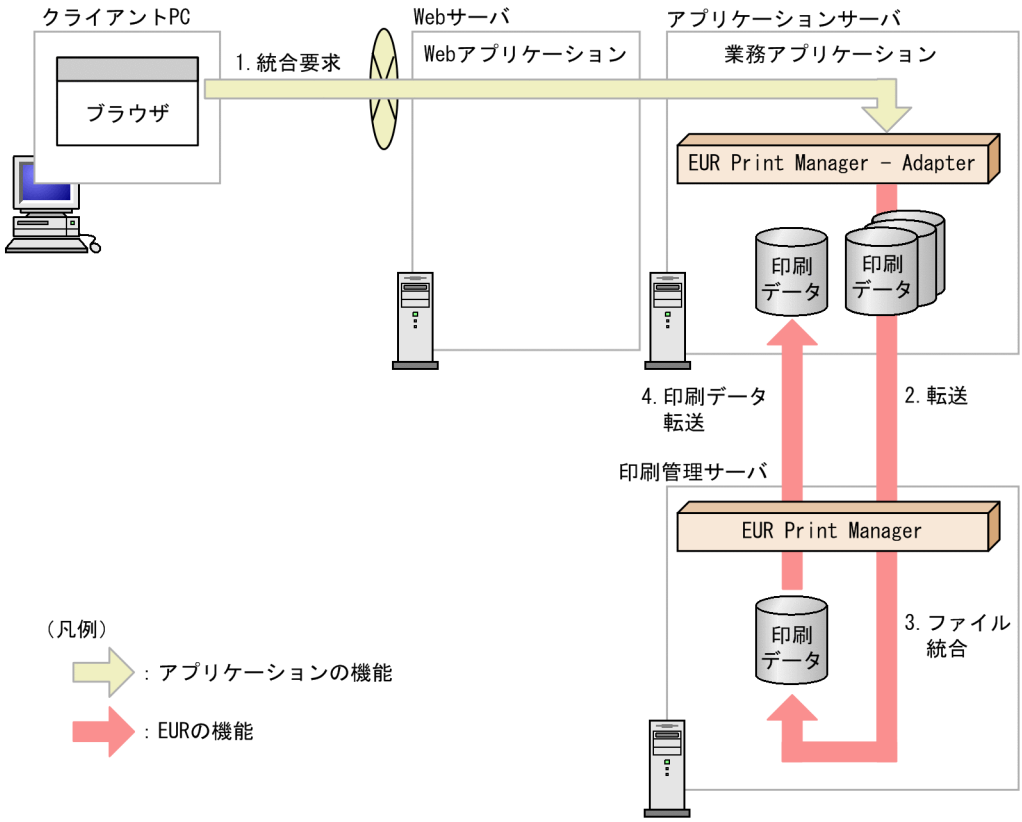
EPF 形式ファイルの属性	統合時の指定可否	統合後に設定される値	
		統合時に指定あり	統合時に指定なし
印刷部数	○	指定値	1
印刷部数の単位	○	指定値	0（部単位）
用紙の向き	○	指定値	未指定（統合する EPF 形式ファイルのページごとの属性で出力）
スプールタイトル	○	指定値	未指定（印刷時は最初に指定する EPF 形式ファイルの帳票ファイル名を出力）
プリンタクラス名	○	指定値	未指定
EUR Print Service のバージョン	×	－	統合する EPF 形式ファイルの最新バージョン
印刷データを作成したプログラムのバージョン	×	－	統合する EPF 形式ファイルの最新バージョン
蓄積ジョブ ID	×	－	最初に指定する EPF 形式ファイルの属性値
総ページ数	×	－	統合する EPF 形式ファイルのページ数の総和

EPF 形式ファイルの属性	統合時の指定可否	統合後に設定される値	
		統合時に指定あり	統合時に指定なし
印刷日時書式	×	－	最初に指定する EPF 形式ファイルの属性値
印刷日時フォント名	×	－	最初に指定する EPF 形式ファイルの属性値
印刷日時フォントサイズ	×	－	最初に指定する EPF 形式ファイルの属性値
印刷日時出力位置	×	－	最初に指定する EPF 形式ファイルの属性値
印刷日時フォント色	×	－	最初に指定する EPF 形式ファイルの属性値

（凡例）
○：指定できます。
×：指定できません。
－：該当しません。

複数の EPF 形式ファイルの統合でのシステム構成を次に示します。

図 1-21 複数の EPF 形式ファイルの統合でのシステム構成



1. **統合要求**
   統合要求が業務アプリケーションに送られます。
2. **転送**
   EUR Print Manager - Adapter は，統合対象の EPF 形式ファイルを印刷管理サーバの EUR Print Manager に転送します。
3. **ファイル統合**
   EUR Print Manager は，転送された EPF 形式ファイルを統合し，印刷データ（EPF 形式ファイル）を生成します。
4. **印刷データ転送**
   EUR Print Manager は，統合後の印刷データ（EPF 形式ファイル）を EUR Print Manager - Adapter に転送します。
   転送された印刷データは，クライアント PC に配布したり，Web ブラウザからダウンロードしたりすることで，クライアント PC でプレビュー表示や印刷ができます。

1.13.1　複数の EPF 形式ファイルを統合する手順

複数の EPF 形式ファイルを統合する手順を次に示します。

1. **統合対象 EPF 形式ファイルの設定**

   統合対象 EPF 形式ファイル名を設定します。

   統合対象 EPF 形式ファイルを設定する項目を，次に示します。

統合対象 EPF 形式ファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
統合対象 EPF 形式ファイル名	ActiveX 起動部品：MergeEPFFileName プロパティ Java 起動部品：setMergeEPFFileName メソッド COBOL 起動部品：OutputMergeEPFReport 関数（MERGEEPFFILENAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /mepfn オプション	統合対象 EPF 形式ファイル名（255 バイト以内の文字列）

2. **出力 EPF 形式ファイルの設定**

   出力 EPF 形式ファイル名を設定します。

   出力 EPF 形式ファイルを設定する項目を，次に示します。

出力 EPF 形式ファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
出力 EPF 形式ファイル名	ActiveX 起動部品：EPFFileName プロパティ Java 起動部品：setEPFFileName メソッド COBOL 起動部品：OutputMergeEPFReport 関数（EPFFILENAME パラメタ） コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /epfn オプション	出力 EPF 形式ファイル名（255 バイト以内の文字列）

3. **印刷付加情報の設定**

   必要に応じて，印刷付加情報（印刷部数，用紙の向き，プリンタクラス名など）を設定します。

4. **クライアント PC でのプレビュー，印刷**

   印刷管理サーバから統合後の印刷データをアプリケーションサーバ経由でクライアント PC に送り，帳票をプレビュー表示したり，印刷したりします。詳細については，「1.6　クライアント PC への配布印刷」または「1.7　Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷」を参照してください。

参考

起動部品はアプリケーションサーバで設定します。詳細については次の章を参照してください。

- 「9. ActiveX 起動部品および RS-ActiveX 起動部品を使用した帳票出力」
- 「10. Java 起動部品および RS-Java 起動部品を使用した帳票出力」
- 「11. COBOL 起動部品を使用した帳票出力」
- 「12. コマンド起動部品を使用した帳票出力」

2 蓄積印刷

この章では，印刷データを蓄積して印刷する方法について説明します。

2.1 **蓄積印刷とは**

2.2 **印刷データの蓄積**

2.3 **蓄積ファイルの操作**

2.4 **蓄積したデータの統合**

2.5 **蓄積ファイルからの印刷（再印刷）**

2.1 蓄積印刷とは

EUR Print Manager では，帳票の印刷データをサーバ内に蓄積できます。蓄積した印刷データは，印刷要求があったときに呼び出して印刷できます。一度印刷したデータも蓄積しておけば再印刷できます。印刷データをサーバに蓄積し，任意の時点で印刷する方法を**蓄積印刷**といいます。

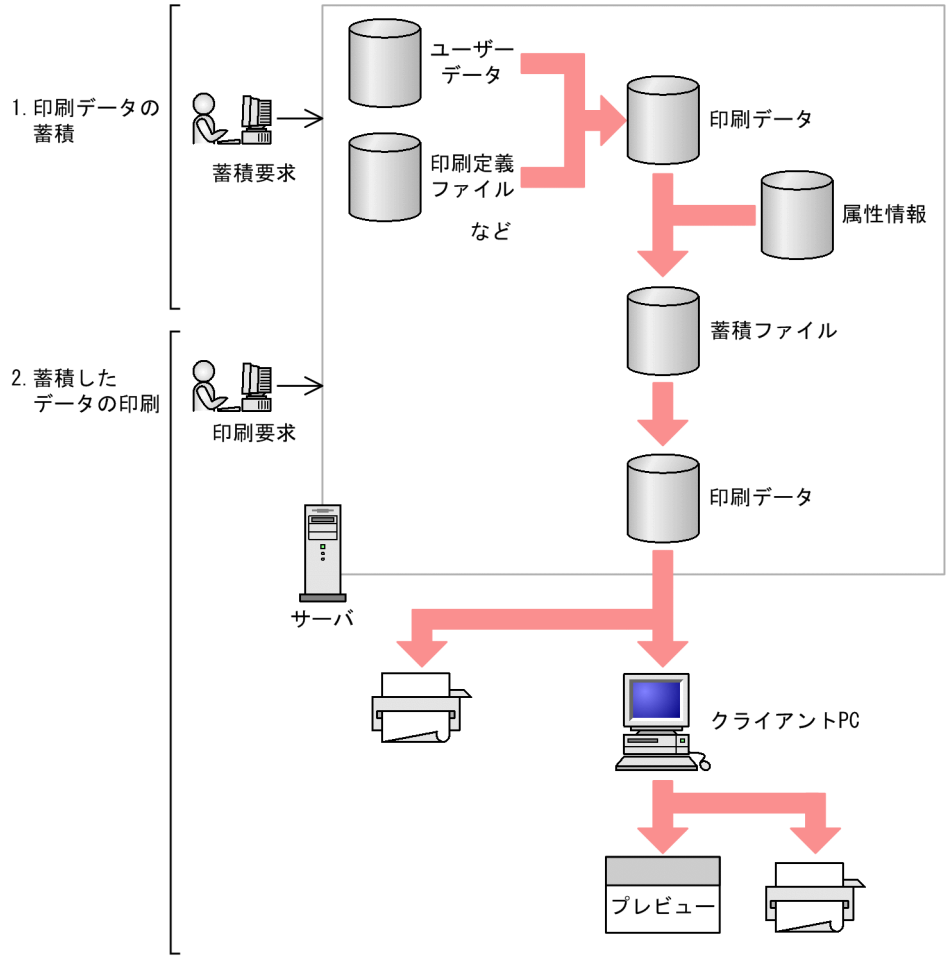
帳票の印刷データを蓄積することで，プリンタの空き時間を利用して帳票を印刷したり，同じ帳票を何度も印刷したりできます。

蓄積印刷で使用する印刷データは，EPF 形式ファイルです。EPF 形式ファイルを出力するためには，EUR Print Service が必要です。

2.1.1 蓄積印刷の流れ

帳票の印刷データを蓄積して再印刷するまでの流れを次に示します。

図 2-1　帳票の印刷データを蓄積して再印刷するまでの流れ



(1) 印刷データの蓄積

蓄積要求時に指定したユーザーデータファイルや印刷定義ファイルなどを基に，帳票の印刷データが生成されます。生成された印刷データには，属性情報が付けられて蓄積されます。印刷データに属性情報が付けられたものを**蓄積ファイル**といいます。

蓄積時の指定によっては，帳票を複数の印刷データに分割したり，入力データ中のキーワードで帳票を仕分けし，それぞれ別の印刷先を設定したりできます。また，印刷データの蓄積後に続けて印刷することもできます。

印刷データをサーバに蓄積するときのデータの流れや蓄積手順については，「2.2　印刷データの蓄積」を参照してください。

(2) 蓄積したデータの印刷

蓄積した印刷データは，次のどちらかのプリンタで印刷できます。また，クライアント

PC でプレビュー表示できます。

- 拠点サーバのプリンタ
- クライアント PC のプリンタ

(a) 拠点サーバで印刷する

蓄積した印刷データを各拠点のプリンタで印刷できます。サーバから印刷データを呼び出すと，指定したプリンタで帳票が印刷されます。

蓄積した印刷データを拠点サーバで印刷するには，Windows 版の EUR Print Manager - Report Server が必要です。拠点サーバが UNIX/Linux 環境の場合は，拠点サーバでの印刷はできません。

帳票を印刷するときのデータの流れや印刷手順については，「2.5.1　拠点サーバのプリンタで印刷する」を参照してください。

(b) クライアント PC で印刷，プレビュー表示する

蓄積した印刷データをクライアント PC のプリンタで印刷，およびクライアント PC でプレビュー表示できます。サーバから呼び出された印刷データはクライアント PC に転送されます。クライアント PC は，データを受信すると，指定されたプリンタに帳票を出力，およびプレビューウィンドウに帳票を表示します。

帳票を印刷，およびプレビュー表示するときのデータの流れや印刷手順については，「2.5.2　クライアント PC のプリンタで印刷する」を参照してください。

また，蓄積した印刷データは次の方法でも印刷，およびプレビュー表示できます。どの方法も，EUR Print Manager - Report Server Adapter を使用して印刷データを取得する必要があります。印刷データを取得する方法については，「2.3.4　蓄積ファイルの取得」を参照してください。

クライアント PC への配布印刷を使用した印刷

帳票の印刷データを複数のクライアント PC に配布して印刷，およびプレビュー表示できます。EUR Print Manager - Report Server Adapter を使用して印刷データを取得したあとの操作については，「1.6.1　帳票を配布印刷する手順」を参照してください。

Web ブラウザを使用した印刷

クライアント PC の Web ブラウザから，帳票の印刷データを印刷，およびプレビュー表示できます。なお，ActiveX 部品を使用するかどうかで次の 2 種類の印刷方法があります。

ActiveX クライアント印刷

ActiveX 部品を使用して Web ページに埋め込まれた帳票の印刷データを印刷，およびプレビュー表示できます。ActiveX 部品の設定については，「8. ActiveX 部品を使用した帳票出力」を参照してください。EUR Print Manager -

Report Server Adapter を使用して印刷データを呼び出したあとの操作については，「1.7.1(1) ActiveX クライアント印刷の手順」を参照してください。

ヘルパクライアント印刷

Web ブラウザからダウンロードした帳票の印刷データを，ヘルパアプリケーションで印刷，およびプレビュー表示できます。ダウンロードした印刷データは，ファイルの拡張子によって実行時の動作が異なります。

- 拡張子が「*.epf」のファイル
  帳票のプレビュー画面が開きます。
- 拡張子が「*.epp」のファイル
  帳票が直接印刷されます。

EUR Print Manager - Report Server Adapter を使用して印刷データを呼び出したあとの操作については，「1.7.2(1) ヘルパクライアント印刷の手順」を参照してください。

クライアントコマンドを使用した印刷

クライアントコマンドを使用して，帳票の印刷データをクライアント PC で印刷，およびプレビュー表示できます。クライアントコマンドの詳細については，「4.6.10 コマンドを使用したクライアント PC での印刷」を参照してください。

EUR Print Manager - Report Server Adapter を使用して印刷データを取得したあとの操作については，「1.8.1 コマンドを使用したクライアント PC での印刷手順」を参照してください。

2.1.2 蓄積時に設定できる属性情報

印刷データに付けられる属性情報は，蓄積時に起動部品または印刷先定義ファイルで設定します。ただし，印刷先定義ファイルで属性情報を設定できるのは，帳票を分割または仕分けして蓄積する場合だけです。

蓄積ファイルに設定できる属性情報を次の表に示します。

表 2-1 蓄積ファイルに設定できる属性情報

項番	属性情報	起動部品	印刷先定義ファイル
1	蓄積ファイルの格納ファイル名	○	○
2	蓄積期限日	○	×
3	蓄積ファイルの取得可否	○	○
4	印刷上限回数	○	○
5	実行できる印刷方式	○	○
6	プリンタクラス名	○	○
7	プリンタ名	○	○
8	トレイ名	○	○

項番	属性情報	起動部品	印刷先定義ファイル
9	プリンタ指定方法 （拠点サーバで印刷する場合）	○	○
10	帳票振り分け定義の振り分けグループ名 （拠点サーバで印刷する場合）	○	○
11	ダイアログ表示モード （クライアント PC で印刷する場合）	○	○
12	クライアント PC の IP アドレス （クライアント PC で印刷する場合）	○	○
13	ジョブ検索キー（検索用のキー情報）の分類	○	○
14	ジョブ検索キー（検索用のキー情報）の値	○	○

（凡例）
○：設定できます。
×：設定できません。

なお，起動部品と印刷先定義ファイルでは，印刷先定義ファイルの設定が優先されます。印刷先定義ファイルの詳細については，「15.6.3　印刷先定義ファイル」を参照してください。

また，蓄積ファイルに設定した属性情報を取得したり，変更したりすることもできます。取得方法については「2.3.2　蓄積ファイルの属性値の取得」を，変更方法については「2.3.3　蓄積ファイルの属性値の変更」を，それぞれ参照してください。

2.1.3　蓄積ファイルの格納先の設定

蓄積ファイルはいったん保存されると，蓄積期限日数が経過するまで削除されません。また，蓄積ファイルを格納するフォルダに必要なディスク容量は，蓄積する帳票のページ数，印刷した回数，蓄積ファイルの属性変更量，1 日に発生する蓄積数，および蓄積の期限によって変わります。蓄積印刷をする前に，蓄積に掛かるデータ量を算出して，蓄積ファイルを格納するフォルダに十分なディスク容量を確保してください。

蓄積ファイルのデフォルトの格納先は「EUR Print Manager - Report Server のインストール先フォルダ ¥ESF¥」です。蓄積ファイルを格納するのに十分なディスク容量が格納先で確保できない場合は，別のフォルダを指定してください。蓄積ファイルの格納先は，EUR Print Manager - Report Server の環境設定ファイル（EURPMLS.ini）の ESF キーで設定できます。

(1) 蓄積ファイルを格納するフォルダに必要なディスク容量の算出方法

蓄積ファイルを格納するフォルダに必要なディスク容量は，次の計算式で算出します。

ディスク容量＝蓄積ファイルのデータ量×蓄積ファイル数 （単位：KB）

(a) 蓄積ファイルのデータ量

蓄積ファイルのデータ量は，次のように求めます。

蓄積ファイルのデータ量＝ a+b+3 （単位：KB)

a：蓄積ファイルに格納する印刷データのサイズ (単位：KB)

b：蓄積ファイルを印刷したり，属性を変更したりした場合に保存される履歴データの総量 (単位：KB)

履歴データの総量は，「1 回分の履歴データ×保存できる履歴データのレコード数」で求められます。1 回分の履歴データの平均値は 0.4（KB）です。保存できる履歴データのレコード数は，100（個）です。例えば，1 回分の履歴データのサイズが 0.4（KB）の場合，b の値は 0.4 × 100=40（KB）となります。

3：蓄積ファイルで必要なヘッダ部分のバイト数（単位：KB）（固定）

(b) 蓄積ファイル数

フォルダ内に保存する蓄積ファイル数は，次のように求めます。

蓄積ファイル数＝ c × d

c：1 日に発生する帳票の蓄積数（個）

d：蓄積ファイルの蓄積期限日数（日）

蓄積期限日数は，帳票を蓄積するときに設定できます。蓄積時に起動部品で指定しなかった場合は，EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）の SPOOLLIMIT キーの設定に従います。デフォルトは，30（日）です。

(2) 算出例

蓄積ファイルを格納するフォルダに必要なディスク容量の算出例を次に示します。

- 印刷データのサイズ：8.6KB
- 履歴データの総量：40KB（1 回分の履歴データのサイズが 0.4KB で，レコード数が 100 個）
- 1 日に発生する帳票の蓄積数：1,000 個
- 蓄積期限日：30 日

ディスク容量＝ (8.6+40+3) × 1,000 × 30 ＝ 1,548,000 （単位：KB)

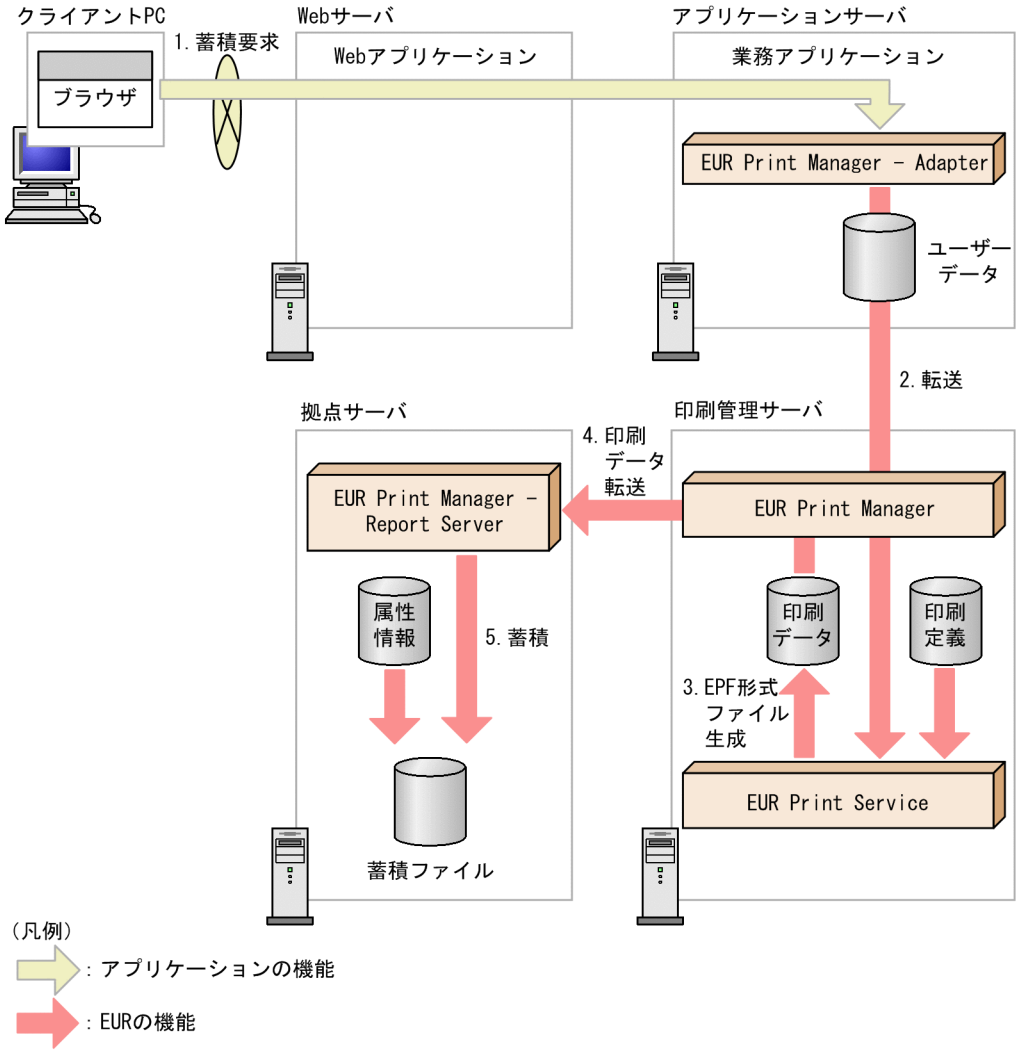
2.2　印刷データの蓄積

帳票の印刷データをサーバに蓄積するときのデータの流れや蓄積手順について説明します。

2.2.1　印刷データの蓄積の流れ

帳票の印刷データを蓄積するときのデータの流れを次に示します。

図 2-2　印刷データを蓄積するときのデータの流れ



1. **蓄積要求**
   ユーザーが，蓄積要求を業務アプリケーションに送ります。

2. **転送**
   ユーザーデータファイルが印刷管理サーバの EUR Print Manager に転送されます。

3. EPF **形式ファイル生成**
   転送されたユーザーデータファイルとあらかじめ印刷管理サーバに配置しておいた印刷定義ファイルから，印刷データ（EPF 形式ファイル）が生成されます。

4. **印刷データ転送**
   EUR Print Manager は，生成された印刷データ（EPF 形式ファイル）を拠点サーバの EUR Print Manager - Report Server に転送します。

5. **蓄積**
   EUR Print Manager - Report Server が印刷データ（EPF 形式ファイル）を受信すると，拠点サーバ内に印刷データが蓄積されます。このとき，属性情報が付けられて蓄積ファイルとなります。

なお，EUR Print Manager と EUR Print Manager - Report Server を同じサーバに配置することで，印刷データの生成から蓄積までを一つのサーバに集約することもできます。

印刷データを蓄積するための起動部品の設定方法については，「2.2.4　印刷データを蓄積する手順」を参照してください。

2.2.2　分割した印刷データを蓄積する

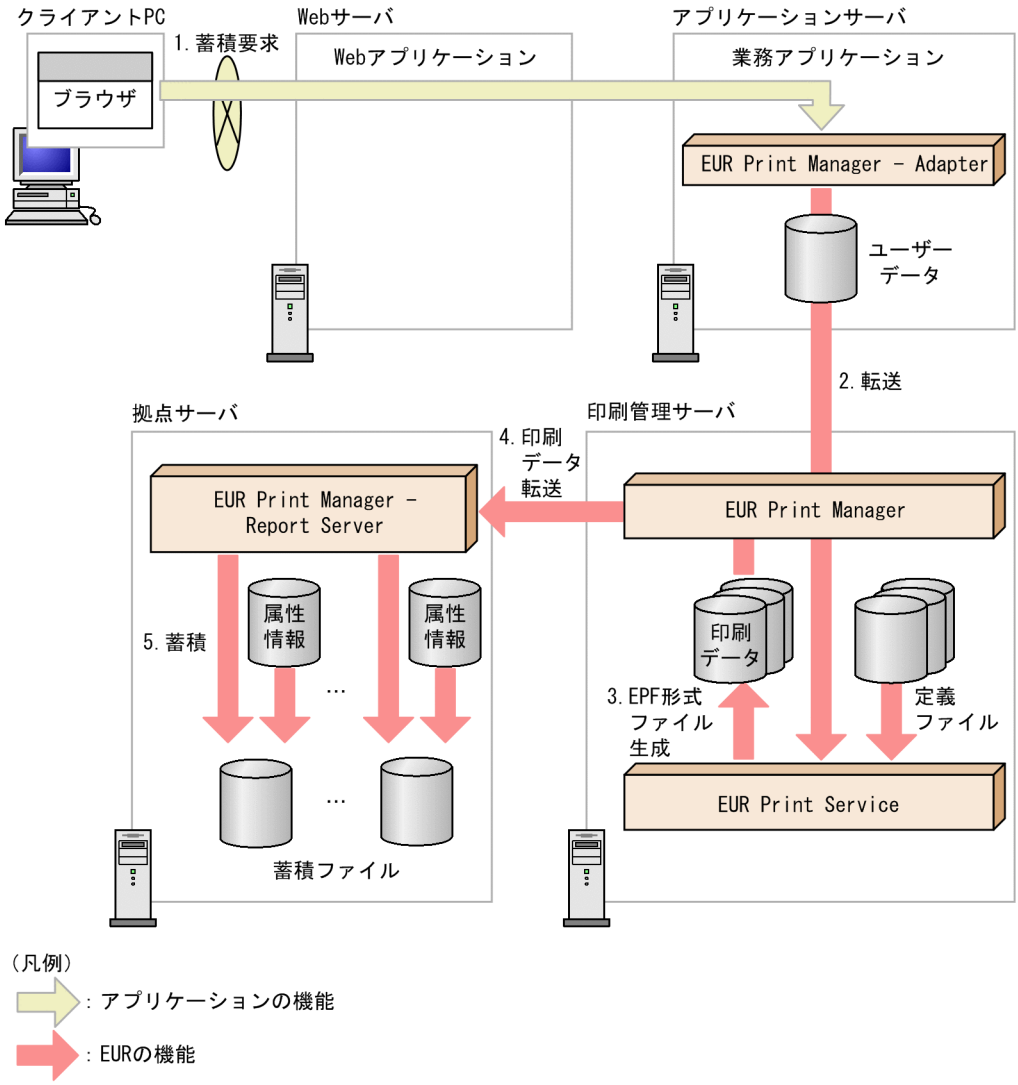
帳票を指定したページ数で分割して蓄積できます。分割後の印刷データには，それぞれ異なる印刷先を設定できます。

帳票を分割して蓄積することで，プリンタの用紙カセットの給紙枚数など，ユーザーの扱いやすい単位で印刷データを操作できます。ページ数の多い帳票や印刷データ量の大きい帳票を印刷したいときに便利です。

帳票を分割するときのページ数や分割後の印刷データの印刷先などは，EURPM 分割定義ファイル，および印刷先定義ファイルで設定します。EURPM 分割定義ファイルの詳細については，「15.9　EURPM 分割定義ファイル」を参照してください。また，印刷先定義ファイルの詳細については，「15.6.3　印刷先定義ファイル」を参照してください。

帳票を分割して蓄積する場合のデータの流れを次に示します。

図 2-3 帳票を分割して蓄積する場合のデータの流れ



1. **蓄積要求**
   ユーザーが，蓄積要求を業務アプリケーションに送ります。

2. **転送**
   ユーザーデータファイルが印刷管理サーバの EUR Print Manager に転送されます。

3. **EPF 形式ファイル生成**
   転送されたユーザーデータファイルと，あらかじめ印刷管理サーバに配置しておいた印刷定義ファイル，EURPM 分割定義ファイル，印刷先定義ファイルなどの定義ファイルから，印刷データ（EPF 形式ファイル）が生成されます。
   なお，印刷データは，EURPM 分割定義ファイルで設定したページ数で分割されて生成されます。

4. **印刷データ転送**
   EUR Print Manager は，生成された印刷データ（EPF 形式ファイル）を拠点サーバの EUR Print Manager - Report Server に転送します。

5. **蓄積**
   EUR Print Manager - Report Server が印刷データ（EPF 形式ファイル）を受信すると，拠点サーバ内に印刷データが蓄積されます。このとき，属性情報が付けられて蓄積ファイルとなります。蓄積ファイルは，手順 3. で生成された印刷データの数だけ生成されます。

2.2.3　仕分けした印刷データを蓄積する

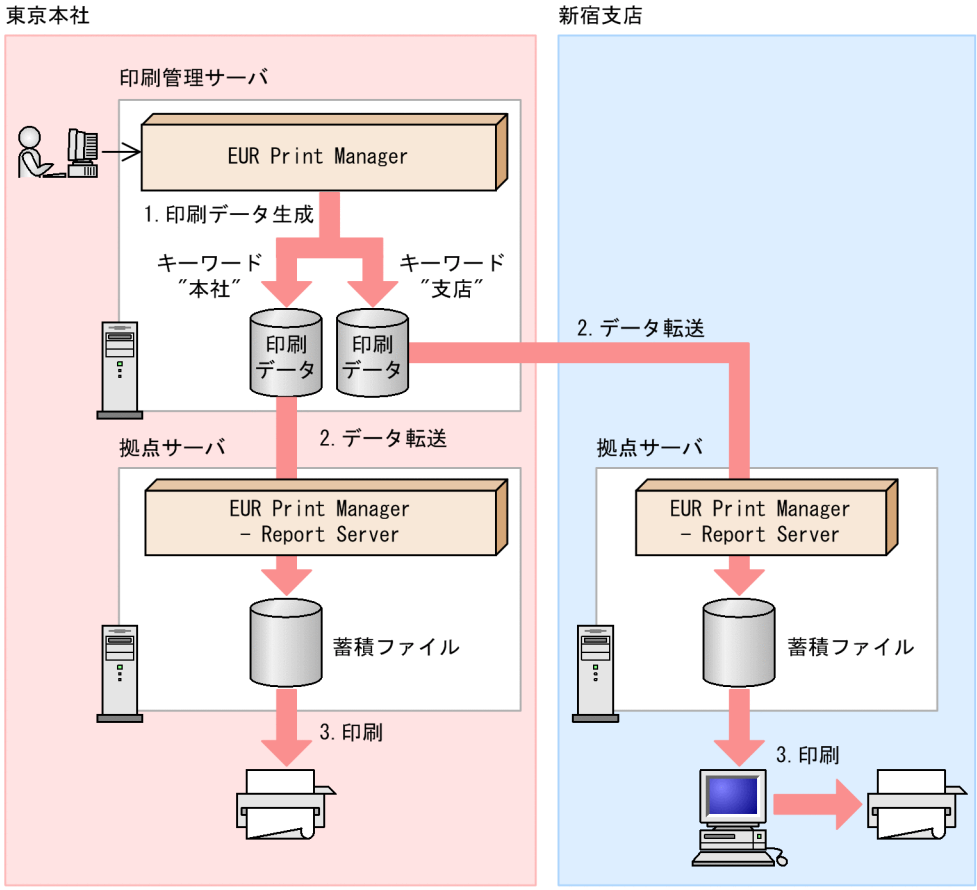
入力データ中のキーワードで帳票を仕分けして蓄積できます。キーワードごとに印刷先を設定できるため，記載内容によって帳票を別々の印刷先に出力したい場合に便利です。

帳票を仕分けするときのキーワードやキーワードに対応する印刷先などは，EURPM 仕分け定義ファイル，および印刷先定義ファイルで設定します。EURPM 仕分け定義ファイルの詳細については，「15.10　EURPM 仕分け定義ファイル」を参照してください。また，印刷先定義ファイルの詳細については，「15.6.3　印刷先定義ファイル」を参照してください。

帳票を仕分けして蓄積する場合のデータの流れは，「図 2-3　帳票を分割して蓄積する場合のデータの流れ」と同じです。ただし，印刷データ（EPF 形式ファイル）の生成時には，EURPM 分割定義ファイルに代わり，EURPM 仕分け定義ファイルが必要になります。

利用イメージを次に示します。

図 2-4　仕分けした印刷データを蓄積する場合の利用イメージ



1. **印刷データ（EPF 形式ファイル）生成**
   " 本社 " や " 支店 " といった，あらかじめ指定したキーワードによって帳票が仕分けされ，印刷データが生成されます。
2. **印刷データ転送**
   印刷データは，キーワードごとに決められた印刷先に自動で転送されます。
   この図では，キーワード " 本社 " に該当する印刷データは，東京本社の拠点サーバに転送されて蓄積されます。また，キーワード " 支店 " に該当する印刷データは，新宿支店の拠点サーバに転送されて蓄積されます。
3. **印刷**
   蓄積ファイルの属性情報に従って，拠点サーバのプリンタ，またはクライアント PC のプリンタで印刷されます。

2.2.4　印刷データを蓄積する手順

印刷データを蓄積するためには，起動部品で帳票の印刷方法の設定，蓄積先のサーバの

設定，蓄積する印刷データの設定，および帳票の出力設定が必要です。ただし，帳票を分割または仕分けして蓄積する場合は，起動部品の指定内容よりも印刷先定義ファイルの設定内容が優先されます。印刷先定義ファイルの詳細については，「15.6.3　印刷先定義ファイル」を参照してください。

また，蓄積した印刷データ（蓄積ファイル）のジョブ ID を取得するように起動部品を設定しておくことで，蓄積後に続けて蓄積ファイルを操作することもできます。ジョブ ID の取得方法を起動部品ごとに次に示します。

- ActiveX 起動部品
  GetJobID メソッド，または GetJobIDList メソッドで取得できます。
- Java 起動部品
  getJobID メソッド，または getJobIDList メソッドで取得できます。
- COBOL 起動部品
  PrintReport 関数の場合
  戻り値 JOBID で取得できます。
  PrintReport2 関数の場合
  戻り値 JOBID，または戻り値 JOBIDS で取得できます。

なお，コマンド起動部品の場合は，eurpmc コマンドの出力結果で蓄積ファイルのジョブ ID を確認できます。詳細については，「12.3.2(2)　出力結果」を参照してください。

OutputEPFReport メソッドで出力した EPF 形式ファイルは，蓄積印刷には使用できません。蓄積印刷を実行する場合は，次の手順で帳票を蓄積してください。

参考

起動部品は EUR Print Manager - Adapter がインストールされているアプリケーションサーバで設定します。詳細については次の章を参照してください。

- 「9.　ActiveX 起動部品および RS-ActiveX 起動部品を使用した帳票出力」
- 「10.　Java 起動部品および RS-Java 起動部品を使用した帳票出力」
- 「11.　COBOL 起動部品を使用した帳票出力」
- 「12.　コマンド起動部品を使用した帳票出力」

（1） 拠点サーバで印刷する場合

拠点サーバで印刷するデータを蓄積するために，印刷管理サーバで次の設定をします。なお，拠点サーバが UNIX/Linux 環境の場合は，拠点サーバでの印刷はできません。

1. **印刷方法の設定**
   帳票を印刷する方法を設定します。
   印刷方法を設定する項目を，次に示します。

印刷方法の設定	起動部品の設定項目	指定する値
印刷方法	ActiveX 起動部品：PrintMode プロパティ Java 起動部品：setPrintMode メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の PRINTMODE パラメタ	2（蓄積印刷する）
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /pm オプション	spl（蓄積印刷する）

2. **蓄積先のサーバの設定**

蓄積先となるサーバの指定方法を設定します。蓄積先のサーバの指定方法は，出力先名と IP アドレスの 2 種類の指定方法を選択できます。

蓄積先のサーバを設定する項目を，次に示します。

蓄積先のサーバの設定		起動部品の設定項目	指定する値
蓄積先のサーバの指定方法		ActiveX 起動部品：ServerSelectMode プロパティ Java 起動部品：setServerSelectMode メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の SERVERSELECTMODE パラメタ	0（出力先名で指定する） 1（IP アドレスで指定する）
		コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /srm オプション	dest（出力先名で指定する） sv（IP アドレスで指定する）
蓄積先のサーバ	出力先名	ActiveX 起動部品：DestinationName プロパティ Java 起動部品：setDestinationName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の DESTNAME パラメタ コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /dest オプション	出力先名（80 バイト以内の文字列）
	IP アドレス	ActiveX 起動部品：ServerAddress プロパティ Java 起動部品：setServerAddress メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の SERVERADDR パラメタ コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /svr オプション	255.255.255.255 形式

3. **実行できる印刷方法の設定**

帳票を印刷する方法のうち，どの印刷方法を選択できるのか設定します。

実行できる印刷方法を設定する項目を，次に示します。

実行できる印刷方法の設定	起動部品の設定項目	指定する値
実行できる印刷方法	ActiveX 起動部品：ExecutablePrintMode プロパティ Java 起動部品：setExecutablePrintMode メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の EXECUTABLEPRINTMODE パラメタ	0（拠点サーバで印刷できる） 1（拠点サーバ，およびクライアント PC で印刷できる）

実行できる印刷方法の設定	起動部品の設定項目	指定する値
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /exp オプション	sv（拠点サーバで印刷できる） svcl（拠点サーバ，およびクライアント PC で印刷できる）

4. **分割 / 仕分けの設定**

印刷データの蓄積時に，分割または仕分けするかどうかを設定します。
分割 / 仕分けを設定する項目を，次に示します。

分割 / 仕分けの設定	起動部品の設定項目	指定する値
分割 / 仕分けの実行	ActiveX 起動部品：SplitMode プロパティ Java 起動部品：setSplitMode メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の SPLITMODE パラメタ	0（EUR Print Manager の環境設定ファイルの設定に従う） 1（分割 / 仕分けしない） 2（仕分けする） 3（分割する）
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /split オプション	default（EUR Print Manager の環境設定ファイルの設定に従う） no（分割 / 仕分けしない） key（仕分けする） page（分割する）

5. **蓄積ファイルの設定**

蓄積ファイルの情報を設定します。
蓄積ファイルにアクセスできるユーザーを制限する場合は，「ジョブ検索キーの分類」と「ジョブ検索キーの値」に，蓄積管理ユーザ名を定義するための分類名と対応する値を必ず設定してください。
蓄積ファイルにアクセスできるユーザーの制限については，「5.　蓄積ファイルのセキュリティ管理」を参照してください。
蓄積ファイルの情報を設定する項目を，次に示します。

蓄積ファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
蓄積ファイルの格納ファイル名	ActiveX 起動部品：SpoolFileName プロパティ Java 起動部品：setSpoolFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の SPOOLFILENAME パラメタ コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /sf オプション	蓄積ファイルの格納ファイル名（255 バイト以内の文字列）
ジョブ検索キーの分類	ActiveX 起動部品：JobKeyCategory プロパティ Java 起動部品：setJobKeyCategory メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の JOBKEYCATEGORY パラメタ コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /fc オプション	ジョブ検索キーの分類名（80 バイト以内の文字列）
ジョブ検索キーの値	ActiveX 起動部品：JobKeyData プロパティ Java 起動部品：setJobKeyData メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の JOBKEYDATA パラメタ コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /fd オプション	ジョブ検索キーの値（80 バイト以内の文字列）
蓄積期限日	ActiveX 起動部品：SpoolLimit プロパティ Java 起動部品：setSpoolLimit メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の SPOOLLIMIT パラメタ コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /lm オプション	日付で指定する場合 YYYYMMDD 形式 日数で指定する場合 +XXX 形式
印刷回数の上限値	ActiveX 起動部品：MaxPrintCount プロパティ Java 起動部品：setMaxPrintCount メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の MAXPRINTCOUNT パラメタ コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /xp オプション	1 ～ 65,536（指定した回数印刷できる） -1（無限に印刷できる） 0（印刷を禁止する）
蓄積ファイルを取得できるかどうか	ActiveX 起動部品：EnableGet プロパティ Java 起動部品：setEnableGet メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の ENABLEGET パラメタ	True（取得できる） False（取得できない）
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /g オプション	get（取得できる） noget（取得できない）
蓄積後に続けて印刷するかどうか	ActiveX 起動部品：PrintHoldMode プロパティ Java 起動部品：setPrintHoldMode メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の PRINTHOLDMODE パラメタ	0（蓄積後に続けて印刷しない） 1（蓄積後に続けて拠点サーバで印刷する）
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /prh オプション	hold（蓄積後に続けて印刷しない） sv（蓄積後に続けて拠点サーバで印刷する）

6. **プリンタの設定**

拠点サーバのプリンタの指定方法を設定します。拠点サーバのプリンタの指定方法は，プリンタクラス名，プリンタ名，および帳票振り分け定義の 3 種類の指定方法を選択できます。

拠点サーバのプリンタを設定する項目を，次に示します。

拠点サーバのプリンタの設定		起動部品の設定項目	指定する値
プリンタの指定方法		ActiveX 起動部品：PrinterSelectMode プロパティ Java 起動部品：setPrinterSelectMode メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の PRINTERSELECTMODE パラメタ	0（プリンタクラス名で指定する） 1（プリンタ名で指定する） 2（帳票振り分け定義で指定する）
		コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /sm オプション	class（プリンタクラス名で指定する） printer（プリンタ名で指定する） group（帳票振り分け定義で指定する）
プリンタクラス名		ActiveX 起動部品：PrinterClassName プロパティ Java 起動部品：setPrinterClassName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の PRINTERCLASSNAME パラメタ コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /prc オプション	プリンタクラス名（80 バイト以内の文字列）
プリンタ名	OS 上のプリンタ名	ActiveX 起動部品：ServerPrinterName プロパティ Java 起動部品：setServerPrinterName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の SERVERPRINTERNAME パラメタ コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /lsp オプション	プリンタ名（80 バイト以内の文字列）
	OS 上のプリンタのトレイ名	ActiveX 起動部品：ServerTrayName プロパティ Java 起動部品：setServerTrayName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の SERVERTRAYNAME パラメタ コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /lst オプション	トレイ名（80 バイト以内の文字列）
帳票振り分け定義		ActiveX 起動部品：GroupName プロパティ Java 起動部品：setGroupName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の GROUPNAME パラメタ コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /group オプション	帳票振り分け定義（80 バイト以内の文字列）

実行できる印刷方法の設定，およびプリンタの設定は，サーバに帳票を蓄積したあとでも変更できます。印刷方法の設定，およびプリンタの設定を変更する方法については「2.3.3　蓄積ファイルの属性値の変更」を参照してください。

(2) クライアント PC で印刷またはプレビュー表示する場合

クライアント PC で印刷するデータを蓄積するために，印刷管理サーバで次の設定をします。

1. 印刷方法の設定

帳票を印刷する方法を設定します。
印刷方法を設定する項目を，次に示します。

印刷方法の設定	起動部品の設定項目	指定する値
印刷方法	ActiveX 起動部品：PrintMode プロパティ Java 起動部品：setPrintMode メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の PRINTMODE パラメタ	2（蓄積印刷する）
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /pm オプション	spl（蓄積印刷する）

2. 蓄積先のサーバの設定

蓄積先となるサーバの指定方法を設定します。蓄積先のサーバの指定方法は，出力先名と IP アドレスの 2 種類の指定方法を選択できます。
蓄積先のサーバを設定する項目を，次に示します。

蓄積先のサーバの設定		起動部品の設定項目	指定する値
蓄積先のサーバの指定方法		ActiveX 起動部品：ServerSelectMode プロパティ Java 起動部品：setServerSelectMode メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の SERVERSELECTMODE パラメタ	0（出力先名で指定する） 1（IP アドレスで指定する）
		コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /srm オプション	dest（出力先名で指定する） sv（IP アドレスで指定する）
蓄積先のサーバ	出力先名	ActiveX 起動部品：DestinationName プロパティ Java 起動部品：setDestinationName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の DESTNAME パラメタ コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /dest オプション	出力先名（80 バイト以内の文字列）
	IP アドレス	ActiveX 起動部品：ServerAddress プロパティ Java 起動部品：setServerAddress メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の SERVERADDR パラメタ コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /svr オプション	255.255.255.255 形式

3. 実行できる印刷方法の設定

帳票を印刷する方法のうち，どの印刷方法を選択できるのか設定します。
実行できる印刷方法を設定する項目を，次に示します。

実行できる印刷方法の設定	起動部品の設定項目	指定する値
実行できる印刷方法	ActiveX 起動部品：ExecutablePrintMode プロパティ Java 起動部品：setExecutablePrintMode メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の EXECUTABLEPRINTMODE パラメタ	1（拠点サーバ，およびクライアント PC で印刷できる） 2（クライアント PC で印刷できる）
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /exp オプション	svcl（拠点サーバ，およびクライアント PC で印刷できる） cl（クライアント PC で印刷できる）

4. **分割 / 仕分けの設定**

印刷データの蓄積時に，分割または仕分けするかどうかを設定します。
分割 / 仕分けを設定する項目を，次に示します。

分割 / 仕分けの設定	起動部品の設定項目	指定する値
分割 / 仕分けの実行	ActiveX 起動部品：SplitMode プロパティ Java 起動部品：setSplitMode メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の SPLITMODE パラメタ	0（EUR Print Manager の環境設定ファイルの設定に従う） 1（分割 / 仕分けしない） 2（仕分けする） 3（分割する）
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /split オプション	default（EUR Print Manager の環境設定ファイルの設定に従う） no（分割 / 仕分けしない） key（仕分けする） page（分割する）

5. **蓄積ファイルの設定**

蓄積ファイルの情報を設定します。
蓄積ファイルにアクセスできるユーザーを制限する場合は，「ジョブ検索キーの分類」と「ジョブ検索キーの値」に，蓄積管理ユーザ名を定義するための分類名と対応する値を必ず設定してください。
蓄積ファイルにアクセスできるユーザーの制限については，「5. 蓄積ファイルのセキュリティ管理」を参照してください。
蓄積ファイルの情報を設定する項目を，次に示します。

蓄積ファイルの設定	起動部品の設定項目	指定する値
蓄積ファイルの格納ファイル名	ActiveX 起動部品：SpoolFileName プロパティ Java 起動部品：setSpoolFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の SPOOLFILENAME パラメタ コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /sf オプション	蓄積ファイルの格納ファイル名（255 バイト以内の文字列）
ジョブ検索キーの分類	ActiveX 起動部品：JobKeyCategory プロパティ Java 起動部品：setJobKeyCategory メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の JOBKEYCATEGORY パラメタ コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /fc オプション	ジョブ検索キーの分類名（80 バイト以内の文字列）
ジョブ検索キーの値	ActiveX 起動部品：JobKeyData プロパティ Java 起動部品：setJobKeyData メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の JOBKEYDATA パラメタ コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /fd オプション	ジョブ検索キーの値（80 バイト以内の文字列）
蓄積期限日	ActiveX 起動部品：SpoolLimit プロパティ Java 起動部品：setSpoolLimit メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の SPOOLLIMIT パラメタ コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /lm オプション	日付で指定する場合 YYYYMMDD 形式 日数で指定する場合 +XXX 形式
印刷回数の上限値	ActiveX 起動部品：MaxPrintCount プロパティ Java 起動部品：setMaxPrintCount メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の MAXPRINTCOUNT パラメタ コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /xp オプション	1 ～ 65,536（指定した回数印刷できる） -1（無限に印刷できる） 0（印刷を禁止する）
蓄積ファイルを取得できるかどうか	ActiveX 起動部品：EnableGet プロパティ Java 起動部品：setEnableGet メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の ENABLEGET パラメタ	True（取得できる） False（取得できない）
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /g オプション	get（取得できる） noget（取得できない）
蓄積後に続けて印刷するかどうか	ActiveX 起動部品：PrintHoldMode プロパティ Java 起動部品：setPrintHoldMode メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の PRINTHOLDMODE パラメタ	0（蓄積後に続けて印刷しない） 2（蓄積後に続けてクライアント PC で印刷する）
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /prh オプション	hold（蓄積後に続けて印刷しない） cl（蓄積後に続けてクライアント PC で印刷する）

6. **クライアント PC の設定**

クライアント PC の IP アドレスを指定します。

クライアント PC を設定する項目を，次に示します。

クライアント PC の設定	起動部品の設定項目	指定する値
IP アドレス	ActiveX 起動部品：ClientAddress プロパティ Java 起動部品：setClientAddress メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の CLIENTADDR パラメタ コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /client オプション	255.255.255.255 形式

7. **ダイアログの設定**

帳票を受信したときにダイアログを表示するかどうかを設定します。

ダイアログを設定する項目を，次に示します。

ダイアログの設定	起動部品の設定項目	指定する値
ダイアログを表示するかどうか	ActiveX 起動部品：DispPrintDlg プロパティ Java 起動部品：setDispPrintDlg メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の DISPPRINTDLG パラメタ	0（対話型印刷） 1（自動印刷） 2（対話型印刷プレビュー表示） 3（全自動印刷）※1 4（対話型印刷プレビュー表示限定）※2
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /dialog オプション	dialog：（対話型印刷） auto：（自動印刷） preview：（対話型印刷プレビュー表示） fullauto：（全自動印刷）※1 pvonly：（対話型印刷プレビュー表示限定）※2

注※1　印刷実行時に印刷中のダイアログが表示されません。

注※2　印刷は実行できません。

8. **クライアント PC のプリンタの設定**

クライアント PC のプリンタを設定します。クライアント PC のプリンタの設定方法は，プリンタクラス名とプリンタ名の 2 種類の指定方法を選択できます。

クライアント PC のプリンタを設定する項目を，次に示します。

クライアント PC のプリンタの設定		起動部品の設定項目	指定する値
プリンタクラス名		ActiveX 起動部品：PrinterClassName プロパティ Java 起動部品：setPrinterClassName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の PRINTERCLASSNAME パラメタ コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /prc オプション	プリンタクラス名（80 バイト以内の文字列）
プリンタ名	OS 上のプリンタ名	ActiveX 起動部品：ClientPrinterName プロパティ Java 起動部品：setClientPrinterName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の CLIENTPRINTERNAME パラメタ コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /p オプション	プリンタ名（80 バイト以内の文字列）
	OS 上のプリンタのトレイ名	ActiveX 起動部品：ClientTrayName プロパティ Java 起動部品：setClientTrayName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の CLIENTTRAYNAME パラメタ コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /t オプション	トレイ名（80 バイト以内の文字列）

実行できる印刷方法の設定，クライアント PC の IP アドレスの設定，ダイアログの設定，およびプリンタの設定は，サーバに帳票を蓄積したあとでも変更できます。印刷方法の設定，およびプリンタの設定を変更する方法については「2.3.3　蓄積ファイルの属性値の変更」を参照してください。

(3) クライアント PC の Web ブラウザ，ヘルパクライアント，およびクライアント PC への配布印刷を使用して印刷する場合

クライアント PC の Web ブラウザ，およびヘルパクライアントを使用して印刷するデータを蓄積するために，印刷管理サーバで次の設定をします。

1. **印刷方法の設定**

帳票を印刷する方法を設定します。
印刷方法を設定する項目を，次に示します。

印刷方法の設定	起動部品の設定項目	指定する値
印刷方法	ActiveX 起動部品：PrintMode プロパティ Java 起動部品：setPrintMode メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の PRINTMODE パラメタ	2（蓄積印刷する）
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /pm オプション	spl（蓄積印刷する）

2. **蓄積先のサーバの設定**

蓄積先となるサーバの指定方法を設定します。蓄積先のサーバの指定方法は，出力先名と IP アドレスの 2 種類の指定方法を選択できます。

蓄積先のサーバを設定する項目を，次に示します。

蓄積先のサーバの設定		起動部品の設定項目	指定する値
蓄積先のサーバの指定方法		ActiveX 起動部品：ServerSelectMode プロパティ Java 起動部品：setServerSelectMode メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の SERVERSELECTMODE パラメタ	0（出力先名で指定する） 1（IP アドレスで指定する）
		コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /srm オプション	dest（出力先名で指定する） sv（IP アドレスで指定する）
蓄積先のサーバ	出力先名	ActiveX 起動部品：DestinationName プロパティ Java 起動部品：setDestinationName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の DESTNAME パラメタ コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /dest オプション	出力先名（80 バイト以内の文字列）
	IP アドレス	ActiveX 起動部品：ServerAddress プロパティ Java 起動部品：setServerAddress メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の SERVERADDR パラメタ コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /svr オプション	255.255.255.255 形式

3. **分割 / 仕分けの設定**

印刷データの蓄積時に，分割または仕分けするかどうかを設定します。

分割 / 仕分けを設定する項目を，次に示します。

分割 / 仕分けの設定	起動部品の設定項目	指定する値
分割 / 仕分けの実行	ActiveX 起動部品：SplitMode プロパティ Java 起動部品：setSplitMode メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の SPLITMODE パラメタ	0（EUR Print Manager の環境設定ファイルの設定に従う） 1（分割 / 仕分けしない） 2（仕分けする） 3（分割する）
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /split オプション	default（EUR Print Manager の環境設定ファイルの設定に従う） no（分割 / 仕分けしない） key（仕分けする） page（分割する）

4. **蓄積ファイルの設定**

蓄積ファイルの情報を設定します。

蓄積ファイルにアクセスできるユーザーを制限する場合は，「ジョブ検索キーの分類」と「ジョブ検索キーの値」に，蓄積管理ユーザ名を定義するための分類名と対応する値を必ず設定してください。

蓄積ファイルにアクセスできるユーザーの制限については，「5. 蓄積ファイルのセキュリティ管理」を参照してください。

蓄積ファイルの情報を設定する項目を，次に示します。

蓄積する印刷データの設定	起動部品の設定項目	指定する値
蓄積ファイルの格納ファイル名	ActiveX 起動部品：SpoolFileName プロパティ Java 起動部品：setSpoolFileName メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の SPOOLFILENAME パラメタ コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /sf オプション	蓄積ファイルの格納ファイル名（255 バイト以内の文字列）
ジョブ検索キーの分類	ActiveX 起動部品：JobKeyCategory プロパティ Java 起動部品：setJobKeyCategory メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の JOBKEYCATEGORY パラメタ コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /fc オプション	ジョブ検索キーの分類名（80 バイト以内の文字列）
ジョブ検索キーの値	ActiveX 起動部品：JobKeyData プロパティ Java 起動部品：setJobKeyData メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の JOBKEYDATA パラメタ コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /fd オプション	ジョブ検索キーの値（80 バイト以内の文字列）

蓄積する印刷データの設定	起動部品の設定項目	指定する値
蓄積期限日	ActiveX 起動部品：SpoolLimit プロパティ Java 起動部品：setSpoolLimit メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の SPOOLLIMIT パラメタ コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /lm オプション	日付で指定する場合 YYYYMMDD 形式 日数で指定する場合 +XXX 形式
印刷回数の上限値	ActiveX 起動部品：MaxPrintCount プロパティ Java 起動部品：setMaxPrintCount メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の MAXPRINTCOUNT パラメタ コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /xp オプション	1 ～ 65,536（指定した回数印刷できる） -1（無限に印刷できる） 0（印刷を禁止する）
蓄積ファイルを取得できるかどうか	ActiveX 起動部品：EnableGet プロパティ Java 起動部品：setEnableGet メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の ENABLEGET パラメタ	True（取得できる）
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /g オプション	get（取得できる）
蓄積後に続けて印刷するかどうか	ActiveX 起動部品：PrintHoldMode プロパティ Java 起動部品：setPrintHoldMode メソッド COBOL 起動部品：PrintReport 関数，または PrintReport2 関数の PRINTHOLDMODE パラメタ	0（蓄積後に続けて印刷しない）
	コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /prh オプション	hold（蓄積後に続けて印刷しない）

実行できる印刷方法の設定，およびプリンタの設定は，サーバに帳票を蓄積したあとでも変更できます。印刷方法の設定，およびプリンタの設定を変更する方法については「2.3.3　蓄積ファイルの属性値の変更」を参照してください。

2.3　蓄積ファイルの操作

蓄積した印刷データ（蓄積ファイル）に対して，属性値を変更するなどの操作ができます。

蓄積ファイルにアクセスできるユーザーを制限するなど，蓄積ファイルに対してセキュリティが設定されている場合は，蓄積ファイルを操作できないことがあります。蓄積ファイルのセキュリティについては，「5.　蓄積ファイルのセキュリティ管理」を参照してください。

参考

起動部品は EUR Print Manager - Report Server Adapter がインストールされているアプリケーションサーバで設定します。詳細については次の章を参照してください。

- 「9.　ActiveX 起動部品および RS-ActiveX 起動部品を使用した帳票出力」
- 「10.　Java 起動部品および RS-Java 起動部品を使用した帳票出力」
- 「13.　RS- コマンド起動部品を使用した帳票出力」

2.3.1　蓄積ファイルの一覧取得

蓄積フォルダに格納されている蓄積ファイルの一覧を取得したい場合，次に示す値を設定してファイルを検索し，一覧を取得できます。

なお，一覧を取得する際は，取得する情報量に応じた処理時間が掛かります。一度に一覧に取得する蓄積ファイルの件数は，10,000 件程度までとすることを推奨します。

蓄積ファイルの一覧取得を実行するメソッドを次に示します。

表 2-2　蓄積ファイルの一覧取得を実行するメソッド

起動部品	メソッド
RS-ActiveX 起動部品	GetSpoolFileOutline
RS-Java 起動部品	getSpoolFileOutline
RS- コマンド起動部品	EURPMLSC.exe /m オプションの getoutline

蓄積ファイルの一覧を取得するときに設定する項目を，次に示します。

表 2-3 蓄積ファイルの一覧を取得するときに設定する項目

蓄積ファイルの検索条件の設定		起動部品の設定項目	指定する値
IP アドレス		RS-ActiveX 起動部品：ServerAddress プロパティ RS-Java 起動部品：setServerAddress メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /svr オプション	255.255.255.255 形式
検索条件	ジョブ ID	RS-ActiveX 起動部品：SearchJobID プロパティ RS-Java 起動部品：setSearchJobID メソッド，または setSearchJobIDMulti メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /id オプション	ジョブ ID（36 バイト以内の文字列）
	格納ファイル名	RS-ActiveX 起動部品：SearchSpoolFileName プロパティ RS-Java 起動部品：setSearchSpoolFileName メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /inc オプション	格納ファイル名（255 バイト以内の文字列）
	プリンタクラス名	RS-ActiveX 起動部品：SearchPrinterClassName プロパティ RS-Java 起動部品：setSearchPrinterClassName メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /pc オプション	プリンタクラス名（80 バイト以内の文字列）
	ファイル作成日時の範囲（開始）	RS-ActiveX 起動部品：SearchCreateTimeStart プロパティ RS-Java 起動部品：setSearchCreateTimeStart メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /ts オプション	YYYYMMDDhhmmss 形式
	ファイル作成日時の範囲（終了）	RS-ActiveX 起動部品：SearchCreateTimeEnd プロパティ RS-Java 起動部品：setSearchCreateTimeEnd メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /te オプション	YYYYMMDDhhmmss 形式
	ジョブ検索キーの分類	RS-ActiveX 起動部品：SearchJobKeyCategory プロパティ RS-Java 起動部品：setSearchJobKeyCategory メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /fc オプション	ジョブ検索キーの分類（80 バイト以内の文字列）
	ジョブ検索キー	RS-ActiveX 起動部品：SearchJobKeyData プロパティ RS-Java 起動部品：setSearchJobKeyData メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /fd オプション	ジョブ検索キー（80 バイト以内の文字列）

2.3.2 蓄積ファイルの属性値の取得

蓄積ファイルの属性値を取得できます。次の情報が取得できます。

- 蓄積ファイルが格納されているフォルダからの相対パス
- 蓄積ファイルに格納された印刷データの名称
- 蓄積ファイルに格納された印刷データのサイズ
- 蓄積ファイルに格納された印刷データのページ数
- 作成日時
- 蓄積期限日
- 取得可否情報
- 印刷日時
- 蓄積を指示したマシンの IP アドレス
- 蓄積ファイルのフォーマットのバージョン情報
- 印刷実行回数
- 印刷上限回数
- 実行できる印刷方式
- 拠点サーバでの印刷時のプリンタ指定方法
- 拠点サーバ，またはクライアント PC での印刷時のプリンタクラス名
- 拠点サーバでの印刷時の OS 上のプリンタ名
- 拠点サーバでの印刷時の OS 上のトレイ名
- 拠点サーバでの印刷時の帳票振り分け定義名
- クライアント PC での印刷時のダイアログ表示モード
- クライアント PC での印刷時のクライアント PC の IP アドレス
- クライアント PC での印刷時の OS 上のプリンタ名
- クライアント PC での印刷時の OS 上のトレイ名
- ジョブ検索キーの分類
- ジョブ検索キーの値
- 最後に実行した印刷の印刷結果
- 履歴情報

蓄積ファイルの属性値の取得を実行するメソッドを次に示します。

表 2-4 蓄積ファイルの属性値の取得を実行するメソッド

起動部品	メソッド
RS-ActiveX 起動部品	GetSpoolFileAttribute
RS-Java 起動部品	getSpoolFileAttribute
RS- コマンド起動部品	EURPMLSC.exe /m オプションの getattr

蓄積ファイルの属性値を取得するときに設定する項目を，次に示します。

表 2-5 蓄積ファイルの属性値を取得するときに設定する項目

蓄積ファイルの属性値の取得に関する設定	起動部品の設定項目	指定する値
IP アドレス	RS-ActiveX 起動部品：ServerAddress プロパティ RS-Java 起動部品：setServerAddress メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /svr オプション	255.255.255.255 形式
蓄積ファイルのジョブ ID	RS-ActiveX 起動部品：SearchJobID プロパティ RS-Java 起動部品：setSearchJobID メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /id オプション	ジョブ ID（36 バイト以内の文字列）

属性値を変更した場合に，履歴情報に表示される属性名と変更履歴の表示名の対応を次に示します。

表 2-6 属性名と変更履歴の表示名の対応

属性名	変更履歴の表示名
蓄積期限日	蓄積期限日
取得可否情報	取得可否
印刷上限回数	印刷上限回数
実行できる印刷方式	実行可能印刷方式
拠点サーバでの印刷時のプリンタ指定方法	プリンタ指定方法
拠点サーバ，またはクライアント PC での印刷時のプリンタクラス名	プリンタクラス名
拠点サーバでの印刷時の OS 上のプリンタ名	拠点プリンタ名
拠点サーバでの印刷時の OS 上のトレイ名	拠点トレイ名
拠点サーバでの印刷時の帳票振り分け定義名	帳票振り分けグループ名
クライアント PC での印刷時のダイアログ表示モード	ダイアログ表示モード
クライアント PC での印刷時のクライアント PC の IP アドレス	クライアントマシン IP アドレス
クライアント PC での印刷時の OS 上のプリンタ名	クライアントプリンタ名
クライアント PC での印刷時の OS 上のトレイ名	クライアントトレイ名
ジョブ検索キーの値	ジョブ検索キー

属性値を変更した場合に，属性名と ActiveX 起動部品の場合の属性値，および変更前または変更後に表示される履歴情報を次に示します。

表 2-7 属性値と履歴情報（変更前または変更後）の対応

属性名	属性値（ActiveX 起動部品の場合）	履歴情報（変更前または変更後）
取得可否情報	TRUE	取得可能
	FALSE	取得不可
実行できる印刷方式	0	蓄積拠点サーバ印刷
	1	蓄積拠点サーバ印刷および蓄積クライアント印刷
	2	蓄積クライアント印刷
拠点サーバでの印刷時のプリンタ指定方法	0	プリンタクラス名指定
	1	OS 上のプリンタ名指定
	2	帳票名による自動振り分け
クライアント PC での印刷時のダイアログ表示モード	0	対話型印刷モード
	1	自動印刷モード
	2	対話型印刷プレビューモード
	3	全自動印刷モード
	4	対話型印刷プレビュー表示限定モード

2.3.3 蓄積ファイルの属性値の変更

指定した蓄積ファイルの属性値を変更できます。次の情報を変更できます。

- 蓄積期限日
- 取得可否情報
- 印刷上限回数
- 実行できる印刷方式
- 拠点サーバでの印刷時のプリンタ指定方法
- 拠点サーバ，またはクライアント PC での印刷時のプリンタクラス名
- 拠点サーバでの印刷時の OS 上のプリンタ名
- 拠点サーバでの印刷時の OS 上のトレイ名
- 拠点サーバでの印刷時の帳票振り分け定義名
- クライアント PC での印刷時のダイアログ表示モード
- クライアント PC での印刷時のクライアント PC の IP アドレス
- クライアント PC での印刷時の OS 上のプリンタ名
- クライアント PC での印刷時の OS 上のトレイ名
- ジョブ検索キーの分類
- ジョブ検索キーの値

蓄積ファイルの属性値の変更を実行するメソッドを次に示します。

表 2-8 蓄積ファイルの属性値の変更を実行するメソッド

起動部品	メソッド
RS-ActiveX 起動部品	SetSpoolFileAttribute
RS-Java 起動部品	setSpoolFileAttribute
RS- コマンド起動部品	EURPMLSC.exe /m オプションの setattr

蓄積ファイルの属性値を変更するときに設定する項目を，次に示します。

表 2-9 蓄積ファイルの属性値を変更するときに設定する項目

蓄積ファイルの属性値の変更に関する設定	起動部品の設定項目	指定する値
IP アドレス	RS-ActiveX 起動部品：ServerAddress プロパティ RS-Java 起動部品：setServerAddress メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /svr オプション	255.255.255.255 形式
蓄積ファイルのジョブ ID	RS-ActiveX 起動部品：SearchJobID プロパティ RS-Java 起動部品：setSearchJobID メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /id オプション	ジョブ ID（36 バイト以内の文字列）
蓄積期限日	RS-ActiveX 起動部品：SpoolLimit プロパティ RS-Java 起動部品：setSpoolLimit メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /lm オプション	YYYYMMDD 形式
取得可否	RS-ActiveX 起動部品：EnableGet プロパティ RS-Java 起動部品：setEnableGet メソッド	True（取得できる） False（取得できない）
	RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /g オプション	get（取得できる） noget（取得できない）
印刷上限回数	RS-ActiveX 起動部品：MaxPrintCount プロパティ RS-Java 起動部品：setMaxPrintCount メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /xp オプション	1 ～ 65,536（指定した回数印刷できる） -1（無限に印刷できる） 0（印刷を禁止する）

蓄積ファイルの属性値の変更に関する設定	起動部品の設定項目	指定する値
実行できる印刷方式	RS-ActiveX 起動部品：ExecutablePrintMode プロパティ RS-Java 起動部品：setExecutablePrintMode メソッド	0（拠点サーバで印刷できる） 1（拠点サーバ，およびクライアント PC で印刷できる） 2（クライアント PC で印刷できる）
	RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /exp オプション	sv（拠点サーバで印刷できる） svcl（拠点サーバ，およびクライアント PC で印刷できる） cl（クライアント PC で印刷できる）
拠点サーバのプリンタの指定方法	RS-ActiveX 起動部品：PrinterSelectMode プロパティ RS-Java 起動部品：setPrinterSelectMode メソッド	0（プリンタクラス名で指定する） 1（プリンタ名で指定する） 2（帳票振り分け定義で指定する）
	RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /sm オプション	class（プリンタクラス名で指定する） printer（プリンタ名で指定する） group（帳票振り分け定義で指定する）
拠点サーバ，およびクライアント PC のプリンタクラス名	RS-ActiveX 起動部品：PrinterClassName プロパティ RS-Java 起動部品：setPrinterClassName メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /prc オプション	プリンタクラス名（80 バイト以内の文字列）
拠点サーバのプリンタ名を設定する	RS-ActiveX 起動部品：ServerPrinterName プロパティ RS-Java 起動部品：setServerPrinterName メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /lsp オプション	プリンタ名（80 バイト以内の文字列）
拠点サーバのプリンタのトレイ名	RS-ActiveX 起動部品：ServerTrayName プロパティ RS-Java 起動部品：setServerTrayName メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /lst オプション	トレイ名（80 バイト以内の文字列）
拠点サーバの帳票振り分け定義名	RS-ActiveX 起動部品：GroupName プロパティ RS-Java 起動部品：setGroupName メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /group オプション	帳票振り分け定義（80 バイト以内の文字列）

蓄積ファイルの属性値の変更に関する設定	起動部品の設定項目	指定する値
ダイアログを表示するかどうか	RS-ActiveX 起動部品：DispPrintDlg プロパティ RS-Java 起動部品：setDispPrintDlg メソッド	0（対話型印刷） 1（自動印刷） 2（対話型印刷プレビュー表示） 3（全自動印刷）※1 4（対話型印刷プレビュー表示限定）※2
	RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /dialog オプション	dialog：（対話型印刷） auto：（自動印刷） preview：（対話型印刷プレビュー表示） fullauto：（全自動印刷）※1 pvonly：（対話型印刷プレビュー表示限定）※2
クライアント PC の IP アドレス	RS-ActiveX 起動部品：ClientAddress プロパティ RS-Java 起動部品：setClientAddress メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /client オプション	255.255.255.255 形式
クライアント PC のプリンタ名	RS-ActiveX 起動部品：ClientPrinterName プロパティ RS-Java 起動部品：setClientPrinterName メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /p オプション	プリンタ名（80 バイト以内の文字列）
クライアント PC のトレイ名	RS-ActiveX 起動部品：ClientTrayName プロパティ RS-Java 起動部品：setClientTrayName メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /t オプション	トレイ名（80 バイト以内の文字列）
ジョブ検索キーの分類	RS-ActiveX 起動部品：JobKeyCategory プロパティ RS-Java 起動部品：setJobKeyCategory メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /ca オプション	ジョブ検索キーの分類（80 バイト以内の文字列）
ジョブ検索キー	RS-ActiveX 起動部品：JobKeyData プロパティ RS-Java 起動部品：setJobKeyData メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /da オプション	ジョブ検索キー（80 バイト以内の文字列）

注※1　印刷実行時に印刷中のダイアログが表示されません。

注※2　印刷は実行できません。

2.3.4　蓄積ファイルの取得

蓄積ファイルの印刷データ（EPF 形式ファイル）を任意のフォルダに取得できます。蓄積したデータを，クライアント PC の Web ブラウザからダウンロードして印刷する場合に指定します。

複数の蓄積ファイルの印刷データを，一つに統合して取得することもできます。ただし，

複数の蓄積ファイルの印刷データを統合して取得するには，次の条件をすべて満たす必要があります。

- 統合対象の蓄積ファイルの数が，2 ～ 10,000 ファイルであること。
- 統合対象の蓄積ファイルの合計ページ数が，999,999 ページ以下であること。
- 統合対象の蓄積ファイルを印刷用のデータ形式に変換したときのファイルサイズの合計が 2GB 以下であること。
- 統合対象のすべての蓄積ファイルで，蓄積ファイルに格納されている印刷データの解像度（DPI 値）が同じであること。
- 統合対象の蓄積ファイルが，すべて存在していること。
- 統合対象のすべての蓄積ファイルにアクセスできること。
- 統合対象の蓄積ファイルの取得可否が，すべて「取得可能」に設定されていること。

取得した EPF 形式ファイルの属性情報を次の表に示します。

表 2-10　取得した EPF 形式ファイルの属性情報

EPF 形式ファイルの属性	取得時の指定可否	取得した EPF 形式ファイルに設定される値		
		取得時に指定あり	取得時に指定なし	
			蓄積ファイルを一つだけ選択	蓄積ファイルを複数選択
印刷部数	○	指定値	蓄積ファイルの印刷データの属性値	1
印刷部数の単位	○	指定値	蓄積ファイルの印刷データの属性値	0（部単位）
用紙の向き	○	指定値	蓄積ファイルの印刷データの属性値	未指定（印刷データを蓄積したときのページごとの属性で出力）
スプールタイトル	○	指定値	蓄積ファイルの印刷データの属性値	未指定（印刷時は最初に指定する蓄積ファイルに格納された印刷データの帳票ファイル名を出力）
プリンタクラス名	○	指定値	蓄積ファイルの印刷データの属性値	未指定
EUR Print Service のバージョン	×	－	蓄積ファイルの印刷データの属性値	統合する蓄積ファイルの印刷データの最新バージョン
印刷データを作成したプログラムのバージョン	×	－	蓄積ファイルの印刷データの属性値	統合する蓄積ファイルの印刷データの最新バージョン
蓄積ジョブ ID	×	－	蓄積ファイルの属性値	最初に指定する蓄積ファイルの属性値

EPF 形式ファイルの属性	取得時の指定可否	取得した EPF 形式ファイルに設定される値		
		取得時に指定あり	取得時に指定なし	
			蓄積ファイルを一つだけ選択	蓄積ファイルを複数選択
総ページ数	×	－	蓄積ファイルの印刷データの属性値	統合する蓄積ファイルの印刷データのページ数の総和
印刷日時書式	×	－	蓄積ファイルの印刷データの属性値	最初に指定する蓄積ファイルの印刷データの属性値
印刷日時フォント名	×	－	蓄積ファイルの印刷データの属性値	最初に指定する蓄積ファイルの印刷データの属性値
印刷日時フォントサイズ	×	－	蓄積ファイルの印刷データの属性値	最初に指定する蓄積ファイルの印刷データの属性値
印刷日時出力位置	×	－	蓄積ファイルの印刷データの属性値	最初に指定する蓄積ファイルの印刷データの属性値
印刷日時フォント色	×	－	蓄積ファイルの印刷データの属性値	最初に指定する蓄積ファイルの印刷データの属性値

（凡例）

○：指定できます。

×：指定できません。

－：該当しません。

蓄積ファイルを任意のフォルダに取得するメソッドを次に示します。

表 2-11　蓄積ファイルを任意のフォルダに取得するメソッド

起動部品	メソッド
RS-ActiveX 起動部品	GetSpoolFile
RS-Java 起動部品	getSpoolFile
RS- コマンド起動部品	EURPMLSC.exe /m オプションの get

蓄積ファイルを任意のフォルダに取得するときに設定する項目を，次に示します。

表 2-12 蓄積ファイルを任意のフォルダに取得するときに設定する項目

蓄積ファイルの取得に関する設定	起動部品の設定項目	指定する値
出力ファイル名	RS-ActiveX 起動部品：OutputFileName プロパティ RS-Java 起動部品：setOutputFileName メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /ofn オプション	出力ファイル名（255 バイト以内の文字列）
蓄積ファイルを取得するフォルダ	RS-ActiveX 起動部品：OutputFilePath プロパティ RS-Java 起動部品：setOutputFilePath メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /o オプション	取得するフォルダのパス（255 バイト以内の文字列）
用紙の向き	RS-ActiveX 起動部品：PaperOrientation プロパティ RS-Java 起動部品：setPaperOrientation メソッド	0（帳票の定義情報に合わせる） 1（縦） 2（横）
	RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /po オプション	none（帳票の定義情報に合わせる） portrait（縦） landscape（横）
印刷部数	RS-ActiveX 起動部品：PrintCopies プロパティ RS-Java 起動部品：setPrintCopies メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /c オプション	印刷部数（1 ～ 99）
プリンタクラス名	RS-ActiveX 起動部品：PrinterClassName プロパティ RS-Java 起動部品：setPrinterClassName メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /prc オプション	プリンタクラス名（80 バイト以内の文字列）
蓄積ファイルのジョブ ID	RS-ActiveX 起動部品：SearchJobID プロパティ RS-Java 起動部品：setSearchJobID メソッド，または setSearchJobIDMulti メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /id オプション	ジョブ ID（36 バイト以内の文字列）
蓄積先のサーバの IP アドレス	RS-ActiveX 起動部品：ServerAddress プロパティ RS-Java 起動部品：setServerAddress メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /svr オプション	255.255.255.255 形式
印刷部数の単位	RS-ActiveX 起動部品：SortPrint プロパティ RS-Java 起動部品：setSortPrint メソッド	0（部単位） 1（ページ単位）
	RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /num オプション	sort（部単位） stack（ページ単位）
スプールタイトル	RS-ActiveX 起動部品：SpoolTitle プロパティ RS-Java 起動部品：setSpoolTitle メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /sptl オプション	スプールタイトル（255 バイト以内の文字列）

2.3.5 蓄積ファイルのメモリ取得

蓄積ファイルの印刷データをメモリに取得できます。蓄積したデータをクライアント PC へ配布印刷する場合に指定します。

複数の蓄積ファイルの印刷データを，一つに統合して取得することもできます。統合して取得する場合の条件や，統合したデータの属性情報については，「2.3.4 蓄積ファイルの取得」を参照してください。

蓄積ファイルをメモリに取得するメソッドを次に示します。

表 2-13 蓄積ファイルをメモリに取得するメソッド

起動部品	メソッド
RS-Java 起動部品	memgetSpoolFile

蓄積ファイルをメモリに取得するときに設定する項目を，次に示します。

表 2-14 蓄積ファイルをメモリに取得するときに設定する項目

蓄積ファイルのメモリ取得に関する設定	起動部品の設定項目	指定する値
用紙の向き	RS-Java 起動部品：setPaperOrientation メソッド	0（帳票の定義情報に合わせる） 1（縦） 2（横）
印刷部数	RS-Java 起動部品：setPrintCopies メソッド	印刷部数（1 ～ 99）
プリンタクラス名	RS-Java 起動部品：setPrinterClassName メソッド	プリンタクラス名（80 バイト以内の文字列）
蓄積ファイルのジョブ ID	RS-Java 起動部品：setSearchJobID メソッド，または setSearchJobIDMulti メソッド	ジョブ ID（36 バイト以内の文字列）
蓄積先のサーバの IP アドレス	RS-Java 起動部品：setServerAddress メソッド	255.255.255.255 形式
印刷部数の単位	RS-Java 起動部品：setSortPrint メソッド	0（部単位） 1（ページ単位）
スプールタイトル	RS-Java 起動部品：setSpoolTitle メソッド	スプールタイトル（255 バイト以内の文字列）

2.3.6 蓄積ファイルの削除

指定した蓄積ファイルを削除できます。

蓄積ファイルの削除を実行するメソッドを次に示します。

表 2-15 蓄積ファイルの削除を実行するメソッド

起動部品	メソッド
RS-ActiveX 起動部品	DeleteSpoolFile

起動部品	メソッド
RS-Java 起動部品	deleteSpoolFile
RS- コマンド起動部品	EURPMLSC.exe /m オプションの del

蓄積ファイルを削除するときに設定する項目を，次に示します。

表 2-16 蓄積ファイルを削除するときに設定する項目

蓄積ファイルの削除に関する設定	起動部品の設定項目	指定する値
蓄積先のサーバの IP アドレス	RS-ActiveX 起動部品：ServerAddress プロパティ RS-Java 起動部品：setServerAddress メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /svr オプション	255.255.255.255 形式
蓄積ファイルのジョブ ID	RS-ActiveX 起動部品：SearchJobID プロパティ RS-Java 起動部品：setSearchJobID メソッド，または setSearchJobIDMulti メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /id オプション	ジョブ ID（36 バイト以内の文字列）
削除方法	RS-ActiveX 起動部品：DeleteKind プロパティ RS-Java 起動部品：setDeleteKind メソッド	0（指定した蓄積ファイルだけを削除）
	RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /dk オプション	direct（指定した蓄積ファイルだけを削除）

2.3.7 蓄積期限が切れた蓄積ファイルの一括削除

蓄積期限が切れた蓄積ファイルを一括して削除できます。

蓄積期限が切れた蓄積ファイルの一括削除を実行するメソッドを次に示します。

表 2-17 期限が切れた蓄積ファイルの一括削除を実行するメソッド

起動部品	メソッド
RS-ActiveX 起動部品	DeleteSpoolFile
RS-Java 起動部品	deleteSpoolFile
RS- コマンド起動部品	EURPMLSC.exe /m オプションの del

蓄積期限が切れた蓄積ファイルを一括削除するときに設定する項目を，次に示します。

表 2-18 蓄積期限が切れた蓄積ファイルを一括削除するときに設定する項目

蓄積ファイルの一括削除に関する設定	起動部品の設定項目	指定する値
蓄積先のサーバの IP アドレス	RS-ActiveX 起動部品：ServerAddress プロパティ RS-Java 起動部品：setServerAddress メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /svr オプション	255.255.255.255 形式
削除方法	RS-ActiveX 起動部品：DeleteKind プロパティ RS-Java 起動部品：setDeleteKind メソッド	1（蓄積期限が切れたファイルの一括削除）
	RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /dk オプション	expire（蓄積期限が切れたファイルの一括削除）

蓄積期限が切れた蓄積ファイルは自動で削除されます。蓄積期限が切れたファイルを自動で削除するかどうかの設定は，EUR Print Manager - Report Server の環境設定ファイル（EURPMLS.ini）で行います。環境設定ファイルの指定方法については「16.4.10 ESFAUTODEL」を参照してください。

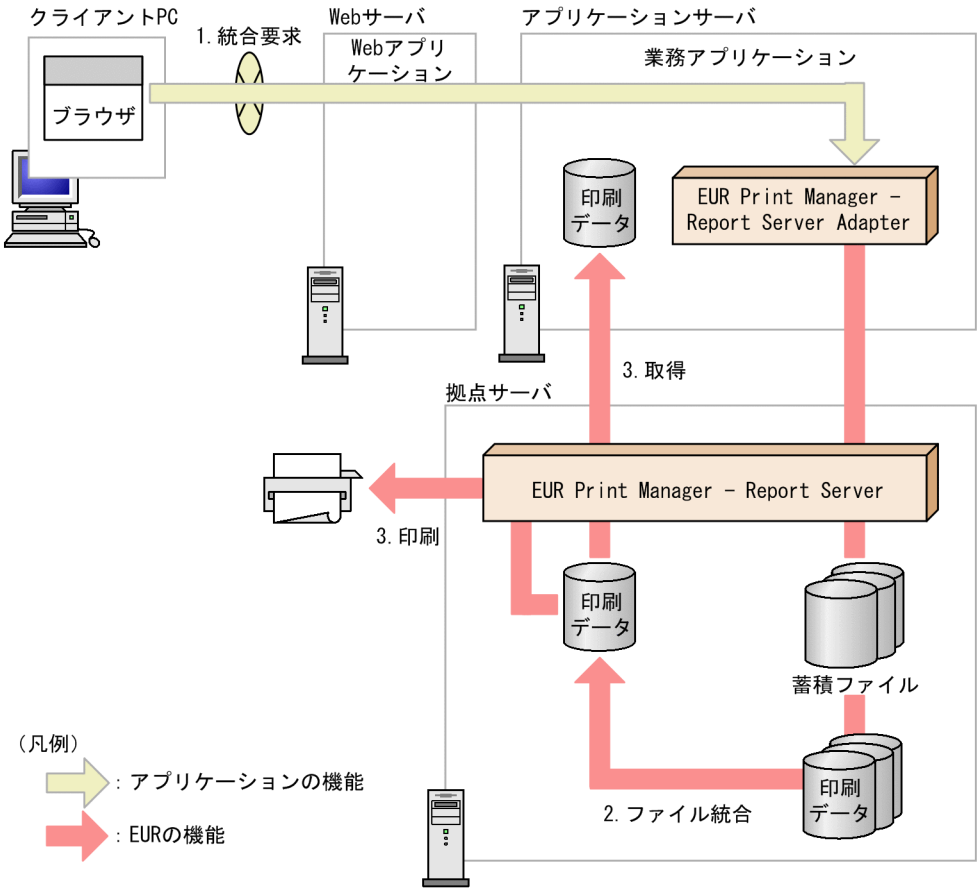
2.4　蓄積したデータの統合

複数の蓄積した印刷データを，一つに統合して出力できます。統合した印刷データは，各拠点のプリンタやクライアント PC のプリンタで印刷できます。また，統合した印刷データを任意のフォルダやメモリに取得できます。

蓄積した印刷データを一つに統合することで，印刷時にほかのユーザーが出力した帳票と混在してしまうのを防げます。また，複数の帳票を同じ出力先で印刷したい場合に，出力先のプリンタやトレイを何度も指定したり確認したりする手間を省けます。

蓄積した印刷データを一つに統合する流れを次に示します。

図 2-5　蓄積した印刷データを一つに統合する流れ



1. **統合要求**
   統合要求が業務アプリケーションに送られます。

2. **ファイル統合**
   EUR Print Manager - Report Server は，複数の蓄積ファイルから印刷データを取り

出し，一つに統合します。

3. **印刷，取得**
   統合した印刷データは，各拠点のプリンタや指定したクライアント PC のプリンタで印刷できます。蓄積したデータを統合して印刷するための条件や印刷手順については，「2.5　蓄積ファイルからの印刷（再印刷）」を参照してください。
   また，統合した印刷データを任意のフォルダやメモリに取得できます。取得した印刷データは，クライアント PC に配布したり，Web ブラウザからダウンロードしたりすることで，クライアント PC でプレビュー表示や印刷ができます。蓄積したデータを統合して取得するための条件や取得手順については，「2.3.4　蓄積ファイルの取得」または「2.3.5　蓄積ファイルのメモリ取得」を参照してください。

2.5 蓄積ファイルからの印刷（再印刷）

サーバに蓄積されている印刷データを，拠点サーバのプリンタやクライアント PC のプリンタで再印刷できます。

複数の蓄積ファイルを同じ出力先で印刷したい場合，印刷データを一つに統合して印刷することもできます。ただし，複数の蓄積ファイルの印刷データを統合して印刷するには，次の条件をすべて満たす必要があります。

- 統合対象の蓄積ファイルの数が，2 ～ 10,000 ファイルであること。
- 統合対象の蓄積ファイルの合計ページ数が，999,999 ページ以下であること。
- 統合対象の蓄積ファイルを印刷用のデータ形式に変換したときのファイルサイズの合計が 2GB 以下であること。
- 統合対象の蓄積ファイルが，すべて存在していること。
- 統合対象のすべての蓄積ファイルにアクセスできること。
- 統合対象のすべての蓄積ファイルで，蓄積ファイルに格納されている印刷データの解像度（DPI 値）が同じであること。
- 統合対象のすべての蓄積ファイルで，印刷実行回数が印刷上限回数を超えていないこと。
- 統合対象の蓄積ファイルの実行可能印刷方式が，次のとおり設定されていること。
  統合した印刷データを蓄積拠点サーバ印刷する場合
  「蓄積拠点サーバ印刷」または「蓄積拠点サーバ印刷／蓄積クライアント印刷」
  統合した印刷データを蓄積クライアント印刷する場合
  「蓄積クライアント印刷」または「蓄積拠点サーバ印刷／蓄積クライアント印刷」

なお，複数の蓄積ファイルの印刷データを統合して印刷する場合，最初に指定した蓄積ファイルの印刷データに次に示す属性情報が設定されているときは，プリンタでの印刷実行時の日時情報が帳票に出力されます。

- 印刷日時書式
- 印刷日時フォント名
- 印刷日時フォントサイズ
- 印刷日時出力位置
- 印刷日時フォント色

また，蓄積ファイルにアクセスできるユーザーを制限するなど，蓄積ファイルにセキュリティが設定されている場合は，蓄積ファイルを印刷できないことがあります。蓄積ファイルに設定できるセキュリティについては，「5. 蓄積ファイルのセキュリティ管理」を参照してください。

参考

起動部品は EUR Print Manager - Report Server Adapter がインストールされているアプリケーションサーバで設定します。詳細については次の章を参照してください。

- 「9.　ActiveX 起動部品および RS-ActiveX 起動部品を使用した帳票出力」
- 「10.　Java 起動部品および RS-Java 起動部品を使用した帳票出力」
- 「13.　RS- コマンド起動部品を使用した帳票出力」

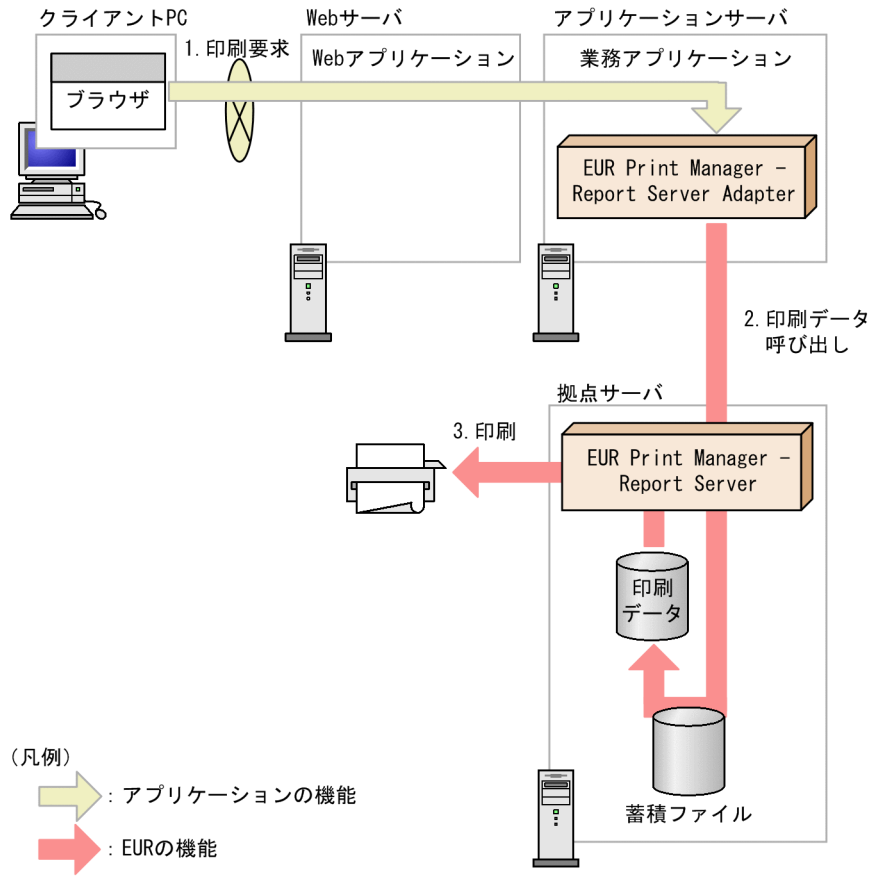
2.5.1　拠点サーバのプリンタで印刷する

拠点サーバのプリンタで印刷するときのデータの流れや印刷手順について説明します。

(1) データの流れ

蓄積した印刷データを各拠点のプリンタで印刷するデータの流れを次に示します。

図 2-6　蓄積した印刷データを各拠点のプリンタで印刷するデータの流れ



1. **印刷要求**
   ユーザーが，印刷要求を業務アプリケーションに送ります。

2. **印刷データの呼び出し**
   業務アプリケーションが，拠点サーバ内の蓄積ファイルから印刷データ（EPF 形式ファイル）を呼び出します。
   このとき，複数の蓄積ファイルのデータを統合して，一つの印刷データとして呼び出すこともできます。蓄積したデータの統合については，「2.4　蓄積したデータの統合」を参照してください。
3. **印刷**
   指定した拠点プリンタから印刷されます。

(2) 起動部品の設定

蓄積したデータを拠点サーバで印刷するときの，起動部品の設定方法を次に示します。

1. **印刷範囲の設定**
   印刷範囲を設定します。
   印刷範囲を設定する項目を，次に示します。

印刷範囲の設定	起動部品の設定項目	指定する値
印刷開始ページ	RS-ActiveX 起動部品：PrintStartPage プロパティ RS-Java 起動部品：setPrintStartPage メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /sp オプション	1 ～ 999,999
印刷終了ページ	RS-ActiveX 起動部品：PrintEndPage プロパティ RS-Java 起動部品：setPrintEndPage メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /ep オプション	1 ～ 999,999

2. **蓄積先のサーバの設定**
   帳票が蓄積されているサーバの IP アドレスを設定します。
   蓄積先のサーバの IP アドレスを設定する項目を，次に示します。

蓄積先のサーバの設定	起動部品の設定項目	指定する値
蓄積先のサーバの IP アドレス	RS-ActiveX 起動部品：ServerAddress プロパティ RS-Java 起動部品：setServerAddress メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /svr オプション	255.255.255.255 形式

3. **ジョブ ID の設定**
   蓄積ファイルのジョブ ID を設定します。
   蓄積ファイルのジョブ ID を設定する項目を，次に示します。

ジョブ ID の設定	起動部品の設定項目	指定する値
蓄積ファイルのジョブ ID	RS-ActiveX 起動部品：SearchJobID プロパティ RS-Java 起動部品：setSearchJobID メソッド，または setSearchJobIDMulti メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /id オプション	ジョブ ID（36 バイト以内の文字列）

4. **プリンタの設定**

必要に応じて，印刷時に使用する拠点サーバのプリンタやトレイを設定します。設定しないときは，蓄積ファイルの属性値に従って出力先を決定します。

拠点サーバのプリンタの指定方法は，プリンタクラス名，プリンタ名，および帳票振り分け定義の 3 種類の指定方法を選択できます。

拠点サーバのプリンタを設定する項目を，次に示します。

拠点サーバのプリンタの設定		起動部品の設定項目	指定する値
プリンタの指定方法		RS-ActiveX 起動部品：PrinterSelectMode プロパティ RS-Java 起動部品：setPrinterSelectMode メソッド	0（プリンタクラス名で指定する） 1（プリンタ名で指定する） 2（帳票振り分け定義で指定する）
		RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /sm オプション	class（プリンタクラス名で指定する） printer（プリンタ名で指定する） group（帳票振り分け定義で指定する）
プリンタクラス名		RS-ActiveX 起動部品：PrinterClassName プロパティ RS-Java 起動部品：setPrinterClassName メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /prc オプション	プリンタクラス名（80 バイト以内の文字列）
プリンタ名	OS 上のプリンタ名	RS-ActiveX 起動部品：ServerPrinterName プロパティ RS-Java 起動部品：setServerPrinterName メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /lsp オプション	プリンタ名（80 バイト以内の文字列）
	OS 上のプリンタのトレイ名	RS-ActiveX 起動部品：ServerTrayName プロパティ RS-Java 起動部品：setServerTrayName メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /lst オプション	トレイ名（80 バイト以内の文字列）
帳票振り分け定義		RS-ActiveX 起動部品：GroupName プロパティ RS-Java 起動部品：setGroupName メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /group オプション	帳票振り分け定義（80 バイト以内の文字列）

5. **印刷付加情報の設定**
   必要に応じて，印刷付加情報（印刷部数，用紙の向きなど）を設定します。
6. **拠点サーバでの印刷**
   サーバに蓄積された印刷データが呼び出され，指定したプリンタのトレイで帳票が印刷されます。

2.5.2　クライアント PC のプリンタで印刷する

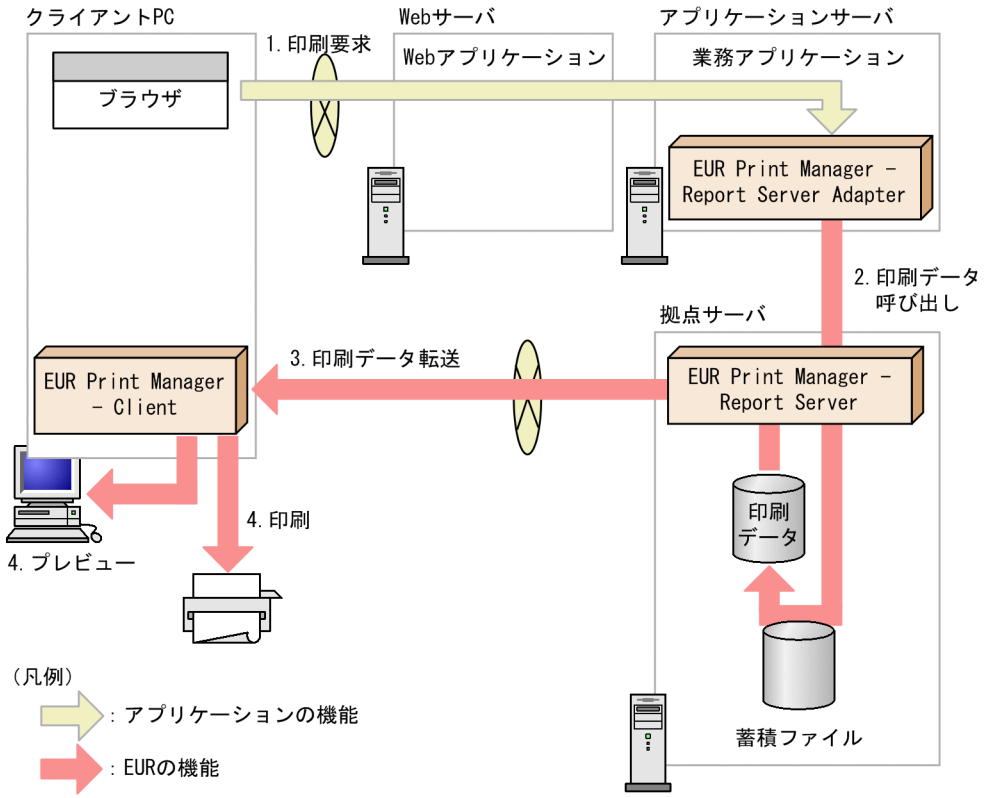
クライアント PC のプリンタで印刷するときのデータの流れや印刷手順について説明します。

（1）データの流れ

蓄積した印刷データをクライアント PC のプリンタで印刷するデータの流れを次に示します。

（a）蓄積した印刷データをクライアント PC に転送する場合

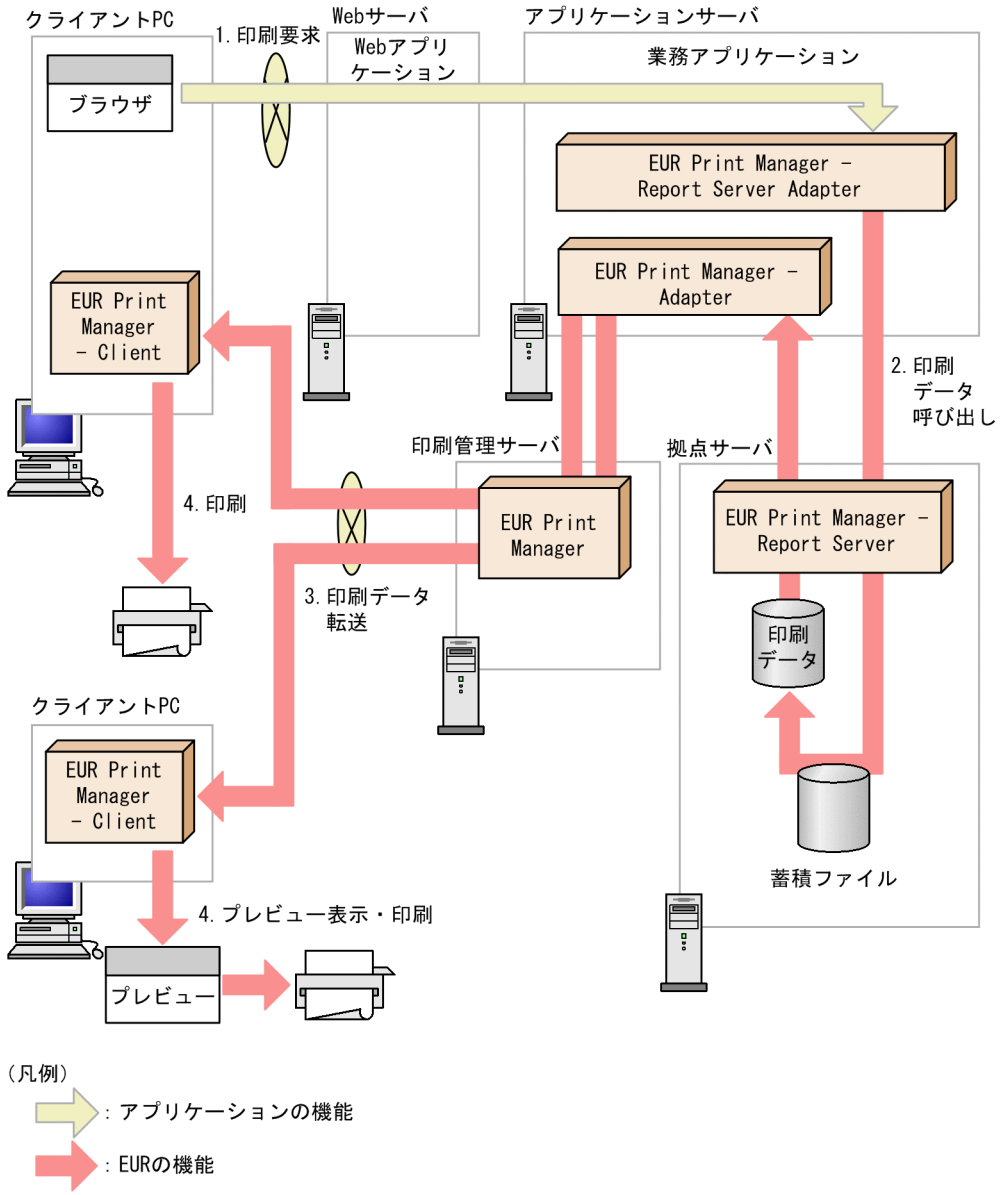
図 2-7　蓄積した印刷データをクライアント PC に転送する場合のデータの流れ



1. **印刷要求**
   ユーザーが，印刷要求を業務アプリケーションに送ります。
2. **印刷データの呼び出し**
   業務アプリケーションが，拠点サーバ内の蓄積ファイルから印刷データ（EPF 形式ファイル）を呼び出します。
   このとき，複数の蓄積ファイルのデータを統合して，一つの印刷データとして呼び出すこともできます。蓄積したデータの統合については，「2.4　蓄積したデータの統合」を参照してください。
3. **印刷データ転送**
   EUR Print Manager - Report Server は，生成された印刷データ（EPF 形式ファイル）をクライアント PC に転送します。
4. **プレビューまたは印刷**
   クライアント PC でプレビューしたり，指定したクライアント PC のプリンタから印刷したりできます。

(b) 蓄積した印刷データを複数のクライアント PC へ配布する場合

図 2-8 蓄積した印刷データを複数のクライアント PC へ配布する場合のデータの流れ



印刷データの呼び出し

1. **印刷要求**
   ユーザーが，印刷要求を業務アプリケーションに送ります。
2. **印刷データの呼び出し**
   業務アプリケーションが，拠点サーバ内の蓄積ファイルから印刷データ（EPF

形式ファイル）を呼び出します。
このとき，複数の蓄積ファイルのデータを統合して，一つの印刷データとして呼び出すこともできます。蓄積したデータの統合については，「2.4　蓄積したデータの統合」を参照してください。

配布印刷

手順 2. で呼び出した印刷データを次の手順を繰り返すことで，複数のクライアント PC に配布します。

3. **印刷データ転送**

   EUR Print Manager - Adapter は，生成された印刷データ（EPF 形式ファイル）を，印刷管理サーバ内の EUR Print Manager を経由して複数のクライアント PC に転送します。

4. **プレビューまたは印刷**

   配布先のクライアント PC でプレビューしたり，指定したクライアント PC のプリンタから印刷したりできます。

(2) 起動部品の設定

蓄積したデータをクライアント PC で印刷するときの，起動部品の設定方法を次に示します。

1. **蓄積先のサーバの設定**

   帳票が蓄積されているサーバの IP アドレスを設定します。
   蓄積先のサーバの IP アドレスを設定する項目を，次に示します。

蓄積先のサーバの設定	起動部品の設定項目	指定する値
蓄積先のサーバの IP アドレス	RS-ActiveX 起動部品：ServerAddress プロパティ RS-Java 起動部品：setServerAddress メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /svr オプション	255.255.255.255 形式

2. **ジョブ ID の設定**

   蓄積ファイルのジョブ ID を設定します。
   蓄積ファイルのジョブ ID を設定する項目を，次に示します。

ジョブ ID の設定	起動部品の設定項目	指定する値
蓄積ファイルのジョブ ID	RS-ActiveX 起動部品：SearchJobID プロパティ RS-Java 起動部品：setSearchJobID メソッド，または setSearchJobIDMulti メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /id オプション	ジョブ ID（36 バイト以内の文字列）

3. クライアント PC の設定

クライアント PC の IP アドレスを指定します。

クライアント PC を設定する項目を，次に示します。

クライアント PC の設定	起動部品の設定項目	指定する値
IP アドレス	RS-ActiveX 起動部品：ClientAddress プロパティ RS-Java 起動部品：setClientAddress メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /client オプション	255.255.255.255 形式

4. ダイアログの設定

帳票を受信したときにダイアログを表示するかどうかを設定します。

ダイアログを設定する項目を，次に示します。

ダイアログの設定	起動部品の設定項目	指定する値
ダイアログを表示するかどうか	RS-ActiveX 起動部品：DispPrintDlg プロパティ RS-Java 起動部品：setDispPrintDlg メソッド	0（対話型印刷） 1（自動印刷） 2（対話型印刷プレビュー表示） 3（全自動印刷）※1 4（対話型印刷プレビュー表示限定）※2
	RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /dialog オプション	dialog：（対話型印刷） auto：（自動印刷） preview：（対話型印刷プレビュー表示） fullauto：（全自動印刷）※1 pvonly：（対話型印刷プレビュー表示限定）※2

注※1　印刷実行時に印刷中のダイアログが表示されません。

注※2　印刷は実行できません。

5. クライアント PC のプリンタの設定

必要に応じて，印刷時に使用するクライアント PC のプリンタやトレイを設定します。設定しないときは，蓄積ファイルの属性値に従って出力先を決定します。

クライアント PC のプリンタの設定方法は，プリンタクラス名とプリンタ名の 2 種類の指定方法を選択できます。

クライアント PC のプリンタを設定する項目を，次に示します。

クライアント PC のプリンタの設定		起動部品の設定項目	指定する値
プリンタクラス名		RS-ActiveX 起動部品：PrinterClassName プロパティ RS-Java 起動部品：setPrinterClassName メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /prc オプション	プリンタクラス名（80 バイト以内の文字列）
プリンタ名	OS 上のプリンタ名	RS-ActiveX 起動部品：ClientPrinterName プロパティ RS-Java 起動部品：setClientPrinterName メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /p オプション	プリンタ名（80 バイト以内の文字列）
	OS 上のプリンタのトレイ名	RS-ActiveX 起動部品：ClientTrayName プロパティ RS-Java 起動部品：setClientTrayName メソッド RS- コマンド起動部品：eurpmlsc コマンドの /t オプション	トレイ名（80 バイト以内の文字列）

6. **印刷付加情報の設定**

必要に応じて，印刷付加情報（印刷部数，用紙の向きなど）を設定します。

7. **クライアント PC での印刷**

蓄積時または印刷時に設定したダイアログの設定によって，手順が異なります。

自動印刷する場合

サーバに蓄積された印刷データがクライアント PC に転送され，蓄積時に指定したクライアント PC のプリンタで帳票が印刷されます。

全自動印刷する場合

サーバに蓄積された印刷データがクライアント PC に転送され，蓄積時に指定したクライアント PC のプリンタで帳票が印刷されます。その際，印刷中のダイアログが表示されません。

対話型印刷する場合

サーバに蓄積された印刷データがクライアント PC に転送されると，クライアント PC に［印刷先指定］ダイアログが表示されます。ダイアログを操作して帳票を印刷する手順については，「4.6.3　クライアント PC での対話型印刷」を参照してください。

プレビュー表示する場合

サーバに蓄積された印刷データがクライアント PC に転送されると，クライアン

トPCでプレビューウィンドウが表示されます。［印刷］ボタンをクリックすると［印刷先指定］ダイアログが表示されます。ダイアログを操作して帳票を印刷する手順については,「4.6.3　クライアントPCでの対話型印刷」を参照してください。

3 GUI による蓄積管理

この章では，蓄積管理 GUI を使用した蓄積ファイルの操作について説明します。

3.1 GUI による蓄積管理とは

3.2 準備しておくこと

3.3 画面構成

3.4 蓄積管理 GUI の操作

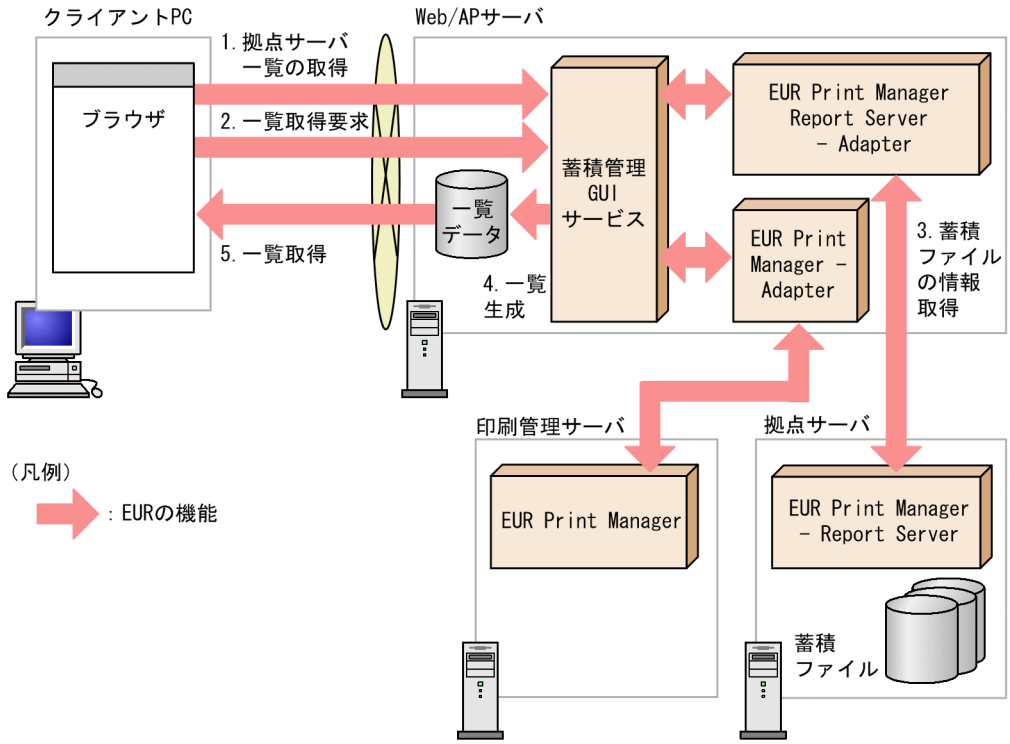
3.5 蓄積ファイルからの印刷

3.1　GUI による蓄積管理とは

EUR Print Manager では，**蓄積管理** GUI を使用して，蓄積された印刷データ（蓄積ファイル）を管理できます。

蓄積管理 GUI は，Web/AP サーバ上で動作するサービスプログラムとして動作します。蓄積管理 GUI で蓄積ファイルの一覧を取得する場合のデータの流れを次に示します。

図 3-1　蓄積管理 GUI で蓄積ファイルの一覧を取得する場合のデータの流れ



1. **拠点サーバ一覧の取得**
   ユーザーは，蓄積管理 GUI サービスと EUR Print Manager - Adapter を使用して，拠点サーバの一覧情報を取得します。
2. **一覧取得要求**
   使用する拠点サーバを選択し，蓄積ファイルの一覧取得要求を蓄積管理 GUI サービスに送ります。
3. **蓄積ファイルの情報取得**
   EUR Print Manager - Report Server Adapter が，指定された拠点サーバから蓄積ファイルの情報を取得します。

4. **一覧生成**
   取得した情報を基に，蓄積管理 GUI サービスが一覧データを生成します。

5. **一覧取得**
   ユーザーが，蓄積ファイルの一覧を取得します。

印刷データの蓄積方法については，「2.2　印刷データの蓄積」を参照してください。

3.1.1　蓄積管理 GUI の機能

蓄積管理 GUI の機能を次に示します。

拠点サーバのサーバ情報の取得
拠点サーバのサーバ情報を取得できます。
詳細については，「3.4.2　拠点サーバのサーバ情報の取得」を参照してください。

蓄積ファイルの一覧取得
蓄積ファイルの情報を拠点サーバごとに一覧で取得できます。すべての蓄積ファイルの一覧を取得することもできますし，指定した検索条件に当てはまる蓄積ファイルだけを一覧で取得することもできます。
さらに，目的に合わせて蓄積ファイルの表示順序や一覧の表示方法を変更できます。
詳細については，「3.4.3　蓄積ファイルの一覧取得」を参照してください。

蓄積ファイルの属性値の参照・変更
蓄積ファイルの属性値を参照したり，変更したりできます。
詳細については，「3.4.4　蓄積ファイルの属性値の参照」および「3.4.5　蓄積ファイルの属性値の変更」を参照してください。

蓄積ファイルの検索
ファイル名や作成日時などの条件を指定して，拠点サーバの蓄積ファイルを検索できます。
詳細については，「3.4.8　蓄積ファイルの検索」を参照してください。

蓄積ファイルの削除
不要な蓄積ファイルを削除できます。選択した蓄積ファイルを一つずつ削除することもできますし，複数の蓄積ファイルをまとめて削除することもできます。
また，蓄積期限が切れた蓄積ファイルを一括して削除することもできます。一括削除は，蓄積管理ユーザのアクセス制限に関係なく実行できます。
詳細については，「3.4.6　蓄積ファイルの削除」および「3.4.7　蓄積期限が切れた蓄積ファイルの一括削除」を参照してください。

蓄積ファイルのアクセス制限
蓄積管理ユーザを設定することで，操作できる蓄積ファイルを制限できます。
詳細については，「3.4.1　蓄積管理ユーザの設定」を参照してください。
なお，蓄積管理ユーザは，**蓄積管理ユーザ定義**で定義します。詳細については，「5. 蓄積ファイルのセキュリティ管理」を参照してください。

蓄積ファイルからの印刷・プレビュー

選択した蓄積ファイルを，設定されている印刷方式に従って拠点サーバやクライアント PC で印刷できます。

詳細については，「3.5　蓄積ファイルからの印刷」を参照してください。

3.2 準備しておくこと

ここでは，蓄積管理 GUI を使用するために準備しておくことについて説明します。

3.2.1 Web/AP サーバの設定

Web/AP サーバの設定について次に示します。

(1) 前提コンポーネントの準備

- EUR Print Manager - Adapter
- EUR Print Manager - Report Server Adapter

(2) 前提プログラムの準備

- JDK 5.0 または JDK6.0
- JDK 5.0 以降を使用する Web/AP サーバ

(3) サービスプログラムのインストール

蓄積管理 GUI のサービスプログラムを，Web/AP サーバのサービスに設定します。Web/AP サーバのサービスに応じて，次のどちらかのファイルを使用してください。

- Eurpmrsgui.war
- Eurpmrsgui.ear

なお，uCosminexus Application Server で J2EE アプリケーションを使用する場合は，「Eurpmrsgui.ear」を使用してください。

蓄積管理 GUI のサービスプログラムは，次のフォルダに格納されています。

```
EUR Print Manager - Report Server Adapterのインストール先フォルダ¥EURPMGUIService
```

(4) 前提コンポーネントの環境設定

前提コンポーネントである，EUR Print Manager - Adapter と EUR Print Manager - Report Server Adapter の環境設定をします。

次に示すファイルのフルパスをクラスパスに設定してください。

- EUR Print Manager - Adapter の設定
  - Windows 環境（32 ビット）の場合
    EUR Print Manager - Adapter のインストール先フォルダ
    ¥java¥EURPMAdapter.jar
  - Windows 環境（64 ビット）の場合
    EUR Print Manager - Adapter のインストール先フォルダ
    ¥java(x64)¥EURPMAdapter.jar

- UNIX/Linux 環境の場合
  /opt/eurpm_adp/java/EURPMAdapter.jar

- EUR Print Manager - Report Server Adapter の設定
  - Windows 環境（32 ビット）の場合
    EUR Print Manager - Report Server Adapter のインストール先フォルダ
    ¥java¥EURPMLSAdapter.jar
  - Windows 環境（64 ビット）の場合
    EUR Print Manager - Report Server Adapter のインストール先フォルダ
    ¥java(x64)¥EURPMLSAdapter.jar
  - UNIX/Linux 環境の場合
    /opt/eurpmls_adp/java/EURPMLSAdapter.jar

また，次に示すフォルダまたはディレクトリに，ライブラリのパスを通してください。

- EUR Print Manager - Adapter の設定
  - Windows 環境（32 ビット）の場合
    EUR Print Manager - Adapter のインストール先フォルダ ¥java
  - Windows 環境（64 ビット）の場合
    EUR Print Manager - Adapter のインストール先フォルダ ¥java(x64)
  - UNIX/Linux 環境（32 ビット）の場合
    /opt/eurpm_adp/lib
  - UNIX/Linux 環境（64 ビット）の場合
    /opt/eurpm_adp/lib64

- EUR Print Manager - Report Server Adapter の設定
  - Windows 環境（32 ビット）の場合
    EUR Print Manager - Report Server Adapter のインストール先フォルダ ¥java
  - Windows 環境（64 ビット）の場合
    EUR Print Manager - Report Server Adapter のインストール先フォルダ ¥java(x64)
  - UNIX/Linux 環境（32 ビット）の場合
    /opt/eurpmls_adp/lib
  - UNIX/Linux 環境（64 ビット）の場合
    /opt/eurpmls_adp/lib64

クラスパスの設定，およびライブラリのパスの設定については，JDK のマニュアルを参照してください。

（5） Web/AP サーバの環境設定

Web/AP サーバの環境設定をします。Web/AP サーバに蓄積管理 GUI サービスを登録してください。

登録方法については，Web/AP サーバのマニュアルを参照してください。

(6) 蓄積管理 GUI の起動

Web/AP サーバに登録した蓄積管理 GUI サービスを起動します。詳細については，Web/AP サーバのマニュアルを参照してください。

3.2.2 クライアント PC の設定

クライアント PC の設定について次に示します。

(1) 前提コンポーネントの準備

- EUR Print Manager - Client Print ActiveX
  蓄積ファイルを印刷する場合に使用します。
- EUR Print Manager - Client Preview ActiveX
  蓄積ファイルをプレビュー表示する場合に使用します。

(2) 前提プログラムの準備

- Internet Explorer 6 以降
- Adobe Flash Player 9 以降

(3) EUR Print Manager - Client Print ActiveX および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX のインストール

EUR Print Manager - Client Print ActiveX および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX は，次のどれかの形式でインストールできます。

- クライアントインストール
- MSI インストーラによるインストール
- ダウンロードパッケージによるインストール

インストール方法については，「8.1.3　EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX の使用方法」を参照してください。また，インストールに必要なユーザー権限については，「表 B-1　製品のインストールに必要なユーザー権限」を参照してください。

クライアントインストール，または MSI インストーラによるインストールの場合は，蓄積管理 GUI に接続する前にクライアント PC にインストールします。

ダウンロードパッケージによるインストールの場合は，蓄積管理 GUI の初回接続時にクライアント PC にインストールします。蓄積管理 GUI に接続する前に，蓄積管理 GUI の環境設定ファイル（EURPMRSGUI.ini）の OPTION セクションの PATH キーに，ダウンロードパッケージ（cab ファイル）の格納場所の URL を指定してください。

cab ファイルの格納場所の指定例を次に示します。

```
[OPTION]
PATH=http://192.168.1.1/EURPMRSGUI/
```

なお，クライアント PC の環境によってマシン単位でのインストールとユーザー単位でのインストールを切り替える場合は，蓄積管理 GUI の環境設定ファイル（EURPMRSGUI.ini）の OPTION セクションに次のように指定してください。

PATH キー

ユーザー単位インストール用のダウンロードパッケージの格納場所の URL を指定してください。

PATH_MACHINE キー

マシン単位インストール用のダウンロードパッケージの格納場所の URL を指定してください。

指定例を次に示します。

```
[OPTION]
PATH=http://192.168.1.1/EURPMRSGUI/USER/
PATH_MACHINE=http://192.168.1.1/EURPMRSGUI/MACHINE/
```

蓄積管理 GUI の環境設定ファイルについては，「16.6　環境設定ファイル（蓄積管理 GUI）」を参照してください。また，ダウンロードパッケージの種類については，「付録 B.11(1)(a)　ダウンロードパッケージの種類」を参照してください。

クライアントインストール，または MSI インストーラによるインストールの場合は，cab ファイルの格納場所を指定する必要はありません。

（4）EUR Print Manager - Client Print ActiveX および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX の環境設定

蓄積管理 GUI 使用時にダウンロードする EPF 形式ファイルのファイルサイズの上限を，750 ～ 2,000,000 キロバイトの範囲で必要に応じて指定します。EPF 形式ファイルがダウンロードされるのは，帳票をプレビュー表示した場合，および帳票の印刷時に［このマシンで印刷］を選択した場合です。指定を省略した場合のファイルサイズの上限は，2,000,000 キロバイトです。なお，指定した値を超えるサイズのファイルをダウンロードしようとするとエラーとなります。

ファイルサイズの上限は，蓄積管理 GUI の環境設定ファイル（EURPMRSGUI.ini）の OPTION セクションの EPFDATAMAXSIZE キーで指定します。蓄積管理 GUI の環境設定ファイルについては，「16.6　環境設定ファイル（蓄積管理 GUI）」を参照してください。

ファイルサイズの上限を 2,056 キロバイトとする場合の指定例を次に示します。

```
[OPTION]
EPFDATAMAXSIZE=2056
```

3.2.3 蓄積管理 GUI の表示方法

蓄積管理 GUI の表示方法について説明します。

1. **クライアント PC のブラウザから URL「http:// ＜蓄積管理 GUI サービス IP アドレス＞ / ＜サービス名＞ /」にアクセスします。**
   ［蓄積管理ユーザの設定］画面が表示されます。
   （例）
   次に示す条件の場合，URL は「http://192.168.15.50/eurpmrsgui/」になります。
   ＜蓄積管理 GUI サービス IP アドレス＞：192.168.15.50
   ＜サービス名＞：eurpmrsgui
   なお，＜サービス名＞には，Web/AP サーバの環境設定で登録した蓄積管理 GUI サービスの名称を指定してください。

2. **蓄積管理ユーザ名および確認キーをテキストボックスに入力します。**
   蓄積管理 GUI が起動し，メイン画面が表示されます。
   蓄積管理ユーザ名，および確認キーを入力しなかった場合は，デフォルト蓄積管理ユーザとして操作できます。入力項目の詳細については，「3.4.1(1) ［蓄積管理ユーザの設定］画面の設定項目」を参照してください。また，デフォルト蓄積管理ユーザについては，「5. 蓄積ファイルのセキュリティ管理」を参照してください。

蓄積管理 GUI を終了するときは，蓄積管理 GUI のメニューバーから［ファイル］－［終了］を選択します。

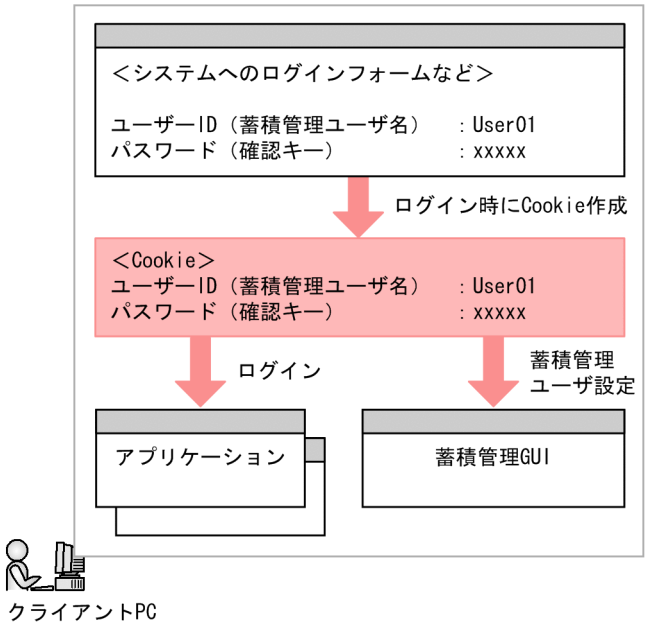
なお，ユーザーの認証情報（蓄積管理ユーザ名と確認キー）を業務アプリケーションと蓄積管理 GUI とで連携させることで，［蓄積管理ユーザの設定］画面の表示を省略できます。詳細については，「3.2.4 業務アプリケーションとの連携」を参照してください。

3.2.4 業務アプリケーションとの連携

ユーザーの認証情報（蓄積管理ユーザ名と確認キー）を業務アプリケーションと蓄積管理 GUI とで連携させることで，［蓄積管理ユーザの設定］画面の表示を省略できます。これにより，蓄積管理 GUI を利用するたびに，蓄積管理ユーザ名および確認キーを入力する手間を省けます。

ユーザーの認証情報の連携には，ブラウザの Cookie を使用します。ユーザーの認証情報を，業務アプリケーションと蓄積管理 GUI とで連携させたときのシステムの利用イメージを，次の図に示します。

図 3-2　ユーザーの認証情報を連携させたときのシステムの利用イメージ



システムへのログイン時に入力した，ユーザー ID やパスワードなどの認証情報を，ブラウザの Cookie に保存しておきます。蓄積管理 GUI の起動時に，Cookie に保存された認証情報を読み込み，蓄積管理ユーザとして設定します。これにより，蓄積管理ユーザ名および確認キーを入力することなく，蓄積管理 GUI を利用できます。

(1) 準備しておくこと

次のどちらかの方法で，システムへのログイン時に入力するユーザーの認証情報を Cookie の NAME パラメタに設定する仕組みを準備します。

- シングルサインオン製品など，ユーザーの認証情報を管理できる製品を導入する。
- Java サーブレットや JavaScript などを使用して，システムへのログインフォームを作成し，ユーザーの認証情報を事前に取得する。

ユーザーの認証情報を設定する Cookie の NAME パラメタを次の表に示します。

表 3-1　ユーザーの認証情報を設定する Cookie の NAME パラメタ

項番	パラメタ名	データ型	説明
1	EURPM_UserName	String	蓄積管理ユーザ名を 80 バイト以内で指定します。 制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は指定できません。 80 バイトを超えて指定した場合は，デフォルト蓄積管理ユーザとして動作します。

項番	パラメタ名	データ型	説明
2	EURPM_CheckString	String	蓄積管理ユーザ名に対応する確認キーを，80 バイト以内で指定します。制御コード（0x00 ～ 0x1F, 0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は指定できません。 EURPM_CheckString パラメタは，EURPM_UserName パラメタが指定されている場合だけ有効になります。 80 バイトを超えて指定した場合は，デフォルト蓄積管理ユーザとして動作します。
3	EURPM_DefaultUserFlg	String	蓄積管理ユーザとしてデフォルト蓄積管理ユーザを設定する場合に，「YES」と指定します。 EURPM_DefaultUserFlg パラメタは，EURPM_UserName パラメタが指定されていないときだけ有効になります。 「YES」以外の値を指定した場合，または値を指定しなかった場合は，［蓄積管理ユーザの設定］画面が表示されます。

なお，Cookie の NAME パラメタに値を設定するときは，URL エンコードを実施してください。URL エンコードを実施しないと，蓄積管理ユーザ名および確認キーを正しく設定できません。

Java サーブレットを使用するとき

URLEncode.encode()

JavaScript を使用するとき

encodeURIComponent()

(2) コーディング例

蓄積管理ユーザ名と確認キーを Cookie に設定するコーディング例を次に示します。

(a) Java サーブレットの場合

ログインフォームから送信された蓄積管理ユーザ名（UserName）と確認キー（CheckString）を取得し，Cookie として保存します。

```
public void doGet(HttpServletRequest req, HttpServletResponse res)
  throws IOException, ServletException{
  res.setContentType("text/html; charset=UTF-8"); // エンコード方式
  req.setCharacterEncoding("UTF-8");              // エンコード方式
  // 蓄積管理ユーザ名を取得する
  String strUserName = req.getParameter("UserName");
  // 確認キーを取得する
  String strPassword = req.getParameter("CheckString");

  // Cookieに保存する値をURLエンコードする
  String strEncUser = URLEncoder.encode(strUserName , "UTF-8");
  String strEncPass = URLEncoder.encode(strPassword , "UTF-8");
```

```
    // 蓄積管理ユーザ名のCookieのNAMEパラメタを作成する
    Cookie ckEURPMUser = new Cookie("EURPM_UserName " , strEncUser);
    // 蓄積管理ユーザ名のCookieを保存する
    res.addCookie(ckEURPMUser);

    // 確認キーのCookieのNAMEパラメタを作成する
    Cookie ckEURPMCheck = new Cookie("EURPM_CheckString " ,
strEncPass);
    // 確認キーのCookieを保存する
    res.addCookie(ckEURPMCheck);
    }
  }
```

(b) JavaScript の場合

［Cookie 書き込み］ボタンをクリックすると，［蓄積管理ユーザ名］テキストボックスおよび［確認キー］テキストボックスに入力した値が Cookie に書き込まれます。

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>Cookieの設定例</TITLE>
</HEAD>
<BODY><SCRIPT language="JavaScript">
<!--
// -===*===- -===*===- -===*==-- --==*===- -==*==---
// Cookieへの書き込み
//     引数：kword=キーワード    kdata=データ
// -===*===- -===*===- -===*==-- --==*===- -==*==---
function CookieWrite(kword, kdata)
{
  // Cookieに保存する値をURLエンコードして保存する
  document.cookie = kword + "=" + encodeURIComponent (kdata)";
}
//-->
</SCRIPT>
<P>Cookieの設定例</P>
<FORM name="cookie01">キーワード<BR>
 蓄積管理ユーザ名 = <INPUT size="20" type="text" name="dat">
<BR>
 確認キー = <INPUT size="20" type="text" name="dat">
<BR>
 <INPUT type="button" value="Cookie書き込み"
 onclick='CookieWrite("EURPM_UserName",dat[0].value,1);'
         'CookieWrite("EURPM_CheckString",dat[1].value,1);'>
<BR>
</FORM>
</BODY>
</HTML>
```

3.3 画面構成

ここでは，蓄積管理 GUI の画面構成について説明します。

3.3.1 メイン画面

蓄積管理 GUI のメイン画面を次に示します。

図 3-3 蓄積管理 GUI のメイン画面

- メニュー領域
  蓄積管理 GUI を操作するメニューバーおよびツールバーが表示されます。
- ツリー領域
  拠点サーバの一覧，および蓄積ファイルの検索条件の一覧が表示されます。
- リストビュー領域
  ツリー領域で選択した拠点サーバのサーバ情報，および蓄積ファイルの一覧取得の結果が表示されます。
- 状態表示領域
  蓄積ファイルの一覧を取得する場合の進捗状況が表示されます。

3.3.2 メニュー領域

メニュー領域を次に示します。

図 3-4 メニュー領域（蓄積管理 GUI）

表 3-2 蓄積管理 GUI のメニュー

メニュー（メニューバー）		機能	ボタン（ツールバー）
ファイル	終了	蓄積管理 GUI を終了します。	－
ジョブ	プレビュー	選択した蓄積ファイルを［プレビュー］画面に表示します。 プレビュー表示については，「3.5.1 プレビュー表示」を参照してください。	プレビュー
	印刷	選択した蓄積ファイルを印刷します。 印刷については，「3.5.2 印刷」を参照してください。	印刷
	属性参照	選択した蓄積ファイルの属性を表示します。 属性の参照については，「3.4.4 蓄積ファイルの属性値の参照」を参照してください。	属性参照
	属性変更	選択した蓄積ファイルの属性を変更します。 属性の変更については，「3.4.5 蓄積ファイルの属性値の変更」を参照してください。	属性変更
	削除	選択した蓄積ファイルを削除します。 蓄積ファイルの削除については，「3.4.6 蓄積ファイルの削除」を参照してください。	削除
実行	蓄積期限が切れた蓄積ファイルの一括削除	選択した拠点サーバにある蓄積期限が切れた蓄積ファイルを削除します。 一括削除については，「3.4.7 蓄積期限が切れた蓄積ファイルの一括削除」を参照してください。	－
設定	蓄積管理ユーザの設定	蓄積管理ユーザを設定します。 蓄積管理ユーザの設定については，「3.4.1 蓄積管理ユーザの設定」を参照してください。	－
	検索条件設定	蓄積ファイルの検索条件を設定します。 検索条件の設定については，「3.4.8 蓄積ファイルの検索」を参照してください。	－
ヘルプ	バージョン情報	蓄積管理 GUI のバージョン情報を表示します。	－

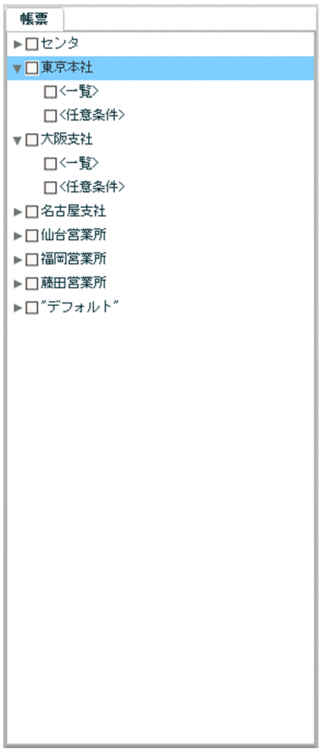
（凡例）

－：該当するボタンはありません。

3.3.3 ツリー領域

ツリー領域を次に示します。

図 3-5 ツリー領域（蓄積管理 GUI）



拠点サーバ一覧

拠点サーバの出力先名が定義順で表示されます。
デフォルトの出力先については，「" デフォルト "」と表示されます。
拠点サーバの出力先名をクリックすることで，拠点サーバのサーバ情報をリストビュー領域に表示できます。また，▶ アイコンをクリックすることで，検索条件名の表示と非表示の切り替えができます。

▶ アイコン

検索条件名が非表示の状態です。

▼ アイコン

検索条件名が表示されている状態です。

検索条件名

- **[一覧]**
  ［一覧］をクリックすることで，選択している拠点サーバの蓄積ファイルの一覧をリストビュー領域に表示できます。一覧を更新するときは，再度クリックします。
- **[任意条件]**
  ［任意条件］をダブルクリックすることで，ツリー領域に検索条件表示が表示され，蓄積ファイルの検索条件を設定できます。

また，［任意条件］をクリックすることで，設定した条件に該当する蓄積ファイルをリストビュー領域に表示できます。一覧を更新するときは，再度クリックします。
なお，検索条件を設定していない状態で［任意条件］をクリックした場合は，［一覧］をクリックした場合と同様に，選択している拠点サーバの蓄積ファイルの一覧をリストビュー領域に表示します。

検索条件表示

蓄積ファイルの検索条件を設定できます。［任意条件］をダブルクリックすると表示されます。検索条件の設定については，「3.4.8　蓄積ファイルの検索」を参照してください。

3.3.4　リストビュー領域

リストビュー領域は，操作によって表示される内容が次のように変わります。

- サーバ情報表示
  ツリー領域で拠点サーバの出力先名をクリックした場合に表示されます。
- 一覧表示
  ツリー領域で検索条件名をクリックした場合に表示されます。

（1）サーバ情報表示

サーバ情報表示を次に示します。

図 3-6　サーバ情報表示

［サーバ情報］

ツリー領域で選択した拠点サーバのサーバ情報が表示されます。

[出力先名]

拠点サーバの出力先名が表示されます。

[説明]

出力先の説明が表示されます。

(2) 一覧表示

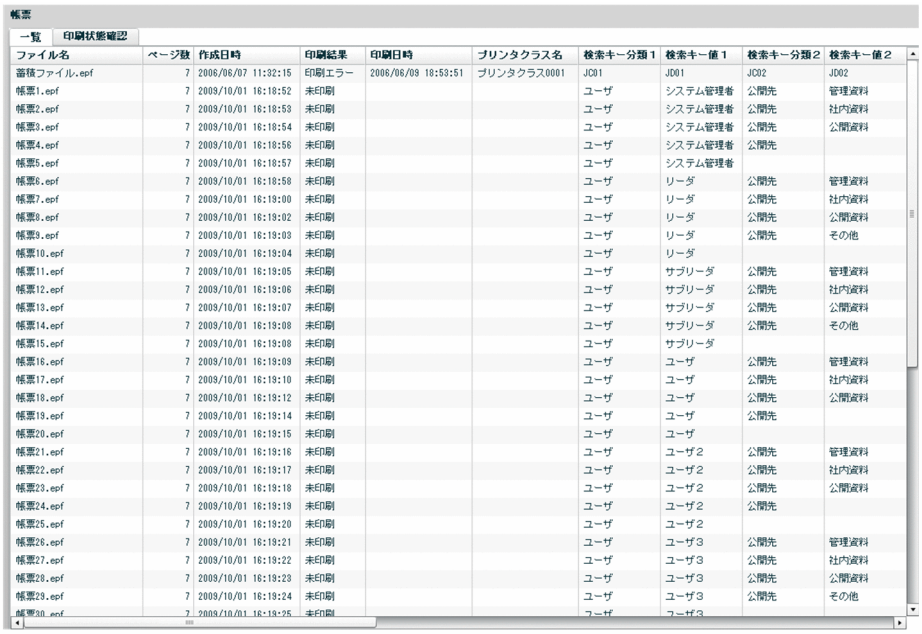
一覧表示の構成を次に示します。

- ［一覧］タブ
  ツリー領域で選択した拠点サーバの蓄積ファイルの一覧が表示されます（デフォルト）。
- ［印刷状態確認］タブ
  ツリー領域で選択した拠点サーバの蓄積ファイルの一覧が，未印刷か印刷済みかで分かれて表示されます。

(a) ［一覧］タブ

［一覧］タブを次に示します。

図 3-7 ［一覧］タブ



ファイル名	ページ数	作成日時	印刷結果	印刷日時	プリンタクラス名	検索キー分類1	検索キー値1	検索キー分類2	検索キー値2
蓄積ファイル.epf	7	2008/08/07 11:32:15	印刷エラー	2008/08/09 18:53:51	プリンタクラス0001	JC01	JD01	JC02	JD02
帳票1.epf	7	2009/10/01 16:18:52	未印刷			ユーザ	システム管理者	公開先	管理資料
帳票2.epf	7	2009/10/01 16:18:53	未印刷			ユーザ	システム管理者	公開先	社内資料
帳票3.epf	7	2009/10/01 16:18:54	未印刷			ユーザ	システム管理者	公開先	公開資料
帳票4.epf	7	2009/10/01 16:18:56	未印刷			ユーザ	システム管理者	公開先	
帳票5.epf	7	2009/10/01 16:18:57	未印刷			ユーザ	システム管理者		
帳票6.epf	7	2009/10/01 16:18:58	未印刷			ユーザ	リーダ	公開先	管理資料
帳票7.epf	7	2009/10/01 16:19:00	未印刷			ユーザ	リーダ	公開先	社内資料
帳票8.epf	7	2009/10/01 16:19:02	未印刷			ユーザ	リーダ	公開先	公開資料
帳票9.epf	7	2009/10/01 16:19:03	未印刷			ユーザ	リーダ	公開先	その他
帳票10.epf	7	2009/10/01 16:19:04	未印刷			ユーザ	リーダ		
帳票11.epf	7	2009/10/01 16:19:05	未印刷			ユーザ	サブリーダ	公開先	管理資料
帳票12.epf	7	2009/10/01 16:19:06	未印刷			ユーザ	サブリーダ	公開先	社内資料
帳票13.epf	7	2009/10/01 16:19:07	未印刷			ユーザ	サブリーダ	公開先	公開資料
帳票14.epf	7	2009/10/01 16:19:08	未印刷			ユーザ	サブリーダ	公開先	その他
帳票15.epf	7	2009/10/01 16:19:08	未印刷			ユーザ	サブリーダ		
帳票16.epf	7	2009/10/01 16:19:09	未印刷			ユーザ	ユーザ	公開先	管理資料
帳票17.epf	7	2009/10/01 16:19:10	未印刷			ユーザ	ユーザ	公開先	社内資料
帳票18.epf	7	2009/10/01 16:19:12	未印刷			ユーザ	ユーザ	公開先	公開資料
帳票19.epf	7	2009/10/01 16:19:14	未印刷			ユーザ	ユーザ	公開先	
帳票20.epf	7	2009/10/01 16:19:15	未印刷			ユーザ	ユーザ		
帳票21.epf	7	2009/10/01 16:19:16	未印刷			ユーザ	ユーザ2	公開先	管理資料
帳票22.epf	7	2009/10/01 16:19:17	未印刷			ユーザ	ユーザ2	公開先	社内資料
帳票23.epf	7	2009/10/01 16:19:18	未印刷			ユーザ	ユーザ2	公開先	公開資料
帳票24.epf	7	2009/10/01 16:19:19	未印刷			ユーザ	ユーザ2	公開先	
帳票25.epf	7	2009/10/01 16:19:20	未印刷			ユーザ	ユーザ2		
帳票26.epf	7	2009/10/01 16:19:21	未印刷			ユーザ	ユーザ3	公開先	管理資料
帳票27.epf	7	2009/10/01 16:19:22	未印刷			ユーザ	ユーザ3	公開先	社内資料
帳票28.epf	7	2009/10/01 16:19:23	未印刷			ユーザ	ユーザ3	公開先	公開資料
帳票29.epf	7	2009/10/01 16:19:24	未印刷			ユーザ	ユーザ3	公開先	その他
帳票30.epf	7	2009/10/01 16:19:25	未印刷			ユーザ	ユーザ3		

[ファイル名]

ファイル名が表示されます。

[ページ数]

ページ数が表示されます。

[作成日時]
作成日時が表示されます。

[印刷結果]
印刷結果が表示されます。

[印刷日時]
最新の印刷日時が表示されます。

[プリンタクラス名]
プリンタクラス名が表示されます。

[検索キー分類 n（n：1 ～ 10)]
ジョブ検索キーの分類が表示されます。

[検索キー値 n（n：1 ～ 10)]
ジョブ検索キーのキー値が表示されます。

[印刷実行回数]
印刷実行回数が表示されます。

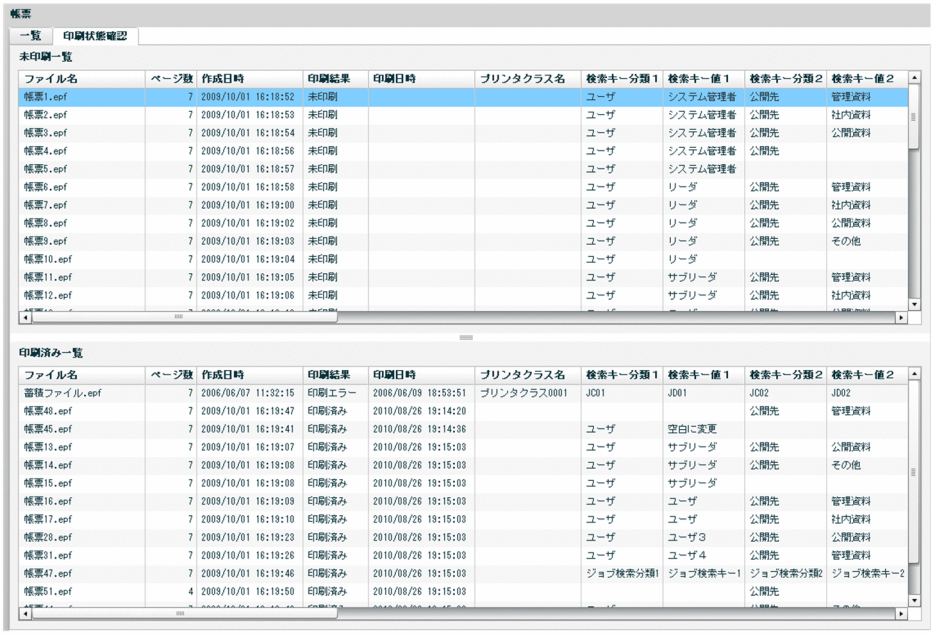
[ジョブ ID]
ジョブ ID が表示されます。デフォルトは，ジョブ ID の昇順で表示されます。

一覧の各項目名をクリックすると，昇順または降順にソートして表示されます。ただし，一覧取得中はソートできません。

(b) [印刷状態確認] タブ

［印刷状態確認］タブを次に示します。

図 3-8 ［印刷状態確認］タブ



［未印刷一覧］

ツリー領域で選択した拠点サーバの蓄積ファイルの情報のうち，未印刷の蓄積ファイルが一覧で表示されます。

［印刷済み一覧］

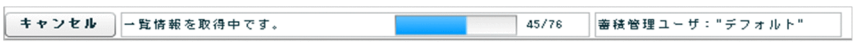
ツリー領域で選択した拠点サーバの蓄積ファイルの情報のうち，印刷済みの蓄積ファイルが一覧で表示されます。

一覧の各項目については，「(a) ［一覧］タブ」を参照してください。

3.3.5 状態表示領域

状態表示領域を次に示します。

図 3-9 状態表示領域



［キャンセル］ボタン

一覧の取得を途中でキャンセルします。

一覧の取得をキャンセルすると，「一覧情報の取得を中断しました。」と表示されます。なお，キャンセルを実行する前にすでに取得した情報がある場合は，リストビュー領域に一覧で表示されます。

状態表示

蓄積ファイルの一覧を取得する場合の進捗状況が「＜取得済み蓄積ファイル数＞／＜全蓄積ファイル数＞」の形式で表示されます。

一覧の取得が終了すると，「全ての一覧情報を取得しました。」と表示されます。なお，一覧の取得中は［キャンセル］ボタンをクリックする以外の操作はできません。

［蓄積管理ユーザ：*蓄積管理ユーザ名*］

蓄積管理 GUI を操作している蓄積管理ユーザ名が表示されます。

デフォルト蓄積管理ユーザの場合は，「 ” デフォルト ”」と表示されます。

3.4 蓄積管理 GUI の操作

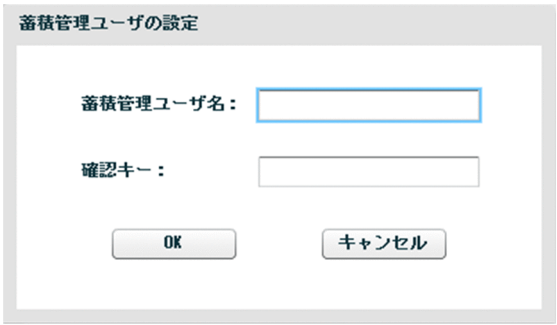
ここでは，蓄積管理 GUI の操作手順について説明します。

蓄積ファイルにアクセスできるユーザーを制限するなど，蓄積ファイルに対してセキュリティが設定されている場合は，蓄積ファイルを操作できないことがあります。蓄積ファイルのセキュリティについては，「5. 蓄積ファイルのセキュリティ管理」を参照してください。

3.4.1 蓄積管理ユーザの設定

蓄積管理 GUI の表示時に，蓄積管理ユーザ名および確認キーを入力して，操作する蓄積管理ユーザを設定できます。また，蓄積管理 GUI を表示したあとで蓄積管理ユーザを切り替えることもできます。

1. **［蓄積管理ユーザの設定］画面の表示**
   蓄積管理 GUI の表示時は，自動的に［蓄積管理ユーザの設定］画面が表示されます。蓄積管理 GUI を表示したあとで蓄積管理ユーザを切り替える場合は，［設定］－［蓄積管理ユーザの設定］を選択して，［蓄積管理ユーザの設定］画面を表示します。



2. **蓄積管理ユーザ名および確認キーの入力**
   蓄積管理ユーザ名および確認キーをテキストボックスに入力します。
   デフォルト蓄積管理ユーザとして操作する場合は，何も入力しません。
   入力した蓄積管理ユーザが存在しない場合，または確認キーが誤っていた場合は，最初の一覧取得時に「蓄積管理ユーザの認証に失敗しました。デフォルトユーザとして動作します。」のメッセージが出力されます。一覧取得時にメッセージが出力された場合は，手順 1. の操作で［蓄積管理ユーザの設定］画面を表示し，蓄積管理ユーザを再設定してください。

3. **［OK］ボタンのクリック**
   ［OK］ボタンをクリックすると，入力した蓄積管理ユーザが設定されます。このとき，ツリービュー領域およびリストビュー領域はデフォルトの状態で表示されます。
   ただし，蓄積管理ユーザ名または確認キーが入力できる文字数を超えている場合はメッセージが表示され，［蓄積管理ユーザの設定］画面に戻ります。［蓄積管理ユーザ

の設定］画面で蓄積管理ユーザ名または確認キーを修正してください。
また，［キャンセル］ボタンをクリックすると，入力した蓄積管理ユーザ名と確認キーの内容をクリアにしてメイン画面に戻ります。

(1) ［蓄積管理ユーザの設定］画面の設定項目

［蓄積管理ユーザ名］テキストボックス

蓄積管理ユーザ名を入力します。80 バイトまで入力できます。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した場合はエラーとなります。入力しなかった場合は，デフォルト蓄積管理ユーザとして動作します。

［確認キー］テキストボックス

確認キーを入力します。半角文字で 80 バイトまで入力できます。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。入力した値は「*」で表示されます。

3.4.2 拠点サーバのサーバ情報の取得

蓄積ファイルが格納されている拠点サーバのサーバ情報を表示できます。

1. **拠点サーバの選択**
   ツリー領域に表示されている拠点サーバ一覧から，サーバ情報を表示したい拠点サーバの出力先名をクリックします。
2. **拠点サーバのサーバ情報の表示**
   選択した拠点サーバのサーバ情報がリストビュー領域に表示されます。
   詳細については，「3.3.4(1)　サーバ情報表示」を参照してください。

3.4.3 蓄積ファイルの一覧取得

拠点サーバおよび蓄積ファイルの情報を取得し，表示できます。

なお，一覧を取得する場合，取得する情報量に応じた処理時間が掛かります。一度に一覧を取得する蓄積ファイルの件数は，10,000 件程度までとすることを推奨します。

1. **蓄積ファイルの取得方法の選択**
   ツリー領域に表示されている拠点サーバの ▶ アイコンをクリックして検索条件名を表示します。
   - **すべての蓄積ファイルの情報を取得する場合**
     検索条件名の［一覧］をクリックします。
   - **検索条件を設定して蓄積ファイルの情報を取得する場合**
     検索条件名の［任意条件］をダブルクリックして検索条件表示を表示します。
     検索条件の設定については，「3.4.8　蓄積ファイルの検索」を参照してください。
     検索条件を設定したら，［任意条件］をクリックします。

蓄積ファイル数が多い場合は自動的に情報を分割して取得します。この場合，状態表示領域に進捗状況が表示されます。詳細については，「3.3.5　状態表示領域」を参照してください。

注意事項

蓄積管理ユーザの設定で，入力した蓄積管理ユーザが存在しない場合，または確認キーが誤っていた場合は，最初の一覧取得時に「蓄積管理ユーザの認証に失敗しました。デフォルトユーザとして動作します。」のメッセージが出力されます。一覧取得時にメッセージが出力された場合は，蓄積管理ユーザを再設定してください。
蓄積管理ユーザの設定については，「3.4.1　蓄積管理ユーザの設定」を参照してください。

2. **一覧の参照**
   リストビュー領域に取得した蓄積ファイルの一覧が表示されます。
   取得した蓄積ファイルの一覧を未印刷か印刷済みかで分けて参照したい場合は，［印刷状態確認］タブをクリックしてください。また，一覧の項目名をクリックすることで，昇順または降順にソートして表示できます。
   詳細については，「3.3.4(2)　一覧表示」を参照してください。

3. **一覧の更新**
   ツリー領域の［一覧］または［任意条件］をクリックすることで，一覧を最新の状態に更新できます。
   すべての蓄積ファイルの情報を取得している場合は［一覧］を，検索条件を設定して蓄積ファイルの情報を取得している場合は［任意条件］をクリックしてください。

3.4.4　蓄積ファイルの属性値の参照

蓄積ファイルの属性値を表示し，参照できます。

1. **蓄積ファイルの一覧取得**
   詳細については，「3.4.3　蓄積ファイルの一覧取得」を参照してください。

2. **蓄積ファイルの選択**
   取得した一覧から，属性値を参照する蓄積ファイルを一つ選択します。

3. **属性参照表示の表示**
   ［ジョブ］－［属性参照］を選択するか，または［属性参照］ボタンをクリックします。

4. **属性値の参照**

リストビュー領域に属性参照表示が表示され，属性値を参照できます。

なお，属性参照表示を表示した状態で一覧からほかの蓄積ファイルを選択した場合や，属性参照表示の［OK］ボタンをクリックした場合は，属性参照表示が閉じます。

(1) 属性参照表示の項目

参照できる属性値は次のとおりです。

表 3-3 参照できる属性値

タブ	項目		説明
ファイル属性	格納ファイル名		蓄積ファイルに格納された印刷データの名称
	格納ファイルページ数		蓄積ファイルに格納された印刷データのページ数
	サイズ		蓄積ファイルに格納された印刷データのサイズ
	作成日時		蓄積ファイルの作成日時
	ジョブ ID		蓄積ファイルのジョブ ID
	蓄積ファイルのフォーマットバージョン		蓄積ファイルのフォーマットバージョン
ジョブ属性	蓄積期限		蓄積ファイルの蓄積期限日
	実行回数 / 上限回数	印刷	蓄積ファイルの印刷実行回数 / 印刷上限回数
	出力先情報	プリンタ指定方法	拠点サーバでの印刷時のプリンタ指定方法

タブ	項目		説明
		プリンタクラス名	拠点サーバでの印刷時のプリンタクラス名
		拠点プリンタ名	拠点サーバでの印刷時の OS 上のプリンタ名
		拠点トレイ名	拠点サーバでの印刷時の OS 上のトレイ名
		クライアントプリンタ名	クライアント PC での印刷時の OS 上のプリンタ名
		クライアントトレイ名	クライアント PC での印刷時の OS 上のトレイ名
		帳票振り分けグループ名	蓄積ファイルの振り分けグループ名
	印刷方式	実行可能印刷方式	蓄積ファイルの実行できる印刷方式
	その他	ダイアログ表示モード	クライアント PC での印刷時のダイアログ表示モード
		クライアント IP アドレス	クライアント PC での印刷時の出力先のクライアント IP アドレス
		取得可否	蓄積ファイルの取得可否
検索属性	分類		ジョブ検索キーの分類
	値		ジョブ検索キーの値
状態属性	印刷結果		蓄積ファイルの最新の印刷結果
	印刷日時		蓄積ファイルの最新の印刷日時
履歴	種別		蓄積ファイルを操作した内容
	操作日時		蓄積ファイルを操作した日時
	操作対象		属性変更を実行した属性名
	変更前情報		属性変更前の属性値
	変更後情報		属性変更後の属性値
	印刷実行結果		印刷の実行結果

3.4.5 蓄積ファイルの属性値の変更

蓄積ファイルの属性値を変更できます。

1. **蓄積ファイルの一覧取得**
   詳細については,「3.4.3 蓄積ファイルの一覧取得」を参照してください。
2. **蓄積ファイルの選択**
   取得した一覧から，属性値を変更する蓄積ファイルを一つ選択します。
3. **属性変更表示の表示**
   ［ジョブ］－［属性変更］を選択するか，または［属性変更］ボタンをクリックします。

4. **属性値の変更**

   リストビュー領域に属性変更表示が表示され，属性値を変更できます。変更できる属性値については，「(1)　属性変更表示の設定項目」を参照してください。

5. **［OK］ボタンのクリック**

   属性変更表示の［OK］ボタンをクリックすると，指定した属性値が変更されます。ただし，次の場合はメッセージが表示され，属性変更表示に戻ります。

   - 属性値に入力できない文字があった場合
   - 属性値が入力できる文字数を超えている場合
   - ［検索属性］タブの［検索キー］の［分類］が未入力で［値］が入力済みの場合

   なお，属性変更表示を表示している場合，一覧でほかの蓄積ファイルは選択できません。［キャンセル］ボタンをクリックした場合は，属性値は変更されないで属性変更表示が閉じます。

(1) 属性変更表示の設定項目

属性変更表示で変更できる属性値について説明します。

(a) ［ジョブ属性］タブ

［蓄積期限］テキストボックス

蓄積ファイルの蓄積期限を指定します。

蓄積期限は，属性値の変更を実施する日～ 2038/01/18 の範囲で入力します。年月日はテキストボックスに直接入力するか，カレンダーの日付をクリックして指定します。 アイコンをクリックするとカレンダーが表示されます。カレンダーについて

は，「(c) カレンダー」を参照してください。

[実行回数 / 上限回数] グループボックス

[印刷]

印刷回数の上限を指定します。

- **[上限指定] オプションボタン**
  印刷回数の上限を設定する場合に指定します。
  印刷回数の上限は，1 ～ 65,536 の範囲で指定できます。[上限指定] オプションボタンの左にあるテキストボックスに，半角数字で入力してください。
- **[上限なし] オプションボタン**
  印刷回数の上限を設定しない場合に指定します。

[出力先情報] グループボックス

[プリンタ指定方法] プルダウンメニュー

プリンタ指定方法を指定します。プルダウンメニューから次のどれかを選択します。

- プリンタクラス名指定
- OS 上のプリンタ名指定
- 帳票名による自動振り分け

[プリンタクラス名] テキストボックス

拠点サーバでの印刷時のプリンタクラス名を入力します。80 バイトまで入力できます。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した場合はエラーとなります。

[拠点プリンタ名] テキストボックス

拠点サーバのプリンタ名を入力します。80 バイトまで入力できます。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した場合はエラーとなります。

[拠点トレイ名] テキストボックス

拠点サーバのプリンタのトレイ名を入力します。80 バイトまで入力できます。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した場合はエラーとなります。

[クライアントプリンタ名] テキストボックス

クライアントのプリンタ名を入力します。80 バイトまで入力できます。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した場合はエラーとなります。

[クライアントトレイ名] テキストボックス

クライアントのプリンタのトレイ名を入力します。80 バイトまで入力できま

す。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した場合はエラーとなります。

［帳票振り分けグループ名］テキストボックス

蓄積ファイルの振り分けグループ名を入力します。80 バイトまで入力できます。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した場合はエラーとなります。

［印刷方式］グループボックス

［実行可能印刷方式］プルダウンメニュー

実行可能印刷方式を指定します。プルダウンメニューから次のどれかを選択します。

- 蓄積拠点サーバ印刷
- 蓄積拠点サーバ印刷／蓄積クライアント印刷
- 蓄積クライアント印刷

［ダイアログ表示モード］プルダウンメニュー

クライアント PC での印刷時のダイアログ表示モードを指定します。プルダウンメニューから次のどれかを選択します。

- 対話型印刷
- 自動印刷
- 対話型印刷プレビュー表示
- 全自動印刷
- 対話型印刷プレビュー表示限定

［クライアント IP アドレス］テキストボックス

クライアント PC での印刷時の出力先のクライアント IP アドレスを指定します。入力形式は「xxx.xxx.xxx.xxx」です。

［取得可否］チェックボックス

蓄積ファイルの取得可否を指定します。チェックを入れると蓄積ファイルが取得可能となります。

(b) ［検索属性］タブ

［検索キー］

ジョブ検索キーの分類と値を指定します。分類と値のペアは，分類だけ入力し，値を省略することができます。ただし，値を入力した検索キーの分類は省略できません。

［分類］テキストボックス

ジョブ検索キーの分類を入力します。80 バイトまで入力できます。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した

場合はエラーとなります。

［値］テキストボックス
ジョブ検索キーの値を入力します。80 バイトまで入力できます。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した場合はエラーとなります。

(c) カレンダー

カレンダーを次に示します。

図 3-10 カレンダー

デフォルトでは，設定されている蓄積期限日が反転表示されます。

アイコン
前の月を表示します。

アイコン
次の月を表示します。

アイコン
次の年を表示します。

アイコン
前の年を表示します。

3.4.6 蓄積ファイルの削除

選択した蓄積ファイルを削除できます。

1. **蓄積ファイルの一覧取得**
   詳細については，「3.4.3 蓄積ファイルの一覧取得」を参照してください。
2. **蓄積ファイルの選択**

取得した一覧から，削除する蓄積ファイルを一つ以上選択します。

3. **［削除］画面の表示**
［ジョブ］－［削除］を選択するか，または［削除］ボタンをクリックします。［削除］画面が表示されます。

4. **［OK］ボタンのクリック**
［OK］ボタンをクリックすると，選択した蓄積ファイルが削除されます。
［キャンセル］ボタンをクリックした場合は，蓄積ファイルは削除されないで，［削除］画面が閉じます。

3.4.7 蓄積期限が切れた蓄積ファイルの一括削除

蓄積期限が切れた蓄積ファイルを一括で削除できます。

1. **拠点サーバの選択**
ツリー領域の拠点サーバ一覧から，拠点サーバの出力先名を一つ選択します。

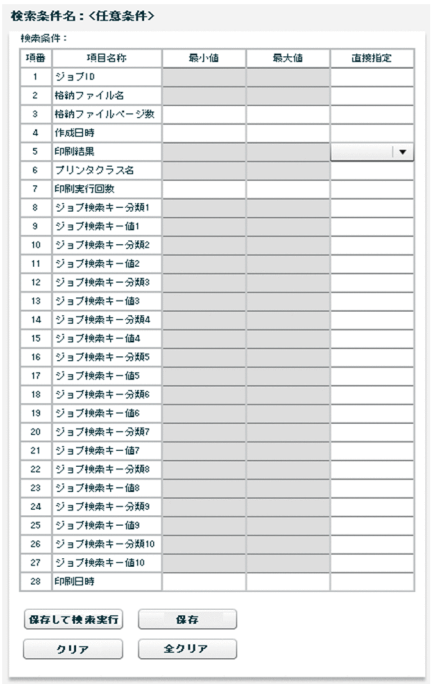
2. **蓄積期限が切れた蓄積ファイルの［一括削除］画面の表示**
［実行］－［蓄積期限が切れた蓄積ファイルの一括削除］を選択します。［蓄積期限が切れた蓄積ファイルの一括削除］は，ツリー領域で拠点サーバを選択している場合にだけ選択できます。［一括削除］画面が表示されます。

3. **［OK］ボタンのクリック**
［OK］ボタンをクリックすると，選択した拠点サーバにある蓄積期限が切れた蓄積ファイルの一括削除が実行されます。
［キャンセル］ボタンをクリックした場合は，蓄積ファイルは削除されないで［一括削除］画面が閉じます。

3.4.8 蓄積ファイルの検索

条件を設定して蓄積ファイルを検索できます。

1. **検索条件表示の表示**
次のどちらかの方法でツリー領域に検索条件表示を表示します。
- ツリー領域で選択したい拠点サーバの出力先名をクリックしたあと，［設定］－［検索条件設定］を選択する。
- ツリー領域で選択したい拠点サーバの ▶ アイコンをクリックしたあと，［任意条件］をダブルクリックする。



2. **検索条件の指定**

検索条件を指定します。検索条件に指定できる項目は，「(1) 検索条件表示の設定項目」を参照してください。なお，複数の条件を指定した場合は，AND 検索となります。

検索条件の項目を選択して［クリア］ボタンをクリックすると，選択している項目の検索条件がクリアされます。また，［全クリア］ボタンをクリックすると，すべての項目の検索条件がクリアされます。

3. **［保存して検索実行］ボタンのクリック**

［保存して検索実行］ボタンをクリックすると，指定した検索条件に該当する蓄積ファイルがリストビュー領域に一覧で表示されます。すぐに検索を実行しないときは，［保存］ボタンをクリックすると，指定した条件を保存できます。

ただし，次の場合はメッセージが表示されます。

- 検索条件の値に入力できない文字があった場合
- 検索条件の値が入力できる文字数を超えている場合
- 検索条件の値が入力できる数値の範囲を超えている場合

なお，指定した検索条件で一覧を更新する場合は，［任意条件］をクリックします。

注意事項

検索条件表示の表示中に，ツリー領域で，拠点サーバの出力先名，［一覧］，または［任意条件］を選択すると，検索条件表示は閉じます。

(1) 検索条件表示の設定項目

検索条件として指定できる項目を次の表に示します。

表 3-4 蓄積ファイルの検索条件

項目	指定方法		
	最小値※1	最大値※1	直接指定※1, ※2
ジョブ ID	×	×	○
格納ファイル名	×	×	○
格納ファイルページ数	○	○	○
作成日時	○	○	○
印刷結果	×	×	○
プリンタクラス名	×	×	○
印刷実行回数	○	○	○
ジョブ検索キー分類 n（n：1 ～ 10）	×	×	○
ジョブ検索キー値 n（n：1 ～ 10）	×	×	○
印刷日時	○	○	○

（凡例）
○：指定できます。
×：指定できません。

注※ 1
最小値または最大値と直接指定を同時に指定した場合は，直接指定が有効となります。このとき，最小値または最大値の指定は無視されます。

注※ 2
文字列または数値を指定します。

各項目について説明します。

[ジョブ ID]
ジョブ ID で検索する場合に指定します。直接指定に文字列で入力します。

[格納ファイル名]
蓄積ファイルの格納ファイル名で検索する場合に指定します。直接指定に文字列で入力します。

[格納ファイルページ数]
蓄積ファイルの格納ファイルページ数で検索する場合に指定します。1 ～ 999,999 の数値で入力します。

[作成日時]
蓄積ファイルの作成日時で検索する場合に指定します。作成日時を指定すると検索

範囲を絞り込めるため，一覧表示が速くなります。指定可能な範囲は，1970/01/01 09:00:00 ～ 2038/01/18 23:59:59（GMT の場合，1970/01/01 00:00:00 ～ 2038/01/18 14:59:59）です。入力形式は「YYYYMMDDhhmmss」です。
「YYYYMMDDhhmmss」形式の内容を次に示します。

- YYYY：年（西暦）を 4 けたで示します。
- MM：月（01 ～ 12）を 2 けたで示します。01 ～ 09 は，ゼロ埋めします。
- DD：日（01 ～ 31）を 2 けたで示します。01 ～ 09 は，ゼロ埋めします。
- hh：時（00 ～ 23）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めします。
- mm：分（00 ～ 59）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めします。
- ss：秒（00 ～ 59）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めします。

[印刷結果]

蓄積ファイルの印刷結果で検索する場合に指定します。直接指定のプルダウンメニューから次のどれかを選択します。

- 未印刷
- 印刷済み
- 印刷エラー

[プリンタクラス名]

蓄積ファイルのプリンタクラス名で検索する場合に指定します。直接指定に文字列で入力します。

[印刷実行回数]

蓄積ファイルの印刷実行回数で検索する場合に指定します。数値で入力できます。

[ジョブ検索キー分類 n（n：1 ～ 10)]

蓄積ファイルのジョブ検索キーの分類で検索する場合に指定します。直接指定に文字列で入力します。

[ジョブ検索キー値 n（n：1 ～ 10)]

蓄積ファイルのジョブ検索キーのキー値で検索する場合に指定します。直接指定に文字列で入力します。

[印刷日時]

蓄積ファイルの印刷日時で検索する場合に指定します。30 バイトまでで入力できます。指定可能な範囲は，1970/01/01 09:00:00 ～ 2038/01/18 23:59:59（GMT の場合，1970/01/01 00:00:00 ～ 2038/01/18 14:59:59）です。入力形式は「YYYYMMDDhhmmss」です。「YYYYMMDDhhmmss」形式の内容を次に示します。

- YYYY：年（西暦）を 4 けたで示します。
- MM：月（01 ～ 12）を 2 けたで示します。01 ～ 09 は，ゼロ埋めします。
- DD：日（01 ～ 31）を 2 けたで示します。01 ～ 09 は，ゼロ埋めします。
- hh：時（00 ～ 23）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めします。
- mm：分（00 ～ 59）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めします。

- ss：秒（00 ～ 59）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めします。

3.5　蓄積ファイルからの印刷

ここでは，蓄積ファイルのプレビュー表示または印刷の操作手順について説明します。

3.5.1　プレビュー表示

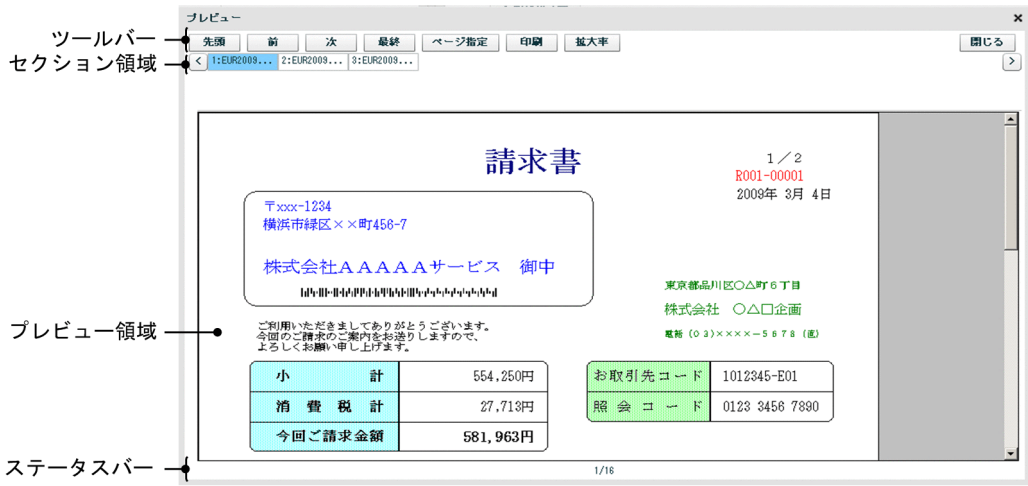
蓄積ファイルを選択して［プレビュー］画面に表示できます。［プレビュー］画面では，蓄積ファイルの印刷イメージを確認できます。

1. **蓄積ファイルの一覧取得**
   詳細については，「3.4.3　蓄積ファイルの一覧取得」を参照してください。

2. **蓄積ファイルの選択**
   取得した一覧から，プレビュー表示する蓄積ファイルを一つ以上選択します。

3. **蓄積ファイルのプレビュー表示**
   ［ジョブ］－［プレビュー］を選択するか，または［プレビュー］ボタンをクリックすると，蓄積ファイルがプレビュー表示されます。また，一覧の蓄積ファイルをダブルクリックすることでも表示できます。
   なお，蓄積ファイルのダウンロードでエラーが発生した場合は，メッセージが表示されます。

(1)［プレビュー］画面の設定項目



ツールバー

［先頭］ボタン
先頭ページに移動します。

［前］ボタン
前ページに移動します。

［次］ボタン
次ページに移動します。

［最終］ボタン
最終ページに移動します。

［ページ指定］ボタン
［指定ページジャンプ］ダイアログが表示されます。指定したページに移動します。［指定ページジャンプ］ダイアログについては，「(2) ［指定ページジャンプ］ダイアログの設定項目」を参照してください。

［印刷］ボタン
［印刷］画面が表示されます。［印刷］画面で印刷の設定ができます。印刷については，「3.5.2 印刷」を参照してください。

［拡大率］ボタン
［拡大率の指定］ダイアログが表示されます。指定した拡大率で蓄積ファイルを表示できます。デフォルトの拡大率は，75% です。［拡大率の指定］ダイアログについては，「(3) ［拡大率の指定］ダイアログの設定項目」を参照してください。

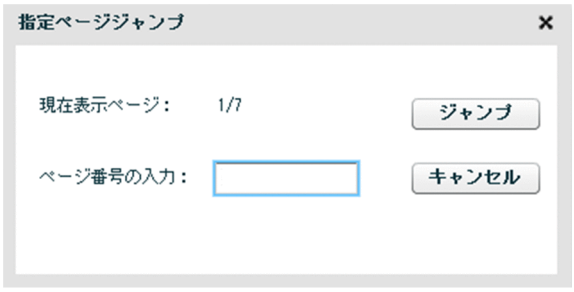
［閉じる］ボタン
［プレビュー］画面を閉じます。

セクション領域
蓄積ファイルのジョブ ID が選択した順に一覧で表示されます。プレビュー領域に表示している蓄積ファイルのジョブ ID が反転表示されます。

プレビュー領域
蓄積ファイルの内容をプレビュー表示します。

ステータスバー
蓄積ファイルのページ番号が表示されます。形式は，「ページ番号 / 総ページ数」です。

(2) ［指定ページジャンプ］ダイアログの設定項目



［現在表示ページ］
プレビュー領域に表示されたページのページ番号が表示されます。形式は，「ページ

番号 / 総ページ数」です。

［ページ番号の入力］テキストボックス

表示したいページ番号を 1 から総ページ数の範囲で入力します。半角数字で入力してください。

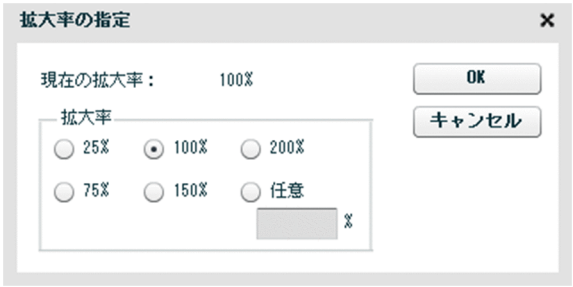
［ジャンプ］ボタン

指定したページをプレビュー領域に表示します。
1 から総ページ数の範囲以外の値を指定した場合はエラーとなります。

［キャンセル］ボタン

表示ページを変更しないで，［指定ページジャンプ］ダイアログを閉じます。

(3) ［拡大率の指定］ダイアログの設定項目



［現在の拡大率］

プレビュー領域に表示された倍率を表示します。

［拡大率］グループボックス

［25%］オプションボタン：蓄積ファイルを 25% の倍率で表示します。
［75%］オプションボタン：蓄積ファイルを 75% の倍率で表示します。
［100%］オプションボタン：蓄積ファイルを 100% の倍率で表示します。
［150%］オプションボタン：蓄積ファイルを 150% の倍率で表示します。
［200%］オプションボタン：蓄積ファイルを 200% の倍率で表示します。
［任意］オプションボタン：任意の拡大率を指定します。

拡大率指定テキストボックス

任意の倍率を入力します。［任意］オプションボタンを選択すると，入力できます。25 ～ 200 の半角数字を指定してください。25 ～ 200 の範囲以外の値を指定した場合はエラーとなります。

［OK］ボタン

指定した拡大率で蓄積ファイルをプレビュー領域に表示します。
25% から 200% の範囲以外の値を指定した場合はエラーとなります。

［キャンセル］ボタン

拡大率を変更しないで，［拡大率の指定］ダイアログを閉じます。

3.5.2 印刷

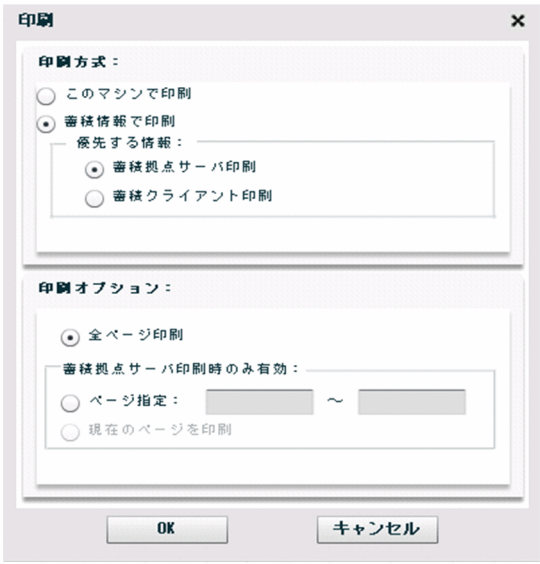
蓄積ファイルを選択して印刷できます。

1. **蓄積ファイルの一覧取得**
   詳細については,「3.4.3 蓄積ファイルの一覧取得」を参照してください。

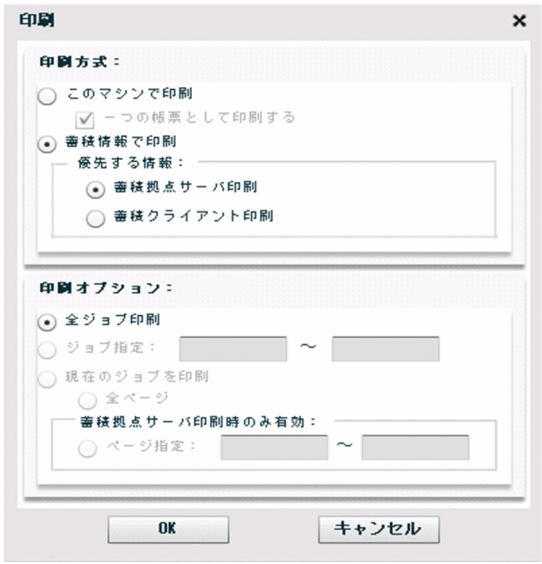
2. **蓄積ファイルの選択**
   取得した一覧から，印刷する蓄積ファイルを一つ以上選択します。

3. **［印刷］画面の表示**
   ［ジョブ］－［印刷］を選択するか，または［印刷］ボタンをクリックすると，［印刷］画面が表示されます。
   なお，手順 2. で蓄積ファイルを選択して［プレビュー］画面を表示したあとに，［印刷］画面を表示することもできます。

蓄積ファイルを一つだけ選択している場合



複数の蓄積ファイルを選択している場合



4. **印刷方式および印刷オプションの指定**

   ［印刷］画面で印刷方式および印刷オプションを指定します。
   印刷範囲は，蓄積ファイルのページ数，または蓄積ファイルのジョブ番号を指定して選択できます。

5. **［OK］ボタンのクリック**

   ［印刷］画面の［OK］ボタンをクリックして，印刷を実行します。
   なお，［このマシンで印刷］オプションボタンを選択している場合は，［OK］ボタン

をクリックしたあと，OS の印刷ダイアログが表示されます。
印刷するプリンタのプリンタ名などを指定して，印刷を実行してください。

注意事項

印刷実行時にエラーが発生した場合は，「蓄積ファイル [*ジョブID*] の印刷に失敗しました。拠点サーバの蓄積ファイルの状態を確認してください。」のメッセージが出力されます。印刷実行時のエラーで蓄積ファイルにアクセスできない場合，蓄積ファイルの［印刷結果］が更新されないことがあります。

(1)［印刷］画面の設定項目

［印刷方式］グループボックス

［このマシンで印刷］オプションボタン

蓄積管理 GUI を操作しているマシンに接続されているプリンタで印刷します。

- **［一つの帳票として印刷する］チェックボックス**
  蓄積ファイルの印刷方法を指定します。チェックを入れると，複数の蓄積ファイルを選択した順序で一つにまとめて印刷できます。
  蓄積ファイルを複数選択し，かつ［このマシンで印刷］オプションボタンを選択している場合にチェックできます。

［蓄積情報で印刷］オプションボタン

蓄積ファイルに設定されている実行可能印刷方式の情報に従って印刷します。
実行可能印刷方式が［蓄積拠点サーバ印刷／蓄積クライアント印刷］の場合は，［優先する情報］の指定に従って印刷されます。

［優先する情報］グループボックス

蓄積拠点サーバ印刷または蓄積クライアント印刷を指定します。［蓄積情報で印刷］オプションボタンを選択すると，入力できます。

- **［蓄積拠点サーバ印刷］オプションボタン**
  蓄積ファイルの実行可能印刷方式が［蓄積拠点サーバ印刷／蓄積クライアント印刷］の場合に，蓄積ファイルの印刷情報を優先して蓄積拠点サーバ印刷を実行します。
- **［蓄積クライアント印刷］オプションボタン**
  蓄積ファイルの実行可能印刷方式が［蓄積拠点サーバ印刷／蓄積クライアント印刷］の場合に，蓄積ファイルの印刷情報を優先して蓄積クライアント印刷を実行します。

［印刷オプション］グループボックス

●蓄積ファイルを一つだけ選択している場合

［全ページ印刷］オプションボタン

全ページを印刷します。

［蓄積拠点サーバ印刷時のみ有効］グループボックス

［ページ指定］オプションボタン

印刷開始ページと印刷終了ページを指定して印刷します。拠点サーバで蓄積印刷を実行した場合だけ指定が有効になります。
［ページ指定］オプションボタンの右にあるテキストボックスに，ページ番号を半角数字で入力してください。印刷開始ページに指定した値が，印刷終了ページに指定した値よりも大きい場合はエラーとなります。

［現在のページを印刷］オプションボタン

プレビュー領域に表示しているページを印刷します。［プレビュー］画面の［印刷］ボタンから［印刷］画面を開いた場合だけ指定できます。なお，拠点サーバで蓄積印刷を実行した場合だけ指定が有効になります。

●複数の蓄積ファイルを選択している場合

［全ジョブ印刷］オプションボタン

選択したすべての蓄積ファイルの全ページを印刷します。

［ジョブ指定］オプションボタン

選択した蓄積ファイルの中から，ジョブ番号を指定して印刷します。［プレビュー］画面の［印刷］ボタンから［印刷］画面を開いた場合だけ指定できます。
［ジョブ指定］オプションボタンの右にあるテキストボックスに，ジョブ番号を半角数字で入力してください。印刷を開始するジョブ番号に指定した値が，印刷を終了するジョブ番号に指定した値よりも大きい場合はエラーとなります。

［現在のジョブを印刷］オプションボタン

プレビュー領域に表示している蓄積ファイルを印刷します。［プレビュー］画面の［印刷］ボタンから［印刷］画面を開いた場合だけ指定できます。

- **［全ページ］オプションボタン**
  プレビュー領域に表示している蓄積ファイルのすべてのページを印刷します。

［蓄積拠点サーバ印刷時のみ有効］グループボックス

- **［ページ指定］オプションボタン**
  プレビュー領域に表示している蓄積ファイルの印刷開始ページと印刷終了ページを指定して印刷します。複数の蓄積ファイルを選択している場合は，選択した蓄積ファイルの総ページ数で指定します。なお，拠点サーバで蓄積印刷を実行した場合だけ指定が有効になります。
  ［ページ指定］オプションボタンの右にあるテキストボックスに，ページ番号を半角数字で入力してください。印刷開始ページに指定した値が，印刷終了ページに指定した値よりも大きい場合はエラーとなります。

［OK］ボタン

指定した印刷方式および印刷オプションで蓄積ファイルを印刷します。
印刷オプションの設定に範囲以外の値を指定した場合はエラーとなります。

［キャンセル］ボタン

［印刷］画面を閉じて，元の画面に戻ります。

4 出力先の設定と帳票の印刷

この章では，帳票の出力先の設定と印刷について説明します。出力先は，拠点サーバの IP アドレスに名前を付けて登録します。拠点サーバやクライアント PC のプリンタとトレイを組み合わせてプリンタクラスを設定したり，プリンタクラスと帳票を組み合わせて帳票振り分け定義を設定したりできます。
また，印刷管理サーバから送られた帳票を印刷する方法について説明します。

4.1 **拠点サーバの設定**

4.2 **印刷管理サーバのプリンタクラスの設定**

4.3 **拠点プリンタクラスの設定**

4.4 **帳票振り分け定義の設定**

4.5 **クライアントプリンタクラスの設定**

4.6 **帳票の印刷**

4.1　拠点サーバの設定

印刷管理サーバでは，拠点サーバの IP アドレスを構成定義として登録します。IP アドレスは，出力先名を付けて登録できます。複数の出力先を任意の名称やコメントを付けて管理できるので，拠点に分散したプリンタの管理が容易にできます。

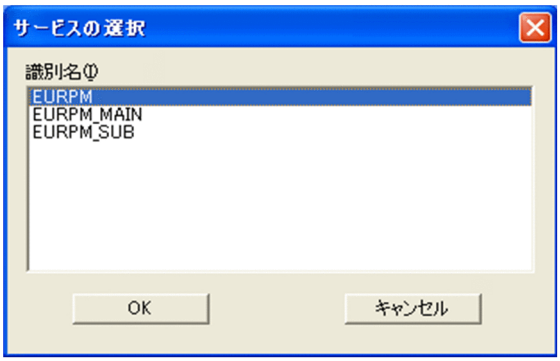
拠点サーバの設定は，［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログで行います。EUR Print Manager がインストールされた印刷管理サーバで設定してください。

また，印刷管理サーバでは，複数の EUR Print Manager を同時に起動できます。テスト環境の構築や障害発生時の迅速な切り替えなど，負荷分散が容易にできます。EUR Print Manager の起動管理については，「6.　EUR Print Manager の起動管理」を参照してください。

［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログで拠点サーバを設定したら，EUR Print Manager を再起動してください。

［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログは，スタートメニューの［プログラム］－［EUR Print Manager］－［EUR Print Manager 構成定義］を選択して表示します。なお，複数の EUR Print Manager が登録されている場合には，［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログが表示される前に，［サービスの選択］ダイアログが表示されます。出力先を設定，変更または削除したい EUR Print Manager を選択し，［OK］ボタンをクリックすると，［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログが表示されます。

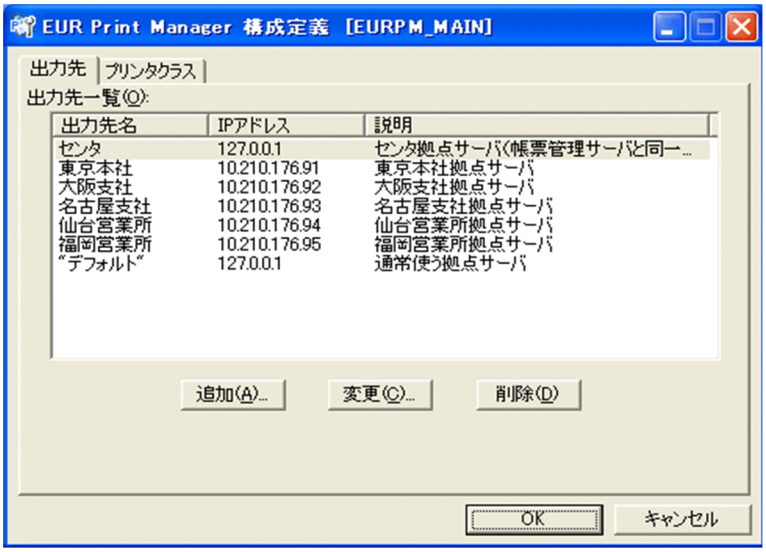
図 4-1　［サービスの選択］ダイアログ



［識別名］

EUR Print Manager の識別名が，登録した順に一覧で表示されます。

図 4-2　［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログの設定項目［出力先］タブ



［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログのタイトルバーには，選択した EUR Print Manager の識別名が表示されます。

［出力先一覧］

登録した拠点サーバの構成定義が表示されます。［出力先名］，［IP アドレス］，または［説明］をクリックすると，Shift-JIS のコード順にソートして表示されます。

［出力先名］

登録した出力先名が表示されます。出力先名は，登録順に表示されます。デフォルトの出力先には，「" デフォルト "」と表示されます。

［IP アドレス］

出力先名と対応する拠点サーバの IP アドレスが表示されます。

［説明］

出力先の説明が表示されます。

［追加］ボタン

［出力先の追加］ダイアログが表示され，出力先が登録できます。ただし，出力先の登録数が上限を超えていた場合は，不活性になります。最大登録数のデフォルトは，65,536 個です。

［変更］ボタン

［出力先の変更］ダイアログが表示され，出力先の情報が変更できます。

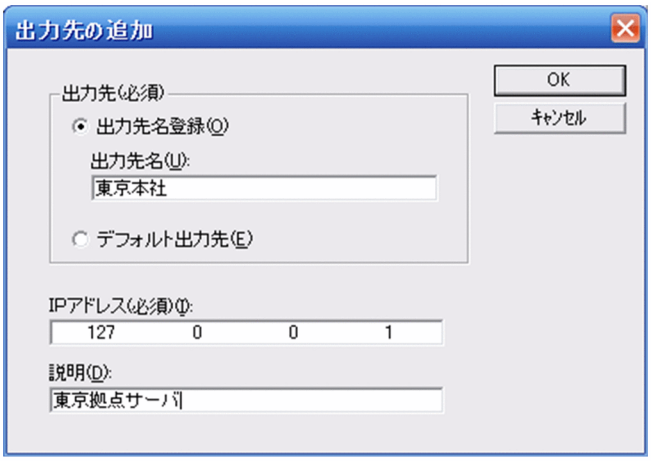
［削除］ボタン

削除を確認するダイアログが表示され，出力先が削除できます。

4.1.1 拠点サーバの登録

拠点サーバの IP アドレスを出力先として登録します。［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログから，拠点サーバを登録する方法を次に示します。ただし，出力先の登録数が上限を超えた場合は，登録できません。最大登録数のデフォルトは，65,536 個です。

1. **［出力先の追加］ダイアログの表示**
   ［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログの［追加］ボタンをクリックして，［出力先の追加］ダイアログを表示します。



2. **出力先の選択**
   ［出力先］グループボックスから，出力先名を登録するか，デフォルトの出力先を登録するかのどちらかを選択します。デフォルトの出力先に設定した IP アドレスは，通常使うプリンタとして登録されます。出力先は必ず指定してください。
   出力先名を登録する場合は［出力先名登録］オプションボタンを，デフォルトの出力先を登録する場合は，［デフォルト出力先］オプションボタンを選択します。
   デフォルト出力先には，印刷管理サーバで出力先名を指定していない場合，または指定された出力先が定義されていない場合に，出力する拠点サーバを定義します。

3. **出力先名の入力**
   ［出力先名］テキストボックスに，出力先名を入力します。
   ［出力先名登録］オプションボタンを選択した場合は，出力先名を入力します。
   ［デフォルト出力先］オプションボタンを選択した場合は，出力先名を入力する必要はありません。

4. **IP アドレス，説明の設定**
   出力先の IP アドレスと説明を入力します。IP アドレスは必ず指定してください。

5. **［OK］ボタンのクリック**
   ［OK］ボタンをクリックすると，［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログに登録した出力先名が表示されます。ただし，次の場合は，メッセージが表示され，［出力先の追加］ダイアログに戻ります。

- 指定が必須の項目が指定されていない場合
- すでにデフォルトの出力先が登録されている場合に，［デフォルト出力先］オプションボタンを選択したとき
- 同じ出力先名が登録されている場合
- 出力先，説明が入力できる文字数を超えている場合
- 出力先，説明に入力できない文字があった場合
- 出力先名に半角空白だけを入力した場合

(1) ［出力先の追加］ダイアログの設定項目

［出力先］グループボックス

出力先名を登録するか，デフォルトの出力先を登録するかのどちらかを選択します。出力先は，［出力先名登録］オプションボタン，または［デフォルト出力先］オプションボタンを必ず指定してください。

［出力先名登録］オプションボタン

出力先名を指定する場合に選択します。

［出力先名］テキストボックス

出力先名を入力します。80 バイトまで入力できます。［出力先名登録］オプションボタンを選択した場合は，必ず入力してください。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した場合はエラーとなります。

すでに登録された出力先名は登録できません。

［デフォルト出力先］オプションボタン

デフォルトの出力先を指定する場合に選択します。すでにデフォルトの出力先が登録されている場合は，選択できません。

デフォルト出力先には，印刷管理サーバで出力先名を指定していない場合，または指定された出力先が定義されていない場合に，出力する拠点サーバを定義します。

［IP アドレス］テキストボックス

出力先名と対応する拠点サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で入力します。IP アドレスは必ず指定してください。何も入力しなかった場合は，「0.0.0.0」で登録されます。

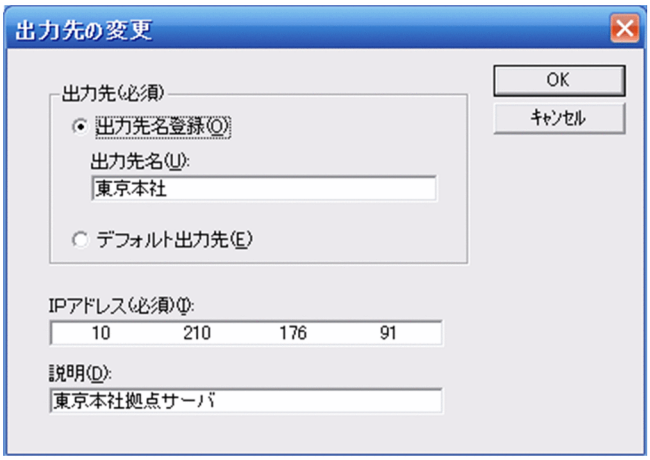
［説明］テキストボックス

出力先の説明を入力します。256 バイトまで入力できます。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した場合は，未入力となります。

4.1.2　拠点サーバの変更

登録した拠点サーバの出力先の情報を変更します。［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログから，拠点サーバの出力先を変更する方法を次に示します。

1. **［出力先の変更］ダイアログの表示**
   ［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログの［変更］ボタンをクリックして，［出力先の変更］ダイアログを表示します。



2. **出力先，IP アドレス，説明の変更**
   出力先，IP アドレス，説明を変更します。出力先と IP アドレスは必ず指定してください。

3. **［OK］ボタンのクリック**
   ［OK］ボタンをクリックすると，［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログに変更した出力先が表示されます。ただし，次の場合は，メッセージが表示され，［出力先の変更］ダイアログに戻ります。
   - 指定が必須の項目が指定されていない場合
   - すでにデフォルトの出力先が登録されている場合に，［デフォルト出力先］オプションボタンを選択したとき
   - 同じ出力先名が登録されている場合
   - 出力先，説明が入力できる文字数を超えている場合
   - 出力先，説明に入力できない文字があった場合
   - 出力先名に半角空白だけを入力した場合

(1)［出力先の変更］ダイアログの設定項目

［出力先］グループボックス

出力先名を登録するか，デフォルトの出力先を登録するかのどちらかを選択します。出力先は，［出力先名登録］オプションボタン，または［デフォルト出力先］オプションボタンを必ず指定してください。

[出力先名登録] オプションボタン

出力先名を指定する場合に選択します。

[出力先名] テキストボックス

出力先名を入力します。80 バイトまで入力できます。[出力先名登録] オプションボタンを選択した場合は，必ず入力してください。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は変更時に削除されます。半角空白だけを入力した場合はエラーとなります。

すでに登録された出力先名は登録できません。

[デフォルト出力先] オプションボタン

デフォルトの出力先を指定する場合に選択します。すでにデフォルトの出力先が登録されている場合は，選択できません。

印刷管理サーバで出力先名を指定していない場合，または指定された出力先が定義されていない場合に，出力する拠点サーバを定義します。

[IP アドレス] テキストボックス

出力先名と対応する拠点サーバの IP アドレスを入力します。255.255.255.255 形式で入力します。IP アドレスは必ず指定してください。何も入力しなかった場合は，「0.0.0.0」で登録されます。

[説明] テキストボックス

出力先の説明を入力します。256 バイトまで入力できます。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は変更時に削除されます。半角空白だけを入力した場合は，未入力となります。

4.1.3 拠点サーバの削除

登録した拠点サーバの出力先を削除します。[EUR Print Manager 構成定義] ダイアログで削除する出力先を選択し，[削除] ボタンをクリックします。削除を確認するダイアログが表示され，[OK] ボタンをクリックすると出力先が削除されます。

4.2　印刷管理サーバのプリンタクラスの設定

印刷管理サーバでは，プリンタとトレイを組み合わせて，印刷管理サーバのプリンタクラスとして定義できます。印刷管理サーバのプリンタクラスを設定すると，プリンタに任意の名前を付けられるため，プリンタを簡単に管理できます。また，プリンタとトレイを一度に指定できます。

印刷管理サーバのプリンタクラスの設定は，［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログで行います。EUR Print Manager がインストールされた印刷管理サーバで設定してください。

また，印刷管理サーバでは，複数の EUR Print Manager を起動できます。テスト環境の構築や障害発生時の迅速な切り替えなど，負荷分散が容易にできます。EUR Print Manager の起動管理については，「6.　EUR Print Manager の起動管理」を参照してください。

［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログで印刷管理サーバのプリンタクラスを設定したあと，EUR Print Manager を再起動してください。

［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログは，スタートメニューの［プログラム］－［EUR Print Manager］－［EUR Print Manager 構成定義］を選択して表示します。

なお，複数の EUR Print Manager が登録されている場合には，［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログが表示される前に，［サービスの選択］ダイアログが表示されます。プリンタクラスを設定，変更または削除したい EUR Print Manager を選択し，［OK］ボタンをクリックすると，［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログが表示されます。詳細については，「4.1　拠点サーバの設定」を参照してください。

図 4-3　［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログの設定項目［プリンタクラス］タブ

［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログの［プリンタクラス］タブについて説明します。

［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログのタイトルバーには，選択した EUR Print Manager の識別名が表示されます。

［プリンタクラス一覧］

登録した印刷管理サーバのプリンタクラスの一覧が表示されます。［プリンタクラス名］，［プリンタ名］，［トレイ名］，または［説明］をクリックすると，Shift-JIS のコード順にソートして表示されます。

［プリンタクラス名］

登録した印刷管理サーバのプリンタクラス名が表示されます。印刷管理サーバのプリンタクラス名は，登録順に表示されます。デフォルトの印刷管理サーバのプリンタクラス名には，「" デフォルト "」と表示されます。

［プリンタ名］

印刷管理サーバのプリンタクラスに対応する，印刷管理サーバのプリンタ名が表示されます。

［トレイ名］

印刷管理サーバのプリンタクラスに対応する，印刷管理サーバのプリンタのトレイ名が表示されます。

［説明］

印刷管理サーバのプリンタクラスの説明が表示されます。

［追加］ボタン

［プリンタクラスの追加］ダイアログが表示され，印刷管理サーバのプリンタクラス

が登録できます。ただし，印刷管理サーバのプリンタクラスの登録数が上限を超えていた場合は，不活性になります。最大登録数のデフォルトは，65,536 個です。

［変更］ボタン

［プリンタクラスの変更］ダイアログが表示され，印刷管理サーバのプリンタクラスの情報が変更できます。

［削除］ボタン

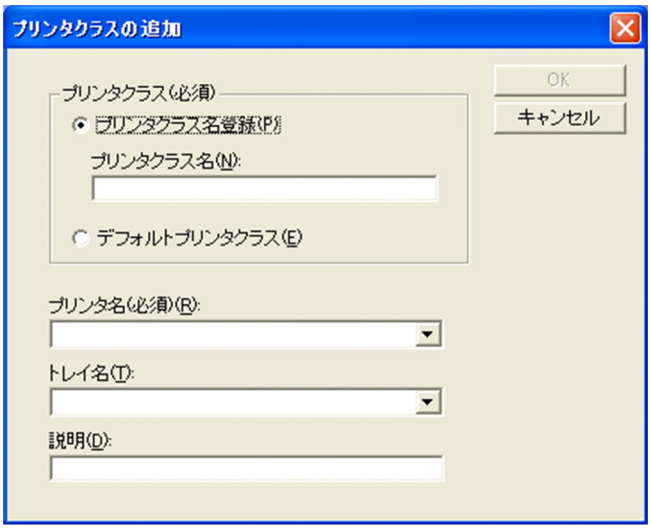
削除を確認するダイアログが表示され，印刷管理サーバのプリンタクラスの情報が削除できます。

4.2.1　印刷管理サーバのプリンタクラスの登録

印刷管理サーバのプリンタクラスを登録します。［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログの［プリンタクラス］タブで，印刷管理サーバのプリンタクラスを登録する方法を次に示します。ただし，印刷管理サーバのプリンタクラスの登録数が上限を超えた場合は，登録できません。最大登録数のデフォルトは，65,536 個です。

1. **［プリンタクラスの追加］ダイアログの表示**

［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログの［プリンタクラス］タブの［追加］ボタンをクリックして，［プリンタクラスの追加］ダイアログを表示します。



2. **プリンタクラスの選択**

［プリンタクラス］グループボックスから，印刷管理サーバのプリンタクラス名を登録するか，デフォルトの印刷管理サーバのプリンタクラスを登録するかのどちらかを選択します。プリンタクラスは必ず指定してください。

印刷管理サーバのプリンタクラス名を登録する場合は［プリンタクラス名登録］オプションボタンを，デフォルトの印刷管理サーバのプリンタクラス名を登録する場合は，［デフォルトプリンタクラス］オプションボタンを選択します。

デフォルトの印刷管理サーバのプリンタクラスには，印刷管理サーバでプリンタクラスを指定していない，または指定されたプリンタクラスが定義されていない場合に，印刷するプリンタを定義します。

3. **プリンタクラス名の入力**
［プリンタクラス名］テキストボックスに，印刷管理サーバのプリンタクラス名を入力します。
［デフォルトプリンタクラス］オプションボタンを選択した場合は，印刷管理サーバのプリンタクラス名を入力する必要はありません。

4. **プリンタ名，トレイ名，説明の設定**
プリンタ名とトレイ名をリストボックスから選択します。プリンタ名は必ず選択してください。プリンタ名を選択すると，［トレイ名］リストボックスに選択したプリンタのトレイが表示されます。
説明には，任意の文字列が入力できます。

5. **［OK］ボタンのクリック**
［OK］ボタンをクリックすると，［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログに登録した印刷管理サーバのプリンタクラス名が表示されます。ただし，次の場合は，メッセージが表示され，［プリンタクラスの追加］ダイアログに戻ります。
- 指定が必須の項目が指定されていない場合
- すでにデフォルトのプリンタクラス名が登録されている場合に，［デフォルトプリンタクラス］オプションボタンを選択したとき
- 同じプリンタクラス名が登録されている場合
- 印刷管理サーバのプリンタクラス名，プリンタ名，トレイ名，および説明が入力できる文字数を超えている場合
- 印刷管理サーバのプリンタクラス名，プリンタ名，トレイ名，および説明に入力できない文字があった場合
- 印刷管理サーバのプリンタクラス名，プリンタ名，トレイ名，および説明に半角空白だけを入力した場合

(1) ［プリンタクラスの追加］ダイアログの設定項目

［プリンタクラス］グループボックス

印刷管理サーバのプリンタクラス名を登録するか，デフォルトの印刷管理サーバのプリンタクラス名を登録するかのどちらかを選択します。［プリンタクラス名登録］オプションボタン，または［デフォルトプリンタクラス］オプションボタンを必ず指定してください。

［プリンタクラス名登録］オプションボタン

印刷管理サーバのプリンタクラス名を指定する場合に選択します。

［プリンタクラス名］テキストボックス

印刷管理サーバのプリンタクラス名を入力します。80 バイトまで入力できます。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した場合はエラーとなります。

［プリンタクラス名登録］オプションボタンを選択した場合は，必ず入力してください。すでに登録されている印刷管理サーバのプリンタクラス名は登録できません。

［デフォルトプリンタクラス］オプションボタン

デフォルトの印刷管理サーバのプリンタクラスを指定する場合に選択します。すでにデフォルトの印刷管理サーバのプリンタクラスが登録されている場合は，選択できません。

デフォルトの印刷管理サーバのプリンタクラスには，印刷管理サーバでプリンタクラスを指定していない場合，または指定されたプリンタクラスが定義されていない場合に，印刷するプリンタを定義します。

［プリンタ名］リストボックス

印刷管理サーバに登録されている，印刷管理サーバのプリンタクラス名が表示されます。プリンタ名は必ず指定してください。プリンタ名は，Shift-JIS のコード順にソートして表示されます。

印刷管理サーバのプリンタ名に，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，または「,」を使用していた場合は，印刷管理サーバのプリンタクラスの登録時にエラーになります。

［トレイ名］リストボックス

［プリンタ名］リストボックスでプリンタ名を選択すると，選択したプリンタのトレイ名が表示されます。トレイ名は，Shift-JIS のコード順にソートして表示されます。印刷管理サーバのプリンタのトレイ名に，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，または「,」を使用していた場合は，印刷管理サーバのプリンタクラスの登録時にエラーになります。

［説明］テキストボックス

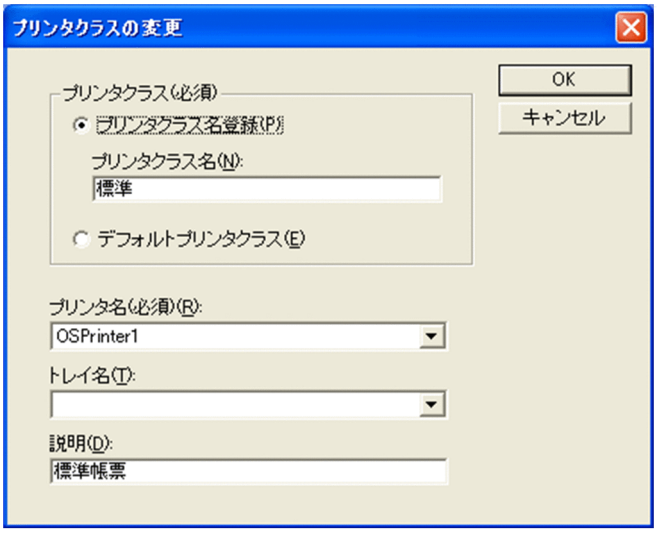
印刷管理サーバのプリンタクラスの説明を入力します。256 バイトまで入力できます。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した場合は，未入力となります。

4.2.2 印刷管理サーバのプリンタクラスの変更

登録した印刷管理サーバのプリンタクラスの情報を変更します。［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログの［プリンタクラス］タブで，印刷管理サーバのプリンタクラスの情報を変更する方法を次に示します。

1. **［プリンタクラスの変更］ダイアログの表示**

［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログの［変更］ボタンをクリックして，［プリンタクラスの変更］ダイアログを表示します。



2. **プリンタクラス名，プリンタ名，トレイ名，説明の変更**
   印刷管理サーバのプリンタクラス名，プリンタ名，トレイ名，および説明を変更します。プリンタクラス名とプリンタ名は必ず指定してください。

3. **［OK］ボタンのクリック**
   ［OK］ボタンをクリックすると，［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログに，変更した印刷管理サーバのプリンタクラスの情報が表示されます。ただし，次の場合は，メッセージが表示され，［プリンタクラスの変更］ダイアログに戻ります。
   - 指定が必須の項目が指定されていない場合
   - すでにデフォルトの印刷管理サーバのプリンタクラスが登録されている場合に，［デフォルト出力先］オプションボタンを選択したとき
   - 同じプリンタクラス名が登録されている場合
   - 印刷管理サーバのプリンタクラス名，プリンタ名，トレイ名，および説明が入力できる文字数を超えている場合
   - 印刷管理サーバのプリンタクラス名，プリンタ名，トレイ名，および説明に入力できない文字があった場合
   - 印刷管理サーバのプリンタクラス名，プリンタ名，トレイ名，および説明に半角空白だけを入力した場合

(1) ［プリンタクラスの変更］ダイアログの設定項目

［プリンタクラス］グループボックス

印刷管理サーバのプリンタクラス名を変更するか，デフォルトの印刷管理サーバのプリンタクラスを変更するかのどちらかを選択します。［プリンタクラス名登録］オプションボタン，または［デフォルトプリンタクラス］オプションボタンを必ず指定してください。

［プリンタクラス名登録］オプションボタン

印刷管理サーバのプリンタクラス名を指定する場合に選択します。

[プリンタクラス名] テキストボックス

印刷管理サーバのプリンタクラス名を入力します。80 バイトまで入力できます。[プリンタクラス名登録] オプションボタンを選択した場合は，必ず入力してください。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），"，および ,は入力できません。先頭と末尾の半角空白は変更時に削除されます。半角空白だけを入力した場合はエラーとなります。

すでに登録されている印刷管理サーバのプリンタクラス名は登録できません。

[デフォルトプリンタクラス] オプションボタン

デフォルトの印刷管理サーバのプリンタクラスを指定する場合に選択します。すでにデフォルトの印刷管理サーバのプリンタクラスが登録されている場合は，選択できません。

印刷管理サーバでプリンタクラスを指定していない場合，または指定されたプリンタクラスが定義されていない場合に，使用する印刷管理サーバのプリンタクラスを定義します。

[プリンタ名] リストボックス

印刷管理サーバに登録されている印刷管理サーバのプリンタクラス名が表示されます。プリンタ名は必ず指定してください。プリンタ名は，Shift-JIS のコード順にソートして表示されます。

印刷管理サーバのプリンタ名に，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），"，または ,を使用していた場合，印刷サーバプリンタクラスの登録時にエラーになります。

[トレイ名] リストボックス

[プリンタ名] リストボックスでプリンタ名を選択すると，選択したプリンタのトレイ名が表示されます。トレイ名は，Shift-JIS のコード順にソートして表示されます。

印刷管理サーバのプリンタのトレイ名に，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），"，および ,を使用していた場合は，印刷管理サーバのプリンタクラスの登録時にエラーになります。

[プリンタ名] リストボックスでプリンタ名を変更すると，[トレイ名] リストボックスの表示は解除されます。

[説明] テキストボックス

印刷管理サーバのプリンタクラスの説明を入力します。256 バイトまで入力できます。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），"，および ,は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した場合は，未入力となります。

4.2.3 印刷管理サーバのプリンタクラスの削除

登録した印刷管理サーバのプリンタクラスの情報を削除します。[EUR Print Manager 構成定義] ダイアログの [プリンタクラス] タブで，削除する印刷管理サーバのプリン

タクラスを選択し，［削除］ボタンをクリックします。削除を確認するダイアログが表示され，［OK］ボタンをクリックすると印刷管理サーバのプリンタクラスの情報が削除されます。

4.3　拠点プリンタクラスの設定

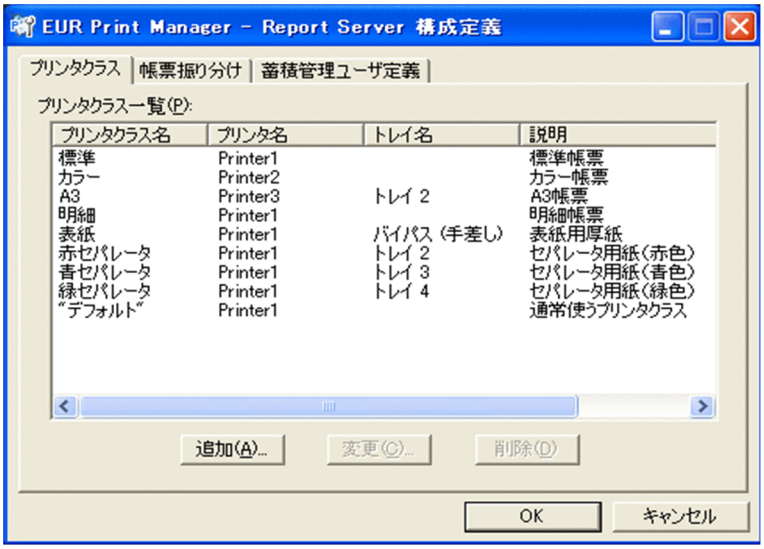
拠点サーバでは，プリンタとトレイを組み合わせて，拠点プリンタクラスとして定義できます。拠点プリンタクラスを設定すると，プリンタに任意の名前を付けられるため，プリンタを簡単に管理できます。また，プリンタとトレイを一度に指定できます。

拠点プリンタクラスの設定は，［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログの［プリンタクラス］タブで行います。Windows 版の EUR Print Manager - Report Server がインストールされた拠点サーバで設定してください。UNIX/Linux 版の EUR Print Manager - Report Server では，拠点プリンタクラスの設定はできません。

［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログで拠点プリンタクラスを設定したら，EUR Print Manager - Report Server を再起動してください。

スタートメニューの［プログラム］－［EUR Print Manager］－［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］を選択すると，［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログが表示されます。

図 4-4　［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログ［プリンタクラス］タブ



［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログの［プリンタクラス］タブについて説明します。

［プリンタクラス一覧］

登録した拠点プリンタクラスの一覧が表示されます。［プリンタクラス名］，［プリンタ名］，［トレイ名］，または［説明］をクリックすると，Shift-JIS のコード順にソートして表示されます。

[プリンタクラス名]
登録した拠点プリンタクラス名が表示されます。拠点プリンタクラス名は，登録順に表示されます。デフォルトの拠点プリンタクラスには，「" デフォルト "」と表示されます。

[プリンタ名]
拠点プリンタクラス名と対応する拠点サーバのプリンタが表示されます。

[トレイ名]
拠点プリンタクラス名と対応する拠点サーバのプリンタのトレイが表示されます。

[説明]
拠点プリンタクラスの説明が表示されます。

[追加] ボタン
［プリンタクラスの追加］ダイアログが表示され，拠点プリンタクラスが登録できます。ただし，拠点プリンタクラスの登録数が上限を超えていた場合は，不活性になります。最大登録数のデフォルトは，65,536 個です。

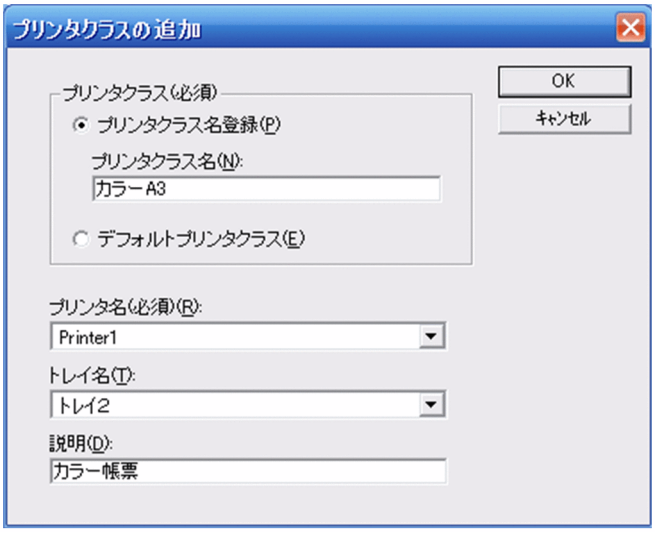
[変更] ボタン
［プリンタクラスの変更］ダイアログが表示され，拠点プリンタクラスの情報が変更できます。

[削除] ボタン
削除を確認するダイアログが表示され，拠点プリンタクラスが削除できます。

4.3.1 拠点プリンタクラスの登録

拠点プリンタクラスを登録します。［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログの［プリンタクラス］タブで，拠点プリンタクラスを登録する方法を次に示します。ただし，拠点プリンタクラスの登録数が上限を超えている場合は，登録できません。最大登録数のデフォルトは，65,536 個です。

1. **［プリンタクラスの追加］ダイアログの表示**
［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログの［プリンタクラス］タブの［追加］ボタンをクリックして，［プリンタクラスの追加］ダイアログを表示します。



2. **拠点プリンタクラス名の選択**
   ［プリンタクラス］グループボックスから，拠点プリンタクラス名を登録するか，デフォルトの拠点プリンタクラスを登録するかのどちらかを選択します。拠点プリンタクラスは，必ず設定してください。
   拠点プリンタクラス名を登録する場合は［プリンタクラス名登録］オプションボタンを，デフォルトの拠点プリンタクラスを登録する場合は，［デフォルトプリンタクラス］オプションボタンを選択します。
   デフォルトの拠点プリンタクラスには，印刷管理サーバでプリンタクラスを指定していない場合，または指定されたプリンタクラスが定義されていない場合に，印刷するプリンタを定義します。

3. **拠点プリンタクラスの入力**
   ［プリンタクラス名］テキストボックスに，拠点プリンタクラス名を入力します。
   ［プリンタクラス名登録］オプションボタンを選択した場合は，拠点プリンタクラス名を入力します。
   ［デフォルトプリンタクラス］オプションボタンを選択した場合は，拠点プリンタクラス名を入力する必要はありません。

4. **プリンタ名，トレイ名，説明の設定**
   プリンタ名とトレイ名をリストボックスから選択します。プリンタ名は必ず選択してください。プリンタ名を選択すると，［トレイ名］リストボックスに選択したプリンタのトレイが表示されます。
   説明は，任意の文字列を入力します。

5. **［OK］ボタンのクリック**
   ［OK］ボタンをクリックすると，［EUR Print Manager 構成定義 - Report Server］ダイアログに登録した拠点プリンタクラス名が表示されます。ただし，次の場合は，メッセージが表示され，［プリンタクラスの追加］ダイアログに戻ります。
   - 指定が必須の項目が指定されていない場合

- すでにデフォルトの拠点プリンタクラスが登録されている場合に，［デフォルトプリンタクラス］オプションボタンを選択したとき
- 同じ拠点プリンタクラス名が登録されている場合
- 拠点プリンタクラス名，説明が入力できる文字数を超えている場合
- 拠点プリンタクラス名，説明に入力できない文字があった場合
- 拠点プリンタクラス名に半角空白だけを入力した場合

(1) ［プリンタクラスの追加］ダイアログの設定項目

［プリンタクラス］グループボックス

拠点プリンタクラス名を登録するか，デフォルトの拠点プリンタクラスを登録するかのどちらかを選択します。拠点プリンタクラス名は，［プリンタクラス名登録］オプションボタン，または［デフォルトプリンタクラス］オプションボタンを必ず指定してください。

［プリンタクラス名登録］オプションボタン

拠点プリンタクラス名を指定する場合に選択します。

［プリンタクラス名］テキストボックス

拠点プリンタクラス名を入力します。80 バイトまで入力できます。［プリンタクラス名登録］オプションボタンを選択した場合は，必ず入力してください。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した場合はエラーとなります。

すでに登録された拠点プリンタクラス名は登録できません。

［デフォルトプリンタクラス］オプションボタン

デフォルトの拠点プリンタクラスを指定する場合に選択します。すでにデフォルトの拠点プリンタクラスが登録されている場合は，選択できません。

デフォルトの拠点プリンタクラスには，印刷管理サーバでプリンタクラスを指定していない場合，または指定されたプリンタクラスが定義されていない場合に，印刷するプリンタを定義します。

［プリンタ名］リストボックス

拠点サーバに登録された拠点プリンタクラス名が表示されます。プリンタ名は必ず指定してください。プリンタ名は，Shift-JIS のコード順にソートして表示されます。拠点サーバのプリンタ名に，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」を使用していた場合は，拠点プリンタクラスの登録時にエラーになります。

［トレイ名］リストボックス

［プリンタ名］リストボックスでプリンタ名を選択すると，選択したプリンタのトレイ名が表示されます。トレイ名は，Shift-JIS のコード順にソートして表示されます。拠点サーバのプリンタのトレイ名に，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」を使用していた場合は，拠点プリンタクラスの登録時にエラーになります。

［説明］テキストボックス

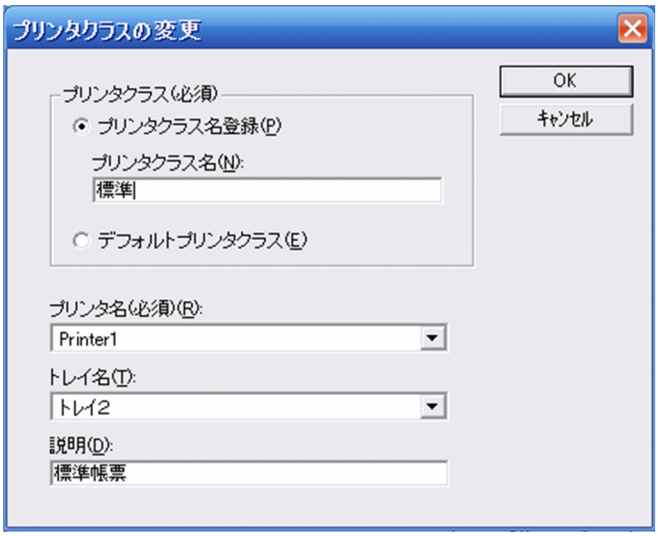
拠点プリンタクラスの説明を入力します。256 バイトまで入力できます。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した場合は，未入力となります。

4.3.2　拠点プリンタクラスの変更

登録した拠点プリンタクラスの情報を変更します。［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログの［プリンタクラス］タブから，拠点プリンタクラスを変更する方法を次に示します。

1. **［プリンタクラスの変更］ダイアログの表示**

［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログの［プリンタクラス］タブの［変更］ボタンをクリックして，［プリンタクラスの変更］ダイアログを表示します。



2. **拠点プリンタクラス名，プリンタ名，トレイ名，説明の変更**

拠点プリンタクラス名，プリンタ名，トレイ名，および説明を変更します。拠点プリンタクラスとプリンタ名は，必ず指定してください。

3. **［OK］ボタンのクリック**

［OK］ボタンをクリックすると，［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログに変更した拠点プリンタクラスが表示されます。ただし，次の場合は，メッセージが表示され，［プリンタクラスの変更］ダイアログに戻ります。

- 指定が必須の項目が指定されていない場合
- すでにデフォルトの拠点プリンタクラスが登録されている場合に，［デフォルトプリンタクラス］オプションボタンを選択したとき
- 同じ拠点プリンタクラス名が登録されている場合

- 拠点プリンタクラス名，説明が入力できる文字数を超えている場合
- 拠点プリンタクラス名，説明に入力できない文字があった場合
- 拠点プリンタクラス名に半角空白だけを入力した場合

(1) ［プリンタクラスの変更］ダイアログの設定項目

［プリンタクラス］グループボックス

拠点プリンタクラス名を登録するか，デフォルトの拠点プリンタクラスを登録するかのどちらかを選択します。拠点プリンタクラス名は，［プリンタクラス名登録］オプションボタン，または［デフォルトプリンタクラス］オプションボタンを必ず指定してください。

［プリンタクラス名登録］オプションボタン

拠点プリンタクラス名を指定する場合に選択します。

［プリンタクラス名］テキストボックス

拠点プリンタクラス名を入力します。80 バイトまで入力できます。［プリンタクラス名登録］オプションボタンを選択した場合は，必ず入力してください。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は変更時に削除されます。半角空白だけを入力した場合はエラーとなります。

すでに登録された拠点プリンタクラス名は登録できません。

［デフォルトプリンタクラス］オプションボタン

デフォルトの拠点プリンタクラスを指定する場合に選択します。すでにデフォルトの拠点プリンタクラスが登録されている場合は，選択できません。

デフォルトの拠点プリンタクラスには，印刷管理サーバでプリンタクラスを指定していない場合，または指定されたプリンタクラスが定義されていない場合に，印刷するプリンタを定義します。

［プリンタ名］リストボックス

拠点サーバに登録された拠点プリンタクラス名が表示されます。プリンタ名は必ず指定してください。プリンタ名は，Shift-JIS のコード順にソートして表示されます。拠点サーバのプリンタ名に，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」を使用していた場合は，拠点プリンタクラスの登録時にエラーになります。

［トレイ名］リストボックス

プリンタのトレイ名が表示されます。トレイ名は，Shift-JIS のコード順にソートして表示されます。

拠点サーバのプリンタのトレイ名に，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」を使用していた場合は，拠点プリンタクラスの登録時にエラーになります。

［プリンタ名］リストボックスでプリンタ名を変更すると，［トレイ名］リストボックスの表示は解除されます。

［説明］テキストボックス

拠点プリンタクラスの説明を入力します。256 バイトまで入力できます。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は変更時に削除されます。半角空白だけを入力した場合は，未入力となります。

4.3.3 拠点プリンタクラスの削除

登録した拠点プリンタクラスを削除します。［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログの［プリンタクラス］タブで削除する拠点プリンタクラスを選択し，［削除］ボタンをクリックします。削除を確認するダイアログが表示され，［OK］ボタンをクリックすると拠点プリンタクラスが削除されます。

4.4　帳票振り分け定義の設定

拠点サーバでは，帳票名ごとに自動的にプリンタを定義して印刷できます。帳票名ごとに自動的にプリンタを定義することを帳票振り分け定義といいます。帳票振り分け定義をするためには，帳票名を振り分けグループに分類して，帳票名ごとにプリンタクラスを設定します。帳票名を振り分けグループに分類することで，同じ名前の帳票を別のプリンタで印刷できます。

帳票振り分け定義の設定は，［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログの［帳票振り分け］タブで行います。Windows 版の EUR Print Manager - Report Server がインストールされた拠点サーバで設定してください。UNIX/Linux 版の EUR Print Manager - Report Server では，帳票振り分け定義の設定はできません。

［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログで帳票振り分け定義を設定したら，EUR Print Manager - Report Server を再起動してください。

スタートメニューの［プログラム］－［EUR Print Manager］－［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］を選択すると，［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログが表示されます。

図 4-5　［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログの［帳票振り分け］タブ

［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログの［帳票振り分け］タブについて説明します。

［帳票振り分け一覧］

登録した帳票振り分け定義の一覧が表示されます。［振り分けグループ名］，［帳票

名]，[プリンタクラス名]，または［説明］をクリックすると，Shift-JIS のコード順にソートして表示されます。

[振り分けグループ名]

帳票名を分類した振り分けグループ名が表示されます。振り分けグループは，帳票振り分け時に帳票を識別するキーとなります。振り分けグループ名は，登録順に表示されます。デフォルトの振り分けグループには，「" デフォルト "」と表示されます。

[帳票名]

振り分けグループ名に分類された帳票名が表示されます。帳票名は，帳票振り分け時に分類された振り分けグループを識別するキーとなります。

[プリンタクラス名]

［振り分けグループ名］と［帳票名］の組み合わせに対応する拠点プリンタクラス名が表示されます。

[説明]

帳票振り分け定義の説明が表示されます。

［追加］ボタン

［帳票振り分け定義の追加］ダイアログが表示され，帳票振り分け定義が登録できます。ただし，帳票振り分け定義の登録数が上限を超えていた場合は，不活性になります。最大登録数のデフォルトは，65,536 個です。

［変更］ボタン

［帳票振り分け定義の変更］ダイアログが表示され，帳票振り分け定義の情報が変更できます。

［削除］ボタン

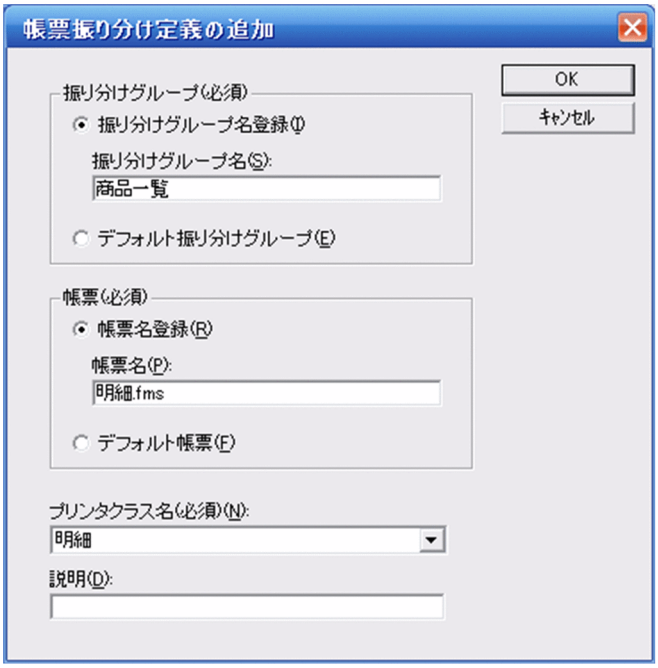
削除を確認するダイアログが表示され，帳票振り分け定義が削除できます。

4.4.1 帳票振り分け定義の登録

帳票振り分け定義を登録します。［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログの［帳票振り分け］タブで，帳票振り分け定義を登録する方法を次に示します。ただし，帳票振り分け定義の登録数が上限を超えている場合は，登録できません。最大登録数のデフォルトは，65,536 個です。

1. **［帳票振り分け定義の追加］ダイアログの表示**

［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログの［帳票振り分け］タブの［追加］ボタンをクリックして，［帳票振り分け定義の追加］ダイアログを表示します。



2. **振り分けグループの選択**

［振り分けグループ］グループボックスから，振り分けグループ名を登録するか，デフォルトの振り分けグループを登録するかのどちらかを選択します。振り分けグループは，必ず設定してください。

振り分けグループ名を登録する場合は［振り分けグループ名登録］オプションボタンを，デフォルトの振り分けグループを登録する場合は，［デフォルト振り分けグループ］オプションボタンを選択します。

デフォルトの振り分けグループには，印刷管理サーバで振り分けグループを指定していない，または指定された振り分けグループが定義されていない帳票が分類されます。

3. **振り分けグループ名の入力**

［振り分けグループ名］テキストボックスに，振り分けグループ名を入力します。

［振り分けグループ名登録］オプションボタンを選択した場合は，振り分けグループ名を入力します。

［デフォルト振り分けグループ］オプションボタンを選択した場合は，振り分けグループ名を入力する必要はありません。

4. **帳票の選択**

［帳票］グループボックスから，帳票名を登録するか，デフォルトの帳票を登録するかのどちらかを選択します。帳票は，必ず設定してください。

帳票名を登録する場合は［帳票名登録］オプションボタンを，デフォルトの帳票を登録する場合は，［デフォルト帳票］オプションボタンを選択します。振り分けグループ名に分類されていない帳票は，デフォルト帳票で設定したプリンタクラスで印刷さ

れます。

5. **帳票名の入力**
［帳票名登録］オプションボタンを選択した場合は，帳票名を入力します。
［デフォルト帳票］オプションボタンを選択した場合は，帳票名を入力する必要はありません。

6. **プリンタクラス名，説明の設定**
プリンタクラス名をリストボックスから選択します。プリンタクラス名は必ず選択してください。
説明は，任意の文字列を入力します。

7. **［OK］ボタンのクリック**
［OK］ボタンをクリックすると，［EUR Print Manager 構成定義 - Report Server］ダイアログに登録した帳票振り分け定義が表示されます。ただし，次の場合は，メッセージが表示され，［振り分けグループの追加］ダイアログに戻ります。
- 指定が必須の項目が指定されていない場合
- 同じ組み合わせの振り分けグループ名と帳票名が登録されている場合
- 振り分けグループ名，帳票名，説明が入力できる文字数を超えている場合
- 振り分けグループ名，帳票名，説明に入力できない文字があった場合
- 振り分けグループ名または帳票名に半角空白だけを入力した場合

(1)［帳票振り分け定義の追加］ダイアログの設定項目

［振り分けグループ］グループボックス

振り分けグループ名を登録するか，デフォルトの振り分けグループを登録するかのどちらかを選択します。振り分けグループ名は，［振り分けグループ名登録］オプションボタン，または［デフォルト振り分けグループ］オプションボタンを必ず指定してください。

［振り分けグループ名登録］オプションボタン

振り分けグループ名を指定する場合に選択します。

［振り分けグループ名］テキストボックス

振り分けグループ名を入力します。80 バイトまで入力できます。［振り分けグループ登録］オプションボタンを選択した場合は，必ず入力してください。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した場合はエラーとなります。

［デフォルト振り分けグループ］オプションボタン

デフォルトの振り分けグループを指定する場合に選択します。
デフォルトの振り分けグループには，印刷管理サーバで振り分けグループを指定していない，または指定された振り分けグループが定義されていない帳票が分類されます。

［帳票］グループボックス

帳票名を登録するか，デフォルトの帳票を登録するかのどちらかを選択します。帳

票は，［帳票名登録］オプションボタン，または［デフォルト帳票］オプションボタンを必ず指定してください。

［帳票名登録］オプションボタン

帳票名を指定する場合に選択します。

［帳票名］テキストボックス

帳票名を入力します。256 バイトまで入力できます。［帳票名登録］オプションボタンを選択した場合は，必ず入力してください。ただし，ファイル名に使用できない文字（¥ / : ; * ? " < > |），制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した場合はエラーとなります。

［デフォルト帳票］オプションボタン

デフォルトの帳票を指定する場合に選択します。デフォルトの帳票を選択した場合，振り分けグループに分類していない帳票はデフォルト帳票で設定したプリンタクラスで印刷されます。

［プリンタクラス名］リストボックス

拠点サーバに登録された拠点プリンタクラス名がリストボックスで表示されます。拠点プリンタクラス名は，必ず指定してください。拠点プリンタクラス名は，Shift-JIS のコード順にソートして表示されます。ただし，デフォルトの拠点プリンタクラスは，表示されません。

拠点プリンタクラス名に，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」を使用していた場合は，帳票振り分け定義の登録時にエラーになります。

［説明］テキストボックス

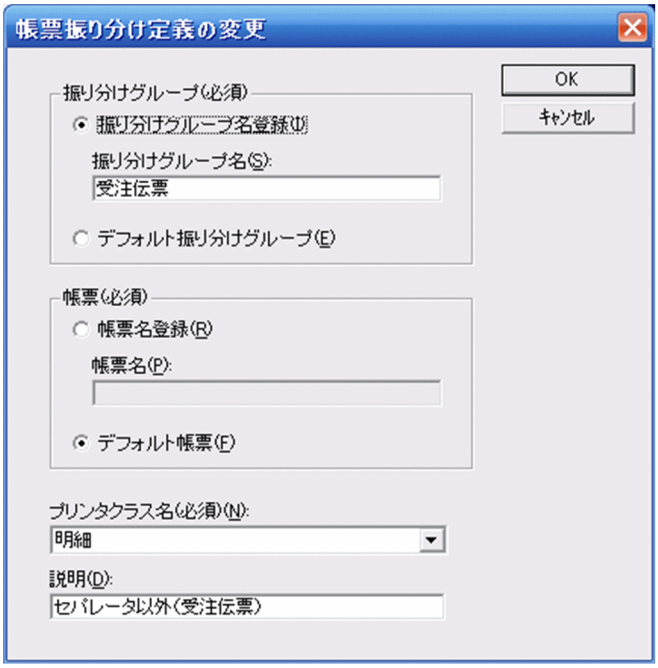
帳票振り分け定義の説明を入力します。256 バイトまで入力できます。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した場合は，未入力となります。

4.4.2 帳票振り分け定義の変更

登録した帳票振り分け定義を変更します。［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログの［帳票振り分け］タブで，帳票振り分け定義を変更する方法を次に示します。

1. **［帳票振り分け定義の変更］ダイアログの表示**

   ［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログの［帳票振り分け］タブの［変更］ボタンをクリックして，［帳票振り分け定義の変更］ダイアログを表示します。



2. **振り分けグループ，帳票，プリンタクラス名，説明の変更**
   振り分けグループ，帳票，プリンタクラス名，および説明を変更します。振り分けグループ，帳票，プリンタクラス名は，必ず設定してください。

3. **［OK］ボタンのクリック**
   ［OK］ボタンをクリックすると，［EUR Print Manager 構成定義 - Report Server］ダイアログに変更した帳票振り分け定義が表示されます。ただし，次の場合は，メッセージが表示され，［帳票振り分け定義の変更］ダイアログに戻ります。
   - 指定が必須の項目が指定されていない場合
   - 同じ組み合わせの振り分けグループ名と帳票名が登録されている場合
   - 振り分けグループ名，帳票名，説明が入力できる文字数を超えている場合
   - 振り分けグループ名，帳票名，説明に入力できない文字があった場合
   - 振り分けグループ名または帳票名に半角空白だけを入力した場合

(1) ［帳票振り分け定義の変更］ダイアログの設定項目

［振り分けグループ］グループボックス

振り分けグループ名を登録するか，デフォルトの振り分けグループを登録するかのどちらかを選択します。振り分けグループ名は，［振り分けグループ名登録］オプションボタン，または［デフォルト振り分けグループ］オプションボタンを必ず指定してください。

［振り分けグループ名登録］オプションボタン

振り分けグループ名を指定する場合に選択します。

[振り分けグループ名] テキストボックス

振り分けグループ名を入力します。80 バイトまで入力できます。[振り分けグループ登録] オプションボタンを選択した場合は，必ず入力してください。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は変更時に削除されます。半角空白だけを入力した場合はエラーとなります。

[デフォルト振り分けグループ] オプションボタン

デフォルトの拠点プリンタクラスを指定する場合に選択します。
デフォルトの振り分けグループには，印刷管理サーバで振り分けグループを指定していない，または指定された振り分けグループが定義されていない帳票が分類されます。

[帳票] グループボックス

帳票名を登録するか，デフォルトの帳票を登録するかのどちらかを選択します。帳票は，[帳票名登録] オプションボタン，または [デフォルト帳票] オプションボタンを必ず指定してください。

[帳票名登録] オプションボタン

帳票名を指定する場合に選択します。

[帳票名] テキストボックス

帳票名を入力します。256 バイトまで入力できます。[帳票名登録] オプションボタンを選択した場合は，必ず入力してください。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），ファイル名に使用できない文字（¥ / : ; * ? " < > |），および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は変更時に削除されます。半角空白だけを入力した場合はエラーとなります。

[デフォルト帳票] オプションボタン

デフォルトの帳票を指定する場合に選択します。振り分けグループ名に分類されていない帳票は，デフォルト帳票で設定したプリンタクラスで印刷されます。

[プリンタクラス名] リストボックス

拠点サーバに登録された拠点プリンタクラス名がリストボックスで表示されます。
拠点プリンタクラス名は，必ず指定してください。拠点プリンタクラス名は，Shift-JIS のコード順にソートして表示されます。ただし，デフォルトの拠点プリンタクラスは，表示されません。
拠点プリンタクラス名に，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」を使用していた場合は，帳票振り分け定義の登録時にエラーになります。

[説明] テキストボックス

帳票振り分け定義の説明を入力します。256 バイトまで入力できます。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した場合は，未入力となります。

4.4.3 帳票振り分け定義の削除

登録した帳票振り分け定義を削除します。［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログの［帳票振り分け］タブで削除する帳票振り分け定義を選択し，［削除］ボタンをクリックします。削除を確認するダイアログが表示され，［OK］ボタンをクリックすると帳票振り分け定義が削除されます。

4.5　クライアントプリンタクラスの設定

クライアント PC では，プリンタとトレイを組み合わせて，クライアントプリンタクラスとして定義できます。クライアントプリンタクラスを設定すると，プリンタに任意の名前を付けられるため，プリンタを簡単に管理できます。また，プリンタとトレイを一度に指定できます。

クライアントプリンタクラスの設定は，［EUR Print Manager - Client 構成定義］ダイアログで行います。EUR Print Manager - Client がインストールされたクライアント PC で設定してください。

［EUR Print Manager - Client 構成定義］ダイアログでクライアントプリンタクラスを設定したら，EUR Print Manager - Client を再起動してください。

クライアントプリンタクラスの設定は，システム管理者がひな型として配布することもできます。配布したファイルを使えば，各クライアント PC でクライアントプリンタクラスを設定する手間が省けます。

スタートメニューの［プログラム］－［EUR Print Manager - Client］－［EUR Print Manager - Client 構成定義］を選択すると，［EUR Print Manager - Client 構成定義］ダイアログが表示されます。

図 4-6　［EUR Print Manager - Client 構成定義］ダイアログの設定項目

［プリンタクラス一覧］

登録したクライアントプリンタクラスの一覧が表示されます。［プリンタクラス名］，［プリンタ名］，［トレイ名］，［説明］をクリックすると，Shift-JIS のコード順にソートして表示されます。

[プリンタクラス名]

登録したクライアントプリンタクラス名が表示されます。クライアントプリンタクラス名は，登録順に表示されます。

[プリンタ名]

クライアントプリンタクラス名と対応する OS 上のプリンタが表示されます。プリンタの種類と状態は，次に示すアイコンで示します。

- ：OS 上の通常使うプリンタ
- ：OS 上の通常使うプリンタ以外の OS に登録されているプリンタ
- ：OS に登録されていないプリンタ

OS に登録されていないプリンタは，次に示すどちらかの場合に存在します。

・配布された構成定義ファイルを，テキストエディタなどで編集したとき

・プリンタクラス一覧に追加登録したプリンタを，OS から削除したり，名称変更したりしたとき

[トレイ名]

クライアントプリンタクラス名と対応する OS 上のプリンタのトレイが表示されます。

[説明]

クライアントプリンタクラスの説明が表示されます。

[追加] ボタン

[プリンタクラスの追加] ダイアログが表示され，クライアントプリンタクラスが登録できます。ただし，クライアントプリンタクラスの登録数が上限を超えていた場合は，不活性になります。最大登録数のデフォルトは，65,536 個です。

[変更] ボタン

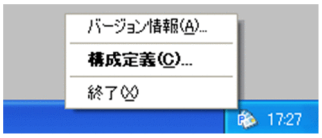
[プリンタクラスの変更] ダイアログが表示され，クライアントプリンタクラスの情報が変更できます。

[削除] ボタン

削除を確認するダイアログが表示され，クライアントプリンタクラスが削除できます。

参考

[EUR Print Manager - Client 構成定義] ダイアログはタスクトレイのアイコンから表示することもできます。



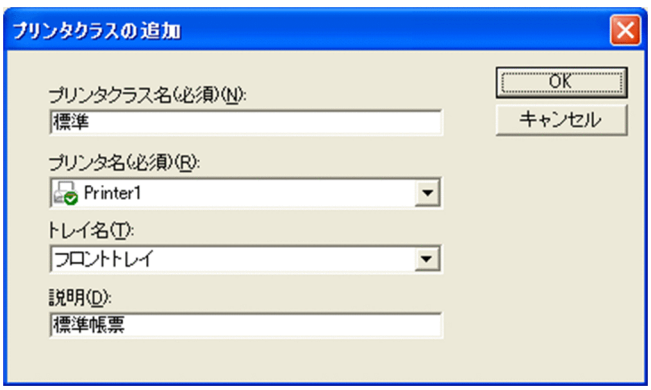
［構成定義］をクリックすると，［EUR Print Manager - Client 構成定義］ダイアログが表示されます。
［バージョン情報］をクリックすると，［EUR Print Manager - Client のバージョン情報］ダイアログが表示されます。

［終了］をクリックすると，EUR Print Manager - Client が終了します。

4.5.1　クライアントプリンタクラスの追加

クライアントプリンタクラスを登録します。［EUR Print Manager - Client 構成定義］ダイアログで，クライアントプリンタクラスを登録する方法を次に示します。ただし，クライアントプリンタクラスの登録数が上限を超えている場合は，登録できません。最大登録数のデフォルトは，65,536 個です。

1. **［プリンタクラスの追加］ダイアログの表示**
［EUR Print Manager - Client 構成定義］ダイアログの［追加］ボタンをクリックして，［プリンタクラスの追加］ダイアログを表示します。



2. **クライアントプリンタクラス名の入力**
［プリンタクラス名］テキストボックスに，クライアントプリンタクラス名を入力します。クライアントプリンタクラス名は，必ず入力してください。

3. **プリンタ名，トレイ名，説明の設定**
プリンタ名とトレイ名をリストボックスから選択します。プリンタ名は必ず選択して

ください。プリンタ名を選択すると，［トレイ名］リストボックスに選択したプリンタのトレイが表示されます。
説明は，任意の文字列を入力します。

4. **［OK］ボタンのクリック**
［OK］ボタンをクリックすると，［EUR Print Manager 構成定義 - Client］ダイアログに登録したクライアントプリンタクラス名が表示されます。ただし次の場合は，メッセージが表示され，［プリンタクラスの追加］ダイアログに戻ります。
- 指定が必須の項目が指定されていない場合
- 同じクライアントプリンタクラス名が登録されている場合
- クライアントプリンタクラス名，説明が入力できる文字数を超えている場合
- クライアントプリンタクラス名，説明に入力できない文字があった場合
- クライアントプリンタクラス名に半角空白だけを入力した場合

(1)［プリンタクラスの追加］ダイアログの設定項目

［プリンタクラス名］テキストボックス
クライアントプリンタクラス名を入力します。80 バイトまで入力できます。クライアントプリンタクラス名は必ず入力してください。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した場合はエラーとなります。
すでに登録されたクライアントプリンタクラス名は登録できません。

［プリンタ名］リストボックス
OS 上に登録されたプリンタ名が表示されます。プリンタ名は必ず選択してください。デフォルトは，OS 上の通常使うプリンタです。プリンタ名は，Shift-JIS のコード順にソートして表示されます。プリンタ名に，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」を使用していた場合は，クライアントプリンタクラスの登録時にエラーになります。
［プリンタ名］リストボックスは，プリンタの種類と状態を次に示すアイコンで示します。
- ：OS 上の通常使うプリンタ
- ：OS 上の通常使うプリンタ以外の OS に登録されているプリンタ

［トレイ名］リストボックス
［プリンタ名］リストボックスでプリンタ名を選択すると，選択したプリンタのトレイ名が表示されます。トレイ名は，Shift-JIS のコード順にソートして表示されます。トレイ名に，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」を使用していた場合は，クライアントプリンタクラスの登録時にエラーになります。

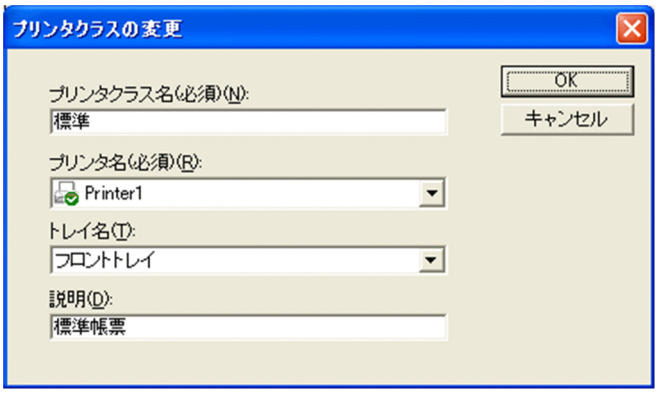
［説明］テキストボックス
クライアントプリンタクラスの説明を入力します。256 バイトまで入力できます。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した

場合は，未入力となります。

4.5.2　クライアントプリンタクラスの変更

登録したクライアントプリンタクラスの情報を変更します。［EUR Print Manager - Client 構成定義］ダイアログから，クライアントプリンタクラスを変更する方法を次に示します。

1. **［プリンタクラスの変更］ダイアログの表示**
   ［EUR Print Manager - Client 構成定義］ダイアログの［変更］ボタンをクリックして，［プリンタクラスの変更］ダイアログを表示します。



2. **クライアントプリンタクラス名，プリンタ名，トレイ名，説明の変更**
   クライアントプリンタクラス名，プリンタ名，トレイ名，説明を変更します。クライアントプリンタクラス名とプリンタ名は，必ず設定してください。

3. **［OK］ボタンのクリック**
   ［OK］ボタンをクリックすると，［EUR Print Manager - Client 構成定義］ダイアログに変更したクライアントプリンタクラスが表示されます。ただし，次の場合は，メッセージが表示され，［プリンタクラスの変更］ダイアログに戻ります。
   - 指定が必須の項目が指定されていない場合
   - 同じクライアントプリンタクラス名が登録されている場合
   - クライアントプリンタクラス名，説明が入力できる文字数を超えている場合
   - クライアントプリンタクラス名，説明に入力できない文字があった場合
   - クライアントプリンタクラス名に半角空白だけを入力した場合

（1）［プリンタクラスの変更］ダイアログの設定項目

［プリンタクラス名］テキストボックス

クライアントプリンタクラス名を入力します。80 バイトまで入力できます。クライアントプリンタクラス名は必ず入力してください。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した場合はエラーとなります。

すでに登録されたクライアントプリンタクラス名は登録できません。

［プリンタ名］リストボックス

選択したクライアントプリンタクラスに登録されたプリンタ名が表示されます。プリンタ名は必ず選択してください。プリンタ名が定義済みで，かつプリンタ名が OS に登録されていない場合は，OS 上で通常使うプリンタがデフォルトになります。
プリンタ名は，Shift-JIS のコード順にソートして表示されます。プリンタ名に，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」を使用していた場合は，クライアントプリンタクラスの登録時にエラーになります。
［プリンタ名］リストボックスは，プリンタの種類と状態を次に示すアイコンで示します。

- ：OS 上の通常使うプリンタ
- ：OS 上の通常使うプリンタ以外の OS に登録されているプリンタ

［トレイ名］リストボックス

選択したクライアントプリンタクラスに登録されたトレイ名が表示されます。トレイ名は，Shift-JIS のコード順にソートして表示されます。トレイ名に，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」を使用していた場合は，クライアントプリンタクラスの登録時にエラーになります。
［プリンタ名］リストボックスでプリンタ名を変更すると，［トレイ名］リストボックスの表示は解除されます。

［説明］テキストボックス

クライアントプリンタクラスの説明を入力します。256 バイトまで入力できます。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は変更時に削除されます。半角空白だけを入力した場合は，未入力となります。

4.5.3 クライアントプリンタクラスの削除

登録したクライアントプリンタクラスを削除します。［EUR Print Manager - Client 構成定義］ダイアログで削除するクライアントプリンタクラスを選択し，［削除］ボタンをクリックします。削除を確認するダイアログが表示され，［OK］ボタンをクリックするとクライアントプリンタクラスが削除されます。

4.5.4 クライアントプリンタクラスの設定の配布

クライアントプリンタクラスの設定は，クライアントプリンタクラス定義ファイル（ClientPrinterClass.conf）に保存されます。

クライアントプリンタクラス定義ファイルを，システム管理者がひな型として配布することで，各クライアント PC でクライアントプリンタクラスを設定する手間が省けます。

クライアントプリンタクラスを設定するには，EUR Print Manager - Client をインス

トールする必要があります。EUR Print Manager - Client をクライアントインストールでインストールしてください。クライアントインストールについては,「付録 B.9　EUR Print Manager - Client のインストール」を参照してください。

ここでは，クライアントプリンタクラス定義ファイルを配布する方法について説明します。クライアントプリンタクラス定義ファイルについては,「15.6.7　クライアントプリンタクラス定義ファイル」を参照してください。

(1) クライアントプリンタクラス定義ファイルの格納先

クライアントプリンタクラス定義ファイル（ClientPrinterClass.conf）は，環境設定ファイル（EURPMCL.ini）の PATH セクションの CONF キーに設定したパスに格納されます。

デフォルトの格納先を次に示します。

EUR Print Manager - Client のインストール先フォルダ ¥Conf

(2) クライアントプリンタクラス定義ファイルの設定

クライアントプリンタクラス定義ファイルを設定する方法を次に示します。

1. **クライアントプリンタクラスの設定**
   ［EUR Print Manager - Client 構成定義］ダイアログでクライアントプリンタクラスを設定します。
2. **クライアントプリンタクラス定義ファイルの配布**
   EUR Print Manager - Client のインストール先フォルダ ¥Conf に格納されたクライアントプリンタクラス定義ファイル（ClientPrinterClass.conf）をクライアント PC に配布します。

(3) 配布されたクライアントプリンタクラス定義ファイルの設定

配布されたクライアントプリンタクラス定義ファイルをクライアント PC に設定する方法について説明します。

1. **クライアントプリンタクラス定義ファイルの配置**
   配布されたクライアントプリンタクラス定義ファイルを EUR Print Manager - Client のインストール先フォルダ ¥Conf 下に格納します。
2. **クライアントプリンタクラスの設定**
   ［EUR Print Manager - Client 構成定義］ダイアログを表示します。クライアントプリンタクラス定義ファイルで定義されたクライアントプリンタクラスが表示されます。必要に応じて，クライアントプリンタクラスの設定を変更してください。

4.5.5 プリンタ非表示の設定

ActiveX クライアント印刷方式では，ExclusionPrinterName プロパティおよび ExclusionPrinterDriver プロパティを設定することにより，プリンタコンボボックスに表示するプリンタ名を非表示に設定できます。

プリンタ名を非表示にする方法については，「ExclusionPrinterName プロパティ」および「ExclusionPrinterDriver プロパティ」を参照してください。

また，次の条件に該当する場合は，プリンタ一覧のデフォルト選択値は空白ではなく通常使うプリンタとなります。

- ExclusionPrinterName または ExclusionPrinterDriver（あるいは両方）の指定がある場合
- 該当帳票ジョブ名での初回印刷時の場合
- 通常使うプリンタが ExclusionPrinterName または ExclusionPrinterDriver で除外されていない場合

4.6 帳票の印刷

印刷管理サーバから送られた帳票を印刷します。印刷管理サーバの設定によって，印刷方法が異なります。印刷方法と必要な製品を次に示します。

表 4-1 印刷方法と必要な製品

印刷方法	必要な製品
拠点サーバでの印刷	拠点サーバに Windows 版の EUR Print Manager - Report Server が必要です（UNIX/Linux 版の EUR Print Manager - Report Server では，拠点サーバでの印刷はできません）。また，蓄積した印刷データを印刷する場合は，アプリケーションサーバに EUR Print Manager - Report Server Adapter が必要です。
クライアント PC での自動印刷	クライアント PC に EUR Print Manager - Client が必要です。また，蓄積した印刷データを印刷する場合は，アプリケーションサーバに EUR Print Manager - Report Server Adapter が必要です。
クライアント PC での全自動印刷※1	
クライアント PC での対話型印刷	
クライアント PC での対話型印刷プレビュー表示	
クライアント PC での対話型印刷プレビュー表示限定※2	
クライアント PC への配布印刷	
Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷（自動印刷）	クライアント PC に EUR Print Manager - Client Print ActiveX または EUR Print Manager - Client Preview ActiveX が必要です。また，蓄積した印刷データを印刷する場合は，アプリケーションサーバに EUR Print Manager - Report Server Adapter が必要です。
Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷（プレビュー画面からの印刷）	クライアント PC に EUR Print Manager - Client Preview ActiveX が必要です。また，蓄積した印刷データを印刷する場合は，アプリケーションサーバに EUR Print Manager - Report Server Adapter が必要です。
Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷（ダイアログでの印刷）	クライアント PC に EUR Print Manager - Client Print ActiveX が必要です。また，蓄積した印刷データを印刷する場合は，アプリケーションサーバに EUR Print Manager - Report Server Adapter が必要です。
Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷（ヘルパクライアント印刷）	クライアント PC に EUR Print Manager - Client が必要です。また，蓄積した印刷データを印刷する場合は，アプリケーションサーバに EUR Print Manager - Report Server Adapter が必要です。
コマンドを使用したクライアント PC での印刷	クライアント PC に EUR Print Manager - Client が必要です。また，蓄積した印刷データを印刷する場合は，アプリケーションサーバに EUR Print Manager - Report Server Adapter が必要です。
EUR Viewer を使用した印刷	クライアント PC に EUR Viewer が必要です。

印刷方法	必要な製品
Adobe Reader を使用した印刷	クライアント PC に Adobe Reader が必要です。
印刷管理サーバからの直接印刷	印刷管理サーバに EUR Print Service だけ必要です。

注※ 1
印刷実行時に印刷中のダイアログが表示されません。

注※ 2
印刷は実行できません。

印刷方法ごとに，帳票を印刷する方法について説明します。

4.6.1 拠点サーバでの印刷

印刷管理サーバから拠点サーバに帳票が送られ，指定したプリンタに自動的に印刷されます。拠点サーバが UNIX/Linux 環境の場合は，拠点サーバでの印刷はできません。

印刷管理サーバの設定ごとに，帳票を印刷するプリンタを次に示します。

印刷管理サーバで拠点プリンタクラスを指定していた場合

指定された拠点プリンタクラスに対応するプリンタとトレイで印刷されます。
印刷管理サーバで指定した拠点プリンタクラス名が拠点プリンタクラスに設定されていない場合は，拠点プリンタクラスに設定したデフォルトの拠点プリンタクラスのプリンタに出力されます。拠点プリンタクラスに指定されたプリンタとトレイが拠点サーバに登録されていない場合は，エラーとなります。拠点プリンタクラスの設定および拠点サーバに登録されたプリンタの設定を見直してください。

印刷管理サーバでプリンタとトレイを指定していた場合

指定されたプリンタとトレイで印刷されます。
指定されたプリンタとトレイが拠点サーバに登録されていない場合は，エラーとなります。

印刷管理サーバで帳票振り分け定義を指定していた場合

指定した帳票名と帳票振り分け定義に対応するプリンタとトレイで印刷されます。
帳票が印刷されるプリンタを設定別に次に示します。

- 印刷管理サーバで振り分けグループ名を指定したとき
  帳票振り分け定義で設定した，印刷管理サーバで指定された振り分けグループの帳票定義に対応する拠点プリンタクラスで印刷されます。
- 印刷管理サーバで振り分けグループ名が指定されていないとき
  帳票振り分け定義で設定した，デフォルトの振り分けグループの帳票定義に対応する拠点プリンタクラスで印刷されます。
- 指定された帳票が帳票振り分け定義にないとき
  印刷管理サーバで指定された振り分けグループのデフォルト帳票に分類され，デフォルト帳票に設定した拠点プリンタクラスで印刷されます。
  デフォルトの振り分けグループにも，デフォルト帳票を定義できます。

- 指定された帳票が帳票振り分け定義になく，デフォルト帳票が設定されていないとき
  拠点プリンタクラス定義で設定した，デフォルトの拠点プリンタクラスで印刷されます。

4.6.2 クライアント PC での自動印刷または全自動印刷

印刷管理サーバからクライアント PC に帳票が送られ，指定したプリンタに自動的に印刷されます。

自動印刷する場合は，クライアント PC に EUR Print Manager - Client をインストールする必要があります。また，蓄積した印刷データを印刷する場合は，アプリケーションサーバに EUR Print Manager - Report Server Adapter が必要です。

印刷管理サーバの設定ごとに，帳票を印刷するプリンタを次に示します。

印刷管理サーバでクライアントプリンタクラスを指定していた場合

指定されたクライアントプリンタクラスに対応するプリンタとトレイで印刷されます。
印刷管理サーバで指定したクライアントプリンタクラス名がクライアント PC で設定したクライアントプリンタクラスにない場合は，クライアント PC の通常使うプリンタに出力されます。クライアントプリンタクラスに指定されたプリンタとトレイがクライアント PC に登録されていない場合は，エラーとなります。

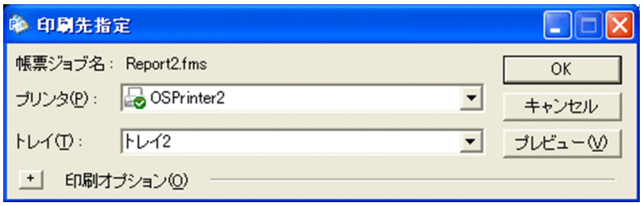
印刷管理サーバでプリンタとトレイを指定していた場合

指定されたプリンタとトレイで印刷されます。
プリンタとトレイの指定がなく，クライアントプリンタクラス名が指定されている場合は，上記に示した「印刷管理サーバでクライアントプリンタクラスを指定していた場合」の運用になります。
指定されたプリンタとトレイがクライアント PC に登録されていない場合は，エラーとなります。

また，全自動印刷の場合は，印刷中のダイアログが表示されません。

4.6.3 クライアント PC での対話型印刷

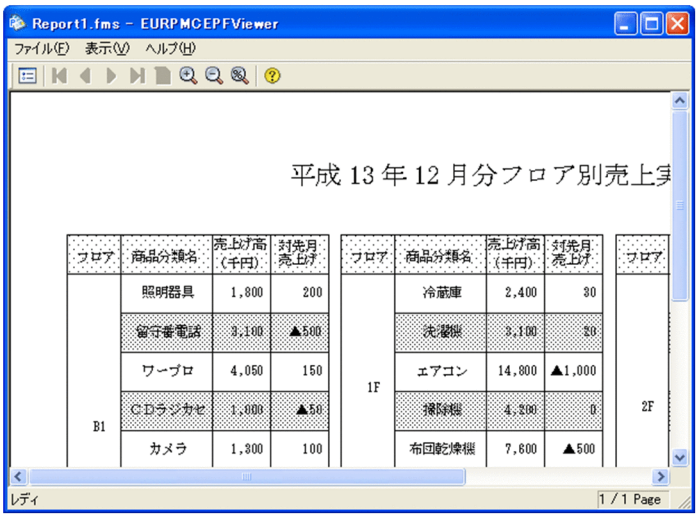
印刷管理サーバからクライアント PC に帳票が送られると，クライアント PC に［印刷先指定］ダイアログが表示されます。［印刷先指定］ダイアログで帳票を印刷するプリンタを選択します。



対話型印刷する場合は，クライアント PC に EUR Print Manager - Client をインストールする必要があります。また，蓄積した印刷データを印刷する場合は，アプリケーションサーバに EUR Print Manager - Report Server Adapter が必要です。

帳票を印刷するプリンタとトレイを設定する方法を次に示します。

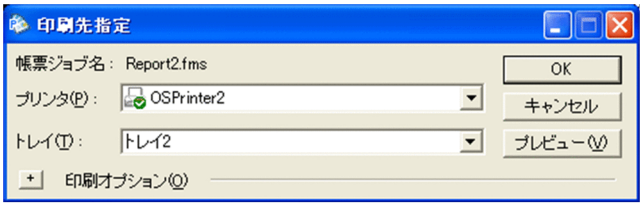
1. **プリンタの選択**
   ［プリンタ］リストボックスで，印刷するクライアント PC のプリンタを選択します。
   印刷したことがある帳票ジョブを受信した場合は，前回の受信時に設定したプリンタ名が表示されます。初めて印刷する帳票ジョブを受信した場合は，プリンタ名は表示されません。
2. **トレイの選択**
   ［トレイ］リストボックスで，印刷するトレイを選択します。
   印刷したことがある帳票ジョブを受信した場合は，前回の受信時に設定したトレイ名が表示されます。初めて印刷する帳票ジョブを受信した場合は，トレイ名は表示されません。
3. **プレビューウィンドウの表示**
   ［プレビュー］ボタンをクリックすると，印刷する帳票のプレビューウィンドウが表示されます。



4. **クライアント PC での印刷**

［印刷先指定］ダイアログの［OK］ボタンをクリックすると，指定したプリンタのトレイで帳票が印刷されます。

（1）［印刷先指定］（対話型印刷）ダイアログの設定項目



［帳票ジョブ名］

クライアントプリンタクラス名を表示します。クライアントプリンタクラスが指定されていない場合は，帳票名を表示します。

［プリンタ］リストボックス

クライアント PC に登録されたプリンタ名を表示します。

印刷したことがある帳票ジョブを受信した場合は，前回の受信時に設定したプリンタ名が表示されます。

［プリンタ］リストボックスは，プリンタの種類と状態を次に示すアイコンで示します。

- ：OS 上の通常使うプリンタ
- ：OS 上の通常使うプリンタ以外の OS に登録されているプリンタ

初めて印刷する帳票ジョブを受信した場合は，プリンタ名は表示されません。

［トレイ］リストボックス

プリンタ名を選択すると，OS 上に登録されたプリンタ名のトレイ名を表示します。

トレイを指定しなかった場合は，デフォルトのトレイに印刷されます。

印刷したことがある帳票ジョブを受信した場合は，前回の受信時に設定したトレイ名が表示されます。

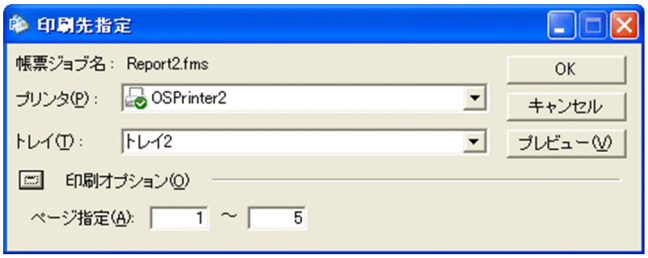
初めて印刷する帳票ジョブを受信した場合は，トレイ名は表示されません。

［プレビュー］ボタン

印刷する帳票のプレビューウィンドウを表示します。

［+］ボタン

［印刷先指定］ダイアログが拡張されて，［印刷オプション］を設定できます。



［−］ボタン

［印刷オプション］の設定が非表示になります。

［ページ指定］

印刷開始ページと印刷終了ページを指定します。

- 印刷開始ページ
  初期表示は 1（ページ）です。入力できる値は，1 ～ 999,999 です。帳票の最終ページを超える値を指定した場合は，最終ページから印刷されます。
- 印刷終了ページ
  初期表示は，帳票の最終ページです。入力できる値は，1 ～ 999,999 です。帳票の最終ページを超える値を指定した場合は，最終ページまで印刷されます。

(2) プレビューウィンドウの設定項目

［印刷先指定］ダイアログの［プレビュー］ボタンをクリックすると，プレビューウィンドウが表示されます。プレビューウィンドウでは，帳票の印刷イメージを確認できます。

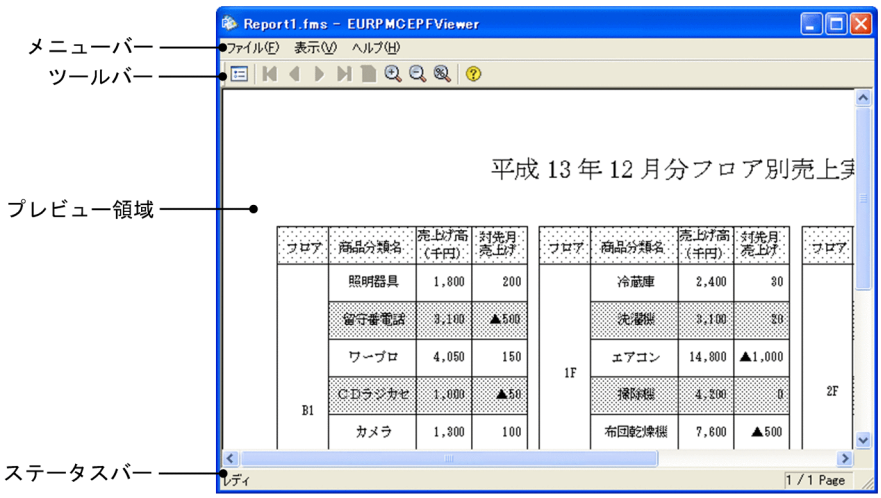


表 4-2　プレビューウィンドウのメニュー

メニュー		機能	ボタン
ファイル (F)	プロパティ (P)	［プロパティ］ダイアログが表示されます。	
	終了 (X)	プレビューウィンドウが終了します。	―
表示 (V)	ツールバー (T)	チェックを入れると，ツールバーが表示されます。	―
	ステータスバー (S)	チェックを入れると，ステータスバーが表示されます。	―
	先頭ページ (O)	先頭ページに移動します。	
	前ページ (B)	前ページに移動します。	
	次ページ (N)	次ページに移動します。	
	最終ページ (L)	最終ページに移動します。	
	指定ページへジャンプ (J)	［指定ページへジャンプ］ダイアログが表示されます。指定したページに移動します。	
	拡大 (U)	表示された帳票を拡大します。10% ずつ拡大します。	
	縮小 (D)	表示された帳票を縮小します。10% ずつ縮小します。	
	拡大率の指定 (P)	［拡大率の指定］ダイアログが表示されます。指定した拡大率で帳票が表示されます。	
ヘルプ (H)	ヘルプ (E)	EUR Print Manager - Client のヘルプが表示されます。	
	バージョン情報 (A)	［EUR Print Manager - Client のバージョン情報］ダイアログが表示されます。	―

(3) ［プロパティ］ダイアログの設定項目

印刷データのプロパティが表示されます。

[EURPS バージョン]

印刷データを作成した EUR Print Service のバージョンが表示されます。

[EPF Report バージョン]

印刷データを作成したプログラムのバージョンが表示されます。

[プリンタクラス名]

印刷データのクライアントプリンタクラス名が表示されます。設定されていない場合は，表示されません。

[スプールタイトル]

印刷データのスプールのタイトルが表示されます。設定されていない場合は，表示されません。

[印刷部数]

印刷データの印刷部数が表示されます。

[部数の単位]

印刷データの部数の単位が表示されます。［部単位］または［ページ単位］のどちらかが表示されます。

[向き]

印刷データの印刷の向きが表示されます。［縦］または［横］のどちらかが表示されます。設定されていない場合は，表示されません。

[総ページ数]

印刷データの総ページ数が表示されます。

[横 dpi]

印刷データの横 dpi が表示されます。

[縦 dpi]

印刷データの縦 dpi が表示されます。

[先頭ページ帳票ファイル名]

帳票ファイル名を表示します。複数の帳票が指定されている場合は，先頭ページの帳票ファイル名を表示します。

[蓄積ジョブ ID]

蓄積データの印刷，または蓄積データからファイル取得した EPF 形式ファイルを印刷する場合に蓄積時のジョブ ID を表示します。蓄積印刷ではない場合は何も表示しません。

[印刷日時書式]

プリンタでの印刷実行時に帳票に出力される，日時情報の文字列が表示されます。設定されていない場合は，表示されません。

なお，文字列中の書式指定コード（「%」で始まる文字列）は，印刷時の日時に合わせて変換されます。書式指定コードの詳細については，「表 15-13　TEXT キーに指定できる書式指定コード」を参照してください。

[印刷日時出力位置]

プリンタでの印刷実行時に帳票に出力される，日時情報の文字列の出力位置が表示されます。設定されていない場合は，表示されません。

[印刷日時フォント名]

プリンタでの印刷実行時に帳票に出力される，日時情報の文字のフォント名が表示されます。設定されていない場合は，表示されません。

[印刷日時フォントサイズ]

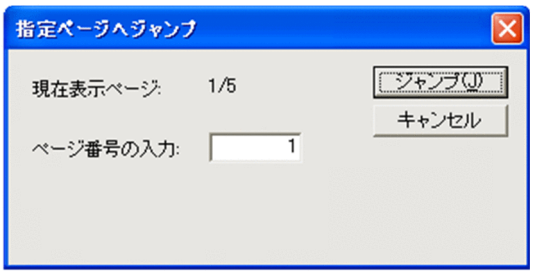
プリンタでの印刷実行時に帳票に出力される，日時情報の文字の大きさが表示されます。単位はポイントです。設定されていない場合は，表示されません。

[印刷日時フォント色 (RGB)]

プリンタでの印刷実行時に帳票に出力される，日時情報の文字の色が RGB 値で表示されます。設定されていない場合は，表示されません。

(4) [指定ページへジャンプ] ダイアログの設定項目

ページ番号を入力すると，指定したページに移動できます。



[現在表示ページ]

プレビュー領域に表示されたページのページ番号が表示されます。形式は，「ページ番号 / 総ページ数」です。

[ページ番号の入力] テキストボックス

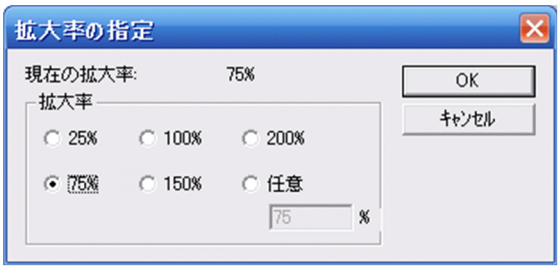
表示したいページ番号を 1 から総ページ数の範囲で入力します。半角数字で入力してください。

[ジャンプ] ボタン

指定したページをプレビュー領域に表示します。
1 から総ページ数の範囲以外の値を指定した場合はエラーとなります。

(5) [拡大率の指定] ダイアログの設定項目

指定した倍率で，プレビュー領域が表示されます。



[現在の拡大率]

プレビュー領域に表示された倍率を表示します。

[拡大率] グループボックス

[25%] オプションボタン：帳票を 25% の倍率で表示します。
[75%] オプションボタン：帳票を 75% の倍率で表示します。
[100%] オプションボタン：帳票を 100% の倍率で表示します。
[150%] オプションボタン：帳票を 150% の倍率で表示します。
[200%] オプションボタン：帳票を 200% の倍率で表示します。
[任意] オプションボタン：任意の拡大率を指定します。

拡大率指定テキストボックス

任意の倍率を入力します。［任意］オプションボタンを選択すると，入力できます。25 ～ 200 の半角数字を指定してください。25 ～ 200 の範囲以外の値を指定した場合はエラーとなります。

4.6.4　クライアント PC での対話型印刷プレビュー表示

印刷管理サーバで生成された印刷データ（EPF 形式ファイル）を受信すると，プレビューウィンドウが表示されます。

印刷時にプレビューウィンドウを表示させる場合は，クライアントプリンタ印刷機能の設定で，対話型印刷プレビューモードを指定する必要があります。

プレビューウィンドウでは，帳票の印刷イメージを確認できます。

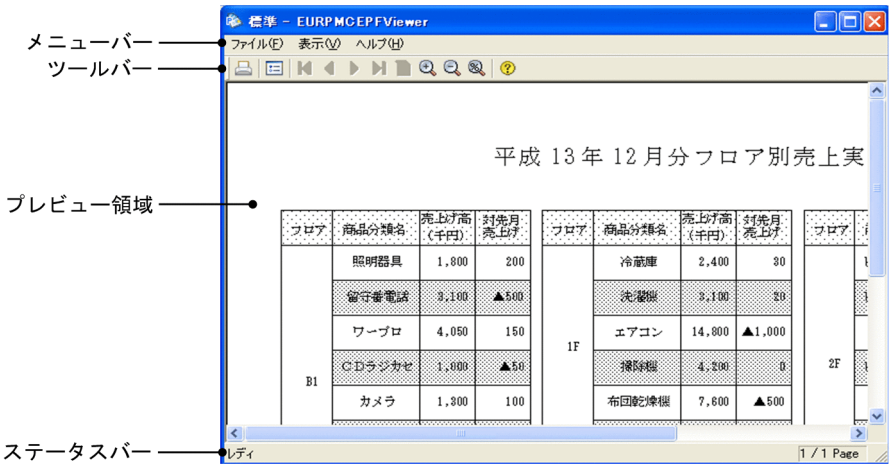


表 4-3　プレビューウィンドウのメニュー

メニュー		機能	ボタン
ファイル (F)	印刷 (R)	［印刷先指定］ダイアログが表示されます。	
	プロパティ (P)	［プロパティ］ダイアログが表示されます。	
	終了 (X)	プレビューウィンドウが終了します。	―

メニュー		機能	ボタン
表示 (V)	ツールバー (T)	チェックを入れると，ツールバーが表示されます。	－
	ステータスバー (S)	チェックを入れると，ステータスバーが表示されます。	－
	先頭ページ (O)	先頭ページに移動します。	
	前ページ (B)	前ページに移動します。	
	次ページ (N)	次ページに移動します。	
	最終ページ (L)	最終ページに移動します。	
	指定ページへジャンプ (J)	［指定ページへジャンプ］ダイアログが表示されます。指定したページに移動します。	
	拡大 (U)	表示された帳票を拡大します。10% ずつ拡大します。	
	縮小 (D)	表示された帳票を縮小します。10% ずつ縮小します。	
	拡大率の指定 (P)	［拡大率の指定］ダイアログが表示されます。指定した拡大率で帳票が表示されます。	
ヘルプ (H)	ヘルプ (E)	EUR Print Manager - Client のヘルプが表示されます。	
	バージョン情報 (A)	［EUR Print Manager - Client のバージョン情報］ダイアログが表示されます。	－

なお，プレビューウィンドウだけを表示して印刷を許可しない場合は，クライアントプリンタ印刷機能の設定で，対話型印刷プレビュー表示限定モードを指定する必要があります。対話型印刷プレビュー表示限定モードを指定した場合，プレビューウィンドウのメニュー，ツールバーのボタンに［印刷 (R)］は表示されません。

4.6.5 クライアント PC への配布印刷

クライアント PC への配布印刷では，複数のクライアント PC に帳票を配布して印刷します。

クライアント PC に配布された帳票は，指定したプリンタに自動で印刷するか（自動印刷），ダイアログでプリンタとトレイを指定して印刷（対話型印刷）します。

クライアント PC での自動印刷については，「4.6.2　クライアント PC での自動印刷または全自動印刷」を参照してください。

また，クライアント PC での対話型印刷については，「4.6.3　クライアント PC での対話型印刷」を参照してください。

配布印刷をする場合は，クライアント PC に EUR Print Manager - Client をインストールする必要があります。また，蓄積した印刷データを印刷する場合は，アプリケーションサーバに EUR Print Manager - Report Server Adapter が必要です。

4.6.6　Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷（自動印刷）

印刷管理サーバから Web サーバを通して，クライアント PC に帳票がダウンロードされます。印刷管理サーバが指定したプリンタに自動的に印刷されます。

ActiveX 部品の設定ごとに，帳票を印刷するプリンタを次に示します。

プリンタ（PrinterName パラメタ）とトレイ（TrayName パラメタ）を指定していた場合

指定されたプリンタとトレイで印刷されます。
トレイ未指定の場合は，プリンタ標準のトレイから印刷されます。
指定されたプリンタとトレイが存在しない場合は，未指定として判断されます。

プリンタ（PrinterName パラメタ）とトレイ（TrayName パラメタ）を未指定の場合

プリンタ選択ダイアログの表示指定（NoSetPrinterDlg パラメタ）が YES の場合，クライアント PC の通常使うプリンタで印刷されます。
プリンタ選択ダイアログの表示指定（NoSetPrinterDlg パラメタ）が NO の場合，ダイアログでの印刷になります。
ダイアログでの印刷については「4.6.8　Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷（ダイアログでの印刷）」を参照してください。

指定したプリンタが存在する場合，指定したプリンタで印刷します。指定したプリンタが存在しない場合，かつ，クライアント PC の通常使うプリンタで印刷したい場合は，プリンタを指定し，プリンタ選択ダイアログの表示指定を YES に指定します。

自動印刷をする場合は，クライアント PC に EUR Print Manager - Client Print ActiveX または EUR Print Manager - Client Preview ActiveX をインストールする必要があります。また，蓄積した印刷データを印刷する場合は，アプリケーションサーバに EUR Print Manager - Report Server Adapter が必要です。

4.6.7　Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷（プレビュー画面からの印刷）

印刷管理サーバから Web サーバを通して，クライアント PC に帳票がダウンロードされます。クライアント PC で印刷管理サーバから帳票をダウンロードすると，プレビュー画面が表示されます。

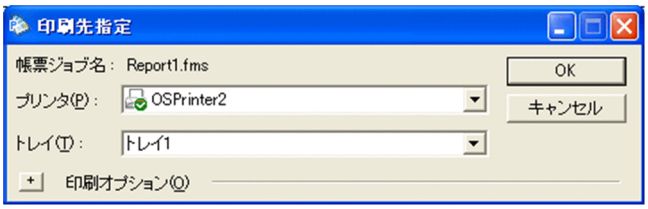
帳票のプレビュー画面を確認して，印刷します。印刷は，PrintEPF メソッドを呼び出して実行します。

Web ブラウザに帳票のプレビュー画面を表示して印刷する場合は，クライアント PC に EUR Print Manager - Client Preview ActiveX をインストールする必要があります。また，蓄積した印刷データを印刷する場合は，アプリケーションサーバに EUR Print Manager - Report Server Adapter が必要です。

4.6.8　Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷（ダイアログでの印刷）

印刷管理サーバから Web サーバを通して，クライアント PC に帳票がダウンロードされます。クライアント PC で印刷管理サーバから帳票をダウンロードすると，［印刷先指定］ダイアログが表示されます。DefaultPrintDlg パラメタで YES を選択していた場合は，OS の印刷ダイアログが表示されます。

［印刷先指定］ダイアログにはクライアントプリンタクラス名が表示されます。クライアントプリンタクラスが指定されていない場合は，帳票名が表示されます。



［印刷先指定］ダイアログの［OK］ボタンをクリックすると，指定したプリンタのトレ

イで帳票が印刷されます。指定したプリンタとトレイがクライアント PC にない場合は，エラーとなります。

Web ブラウザを使用してダイアログで印刷する場合は，クライアント PC に EUR Print Manager - Client Print ActiveX をインストールする必要があります。また，蓄積した印刷データを印刷する場合は，アプリケーションサーバに EUR Print Manager - Report Server Adapter が必要です。

なお，ダイアログでの印刷は，次に示す条件をすべて満たしている場合に動作します。

- プリンタ（PrinterName パラメタ）とトレイ（TrayName パラメタ）が未指定か，または指定したプリンタとトレイが存在しない場合
- プリンタ選択ダイアログの表示指定（NoSetPrinterDlg パラメタ）が NO の場合

（1）［印刷先指定］（Web ブラウザを使用した印刷）ダイアログの設定項目

［帳票ジョブ名］

クライアントプリンタクラス名を表示します。クライアントプリンタクラスが指定されていない場合は，帳票名を表示します。

［プリンタ］リストボックス

クライアント PC に登録されたプリンタ名を表示します。
印刷したことがある帳票ジョブを受信した場合は，前回の受信時に設定したプリンタ名が表示されます。
［プリンタ］リストボックスは，プリンタの種類と状態を次に示すアイコンで示します。

- ：OS 上の通常使うプリンタ
- ：OS 上の通常使うプリンタ以外の OS に登録されているプリンタ

初めて印刷する帳票ジョブを受信した場合

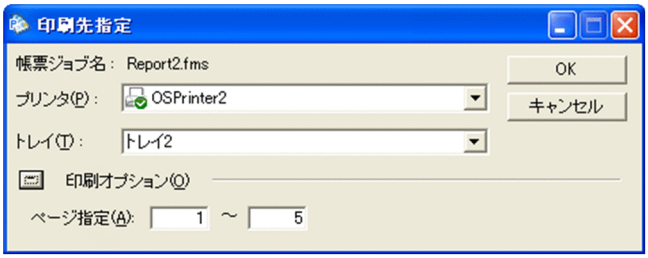
- ExclusionPrinterDriver プロパティおよび ExclusionPrinterName プロパティに指定がない場合，プリンタ名は表示されません。
- ExclusionPrinterDriver プロパティまたは ExclusionPrinterName プロパティに指定がある場合，通常使うプリンタが表示されます。

［トレイ］リストボックス

プリンタ名を選択すると，OS 上に登録されたプリンタ名のトレイ名を表示します。
トレイを指定しなかった場合は，デフォルトのトレイに印刷されます。
印刷したことがある帳票ジョブを受信した場合は，前回の受信時に設定したトレイ名が表示されます。
初めて印刷する帳票ジョブを受信した場合は，トレイ名は表示されません。

［+］ボタン

［印刷先指定］ダイアログが拡張されて，［印刷オプション］を設定できます。



［－］ボタン

［印刷オプション］の設定が非表示になります。

［ページ指定］

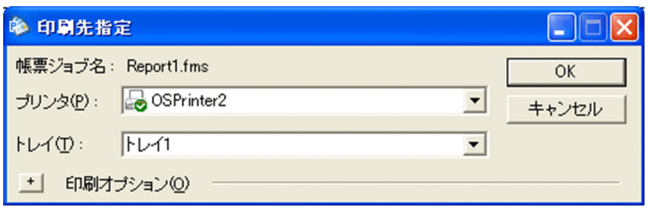
印刷開始ページと印刷終了ページを指定します。

- 印刷開始ページ
  初期表示は 1（ページ）です。入力できる値は，1 ～ 999,999 です。帳票の最終ページを超える値を指定した場合は，最終ページから印刷されます。
- 印刷終了ページ
  初期表示は，帳票の最終ページです。入力できる値は，1 ～ 999,999 です。帳票の最終ページを超える値を指定した場合は，最終ページまで印刷されます。

4.6.9　Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷（ヘルパクライアント印刷）

印刷管理サーバで生成された帳票（EPF 形式ファイル）の拡張子によって，印刷方法が異なります。

- 帳票をプレビューする場合
  MIME タイプを「application/vnd.hitachi.eurpm-view」にして，かつ拡張子が *.epf の帳票をクライアント PC で操作すると，帳票がプレビューされます。印刷するときは，Web ブラウザの［ファイル］メニューの［印刷］をクリックしてください。［印刷先指定］ダイアログが表示されます。
  ［印刷先指定］ダイアログにはクライアントプリンタクラス名が表示されます。クライアントプリンタクラスが指定されていない場合は，帳票名が表示されます。



［印刷先指定］ダイアログの［OK］ボタンをクリックすると，指定したプリンタに印刷されます。指定したプリンタがクライアント PC にない場合は，エラーとなります。

なお，MIME タイプが「application/vnd.hitachi.eurpm-view」であっても，ファイルの拡張子が *.epp の場合は直接印刷されます。

- 帳票を直接印刷する場合
  MIME タイプを「application/vnd.hitachi.eurpm-view」にして，かつ拡張子が *.epp の帳票は，クライアントプリンタクラスに対応するプリンタに自動印刷されます。クライアントプリンタクラスが指定されていない場合は，通常使うプリンタに自動印刷されます。
  なお，MIME タイプが「application/vnd.hitachi.eurpm-print」であっても，ファイルの拡張子が *.epf の場合は，プレビューされます。

Web ブラウザを使用したヘルパクライアント印刷をする場合は，クライアント PC に EUR Print Manager - Client をインストールする必要があります。また，蓄積した印刷データを印刷する場合は，アプリケーションサーバに EUR Print Manager - Report Server Adapter が必要です。

(1) プレビューウィンドウの設定項目

プレビューウィンドウでは，帳票の印刷イメージを確認できます。

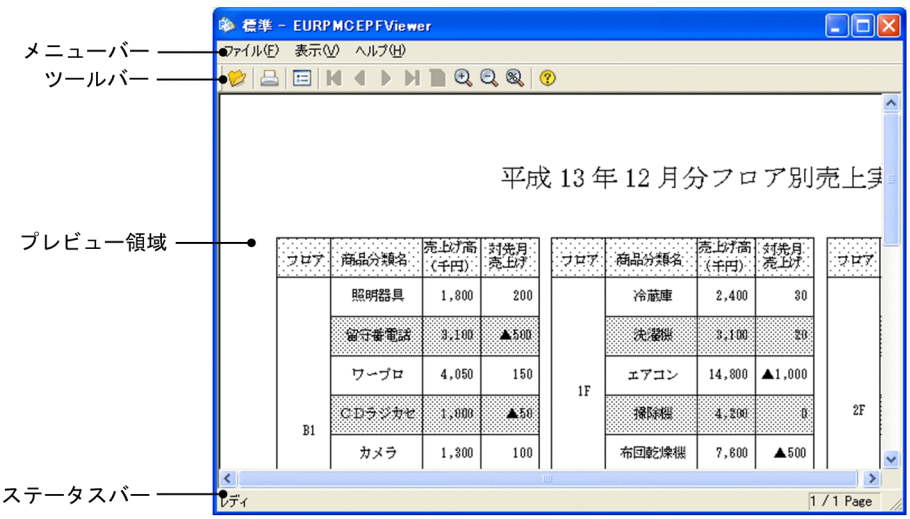


表 4-4　プレビューウィンドウのメニュー

メニュー		機能	ボタン
ファイル (F)	開く (O)	［ファイルを開く］ダイアログが表示されます。	
	印刷 (R)	［印刷先指定］ダイアログが表示されます。	
	プロパティ (P)	［プロパティ］ダイアログが表示されます。	
	終了 (X)	プレビューウィンドウが終了します。	―

メニュー		機能	ボタン
表示 (V)	ツールバー (T)	チェックを入れると，ツールバーが表示されます。	－
	ステータスバー (S)	チェックを入れると，ステータスバーが表示されます。	－
	先頭ページ (O)	先頭ページに移動します。	
	前ページ (B)	前ページに移動します。	
	次ページ (N)	次ページに移動します。	
	最終ページ (L)	最終ページに移動します。	
	指定ページへジャンプ (J)	［指定ページへジャンプ］ダイアログが表示されます。指定したページに移動します。	
	拡大 (U)	表示された帳票を拡大します。10% ずつ拡大します。	
	縮小 (D)	表示された帳票を縮小します。10% ずつ縮小します。	
	拡大率の指定 (P)	［拡大率の指定］ダイアログが表示されます。指定した拡大率で帳票が表示されます。	
ヘルプ (H)	ヘルプ (E)	EUR Print Manager - Client のヘルプが表示されます。	
	バージョン情報 (A)	［EUR Print Manager - Client のバージョン情報］ダイアログが表示されます。	－

(2) ［印刷先指定］（ヘルパクライアント印刷）ダイアログの設定項目

［帳票ジョブ名］

クライアントプリンタクラス名を表示します。クライアントプリンタクラスが指定されていない場合は，帳票名を表示します。

［プリンタ］リストボックス

クライアント PC に登録されたプリンタ名を表示します。
印刷したことがある帳票ジョブを受信した場合は，前回の受信時に設定したプリンタ名が表示されます。
［プリンタ］リストボックスは，プリンタの種類と状態を次に示すアイコンで示します。

- ：OS 上の通常使うプリンタ
- ：OS 上の通常使うプリンタ以外の OS に登録されているプリンタ

初めて印刷する帳票ジョブを受信した場合は，プリンタ名は表示されません。

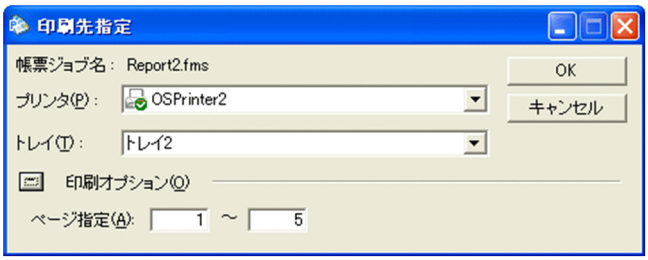
［トレイ］リストボックス

プリンタ名を選択すると，OS 上に登録されたプリンタ名のトレイ名を表示します。
トレイを指定しなかった場合は，デフォルトのトレイに印刷されます。
印刷したことがある帳票ジョブを受信した場合は，前回の受信時に設定したトレイ

名が表示されます。
初めて印刷する帳票ジョブを受信した場合は，トレイ名は表示されません。

[+] ボタン

［印刷先指定］ダイアログが拡張されて，［印刷オプション］を設定できます。



[－] ボタン

［印刷オプション］の設定が非表示になります。

[ページ指定]

印刷開始ページと印刷終了ページを指定します。

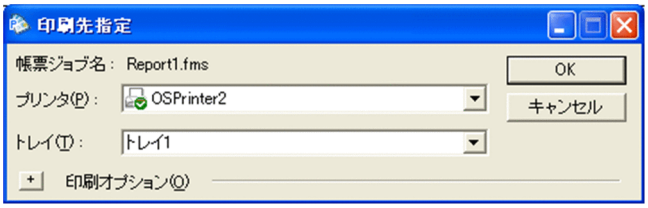
- 印刷開始ページ
  初期表示は 1（ページ）です。入力できる値は，1 ～ 999,999 です。帳票の最終ページを超える値を指定した場合は，最終ページから印刷されます。
- 印刷終了ページ
  初期表示は，帳票の最終ページです。入力できる値は，1 ～ 999,999 です。帳票の最終ページを超える値を指定した場合は，最終ページまで印刷されます。

4.6.10　コマンドを使用したクライアント PC での印刷

クライアントコマンドに指定するオプションによって，印刷方法が異なります。クライアントコマンドのオプションの詳細については，「14.　クライアントコマンドを使用した帳票出力」を参照してください。

- 帳票を自動印刷する場合
  クライアントコマンドの実行時に，/r オプションを指定すると，帳票が自動印刷されます。帳票の印刷先は，クライアントコマンドの実行時に指定するオプションによって異なります。帳票の印刷先に関するオプションの指定を省略した場合は，帳票に設定されているクライアントプリンタクラスに対応するプリンタに自動印刷されます。帳票にクライアントプリンタクラスが設定されていない場合は，通常使うプリンタに自動印刷されます。
  なお，ファイルの拡張子が *.epf であっても，クライアントコマンドの実行時に，/r オプションを指定した場合は，帳票が自動印刷されます。
- 帳票をプレビューする場合
  クライアントコマンドの実行時に，/r オプションの指定を省略すると，帳票がプレビューされます。印刷するときは，プレビューウィンドウの［ファイル］メニューの

［印刷］をクリックしてください。［印刷先指定］ダイアログが表示されます。
［印刷先指定］ダイアログにはクライアントプリンタクラス名が表示されます。帳票にクライアントプリンタクラスが設定されていない場合は，帳票名が表示されます。

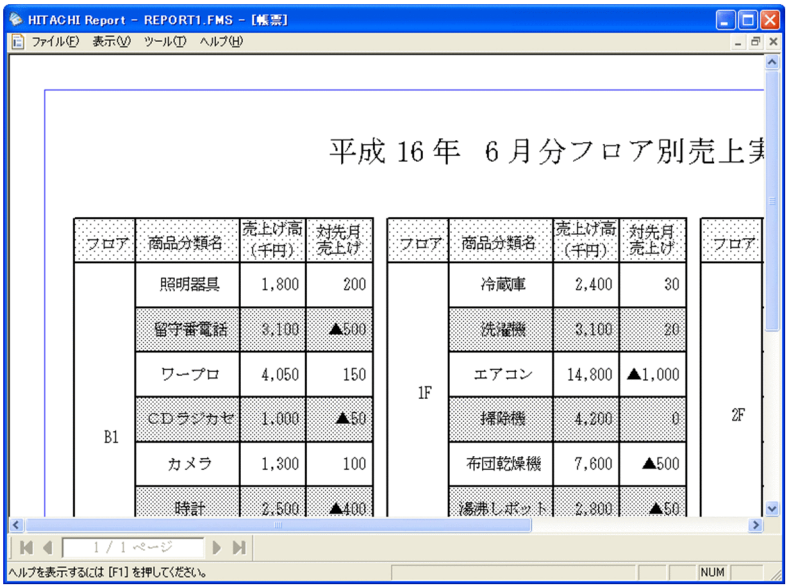


［印刷先指定］ダイアログの［OK］ボタンをクリックすると，指定したプリンタに印刷されます。指定したプリンタがクライアント PC にない場合は，エラーとなります。
プレビューウィンドウに表示されるメニュー項目については，「4.6.9(1) プレビューウィンドウの設定項目」を参照してください。また，［印刷先指定］ダイアログの設定項目については，「4.6.9(2) ［印刷先指定］（ヘルパクライアント印刷）ダイアログの設定項目」を参照してください。
なお，ファイルの拡張子が *.epp であっても，クライアントコマンドの実行時に，/r オプションの指定を省略した場合は，帳票がプレビューされます。

コマンドを使用したクライアント PC での印刷をする場合は，クライアント PC に EUR Print Manager - Client をインストールする必要があります。また，蓄積した印刷データを印刷する場合は，アプリケーションサーバに EUR Print Manager - Report Server Adapter が必要です。

4.6.11 EUR Viewer を使用した印刷

印刷管理サーバで作成した EUR 形式ファイルは，クライアント PC で EUR Viewer を使用して印刷できます。



EUR Viewer のメニューから［ファイル］－［印刷］を選択して，帳票を印刷します。

EUR Viewer を使用して印刷する場合は，クライアント PC に EUR Viewer をインストールする必要があります。

4.6.12　Adobe Reader を使用した印刷

印刷管理サーバで作成した PDF 形式ファイルは，クライアント PC で Adobe Reader を使用して印刷できます。

Adobe Reader のメニューで印刷します。

4.6.13　Excel を使用した印刷

印刷管理サーバで作成した Excel 形式ファイルは，クライアント PC で Excel を使用して印刷できます。

Excel のメニューで印刷します。

4.6.14　印刷管理サーバを使用した印刷

印刷管理サーバから直接，指定したプリンタとトレイで印刷されます。

帳票を印刷するプリンタとトレイを次に示します。

プリンタクラス名を指定していた場合

指定されたプリンタクラス名に対応するプリンタとトレイで印刷されます。

プリンタクラス名が設定されていない場合は，印刷管理サーバに設定したデフォルトのプリンタに出力されます。プリンタクラス名が設定されていない，かつ，デフォルトのプリンタも設定されていない場合は，エラーとなります。
また，印刷管理サーバプリンタクラス定義ファイル（PMPrinterClass.conf）内に，同じプリンタクラス名が存在する場合は，上位に記述されているプリンタクラス名に対応するプリンタとトレイで印刷されます。

プリンタ名とトレイ名を指定していた場合

指定されたプリンタとトレイで印刷されます。指定されたプリンタとトレイが印刷管理サーバにない場合は，エラーとなります。

5 蓄積ファイルのセキュリティ管理

この章では，蓄積ファイルのセキュリティ管理方法について説明します。

5.1 セキュリティ管理の概要

5.2 蓄積管理ユーザを定義する（Windows 環境の場合）

5.3 蓄積管理ユーザを定義する（UNIX/Linux 環境の場合）

5.1 セキュリティ管理の概要

EUR Print Manager では，**蓄積管理ユーザ定義**を使用して，蓄積管理 GUI 上で蓄積ファイルを操作するときのセキュリティを管理できます。蓄積管理ユーザ定義には，蓄積ファイルを操作するユーザー（**蓄積管理ユーザ**）ごとに，アクセスできる蓄積ファイルの条件を定義します。

蓄積管理ユーザ定義には，次の情報を定義します。

- **蓄積管理ユーザのユーザー認証情報**
  蓄積管理ユーザ名と確認キーを定義します。
- **蓄積ファイルに対するアクセス制限情報**
  アクセス制限方式，およびアクセスを許可する蓄積ファイルの属性情報を定義します。また，蓄積管理ユーザ名が一致する蓄積ファイルのアクセス可否，およびアクセスを許可する分類名がジョブ検索キーに設定されていない蓄積ファイルのアクセス可否も定義します。

(1) 定義する情報とアクセス制限との関係

蓄積ファイルに指定した蓄積管理ユーザ名と確認キーが，蓄積管理ユーザ定義の定義内容と一致すると，条件に一致する蓄積ファイルにアクセスできます。

存在しない蓄積管理ユーザ名を指定した場合，または蓄積管理ユーザ名と確認キーが蓄積管理ユーザ定義の内容と一致しなかった場合は，**デフォルト蓄積管理ユーザ**として蓄積ファイルにアクセスします。デフォルト蓄積管理ユーザとは，アクセス制限の対象としない蓄積ファイルにアクセスするための最低限の権限を持つ蓄積管理ユーザのことです。

例えば，蓄積管理ユーザ定義を表 5-1 のように定義します。

表 5-1 蓄積管理ユーザ定義の定義例

蓄積管理ユーザ名※1	アクセス制限方式	アクセスを許可する属性情報※2		蓄積管理ユーザ名が一致する蓄積ファイルの場合	アクセスを許可する分類名がジョブ検索キーに設定されていない場合
		分類名	キー値		
管理者	分類	公開先	部内 社内	○	×
リーダー	分類	公開先	社内	△	○

（凡例）
○：アクセスできるようにします。
△：蓄積管理ユーザ名が一致するかどうかに関係なく，指定したアクセス制限方式で，対象になる蓄積ファイルにアクセスできるようにします。
×：アクセスできないようにします。

注※1

蓄積管理ユーザ名に使用する分類名は，「ユーザ名」と定義するものとします。

注※ 2

分類名は蓄積ファイルのジョブ検索キーの分類に，キー値はジョブ検索キーの値に，それぞれ対応します。

このとき，蓄積ファイルの属性情報と蓄積管理ユーザがアクセスできる蓄積ファイルとの関係は，表 5-2 に示すようになります。

表 5-2　蓄積ファイルの属性情報とアクセス可否

蓄積ファイルの属性					蓄積管理ユーザ別アクセス可否	
ファイル名	ジョブ検索キー					
	分類 1	値 1	分類 2	値 2	管理者	リーダー
ファイル A	ユーザ名	管理者	－	－	○	○
ファイル B	ユーザ名	管理者	公開先	部内	○	×
ファイル C	ユーザ名	管理者	公開先	社内	○	○
ファイル D	ユーザ名	リーダー	－	－	×	○
ファイル E	ユーザ名	リーダー	公開先	部内	○	×
ファイル F	ユーザ名	リーダー	公開先	社内	○	○
ファイル G	－	－	－	－	×	○

（凡例）

－：属性情報がありません。

○：アクセスできます。

×：アクセスできません。

「管理者」は，蓄積管理ユーザ名が一致する蓄積ファイル，および「公開先」の値が「部内」と「社内」の蓄積ファイルにアクセスできます。そのため，「ファイル A」，「ファイル B」，「ファイル C」，「ファイル E」，「ファイル F」にアクセスできます。

「リーダー」は，蓄積管理ユーザ名が一致するかどうかに関係なく，「公開先」の値が「社内」の蓄積ファイル，および「公開先」がジョブ検索キーに設定されていない蓄積ファイルにアクセスできます。そのため，「ファイル A」，「ファイル C」，「ファイル D」，「ファイル F」，「ファイル G」にアクセスできます。

(2) 定義方法

蓄積管理ユーザのユーザー認証情報，および蓄積ファイルに対するアクセス制限情報は，蓄積ファイルの属性情報を基に定義します。利用できる属性情報がない場合は，属性情報を新たに追加します。また，新規に蓄積ファイルを作成する場合は，印刷データの蓄積時に，蓄積ファイルの管理方法に合わせて必要な属性情報を指定します。

蓄積ファイルの属性情報を追加する方法については，「2.3.3　蓄積ファイルの属性値の変更」（起動部品を使用する場合），または「3.4.5　蓄積ファイルの属性値の変更」（蓄積管

理 GUI を使用する場合）を参照してください。また，印刷データの蓄積方法については，「2.2　印刷データの蓄積」を参照してください。

また，蓄積管理ユーザ定義の定義方法は，適用 OS によって異なります。

Windows 環境の場合は，［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログの［蓄積管理ユーザ定義］タブで定義します。定義方法については，「5.2　蓄積管理ユーザを定義する（Windows 環境の場合）」を参照してください。

UNIX/Linux 環境の場合は，サンプルファイルを基に定義します。定義方法については，「5.3　蓄積管理ユーザを定義する（UNIX/Linux 環境の場合）」を参照してください。

（3）注意事項

蓄積管理ユーザ定義を定義する場合の注意事項について次に示します。

デフォルト蓄積管理ユーザの蓄積管理ユーザ名について

デフォルト蓄積管理ユーザは，蓄積管理ユーザ名を持ちません。したがって，蓄積管理ユーザ名が一致する蓄積ファイルにアクセスできるように定義した場合，デフォルト蓄積管理ユーザは，蓄積管理ユーザ名のジョブ検索キーを持たない蓄積ファイルにアクセスできます。

ジョブ検索キーの分類名と値の指定について

蓄積管理ユーザ名およびアクセス許可キーに使用するジョブ検索キーは，指定した分類名に対応する値を必ず指定してください。
分類名だけ指定して値に指定がない蓄積ファイルを作成することもできますが，どの蓄積管理ユーザ名ともユーザー名が一致しなくなるため，アクセス制御ができなくなります。アクセス許可キーの場合も同様に，どのアクセス許可キーともキー値が一致しなくなるため，アクセス制御ができなくなります。

起動部品を使用する場合の蓄積管理ユーザについて

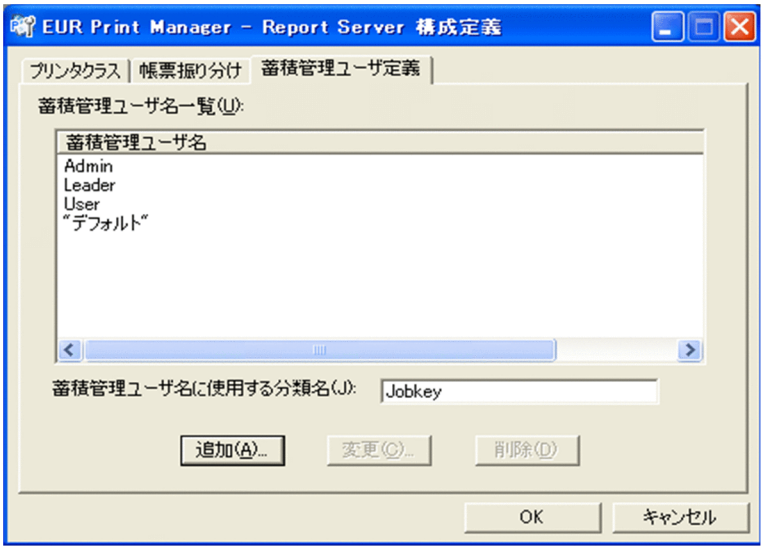
起動部品を使用する場合は，蓄積管理ユーザを指定できないため，デフォルト蓄積管理ユーザとして動作します。

5.2　蓄積管理ユーザを定義する（Windows 環境の場合）

Windows 環境では，［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログの［蓄積管理ユーザ定義］タブで蓄積管理ユーザを定義します。

スタートメニューの［プログラム］－［EUR Print Manager - Report Server］－［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］を選択すると，［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログが表示されます。

図 5-1　［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログ［蓄積管理ユーザ定義］タブ



［蓄積管理ユーザ名一覧］

蓄積管理ユーザ定義に登録されている蓄積管理ユーザ名が一覧で表示されます。初期表示では定義順で表示され，［蓄積管理ユーザ名］をクリックすると，Shift JIS のコード順にソートして表示されます。なお，蓄積管理ユーザ名は複数選択できません。なお，デフォルト蓄積管理ユーザの場合は，「" デフォルト "」と表示されます。

［蓄積管理ユーザ名］

蓄積管理ユーザ名が表示されます。

［蓄積管理ユーザ名に使用する分類名］テキストボックス

蓄積管理ユーザ名に使用するジョブ検索キーの分類名を入力します。80 バイトまで入力できます。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だ

けを入力した場合は未入力とみなされます。

［追加］ボタン

［蓄積管理ユーザ定義の追加］ダイアログが表示され，蓄積管理ユーザ定義を登録できます。ただし，蓄積管理ユーザ定義の登録数が上限を超えていた場合は，不活性になります。最大 1,024 件の蓄積管理ユーザ定義を登録できます。

［変更］ボタン

［蓄積管理ユーザ定義の変更］ダイアログが表示され，蓄積管理ユーザ定義の情報を変更できます。

［削除］ボタン

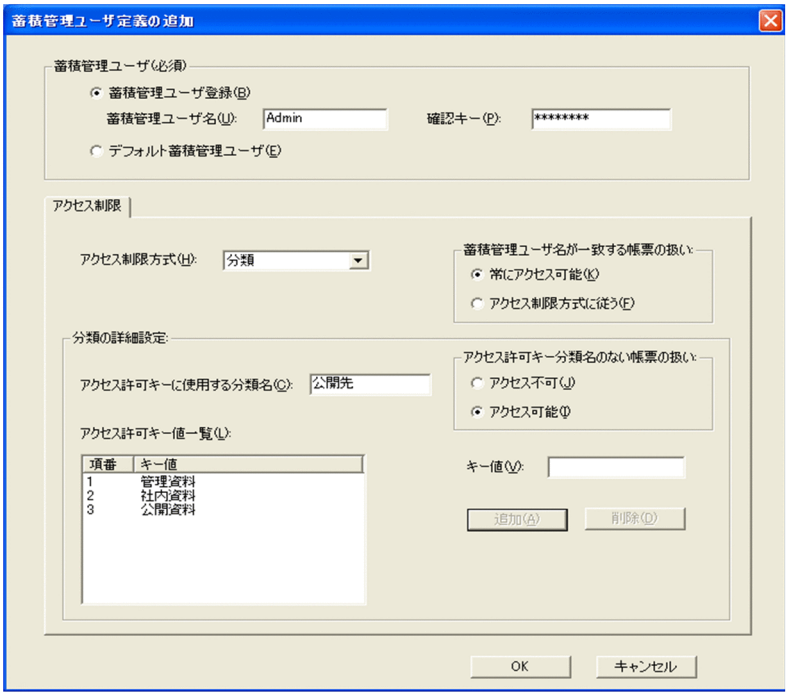
削除を確認するダイアログが表示され，蓄積管理ユーザ定義に登録されている蓄積管理ユーザを削除できます。

5.2.1 蓄積管理ユーザの登録

EUR Print Manager の蓄積管理ユーザを登録します。［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログの［蓄積管理ユーザ定義］タブで，蓄積管理ユーザを登録する方法を次に示します。ただし，蓄積管理ユーザ定義の登録数が上限を超えていた場合は，登録できません。最大 1,024 件の蓄積管理ユーザ定義を登録できます。

1. **［蓄積管理ユーザ定義の追加］ダイアログの表示**

   ［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログの［蓄積管理ユーザ定義］タブの［追加］ボタンをクリックして，［蓄積管理ユーザ定義の追加］ダイアログを表示します。



2. **蓄積管理ユーザの選択**

［蓄積管理ユーザ］グループボックスから，蓄積管理ユーザを登録するか，デフォルト蓄積管理ユーザを登録するかのどちらかを選択します。

蓄積管理ユーザを登録する場合は［蓄積管理ユーザ登録］オプションボタンを，デフォルト蓄積管理ユーザを登録する場合は，［デフォルト蓄積管理ユーザ］オプションボタンを選択します。

3. **蓄積管理ユーザ名の入力**

［蓄積管理ユーザ名］テキストボックスに，蓄積管理ユーザ名を入力します。

［蓄積管理ユーザ登録］オプションボタンを選択した場合に，蓄積管理ユーザ名を入力します。［デフォルト蓄積管理ユーザ］オプションボタンを選択した場合は，蓄積管理ユーザ名を入力する必要はありません。

4. **確認キーの入力**

［確認キー］テキストボックスに，蓄積管理ユーザの確認キーを入力します。

［蓄積管理ユーザ登録］オプションボタンを選択した場合に，確認キーを入力します。［デフォルト蓄積管理ユーザ］オプションボタンを選択した場合は，確認キーを入力する必要はありません。

5. **アクセス制限方式の選択**

蓄積ファイルのアクセス制限方式（表示する蓄積ファイル）を［アクセス制限方式］リストボックスから選択します。

蓄積ファイルへのアクセスを制限しない場合は，手順 5. ～手順 10. までの作業は不要です。

6. **蓄積管理ユーザ名が一致する蓄積ファイルのアクセス設定**
   ［蓄積管理ユーザ名が一致する帳票の扱い］グループボックスから，蓄積管理ユーザ名が一致する蓄積ファイルにアクセスするかどうかを選択します。

7. **アクセス許可キーに使用する分類名の入力**
   ［アクセス許可キーに使用する分類名］テキストボックスに，アクセスを許可するジョブ検索キーの分類名を入力します。
   ［アクセス制限方式］リストボックスで［分類］を選択した場合は，必ず入力します。
   ［アクセス制限方式］リストボックスで［分類］以外を選択した場合は，入力する必要はありません。

8. **キー値の入力**
   ［キー値］テキストボックスに，アクセスを許可するジョブ検索キーのキー値を入力します。
   ［アクセス制限方式］リストボックスで［分類］を選択した場合に入力します。［アクセス制限方式］リストボックスで［分類］以外を選択した場合は，入力する必要はありません。

9. **［追加］ボタンのクリック**
   ［追加］ボタンをクリックすると，［キー値］テキストボックスに入力した値が［アクセス許可キー値一覧］に追加されます。ただし，次の場合は，メッセージが表示され，値は追加されません。
   - キー値が入力できる文字数を超えている場合
   - キー値に入力できない文字があった場合
   - キー値に半角空白だけを入力した場合

   複数のキー値を定義する場合は，手順 8. と手順 9. を繰り返します。

10. **アクセスを許可する分類名がジョブ検索キーに設定されていない蓄積ファイルのアクセス設定**
    ［アクセス許可キー分類名のない帳票の扱い］グループボックスから，アクセスを許可する分類名がジョブ検索キーに設定されていない蓄積ファイルにアクセスするかどうかを選択します。

11. **［OK］ボタンのクリック**
    ［OK］ボタンをクリックすると，［蓄積管理ユーザ定義の追加］ダイアログで定義した蓄積管理ユーザが登録されます。ただし，次の場合は，メッセージが表示され，［蓄積管理ユーザ定義の追加］ダイアログに戻ります。
    - 蓄積管理ユーザ名，確認キー，またはアクセス許可キーに使用する分類名が入力できる文字数を超えている場合
    - 蓄積管理ユーザ名，確認キー，またはアクセス許可キーに使用する分類名に入力できない文字があった場合
    - 蓄積管理ユーザ名がすでに存在する場合
    - 蓄積管理ユーザ名が未入力の場合
    - アクセス許可キーに使用する分類名に半角空白だけを入力した場合

(1)［蓄積管理ユーザ定義の追加］ダイアログの設定項目

(a)［蓄積管理ユーザ］グループボックス

蓄積管理ユーザを登録するか，デフォルト蓄積管理ユーザを登録するかのどちらかを選択します。

［蓄積管理ユーザ登録］オプションボタン

蓄積管理ユーザを登録する場合に選択します。

［蓄積管理ユーザ名］テキストボックス

蓄積管理ユーザ名を入力します。［蓄積管理ユーザ登録］オプションボタンを選択した場合は，必ず入力してください。80 バイトまで入力できます。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した場合は未入力と見なされます。

なお，すでに登録されている蓄積管理ユーザ名は登録できません。

［確認キー］テキストボックス

蓄積管理ユーザの確認キーを入力します。［蓄積管理ユーザ登録］オプションボタンを選択した場合は，必ず入力してください。半角文字で 80 バイトまで入力できます。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。入力した文字列は「*」で表示されます。

［デフォルト蓄積管理ユーザ］オプションボタン

デフォルト蓄積管理ユーザを登録する場合に選択します。

［デフォルト蓄積管理ユーザ］オプションボタンを選択した場合，アクセス制限の対象としない蓄積ファイルにアクセスするための最低限の権限を持つ蓄積管理ユーザとして蓄積ファイルにアクセスできます。

(b)［アクセス制限］タブ

［アクセス制限方式］リストボックス

蓄積ファイルのアクセス制限方式（表示する蓄積ファイル）を選択します。選択できるアクセス制限方式を次に示します。

- 制限なし：すべての蓄積ファイルを表示します。
- 全部：すべての蓄積ファイルを表示しないようにします。
- 分類：［アクセス許可キー値一覧］に表示されているキー値と一致する蓄積ファイルを表示します。

［蓄積管理ユーザ名が一致する帳票の扱い］グループボックス

蓄積管理ユーザ名と一致するジョブ検索キーのキー値を持つ蓄積ファイルにアクセスするかどうかを選択します。

［常にアクセス可能］オプションボタン

アクセス制限方式に関係なく，常に蓄積管理ユーザ名と一致するジョブ検索キーのキー値を持つ蓄積ファイルにアクセスします。

［アクセス制限方式に従う］オプションボタン

蓄積管理ユーザ名と一致するジョブ検索キーのキー値を持つかどうかに関係なく，アクセス制限方式によって決められた蓄積ファイルにアクセスします。

［アクセス許可キーに使用する分類名］テキストボックス

アクセスを許可するジョブ検索キーの分類名を入力します。80 バイトまで入力できます。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した場合は未入力と見なされます。

［アクセス許可キー分類名のない帳票の扱い］グループボックス

アクセスを許可する分類名がジョブ検索キーに設定されていない蓄積ファイルにアクセスするかどうかを選択します。

［アクセス不可］オプションボタン

アクセスを許可する分類名がジョブ検索キーに設定されていない蓄積ファイルにアクセスしません。

［アクセス可能］オプションボタン

アクセスを許可する分類名がジョブ検索キーに設定されていない蓄積ファイルにアクセスします。

［アクセス許可キー値一覧］

蓄積管理ユーザにアクセスを許可するジョブ検索キーのキー値が一覧で表示されます。初期表示では定義順で表示され，項目名をクリックすると，Shift JIS のコード順にソートして表示されます。最大 1,024 個のキー値を定義できます。

［項番］

アクセスを許可するジョブ検索キーのキー値の項番が表示されます。

［キー値］

蓄積管理ユーザにアクセスを許可するジョブ検索キーのキー値が表示されます。

［キー値］テキストボックス

［アクセス許可キー値一覧］にアクセスを許可するジョブ検索キーのキー値を追加するときに入力します。80 バイトまで入力できます。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した場合は未入力とみなされます。すでに登録されているキー値は登録できません。

［追加］ボタン

［キー値］テキストボックスに入力した値を，［アクセス許可キー値一覧］に追加できます。［アクセス許可キー値一覧］に追加するときは，［アクセス許可キーに使用する分類名］テキストボックス，および［キー値］テキストボックスの両方の入力が必要です。

［削除］ボタン

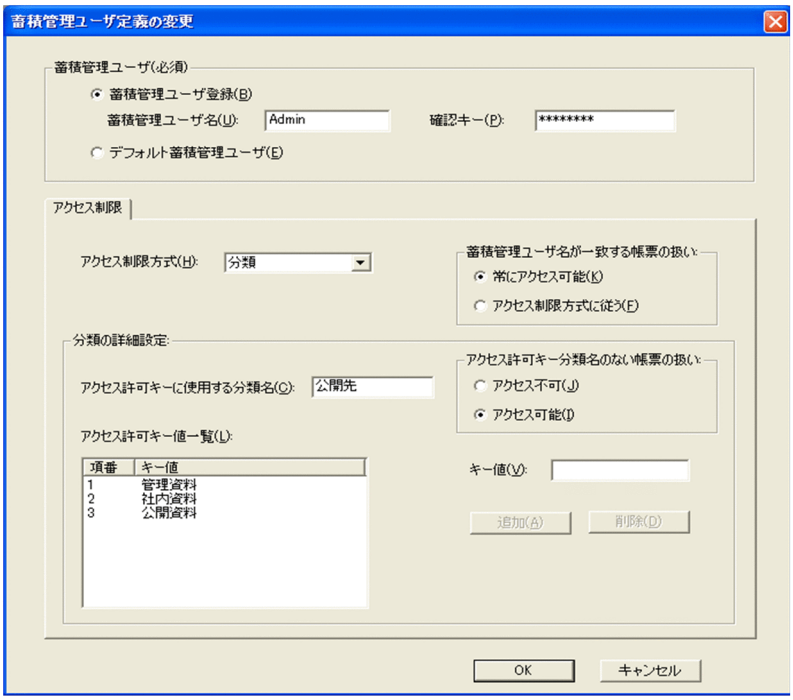
削除を確認するダイアログが表示され，［アクセス許可キー値一覧］に追加したキー

値を削除できます。

5.2.2　蓄積管理ユーザ定義の変更

登録した蓄積管理ユーザ定義を変更します。［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログの［蓄積管理ユーザ定義］タブで，蓄積管理ユーザ定義を変更する方法を次に示します。

1. **［蓄積管理ユーザ定義の変更］ダイアログの表示**
   ［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログの［蓄積管理ユーザ定義］タブの［変更］ボタンをクリックして，［蓄積管理ユーザ定義の変更］ダイアログを表示します。



2. **蓄積管理ユーザの変更**
   蓄積管理ユーザを変更します。
   蓄積管理ユーザを登録する場合は［蓄積管理ユーザ登録］オプションボタンを，デフォルト蓄積管理ユーザを登録する場合は，［デフォルト蓄積管理ユーザ］オプションボタンを選択します。

3. **蓄積管理ユーザ名，確認キーの変更**
   蓄積管理ユーザ名，確認キーを変更します。

4. **アクセス制限の変更**
   アクセス権限は，［アクセス許可キー値一覧］にキー値を追加または削除して変更します。［アクセス許可キー値一覧］に表示されているキー値を選択して直接変更する

ことはできません。
なお，［アクセス制限方式］に［分類］を指定した場合は，［アクセス許可キーに使用する分類名］を必ず指定してください。［アクセス許可キーに使用する分類名］の指定を省略すると，［分類］によるアクセス制限方式が無効になり，［アクセス制限方式］に［全部］を指定した場合と同じ扱いになります。

5. **［OK］ボタンのクリック**
［OK］ボタンをクリックすると，［蓄積管理ユーザ定義の変更］ダイアログで変更した蓄積管理ユーザ定義が登録されます。ただし，次の場合は，メッセージが表示され，［蓄積管理ユーザ定義の変更］ダイアログに戻ります。
- アクセス許可キーに使用する分類名が入力できる文字数を超えている場合
- アクセス許可キーに使用する分類名に入力できない文字があった場合
- アクセス許可キーに使用する分類名に半角空白だけを入力した場合

(1) ［蓄積管理ユーザ定義の変更］ダイアログの設定項目

(a) ［蓄積管理ユーザ］グループボックス

蓄積管理ユーザ定義に登録されている蓄積管理ユーザが表示されます。

［蓄積管理ユーザ登録］オプションボタン
蓄積管理ユーザを登録する場合に選択します。

［蓄積管理ユーザ名］テキストボックス
蓄積管理ユーザ名を入力します。80 バイトまで入力できます。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した場合は未入力と見なされます。
なお，すでに登録されている蓄積管理ユーザ名に変更できません。

［確認キー］テキストボックス
蓄積管理ユーザ名に対応した蓄積管理ユーザの確認キーを入力します。半角文字で 80 バイトまで入力できます。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。入力した文字列は「*」で表示されます。

［デフォルト蓄積管理ユーザ］オプションボタン
デフォルト蓄積管理ユーザを登録する場合に選択します。

(b) ［アクセス制限］タブ

［アクセス制限方式］リストボックス
蓄積ファイルのアクセス制限方式（表示する蓄積ファイル）を選択します。選択できるアクセス制限方式を次に示します。
- 制限なし：すべての蓄積ファイルを表示します。
- 全部：すべての蓄積ファイルを表示しないようにします。
- 分類：［アクセス許可キー値一覧］に表示されているキー値と一致する蓄積ファイルを表示します。

[蓄積管理ユーザ名が一致する帳票の扱い] グループボックス

蓄積管理ユーザ名と一致するジョブ検索キーのキー値を持つ蓄積ファイルにアクセスするかどうかを選択します。

[常にアクセス可能] オプションボタン

アクセス制限方式に関係なく，常に蓄積管理ユーザ名と一致するジョブ検索キーのキー値を持つ蓄積ファイルにアクセスします。

[アクセス制限方式に従う] オプションボタン

蓄積管理ユーザ名と一致するジョブ検索キーのキー値を持つかどうかに関係なく，アクセス制限方式によって決められた蓄積ファイルにアクセスします。

[アクセス許可キーに使用する分類名] テキストボックス

アクセスを許可するジョブ検索キーの分類名を入力します。80 バイトまで入力できます。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した場合は未入力と見なされます。

[アクセス許可キー分類名のない帳票の扱い] グループボックス

アクセスを許可する分類名がジョブ検索キーに設定されていない蓄積ファイルにアクセスするかどうかを選択します。

[アクセス不可] オプションボタン

アクセスを許可する分類名がジョブ検索キーに設定されていない蓄積ファイルにアクセスしません。

[アクセス可能] オプションボタン

アクセスを許可する分類名がジョブ検索キーに設定されていない蓄積ファイルにアクセスします。

[アクセス許可キー値一覧]

蓄積管理ユーザにアクセスを許可するジョブ検索キーのキー値が一覧で表示されます。初期表示では定義順で表示され，項目名をクリックすると，Shift JIS のコード順にソートして表示されます。最大 1,024 個のキー値を定義できます。

[項番]

アクセスを許可するジョブ検索キーのキー値の項番が表示されます。

[キー値]

蓄積管理ユーザにアクセスを許可するジョブ検索キーのキー値が表示されます。

[キー値] テキストボックス

［アクセス許可キー値一覧］にアクセスを許可するジョブ検索キーのキー値を追加するときに入力します。80 バイトまで入力できます。ただし，制御コード（0x00 ～ 0x1F，0x7F ～ 0x9F），「"」，および「,」は入力できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した場合は未入力とみなされます。すでに登録されているキー値は登録できません。

［追加］ボタン

［キー値］テキストボックスに入力した値を，［アクセス許可キー値一覧］に追加できます。［アクセス許可キー値一覧］に追加するときは，［アクセス許可キーに使用する分類名］テキストボックス，および［キー値］テキストボックスの両方の入力が必要です。

［削除］ボタン

削除を確認するダイアログが表示され，［アクセス許可キー値一覧］に追加したキー値を削除できます。

5.2.3 蓄積管理ユーザの削除

登録した蓄積管理ユーザを削除します。［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログの［蓄積管理ユーザ定義］タブで削除する蓄積管理ユーザを選択し，［削除］ボタンをクリックします。削除を確認するダイアログが表示され，［OK］ボタンをクリックすると蓄積管理ユーザが削除されます。

5.3 蓄積管理ユーザを定義する（UNIX/Linux 環境の場合）

UNIX/Linux 環境では，サンプルファイルを基に蓄積管理ユーザ定義ファイルを作成し，蓄積管理ユーザを定義します。

蓄積管理ユーザ定義ファイルの詳細については，「15.6.6　蓄積管理ユーザ定義ファイル」を参照してください。

(1) 定義方法

蓄積管理ユーザ定義ファイルは次の手順で定義します。

1. /opt/eurpmls/sample **下にある蓄積管理ユーザ定義ファイル**（userdef.conf）**のサンプルを任意の場所に保存する。**
2. **蓄積管理ユーザ定義ファイルを編集する。**
   蓄積管理ユーザ定義ファイルは，マシンのロケールに応じたエンコードで編集してください。
3. **必要な内容を設定した蓄積管理ユーザ定義ファイルを，同じファイル名**（userdef.conf）**で** /etc/opt/eurpmls/Conf **下に格納する。**
   /etc/opt/eurpmls/Conf には，EUR Print Manager を起動するユーザーアカウントで読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

(2) 定義例

蓄積管理ユーザ定義ファイルの定義例を次に示します。

```
[Common]
GroupCategoryConfNum=6
GroupCategory="ユーザ"

[GroupCategoryConf1]
GroupKey="システム管理者"
CheckString="pwadmin"
GroupFilter=NONE

[GroupCategoryConf2]
GroupKey="リーダ"
CheckString="pwleader"
GroupFilter=CATEGORY
GroupFilterName="公開先"
GroupFilterKeyNum=3
GroupFilterKey1="管理資料"
GroupFilterKey2="社内資料"
GroupFilterKey3="公開資料"
GroupFilterKeyNull=ENABLE
GroupFilterKeyOwner=ENABLE

[GroupCategoryConf3]
GroupKey="サブリーダ"
```

```
CheckString="pwuser"
GroupFilter=CATEGORY
GroupFilterName="公開先"
GroupFilterKeyNum=2
GroupFilterKey1="社内資料"
GroupFilterKey2="公開資料"
GroupFilterKeyNull=ENABLE
GroupFilterKeyOwner=ENABLE

[GroupCategoryConf4]
GroupKey="ユーザ"
CheckString="pwuser"
GroupKey="ユーザ"
GroupFilter=CATEGORY
GroupFilterName="公開先"
GroupFilterKeyNum=1
GroupFilterKey1="公開資料"
GroupFilterKeyNull=ENABLE
GroupFilterKeyOwner=ENABLE

[GroupCategoryConf5]
GroupKey="ユーザ2"
CheckString="pwuser"
GroupFilter=CATEGORY
GroupFilterKeyOwner=ENABLE

[GroupCategoryConf6]
GroupKey="ユーザ3"
CheckString="pwuser"
GroupFilter=CATEGORY
GroupFilterName="公開先"
GroupFilterKeyNum=1
GroupFilterKey1="公開資料"
GroupFilterKeyOwner=DISABLE

[Default]
```

6 EUR Print Manager の起動管理

この章では，EUR Print Manager の起動管理方法について説明します。

6.1 起動管理の概要

6.2 ［EUR Print Manager 起動管理］ダイアログを使用して管理する（Windows 環境の場合）

6.3 EURPM 制御コマンドを使用して管理する

6.1 起動管理の概要

EUR Print Manager では，**起動管理定義**を使用して EUR Print Manager の起動や停止を管理します。起動管理定義には，起動する EUR Print Manager の識別名や環境設定ファイルの格納先などの情報を定義します。

EUR Print Manager の起動管理方法には，次の 2 とおりの方法があります。

- **［EUR Print Manager 起動管理］ダイアログ**を使用して管理する
- EURPM **制御コマンド**を使用して管理する

［EUR Print Manager 起動管理］ダイアログは，Windows 環境で使用できます。［EUR Print Manager 起動管理］ダイアログの詳細については，「6.2 ［EUR Print Manager 起動管理］ダイアログを使用して管理する（Windows 環境の場合）」を参照してください。

また，EURPM 制御コマンドは，Windows 環境および UNIX/Linux 環境で使用できます。EURPM 制御コマンドの詳細については，「6.3 EURPM 制御コマンドを使用して管理する」を参照してください。

6.1.1 自動起動の設定

EUR Print Manager の自動起動の設定方法について説明します。

（1） Windows 環境の場合

Windows 環境で EUR Print Manager を自動で起動するには，次の 2 とおりの方法があります。

- OS のサービス管理機能を使用する
- 運用管理ツールを使用する

それぞれの方法について説明します。

（a） OS のサービス管理機能を使用する場合

1. **スタートメニューの［コントロールパネル］－［管理ツール］－［サービス］を選択する。**
   ［サービス］ウィンドウが表示されます。
2. EUR Print Manager **のサービス名をダブルクリックする。**
   サービスのプロパティを設定するダイアログが表示されます。
3. **［スタートアップの種類］に「自動」を設定する。**
4. **ダイアログで［OK］ボタンをクリックする。**
   自動起動が設定されます。

［スタートアップの種類］が「手動」または「無効」の場合は，EUR Print Manager を自動で起動できません。デフォルトでは，［スタートアップの種類］に「自動」が設定された EUR Print Manager が一つ登録されています。

(b) 運用管理ツールを使用する場合

1. **自動起動を設定する** EUR Print Manager **を起動管理定義に登録する。**
   ［EUR Print Manager 起動管理］ダイアログまたは EURPM 制御コマンドを使用して登録します。登録方法の詳細については，「6.2 ［EUR Print Manager 起動管理］ダイアログを使用して管理する（Windows 環境の場合）」および「6.3 EURPM 制御コマンドを使用して管理する」を参照してください。

2. EURPM **制御コマンドを運用管理ツールに登録する。**
   EUR Print Manager を起動するための EURPM 制御コマンドを，運用管理ツールに登録します。登録方法の詳細については，使用している運用管理ツールのマニュアルを参照してください。
   登録する EURPM 制御コマンドを次に示します。

   ```
   eurpmctrl /m start /kind AUTOONLY
   ```

   なお，自動で EUR Print Manager を停止させる場合は，次のコマンドを登録します。

   ```
   eurpmctrl /m stop /kind AUTOONLY
   ```

(2) UNIX/Linux 環境の場合

UNIX/Linux 環境で EUR Print Manager を自動で起動するには，OS の起動管理機能を使用します。

1. **自動起動を設定する** EUR Print Manager **を起動管理定義に登録する。**
   EURPM 制御コマンドを使用して登録します。登録方法の詳細については，「6.3 EURPM 制御コマンドを使用して管理する」を参照してください。

2. EURPM **制御コマンドを** OS **の起動管理機能を使用して登録する。**
   EUR Print Manager を起動するための EURPM 制御コマンドを，OS の起動管理機能を使用して登録します。登録方法の詳細については，OS のマニュアルを参照してください。
   登録する EURPM 制御コマンドを次に示します。

   ```
   eurpmctrl -m start -kind AUTOONLY
   ```

   なお，自動で EUR Print Manager を停止させる場合は，次のコマンドを登録します。

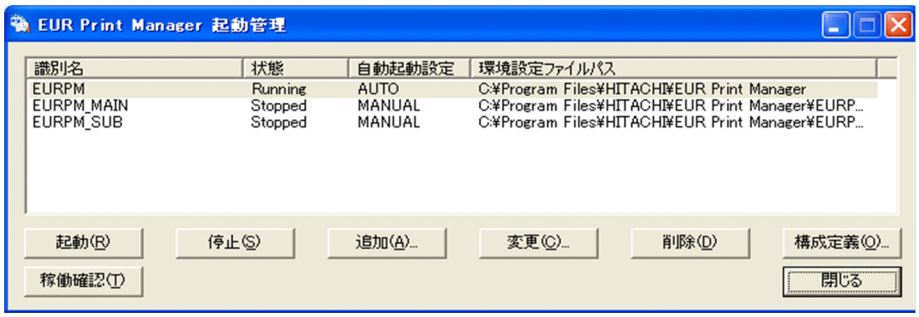
   ```
   eurpmctrl -m stop -kind AUTOONLY
   ```

6.2　[EUR Print Manager 起動管理] ダイアログを使用して管理する（Windows 環境の場合）

Windows 環境では，[EUR Print Manager 起動管理] ダイアログを使用して EUR Print Manager の起動や停止を管理できます。

[EUR Print Manager 起動管理] ダイアログは，スタートメニューの [プログラム] － [EUR Print Manager] － [EUR Print Manager 起動管理] を選択すると表示されます。

図 6-1　[EUR Print Manager 起動管理] ダイアログ



起動管理定義一覧

起動管理定義に登録されている EUR Print Manager とその稼働状態が一覧で表示されます。初期表示では登録順で表示され，項目名をクリックするとその項目で Shift JIS のコード順にソートして表示されます。稼働状態は自動では更新されないため，最新の稼働状態を表示させたい場合は，[稼働確認] ボタンをクリックしてください。

なお，起動管理定義をダブルクリックすると，[サービスの変更] ダイアログが表示されて登録内容を変更できます。

[識別名]

EUR Print Manager の識別名が表示されます。

[状態]

EUR Print Manager の稼働状態が表示されます。表示される内容とその意味は次のとおりです。

Running：稼働

Starting：起動処理中

Stopping：停止処理中

Stopped：停止

ErrorStopped：異常停止

Unknown：不明

[自動起動設定]

EUR Print Manager を自動で起動するかどうかが表示されます。表示される内容とその意味は次のとおりです。

AUTO：自動で起動します。

MANUAL：手動で起動します。

[環境設定ファイルパス]

環境設定ファイルの格納先がパスで表示されます。

[起動] ボタン

選択した EUR Print Manager を起動できます。

[停止] ボタン

選択した EUR Print Manager を停止できます。

[追加] ボタン

［サービスの追加］ダイアログが表示され，起動管理定義を登録できます。ただし，起動管理定義の登録数が上限を超えていた場合は，不活性になります。最大 5 件の起動管理定義を登録できます。

[変更] ボタン

［サービスの変更］ダイアログが表示され，起動管理定義の情報を変更できます。

[削除] ボタン

削除を確認するダイアログが表示され，起動管理定義を削除できます。

[構成定義] ボタン

［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログが表示され，選択した EUR Print Manager に登録されている出力先やプリンタクラスを確認できます。

[稼働確認] ボタン

EUR Print Manager の最新の稼働状態を表示できます。

[閉じる] ボタン

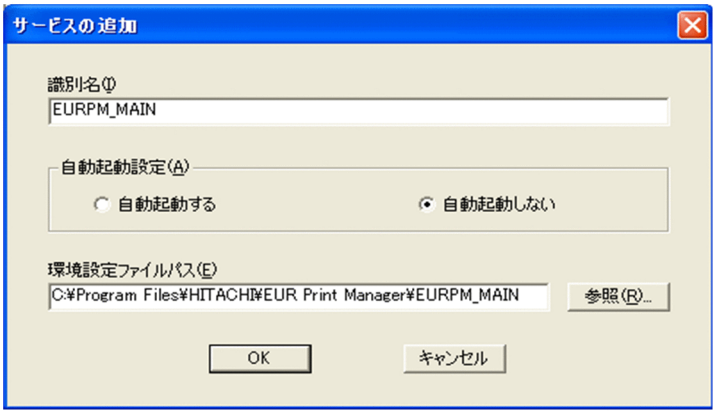
［EUR Print Manager 起動管理］ダイアログを閉じます。

6.2.1 起動管理定義の登録

EUR Print Manager の起動管理定義を登録します。［EUR Print Manager 起動管理］ダイアログで，起動管理定義を登録する方法を次に示します。ただし，起動管理定義の登録数が上限を超えた場合は，登録できません。最大 5 件の起動管理定義を登録できます。

1. **［サービスの追加］ダイアログの表示**

［EUR Print Manager 起動管理］ダイアログの［追加］ボタンをクリックして，［サービスの追加］ダイアログを表示します。



2. **識別名の入力**
   ［識別名］テキストボックスに，EUR Print Manager の識別名を入力します。識別名は必ず入力してください。入力しなかった場合はエラーとなります。

3. **自動起動の選択**
   ［自動起動設定］グループボックスで，EUR Print Manager を自動で起動するかどうかを選択します。

4. **環境設定ファイルの指定**
   EUR Print Manager の環境設定ファイルの格納先のパスを指定します。なお，［参照］ボタンをクリックするとダイアログが表示されて，指定する環境設定ファイルの格納先を選択できます。

5. **［OK］ボタンのクリック**
   ［OK］ボタンをクリックすると，［EUR Print Manager 起動管理］ダイアログに登録した EUR Print Manager が表示されます。ただし，次の場合は，メッセージが表示され，［サービスの追加］ダイアログに戻ります。
   - 識別名が 16 バイトを超えている場合
   - 識別名に使用できない文字があった場合
   - すでに同じ名前の識別名が登録されている場合

   また，次の場合はメッセージが表示されますが，処理は続行します。
   - 指定した環境設定ファイルが別の EUR Print Manager で使用されている場合

(1) ［サービスの追加］ダイアログの設定項目

［識別名］テキストボックス

EUR Print Manager の識別名を，1 ～ 16 バイトの範囲で入力します。半角英数字および「_」（アンダースコア）を使用できます。先頭と末尾に半角空白を入力した場合は登録時に削除されます。また，半角空白だけを入力した場合は，値を指定していないと見なされ，そのまま登録しようとするとエラーになります。
なお，すでに登録された識別名は登録できません。

［自動起動設定］グループボックス

EUR Print Manager を自動で起動するかどうかを選択します。デフォルトでは，［自動起動しない］オプションボタンが選択されています。

［自動起動する］オプションボタン

自動で起動します。

［自動起動しない］オプションボタン

手動で起動します。

［環境設定ファイルパス］テキストボックス

EUR Print Manager の環境設定ファイルの格納先のパスを入力します。ただし，「;」，「*」，「?」，「"」，「<」，「>」，および「|」を含むパスは指定できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した場合は未入力とされます。

デフォルトでは，EUR Print Manager のインストールパスが表示されています。

［参照］ボタン

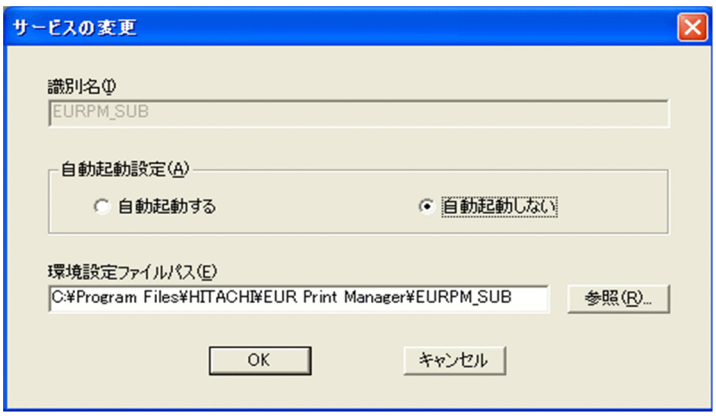
環境設定ファイルパスを選択するためのダイアログが表示されます。

6.2.2 起動管理定義の変更

EUR Print Manager の起動管理定義を変更します。［EUR Print Manager 起動管理］ダイアログで，起動管理定義を変更する方法を次に示します。なお，識別名は変更できません。

1. **［サービスの変更］ダイアログの表示**

［EUR Print Manager 起動管理］ダイアログの［変更］ボタンをクリックして，［サービスの変更］ダイアログを表示します。



2. **自動起動設定，環境設定ファイルパスの変更**

自動起動設定，環境設定ファイルパスを変更します。

3. ［OK］ボタンのクリック

［OK］ボタンをクリックすると，［EUR Print Manager 起動管理］ダイアログに変更後の登録内容が表示されます。

なお，指定した環境設定ファイルが別の EUR Print Manager で使用されている場合はメッセージが表示されます。ただし，処理は続行します。

(1) ［サービスの変更］ダイアログの設定項目

［識別名］テキストボックス

EUR Print Manager の識別名が表示されます。変更はできません。

［自動起動設定］グループボックス

EUR Print Manager を自動で起動するかどうかを選択します。デフォルトでは，［自動起動しない］オプションボタンが選択されています。

［自動起動する］オプションボタン

自動で起動します。

［自動起動しない］オプションボタン

手動で起動します。

［環境設定ファイルパス］テキストボックス

EUR Print Manager の環境設定ファイルの格納先のパスを入力します。ただし，「;」，「*」，「?」，「"」，「<」，「>」，および「|」を含むパスは指定できません。先頭と末尾の半角空白は登録時に削除されます。半角空白だけを入力した場合は未入力とされます。

［参照］ボタン

環境設定ファイルパスを選択するためのダイアログが表示されます。

6.2.3 起動管理定義の削除

登録した起動管理定義を削除します。［EUR Print Manager 起動管理］ダイアログで削除する起動管理定義を選択し，［削除］ボタンをクリックします。削除を確認するダイアログが表示されます。［OK］ボタンをクリックすると起動管理定義が削除されます。

6.3 EURPM 制御コマンドを使用して管理する

EURPM 制御コマンドを実行することで，EUR Print Manager の起動や停止を管理できます。なお，EURPM 制御コマンドは，Windows 環境および UNIX/Linux 環境で使用できます。

6.3.1 EURPM 制御コマンドのファイル名

EURPM 制御コマンドのファイル名を次に示します。

（1） Windows 環境の場合

EURPMCTRL.exe

EURPM 制御コマンドのファイルです。このファイルは，EUR Print Manager のインストール先フォルダ ¥Program¥ 下にあります。

（2） UNIX/Linux 環境の場合

eurpmctrl

EURPM 制御コマンドのファイルです。このファイルは，/opt/eurpm/bin ディレクトリにあります。

6.3.2 EURPM 制御コマンドのオプション一覧

EURPM 制御コマンドが提供するオプションの一覧を次に示します。なお，オプション名のセパレータは「/」で示しています。UNIX/Linux 環境の場合は，「/」を「-」に置き換えてお読みください。

表 6-1 EURPM 制御コマンドのオプション一覧

オプション	指定値	内容
/id	識別名※	操作対象となる EUR Print Manager の識別名を指定します。
/ini	環境設定ファイルパス	操作対象となる EUR Print Manager が使用する環境設定ファイルの格納先のパスを指定します。
/kind	ALL	起動管理定義に登録されているすべての EUR Print Manager を操作対象とします。
	AUTOONLY	起動管理定義に登録されている EUR Print Manager のうち，自動起動の設定がされている EUR Print Manager を操作対象とします。
/m	start	EUR Print Manager を起動します。
	stop	EUR Print Manager を停止します。

オプション	指定値	内容
	stat	EUR Print Manager の稼働状態を確認します。
	add	EUR Print Manager の起動管理定義を追加します。
	del	EUR Print Manager の起動管理定義を削除します。
	chg	EUR Print Manager の起動管理定義を変更します。
	disp	EUR Print Manager の起動管理定義の登録内容を出力します。
	auto	EUR Print Manager の自動起動の設定をします。
/message｜/nomessage	―	標準エラー出力にメッセージを出力するかどうかを指定します。
/mode	AUTO	自動で起動します。
	MANUAL	手動で起動します。

注※

1 ～ 16 バイトで指定します。半角英数字および「_」（アンダースコア）が使用できます。値の先頭と末尾に半角空白を指定した場合は削除されます。また，半角空白だけを指定した場合は，値を指定していないと見なされます。

(1) オプションを指定するときの注意

オプションを指定するときの注意を次に示します。

(a) 大文字と小文字の区別

オプション，オプションの指定値，およびオプションに指定する文字列は，大文字と小文字を区別します。ただし，識別名については大文字と小文字を区別しません。

例えば，/m オプションを「/M」と指定したり，/m オプションの指定値を「/m STOP」と指定したりすると，エラーになります。

(b) 同一オプションを複数指定する場合

一つのコマンド構文に，同じオプションが複数指定されている場合は，コマンド構文の後方に指定されたオプションが有効となります。

(c) 無効なオプションが指定されている場合

無効なオプションが指定されていた場合は，そのオプションを無視して処理を実行します。

(d) 環境設定ファイルパスの指定

ファイルパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。また，パスに日本語を使用する場合の注意については，「18.5.2(1)　EUR Print Manager を使用する場合の注意」を参照してください。

6.3.3 EURPM 制御コマンドの形式と指定例

EURPM 制御コマンドの形式と指定例について説明します。

(1) EUR Print Manager を起動する場合

(a) 形式

```
eurpmctrl
/m start
〔/message | /nomessage〕
〔/kind {ALL | AUTOONLY} | /id 識別名〕
```

/m start

EUR Print Manager の制御種別を指定します。

- start：EUR Print Manager を起動します。

〔/message | /nomessage〕

標準エラー出力にメッセージを出力するかどうかを指定します。

- /message：メッセージを出力します。
- /nomessage：メッセージを出力しません。

指定を省略した場合は，/message が仮定されます。/nomessage を指定した場合も，コマンドの終了コードは出力されます。

〔/kind {ALL | AUTOONLY}〕

操作対象の EUR Print Manager を指定します。このオプションは /id オプションと同時に指定できません。

- ALL：起動管理定義に登録されているすべての EUR Print Manager を操作対象とします。
- AUTOONLY：起動管理定義に登録されている EUR Print Manager のうち，自動起動の設定がされた EUR Print Manager を操作対象とします。

〔/id 識別名〕

操作対象の EUR Print Manager の識別名を 1 ～ 16 バイトの範囲で指定します。半角英数字および「_」（アンダースコア）を使用できます。このオプションは /kind オプションと同時に指定できません。

(b) 指定例

起動管理定義に登録されている EUR Print Manager のうち，自動起動が設定された EUR Print Manager を起動します。

```
eurpmctrl /m start /message /kind AUTOONLY
```

(2) EUR Print Manager を停止する場合

(a) 形式

```
eurpmctrl
/m stop
〔/message | /nomessage〕
〔/kind {ALL | AUTOONLY} | /id 識別名〕
```

/m stop

EUR Print Manager の制御種別を指定します。

- stop：EUR Print Manager を停止します。

〔/message | /nomessage〕

標準エラー出力にメッセージを出力するかどうかを指定します。

- /message：メッセージを出力します。
- /nomessage：メッセージを出力しません。

指定を省略した場合は，/message が仮定されます。/nomessage を指定した場合も，コマンドの終了コードは出力されます。

〔/kind {ALL | AUTOONLY}〕

操作対象の EUR Print Manager を指定します。このオプションは /id オプションと同時に指定できません。

- ALL：起動管理定義に登録されているすべての EUR Print Manager を操作対象とします。
- AUTOONLY：起動管理定義に登録されている EUR Print Manager のうち，自動起動が設定された EUR Print Manager を操作対象とします。

〔/id 識別名〕

操作対象の EUR Print Manager の識別名を 1 ～ 16 バイトの範囲で指定します。半角英数字および「_」（アンダースコア）を使用できます。このオプションは /kind オプションと同時に指定できません。

(b) 指定例

識別名が「EURPM_MAIN」の EUR Print Manager を停止します。

```
eurpmctrl /m stop /message /id EURPM_MAIN
```

(3) EUR Print Manager の稼働状態を確認する場合

(a) 形式

```
eurpmctrl
/m stat
〔/message | /nomessage〕
〔/kind {ALL | AUTOONLY} | /id 識別名〕
```

/m stat

EUR Print Manager の制御種別を指定します。

- stat：EUR Print Manager の稼働状態を確認します。

〔/message | /nomessage〕

標準エラー出力にメッセージを出力するかどうかを指定します。

- /message：メッセージを出力します。
- /nomessage：メッセージを出力しません。

指定を省略した場合は，/message が仮定されます。/nomessage を指定した場合も，コマンドの終了コードは出力されます。

〔/kind {ALL | AUTOONLY}〕

操作対象の EUR Print Manager を指定します。このオプションは /id オプションと同時に指定できません。

- ALL：起動管理定義に登録されているすべての EUR Print Manager を操作対象とします。
- AUTOONLY：起動管理定義に登録されている EUR Print Manager のうち，自動起動が設定された EUR Print Manager を操作対象とします。

〔/id 識別名〕

操作対象の EUR Print Manager の識別名を 1 ～ 16 バイトの範囲で指定します。半角英数字および「_」（アンダースコア）を使用できます。このオプションは /kind オプションと同時に指定できません。

(b) 指定例

起動管理定義に登録されている EUR Print Manager の稼働状況を確認します。

```
eurpmctrl /m stat /message
```

EUR Print Manager の稼働状態は，標準出力（stdout）に出力されます。出力例を次に示します。

```
+--------------+--------------+--------------+
|<EURPMID>     |<Status>      |<PID>         |
+--------------+--------------+--------------+
|EURPM         |Running       |4236          | …デフォルトエントリ
|EURPM_MAIN    |Starting      |              |
|EURPM_SUB     |Stopping      |4242          |
|  .           |  .           |  .           |
|  .           |  .           |  .           |
|  .           |  .           |  .           |
|EURPM_TEST    |Stopped       |              |
+--------------+--------------+--------------+
```

<EURPMID>

EUR Print Manager の識別名を示します。

<Status>

EUR Print Manager の稼働状態を示します。

Running：稼働

Starting：起動処理中

Stopping：停止処理中

Stopped：停止

ErrorStopped：異常停止

Unknown：不明

<PID>

プロセス ID を示します。

プロセス ID は，Status が Running（稼働）または Stopping（停止処理中）の場合に表示されます。

（4） EUR Print Manager の起動管理定義を登録する場合

（a） 形式

```
eurpmctrl
/m add
/id 識別名
〔/message | /nomessage〕
〔/mode {AUTO | MANUAL}〕
〔/ini 環境設定ファイルパス〕
```

/m add

EUR Print Manager の制御種別を指定します。

- add：EUR Print Manager の起動管理定義を登録します。
  ただし，起動管理定義の登録数が上限を超えた場合は，登録できません。最大 5 件の起動管理定義を登録できます。

/id **識別名**

操作対象の EUR Print Manager の識別名を 1 ～ 16 バイトの範囲で指定します。半角英数字および「_」（アンダースコア）を使用できます。

【/message | /nomessage】

標準エラー出力にメッセージを出力するかどうかを指定します。

- /message：メッセージを出力します。
- /nomessage：メッセージを出力しません。

指定を省略した場合は，/message が仮定されます。/nomessage を指定した場合も，コマンドの終了コードは出力されます。

〔/mode {AUTO | MANUAL}〕

EUR Print Manager を自動で起動するかどうかを指定します。

- AUTO：自動で起動します。
- MANUAL：手動で起動します。

指定を省略した場合は，/mode MANUAL が仮定されます。

〔/ini 環境設定ファイルパス〕

EUR Print Manager が使用する環境設定ファイルの格納先をフルパスで指定します。指定を省略した場合は，デフォルトのパス（Windows 環境の場合：EURPM インストールパス，UNIX/Linux 環境の場合：/etc/opt/eurpm/）が仮定されます。

(b) 指定例

識別名が「EURPM_TEST」の EUR Print Manager の起動管理定義を登録します。

```
eurpmctrl /m add /id EURPM_TEST /message /ini C:¥Program
Files¥EURPM_TEST
```

(5) EUR Print Manager の起動管理定義を変更する場合

(a) 形式

```
eurpmctrl
/m chg
/id 識別名
〔/message | /nomessage〕
〔/mode {AUTO | MANUAL}〕
〔/ini 環境設定ファイルパス〕
```

/m chg

EUR Print Manager の制御種別を指定します。

- chg：EUR Print Manager の起動管理定義を変更します。

/id 識別名

操作対象の EUR Print Manager の識別名を 1 ～ 16 バイトの範囲で指定します。半角英数字および「_」（アンダースコア）を使用できます。

〔/message | /nomessage〕

標準エラー出力にメッセージを出力するかどうかを指定します。

- /message：メッセージを出力します。
- /nomessage：メッセージを出力しません。

指定を省略した場合は，/message が仮定されます。/nomessage を指定した場合も，コマンドの終了コードは出力されます。

〔/mode 〔AUTO | MANUAL〕〕

EUR Print Manager を自動で起動するかどうかを指定します。

- AUTO：自動で起動します。
- MANUAL：手動で起動します。

指定を省略した場合は，自動起動の定義は変更されません。

〔/ini 環境設定ファイルパス〕

EUR Print Manager が使用する環境設定ファイルの格納先をフルパスで指定します。指定を省略した場合は，環境設定ファイルの格納先のフルパスの定義は変更されません。

(b) 指定例

識別名が「EURPM_SUB」の EUR Print Manager が自動で起動するように，起動管理定義を変更します。

```
eurpmctrl /m chg /id EURPM_SUB /message /mode AUTO
```

(6) EUR Print Manager の起動管理定義を削除する場合

(a) 形式

```
eurpmctrl
/m del
〔/message | /nomessage〕
〔/kind ALL | /id 識別名〕
```

/m del

EUR Print Manager の制御種別を指定します。

- del：EUR Print Manager の起動管理定義を削除します。

〔/message | /nomessage〕

標準エラー出力にメッセージを出力するかどうかを指定します。

- /message：メッセージを出力します。
- /nomessage：メッセージを出力しません。

指定を省略した場合は，/message が仮定されます。/nomessage を指定した場合も，コマンドの終了コードは出力されます。

〔/kind ALL〕

操作対象の EUR Print Manager を指定します。このオプションは /id オプションと同時に指定できません。

- ALL：起動管理定義に登録されているすべての EUR Print Manager を操作対象とします。

〔/id 識別名〕

操作対象の EUR Print Manager の識別名を 1 ～ 16 バイトの範囲で指定します。半角英数字および「_」（アンダースコア）を使用できます。このオプションは /kind オプションと同時に指定できません。

(b) 指定例

識別名が「EURPM_TEMP」の起動管理定義を削除します。

```
eurpmctrl /m del /message /id EURPM_TEMP
```

(7) EUR Print Manager の起動管理定義の登録内容を確認する場合

(a) 形式

```
eurpmctrl
/m disp
〔/message | /nomessage〕
〔/kind ALL | /id 識別名〕
```

/m disp

EUR Print Manager の制御種別を指定します。

- disp：EUR Print Manager の起動管理定義の登録内容を確認します。

〔/message | /nomessage〕

標準エラー出力にメッセージを出力するかどうかを指定します。

- /message：メッセージを出力します。
- /nomessage：メッセージを出力しません。

指定を省略した場合は，/message が仮定されます。/nomessage を指定した場合も，コマンドの終了コードは出力されます。

〔/kind ALL〕

操作対象の EUR Print Manager を指定します。このオプションは /id オプションと同時に指定できません。

- ALL：起動管理定義に登録されているすべての EUR Print Manager を操作対象とします。

〔/id 識別名〕

操作対象の EUR Print Manager の識別名を 1 ～ 16 バイトの範囲で指定します。半角英数字および「_」（アンダースコア）を使用できます。このオプションは /kind オプションと同時に指定できません。

(b) 指定例

起動管理定義に登録されている EUR Print Manager の登録内容を確認します。

```
eurpmctrl /m disp /message
```

EUR Print Manager の起動管理定義の登録内容は，標準出力（stdout）に出力されます。出力例を次に示します。

```
+-----------+-----------+-----------------------------------------
|<EURPMID>  |<AutoFlag> |<DefinitionFile>
+-----------+-----------+-----------------------------------------
|EURPM      |AUTO       |/etc/opt/eurpm/       …デフォルトエントリ
|EURPM_MAIN |AUTO       |/etc/opt/eurpm/EURPM_MAIN/
|EURPM_SUB  |MANUAL     |/etc/opt/eurpm/EURPM_SUB/
| .         | .         | .
| .         | .         | .
| .         | .         | .
|EURPM_TEST |MANUAL     |/etc/opt/eurpm/EURPM_TEST/
+-----------+-----------+-----------------------------------------
```

<EURPMID>

EUR Print Manager の識別名を示します。

<AutoFlag>

EUR Print Manager を自動で起動するかどうかを示します。

AUTO：自動で起動します。

MANUAL：手動で起動します。

<DefinitionFile>

環境設定ファイルパスを示します。

（8） EUR Print Manager の自動起動の設定をする場合

（a） 形式

```
eurpmctrl
/m auto
/mode {AUTO | MANUAL}
〔/message | /nomessage〕
〔/kind ALL | /id 識別名〕
```

/m auto

EUR Print Manager の制御種別を指定します。

- auto：EUR Print Manager の自動起動の設定をします。

/mode {AUTO | MANUAL}

EUR Print Manager を自動で起動するかどうかを指定します。

- AUTO：自動で起動します。
- MANUAL：手動で起動します。

〔/message | /nomessage〕

標準エラー出力にメッセージを出力するかどうかを指定します。

- /message：メッセージを出力します。
- /nomessage：メッセージを出力しません。

指定を省略した場合は，/message が仮定されます。/nomessage を指定した場合も，コマンドの終了コードは出力されます。

〔/kind ALL〕

操作対象の EUR Print Manager を指定します。このオプションは /id オプションと同時に指定できません。

- ALL：起動管理定義に登録されているすべての EUR Print Manager を操作対象とします。

〔/id 識別名〕

操作対象の EUR Print Manager の識別名を 1 ～ 16 バイトの範囲で指定します。半角英数字および「_」（アンダースコア）を使用できます。このオプションは /kind オプションと同時に指定できません。

(b) 指定例

識別名が「EURPM_TEST」の EUR Print Manager が自動で起動するように設定します。

```
eurpmctrl /m auto /mode AUTO /message /id EURPM_TEST
```

なお，EUR Print Manager の自動起動の設定方法については，「6.1.1　自動起動の設定」を参照してください。

6.3.4 エラー情報

EURPM 制御コマンドでは，エラーを検知すると，メッセージオプション（/message）によって次に示す標準エラーを出力します。

表 6-2　EURPM 制御コマンドの標準エラー出力

エラー種別	発生条件	メッセージ ID
コマンドシンタックスエラー	不明なオプションを指定したとき	KEEY001-E
	オプションに値の指定がないとき	KEEY002-E
	オプションの指定値が不正なとき	KEEY003-E
	必須オプションの指定がないとき	KEEY004-E
	同時に指定できないオプションを指定したとき	KEEY005-E
	指定した識別名の起動管理定義が存在しないとき	KEEY006-E

エラー種別	発生条件	メッセージ ID
	追加しようとした識別名の起動管理定義が存在するとき	KEEY008-E
コマンドシンタックスワーニング	起動管理定義が一つも存在しないとき	KEEY007-W
	自動起動の対象が一つも存在しないとき	KEEY009-W
	指定した環境設定ファイルパスがすでに存在するとき	KEEY010-W
コマンド実行時エラー	すでに起動している識別名の EUR Print Manager を起動しようとしたとき	KEEY020-E
	起動処理中または停止処理中の識別名の EUR Print Manager を起動しようとしたとき	KEEY021-E
	すでに停止している識別名の EUR Print Manager を停止しようとしたとき	KEEY022-E
	起動処理中または停止処理中の識別名の EUR Print Manager を停止しようとしたとき	KEEY023-E
	プロセス管理ファイルの読み込みでエラーが発生したとき	KEEY024-E
	EUR Print Manager の起動時にエラーが発生したとき	KEEY025-E
	EUR Print Manager の停止時にエラーが発生したとき	KEEY026-E
	指定した識別名の起動管理定義の書き込みでエラーが発生したとき	KEEY027-E
	指定した識別名の起動管理定義の読み込みでエラーが発生したとき	KEEY028-E
	メモリが不足したとき	KEEY030-E
	環境設定ファイル読み込み中にエラーが発生したとき	KEEY031-S
	ログファイル処理時にエラーが発生したとき	KEEY032-S
	起動している識別名の EUR Print Manager の起動管理定義を，変更または削除しようとしたとき	KEEY038-E
	登録できる件数を超えて起動管理定義を追加しようとしたとき	KEEY039-E
	Windows 環境で EUR Print Manager の呼び出しでエラーが発生したとき	KEEY040-E
	サービスのオープンまたは情報取得でエラーが発生したとき	KEEY041-E
コマンド実行ワーニング	ログファイルのオープンエラーが発生したとき	KEEY035-W
コマンド実行タイムアウト	コマンド実行時にタイムアウトが発生したとき	KEEY050-E

(1) EURPM 制御コマンドの終了コード

EURPM 制御コマンドを実行すると，終了コードが返されます。終了コード一覧を次に示します。

表 6-3 EURPM 制御コマンドの終了コード

終了コード	意味
0	EURPM 制御コマンドが正常に終了しました。
4	EURPM 制御コマンドの実行中，警告が発生しました。
8	EURPM 制御コマンドの実行中，エラーが発生しました。

EURPM 制御コマンドを呼び出しているプログラムでは，EURPM 制御コマンドの終了コードを参照して，エラーチェックしてください。

(2) エラーメッセージのフォーマット

EURPM 制御コマンドを実行したとき，標準エラーに出力されるメッセージのフォーマットを次に示します。

```
eurpmctrl:△KEEY0XX-E△エラーメッセージ▼
```

（凡例）

△：半角空白を示します。

▼：改行（0x0d+0x0a）を示します。

7 EUR Print Manager - Report Server の起動管理

この章では，EUR Print Manager - Report Server の起動管理方法について説明します。

7.1 起動管理の概要

7.2 EURPM-RS 制御コマンドを使用して管理する（UNIX/Linux 環境の場合）

7.1 起動管理の概要

EUR Print Manager - Report Server では，次の方法で EUR Print Manager - Report Server の起動や停止を管理します。

Windows 環境の場合

OS のサービス管理機能を使用して管理します。スタートメニューの［コントロールパネル］－［管理ツール］－［サービス］から起動または停止してください。OS のサービス管理機能の詳細については，OS のマニュアルを参照してください。

UNIX/Linux 環境の場合

EURPM-RS **制御コマンド**を使用して管理します。EURPM-RS 制御コマンドの詳細については，「7.2 EURPM-RS 制御コマンドを使用して管理する（UNIX/Linux 環境の場合）」を参照してください。

7.1.1 自動起動の設定

（1） Windows 環境の場合

Windows 環境で EUR Print Manager - Report Server の自動起動を設定する手順を次に示します。

1. **スタートメニューの［コントロールパネル］－［管理ツール］－［サービス］を選択する。**
   ［サービス］ウィンドウが表示されます。
2. EUR Print Manager - Report Server **のサービス名をダブルクリックする。**
   サービスのプロパティを設定するダイアログが表示されます。
3. **［スタートアップの種類］に「自動」を設定する。**
4. **ダイアログで［OK］ボタンをクリックする。**
   自動起動が設定されます。

［スタートアップの種類］が「手動」または「無効」の場合は，EUR Print Manager - Report Server を自動で起動できません。デフォルトでは，［スタートアップの種類］に「自動」が設定された EUR Print Manager - Report Server が一つ登録されています。

（2） UNIX/Linux 環境の場合

UNIX/Linux 環境で EUR Print Manager - Report Server を自動で起動するには，OS の起動管理機能を使用します。

1. EUR Print Manager - Report Server **の自動起動を設定するコマンドを，**OS **の起動管理機能を使用して登録する。**
   コマンドの登録方法の詳細については，OS のマニュアルを参照してください。

EUR Print Manager - Report Server の自動起動を設定するコマンドを次に示します。

```
eurpmlsctrl -m start
```

なお，自動で EUR Print Manager - Report Server を停止させる場合は，次のコマンドを登録します。

```
eurpmlsctrl -m stop
```

7.2 EURPM-RS 制御コマンドを使用して管理する（UNIX/Linux 環境の場合）

EURPM-RS 制御コマンドを実行することで，EUR Print Manager - Report Server の起動や停止を管理できます。

7.2.1 EURPM-RS 制御コマンドのファイル名

eurpmlsctrl

EURPM-RS 制御コマンドのファイルです。このファイルは，/opt/eurpmls/bin ディレクトリにあります。

7.2.2 EURPM-RS 制御コマンドのオプション一覧

EURPM-RS 制御コマンドが提供するオプションの一覧を次に示します。

表 7-1 EURPM-RS 制御コマンドのオプション一覧

オプション	指定値	内容
-m	start	EUR Print Manager - Report Server を起動します。
	stop	EUR Print Manager - Report Server を停止します。
	stat	EUR Print Manager - Report Server の稼働状態を確認します。
-message｜-nomessage	―	標準エラー出力にメッセージを出力するかどうかを指定します。

(1) オプションを指定するときの注意

オプションを指定するときの注意を次に示します。

(a) 大文字と小文字の区別

オプション，オプションの指定値，およびオプションに指定する文字列は，大文字と小文字を区別します。

例えば，-m オプションを「-M」と指定したり，-m オプションの指定値を「-m STOP」と指定したりすると，エラーになります。

(b) 同一オプションを複数指定する場合

一つのコマンド構文に，同じオプションが複数指定されている場合は，コマンド構文の後方に指定されたオプションが有効となります。

(c) 無効なオプションが指定されている場合

無効なオプションが指定されていた場合は，そのオプションを無視して処理を実行します。

7.2.3　EURPM-RS 制御コマンドの形式と指定例

EURPM-RS 制御コマンドの形式と指定例について説明します。

(1) EUR Print Manager - Report Server を起動する場合

(a) 形式

```
eurpmlsctrl
-m start
〔-message | -nomessage〕
```

-m start

EUR Print Manager - Report Server の制御種別を指定します。

- start：EUR Print Manager - Report Server を起動します。

〔-message | -nomessage〕

標準エラー出力にメッセージを出力するかどうかを指定します。

- -message：メッセージを出力します。
- -nomessage：メッセージを出力しません。

指定を省略した場合は，-message が仮定されます。-nomessage を指定した場合も，コマンドの終了コードは出力されます。

(b) 指定例

EUR Print Manager - Report Server を起動します。

```
eurpmlsctrl -m start -message
```

(2) EUR Print Manager - Report Server を停止する場合

(a) 形式

```
eurpmlsctrl
-m stop
〔-message | -nomessage〕
```

-m stop

EUR Print Manager - Report Server の制御種別を指定します。

- stop：EUR Print Manager - Report Server を停止します。

〔-message | -nomessage〕

標準エラー出力にメッセージを出力するかどうかを指定します。

- -message：メッセージを出力します。
- -nomessage：メッセージを出力しません。

指定を省略した場合は，-message が仮定されます。-nomessage を指定した場合も，コマンドの終了コードは出力されます。

(b) 指定例

EUR Print Manager - Report Server を停止します。

```
eurpmlsctrl -m stop -message
```

(3) EUR Print Manager - Report Server の稼働状態を確認する場合

(a) 形式

```
eurpmlsctrl
-m stat
〔-message | -nomessage〕
```

-m stat

EUR Print Manager - Report Server の制御種別を指定します。

- stat：EUR Print Manager - Report Server の稼働状態を確認します。

〔-message | -nomessage〕

標準エラー出力にメッセージを出力するかどうかを指定します。

- -message：メッセージを出力します。
- -nomessage：メッセージを出力しません。

指定を省略した場合は，-message が仮定されます。-nomessage を指定した場合も，コマンドの終了コードは出力されます。

(b) 指定例

EUR Print Manager - Report Server の稼働状況を確認します。

```
eurpmlsctrl -m stat -message
```

EUR Print Manager - Report Server の稼働状態は，標準出力（stdout）に出力されます。出力例を次に示します。

```
+--------------+--------------+--------------+
|<EURPMRSID>   |<Status>      |<PID>         |
+--------------+--------------+--------------+
|EURPMRS       |Running       |4237          |
+--------------+--------------+--------------+
```

<EURPMRSID>

固定値「EURPMRS」を示します。

<Status>

EUR Print Manager - Report Server の稼働状態を示します。

Running：稼働

Starting：起動処理中

Stopping：停止処理中

Stopped：停止

ErrorStopped：異常停止

Unknown：不明

<PID>

プロセス ID を示します。

プロセス ID は，Status が Running（稼働）または Stopping（停止処理中）の場合に表示されます。

7.2.4　エラー情報

EURPM-RS 制御コマンドでは，エラーを検知すると，メッセージオプション（-message）によって次に示す標準エラーを出力します。

表 7-2　EURPM-RS 制御コマンドの標準エラー出力

エラー種別	発生条件	メッセージ ID
コマンドシンタックスエラー	不明なオプションを指定したとき	KEEY001-E
	オプションに値の指定がないとき	KEEY002-E
	オプションの指定値が不正なとき	KEEY003-E
	必須オプションの指定がないとき	KEEY004-E
コマンド実行時エラー	すでに起動している EUR Print Manager - Report Server を起動しようとしたとき	KEEY020-E
	起動処理中または停止処理中の EUR Print Manager - Report Server を起動しようとしたとき	KEEY021-E
	すでに停止している EUR Print Manager - Report Server を停止しようとしたとき	KEEY022-E
	起動処理中または停止処理中の EUR Print Manager - Report Server を停止しようとしたとき	KEEY023-E
	プロセス管理ファイルの読み込みでエラーが発生したとき	KEEY024-E

エラー種別	発生条件	メッセージ ID
	起動管理定義の書き込みでエラーが発生したとき	KEEY027-E
	起動管理定義の読み込みでエラーが発生したとき	KEEY028-E
	メモリが不足したとき	KEEY030-E
	環境設定ファイル読み込み中にエラーが発生したとき	KEEY031-S
	ログファイル処理時にエラーが発生したとき	KEEY032-S
	サービスのオープンまたは情報取得でエラーが発生したとき	KEEY041-E
	EUR Print Manager - Report Server の起動時にエラーが発生したとき	KEEY053-E
	EUR Print Manager - Report Server の停止時にエラーが発生したとき	KEEY054-E
	EUR Print Manager - Report Server の呼び出しでエラーが発生したとき	KEEY055-E
コマンド実行ワーニング	ログファイルのオープンエラーが発生したとき	KEEY035-W
コマンド実行タイムアウト	コマンド実行時にタイムアウトが発生したとき	KEEY050-E

(1) EURPM-RS 制御コマンドの終了コード

EURPM-RS 制御コマンドを実行すると，終了コードが返されます。終了コード一覧を次に示します。

表 7-3 EURPM-RS 制御コマンドの終了コード

終了コード	意味
0	EURPM-RS 制御コマンドが正常に終了しました。
4	EURPM-RS 制御コマンドの実行中，警告が発生しました。
8	EURPM-RS 制御コマンドの実行中，エラーが発生しました。

EURPM-RS 制御コマンドを呼び出しているプログラムでは，EURPM-RS 制御コマンドの終了コードを参照して，エラーチェックしてください。

(2) エラーメッセージのフォーマット

EURPM-RS 制御コマンドを実行したとき，標準エラーに出力されるメッセージのフォーマットを次に示します。

```
eurpmlsctrl:△KEEY0XX-E△エラーメッセージ▼
```

（凡例）

△：半角空白を示します。

▼：改行（0x0d+0x0a）を示します。

8 ActiveX 部品を使用した帳票出力

この章では，Web ブラウザを使用して帳票を印刷するための ActiveX 部品を使用した帳票出力について説明します。

8.1 Web 出力で使用する ActiveX 部品

8.2 パラメタ，メソッド，プロパティ一覧

8.3 パラメタ仕様

8.4 メソッド仕様

8.5 プロパティ仕様

8.1 Web 出力で使用する ActiveX 部品

EUR Print Manager - Client では，Web 出力で使用する ActiveX 部品を提供しています。ActiveX 部品を使用してクライアント PC の Web ブラウザ上で帳票を印刷したり，プレビュー表示したりできます。

また，システム管理者が ActiveX 部品をあらかじめ設定した EUR Print Manager - Client を配布用インストーラで配布することもできます。

8.1.1 ActiveX 部品のファイル名

EURPMPrintAX.ocx

Web ブラウザ上で帳票を印刷する ActiveX 部品です。
このファイルは，EUR Print Manager - Client のインストール先フォルダ¥Program¥ 下にあります。

EURPMPreViewAX.ocx

Web ブラウザ上で帳票を印刷したり，表示したりする ActiveX 部品です。
このファイルは，EUR Print Manager - Client のインストール先フォルダ¥Program¥ 下にあります。

8.1.2 ActiveX 部品の使用方法

クライアント PC の Web ブラウザ上で帳票を印刷する場合，HTML ページに <object> タグを記述して ActiveX 部品を使用します。

(1) Web ブラウザ上で帳票を印刷する ActiveX 部品（EURPMPrintAX.ocx）を使用するときの <object> タグの記述例

Web ブラウザ上で帳票を印刷する ActiveX 部品（EURPMPrintAX.ocx）を使用するときの <object> タグの記述例を次に示します。

「clsid」と「version」に指定する値は，EUR Print Manager - Adapter の ActiveX 起動部品または Java 起動部品を使用して取得できます。次に示すメソッドを参照してください。

- ActiveX 起動部品の場合
  clsid：GetPrintAXClassID メソッド
  version：GetPrintAXVersion メソッド
- Java 起動部品の場合
  clsid：getPrintAXClassID メソッド
  version：getPrintAXVersion メソッド

また，取得処理については，「9.11.7(1) 帳票を印刷する場合」（ActiveX 起動部品の場合），または「10.13.10(1) 帳票を印刷する場合」（Java 起動部品の場合）を参照してください。

(a) クライアントインストールおよび MSI インストーラによるインストールの場合

```
<object
 classid="clsid:368EE1C4-5A52-4C2E-A4C0-27C46B946A2C"
 ID="EURPMPRINTAX"
 type="application/x-oleobject">
<param name= "EPFFileURL" value="http://test/EPF/sampleEPF.epf">
<param name= "LogLevel" value="16">
</object>
```

classid
: クラス ID を指定します。指定するクラス ID は，368EE1C4-5A52-4C2E-A4C0-27C46B946A2C です。

ID
: ID を指定します。

type
: オブジェクトのタイプを指定します。

param name
: パラメタを指定します。

(b) ダウンロードパッケージでのインストールの場合

```
<object
 classid="clsid:368EE1C4-5A52-4C2E-A4C0-27C46B946A2C"
 codebase="http://test/EURPMCLAX/
EURPMPrintAX.cab#version=8,70,0,1"
 ID="EURPMPRINTAX"
 type="application/x-oleobject">
<param name= "EPFFileURL" value="http://test/EPF/sampleEPF.epf">
<param name= "LogLevel" value="16">
</object>
```

classid
: クラス ID を指定します。指定するクラス ID は，368EE1C4-5A52-4C2E-A4C0-27C46B946A2C です。

codebase
: ダウンロードパッケージの cab ファイルの名前とバージョンを指定します。ダウンロードパッケージの cab ファイルの名前は，EURPMPrintAX.cab です。バージョンは，製品のバージョンによって指定する値が異なります。

ID
: ID を指定します。

type
　オブジェクトのタイプを指定します。

param name
　パラメタを指定します。

(2) Web ブラウザ上で帳票を表示・印刷する ActiveX 部品（EURPMPreViewAX.ocx）を使用するときの <object> タグの記述例

Web ブラウザ上で帳票を印刷したり，表示したりする ActiveX 部品（EURPMPreViewAX.ocx）を使用するときの <object> タグの記述例を次に示します。

「clsid」と「version」に指定する値は，EUR Print Manager - Adapter の ActiveX 起動部品または Java 起動部品を使用して取得できます。次に示すメソッドを参照してください。

- ActiveX 起動部品の場合
  clsid：GetPreviewAXClassID メソッド
  version：GetPreviewAXVersion メソッド
- Java 起動部品の場合
  clsid：getPreviewAXClassID メソッド
  version：getPreviewAXVersion メソッド

また，取得処理については，「9.11.7(2)　帳票をプレビュー表示する場合」（ActiveX 起動部品の場合），または「10.13.10(2)　帳票をプレビュー表示する場合」（Java 起動部品の場合）を参照してください。

(a) クライアントインストールおよび MSI インストーラによるインストールの場合

```
<object
 classid="clsid:D07DA8D2-3459-488E-860E-DD47A71C39D2"
 width=850
 height=650
 ID="EURPMPREVIEWAX"
 type="application/x-oleobject">
<param name= "EPFFileURL" value="http://test/EPF/sampleEPF.epf">
<param name= "LogLevel" value="16">
</object>
```

classid
　クラス ID を指定します。指定するクラス ID は，
　D07DA8D2-3459-488E-860E-DD47A71C39D2 です。

width
　プレビュー画面の幅を指定します。

height
　プレビュー画面の高さを指定します。

ID
　ID を指定します。

type
　オブジェクトのタイプを指定します。

param name
　パラメタを指定します。

(b) ダウンロードパッケージでのインストールの場合

```
<object
 classid="clsid:D07DA8D2-3459-488E-860E-DD47A71C39D2"
 codebase="http://test/EURPMCLPVX/
EURPMPreViewAX.cab#version=8,70,0,1"
 width=850
 height=650
 ID="EURPMPREVIEWAX"
 type="application/x-oleobject">
<param name= "EPFFileURL" value="http://test/EPF/sampleEPF.epf">
<param name= "LogLevel" value="16">
</object>
```

classid
　クラス ID を指定します。指定するクラス ID は，
　D07DA8D2-3459-488E-860E-DD47A71C39D2 です。

codebase
　ダウンロードパッケージの cab ファイルの名前とバージョンを指定します。ダウンロードパッケージの cab ファイルの名前は，EURPMPreViewAX.cab です。バージョンは，製品のバージョンによって指定する値が異なります。

width
　プレビュー画面の幅を指定します。

height
　プレビュー画面の高さを指定します。

ID
　ID を指定します。

type
　オブジェクトのタイプを指定します。

param name
　パラメタを指定します。

8.1.3 EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX の使用方法

EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX の使用方法には，クライアントインストールまたは MSI インストーラからインストールして使用する方法と，ダウンロードパッケージを配置して使用する方法があります。

ダウンロードパッケージは，キャビネットファイル（.cab）と Internet Explorer の機能を使用してインストールするパッケージです。

ダウンロードパッケージで EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX をインストールした場合，アプリケーションとしてコンピュータに登録されないため，コントロールパネルの［アプリケーションの追加と削除］メニューからのアンインストールはできません。また，プログラムフォルダおよびスタートメニューは作成されません。

(1) クライアントインストールおよび MSI インストーラによるインストールでの使用方法

EUR Print Manager - Client Print ActiveX および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX の，クライアントインストールおよび MSI インストーラによるインストールでの使用方法は次のとおりです。

(a) クライアントインストールおよび MSI インストーラによるインストール

クライアントインストールおよび MSI インストーラによるインストールでは，クライアント PC に直接インストールします。

クライアントインストールの手順は，「付録 B.9(1)　インストール方法」を参照してください。インストール後のフォルダ構成については，「付録 B.10(1)　クライアントインストールのフォルダ構造」を参照してください。

MSI インストーラによるインストールの手順は，「付録 B.11(2)　MSI インストーラを使用したインストール」を参照してください。

(b) EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX の起動方法

EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX は，HTML ページに <object> タグを記述して使用します。<object> タグの記述方法については，「8.1.2　ActiveX 部品の使用方法」を参照してください。

(2) ダウンロードパッケージでの使用方法

EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client

Preview ActiveX のダウンロードパッケージでの使用方法は次のとおりです。

(a) ダウンロードパッケージの取得

EUR Print Manager - Client をサーバ配置インストールして，ダウンロードパッケージを取得します。サーバ配置インストールの手順は，「付録 B.9(1)　インストール方法」を参照してください。インストール後のフォルダ構成については，「付録 B.10(2)　サーバ配置インストールのフォルダ構造」を参照してください。

(b) ダウンロードパッケージの配置

取得したダウンロードパッケージは，実行環境に合わせて任意の場所に配置します。

ダウンロードパッケージは，EUR Print Manager - Client のインストール時に指定したフォルダに格納されます。ダウンロードパッケージのファイル名，および格納場所については，「付録 B.11(1)(a)　ダウンロードパッケージの種類」を参照してください。

(c) EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX の起動方法

EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX は，HTML ページに <object> タグを記述して使用します。<object> タグの記述方法については，「8.1.2　ActiveX 部品の使用方法」を参照してください。

8.2 パラメタ，メソッド，プロパティ一覧

Web 出力で使用する ActiveX 部品のパラメタ，メソッド，プロパティの一覧を示します。

8.2.1 パラメター一覧

Web 出力で使用する ActiveX 部品のパラメタの一覧を次に示します。

表 8-1 Web 出力で使用する ActiveX 部品のパラメター一覧

パラメタ	概要	設定するファイル	
		EURPMPrintAX.ocx	EURPMPreViewAX.ocx
DefaultPrintDlg	印刷実行時に EUR Print Manager のプリンタ選択ダイアログを表示するか，OS の印刷ダイアログを表示するかを選択します。	○	○
EPFDataMaxSize	ダウンロードする EPF 形式ファイルの，ファイルサイズの上限を指定します。	○	○
EPFFileURL	EPF 形式ファイルをダウンロードする URL を指定します。	○	○
EPFTempDataMode	ダウンロードする EPF 形式ファイルを，一時ファイルとして保存するかどうかを指定します。	○	○
LogFile	ログファイル（EURPMPrintAX.log または EURPMPreViewAX.log）の出力先フォルダを指定します。	○	○
LogLevel	実行ログの出力レベルを指定します。	○	○
LogSize	ログファイル（EURPMPrintAX.log または EURPMPreViewAX.log）のファイルサイズの上限を指定します。	○	○
NoPrint	起動時に印刷を実行するかどうかを指定します。	○	×
NoSetPrinterDlg	印刷実行時にプリンタ選択ダイアログを表示するかどうかを指定します。	○	○
PrintEndPage	印刷ファイル（EPF 形式ファイル）の印刷終了ページを指定します。	○	×
PrinterName	帳票を印刷するプリンタを指定します。	○	○
PrintStartPage	印刷ファイル（EPF 形式ファイル）の印刷開始ページを指定します。	○	×
SendResultURL	印刷結果を報告する URL を指定します。	○	○
ShowScrollBar	印刷プレビューが表示領域を超える場合，スクロールバーを表示するかどうかを指定します。	×	○
TempFileDel	印刷実行時に生成した一時ファイルを削除するかどうかを選択します。	○	○
TrayName	帳票を印刷するプリンタのトレイ名を指定します。	○	○

パラメタ	概要	設定するファイル	
		EURPMPrintAX.ocx	EURPMPreViewAX.ocx
UserParam	ユーザー付加情報を指定します。	○	○
Zoom	印刷プレビューの表示倍率の初期値を指定します。	×	○

（凡例）○：指定できます。　×：指定できません。

8.2.2 メソッド一覧

Web 出力で使用する ActiveX 部品のメソッドの一覧を次に示します。

表 8-2　Web 出力で使用する ActiveX 部品のメソッド一覧

メソッド	概要	設定するファイル	
		EURPMPrintAX.ocx	EURPMPreViewAX.ocx
HScroll	横方向にスクロールします。	×	○
PrintEPF	印刷を実行します。	○	○
TurnPage	指定ページを表示します。	×	○
VScroll	縦方向にスクロールします。	×	○
Zoom	印刷プレビューの表示倍率を変更します。	×	○

（凡例）○：指定できます。　×：指定できません。

8.2.3 プロパティ一覧

Web 出力で使用する ActiveX 部品のプロパティの一覧を次に示します。

表 8-3　Web 出力で使用する ActiveX 部品のプロパティ一覧

プロパティ	概要	設定するファイル	
		EURPMPrintAX.ocx	EURPMPreViewAX.ocx
CurrentPage	表示中のページ番号を取得します。	×	○
ExclusionPrinterDriver	PrintEPF メソッドの実行時に，表示する印刷先指定ダイアログ中のプリンタ一覧から，除外したいプリンタのドライバ名を指定します。	○	○
ExclusionPrinterName	PrintEPF メソッドの実行時に，表示する印刷先指定ダイアログ中のプリンタ一覧から，除外したいプリンタのプリンタ名を指定します。	○	○
TotalPage	表示データの総ページ数を取得します。	×	○

（凡例）○：指定できます。　×：指定できません。

8.3 パラメタ仕様

Web 出力で使用する ActiveX 部品のパラメタの詳細を説明します。

DefaultPrintDlg パラメタ

印刷実行時に EUR Print Manager のプリンタ選択ダイアログを表示するか，OS の印刷ダイアログを表示するかを選択します。

指定できる値を次に示します。

- YES：印刷実行時，OS の印刷ダイアログを表示します。
- NO：印刷実行時，EUR Print Manager のプリンタ選択ダイアログを表示します。

DefaultPrintDlg パラメタを省略した場合，または指定できる値以外の文字を指定した場合は，NO が仮定されます。

PrinterName パラメタで指定したプリンタがある場合，または NoSetPrinterDlg パラメタで YES を指定した場合は，DefaultPrintDlg パラメタの指定は無効になります。

EPFDataMaxSize パラメタ

EPFTempDataMode パラメタに 1 を指定した場合，ダウンロードする EPF 形式ファイルの，ファイルサイズの上限を指定します。

指定できる値は 750 ～ 2,000,000 です。単位は KB です。

EPFDataMaxSize パラメタを省略した場合，または指定できない値を指定した場合は 2,000,000 が仮定されます。

EPFTempDataMode パラメタに 1 以外を指定した場合，EPFDataMaxSize パラメタに指定した内容は無視されます。

ダウンロードする EPF 形式ファイルのファイルサイズが上限を超えるとエラーになり，KEEY142-E メッセージが出力されます。

EPFFileURL パラメタ

印刷する EPF 形式ファイルをダウンロードする URL を指定します。

URL の指定方法には次に示す二つの方法があります。

- 生成済みの EPF 形式ファイルを指定
  生成済みの EPF 形式ファイルを Web サーバ上に配置しておき，その URL を指定し

ます。
（指定例）http://localhost/epf/abc.epf

- 動的に EPF 形式ファイルを生成するユーザープログラムを指定
  HTTP リクエストで EUR Print Manager - Adapter を呼び出し，動的に EPF 形式ファイルを生成してダウンロードしたい場合は，EPF 形式ファイルを生成して HTTP レスポンスに EPF 形式のファイルデータを返すユーザープログラムの URL を指定します。
  （指定例）http:///localhost/sample/create_epf.jsp
  ただし，HTTP レスポンスの HTTP ヘッダの ContentLength 項目には，生成した EPF 形式ファイルのファイルサイズを正しく指定してください。間違って指定した場合は，ダウンロードの進捗画面が正しく表示されません。
  また，EPFTempDataMode パラメタに「1（ダウンロードする EPF 形式ファイルを一時ファイルとして保存しない）」を指定した場合に，ContentLength 項目を正しく指定していないときは，ファイルデータを正常にダウンロードできないおそれがあります。

ダウンロード先は，GetTempPath() で取得されるテンポラリフォルダです。ダウンロードした EPF 形式ファイルは，印刷が終了すると自動的に削除されます。

EPFTempDataMode パラメタ

ダウンロードする EPF 形式ファイルを，一時ファイルとして保存するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：一時ファイルとして保存します。
- 1：一時ファイルとして保存しません。

EPFTempDataMode パラメタを省略した場合，または 0，1 以外を指定した場合は，0 が仮定されます。

LogFile パラメタ

EUR Print Manager - Client のログファイル（EURPMPrintAX.log または EURPMPreViewAX.log）の出力先フォルダを指定します。

LogFile パラメタを省略した場合，次の順に出力先フォルダを決定します。

1. **環境変数 TMP に指定されたフォルダ**
2. **環境変数 TEMP に指定されたフォルダ**
3. **カレントフォルダ**

LogLevel パラメタ

実行ログの出力レベルを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：ログ出力しません。
- 4：起動，終了，実行時パラメタ，エラーを出力します。
- 8：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告を出力します。
- 16：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告，情報を出力します。

LogLevel パラメタを省略した場合は，8 が仮定されます。

注意事項

出力レベルを 16 に指定すると，トレース情報が大量に出力されるため，性能が落ちるおそれがあります。障害調査時以外には指定しないでください。

LogSize パラメタ

EUR Print Manager - Client のログファイル（EURPMPrintAX.log または EURPMPreViewAX.log）のファイルサイズの上限を指定します。

指定できる値は 750 ～ 2,000,000 です。単位は KB です。

LogSize パラメタを省略した場合，または指定できない値を指定した場合は 750 が仮定されます。

ログのファイルサイズが上限を超えると，現在のログファイルをバックアップファイル（EURPMPrintAX_bak.log）に保存し，再びログファイルの先頭から記録します。すでにバックアップファイルがある場合は，古いバックアップファイルを上書きします。

NoPrint パラメタ

EUR Print Manager - Client Print ActiveX の起動時に印刷を実行するかどうかを指定します。EURPMPrintAX.ocx で指定できます。

指定できる値を次に示します。

- YES：EUR Print Manager - Client Print ActiveX の起動時に EPF 形式ファイルを印刷しません。
- NO：EUR Print Manager - Client Print ActiveX の起動時に EPF 形式ファイルを印刷します。

NoPrint パラメタで YES を指定した場合，PrintEPF メソッドを呼び出すまで印刷しません。NoPrint パラメタで NO を指定した場合，起動時に印刷されます。

NoPrint パラメタを省略した場合，または指定できない値を指定した場合，NO が仮定されます。

NoSetPrinterDlg パラメタ

印刷実行時にプリンタ選択ダイアログを表示するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- YES：印刷実行時，プリンタ選択ダイアログを表示しません。
- NO：印刷実行時，プリンタ選択ダイアログを表示します。

NoSetPrinterDlg パラメタに YES を指定した場合，Windows 環境で通常使うプリンタに出力されます。

NoSetPrinterDlg パラメタを省略した場合，または指定できない値を指定した場合は，NO が仮定されます。

PrinterName パラメタで指定したプリンタがある場合は，NoSetPrinterDlg パラメタの指定は無効になります。

PrintEndPage パラメタ

印刷ファイル（EPF 形式ファイル）の印刷終了ページを指定します。指定できる値は，1 ～ 999,999 です。単位は，ページです。

PrintEndPage パラメタを省略した場合は，1 ページから印刷ファイルの最終ページまで印刷されます。

PrintEndPage パラメタに，印刷ファイルの最終ページを超える値を指定した場合は，印刷ファイルの最終ページまで印刷されます。

PrintEndPage プロパティに，次に示すどれかが指定された場合は，印刷されません。印刷実行時にエラーが表示されます。

- 印刷終了ページに，1 ～ 999,999 以外の値が指定されているとき
- PrintEndPage パラメタの指定はあるが，印刷終了ページが指定されていないとき
- PrintStartPage プロパティで指定する印刷開始ページが，印刷終了ページより大きいとき

PrinterName パラメタ

帳票を印刷するプリンタを指定します。プリンタ名には，クライアント PC の OS 上に設定した名称を指定します。

プリンタ名の大文字・小文字は区別されません。

PrinterName パラメタを省略した場合，または指定したプリンタ名が OS 上にない場合は，NoSetPrinterDlg パラメタと DefaultPrintDlg パラメタの設定に従います。

PrintStartPage パラメタ

印刷ファイル（EPF 形式ファイル）の印刷開始ページを指定します。指定できる値は，1 ～ 999,999 です。単位は，ページです。

PrintStartPage パラメタを省略した場合は，1 ページから印刷されます。

PrintStartPage パラメタに，印刷ファイルの最終ページを超える値を指定した場合は，印刷ファイルの最終ページから印刷されます。

PrintStartPage プロパティに，次に示すどれかが指定された場合は，印刷されません。印刷実行時にエラーが表示されます。

- 印刷開始ページに，1 ～ 999,999 以外の値が指定されているとき
- PrintStartPage パラメタの指定はあるが，印刷開始ページが指定されていないとき
- 印刷開始ページが，PrintEndPage プロパティで指定する印刷終了ページより大きいとき

SendResultURL パラメタ

印刷結果を報告する URL を指定します。指定した URL に結果が出力され，HTTP リクエストが送信されます。

SendResultURL パラメタで指定する URL で，EPF 形式ファイルの削除などの処理ができます。

報告される結果の形式を次に示します。

- 印刷成功時：?PrintResult=OK
- 印刷失敗（キャンセルを含む）時：?PrintResult=NG

SendResultURL パラメタを省略した場合，印刷結果は報告されません。

SendResultURL パラメタで指定する URL の HTTP レスポンスは無効になります。

ShowScrollBar パラメタ

印刷プレビューが表示領域を超える場合，スクロールバーを表示するかどうかを指定します。EURPMPreViewAX.ocx で指定できます。

指定できる値を次に示します。

- YES：スクロールバーを表示します。
- NO：スクロールバーを表示しません。

ShowScrollBar パラメタを省略した場合，または指定できない値を指定した場合，YES が仮定されます。

YES を指定しても，印刷プレビューが表示領域を超えなければ，スクロールバーは表示されません。

TempFileDel パラメタ

印刷実行時に生成した一時ファイルを削除するかどうかを選択します。一時ファイルは障害対策のために使用します。

指定できる値を次に示します。

- 0：常に削除します。
- 1：正常終了時には削除します。異常終了時には削除しません。
- 2：常に削除しません。

TempFileDel パラメタを省略した場合，または 0，1，2 以外を指定した場合は 1 が仮定されます。

EPFTempDataMode パラメタに 1 を指定している場合，TempFileDel パラメタに指定した内容は無視されます。

一時ファイルは，次の順に出力先フォルダを決定します。

1. **環境変数 TMP に指定されたフォルダ**
2. **環境変数 TEMP に指定されたフォルダ**
3. **カレントフォルダ**

一時ファイルを削除しなかった場合は，プログラムが稼働していないときに定期的に削除してください。

TrayName パラメタ

帳票を印刷するプリンタのトレイ名を指定します。トレイ名には，PrinterName パラメ

タで指定したプリンタのトレイ名を指定します。

PrinterName パラメタを省略した場合，または PrinterName パラメタで指定したプリンタがない場合は，TrayName パラメタの指定は無効になります。

TrayName パラメタで指定したトレイ名がない場合は，NoSetPrinterDlg パラメタと DefaultPrintDlg パラメタの指定に従います。

UserParam パラメタ

ユーザー付加情報を指定します。

UserParam パラメタを指定した場合

SendResultURL パラメタで指定した URL の後ろに，"?" に続いて UserParam パラメタの文字列を付け，さらに "&" と結果文字列を付けて印刷結果が報告されます。

UserParam パラメタを省略した場合

SendResultURL パラメタで指定した URL の後ろに，"?" に続いて結果文字列を付けて印刷結果が報告されます。

SendResultURL パラメタを省略した場合，UserParam パラメタは無効になります。

Zoom パラメタ

印刷プレビューの表示倍率の初期値を指定します。EURPMPreViewAX.ocx で指定できます。

指定できる値は，25 ～ 200 です。単位は % です。

25 より小さい値を指定した場合は，25 が仮定されます。200 より大きい値を指定した場合は，200 が仮定されます。

Zoom パラメタを省略した場合，または数値以外を指定した場合は，100 が仮定されます。

8.4 メソッド仕様

Web 出力で使用する ActiveX 部品のメソッドの詳細を説明します。

HScroll メソッド

横方向にスクロールします。単位は px（ピクセル）です。EURPMPreViewAX.ocx で指定できます。

正の値を指定すると左方向にスクロールします。負の値を指定すると右方向にスクロールします。

形式

long HScroll(long lPixel)

引数

lPixel

スクロール量

戻り値

リターンコード

0：正常終了

上記以外：エラー

PrintEPF メソッド

印刷を実行します。パラメタの指示に従って印刷します。

形式

long PrintEPF()

引数

なし

戻り値

リターンコード

0：正常終了

上記以外：エラー

TurnPage メソッド

指定したページを表示します。EURPMPreViewAX.ocx で指定できます。

指定したページ数が，帳票にない場合は，次の規則に従います。

- 0 以下を指定した場合：先頭ページを表示します。
- 最終ページより大きい値を指定した場合：最終ページを表示します。

形式

long TurnPage(long lPage)

引数

lPage

ページ番号

戻り値

リターンコード

0：正常終了

上記以外：エラー

VScroll メソッド

縦方向にスクロールします。EURPMPreViewAX.ocx で指定できます。単位は px（ピクセル）です。正の値を指定すると上方向にスクロールします。負の値を指定すると下方向にスクロールします。

形式

long VScroll(long lPixel)

引数

lPixel

スクロール量

戻り値

リターンコード

0：正常終了

上記以外：エラー

Zoom メソッド

印刷プレビューの表示倍率を変更します。EURPMPreViewAX.ocx で指定できます。

形式

long Zoom(long lPercent)

引数

lPercent

倍率

戻り値

リターンコード

0：正常終了

上記以外：エラー

8.5 プロパティ仕様

Web 出力で使用する ActiveX 部品のプロパティの詳細を説明します。ActiveX 部品のプロパティは，EURPMPreViewAX.ocx で指定できます。

CurrentPage プロパティ

表示中のページ番号を取得します。

形式

long CurrentPage

ExclusionPrinterDriver プロパティ

PrintEPF メソッドの実行時に，表示する印刷先指定ダイアログ中のプリンタ一覧から，除外したいプリンタのドライバ名を指定します。

指定できるドライバ名は 100 個までです。

100 を超える配列を指定した場合，PrintEPF メソッド実行時に KEEY153-E エラーとなります。

形式

一つの除外ドライバ名を指定する場合。
　文字型

複数の除外ドライバ名を指定する場合。要素数が一つの文字型配列も指定できます。
　文字型配列

指定例

複数の除外ドライバ名を指定する場合の例を次に示します。

（指定例 1）VBScript の場合

```
Set drivers = CreateObject("Scripting.Dictionary")
drivers.add 0, "Driver1"       'drivers(0) = "Driver1"でも可能
drivers.add 1, "Driver2"       'drivers(1) = "Driver2"でも可能
drivers.add 2, "Driver3"       'drivers(2) = "Driver3"でも可能
document.Form1.EURPMPRINTAX.ExclusionPrinterDriver = drivers.items
```

（指定例 2）VBScript の場合

```
document.Form1.EURPMPRINTAX.ExclusionPrinterDriver
                         = Array("Driver1","Driver2","Driver3")
```

（指定例 3）VBScript の場合

```
Dim drivers(2)
drivers(0) = "Driver1"
drivers(1) = "Driver2"
drivers(2) = "Driver3"
document.Form1.EURPMPRINTAX.ExclusionPrinterDriver = drivers
```

（指定例 4）JavaScript の場合

```
var drivers = new ActiveXObject("Scripting.Dictionary");
drivers.add(0, "Driver1");       //drivers(0) = "Driver1"でも可能
drivers.add(1, "Driver2");       //drivers(1) = "Driver2"でも可能
drivers.add(2, "Driver3");       //drivers(2) = "Driver3"でも可能
document.Form1.EURPMPRINTAX.ExclusionPrinterDriver =
drivers.items();
```

ExclusionPrinterName プロパティ

PrintEPF メソッドの実行時に，表示する印刷先指定ダイアログ中のプリンタ一覧から，除外したいプリンタのプリンタ名を指定します。

指定できるプリンタ名は 100 個までです。

100 を超える配列を指定した場合，PrintEPF メソッド実行時に KEEY153-E エラーとなります。

形式

一つの除外プリンタ名を指定する場合。

文字型

複数の除外プリンタ名を指定する場合。要素数が一つの文字型配列も指定できます。

文字型配列

指定例

複数の除外プリンタ名を指定する場合の例を次に示します。

（指定例 1）VBScript の場合

```
Set printers = CreateObject("Scripting.Dictionary")
printers.add 0, "Printer1"       'printers(0) = "Printer1"でも可能
printers.add 1, "Printer2"       'printers(1) = "Printer2"でも可能
printers.add 2, "Printer3"       'printers(2) = "Printer3"でも可能
document.Form1.EURPMPRINTAX.ExclusionPrinterName = printers.items
```

（指定例 2）VBScript の場合

```
document.Form1.EURPMPRINTAX.ExclusionPrinterName
                          = Array("Printer1","Printer2","Printer3")
```

（指定例 3）VBScript の場合

```
Dim printers(2)
printers(0) = "Printer1"
printers(1) = "Printer2"
printers(2) = "Printer3"
```

```
document.Form1.EURPMPRINTAX.ExclusionPrinterName = printers
```

（指定例 4）JavaScript の場合

```
var printers = new ActiveXObject("Scripting.Dictionary");
printers.add(0, "Printer1");      //printers(0) = "Printer1"でも可能
printers.add(1, "Printer2");      //printers(1) = "Printer2"でも可能
printers.add(2, "Printer3");      //printers(2) = "Printer3"でも可能
document.Form1.EURPMPRINTAX.ExclusionPrinterName =
printers.items();
```

TotalPage プロパティ

表示データの総ページ数を取得します。

形式

long TotalPage

9 ActiveX 起動部品および RS-ActiveX 起動部品を使用した帳票出力

この章では，EUR Print Manager で提供する ActiveX 起動部品を使用した帳票出力について説明します。また，EUR Print Manager - Report Server を利用するための RS-ActiveX 起動部品についても説明します。

9.1 ActiveX 起動部品

9.2 ActiveX 起動部品のメソッドとプロパティ一覧

9.3 ActiveX 起動部品のメソッド仕様

9.4 ActiveX 起動部品のプロパティ仕様

9.5 RS-ActiveX 起動部品

9.6 RS-ActiveX 起動部品のメソッドとプロパティ一覧

9.7 RS-ActiveX 起動部品のメソッド仕様

9.8 RS-ActiveX 起動部品のプロパティ仕様

9.9 環境設定ファイル

9.10 エラー情報

9.11 コーディング例

9.1 ActiveX 起動部品

Visual Basic Script や Visual Basic で開発するサーバアプリケーションから EUR Print Manager を使って帳票出力できるように，EUR Print Manager では ActiveX 起動部品を提供しています。ActiveX 起動部品を利用することで，Web/AP サーバ上のサーバアプリケーションから帳票を印刷したり，EPF 形式ファイルに出力したりできます。

9.1.1 ActiveX 起動部品のファイル名

EURPMADP.ocx

ActiveX 起動部品のファイルです。EUR Print Manager - Adapter のインストール先フォルダ ¥Program¥ 下にあります。

9.1.2 ActiveX 起動部品のプログラム ID とコントロール名

ActiveX 起動部品のプログラム ID およびコントロール名は，EUR Print Manager - Adapter をインストールしたときに登録されます。

EURPM.Exec

ActiveX 起動部品のプログラム ID です。

EURPMADP ActiveX コントロールモジュール

ActiveX 起動部品のコントロール名です。

9.1.3 ActiveX 起動部品が提供するクラス

ActiveX 起動部品では，帳票出力の制御を行う EURPMADPLib.EURPMAdapter クラスを提供します。

EURPMADPLib.EURPMAdapter クラスでは，帳票ファイルやデータファイルなどのプロパティを設定するメソッドと，帳票の出力先やバージョン情報などを取得するメソッドを提供します。EURPMADPLib.EURPMAdapter クラスは次のように指定します。

```
Public Class EURPMADPLib.EURPMAdapter
```

Visual Basic Script や Visual Basic で開発するサーバアプリケーションから，次の手順で帳票を出力します。

1. CSV 形式ファイルの作成
2. ActiveX 起動部品の構築

3. **プロパティの設定**
帳票ファイル，データファイルなどのプロパティを設定します。プロパティの設定については，「9.4　ActiveX 起動部品のプロパティ仕様」を参照してください。

4. **帳票の出力**
帳票出力メソッド（PrintPMReport メソッドなど）を呼び出して帳票を出力します。

3. と 4. の処理で発生したエラー，または発生するエラーは，例外を処理するようにプログラムに記述します。

9.1.4　ActiveX 起動部品の構文

ActiveX 起動部品を構築する場合と EURPMADPLib.EURPMAdapter クラスを生成する場合の構文を次に示します。

（1） ActiveX 起動部品を構築する場合

ActiveX 起動部品を構築する場合は，次のように指定します。

Visual Basic Script の場合

```
Dim eurpm As Object
Set eurpm=Server.CreateObject("EURPM.Exec")
```

Visual Basic の場合

```
Dim eurpm As Object
Set eurpm=CreateObject("EURPM.Exec")
```

パラメタ

- eurpm には，Server.CreateObject または CreateObject の呼び出しによって作成されるオブジェクト名を指定します。
- EURPM.Exec は，ActiveX 起動部品のプログラム ID です。
ASP ファイルのある Visual Basic Script の CreateObject 関数にプログラム ID を指定して，ActiveX 起動部品を生成してください。

（2） EURPMADPLib.EURPMAdapter クラスを生成する場合

EURPMADPLib.EURPMAdapter クラスを生成することで，ActiveX 起動部品を生成することもできます。この場合は，クラスを生成する前に，ユーザーアプリケーションプロジェクトのコントロールまたは COM の参照設定に，コントロール名「EURPMADP ActiveX コントロール モジュール」を追加してください。

EURPMADPLib.EURPMAdapter クラスを生成する場合は，次のように指定します。

```
Dim eurpm As EURPMADPLib.EURPMAdapter
Set eurpm=new EURPMADPLib.EURPMAdapter
```

パラメタ

- eurpm には，EURPMADPLib.EURPMAdapter クラス型の任意のオブジェクト

名を指定します。

- new 操作で EURPMADPLib.EURPMAdapter クラスを生成してください。

9.2 ActiveX 起動部品のメソッドとプロパティ一覧

ActiveX 起動部品が提供するメソッドとプロパティの一覧を示します。

9.2.1 ActiveX 起動部品が提供するメソッド一覧

ActiveX 起動部品が提供するメソッドの一覧を次に示します。

表 9-1 ActiveX 起動部品が提供するメソッド一覧

種類	メソッド	概要
情報取得メソッド	GetDestinationList	出力先の一覧を取得します。
	GetJobID	GetJobID メソッドを実行する直前に蓄積した蓄積ファイルのジョブ ID を取得します。 帳票を分割または仕分けして蓄積した場合など，直前に蓄積した蓄積ファイルが複数あるときは，最初に蓄積した蓄積ファイルのジョブ ID を取得します。
	GetJobIDList	GetJobIDList メソッドを実行する直前に蓄積した蓄積ファイルのジョブ ID の一覧を取得します。
	GetPMPrinterClassList	印刷管理サーバのプリンタクラスの一覧を取得します。
	GetPMPrinterList ※1	印刷管理サーバに登録された OS 上のプリンター覧を取得します。
	GetPMTrayList ※1	印刷管理サーバ上のプリンタを指定し，その OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。
	GetPreviewAXClassID	EURPMPreViewAX.ocx のクラス ID を取得します。
	GetPreviewAXVersion	EURPMPreViewAX.ocx のバージョンを取得します。
	GetPrintAXClassID	EURPMPrintAX.ocx のクラス ID を取得します。
	GetPrintAXVersion	EURPMPrintAX.ocx のバージョンを取得します。
	GetPrinterClassList ※2	指定した出力先の拠点プリンタクラスの一覧を取得します。
	GetPrinterList ※2	指定した出力先の拠点サーバに登録された OS 上のプリンター覧を取得します。
	GetTrayList ※2	出力先と OS 上のプリンタを指定し，その OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。
出力メソッド	OutputEPFReport	プロパティで指定した帳票名およびデータファイルに従って，EPF 形式ファイルを出力します。
	OutputEURReport	プロパティで指定した帳票名およびデータファイルに従って，EUR 形式ファイルを出力します。

種類	メソッド	概要
	OutputMergeEPFReport	複数の EPF 形式ファイルを統合して出力します。
	OutputPDFReport	プロパティで指定した帳票名およびデータファイルに従って，PDF 形式ファイルを出力します。
	OutputXLSXReport	プロパティで指定した帳票名およびデータファイルに従って，Excel 形式ファイルを出力します。
	PrintPMReport	プロパティで指定した帳票名およびデータファイルに従って，帳票を出力します。

注※ 1

印刷管理サーバが UNIX/Linux 環境の場合は指定できません。

注※ 2

対象となる拠点サーバが UNIX/Linux 環境の場合は指定できません。

9.2.2 ActiveX 起動部品が提供するプロパティー覧（出力メソッド）

ActiveX 起動部品が提供するプロパティのうち，出力メソッドで使用するプロパティを表 9-3 に示します。表 9-3 では，出力メソッドを表 9-2 のように省略して表記します。

表 9-2 出力メソッドの略称

略称	出力メソッド
PMRS	PrintPMReport（拠点サーバでの印刷）
PMRC	PrintPMReport（クライアント PC での印刷）
PMRT	PrintPMReport（蓄積）
PMRD	PrintPMReport（直接印刷）
PMRH	PrintPMReport（クライアント PC への配布印刷）
OPDF	OutputPDFReport（PDF 形式ファイル出力）
OEPF	OutputEPFReport（EPF 形式ファイル出力）
MEPF	OutputMergeEPFReport（複数 EPF 形式ファイル統合出力）
OEUR	OutputEURReport（EUR 形式ファイル出力）
OXLS	OutputXLSXReport（Excel 形式ファイル出力）

表 9-3 ActiveX 起動部品が提供するプロパティ一覧（出力メソッド）

プロパティ	設定内容	データ型	出力メソッド									
			PMRS	PMRC	PMRT	PMRD	PMRH	OPDF	OEPF	MEPF	OEUR	OXLS
BookmarkFileName	しおり定義ファイル名	String String 配列	―	―	―	―	―	△	―	―	―	―
BookmarkFilePath	文書しおり定義ファイルまたはしおり定義ファイルのパス	String	―	―	―	―	―	△	―	―	―	―
ClientAddress	クライアント PC の IP アドレス	String	―	○	△	―	○	―	―	―	―	―
ClientPrinterName	印刷先クライアントプリンタ名	String	―	△	△	―	△	―	―	―	―	―
ClientTrayName	印刷先クライアントプリンタのトレイ名	String	―	△	△	―	△	―	―	―	―	―
Crypto	PDF 形式ファイルの暗号化出力の有無	Boolean	―	―	―	―	―	△	―	―	―	―
CryptoFileName	暗号化設定ファイル名	String	―	―	―	―	―	△	―	―	―	―
CryptoFilePath	暗号化設定ファイルのパス	String	―	―	―	―	―	△	―	―	―	―
DataFileName	マッピングデータファイル名または可変記号値定義ファイル名	String String 配列	△	△	△	△	―	△	△	―	△	△
DataFilePath	マッピングデータファイルパスまたは可変記号値定義ファイルのパス	String	△	△	△	△	―	△	△	―	△	△
DBInfoFileName	接続情報ファイル名	String	△	△	△	△	―	△	△	―	△	△
DBInfoFilePath	接続情報ファイルのパス	String	△	△	△	△	―	△	△	―	△	△
DestinationName	出力先名	String	△	―	△	―	―	―	―	―	―	―
DispPrintDlg	ダイアログ表示モード	Long	―	△	△	―	△	―	―	―	―	―
DistributeFileName	PDF 仕分け定義ファイル名	String	―	―	―	―	―	△	―	―	―	―

プロパティ	設定内容	データ型	出力メソッド									
			PMRS	PMRC	PMRT	PMRD	PMRH	OPDF	OEPF	MEPF	OEUR	OXLS
DistributeFilePath	PDF 仕分け定義ファイルのパス	String	―	―	―	―	―	△	―	―	―	―
DistributionInfoFile	仕分け定義情報ファイル名	String	△※1	―	―	△※1	―	―	―	―	―	―
DistributionInfoFilePath	仕分け定義情報ファイルのパス	String	△※1	―	―	△※1	―	―	―	―	―	―
DocBookmarkFileName	文書しおり定義ファイル名	String	―	―	―	―	―	△	―	―	―	―
DocInfoFileName	文書情報設定ファイル名	String	△	△	△	△	―	△	△	―	△	―
DocInfoFilePath	文書情報設定ファイルのパス	String	△	△	△	△	―	△	△	―	△	―
EnableGet	蓄積ファイルの取得可否	Boolean	―	―	△	―	―	―	―	―	―	―
EncryptionPasswordKey	パスワード暗号化鍵	String	―	―	―	―	―	△	―	―	―	―
EPFFileName	出力 EPF 形式ファイル名	String	―	―	―	―	○	―	○	○	―	―
EPFFilePath	出力 EPF 形式ファイルのパス	String	―	―	―	―	△	―	△	△	―	―
EURFileName	出力 EUR 形式ファイル名	String	―	―	―	―	―	―	―	―	○	―
EURFilePath	出力 EUR 形式ファイルのパス	String	―	―	―	―	―	―	―	―	△	―
ExecutablePrintMode	実行可能印刷方式	Long	―	―	△	―	―	―	―	―	―	―
FileOutputDestination	ファイルの出力先	Long	―	―	―	―	―	△	―	―	―	―
FirstPageNumber	ページ番号の初期値	Long	△	△	△	△	―	△	△	―	―	―
GroupName	帳票振り分け定義の振り分けグループ名	String	△	―	△	―	―	―	―	―	―	―
InitPageNumber	ページ番号の開始番号の初期化	Boolean	△	△	△	△	―	△	△	―	―	―

プロパティ	設定内容	データ型	出力メソッド									
			PMRS	PMRC	PMRT	PMRD	PMRH	OPDF	OEPF	MEPF	OEUR	OXLS
JobKeyCategory	蓄積ファイルとして格納するファイルの，検索キーの分類	String 配列	―	―	△	―	―	―	―	―	―	―
JobKeyData	蓄積ファイルの検索キーの値	String 配列	―	―	△	―	―	―	―	―	―	―
MaxPrintCount	蓄積ファイルの上限印刷回数	Long	―	―	△	―	―	―	―	―	―	―
MergeEPFFileName	統合対象 EPF 形式ファイル名	String 配列	―	―	―	―	―	―	―	○	―	―
MergeEPFFilePath	統合対象 EPF 形式ファイルパス	String	―	―	―	―	―	―	―	△	―	―
MultiFormInfoDefFileName	複数様式情報定義ファイル名	String	△	△	△	△	―	△	△	―	△	―
MultiFormInfoDefFilePath	複数様式情報定義ファイルのパス	String	△	△	△	△	―	△	△	―	△	―
MultiReportSetFileName	帳票セット指定ファイル名	String	△	△	△	△	―	△	△	―	△	―
MultiReportSetFilePath	帳票セット指定ファイルのパス	String	△	△	△	△	―	△	△	―	△	―
PageNumberFormat	ページ番号のフォーマット	String	△	△	△	△	―	△	△	―	―	―
PageNumberLocation	余白へのページ番号の印刷位置	Long	△	△	△	△	―	△	△	―	―	―
PaperOrientation	用紙の向き	Long	△	△	△	△	―	―	△	△	―	―
PDFFileName	出力 PDF 形式ファイル名	String	―	―	―	―	―	○※2	―	―	―	―
PDFFilePath	出力 PDF 形式ファイルのパス	String	―	―	―	―	―	△	―	―	―	―
PMServerAddress	印刷管理サーバの IP アドレス	String	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
PMServerPort	印刷管理サーバのポート番号	Long	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
PrintCopies	印刷部数	Long	△	△	△	△	―	―	△	△	―	―
PrintDateFileName	印刷日時出力定義ファイル名	String	△	△	△	―	―	―	△	―	―	―

プロパティ	設定内容	データ型	出力メソッド									
			PMRS	PMRC	PMRT	PMRD	PMRH	OPDF	OEPF	MEPF	OEUR	OXLS
PrintDateFilePath	印刷日時出力定義ファイルのパス	String	△	△	△	―	―	―	△	―	―	―
PrintEndPage	印刷終了ページ	Long	△	△	△	△	―	△	△	―	―	△
PrinterClassName	プリンタクラス名	String	△	△	△	△	―	―	△	△	―	―
PrinterSelectMode	プリンタ指定方法	Long	△	―	△	△※3	―	―	―	―	―	―
PrintHoldMode	蓄積後に続けて印刷するかどうか	Long	―	―	△	―	―	―	―	―	―	―
PrintKind	印刷モード	Long	△	―	―	―	―	―	―	―	―	―
PrintMode	印刷メソッド（PrintPMReportメソッド）の印刷方式	Long	△	△	△	△	△	―	―	―	―	―
PrintPageNumber	余白へのページ番号印刷	Boolean	△	△	△	△	―	△	△	―	―	―
PrintStartPage	印刷開始ページ	Long	△	△	△	△	―	△	△	―	―	△
PSEnvFileName	EUR Print Service の環境設定ファイル名	String	△	△	△	△	―	△	△	―	△	△
PSEnvFilePath	EUR Print Service の環境設定ファイルパス	String	△	△	△	△	―	△	△	―	△	△
ReplaceItemCntlFileName	置き換え表管理情報ファイル名	String	△	△	△	△	―	△	△	―	△	△
ReplaceItemCntlFilePath	置き換え表管理情報ファイルのパス	String	△	△	△	△	―	△	△	―	△	△
ReportFileName	帳票ファイル名	String String 配列	○※4	○※4	○※4	○※4	―	○※4	○※4	―	○※4	○※4
ReportFilePath	帳票ファイルのパス	String	△	△	△	△	―	△	△	―	△	△
ScriptCntlFileName	Acrobat JavaScript 定義ファイル名	String	―	―	―	―	―	△	―	―	―	―
ScriptCntlFilePath	Acrobat JavaScript 定義ファイルのパス	String	―	―	―	―	―	△	―	―	―	―

プロパティ	設定内容	データ型	出力メソッド									
			PMRS	PMRC	PMRT	PMRD	PMRH	OPDF	OEPF	MEPF	OEUR	OXLS
ServerAddress	拠点サーバの IP アドレス	String	△	―	△	―	―	―	―	―	―	―
ServerPrinterName	サーバプリンタ名	String	△	―	△	△	―	―	―	―	―	―
ServerSelectMode	拠点サーバ指定方法	Long	△	―	△	―	―	―	―	―	―	―
ServerTrayName	サーバプリンタのトレイ名	String	△	―	△	△	―	―	―	―	―	―
SortPrint	印刷部数の単位	Long	△	△	△	△	―	―	△	△	―	―
SplitFileName	EURPM 分割 / 仕分け定義ファイル名	String	―	―	△	―	―	―	―	―	―	―
SplitFilePath	EURPM 分割 / 仕分け定義ファイルパス	String	―	―	△	―	―	―	―	―	―	―
SplitMode	分割 / 仕分けの実行	Long	―	―	△	―	―	―	―	―	―	―
SpoolFileName	蓄積ファイルに格納するファイルのファイル名	String	―	―	△	―	―	―	―	―	―	―
SpoolLimit	蓄積ファイルの蓄積期限日	String	―	―	△	―	―	―	―	―	―	―
SpoolTitle	スプールタイトル	String	―	―	―	―	―	―	―	△	―	―
UserDataFileName	ユーザ定義データファイル名または可変記号値定義ファイル名	String String 配列	△	△	△	△	―	△	△	―	△	△
UserDataFilePath	ユーザ定義データファイルまたは可変記号値定義ファイルのパス	String	△	△	△	△	―	△	△	―	△	△
ViewerPreferenceFileName	ビューアプレファレンス定義ファイル名	String	―	―	―	―	―	△	―	―	―	―
ViewerPreferenceFilePath	ビューアプレファレンス定義ファイルのパス	String	―	―	―	―	―	△	―	―	―	―
XLSXFileName	出力 Excel 形式ファイル名	String	―	―	―	―	―	―	―	―	―	○

プロパティ	設定内容	データ型	出力メソッド									
			PMRS	PMRC	PMRT	PMRD	PMRH	OPDF	OEPF	MEPF	OEUR	OXLS
XLSXFilePath	出力 Excel 形式ファイルのパス	String	―	―	―	―	―	―	―	―	―	△

（凡例）

○：必ず指定します。
△：指定を省略できます。
―：指定できません。

注※ 1

UNIX/Linux 環境では指定できません。

注※ 2

DistributeFileName プロパティを指定している場合は，指定を省略できます。

注※ 3

指定できるプリンタ印刷方式は，「プリンタクラス名指定」または「OS 上のプリンタ名指定」です。

注※ 4

MultiReportSetFileName プロパティを指定している場合は，指定を省略できます。

注意事項

EUR Print Service と連携して使用するプロパティでエラーが発生した場合は，次のエラーメッセージが出力されます。メッセージが表示されたときは，EUR Print Service のイベントログ，または eurps ログを参照してください。

メッセージ ID	メッセージ
KEEY221-E	印刷処理でエラーが発生しました。(337)
KEEY223-E	PDF 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(337)
KEEY225-E	EPF 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(337)
KEEY243-E	EUR 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(337)
KEEY263-E	XLSX 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(337)

9.2.3　ActiveX 起動部品が提供するプロパティ一覧（情報取得メソッド）

ActiveX 起動部品が提供するプロパティのうち，情報取得メソッドで使用するプロパティを表 9-5 に示します。表 9-5 では，情報取得メソッドを表 9-4 のように省略して表記します。

表 9-4　情報取得メソッドの略称

略称	情報取得メソッド
GEDL	GetDestinationList（出力先一覧の取得）
GEPC	GetPMPrinterClassList（印刷管理サーバのプリンタクラス一覧の取得）
GEPP	GetPMPrinterList（印刷管理サーバのプリンタ一覧の取得）
GEPT	GetPMTrayList（印刷管理サーバのトレイ一覧を取得）
GECL	GetPrinterClassList（プリンタクラス一覧の取得）
GEPL	GetPrinterList（プリンタ一覧の取得）
GETL	GetTrayList（トレイ一覧の取得）

表 9-5　ActiveX 起動部品が提供するプロパティ一覧（情報取得メソッド）

プロパティ	設定内容	データ型	情報取得メソッド						
			GEDL	GEPC	GEPP	GEPT	GECL	GEPL	GETL
DestinationName	出力先名	String	―	―	―	―	△	△	△
PMServerAddress	印刷管理サーバの IP アドレス	String	△	△	△	△	△	△	△
PMServerPort	印刷管理サーバのポート番号	Long	△	△	△	△	△	△	△
ServerPrinterName	サーバのプリンタ名	String	―	―	―	○	―	―	○

（凡例）

○：必ず指定します。
△：指定を省略できます。
―：指定できません。

9.3 ActiveX 起動部品のメソッド仕様

ActiveX 起動部品が提供するメソッドの詳細を説明します。

GetDestinationList メソッド

出力先の一覧を取得します。

形式

GetDestinationList()

パラメタ

なし

解説

GetDestinationList メソッドは，EUR Print Manager に登録された出力先の一覧を取得します。出力先の一覧は，出力先定義ファイルから取得します。取得できる情報は，定義された出力先の情報です。拠点サーバの稼働状況は取得できません。

メソッド実行時にエラーが発生した場合，Err.Number プロパティに終了コード，Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

出力先の一覧を次に示す形式で返します。

```
出力先名1,IPアドレス1,説明1
出力先名2,IPアドレス2,説明2
              :
```

データ型

String の 2 次元配列

呼び出し例

GetDestinationList メソッドの呼び出し例を次に示します。

```
'GetDestinationList実行
Private Sub SUB_GetDestinationList()

    Dim objEURPM, wk_Return
    Dim iLower, iUpper, I
    Dim jLower, jUpper, J
    Dim sEntry  As String
```

```
    Set objEURPM = CreateObject("EURPM.Exec")

    Me.Refresh

    Err.Clear
    On Error Resume Next
    wk_Return = objEURPM.GetDestinationList
    List5.AddItem "Err.Number=(" & Err.Number & ")"
    List5.AddItem "Err.Description=(" & Err.Description & ")"

    If Err.Number = 0 Then
        List5.AddItem ""
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココカラ ★★★★★"
        iLower = LBound(wk_Return, 1)
        iUpper = UBound(wk_Return, 1)
        jLower = LBound(wk_Return, 2)
        jUpper = UBound(wk_Return, 2)
        For I = iLower To iUpper
            sEntry = ""
            For J = jLower To jUpper
                If J > 0 Then
                    sEntry = sEntry + ","
                End If
                sEntry = sEntry + wk_Return(I, J)
            Next
            List5.AddItem sEntry
        Next
        ''Label51.Caption = List5.ListCount
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココマデ ★★★★★"
    End If

    Set objEURPM = Nothing

End Sub
```

GetJobID メソッド

GetJobID メソッドを実行する直前に蓄積した蓄積ファイルのジョブ ID を取得します。

帳票を分割または仕分けして蓄積した場合など，直前に蓄積した蓄積ファイルが複数あるときは，最初に蓄積した蓄積ファイルのジョブ ID を取得します。

形式

GetJobID()

パラメタ

なし

解説

PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2）の場合で，かつ正常または

警告でメソッドが戻ったときだけ蓄積ファイルのジョブ ID を取得できます。取得した情報は，ActiveX 起動部品がメモリから解放されるか，または PrintPMReport メソッドが次に呼び出されるまで有効になります。

メソッド実行時にエラーが発生した場合，Err.Number プロパティに終了コード，Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

直前に蓄積した蓄積ファイルのジョブ ID

データ型

String

GetJobIDList メソッド

GetJobIDList メソッドを実行する直前に蓄積した蓄積ファイルのジョブ ID の一覧を取得します。直前に蓄積した蓄積ファイルが複数あるときは，すべての蓄積ファイルのジョブ ID を取得します。

形式

GetJobIDList()

パラメタ

なし

解説

PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2）の場合で，かつ正常または警告でメソッドが戻ったときだけ蓄積ファイルのジョブ ID の一覧を取得できます。取得した情報は，ActiveX 起動部品がメモリから解放されるか，または PrintPMReport メソッドが次に呼び出されるまで有効になります。

メソッド実行時にエラーが発生した場合，Err.Number プロパティに終了コード，Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

また，蓄積を中断する警告が発生した場合，戻り値の配列の最後に「Error」が設定されます。

戻り値

直前に蓄積した蓄積ファイルのジョブ ID の一覧を，次に示す形式で返します。

＜正常時＞

```
ジョブID1
ジョブID2
   :
ジョブIDn

＜警告（KEEY387-W）発生時＞
ジョブID1
ジョブID2
Error
```

データ型

String 配列

GetPMPrinterClassList メソッド

印刷管理サーバのプリンタクラスの一覧を取得します。

形式

GetPMPrinterClassList ()

パラメタ

なし

解説

GetPMPrinterClassList メソッドは，指定した印刷管理サーバの EUR Print Manager に登録されたプリンタクラスの一覧を取得します。

取得できる情報は，定義されたプリンタクラス情報です。印刷管理サーバでのプリンタの稼働状況は取得できません。

メソッド実行時にエラーが発生した場合は，Err.Number プロパティに終了コード，Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

印刷管理サーバのプリンタクラスの一覧を，次に示す形式で返します。

```
＜２次元配列イメージ：ｎ行４列＞
プリンタクラス名1,OS上のプリンタ名1,OS上のプリンタのトレイ名1,説明1
プリンタクラス名2,OS上のプリンタ名2,OS上のプリンタのトレイ名2,説明2
                              :
プリンタクラス名n,OS上のプリンタ名n,OS上のプリンタのトレイ名n,説明ｎ
```

データ型

String の２次元配列

呼び出し例

GetPMPrinterClassList メソッドの呼び出し例を次に示します。

```
'GetPMPrinterClassList実行
Private Sub SUB_ GetPMPrinterClassList ()

    Dim objEURPM, wk_Return
    Dim iLower, iUpper, I
    Dim jLower, jUpper, J
    Dim sEntry  As String

    Set objEURPM = CreateObject("EURPM.Exec")

    Me.Refresh

    Err.Clear
    On Error Resume Next
    wk_Return = objEURPM.GetPMPrinterClassList()
    List5.AddItem "Err.Number=(" & Err.Number & ")"
    List5.AddItem "Err.Description=(" & Err.Description & ")"

    If Err.Number = 0 Then
        List5.AddItem ""
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココカラ ★★★★★"
        iLower = LBound(wk_Return, 1)
        iUpper = UBound(wk_Return, 1)
        jLower = LBound(wk_Return, 2)
        jUpper = UBound(wk_Return, 2)
        For I = iLower To iUpper
            sEntry = ""
            For J = jLower To jUpper
                If J > 0 Then
                    sEntry = sEntry + ","
                End If
                sEntry = sEntry + wk_Return(I, J)
            Next
            List5.AddItem sEntry
        Next
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココマデ ★★★★★"
    End If

    Set objEURPM = Nothing

End Sub
```

GetPMPrinterList メソッド

印刷管理サーバに登録された OS 上のプリンタ一覧を取得します。

形式

GetPMPrinterList()

パラメタ

なし

解説

GetPMPrinterList メソッドは，指定した印刷管理サーバの EUR Print Manager に登録された OS 上のプリンタの一覧を取得します。EUR Print Manager が稼働中でない場合，エラーとなります。

印刷管理サーバが UNIX/Linux 環境の場合は使用できません。

メソッド実行時にエラーが発生した場合は，Err.Number プロパティに終了コード，Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

OS 上のプリンタ一覧を，次に示す形式で返します。

＜配列イメージ＞
OS上のプリンタ名1
OS上のプリンタ名2
　：
OS上のプリンタ名n

データ型

String 配列

呼び出し例

GetPMPrinterList メソッドの呼び出し例を次に示します。

```
'GetPMPrinterList実行
Private Sub SUB_ GetPMPrinterList()

    Dim objEURPM, wk_Return
    Dim iLower, iUpper, I
    Dim sEntry  As String

    Set objEURPM = CreateObject("EURPM.Exec")

    Me.Refresh

    Err.Clear
    On Error Resume Next
    wk_Return = objEURPM.GetPMPrinterList()
    List5.AddItem "Err.Number=(" & Err.Number & ")"
    List5.AddItem "Err.Description=(" & Err.Description & ")"

    If Err.Number = 0 Then
        List5.AddItem ""
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココカラ ★★★★★"
```

```
        iLower = LBound(wk_Return, 1)
        iUpper = UBound(wk_Return, 1)
        For I = iLower To iUpper
            List5.AddItem wk_Return(I)
        Next
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココマデ ★★★★★"
    End If

    Set objEURPM = Nothing

End Sub
```

GetPMTrayList メソッド

印刷管理サーバ上のプリンタを指定し，その OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。

形式

GetPMTrayList(String PrinterName)

パラメタ

PrinterName

OS 上のプリンタ名

解説

GetPMTrayList メソッドは，指定した印刷管理サーバの EUR Print Manager に登録された OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。EUR Print Manager が稼働中でない場合，エラーとなります。

印刷管理サーバが UNIX/Linux 環境の場合は使用できません。

メソッド実行時にエラーが発生した場合は，Err.Number プロパティに終了コード，Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

指定した印刷管理サーバ上のプリンタのトレイ一覧を，次に示す形式で返します。

＜配列イメージ＞
OS上のプリンタのトレイ名1
OS上のプリンタのトレイ名2
　：
OS上のプリンタのトレイ名n

データ型

String 配列

呼び出し例

GetPMTrayList メソッドの呼び出し例を次に示します。

```
' GetPMTrayList実行
Private Sub SUB_ GetPMTrayList()

    Dim objEURPM, wk_Return
    Dim iLower, iUpper, I
    Dim sEntry  As String

    Set objEURPM = CreateObject("EURPM.Exec")

    Me.Refresh

    Err.Clear
    On Error Resume Next
    wk_Return = objEURPM. GetPMTrayList("PRINTER1")
    List5.AddItem "Err.Number=(" & Err.Number & ")"
    List5.AddItem "Err.Description=(" & Err.Description & ")"

    If Err.Number = 0 Then
        List5.AddItem ""
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココカラ ★★★★★"
        iLower = LBound(wk_Return, 1)
        iUpper = UBound(wk_Return, 1)
        For I = iLower To iUpper
            List5.AddItem wk_Return(I)
        Next
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココマデ ★★★★★"
    End If

    Set objEURPM = Nothing

End Sub
```

GetPreviewAXClassID メソッド

EURPMPreViewAX.ocx のクラス ID を取得します。

形式

GetPreviewAXClassID()

パラメタ

なし

解説

このメソッドを使用する場合は，EUR Print Manager - Adapter が稼働するマシンに ActiveX クライアント情報ファイル（EURPMPrintAX.inf）を配置する必要があります。ActiveX クライアント情報ファイルの配置方法については，「15.7.1　ActiveX クライア

ント情報ファイルの配置」を参照してください。

クラス ID は，次のように決定されます。

1. EUR Print Manager - Client Preview ActiveX をサーバ配置インストールしたときの，ActiveX クライアント情報ファイル（EURPMPreViewAX.inf）に指定されているクラス ID を取得します。
2. 1. が取得できなかった場合は，EUR Print Manager - Adapter に配置された ActiveX クライアント情報ファイル（EURPMPreViewAX.inf）に指定されているクラス ID を取得します。
3. 2. が取得できなかった場合は，D07DA8D2-3459-488E-860E-DD47A71C39D2 を返します。

メソッド実行時にエラーが発生した場合，Err.Number プロパティに終了コード，Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

EURPMPreViewAX.ocx のクラス ID

データ型

String

GetPreviewAXVersion メソッド

EURPMPreViewAX.ocx のバージョンを取得します。

形式

GetPreviewAXVersion()

パラメタ

なし

解説

このメソッドを使用する場合は，EUR Print Manager - Adapter が稼働するマシンに ActiveX クライアント情報ファイル（EURPMPrintAX.inf）を配置する必要があります。ActiveX クライアント情報ファイルの配置方法については，「15.7.1　ActiveX クライアント情報ファイルの配置」を参照してください。

バージョンは，次のように決定されます。

1. EUR Print Manager - Client Preview ActiveX をサーバ配置インストールしたときの，ActiveX クライアント情報ファイル（EURPMPreViewAX.inf）に指定されている

バージョン値を取得します。
2. 1. が取得できなかった場合は，EUR Print Manager - Adapter に配置された ActiveX クライアント情報ファイル（EURPMPreViewAX.inf）に指定されているバージョン値を取得します。
3. 2. が取得できなかった場合は，99,99,99,99 を返します。

メソッド実行時にエラーが発生した場合，Err.Number プロパティに終了コード，Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

EURPMPreViewAX.ocx のバージョン値

データ型

String

GetPrintAXClassID メソッド

EURPMPrintAX.ocx のクラス ID を取得します。

形式

GetPrintAXClassID()

パラメタ

なし

解説

このメソッドを使用する場合は，EUR Print Manager - Adapter が稼働するマシンに ActiveX クライアント情報ファイル（EURPMPrintAX.inf）を配置する必要があります。ActiveX クライアント情報ファイルの配置方法については，「15.7.1　ActiveX クライアント情報ファイルの配置」を参照してください。

クラス ID は，次のように決定されます。

1. EUR Print Manager - Client Preview ActiveX をサーバ配置インストールしたときの，ActiveX クライアント情報ファイル（EURPMPrintAX.inf）に指定されているクラス ID を取得します。
2. 1. が取得できなかった場合は，EUR Print Manager - Adapter に配置された ActiveX クライアント情報ファイル（EURPMPrintAX.inf）に指定されているクラス ID を取得します。
3. 2. が取得できなかった場合は，368EE1C4-5A52-4C2E-A4C0-27C46B946A2C を返します。

メソッド実行時にエラーが発生した場合，Err.Number プロパティに終了コード，Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

EURPMPrintAX.ocx のクラス ID

データ型

String

GetPrintAXVersion メソッド

EURPMPrintAX.ocx のバージョンを取得します。

形式

GetPrintAXVersion()

パラメタ

なし

解説

このメソッドを使用する場合は，EUR Print Manager - Adapter が稼働するマシンに ActiveX クライアント情報ファイル（EURPMPrintAX.inf）を配置する必要があります。ActiveX クライアント情報ファイルの配置方法については，「15.7.1　ActiveX クライアント情報ファイルの配置」を参照してください。

バージョンは，次のように決定されます。

1. EUR Print Manager - Client ActiveX をサーバ配置インストールしたときの，ActiveX クライアント情報ファイル（EURPMPrintAX.inf）に指定されているバージョン値を取得します。
2. 1. が取得できなかった場合は，EUR Print Manager - Adapter に配置された ActiveX クライアント情報ファイル（EURPMPrintAX.inf）に指定されているバージョン値を取得します。
3. 2. が取得できなかった場合は，99,99,99,99 を返します。

ActiveX クライアント情報ファイル（EURPMPrintAX.inf）に指定されたバージョン値を取得します。取得できなかった場合は，99,99,99,99 を返します。

メソッド実行時にエラーが発生した場合，Err.Number プロパティに終了コード，Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

EURPMPrintAX.ocx のバージョン値

データ型

String

GetPrinterClassList メソッド

指定した出力先の拠点プリンタクラスの一覧を取得します。

形式

GetPrinterClassList(String DestinationName)

パラメタ

DestinationName

出力先名

解説

GetPrinterClassList メソッドは，指定した出力先の EUR Print Manager - Report Server に登録されたプリンタクラスの一覧を取得します。出力先を指定していない場合は，デフォルトの出力先として登録された拠点サーバのプリンタクラスの一覧を取得します。EUR Print Manager - Report Server が稼働中でない場合，エラーとなります。

取得できる情報は，定義された拠点プリンタクラス情報です。拠点サーバでのプリンタの稼働状況は取得できません。

メソッド実行時にエラーが発生した場合，Err.Number プロパティに終了コード，Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

UNIX/Linux 環境の場合，拠点プリンタクラス一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Print Manager - Report Server に対して，拠点プリンタクラス一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

戻り値

プリンタクラスの一覧を次に示す形式で返します。

```
プリンタクラス名1,OS上のプリンタ名1,OS上のプリンタのトレイ名1,説明1
プリンタクラス名2,OS上のプリンタ名2,OS上のプリンタのトレイ名2,説明2
                              :
プリンタクラス名n,OS上のプリンタ名n,OS上のプリンタのトレイ名n,説明n
```

データ型

String の 2 次元配列

呼び出し例

GetPrinterClassList メソッドの呼び出し例を次に示します。

```
'GetPrinterClassList実行
Private Sub SUB_GetPrinterClassList()

    Dim objEURPM, wk_Return
    Dim iLower, iUpper, I
    Dim jLower, jUpper, J
    Dim sEntry  As String

    Set objEURPM = CreateObject("EURPM.Exec")

    Me.Refresh

    Err.Clear
    On Error Resume Next
    wk_Return = objEURPM.GetPrinterClassList("SERVER1")
    List5.AddItem "Err.Number=(" & Err.Number & ")"
    List5.AddItem "Err.Description=(" & Err.Description & ")"

    If Err.Number = 0 Then
        List5.AddItem ""
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココカラ ★★★★★"
        iLower = LBound(wk_Return, 1)
        iUpper = UBound(wk_Return, 1)
        jLower = LBound(wk_Return, 2)
        jUpper = UBound(wk_Return, 2)
        For I = iLower To iUpper
            sEntry = ""
            For J = jLower To jUpper
                If J > 0 Then
                    sEntry = sEntry + ","
                End If
                sEntry = sEntry + wk_Return(I, J)
            Next
            List5.AddItem sEntry
        Next
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココマデ ★★★★★"
    End If

    Set objEURPM = Nothing

End Sub
```

GetPrinterList メソッド

指定した出力先の拠点サーバに登録された OS 上のプリンタ一覧を取得します。

形式

GetPrinterList(String DestinationName)

パラメタ

DestinationName

出力先名

解説

GetPrinterList メソッドは，指定した出力先の EUR Print Manager - Report Server に登録された OS 上のプリンタの一覧を取得します。出力先を指定していない場合は，デフォルトの出力先として登録された拠点サーバの OS 上のプリンタ一覧を取得します。EUR Print Manager - Report Server が稼働中でない場合，エラーとなります。

取得できる情報は，定義されたプリンタ情報です。拠点サーバでのプリンタの稼働状況は取得できません。

メソッド実行時にエラーが発生した場合，Err.Number プロパティに終了コード，Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

UNIX/Linux 環境の場合，プリンタ一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Print Manager - Report Server に対して，プリンタ一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

戻り値

OS 上のプリンタの一覧を次に示す形式で返します。

```
OS上のプリンタ名1
OS上のプリンタ名2
        :
OS上のプリンタ名n
```

データ型

String 配列

呼び出し例

```
'GetPrinterList実行
Private Sub SUB_GetPrinterList()

    Dim objEURPM, wk_Return
    Dim iLower, iUpper, I
    Dim sEntry  As String

    Set objEURPM = CreateObject("EURPM.Exec")
```

```
    Me.Refresh

    Err.Clear
    On Error Resume Next
    wk_Return = objEURPM.GetPrinterList("SERVER1")
    List5.AddItem "Err.Number=(" & Err.Number & ")"
    List5.AddItem "Err.Description=(" & Err.Description & ")"

    If Err.Number = 0 Then
        List5.AddItem ""
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココカラ ★★★★★"
        iLower = LBound(wk_Return, 1)
        iUpper = UBound(wk_Return, 1)
        For I = iLower To iUpper
            List5.AddItem wk_Return(I)
        Next
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココマデ ★★★★★"
    End If

    Set objEURPM = Nothing

End Sub
```

GetTrayList メソッド

出力先と OS 上のプリンタを指定し，その OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。

形式

GetTrayList(String DestinationName, String PrinterName)

パラメタ

DestinationName

出力先名

PrinterName

OS 上のプリンタ名

解説

GetTrayList メソッドは，指定した出力先の EUR Print Manager - Report Server に登録された OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。出力先を指定していない場合は，デフォルトの出力先として登録された拠点サーバの OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。EUR Print Manager - Report Server が稼働中でない場合，エラーとなります。

取得できる情報は，定義されたプリンタのトレイ情報です。拠点サーバでのプリンタのトレイ稼働状況は取得できません。

メソッド実行時にエラーが発生した場合，Err.Number プロパティに終了コード，Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

UNIX/Linux 環境の場合，トレイ一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Print Manager - Report Server に対して，トレイ一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

戻り値

OS 上のプリンタのトレイ一覧を次に示す形式で返します。

```
OS上のプリンタのトレイ名1
OS上のプリンタのトレイ名2
        :
OS上のプリンタのトレイ名n
```

データ型

String 配列

呼び出し例

```
'GetTrayList実行
Private Sub SUB_GetTrayList()

    Dim objEURPM, wk_Return
    Dim iLower, iUpper, I
    Dim sEntry  As String

    Set objEURPM = CreateObject("EURPM.Exec")

    Me.Refresh

    Err.Clear
    On Error Resume Next
    wk_Return = objEURPM.GetPrinterList("SERVER1", "PRINTER1")
    List5.AddItem "Err.Number=(" & Err.Number & ")"
    List5.AddItem "Err.Description=(" & Err.Description & ")"

    If Err.Number = 0 Then
        List5.AddItem ""
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココカラ ★★★★★"
        iLower = LBound(wk_Return, 1)
        iUpper = UBound(wk_Return, 1)
        For I = iLower To iUpper
            List5.AddItem wk_Return(I)
        Next
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココマデ ★★★★★"
    End If

    Set objEURPM = Nothing

End Sub
```

OutputEPFReport メソッド

プロパティで指定した帳票名およびデータファイルに従って，EPF 形式ファイルを出力します。指定したファイルがすでにある場合は，上書きされます。

形式

OutputEPFReport()

パラメタ

なし

解説

OutputEPFReport メソッドは，EUR Print Manager - Adapter が稼働するマシンに EPF 形式ファイルを出力します。出力する EPF 形式ファイルは，EPFFilePath プロパティおよび EPFFileName プロパティで指定します。

OutputEPFReport メソッドが終了すると，それまでに設定したプロパティはすべてリセットされます。

メソッド実行時にエラーが発生した場合，Err.Number プロパティに終了コード，Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

なし

データ型

Empty

OutputEURReport メソッド

プロパティで指定した帳票名およびデータファイルに従って，EUR 形式ファイルを出力します。指定したファイルがすでにある場合は，上書きされます。

形式

OutputEURReport()

パラメタ

なし

解説

OutputEURReport メソッドは，EUR Print Manager - Adapter が稼働するマシンに EUR 形式ファイルを出力します。出力する EUR 形式ファイルは，EURFilePath プロパティおよび EURFileName プロパティで指定します。

OutputEURReport メソッドが終了すると，それまでに設定したプロパティはすべてリセットされます。

メソッド実行時にエラーが発生した場合，Err.Number プロパティに終了コード，Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

なし

データ型

Empty

OutputMergeEPFReport メソッド

プロパティで指定した複数の EPF 形式ファイルを統合して出力します。指定したファイルがすでにある場合は，上書きされます。

形式

OutputMergeEPFReport()

パラメタ

なし

解説

OutputMergeEPFReport メソッドは，EUR Print Manager - Adapter が稼働するマシンに複数の EPF 形式ファイルを統合して出力します。統合対象の EPF 形式ファイルは，MergeEPFFilePath プロパティおよび MergeEPFFileName プロパティで指定します。また，出力する EPF 形式ファイルは，EPFFilePath プロパティおよび EPFFileName プロパティで指定します。

OutputMergeEPFReport メソッドが終了すると，それまでに設定したプロパティはすべてリセットされます。

メソッド実行時にエラーが発生した場合，Err.Number プロパティに終了コード，Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

なし

データ型

Empty

OutputPDFReport メソッド

プロパティで指定した帳票名およびデータファイルに従って，PDF 形式ファイルを出力します。指定したファイルがすでにある場合は，上書きされます。

形式

OutputPDFReport()

パラメタ

なし

解説

OutputPDFReport メソッドは，EUR Print Manager が稼働するマシンまたは EUR Print Manager - Adapter が稼働するマシンに PDF 形式ファイルを出力します。PDF 形式ファイルの出力先は，FileOutputDestination プロパティ，PDFFilePath プロパティ，および PDFFileName プロパティで指定します。

ただし，PDF 仕分け定義ファイル（DistributeFileName プロパティ）が指定されている場合は，PDF 仕分け定義ファイルに記述されている出力先ファイル名に従って，EUR Print Manager が稼働するマシンに PDF 形式ファイルを出力します。

OutputPDFReport メソッドが終了すると，それまでに設定したプロパティはすべてリセットされます。

メソッド実行時にエラーが発生した場合，Err.Number プロパティに終了コード，Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

なし

データ型

Empty

OutputXLSXReport メソッド

プロパティで指定した帳票名およびデータファイルに従って，Excel 形式ファイルを出力します。指定したファイルがすでにある場合は，上書きされます。

形式

OutputXLSXReport()

パラメタ

なし

解説

OutputXLSXReport メソッドは，EUR Print Manager - Adapter が稼働するマシンに Excel 形式ファイルを出力します。出力する Excel 形式ファイルは，XLSXFilePath プロパティおよび XLSXFileName プロパティで指定します。

OutputXLSXReport メソッドが終了すると，それまでに設定したプロパティはすべてリセットされます。

メソッド実行時にエラーが発生した場合，Err.Number プロパティに終了コード，Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

なし

データ型

Empty

PrintPMReport メソッド

プロパティで指定した帳票名およびデータファイルで帳票を印刷したり，印刷データを蓄積したりします。

形式

PrintPMReport()

パラメタ

なし

解説

PrintPMReport メソッドは，次の場合に呼び出し元に制御が戻ります。

- 拠点サーバでの印刷の場合
  拠点サーバ上のプリンタスプールへの出力が終了した時点
- クライアント PC での印刷の場合
  クライアント PC への配信が完了した時点
- 蓄積の場合
  蓄積先のサーバに印刷データの蓄積が完了した時点
- 印刷管理サーバ直接印刷の場合
  印刷管理サーバ上のプリンタスプールへの出力が完了した時点
- クライアント配布印刷
  クライアント PC への配信が完了した時点

PrintPMReport メソッドが終了すると，それまでに設定したプロパティはすべてリセットされます。

PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2）の場合は，正常または警告でメソッドが戻ったときだけ蓄積ファイルに対応するジョブ ID を GetJobID メソッドで取得できます。取得した情報は，ActiveX 起動部品がメモリから解放されるか，または PrintPMReport メソッドが次に呼び出されるまで有効になります。

PrintPMReport メソッド実行時にエラーが発生した場合，Err.Number プロパティに終了コード，Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

UNIX/Linux 環境の場合，拠点サーバでの印刷はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Print Manager - Report Server に対して，印刷を実行した場合はエラーとなります。

戻り値

なし

データ型

Empty

9.4 ActiveX 起動部品のプロパティ仕様

ActiveX 起動部品が提供するプロパティの詳細を説明します。

BookmarkFileName プロパティ

しおり定義ファイル名を指定します。

解説

- BookmarkFileName プロパティには，ReportFileName プロパティで指定した帳票ファイルに対応するしおり定義ファイルを指定します。指定するファイル名は，ReportFileName プロパティで指定したファイル名と同じ数を指定してください。
- しおり定義ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- BookmarkFileName プロパティは，OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。OutputPDFReport メソッド以外の場合は，BookmarkFileName プロパティを指定しても無視されます。
- しおり定義ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

データ型

- String（一つの帳票セットを指定する場合）
- String 配列（複数の帳票セットを指定する場合）

指定例

複数の帳票セットを指定する場合，一部の帳票に対してしおり定義ファイルの指定を省略したいときは，配列の要素に空文字を指定してください。

2 番目の帳票のしおり定義ファイルの指定を省略する場合の例を次に示します。

```
' 帳票ファイル名を配列fmsに指定
fms(0)="Sample1.fms"
fms(1)="Sample2.fms"
fms(2)="Sample3.fms"
' しおり定義ファイル名を配列bokに指定
bok(0)="Book1.csv"
bok(1)=""
bok(2)="Book3.csv"
```

BookmarkFilePath プロパティ

DocBookmarkFileName プロパティで指定した文書しおり定義ファイルのパス，または BookmarkFileName プロパティで指定したしおり定義ファイルのパスを指定します。

解説

- 指定されたファイルのパスは，DocBookmarkFileName プロパティで指定する文書しおり定義ファイルと，BookmarkFileName プロパティで指定するしおり定義ファイルのデフォルトの場所になります。
- ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- BookmarkFilePath プロパティは，OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。OutputPDFReport メソッド以外の場合は，BookmarkFilePath プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

ClientAddress プロパティ

印刷を実行するクライアント PC の IP アドレス，または蓄積クライアント印刷実行を要求するクライアント PC の IP アドレスを指定します。

解説

- 次に示す場合以外は，ClientAddress プロパティを指定しても無視されます。
  - PrintPMReport メソッドで印刷方式がクライアント印刷方式（PrintMode=1）の場合は，必ず ClientAddress プロパティを指定してください。
  - PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2）の場合，ClientAddress プロパティの指定は任意です。
  - PrintPMReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（PrintMode=3）の場合は，ClientAddress プロパティを指定しても無視されます。
- 印刷を実行するクライアント PC の IP アドレスを指定します。サーバアプリケーションから次のような API を使用すると，Web クライアントの要求元を取得できます。指定方法などについては，各 API のアプリケーションサーバの仕様を確認してください。

  ASP の場合

  ```
  Request.ServerVariables("REMOTE_ADDR")
  ```

  JSP の場合

  ```
  request.getRemoteAddr()
  ```

データ型

String

ClientPrinterName プロパティ

クライアント PC のプリンタ名を OS 上のプリンタ名で指定します。

解説

- クライアント PC のプリンタ名を OS 上のプリンタ名で指定します。
  ClientPrinterName プロパティを指定した場合，対話型印刷は使用できません。
- プリンタ名を指定するときの注意
  プリンタ名は，次のことに注意して指定してください。
  - プリンタ名は，80 バイト以内で指定してください。
  - プリンタ名には「"」および「,」を含めないでください。
- ClientPrinterName プロパティが指定されると，DispPrintDlg プロパティは強制的に「1（ダイアログを表示しません）」を仮定します。
- ClientPrinterName プロパティと PrinterClassName プロパティでは，ClientPrinterName プロパティの指定を優先します。
- ClientPrinterName プロパティは，PrintPMReport メソッドで印刷方式がクライアント印刷方式（PrintMode=1）の場合，および PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2）の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は，ClientPrinterName プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

ClientTrayName プロパティ

クライアントプリンタのトレイ名を指定します。クライアントプリンタは，OS 上のプリンタを指します。

解説

- トレイ名を指定するときの注意
  トレイ名は，次のことに注意して指定してください。
  - トレイ名は，80 バイト以内で指定してください。
  - トレイ名には「"」および「,」を含めないでください。
- ClientTrayName プロパティを指定する場合は，ClientPrinterName プロパティを必ず指定してください。
  ClientTrayName プロパティに指定したトレイ名が，ClientPrinterName プロパティで指定したプリンタで使用できない場合は，ClientPrinterName プロパティで指定したプリンタのデフォルトのトレイから給紙されます。
- ClientTrayName プロパティを指定しない場合は，ClientPrinterName プロパティで指定したプリンタのデフォルトのトレイから給紙されます。

- ClientTrayName プロパティは，PrintPMReport メソッドで印刷方式がクライアント印刷方式（PrintMode=1）の場合，および PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2）の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は，ClientTrayName プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

Crypto プロパティ

PDF 形式ファイルを暗号化して出力するかどうかを指定します。

解説

指定できる値を次に示します。

- True：PDF 形式ファイルを暗号化します。
- False：PDF 形式ファイルを暗号化しません。

Crypto プロパティを省略した場合，False が仮定されます。

Crypto プロパティは，OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。OutputPDFReport メソッド以外の場合は，Crypto プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Boolean

CryptoFileName プロパティ

暗号化設定ファイル名を指定します。

解説

- 暗号化設定ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- CryptoFileName プロパティは，OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。OutputPDFReport メソッド以外の場合は，CryptoFileName プロパティを指定しても無視されます。
- 暗号化設定ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

データ型

String

CryptoFilePath プロパティ

CryptoFileName プロパティで指定した暗号化設定ファイルのパスを指定します。

解説

- 暗号化設定ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- CryptoFilePath プロパティは，OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。OutputPDFReport メソッド以外の場合は，CryptoFilePath プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

DataFileName プロパティ

マッピングデータファイル名または可変記号値定義ファイル名を指定します。

解説

- 指定するファイル名は，ReportFileName プロパティで指定したファイル名と同じ数を指定してください。
- ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- マッピングデータファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

データ型

- String（一つの帳票セットを指定する場合）
- String 配列（複数の帳票セットを指定する場合）

指定例

複数の帳票セットを指定する場合，一部の帳票に対してマッピングデータファイル（または可変記号値定義ファイル）の指定を省略したいときは，配列の要素に空文字を指定してください。

2 番目の帳票のマッピングデータファイルの指定を省略する場合の例を次に示します。

```
' 帳票ファイル名を配列fmsに指定
fms(0)="Sample1.fms"
```

```
fms(1)="Sample2.fms"
fms(2)="Sample3.fms"
' マッピングデータファイル名を配列mapに指定
map(0)="Data1.csv"
map(1)=""
map(2)="Data3.csv"
```

DataFilePath プロパティ

DataFileName プロパティまたは帳票セット指定ファイルで指定したマッピングデータファイルのパス，もしくは可変記号値定義ファイルのパスを指定します。

解説

- 指定されたファイルのパスは，DataFileName プロパティで指定したファイルのパスとなります。
- ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

データ型

String

DBInfoFileName プロパティ

接続情報ファイル名を指定します。

解説

- EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で，OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，接続情報ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。
  OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。
  パスは，DBInfoFilePath プロパティに指定することもできます。DBInfoFilePath プロパティにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。
  - フルパスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DBINFO キーには指定が要りません。
  - 相対パスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DBINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
  - ファイル名だけを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

- 接続情報ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 接続情報ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

データ型

String

DBInfoFilePath プロパティ

DBInfoFileName プロパティで指定した接続情報ファイルのパスを指定します。

解説

- 接続情報ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

データ型

String

DestinationName プロパティ

出力先名を指定します。

解説

- 出力先名を指定するときの注意
  出力先名は，任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
  - 出力先名は，80 バイト以内で指定してください。
  - 出力先名には「"」および「,」を含めないでください。
- 次に示すどちらかの指定がある場合，DestinationName プロパティは有効になります。それ以外の場合は，DestinationName プロパティを指定しても無視されます。
  - PrintPMReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（PrintMode=3），かつ拠点サーバ指定方式が出力先名指定（ServerSelectMode=0）のとき
  - PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2），かつ拠点サーバ指定方式が出力先名指定（ServerSelectMode=0）のとき

データ型

String

DispPrintDlg プロパティ

クライアント PC で印刷する場合，ダイアログの表示モードを選択します。

解説

- 指定できる値と印刷時の動作を次に示します。
  - 0：印刷先指定ダイアログを表示します（対話型印刷）。
    プレビューボタンを選択すると，プレビューウィンドウが表示されます。
  - 1：直接印刷を実行します（自動印刷）。
    印刷実行中に印刷中のダイアログが表示されます。
  - 2：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示）。
    印刷メニューまたは印刷ボタンを選択すると，印刷先指定ダイアログが表示されます。
  - 3：直接印刷を実行します（全自動印刷）。
    印刷実行中に印刷中のダイアログは表示されません。
  - 4：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示限定）。
    印刷は実行できません。
- DispPrintDlg プロパティを省略した場合，EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）で OPTION セクションの DISPPRINTDLG キーの設定値（0 ～ 4）が仮定されます。環境設定ファイル DISPPRINTDLG キーおよび DispPrintDlg プロパティとも省略した場合，0 が仮定されます。ClientPrinterName プロパティを指定した場合は，かつ DispPrintDlg プロパティに 0 または 2 を指定した場合は，1 が仮定されます。
- DispPrintDlg プロパティは，PrintPMReport メソッドで印刷方式がクライアント印刷方式（PrintMode=1）の場合，および PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2）の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は，DispPrintDlg プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

DistributeFileName プロパティ

PDF 仕分け定義ファイル名を指定します。

解説

- PDF 仕分け定義ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- DistributeFileName プロパティは，OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。OutputPDFReport メソッドで PDF 形式

ファイルを出力する場合は，PDFFileName プロパティ，または DistributeFileName プロパティのどちらかは，必ず指定してください。PDFFileName プロパティと DistributeFileName プロパティを同時に指定した場合は，PDFFileName プロパティの指定は無視されます。OutputPDFReport メソッド以外の場合は，DistributeFileName プロパティを指定しても無視されます。

- PDF 仕分け定義ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

データ型

String

DistributeFilePath プロパティ

DistributeFileName プロパティで指定した PDF 仕分け定義ファイルのパスを指定します。

解説

- 指定されたファイルのパスは，DistributeFileName プロパティで指定する仕分け定義ファイルのデフォルトの場所になります。
- PDF 仕分け定義ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- DistributeFilePath プロパティは，OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。OutputPDFReport メソッド以外の場合は，DistributeFilePath プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

DistributionInfoFile プロパティ

仕分け定義情報ファイル名を指定します。

解説

- 仕分け定義情報ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- DistributionInfoFile プロパティは，PrintPMReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（PrintMode=3）かつ印刷モードが EUR 形式ファイル印刷モード（PrintKind=1）の場合，および PrintPMReport メソッドで印刷方式が印刷管理サーバ直接印刷方式（PrintMode=4）の場合に指定が有効になります。それ以外の場合

は，DistributionInfoFile プロパティを指定しても無視されます。
- UNIX/Linux 環境では指定できません。
- 仕分け定義情報ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

データ型

String

DistributionInfoFilePath プロパティ

DistributionInfoFile プロパティで指定した仕分け定義情報ファイルのパスを指定します。

解説

- 指定されたファイルのパスは，DistributionInfoFile プロパティで指定する仕分け定義情報ファイルのデフォルトの場所になります。
- 仕分け定義情報ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- DistributionInfoFilePath プロパティは，PrintPMReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（PrintMode=3）かつ印刷モードが EUR 形式ファイル印刷モード（PrintKind=1）の場合，および PrintPMReport メソッドで印刷方式が印刷管理サーバ直接印刷方式（PrintMode=4）の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は，DistributionInfoFilePath プロパティを指定しても無視されます。
- UNIX/Linux 環境では指定できません。

データ型

String

DocBookmarkFileName プロパティ

文書しおり定義ファイル名を指定します。

解説

- 文書しおり定義ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- DocBookmarkFileName プロパティは，OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。OutputPDFReport メソッド以外の場合は，DocBookmarkFileName プロパティを指定しても無視されます。
- 文書しおり定義ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

データ型

String

DocInfoFileName プロパティ

文書情報設定ファイル名を指定します。

解説

- EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で，OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，文書情報設定ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。
  OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。
  パスは，DocInfoFilePath プロパティに指定することもできます。DocInfoFilePath プロパティにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。
  - フルパスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DOCINFO キーには指定が要りません。
  - 相対パスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DOCINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
  - ファイル名だけを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- 文書情報設定ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 文書情報設定ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

データ型

String

DocInfoFilePath プロパティ

DocInfoFileName プロパティで指定した文書情報設定ファイルのパスを指定します。

解説

- 文書情報設定ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

データ型

String

EnableGet プロパティ

蓄積ファイルの取得可否を指定します。

解説

指定できる値を次に示します。

- True：蓄積ファイルを取得できます。
- False：蓄積ファイルを取得できません。

EnableGet プロパティを指定しない場合は，True が仮定されます。

EnableGet プロパティは，PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2）の場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，EnableGet プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Boolean

EncryptionPasswordKey プロパティ

オーナーパスワードとユーザーパスワードを暗号化した暗号化設定ファイルを使用して，暗号化した PDF 形式ファイルを出力するときにパスワード暗号化鍵を指定します。

解説

パスワード暗号化鍵に指定できる文字は，次のとおりです。

- 半角数字
  0 ～ 9
- 半角英字
  A ～ Z，a ～ z

指定できるパスワード暗号化鍵の長さは，32 バイトまでです。

EncryptionPasswordKey プロパティは，OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。OutputPDFReport メソッド以外の場合は，EncryptionPasswordKey プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

EPFFileName プロパティ

入力または出力する EPF 形式ファイル名を指定します。

解説

- OutputEPFReport メソッドまたは OutputMergeEPFReport メソッドで EPF 形式ファイルを出力する場合や，PrintPMReport メソッドでクライアント PC への配布印刷をする場合は，EPFFileName プロパティを必ず指定してください。
  OutputEPFReport メソッド，OutputMergeEPFReport メソッド，および PrintPMReport メソッド以外の場合は，EPFFileName プロパティを指定しても無視されます。
- EPF 形式ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- EPF 形式ファイルの拡張子は，*.epf です。EPF 形式ファイル名は，拡張子を含めて指定してください。ただし，出力した EPF 形式ファイルを使用してヘルパクライアント印刷するときは，次に示す拡張子で EPF 形式ファイル名を指定してください。
  - EPF 形式ファイルをプレビューする場合：*.epf
  - EPF 形式ファイルをプリンタ印刷する場合：*.epp

データ型

String

EPFFilePath プロパティ

EPFFileName プロパティで指定した EPF 形式ファイルのパスを指定します。

解説

- 指定されたファイルのパスは，EPFFileName プロパティで指定する EPF 形式ファイルのデフォルトの場所になります。
- EPFFilePath プロパティは，OutputEPFReport メソッドまたは OutputMergeEPFReport メソッドで EPF 形式ファイルを出力する場合や，PrintPMReport メソッドでクライアント PC への配布印刷をする場合に指定が有効になります。OutputEPFReport メソッド，OutputMergeEPFReport メソッド，および PrintPMReport メソッド以外の場合は，EPFFilePath プロパティを指定しても無視されます。
- パスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

データ型

String

EURFileName プロパティ

出力する EUR 形式ファイル名を指定します。

解説

- OutputEURReport メソッドで EUR 形式ファイルを出力する場合は，EURFileName プロパティを必ず指定してください。OutputEURReport メソッド以外の場合は，EURFileName プロパティを指定しても無視されます。
- EUR 形式ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

データ型

String

EURFilePath プロパティ

EURFileName プロパティで指定した EUR 形式ファイルのパスを指定します。

解説

- 指定されたファイルのパスは，EURFileName プロパティで指定する EUR 形式ファイルのデフォルトの場所になります。
- EURFilePath プロパティは，OutputEURReport メソッドで EUR 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。OutputEURReport メソッド以外の場合は，EURFilePath プロパティを指定しても無視されます。
- パスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

データ型

String

ExecutablePrintMode プロパティ

実行可能印刷方式を指定します。

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：拠点サーバでの印刷
- 1：拠点サーバでの印刷，またはクライアント PC での印刷
- 2：クライアント PC での印刷

0，1，および 2 以外の値を指定した場合は，1 が仮定されます。

ExecutablePrintMode プロパティは，PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2）の場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，ExecutablePrintMode プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

FileOutputDestination プロパティ

PDF 形式ファイルの出力先を，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンにするか，または EUR Print Manager 稼働マシンにするかのどちらかを指定します。

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに出力します。
- 1：EUR Print Manager 稼働マシンに出力します。

FileOutputDestination プロパティを省略した場合は，EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）の OPTION セクションの FILEOUTPUTDESTINATION キーが仮定されます。

また，0，1 以外の値を指定した場合は，0 が仮定されます。

データ型

Long

FirstPageNumber プロパティ

ページ番号の初期値を指定します。

解説

指定できる値は，1 ～ 999,999 です。FirstPageNumber プロパティを省略した場合，1 が仮定されます。

FirstPageNumber プロパティは，PrintPageNumber プロパティを指定した場合だけ有

効になります。ただし，MultiFormInfoDefFileName プロパティを指定した場合は，FirstPageNumber プロパティの設定値は無視されます。

FirstPageNumber プロパティは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，FirstPageNumber プロパティを指定しても無視されます。

- PrintPMReport メソッド
- OutputPDFReport メソッド
- OutputEPFReport メソッド

データ型

Long

GroupName プロパティ

帳票振り分け定義の振り分けグループ名を指定します。

解説

- 振り分けグループ名を指定するときの注意
  振り分けグループ名は，任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
  - 振り分けグループ名は，80 バイト以内で指定してください。
  - 振り分けグループ名には「"」および「,」を含めないでください。
- 次に示すどちらかの指定がある場合，GroupName プロパティは有効になります。それ以外の場合は，GroupName プロパティを指定しても無視されます。
  - PrintPMReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（PrintMode=3），かつ印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード（PrintKind=0），かつプリンタ指定方式が帳票名による自動振り分け（PrinterSelectMode=2）のとき
  - PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2），かつプリンタ指定方式が帳票名による自動振り分け（PrinterSelectMode=2）のとき

データ型

String

InitPageNumber プロパティ

改ページのキーが設定されている場合，そのキーがブレイクするごとにページ番号の開始番号を初期化するかどうかを指定します。

解説

指定できる値を次に示します。

- True：初期化します。
- False：初期化しません。

InitPageNumber プロパティを指定しない場合は，出力する帳票の属性に従います。帳票の属性の初期値は，False が仮定されます。ただし，MultiFormInfoDefFileName プロパティを指定した場合は，InitPageNumber プロパティの設定値は無視されます。

InitPageNumber プロパティは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，InitPageNumber プロパティを指定しても無視されます。

- PrintPMReport メソッド
- OutputPDFReport メソッド
- OutputEPFReport メソッド

データ型

Boolean

JobKeyCategory プロパティ

蓄積ファイルとして格納するファイルの，検索キーの分類を指定します。

解説

- 検索キーを指定する場合は，1 ～ 10 個の配列で指定してください。また，JobKeyCategory プロパティを指定する場合は，検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず JobKeyData プロパティに指定してください。このとき，配列の要素数は同じにしてください。配列の要素数が異なると，エラーになります。
  検索キーを指定しない場合，JobKeyCategory プロパティと JobKeyData プロパティは，どちらも指定しないでください。どちらかの指定があると対応する情報がないため，エラーになります。
- 分類を指定するときの注意
  分類は，任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
  - 文字列は，80 バイト以内で指定してください。
  - 文字列に「,」を含めないでください。
- JobKeyCategory プロパティは，PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2）の場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，JobKeyCategory プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String 配列

JobKeyData プロパティ

蓄積ファイルの検索キーの値を指定します。

解説

- 検索キーを指定する場合は，1 ～ 10 個の配列で指定してください。また，JobKeyCategory プロパティを指定する場合は，検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず JobKeyData プロパティに指定してください。このとき，配列の要素数は同じにしてください。配列の要素数が異なると，エラーになります。
  検索キーを指定しない場合，JobKeyCategory プロパティと JobKeyData プロパティは，どちらも指定しないでください。どちらかの指定があると対応する情報がないため，エラーになります。
- 値を指定するときの注意
  値は，任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
  - 文字列は，80 バイト以内で指定してください。
  - 文字列に「,」を含めないでください。
- JobKeyData プロパティは，PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2）の場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，JobKeyData プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String 配列

MaxPrintCount プロパティ

蓄積ファイルの上限印刷回数を指定します。

解説

- 印刷上限回数に指定できる値は，-1 ～ 65,536 です。
  - 印刷回数を無限にする場合は，-1 を指定してください。
  - 印刷を禁止する場合は，0 を指定してください。
  - 印刷回数を指定する場合は，1 ～ 65,536 の範囲内で指定してください。
- MaxPrintCount プロパティを省略した場合，または 1 ～ 65,536 以外の値を指定した場合は，-1（無限）が仮定されます。
- MaxPrintCount プロパティは，PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2）の場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，MaxPrintCount プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

MergeEPFFileName プロパティ

統合対象の EPF 形式ファイル名を指定します。

解説

- OutputMergeEPFReport メソッドで複数の EPF 形式ファイルを統合して出力する場合は，MergeEPFFileName プロパティを必ず指定してください。
  OutputMergeEPFReport メソッド以外の場合は，MergeEPFFileName プロパティを指定しても無視されます。
- 指定できる EPF 形式ファイルの数は，2 ～ 10,000 ファイルです。ファイル名はファイルの統合順に指定してください。
- 統合対象の EPF 形式ファイルは，EUR Print Manager - Adapter が稼働するマシンに準備してください。
- EPF 形式ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- EPF 形式ファイルの拡張子は，*.epf です。EPF 形式ファイル名は，拡張子を含めて指定してください。

データ型

String 配列

MergeEPFFilePath プロパティ

MergeEPFFileName プロパティで指定した統合対象の EPF 形式ファイルのパスを指定します。

解説

- 指定されたファイルのパスは，MergeEPFFileName プロパティで指定する EPF 形式ファイルのデフォルトの場所になります。
- MergeEPFFilePath プロパティは，OutputMergeEPFReport メソッドで複数の EPF 形式ファイルを統合して出力する場合，指定が有効になります。
  OutputMergeEPFReport メソッド以外の場合は，MergeEPFFilePath プロパティを指定しても無視されます。
- パスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

データ型

String

MultiFormInfoDefFileName プロパティ

複数様式情報定義ファイル名を指定します。

解説

- 複数様式で帳票を出力する場合は，MultiFormInfoDefFileName プロパティを必ず指定してください。MultiFormInfoDefFileName プロパティを省略すると，ReportFileName プロパティで指定した複数の帳票ファイル，またはMultiReportSetFileName プロパティの帳票セット指定ファイルで指定した帳票ファイルが順に出力されます。
- EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で，OPTION セクションのPATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，複数様式情報定義ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの MULTI キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，MultiFormInfoDefFilePath プロパティに指定することもできます。MultiFormInfoDefFilePath プロパティにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。
  - フルパスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの MULTI キーには指定が要りません。
  - 相対パスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの MULTI キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
  - ファイル名だけを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの MULTI キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- 複数様式情報定義ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 複数様式情報定義ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

データ型

String

MultiFormInfoDefFilePath プロパティ

MultiFormInfoDefFileName プロパティで指定した複数様式情報定義ファイルのパスを指定します。

解説

- 複数様式情報定義ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

データ型

String

MultiReportSetFileName プロパティ

帳票セット指定ファイル名を指定します。

解説

- MultiReportSetFileName プロパティ，または ReportFileName プロパティのどちらかは，必ず指定してください。MultiReportSetFileName プロパティと ReportFileName プロパティを同時に指定した場合は，MultiReportSetFileName プロパティで指定した帳票ファイルのあとに，ReportFileName プロパティで指定した帳票ファイルが出力されます。
- 帳票セット指定ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 帳票セット指定ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

データ型

String

MultiReportSetFilePath プロパティ

MultiReportSetFileName プロパティで指定した帳票セット指定ファイルのパスを指定します。

解説

- 帳票セット指定ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

データ型

String

PageNumberFormat プロパティ

ページ番号のフォーマットを指定します。

解説

PageNumberFormat プロパティには，ページ番号のフォーマットを指定します。ページ番号を「*」，最終ページ番号を「$」で示して出力形式を指定します。

ページ番号および最終ページ番号を全角で表示したいときは全角の記号で，半角で表示したいときは半角の記号で指定します。

PageNumberFormat プロパティを指定しても，PrintPageNumber プロパティを省略した場合は無効となります。ただし，MultiFormInfoDefFileName プロパティを指定した場合は，PageNumberFormat プロパティの設定値は無視されます。

PageNumberFormat プロパティは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，PageNumberFormat プロパティを指定しても無視されます。

- PrintPMReport メソッド
- OutputPDFReport メソッド
- OutputEPFReport メソッド

データ型

String

PageNumberLocation プロパティ

余白へのページ番号の印刷位置を指定します。

解説

指定できる値を次に示します。

- 1：ページ番号を左上に出力します。
- 2：ページ番号を中央上に出力します。
- 3：ページ番号を右上に出力します。
- 4：ページ番号を左下に出力します。
- 5：ページ番号を中央下に出力します。
- 6：ページ番号を右下に出力します。

PageNumberLocation プロパティを指定しても，PrintPageNumber プロパティを省略した場合は無効となります。ただし，MultiFormInfoDefFileName プロパティを指定した場合は，PageNumberLocation プロパティの設定値は無視されます。

PageNumberLocation プロパティは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，PageNumberLocation プロパティを指定しても無視されます。

- PrintPMReport メソッド
- OutputPDFReport メソッド
- OutputEPFReport メソッド

データ型

Long

PaperOrientation プロパティ

用紙の向きを指定します。

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：帳票を定義したときの情報に従います。
  複数の EPF 形式ファイルを統合して出力する場合は，統合する EPF 形式ファイルのページごとの属性に従います。
- 1：用紙の向きを縦にして出力します。
- 2：用紙の向きを横にして出力します。

PaperOrientation プロパティを省略した場合，0 が仮定されます。

複数帳票を出力する場合は，PaperOrientation プロパティの指定に関係なく 0 が仮定されます。ただし，OutputMergeEPFReport メソッドで複数の EPF 形式ファイルを統合して出力するときは，PaperOrientation プロパティの指定に従います。

PaperOrientation プロパティは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，PaperOrientation プロパティを指定しても無視されます。

- PrintPMReport メソッド
- OutputEPFReport メソッド
- OutputMergeEPFReport メソッド

データ型

Long

PDFFileName プロパティ

出力する PDF 形式ファイル名を指定します。

解説

- OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合は，PDFFileName プロパティまたは DistributeFileName プロパティのどちらかは，必ず指定してください。PDFFileName プロパティと DistributeFileName プロパティを同時に指定した場合は，PDFFileName プロパティの指定は無視されます。OutputPDFReport メソッド以外の場合は，PDFFileName プロパティを指定しても無視されます。
- PDF 形式ファイルを EUR Print Manager 稼働マシンに出力する（FileOutputDestination=1）場合で，EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定しているときは，PDFFileName プロパティにはファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの PDF キーで設定しているフォルダに出力されます。
  OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定しているときは，PDFFileName プロパティはフルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。
  パスは，PDFFilePath プロパティに指定することもできます。PDFFilePath プロパティにパスを指定しない場合の PDF 形式ファイルの出力先を次に示します。
  - フルパスを指定する場合
    PDFFileName プロパティで指定したパスに出力されます。なお，環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PDF キーには指定が要りません。
  - 相対パスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PDF キーで設定しているフォルダを起点とし，そこから PDFFileName プロパティで指定したパスに出力されます。
  - ファイル名だけを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PDF キーで設定しているフォルダに，PDFFileName プロパティで指定したファイル名で出力されます。
- PDF 形式ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

データ型

String

PDFFilePath プロパティ

PDFFileName プロパティで指定した PDF 形式ファイルのパスを指定します。

解説

- 指定されたフォルダのパスは，PDFFileName プロパティで指定する PDF 形式ファイルのデフォルトの場所になります。
- PDFFilePath プロパティは，OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合に指定が有効になります。ただし，次の場合は PDFFilePath プロパティを指定しても無視されます。
  - OutputPDFReport メソッド以外の場合
  - PDF 形式ファイルを EUR Print Manager 稼働マシンに出力する（FileOutputDestination=1）場合で，かつ EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）の OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を指定している場合
- パスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

データ型

String

PMServerAddress プロパティ

印刷管理サーバが複数台ある場合，接続する印刷管理サーバの IP アドレスを指定します。

解説

- 印刷管理サーバが複数台起動されている場合に，PMServerAddress プロパティを指定したとき，接続する印刷管理サーバを振り分けられます。
- PMServerAddress プロパティを省略した場合，EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）の IPADDRESS セクションの EURPM キーが仮定されます。
- EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）の IPADDRESS セクションの EURPM キーが指定されていない場合に，PMServerAddress プロパティを省略したときはエラーになります。

データ型

String

PMServerPort プロパティ

1 台の印刷管理サーバで EUR Print Manager を複数起動する場合，印刷管理サーバのポート番号を指定します。

解説

- EUR Print Manager が複数起動されている場合に，PMServerPort プロパティを指定したとき，接続するポートを振り分けられます。
- PMServerPort プロパティを省略した場合，EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）の PORT セクションの EURPM キーが仮定されます。
- PMServerPort プロパティを省略した場合，および EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）の PORT セクションの EURPM キーが指定されていない場合は，環境設定ファイルの省略時の値が仮定されます。

データ型

Long

PrintCopies プロパティ

印刷部数を指定します。

解説

指定できる値は，1 ～ 99 です。PrintCopies プロパティを省略した場合，1 が仮定されます。

PrintCopies プロパティは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，PrintCopies プロパティを指定しても無視されます。

- PrintPMReport メソッド
- OutputEPFReport メソッド
- OutputMergeEPFReport メソッド

データ型

Long

PrintDateFileName プロパティ

印刷日時出力定義ファイル名を指定します。

解説

- EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で，OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，PrintDateFileName プロパティは，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの PRINTDATE キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。
パスは，PrintDateFilePath プロパティに指定することもできます。
PrintDateFilePath プロパティにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PRINTDATE キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PRINTDATE キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PRINTDATE キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

- 印刷日時出力定義ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 印刷日時出力定義ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。
- PrintDateFileName プロパティは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，PrintDateFileName プロパティを指定しても無視されます。
  - PrintPMReport メソッド
  - OutputEPFReport メソッド

データ型

String

PrintDateFilePath プロパティ

PrintDateFileName プロパティで指定した印刷日時出力定義ファイルのパスを指定します。

解説

- 指定されたファイルのパスは，PrintDateFileName プロパティで指定する印刷日時出力定義ファイルのデフォルトの場所になります。
- 印刷日時出力定義ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- PrintDateFilePath プロパティは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，PrintDateFilePath プロパティを指定しても無視されます。
  - PrintPMReport メソッド

- OutputEPFReport メソッド

データ型

String

PrintEndPage プロパティ

印刷終了ページを指定します。

解説

指定できる値は，0 ～ 999,999 です。PrintEndPage プロパティを省略した場合，または指定した値が 0 の場合は，最終ページまで印刷されます。

複数の帳票ファイルを指定した場合は，PrintEndPage プロパティの指定に関係なく，複数帳票ファイルの全ページが印刷されます。

PrintEndPage プロパティは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，PrintEndPage プロパティを指定しても無視されます。

- PrintPMReport メソッド
- OutputPDFReport メソッド
- OutputEPFReport メソッド
- OutputXLSXReport メソッド

データ型

Long

PrinterClassName プロパティ

プリンタクラス名を指定します。

解説

- プリンタクラス名を指定するときの注意
  プリンタクラス名は，任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
  - プリンタクラス名は，80 バイト以内で指定してください。
  - プリンタクラス名には「"」および「,」を含めないでください。
- 印刷方法ごとに指定するプロパティを次に示します。プロパティの組み合わせが異なる場合，指定した値は無効となります。
  - 拠点サーバでの印刷
    PrintMode プロパティ：3

PrinterSelectMode プロパティ：0
PrinterClassName プロパティ：拠点プリンタクラス名

- クライアント PC での対話型印刷
  PrintMode プロパティ：1
  DispPrintDlg プロパティ：0
  PrinterClassName プロパティ：帳票ジョブ名
- クライアント PC での自動印刷
  PrintMode プロパティ：1
  DispPrintDlg プロパティ：1
  PrinterClassName プロパティ：クライアントプリンタクラス名
- クライアント PC での対話型印刷プレビュー表示
  PrintMode プロパティ：1
  DispPrintDlg プロパティ：2
  PrinterClassName プロパティ：帳票ジョブ名
- クライアント PC での全自動印刷
  PrintMode プロパティ：1
  DispPrintDlg プロパティ：3
  PrinterClassName プロパティ：クライアントプリンタクラス名
- 印刷管理サーバでの印刷
  PrintMode プロパティ：4
  PrinterSelectMode プロパティ：0
  PrinterClassName プロパティ：印刷管理サーバプリンタクラス名
- 蓄積
  PrintMode プロパティ：2
  PrinterSelectMode プロパティ：0
  PrinterClassName プロパティ：拠点プリンタクラス名，または蓄積クライアント印刷方式のプリンタクラス名

「クライアント PC での自動印刷」と「蓄積クライアント印刷」の場合，ClientPrinterName プロパティと PrinterClassName プロパティでは，ClientPrinterName プロパティの指定を優先します。

- クライアント PC への配布印刷では，指定できません。
- 複数の EPF 形式ファイルを統合して出力する場合に，PrinterClassName プロパティの指定を省略したときや 0 バイトの値を指定したときは，統合対象の EPF 形式ファイルにプリンタクラス名情報が設定されていても，統合後の EPF 形式ファイルのプリンタクラス名情報は未設定となります。

データ型

String

PrinterSelectMode プロパティ

プリンタの指定方法を選択します。

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：プリンタクラス名の指定
- 1：OS 上のプリンタ名の指定
- 2：帳票振り分け定義の指定

PrinterSelectMode プロパティを省略した場合，または 0，1，2 以外の値を指定した場合は，0 が仮定されます。

PrinterSelectMode プロパティは，次の場合に指定が有効になります。

- PrintPMReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（PrintMode=3）の場合
- PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2）の場合
- PrintPMReport メソッドで印刷方式が印刷管理サーバ直接印刷方式（PrintMode=4）の場合

それ以外の場合は，PrinterSelectMode プロパティを指定しても無視されます。

また，印刷管理サーバによる直接印刷（PrintMode=4）の場合，2 の値を指定するとエラーになります。

データ型

Long

PrintHoldMode プロパティ

蓄積印刷方式で，蓄積後に続けて印刷するかどうかを選択します。

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：蓄積後に続けて印刷しません（印刷保留）。
- 1：蓄積後に続けて拠点サーバで印刷します。
- 2：蓄積後に続けてクライアント PC で印刷します。

PrintHoldMode プロパティを省略した場合，または 0，1，2 以外の値を指定した場合は，1 が仮定されます。

PrintHoldMode プロパティは，PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積

（PrintMode=2）の場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，PrintHoldMode プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

PrintKind プロパティ

拠点サーバ印刷方式の印刷モードを指定します。

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：EPF 形式ファイル印刷モード
- 1：EUR 形式ファイル印刷モード

PrintKind プロパティを省略した場合，または 0，1 以外の値を指定した場合は，0 が仮定されます。

PrintKind プロパティは，PrintPMReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（PrintMode=3）の場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，PrintKind プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

PrintMode プロパティ

印刷メソッド（PrintPMReport メソッド）の印刷方式を指定します。

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：デフォルト印刷方式 ※
- 1：クライアント印刷方式
- 2：蓄積
- 3：拠点サーバ印刷方式
- 4：印刷管理サーバ直接印刷方式
- 5：クライアント配布印刷方式

注※

「0（デフォルト印刷方式）」を定義する場合は，EUR Print Manager - Adapter

の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）で OPTION セクションの DEFAULTPRINTMODE キーに値を設定してください。

0，1，2，3，4，5 以外の値を指定した場合は，0 が仮定されます。

PrintMode プロパティを省略した場合は，環境設定ファイル（EURPMADP.ini）で OPTION セクションの PRINTMODE キーに指定されている値をデフォルトにします。

データ型

Long

PrintPageNumber プロパティ

余白へのページ番号印刷を指定します。

解説

指定できる値を次に示します。

- True：余白へのページ番号を出力します。
- False：余白へのページ番号は出力しません。

PrintPageNumber プロパティを省略した場合，False が仮定されます。ただし，MultiFormInfoDefFileName プロパティを指定した場合は，PrintPageNumber プロパティの設定値は無視されます。

PrintPageNumber プロパティは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，PrintPageNumber プロパティを指定しても無視されます。

- PrintPMReport メソッド
- OutputPDFReport メソッド
- OutputEPFReport メソッド

データ型

Boolean

PrintStartPage プロパティ

印刷開始ページを指定します。

解説

指定できる値は，0 ～ 999,999 です。PrintStartPage プロパティを省略した場合，または指定した値が 0 の場合は，1 ページから印刷されます。

複数の帳票ファイルを指定した場合は，PrintStartPage プロパティの指定に関係なく，指定した複数の帳票ファイルの全ページが印刷されます。

PrintPageNumber プロパティは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，PrintPageNumber プロパティを指定しても無視されます。

- PrintPMReport メソッド
- OutputPDFReport メソッド
- OutputEPFReport メソッド
- OutputXLSXReport メソッド

データ型

Long

PSEnvFileName プロパティ

EUR Print Service の動作環境を印刷ジョブごとに変更する場合に，EUR Print Service の環境設定ファイル名を指定します。

解説

- EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で，OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，PSEnvFileName プロパティは，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。
  OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。
  パスは，PSEnvFilePath プロパティに指定することもできます。PSEnvFilePath プロパティにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。
  - フルパスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PSENV キーには指定が要りません。
  - 相対パスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PSENV キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
  - ファイル名だけを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- EUR Print Service の環境設定ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- EUR Print Service の環境設定ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置し

てください。
- PSEnvFileName プロパティは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，PSEnvFileName プロパティを指定しても無視されます。
  - PrintPMReport メソッド
  - OutputPDFReport メソッド
  - OutputEPFReport メソッド
  - OutputEURReport メソッド
  - OutputXLSXReport メソッド

データ型

String

PSEnvFilePath プロパティ

PSEnvFileName プロパティで指定した EUR Print Service の環境設定ファイルのパスを指定します。

解説

- 指定されたファイルのパスは，PSEnvFileName プロパティで指定する EUR Print Service の環境設定ファイルのデフォルトの場所になります。
- EUR Print Service の環境設定ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- PSEnvFilePath プロパティは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，PSEnvFilePath プロパティを指定しても無視されます。
  - PrintPMReport メソッド
  - OutputPDFReport メソッド
  - OutputEPFReport メソッド
  - OutputEURReport メソッド
  - OutputXLSXReport メソッド

データ型

String

ReplaceItemCntlFileName プロパティ

置き換え表管理情報ファイル名を指定します。

解説

- EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で，OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，置き換え表管理情報ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。
  OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。
  パスは，ReplaceItemCntlFilePath プロパティに指定することもできます。
  ReplaceItemCntlFilePath プロパティにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。
  - フルパスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの REPLACEITEM キーには指定が要りません。
  - 相対パスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
  - ファイル名だけを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- 置き換え表管理情報ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 次に示すどれかの指定がある場合，ReplaceItemCntlFileName プロパティは有効になります。PrintPMReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（PrintMode=3），かつ印刷モードが EUR 形式ファイル印刷モード（PrintKind=1）の場合は，ReplaceItemCntlFileName プロパティを指定しても無視されます。
  - PrintPMReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（PrintMode=3），かつ印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード（PrintKind=0）のとき
  - PrintPMReport メソッドで印刷方式がクライアント印刷方式（PrintMode=1）のとき
  - PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2）のとき
  - OutputPDFReport メソッド，OutputEPFReport メソッド，OutputEURReport メソッド，および OutputXLSXReport メソッドで印刷実行するとき
- 置き換え表管理情報ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

データ型

String

ReplaceItemCntlFilePath プロパティ

ReplaceItemCntlFileName プロパティで指定した置き換え表管理情報ファイルのパスを指定します。

解説

- 置き換え表管理情報ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 次に示すどれかの指定がある場合，ReplaceItemCntlFilePath プロパティは有効になります。PrintPMReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（PrintMode=3），かつ印刷モードが EUR 形式ファイル印刷モード（PrintKind=1）の場合は，ReplaceItemCntlFilePath プロパティを指定しても無視されます。
  - PrintPMReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（PrintMode=3），かつ印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード（PrintKind=0）のとき
  - PrintPMReport メソッドで印刷方式がクライアント印刷方式（PrintMode=1）のとき
  - PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2）のとき
  - OutputPDFReport メソッド，OutputEPFReport メソッド，OutputEURReport メソッド，および OutputXLSXReport メソッドで印刷実行するとき

データ型

String

ReportFileName プロパティ

帳票ファイル名を指定します。帳票ファイル名（*.fms）を指定してください。

解説

- ReportFileName プロパティ，または MultiReportSetFileName プロパティのどちらかは，必ず指定してください。ReportFileName プロパティと MultiReportSetFileName プロパティを同時に指定した場合は，MultiReportSetFileName プロパティで指定した帳票ファイルのあとに，ReportFileName プロパティで指定した帳票ファイルが出力されます。
- EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で，OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，帳票ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。
  OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは，ReportFilePath プロパティに指定することもできます。ReportFilePath プロパティにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの FORM キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの FORM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

- 帳票ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 帳票ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

データ型

- String（一つの帳票セットを指定する場合）
- String 配列（複数の帳票セットを指定する場合）

ReportFilePath プロパティ

ReportFileName プロパティで指定した帳票ファイルのパスを指定します。

解説

- 帳票ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

データ型

String

ScriptCntlFileName プロパティ

Acrobat JavaScript 定義ファイル名を指定します。

解説

- EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で，OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，Acrobat JavaScript 定義ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの SCRIPTCNT キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。
  OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場

合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。
パスは，ScriptCntlFilePath プロパティに指定することもできます。
ScriptCntlFilePath プロパティにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの SCRIPTCNT キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの SCRIPTCNT キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの SCRIPTCNT キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

- Acrobat JavaScript 定義ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- ScriptCntlFileName プロパティは，OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。OutputPDFReport メソッド以外の場合は，ScriptCntlFileName プロパティを指定しても無視されます。
- Acrobat JavaScript 定義ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

データ型

String

ScriptCntlFilePath プロパティ

ScriptCntlFileName プロパティで指定した Acrobat JavaScript 定義ファイルのパスを指定します。

解説

- Acrobat JavaScript 定義ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- ScriptCntlFilePath プロパティは，OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。OutputPDFReport メソッド以外の場合は，ScriptCntlFilePath プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

ServerAddress プロパティ

拠点サーバの IP アドレスを「255.255.255.255」形式で指定します。

解説

次に示すどちらかの指定がある場合，ServerAddress プロパティは有効になります。それ以外の場合は，ServerAddress プロパティを指定しても無視されます。

- PrintPMReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（PrintMode=3），かつ拠点サーバ指定方式が IP アドレス指定（ServerSelectMode=1）のとき
- PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2），かつ拠点サーバ指定方式が IP アドレス指定（ServerSelectMode=1）のとき

データ型

String

ServerPrinterName プロパティ

サーバのプリンタ名を指定します。プリンタ名は，OS 上のプリンタ名を指定してください。

解説

- プリンタ名を指定するときの注意
  プリンタ名は，次のことに注意して指定してください。
  - プリンタ名は，80 バイト以内で指定してください。
  - プリンタ名には「"」および「,」を含めないでください。
- 次に示す指定がある場合，ServerPrinterName プロパティは有効になります。それ以外の場合は，ServerPrinterName プロパティを指定しても無視されます。
  - PrintPMReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（PrintMode=3），かつプリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定（PrinterSelectMode=1）のとき
  - PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2），かつプリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定（PrinterSelectMode=1）のとき
  - PrintPMReport メソッドで印刷方式が印刷管理サーバ直接印刷方式（PrintMode=4），かつプリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定（PrinterSelectMode=1）のとき

データ型

String

ServerSelectMode プロパティ

拠点サーバの指定方法を選択します。

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：出力先名を指定します。
- 1：拠点サーバの IP アドレスを指定します。

ServerSelectMode プロパティを省略した場合，または 0，1 以外の値を指定した場合は，0 が仮定されます。

次に示すどちらかの指定がある場合，ServerSelectMode プロパティは有効になります。それ以外の場合は，ServerSelectMode プロパティを指定しても無視されます。

- PrintPMReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（PrintMode=3）のとき
- PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2）のとき

データ型

Long

ServerTrayName プロパティ

サーバのプリンタのトレイ名を指定します。トレイ名は，OS 上のプリンタのトレイ名を指定してください。

解説

Windows 環境の場合

- トレイ名を指定するときの注意
  トレイ名は，次のことに注意して指定してください。
  ・トレイ名は，80 バイト以内で指定してください。
  ・トレイ名には「"」および「,」を含めないでください。
- ServerTrayName プロパティを指定しない場合は，ServerPrinterName プロパティで指定したプリンタのデフォルトのトレイから給紙されます。
- ServerTrayName プロパティに指定したトレイ名が，出力先のプリンタで使用できない場合は，デフォルトのトレイから給紙されます。
- 次に示す指定がある場合，ServerTrayName プロパティは有効になります。それ以外の場合は，ServerTrayName プロパティを指定しても無視されます。
  ・PrintPMReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（PrintMode=3），かつプリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定（PrinterSelectMode=1）のとき
  ・PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2），かつプリンタ指定

方式が OS 上のプリンタ名指定（PrinterSelectMode=1）のとき
・PrintPMReport メソッドで印刷方式が印刷管理サーバ直接印刷方式（PrintMode=4），かつプリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定（PrinterSelectMode=1）のとき

UNIX/Linux 環境の場合

- 給紙トレイ情報を指定します。ServerTrayName プロパティを指定しない場合は，プリンタ定義ファイルのキーワード（DefaultCassette）に指定されているデフォルトのトレイから給紙されます。
  プリンタ定義ファイルの詳細については，マニュアル「EUR サーバ帳票出力」を参照してください。
- 指定する給紙トレイ情報を次に示します。

指定内容	給紙トレイ
auto	印刷用紙を自動で給紙します。出力する帳票の用紙サイズからカセットを自動選択します。
manual	手差しトレイから印刷用紙を給紙します。
トレイ番号	トレイ番号の給紙カセットから印刷用紙を給紙します。トレイ番号は，1 ～ n（n はプリンタ定義ファイルのキーワード Cassettes で指定した値）で指定します。 6 以上の値を指定した場合は自動給紙となります。

注意事項

ServerTrayName プロパティでは次に示す指定があった場合，プリンタのハードウェアによって動作が異なります。

- manual が指定されたとき
- トレイ番号が指定されたとき
- auto が指定されたのに，プリンタのパネルで給紙カセットが選択されたとき

また，帳票の用紙サイズと給紙される用紙のサイズが異なる場合も，プリンタのハードウェアによって動作が異なります。
帳票の用紙サイズと給紙される用紙のサイズを合わせておくか，または帳票の用紙サイズと異なる用紙に出力する場合は，あらかじめ試し印刷を実施してプリンタの動作を確認してください。

データ型

String

SortPrint プロパティ

印刷部数の単位を指定します。

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：部単位で出力します。
- 1：ページ単位で出力します。

SortPrint プロパティを省略した場合，0 が仮定されます。

複数帳票を出力する場合は，SortPrint プロパティの指定に関係なく 0 が仮定されます。ただし，OutputMergeEPFReport メソッドで複数の EPF 形式ファイルを統合して出力するときは，SortPrint プロパティの指定に従います。

SortPrint プロパティは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，SortPrint プロパティを指定しても無視されます。

- PrintPMReport メソッド
- OutputEPFReport メソッド
- OutputMergeEPFReport メソッド

データ型

Long

SplitFileName プロパティ

帳票を分割または仕分けして蓄積する場合に，EURPM 分割定義ファイルまたは EURPM 仕分け定義ファイルのファイル名を指定します。

解説

- SplitFileName プロパティは，PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2）の場合で，かつ次のどちらかの条件に当てはまるときに指定が有効になります。それ以外の場合は，SplitFileName プロパティを指定しても無視されます。
  - 帳票を分割（SplitMode=3）または仕分け（SplitMode=2）する設定にしているとき。
  - 帳票を分割または仕分けするかどうかを EUR Print Manager の環境設定ファイルの指定に従う（SplitMode=0）設定にしていて，かつ EUR Print Manager の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPLITMODE キーに PAGE（分割）または KEY（仕分け）を指定しているとき。
- ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- EURPM 分割定義ファイルまたは EURPM 仕分け定義ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

データ型

String

SplitFilePath プロパティ

SplitFileName プロパティで指定した，EURPM 分割定義ファイルまたは EURPM 仕分け定義ファイルのパスを指定します。

解説

- 指定されたフォルダのパスは，SplitFileName プロパティで指定するファイルのデフォルトの場所になります。
- パスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- SplitFilePath プロパティは，PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2）の場合で，かつ次のどちらかの条件に当てはまるときに指定が有効になります。それ以外の場合は，SplitFilePath プロパティを指定しても無視されます。
  - 帳票を分割（SplitMode=3）または仕分け（SplitMode=2）する設定にしているとき。
  - 帳票を分割または仕分けするかどうかを EUR Print Manager の環境設定ファイルの指定に従う（SplitMode=0）設定にしていて，かつ EUR Print Manager の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPLITMODE キーに PAGE（分割）または KEY（仕分け）を指定しているとき。

データ型

String

SplitMode プロパティ

蓄積時に，帳票を分割または仕分けするかどうかを指定します。

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：EUR Print Manager の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPLITMODE キーの指定に従います。
- 1：分割または仕分けしないで蓄積します。
- 2：帳票を仕分けして蓄積します。
- 3：帳票を分割して蓄積します。

SplitMode プロパティの指定を省略した場合，0 が仮定されます。

SplitMode プロパティは，PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2）の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は，SplitMode プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

SpoolFileName プロパティ

蓄積ファイルに格納するファイルのファイル名を指定します。

解説

- 格納ファイル名は，255 バイト以内になるように指定してください。そのほか，格納ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 「%N」を指定すると，00000001 から始まる 8 けたの通し番号を設定できます。
- SpoolFileName プロパティを省略した場合は，自動的にファイル名が生成されます。自動的に生成されるファイル名は「ジョブ ID.epf」※です。
- 複数の蓄積ファイルに同一ファイル名が指定されている場合，蓄積ファイル取得時に同一パスで取得されると，ファイルが上書きされます。同一パスで取得する可能性のあるファイルは，別の格納ファイル名に指定することをお勧めします。
- SpoolFileName プロパティは，PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2）の場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，SpoolFileName プロパティを指定しても無視されます。

注※

「ジョブ ID」の形式を次に示します。
EUR ＋処理実行日時＋通番フォルダ番号＋通し番号
処理実行日時（17 けた）：YYYYMMDDhhmmssmmm
通番フォルダ番号（7 けた）：0000001 ～ 2000000
通し番号（9 けた）：000000001 ～ 999999999
通番フォルダ番号が 2000000 を超えた場合は，エラー（KEEY430-S）になります。
通し番号が 999999999 を超えた場合は，000000003 に戻ります。

データ型

String

SpoolLimit プロパティ

蓄積ファイルの蓄積期限日を指定します。

解説

蓄積期限日は，日付または日数で指定してください。

日付で指定する場合

- 「YYYYMMDD」の形式で指定してください。
- 年（西暦）は 4 けた，月と日は 2 けたで入力します。
- 月，または日が 1 ～ 9 の場合は，ゼロ埋めをして入力します。
- 指定できる値の上限は，20380118（2038 年 1 月 18 日）です。
- 過去の日付は指定できません。

（指定例）20120521，20141008

日数で指定する場合

- 「+XXX」の形式で指定してください。
- 「XXX」には，蓄積実行時からの保管日数を指定します。指定できる値は 000 ～ 999 です。
- 2038 年 1 月 18 日を超える日数は指定できません。

（指定例）+030，+999

SpoolLimit プロパティの指定がない場合，蓄積期限日は蓄積を要求した EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPOOLLIMIT キーの指定に従います。

SpoolLimit プロパティは，PrintPMReport メソッドで印刷方式が蓄積（PrintMode=2）の場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，SpoolLimit プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

SpoolTitle プロパティ

スプールタイトルを指定します。

解説

- スプールタイトルには，任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
  - スプールタイトルは，255 バイト以内で指定してください。
  - スプールタイトルには「"」および「,」を含めないでください。
- SpoolTitle プロパティは，OutputMergeEPFReport メソッドで複数の EPF 形式ファイルを統合して出力する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，SpoolTitle プロパティを指定しても無視されます。

- SpoolTitle プロパティの指定を省略したときや 0 バイトの値を指定したときは，統合後の EPF 形式ファイルのスプールタイトル情報は未設定となります。スプールタイトル情報が未設定の場合，印刷時のスプールタイトルには最初に指定する EPF 形式ファイルの帳票ファイル名が出力されます。

データ型

String

UserDataFileName プロパティ

ユーザ定義データファイル名または可変記号値定義ファイル名を指定します。

解説

- 指定するファイル名は，ReportFileName プロパティで指定したファイル名と同じ数を指定してください。
- ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- ユーザ定義データファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

データ型

- String（一つの帳票セットを指定する場合）
- String 配列（複数の帳票セットを指定する場合）

指定例

複数の帳票セットを指定する場合，一部の帳票に対してユーザ定義データファイル（または可変記号値定義ファイル）の指定を省略したいときは，配列の要素に空文字を指定してください。

2 番目の帳票のユーザ定義データファイルの指定を省略する場合の例を次に示します。

```
' 帳票ファイル名を配列fmsに指定
fms(0)="Sample1.fms"
fms(1)="Sample2.fms"
fms(2)="Sample3.fms"
' ユーザ定義データファイル名を配列usrに指定
usr(0)="Data1.csv"
usr(1)=""
usr(2)="Data3.csv"
```

UserDataFilePath プロパティ

UserDataFileName プロパティで指定したユーザ定義データファイルのパス，または可変記号値定義ファイルのパスを指定します。

解説

- ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

データ型

String

ViewerPreferenceFileName プロパティ

ビューアプレファレンス定義ファイル名を指定します。

解説

- EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で，OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，ビューアプレファレンス定義ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの PREFERENCE キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。
  OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。
  パスは，ViewerPreferenceFilePath プロパティに指定することもできます。
  ViewerPreferenceFilePath プロパティにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。
  - フルパスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PREFERENCE キーには指定が要りません。
  - 相対パスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PREFERENCE キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
  - ファイル名だけを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PREFERENCE キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- ビューアプレファレンス定義ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- ViewerPreferenceFileName プロパティは，OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。OutputPDFReport メソッド以外の場合は，ViewerPreferenceFileName プロパティを指定しても無視されます。
- ビューアプレファレンス定義ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

データ型

String

ViewerPreferenceFilePath プロパティ

ViewerPreferenceFileName プロパティで指定したビューアプレファレンス定義ファイルのパスを指定します。

解説

- ビューアプレファレンス定義ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- ViewerPreferenceFilePath プロパティは，OutputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。OutputPDFReport メソッド以外の場合は，ViewerPreferenceFilePath プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

XLSXFileName プロパティ

出力する Excel 形式ファイル名を指定します。

解説

- OutputXLSXReport メソッドで Excel 形式ファイルを出力する場合は，XLSXFileName プロパティを必ず指定してください。OutputXLSXReport メソッド以外の場合は，XLSXFileName プロパティを指定しても無視されます。
- Excel 形式ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- Excel 形式ファイルの拡張子は，*.xlsx です。Excel 形式ファイル名は，拡張子を含めて指定してください。

データ型

String

XLSXFilePath プロパティ

XLSXFilePath プロパティで指定した Excel 形式ファイルのパスを指定します。

解説

- 指定されたフォルダのパスは，XLSXFileName プロパティで指定する Excel 形式ファイルのデフォルトの場所になります。
- XLSXFilePath プロパティは，OutputXLSXReport メソッドで Excel 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。OutputXLSXReport メソッド以外の場合は，XLSXFilePath プロパティを指定しても無視されます。
- パスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

データ型

String

9.5 RS-ActiveX 起動部品

EUR Print Manager - Report Server Adapter は，Visual Basic Script や Visual Basic で開発するサーバアプリケーションから，蓄積先のサーバの EUR Print Manager - Report Server を利用できるように，RS-ActiveX 起動部品を提供しています。

RS-ActiveX 起動部品を利用することで，EUR Print Manager - Report Server 上に蓄積されている印刷データファイル（ESF 形式ファイル）に対して業務アプリケーションからの操作指示を EUR Print Manager - Report Server に送信できます。

9.5.1 RS-ActiveX 起動部品のファイル名

EURPMLSADP.ocx

RS-ActiveX 起動部品のファイルです。EUR Print Manager - Report Server Adapter のインストール先フォルダ ¥Program¥ 下にあります。

9.5.2 RS-ActiveX 起動部品のプログラム ID とコントロール名

RS-ActiveX 起動部品のプログラム ID およびコントロール名は，EUR Print Manager - Report Server Adapter をインストールしたときに登録されます。

EURPMLS.Exec

RS-ActiveX 起動部品のプログラム ID です。

EURPMLSADP ActiveX コントロールモジュール

RS-ActiveX 起動部品のコントロール名です。

9.5.3 RS-ActiveX 起動部品が提供するクラス

RS-ActiveX 起動部品では，EUR Print Manager - Report Server の制御を行うクラス（EURPMLSADPLib.EURPMLSAdapter）を提供します。

EURPMLSADPLib.EURPMLSAdapter クラスでは，印刷，削除などのオプションを指定するプロパティを設定するメソッドと，印刷，削除などを行うメソッドを提供します。

EURPMADPLib.EURPMAdapter クラスは次のように指定します。

```
Public Class EURPMLSADPLib.EURPMLSAdapter
```

Visual Basic Script や Visual Basic で開発するサーバアプリケーションから，次の手順で帳票を出力します。

1. RS-ActiveX 起動部品の構築

2. **プロパティの設定**
   ジョブ ID，印刷開始ページなどのプロパティを設定します。

3. **蓄積ファイルの印刷**
   蓄積印刷メソッド（PrintSpoolReport メソッドなど）を呼び出して蓄積ファイルを蓄積印刷します。

3. の処理で発生したエラー，または発生するエラーは，例外を処理するようにプログラムに記述します。

9.5.4 RS-ActiveX 起動部品の構文

RS-ActiveX 起動部品を構築する場合と EURPMLSADPLib.EURPMLSAdapter クラスを生成する場合の構文を次に示します。

（1） RS-ActiveX 起動部品を構築する場合

RS-ActiveX 起動部品を構築する場合は，次のように指定します。

Visual Basic Script の場合

```
Dim eurpmls As Object
Set eurpmls=Server.CreateObject("EURPMLS.Exec")
```

Visual Basic の場合

```
Dim eurpmls As Object
Set eurpmls=CreateObject("EURPMLS.Exec")
```

パラメタ

- eurpmls には，Server.CreateObject または CreateObject の呼び出しによって作成されるオブジェクト名を指定します。
- EURPMLS.Exec は，RS-ActiveX 起動部品のプログラム ID です。
  ASP ファイルのある Visual Basic Script の CreateObject 関数にプログラム ID を指定して，RS-ActiveX 起動部品を生成してください。

（2） EURPMLSADPLib.EURPMLSAdapter クラスを生成する場合

EURPMLSADPLib.EURPMLSAdapter クラスを生成することで，RS-ActiveX 起動部品を生成することもできます。この場合は，クラスを生成する前に，ユーザーアプリケーションプロジェクトのコントロールまたは COM の参照設定に，コントロール名「EURPMLSADP ActiveX コントロール モジュール」を追加してください。

EURPMLSADPLib.EURPMLSAdapter クラスを生成する場合は，次のように指定します。

```
Dim eurpmls As EURPMLSADPLib.EURPMLSAdapter
Set eurpmls=new EURPMLSADPLib.EURPMLSAdapter
```

パラメタ

- eurpmls には，EURPMLSADPLib.EURPMLSAdapter クラス型の任意のオブジェクト名を指定します。
- new 操作で EURPMLSADPLib.EURPMLSAdapter クラスを生成してください。

9.6　RS-ActiveX 起動部品のメソッドとプロパティ一覧

RS-ActiveX 起動部品が提供するメソッドとプロパティの一覧を示します。

9.6.1　RS-ActiveX 起動部品が提供するメソッド一覧

RS-ActiveX 起動部品が提供するメソッドの一覧を次に示します。

表 9-6　RS-ActiveX 起動部品が提供するメソッド一覧

種類	メソッド	概要
蓄積操作メソッド	DeleteSpoolFile	指定したジョブ ID の蓄積ファイルを削除したり，蓄積期限を経過した蓄積ファイルを削除したりします。
	GetSpoolFile	指定したジョブ ID の蓄積ファイルを指定したパスに取得します。
	GetSpoolFileAttribute	指定したジョブ ID の蓄積ファイルの属性情報を取得します。
	GetSpoolFileOutline	指定条件に合った EUR Print Manager - Report Server の蓄積ファイルの一覧を取得します。
	PrintSpoolReport	指定したジョブ ID の蓄積ファイルの蓄積データ印刷を実行します。
	SetSpoolFileAttribute	指定したジョブ ID の蓄積ファイルの属性情報を変更します。
構成定義情報取得メソッド※	GetPrinterClassList	PrinterClassList プロパティで指定した EUR Print Manager - Report Server のプリンタクラス一覧を取得します。
	GetPrinterList	ServerPrinterList プロパティで指定した EUR Print Manager - Report Server がある OS 上のプリンター一覧を取得します。
	GetTrayList	ServerTrayList プロパティで指定した EUR Print Manager - Report Server がある OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。
プロパティ初期化メソッド	Initialize	指定されたすべてのプロパティをクリアにして，初期状態に戻します。

注※

UNIX/Linux 環境の場合，構成定義情報取得メソッドは指定できません。

9.6.2　RS-ActiveX 起動部品が提供するプロパティ一覧

RS-ActiveX 起動部品が提供するプロパティを表 9-7 に示します。

RS-ActiveX 起動部品が提供するプロパティは，蓄積操作メソッド，および構成定義情報取得メソッドで使用します。表 9-7 の表見出しの番号は，次に示すメソッドに対応しています。

表見出しの番号	対応するメソッド
1	GetSpoolFileOutline
2	GetSpoolFileAttribute
3	SetSpoolFileAttribute
4	PrintSpoolReport
5	GetSpoolFile
6	DeleteSpoolFile
7	GetPrinterClassList
8	GetPrinterList
9	GetTrayList

表 9-7　RS-ActiveX 起動部品が提供するプロパティ一覧

プロパティ	設定内容	データ型	蓄積操作メソッド						構成定義情報取得メソッド		
			1	2	3	4	5	6	7	8	9
ClientAddress	蓄積クライアント印刷時のクライアント PC の IP アドレス	String	―	□	△	△	―	―	―	―	―
ClientPrinterName	蓄積ファイルのクライアントプリンタ名	String	―	□	△	△	―	―	―	―	―
ClientTrayName	蓄積ファイルのクライアントプリンタのトレイ名	String	―	□	△	△	―	―	―	―	―
CreateIPAddress	蓄積ファイル作成者の IP アドレス	String	―	□	―	―	―	―	―	―	―
CreateLSVersion	蓄積ファイルのフォーマットバージョン	String	―	□	―	―	―	―	―	―	―

プロパティ	設定内容	データ型	蓄積操作メソッド						構成定義情報取得メソッド		
			1	2	3	4	5	6	7	8	9
CreateTime	蓄積ファイル内の作成日時	• GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあと String 配列 • GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと String	□	□	－	－	－	－	－	－	－
DeleteKind	蓄積ファイル削除時の削除種別	Long	－	－	－	－	－	△	－	－	－
DispPrintDlg	蓄積クライアント印刷時のダイアログ表示モード	Long	－	□	△	△	－	－	－	－	－
EnableGet	蓄積ファイルの取得可否	Boolean	－	□	△	－	－	－	－	－	－
ExecPrintCount	蓄積ファイルの印刷実行回数	Long	－	□	－	－	－	－	－	－	－
ExecutablePrintMode	蓄積ファイルの実行可能印刷方式	Long	－	□	△	－	－	－	－	－	－
GroupName	蓄積ファイルの振り分けグループ名	String	－	□	△	△	－	－	－	－	－
JobID	ジョブ ID	String 配列	□	－	－	－	－	－	－	－	－
JobKeyCategory	蓄積ファイルのジョブ検索キー分類	String 配列	－	□	△	－	－	－	－	－	－
JobKeyData	蓄積ファイルのジョブ検索キー値	String 配列	－	□	△	－	－	－	－	－	－
MaxPrintCount	蓄積ファイルの印刷上限回数	Long	－	□	△	－	－	－	－	－	－
OutputFileName	出力ファイル名	String	－	－	－	－	△	－	－	－	－
OutputFilePath	蓄積ファイルを取得するフォルダのパス	String	－	－	－	－	△	－	－	－	－

プロパティ	設定内容	データ型	蓄積操作メソッド						構成定義情報取得メソッド		
			1	2	3	4	5	6	7	8	9
PageNum	蓄積ファイル内の格納ファイルページ数	• GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあと Long 配列 • GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと Long	□	□	－	－	－	－	－	－	－
PaperOrientation	用紙の向き	Long	－	－	－	△	△	－	－	－	－
PrintCopies	印刷部数	Long	－	－	－	△	△	－	－	－	－
PrintEndPage	蓄積拠点サーバ印刷の終了ページ	Long	－	－	－	－／△	－	－	－	－	－
PrinterClassList	プリンタクラス一覧	String 二次元配列	－	－	－	－	－	－	□	－	－
PrinterClassName	蓄積ファイルのプリンタクラス名	• GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあと String 配列 • GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと String • SetSpoolFileAttribute メソッド，PrintSpoolReport メソッド，または GetSpoolFile メソッドを呼び出す前 String	□	□	△	△	△	－	－	－	－
PrinterSelectMode	蓄積拠点サーバ印刷方式のプリンタ指定方式	Long	－	□	△	△	－	－	－	－	－
PrintMode	蓄積印刷方式	Long	－	－	－	△	－	－	－	－	－

プロパティ	設定内容	データ型	蓄積操作メソッド						構成定義情報取得メソッド		
			1	2	3	4	5	6	7	8	9
PrintResult	蓄積ファイル内の印刷結果	• GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあと Long 配列 • GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと Long	□	□	－	－	－	－	－	－	－
PrintStartPage	蓄積拠点サーバ印刷の開始ページ	Long	－	－	－	－／△	－	－	－	－	－
PrintTime	蓄積ファイルの印刷日時	String	－	□	－	－	－	－	－	－	－
SearchCreateTimeEnd	ファイル作成日時で蓄積ファイルを検索するときの検索終了日時	String	△	－	－	－	－	－	－	－	－
SearchCreateTimeStart	ファイル作成日時で蓄積ファイルを検索するときの検索開始日時	String	△	－	－	－	－	－	－	－	－
SearchJobID	蓄積ファイルを検索するときのジョブ ID	• PrintSpoolReport メソッド，GetSpoolFile メソッド，または DeleteSpoolFile メソッドを呼び出す前 String（一つのジョブ ID を指定する場合） String 配列（複数のジョブ ID を指定する場合） • 上記以外のメソッドを呼び出す前 String	△	○	○	○	○	○／－	－	－	－

プロパティ	設定内容	データ型	蓄積操作メソッド						構成定義情報取得メソッド		
			1	2	3	4	5	6	7	8	9
SearchJobKeyCategory	蓄積ファイルを検索するときのジョブ検索キーの分類	String 配列	△	－	－	－	－	－	－	－	－
SearchJobKeyData	蓄積ファイルを検索するときのジョブ検索キーの値	String 配列	△	－	－	－	－	－	－	－	－
SearchPrinterClassName	プリンタクラス名で蓄積フォルダのファイル一覧を検索するときのプリンタクラス名	String	△	－	－	－	－	－	－	－	－
SearchSpoolFileName	格納ファイル名で蓄積フォルダのファイル一覧を検索するときの格納ファイル名	String	△	－	－	－	－	－	－	－	－
ServerAddress	拠点サーバの IP アドレス	String	△	△	△	△	△	△	△	△	△
ServerPrinterList	拠点サーバでの OS 上のプリンター一覧	String 配列	－	－	－	－	－	－	－	□	－
ServerPrinterName	拠点サーバでの OS 上のプリンタ名	String	－	□	△	△	－	－	－	－	○
ServerTrayList	ServerPrinterName プロパティで指定した OS 上のプリンタのトレイ一覧	String 配列	－	－	－	－	－	－	－	－	□
ServerTrayName	拠点サーバでの OS 上のプリンタのトレイ名	String	－	□	△	△	－	－	－	－	－
SortPrint	印刷部数の単位	Long	－	－	－	△	△	－	－	－	－

プロパティ	設定内容	データ型	蓄積操作メソッド						構成定義情報取得メソッド		
			1	2	3	4	5	6	7	8	9
SpoolFileName	蓄積ファイル内の格納ファイル名	• GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあと String 配列 • GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと String	□	□	－	－	－	－	－	－	－
SpoolFileSize	格納ファイルのサイズ（バイト）	Long	－	□	－	－	－	－	－	－	－
SpoolHistory	蓄積ファイルの履歴	String 二次元配列	－	□	－	－	－	－	－	－	－
SpoolLimit	蓄積ファイルの蓄積期限日	String	－	□	△	－	－	－	－	－	－
SpoolPath	常に "" を出力	• GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあと String 配列 • GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと String	□	□	－	－	－	－	－	－	－
SpoolTitle	スプールタイトル	String	－	－	－	△	△	－	－	－	－

（凡例）

○：必ず指定します。
△：指定を省略できます。
□：結果を出力します。
－：指定できません。

9.7 RS-ActiveX 起動部品のメソッド仕様

RS-ActiveX 起動部品が提供するメソッドの詳細を説明します。

DeleteSpoolFile メソッド

指定したジョブ ID の蓄積ファイルを削除したり，蓄積期限を経過した蓄積ファイルを削除したりします。蓄積ファイルの削除，および蓄積期限切れ蓄積ファイルの一括削除については，「15.5　蓄積ファイル」を参照してください。

形式

DeleteSpoolFile()

パラメタ

なし

解説

DeleteSpoolFile メソッドは，拠点サーバ上の蓄積ファイル内の削除が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。

実行時にエラーが発生した場合，Err.Number プロパティに終了コード，
Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

なし

データ型

Empty

呼び出し例

```
' DeleteSpoolFile実行
Private Sub SUB_DeleteSpoolFile()
    Err.Clear
    On Error GoTo Err_Trap
    List5.Clear

    Dim objEURPMLS
    Dim JobID(3) As String

    Set objEURPMLS = CreateObject("EURPMLS.Exec")

    objEURPMLS.ServerAddress = "255.255.***.***"
    ''削除種別＝「通常」の設定
    If 削除種別 = "通常" Then
        objEURPMLS.DeleteKind = 0
```

```
        ''ジョブＩＤの設定
        Dim lstSearchJobID(3) As String

        lstSearchJobID(0) = "EUR200605291249433190000001******004"
        lstSearchJobID(1) = "EUR200605291252460280000001******005"
        lstSearchJobID(2) = "EUR200605291252461380000001******006"
        lstSearchJobID(3) = "EUR200605291252462630000001******007"

        objEURPMLS.SearchJobID = lstSearchJobID

    ElseIf 削除種別 = "一括" Then
        ''削除種別＝「期限切れ一括削除」の設定
        objEURPMLS.DeleteKind = 1
    End If
    ''削除実行
    Call objEURPMLS.DeleteSpoolFile

Err_Trap:
    List5.AddItem "GetAttr Err.Number=(" & Err.Number & ")"
    List5.AddItem "GetAttr Err.Description=(" & Err.Description &
")"

    Set objEURPMLS = Nothing

End Sub
```

GetPrinterClassList メソッド

PrinterClassList プロパティで指定した EUR Print Manager - Report Server のプリンタクラス一覧を取得します。

形式

GetPrinterClassList()

パラメタ

なし

解説

GetPrinterClassList メソッドは，拠点サーバ上のプリンタクラス一覧の取得が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。

実行時にエラーが発生した場合，Err.Number プロパティに終了コード，Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

UNIX/Linux 環境の場合，プリンタクラス一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Print Manager - Report Server に対して，プリンタクラス一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

戻り値

なし

データ型

Empty

呼び出し例

```
'GetPrinterClassList実行
Private Sub SUB_GetPrinterClassList()
    Err.Clear
    On Error GoTo Err_Trap
    List5.Clear

    Dim objEURPMLS
    Dim iLower, iUpper, I As Integer
    Dim jLower, jUpper, J As Integer
    Dim sEntry  As String

    Set objEURPMLS = CreateObject("EURPMLS.Exec")

    objEURPMLS.ServerAddress = "255.255.***.***"
    ''プリンタクラス一覧の取得
    objEURPMLS.GetPrinterClassList

Err_Trap:
    List5.AddItem "Err.Number=(" & Err.Number & ")"
    List5.AddItem "Err.Description=(" & Err.Description & ")"

    If Err.Number = 0 Then
        List5.AddItem ""
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココカラ ★★★★★"
        Dim cstPrinterClsList As Variant
        cstPrinterClsList = objEURPMLS.PrinterClassList

        iLower = LBound(cstPrinterClsList, 1)
        iUpper = UBound(cstPrinterClsList, 1)
        jLower = LBound(cstPrinterClsList, 2)
        jUpper = UBound(cstPrinterClsList, 2)
        For I = iLower To iUpper
            sEntry = ""
            For J = jLower To jUpper
                If J > 0 Then
                    sEntry = sEntry + ","
                End If
                sEntry = sEntry + cstPrinterClsList(I, J)
            Next
            List5.AddItem sEntry
        Next
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココマデ ★★★★★"
    End If

    Set objEURPMLS = Nothing

End Sub
```

GetPrinterList メソッド

ServerPrinterList プロパティで指定した EUR Print Manager - Report Server がある OS 上のプリンタ一覧を取得します。

形式

GetPrinterList()

パラメタ

なし

解説

GetPrinterList メソッドは，OS 上のプリンタ一覧の取得が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。

実行時にエラーが発生した場合，Err.Number プロパティに終了コード，Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

UNIX/Linux 環境の場合，プリンタ一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Print Manager - Report Server に対して，プリンタ一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

戻り値

なし

データ型

Empty

呼び出し例

```
' GetPrinterList実行
Private Sub SUB_GetPrinterList()
    Err.Clear
    On Error GoTo Err_Trap
    List5.Clear

    Dim objEURPMLS
    Dim iLower, iUpper, I As Integer

    Set objEURPMLS = CreateObject("EURPMLS.Exec")

    objEURPMLS.ServerAddress = "255.255.***.***"
    ''プリンタ一覧の取得
    Call objEURPMLS.GetPrinterList

Err_Trap:
    List5.AddItem "Err.Number=(" & Err.Number & ")"
    List5.AddItem "Err.Description=(" & Err.Description & ")"
```

```
    If Err.Number = 0 Then
        List5.AddItem ""
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココカラ ★★★★★"
        Dim cstPrinterList As Variant
        cstPrinterList = objEURPMLS.ServerPrinterList
        iLower = LBound(cstPrinterList)
        iUpper = UBound(cstPrinterList)
        For I = iLower To iUpper
            List5.AddItem cstPrinterList(I)
        Next
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココマデ ★★★★★"
    End If

    Set objEURPMLS = Nothing

End Sub
```

GetSpoolFile メソッド

指定したジョブ ID の蓄積ファイルを指定したパスに取得します。

作成されるファイル名は，SpoolFileName プロパティで出力された蓄積ファイル内の格納ファイル名になります。ただし，格納ファイル名と同一名のファイルが指定したパスにある場合は，上書きされます。蓄積ファイルの取得については，「15.5　蓄積ファイル」を参照してください。

形式

GetSpoolFile ()

パラメタ

なし

解説

GetSpoolFile メソッドは，拠点サーバ上の蓄積ファイル内の格納ファイルを OutputFilePath プロパティで指定されたフォルダに出力が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。

実行時にエラーが発生した場合，Err.Number プロパティに終了コード，Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

なし

データ型

Empty

呼び出し例

```
' GetSpoolFile実行
Private Sub SUB_GetSpoolFile()
    Err.Clear
    On Error GoTo Err_Trap
    List5.Clear

    Dim objEURPMLS

    Set objEURPMLS = CreateObject("EURPMLS.Exec")

    objEURPMLS.ServerAddress = "255.255.***.***"
    objEURPMLS.SearchJobID = "EUR20060519083703156000000l******008"
    ''取得フォルダの設定
    objEURPMLS.OutputFilePath = "c:¥¥tmp"
    ''取得実行
    Call objEURPMLS.GetSpoolFile

Err_Trap:
    List5.AddItem "GetAttr Err.Number=(" & Err.Number & ")"
    List5.AddItem "GetAttr Err.Description=(" & Err.Description &
")"

    Set objEURPMLS = Nothing

End Sub
```

GetSpoolFileAttribute メソッド

指定したジョブ ID の蓄積ファイルの属性情報を取得します。取得される蓄積ファイルの属性情報については,「15.5　蓄積ファイル」を参照してください。

形式

GetSpoolFileAttribute()

パラメタ

なし

解説

GetSpoolFileAttribute メソッドは，拠点サーバにある蓄積ファイルの属性情報の取得が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。

実行時にエラーが発生した場合，Err.Number プロパティに終了コード，
Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

なし

データ型

Empty

呼び出し例

```
' GetSpoolFileAttribute実行
Private Sub SUB_GetSpoolFileAttribute()
    Err.Clear
    On Error GoTo Err_Trap
    List5.Clear

    Dim objEURPMLS

    Set objEURPMLS = CreateObject("EURPMLS.Exec")

    objEURPMLS.ServerAddress = "255.255.***.***"
    objEURPMLS.SearchJobID = "EUR20060529125246263000000l******007"
    Call objEURPMLS.GetSpoolFileAttribute

Err_Trap:
    List5.AddItem "Err.Number=(" & Err.Number & ")"
    List5.AddItem "Err.Description=(" & Err.Description & ")"

    If Err.Number = 0 Then
        List5.AddItem ""
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココカラ ★★★★★"
        List5.AddItem "格納ファイル名：" & objEURPMLS.SpoolFileName
        List5.AddItem "ページ数：" & objEURPMLS.PageNum
        ''その他参照したい情報をプロパティから取得する
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココマデ ★★★★★"
    End If

    Set objEURPMLS = Nothing

End Sub
```

GetSpoolFileOutline メソッド

指定条件に合った EUR Print Manager - Report Server の蓄積ファイルの一覧を取得します。取得される蓄積ファイルの一覧については,「15.5　蓄積ファイル」を参照してください。

形式

GetSpoolFileOutline()

パラメタ

なし

解説

GetSpoolFileOutline メソッドは，拠点サーバ上の蓄積フォルダから検索条件に合った蓄積ファイルの一覧の取得が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。

次のプロパティのうちどれかが指定されていると，蓄積ファイルの検索処理が高速になります。

- SearchCreateTimeEnd
- SearchCreateTimeStart
- SearchJobID

実行時にエラーが発生した場合，Err.Number プロパティに終了コード，Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

なし

データ型

Empty

呼び出し例

```
' GetSpoolFileOutline実行
Private Sub SUB_GetSpoolFileOutline()
    Err.Clear
    On Error GoTo Err_Trap
    List5.Clear

    Dim objEURPMLS
    Dim iLower, iUpper, I As Integer
    Dim cstJobIDList() As Variant
    Dim cstSpoolFileNameList() As Variant
    Dim cstPageNumList() As Variant
    Dim cstCreateTimeList() As Variant
    Dim cstPrintResultList() As Variant
    Dim cstPrinterClassNameList() As Variant

    Set objEURPMLS = CreateObject("EURPMLS.Exec")

    objEURPMLS.ServerAddress = "255.255.***.***"
    Call objEURPMLS.GetSpoolFileOutline

Err_Trap:
    List5.AddItem "Err.Number=(" & Err.Number & ")"
    List5.AddItem "Err.Description=(" & Err.Description & ")"

    If Err.Number = 0 Then
        List5.AddItem ""
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココカラ ★★★★★"
        iLower = LBound(objEURPMLS.JobID)
        iUpper = UBound(objEURPMLS.JobID)
        cstJobIDList = objEURPMLS.JobID
        cstSpoolFileNameList = objEURPMLS.SpoolFileName
        cstPageNumList = objEURPMLS.PageNum
        cstCreateTimeList = objEURPMLS.CreateTime
        cstPrintResultList = objEURPMLS.PrintResult
        cstPrinterClassNameList = objEURPMLS.PrinterClassName

        For I = iLower To iUpper
            List5.AddItem "ジョブＩＤ[" & Trim(Str(I)) & "]：" &
cstJobIDList(I)
```

```
            List5.AddItem "格納ファイル名[" & Trim(Str(I)) & "]：" &
cstSpoolFileNameList(I)
            List5.AddItem "ページ数[" & Trim(Str(I)) & "]：" &
cstPageNumList(I)
            List5.AddItem "作成日時[" & Trim(Str(I)) & "]：" &
cstCreateTimeList(I)
            List5.AddItem "印刷結果[" & Trim(Str(I)) & "]：" &
cstPrintResultList(I)
           List5.AddItem "プリンタクラス名[" & Trim(Str(I)) & "]：" &
cstPrinterClassNameList(I)

        Next
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココマデ ★★★★★"
    End If

    Set objEURPMLS = Nothing

End Sub
```

GetTrayList メソッド

ServerTrayList プロパティで指定した EUR Print Manager - Report Server がある OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。

形式

GetTrayList()

パラメタ

なし

解説

GetTrayList メソッドは，OS 上のプリンタのトレイ一覧が取得終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。

実行時にエラーが発生した場合，Err.Number プロパティに終了コード，Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

UNIX/Linux 環境の場合，トレイ一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Print Manager - Report Server に対して，トレイ一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

戻り値

なし

データ型

Empty

呼び出し例

```
' GetTrayList実行
Private Sub SUB_GetTrayList()
    Err.Clear
    On Error GoTo Err_Trap
    List5.Clear

    Dim objEURPMLS
    Dim iLower, iUpper, I As Integer

    Set objEURPMLS = CreateObject("EURPMLS.Exec")

    objEURPMLS.ServerAddress = "255.255.***.***"
    ''OS上のプリンタ名の設定
    objEURPMLS.ServerPrinterName = "Printer1"
    ''OS上のプリンタのトレイ一覧の取得
    Call objEURPMLS.GetTrayList

Err_Trap:
    List5.AddItem "Err.Number=(" & Err.Number & ")"
    List5.AddItem "Err.Description=(" & Err.Description & ")"

    If Err.Number = 0 Then
        Dim cstTrayList As Variant
        cstTrayList = objEURPMLS.ServerTrayList

        List5.AddItem ""
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココカラ ★★★★★"
        iLower = LBound(cstTrayList)
        iUpper = UBound(cstTrayList)
        For I = iLower To iUpper
            List5.AddItem cstTrayList(I)
        Next
        List5.AddItem "★★★★★ 結果出力ココマデ ★★★★★"
    End If

    Set objEURPMLS = Nothing

End Sub

' Initialize実行
Private Sub SUB_Initialize()
    Err.Clear
    On Error GoTo Err_Trap
    List5.Clear

    Dim objEURPMLS

    Set objEURPMLS = CreateObject("EURPMLS.Exec")

    '変更したい項目を修正する
    objEURPMLS.ServerAddress = "255.255.***.***"
    objEURPMLS.SearchJobID = "EUR20060529125246263000000l******007"
    objEURPMLS.SpoolLimit = "20060615"
    objEURPMLS.PrinterClassName = "Ａ３"

    Call objEURPMLS.SetSpoolFileAttribute

    '先に指定したプロパティを初期化する
    Call objEURPMLS.Initialize

    '変更したい項目を修正する
    objEURPMLS.ServerAddress = "255.255.***.***"
```

```
    objEURPMLS.SearchJobID = "EUR20060519025949839000000l******019"
    objEURPMLS.MaxPrintCount = 100

    Call objEURPMLS.SetSpoolFileAttribute

Err_Trap:
    List5.AddItem "GetAttr Err.Number=(" & Err.Number & ")"
    List5.AddItem "GetAttr Err.Description=(" & Err.Description &
")"

    Set objEURPMLS = Nothing

End Sub
```

Initialize メソッド

指定されたすべてのプロパティをクリアにして，初期状態に戻します。

形式

Initialize()

パラメタ

なし

解説

Initialize メソッドは，EUR Print Manager - Report Server Adapter のプロパティの初期化処理が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。

実行時にエラーが発生した場合，Err.Number プロパティに終了コード，
Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

なし

データ型

Empty

呼び出し例

```
' Initialize実行
Private Sub SUB_Initialize()
    Err.Clear
    On Error GoTo Err_Trap
    List5.Clear

    Dim objEURPMLS

    Set objEURPMLS = CreateObject("EURPMLS.Exec")

    '変更したい項目を修正する
    objEURPMLS.ServerAddress = "255.255.***.***"
```

```
    objEURPMLS.SearchJobID = "EUR20060529125246263000000l******007"
    objEURPMLS.SpoolLimit = "20060615"
    objEURPMLS.PrinterClassName = "Ａ３"

    Call objEURPMLS.SetSpoolFileAttribute

    '先に指定したプロパティを初期化する
    Call objEURPMLS.Initialize

    '変更したい項目を修正する
    objEURPMLS.ServerAddress = "255.255.***.***"
    objEURPMLS.SearchJobID = "EUR20060519025949839000000l******019"
    objEURPMLS.MaxPrintCount = 100

    Call objEURPMLS.SetSpoolFileAttribute

Err_Trap:
    List5.AddItem "GetAttr Err.Number=(" & Err.Number & ")"
    List5.AddItem "GetAttr Err.Description=(" & Err.Description &
")"

    Set objEURPMLS = Nothing

End Sub
```

PrintSpoolReport メソッド

指定したジョブ ID の蓄積ファイルの蓄積データ印刷を実行します。

形式

PrintSpoolReport()

パラメタ

なし

解説

PrintSpoolReport メソッドは，拠点サーバ上のプリンタスプールへの出力が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。

実行時にエラーが発生した場合，Err.Number プロパティに終了コード，Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

なし

データ型

Empty

呼び出し例

```
' PrintSpoolReport実行
Private Sub SUB_PrintSpoolReport()
    Err.Clear
    On Error GoTo Err_Trap
    List5.Clear

    Dim objEURPMLS

    Set objEURPMLS = CreateObject("EURPMLS.Exec")

    objEURPMLS.ServerAddress = "255.255.***.***"
    objEURPMLS.SearchJobID = "EUR20060519083703156000000l******008"
    ''印刷モード=拠点印刷
    objEURPMLS.PrintStartPage = 0
    ''開始，終了ページの指定
    objEURPMLS.PrintStartPage = 3
    objEURPMLS.PrintEndPage = 5
    ''印刷実行
    Call objEURPMLS.PrintSpoolReport

Err_Trap:
    List5.AddItem "GetAttr Err.Number=(" & Err.Number & ")"
    List5.AddItem "GetAttr Err.Description=(" & Err.Description &
")"

    Set objEURPMLS = Nothing

End Sub
```

SetSpoolFileAttribute メソッド

指定したジョブ ID の蓄積ファイルの属性情報を変更します。変更できる蓄積ファイルの属性情報については，「15.5　蓄積ファイル」を参照してください。

形式

SetSpoolFileAttribute()

パラメタ

なし

解説

SetSpoolFileAttribute メソッドは，拠点サーバにある蓄積ファイルの属性情報の変更が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。

SetSpoolFileAttribute メソッドは，指定できるプロパティのうち，指定のあったプロパティだけを変更します。SetSpoolFileAttribute メソッドで指定できるプロパティについては，「9.6.2　RS-ActiveX 起動部品が提供するプロパティ一覧」を参照してください。また，指定できるプロパティは，一つ以上指定してください。指定されていない場合は，エラー（KEEY528-E）になります。

実行時にエラーが発生した場合，Err.Number プロパティに終了コード，
Err.Description プロパティにメッセージが設定されます。

戻り値

なし

データ型

Empty

呼び出し例

```
' SetSpoolFileAttribute実行
Private Sub SUB_SetSpoolFileAttribute()
    Err.Clear
    On Error GoTo Err_Trap
    List5.Clear

    Dim objEURPMLS

    Set objEURPMLS = CreateObject("EURPMLS.Exec")

    objEURPMLS.ServerAddress = "255.255.***.***"
    objEURPMLS.SearchJobID = "EUR20060529125246263000000l******007"
    '変更したい項目を修正する
    objEURPMLS.SpoolLimit = "20060615"
    objEURPMLS.PrinterClassName = "Ａ３"

    Call objEURPMLS.SetSpoolFileAttribute

Err_Trap:
    List5.AddItem "GetAttr Err.Number=(" & Err.Number & ")"
    List5.AddItem "GetAttr Err.Description=(" & Err.Description &
")"

    Set objEURPMLS = Nothing

End Sub
```

9.8 RS-ActiveX 起動部品のプロパティ仕様

RS-ActiveX 起動部品が提供するプロパティの詳細を説明します。

ClientAddress プロパティ

蓄積クライアント印刷するときのクライアント PC の IP アドレスを入出力します。

解説

- ClientAddress プロパティは，次に示すメソッドを呼び出すタイミングによって，クライアント PC の IP アドレスを入出力します。
  - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
    蓄積クライアント印刷するときのクライアント IP アドレスが「255.255.255.255」形式で出力されます。
  - SetSpoolFileAttribute メソッド，および PrintSpoolReport メソッドを呼び出す前
    蓄積クライアント印刷するときのクライアント IP アドレスを「255.255.255.255」形式で指定します。長さは 15 バイトまでです。
- サーバアプリケーションから次のような API を使用すると，Web クライアントの要求元を取得できます。指定方法などについては，各 API のアプリケーションサーバの仕様を確認してください。

  ASP の場合
  Request.ServerVariables("REMOTE_ADDR")

  JSP の場合
  request.getRemoteAddr()
- ClientAddress プロパティは，GetSpoolFileAttribute メソッド，および SetSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，ならびに PrintSpoolReport メソッドで蓄積クライアント印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，ClientAddress プロパティを指定しても無視されます。
- 蓄積クライアント印刷する場合に ClientAddress プロパティの指定を省略したときは，蓄積ファイルの属性情報でクライアント PC の IP アドレスを決定して印刷します。複数の蓄積ファイルの印刷データを統合して印刷するときは，最初に指定した蓄積ファイルの属性情報でクライアント PC の IP アドレスを決定します。
  なお，ClientAddress プロパティと蓄積ファイルの属性情報のどちらにもクライアント IP アドレスの設定がないときは，蓄積クライアント印刷実行時にエラーとなります。

データ型

String

ClientPrinterName プロパティ

蓄積クライアント印刷するときの OS 上のプリンタ名を入出力します。

解説

- プリンタ名を指定するときは，次のことに注意してください。
  - プリンタ名は，80 バイト以内で指定してください。
  - プリンタ名には「"」および「,」を含めないでください。
- 蓄積クライアント印刷するときに ClientPrinterName プロパティの指定があると，DispPrintDlg プロパティは強制的に「1（自動印刷）」になります。蓄積時に指定したクライアント PC のプリンタに出力されます。
- ClientPrinterName プロパティは，次に示すメソッドを呼び出すタイミングによって，蓄積クライアント印刷するときのプリンタ名を入出力します。
  - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
    クライアント PC の，OS 上のプリンタ名が出力されます。
  - SetSpoolFileAttribute メソッド，および PrintSpoolReport メソッドを呼び出す前
    クライアント PC の，OS 上のプリンタ名を指定します。
- ClientPrinterName プロパティは，GetSpoolFileAttribute メソッド，および SetSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，ならびに PrintSpoolReport メソッドで蓄積クライアント印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，ClientPrinterName プロパティを指定しても無視されます。
- 蓄積クライアント印刷する場合に ClientPrinterName プロパティの指定を省略したときは，次の値が仮定されます。
  - ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
    指定したジョブ ID の蓄積ファイルの属性情報に設定されている値
  - ジョブ ID を複数指定しているとき
    最初に指定したジョブ ID の蓄積ファイルの属性情報に設定されている値
- 蓄積クライアント印刷する場合に ClientPrinterName プロパティに 0 バイトの値を指定したときは，プリンタ名情報は未設定となります。

データ型

String

ClientTrayName プロパティ

蓄積クライアント印刷するときのプリンタのトレイ名を入出力します。

解説

- トレイ名を指定するときは，次のことに注意してください。
  - トレイ名は，80 バイト以内で指定してください。
  - トレイ名には「"」および「,」を含めないでください。
- 蓄積クライアント印刷するときに ClientPrinterName プロパティの指定があると，ClientTrayName プロパティで指定したトレイから給紙されます。
  ClientPrinterName プロパティで指定したプリンタで ClientTrayName プロパティに指定したトレイ名が使用できないときは，ClientPrinterName プロパティで指定したプリンタのデフォルトのトレイから給紙されます。
- 蓄積クライアント印刷する場合に ClientTrayName プロパティの指定を省略したときは，次の値が仮定されます。
  - ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
    指定したジョブ ID の蓄積ファイルの属性情報に設定されている値
  - ジョブ ID を複数指定しているとき
    最初に指定したジョブ ID の蓄積ファイルの属性情報に設定されている値
- 蓄積クライアント印刷する場合に ClientTrayName プロパティに 0 バイトの値を指定したときは，トレイ名情報は未設定となります。
- ClientTrayName プロパティは，次に示すメソッドを呼び出すタイミングによって，蓄積クライアント印刷するときのプリンタのトレイ名を入出力します。
  - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
    クライアント PC の，OS 上のプリンタのトレイ名が出力されます。
  - SetSpoolFileAttribute メソッド，および PrintSpoolReport メソッドを呼び出す前
    クライアント PC の，OS 上のプリンタのトレイ名を指定します。
- ClientTrayName プロパティは，GetSpoolFileAttribute メソッド，および SetSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，ならびに PrintSpoolReport メソッドで蓄積クライアント印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，ClientTrayName プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

CreateIPAddress プロパティ

蓄積ファイル作成者の IP アドレスを出力します。

解説

- CreateIPAddress プロパティは，GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと，蓄積ファイル作成者の IP アドレスが「255.255.255.255」形式で出力されます。

- CreateIPAddress プロパティは，GetSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，CreateIPAddress プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

CreateLSVersion プロパティ

蓄積ファイルのフォーマットバージョンを出力します。

解説

- CreateLSVersion プロパティは，GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと，蓄積ファイルのフォーマットバージョンが「VV － RR」形式で出力されます。
  蓄積ファイルのフォーマットバージョンは，EUR Print Manager - Report Server のバージョンとは異なります。
- CreateLSVersion プロパティは，GetSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，CreateLSVersion プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

CreateTime プロパティ

蓄積ファイル内の作成日時を出力します。

解説

- CreateTime プロパティは，次に示すどちらのメソッドを呼び出すかによって，作成日時を出力する蓄積ファイルの情報が異なります。
  - GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあと
    検索条件に合った蓄積ファイルの作成日時が配列で出力されます。
  - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
    指定したジョブ ID の蓄積ファイルの作成日時が出力されます。
- 出力される蓄積ファイルの作成日時の形式は「YYYYMMDDhhmmss」です。
  「YYYYMMDDhhmmss」形式の内容を次に示します。
  - YYYY：年（西暦）を 4 けたで示します。
  - MM：月（01 ～ 12）を 2 けたで示します。01 ～ 09 は，ゼロ埋めされます。
  - DD：日（01 ～ 31）を 2 けたで示します。01 ～ 09 は，ゼロ埋めされます。
  - hh：時（00 ～ 23）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めされます。

- mm：分（00 ～ 59）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めされます。
- ss：秒（00 ～ 59）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めされます。

（出力例）20060523015630

- CreateTime プロパティは，GetSpoolFileOutline メソッド，および GetSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，CreateTime プロパティを指定しても無視されます。

データ型

- String 配列（GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあとの場合）
- String（GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあとの場合）

DeleteKind プロパティ

蓄積ファイルを削除するときの削除種別を指定します。

解説

- 蓄積ファイルを削除するときの削除種別を，0，または 1 で指定します。0，または 1 以外の値を指定したときは，エラーになります。デフォルトは，「0（通常削除）」です。
  - 0：通常削除
    SearchJobID プロパティで指定したジョブ ID に該当する蓄積ファイルを削除します。
  - 1：蓄積期限切れファイルの削除
    EUR Print Manager - Report Server のあるマシンで，蓄積期限が過ぎている蓄積ファイルを削除します。
- 蓄積期限切れファイルの削除は，環境設定ファイル（EURPMLS.ini）で OPTION セクションの ESFAUTODEL キーに「1（自動削除します）」を設定しておくことで，次に示すタイミングで自動的に実行することもできます。
  - EUR Print Manager - Report Server のサービスを起動したとき
  - EUR Print Manager - Report Server が稼働するマシンの日付が変わったあと，EUR Print Manager - Report Server に対して最初の要求があったとき
- DeleteKind プロパティは，DeleteSpoolFile メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，DeleteKind プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

DispPrintDlg プロパティ

蓄積クライアント印刷するときのダイアログ表示モードを入出力します。

解説

- 指定できる値と蓄積クライアント印刷時の動作を次に示します。
  - 0：印刷先指定ダイアログを表示します（対話型印刷）。
    プレビューボタンを選択すると，プレビューウィンドウが表示されます。
  - 1：直接印刷を実行します（自動印刷）。
    印刷実行中に印刷中のダイアログが表示されます。
  - 2：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示）。
    印刷メニューまたは印刷ボタンを選択すると，印刷先指定ダイアログが表示されます。
  - 3：直接印刷を実行します（全自動印刷）。
    印刷実行中に印刷中のダイアログは表示されません。
  - 4：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示限定）。
    印刷は実行できません。
- 蓄積クライアント印刷実行時，ClientPrinterName プロパティに値を指定している場合，かつ DispPrintDlg プロパティに 0 または 2 を指定した場合は，DispPrintDlg プロパティに 1 が仮定されます。
- DispPrintDlg プロパティは，次に示すメソッドを呼び出すタイミングによって，蓄積クライアント印刷するときのダイアログ表示モードを入出力します。
  - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
    蓄積クライアント印刷するときのダイアログ表示モードが出力されます。
  - SetSpoolFileAttribute メソッド，および PrintSpoolReport メソッドを呼び出す前
    蓄積クライアント印刷するときのダイアログ表示モードを指定します。
- SetSpoolFileAttribute メソッド実行時に，0 ～ 4 以外の値が指定されていたときは，エラーになります。
- DispPrintDlg プロパティは，GetSpoolFileAttribute メソッド，および SetSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，ならびに PrintSpoolReport メソッドで蓄積クライアント印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，DispPrintDlg プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

EnableGet プロパティ

蓄積ファイルの取得を許可するかどうかを入出力します。

解説

- EnableGet プロパティは，次に示すメソッドを呼び出すタイミングによって，蓄積ファイルの取得を許可するかどうかを入出力します。
  - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
    蓄積ファイルの取得許可情報が出力されます。
  - SetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出す前
    蓄積ファイルの取得許可を指定します。
- 蓄積ファイルの取得許可情報を次に示します。
  - True：蓄積ファイルの取得を許可します。
  - False：蓄積ファイルの取得を許可しません。
- EnableGet プロパティは，GetSpoolFileAttribute メソッド，および SetSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，EnableGet プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Boolean

ExecPrintCount プロパティ

蓄積ファイルの印刷実行回数を出力します。

解説

- ExecPrintCount プロパティは，GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと，蓄積ファイルの印刷実行回数が出力されます。
  印刷実行回数は，拠点サーバでの印刷で印刷スプールへの出力が成功したとき，またはクライアント PC での印刷で印刷データの転送が成功したときに，1 カウントずつアップされます。
- ExecPrintCount プロパティは，GetSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，ExecPrintCount プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

ExecutablePrintMode プロパティ

蓄積ファイルの実行可能印刷方式を入出力します。

解説

- ExecutablePrintMode プロパティは，次に示すメソッドを呼び出すタイミングによっ

て，蓄積ファイルの実行可能印刷方式を入出力します。
- GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
  蓄積ファイルの実行可能印刷方式が出力されます。
- SetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出す前
  蓄積ファイルの実行可能印刷方式を指定します。

- 蓄積ファイルの実行可能印刷方式を次に示します。
  - 0：蓄積拠点サーバ印刷
  - 1：蓄積拠点サーバ印刷／蓄積クライアント印刷
  - 2：蓄積クライアント印刷

  SetSpoolFileAttribute メソッド実行時に，0，1，または 2 以外の値が指定されていたときは，エラーになります。
- ExecutablePrintMode プロパティは，GetSpoolFileAttribute メソッド，および SetSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，ExecutablePrintMode プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

GroupName プロパティ

蓄積ファイルの振り分けグループ名を入出力します。

解説

- 振り分けグループ名を指定するときは，次のことに注意してください。
  - 振り分けグループ名は，80 バイト以内で指定してください。
  - 文字列に「"」，および「,」を含めないでください。

- GroupName プロパティは，次に示すメソッドを呼び出すタイミングによって，蓄積ファイルの振り分けグループ名を入出力します。
  - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
    蓄積ファイルの振り分けグループ名が出力されます。
  - SetSpoolFileAttribute メソッド，および PrintSpoolReport メソッドを呼び出す前
    蓄積ファイルの振り分けグループ名を指定します。

- GroupName プロパティは，GetSpoolFileAttribute メソッド，および SetSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，ならびに PrintSpoolReport メソッドで蓄積拠点サーバ印刷する場合でプリンタ指定方式に帳票名による自動振り分け（PrinterSelectMode=2）を指定したときに指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，GroupName プロパティを指定しても無視されます。
- 蓄積拠点サーバ印刷で GroupName プロパティの指定が有効な場合に，GroupName

プロパティの指定を省略したときや 0 バイトの値を指定したときは，デフォルトの振り分けグループで出力先を決定して印刷します。

データ型

String

JobID プロパティ

ジョブ ID を出力します。

解説

- JobID プロパティは，GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあと，検索条件に合った蓄積ファイルのジョブ ID が配列で出力されます。
- JobID プロパティは，GetSpoolFileOutline メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，JobID プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String 配列

JobKeyCategory プロパティ

蓄積ファイルのジョブ検索キーの分類を入出力します。

解説

- JobKeyCategory プロパティは，次に示すメソッドを呼び出すタイミングによって，蓄積ファイルのジョブ検索キーの分類を入出力します。
  - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
    蓄積ファイルのジョブ検索キーの分類が出力されます。
  - SetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出す前
    蓄積ファイルのジョブ検索キーの分類を指定します。
- ジョブ検索キーを指定する場合は，1 ～ 10 個の配列で指定してください。また，JobKeyCategory プロパティを指定する場合は，ジョブ検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず JobKeyData プロパティに指定してください。このとき，配列の要素数は同じにしてください。配列の要素数が異なると，SetSpoolFileAttribute メソッド実行時にエラーになります。また，ジョブ検索キーを指定しない場合は，JobKeyCategory プロパティと JobKeyData プロパティのどちらも指定しないでください。どちらかの指定があると対応する情報がないため，SetSpoolFileAttribute メソッド実行時にエラーになります。
- ジョブ検索キーは，任意文字列を指定できます。指定するときは，次のことに注意し

てください。
- 文字列は，80 バイト以内で指定してください。
- 文字列に「,」を含めないでください。

- JobKeyCategory プロパティは，GetSpoolFileAttribute メソッド，および SetSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，JobKeyCategory プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String 配列

JobKeyData プロパティ

蓄積ファイルのジョブ検索キーの値を入出力します。

解説

- JobKeyData プロパティは，次に示すメソッドを呼び出すタイミングによって，蓄積ファイルのジョブ検索キーの値を入出力します。
  - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
    蓄積ファイルのジョブ検索キーの値が出力されます。
  - SetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出す前
    蓄積ファイルのジョブ検索キーの値を指定します。
- ジョブ検索キーを指定する場合は，1 ～ 10 個の配列で指定してください。また，JobKeyCategory プロパティを指定する場合は，検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず JobKeyData プロパティに指定してください。このとき，配列の要素数は同じにしてください。配列の要素数が異なると，SetSpoolFileAttribute メソッド実行時にエラーになります。また，検索キーを指定しない場合は，JobKeyCategory プロパティと JobKeyData プロパティのどちらも指定しないでください。どちらかの指定があると対応する情報がないため，SetSpoolFileAttribute メソッド実行時にエラーになります。
- 値は，任意文字列を指定できます。指定するときは，次のことに注意してください。
  - 文字列は，80 バイト以内で指定してください。
  - 文字列に「,」を含めないでください。

- JobKeyData プロパティは，GetSpoolFileAttribute メソッド，および SetSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，JobKeyData プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String 配列

MaxPrintCount プロパティ

蓄積ファイルの印刷上限回数を入出力します。

解説

- MaxPrintCount プロパティは，次に示すメソッドを呼び出すタイミングによって，蓄積ファイルの印刷上限回数を入出力します。
  - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
    蓄積ファイルの印刷上限回数が出力されます。
  - SetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出す前
    蓄積ファイルの印刷上限回数を指定します。
- 印刷上限回数に指定できる値は，-1 ～ 65,536 です。
  - 印刷回数の上限を無限にする場合は，-1 を指定してください。
  - 印刷を禁止する場合は，0 を指定してください。
  - 印刷回数を指定する場合は，1 ～ 65,536 の範囲内で指定してください。

  SetSpoolFileAttribute メソッド実行時に，-1，0，または 1 ～ 65,536 以外の値が指定されていたときは，エラーになります。
- MaxPrintCount プロパティは，GetSpoolFileAttribute メソッド，および SetSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，MaxPrintCount プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

OutputFileName プロパティ

蓄積ファイルを取得するときの出力ファイル名を指定します。

解説

- 出力ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- OutputFileName プロパティを省略した場合，ファイル名は次のようになります。
  - ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
    指定したジョブ ID の蓄積ファイルに格納されている印刷データのファイル名
  - ジョブ ID を複数指定しているとき
    最初に指定したジョブ ID の蓄積ファイルに格納されている印刷データのファイル名
- OutputFileName プロパティは，GetSpoolFile メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，OutputFileName プロパティ

を指定しても無視されます。

データ型

String

OutputFilePath プロパティ

蓄積ファイルを取得するとき，取得するフォルダのパスを指定します。

解説

- EUR Print Manager - Report Server Adapter の環境設定ファイル（EURPMLSADP.ini）で，PATH セクションに OUTPUTFILE キーを指定することで，デフォルトの蓄積ファイル取得フォルダを指定することもできます。ただし，GetSpoolFile メソッドを実行した場合，OutputFilePath プロパティ，または環境設定ファイルのどちらも指定されていないときは，エラーになります。
- フォルダのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- OutputFilePath プロパティは，GetSpoolFile メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，OutputFilePath プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

PageNum プロパティ

蓄積ファイルに格納された印刷データのページ数を出力します。

解説

- PageNum プロパティは，次に示すどちらのメソッドを呼び出すかによって，蓄積ファイルに格納された印刷データのページ数の情報が異なります。
  - GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあと
    検索条件に合った蓄積ファイルに格納されている印刷データのページ数が配列で出力されます。
  - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
    指定したジョブ ID の蓄積ファイルに格納されている印刷データのページ数が出力されます。
- PageNum プロパティは，GetSpoolFileOutline メソッド，および GetSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，PageNum プロパティを指定しても無視されます。

データ型

- Long 配列（GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあとの場合）
- Long（GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあとの場合）

PaperOrientation プロパティ

用紙の向きを指定します。

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：印刷データを蓄積したときのページごとの属性に従います。
- 1：用紙の向きを縦にして出力します。
- 2：用紙の向きを横にして出力します。

PaperOrientation プロパティを省略した場合，次のように動作します。

- ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
  指定したジョブ ID の蓄積ファイルに格納されている印刷データの属性情報に従います。
- ジョブ ID を複数指定しているとき
  印刷データを蓄積したときのページごとの属性に従います。

PaperOrientation プロパティは，GetSpoolFile メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，および PrintSpoolReport メソッドで印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，PaperOrientation プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

PrintCopies プロパティ

印刷部数を指定します。

解説

指定できる値は，1 ～ 99 です。PrintCopies プロパティを省略した場合，次の値が仮定されます。

- ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
  指定したジョブ ID の蓄積ファイルに格納されている印刷データの属性情報に設定されている値
- ジョブ ID を複数指定しているとき

1

PrintCopies プロパティは，GetSpoolFile メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，および PrintSpoolReport メソッドで印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，PrintCopies プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

PrintEndPage プロパティ

蓄積拠点サーバ印刷するときの終了ページを指定します。

解説

- PrintEndPage プロパティは，蓄積印刷方式が蓄積拠点サーバ印刷（PrintMode=0）のとき，有効になります。蓄積クライアント印刷（PrintMode=1）のときは，PrintEndPage プロパティを指定しても無視されます。
- 指定できる値は，1 ～ 999,999 です。PrintEndPage プロパティを省略した場合は，最終ページまで印刷されます。また，蓄積ファイルに格納されている印刷データの最終ページ数より PrintEndPage プロパティに指定した値が大きい場合も，最終ページまで印刷されます。
- PrintEndPage プロパティは，PrintSpoolReport メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，PrintEndPage プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

PrinterClassList プロパティ

プリンタクラス一覧を出力します。

解説

- GetPrinterClassList メソッドを呼び出したあと，プリンタクラス一覧が出力されます。プリンタクラス一覧は，次に示す形式でプリンタクラス情報数分出力されます。[プリンタクラス名][OS 上のプリンタ名][OS 上のプリンタのトレイ名][説明]
- 拠点サーバにプリンタクラス定義がない場合，配列の要素数は 0 になります。
- PrinterClassList プロパティは，GetPrinterClassList メソッドでプリンタクラス一覧を取得する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，PrinterClassList プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String 二次元配列

PrinterClassName プロパティ

蓄積ファイルのプリンタクラス名を入出力します。

解説

- 蓄積拠点サーバ印刷する場合にプリンタ指定方式でプリンタクラス名指定（PrinterSelectMode=0）を指定したとき，および蓄積クライアント印刷する場合に ClientPrinterName プロパティの指定がないときに，PrinterClassName プロパティで指定したプリンタクラスを出力先にします。SetSpoolFileAttribute メソッドの呼び出しでプリンタクラス名を変更しても無視されます。
- PrinterClassName プロパティは，次に示すどのメソッドを呼び出すかによって，蓄積ファイルのプリンタクラス名の入出力が異なります。
  - GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあと
    検索条件に合った蓄積ファイルのプリンタクラス名が配列で出力されます。
  - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
    指定したジョブ ID の蓄積ファイルのプリンタクラス名が出力されます。
  - SetSpoolFileAttribute メソッド，PrintSpoolReport メソッド，および GetSpoolFile メソッドを呼び出す前
    蓄積ファイルのプリンタクラス名を指定します。SetSpoolFileAttribute メソッドで蓄積後に変更したプリンタクラス名が有効になるのは，拠点サーバ印刷だけです。
- プリンタクラス名は，任意の文字列を指定できます。指定するときは，次のことに注意してください。
  - プリンタクラス名は，80 バイト以内で指定してください。
  - プリンタクラス名に「"」および「,」を含めないでください。
- PrinterClassName プロパティは，GetSpoolFileOutline メソッド，GetSpoolFileAttribute メソッド，SetSpoolFileAttribute メソッド，および GetSpoolFile メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，ならびに PrintSpoolReport メソッドで印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，PrinterClassName プロパティを指定しても無視されます。
- 蓄積拠点サーバ印刷でプリンタ指定方式がプリンタクラス名指定（PrinterSelectMode=0）の場合に，PrinterClassName プロパティの指定を省略したときや 0 バイトの値を指定したときは，デフォルトのプリンタクラスで印刷します。
- 蓄積クライアント印刷する場合，および蓄積ファイルを取得する場合に PrinterClassName プロパティに 0 バイトの値を指定したときは，プリンタクラス情報は未設定となります。
- 蓄積クライアント印刷する場合，および蓄積ファイルを取得する場合に PrinterClassName プロパティの指定を省略したときは，次のようになります。

- ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
  指定したジョブ ID の蓄積ファイルの属性情報に設定されている値が仮定されます。
- ジョブ ID を複数指定しているとき
  プリンタクラス情報は未設定となります。

データ型

- String 配列（GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあとの場合）
- String（GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあとの場合）
- String（SetSpoolFileAttribute メソッド，GetSpoolFile メソッド，または PrintSpoolReport メソッドを呼び出す前の場合）

PrinterSelectMode プロパティ

蓄積拠点サーバ印刷するときのプリンタ指定方式を入出力します。

解説

- PrinterSelectMode プロパティは，次に示すメソッドを呼び出すタイミングによって，蓄積拠点サーバ印刷するときのプリンタ指定方式を入出力します。
  - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
    蓄積拠点サーバ印刷するときのプリンタ指定方式が出力されます。
  - SetSpoolFileAttribute メソッド，および PrintSpoolReport メソッドを呼び出す前
    蓄積拠点サーバ印刷するときのプリンタ指定方式を指定します。
- PrintSpoolReport メソッド実行時に PrinterSelectMode プロパティを指定する場合，帳票の出力先は次のプロパティの指定値によって決定します。
  - PrinterClassName プロパティ
  - ServerPrinterName プロパティ
  - ServerTrayName プロパティ
  - GroupName プロパティ

  どのプロパティの指定値が有効になるかは，PrinterSelectMode プロパティの指定値によって異なります。また，指定を省略した場合は，そのプロパティの情報は未設定として扱われます。
- PrintSpoolReport メソッド実行時に PrinterSelectMode プロパティの指定を省略する場合は，次の値が仮定されます。
  - ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
    指定したジョブ ID の蓄積ファイルの属性情報に設定されている値
  - ジョブ ID を複数指定しているとき
    最初に指定したジョブ ID の蓄積ファイルの属性情報に設定されている値
- 蓄積拠点サーバ印刷するときのプリンタ指定方式を次に示します。
  - 0：プリンタクラス名指定
  - 1：OS 上のプリンタ名指定

- 2：帳票名による自動振り分け

SetSpoolFileAttribute メソッド実行時に，0，1，または 2 以外の値が指定されていたときは，エラーになります。

- PrinterSelectMode プロパティは，GetSpoolFileAttribute メソッド，および SetSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，ならびに PrintSpoolReport メソッドで印刷を実行する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，PrinterSelectMode プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

PrintMode プロパティ

蓄積したデータの印刷方式を指定します。

解説

- 蓄積したデータの印刷方式を次に示します。PrintMode プロパティを省略した場合は，0 が仮定されます。
  - 0：蓄積拠点サーバ印刷
  - 1：蓄積クライアント印刷

PrintSpoolReport メソッド実行時に，0，または 1 以外の値が指定されていたときは，エラーになります。

- PrintMode プロパティは，PrintSpoolReport メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，PrintMode プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

PrintResult プロパティ

蓄積ファイル内の印刷結果を出力します。

解説

- 出力される印刷結果を次に示します。
  - 0：未印刷であることを示します。
  - 1：印刷済みであることを示します。
  - 2：印刷エラーがあったことを示します。
- PrintResult プロパティは，次に示すどちらのメソッドを呼び出すかによって，蓄積

ファイル内の印刷結果の情報が異なります。
- GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあと
  検索条件に合った蓄積ファイルの印刷結果が配列で出力されます。
- GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
  指定したジョブ ID の蓄積ファイルの印刷結果が出力されます。

- PrintResult プロパティは，GetSpoolFileOutline メソッド，および GetSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，PrintResult プロパティを指定しても無視されます。

データ型
- Long 配列（GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあとの場合）
- Long（GetSpoolFileAttribute メソッド呼び出したあとの場合）

PrintStartPage プロパティ

蓄積拠点サーバ印刷するときの開始ページを指定します。

解説
- PrintStartPage プロパティは，蓄積印刷方式が蓄積拠点サーバ印刷（PrintMode=0）のとき，有効になります。蓄積クライアント印刷（PrintMode=1）のときは，PrintStartPage プロパティを指定しても無視されます。
- 指定できる値は，1 ～ 999,999 です。PrintStartPage プロパティを省略した場合は，1 ページから印刷されます。
- PrintStartPage プロパティに指定した値が蓄積ファイルに格納されている印刷データの最終ページ数より大きい場合は，印刷データの最終ページだけ印刷されます。
- PrintStartPage プロパティは，PrintSpoolReport メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，PrintStartPage プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

PrintTime プロパティ

蓄積ファイルの印刷日時を出力します。

解説
- 出力される蓄積ファイルの印刷日時の形式は「YYYYMMDDhhmmss」です。
  「YYYYMMDDhhmmss」形式の内容を次に示します。
  - YYYY：年（西暦）を 4 けたで示します。

- MM：月（01 ～ 12）を 2 けたで示します。01 ～ 09 は，ゼロ埋めされます。
- DD：日（01 ～ 31）を 2 けたで示します。01 ～ 09 は，ゼロ埋めされます。
- hh：時（00 ～ 23）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めされます。
- mm：分（00 ～ 59）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めされます。
- ss：秒（00 ～ 59）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めされます。

（出力例）20060523015630

- 蓄積ファイルが一度も印刷されていない場合は，"" が出力されます。
- PrintTime プロパティは，GetSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，PrintTime プロパティを指定しても無視されます。
- 蓄積ファイルの印刷日時は，蓄積したデータを拠点サーバまたはクライアント PC で印刷したタイミングで，ジョブ実行時の日時に更新されます。

データ型

String

SearchCreateTimeEnd プロパティ

ファイル作成日時で蓄積ファイルを検索するときの検索終了日時を指定します。

SearchCreateTimeEnd プロパティを指定すると，メソッド実行速度が速くなることがあります。

解説

- 蓄積フォルダのファイル一覧を取得する場合，検索条件としてファイル作成日時を使用するときに，検索終了日時を「YYYYMMDDhhmmss」形式で指定します。指定できる文字列は，14 バイトまでです。
  「YYYYMMDDhhmmss」形式の内容を次に示します。
  - YYYY：年（西暦）を 4 けたで示します。
  - MM：月（01 ～ 12）を 2 けたで示します。01 ～ 09 は，ゼロ埋めします。
  - DD：日（01 ～ 31）を 2 けたで示します。01 ～ 09 は，ゼロ埋めします。
  - hh：時（00 ～ 23）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めします。
  - mm：分（00 ～ 59）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めします。
  - ss：秒（00 ～ 59）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めします。

  （指定例）
  2006 年 11 月 8 日 15:1:40　→　20061108150140
- SearchCreateTimeEnd プロパティは，GetSpoolFileOutline メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，SearchCreateTimeEnd プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

SearchCreateTimeStart プロパティ

ファイル作成日時で蓄積ファイルを検索するときの検索開始日時を指定します。

SearchCreateTimeStart プロパティを指定すると，メソッド実行速度が速くなることがあります。

解説

- 蓄積フォルダのファイル一覧を取得する場合，検索条件としてファイル作成日時を使用するときに，検索開始日時を「YYYYMMDDhhmmss」形式で指定します。指定できる文字列は，14 バイトまでです。
  「YYYYMMDDhhmmss」形式の内容を次に示します。
  - YYYY：年（西暦）を 4 けたで示します。
  - MM：月（01 ～ 12）を 2 けたで示します。01 ～ 09 は，ゼロ埋めします。
  - DD：日（01 ～ 31）を 2 けたで示します。01 ～ 09 は，ゼロ埋めします。
  - hh：時（00 ～ 23）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めします。
  - mm：分（00 ～ 59）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めします。
  - ss：秒（00 ～ 59）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めします。

  （指定例）
  2006 年 5 月 23 日 9:56:30 → 20060523095630
- SearchCreateTimeStart プロパティは，GetSpoolFileOutline メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，SearchCreateTimeStart プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

SearchJobID プロパティ

蓄積ファイルを検索するときのジョブ ID を指定します。

解説

- ジョブ ID に指定できる文字列は，36 バイトまでです。
- GetSpoolFile メソッド，GetSpoolFileAttribute メソッド，PrintSpoolReport メソッド，および SetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出す場合に使用するときは，必ず SearchJobID プロパティを指定してください。
- GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出す場合に使用するときは，SearchJobID プロ

パティの指定は任意です。

- DeleteSpoolFile メソッドを呼び出す場合に使用するときは，DeleteKind プロパティの指定によって次のように異なります。
  - 通常削除（DeleteKind=0）のときは，必ず指定してください。
  - 蓄積期限切れファイルの削除（DeleteKind=1）のときは，指定する必要はありません。
- SearchJobID プロパティは，GetSpoolFileOutline メソッド，GetSpoolAttribute メソッド，SetSpoolFileAttribute メソッド，PrintSpoolReport メソッド，GetSpoolFile メソッド，および DeleteSpoolFile メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，SearchJobID プロパティを指定しても無視されます。

データ型

- String（PrintSpoolReport メソッド，GetSpoolFile メソッド，または DeleteSpoolFile メソッドを呼び出す場合に一つのジョブ ID を指定するとき）
- String 配列（PrintSpoolReport メソッド，GetSpoolFile メソッド，または DeleteSpoolFile メソッドを呼び出す場合に複数のジョブ ID を指定するとき）
- String（上記以外のメソッドを呼び出す場合）

SearchJobKeyCategory プロパティ

蓄積ファイルを検索するときのジョブ検索キーの分類を指定します。

解説

- 蓄積フォルダのファイル一覧を取得する場合，検索条件として SearchJobKeyCategory プロパティで指定したジョブ検索キーの分類と，SearchJobKeyData プロパティで指定したジョブ検索キーの配列値の順番が一致するものを検索します。
- ジョブ検索キーを指定する場合は，1 ～ 10 個の配列で指定してください。また，SearchJobKeyCategory プロパティを指定する場合は，ジョブ検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず SearchJobKeyData プロパティに指定してください。このとき，配列の要素数は同じにしてください。配列の要素数が異なると，エラーになります。
  ジョブ検索キーを指定しない場合，SearchJobKeyCategory プロパティと SearchJobKeyData プロパティは，どちらも指定しないでください。どちらかの指定があると対応する情報がないため，エラーになります。
- 分類は，任意文字列を指定できます。指定するときは，次のことに注意してください。
  - 文字列は，80 バイト以内で指定してください。
  - 文字列に「,」を含めないでください。
  - 空文字列「""」は指定しないでください。

- SearchJobKeyCategory プロパティは，GetSpoolFileOutline メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，SearchJobKeyCategory プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String 配列

SearchJobKeyData プロパティ

蓄積ファイルを検索するときのジョブ検索キーの値を指定します。

解説

- 蓄積フォルダのファイル一覧を取得する場合，検索条件として SearchJobKeyCategory プロパティで指定したジョブ検索キーの分類と，SearchJobKeyData プロパティで指定したジョブ検索キーの配列値の順番が一致するものを検索します。
- ジョブ検索キーを指定する場合は，1 ～ 10 個の配列で指定してください。また，SearchJobKeyCategory プロパティを指定する場合は，ジョブ検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず SearchJobKeyData プロパティに指定してください。このとき，配列の要素数は同じにしてください。配列の要素数が異なると，エラーになります。
  ジョブ検索キーを指定しない場合，SearchJobKeyCategory プロパティと SearchJobKeyData プロパティは，どちらも指定しないでください。どちらかの指定があると対応する情報がないため，エラーになります。
- ジョブ検索キーの値は，任意文字列を指定できます。指定するときは，次のことに注意してください。
  - 文字列は，80 バイト以内で指定してください。
  - 文字列に「,」を含めないでください。
- SearchJobKeyData プロパティは，GetSpoolFileOutline メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，SearchJobKeyData プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String 配列

SearchPrinterClassName プロパティ

プリンタクラス名で蓄積フォルダのファイル一覧を検索するときのプリンタクラス名を指定します。

解説

- プリンタクラス名は，任意の文字列を指定できます。指定するときは，次のことに注意してください。
  - プリンタクラス名は，80 バイト以内で指定してください。
  - プリンタクラス名に「"」および「,」を含めないでください。
- SearchPrinterClassName プロパティは，GetSpoolFileOutline メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，SearchPrinterClassName プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

SearchSpoolFileName プロパティ

格納ファイル名で蓄積フォルダのファイル一覧を検索するときの格納ファイル名を指定します。

解説

- 格納ファイル名は，255 バイト以内になるように指定してください。
- SearchSpoolFileName プロパティは，GetSpoolFileOutline メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，SearchSpoolFileName プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

ServerAddress プロパティ

拠点サーバの IP アドレスを指定します。

解説

- 拠点サーバの IP アドレスを「255.255.255.255」形式で指定します。指定できる文字列は，15 バイトまでです。
- ServerAddress プロパティの指定がない場合は, EUR Print Manager - Report Server Adapter の環境設定ファイル（EURPMLSADP.ini）の IPADDRESS セクションの EURPMLS キーに設定されている EUR Print Manager - Report Server が稼働するサーバの IP アドレスが仮定されます。
- ServerAddress プロパティは，次に示すメソッドで操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，ServerAddress プロパティを指定しても無視されます。

- GetSpoolFileOutline メソッド，GetSpoolAttribute メソッド，SetSpoolFileAttribute メソッド，PrintSpoolReport メソッド，GetSpoolFile メソッド，DeleteSpoolFile メソッドで蓄積ファイルを操作するとき
- GetPrinterClassList メソッドでプリンタクラス一覧を取得するとき
- GetPrinterList メソッドでプリンタ一覧を取得するとき
- GetTrayList メソッドでトレイ一覧を取得するとき

データ型

String

ServerPrinterList プロパティ

拠点サーバでの OS 上のプリンタ一覧を出力します。

解説

- ServerPrinterList プロパティは，GetPrinterList メソッドでプリンタ一覧を取得する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，ServerPrinterList プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String 配列

ServerPrinterName プロパティ

拠点サーバでの OS 上のプリンタ名を入出力します。

解説

- ServerPrinterName プロパティは，次に示すどのメソッドを呼び出すかによって，拠点サーバでの OS 上のプリンタ名の入出力が異なります。
  - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
    蓄積ファイルを蓄積拠点サーバ印刷するときの OS 上のプリンタ名を出力します。
  - SetSpoolFileAttribute メソッド，および PrintSpoolReport メソッドを呼び出す前
    蓄積ファイルを蓄積拠点サーバ印刷するときの OS 上のプリンタ名を指定します。
  - GetTrayList メソッドを呼び出す前
    トレイ一覧を取得したい拠点サーバでの OS 上のプリンタ名を指定します。
- GetTrayList メソッドを呼び出す場合に使用するときは，必ず ServerPrinterName プロパティを指定してください。
- SetSpoolFileAttribute メソッド，および PrintSpoolReport メソッドを呼び出す場合に使用するときは，ServerPrinterName プロパティの指定は任意です。

- プリンタ名を指定するときは，次のことに注意してください。
  - プリンタ名は，80 バイト以内で指定してください。
  - プリンタ名に「"」および「,」を含めないでください。
- ServerPrinterName プロパティは，GetSpoolFileAttribute メソッド，および SetSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，PrintSpoolReport メソッドで蓄積拠点サーバ印刷する場合でプリンタ指定方式に OS 上のプリンタ名指定（PrinterSelectMode=1）を指定したとき，ならびに GetTrayList メソッドでトレイ一覧を取得する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，ServerPrinterName プロパティを指定しても無視されます。
- 蓄積拠点サーバ印刷で ServerPrinterName プロパティの指定が有効な場合に，ServerPrinterName プロパティの指定を省略したときや 0 バイトの値を指定したときは，デフォルトのプリンタで印刷します。

データ型

String

ServerTrayList プロパティ

ServerPrinterName プロパティで指定した OS 上のプリンタのトレイ一覧を出力します。

解説

- ServerTrayList プロパティは，GetTrayList メソッドでトレイ一覧を取得する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，ServerTrayList プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String 配列

ServerTrayName プロパティ

拠点サーバでの OS 上のプリンタのトレイ名を入出力します。

解説

- ServerTrayName プロパティは，次に示すメソッドを呼び出すタイミングによって，蓄積拠点サーバ印刷するときのプリンタのトレイ名を入出力します。
  - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
    蓄積拠点サーバ印刷するときの，OS 上のプリンタのトレイ名が出力されます。
  - SetSpoolFileAttribute メソッド，および PrintSpoolReport メソッドを呼び出す前
    蓄積拠点サーバ印刷するときの，OS 上のプリンタのトレイ名を指定します。
- トレイ名を指定するときは，次のことに注意してください。

- トレイ名は，80 バイト以内で指定してください。
- トレイ名には「"」および「,」を含めないでください。

- ServerTrayName プロパティは，GetSpoolFileAttribute メソッド，および SetSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，ならびに PrintSpoolReport メソッドで蓄積拠点サーバ印刷する場合でプリンタ指定方式に OS 上のプリンタ名指定（PrinterSelectMode=1）を指定したときに指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，ServerTrayName プロパティを指定しても無視されます。
- 蓄積拠点サーバ印刷で ServerTrayName プロパティの指定が有効な場合に，ServerTrayName プロパティの指定を省略したときや 0 バイトの値を指定したときは，デフォルトのトレイから給紙されます。

データ型

String

SortPrint プロパティ

印刷部数の単位を指定します。

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：部単位で出力します。
- 1：ページ単位で出力します。

SortPrint プロパティを省略した場合，次の値が仮定されます。

- ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
  指定したジョブ ID の蓄積ファイルに格納されている印刷データの属性情報に設定されている値
- ジョブ ID を複数指定しているとき
  0

SortPrint プロパティは，GetSpoolFile メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，および PrintSpoolReport メソッドで蓄積拠点サーバ印刷する場合に指定が有効になります。それ以外の場合は，SortPrint プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

SpoolFileName プロパティ

蓄積ファイルにある格納ファイル名を出力します。

解説

- SpoolFileName プロパティは，次に示すメソッドを呼び出すタイミングによって，蓄積ファイルにある格納ファイル名の出力情報が異なります。
  - GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあと
    検索条件に合った蓄積ファイルにある格納ファイル名が配列で出力されます。
  - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
    指定したジョブ ID の蓄積ファイルにある格納ファイル名が出力されます。
- SpoolFileName プロパティは，GetSpoolFileOutline メソッド，および GetSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，SpoolFileName プロパティを指定しても無視されます。

データ型

- String 配列（GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあとの場合）
- String（GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあとの場合）

SpoolFileSize プロパティ

指定したジョブ ID の蓄積ファイルにある格納ファイルのサイズ（バイト）を出力します。

解説

- SpoolFileSize プロパティは，GetSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，SpoolFileSize プロパティを指定しても無視されます。

データ型

Long

SpoolHistory プロパティ

蓄積ファイルの履歴を出力します。

解説

- GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで，蓄積ファイルの履歴が情報数分出力されます。出力される蓄積ファイルの履歴の形式を次に示します。
  [操作種別][操作日時][IP アドレス][操作対象][変更前][変更後][印刷実行結果]

（出力例）
[拠点印刷][20060314164300][255.255.xxx.xxx][][][][印刷済み]
[変更][20060314181501][255.255.xxx.xxx][プリンタクラス][標準][A3][]
[取得][20060314190506][255.255.xxx.xxx][][][][]

- 蓄積直後の配列の要素数は 0 です。
- SpoolHistory プロパティは，GetSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，SpoolHistory プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String 二次元配列

SpoolLimit プロパティ

蓄積ファイルの蓄積期限日を入出力します。

解説

- SpoolLimit プロパティは，次に示すメソッドを呼び出すタイミングによって，蓄積ファイルの蓄積期限日を入出力します。
  - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
    蓄積ファイルの蓄積期限日が出力されます。
  - SetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出す前
    蓄積ファイルの蓄積期限日を指定します。
- 蓄積ファイルの蓄積期限日は「YYYYMMDD」形式で指定します。指定できる文字列は，8 バイトまでです。
  「YYYYMMDD」形式の内容を次に示します。
  - YYYY：年（西暦）を 4 けたで示します。
  - MM：月（01 ～ 12）を 2 けたで示します。01 ～ 09 は，ゼロ埋めします。
  - DD：日（01 ～ 31）を 2 けたで示します。01 ～ 09 は，ゼロ埋めします。

  （指定例）
  2006 年 5 月 23 日　→　20060523
- SpoolLimit プロパティは，GetSpoolFileAttribute メソッド，および SetSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，SpoolLimit プロパティを指定しても無視されます。

データ型

String

SpoolPath プロパティ

常に "" が出力されます。

解説

- SpoolPath プロパティは，次に示すどちらのメソッドを呼び出しても，常に "" が出力されます。
  - GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあと
  - GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあと
- SpoolPath プロパティは，GetSpoolFileOutline メソッド，および GetSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，SpoolPath プロパティを指定しても無視されます。

データ型

- String 配列（GetSpoolFileOutline メソッドを呼び出したあとの場合）
- String（GetSpoolFileAttribute メソッドを呼び出したあとの場合）

SpoolTitle プロパティ

スプールタイトルを指定します。

解説

- スプールタイトルには，任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
  - スプールタイトルは，255 バイト以内で指定してください。
  - スプールタイトルには「"」および「,」を含めないでください。
  - 0 バイトの値を指定したときは，スプールタイトル情報は未設定となります。
- SpoolTitle プロパティは，GetSpoolFile メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，および PrintSpoolReport メソッドで印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，SpoolTitle プロパティを指定しても無視されます。
- SpoolTitle プロパティの指定を省略した場合は，次のようになります。
  - ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
    指定したジョブ ID の蓄積ファイルに格納されている印刷データの属性情報が設定されます。
  - ジョブ ID を複数指定しているとき
    スプールタイトル情報は未設定となります。

データ型

String

9.9　環境設定ファイル

ActiveX 起動部品の場合は，ActiveX 起動部品で指定するファイルのデフォルトの読み込みフォルダなどを，環境設定ファイル（EURPMADP.ini）に指定できます。

RS-ActiveX 起動部品の場合は，RS-ActiveX 起動部品で指定するサーバマシンの IP アドレスなどを，環境設定ファイル（EURPMLSADP.ini）に指定できます。

各環境設定ファイルについては，「16.　実行環境の設定」を参照してください。

9.10 エラー情報

ActiveX 起動部品，または RS-ActiveX 起動部品を使用して実行している場合にエラーが発生したときは，Err オブジェクトの Number プロパティに終了コード，Description プロパティにメッセージが設定されます。

9.10.1 ActiveX 起動部品実行時のエラー情報一覧

ActiveX 起動部品実行時のエラー情報の一覧を次に示します。

表 9-8 ActiveX 起動部品実行時のエラー情報の一覧

終了コード	メッセージ文
-201	プロパティ (プロパティ名) の指定値に誤りがあります。
-202	プロパティ (プロパティ名) が指定されていません。
-203	マッピングデータファイルの読み込みに失敗しました。
-204	ユーザ定義データファイルの読み込みに失敗しました。
-205	パラメタに誤りがあります。
-206	必須パラメタの指定がありません。
-207	サーバプリンタ名の指定がありません。
-208	アダプタと印刷管理サーバとの間で通信エラーが発生しました。
-209	印刷処理で警告が発生しました。(nnn)
-210	環境設定ファイルに不正があります。詳細コード = [nnnnnn]
-211	ログファイルの書き込みに失敗しました。
-212	印刷管理サーバへの接続に失敗しました。
-213	ジョブを起動しました。
-214	ジョブを終了しました。
-215	メモリ不足が発生しました。
-216	通信タイムアウトが発生しました。
-217	システムエラーが発生しました。
-218	出力先一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)
-219	プリンタクラス一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)
-221	印刷処理でエラーが発生しました。(nnn)
-222	クライアントプリンタ名の指定がありません。
-223	PDF 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(nnn)
-224	PDF 形式ファイル出力処理で警告が発生しました。(nnn)
-225	EPF 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(nnn)

終了コード	メッセージ文
-226	EPF 形式ファイル出力処理で警告が発生しました。(nnn)
-227	PDF 形式ファイルの初期化に失敗しました。
-228	EPF 形式ファイルの初期化に失敗しました。
-229	PDF 形式ファイルの作成に失敗しました。
-230	EPF 形式ファイルの作成に失敗しました。
-231	指定された PDF 形式ファイルはほかの人が使用中です。
-232	指定された EPF 形式ファイルはほかの人が使用中です。
-233	帳票セット指定ファイルのフォーマットが不正です。
-234	帳票セット指定ファイルの読み込みに失敗しました。
-235	しおり定義ファイルの読み込みに失敗しました。
-236	文書しおり定義ファイルの読み込みに失敗しました。
-237	印刷管理サーバでコネクション数が限界値をオーバーしました。
-238	拠点サーバでコネクション数が限界値をオーバーしました。
-239	クライアントでコネクション数が限界値をオーバーしました。
-240	仕分け定義情報ファイルの読み込みに失敗しました。
-241	指定された EUR 形式ファイルはほかの人が使用中です。
-242	EUR 形式ファイルの初期化に失敗しました。
-243	EUR 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(nnn)
-244	EUR 形式ファイル出力処理で警告が発生しました。(nnn)
-245	EUR 形式ファイルの作成に失敗しました。
-246	印刷管理サーバの EUR Print Manager のバージョンが不正です。
-247	レジストリに不正があります。詳細コード = [nnnnnn]
-248	暗号化設定ファイルの読み込みに失敗しました。
-249	指定されたマッピングデータファイルが存在しません。
-250	指定されたユーザ定義データファイルが存在しません。
-251	指定されたしおり定義ファイルが存在しません。
-252	指定された文書しおり定義ファイルが存在しません。
-253	指定された暗号化設定ファイルが存在しません。
-254	指定された仕分け定義情報ファイルが存在しません。
-255	プリンタ一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)
-256	トレイ一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)
-257	蓄積処理でエラーが発生しました。(nnn)
-258	蓄積処理で警告が発生しました。(nnn)
-259	PDF 仕分け定義ファイルの読み込みに失敗しました。

終了コード	メッセージ文
-260	指定された PDF 仕分け定義ファイルが存在しません。
-261	EPF 形式ファイルの読み込みに失敗しました。
-262	指定された EPF 形式ファイルが存在しません。
-263	XLSX 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(nnn)
-264	XLSX 形式ファイル出力処理で警告が発生しました。(nnn)
-265	指定された XLSX 形式ファイルはほかの人が使用中です。
-266	XLSX 形式ファイルの初期化に失敗しました。
-267	XLSX 形式ファイルの作成に失敗しました。
-269	統合対象 EPF 形式ファイルの指定数が有効範囲外です。
-270	複数 EPF 形式ファイルの統合処理でエラーが発生しました。(nnn)
-271	統合対象 EPF 形式ファイルの読み込みに失敗しました。
-272	指定された統合対象 EPF 形式ファイルが存在しません。
-273	An attempt to load string resource DLL has failed. Error:[nnn]
-274	EURPM 仕分け / 分割定義ファイルの読み込みに失敗しました。

9.10.2 RS-ActiveX 起動部品実行時のエラー情報一覧

RS-ActiveX 起動部品実行時のエラー情報の一覧を次に示します。

表 9-9 RS-ActiveX 起動部品実行時のエラー情報の一覧

終了コード	メッセージ文
-501	プロパティ (プロパティ名) の指定値に誤りがあります。
-502	プロパティ (プロパティ名) が指定されていません。
-503	原因不明のエラーで処理が中断されました。拠点サーバの状態を確認してください。
-504	印刷開始ページの入力値が印刷終了ページの入力値より大きいです。
-505	環境設定ファイルに不正があります。詳細コード = [nnnnnn]
-506	ログファイルの書き込みに失敗しました。
-507	拠点サーバへの接続に失敗しました。
-508	ジョブを起動しました。
-509	ジョブを終了しました。
-510	メモリ不足が発生しました。
-511	通信タイムアウトが発生しました。
-512	システムエラーが発生しました。
-513	蓄積ファイル一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)
-515	プリンタクラス一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)

終了コード	メッセージ文
-516	プリンタ一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)
-517	トレイ一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)
-518	蓄積ファイルの取得処理でエラーが発生しました。(nnn)
-519	蓄積ファイルの印刷処理でエラーが発生しました。(nnn)
-520	蓄積ファイルの属性取得処理でエラーが発生しました。(nnn)
-521	蓄積ファイルの属性設定処理でエラーが発生しました。(nnn)
-522	蓄積ファイルの削除処理でエラーが発生しました。(nnn)
-523	蓄積ファイルの初期化に失敗しました。
-524	蓄積ファイルの作成に失敗しました。
-525	拠点サーバでコネクション数が限界値をオーバーしました。
-526	レジストリに不正があります。詳細コード = [nnnnnn]
-527	指定された蓄積ファイルはほかの人が使用中です。
-528	属性値設定プロパティが一つも指定されていません。
-529	クライアントでコネクション数が限界値をオーバーしました。
-531	蓄積ファイルのデータ取得処理でエラーが発生しました。(nnn)
-532	蓄積ファイル一覧取得処理で警告が発生しました。(nnn)
-533	蓄積ファイルの取得処理で警告が発生しました。(nnn)
-534	蓄積ファイルの印刷処理で警告が発生しました。(nnn)
-535	蓄積ファイルの属性取得処理で警告が発生しました。(nnn)
-536	蓄積ファイルの属性設定処理で警告が発生しました。(nnn)
-537	蓄積ファイルの削除処理で警告が発生しました。(nnn)
-538	指定されたジョブ ID 検索値の数が上限値を超えています。
-540	An attempt to load string resource DLL has failed. Error:[nnn]
-541	拠点サーバの EUR Print Manager - Report Server のバージョンが不正です。

9.10.3 Err.Number プロパティ（終了コード）

ActiveX 起動部品，または RS-ActiveX 起動部品のメソッドの実行でエラーが発生した場合，Err オブジェクトの Number プロパティに終了コードが設定，または更新されます。正常終了した場合は，終了コードは更新されません。そのため，ActiveX 起動部品，または RS-ActiveX 起動部品のメソッドの実行後に Number プロパティの終了コードを参照しても正しいエラー判定ができません。

ActiveX 起動部品，または RS-ActiveX 起動部品のメソッドを実行する前は，Number プロパティに終了コードが設定されていない（エラーが発生していない）ことを判定してから EUR Print Manager のメソッドを実行することをお勧めします。

終了コードとメッセージの一覧については，「9.10.1　ActiveX 起動部品実行時のエラー情報一覧」，または「9.10.2　RS-ActiveX 起動部品実行時のエラー情報一覧」を参照してください。エラーの対処については，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

9.10.4　Err.Description プロパティ（メッセージ文）

Err オブジェクトの Description プロパティは，エラー，または警告発生時のメッセージが設定されます。終了コードとメッセージの一覧については，「9.10.1　ActiveX 起動部品実行時のエラー情報一覧」，または「9.10.2　RS-ActiveX 起動部品実行時のエラー情報一覧」を参照してください。エラーの対処については，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

9.11 コーディング例

ActiveX 起動部品のコーディング例を次に示します。

9.11.1 プリンタ出力のコーディング例

次に示すパラメタを指定して，拠点サーバで印刷するときのコーディング例です。

入力ファイル（印刷定義ファイル）：EUR Print Manager のあるマシンに配置
　帳票ファイル名：sample1.fms
入力ファイル（ユーザ定義ファイル）：EUR Print Manager - Adapter のあるマシンに配置
　マッピングデータファイルのパス：c:¥Temp
　マッピングデータファイル名：data1.csv

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>Sample Script of ASP page for EUR Print Manager</TITLE>
</HEAD>
<BODY>
<%
  Server.ScriptTimeOut=100      …スクリプトのタイムアウト時間を
                                  100秒に設定
  On Error Resume Next          …エラーハンドリングを行う
  dim target                    …変数宣言
  Set EURPM=Server.CreateObject("EURPM.Exec")
                          …プログラムID「EURPM.Exec」を指定して,
                            ActiveX起動部品のインスタンス作成
  EURPM.ClientAddress=target                …クライアントIPアドレスの指定
  EURPM.ReportFileName="sample1.fms"        …帳票ファイルの指定
  EURPM.DataFilePath="c:¥Temp"              …マッピングデータファイルの
                                              パスの指定
  EURPM.DataFileName="data1.csv"            …マッピングデータの指定
  If Err.Number <> 0 Then
    Response.Write("印刷実行前に
                    エラーが発生しています"& Err.Number &"<BR>")
  Else
    EURPM.PrintPMReport()                   …印刷指示
    If Err.Number = 0 Then                  …PrintPMReportメソッドは
                                              正常終了かどうかの判定
      「正常終了時の処理」
    Else
      errid= Err.Number             …エラーコードをerridに取り出す
      If errid=-441 Then            …KEEY441-Wの場合のエラー処理
        Elseif errid=-301 Then      …KEEY301-Eの場合のエラー処理
        Elseif errid=-302 Then      …KEEY302-Eの場合のエラー処理
        Elseif errid=
              :                     …そのほかのエラー処理を繰り返す
      End If
    End If
  End If
%>
</BODY>
```

```
</HTML>
```

9.11.2 PDF 形式ファイル出力のコーディング例

次に示すパラメタを指定して，PDF 形式ファイル生成を実行するときのコーディング例です。出力ファイルは，EUR Print Manager - Adapter のあるマシンに出力されます。

入力ファイル（印刷定義ファイル）：EUR Print Manager のあるマシンに配置
　帳票ファイル名：sample1.fms
入力ファイル（ユーザ定義ファイル）：EUR Print Manager - Adapter のあるマシンに配置
　マッピングデータファイルのパス：c:¥Temp
　マッピングデータファイル名：data1.csv
出力ファイル
　出力 PDF 形式ファイルのパス：c:¥Temp
　出力 PDF 形式ファイル名：pdf1.pdf

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>Sample Script of ASP page for EUR Print Manager</TITLE>
</HEAD>
<BODY>
<%
  Server.ScriptTimeOut=100      …スクリプトのタイムアウト時間を
                                  100秒に設定
  On Error Resume Next          …エラーハンドリングを行う
  dim target                    …変数宣言
  Set EURPM=Server.CreateObject("EURPM.Exec")
                        …プログラムID「EURPM.Exec」を指定して，
                          ActiveX起動部品のインスタンス作成
  EURPM.ReportFileName="sample1.fms"        …帳票ファイルの指定
  EURPM.DataFilePath="c:¥Temp"              …マッピングデータファイルの
                                              パスの指定
  EURPM.DataFileName="data1.csv"            …マッピングデータの指定
  EURPM.PDFFilePath="c:¥Temp"               …PDF形式ファイルパスの指定
  EURPM.PDFFileName="pdf1.pdf"              …PDF形式ファイル名の指定
  If Err.Number <> 0 Then
    Response.Write("印刷実行前に
                    エラーが発生しています"& Err.Number &"<BR>")
  Else
    EURPM.OutputPDFReport()                 …PDF形式ファイル出力指示
    If Err.Number = 0 Then                  …OutputPDFReportメソッドは
                                              正常終了かどうかの判定
      「正常終了時の処理」
    Else
      errid= Err.Number             …エラーコードをerridに取り出す
      If errid=-nnn Then            …KEEYnnn-Eの場合のエラー処理
        Elseif errid=-nnn Then      …KEEYnnn-Eの場合のエラー処理
        Elseif errid=-nnn Then      …KEEYnnn-Eの場合のエラー処理
        Elseif errid=
            :                       …そのほかのエラー処理を繰り返す
      End If
    End If
  End If
%>
```

```
</BODY>
</HTML>
```

9.11.3 EUR 形式ファイル出力のコーディング例

次に示すパラメタを指定して，EUR 形式ファイル生成を実行するときのコーディング例です。出力ファイルは，EUR Print Manager - Adapter のあるマシンに出力されます。

入力ファイル（印刷定義ファイル）：EUR Print Manager のあるマシンに配置
　帳票ファイル名：sample1.fms
入力ファイル（ユーザ定義ファイル）：EUR Print Manager - Adapter のあるマシンに配置
　マッピングデータファイルのパス：c:¥Temp
　マッピングデータファイル名：data1.csv
出力ファイル
　出力 EUR 形式ファイルのパス：c:¥Temp
　出力 EUR 形式ファイル名：eup1.eup

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>Sample Script of ASP page for EUR Print Manager</TITLE>
</HEAD>
<BODY>
<%
  Server.ScriptTimeOut=100      …スクリプトのタイムアウト時間を
                                  100秒に設定
  On Error Resume Next          …エラーハンドリングを行う
  dim target                    …変数宣言
  Set EURPM=Server.CreateObject("EURPM.Exec")
                          …プログラムID「EURPM.Exec」を指定して,
                            ActiveX起動部品のインスタンス作成
  EURPM.ReportFileName="sample1.fms"        …帳票ファイルの指定
  EURPM.DataFilePath="c:¥Temp"              …マッピングデータファイルの
                                              パスの指定
  EURPM.DataFileName="data1.csv"            …マッピングデータの指定
  EURPM.EURFilePath="c:¥Temp"               …EUR形式ファイルパスの指定
  EURPM.EURFileName="eup1.eup"              …EUR形式ファイル名の指定
  If Err.Number <> 0 Then
    Response.Write("印刷実行前に
                    エラーが発生しています"& Err.Number &"<BR>")
  Else
    EURPM.OutputEURReport()                   …EUR形式ファイル出力指示
    If Err.Number = 0 Then                  …OutputEURReportメソッドは
                                              正常終了かどうかの判定
      「正常終了時の処理」
    Else
      errid= Err.Number             …エラーコードをerridに取り出す
      If errid=-nnn Then            …KEEYnnn-Eの場合のエラー処理
        Elseif errid=-nnn Then      …KEEYnnn-Eの場合のエラー処理
        Elseif errid=-nnn Then      …KEEYnnn-Eの場合のエラー処理
        Elseif errid=
              :                     …そのほかのエラー処理を繰り返す
      End If
    End If
  End If
```

```
%>
</BODY>
</HTML>
```

9.11.4 蓄積のコーディング例

次に示すパラメタを指定して，サーバに印刷データを蓄積するときのコーディング例です。

入力ファイル（印刷定義ファイル）：EUR Print Manager のあるマシンに配置
　帳票ファイル名：sample1.fms
入力ファイル（ユーザ定義ファイル）：EUR Print Manager - Adapter のあるマシンに配置
　マッピングデータファイルのパス：c:¥Temp
　マッピングデータファイル名：data1.csv

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>Sample Script of ASP page for EUR Print Manager</TITLE>
</HEAD>
<BODY>
<%
  Server.ScriptTimeOut=100      …スクリプトのタイムアウト時間を
                                  100秒に設定
  On Error Resume Next          …エラーハンドリングを行う
  dim jobid                     …変数宣言
  Set EURPM=Server.CreateObject("EURPM.Exec")
                          …プログラムID「EURPM.Exec」を指定して，
                            ActiveXオブジェクトのインスタンス作成
  EURPM.ReportFileName="sample1.fms"        …帳票ファイルの指定
  EURPM.DataFilePath="c:¥Temp"              …マッピングデータパスの指定
  EURPM.DataFileName="data1.csv"            …マッピングデータの指定
  EURPM.PrintMode=2                         …印刷方式を「蓄積」に設定
  If Err.Number <> 0 Then
    Response.Write("蓄積実行前に
                    エラーが発生しています"& Err.Number &"<BR>")
  Else
    EURPM.PrintPMReport()                   …蓄積指示
    If Err.Number = 0 Then                  …PrintPMReportメソッドは
                                              正常終了かどうかの判定
      jobid = EURPM.GetJobID();              …蓄積ファイルのジョブIDを取得
      「正常終了時の処理」
    Else
      errid= Err.Number             …エラーコードをeridに取り出す
      If errid=-441 Then            …KEEY441-Wの場合のエラー処理
        Elseif errid=-301 Then      …KEEY301-Eの場合のエラー処理
        Elseif errid=-302 Then      …KEEY302-Eの場合のエラー処理
        Elseif errid=
              :                     …以下，そのほかのエラー処理を繰り返す
      End If
    End If
  End If
%>
</BODY>
</HTML>
```

9.11.5 分割した印刷データを蓄積するときのコーディング例

次に示すパラメタを指定して，分割した印刷データをサーバに蓄積するときのコーディング例です。

入力ファイル（印刷定義ファイル）：EUR Print Manager のあるマシンに配置
　帳票ファイル名：Report1.fms
入力ファイル（ユーザ定義ファイル）：EUR Print Manager - Adapter のあるマシンに配置
　マッピングデータファイルのパス：c:¥Temp
　マッピングデータファイル名：Report1_1000P.csv
　EURPM 分割定義ファイルのパス：c:¥Temp
　EURPM 分割定義ファイル名：PMPageSplit.txt

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>Sample Script of ASP page for EUR Print Manager</TITLE>
</HEAD>
<BODY>
<%
    Server.ScriptTimeOut=100
    On Error Resume Next
    // 変数定義
    dim jobidlist
    dim cnt
    // EURPMオブジェクト生成
    set EURPM = Server.CreateObject("EURPM.Exec")
    // 帳票ファイルの指定
    EURPM.ReportFileName = "Report1.fms"
    // マッピングデータファイルの指定
    EURPM.DataFileName   = "Report1_1000P.csv"
    EURPM.DataFilePath   = "c:¥Temp"
    // EURPM分割定義ファイルの指定
    EURPM.SplitFileName  = "PMPageSplit.txt"
    EURPM.SplitFilePath  = "c:¥Temp"
    // そのほかのパラメタの指定
    EURPM.SplitMode = 3
    EURPM.PrintMode = 2
    // 蓄積実行指示
    EURPM.PrintPMReport()

    If Err.Number = 0 Then
        // 複数JobIDの取得
        jobidlist = EURPM.GetJobIDList()
        // 取得したJobIDの表示
        For cnt = 0 To UBound(jobidlist, 1)
            Response.Write(jobidlist(cnt))
            Response.Write("<BR>")
        Next

    Else
       // エラー処理
        errid= Err.Number
        If errid=-301 Then
```

```
            End if
        End If
    %>
    </BODY>
    </HTML>
```

9.11.6 仕分けした印刷データを蓄積するときのコーディング例

次に示すパラメタを指定して，仕分けした印刷データをサーバに蓄積するときのコーディング例です。

入力ファイル（印刷定義ファイル）：EUR Print Manager のあるマシンに配置
　帳票ファイル名：Report1.fms
入力ファイル（ユーザ定義ファイル）：EUR Print Manager - Adapter のあるマシンに配置
　マッピングデータファイルのパス：c:¥Temp
　マッピングデータファイル名：Report1_1000P.csv
　EURPM 仕分け定義ファイルのパス：c:¥Temp
　EURPM 仕分け定義ファイル名：PMDistribute.txt

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>Sample Script of ASP page for EUR Print Manager</TITLE>
</HEAD>
<BODY>
<%
    Server.ScriptTimeOut=100
    On Error Resume Next
    // 変数定義
    dim jobidlist
    dim cnt
    // EURPMオブジェクト生成
    set EURPM = Server.CreateObject("EURPM.Exec")
    // 帳票ファイルの指定
    EURPM.ReportFileName = "Report1.fms"
    // マッピングデータファイルの指定
    EURPM.DataFileName   = "Report1_1000P.csv"
    EURPM.DataFilePath   = "c:¥Temp"
    // EURPM仕分け定義ファイルの指定
    EURPM.SplitFileName  = "PMDistribute.txt"
    EURPM.SplitFilePath  = "c:¥Temp"
    // そのほかのパラメタの指定
    EURPM.SplitMode = 2
    EURPM.PrintMode = 2
    // 蓄積実行指示
    EURPM.PrintPMReport()

    If Err.Number = 0 Then
        // 複数JobIDの取得
        jobidlist = EURPM.GetJobIDList()
        // 取得したJobIDの表示
        For cnt = 0 To UBound(jobidlist, 1)
            Response.Write(jobidlist(cnt))
```

```
            Response.Write("<BR>")
        Next

    Else
       // エラー処理
        errid= Err.Number
        If errid=-301 Then
        End if
    End If
%>
</BODY>
</HTML>
```

9.11.7 EUR Print Manager - Client Print ActiveX，または EUR Print Manager - Client Preview ActiveX を自動でインストールして帳票を出力するときのコーディング例

最新の EUR Print Manager - Client Print ActiveX，または EUR Print Manager - Client Preview ActiveX を自動でインストールして帳票を出力するときのコーディング例です。

クライアント PC に最新の EUR Print Manager - Client Print ActiveX，または EUR Print Manager - Client Preview ActiveX がインストールされていない場合，クライアント PC の環境に応じてダウンロードパッケージが選択されて，自動でインストールされます。ユーザー単位インストールが可能な環境では，ユーザー単位インストール用のダウンロードパッケージが選択されます。それ以外の環境では，マシン単位インストール用のダウンロードパッケージが選択されます。

EUR Print Manager - Client Print ActiveX，または EUR Print Manager - Client Preview ActiveX のインストールが完了すると，指定した帳票（EPF 形式ファイル）がダウンロードされて，印刷またはプレビュー表示されます。

ダウンロードパッケージ：EUR Print Manager - Adapter のあるマシンに配置
　EUR Print Manager - Client Print ActiveX（マシン単位用）：
　　http://xxx.xxx.xxx.xxx/machine/EURPMPrintAX.cab"
　EUR Print Manager - Client Print ActiveX（ユーザー単位用）：
　　http://xxx.xxx.xxx.xxx/user/EURPMPrintAX.cab
　EUR Print Manager - Client Preview ActiveX（マシン単位用）：
　　http://xxx.xxx.xxx.xxx/machine/EURPMPreViewAX.cab
　EUR Print Manager - Client Preview ActiveX（ユーザー単位用）：
　　http://xxx.xxx.xxx.xxx/user/EURPMPreViewAX.cab
出力ファイル：EUR Print Manager - Adapter のあるマシンに配置
　出力 EPF 形式ファイル名：http://xxx.xxx.xxx/File/EPF/sample.epf

(1) 帳票を印刷する場合

EUR Print Manager - Client Print ActiveX をインストールします。

```
<%@ LANGUAGE="VBScript" %>
<HTML>
<HEAD>
<META http-equiv="Content-Type"
 content="text/html;charset=Shift_JIS">
<TITLE>
EURPM-CL-AX ASP Sample
</TITLE>
<%
    'Webサーバの処理
    Dim objEURPM
    'EURPMオブジェクト生成
    Set objEURPM=Server.CreateObject("EURPM.Exec")
    Dim strVersion
    'EURPM-CL-AXのバージョン取得
    strVersion = objEURPM.GetPrintAXVersion()
    Dim strClassID
    'EURPM-CL-AXのクラスID取得
    strClassID = objEURPM.GetPrintAXClassID()
%>
</HEAD>
<BODY>
<Script LANGUAGE="vbScript">
<!ー
    'クライアントの処理
    Dim CABType  'フラグ
    'OSの判定
    'Windows XPの場合
    if instr( window.navigator.userAgent & "", "NT 5.1" ) <> 0 then
        CABType = 0        'マシン単位インストールフラグ
    else                   '上記以外のOSの場合
        'ブラウザ判定
        'Internet Explorer 7の場合
       if instr( window.navigator.appVersion & "", "MSIE 7" ) <> 0
then
            CABType = 0    'マシン単位インストールフラグ
        else               '上記以外のブラウザの場合
            CABType = 1    'ユーザー単位インストールフラグ
        end if
    end If

    Dim CabPath
    'フラグから使用するCAB形式ファイルを決定する
    If CABType = 0 Then
        'マシン単位インストールの格納場所の設定
       CabPath = "http://xxx.xxx.xxx.xxx/machine/EURPMPrintAX.cab"
    Else
        'ユーザー単位インストールの格納場所の設定
        CabPath = "http://xxx.xxx.xxx.xxx/user/EURPMPrintAX.cab"
    End If

    'OBJECTタグの生成
    document.Write("<object")
    'Webサーバで取得したクラスIDを指定
    document.Write(" classid=clsid:<%=strClassID%>")
    'CAB形式ファイルのパスおよびWebサーバで取得したバージョンを指定
    document.Write(" codebase=" & CabPath &
"#version=<%=strVersion%>")
```

```
    document.Write(" ID=EURPMPRINTAX")
    document.Write(" type=application/x-oleobject>")
    document.Write("<BR>")
    document.Write("<param name=EPFFileURL value=http://
xxx.xxx.xxx/File/EPF/sample.epf>")
    document.Write("<BR>")
    document.Write("<param name=LogLevel value=16>")
    document.Write("<BR>")
    document.Write("</object>")
    document.Write("<BR>")
-->
</Script>
</BODY>
</HTML>
```

(2) 帳票をプレビュー表示する場合

EUR Print Manager - Client Preview ActiveX をインストールします。

```
<%@ LANGUAGE="VBScript" %>
<HTML>
<HEAD>
<META http-equiv="Content-Type"
 content="text/html;charset=Shift_JIS">
<TITLE>
EURPM-CL-PVX ASP Sample
</TITLE>
<%
'Webサーバの処理
    Dim objEURPM
    'EURPMオブジェクトの生成
    Set objEURPM=Server.CreateObject("EURPM.Exec")
    Dim strVersion
    'EURPM-CL-PVXのバージョン取得
    strVersion = objEURPM.GetPreviewAXVersion()
    Dim strClassID
    'EURPM-CL-PVXのクラスID取得
    strClassID = objEURPM.GetPreviewAXClassID()
%>
</HEAD>
<BODY>
<Script LANGUAGE="vbScript">
<!ー
    'クライアントの処理
    Dim CABType  'フラグ
    'OSの判定
    'Windows XPの場合
    if instr( window.navigator.userAgent & "", "NT 5.1" ) <> 0 then
        CABType = 0         'マシン単位インストールフラグ
    else                    '上記以外の場合
        'ブラウザ判定
        'Internet Explorer 7の場合
       if instr( window.navigator.appVersion & "", "MSIE 7" ) <> 0
then
            CABType = 0     'マシン単位インストールフラグ
        else                '上記以外の場合
            CABType = 1     'ユーザー単位インストールフラグ
```

```
        end if
    end If

    Dim CabPath
    'フラグから使用するCAB形式ファイルを決定する
    If CABType = 0 Then
        'マシン単位インストールの格納場所の設定
        CabPath = "http://xxx.xxx.xxx.xxx/machine/
EURPMPreViewAX.cab"
    Else
        'ユーザー単位インストールの格納場所の設定
        CabPath = "http://xxx.xxx.xxx.xxx/user/EURPMPreViewAX.cab"
    End If

    'OBJECTタグの記述
    document.Write("<object")
    'Webサーバで取得したクラスIDを指定
    document.Write(" classid=clsid:<%=strClassID%>")
    'CAB形式ファイルのパスおよびWebサーバで取得したバージョンを指定
    document.Write(" codebase=" & CabPath &
"#version=<%=strVersion%>")
    document.Write(" ID=EURPMPREVIEWAX")
    document.Write(" width=500")
    document.Write(" height=500")
    document.Write(" type=application/x-oleobject>")
    document.Write("<BR>")
    document.Write("<param name=EPFFileURL value=http://
xxx.xxx.xxx/File/EPF/sample.epf>")
    document.Write("<BR>")
    document.Write("<param name=LogLevel value=16>")
    document.Write("<BR>")
    document.Write("</object>")
    document.Write("<BR>")
-->
</Script>
</BODY>
</HTML>
```

10 Java 起動部品および RS-Java 起動部品を使用した帳票出力

この章では，EUR Print Manager で提供する Java 起動部品を使用した帳票出力について説明します。また，EUR Print Manager - Report Server を利用するための RS-Java 起動部品についても説明します。

10.1 Java 起動部品

10.2 EURPMAdapterForJava クラス

10.3 EURPMException クラス

10.4 EURPMAdapterForJava クラスのメソッド仕様

10.5 EURPMException クラスのメソッド仕様

10.6 RS-Java 起動部品

10.7 EURPMLSAdapterForJava クラス

10.8 EURPMLSException クラス

10.9 EURPMLSAdapterForJava クラスのメソッド仕様

10.10 EURPMLSException クラスのメソッド仕様

10.11 環境設定ファイル

10.12 例外情報

10.13 コーディング例

10.1　Java 起動部品

サーバ側で動作する Java プログラムから，EUR Print Manager を起動して帳票出力できる部品を提供しています。これを，**Java 起動部品**といいます。

Web/AP サーバ側のアプリケーション実行環境から Java 起動部品を利用することで，サーバ側のアプリケーションを効率良く作成できます。

Java 起動部品は，帳票ファイル名などをプロパティで設定し，出力実行メソッドを呼び出して帳票を出力します。

10.1.1　Java 起動部品の JDK バージョン

Java 起動部品（EURPMAdapter.jar）が前提とする JDK のバージョンを次に示します。

表 10-1　Java 起動部品の JDK バージョン

OS	JDK のバージョン
Windows	JDK 1.4，JDK 5.0，または JDK6.0
AIX	JDK 1.4，JDK 5.0，または JDK6.0
HP-UX	JDK 1.4，JDK 5.0，または JDK6.0
Linux	JDK 1.4，JDK 5.0，または JDK6.0

10.1.2　Java 起動部品の設定方法

（1）Java 起動部品のファイル構成

（a）Windows 環境の場合

Java 起動部品は，次に示す二つのファイルから構成されます。

- EURPMAdapter.jar
- EURPMADJ.dll

EURPMAdapter.jar と EURPMADJ.dll は，EUR Print Manager - Adapter をインストールしたときに，次に示すフォルダにインストールされます。

32 ビットプログラムから呼び出すとき

```
EUR Print Manager - Adapterのインストール先フォルダ¥Java
```

64 ビットプログラムから呼び出すとき

```
EUR Print Manager - Adapterのインストール先フォルダ¥Java(x64)
```

(b) UNIX/Linux 環境の場合

Java 起動部品は，次に示す二つのファイルから構成されます。

- EURPMAdapter.jar
- libEURPMADJ.so

EURPMAdapter.jar は，EUR Print Manager - Adapter をインストールしたときに，次に示すディレクトリにインストールされます。

```
/opt/eurpm_adp/java/
```

libEURPMADJ.so は，次に示すディレクトリにインストールされます。

32 ビットプログラムから呼び出すとき

```
/opt/eurpm_adp/lib/
```

64 ビットプログラムから呼び出すとき

```
/opt/eurpm_adp/lib64/
```

(2) Java 起動部品の設定方法

Java 起動部品の設定方法を次に示します。両方とも実施してください。

- EURPMAdapter.jar ファイルのフルパスをクラスパスに追加します。
- Windows 環境の場合は EURPMADJ.dll のインストール先フォルダに，UNIX/Linux 環境の場合は libEURPMADJ.so のインストール先ディレクトリに，ライブラリのパスを通します。

JSP や Java サーブレットアプリケーションで管理するフォルダ，クラスパスの設定，およびライブラリのパスの設定については，JSP 環境のマニュアルを参照してください。

10.1.3　Java 起動部品が提供するパッケージ

Java 起動部品では，JP.co.Hitachi.soft.EURPM **パッケージ**を提供します。

JP.co.Hitachi.soft.EURPM パッケージは，次に示すクラスを提供します。

● 帳票出力の制御を行うクラス
EURPMAdapterForJava：帳票出力を制御するクラス

● 例外の制御を行うクラス
EURPMException：帳票出力時に発生するエラー（例外）を管理するクラス

10.2　EURPMAdapterForJava クラス

EURPMAdapterForJava クラスは，帳票出力を制御するクラスです。

public class EURPMAdapterForJava

クラス継承

java.lang.Object
　JP.co.Hitachi.soft.EURPM.EURPMAdapterForJava

解説

帳票ファイル，データファイル，出力種別（プリンタ出力，EPF 形式ファイル，PDF 形式ファイル，EUR 形式ファイル，または CSV 形式ファイル）などのプロパティを設定するメソッドと，帳票出力を行うメソッドを提供します。JSP や Java サーブレットなどのアプリケーションプログラムからは，次に示す手順で帳票出力をします。

1. CSV 形式ファイルの作成
2. EURPMAdapterForJava オブジェクトの作成
3. **プロパティの設定**
   帳票ファイル，データファイル，出力種別（プリンタ出力，EPF 形式ファイル，PDF 形式ファイル，EUR 形式ファイル，または Excel 形式ファイル）などのプロパティを設定するメソッドに情報を設定します。メソッドの設定については，「10.4　EURPMAdapterForJava クラスのメソッド仕様」を参照してください。
   なお，参照先に ActiveX 起動部品のプロパティ名が指定されている場合は，対応する Java 起動部品のメソッドに置き換えてください。
4. **帳票の出力**
   帳票出力メソッド（printReport メソッド）を呼び出して帳票を出力します。

3. と 4. の処理で発生したエラー，または発生するエラーは，例外を処理するようにプログラムに記述します。

10.2.1　EURPMAdapterForJava クラスのコンストラクタ

EURPMAdapterForJava クラスのコンストラクタは，EURPMAdapterForJava オブジェクトを生成します。

public EURPMAdapterForJava() throws EURPMException

解説

ユーザーアプリケーションプログラムからコンストラクタを呼び出すことで，EURPMAdapterForJava オブジェクトを生成します。帳票ファイル名，データファイル，出力種別（プリンタ出力，EPF 形式ファイル，PDF 形式ファイル，EUR 形式ファイル，または Excel 形式ファイル）などを，

EURPMAdapterForJava クラスのメソッドで設定したあと，printReport メソッドで帳票出力をします。

引数

なし

例外処理

EURPMException

EURPMAdapterForJava オブジェクトの生成時にエラーが発生したときは，EURPMException クラスの例外が発生します。

10.2.2　EURPMAdapterForJava クラスのメソッド一覧

EURPMAdapterForJava クラスのメソッドには，帳票の出力や出力情報を採取するメソッド（実行メソッド）と，帳票を出力するために帳票ファイル名やデータファイル名などの情報を設定するメソッド（設定メソッド）があります。また，実行メソッドには，出力情報などを取得するメソッド（情報取得メソッド）と，帳票を出力するメソッド（出力メソッド）があります。実行メソッドを表 10-2 に，設定メソッドを表 10-4 に示します。

表 10-2　EURPMAdapterForJava クラスの実行メソッド

種類	メソッド	概要
情報取得メソッド	getDestinationList	出力先の一覧を取得します。
	getJobID	getJobID メソッドを実行する直前に蓄積した蓄積ファイルのジョブ ID を取得します。 帳票を分割または仕分けして蓄積した場合など，直前に蓄積した蓄積ファイルが複数あるときは，最初に蓄積した蓄積ファイルのジョブ ID を取得します。
	getJobIDList	getJobIDList メソッドを実行する直前に蓄積した蓄積ファイルのジョブ ID の一覧を取得します。
	getPMPrinterClassList	印刷管理サーバのプリンタクラスの一覧を取得します。
	getPMPrinterList ※1	印刷管理サーバに登録された OS 上のプリンタ一覧を取得します。
	getPMTrayList ※1	印刷管理サーバ上のプリンタを指定し，その OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。
	getPreviewAXClassID	EURPMPreViewAX.ocx のクラス ID を取得します。
	getPreviewAXVersion	EURPMPreViewAX.ocx のバージョンを取得します。
	getPrintAXClassID	EURPMPrintAX.ocx のクラス ID を取得します。
	getPrintAXVersion	EURPMPrintAX.ocx のバージョンを取得します。

種類	メソッド	概要
	getPrinterClassList ※2	指定した出力先の拠点プリンタクラスの一覧を取得します。
	getPrinterList ※2	指定した出力先の拠点サーバに登録された OS 上のプリンター一覧を取得します。
	getTrayList ※2	出力先と OS 上のプリンタを指定し，その OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。
出力メソッド	getEPFReport	EPF 形式データを出力します。
	getEURReport	EUR 形式データを出力します。
	getMergeEPFReport	複数の EPF 形式ファイルを統合して，EPF 形式データを出力します。
	getPDFReport	PDF 形式データを出力します。
	getXLSXReport	Excel 形式データを出力します。
	outputEPFReport	EPF 形式ファイルを出力します。
	outputEURReport	EUR 形式ファイルを出力します。
	outputMergeEPFReport	複数の EPF 形式ファイルを統合して，EPF 形式ファイルを出力します。
	outputPDFReport	PDF 形式ファイルを出力します。
	outputXLSXReport	Excel 形式ファイルを出力します。
	printReport	印刷を実行します。

注※ 1

印刷管理サーバが UNIX/Linux 環境の場合は指定できません。

注※ 2

対象となる拠点サーバが UNIX/Linux 環境の場合は指定できません。

EURPMAdapterForJava クラスのメソッドのうち，出力メソッドで使用する設定メソッドを表 10-4 に示します。表 10-4 では，出力メソッドを表 10-3 のように省略して表記します。

表 10-3　出力メソッドの略称

略称	出力メソッド
PMRS	printReport（拠点サーバでの印刷）
PMRC	printReport（クライアント PC での印刷）
PMRT	printReport（蓄積）
PMRD	printReport（直接印刷）
PMRH	printReport（クライアント PC への配布印刷）
PDF	outputPDFReport（PDF 形式ファイル出力）または getPDFReport（PDF 形式データ出力）

略称	出力メソッド
EPF	outputEPFReport（EPF 形式ファイル出力）または getEPFReport（EPF 形式データ出力）
MEPF	outputMergeEPFReport（複数 EPF 形式ファイル統合出力）または getMergeEPFReport（複数 EPF 形式ファイル統合データ出力）
EUR	outputEURReport（EUR 形式ファイル出力）または getEURReport（EUR 形式データ出力）
XLSX	outputXLSXReport（Excel 形式ファイル出力）または getXLSXReport（Excel 形式データ出力）

表 10-4　EURPMAdapterForJava クラスの出力メソッドで使用する設定メソッド

メソッド	設定内容	出力メソッド									
		PMRS	PMRC	PMRT	PMRD	PMRH	PDF	EPF	MEPF	EUR	XLSX
setBookmarkFileData	しおり定義データを指定します。	－	－	－	－	－	△	－	－	－	－
setBookmarkFileName	しおり定義ファイル名を指定します。	－	－	－	－	－	△	－	－	－	－
setBookmarkFilePath	文書しおり定義ファイル，およびしおり定義ファイルのパスを指定します。	－	－	－	－	－	△	－	－	－	－
setClientAddress	クライアント PC の IP アドレスを指定します。	－	○	△	－	○	－	－	－	－	－
setClientPrinterName	印刷先クライアントプリンタ名を指定します。	－	△	△	－	△	－	－	－	－	－
setClientTrayName	印刷先クライアントプリンタのトレイ名を指定します。	－	△	△	－	△	－	－	－	－	－
setCrypto	PDF 形式ファイルの暗号化出力をするかどうかを指定します。	－	－	－	－	－	△	－	－	－	－
setCryptoFileData	暗号化設定データを指定します。	－	－	－	－	－	△	－	－	－	－
setCryptoFileName	暗号化設定ファイル名を指定します。	－	－	－	－	－	△	－	－	－	－
setCryptoFilePath	暗号化設定ファイルのパスを指定します。	－	－	－	－	－	△	－	－	－	－

メソッド	設定内容	出力メソッド									
		PMRS	PMRC	PMRT	PMRD	PMRH	PDF	EPF	MEPF	EUR	XLSX
setDataFileData	マッピングデータまたは可変記号値定義データを指定します。	△	△	△	△	－	△	△	－	△	△
setDataFileName	マッピングデータファイル名または可変記号値定義ファイル名を指定します。	△	△	△	△	－	△	△	－	△	△
setDataFilePath	マッピングデータファイルパスまたは可変記号値定義ファイルのパスを指定します。	△	△	△	△	－	△	△	－	△	△
setDBInfoFileName	接続情報ファイル名を指定します。	△	△	△	△	－	△	△	－	△	△
setDBInfoFilePath	接続情報ファイルのパスを指定します。	△	△	△	△	－	△	△	－	△	△
setDestinationName	帳票の出力先名を指定します。	△	－	△	－	－	－	－	－	－	－
setDispPrintDlg	ダイアログ表示モードを選択します。	－	△	△	－	△	－	－	－	－	－
setDistributeFileData	PDF 仕分け定義データを指定します。	－	－	－	－	－	△	－	－	－	－
setDistributeFileName	PDF 仕分け定義ファイル名を指定します。	－	－	－	－	－	△	－	－	－	－
setDistributeFilePath	PDF 仕分け定義ファイルのパスを指定します。	－	－	－	－	－	△	－	－	－	－
setDistributionInfoFile	仕分け定義情報ファイル名を指定します。	△※1	－	－	△※1	－	－	－	－	－	－
setDistributionInfoFileData	仕分け定義情報データを指定します。	△	－	－	△	－	－	－	－	－	－
setDistributionInfoFilePath	仕分け定義情報ファイルのパスを指定します。	△※1	－	－	△※1	－	－	－	－	－	－
setDocBookmarkFileData	文書しおり定義データを指定します。	－	－	－	－	－	△	－	－	－	－
setDocBookmarkFileName	文書しおり定義ファイル名を指定します。	－	－	－	－	－	△	－	－	－	－
setDocInfoFileName	文書情報設定ファイル名を指定します。	△	△	△	△	－	△	△	－	△	－

メソッド	設定内容	出力メソッド									
		PMRS	PMRC	PMRT	PMRD	PMRH	PDF	EPF	MEPF	EUR	XLSX
setDocInfoFilePath	文書情報設定ファイルのパスを指定します。	△	△	△	△	－	△	△	－	△	－
setEnableGet	蓄積ファイルの取得可否を指定します。	－	－	△	－	－	－	－	－	－	－
setEncryptionPasswordKey	パスワード暗号化鍵を指定します。	－	－	－	－	－	△	－	－	－	－
setEPFFileData	メモリ取得した EPF 形式ファイルデータを指定します。	－	－	－	－	△※2	－	－	－	－	－
setEPFFileName	EPF 形式ファイル名を指定します。	－	－	－	－	△※2	－	○※3	○※3	－	－
setEPFFilePath	EPF 形式ファイルの出力フォルダを指定します。	－	－	－	－	△	－	△※3	△※3	－	－
setEURFileName	出力する EUR 形式ファイル名を指定します。	－	－	－	－	－	－	－	－	○※4	－
setEURFilePath	出力する EUR 形式ファイルのパスを指定します。	－	－	－	－	－	－	－	－	△※4	－
setExecutablePrintMode	実行可能印刷方式を指定します。	－	－	△	－	－	－	－	－	－	－
setFileOutputDestination	ファイルの出力先を指定します。	－	－	－	－	－	△	－	－	－	－
setFirstPageNumber	ページ番号の初期値を指定します。	△	△	△	△	－	△	△	－	－	－
setGroupName	帳票振り分け定義の振り分けグループ名を指定します。	△	－	△	－	－	－	－	－	－	－
setInitPageNumber	ページ番号の開始番号の初期化を指定します。	△	△	△	△	－	△	△	－	－	－
setJobKeyCategory	蓄積ファイルとして格納するファイルの，検索キーの分類を指定します。	－	－	△	－	－	－	－	－	－	－
setJobKeyData	蓄積ファイルの検索キーの値を指定します。	－	－	△	－	－	－	－	－	－	－

メソッド	設定内容	出力メソッド									
		PMRS	PMRC	PMRT	PMRD	PMRH	PDF	EPF	MEPF	EUR	XLSX
setMaxPrintCount	蓄積ファイルの上限印刷回数を指定します。	－	－	△	－	－	－	－	－	－	－
setMergeEPFFileName	統合対象の EPF 形式ファイル名を指定します。	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－
setMergeEPFFilePath	統合対象の EPF 形式ファイルのパスを指定します。	－	－	－	－	－	－	－	△	－	－
setMultiBookmarkFileName	複数のしおり定義ファイル名を指定します。	－	－	－	－	－	△	－	－	－	－
setMultiDataFileName	複数のマッピングデータファイル名または可変記号値定義ファイル名を指定します。	△	△	△	△	－	△	△	－	△	－
setMultiFormInfoDefFileName	複数様式情報定義ファイル名を指定します。	△	△	△	△	－	△	△	－	△	－
setMultiFormInfoDefFilePath	複数様式情報定義ファイルのパスを指定します。	△	△	△	△	－	△	△	－	△	－
setMultiReportFileName	複数の帳票ファイル名を指定します。	△	△	△	○	－	△	△	－	△	－
setMultiReportSetFileName	帳票セット指定ファイル名を指定します。	△	△	△	△	－	△	△	－	△	－
setMultiReportSetFilePath	帳票セット指定ファイルのパスを指定します。	△	△	△	△	－	△	△	－	△	－
setMultiUserDataFileName	複数のユーザ定義データファイル名または可変記号値定義ファイル名を指定します。	△	△	△	△	－	△	△	－	△	－
setPageNumberFormat	ページ番号のフォーマットを指定します。	△	△	△	△	－	△	△	－	－	－
setPageNumberLocation	余白へのページ番号の印刷位置を指定します。	△	△	△	△	－	△	△	－	－	－
setPaperOrientation	用紙の向きを指定します。	△	△	△	△	－	－	△	△	－	－
setPDFFileName	PDF 形式ファイル名を指定します。	－	－	－	－	－	○※5,※6	－	－	－	－

メソッド	設定内容	出力メソッド									
		PMRS	PMRC	PMRT	PMRD	PMRH	PDF	EPF	MEPF	EUR	XLSX
setPDFFilePath	PDF 形式ファイルのパスを指定します。	－	－	－	－	－	△※6	－	－	－	－
setPMServerAddress	印刷管理サーバの IP アドレスを指定します。	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
setPMServerPort	印刷管理サーバのポート番号を指定します。	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
setPrintCopies	印刷部数を指定します。	△	△	△	△	－	－	△	△	－	－
setPrintDateFileName	印刷日時出力定義ファイル名を指定します。	△	△	△	－	－	－	△	－	－	－
setPrintDateFilePath	印刷日時出力定義ファイルのパスを指定します。	△	△	△	－	－	－	△	－	－	－
setPrintEndPage	印刷終了ページを指定します。	△	△	△	△	－	△	△	－	－	△
setPrinterClassName	プリンタクラス名を指定します。	△	△	△	△	－	－	△	△	－	－
setPrinterSelectMode	プリンタ指定方式を選択します。	△	－	△	△※7	－	－	－	－	－	－
setPrintHoldMode	蓄積印刷方式で，蓄積後に続けて印刷するかどうかを選択します。	－	－	△	－	－	－	－	－	－	－
setPrintKind	拠点サーバ印刷方式の印刷モードを指定します。	△	－	－	－	－	－	－	－	－	－
setPrintMode	印刷メソッド（printReport メソッド）の印刷方式を指定します。	△	△	△	△	△	－	－	－	－	－
setPrintPageNumber	余白へのページ番号印刷を指定します。	△	△	△	△	－	△	△	－	－	－
setPrintStartPage	印刷開始ページを指定します。	△	△	△	△	－	△	△	－	－	△
setPSEnvFileName	EUR Print Service の環境設定ファイル名を指定します。	△	△	△	△	－	△	△	－	△	△
setPSEnvFilePath	EUR Print Service の環境設定ファイルパスを指定します。	△	△	△	△	－	△	△	－	△	△

メソッド	設定内容	出力メソッド									
		PMRS	PMRC	PMRT	PMRD	PMRH	PDF	EPF	MEPF	EUR	XLSX
setReplaceItemCntlFileName	置き換え表管理情報ファイル名を指定します。	△	△	△	△	－	△	△	－	△	△
setReplaceItemCntlFilePath	置き換え表管理情報ファイルのパスを指定します。	△	△	△	△	－	△	△	－	△	△
setReportFileName	帳票ファイル名を指定します。	○※8	○※8	○※8	○※8	－	○※8	○※8	－	○※8	○
setReportFilePath	帳票ファイルのパスを指定します。	△	△	△	△	－	△	△	－	△	△
setScriptCntlFileName	Acrobat JavaScript 定義ファイル名を指定します。	－	－	－	－	－	△	－	－	－	－
setScriptCntlFilePath	Acrobat JavaScript 定義ファイルのパスを指定します。	－	－	－	－	－	△	－	－	－	－
setServerAddress	拠点サーバの IP アドレスを指定します。	△	－	△	－	－	－	－	－	－	－
setServerPrinterName	サーバプリンタ名を指定します。	△	－	△	－	－	－	－	－	－	－
setServerSelectMode	拠点サーバの選択方法を指定します。	△	－	△	－	－	－	－	－	－	－
setServerTrayName	サーバプリンタのトレイ名を指定します。	△	－	△	－	－	－	－	－	－	－
setSortPrint	印刷部数の単位を指定します。	△	△	△	△	－	－	△	△	－	－
setSplitFileData	EURPM 分割 / 仕分け定義データを指定します。	－	－	△	－	－	－	－	－	－	－
setSplitFileName	EURPM 分割 / 仕分け定義ファイル名を指定します。	－	－	△	－	－	－	－	－	－	－
setSplitFilePath	EURPM 分割 / 仕分け定義ファイルパスを指定します。	－	－	△	－	－	－	－	－	－	－
setSplitMode	帳票を分割または仕分けするかどうかを指定します。	－	－	△	－	－	－	－	－	－	－

メソッド	設定内容	出力メソッド									
		PMRS	PMRC	PMRT	PMRD	PMRH	PDF	EPF	MEPF	EUR	XLSX
setSpoolFileName	蓄積ファイルに格納するファイルのファイル名を指定します。	－	－	△	－	－	－	－	－	－	－
setSpoolLimit	蓄積ファイルの蓄積期限日を指定します。	－	－	△	－	－	－	－	－	－	－
setSpoolTitle	スプールタイトルを指定します。	－	－	－	－	－	－	－	△	－	－
setUserDataFileData	ユーザ定義データまたは可変記号値定義データを指定します。	△	△	△	△	－	△	△	－	△	△
setUserDataFileName	ユーザ定義データファイル名または可変記号値定義ファイル名を指定します。	△	△	△	△	－	△	△	－	△	△
setUserDataFilePath	ユーザ定義データファイルまたは可変記号値定義ファイルのパスを指定します。	△	△	△	△	－	△	△	－	△	△
setViewerPreferenceFileName	ビューアプレファレンス定義ファイル名を指定します。	－	－	－	－	－	△	－	－	－	－
setViewerPreferenceFilePath	ビューアプレファレンス定義ファイルのパスを指定します。	－	－	－	－	－	△	－	－	－	－
setXLSXFileName	Excel 形式ファイル名を指定します。	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○※9
setXLSXFilePath	Excel 形式ファイルのパスを指定します。	－	－	－	－	－	－	－	－	－	△※9

（凡例）

○：必ず指定します。

△：指定を省略できます。

－：指定できません。

注

指定できないメソッドを指定した場合は，その指定を無視します。

注※ 1

UNIX/Linux 環境では指定できません。

注※ 2

クライアント PC への配布印刷の場合は，setEPFFileName メソッドまたは setEPFFileData メソッドのどちらかを必ず指定してください。

注※ 3

getEPFReport メソッドおよび getMergeEPFReport メソッドでは指定できません。

注※ 4

getEURReport メソッドでは指定できません。

注※ 5

setDistributeFileName メソッドを指定している場合は，指定を省略できます。

注※ 6

getPDFReport メソッドでは指定できません。

注※ 7

指定できるプリンタ印刷方式は，「プリンタクラス名指定」または「OS 上のプリンタ名指定」です。

注※ 8

setMultiReportSetFileName メソッドを指定している場合は，指定を省略できます。

注※ 9

getXLSXReport メソッドでは指定できません。

注意事項

EUR Print Service と連携して使用するメソッドでエラーが発生した場合は，次のエラーメッセージが出力されます。メッセージが表示されたときは，EUR Print Service のイベントログ，または eurps ログを参照してください。

メッセージ ID	メッセージ
KEEY221-E	印刷処理でエラーが発生しました。(337)
KEEY223-E	PDF 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(337)
KEEY225-E	EPF 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(337)
KEEY243-E	EUR 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(337)
KEEY263-E	XLSX 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(337)

EURPMAdapterForJava クラスのメソッドのうち，情報取得メソッドで使用する設定メソッドを表 10-6 に示します。表 10-6 では，情報取得メソッドを表 10-5 のように省略して表記します。

表 10-5　情報取得メソッドの略称

略称	情報取得メソッド
GEDL	getDestinationList（出力先一覧の取得）
GEPC	getPMPrinterClassList（印刷管理サーバのプリンタクラス一覧の取得）
GEPP	getPMPrinterList（印刷管理サーバのプリンタ一覧の取得）

略称	情報取得メソッド
GEPT	getPMTrayList（印刷管理サーバのトレイ一覧を取得）
GECL	getPrinterClassList（プリンタクラス一覧の取得）
GEPL	getPrinterList（プリンタ一覧の取得）
GETL	getTrayList（トレイ一覧の取得）

表 10-6　EURPMAdapterForJava クラスの情報取得メソッドで使用する設定メソッド

メソッド	設定内容	情報取得メソッド						
		GE DL	GE PC	GE PP	GE PT	GE CL	GE PL	GE TL
setDestinationName	出力先名を指定します。	－	－	－	－	△	△	△
setPMServerAddress	印刷管理サーバの IP アドレスを指定します。	△	△	△	△	△	△	△
setPMServerPort	印刷管理サーバのポート番号を指定します。	△	△	△	△	△	△	△
setServerPrinterName	サーバのプリンタ名を指定します。	－	－	－	○	－	－	○

（凡例）

△：指定を省略できます。

10.3　EURPMException クラス

EURPMException クラスは，Java 起動部品の各メソッドで例外が発生した場合にスローされるクラスです。

public class EURPMException extends java.lang.Exception

クラス継承

java.lang.Exception
　JP.co.Hitachi.soft.EURPM.EURPMException

解説

EURPMException クラスのオブジェクトは，Java 起動部品の内部で生成します。
ユーザープログラムは，このオブジェクトを例外ハンドラで受け取り，getMessage メソッド，または getErrorCode メソッドを呼び出してエラー情報を取得します。

10.3.1　EURPMException クラスのメソッド一覧

EURPMException クラスのメソッドを次に示します。

表 10-7　EURPMException クラスのメソッド

メソッド	設定内容
getErrorCode	エラーコードを取得します。
getErrorLevel	エラーレベルを取得します。
getKey	メッセージのメッセージ ID を取得します。
getMessage	エラーメッセージの文字列を取得します。
getOutputData	例外発生時にエラー種別が警告の場合，印刷データを取得します。

10.4　EURPMAdapterForJava クラスのメソッド仕様

EURPMAdapterForJava クラスで使用できるメソッドの詳細を説明します。

getDestinationList メソッド

出力先の一覧を取得します。

形式

public ArrayList[] getDestinationList() throws EURPMException

解説

getDestinationList メソッドは，EUR Print Manager に登録された出力先の一覧を取得します。出力先の一覧は，出力先定義ファイルから取得します。取得できる情報は，定義された出力先の情報です。拠点サーバの稼働状況は取得できません。

メソッド実行時にエラーが発生した場合，getErrorCode メソッドに終了コード，getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

出力先の一覧を次に示す形式で返します。

```
出力先名1,IPアドレス1,説明1
出力先名2,IPアドレス2,説明2
                :
```

例外処理

EURPMException

エラー発生時は，EURPMException 例外がスローされます。

呼び出し例

getDestinationList メソッドの呼び出し例を次に示します。

```
try {
  adp = new EURPMAdapterForJava();
}
```

```
catch (Exception e) {
  System.out.println("Adapterオブジェクト生成エラー");
}
System.out.println("getDestinationList実行");
try {
  ArrayList[] alDestinations = adp.getDestinationList();
  for(cntj = 0 ; cntj < alDestinations[0].size() ; cntj++){
    System.out.println("出力先名  [" + cntj + "]=[" +
      alDestinations[0].get(cntj) + "]");
    System.out.println("IPアドレス[" + cntj + "]=[" +
      alDestinations[1].get(cntj) + "]");
    System.out.println("説明      [" + cntj + "]=[" +
      alDestinations[2].get(cntj) + "]");
  }
}
catch (EURPMException e) {
  int iCode = e.getErrorCode();
  System.out.println(Integer.toString(iCode));
  System.out.println(e.getMessage());
  System.out.println(e.getKey());
  e.printStackTrace();
}
```

getEPFReport メソッド

EPF 形式データをメモリに取得します。

形式

public ByteBuffer getEPFReport()

引数

なし

戻り値

EPF 形式データをバイナリデータで返します。

例外処理

EURPMException

エラー発生時は，EURPMException 例外がスローされます。エラー種別が警告の場合，データは EURPMException クラスの getOutputData メソッドで取得してください。

getEURReport メソッド

EUR 形式データをメモリに取得します。

形式

public ByteBuffer getEURReport()

引数

なし

戻り値

EUR 形式データをバイナリデータで返します。

例外処理

EURPMException

エラー発生時は，EURPMException 例外がスローされます。エラー種別が警告の場合，データは EURPMException クラスの getOutputData メソッドで取得してください。

getJobID メソッド

getJobID メソッドを実行する直前に蓄積した蓄積ファイルのジョブ ID を取得します。

帳票を分割または仕分けして蓄積した場合など，直前に蓄積した蓄積ファイルが複数あるときは，最初に蓄積した蓄積ファイルのジョブ ID を取得します。

形式

public String getJobID()

引数

なし

戻り値

直前に蓄積した蓄積ファイルのジョブ ID

getJobIDList メソッド

getJobIDList メソッドを実行する直前に蓄積した蓄積ファイルのジョブ ID の一覧を取得します。直前に蓄積した蓄積ファイルが複数あるときは，すべての蓄積ファイルのジョブ ID を取得します。

形式

public ArrayList getJobIDList()

引数

なし

戻り値

直前に蓄積した蓄積ファイルのジョブ ID の一覧を，次に示す形式で返します。

```
＜正常時＞
ジョブID1
ジョブID2
   :
ジョブIDn

＜警告（KEEY387-W）発生時＞
ジョブID1
ジョブID2
Error
```

getMergeEPFReport メソッド

複数の EPF 形式データを統合してメモリに取得します。

形式

public ByteBuffer getMergeEPFReport() throws EURPMException

引数

なし

戻り値

EPF 形式データをバイナリデータで返します。

例外処理

EURPMException

エラー発生時は，EURPMException 例外がスローされます。エラー種別が警告の場合，データは EURPMException クラスの getOutputData メソッドで取得してください。

getPDFReport メソッド

PDF 形式データをメモリに取得します。

形式

public ByteBuffer getPDFReport()

引数

なし

戻り値

PDF 形式データをバイナリデータで返します。

例外処理

EURPMException

エラー発生時は，EURPMException 例外がスローされます。エラー種別が警告の場合，データは EURPMException クラスの getOutputData メソッドで取得してください。

getPMPrinterClassList メソッド

印刷管理サーバのプリンタクラスの一覧を取得します。

形式

public ArrayList[ ] getPMPrinterClassList ( ) throws EURPMException

引数

なし

戻り値

印刷管理サーバのプリンタクラスの一覧を，次に示す形式で返します。

```
＜２次元配列イメージ：ｎ行４列＞
プリンタクラス名1,OS上のプリンタ名1,OS上のプリンタのトレイ名1,説明1
プリンタクラス名2,OS上のプリンタ名2,OS上のプリンタのトレイ名2,説明2
                              :
プリンタクラス名n,OS上のプリンタ名n,OS上のプリンタのトレイ名n,説明n
```

例外処理

EURPMException

エラー発生時は，EURPMException 例外がスローされます。

呼び出し例

getPMPrinterClassList メソッドの呼び出し例を次に示します。

```
try {
    adp = new EURPMAdapterForJava();
}
catch (Exception e) {
```

```
    System.out.println("Adapterオブジェクト生成エラー");
}
System.out.println("getPMPrinterClassList実行");
  try{
    ArrayList[]alPrinterClasses=adp.getPMPrinterClassList();
    for(cntj=0;cntj<alPrinterClasses[0].size();cntj++){
      System.out.println("プリンタクラス名["+cntj+"]=
        ["+alPrinterClasses[0].get(cntj)+"]");
      System.out.println("OS上のプリンタ名["+cntj+"]=
        ["+alPrinterClasses[1].get(cntj)+"]");
      System.out.println("OS上のプリンタのトレイ名["+cntj+"]=
        ["+alPrinterClasses[2].get(cntj)+"]");
      System.out.println("説明["+cntj+"]=
        ["+alPrinterClasses[3].get(cntj)+"]");
    }
}
catch(EURPMException e){
  intiCode=e.getErrorCode();
  System.out.println(Integer.toString(iCode));
  System.out.println(e.getMessage());
  System.out.println(e.getKey());
  e.printStackTrace();
}
```

getPMPrinterList メソッド

印刷管理サーバに登録された OS 上のプリンター一覧を取得します。

形式

public ArrayList getPMPrinterList ( ) throws EURPMException

引数

なし

戻り値

印刷管理サーバに登録された OS 上のプリンター一覧を，次に示す形式で返します。

```
＜配列イメージ＞
OS上のプリンタ名1
OS上のプリンタ名2
        :
OS上のプリンタ名n
```

例外処理

EURPMException

エラー発生時は，EURPMException 例外がスローされます。

呼び出し例

getPMPrinterList メソッドの呼び出し例を次に示します。

```
try {
  adp = new EURPMAdapterForJava();
}
catch (Exception e) {
  System.out.println("Adapterオブジェクト生成エラー");
}
System.out.println("getPMPrinterList実行");
try{
  ArrayList alPrinters=adp.getPMPrinterList();
  for(cntj=0;cntj<alPrinters.size();cntj++){
    System.out.println("印刷管理サーバ上のプリンタ名
  =["+alPrinters.get(cntj)+"]");
    }
}
catch(EURPMException e){
  intiCode=e.getErrorCode();
  System.out.println(Integer.toString(iCode));
  System.out.println(e.getMessage());
  System.out.println(e.getKey());
  e.printStackTrace();
}
```

getPMTrayList メソッド

印刷管理サーバ上のプリンタを指定し，その OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。

形式

public ArrayList getPMTrayList (String newPrinterName) throws EURPMException

引数

newPrinterName

OS 上のプリンタ名

戻り値

指定した OS 上のプリンタのトレイ一覧を，次に示す形式で返します。

＜配列イメージ＞
OS上のプリンタのトレイ名1
OS上のプリンタのトレイ名2
　　：
OS上のプリンタのトレイ名n

例外処理

EURPMException

エラー発生時は，EURPMException 例外がスローされます。

呼び出し例

getPMTrayList メソッドの呼び出し例を次に示します。

```
try {
  adp = new EURPMAdapterForJava();
}
catch (Exception e) {
  System.out.println("Adapterオブジェクト生成エラー");
}
strPrinterName="PRINTER1";
System.out.println("PrinterName =["+ strPrinterName +"]");
System.out.println("getPMTrayList実行");
try{
  ArrayList alTrays=adp.getPMTrayList(strPrinterName);
  for(cntj=0;cntj<alTrays.size();cntj++){
    System.out.println("OS上のプリンタのトレイ名
      =["+alTrays.get(cntj)+"]");
    }
}
catch(EURPMException e){
  intiCode=e.getErrorCode();
  System.out.println(Integer.toString(iCode));
  System.out.println(e.getMessage());
  System.out.println(e.getKey());
  e.printStackTrace();
}
```

getPreviewAXClassID メソッド

EURPMPreViewAX.ocx のクラス ID を取得します。

形式

public String getPreviewAXClassID()

解説

このメソッドを使用する場合は，EUR Print Manager - Adapter が稼働するマシンに ActiveX クライアント情報ファイル（EURPMPrintAX.inf）を配置する必要があります。ActiveX クライアント情報ファイルの配置方法については，「15.7.1　ActiveX クライアント情報ファイルの配置」を参照してください。

クラス ID は，次のように決定されます。

1. EUR Print Manager - Client Preview ActiveX をサーバ配置インストールしたときの，

ActiveX クライアント情報ファイル（EURPMPreViewAX.inf）に指定されているクラス ID を取得します。
2. 1. が取得できなかった場合は，EUR Print Manager - Adapter に配置された ActiveX クライアント情報ファイル（EURPMPreViewAX.inf）に指定されているクラス ID を取得します。
3. 2. が取得できなかった場合は，D07DA8D2-3459-488E-860E-DD47A71C39D2 を返します。

getPreviewAXClassID メソッド実行時にエラーが発生した場合，getErrorCode メソッドに終了コード，getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

EURPMPreViewAX.ocx のクラス ID（"xxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxx"）

getPreviewAXVersion メソッド

EURPMPreViewAX.ocx のバージョンを取得します。

形式

public String getPreviewAXVersion()

解説

このメソッドを使用する場合は，EUR Print Manager - Adapter が稼働するマシンに ActiveX クライアント情報ファイル（EURPMPrintAX.inf）を配置する必要があります。ActiveX クライアント情報ファイルの配置方法については，「15.7.1　ActiveX クライアント情報ファイルの配置」を参照してください。

バージョンは，次のように決定されます。

1. EUR Print Manager - Client Preview ActiveX をサーバ配置インストールしたときの，ActiveX クライアント情報ファイル（EURPMPreViewAX.inf）に指定されているバージョンを取得します。
2. 1. が取得できなかった場合は，EUR Print Manager - Adapter に配置された ActiveX クライアント情報ファイル（EURPMPreViewAX.inf）に指定されているバージョンを取得します。
3. 2. が取得できなかった場合は，99,99,99,99 を返します。

getPreviewAXVersion メソッド実行時にエラーが発生した場合，getErrorCode メソッドに終了コード，getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

EURPMPreViewAX.ocx のバージョン値（"n,n,n,n"）

getPrintAXClassID メソッド

EURPMPrintAX.ocx のクラス ID を取得します。

形式

public String getPrintAXClassID()

解説

このメソッドを使用する場合は，EUR Print Manager - Adapter が稼働するマシンに ActiveX クライアント情報ファイル（EURPMPrintAX.inf）を配置する必要があります。ActiveX クライアント情報ファイルの配置方法については，「15.7.1　ActiveX クライアント情報ファイルの配置」を参照してください。

クラス ID は，次のように決定されます。

1. EUR Print Manager - Client Preview ActiveX をサーバ配置インストールしたときの，ActiveX クライアント情報ファイル（EURPMPrintAX.inf）に指定されているクラス ID を取得します。
2. 1. が取得できなかった場合は，EUR Print Manager - Adapter に配置された ActiveX クライアント情報ファイル（EURPMPrintAX.inf）に指定されているクラス ID を取得します。
3. 2. が取得できなかった場合は，368EE1C4-5A52-4C2E-A4C0-27C46B946A2C を返します。

getPrintAXClassID メソッド実行時にエラーが発生した場合，getErrorCode メソッドに終了コード，getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

EURPMPrintAX.ocx のクラス ID（"xxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxx"）

getPrintAXVersion メソッド

EURPMPrintAX.ocx のバージョンを取得します。

形式

public String getPrintAXVersion()

解説

このメソッドを使用する場合は，EUR Print Manager - Adapter が稼働するマシンに ActiveX クライアント情報ファイル（EURPMPrintAX.inf）を配置する必要があります。ActiveX クライアント情報ファイルの配置方法については，「15.7.1　ActiveX クライアント情報ファイルの配置」を参照してください。

バージョンは，次のように決定されます。

1. EUR Print Manager - Client ActiveX をサーバ配置インストールしたときの，ActiveX クライアント情報ファイル（EURPMPrintAX.inf）に指定されているバージョンを取得します。
2. 1. が取得できなかった場合は，EUR Print Manager - Adapter に配置された ActiveX クライアント情報ファイル（EURPMPrintAX.inf）に指定されているバージョンを取得します。
3. 2. が取得できなかった場合は，99,99,99,99 を返します。

getPrintAXVersion メソッド実行時にエラーが発生した場合，getErrorCode メソッドに終了コード，getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

EURPMPrintAX.ocx のバージョン値（"n,n,n,n"）

getPrinterClassList メソッド

指定した出力先の拠点プリンタクラスの一覧を取得します。

形式

public ArrayList[] getPrinterClassList(String *newDestinationName*) throws EURPMException

解説

指定した出力先の EUR Print Manager - Report Server に登録された拠点プリンタクラスの一覧を取得します。出力先を指定していない場合は，デフォルトの出力先として登録された拠点サーバのプリンタクラスの一覧を取得します。EUR Print Manager - Report Server が稼働中でない場合，エラーとなります。

取得できる情報は，定義された拠点プリンタクラス情報です。拠点サーバでのプリンタの稼働状況は取得できません。

getPrinterClassList メソッド実行時にエラーが発生した場合，getErrorCode メソッドに終了コード，getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

UNIX/Linux 環境の場合，拠点プリンタクラス一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Print Manager - Report Server に対して，拠点プリンタクラス一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

引数

newDestinationName

出力先名

戻り値

拠点プリンタクラスの一覧を次に示す形式で返します。

```
拠点プリンタクラス名1,OS上のプリンタ名1,OS上のプリンタのトレイ名1,説明1
拠点プリンタクラス名2,OS上のプリンタ名2,OS上のプリンタのトレイ名2,説明2
                                  :
拠点プリンタクラス名n,OS上のプリンタ名n,OS上のプリンタのトレイ名n,説明n
```

例外処理

EURPMException

エラー発生時は，EURPMException 例外がスローされます。

呼び出し例

getPrinterClassList メソッドの呼び出し例を次に示します。

```
try {
  adp = new EURPMAdapterForJava();
}
catch (Exception e) {
  System.out.println("Adapterオブジェクト生成エラー");
}
strDestName="SERVER1";
System.out.println("DestName=["+strDestName+"]");
System.out.println("getPrinterClassList実行");
```

```
try{

ArrayList[]alPrinterClasses=adp.getPrinterClassList(strDestName);
  for(cntj=0;cntj<alPrinterClasses[0].size();cntj++){
    System.out.println("プリンタクラス名["+cntj+"]=
      ["+alPrinterClasses[0].get(cntj)+"]");
    System.out.println("OS上のプリンタ名["+cntj+"]=
      ["+alPrinterClasses[1].get(cntj)+"]");
    System.out.println("OS上のプリンタのトレイ名["+cntj+"]=
      ["+alPrinterClasses[2].get(cntj)+"]");
    System.out.println("説明["+cntj+"]=
      ["+alPrinterClasses[3].get(cntj)+"]");
  }
}
catch(EURPMException e){
  intiCode=e.getErrorCode();
  System.out.println(Integer.toString(iCode));
  System.out.println(e.getMessage());
  System.out.println(e.getKey());
  e.printStackTrace();
}
```

getPrinterList メソッド

指定した出力先の拠点サーバに登録された OS 上のプリンタ一覧を取得します。

形式

public ArrayList getPrinterList(String *newDestinationName*) throws EURPMException

解説

getPrinterList メソッドは，指定した出力先の EUR Print Manager - Report Server に登録された OS 上のプリンタの一覧を取得します。出力先を指定していない場合は，デフォルトの出力先として登録された拠点サーバの OS 上のプリンタ一覧を取得します。EUR Print Manager - Report Server が稼働中でない場合，エラーとなります。

取得できる情報は，定義されたプリンタ情報です。拠点サーバでのプリンタの稼働状況は取得できません。

getPrinterList メソッド実行時にエラーが発生した場合，getErrorCode メソッドに終了コード，getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

UNIX/Linux 環境の場合，プリンタ一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Print Manager - Report Server に対して，プリンタ一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

引数

newDestinationName

出力先名

戻り値

OS 上のプリンタ一覧を次に示す形式で返します。

```
OS上のプリンタ名1
OS上のプリンタ名2
        :
OS上のプリンタ名n
```

例外処理

EURPMException

エラー発生時は，EURPMException 例外がスローされます。

呼び出し例

getPrinterList メソッドの呼び出し例を次に示します。

```
try {
  adp = new EURPMAdapterForJava();
}
catch (Exception e) {
  System.out.println("Adapterオブジェクト生成エラー");
}
strDestName="SERVER1";
System.out.println("DestName=["+strDestName+"]");
System.out.println("getPrinterList実行");
try{
  ArrayList alPrinters=adp.getPrinterList(strDestName);
  for(cntj=0;cntj<alPrinters.size();cntj++){
    System.out.println("OS上のプリンタ名
=["+alPrinters.get(cntj)+"]");
  }
}
catch(EURPMException e){
  intiCode=e.getErrorCode();
  System.out.println(Integer.toString(iCode));
  System.out.println(e.getMessage());
  System.out.println(e.getKey());
  e.printStackTrace();
}
```

getTrayList メソッド

出力先と OS 上のプリンタを指定し，その OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。

形式

public ArrayList getTrayList(String *newDestinationName*, String *newPrinterName*) throws EURPMException

解説

getTrayList メソッドは，指定した出力先の EUR Print Manager - Report Server に登録された OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。出力先を指定していない場合は，デフォルトの出力先として登録された拠点サーバの OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。EUR Print Manager - Report Server が稼働中でない場合，エラーとなります。

取得できる情報は，定義されたプリンタのトレイ情報です。拠点サーバでのプリンタのトレイ稼働状況は取得できません。

getTrayList メソッド実行時にエラーが発生した場合，getErrorCode メソッドに終了コード，getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

UNIX/Linux 環境の場合，トレイ一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Print Manager - Report Server に対して，トレイ一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

引数

newDestinationName

出力先名

newPrinterName

OS 上のプリンタ名

戻り値

指定したプリンタのトレイ一覧を次に示す形式で返します。

```
OS上のプリンタのトレイ名1
OS上のプリンタのトレイ名2
        :
OS上のプリンタのトレイ名n
```

例外処理

EURPMException

エラー発生時は，EURPMException 例外がスローされます。

呼び出し例

getTrayList メソッドの呼び出し例を次に示します。

```
try {
  adp = new EURPMAdapterForJava();
}
catch (Exception e) {
  System.out.println("Adapterオブジェクト生成エラー");
}
strDestName="SERVER1";
System.out.println("DestName=["+strDestName+"]");
strPrinterName="PRINTER1";
System.out.println("PrinterName =["+ strPrinterName +"]");
System.out.println("getTrayList実行");
try{
  ArrayList alTrays=adp.getTrayList(strDestName, strPrinterName);
  for(cntj=0;cntj<alTrays.size();cntj++){
    System.out.println("トレイ名=["+alTrays.get(cntj)+"]");
  }
}
catch(EURPMException e){
  intiCode=e.getErrorCode();
  System.out.println(Integer.toString(iCode));
  System.out.println(e.getMessage());
  System.out.println(e.getKey());
  e.printStackTrace();
}
```

getXLSXReport メソッド

Excel 形式データをメモリに取得します。

形式

public ByteBuffer getXLSXReport()

引数

なし

戻り値

Excel 形式データをバイナリデータで返します。

例外処理

EURPMException

エラー発生時は，EURPMException 例外がスローされます。エラー種別が警告の場合，データは EURPMException クラスの getOutputData メソッドで取得してください。

outputEPFReport メソッド

EPF 形式ファイルを出力します。

形式

public void outputEPFReport() throws EURPMException

解説

指定したファイルがすでにある場合は，上書きされます。

EUR Print Manager - Adapter が稼働するマシンに EPF 形式ファイルを出力します。出力する EPF 形式ファイルは，setEPFFilePath メソッドおよび setEPFFileName メソッドで指定します。

outputEPFReport メソッド実行時にエラーが発生した場合，getErrorCode メソッドに終了コード，getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

なし

例外処理

EURPMException

エラー発生時は，EURPMException 例外がスローされます。

outputEURReport メソッド

EUR 形式ファイルを出力します。

形式

public void outputEURReport() throws EURPMException

解説

指定したファイルがすでにある場合は，上書きされます。

EUR Print Manager - Adapter が稼働するマシンに EUR 形式ファイルを出力します。出力する EUR 形式ファイルは，setEURFilePath メソッドおよび setEURFileName メソッドで指定します。

outputEURReport メソッド実行時にエラーが発生した場合，getErrorCode メソッドに終了コード，getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

なし

例外処理

EURPMException

エラー発生時は，EURPMException 例外がスローされます。

outputMergeEPFReport メソッド

複数の EPF 形式ファイルを統合して出力します。

形式

public void outputMergeEPFReport() throws EURPMException

解説

指定したファイルがすでにある場合は，上書きされます。

EUR Print Manager - Adapter が稼働するマシンに複数の EPF 形式ファイルを統合して出力します。統合対象の EPF 形式ファイルは，setMergeEPFFilePath メソッドおよび setMergeEPFFileName メソッドで指定します。また，出力する EPF 形式ファイルは，setEPFFilePath メソッドおよび setEPFFileName メソッドで指定します。

outputMergeEPFReport メソッド実行時にエラーが発生した場合，getErrorCode メソッドに終了コード，getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

なし

例外処理

EURPMException

エラー発生時は，EURPMException 例外がスローされます。

outputPDFReport メソッド

PDF 形式ファイルを出力します。

形式

public void outputPDFReport() throws EURPMException

解説

指定したファイルがすでにある場合は，上書きされます。

EUR Print Manager が稼働するマシンまたは EUR Print Manager - Adapter が稼働するマシンに PDF 形式ファイルを出力します。PDF 形式ファイルの出力先は，setFileOutputDestination メソッド，setPDFFilePath メソッド，および setPDFFileName メソッドで指定します。

ただし，PDF 仕分け定義ファイル（setDistributeFileName メソッド）が指定されている場合は，PDF 仕分け定義ファイルに記述されている出力先ファイル名に従って，EUR Print Manager が稼働するマシンに PDF 形式ファイルを出力します。

outputPDFReport メソッド実行時にエラーが発生した場合，getErrorCode メソッドに終了コード，getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

なし

例外処理

EURPMException

エラー発生時は，EURPMException 例外がスローされます。

outputXLSXReport メソッド

Excel 形式ファイルを出力します。

形式

public void outputXLSXReport() throws EURPMException

解説

指定したファイルがすでにある場合は，上書きされます。

EUR Print Manager - Adapter が稼働するマシンに Excel 形式ファイルを出力します。出力する Excel 形式ファイルは，setXLSXFilePath メソッドおよび setXLSXFileName メソッドで指定します。

outputXLSXReport メソッド実行時にエラーが発生した場合，getErrorCode メソッドに終了コード，getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

なし

例外処理

EURPMException

エラー発生時は，EURPMException 例外がスローされます。

printReport メソッド

メソッドで指定した帳票名およびデータファイルで帳票を出力したり，印刷データを蓄積したりします。

形式

public void printReport() throws EURPMException

解説

printReport メソッドは，次の場合に呼び出し元に制御が戻ります。

- 拠点サーバでの印刷の場合
  拠点サーバ上のプリンタスプールへの出力が終了した時点
- クライアント PC での印刷の場合
  クライアント PC への配信が完了した時点
- 蓄積の場合
  蓄積先のサーバに印刷データの蓄積が完了した時点

printReport メソッドが終了すると，それまでに設定したメソッドはすべてリセットされます。

printReport メソッドで印刷方式が蓄積（setPrintMode=2）の場合は，正常または警告

でメソッドが戻ったときだけ蓄積ファイルに対応するジョブ ID を getJobID メソッドで取得できます。取得した情報は，Java 起動部品がメモリから解放されるか，または printReport メソッドが次に呼び出されるまで有効になります。

printReport メソッド実行時にエラーが発生した場合，getErrorCode メソッドに終了コード，getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

UNIX/Linux 環境の場合，拠点サーバでの印刷はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Print Manager - Report Server に対して，印刷を実行した場合はエラーとなります。

引数

なし

戻り値

なし

例外処理

EURPMException

エラー発生時は，EURPMException 例外がスローされます。

setBookmarkFileData メソッド

しおり定義データをメモリ渡しする場合，各帳票ファイルに指定するしおり定義ファイルを配列で指定します。帳票との対応づけは，配列の要素順です。

形式

public void setBookmarkFileData(StringBuffer[] *newBookmarkFileData*)

解説

- setBookmarkFileData メソッドは，outputPDFReport メソッド，または getPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。outputPDFReport メソッド以外の場合は，setBookmarkFileData メソッドを指定しても無視されます。
- setBookmarkFileData メソッドには，setReportFileName メソッド，または setMultiReportFileName メソッドで指定した帳票ファイルに対応するしおり定義データを指定します。指定するときは，配列の要素数が，setReportFileName メソッド，または setMultiReportFileName で指定した要素数と同じにしてください。
- setBookmarkFileData メソッドは，setBookmarkFileName メソッドと同時に使用できません。また，setBookmarkFileData メソッドを使用する場合は，ほかのファイルを指定するときも，次に示すメモリ入力（データ指定）のメソッドを使用してくださ

い。ファイル入力のメソッドと組み合わせて使用した場合は，ファイル入力のメソッドを無視します。

- マッピングデータ（setDataFileData）
- ユーザ定義データ（setUserDataFileData）
- 文書しおり定義データ（setDocBookmarkFileData）
- 仕分け定義情報データ（setDistributionInfoFileData）
- 暗号化設定データ（setCryptoFileData）
- PDF 仕分け定義データ（setDistributeFileData）

引数

newBookmarkFileData

しおり定義データ配列

戻り値

なし

指定例

複数の帳票セットを指定する場合，一部の帳票に対してしおり定義データの指定を省略したいときは，配列の要素に空文字を指定してください。

2 番目の帳票のしおり定義データの指定を省略する場合の例を次に示します。

```
// 帳票ファイル名を配列fmsに指定
fms[0]="Sample1.fms";
fms[1]="Sample2.fms";
fms[2]="Sample3.fms";
// しおり定義データを配列strBokに指定
bokFileData1 = new StringBuffer("参加者");
Array.set(strBok, 0, bokFileData1);
bokFileData2 = new StringBuffer("");
Array.set(strBok, 1, bokFileData2);
bokFileData3 = new StringBuffer("出納");
Array.set(strBok, 2, bokFileData3);
```

また，複数の帳票セットを指定する場合，複数の帳票に対して同じしおり定義データを指定したいときは，それぞれに同じオブジェクトを指定してください。

1 番目と 2 番目の帳票に，同じしおり定義データを指定するときの例を次に示します。

```
// 帳票ファイル名を配列fmsに指定
fms[0]="Sample1.fms";
fms[1]="Sample2.fms";
fms[2]="Sample3.fms";
// しおり定義データを配列strBokに指定
bokFileDataA = new StringBuffer("参加者");
Array.set(strBok, 0, bokFileDataA);
Array.set(strBok, 1, bokFileDataA);
bokFileDataB = new StringBuffer("出納");
Array.set(strBok, 2, bokFileDataB);
```

setBookmarkFileName メソッド

しおり定義ファイル名を指定します。

形式

public void setBookmarkFileName(String *newBookmarkFileName*)

解説

- しおり定義ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setBookmarkFileName メソッドは，outputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。outputPDFReport メソッド以外の場合は，setBookmarkFileName メソッドを指定しても無視されます。
- setBookmarkFileName メソッドは，setBookmarkFileData メソッドと同時に使用できません。また，setBookmarkFileName メソッドを使用する場合は，ほかのファイルを指定するときも，次に示すファイル入力（ファイル指定）のメソッドを使用してください。
  - マッピングデータファイル（setDataFileName）
  - ユーザ定義データファイル（setUserDataFileName）
  - 文書しおり定義ファイル（setDocBookmarkFileName）
  - 仕分け定義情報ファイル（setDistributionInfoFile）
  - 暗号化設定ファイル（setCryptoFileName）
  - 帳票セット指定ファイル（setMultiReportSetFileName）
  - PDF 仕分け定義ファイル（setDistributeFileName）
- しおり定義ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

引数

newBookmarkFileName

しおり定義ファイル名

戻り値

なし

setBookmarkFilePath メソッド

setDocBookmarkFileName メソッドで指定した文書しおり定義ファイルのパス，または setBookmarkFileName メソッドで指定したしおり定義ファイルのパスを指定します。

形式

public void setBookmarkFilePath(String *newBookmarkFilePath*)

解説

- 指定されたファイルのパスは，setDocBookmarkFileName メソッドで指定する文書しおり定義ファイルと，setBookmarkFileName メソッドで指定するしおり定義ファイルのデフォルトの場所になります。
- ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setBookmarkFilePath メソッドは，outputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。outputPDFReport メソッド以外の場合は，setBookmarkFilePath メソッドを指定しても無視されます。

引数

newBookmarkFilePath

文書しおり定義ファイル，またはしおり定義ファイルのパス

戻り値

なし

setClientAddress メソッド

印刷を実行するクライアント PC の IP アドレス，または蓄積クライアント印刷実行を要求するクライアント PC の IP アドレスを指定します。

形式

public void setClientAddress(String *newClientAddress*)

解説

- 次に示す場合以外は，setClientAddress メソッドを指定しても無視されます。
  - printReport メソッドで印刷方式がクライアント印刷方式（setPrintMode=1）の場合は，必ず setClientAddress メソッドを指定してください。
  - printReport メソッドで印刷方式が蓄積（setPrintMode=2）の場合，setClientAddress メソッドの指定は任意です。
  - printReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（setPrintMode=3）の場合は，setClientAddress メソッドを指定しても無視されます。

引数

newClientAddress

クライアント PC の IP アドレス

戻り値

なし

setClientPrinterName メソッド

帳票を印刷するクライアントプリンタ名を OS 上のプリンタ名で指定します。

形式

public void setClientPrinterName(String *newClientPrinterName*)

解説

- クライアントプリンタ名を OS 上のプリンタ名で指定します。setClientPrinterName メソッドを指定した場合，対話型印刷は使用できません。
- プリンタ名を指定するときの注意
  プリンタ名は，次のことに注意して指定してください。
  - プリンタ名は，80 バイト以内で指定してください。
  - プリンタ名には「"」および「,」を含めないでください。
- setClientPrinterName メソッドが指定されると，setDispPrintDlg メソッドは強制的に「1（ダイアログを表示しません）」を仮定します。
- setClientPrinterName メソッドと setPrinterClassName メソッドでは，setClientPrinterName メソッドの指定を優先します。
- setClientPrinterName メソッドは，printReport メソッドで印刷方式がクライアント印刷方式（setPrintMode=1）の場合，および printReport メソッドで印刷方式が蓄積（setPrintMode=2）の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は，setClientPrinterName メソッドを指定しても無視されます。

引数

newClientPrinterName

クライアントプリンタ名

戻り値

なし

setClientTrayName メソッド

クライアントプリンタのトレイ名を指定します。クライアントプリンタは，OS 上のプリンタを指します。

形式

public void setClientTrayName(String *newClientTrayName*)

解説

- トレイ名を指定するときの注意
  トレイ名は，次のことに注意して指定してください。
  - トレイ名は，80 バイト以内で指定してください。
  - トレイ名には「"」および「,」を含めないでください。
- setClientTrayName メソッドを指定する場合は，setClientPrinterName メソッドを必ず指定してください。
  setClientTrayName メソッドに指定したトレイ名が，setClientPrinterName メソッドで指定したプリンタで使用できない場合は，setClientPrinterName メソッドで指定したプリンタのデフォルトのトレイから給紙されます。
- setClientTrayName メソッドを指定しない場合は，setClientPrinterName メソッドで指定したプリンタのデフォルトのトレイから給紙されます。
- setClientTrayName メソッドは，printReport メソッドで印刷方式がクライアント印刷方式（setPrintMode=1）の場合，および printReport メソッドで印刷方式が蓄積（setPrintMode=2）の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は，setClientTrayName メソッドを指定しても無視されます。

引数

newClientTrayName

トレイ名

戻り値

なし

setCrypto メソッド

PDF 形式ファイルを暗号化して出力するかどうかを指定します。

形式

public void setCrypto(boolean *newCrypto*)

解説

setCrypto メソッドは，outputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。outputPDFReport メソッド以外の場合は，setCrypto メソッドを指定しても無視されます。

引数

newCrypto

PDF 形式ファイルの暗号化出力の有無を指定します。

指定できる値を次に示します。

- True：PDF 形式ファイルを暗号化します。
- False：PDF 形式ファイルを暗号化しません。

setCrypto メソッドを省略した場合，False が仮定されます。

戻り値

なし

setCryptoFileData メソッド

暗号化設定データをメモリ渡しする場合，暗号化設定データを指定します。

形式

public void setCryptoFileData(StringBuffer *newCryptoFileData*)

解説

- setCryptoFileData メソッドは，outputPDFReport メソッド，または getPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。
  outputPDFReport メソッド以外の場合は，setCryptoFileData メソッドを指定しても無視されます。
- setCryptoFileData メソッドは，setCryptoFileName メソッドと同時に使用できません。また，setCryptoFileData メソッドを使用する場合は，ほかのファイルを指定するときも，次に示すメモリ入力（データ指定）のメソッドを使用してください。ファイル入力のメソッドと組み合わせて使用した場合は，ファイル入力のメソッドを無視します。
  - マッピングデータ（setDataFileData）
  - ユーザ定義データ（setUserDataFileData）
  - しおり定義データ（setBookmarkFileData）
  - 文書しおり定義データ（setDocBookmarkFileData）
  - 仕分け定義情報データ（setDistributionInfoFileData）

- PDF 仕分け定義データ（setDistributeFileData）

引数

newCryptoFileData

暗号化設定データ

戻り値

なし

setCryptoFileName メソッド

暗号化設定ファイル名を指定します。

形式

public void setCryptoFileName(String *newCryptoFileName*)

解説

- 暗号化設定ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setCryptoFileName メソッドは，outputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。outputPDFReport メソッド以外の場合は，setCryptoFileName メソッドを指定しても無視されます。
- setCryptoFileName メソッドは，setCryptoFileData メソッドと同時に使用できません。また，setCryptoFileName メソッドを使用する場合は，ほかのファイルを指定するときも，次に示すファイル入力（ファイル指定）のメソッドを使用してください。
  - マッピングデータファイル（setDataFileName）
  - ユーザ定義データファイル（setUserDataFileName）
  - しおり定義ファイル（setBookmarkFileName）
  - 文書しおり定義ファイル（setDocBookmarkFileName）
  - 仕分け定義情報ファイル（setDistributionInfoFile）
  - 帳票セット指定ファイル（setMultiReportSetFileName）
  - PDF 仕分け定義ファイル（setDistributeFileName）
- 暗号化設定ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

引数

newCryptoFileName

暗号化設定ファイル名

戻り値

なし

setCryptoFilePath メソッド

setCryptoFileName メソッドで指定した暗号化設定ファイルのパスを指定します。

形式

public void setCryptoFilePath(String *newCryptoFilePath*)

解説

- 暗号化設定ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setCryptoFilePath メソッドは，outputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。outputPDFReport メソッド以外の場合は，setCryptoFilePath メソッドを指定しても無視されます。

引数

newCryptoFilePath

暗号化設定ファイルのパス

戻り値

なし

setDataFileData メソッド

マッピングデータまたは可変記号値定義データをメモリ渡しする場合，各帳票ファイルで使用するデータを配列で指定します。帳票との対応づけは，配列の要素順です。

形式

public void setDataFileData(StringBuffer[] *newDataFileData*)

解説

- setDataFileData メソッドには，setReportFileName メソッドまたは setMultiReportFileName メソッドで指定した帳票ファイルに対応するマッピングデータ，または可変記号値定義データを指定します。指定するときは，配列の要素数が，setReportFileName メソッド，または setMultiReportFileName メソッドで指定した要素数と同じにしてください。
- setDataFileData メソッドは，setDataFileName メソッドと同時に使用できません。また，setDataFileData メソッドを使用する場合は，ほかのファイルを指定するとき

も，次に示すメモリ入力（データ指定）のメソッドを使用してください。ファイル入力のメソッドと組み合わせて使用した場合は，ファイル入力のメソッドを無視します。

- ユーザ定義データ（setUserDataFileData）
- しおり定義データ（setBookmarkFileData）
- 文書しおり定義データ（setDocBookmarkFileData）
- 仕分け定義情報データ（setDistributionInfoFileData）
- 暗号化設定データ（setCryptoFileData）
- PDF 仕分け定義データ（setDistributeFileData）

引数

newDataFileData

マッピングデータまたは可変記号値定義データの配列

戻り値

なし

指定例

複数の帳票セットを指定する場合，一部の帳票に対してマッピングデータ（または可変記号値定義データ）の指定を省略したいときは，配列の要素に空文字を指定してください。

2 番目の帳票のマッピングデータの指定を省略する場合の例を次に示します。

```
// 帳票ファイル名を配列fmsに指定
fms[0]="Sample1.fms";
fms[1]="Sample2.fms";
fms[2]="Sample3.fms";
// マッピングデータを配列strMapに指定
mapFileData1 = new StringBuffer("東京,男性,24¥r¥n大阪,女性,22¥r¥n");
Array.set(strMap, 0, mapFileData1);
mapFileData2 = new StringBuffer("");
Array.set(strMap, 1, mapFileData2);
mapFileData3 = new StringBuffer("入金,300¥r¥n出金,500¥r¥n,入金
,400¥r¥n");
Array.set(strMap, 2, mapFileData3);
```

また，複数の帳票セットを指定する場合，複数の帳票に対して同じマッピングデータ（または可変記号値定義データ）を指定したいときは，それぞれに同じオブジェクトを指定してください。

1 番目と 2 番目の帳票に，同じマッピングデータを指定するときの例を次に示します。

```
// 帳票ファイル名を配列fmsに指定
fms[0]="Sample1.fms";
fms[1]="Sample2.fms";
fms[2]="Sample3.fms";
// マッピングデータを配列strMapに指定
mapFileDataA = new StringBuffer("東京,男性,24¥r¥n大阪,女性,22¥r¥n");
Array.set(strMap, 0, mapFileDataA);
```

```
Array.set(strMap, 1, mapFileDataA);
mapFileDataB = new StringBuffer("入金,300¥r¥n出金,500¥r¥n,入金
,400¥r¥n");
Array.set(strMap, 2, mapFileDataB);
```

setDataFileName メソッド

マッピングデータファイル名または可変記号値定義ファイル名を指定します。

形式

public void setDataFileName(String *newDataFileName*)

解説

- ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setDataFileName メソッドは，setDataFileData メソッドと同時に使用できません。また，setDataFileName メソッドを使用する場合は，ほかのファイルを指定するときも，次に示すファイル入力（ファイル指定）のメソッドを使用してください。
  - ユーザ定義データファイル（setUserDataFileName）
  - しおり定義ファイル（setBookmarkFileName）
  - 文書しおり定義ファイル（setDocBookmarkFileName）
  - 仕分け定義情報ファイル（setDistributionInfoFile）
  - 暗号化設定ファイル（setCryptoFileName）
  - 帳票セット指定ファイル（setMultiReportSetFileName）
  - PDF 仕分け定義ファイル（setDistributeFileName）
- マッピングデータファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

引数

newDataFileName

マッピングデータファイル名または可変記号値定義ファイル名

戻り値

なし

setDataFilePath メソッド

setDataFileName メソッドまたは帳票セット指定ファイルで指定したマッピングデータファイルのパス，もしくは可変記号値定義ファイルのパスを指定します。

形式

public void setDataFilePath(String *newDataFilePath*)

解説

- 指定されたファイルのパスは，setDataFileName メソッドで指定したファイルのパスとなります。
- ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

引数

newDataFilePath

マッピングデータファイルまたは可変記号値定義ファイルのパス

戻り値

なし

setDBInfoFileName メソッド

接続情報ファイル名を指定します。

形式

public void setDBInfoFileName(String *newDBInfoFileName*)

解説

- EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で，OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，接続情報ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。
  OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。
  パスは，setDBInfoFilePath メソッドに指定することもできます。
  setDBInfoFilePath メソッドにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。
  - フルパスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DBINFO キーには指定が要りません。
  - 相対パスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DBINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
  - ファイル名だけを指定する場合

環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

- 接続情報ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 接続情報ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

引数

newDBInfoFileName

接続情報ファイル名

戻り値

なし

setDBInfoFilePath メソッド

setDBInfoFileName メソッドで指定した接続情報ファイルのパスを指定します。

形式

public void setDBInfoFilePath(String *newDBInfoFilePath*)

解説

- 接続情報ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

引数

newDBInfoFilePath

接続情報ファイルのパス

戻り値

なし

setDestinationName メソッド

出力先名を指定します。

形式

public void setDestinationName(String *newDestinationName*)

解説

- 出力先名を指定するときの注意
  出力先名は，任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
  - 出力先名は，80 バイト以内で指定してください。
  - 出力先名には「"」および「,」を含めないでください。
- 次に示すどちらかの指定がある場合，setDestinationName メソッドは有効になります。それ以外の場合は，setDestinationName メソッドを指定しても無視されます。
  - printReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（setPrintMode=3），かつ拠点サーバ指定方式が出力先名指定（setServerSelectMode=0）のとき
  - printReport メソッドで印刷方式が蓄積（setPrintMode=2），かつ拠点サーバ指定方式が出力先名指定（setServerSelectMode=0）のとき

引数

newDestinationName

出力先名

戻り値

なし

setDispPrintDlg メソッド

クライアント PC で印刷する場合，ダイアログの表示モードを選択します。

形式

public void setDispPrintDlg(int *newDispPrintDlg*)

解説

- 指定できる値と印刷時の動作を次に示します。
  - 0：印刷先指定ダイアログを表示します（対話型印刷）。
    プレビューボタンを選択すると，プレビューウィンドウが表示されます。
  - 1：直接印刷を実行します（自動印刷）。
    印刷実行中に印刷中のダイアログが表示されます。
  - 2：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示）。
    印刷メニューまたは印刷ボタンを選択すると，印刷先指定ダイアログが表示されます。
  - 3：直接印刷を実行します（全自動印刷）。
    印刷実行中に印刷中のダイアログは表示されません。
  - 4：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示限定）。
    印刷は実行できません。

- setDispPrintDlg メソッドを省略した場合，EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）で OPTION セクションの DISPPRINTDLG キーの設定値（0 ～ 4）が仮定されます。環境設定ファイル DISPPRINTDLG キーおよび setDispPrintDlg メソッドとも省略した場合，0 が仮定されます。
  setClientPrinterName メソッドを指定した場合，かつ setDispPrintDlg メソッドに 0 または 2 を指定した場合は，1 が仮定されます。
- setDispPrintDlg メソッドは，printReport メソッドで印刷方式がクライアント印刷方式（setPrintMode=1）の場合，および printReport メソッドで印刷方式が蓄積（setPrintMode=2）の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は，setDispPrintDlg メソッドを指定しても無視されます。

戻り値

なし

setDistributeFileData メソッド

PDF 仕分け定義データをメモリ渡しする場合，PDF 仕分け定義データを指定します。

形式

public void setDistributeFileData(StringBuffer *newDistributeFileData*)

解説

- setDistributeFileData メソッドは，outputPDFReport メソッド，または getPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。outputPDFReport メソッド以外の場合は，setDistributeFileData メソッドを指定しても無視されます。
- setDistributeFileData メソッドは，setDistributeFileName メソッドと同時に使用できません。また，setDistributeFileData メソッドを使用する場合は，ほかのファイルを指定するときも，次に示すメモリ入力（データ指定）のメソッドを使用してください。ファイル入力のメソッドと組み合わせて使用した場合は，ファイル入力のメソッドを無視します。
  - マッピングデータ（setDataFileData）
  - ユーザ定義データ（setUserDataFileData）
  - しおり定義データ（setBookmarkFileData）
  - 文書しおり定義データ（setDocBookmarkFileData）
  - 暗号化設定データ（setCryptoFileData）
  - 仕分け定義情報データ（setDistributionInfoFileData）

引数

newDistributeFileData

PDF 仕分け定義データ

戻り値

なし

setDistributeFileName メソッド

PDF 仕分け定義ファイル名を指定します。

形式

public void setDistributeFileName(String *newDistributeFileName*)

解説

- PDF 仕分け定義ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setDistributeFileName メソッドは，outputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。outputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合は，setPDFFileName メソッドまたは setDistributeFileName メソッドのどちらかは，必ず指定してください。setPDFFileName メソッドと setDistributeFileName メソッドを同時に指定した場合は，setPDFFileName メソッドの指定は無視されます。outputPDFReport メソッド以外の場合は，setDistributeFileName メソッドを指定しても無視されます。
- setDistributeFileName メソッドは，setDistributeFileData メソッドと同時に使用できません。また，setDistributeFileName メソッドを使用する場合は，ほかのファイルを指定するときも，次に示すファイル入力（ファイル指定）のメソッドを使用してください。
  - マッピングデータファイル（setDataFileName）
  - ユーザ定義データファイル（setUserDataFileName）
  - しおり定義ファイル（setBookmarkFileName）
  - 文書しおり定義ファイル（setDocBookmarkFileName）
  - 暗号化設定ファイル（setCryptoFileName）
  - 帳票セット指定ファイル（setMultiReportSetFileName）
  - 仕分け定義情報ファイル（setDistributionInfoFile）
- PDF 仕分け定義ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

引数

newDistributeFileName

PDF 仕分け定義ファイル名

戻り値

なし

setDistributeFilePath メソッド

setDistributeFileName メソッドで指定した PDF 仕分け定義ファイルのパスを指定します。

形式

public void setDistributeFilePath(String *newDistributeFilePath*)

解説

- 指定されたファイルのパスは，setDistributeFileName メソッドで指定する PDF 仕分け定義ファイルのデフォルトの場所になります。
- PDF 仕分け定義ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setDistributeFilePath メソッドは，outputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。outputPDFReport メソッド以外の場合は，setDistributeFilePath メソッドを指定しても無視されます。

引数

newDistributeFilePath

PDF 仕分け定義ファイルのパス

戻り値

なし

setDistributionInfoFile メソッド

仕分け定義情報ファイル名を指定します。

形式

public void setDistributionInfoFile(String *newDistributionInfoFile*)

解説

- 仕分け定義情報ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setDistributionInfoFile メソッドは，printReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（setPrintMode=3）かつ印刷モードが EUR 形式ファイル印刷モード（setPrintKind=1）の場合，および printReport メソッドで印刷方式が印刷管理サーバ直接印刷方式（setPrintMode=4）の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は，setDistributionInfoFile メソッドを指定しても無視されます。
- setDistributionInfoFile メソッドは，setDistributionInfoFileData メソッドと同時に使用できません。また，setDistributionInfoFile メソッドを使用する場合は，ほかのファイルを指定するときも，次に示すファイル入力（ファイル指定）のメソッドを使用してください。
  - マッピングデータファイル（setDataFileName）
  - ユーザ定義データファイル（setUserDataFileName）
  - しおり定義ファイル（setBookmarkFileName）
  - 文書しおり定義ファイル（setDocBookmarkFileName）
  - 暗号化設定ファイル（setCryptoFileName）
  - 帳票セット指定ファイル（setMultiReportSetFileName）
  - PDF 仕分け定義ファイル（setDistributeFileName）
- UNIX/Linux 環境では指定できません。
- 仕分け定義情報ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

引数

newDistributionInfoFile

仕分け定義情報ファイル名

戻り値

なし

setDistributionInfoFileData メソッド

仕分け定義情報データをメモリ渡しする場合，仕分け定義情報データを指定します。

形式

public void setDistributionInfoFileData(StringBuffer *newDistributionInfoFileData*)

解説

- setDistributionInfoFileData メソッドは，printReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（setPrintMode=3）かつ印刷モードが EUR 形式ファイル印刷モード

（setPrintKind=1）の場合，および printReport メソッドで印刷方式が印刷管理サーバ直接印刷方式（setPrintMode=4）の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は，setDistributionInfoFileData メソッドを指定しても無視されます。

- setDistributionInfoFileData メソッドは，setDistributionInfoFileName メソッドと同時に使用できません。また，setDistributionInfoFileData メソッドを使用する場合は，ほかのファイルを指定するときも，次に示すメモリ入力（データ指定）のメソッドを使用してください。ファイル入力のメソッドと組み合わせて使用した場合は，ファイル入力のメソッドを無視します。
  - マッピングデータ（setDataFileData）
  - ユーザ定義データ（setUserDataFileData）
  - しおり定義データ（setBookmarkFileData）
  - 文書しおり定義データ（setDocBookmarkFileData）
  - 暗号化設定データ（setCryptoFileData）
  - PDF 仕分け定義データ（setDistributeFileData）

引数

newDistributionInfoFileData

仕分け定義情報データ

戻り値

なし

setDistributionInfoFilePath メソッド

setDistributionInfoFileName メソッドで指定した仕分け定義情報ファイルのパスを指定します。

形式

public void setDistributionInfoFilePath(String *newDistributionInfoFilePath*)

解説

- 指定されたファイルのパスは，setDistributionInfoFile メソッドで指定する仕分け定義情報ファイルのデフォルトの場所になります。
- 仕分け定義情報ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setDistributionInfoFilePath メソッドは，printReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（setPrintMode=3）かつ印刷モードが EUR 形式ファイル印刷モード（setPrintKind=1）の場合，および printReport メソッドで印刷方式が印刷管理サーバ直接印刷方式（setPrintMode=4）の場合に指定が有効になります。それ以外の場合

は，setDistributionInfoFilePath メソッドを指定しても無視されます。
- UNIX/Linux 環境では指定できません。

引数

newDistributionInfoFilePath

仕分け定義情報ファイルのパス

戻り値

なし

setDocBookmarkFileData メソッド

文書しおり定義データをメモリ渡しする場合，文書しおり定義データを指定します。

形式

public void setDocBookmarkFileData(StringBuffer *newDocBookmarkFileData*)

解説

- setDocBookmarkFileData メソッドは，outputPDFReport メソッド，または getPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。outputPDFReport メソッド以外の場合は，setDocBookmarkFileData メソッドを指定しても無視されます。
- setDocBookmarkFileData メソッドは，setDocBookmarkFileName メソッドと同時に使用できません。また，setDocBookmarkFileData メソッドを使用する場合は，ほかのファイルを指定するときも，次に示すメモリ入力（データ指定）のメソッドを使用してください。ファイル入力のメソッドと組み合わせて使用した場合は，ファイル入力のメソッドを無視します。
  - マッピングデータ（setDataFileData）
  - ユーザ定義データ（setUserDataFileData）
  - しおり定義データ（setBookmarkFileData）
  - 仕分け定義情報データ（setDistributionInfoFileData）
  - 暗号化設定データ（setCryptoFileData）
  - PDF 仕分け定義データ（setDistributeFileData）

引数

newDocBookmarkFileData

文書しおり定義データ

戻り値

なし

setDocBookmarkFileName メソッド

文書しおり定義ファイル名を指定します。

形式

public void setDocBookmarkFileName(String *newDocBookmarkFileName*)

解説

- 文書しおり定義ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setDocBookmarkFileName メソッドは，outputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。outputPDFReport メソッド以外の場合は，setDocBookmarkFileName メソッドを指定しても無視されます。
- setDocBookmarkFileName メソッドは，setDocBookmarkFileData メソッドと同時に使用できません。また，setDocBookmarkFileName メソッドを使用する場合は，ほかのファイルを指定するときも，次に示すファイル入力（ファイル指定）のメソッドを使用してください。
  - マッピングデータファイル（setDataFileName）
  - ユーザ定義データファイル（setUserDataFileName）
  - しおり定義ファイル（setBookmarkFileName）
  - 仕分け定義情報ファイル（setDistributionInfoFile）
  - 暗号化設定ファイル（setCryptoFileName）
  - 帳票セット指定ファイル（setMultiReportSetFileName）
  - PDF 仕分け定義ファイル（setDistributeFileName）
- 文書しおり定義ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

引数

newDocBookmarkFileName

文書しおり定義ファイル名

戻り値

なし

setDocInfoFileName メソッド

文書情報設定ファイル名を指定します。

形式

public void setDocInfoFileName(String *newDocInfoFileName*)

解説

- EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で，OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，文書情報設定ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。
  OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。
  パスは，setDocInfoFilePath メソッドに指定することもできます。
  setDocInfoFilePath メソッドにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。
  - フルパスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DOCINFO キーには指定が要りません。
  - 相対パスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DOCINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
  - ファイル名だけを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- 文書情報設定ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 文書情報設定ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

引数

newDocInfoFileName

文書情報設定ファイル名

戻り値

なし

setDocInfoFilePath メソッド

setDocInfoFileName メソッドで指定した文書情報設定ファイルのパスを指定します。

形式

public void setDocInfoFilePath(String *newDocInfoFilePath*)

解説

- 文書情報設定ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

引数

newDocInfoFilePath

文書情報設定ファイルのパス

戻り値

なし

setEnableGet メソッド

蓄積ファイルの取得可否を指定します。

形式

public void setEnableGet(boolean *newEnableGet*)

解説

指定できる値を次に示します。

- True：蓄積ファイルを取得できます。
- False：蓄積ファイルを取得できません。

setEnableGet メソッドを指定しない場合は，True が仮定されます。

setEnableGet メソッドは，printReport メソッドで印刷方式が蓄積（setPrintMode=2）の場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，setEnableGet メソッドを指定しても無視されます。

引数

newEnableGet

蓄積ファイルの取得可否

戻り値

なし

setEncryptionPasswordKey メソッド

オーナーパスワードとユーザーパスワードを暗号化した暗号化設定ファイルを使用して，

暗号化した PDF 形式ファイルを出力するときにパスワード暗号化鍵を指定します。

形式

public void setEncryptionPasswordKey(String *newEncryptionPasswordKey*)

解説

パスワード暗号化鍵に指定できる文字は，次のとおりです。

- 半角数字
  0 ～ 9
- 半角英字
  A ～ Z，a ～ z

指定できるパスワード暗号化鍵の長さは，32 バイトまでです。

setEncryptionPasswordKey メソッドは，outputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。outputPDFReport メソッド以外の場合は，setEncryptionPasswordKey メソッドを指定しても無視されます。

引数

newEncryptionPasswordKey

パスワード暗号化鍵

戻り値

なし

setEPFFileData メソッド

クライアント PC への配布印刷の場合に，メモリ取得した EPF 形式ファイルデータを指定します。

形式

public void setEPFFileData(ByteBuffer *newEPFFileData*)

解説

setEPFFileData メソッドには，getEPFReport メソッドおよび memgetSpoolFile メソッドで取得したデータを指定できます。printReport メソッドでクライアント PC への配布印刷をする場合は，setEPFFileData メソッドか setEPFFileName メソッドのどちらかを必ず指定してください。

引数

newEPFFileData

EPF 形式ファイルのデータ

戻り値

なし

setEPFFileName メソッド

入力または出力する EPF 形式ファイル名を指定します。

形式

public void setEPFFileName(String *newEPFFileName*)

解説

- outputEPFReport メソッドまたは outputMergeEPFReport メソッドで EPF 形式ファイルを出力する場合は，setEPFFileName メソッドを必ず指定してください。
- printReport メソッドでクライアント PC への配布印刷をする場合は，setEPFFileName メソッドか setEPFFileData メソッドのどちらかを必ず指定してください。
- outputEPFReport メソッド，outputMergeEPFReport メソッド，および printReport メソッド以外の場合は，setEPFFileName メソッドを指定しても無視されます。
- EPF 形式ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- EPF 形式ファイルの拡張子は，*.epf です。EPF 形式ファイル名は，拡張子を含めて指定してください。ただし，出力した EPF 形式ファイルを使用してヘルパクライアント印刷するときは，次に示す拡張子で EPF 形式ファイル名を指定してください。
  - EPF 形式ファイルをプレビューする場合：*.epf
  - EPF 形式ファイルをプリンタ印刷する場合：*.epp

引数

newEPFFileName

EPF 形式ファイル名

戻り値

なし

setEPFFilePath メソッド

setEPFFileName メソッドで指定した EPF 形式ファイルのパスを指定します。

形式

public void setEPFFilePath(String *newEPFFilePath*)

解説

- 指定されたファイルのパスは，setEPFFileName メソッドで指定する EPF 形式ファイルのデフォルトの場所になります。
- setEPFFilePath メソッドは，outputEPFReport メソッドまたは outputMergeEPFReport メソッドで EPF 形式ファイルを出力する場合や，printReport メソッドでクライアント PC への配布印刷をする場合に指定が有効になります。outputEPFReport メソッド，outputMergeEPFReport メソッド，および printReport メソッド以外の場合は，setEPFFilePath メソッドを指定しても無視されます。
- パスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

引数

newEPFFilePath

EPF 形式ファイルを入力または出力するパス

戻り値

なし

setEURFileName メソッド

出力する EUR 形式ファイル名を指定します。

形式

public void setEURFileName(String *newEURFileName*)

解説

- outputEURReport メソッドで EUR 形式ファイルを出力する場合は，setEURFileName メソッドを必ず指定してください。outputEURReport メソッド以外の場合は，setEURFileName メソッドを指定しても無視されます。
- EUR 形式ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

引数

newEURFileName

出力する EUR 形式ファイル名

戻り値

なし

setEURFilePath メソッド

setEURFileName メソッドで指定した EUR 形式ファイルのパスを指定します。

形式

public void setEURFilePath(String *newEURFilePath*)

解説

- 指定されたファイルのパスは，setEURFileName メソッドで指定する EUR 形式ファイルのデフォルトの場所になります。
- setEURFilePath メソッドは，outputEURReport メソッドで EUR 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。outputEURReport メソッド以外の場合は，setEURFilePath メソッドを指定しても無視されます。
- パスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

引数

newEURFilePath

EUR 形式ファイルを出力するパス

戻り値

なし

setExecutablePrintMode メソッド

実行可能印刷方式を指定します。

形式

public void setExecutablePrintMode(int *newExecutablePrintMode*)

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：拠点サーバでの印刷
- 1：拠点サーバでの印刷，またはクライアント PC での印刷
- 2：クライアント PC での印刷

0，1，および 2 以外の値を指定した場合は，1 が仮定されます。

setExecutablePrintMode メソッドは，printReport メソッドで印刷方式が蓄積（setPrintMode=2）の場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，setExecutablePrintMode メソッドを指定しても無視されます。

引数

newExecutablePrintMode

実行可能印刷方式

戻り値

なし

setFileOutputDestination メソッド

PDF 形式ファイルの出力先を，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンにするか，または EUR Print Manager 稼働マシンにするかのどちらかを指定します。

形式

public void setFileOutputDestination (int *newFileOutputDestination*)

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに出力します。
- 1：EUR Print Manager 稼働マシンに出力します。

setFileOutputDestination メソッドを省略した場合は，EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）の OPTION セクションの FILEOUTPUTDESTINATION キーが仮定されます。

また，0，1 以外の値を指定した場合は，0 が仮定されます。

引数

FileOutputDestination

ファイルの出力先

戻り値

なし

setFirstPageNumber メソッド

ページ番号の初期値を指定します。

形式

public void setFirstPageNumber(int *newFirstPageNumber*)

解説

指定できる値は，1 ～ 999,999 です。setFirstPageNumber メソッドを省略した場合，1 が仮定されます。ただし，setMultiFormInfoDefFileName メソッドを指定した場合は，setFirstPageNumber メソッドの設定値は無視されます。

setFirstPageNumber メソッドは，setPrintPageNumber メソッドを指定した場合だけ有効になります。また，setFirstPageNumber メソッドは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，setFirstPageNumber メソッドを指定しても無視されます。

- printReport メソッド
- outputPDFReport メソッド
- outputEPFReport メソッド

引数

newFirstPageNumber

ページ番号の初期値

戻り値

なし

setGroupName メソッド

帳票振り分け定義の振り分けグループ名を指定します。

形式

public void setGroupName(String *newGroupName*)

解説

- 振り分けグループ名を指定するときの注意

振り分けグループ名は，任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。

- 振り分けグループ名は，80 バイト以内で指定してください。
- 振り分けグループ名には「"」および「,」を含めないでください。

- 次に示すどちらかの指定がある場合，setGroupName メソッドは有効になります。それ以外の場合は，setGroupName メソッドを指定しても無視されます。
  - printReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（setPrintMode=3），かつ印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード（setPrintKind=0）のとき
  - printReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（setPrintMode=3），かつ印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード（setPrintKind=0），かつプリンタ指定方式が帳票名による自動振り分け（setPrinterSelectMode=2）のとき
  - printReport メソッドで印刷方式が蓄積（setPrintMode=2），かつプリンタ指定方式が帳票名による自動振り分け（setPrinterSelectMode=2）のとき

引数

newGroupName

振り分けグループ名

戻り値

なし

setInitPageNumber メソッド

改ページのキーが設定されている場合，そのキーがブレイクするごとにページ番号の開始番号を初期化するかどうかを指定します。

形式

public void setInitPageNumber(boolean *newInitPageNumber*)

解説

指定できる値を次に示します。

- True：初期化します。
- False：初期化しません。

setInitPageNumber メソッドを指定しない場合は，出力する帳票の属性に従います。帳票の属性の初期値は，False が仮定されます。ただし，setMultiFormInfoDefFileName メソッドを指定した場合は，setInitPageNumber メソッドの設定値は無視されます。

setInitPageNumber メソッドは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，setInitPageNumber メソッドを指定しても無視されま

す。

- printReport メソッド
- outputPDFReport メソッド
- outputEPFReport メソッド

引数

newInitPageNumber

ページ番号の開始番号の初期化

戻り値

なし

setJobKeyCategory メソッド

蓄積ファイルとして格納するファイルの，検索キーの分類を指定します。

形式

public void setJobKeyCategory(String[] *newJobKeyCategory*)

解説

- 検索キーを指定する場合は，1 ～ 10 個の配列で指定してください。また，setJobKeyCategory メソッドを指定する場合は，検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず setJobKeyData メソッドに指定してください。このとき，配列の要素数は同じにしてください。配列の要素数が異なると，エラーになります。
  検索キーを指定しない場合，setJobKeyCategory メソッドと setJobKeyData メソッドは，どちらも指定しないでください。どちらかの指定があると対応する情報がないため，エラーになります。
- 分類を指定するときの注意
  分類は，任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
  - 文字列は，80 バイト以内で指定してください。
  - 文字列に「,」を含めないでください。
- setJobKeyCategory メソッドは，printReport メソッドで印刷方式が蓄積（setPrintMode=2）の場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，setJobKeyCategory メソッドを指定しても無視されます。

引数

newJobKeyCategory

検索キーとする分類の配列

戻り値

なし

setJobKeyData メソッド

蓄積ファイルの検索キーの値を指定します。

形式

public void setJobKeyData(String[] *newJobKeyData*)

解説

- 検索キーを指定する場合は，1 ～ 10 個の配列で指定してください。また，setJobKeyCategory メソッドを指定する場合は，検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず setJobKeyData メソッドに指定してください。このとき，配列の要素数は同じにしてください。配列の要素数が異なると，エラーになります。
  検索キーを指定しない場合，setJobKeyCategory メソッドと setJobKeyData メソッドは，どちらも指定しないでください。どちらかの指定があると対応する情報がないため，エラーになります。
- 値を指定するときの注意
  値は，任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
  - 文字列は，80 バイト以内で指定してください。
  - 文字列に「,」を含めないでください。
- setJobKeyData メソッドは，printReport メソッドで印刷方式が蓄積（setPrintMode=2）の場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，setJobKeyData メソッドを指定しても無視されます。

引数

newJobKeyData

検索キーとする値の配列

戻り値

なし

setMaxPrintCount メソッド

蓄積ファイルの上限印刷回数を指定します。

形式

public void setMaxPrintCount(int *newMaxPrintCount*)

解説

- 蓄積ファイルに指定できる値は，-1 ～ 65,536 です。
  - 印刷回数の上限を無限にする場合は，-1 を指定してください。
  - 印刷を禁止する場合は，0 を指定してください。
- setMaxPrintCount メソッドを省略した場合，または -1 ～ 65,536 以外の値を指定した場合は，-1（無限）が仮定されます。
- setMaxPrintCount メソッドは，printReport メソッドで印刷方式が蓄積（setPrintMode=2）の場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，setMaxPrintCount メソッドを指定しても無視されます。

引数

newMaxPrintCount

蓄積ファイルの上限印刷回数

戻り値

なし

setMergeEPFFileName メソッド

統合対象の EPF 形式ファイル名を指定します。

形式

public void setMergeEPFFileName (String[] *newMergeEPFFileName*)

解説

- getMergeEPFReport メソッドまたは outputMergeEPFReport メソッドで複数の EPF 形式ファイルを統合して出力する場合は，setMergeEPFFileName メソッドを必ず指定してください。getMergeEPFReport メソッドまたは outputMergeEPFReport メソッド以外の場合は，setMergeEPFFileName メソッドを指定しても無視されます。
- 指定できる EPF 形式ファイルの数は，2 ～ 10,000 ファイルです。ファイル名はファイルの統合順に指定してください。
- 統合対象の EPF 形式ファイルは，EUR Print Manager - Adapter が稼働するマシンに準備してください。
- EPF 形式ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- EPF 形式ファイルの拡張子は，*.epf です。EPF 形式ファイル名は，拡張子を含めて指定してください。

引数

newMergeEPFFileName

統合対象の EPF 形式ファイル名

戻り値

なし

setMergeEPFFilePath メソッド

setMergeEPFFileName メソッドで指定した統合対象の EPF 形式ファイルのパスを指定します。

形式

public void setMergeEPFFilePath (String *newMergeEPFFilePath*)

解説

- 指定されたファイルのパスは，setMergeEPFFileName メソッドで指定する EPF 形式ファイルのデフォルトの場所になります。
- setMergeEPFFilePath メソッドは，outputMergeEPFReport メソッドで複数の EPF 形式ファイルを統合して出力する場合，指定が有効になります。
  outputMergeEPFReport メソッド以外の場合は，setMergeEPFFilePath メソッドを指定しても無視されます。
- パスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

引数

newMergeEPFFilePath

統合対象の EPF 形式ファイルのパス

戻り値

なし

setMultiBookmarkFileName メソッド

setMultiReportFileName メソッドで複数の帳票ファイルを指定して出力する場合，各帳票ファイルで使用するしおり定義ファイル名を配列で指定します。帳票との対応づけは，配列の要素順です。

形式

public void setMultiBookmarkFileName(String[] *newMultiBookmarkFileName*)

解説

- しおり定義ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setMultiBookmarkFileName メソッドは，outputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。outputPDFReport メソッド以外の場合は，setMultiBookmarkFileName メソッドを指定しても無視されます。
- しおり定義ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

引数

newMultiBookmarkFileName

しおり定義ファイル名の配列

戻り値

なし

指定例

複数の帳票セットを指定する場合，一部の帳票に対してしおり定義ファイルの指定を省略したいときは，配列の要素に空文字を指定してください。

2 番目の帳票のしおり定義ファイルの指定を省略する場合の例を次に示します。

```
// 帳票ファイル名を配列fmsに指定
fms[0]="Sample1.fms";
fms[1]="Sample2.fms";
fms[2]="Sample3.fms";
// しおり定義ファイル名を配列bokに指定
bok[0]="Book1.csv";
bok[1]="";
bok[2]="Book3.csv";
```

setMultiDataFileName メソッド

setMultiReportFileName メソッドで複数の帳票ファイルを指定して出力する場合，各帳票ファイルで使用するマッピングデータファイルまたは可変記号値定義ファイル名を配列で指定します。帳票との対応づけは，配列の要素順です。

形式

public void setMultiDataFileName(String[] *newMultiDataFileName*)

解説

- 指定するファイル名は，setReportFileName メソッドで指定したファイル名と同じ数を指定してください。
- ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- マッピングデータファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

引数

newMultiDataFileName

マッピングデータファイルまたは可変記号値定義ファイル名の配列

戻り値

なし

指定例

複数の帳票セットを指定する場合，一部の帳票に対してマッピングデータファイル（または可変記号値定義ファイル）の指定を省略したいときは，配列の要素に空文字を指定してください。

2 番目の帳票のマッピングデータファイルの指定を省略する場合の例を次に示します。

```
// 帳票ファイル名を配列fmsに指定
fms[0]="Sample1.fms";
fms[1]="Sample2.fms";
fms[2]="Sample3.fms";
// マッピングデータファイル名を配列mapに指定
map[0]="Data1.csv";
map[1]="";
map[2]="Data3.csv";
```

setMultiFormInfoDefFileName メソッド

複数様式情報定義ファイル名を指定します。

形式

public void setMultiFormInfoDefFileName(String *newMultiFormInfoDefFileName*)

解説

- 複数様式で帳票を出力する場合は，setMultiFormInfoDefFileName メソッドを必ず指定してください。setMultiFormInfoDefFileName メソッドを省略すると，setReportFileName メソッドで指定した複数の帳票ファイル，または setMultiReportSetFileName メソッドの帳票セット指定ファイルで指定した帳票ファイルが順に出力されます。

- EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で，OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，複数様式情報定義ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの MULTI キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。
  OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。
  パスは，setMultiFormInfoDefFilePath メソッドに指定することもできます。
  setMultiFormInfoDefFilePath メソッドにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。
  - フルパスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの MULTI キーには指定が要りません。
  - 相対パスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの MULTI キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
  - ファイル名だけを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの MULTI キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- 複数様式情報定義ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 複数様式情報定義ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

引数

newMultiFormInfoDefFileName

複数様式情報定義ファイル名

戻り値

なし

setMultiFormInfoDefFilePath メソッド

setMultiFormInfoDefFileName メソッドで指定した複数様式情報定義ファイルのパスを指定します。

形式

public void setMultiFormInfoDefFilePath(String *newMultiFormInfoDefFilePath*)

解説

- 複数様式情報定義ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してくだ

さい。

引数

newMultiFormInfoDefFilePath

複数様式情報定義ファイルのパス

戻り値

なし

setMultiReportFileName メソッド

複数の帳票ファイルを指定して出力する場合，帳票ファイル名を配列で指定します。帳票は，配列の要素順に出力されます。帳票ファイル名（*.fms）を指定してください。

形式

public void setMultiReportFileName(String[] *newMultiReportFileName*)

解説

- setMultiReportSetFileName メソッド，または setReportFileName メソッドのどちらかは，必ず指定してください。setMultiReportSetFileName メソッドと setReportFileName メソッドを同時に指定した場合は，setMultiReportSetFileName メソッドで指定した帳票ファイルのあとに，setReportFileName メソッドで指定した帳票ファイルが出力されます。
- EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で，OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，帳票ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。
  OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。
  パスは，setReportFilePath メソッドに指定することもできます。setReportFilePath メソッドにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。
  - フルパスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの FORM キーには指定が要りません。
  - 相対パスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの FORM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
  - ファイル名だけを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

- 帳票ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 帳票ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

引数

newMultiReportFileName

帳票ファイル名の配列

戻り値

なし

setMultiReportSetFileName メソッド

帳票セット指定ファイル名を指定します。

形式

public void setMultiReportSetFileName(String *newMultiReportSetFileName*)

解説

- setMultiReportSetFileName メソッド，または setReportFileName メソッドのどちらかは，必ず指定してください。setMultiReportSetFileName メソッドと setReportFileName メソッドを同時に指定した場合は，setMultiReportSetFileName メソッドで指定した帳票ファイルのあとに，setReportFileName メソッドで指定した帳票ファイルが出力されます。
- 帳票セット指定ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 帳票セット指定ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

引数

newMultiReportSetFileName

帳票セット指定ファイル名

戻り値

なし

setMultiReportSetFilePath メソッド

setMultiReportSetFileName メソッドで指定した帳票セット指定ファイルのパスを指定

します。

形式

public void setMultiReportSetFilePath(String *newMultiReportSetFilePath*)

解説

- 帳票セット指定ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

引数

newMultiReportSetFilePath

帳票セット指定ファイルのパス

戻り値

なし

setMultiUserDataFileName メソッド

setMultiReportFileName メソッドで複数の帳票ファイルを指定して出力する場合，各帳票ファイルで使用するユーザ定義データファイル名または可変記号値定義ファイル名を配列で指定します。帳票との対応づけは，配列の要素順です。

形式

public void setMultiUserDataFileName(String[] *newMultiUserDataFileName*)

解説

- 指定するファイル名は，setReportFileName メソッドで指定したファイル名と同じ数を指定してください。
- ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- ユーザ定義データファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

引数

newMultiUserDataFileName

ユーザ定義データファイルまたは可変記号値定義ファイル名の配列

戻り値

なし

指定例

複数の帳票セットを指定する場合，一部の帳票に対してユーザ定義データファイル（または可変記号値定義ファイル）の指定を省略したいときは，配列の要素に空文字を指定してください。

2 番目の帳票のユーザ定義データファイルの指定を省略する場合の例を次に示します。

```
// 帳票ファイル名を配列fmsに指定
fms[0]="Sample1.fms";
fms[1]="Sample2.fms";
fms[2]="Sample3.fms";
// ユーザ定義データファイル名を配列usrに指定
usr[0]="Data1.csv";
usr[1]="";
usr[2]="Data3.csv";
```

setPageNumberFormat メソッド

ページ番号のフォーマットを指定します。

形式

public void setPageNumberFormat(String *newPageNumberFormat*)

解説

ページ番号を「*」，最終ページ番号を「$」で示して出力形式を指定します。ページ番号および最終ページ番号を全角で表示したいときは全角の記号で，半角で表示したいときは半角の記号で指定します。

setPageNumberFormat メソッドを指定しても，setPrintPageNumber メソッドを省略した場合は無効となります。また，setMultiFormInfoDefFileName メソッドを指定した場合は，setPageNumberFormat メソッドの設定値は無視されます。

setPageNumberFormat メソッドは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，setPageNumberFormat メソッドを指定しても無視されます。

- printReport メソッド
- outputPDFReport メソッド
- outputEPFReport メソッド

引数

newPageNumberFormat

ページ番号のフォーマット

戻り値

なし

setPageNumberLocation メソッド

余白へのページ番号の印刷位置を指定します。

形式

public void setPageNumberLocation(int *newPageNumberLocation*)

解説

指定できる値を次に示します。

- 1：ページ番号を左上に出力します。
- 2：ページ番号を中央上に出力します。
- 3：ページ番号を右上に出力します。
- 4：ページ番号を左下に出力します。
- 5：ページ番号を中央下に出力します。
- 6：ページ番号を右下に出力します。

setPageNumberLocation メソッドを指定しても，setPrintPageNumber メソッドを省略した場合は無効となります。また，setMultiFormInfoDefFileName メソッドを指定した場合は，setPageNumberLocation メソッドの設定値は無視されます。

setPageNumberLocation メソッドは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，setPageNumberLocation メソッドを指定しても無視されます。

- printReport メソッド
- outputPDFReport メソッド
- outputEPFReport メソッド

引数

newPageNumberLocation

余白へのページ番号の印刷位置

戻り値

なし

setPaperOrientation メソッド

用紙の向きを指定します。

形式

public void setPaperOrientation(int *newPaperOrientation*)

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：帳票を定義したときの情報に従います。
  複数の EPF 形式ファイルを統合して出力する場合は，統合する EPF 形式ファイルのページごとの属性に従います。
- 1：用紙の向きを縦にして出力します。
- 2：用紙の向きを横にして出力します。

setPaperOrientation メソッドを省略した場合，0 が仮定されます。

複数帳票を出力する場合は，setPaperOrientation メソッドの指定に関係なく 0 が仮定されます。ただし，getMergeEPFReport メソッドまたは outputMergeEPFReport メソッドで，複数の EPF 形式ファイルを統合して出力するときは，setPaperOrientation メソッドの指定に従います。

setPaperOrientation メソッドは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，setPaperOrientation メソッドを指定しても無視されます。

- printReport メソッド
- getEPFReport メソッド
- getMergeEPFReport メソッド
- outputEPFReport メソッド
- outputMergeEPFReport メソッド

引数

newPaperOrientation

用紙の向き

戻り値

なし

setPDFFileName メソッド

出力する PDF 形式ファイル名を指定します。

形式

public void setPDFFileName(String *newPDFFileName*)

解説

- setPDFFileName メソッドは，outputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。outputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合は，setPDFFileName メソッドまたは setDistributeFileName メソッドのどちらかは，必ず指定してください。setPDFFileName メソッドと setDistributeFileName メソッドを同時に指定した場合は，setPDFFileName メソッドの指定は無視されます。outputPDFReport メソッド以外の場合は，setPDFFileName メソッドを指定しても無視されます。
- PDF 形式ファイルを EUR Print Manager 稼働マシンに出力する（setFileOutputDestination=1）場合で，EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定しているときは，setPDFFileName メソッドにはファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの PDF キーで設定しているフォルダに出力されます。
  OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定しているときは，setPDFFileName メソッドはフルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。
  パスは，setPDFFilePath メソッドに指定することもできます。setPDFFilePath メソッドにパスを指定しない場合の PDF 形式ファイルの出力先を次に示します。
  - フルパスを指定する場合
    setPDFFileName メソッドで指定したパスに出力されます。なお，環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PDF キーには指定が要りません。
  - 相対パスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PDF キーで設定しているフォルダを起点とし，そこから setPDFFileName メソッドで指定したパスに出力されます。
  - ファイル名だけを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PDF キーで設定しているフォルダに，setPDFFileName メソッドで指定したファイル名で出力されます。
- PDF 形式ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

引数

newPDFFileName

出力する PDF 形式ファイル名

戻り値

なし

setPDFFilePath メソッド

setPDFFileName メソッドで指定した PDF 形式ファイルのパスを指定します。

形式

public void setPDFFilePath(String *newPDFFilePath*)

解説

- 指定されたフォルダのパスは，setPDFFileName メソッドで指定する PDF 形式ファイルのデフォルトの場所になります。
- setPDFFilePath メソッドは，outputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合に指定が有効になります。ただし，次の場合は setPDFFilePath メソッドを指定しても無視されます。
  - outputPDFReport メソッド以外の場合
  - PDF 形式ファイルを EUR Print Manager 稼働マシンに出力する（setFileOutputDestination=1）場合，かつ EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）の OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を指定している場合
- パスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

引数

newPDFFilePath

PDF 形式ファイルを出力するパス

戻り値

なし

setPMServerAddress メソッド

印刷管理サーバが複数台ある場合，接続する印刷管理サーバの IP アドレスを指定しま

す。

形式

public void setPMServerAddress(String *newPMServerAddress*)

解説

- 印刷管理サーバが複数台起動されている場合に，setPMServerAddress メソッドを指定したとき，接続する印刷管理サーバを振り分けられます。
- setPMServerAddress メソッドを省略した場合，EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）の IPADDRESS セクションの EURPM キーが仮定されます。
- EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）の IPADDRESS セクションの EURPM キーが指定されていない場合に，setPMServerAddress メソッドを省略したときはエラーになります。

引数

newPMServerAddress

印刷管理サーバの IP アドレス

戻り値

なし

setPMServerPort メソッド

印刷管理サーバで EUR Print Manager を複数起動する場合，ポート番号を指定します。

形式

public void setPMServerPort(int *newPMServerPort*)

解説

- EUR Print Manager が複数起動されている場合に，setPMServerPort メソッドを指定したとき，接続するポートを振り分けられます。
- setPMServerAddress メソッドを省略した場合，EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）の PORT セクションの EURPM キーが仮定されます。
- setPMServerPort メソッドを省略した場合，および EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）の PORT セクションの EURPM キーが指定されていない場合は，環境設定ファイルの省略時の値が仮定されます。

引数

newPMServerPort

印刷管理サーバのポート番号

戻り値

なし

setPrintCopies メソッド

印刷部数を指定します。

形式

public void setPrintCopies(int *newPrintCopies*)

解説

指定できる値は，1 ～ 99 です。setPrintCopies メソッドを省略した場合，1 が仮定されます。

setPrintCopies メソッドは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，setPrintCopies メソッドを指定しても無視されます。

- printReport メソッド
- getEPFReport メソッド
- getMergeEPFReport メソッド
- outputEPFReport メソッド
- outputMergeEPFReport メソッド

引数

newPrintCopies

印刷部数

戻り値

なし

setPrintDateFileName メソッド

印刷日時出力定義ファイル名を指定します。

形式

public void setPrintDateFileName (String *newPrintDateFileName*)

解説

- EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で，OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，setPrintDateFileName メソッドは，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの PRINTDATE キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。
  OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。
  パスは，setPrintDateFilePath メソッドに指定することもできます。
  setPrintDateFilePath メソッドにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。
  - フルパスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PRINTDATE キーには指定が要りません。
  - 相対パスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PRINTDATE キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
  - ファイル名だけを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PRINTDATE キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- 印刷日時出力定義ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 印刷日時出力定義ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。
- setPrintDateFileName メソッドは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，setPrintDateFileName メソッドを指定しても無視されます。
  - printReport メソッド
  - outputEPFReport メソッド

引数

newPrintDateFileName

印刷日時出力定義ファイル名

戻り値

なし

setPrintDateFilePath メソッド

setPrintDateFileName メソッドで指定した印刷日時出力定義ファイルのパスを指定します。

形式

public void setPrintDateFilePath (String *newPrintDateFilePath*)

解説

- 指定されたファイルのパスは，setPrintDateFileName メソッドで指定する印刷日時出力定義ファイルのデフォルトの場所になります。
- 印刷日時出力定義ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setPrintDateFilePath メソッドは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，setPrintDateFilePath メソッドを指定しても無視されます。
  - printReport メソッド
  - outputEPFReport メソッド

引数

newPrintDateFilePath

印刷日時出力定義ファイルのパス

戻り値

なし

setPrintEndPage メソッド

印刷終了ページを指定します。

形式

public void setPrintEndPage(int *newPrintEndPage*)

解説

指定できる値は，0 ～ 999,999 です。setPrintEndPage メソッドを省略した場合，または指定した値が 0 の場合は，最終ページまで印刷されます。

複数の帳票ファイルを指定した場合は，setPrintEndPage メソッドの指定に関係なく，複数帳票ファイルの全ページが印刷されます。

setPrintEndPage メソッドは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，setPrintEndPage メソッドを指定しても無視されます。

- printReport メソッド
- outputPDFReport メソッド
- outputEPFReport メソッド
- outputXLSXReport メソッド

引数

newPrintEndPage

印刷終了ページ

戻り値

なし

setPrinterClassName メソッド

プリンタクラス名を指定します。

形式

public void setPrinterClassName(String *newPrinterClassName*)

解説

- プリンタクラス名を指定するときの注意
  プリンタクラス名は，任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
  - プリンタクラス名は，80 バイト以内で指定してください。
  - プリンタクラス名には「"」および「,」を含めないでください。
- 印刷方法ごとに指定するメソッドを次に示します。メソッドの組み合わせが異なる場合，指定した値は無効となります。
  - 拠点サーバでの印刷
    setPrintMode メソッド：3
    setPrinterSelectMode メソッド：0
    setPrinterClassName メソッド：拠点プリンタクラス名
  - クライアント PC での対話型印刷
    setPrintMode メソッド：1
    setDispPrintDlg メソッド：0
    setPrinterClassName メソッド：帳票ジョブ名
  - クライアント PC での自動印刷
    setPrintMode メソッド：1

setDispPrintDlg メソッド：1
setPrinterClassName メソッド：クライアントプリンタクラス名

- クライアント PC での対話型印刷プレビュー表示
  setPrintMode メソッド：1
  setDispPrintDlg メソッド：2
  setPrinterClassName メソッド：帳票ジョブ名
- クライアント PC での全自動印刷
  setPrintMode メソッド：1
  setDispPrintDlg メソッド：3
  setPrinterClassName メソッド：クライアントプリンタクラス名
- 印刷管理サーバでの印刷
  setPrintMode メソッド：4
  setPrinterSelectMode メソッド：0
  setPrinterClassName メソッド：印刷管理サーバプリンタクラス名
- 蓄積
  setPrintMode メソッド：2
  setPrinterSelectMode メソッド：0
  setPrinterClassName メソッド：拠点プリンタクラス名，または蓄積クライアント印刷方式のプリンタクラス名

「クライアント PC での自動印刷」と「蓄積クライアント印刷」の場合，setClientPrinterName メソッドと setPrinterClassName メソッドでは，setClientPrinterName メソッドの指定を優先します。

- クライアント PC への配布印刷では，指定できません。
- 複数の EPF 形式ファイルを統合して出力する場合に，setPrinterClassName メソッドの指定を省略したときや 0 バイトの値を指定したときは，統合対象の EPF 形式ファイルにプリンタクラス名情報が設定されていても，統合後の EPF 形式ファイルのプリンタクラス名情報は未設定となります。

引数

newPrinterClassName

プリンタクラス名

戻り値

なし

setPrinterSelectMode メソッド

プリンタの指定方法を選択します。

形式

public void setPrinterSelectMode(int *newPrinterSelectMode*)

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：プリンタクラス名の指定
- 1：OS 上のプリンタ名の指定
- 2：帳票振り分け定義の指定

setPrinterSelectMode メソッドを省略した場合，または 0，1，2 以外の値を指定した場合は，0 が仮定されます。

setPrinterSelectMode メソッドは，次の場合に指定が有効になります。

- printReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（setPrintMode=3）の場合
- printReport メソッドで印刷方式が蓄積（setPrintMode=2）の場合
- printReport メソッドで印刷方式が印刷管理サーバ直接印刷方式（setPrintMode=4）の場合

それ以外の場合は，setPrinterSelectMode メソッドを指定しても無視されます。

また，印刷管理サーバによる直接印刷（setPrintMode=4）の場合，2 の値を指定するとエラーになります。

引数

newPrinterSelectMode

プリンタの指定方法

戻り値

なし

setPrintHoldMode メソッド

蓄積印刷方式で，蓄積後に続けて印刷するかどうかを選択します。

形式

public void setPrintHoldMode(int *newPrintHoldMode*)

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：蓄積後に続けて印刷しません（印刷保留）。

- 1：蓄積後に続けて拠点サーバで印刷します。
- 2：蓄積後に続けてクライアント PC で印刷します。

setPrintHoldMode メソッドを省略した場合，または 0，1，2 以外の値を指定した場合は，1 が仮定されます。

setPrintHoldMode メソッドは，printReport メソッドで印刷方式が蓄積（setPrintMode=2）の場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，setPrintHoldMode メソッドを指定しても無視されます。

引数

newPrintHoldMode

蓄積印刷方式で，蓄積後に続けて印刷するかどうかの指定

戻り値

なし

setPrintKind メソッド

拠点サーバ印刷方式の印刷モードを指定します。

形式

public void setPrintKind(int *newPrintKind*)

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：EPF 形式ファイル印刷モード
- 1：EUR 形式ファイル印刷モード

setPrintKind メソッドを省略した場合，または 0，1 以外の値を指定した場合は，0 が仮定されます。

setPrintKind メソッドは，printReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（setPrintMode=3）の場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，setPrintKind メソッドを指定しても無視されます。

引数

newPrintKind

拠点サーバでの印刷の出力するファイル形式

戻り値

なし

setPrintMode メソッド

印刷メソッド（printReport メソッド）の印刷方式を指定します。

形式

public void setPrintMode(int *newPrintMode*)

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：デフォルト印刷方式 ※
- 1：クライアント印刷方式
- 2：蓄積
- 3：拠点サーバ印刷方式
- 4：印刷管理サーバ直接印刷方式
- 5：クライアント配布印刷方式

注※

「0（デフォルト印刷方式）」を定義する場合は，EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）で OPTION セクションの DEFAULTPRINTMODE キーに値を設定してください。

0，1，2，3，4，5 以外の値を指定した場合は，0 が仮定されます。

setPrintMode メソッドを省略した場合は，環境設定ファイル（EURPMADP.ini）で OPTION セクションの PRINTMODE キーに指定されている値をデフォルトにします。

引数

newPrintMode

印刷方法

戻り値

なし

setPrintPageNumber メソッド

余白へのページ番号印刷を指定します。

形式

public void setPrintPageNumber(boolean *newPrintPageNumber*)

解説

指定できる値を次に示します。

- True：余白へのページ番号を出力します。
- False：余白へのページ番号は出力しません。

setPrintPageNumber メソッドを省略した場合，False が仮定されます。ただし，setMultiFormInfoDefFileName メソッドを指定した場合は，setPrintPageNumber メソッドの設定値は無視されます。

setPrintPageNumber メソッドは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，setPrintPageNumber メソッドを指定しても無視されます。

- printReport メソッド
- outputPDFReport メソッド
- outputEPFReport メソッド

引数

newPrintPageNumber

余白へのページ番号印刷

戻り値

なし

setPrintStartPage メソッド

印刷開始ページを指定します。

形式

public void setPrintStartPage(int *newPrintStartPage*)

解説

指定できる値は，0 ～ 999,999 です。setPrintStartPage メソッドを省略した場合，または指定した値が 0 の場合は，1 ページから印刷されます。

複数の帳票ファイルを指定した場合は，setPrintStartPage メソッドの指定に関係なく，指定した複数の帳票ファイルの全ページが印刷されます。

setPrintStartPage メソッドは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，setPrintStartPage メソッドを指定しても無視されます。

- printReport メソッド
- outputPDFReport メソッド
- outputEPFReport メソッド
- outputXLSXReport メソッド

引数

newPrintStartPage

印刷開始ページ

戻り値

なし

setPSEnvFileName メソッド

EUR Print Service の動作環境を印刷ジョブごとに変更する場合に，EUR Print Service の環境設定ファイル名を指定します。

形式

public void setPSEnvFileName (String *newPSEnvFileName*)

解説

- EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で，OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，setPSEnvFileName メソッドは，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。
  OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。
  パスは，setPSEnvFilePath メソッドに指定することもできます。setPSEnvFilePath メソッドにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。
  - フルパスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PSENV キーには指定が要りません。
  - 相対パスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PSENV キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
  - ファイル名だけを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

- EUR Print Service の環境設定ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- EUR Print Service の環境設定ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。
- setPSEnvFileName メソッドは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，setPSEnvFileName メソッドを指定しても無視されます。
  - printReport メソッド
  - outputPDFReport メソッド
  - outputEPFReport メソッド
  - outputEURReport メソッド
  - outputXLSXReport メソッド

引数

newPSEnvFileName

EUR Print Service の環境設定ファイル名

戻り値

なし

setPSEnvFilePath メソッド

setPSEnvFileName メソッドで指定した EUR Print Service の環境設定ファイルのパスを指定します。

形式

public void setPSEnvFilePath (String *newPSEnvFilePath*)

解説

- 指定されたファイルのパスは，setPSEnvFileName メソッドで指定する EUR Print Service の環境設定ファイルのデフォルトの場所になります。
- EUR Print Service の環境設定ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setPSEnvFilePath メソッドは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，setPSEnvFilePath メソッドを指定しても無視されます。
  - printReport メソッド
  - outputPDFReport メソッド

- outputEPFReport メソッド
- outputEURReport メソッド
- outputXLSXReport メソッド

引数

newPSEnvFilePath

EUR Print Service の環境設定ファイルのパス

戻り値

なし

setReplaceItemCntlFileName メソッド

置き換え表管理情報ファイル名を指定します。

形式

public void setReplaceItemCntlFileName(String *newReplaceItemCntlFileName*)

解説

- EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で，OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，置き換え表管理情報ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。
  OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。
  パスは，setReplaceItemCntlFilePath メソッドに指定することもできます。
  setReplaceItemCntlFilePath メソッドにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。
  - フルパスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの REPLACEITEM キーには指定が要りません。
  - 相対パスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
  - ファイル名だけを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- 置き換え表管理情報ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してくだ

さい。
- 次に示すどれかの指定がある場合，setReplaceItemCntlFileName メソッドは有効になります。printReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（setPrintMode=3），かつ印刷モードが EUR 形式ファイル印刷モード（setPrintKind=1）の場合は，setReplaceItemCntlFileName メソッドを指定しても無視されます。
  - printReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（setPrintMode=3），かつ印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード（setPrintKind=0）のとき
  - printReport メソッドで印刷方式がクライアント印刷方式（setPrintMode=1）のとき
  - printReport メソッドで印刷方式が蓄積（setPrintMode=2）のとき
  - outputPDFReport メソッド，outputEPFReport メソッド，outputEURReport メソッド，および outputXLSXReport メソッドで印刷実行するとき
- 置き換え表管理情報ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

引数

newReplaceItemCntlFileName

置き換え表管理情報ファイル名

戻り値

なし

setReplaceItemCntlFilePath メソッド

setReplaceItemCntlFileName メソッドで指定した置き換え表管理情報ファイルのパスを指定します。

形式

public void setReplaceItemCntlFilePath(String *newReplaceItemCntlFilePath*)

解説

- 置き換え表管理情報ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 次に示すどれかの指定がある場合，setReplaceItemCntlFilePath メソッドは有効になります。printReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（setPrintMode=3），かつ印刷モードが EUR 形式ファイル印刷モード（setPrintKind=1）の場合は，setReplaceItemCntlFilePath メソッドを指定しても無視されます。
  - printReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（setPrintMode=3），かつ

印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード（setPrintKind=0）のとき
- printReport メソッドで印刷方式がクライアント印刷方式（setPrintMode=1）のとき
- printReport メソッドで印刷方式が蓄積（setPrintMode=2）のとき
- outputPDFReport メソッド，outputEPFReport メソッド，outputEURReport メソッド，および outputXLSXReport メソッドで印刷実行するとき

引数

newReplaceItemCntlFilePath

置き換え表管理情報ファイルのパス

戻り値

なし

setReportFileName メソッド

帳票ファイル名を指定します。帳票ファイル名（*.fms）を指定してください。

形式

public void setReportFileName(String *newReportFileName*)

解説

- setReportFileName メソッド，または setMultiReportSetFileName メソッドのどちらかは，必ず指定してください。setReportFileName メソッドと setMultiReportSetFileName メソッドを同時に指定した場合は，setMultiReportSetFileName メソッドで指定した帳票ファイルのあとに，setReportFileName メソッドで指定した帳票ファイルが出力されます。
- EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で，OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，帳票ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。
  OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。
  パスは，setReportFilePath メソッドに指定することもできます。setReportFilePath メソッドにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。
  - フルパスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの FORM キーには指定が要りません。
  - 相対パスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの FORM キーで設定してい

る起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

- 帳票ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 帳票ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

引数

newReportFileName

帳票ファイル名

戻り値

なし

setReportFilePath メソッド

setReportFileName メソッドで指定した帳票ファイルのパスを指定します。

形式

public void setReportFilePath(String *newReportFilePath*)

解説

- 帳票ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

引数

newReportFilePath

帳票ファイルパス

戻り値

なし

setScriptCntlFileName メソッド

Acrobat JavaScript 定義ファイル名を指定します。

形式

public void setScriptCntlFileName(String *newScriptCntlFileName*)

解説

- EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で，OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，Acrobat JavaScript 定義ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの SCRIPTCNT キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。
  OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。
  パスは，setScriptCntlFilePath メソッドに指定することもできます。
  setScriptCntlFilePath メソッドにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。
  - フルパスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの SCRIPTCNT キーには指定が要りません。
  - 相対パスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの SCRIPTCNT キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
  - ファイル名だけを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの SCRIPTCNT キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。
- Acrobat JavaScript 定義ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setScriptCntlFileName メソッドは，outputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。outputPDFReport メソッド以外の場合は，setScriptCntlFileName メソッドを指定しても無視されます。
- Acrobat JavaScript 定義ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

引数

newScriptCntlFileName

Acrobat JavaScript 定義ファイル名

戻り値

なし

setScriptCntlFilePath メソッド

setScriptCntlFileName メソッドで指定した Acrobat JavaScript 定義ファイルのパスを指定します。

形式

public void setScriptCntlFilePath(String *newScriptCntlFilePath*)

解説

- Acrobat JavaScript 定義ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setScriptCntlFilePath メソッドは，outputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。outputPDFReport メソッド以外の場合は，setScriptCntlFilePath メソッドを指定しても無視されます。

引数

newScriptCntlFilePath

Acrobat JavaScript 定義ファイルパス

戻り値

なし

setServerAddress メソッド

拠点サーバの IP アドレスを「255.255.255.255」形式で指定します。

形式

public void setServerAddress(String *newServerAddress*)

解説

次に示すどちらかの指定がある場合，setServerAddress メソッドは有効になります。それ以外の場合は，setServerAddress メソッドを指定しても無視されます。

- printReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（setPrintMode=3），かつ拠点サーバ指定方式が IP アドレス指定（setServerSelectMode=1）のとき
- printReport メソッドで印刷方式が蓄積（setPrintMode=2），かつ拠点サーバ指定方式が IP アドレス指定（setServerSelectMode=1）のとき

引数

newServerAddress

拠点サーバの IP アドレス

戻り値

なし

setServerPrinterName メソッド

サーバプリンタ名を指定します。プリンタ名は，OS 上のプリンタ名を指定してください。

形式

public void setServerPrinterName(String *newServerPrinterName*)

解説

- プリンタ名を指定するときの注意
  プリンタ名は，次のことに注意して指定してください。
  - プリンタ名は，80 バイト以内で指定してください。
  - プリンタ名には「"」および「,」を含めないでください。
- 次に示す指定がある場合，setServerPrinterName メソッドは有効になります。それ以外の場合は，setServerPrinterName メソッドを指定しても無視されます。
  - printReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（setPrintMode=3），かつプリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定（setPrinterSelectMode=1）のとき
  - printReport メソッドで印刷方式が蓄積（setPrintMode=2），かつプリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定（setPrinterSelectMode=1）のとき
  - printReport メソッドで印刷方式が印刷管理サーバ直接印刷方式（setPrintMode=4），かつプリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定（setPrinterSelectMode=1）のとき

引数

newServerPrinterName

サーバプリンタ名

戻り値

なし

setServerSelectMode メソッド

拠点サーバの選択方法を指定します。

形式

public void setServerSelectMode(int *newServerSelectMode*)

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：出力先名を指定します。
- 1：拠点サーバの IP アドレスを指定します。

setServerSelectMode メソッドを省略した場合，または 0，1 以外の値を指定した場合は，0 が仮定されます。

次に示すどちらかの指定がある場合，setServerSelectMode メソッドは有効になります。それ以外の場合は，setServerSelectMode メソッドを指定しても無視されます。

- printReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（setPrintMode=3）のとき
- printReport メソッドで印刷方式が蓄積（setPrintMode=2）のとき

引数

newServerSelectMode

拠点サーバの選択方法

戻り値

なし

setServerTrayName メソッド

サーバのプリンタのトレイ名を指定します。トレイ名は，OS 上のプリンタのトレイ名を指定してください。

形式

public void setServerTrayName(String *newServerTrayName*)

解説

Windows 環境の場合

- トレイ名を指定するときの注意
  トレイ名は，次のことに注意して指定してください。
  ・トレイ名は，80 バイト以内で指定してください。
  ・トレイ名には「"」および「,」を含めないでください。
- setServerTrayName メソッドを指定しない場合は，setServerPrinterName メソッドで指定したプリンタのデフォルトのトレイから給紙されます。
- setServerTrayName メソッドに指定したトレイ名が，出力先のプリンタで使用できない場合は，デフォルトのトレイから給紙されます。
- 次に示す指定がある場合，setServerTrayName メソッドは有効になります。それ

以外の場合は，setServerTrayName メソッドを指定しても無視されます。
・printReport メソッドで印刷方式が拠点サーバ印刷方式（setPrintMode=3），かつプリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定（setPrinterSelectMode=1）のとき
・printReport メソッドで印刷方式が蓄積（setPrintMode=2），かつプリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定（setPrinterSelectMode=1）のとき
・printReport メソッドで印刷方式が印刷管理サーバ直接印刷方式（setPrintMode=4），かつプリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定（setPrinterSelectMode=1）のとき

UNIX/Linux 環境の場合

- 給紙トレイ情報を指定します。setServerTrayName メソッドを指定しない場合は，プリンタ定義ファイルのキーワード（DefaultCassette）に指定されているデフォルトのトレイから給紙されます。
  プリンタ定義ファイルの詳細については，マニュアル「EUR サーバ帳票出力」を参照してください。
- 指定する給紙トレイ情報を次に示します。

指定内容	給紙トレイ
auto	印刷用紙を自動で給紙します。出力する帳票の用紙サイズからカセットを自動選択します。
manual	手差しトレイから印刷用紙を給紙します。
トレイ番号	トレイ番号の給紙カセットから印刷用紙を給紙します。トレイ番号は，1 ～ n（n はプリンタ定義ファイルのキーワード Cassettes で指定した値）で指定します。 6 以上の値を指定した場合は自動給紙となります。

注意事項

setServerTrayName メソッドでは次に示す指定があった場合，プリンタのハードウェアによって動作が異なります。

- manual が指定されたとき
- トレイ番号が指定されたとき
- auto が指定されたのに，プリンタのパネルで給紙カセットが選択されたとき

また，帳票の用紙サイズと給紙される用紙のサイズが異なる場合も，プリンタのハードウェアによって動作が異なります。
帳票の用紙サイズと給紙される用紙のサイズを合わせておくか，または帳票の用紙サイズと異なる用紙に出力する場合は，あらかじめ試し印刷を実施してプリンタの動作を確認してください。

引数

newServerTrayName

サーバのプリンタのトレイ名

戻り値

なし

setSortPrint メソッド

印刷部数の単位を指定します。

形式

public void setSortPrint(int *newSortPrint*)

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：部単位で出力します。
- 1：ページ単位で出力します。

setSortPrint メソッドを省略した場合，0 が仮定されます。

複数帳票を出力する場合は，setSortPrint メソッドの指定に関係なく 0 が仮定されます。ただし，getMergeEPFReport メソッドまたは outputMergeEPFReport メソッドで，複数の EPF 形式ファイルを統合して出力するときは，setSortPrint メソッドの指定に従います。

setSortPrint メソッドは，次に示すメソッドで印刷実行する場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，setSortPrint メソッドを指定しても無視されます。

- printReport メソッド
- getEPFReport メソッド
- getMergeEPFReport メソッド
- outputEPFReport メソッド
- outputMergeEPFReport メソッド

引数

newSortPrint

印刷部数の単位

戻り値

なし

setSplitFileData メソッド

帳票を分割または仕分けして蓄積する場合，EURPM 分割定義データまたは EURPM 仕分け定義データをメモリ渡しするときに指定します。

形式

public void setSplitFileData (StringBuffer *newSplitFileData*)

解説

- setSplitFileData メソッドは，printReport メソッドで印刷方式が蓄積（setPrintMode=2）の場合で，かつ次のどちらかの条件に当てはまるときに指定が有効になります。それ以外の場合は，setSplitFileData メソッドを指定しても無視されます。
  - 帳票を分割（setSplitMode=3）または仕分け（setSplitMode=2）する設定にしているとき。
  - 帳票を分割または仕分けするかどうかを EUR Print Manager の環境設定ファイルの指定に従う（setSplitMode=0）設定にしていて，かつ EUR Print Manager の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPLITMODE キーに PAGE（分割）または KEY（仕分け）を指定しているとき。
- EURPM 分割定義ファイルまたは EURPM 仕分け定義ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

引数

newSplitFileData

EURPM 分割定義データまたは EURPM 仕分け定義データ

戻り値

なし

setSplitFileName メソッド

帳票を分割または仕分けして蓄積する場合に，EURPM 分割定義ファイルまたは EURPM 仕分け定義ファイルのファイル名を指定します。

形式

public void setSplitFileName (String *newSplitFileName*)

解説

- setSplitFileName メソッドは，printReport メソッドで印刷方式が蓄積（setPrintMode=2）の場合で，かつ次のどちらかの条件に当てはまるときに指定が有

効になります。それ以外の場合は，setSplitFileName メソッドを指定しても無視されます。
- 帳票を分割（setSplitMode=3）または仕分け（setSplitMode=2）する設定にしているとき。
- 帳票を分割または仕分けするかどうかを EUR Print Manager の環境設定ファイルの指定に従う（setSplitMode=0）設定にしていて，かつ EUR Print Manager の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPLITMODE キーに PAGE（分割）または KEY（仕分け）を指定しているとき。

- ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- EURPM 分割定義ファイルまたは EURPM 仕分け定義ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

引数

newSplitFileName

EURPM 分割定義ファイルまたは EURPM 仕分け定義ファイル名

戻り値

なし

setSplitFilePath メソッド

setSplitFileName メソッドで指定した，EURPM 分割定義ファイルまたは EURPM 仕分け定義ファイルのパスを指定します。

形式

public void setSplitFilePath (String *newSplitFilePath*)

解説

- 指定されたフォルダのパスは，setSplitFileName メソッドで指定するファイルのデフォルトの場所になります。
- パスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setSplitFilePath メソッドは，printReport メソッドで印刷方式が蓄積（setPrintMode=2）の場合で，かつ次のどちらかの条件に当てはまるときに指定が有効になります。それ以外の場合は，setSplitFilePath メソッドを指定しても無視されます。
  - 帳票を分割（setSplitMode=3）または仕分け（setSplitMode=2）する設定にしているとき。
  - 帳票を分割または仕分けするかどうかを EUR Print Manager の環境設定ファイル

の指定に従う（setSplitMode=0）設定にしていて，かつ EUR Print Manager の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPLITMODE キーに PAGE（分割）または KEY（仕分け）を指定しているとき。

引数

newSplitFilePath

EURPM 分割定義ファイルまたは EURPM 仕分け定義ファイルのパス

戻り値

なし

setSplitMode メソッド

蓄積時に，帳票を分割または仕分けするかどうかを指定します。

形式

public void setSplitMode (int *newSplitMode*)

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：EUR Print Manager の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPLITMODE キーの指定に従います。
- 1：分割または仕分けしないで蓄積します。
- 2：帳票を仕分けして蓄積します。
- 3：帳票を分割して蓄積します。

setSplitMode メソッドの指定を省略した場合，0 が仮定されます。

setSplitMode メソッドは，printReport メソッドで印刷方式が蓄積（setPrintMode=2）の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は，setSplitMode メソッドを指定しても無視されます。

引数

newSplitMode

帳票を分割または仕分けするかどうか

戻り値

なし

setSpoolFileName メソッド

蓄積ファイルに格納するファイルのファイル名を指定します。

形式

public void setSpoolFileName(String *newSpoolFileName*)

解説

- 格納ファイル名は，255 バイト以内になるように指定してください。格納ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- 「%N」を指定すると，00000001 から始まる 8 けたの通し番号を設定できます。
- setSpoolFileName メソッドを省略した場合は，自動的にファイル名が生成されます。自動的に生成されるファイル名は「ジョブ ID.epf」※です。
- 複数の蓄積ファイルに同一ファイル名が指定されている場合，蓄積ファイル取得時に同一パスで取得されると，ファイルが上書きされます。同一パスで取得する可能性のあるファイルは，別の格納ファイル名に指定することをお勧めします。
- setSpoolFileName メソッドは，printReport メソッドで印刷方式が蓄積（setPrintMode=2）の場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，setSpoolFileName メソッドを指定しても無視されます。

注※

「ジョブ ID」の形式を次に示します。

EUR ＋処理実行日時＋通番フォルダ番号＋通し番号

処理実行日時（17 けた）：YYYYMMDDhhmmssmmm

通番フォルダ番号（7 けた）：0000001 ～ 2000000

通し番号（9 けた）：000000001 ～ 999999999

通番フォルダ番号が 2000000 を超えた場合は，エラー（KEEY430-S）になります。

通し番号が 999999999 を超えた場合は，000000003 に戻ります。

引数

newSpoolFileName

蓄積ファイルの格納ファイル名

戻り値

なし

setSpoolLimit メソッド

蓄積ファイルの蓄積期限日を指定します。

形式

public void setSpoolLimit(String *newSpoolLimit*)

解説

蓄積期限日は，日付または日数で指定してください。

日付で指定する場合

- 「YYYYMMDD」の形式で指定してください。
- 年（西暦）は 4 けた，月と日は 2 けたで入力します。
- 月，または日が 1 ～ 9 の場合は，ゼロ埋めをして入力します。
- 指定できる値の上限は，20380118（2038 年 1 月 18 日）です。
- 過去の日付は指定できません。

（指定例）20120521，20141008

日数で指定する場合

- 「+XXX」の形式で指定してください。
- 「XXX」には，蓄積実行時からの保管日数を指定します。指定できる値は 000 ～ 999 です。
- 2038 年 1 月 18 日を超える日数は指定できません。

（指定例）+030，+999

setSpoolLimit メソッドの指定がない場合，蓄積期限日は蓄積を要求した EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPOOLLIMIT キーの指定に従います。

setSpoolLimit メソッドは，printReport メソッドで印刷方式が蓄積（setPrintMode=2）の場合，指定が有効になります。それ以外の場合は，setSpoolLimit メソッドを指定しても無視されます。

引数

newSpoolLimit

蓄積ファイルの蓄積期限日

戻り値

なし

setSpoolTitle メソッド

スプールタイトルを指定します。

形式

public void setSpoolTitle (String *newSpoolTitle*)

解説

- スプールタイトルには，任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。
  - スプールタイトルは，255 バイト以内で指定してください。
  - スプールタイトルには「"」および「,」を含めないでください。
- setSpoolTitle メソッドは，getMergeEPFReport メソッドまたは outputMergeEPFReport メソッドで，複数の EPF 形式ファイルを統合して出力する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setSpoolTitle メソッドを指定しても無視されます。
- setSpoolTitle メソッドの指定を省略したときや 0 バイトの値を指定したときは，統合後の EPF 形式ファイルのスプールタイトル情報は未設定となります。スプールタイトル情報が未設定の場合，印刷時のスプールタイトルには最初に指定する EPF 形式ファイルの帳票ファイル名が出力されます。

引数

newSpoolTitle

スプールタイトル

戻り値

なし

setUserDataFileData メソッド

ユーザ定義データまたは可変記号値定義データをメモリ渡しする場合，各帳票ファイルで使用するデータを配列で指定します。帳票との対応づけは，配列の要素順です。

形式

public void setUserDataFileData(StringBuffer[] *newUserDataFileData*)

解説

- setUserDataFileData メソッドには，setReportFileName メソッド，または setMultiReportFileName メソッドで指定したユーザ定義データ，または可変記号値定義データを指定します。指定するときは，配列の要素数が，setReportFileName メソッド，または setMultiReportFileName メソッドで指定した要素数と同じにしてください。
- setUserDataFileData メソッドは，setUserDataFileName メソッドと同時に使用できません。また，setUserDataFileData メソッドを使用する場合は，ほかのファイル

を指定するときも，次に示すメモリ入力（データ指定）のメソッドを使用してください。ファイル入力のメソッドと組み合わせて使用した場合は，ファイル入力のメソッドを無視します。

- マッピングデータ（setDataFileData）
- しおり定義データ（setBookmarkFileData）
- 文書しおり定義データ（setDocBookmarkFileData）
- 仕分け定義情報データ（setDistributionInfoFileData）
- 暗号化設定データ（setCryptoFileData）
- PDF 仕分け定義データ（setDistributeFileData）

引数

newUserDataFileData

ユーザ定義データまたは可変記号値定義データの配列

戻り値

なし

指定例

複数の帳票セットを指定する場合，一部の帳票に対してユーザ定義データ（または可変記号値定義データ）の指定を省略したいときは，配列の要素に空文字を指定してください。

2 番目の帳票のユーザ定義データの指定を省略する場合の例を次に示します。

```
// 帳票ファイル名を配列fmsに指定
fms[0]="Sample1.fms";
fms[1]="Sample2.fms";
fms[2]="Sample3.fms";
// ユーザ定義データを配列strUsrに指定
usrFileData1 = new StringBuffer("参加者名簿");
Array.set(strUsr, 0, usrFileData1);
mapFileData2 = new StringBuffer("");
Array.set(strUsr, 1, usrFileData2);
mapFileData3 = new StringBuffer("出納帳");
Array.set(strUsr, 2, usrFileData3);
```

また，複数の帳票セットを指定する場合，複数の帳票に対して同じユーザ定義データ（または可変記号値定義データ）を指定したいときは，それぞれに同じオブジェクトを指定してください。

1 番目と 2 番目の帳票に，同じユーザ定義データを指定するときの例を次に示します。

```
// 帳票ファイル名を配列fmsに指定
fms[0]="Sample1.fms";
fms[1]="Sample2.fms";
fms[2]="Sample3.fms";
// ユーザ定義データを配列strUsrに指定
usrFileDataA = new StringBuffer("参加者名簿");
Array.set(strUsr, 0, usrFileDataA);
```

```
Array.set(strUsr, 1, usrFileDataA);
usrFileDataB = new StringBuffer("出納帳");
Array.set(strUsr, 2, usrFileDataB);
```

setUserDataFileName メソッド

ユーザ定義データファイル名または可変記号値定義ファイル名を指定します。

形式

public void setUserDataFileName(String *newUserDataFileName*)

解説

- ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setUserDataFileName メソッドは，setUserDataFileData メソッドと同時に使用できません。また，setUserDataFileName メソッドを使用する場合は，ほかのファイルを指定するときも，次に示すファイル入力（ファイル指定）のメソッドを使用してください。
  - マッピングデータファイル（setDataFileName）
  - しおり定義ファイル（setBookmarkFileName）
  - 文書しおり定義ファイル（setDocBookmarkFileName）
  - 仕分け定義情報ファイル（setDistributionInfoFile）
  - 暗号化設定ファイル（setCryptoFileName）
  - 帳票セット指定ファイル（setMultiReportSetFileName）
  - PDF 仕分け定義ファイル（setDistributeFileName）
- ユーザ定義データファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

引数

newUserDataFileName

ユーザ定義データファイルまたは可変記号値定義ファイル名

戻り値

なし

setUserDataFilePath メソッド

setUserDataFileName メソッドで指定したユーザ定義データファイルのパス，または可変記号値定義ファイルのパスを指定します。

形式

public void setUserDataFilePath(String *newUserDataFilePath*)

解説

- ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

引数

newUserDataFilePath

ユーザ定義データファイルまたは可変記号値定義ファイルのパス

戻り値

なし

setViewerPreferenceFileName メソッド

ビューアプレファレンス定義ファイル名を指定します。

形式

public void setViewerPreferenceFileName(String *newViewerPreferenceFileName*)

解説

- EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で，OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，ビューアプレファレンス定義ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの PREFERENCE キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。
  OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。
  パスは，setViewerPreferenceFilePath メソッドに指定することもできます。
  setViewerPreferenceFilePath メソッドにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。
  - フルパスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PREFERENCE キーには指定が要りません。
  - 相対パスを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PREFERENCE キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
  - ファイル名だけを指定する場合
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PREFERENCE キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

- ビューアプレファレンス定義ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setViewerPreferenceFileName メソッドは，outputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。outputPDFReport メソッド以外の場合は，setViewerPreferenceFileName メソッドを指定しても無視されます。
- ビューアプレファレンス定義ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

引数

newPreferenceFileName

ビューアプレファレンス定義ファイル名

戻り値

なし

setViewerPreferenceFilePath メソッド

setViewerPreferenceFileName メソッドで指定したビューアプレファレンス定義ファイルのパスを指定します。

形式

public void setViewerPreferenceFilePath(String *newViewerPreferenceFilePath*)

解説

- ビューアプレファレンス定義ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setViewerPreferenceFilePath メソッドは，outputPDFReport メソッドで PDF 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。outputPDFReport メソッド以外の場合は，setViewerPreferenceFilePath メソッドを指定しても無視されます。

引数

newPreferenceFilePath

ビューアプレファレンス定義ファイルのパス

戻り値

なし

setXLSXFileName メソッド

出力する Excel 形式ファイル名を指定します。

形式

public void setXLSXFileName(String *newXLSXFileName*)

解説

- outputXLSXReport メソッドで Excel 形式ファイルを出力する場合は，setXLSXFileName メソッドを必ず指定してください。outputXLSXReport メソッド以外の場合は，setXLSXFileName メソッドを指定しても無視されます。
- Excel 形式ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- Excel 形式ファイルの拡張子は，*.xlsx です。Excel 形式ファイル名は，拡張子を含めて指定してください。

引数

newXLSXFileName

出力する Excel 形式ファイル名

戻り値

なし

setXLSXFilePath メソッド

setXLSXFileName メソッドで指定した Excel 形式ファイルのパスを指定します。

形式

public void setXLSXFilePath(String *newXLSXFilePath*)

解説

- 指定されたフォルダのパスは，setXLSXFileName メソッドで指定する Excel 形式ファイルのデフォルトの場所になります。
- setXLSXFilePath メソッドは，outputXLSXReport メソッドで Excel 形式ファイルを出力する場合，指定が有効になります。outputXLSXReport メソッド以外の場合は，setXLSXFilePath メソッドを指定しても無視されます。
- パスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

引数

newXLSXFilePath

Excel 形式ファイルを出力するパス

戻り値

なし

10.5　EURPMException クラスのメソッド仕様

EURPMException クラスで使用できるメソッドの詳細を説明します。

getErrorCode メソッド

エラーコードを取得します。

形式

public int getErrorCode()

引数

なし

戻り値

エラーコードを返します。

getErrorLevel メソッド

エラーレベルを取得します。

形式

public char getMessage()

引数

なし

戻り値

エラーレベルを示す文字を返します。

- W：警告
- E：エラー
- S：システムエラー

getKey メソッド

エラーメッセージのメッセージ ID を取得します。

形式

public String getKey()

引数

なし

戻り値

エラーメッセージのメッセージ ID を返します。

getMessage メソッド

エラーメッセージの文字列を取得します。

形式

public String getMessage()

引数

なし

戻り値

エラーメッセージの文字列を返します。

getOutputData メソッド

例外発生時にエラー種別が警告の場合，次の印刷データを取得します。

- getPDFReport メソッド呼び出し時：PDF 形式データ
- getEURReport メソッド呼び出し時：EUR 形式データ
- getEPFReport メソッド呼び出し時：EPF 形式データ
- getXLSXReport メソッド呼び出し時：Excel 形式データ

形式

public ByteBuffer getOutputData ()

引数

なし

戻り値

エラー種別が警告の場合だけ，印刷データをバイナリデータで返します。

エラー種別がエラーまたはシステムエラーの場合は，空データを返します。

10.6　RS-Java 起動部品

EUR Print Manager - Report Server Adapter は，サーバ側で動作する Java プログラムから，EUR Print Manager - Report Server を利用できる部品を提供しています。これを，RS-Java **起動部品**といいます。

Web/AP サーバ側のアプリケーション実行環境から RS-Java 起動部品を利用することで，サーバ側のアプリケーションを効率良く作成できます。

RS-Java 起動部品は，設定メソッドでジョブ ID などを設定し，実行メソッドを呼び出して蓄積ファイルを操作します。

10.6.1　RS-Java 起動部品の JDK バージョン

RS-Java 起動部品（EURPMLSAdapter.jar）が前提とする JDK のバージョンを次に示します。

表 10-8　Java 起動部品の JDK バージョン

OS	JDK のバージョン
Windows	JDK 1.4，JDK 5.0，または JDK 6.0
AIX	JDK 1.4，JDK 5.0，または JDK 6.0
HP-UX	JDK 1.4，JDK 5.0，または JDK 6.0
Linux	JDK 1.4，JDK 5.0，または JDK 6.0

10.6.2　RS-Java 起動部品の設定方法

(1) RS-Java 起動部品のファイル構成

(a) Windows 環境の場合

RS-Java 起動部品は，次に示す二つのファイルから構成されます。

- EURPMLSAdapter.jar
- EURPMLSADJ.dll

EURPMLSAdapter.jar と EURPMLSADJ.dll は，EUR Print Manager - Report Server Adapter をインストールしたときに，次に示すフォルダにインストールされます。

32 ビットプログラムから呼び出すとき

```
EUR Print Manager - Report Server Adapterのインストール先フォルダ
¥Java
```

64 ビットプログラムから呼び出すとき

```
EUR Print Manager - Report Server Adapterのインストール先フォルダ
¥Java(x64)
```

(b) UNIX/Linux 環境の場合

RS-Java 起動部品は，次に示す二つのファイルから構成されます。

- EURPMLSAdapter.jar
- libEURPMLSADJ.so

EURPMLSAdapter.jar は，EUR Print Manager - Report Server Adapter をインストールしたときに，次に示すディレクトリにインストールされます。

```
/opt/eurpmls_adp/java/
```

libEURPMLSADJ.so は，次に示すディレクトリにインストールされます。

32 ビットプログラムから呼び出すとき

```
/opt/eurpmls_adp/lib/
```

64 ビットプログラムから呼び出すとき

```
/opt/eurpmls_adp/lib64/
```

(2) RS-Java 起動部品の設定方法

RS-Java 起動部品の設定方法を次に示します。両方とも実施してください。

- EURPMLSAdapter.jar ファイルのフルパスをクラスパスに追加します。
- Windows 環境の場合は EURPMLSADJ.dll のインストール先フォルダに，UNIX/Linux 環境の場合は libEURPMLSADJ.so のインストール先ディレクトリに，ライブラリのパスを通します。

JSP や Java サーブレットアプリケーションで管理するフォルダ，クラスパスの設定，およびライブラリのパスの設定については，JSP 環境のマニュアルを参照してください。

10.6.3 RS-Java 起動部品が提供するパッケージ

RS-Java 起動部品では，JP.co.Hitachi.soft.EURPMLS **パッケージ**を提供します。

JP.co.Hitachi.soft.EURPMLS パッケージは，次に示すクラスを提供します。

● EUR Print Manager - Report Server の制御を行うクラス
EURPMLSAdapterForJava：EUR Print Manager - Report Server を制御するクラス

● 例外の制御を行うクラス
EURPMLSException：EUR Print Manager - Report Server の制御時に発生するエラー（例外）を管理するクラス

10.7　EURPMLSAdapterForJava クラス

EURPMLSAdapterForJava クラスは，EUR Print Manager - Report Server を制御するクラスです。

public class EURPMLSAdapterForJava

クラス継承

java.lang.Object
　JP.co.Hitachi.soft.EURPMLS.EURPMLSAdapterForJava

解説

拠点サーバのアドレス，ジョブ ID などのプロパティを設定するメソッドと，蓄積ファイル一覧取得，蓄積先のサーバ印刷などを行うメソッドを提供します。JSP や Java サーブレットなどのアプリケーションプログラムからは，次に示す手順で帳票出力をします。

1. EURPMLSAdapterForJava **オブジェクトの作成**
2. **プロパティの設定**
   拠点サーバのアドレス，ジョブ ID などのプロパティを設定するメソッドで情報を設定します。
3. **蓄積ファイルの印刷**
   蓄積印刷メソッド（printSpoolReport メソッド）を呼び出して蓄積ファイルを印刷します。

3. の処理で発生したエラー，または発生するエラーは，例外を処理するようにプログラムに記述します。

10.7.1　EURPMLSAdapterForJava クラスのコンストラクタ

EURPMLSAdapterForJava クラスのコンストラクタは，EURPMLSAdapterForJava オブジェクトを生成します。

public EURPMLSAdapterForJava() throws EURPMLSException

解説

ユーザーアプリケーションプログラムからコンストラクタを呼び出すことで，EURPMLSAdapterForJava オブジェクトを生成します。拠点サーバアドレス，ジョブ ID など，EURPMLSAdapterForJava クラスのメソッドで設定したあと，printSpoolReport メソッドで帳票出力をします。

引数

なし

例外処理

EURPMLSException
EURPMLSAdapterForJava オブジェクトの生成時にエラーが発生したときは，

EURPMLSException クラスの例外が発生します。

10.7.2　EURPMLSAdapterForJava クラスのメソッド一覧

EURPMLSAdapterForJava クラスのメソッドには，蓄積ファイルの操作や情報を採取するメソッド（操作メソッド）と，プリンタ一覧，蓄積ファイル一覧などのプロパティを設定するメソッド（プロパティメソッド）があります。操作メソッドを表 10-9 に，プロパティメソッドを表 10-10 に示します。

表 10-9　EURPMLSAdapterForJava クラスの操作メソッド

種類	メソッド	概要
蓄積操作メソッド	deleteSpoolFile	指定したジョブ ID の蓄積ファイルを削除したり，蓄積期限を経過した蓄積ファイルを削除したりします。
	getSpoolFile	指定したジョブ ID の蓄積ファイルを指定したパスに取得します。
	getSpoolFileAttribute	指定したジョブ ID の蓄積ファイルの属性情報を取得します。
	getSpoolFileOutline	指定条件に合った EUR Print Manager - Report Server の蓄積ファイルの一覧を取得します。
	memgetSpoolFile	指定したジョブ ID の蓄積ファイルの印刷データをメモリに取得します。
	printSpoolReport	指定したジョブ ID の蓄積ファイルの蓄積データ印刷を実行します。
	setSpoolFileAttribute	指定したジョブ ID の蓄積ファイルの属性情報を変更します。
構成定義情報取得メソッド※	getPrinterClassList	EUR Print Manager - Report Server のプリンタクラス一覧を取得します。
	getPrinterList	EUR Print Manager - Report Server がある拠点サーバの OS 上のプリンタ一覧を取得します。
	getTrayList	EUR Print Manager - Report Server がある拠点サーバの，OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。
初期化メソッド	initialize	指定されたすべてのプロパティメソッドをクリアにして，初期状態に戻します。

注※
UNIX/Linux 環境の場合，構成定義情報取得メソッドは指定できません。

表 10-10 の表見出しの番号は，次に示すメソッドに対応しています。

表見出しの番号	対応するメソッド
1	getSpoolFileOutline

表見出しの番号	対応するメソッド
2	getSpoolFileAttribute
3	setSpoolFileAttribute
4	printSpoolReport
5	getSpoolFile
6	deleteSpoolFile
7	memgetSpoolFile
8	getPrinterClassList
9	getPrinterList
10	getTrayList

表 10-10　EURPMLSAdapterForJava クラスのプロパティメソッド

メソッド	設定内容	蓄積操作メソッド							構成定義情報取得メソッド		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
getClientAddress	蓄積クライアント印刷時のクライアント PC の IP アドレスを取得します。	―	□	―	―	―	―	―	―	―	―
getClientPrinterName	蓄積ファイルのクライアントプリンタ名を取得します。	―	□	―	―	―	―	―	―	―	―
getClientTrayName	蓄積ファイルのクライアントプリンタのトレイ名を取得します。	―	□	―	―	―	―	―	―	―	―
getCreateIPAddress	蓄積ファイル作成者の IP アドレスを取得します。	―	□	―	―	―	―	―	―	―	―
getCreateLSVersion	蓄積ファイルのフォーマットバージョンを取得します。	―	□	―	―	―	―	―	―	―	―
getCreateTime	蓄積ファイル内の作成日時を取得します。	―	□	―	―	―	―	―	―	―	―
getCreateTimeMulti	蓄積ファイル内の作成日時を配列で取得します。	□	―	―	―	―	―	―	―	―	―

メソッド	設定内容	蓄積操作メソッド							構成定義情報取得メソッド		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
getDispPrintDlg	蓄積クライアント印刷時のダイアログ表示モードを取得します。	―	□	―	―	―	―	―	―	―	―
getEnableGet	蓄積ファイルの取得可否を取得します。	―	□	―	―	―	―	―	―	―	―
getExecPrintCount	蓄積ファイルの印刷実行回数を取得します。	―	□	―	―	―	―	―	―	―	―
getExecutablePrintMode	蓄積ファイルの実行可能印刷方式を取得します。	―	□	―	―	―	―	―	―	―	―
getGroupName	蓄積ファイルの振り分けグループ名を取得します。	―	□	―	―	―	―	―	―	―	―
getJobID	ジョブ ID を取得します。	□	―	―	―	―	―	―	―	―	―
getJobKeyCategory	蓄積ファイルのジョブ検索キー分類を取得します。	―	□	―	―	―	―	―	―	―	―
getJobKeyData	蓄積ファイルのジョブ検索キー値を取得します。	―	□	―	―	―	―	―	―	―	―
getMaxPrintCount	蓄積ファイルの印刷上限回数を取得します。	―	□	―	―	―	―	―	―	―	―
getPageNum	蓄積ファイル内の格納ファイルページ数を取得します。	―	□	―	―	―	―	―	―	―	―
getPageNumMulti	蓄積ファイル内の格納ファイルページ数を配列で取得します。	□	―	―	―	―	―	―	―	―	―
getPrinterClassName	蓄積ファイルのプリンタクラス名を取得します。	□	□	―	―	―	―	―	―	―	―
getPrinterClassNameMulti	蓄積ファイルのプリンタクラス名を配列で取得します。	―	□	―	―	―	―	―	―	―	―

メソッド	設定内容	蓄積操作メソッド							構成定義情報取得メソッド		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
getPrinterSelectMode	蓄積拠点サーバ印刷方式のプリンタ指定方式を取得します。	－	□	－	－	－	－	－	－	－	－
getPrintResult	蓄積ファイル内の印刷結果を取得します。	－	□	－	－	－	－	－	－	－	－
getPrintResultMulti	蓄積ファイル内の印刷結果を配列で取得します。	□	－	－	－	－	－	－	－	－	－
getPrintTime	蓄積ファイルの印刷日時を取得します。	－	□	－	－	－	－	－	－	－	－
getServerPrinterName	拠点サーバでの OS 上のプリンタ名を取得します。	－	□	－	－	－	－	－	－	－	○
getServerTrayName	拠点サーバでの OS 上のプリンタのトレイ名を取得します。	－	□	－	－	－	－	－	－	－	－
getSpoolFileName	蓄積ファイル内の格納ファイル名を取得します。	－	□	－	－	－	－	－	－	－	－
getSpoolFileNameMulti	蓄積ファイル内の格納ファイル名を配列で取得します。	□	－	－	－	－	－	－	－	－	－
getSpoolFileSize	格納ファイルのサイズ（バイト）を取得します。	－	□	－	－	－	－	－	－	－	－
getSpoolHistory	蓄積ファイルの履歴を取得します。	－	□	－	－	－	－	－	－	－	－
getSpoolLimit	蓄積ファイルの蓄積期限日を取得します。	－	□	－	－	－	－	－	－	－	－
getSpoolPath	常に "" が出力されます。	－	□	－	－	－	－	－	－	－	－
getSpoolPathMulti	常に "" が配列で出力されます。	□	－	－	－	－	－	－	－	－	－
setClientAddress	蓄積クライアント印刷時のクライアント PC の IP アドレスを指定します。	－	－	△	△	－	－	－	－	－	－

メソッド	設定内容	蓄積操作メソッド							構成定義情報取得メソッド		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
setClientPrinterName	蓄積ファイルのクライアントプリンタ名を指定します。	―	―	△	△	―	―	―	―	―	―
setClientTrayName	蓄積ファイルのクライアントプリンタのトレイ名を指定します。	―	―	△	△	―	―	―	―	―	―
setDeleteKind	蓄積ファイルを削除するときの削除種別を指定します。	―	―	―	―	―	△	―	―	―	―
setDispPrintDlg	蓄積クライアント印刷するときのダイアログ表示モードを指定します。	―	―	△	△	―	―	―	―	―	―
setEnableGet	蓄積ファイルの取得を許可するかどうかを指定します。	―	―	△	―	―	―	―	―	―	―
setExecutablePrintMode	蓄積ファイルの実行可能印刷方式を指定します。	―	―	△	―	―	―	―	―	―	―
setGroupName	蓄積ファイルの振り分けグループ名を指定します。	―	―	△	△	―	―	―	―	―	―
setJobKeyCategory	蓄積ファイルのジョブ検索キーの分類を指定します。	―	―	△	―	―	―	―	―	―	―
setJobKeyData	蓄積ファイルのジョブ検索キーの値を指定します。	―	―	△	―	―	―	―	―	―	―
setMaxPrintCount	蓄積ファイルの印刷上限回数を指定します。	―	―	△	―	―	―	―	―	―	―
setOutputFileName	出力ファイル名を指定します。	―	―	―	―	△	―	―	―	―	―
setOutputFilePath	蓄積ファイルを取得するとき，取得するフォルダのパスを指定します。	―	―	―	―	△	―	―	―	―	―
setPaperOrientation	用紙の向きを指定します。	―	―	―	△	△	―	△	―	―	―
setPrintCopies	印刷部数を指定します。	―	―	―	△	△	―	△	―	―	―

メソッド	設定内容	蓄積操作メソッド							構成定義情報取得メソッド		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
setPrintEndPage	蓄積拠点サーバ印刷するときの終了ページを指定します。	―	―	―	△	―	―	―	―	―	―
setPrinterClassName	蓄積ファイルのプリンタクラス名を指定します。	―	―	△	△	△	―	△	―	―	―
setPrinterSelectMode	蓄積拠点サーバ印刷するときのプリンタ指定方式を指定します。	―	―	△	△	―	―	―	―	―	―
setPrintMode	蓄積したデータの印刷方式を指定します。	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
setPrintStartPage	蓄積拠点サーバ印刷するときの開始ページを指定します。	―	―	―	△	―	―	―	―	―	―
setSearchCreateTimeEnd	ファイル作成日時で蓄積ファイルを検索するときの検索終了日時を指定します。	△	―	―	―	―	―	―	―	―	―
setSearchCreateTimeStart	ファイル作成日時で蓄積ファイルを検索するときの検索開始日時を指定します。	△	―	―	―	―	―	―	―	―	―
setSearchJobID	蓄積ファイルを検索するときのジョブ ID を指定します。	△	○	○	○	○	○／―	○	―	―	―
setSearchJobIDMulti	蓄積ファイルを検索するときのジョブ ID を配列で指定します。	―	―	―	―	―	○／―	―	―	―	―
setSearchJobKeyCategory	蓄積ファイルを検索するときのジョブ検索キーの分類を指定します。	△	―	―	―	―	―	―	―	―	―
setSearchJobKeyData	蓄積ファイルを検索するときのジョブ検索キーの値を指定します。	△	―	―	―	―	―	―	―	―	―

メソッド	設定内容	蓄積操作メソッド							構成定義情報取得メソッド		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
setSearchPrinterClassName	プリンタクラス名で蓄積フォルダのファイル一覧を検索するときのプリンタクラス名を指定します。	△	－	－	－	－	－	－	－	－	－
setSearchSpoolFileName	格納ファイル名で蓄積フォルダのファイル一覧を検索するときの格納ファイル名を指定します。	△	－	－	－	－	－	－	－	－	－
setServerAddress	拠点サーバの IP アドレスを指定します。	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
setServerPrinterName	拠点サーバでの OS 上のプリンタ名を指定します。	－	－	△	△	－	－	－	－	－	○
setServerTrayName	拠点サーバでの OS 上のプリンタのトレイ名を指定します。	－	－	△	△	－	－	－	－	－	－
setSortPrint	印刷部数の単位を指定します。	－	－	－	△	△	－	△	－	－	－
setSpoolLimit	蓄積ファイルの蓄積期限日を指定します。	－	－	△	－	－	－	－	－	－	－
setSpoolTitle	スプールタイトルを指定します。	－	－	－	△	△	－	△	－	－	－

（凡例）

○：必ず指定します。
△：指定を省略できます。
□：結果を出力します。
－：指定できません。

10.8　EURPMLSException クラス

EURPMLSException クラスは，RS-Java 起動部品の各メソッドで例外が発生した場合にスローされるクラスです。

public class EURPMLSException extends java.lang.Exception

クラス継承

java.lang.Exception
　JP.co.Hitachi.soft.EURPMLS.EURPMLSException

解説

EURPMLSException クラスのオブジェクトは，RS-Java 起動部品の内部で生成します。
ユーザープログラムは，このオブジェクトを例外ハンドラで受け取り，getMessage メソッド，または getErrorCode メソッドを呼び出してエラー情報を取得します。

10.8.1　EURPMLSException クラスのメソッド一覧

EURPMLSException クラスのメソッドを次に示します。

表 10-11　EURPMLSException クラスのメソッド

メソッド	設定内容
getErrorCode	エラーコードを取得します。
getErrorLevel	エラーレベルを取得します。
getKey	エラーメッセージのキー文字列を取得します。
getMessage	エラーメッセージの文字列を取得します。
getOutputData	例外発生時にエラー種別が警告の場合，印刷データを取得します。

10.9　EURPMLSAdapterForJava クラスのメソッド仕様

EURPMLSAdapterForJava クラスで使用できるメソッドの詳細を説明します。

deleteSpoolFile メソッド

指定したジョブ ID の蓄積ファイルを削除したり，蓄積期限を経過した蓄積ファイルを削除したりします。蓄積ファイルの削除，および蓄積期限切れ蓄積ファイルの一括削除については，「15.5　蓄積ファイル」を参照してください。

形式

public void deleteSpoolFile() throws EURPMLSException

解説

- deleteSpoolFile メソッドは，拠点サーバ上の蓄積ファイル内の削除が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。
- 実行時にエラーが発生した場合，getErrorCode メソッドに終了コード，getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

なし

例外処理

EURPMLSException

エラー発生時は，EURPMLSException 例外がスローされます。

getClientAddress メソッド

蓄積クライアント印刷するときのクライアント PC の IP アドレスを取得します。

形式

public String getClientAddress()

解説

- getClientAddress メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで，蓄

積クライアント印刷するときのクライアント IP アドレスが「255.255.255.255」形式で出力されます。
- getClientAddress メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getClientAddress メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積クライアント印刷するときのクライアント PC の IP アドレス

getClientPrinterName メソッド

蓄積クライアント印刷するときの OS 上のプリンタ名を取得します。

形式

public String getClientPrinterName()

解説

- getClientPrinterName メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで，蓄積クライアント印刷するときのプリンタ名が出力されます。
- getClientPrinterName メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getClientPrinterName メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積クライアント印刷するときの OS 上のプリンタ名

getClientTrayName メソッド

蓄積クライアント印刷するときのプリンタのトレイ名を取得します。

形式

public String getClientTrayName()

解説

- getClientTrayName メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで，蓄積クライアント印刷するときのプリンタのトレイ名が出力されます。
- getClientTrayName メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getClientTrayName メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積クライアント印刷するときのプリンタのトレイ名

getCreateIPAddress メソッド

蓄積ファイル作成者の IP アドレスを取得します。

形式

public String getCreateIPAddress()

解説

- getCreateIPAddress メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで，蓄積ファイル作成者の IP アドレスが「255.255.255.255」形式で出力されます。
- getCreateIPAddress メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getCreateIPAddress メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積ファイル作成者の IP アドレス

getCreateLSVersion メソッド

蓄積ファイルのフォーマットバージョンを取得します。

形式

public String getCreateLSVersion()

解説

- getCreateLSVersion メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで，蓄積ファイルのフォーマットバージョンが「VV － RR」形式で出力されます。
  蓄積ファイルのフォーマットバージョンは，EUR Print Manager - Report Server のバージョンとは異なります。
- getCreateLSVersion メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getCreateLSVersion メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積ファイルを作成した EUR Print Manager - Report Server のバージョン「VVRRSS」

getCreateTime メソッド

蓄積ファイル内の作成日時を取得します。

形式

public String getCreateTime()

解説

- getCreateTime メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで，指定したジョブ ID の蓄積ファイルの作成日時が出力されます。
- 出力される蓄積ファイルの作成日時の形式は「YYYYMMDDhhmmss」です。
  「YYYYMMDDhhmmss」形式の内容を次に示します。
  - YYYY：年（西暦）を 4 けたで示します。
  - MM：月（01 ～ 12）を 2 けたで示します。01 ～ 09 は，ゼロ埋めされます。
  - DD：日（01 ～ 31）を 2 けたで示します。01 ～ 09 は，ゼロ埋めされます。
  - hh：時（00 ～ 23）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めされます。
  - mm：分（00 ～ 59）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めされます。
  - ss：秒（00 ～ 59）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めされます。

  （出力例）20060523015630
- getCreateTime メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getCreateTime メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積ファイル内の作成日時「YYYYMMDDhhmmss」

getCreateTimeMulti メソッド

蓄積ファイル内の作成日時を配列で取得します。

形式

public String[] getCreateTimeMulti()

解説

- getCreateTimeMulti メソッドは，getSpoolFileOutline メソッドを呼び出すことで，検索条件に合った蓄積ファイルの作成日時が配列で出力されます。
- 出力される蓄積ファイルの作成日時の形式は「YYYYMMDDhhmmss」です。「YYYYMMDDhhmmss」形式の内容を次に示します。
  - YYYY：年（西暦）を 4 けたで示します。
  - MM：月（01 ～ 12）を 2 けたで示します。01 ～ 09 は，ゼロ埋めされます。
  - DD：日（01 ～ 31）を 2 けたで示します。01 ～ 09 は，ゼロ埋めされます。
  - hh：時（00 ～ 23）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めされます。
  - mm：分（00 ～ 59）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めされます。
  - ss：秒（00 ～ 59）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めされます。

  （出力例）20060523015630
- getCreateTimeMulti メソッドは，getSpoolFileOutline メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getCreateTimeMulti メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積ファイル内の作成日時「YYYYMMDDhhmmss」を配列で返します。

getDispPrintDlg メソッド

蓄積クライアント印刷するときのダイアログ表示モードを取得します。

形式

public int getDispPrintDlg()

解説

- getDispPrintDlg メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで，蓄積クライアント印刷するときのダイアログ表示モードが出力されます。
- 出力される蓄積クライアント印刷するときのダイアログ表示モードと印刷時の動作を次に示します。
  - 0：印刷先指定ダイアログを表示します（対話型印刷）。
    プレビューボタンを選択すると，プレビューウィンドウが表示されます。
  - 1：直接印刷を実行します（自動印刷）。
    印刷実行中に印刷中のダイアログが表示されます。
  - 2：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示）。
    印刷メニューまたは印刷ボタンを選択すると，印刷先指定ダイアログが表示されます。
  - 3：直接印刷を実行します（全自動印刷）。
    印刷実行中に印刷中のダイアログは表示されません。
  - 4：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示限定）。
    印刷は実行できません。
- getDispPrintDlg メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getDispPrintDlg メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積クライアント印刷するときのダイアログ表示モード

getEnableGet メソッド

蓄積ファイルの取得を許可するかどうかを取得します。

形式

public boolean getEnableGet()

解説

- getEnableGet メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで，蓄積ファイルの取得許可情報が出力されます。
- 出力される蓄積ファイルの取得許可情報を次に示します。
  - True：蓄積ファイルの取得を許可します。
  - False：蓄積ファイルの取得を許可しません。
- getEnableGet メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作す

る場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getEnableGet メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積ファイルの取得許可情報

getExecPrintCount メソッド

蓄積ファイルの印刷実行回数を取得します。

形式

public int getExecPrintCount()

解説

- getExecPrintCount メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで，蓄積ファイルの印刷実行回数が出力されます。
  印刷実行回数は，拠点サーバでの印刷で印刷スプールへの出力が成功したとき，またはクライアント PC での印刷で印刷データの転送が成功したときに，1 カウントずつアップされます。
- getExecPrintCount メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getExecPrintCount メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積ファイルの印刷実行回数

getExecutablePrintMode メソッド

蓄積ファイルの実行可能印刷方式を取得します。

形式

public int getExecutablePrintMode()

解説

- getExecutablePrintMode メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すこ

とで，蓄積ファイルの実行可能印刷方式が出力されます。
- 出力される蓄積ファイルの実行可能印刷方式を次に示します。
  - 0：蓄積拠点サーバ印刷
  - 1：蓄積拠点サーバ印刷／蓄積クライアント印刷
  - 2：蓄積クライアント印刷
- getExecutablePrintMode メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getExecutablePrintMode メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積ファイルの実行可能印刷方式

getGroupName メソッド

蓄積ファイルの振り分けグループ名を取得します。

形式

public String getGroupName()

解説

- getGroupName メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで，蓄積ファイルの振り分けグループ名が出力されます。
- getGroupName メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getGroupName メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積ファイルの振り分けグループ名

getJobID メソッド

ジョブ ID を取得します。

形式

public String[] getJobID()

解説

- getJobID メソッドは，getSpoolFileOutline メソッドを呼び出すことで，検索条件に合った蓄積ファイルのジョブ ID が配列で出力されます。
- getJobID メソッドは，getSpoolFileOutline メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getJobID メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

ジョブ ID を配列で返します。

getJobKeyCategory メソッド

蓄積ファイルのジョブ検索キーの分類を取得します。

形式

public String[] getJobKeyCategory()

解説

- getJobKeyCategory メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで，蓄積ファイルのジョブ検索キーの分類が出力されます。
- getJobKeyCategory メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getJobKeyCategory メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積ファイルのジョブ検索キーの分類を配列で返します。

getJobKeyData メソッド

蓄積ファイルのジョブ検索キーの値を取得します。

形式

public String[] getJobKeyData()

解説

- getJobKeyData メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで，蓄積ファイルのジョブ検索キーの値が出力されます。
- getJobKeyData メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getJobKeyData メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積ファイルのジョブ検索キーの値を配列で返します。

getMaxPrintCount メソッド

蓄積ファイルの印刷上限回数を取得します。

形式

public int getMaxPrintCount()

解説

- getMaxPrintCount メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで，蓄積ファイルの印刷上限回数が出力されます。
- 出力される印刷上限回数の値は，-1 ～ 65,536 です。
  - -1：印刷回数の上限が無限であることを示します。
  - 0：印刷を禁止していることを示します。
  - 1 ～ 65,536：印刷上限回数を示します。
- getMaxPrintCount メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getMaxPrintCount メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積ファイルの印刷上限回数

getPageNum メソッド

蓄積ファイルに格納された印刷データのページ数を取得します。

形式

public int getPageNum()

解説

- getPageNum メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで，指定したジョブ ID の蓄積ファイルに格納されている印刷データのページ数が出力されます。
- getPageNum メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getPageNum メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積ファイルに格納された印刷データのページ数

getPageNumMulti メソッド

蓄積ファイルに格納された印刷データのページ数を配列で取得します。

形式

public int[] getPageNumMulti()

解説

- getPageNumMulti メソッドは，getSpoolFileOutline メソッドを呼び出すことで，検索条件に合った蓄積ファイルに格納されている印刷データのページ数が配列で出力されます。
- getPageNumMulti メソッドは，getSpoolFileOutline メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getPageNumMulti メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積ファイルに格納された印刷データのページ数を配列で返します。

getPrinterClassList メソッド

EUR Print Manager - Report Server のプリンタクラス一覧を取得します。

形式

public String[][] getPrinterClassList() throws EURPMLSException

解説

- getPrinterClassList メソッドは，拠点サーバ上のプリンタクラス一覧の取得が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。
- EUR Print Manager - Report Server がある拠点サーバの IP アドレスを setServerAddress メソッドで指定します。
- 実行時にエラーが発生した場合，getErrorCode メソッドに終了コード，getMessage メソッドにメッセージが設定されます。
- UNIX/Linux 環境の場合，プリンタクラス一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Print Manager - Report Server に対して，プリンタクラス一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

引数

なし

戻り値

拠点プリンタクラス定義ファイルのデータを，次に示す 2 次元配列の文字列で返します。

```
String[0]：プリンタクラス名の一覧が格納されているString配列
String[1]：プリンタ名の一覧が格納されているString配列
String[2]：トレイ名の一覧が格納されているString配列
String[3]：説明の一覧が格納されているString配列
```

各要素数は同一となります。

例外処理

EURPMLSException

エラー発生時は，EURPMLSException 例外がスローされます。

getPrinterClassName メソッド

蓄積ファイルのプリンタクラス名を取得します。

形式

public String getPrinterClassName()

解説

- getPrinterClassName メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで，指定したジョブ ID の蓄積ファイルのプリンタクラス名が出力されます。
- getPrinterClassName メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getPrinterClassName メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積ファイルのプリンタクラス名

getPrinterClassNameMulti メソッド

蓄積ファイルのプリンタクラス名を配列で取得します。

形式

public String[] getPrinterClassNameMulti()

解説

- getPrinterClassNameMulti メソッドは，getSpoolFileOutline メソッドを呼び出すことで，検索条件に合った蓄積ファイルのプリンタクラス名が配列で出力されます。
- getPrinterClassNameMulti メソッドは，getSpoolFileOutline メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getPrinterClassNameMulti メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積ファイルのプリンタクラス名を配列で返します。

getPrinterList メソッド

EUR Print Manager - Report Server がある拠点サーバの OS 上のプリンタ一覧を取得します。

形式

public String[] getPrinterList() throws EURPMLSException

解説

- getPrinterList メソッドは，OS 上のプリンタ一覧の取得が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。
- EUR Print Manager - Report Server がある拠点サーバの IP アドレスは，setServerAddress メソッドで指定します。
- 実行時にエラーが発生した場合，getErrorCode メソッドに終了コード，getMessage メソッドにメッセージが設定されます。
- UNIX/Linux 環境の場合，プリンタ一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Print Manager - Report Server に対して，プリンタ一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

引数

なし

戻り値

OS 上のプリンタ一覧を，次に示す形式で返します。

```
OS上のプリンタ名1
OS上のプリンタ名2
      :
OS上のプリンタ名n
```

例外処理

EURPMLSException

エラー発生時は，EURPMLSException 例外がスローされます。

getPrinterSelectMode メソッド

蓄積拠点サーバ印刷するときのプリンタ指定方式を取得します。

形式

public int getPrinterSelectMode()

解説

- getPrinterSelectMode メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで，蓄積拠点サーバ印刷するときのプリンタ指定方式が出力されます。
- 出力されるプリンタ指定方式を次に示します。
  - 0：プリンタクラス名指定
  - 1：OS 上のプリンタ名指定
  - 2：帳票名による自動振り分け
- getPrinterSelectMode メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイル

を操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getPrinterSelectMode メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積拠点サーバ印刷するときのプリンタ指定方式

getPrintResult メソッド

蓄積ファイル内の印刷結果を取得します。

形式

public int getPrintResult()

解説

- 出力される印刷結果を次に示します。
  - 0：未印刷であることを示します。
  - 1：印刷済みであることを示します。
  - 2：印刷エラーがあったことを示します。
- getPrintResult メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで，指定したジョブ ID の蓄積ファイルの印刷結果が出力されます。
- getPrintResult メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getPrintResult メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積ファイル内の印刷結果

getPrintResultMulti メソッド

蓄積ファイル内の印刷結果を配列で取得します。

形式

public int[] getPrintResultMulti()

解説

- 出力される印刷結果を次に示します。
  - 0：未印刷であることを示します。
  - 1：印刷済みであることを示します。
  - 2：印刷エラーがあったことを示します。
- getPrintResultMulti メソッドは，getSpoolFileOutline メソッドを呼び出すことで，検索条件に合った蓄積ファイルの印刷結果が配列で出力されます。
- getPrintResultMulti メソッドは，getSpoolFileOutline メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getPrintResultMulti メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積ファイル内の印刷結果を，数値型の配列で返します。

getPrintTime メソッド

蓄積ファイルの印刷日時を取得します。

形式

public String getPrintTime()

解説

- 蓄積ファイルの印刷日時は，蓄積したデータを拠点サーバまたはクライアント PC で印刷したタイミングで，ジョブ実行時の日時に更新されます。
- 出力される蓄積ファイルの印刷日時の形式は「YYYYMMDDhhmmss」です。
  「YYYYMMDDhhmmss」形式の内容を次に示します。
  - YYYY：年（西暦）を 4 けたで示します。
  - MM：月（01 ～ 12）を 2 けたで示します。01 ～ 09 は，ゼロ埋めされます。
  - DD：日（01 ～ 31）を 2 けたで示します。01 ～ 09 は，ゼロ埋めされます。
  - hh：時（00 ～ 23）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めされます。
  - mm：分（00 ～ 59）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めされます。
  - ss：秒（00 ～ 59）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めされます。

  （出力例）20060523015630
- 蓄積ファイルが一度も印刷されていない場合は，"" が出力されます。
- getPrintTime メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getPrintTime メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積ファイルの印刷日時「YYYYMMDDhhmmss」

getServerPrinterName メソッド

拠点サーバでの OS 上のプリンタ名を取得します。

形式

public String getServerPrinterName()

解説

- getServerPrinterName メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで，蓄積ファイルを蓄積拠点サーバ印刷するときの OS 上のプリンタ名が出力されます。
- getServerPrinterName メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getServerPrinterName メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

拠点サーバでの OS 上のプリンタ名

getServerTrayName メソッド

拠点サーバでの OS 上のプリンタのトレイ名を取得します。

形式

public String getServerTrayName()

解説

- getServerTrayName メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで，蓄積拠点サーバ印刷するときのプリンタのトレイ名が出力されます。
- getServerTrayName メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getServerTrayName メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

拠点サーバでの OS 上のプリンタのトレイ名

getSpoolFile メソッド

指定したジョブ ID の蓄積ファイルを指定したパスに取得します。

作成されるファイル名は，SpoolFileName メソッドで出力された蓄積ファイル内の格納ファイル名になります。ただし，格納ファイル名と同一名のファイルが指定したパスにある場合は，上書きされます。蓄積ファイルの取得については，「15.5　蓄積ファイル」を参照してください。

形式

public void getSpoolFile() throws EURPMLSException

解説

- getSpoolFile メソッドは，拠点サーバ上の蓄積ファイル内の格納ファイルを setOutputFilePath メソッドで指定されたフォルダに出力が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。
- 実行時にエラーが発生した場合，getErrorCode メソッドに終了コード，getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

なし

例外処理

EURPMLSException

エラー発生時は，EURPMLSException 例外がスローされます。

getSpoolFileAttribute メソッド

指定したジョブ ID の蓄積ファイルの属性情報を取得します。取得される蓄積ファイルの属性情報については，「15.5　蓄積ファイル」を参照してください。

形式

public void getSpoolFileAttribute() throws EURPMLSException

解説

- getSpoolFileAttribute メソッドは，拠点サーバにある蓄積ファイルの属性情報の取得が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。
- 実行時にエラーが発生した場合，getErrorCode メソッドに終了コード，getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

なし

例外処理

EURPMLSException

エラー発生時は，EURPMLSException 例外がスローされます。

getSpoolFileName メソッド

蓄積ファイルにある格納ファイル名を取得します。

形式

public String getSpoolFileName()

解説

- getSpoolFileName メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで，指定したジョブ ID の蓄積ファイルにある格納ファイル名が出力されます。
- getSpoolFileName メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getSpoolFileName メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積ファイルにある格納ファイル名

getSpoolFileNameMulti メソッド

蓄積ファイルにある格納ファイル名を配列で取得します。

形式

public String[] getSpoolFileNameMulti()

解説

- getSpoolFileNameMulti メソッドは，getSpoolFileOutline メソッドを呼び出すことで，検索条件に合った蓄積ファイルにある格納ファイル名が配列で出力されます。
- getSpoolFileNameMulti メソッドは，getSpoolFileOutline メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getSpoolFileNameMulti メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積ファイルにある格納ファイル名の一覧を，文字列型の配列で返します。

getSpoolFileOutline メソッド

指定条件に合った EUR Print Manager - Report Server の蓄積ファイルの一覧を取得します。取得される蓄積ファイルの一覧については，「15.5　蓄積ファイル」を参照してください。

形式

public void getSpoolFileOutline() throws EURPMLSException

解説

- getSpoolFileOutline メソッドは，拠点サーバ上の蓄積フォルダから検索条件に合った蓄積ファイルの一覧の取得が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。
- 次のメソッドのうちどれかが指定されていると，蓄積ファイルの検索処理が高速になります。
  - setSearchCreateTimeEnd
  - setSearchCreateTimeStart
  - setSearchJobID
  - setSearchJobIDMulti
- 実行時にエラーが発生した場合，getErrorCode メソッドに終了コード，getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

なし

例外処理

EURPMLSException

エラー発生時は，EURPMLSException 例外がスローされます。

getSpoolFileSize メソッド

指定したジョブ ID の蓄積ファイルにある格納ファイルのサイズ（バイト）を取得します。

形式

public int getSpoolFileSize()

解説

- getSpoolFileSize メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getSpoolFileSize メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

指定したジョブ ID の蓄積ファイルにある格納ファイルのサイズ（バイト）

getSpoolHistory メソッド

蓄積ファイルの履歴を取得します。

形式

public String[][] getSpoolHistory() throws EURPMLSException

解説

- getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで，蓄積ファイルの履歴が情報数分出力されます。出力される蓄積ファイルの履歴の形式を次に示します。

[操作種別][操作日時][IP アドレス][操作対象][変更前][変更後][印刷実行結果]
（出力例）
[拠点印刷][20060314164300][255.255.xxx.xxx][][][][印刷済み]
[変更][20060314181501][255.255.xxx.xxx][プリンタクラス][標準][A3][]
[取得][20060314190506][255.255.xxx.xxx][][][][]

- 蓄積直後の配列の要素数は 0 です。
- getSpoolHistory メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getSpoolHistory メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積ファイルの履歴を，次に示す 2 次元配列の文字列で返します。

```
String[0]：操作種別の一覧が格納されているString配列
String[1]：操作日時の一覧が格納されているString配列
String[2]：IPアドレスの一覧が格納されているString配列
String[3]：操作対象の一覧が格納されているString配列
String[4]：変更前の一覧が格納されているString配列
String[5]：変更後の一覧が格納されているString配列
String[6]：印刷実行結果の一覧が格納されているString配列
```

各要素数は同一となります。

getSpoolLimit メソッド

蓄積ファイルの蓄積期限日を取得します。

形式

public String getSpoolLimit()

解説

- getSpoolLimit メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出すことで，蓄積ファイルの蓄積期限日が出力されます。
- 出力される蓄積ファイルの蓄積期限日の形式は「YYYYMMDD」です。
  「YYYYMMDD」形式の内容を次に示します。
  - YYYY：年（西暦）を 4 けたで示します。
  - MM：月（01 ～ 12）を 2 けたで示します。01 ～ 09 は，ゼロ埋めします。
  - DD：日（01 ～ 31）を 2 けたで示します。01 ～ 09 は，ゼロ埋めします。

  （出力例）20060523
- getSpoolLimit メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作す

る場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getSpoolLimit メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

蓄積ファイルの蓄積期限日「YYYYMMDD」

getSpoolPath メソッド

常に "" が出力されます。

形式

public String getSpoolPath()

解説

- getSpoolPath メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドを呼び出しても，常に "" が出力されます。
- getSpoolPath メソッドは，getSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getSpoolPath メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

""

getSpoolPathMulti メソッド

常に "" が配列で出力されます。

形式

public String[] getSpoolPathMulti()

解説

- getSpoolPathMulti メソッドは，getSpoolFileOutline メソッドを呼び出しても，常に "" が配列で出力されます。
- getSpoolPathMulti メソッドは，getSpoolFileOutline メソッドで蓄積ファイルを操作

する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，getSpoolPathMulti メソッドを指定しても無視されます。

引数

なし

戻り値

"" の配列

getTrayList メソッド

EUR Print Manager - Report Server がある拠点サーバの，OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。

形式

public String[] getTrayList() throws EURPMLSException

解説

- getTrayList メソッドは，OS 上のプリンタのトレイ一覧が取得終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。
- EUR Print Manager - Report Server がある拠点サーバの IP アドレスは，setServerAddress メソッドで指定します。
- 実行時にエラーが発生した場合，getErrorCode メソッドに終了コード，getMessage メソッドにメッセージが設定されます。
- UNIX/Linux 環境の場合，トレイ一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Print Manager - Report Server に対して，トレイ一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

引数

なし

戻り値

プリンタのトレイ一覧を次に示す形式で返します。

```
OS上のプリンタのトレイ名1
OS上のプリンタのトレイ名2
        :
OS上のプリンタのトレイ名n
```

例外処理

EURPMLSException

エラー発生時は，EURPMLSException 例外がスローされます。

initialize メソッド

指定されたすべてのプロパティメソッドをクリアにして，初期状態に戻します。

形式

public void initialize ()

解説

- initialize メソッドは，EUR Print Manager - Report Server Adapter のメソッドの初期化処理が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。
- 実行時にエラーが発生した場合，getErrorCode メソッドに終了コード，getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

なし

例外処理

なし

memgetSpoolFile メソッド

指定した蓄積ファイルのデータをメモリに取得します。

形式

public ByteBuffer memgetSpoolFile() throws EURPMLSException

解説

- 指定したジョブ ID の蓄積ファイルの印刷データをメモリに取得します。
- memgetSpoolFile メソッドは，拠点サーバ上の蓄積ファイル内の格納ファイルのデータをメモリに取得した時点で呼び出し元に制御が戻ります。

引数

なし

戻り値

蓄積ファイルの印刷データをバイナリデータで返します。

例外処理

EURPMLSException

エラー発生時は，EURPMLSException 例外がスローされます。エラー種別が警告の場合，データは EURPMLSException クラスの getOutputData メソッドで取得してください。

printSpoolReport メソッド

指定したジョブ ID の蓄積ファイルの蓄積データ印刷を実行します。

形式

public void printSpoolReport() throws EURPMLSException

解説

printSpoolReport メソッドは，拠点サーバ上のプリンタスプールへの出力が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。

実行時にエラーが発生した場合，getErrorCode メソッドに終了コード，getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

なし

例外処理

EURPMLSException

エラー発生時は，EURPMLSException 例外がスローされます。

setClientAddress メソッド

蓄積クライアント印刷するときのクライアント PC の IP アドレスを指定します。

形式

public void setClientAddress(String *ClientAddress*) throws EURPMLSException

解説

- 蓄積クライアント印刷するときのクライアント IP アドレスを「255.255.255.255」形

式で指定します。長さは 15 バイトまでです。

- setClientAddress メソッドは，setSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，および printSpoolReport メソッドで蓄積クライアント印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setClientAddress メソッドを指定しても無視されます。
- 蓄積クライアント印刷する場合に setClientAddress メソッドの指定を省略したときは，蓄積ファイルの属性情報でクライアント PC の IP アドレスを決定して印刷します。複数の蓄積ファイルの印刷データを統合して印刷するときは，最初に指定した蓄積ファイルの属性情報でクライアント PC の IP アドレスを決定します。
  なお，setClientAddress メソッドと蓄積ファイルの属性情報のどちらにもクライアント IP アドレスの設定がないときは，蓄積クライアント印刷実行時にエラーとなります。

引数

ClientAddress

蓄積クライアント印刷するときのクライアント IP アドレス

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合は，エラー（KEEY702-E）の EURPMLSException 例外がスローされます。

setClientPrinterName メソッド

蓄積クライアント印刷するときの OS 上のプリンタ名を指定します。

形式

public void setClientPrinterName (String *ClientPrinterName*) throws EURPMLSException

解説

- プリンタ名を指定するときは，次のことに注意してください。
  - プリンタ名は，80 バイト以内で指定してください。
  - プリンタ名には「"」および「,」を含めないでください。
- 蓄積クライアント印刷するときに setClientPrinterName メソッドの指定があると，setDispPrintDlg メソッドは強制的に「1（自動印刷）」になります。蓄積時に指定したクライアント PC のプリンタに出力されます。
- setClientPrinterName メソッドは，setSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイル

を操作する場合，および printSpoolReport メソッドで蓄積クライアント印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setClientPrinterName メソッドを指定しても無視されます。

- 蓄積クライアント印刷する場合に setClientPrinterName メソッドの指定を省略したときは，次の値が仮定されます。
  - ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
    指定したジョブ ID の蓄積ファイルの属性情報に設定されている値
  - ジョブ ID を複数指定しているとき
    最初に指定したジョブ ID の蓄積ファイルの属性情報に設定されている値
- 蓄積クライアント印刷する場合に setClientPrinterName メソッドに 0 バイトの値を指定したときは，プリンタ名情報は未設定となります。

引数

ClientPrinterName

蓄積クライアント印刷するときの OS 上のプリンタ名

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合は，エラー（KEEY702-E）の EURPMLSException 例外がスローされます。

setClientTrayName メソッド

蓄積クライアント印刷するときのプリンタのトレイ名を指定します。

形式

public void setClientTrayName (String *ClientTrayName*) throws EURPMLSException

解説

- トレイ名を指定するときは，次のことに注意してください。
  - トレイ名は，80 バイト以内で指定してください。
  - トレイ名には「"」および「,」を含めないでください。
- 蓄積クライアント印刷するときに setClientPrinterName メソッドの指定があると，setClientTrayName メソッドで指定したトレイから給紙されます。
  setClientPrinterName メソッドで指定したプリンタで setClientTrayName メソッドに指定したトレイ名が使用できないときは，setClientPrinterName メソッドで指定したプリンタのデフォルトのトレイから給紙されます。

- 蓄積クライアント印刷する場合に setClientTrayName メソッドの指定を省略したときは，次の値が仮定されます。
  - ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
    指定したジョブ ID の蓄積ファイルの属性情報に設定されている値
  - ジョブ ID を複数指定しているとき
    最初に指定したジョブ ID の蓄積ファイルの属性情報に設定されている値
- 蓄積クライアント印刷する場合に setClientTrayName メソッドに 0 バイトの値を指定したときは，トレイ名情報は未設定となります。
- setClientTrayName メソッドは，setSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，および printSpoolReport メソッドで蓄積クライアント印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setClientTrayName メソッドを指定しても無視されます。

引数

ClientTrayName

蓄積クライアント印刷するときのプリンタのトレイ名

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合は，エラー（KEEY702-E）の EURPMLSException 例外がスローされます。

setDeleteKind メソッド

蓄積ファイルを削除するときの削除種別を指定します。

形式

public void setDeleteKind (int *DeleteKind*)

解説

- 蓄積ファイルを削除するときの削除種別を，0，または 1 で指定します。0，または 1 以外の値を入力したときは，エラーになります。デフォルトは，「0（通常削除）」です。
  - 0：通常削除
    setSearchJobID メソッド，または setSearchJobIDMulti メソッドで指定したジョブ ID に該当する蓄積ファイルを削除します。
  - 1：蓄積期限切れファイルの削除
    EUR Print Manager - Report Server のあるマシンで，蓄積期限が過ぎている蓄積

ファイルを削除します。

- 蓄積期限切れファイルの削除は，環境設定ファイル（EURPMLS.ini）で OPTION セクションの ESFAUTODEL キーに「1（自動削除します）」を設定しておくことで，次に示すタイミングで自動的に実行することもできます。
  - EUR Print Manager - Report Server のサービスを起動したとき
  - EUR Print Manager - Report Server が稼働するマシンの日付が変わったあと，EUR Print Manager - Report Server に対して最初の要求があったとき
- setDeleteKind メソッドは，deleteSpoolFile メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setDeleteKind メソッドを指定しても無視されます。

引数

DeleteKind

蓄積ファイルを削除するときの削除種別

戻り値

なし

setDispPrintDlg メソッド

蓄積クライアント印刷するときのダイアログ表示モードを指定します。

形式

public void setDispPrintDlg (int *DispPrintDlg*)

解説

- 指定できる値と蓄積クライアント印刷時の動作を次に示します。
  - 0：印刷先指定ダイアログを表示します（対話型印刷）。
    プレビューボタンを選択すると，プレビューウィンドウが表示されます。
  - 1：直接印刷を実行します（自動印刷）。
    印刷実行中に印刷中のダイアログが表示されます。
  - 2：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示）。
    印刷メニューまたは印刷ボタンを選択すると，印刷先指定ダイアログが表示されます。
  - 3：直接印刷を実行します（全自動印刷）。
    印刷実行中に印刷中のダイアログは表示されません。
  - 4：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示限定）。
    印刷は実行できません。
- 蓄積クライアント印刷実行時，setClientPrinterName メソッドに値が指定されている

場合，かつ setDispPrintDlg メソッドに 0 または 2 を指定した場合は，setDispPrintDlg メソッドに 1 が仮定されます。
- setSpoolFileAttribute メソッド実行時に，0 ～ 4 以外の値が入力されていたときは，エラーになります。
- setDispPrintDlg メソッドは，setSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，および printSpoolReport メソッドで蓄積クライアント印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setDispPrintDlg メソッドを指定しても無視されます。

引数

DispPrintDlg

蓄積クライアント印刷するときのダイアログ表示モード

戻り値

なし

setEnableGet メソッド

蓄積ファイルの取得を許可するかどうかを指定します。

形式

public void setEnableGet (boolean *EnableGet*)

解説

- 蓄積ファイルの取得許可情報を次に示します。
  - True：蓄積ファイルの取得を許可します。
  - False：蓄積ファイルの取得を許可しません。
- setEnableGet メソッドは，setSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setEnableGet メソッドを指定しても無視されます。

引数

EnableGet

蓄積ファイルの取得許可情報

戻り値

なし

setExecutablePrintMode メソッド

蓄積ファイルの実行可能印刷方式を指定します。

形式

public void setExecutablePrintMode (int *ExecutablePrintMode*)

解説

- 蓄積ファイルの実行可能印刷方式を次に示します。
  - 0：蓄積拠点サーバ印刷
  - 1：蓄積拠点サーバ印刷／蓄積クライアント印刷
  - 2：蓄積クライアント印刷

  setSpoolFileAttribute メソッド実行時に，0，1，または 2 以外の値が入力されていたときは，エラーになります。
- setExecutablePrintMode メソッドは，setSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setExecutablePrintMode メソッドを指定しても無視されます。

引数

ExecutablePrintMode

蓄積ファイルの実行可能印刷方式

戻り値

なし

setGroupName メソッド

蓄積ファイルの振り分けグループ名を指定します。

形式

public void setGroupName (String *GroupName*) throws EURPMLSException

解説

- 振り分けグループ名を指定するときは，次のことに注意してください。
  - 振り分けグループ名は，80 バイト以内で指定してください。
  - 文字列に「"」，および「,」を含めないでください。
- setGroupName メソッドは，setSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，および printSpoolReport メソッドで蓄積拠点サーバ印刷する場合でプリンタ指定方式に帳票名による自動振り分け（setPrinterSelectMode=2）を指定したときに

指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setGroupName メソッドを指定しても無視されます。

- 蓄積拠点サーバ印刷で setGroupName メソッドの指定が有効な場合に，setGroupName メソッドの指定を省略したときや 0 バイトの値を指定したときは，デフォルトの振り分けグループで出力先を決定して印刷します。

引数

GroupName

蓄積ファイルの振り分けグループ名

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合は，エラー（KEEY702-E）の EURPMLSException 例外がスローされます。

setJobKeyCategory メソッド

蓄積ファイルのジョブ検索キーの分類を指定します。

形式

public void setJobKeyCategory (String[] *JobKeyCategory*) throws EURPMLSException

解説

- ジョブ検索キーを入力する場合は，1 ～ 10 個の配列で指定してください。また，setJobKeyCategory メソッドを指定する場合は，ジョブ検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず setJobKeyData メソッドに入力してください。このとき，配列の要素数は同じにしてください。配列の要素数が異なると，setSpoolFileAttribute メソッド実行時にエラーになります。また，ジョブ検索キーを入力しない場合は，setJobKeyCategory メソッドと setJobKeyData メソッドのどちらも指定しないでください。どちらかの指定があると対応する情報がないため，setSpoolFileAttribute メソッド実行時にエラーになります。
- ジョブ検索キーは，任意文字列を指定できます。指定するときは，次のことに注意してください。
  - 文字列は，80 バイト以内で指定してください。
  - 文字列に「,」を含めないでください。
- setJobKeyCategory メソッドは，setSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setJobKeyCategory

メソッドを指定しても無視されます。

引数

JobKeyCategory

ジョブ検索キーとする分類の配列

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合，または引数の String 配列の要素値に null が指定された場合は，エラー（KEEY702-E）の EURPMLSException 例外がスローされます。

setJobKeyData メソッド

蓄積ファイルのジョブ検索キーの値を指定します。

形式

public String setJobKeyData (String[] *JobKeyData*) throws EURPMLSException

解説

- ジョブ検索キーを入力する場合は，1 ～ 10 個の配列で指定してください。また，setJobKeyCategory メソッドを指定する場合は，検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず setJobKeyData メソッドに入力してください。このとき，配列の要素数は同じにしてください。配列の要素数が異なると，setSpoolFileAttribute メソッド実行時にエラーになります。また，検索キーを指定しない場合は，setJobKeyCategory メソッドと setJobKeyData メソッドのどちらも指定しないでください。どちらかの指定があると対応する情報がないため，setSpoolFileAttribute メソッド実行時にエラーになります。
- 値は，任意文字列を指定できます。指定するときは，次のことに注意してください。
  - 文字列は，80 バイト以内で指定してください。
  - 文字列に「,」を含めないでください。
- setJobKeyData メソッドは，setSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setJobKeyData メソッドを指定しても無視されます。

引数

JobKeyData

ジョブ検索キーとする値の配列

戻り値

String

例外処理

引数に null が指定された場合，または引数の String 配列の要素値に null が指定された場合は，エラー（KEEY702-E）の EURPMLSException 例外がスローされます。

setMaxPrintCount メソッド

蓄積ファイルの印刷上限回数を指定します。

形式

public void setMaxPrintCount (int *MaxPrintCount*)

解説

- 印刷上限回数に指定できる値は，-1 ～ 65,536 です。
  - 印刷回数の上限を無限にする場合は，-1 を指定してください。
  - 印刷を禁止する場合は，0 を指定してください。

  setSpoolFileAttribute メソッド実行時に，-1，0，または 1 ～ 65,536 以外の値が入力されていたときは，エラーになります。
- setMaxPrintCount メソッドは，setSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setMaxPrintCount メソッドを指定しても無視されます。

引数

MaxPrintCount

蓄積ファイルの印刷上限回数

戻り値

なし

setOutputFileName メソッド

蓄積ファイルを取得するときの出力ファイル名を指定します。

形式

public void setOutputFileName (String *OutputFileName*) throws EURPMLSException

解説

- 出力ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setOutputFileName メソッドを省略した場合，ファイル名は次のようになります。
  - ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
    指定したジョブ ID の蓄積ファイルに格納されている印刷データのファイル名
  - ジョブ ID を複数指定しているとき
    最初に指定したジョブ ID の蓄積ファイルに格納されている印刷データのファイル名
- setOutputFileName メソッドは，getSpoolFile メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setOutputFileName メソッドを指定しても無視されます。

引数

OutputFileName

蓄積ファイルを取得するときの出力ファイル名

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合は，エラー（KEEY702-E）の EURPMLSException 例外がスローされます。

setOutputFilePath メソッド

蓄積ファイルを取得するとき，取得するフォルダのパスを指定します。

形式

public void setOutputFilePath (String *OutputFilePath*) throws EURPMLSException

解説

- EUR Print Manager - Report Server Adapter の環境設定ファイル（EURPMLSADP.ini）で，PATH セクションに OUTPUTFILE キーを指定することで，デフォルトの蓄積ファイル取得フォルダを指定することもできます。ただし，getSpoolFile メソッドを実行した場合，setOutputFilePath メソッド，または環境設定ファイルのどちらも指定されていないときは，エラーになります。
- フォルダのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。
- setOutputFilePath メソッドは，getSpoolFile メソッドで蓄積ファイルを操作する場

合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setOutputFilePath メソッドを指定しても無視されます。

引数

OutputFilePath

蓄積ファイルを取得するフォルダのパス

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合は，エラー（KEEY702-E）の EURPMLSException 例外がスローされます。

setPaperOrientation メソッド

用紙の向きを指定します。

形式

public void setPaperOrientation (int *PaperOrientation*)

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：印刷データを蓄積したときのページごとの属性に従います。
- 1：用紙の向きを縦にして出力します。
- 2：用紙の向きを横にして出力します。

setPaperOrientation メソッドを省略した場合，次のように動作します。

- ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
  指定したジョブ ID の蓄積ファイルに格納されている印刷データの属性情報に従います。
- ジョブ ID を複数指定しているとき
  印刷データを蓄積したときのページごとの属性に従います。

setPaperOrientation メソッドは，getSpoolFile メソッド，および memgetSpoolFile メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，ならびに printSpoolReport メソッドで印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setPaperOrientation メソッドを指定しても無視されます。

引数

PaperOrientation

用紙の向き

戻り値

なし

setPrintCopies メソッド

印刷部数を指定します。

形式

public void setPrintCopies(int *PrintCopies*)

解説

指定できる値は，1 ～ 99 です。setPrintCopies メソッドを省略した場合，次の値が仮定されます。

- ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
  指定したジョブ ID の蓄積ファイルに格納されている印刷データの属性情報に設定されている値
- ジョブ ID を複数指定しているとき
  1

setPrintCopies メソッドは，getSpoolFile メソッド，および memgetSpoolFile メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，ならびに printSpoolReport メソッドで印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setPrintCopies メソッドを指定しても無視されます。

引数

PrintCopies

印刷部数

戻り値

なし

setPrintEndPage メソッド

蓄積拠点サーバ印刷するときの終了ページを指定します。

形式

public void setPrintEndPage (int *PrintEndPage*)

解説

- setPrintEndPage メソッドは，蓄積印刷方式が蓄積拠点サーバ印刷（setPrintMode=0）のとき，有効になります。蓄積クライアント印刷（setPrintMode=1）のときは，setPrintEndPage メソッドを指定しても無視されます。
- 指定できる値は，1 ～ 999,999 です。setPrintEndPage メソッドを省略した場合は，最終ページまで印刷されます。また，蓄積ファイルに格納されている印刷データの最終ページ数より setPrintEndPage メソッドに指定した値が大きい場合も，最終ページまで印刷されます。
- setPrintEndPage メソッドは，printSpoolReport メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setPrintEndPage メソッドを指定しても無視されます。

引数

PrintEndPage

蓄積拠点サーバ印刷するときの終了ページ

戻り値

なし

setPrinterClassName メソッド

蓄積ファイルのプリンタクラス名を指定します。

形式

public void setPrinterClassName (String *PrinterClassName*) throws EURPMLSException

解説

- 蓄積拠点サーバ印刷する場合にプリンタ指定方式でプリンタクラス名指定（setPrinterSelectMode=0）を指定したとき，および蓄積クライアント印刷する場合に setClientPrinterName メソッドの指定がないときに，setPrinterClassName メソッドで指定したプリンタクラスを出力先にします。setSpoolFileAttribute メソッドの呼び出しでプリンタクラス名を変更しても無視されます。
- プリンタクラス名は，任意の文字列を指定できます。指定するときは，次のことに注意してください。
  - プリンタクラス名は，80 バイト以内で指定してください。

- プリンタクラス名に「"」および「,」を含めないでください。

- setPrinterClassName メソッドは，setSpoolFileAttribute メソッド，getSpoolFile メソッド，および memgetSpoolFile メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，ならびに printSpoolReport メソッドで印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setPrinterClassName メソッドを指定しても無視されます。
- 蓄積拠点サーバ印刷でプリンタ指定方式がプリンタクラス名指定（setPrinterSelectMode=0）の場合に，setPrinterClassName メソッドの指定を省略したときや 0 バイトの値を指定したときは，デフォルトのプリンタクラスで印刷します。
- 蓄積クライアント印刷する場合，および蓄積ファイルを取得する場合に setPrinterClassName メソッドに 0 バイトの値を指定したときは，プリンタクラス情報は未設定となります。
- 蓄積クライアント印刷する場合，および蓄積ファイルを取得する場合に setPrinterClassName メソッドの指定を省略したときは，次のようになります。
  - ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
    指定したジョブ ID の蓄積ファイルの属性情報に設定されている値が仮定されます。
  - ジョブ ID を複数指定しているとき
    プリンタクラス情報は未設定となります。

引数

PrinterClassName

蓄積ファイルのプリンタクラス名

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合は，エラー（KEEY702-E）の EURPMLSException 例外がスローされます。

setPrinterSelectMode メソッド

蓄積拠点サーバ印刷するときのプリンタ指定方式を指定します。

形式

public void setPrinterSelectMode (int *PrinterSelectMode*)

解説

- printSpoolReport メソッド実行時に setPrinterSelectMode メソッドを指定する場合，帳票の出力先は次のプロパティの指定値によって決定します。

- setPrinterClassName メソッド
- setServerPrinterName メソッド
- setServerTrayName メソッド
- setGroupName メソッド

どのメソッドが有効になるかは，setPrinterSelectMode メソッドの指定値によって異なります。また，指定を省略した場合は，そのメソッドの情報は未設定として扱われます。

- printSpoolReport メソッド実行時に setPrinterSelectMode メソッドの指定を省略する場合は，次の値が仮定されます。
  - ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
    指定したジョブ ID の蓄積ファイルの属性情報に設定されている値
  - ジョブ ID を複数指定しているとき
    最初に指定したジョブ ID の蓄積ファイルの属性情報に設定されている値
- 蓄積拠点サーバ印刷するときのプリンタ指定方式を次に示します。
  - 0：プリンタクラス名指定
  - 1：OS 上のプリンタ名指定
  - 2：帳票名による自動振り分け

  setSpoolFileAttribute メソッド実行時に，0，1，または 2 以外の値が入力されていたときは，エラーになります。
- setPrinterSelectMode メソッドは，setSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，および printSpoolReport メソッドで蓄積拠点サーバ印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setPrinterSelectMode メソッドを指定しても無視されます。

引数

PrinterSelectMode

蓄積拠点サーバ印刷するときのプリンタ指定方式

戻り値

なし

setPrintMode メソッド

蓄積したデータの印刷方式を指定します。

形式

public void setPrintMode (int *PrintMode*)

解説

- 蓄積したデータの印刷方式を次に示します。setPrintMode メソッドを省略した場合は，0 が仮定されます。
  - 0：蓄積拠点サーバ印刷
  - 1：蓄積クライアント印刷

  printSpoolReport メソッド実行時に，0，または 1 以外の値が入力されていたときは，エラーになります。
- setPrintMode メソッドは，printSpoolReport メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setPrintMode メソッドを指定しても無視されます。

引数

PrintMode

蓄積したデータの印刷方式

戻り値

なし

setPrintStartPage メソッド

蓄積拠点サーバ印刷するときの開始ページを指定します。

形式

public void setPrintStartPage (int *PrintStartPage*)

解説

- setPrintStartPage メソッドは，蓄積印刷方式が蓄積拠点サーバ印刷（setPrintMode=0）のとき，有効になります。蓄積クライアント印刷（setPrintMode=1）のときは，setPrintStartPage メソッドを指定しても無視されます。
- 指定できる値は，1 ～ 999,999 です。setPrintStartPage メソッドを省略した場合は，1 ページから印刷されます。
- setPrintStartPage メソッドに指定した値が蓄積ファイルに格納されている印刷データの最終ページ数より大きい場合は，印刷データの最終ページだけ印刷されます。
- setPrintStartPage メソッドは，printSpoolReport メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setPrintStartPage メソッドを指定しても無視されます。

引数

PrintStartPage

蓄積拠点サーバ印刷するときの開始ページ

戻り値

なし

setSearchCreateTimeEnd メソッド

ファイル作成日時で蓄積ファイルを検索するときの検索終了日時を指定します。

setSearchCreateTimeEnd メソッドを指定すると，メソッド実行速度が速くなることがあります。

形式

public void setSearchCreateTimeEnd (String *SearchCreateTimeEnd*) throws EURPMLSException

解説

- 蓄積フォルダのファイル一覧を取得する場合，検索条件としてファイル作成日時を使用するときに，検索終了日時を「YYYYMMDDhhmmss」形式で入力します。指定できる文字列は，14 バイトまでです。
  「YYYYMMDDhhmmss」形式の内容を次に示します。
  - YYYY：年（西暦）を 4 けたで示します。
  - MM：月（01 ～ 12）を 2 けたで示します。01 ～ 09 は，ゼロ埋めします。
  - DD：日（01 ～ 31）を 2 けたで示します。01 ～ 09 は，ゼロ埋めします。
  - hh：時（00 ～ 23）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めします。
  - mm：分（00 ～ 59）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めします。
  - ss：秒（00 ～ 59）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めします。

  （指定例）
  2006 年 11 月 8 日 15:1:40　→　20061108150140
- setSearchCreateTimeEnd メソッドは，getSpoolFileOutline メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setSearchCreateTimeEnd メソッドを指定しても無視されます。

引数

SearchCreateTimeEnd

ファイル作成日時で蓄積ファイルを検索するときの検索終了日時

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合は，エラー（KEEY702-E）の EURPMLSException 例外がスローされます。

setSearchCreateTimeStart メソッド

ファイル作成日時で蓄積ファイルを検索するときの検索開始日時を入力します。

setSearchCreateTimeStart メソッドを指定すると，メソッド実行速度が速くなることがあります。

形式

public void setSearchCreateTimeStart (String *SearchCreateTimeStart*) throws EURPMLSException

解説

- 蓄積フォルダのファイル一覧を取得する場合，検索条件としてファイル作成日時を使用するときに，検索開始日時を「YYYYMMDDhhmmss」形式で入力します。指定できる文字列は，14 バイトまでです。
  「YYYYMMDDhhmmss」形式の内容を次に示します。
  - YYYY：年（西暦）を 4 けたで示します。
  - MM：月（01 ～ 12）を 2 けたで示します。01 ～ 09 は，ゼロ埋めします。
  - DD：日（01 ～ 31）を 2 けたで示します。01 ～ 09 は，ゼロ埋めします。
  - hh：時（00 ～ 23）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めします。
  - mm：分（00 ～ 59）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めします。
  - ss：秒（00 ～ 59）を 2 けたで示します。00 ～ 09 は，ゼロ埋めします。

  （指定例）
  2006 年 5 月 23 日 9:56:30　→　20060523095630
- setSearchCreateTimeStart メソッドは，getSpoolFileOutline メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setSearchCreateTimeStart メソッドを指定しても無視されます。

引数

SearchCreateTimeStart

ファイル作成日時で蓄積ファイルを検索するときの検索開始日時

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合は，エラー（KEEY702-E）の EURPMLSException 例外がスローされます。

setSearchJobID メソッド

蓄積ファイルを検索するときのジョブ ID を指定します。

形式

public void setSearchJobID (String *SearchJobID*) throws EURPMLSException

解説

- ジョブ ID に指定できる文字列は，36 バイトまでです。
- getSpoolFileAttribute メソッド，および setSpoolFileAttribute メソッドを呼び出す場合に使用するときは，必ず setSearchJobID メソッドを指定してください。
- getSpoolFileOutline メソッドを呼び出す場合に使用するときは，setSearchJobID メソッドの指定は任意です。
- getSpoolFile メソッド，memgetSpoolFile メソッド，および printSpoolReport メソッドを呼び出す場合に使用するときは，setSearchJobID メソッドまたは setSearchJobIDMulti メソッドのどちらかを必ず指定してください。
- deleteSpoolFile メソッドを呼び出す場合に使用するときは，setDeleteKind メソッドの指定によって次のように異なります。
  - 通常削除（setDeleteKind=0）のときは，setSearchJobID メソッドまたは setSearchJobIDMulti メソッドのどちらかを必ず指定してください。
  - 蓄積期限切れファイルの削除（setDeleteKind=1）のときは，指定する必要はありません。
- setSearchJobID メソッドと setSearchJobIDMulti メソッドの両方を指定したときは，setSearchJobIDMulti メソッドの指定が優先されます。
- setSearchJobID メソッドは，getSpoolFileOutline メソッド，getSpoolAttribute メソッド，setSpoolFileAttribute メソッド，printSpoolReport メソッド，getSpoolFile メソッド，memgetSpoolFile メソッド，および deleteSpoolFile メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setSearchJobID メソッドを指定しても無視されます。

引数

SearchJobID

蓄積ファイルを検索するときのジョブ ID

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合は，エラー（KEEY702-E）の EURPMLSException 例外がスローされます。

setSearchJobIDMulti メソッド

蓄積ファイルを検索するときのジョブ ID を配列で指定します。配列の要素順に検索されます。

形式

public void setSearchJobIDMulti(String[] *multiJobID*) throws EURPMLSException

解説

- ジョブ ID に指定できる文字列は，36 バイトまでです。
- getSpoolFileAttribute メソッド，および setSpoolFileAttribute メソッドを呼び出す場合に使用するときは，setSearchJobIDMulti メソッドではなく，setSearchJobID メソッドを指定してください。
- getSpoolFileOutline メソッドを呼び出す場合に使用するときは，setSearchJobIDMulti メソッドの指定は任意です。
- getSpoolFile メソッド，memgetSpoolFile メソッド，および printSpoolReport メソッドを呼び出す場合に使用するときは，setSearchJobID メソッドまたは setSearchJobIDMulti メソッドのどちらかを必ず指定してください。
- deleteSpoolFile メソッドを呼び出す場合に使用するときは，setDeleteKind メソッドの指定によって次のように異なります。
  - 通常削除（setDeleteKind=0）のときは，setSearchJobID メソッドまたは setSearchJobIDMulti メソッドのどちらかを必ず指定してください。
  - 蓄積期限切れファイルの削除（setDeleteKind=1）のときは，指定する必要はありません。
- setSearchJobID メソッドと setSearchJobIDMulti メソッドの両方を指定したときは，setSearchJobIDMulti メソッドの指定が優先されます。
- setSearchJobIDMulti メソッドは，getSpoolFileOutline メソッド，printSpoolReport メソッド，getSpoolFile メソッド，memgetSpoolFile メソッド，お

よび deleteSpoolFile メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setSearchJobIDMulti メソッドを指定しても無視されます。

引数

multiJobID

蓄積ファイルを検索するときのジョブ ID の配列

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合，または引数の String 配列の要素値に null が指定された場合は，エラー（KEEY702-E）の EURPMLSException 例外がスローされます。

setSearchJobKeyCategory メソッド

蓄積ファイルを検索するときのジョブ検索キーの分類を指定します。

形式

public void setSearchJobKeyCategory (String[] *SearchJobKeyCategory*) throws EURPMLSException

解説

- 蓄積フォルダのファイル一覧を取得する場合，検索条件として setSearchJobKeyCategory メソッドで指定したジョブ検索キーの分類と，setSearchJobKeyData メソッドで指定したジョブ検索キーの配列値の順番が一致するものを検索します。
- ジョブ検索キーを指定する場合は，1 ～ 10 個の配列で指定してください。また，setSearchJobKeyCategory メソッドを指定する場合は，ジョブ検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず setSearchJobKeyData メソッドに指定してください。このとき，配列の要素数は同じにしてください。配列の要素数が異なると，エラーになります。
  ジョブ検索キーを指定しない場合，setSearchJobKeyCategory メソッドと setSearchJobKeyData メソッドは，どちらも指定しないでください。どちらかの指定があると対応する情報がないため，エラーになります。
- 分類は，任意文字列を指定できます。指定するときは，次のことに注意してください。
  - 文字列は，80 バイト以内で指定してください。
  - 文字列に「,」を含めないでください。
  - 空文字列「""」は指定しないでください。

- setSearchJobKeyCategory メソッドは，getSpoolFileOutline メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setSearchJobKeyCategory メソッドを指定しても無視されます。

引数

SearchJobKeyCategory

ジョブ検索キーの分類の配列

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合，または引数の String 配列の要素値に null が指定された場合は，エラー（KEEY702-E）の EURPMLSException 例外がスローされます。

setSearchJobKeyData メソッド

蓄積ファイルを検索するときのジョブ検索キーの値を指定します。

形式

public void setSearchJobKeyData (String[] *SearchJobKeyData*) throws EURPMLSException

解説

- 蓄積フォルダのファイル一覧を取得する場合，検索条件として setSearchJobKeyCategory メソッドで指定したジョブ検索キーの分類と，setSearchJobKeyData メソッドで指定したジョブ検索キーの配列値の順番が一致するものを検索します。
- ジョブ検索キーを指定する場合は，1 ～ 10 個の配列で指定してください。また，setSearchJobKeyCategory メソッドを指定する場合は，ジョブ検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず setSearchJobKeyData メソッドに指定してください。このとき，配列の要素数は同じにしてください。配列の要素数が異なると，エラーになります。
  ジョブ検索キーを指定しない場合，setSearchJobKeyCategory メソッドと setSearchJobKeyData メソッドは，どちらも指定しないでください。どちらかの指定があると対応する情報がないため，エラーになります。
- ジョブ検索キーの値は，任意文字列を指定できます。指定するときは，次のことに注意してください。
  - 文字列は，80 バイト以内で指定してください。
  - 文字列に「,」を含めないでください。

- setSearchJobKeyData メソッドは，getSpoolFileOutline メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setSearchJobKeyData メソッドを指定しても無視されます。

引数

SearchJobKeyData

ジョブ検索キーの値の配列

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合，または引数の String 配列の要素値に null が指定された場合は，エラー（KEEY702-E）の EURPMLSException 例外がスローされます。

setSearchPrinterClassName メソッド

プリンタクラス名で蓄積フォルダのファイル一覧を検索するときのプリンタクラス名を指定します。

形式

public void setSearchPrinterClassName (String *SearchPrinterClassName*) throws EURPMLSException

解説

- プリンタクラス名は，任意の文字列を指定できます。指定するときは，次のことに注意してください。
  - プリンタクラス名は，80 バイト以内で指定してください。
  - プリンタクラス名に「"」および「,」を含めないでください。
- setSearchPrinterClassName メソッドは，getSpoolFileOutline メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setSearchPrinterClassName メソッドを指定しても無視されます。

引数

SearchPrinterClassName

プリンタクラス名で蓄積フォルダのファイル一覧を検索するときのプリンタクラス名

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合は，エラー（KEEY702-E）の EURPMLSException 例外がスローされます。

setSearchSpoolFileName メソッド

格納ファイル名で蓄積フォルダのファイル一覧を検索するときの格納ファイル名を指定します。

形式

public void setSearchSpoolFileName (String *SearchSpoolFileName*) throws EURPMLSException

解説

- 格納ファイル名は，255 バイト以内になるように指定してください。
- setSearchSpoolFileName メソッドは，getSpoolFileOutline メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setSearchSpoolFileName メソッドを指定しても無視されます。

引数

SearchSpoolFileName

格納ファイル名で蓄積フォルダのファイル一覧を検索するときの格納ファイル名

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合は，エラー（KEEY702-E）の EURPMLSException 例外がスローされます。

setServerAddress メソッド

拠点サーバの IP アドレスを指定します。

形式

public void setServerAddress(String *ServerAddress*) throws EURPMLSException

解説

- 拠点サーバの IP アドレスを「255.255.255.255」形式で指定します。指定できる文字列は，15 バイトまでです。

- setServerAddress メソッドの指定がない場合は，EUR Print Manager - Report Server Adapter の環境設定ファイル（EURPMLSADP.ini）の IPADDRESS セクションの EURPMLS キーに設定されている EUR Print Manager - Report Server が稼働するサーバの IP アドレスが仮定されます。
- setServerAddress メソッドは，次に示すメソッドで操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setServerAddress メソッドを指定しても無視されます。
  - getSpoolFileOutline メソッド，getSpoolAttribute メソッド，setSpoolFileAttribute メソッド，printSpoolReport メソッド，getSpoolFile メソッド，deleteSpoolFile メソッドで蓄積ファイルを操作するとき
  - getPrinterClassList メソッドでプリンタクラス一覧を取得するとき
  - getPrinterList メソッドでプリンタ一覧を取得するとき
  - getTrayList メソッドでトレイ一覧を取得するとき

引数

ServerAddress

拠点サーバの IP アドレス

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合は，エラー（KEEY702-E）の EURPMLSException 例外がスローされます。

setServerPrinterName メソッド

拠点サーバでの OS 上のプリンタ名を指定します。

形式

public void setServerPrinterName (String *ServerPrinterName*) throws EURPMLSException

解説

- getTrayList メソッドを呼び出す場合に使用するときは，必ず setServerPrinterName メソッドを指定してください。
- setSpoolFileAttribute メソッド，および printSpoolReport メソッドを呼び出す場合に使用するときは，setServerPrinterName メソッドの指定は任意です。
- プリンタ名を指定するときは，次のことに注意してください。
  - プリンタ名は，80 バイト以内で指定してください。

- プリンタ名に「"」および「,」を含めないでください。

- setServerPrinterName メソッドは，setSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，printSpoolReport メソッドで蓄積拠点サーバ印刷する場合でプリンタ指定方式に OS 上のプリンタ名指定（setPrinterSelectMode=1）を指定したとき，および getTrayList メソッドでトレイ一覧を取得する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setServerPrinterName メソッドを指定しても無視されます。
- 蓄積拠点サーバ印刷で setServerPrinterName メソッドの指定が有効な場合に，setServerPrinterName メソッドの指定を省略したときや 0 バイトの値を指定したときは，デフォルトのプリンタで印刷します。

引数

ServerPrinterName

拠点サーバでの OS 上のプリンタ名

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合は，エラー（KEEY702-E）の EURPMLSException 例外がスローされます。

setServerTrayName メソッド

拠点サーバでの OS 上のプリンタのトレイ名を指定します。

形式

public void setServerTrayName (String *ServerTrayName*) throws EURPMLSException

解説

- トレイ名を入力するときは，次のことに注意してください。
  - トレイ名は，80 バイト以内で指定してください。
  - トレイ名には「"」および「,」を含めないでください。

- setServerTrayName メソッドは，setSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，および printSpoolReport メソッドで蓄積拠点サーバ印刷する場合でプリンタ指定方式に OS 上のプリンタ名指定（setPrinterSelectMode=1）を指定したときに指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setServerTrayName メソッドを指定しても無視されます。

- 蓄積拠点サーバ印刷で setServerTrayName メソッドの指定が有効な場合に，setServerTrayName メソッドの指定を省略したときや 0 バイトの値を指定したときは，デフォルトのトレイから給紙されます。

引数

ServerTrayName

拠点サーバでの OS 上のプリンタのトレイ名

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合は，エラー（KEEY702-E）の EURPMLSException 例外がスローされます。

setSortPrint メソッド

印刷部数の単位を指定します。

形式

public void setSortPrint(int *SortPrint*)

解説

指定できる値を次に示します。

- 0：部単位で出力します。
- 1：ページ単位で出力します。

setSortPrint メソッドを省略した場合，次の値が仮定されます。

- ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
  指定したジョブ ID の蓄積ファイルに格納されている印刷データの属性情報に設定されている値
- ジョブ ID を複数指定しているとき
  0

setSortPrint メソッドは，getSpoolFile メソッド，および memgetSpoolFile メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，ならびに printSpoolReport メソッドで蓄積拠点サーバ印刷する場合に指定が有効になります。それ以外の場合は，setSortPrint メソッドを指定しても無視されます。

引数

SortPrint

印刷部数の単位

戻り値

なし

setSpoolFileAttribute メソッド

指定したジョブ ID の蓄積ファイルの属性情報を変更します。変更できる蓄積ファイルの属性情報については，「15.5　蓄積ファイル」を参照してください。

形式

public void setSpoolFileAttribute() throws EURPMLSException

解説

- setSpoolFileAttribute メソッドは，拠点サーバにある蓄積ファイルの属性情報の変更が終了した時点で呼び出し元に制御が戻ります。
- setSpoolFileAttribute メソッドは，指定できるプロパティメソッドのうち，指定のあったプロパティメソッドだけを変更します。setSpoolFileAttribute メソッドで指定できるプロパティメソッドについては，「10.7.2　EURPMLSAdapterForJava クラスのメソッド一覧」を参照してください。また，指定できるプロパティメソッドは，一つ以上指定してください。指定されていない場合は，エラー（KEEY528-E）になります。
- 実行時にエラーが発生した場合，getErrorCode メソッドに終了コード，getMessage メソッドにメッセージが設定されます。

引数

なし

戻り値

なし

例外処理

EURPMLSException

エラー発生時は，EURPMLSException 例外がスローされます。

setSpoolLimit メソッド

蓄積ファイルの蓄積期限日を指定します。

形式

public void setSpoolLimit (String *SpoolLimit*) throws EURPMLSException

解説

- 蓄積ファイルの蓄積期限日は「YYYYMMDD」形式で入力します。指定できる文字列は，8 バイトまでです。
  「YYYYMMDD」形式の内容を次に示します。
  - YYYY：年（西暦）を 4 けたで示します。
  - MM：月（01 ～ 12）を 2 けたで示します。01 ～ 09 は，ゼロ埋めします。
  - DD：日（01 ～ 31）を 2 けたで示します。01 ～ 09 は，ゼロ埋めします。

  （指定例）
  2006 年 5 月 23 日　→　20060523
- setSpoolLimit メソッドは，setSpoolFileAttribute メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setSpoolLimit メソッドを指定しても無視されます。

引数

SpoolLimit

蓄積ファイルの蓄積期限日

戻り値

なし

例外処理

引数に null が指定された場合は，エラー（KEEY702-E）の EURPMLSException 例外がスローされます。

setSpoolTitle メソッド

スプールタイトルを指定します。

形式

public void setSpoolTitle (String *SpoolTitle*) throws EURPMLSException

解説

- スプールタイトルには，任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してく

ださい。
- スプールタイトルは，255 バイト以内で指定してください。
- スプールタイトルには「"」および「,」を含めないでください。
- 0 バイトの値を指定したときは，スプールタイトル情報は未設定となります。

- setSpoolTitle メソッドは，getSpoolFile メソッド，および memgetSpoolFile メソッドで蓄積ファイルを操作する場合，ならびに printSpoolReport メソッドで印刷する場合に指定が有効になります。それ以外のメソッドでは，setSpoolTitle メソッドを指定しても無視されます。
- setSpoolTitle メソッドの指定を省略した場合は，次のようになります。
  - ジョブ ID を一つだけ指定しているとき
    指定したジョブ ID の蓄積ファイルに格納されている印刷データの属性情報が設定されます。
  - ジョブ ID を複数指定しているとき
    スプールタイトル情報は未設定となります。

引数

SpoolTitle

スプールタイトル

戻り値

なし

10.10　EURPMLSException クラスのメソッド仕様

EURPMLSException クラスで使用できるメソッドの詳細を説明します。

getErrorCode メソッド

エラーコードを取得します。

形式

public int getErrorCode()

引数

なし

戻り値

エラーコードを返します。

getErrorLevel メソッド

エラーレベルを取得します。

形式

public char getErrorLevel()

引数

なし

戻り値

エラーレベルを示す文字を返します。

- W：警告
- E：エラー
- S：システムエラー

getKey メソッド

エラーメッセージのキー文字列を取得します。

形式

public String getKey()

引数

なし

戻り値

エラーメッセージのキー文字列を返します。

getMessage メソッド

エラーメッセージの文字列を取得します。

形式

public String getMessage()

引数

なし

戻り値

エラーメッセージの文字列を返します。

getOutputData メソッド

例外発生時にエラー種別が警告の場合，次の印刷データを取得します。

- memgetSpoolFile メソッド呼び出し時：蓄積ファイルの印刷データ

形式

public ByteBuffer getOutputData ()

引数

なし

戻り値

エラー種別が警告の場合だけ，印刷データをバイナリデータで返します。

エラー種別がエラーまたはシステムエラーの場合は，空データを返します。

10.11　環境設定ファイル

Java 起動部品の場合は，Java 起動部品で指定するファイルのデフォルトの読み込みフォルダなどを，環境設定ファイル（EURPMADP.ini）に指定できます。

RS-Java 起動部品の場合は，RS-Java 起動部品で指定するポート番号，クライアントマシンの IP アドレスなどを，環境設定ファイル（EURPMLSADP.ini）に指定できます。

各環境設定ファイルについては，「16.　実行環境の設定」を参照してください。

10.12　例外情報

Java 起動部品，または RS-Java 起動部品を使用して実行している場合にエラーが発生したときは，例外を発生させます。ユーザープログラムは，EURPMException オブジェクト，または EURPMLSException オブジェクトによって例外情報を取得します。例外情報には，エラーコード（終了コード），エラーレベル，メッセージ ID，メッセージが含まれます。

10.12.1　Java 起動部品実行時の例外情報一覧

Java 起動部品実行時の例外情報の一覧を次に示します。

表 10-12　Java 起動部品実行時の例外情報の一覧

終了コード	エラーレベル	メッセージ文	メッセージ ID
201	E	プロパティ (プロパティ名) の指定値に誤りがあります。	KEEY201-E
202	E	プロパティ (プロパティ名) が指定されていません。	KEEY202-E
203	E	マッピングデータファイルの読み込みに失敗しました。	KEEY203-E
204	E	ユーザ定義データファイルの読み込みに失敗しました。	KEEY204-E
205	E	パラメタに誤りがあります。	KEEY205-E
206	E	必須パラメタの指定がありません。	KEEY206-E
207	E	サーバプリンタ名の指定がありません。	KEEY207-E
208	E	アダプタと印刷管理サーバとの間で通信エラーが発生しました。	KEEY208-E
209	W	印刷処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY209-W
210	S	環境設定ファイルに不正があります。詳細コード = [nnnnnn]	KEEY210-S
211	S	ログファイルの書き込みに失敗しました。	KEEY211-S
212	E	印刷管理サーバへの接続に失敗しました。	KEEY212-E
213	I	ジョブを起動しました。	KEEY213-I
214	I	ジョブを終了しました。	KEEY214-I
215	S	メモリ不足が発生しました。	KEEY215-S
216	E	通信タイムアウトが発生しました。	KEEY216-E
217	S	システムエラーが発生しました。	KEEY217-S
218	E	出力先一覧取得処理でエラーが発生しました。（nnn）	KEEY218-E
219	E	プリンタクラス一覧取得処理でエラーが発生しました。（nnn）	KEEY219-E
221	E	印刷処理でエラーが発生しました。（nnn）	KEEY221-E
222	E	クライアントプリンタ名の指定がありません。	KEEY222-E

終了コード	エラーレベル	メッセージ文	メッセージ ID
223	E	PDF 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY223-E
224	W	PDF 形式ファイル出力処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY224-W
225	E	EPF 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY225-E
226	W	EPF 形式ファイル出力処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY226-W
227	E	PDF 形式ファイルの初期化に失敗しました。	KEEY227-E
228	E	EPF 形式ファイルの初期化に失敗しました。	KEEY228-E
229	E	PDF 形式ファイルの作成に失敗しました。	KEEY229-E
230	E	EPF 形式ファイルの作成に失敗しました。	KEEY230-E
231	E	指定された PDF 形式ファイルはほかの人が使用中です。	KEEY231-E
232	E	指定された EPF 形式ファイルはほかの人が使用中です。	KEEY232-E
233	E	帳票セット指定ファイルのフォーマットが不正です。	KEEY233-E
234	E	帳票セット指定ファイルの読み込みに失敗しました。	KEEY234-E
235	E	しおり定義ファイルの読み込みに失敗しました。	KEEY235-E
236	E	文書しおり定義ファイルの読み込みに失敗しました。	KEEY236-E
237	E	印刷管理サーバでコネクション数が限界値をオーバーしました。	KEEY237-E
238	E	拠点サーバでコネクション数が限界値をオーバーしました。	KEEY238-E
239	E	クライアントでコネクション数が限界値をオーバーしました。	KEEY239-E
240	E	仕分け定義情報ファイルの読み込みに失敗しました。	KEEY240-E
241	E	指定された EUR 形式ファイルはほかの人が使用中です。	KEEY241-E
242	E	EUR 形式ファイルの初期化に失敗しました。	KEEY242-E
243	E	EUR 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY243-E
244	W	EUR 形式ファイル出力処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY244-W
245	E	EUR 形式ファイルの作成に失敗しました。	KEEY245-E
246	E	印刷管理サーバの EUR Print Manager のバージョンが不正です。	KEEY246-E
247	S	レジストリに不正があります。詳細コード = [nnnnnn]	KEEY247-S
248	E	暗号化設定ファイルの読み込みに失敗しました。	KEEY248-E
249	E	指定されたマッピングデータファイルが存在しません。	KEEY249-E
250	E	指定されたユーザ定義データファイルが存在しません。	KEEY250-E
251	E	指定されたしおり定義ファイルが存在しません。	KEEY251-E
252	E	指定された文書しおり定義ファイルが存在しません。	KEEY252-E
253	E	指定された暗号化設定ファイルが存在しません。	KEEY253-E
254	E	指定された仕分け定義情報ファイルが存在しません。	KEEY254-E

終了コード	エラーレベル	メッセージ文	メッセージ ID
255	E	プリンタ一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY255-E
256	E	トレイ一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY256-E
257	E	蓄積処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY257-E
258	W	蓄積処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY258-W
259	E	PDF 仕分け定義ファイルの読み込みに失敗しました。	KEEY259-E
260	E	指定された PDF 仕分け定義ファイルが存在しません。	KEEY260-E
261	E	EPF 形式ファイルの読み込みに失敗しました。	KEEY261-E
262	E	指定された EPF 形式ファイルが存在しません。	KEEY262-E
263	E	XLSX 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY263-E
264	W	XLSX 形式ファイル出力処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY264-W
265	E	指定された XLSX 形式ファイルはほかの人が使用中です。	KEEY265-E
266	E	XLSX 形式ファイルの初期化に失敗しました。	KEEY266-E
267	E	XLSX 形式ファイルの作成に失敗しました。	KEEY267-E
269	E	統合対象 EPF 形式ファイルの指定数が有効範囲外です。	KEEY269-E
270	E	複数 EPF 形式ファイルの統合処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY270-E
271	E	統合対象 EPF 形式ファイルの読み込みに失敗しました。	KEEY271-E
272	E	指定された統合対象 EPF 形式ファイルが存在しません。	KEEY272-E
273	S	An attempt to load string resource DLL has failed. Error:[nnn]	KEEY273-S
274	E	EURPM 仕分け / 分割定義ファイルの読み込みに失敗しました。	KEEY274-E

10.12.2　RS-Java 起動部品実行時の例外情報一覧

RS-Java 起動部品実行時の例外情報の一覧を次に示します。

表 10-13　RS-Java 起動部品実行時の例外情報の一覧

終了コード	エラーレベル	メッセージ文	メッセージ ID
501	E	プロパティ (プロパティ名) の指定値に誤りがあります。	KEEY501-E
502	E	プロパティ (プロパティ名) が指定されていません。	KEEY502-E
503	E	原因不明のエラーで処理が中断されました。拠点サーバの状態を確認してください。	KEEY503-E
504	E	印刷開始ページの入力値が印刷終了ページの入力値より大きいです。	KEEY504-E
505	S	環境設定ファイルに不正があります。詳細コード = [nnnnnn]	KEEY505-S

終了コード	エラーレベル	メッセージ文	メッセージ ID
506	S	ログファイルの書き込みに失敗しました。	KEEY506-S
507	E	拠点サーバへの接続に失敗しました。	KEEY507-E
508	I	ジョブを起動しました。	KEEY508-I
509	I	ジョブを終了しました。	KEEY509-I
510	S	メモリ不足が発生しました。	KEEY510-S
511	E	通信タイムアウトが発生しました。	KEEY511-E
512	S	システムエラーが発生しました。	KEEY512-S
513	E	蓄積ファイル一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY513-E
515	E	プリンタクラス一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY515-E
516	E	プリンタ一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY516-E
517	E	トレイ一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY517-E
518	E	蓄積ファイルの取得処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY518-E
519	E	蓄積ファイルの印刷処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY519-E
520	E	蓄積ファイルの属性取得処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY520-E
521	E	蓄積ファイルの属性設定処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY521-E
522	E	蓄積ファイルの削除処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY522-E
523	E	蓄積ファイルの初期化に失敗しました。	KEEY523-E
524	E	蓄積ファイルの作成に失敗しました。	KEEY524-E
525	E	拠点サーバでコネクション数が限界値をオーバーしました。	KEEY525-E
526	S	レジストリに不正があります。詳細コード = [nnnnnn]	KEEY526-S
527	E	指定された蓄積ファイルはほかの人が使用中です。	KEEY527-E
528	E	属性値設定プロパティが一つも指定されていません。	KEEY528-E
529	E	クライアントでコネクション数が限界値をオーバーしました。	KEEY529-E
531	E	蓄積ファイルのデータ取得処理でエラーが発生しました。(nnn)	KEEY531-E
532	W	蓄積ファイル一覧取得処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY532-W
533	W	蓄積ファイルの取得処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY533-W
534	W	蓄積ファイルの印刷処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY534-W
535	W	蓄積ファイルの属性取得処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY535-W
536	W	蓄積ファイルの属性設定処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY536-W
537	W	蓄積ファイルの削除処理で警告が発生しました。(nnn)	KEEY537-W
538	E	指定されたジョブ ID 検索値の数が上限値を超えています。	KEEY538-E
540	S	An attempt to load string resource DLL has failed. Error:[nnn]	KEEY540-S

終了コード	エラーレベル	メッセージ文	メッセージ ID
541	E	拠点サーバの EUR Print Manager - Report Server のバージョンが不正です。	KEEY541-E

10.12.3　getErrorCode メソッド（終了コード）

EURPMException オブジェクト，または EURPMLSException オブジェクトの getErrorCode メソッドは，終了コードを返します。終了コードとメッセージの一覧については，「10.12.1　Java 起動部品実行時の例外情報一覧」，または「10.12.2　RS-Java 起動部品実行時の例外情報一覧」を参照してください。エラーの対処については，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

10.12.4　getErrorLevel メソッド（エラーレベル）

EURPMException オブジェクト，または EURPMLSException オブジェクトの getErrorLevel メソッドは，メッセージのエラーレベルを返します。エラーレベルを次に示します。

- I：Information（通知）
- W：Warning（軽いエラーに対する警告）
- E：Error（エラー）
- S：Error（システムエラー）

10.12.5　getKey メソッド（メッセージ ID）

EURPMException オブジェクト，または EURPMLSException オブジェクトの getKey メソッドは，メッセージのメッセージ ID を返します。終了コードとメッセージの一覧については，「10.12.1　Java 起動部品実行時の例外情報一覧」，または「10.12.2　RS-Java 起動部品実行時の例外情報一覧」を参照してください。エラーの対処については，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

10.12.6　getMessage メソッド（メッセージ文）

EURPMException オブジェクト，または EURPMLSException オブジェクトの getMessage メソッドは，メッセージ文を返します。終了コードとメッセージの一覧については，「10.12.1　Java 起動部品実行時の例外情報一覧」，または「10.12.2　RS-Java 起動部品実行時の例外情報一覧」を参照してください。エラーの対処については，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

10.12.7 getOutputData メソッド

EURPMException オブジェクト，または EURPMLSException オブジェクトの getOutputData メソッドは，例外発生時にエラー種別が警告の場合，次の印刷データを取得します。

EURPMException オブジェクト

- getPDFReport メソッド呼び出し時：PDF 形式データ
- getEURReport メソッド呼び出し時：EUR 形式データ
- getEPFReport メソッド呼び出し時：EPF 形式データ
- getXLSXReport メソッド呼び出し時：Excel 形式データ

EURPMLSException オブジェクト

- memgetSpoolFile メソッド呼び出し時：蓄積ファイルの印刷データ

10.13　コーディング例

Java 起動部品のコーディング例を次に示します。

10.13.1　プリンタ出力のコーディング例

次に示すパラメタを指定して，拠点サーバで印刷するときのコーディング例です。

入力ファイル（印刷定義ファイル）：EUR Print Manager のあるマシンに配置
　帳票ファイル名：sample1.fms
入力ファイル（ユーザ定義ファイル）：EUR Print Manager - Adapter のあるマシンに配置
　マッピングデータファイルのパス：c:¥Temp
　マッピングデータファイル名：data1.csv

```
import JP.co.Hitachi.soft.EURPM.*;

  :
    try {
      EURPMAdapterForJava obj=new EURPMAdapterForJava();
      String target = request.getRemoteAddr();
      obj.setReportFileName("sample1.fms");
                          //帳票ファイル名の指定
      obj.setDataFilePath("c:¥¥Temp");
                          //マッピングデータファイルのパスの指定
      obj.setDataFileName("data1.csv");
                          //マッピングデータファイル名の指定
      obj.printReport();     //帳票の出力指示
    }
    catch (JP.co.Hitachi.soft.EURPM.EURPMException ce) {
                                        //エラー処理
      int errid;
      errid=ce.getErrorCode();
                    //エラーコードをerridに取り出す
      if (errid==441) {
                    //KEEY441-Wの場合のエラー処理
      } else if (errid==301) {
                    //KEEY301-Eの場合のエラー処理
      } else if (errid==302) {
                    //KEEY302-Eの場合のエラー処理
      } else if (errid==xxx) {
                    //以下，そのほかのエラー処理を繰り返す
            :
      }
    }
```

10.13.2　EPF 形式ファイル出力のコーディング例

次に示すパラメタを指定して，EPF 形式ファイル生成を実行するときのコーディング例です。出力ファイルは，EUR Print Manager - Adapter のあるマシンに出力されます。

入力ファイル（印刷定義ファイル）：EUR Print Manager のあるマシンに配置
　帳票ファイル名：sample1.fms
入力ファイル（ユーザ定義ファイル）：EUR Print Manager - Adapter のあるマシンに配置
　マッピングデータファイルのパス：c:¥Temp
　マッピングデータファイル名：data1.csv
出力ファイル
　出力 EPF 形式ファイルのパス：c:¥Inetpub¥wwwroot¥EPF
　出力 EPF 形式ファイル名：sample1_EPF.epf
そのほか
　印刷範囲：1 ～ 10 ページ

```
<%@ page import="java.io.*" %>
<%@ page import="java.util.*" %>
<%@ page import="JP.co.Hitachi.soft.EURPM.*" %>
<%@ page contentType="text/html; charset=Shift_JIS" %>
<jsp:useBean id="adapter"
class="JP.co.Hitachi.soft.EURPM.EURPMAdapterForJava"
scope="session" />

                .
                .
                .
<%
  try {
      String hostName = request.getServerName();

      adapter.setReportFileName("sample1.fms");       // 帳票名設定
      adapter.setDataFilePath("c:¥¥Temp");
                                // マッピングデータファイルのパス設定
      adapter.setDataFileName("data1.csv");
                                // マッピングデータファイル名設定
      adapter.setPrintStartPage(1);               // 印刷開始ページ設定
      adapter.setPrintEndPage(10);                // 印刷終了ページ設定
      adapter.setEPFFilePath("c:¥¥Inetpub¥¥wwwroot¥¥EPF");
                                          // EPF形式ファイル出力パス設定
      adapter.setEPFFileName("sample1_EPF.epf");
                                          // EPF形式ファイル名設定
      adapter.outputEPFReport();          // EPF形式ファイル出力要求

  }
// エラー処理
  catch (JP.co.Hitachi.soft.EURPM.EURPMException e) {
      out.println("<P>エラー発生<br>");
      out.println("<table BORDER CELLSPACING=2 CELLPADDING=4 >");
      out.println("<tr><th>メソッド</th><th>取得結果</th></tr>");
      out.println("<tr><td>エラーコード</td>");
      out.println("<td>" + e.getErrorCode() + "</td></tr>");
      out.println("<tr><td>メッセージ</td>");
      out.println("<td>" + e.getMessage() + "</td></tr>");
      out.println("<tr><td>エラーレベル</td>");
      out.println("<td>" + e.getErrorLevel() + "</td></tr>");
      out.println("<tr><td>メッセージID</td>");
      out.println("<td>" + e.getKey() + "</td></tr>");
      out.println("</table>");
  }
%>
```

10.13.3　Excel 形式ファイル出力のコーディング例

次に示すパラメタを指定して，Excel 形式ファイル生成を実行するときのコーディング例です。出力ファイルは，EUR Print Manager - Adapter のあるマシンに出力されます。

入力ファイル（印刷定義ファイル）：EUR Print Manager のあるマシンに配置
　帳票ファイル名：sample1.fms
入力ファイル（ユーザ定義ファイル）：EUR Print Manager - Adapter のあるマシンに配置
　マッピングデータファイルのパス：c:¥Temp
　マッピングデータファイル名：data1.csv
出力ファイル
　出力 Excel 形式ファイルのパス：c:¥Inetpub¥wwwroot¥XLSX
　出力 Excel 形式ファイル名：sample1_EPF.xlsx
そのほか
　印刷範囲：1 ～ 10 ページ

```
<%@ page import="java.io.*" %>
<%@ page import="java.util.*" %>
<%@ page import="JP.co.Hitachi.soft.EURPM.*" %>
<%@ page contentType="text/html; charset=Shift_JIS" %>
<jsp:useBean id="adapter"
class="JP.co.Hitachi.soft.EURPM.EURPMAdapterForJava"
scope="session" />

                .
                .
                .
<%
  try {
      String hostName = request.getServerName();

      adapter.setReportFileName("sample1.fms");      // 帳票名設定
      adapter.setDataFilePath("c:¥¥Temp");
                                  // マッピングデータファイルのパス設定
      adapter.setDataFileName("data1.csv");
                                  // マッピングデータファイル名設定
     adapter.setPrintStartPage(1);                // 印刷開始ページ設定
     adapter.setPrintEndPage(10);                 // 印刷終了ページ設定
      adapter.setXLSXFilePath("c:¥¥Inetpub¥¥wwwroot¥¥XLSX");
                                  //Excel形式ファイル出力パス設定
      adapter.setXLSXFileName("sample1_EPF.xlsx");
                                  //Excel形式ファイル名設定
      adapter.outputXLSXReport();
                                  //Excel形式ファイル出力要求

  }
// エラー処理
  catch (JP.co.Hitachi.soft.EURPM.EURPMException e) {
      out.println("<P>エラー発生<br>");
      out.println("<table BORDER CELLSPACING=2 CELLPADDING=4 >");
      out.println("<tr><th>メソッド</th><th>取得結果</th></tr>");
      out.println("<tr><td>エラーコード</td>");
      out.println("<td>" + e.getErrorCode() + "</td></tr>");
      out.println("<tr><td>メッセージ</td>");
      out.println("<td>" + e.getMessage() + "</td></tr>");
```

```
        out.println("<tr><td>エラーレベル</td>");
        out.println("<td>" + e.getErrorLevel() + "</td></tr>");
        out.println("<tr><td>メッセージID</td>");
        out.println("<td>" + e.getKey() + "</td></tr>");
        out.println("</table>");
    }
%>
```

10.13.4 メモリ入出力のコーディング例

次に示すパラメタを指定して，EPF 形式ファイル生成を実行するときのコーディング例です。

入力ファイル（印刷定義ファイル）：EUR Print Manager のあるマシンに配置
　帳票ファイル名 1：都道府県 .fms
　帳票ファイル名 2：名簿（ローマ字）.fms
　帳票ファイル名 3：アルファベット一覧 .fms
入力ファイル（ユーザ定義ファイル）
　帳票ファイル名 1 のマッピングデータ：" 東京 , 神奈川 , 千葉 , 埼玉 "
　帳票ファイル名 2 のマッピングデータ："TARO,NAHAKO,JIRO,YOKO,SABURO,NAOMI"
　帳票ファイル名 3 のマッピングデータ："A,B,C,D,E,F,G,H"

```
import JP.co.Hitachi.soft.EURPM.*;

    try {
      EURPMAdapterForJava obj=new EURPMAdapterForJava();
      String target = request.getRemoteAddr();
      frmFileNames = (String[])(3);
      Array.set(frmFileNames, 0, “都道府県.fms”);
      Array.set(frmFileNames, 1, “名簿（ローマ字）.fms”);
      Array.set(frmFileNames, 2, “アルファベット一覧.fms”);
      obj.setMultiReportFileName(frmFileNames);
                          //帳票ファイル名の指定

      StringBuffer[] mapFileDatas = new StringBuffer[3];
      StringBuffer mapFileData;
      mapFileData = new StringBuffer();
      mapFileData.insert(0, "東京,神奈川,千葉,埼玉");
      Array.set(mapFileDatas, 0, mapFileData);
      mapFileData = new StringBuffer();
      mapFileData.insert(1, "TARO,NAHAKO,JIRO,YOKO,SABURO,NAOMI ");
      Array.set(mapFileDatas, 1, mapFileData);
      mapFileData = new StringBuffer();
      mapFileData.insert(2, "A,B,C,D,E,F,G,H");
      Array.set(mapFileDatas, 2, mapFileData);
      obj.setDataFileData(mapFileDatas);
                          //マッピングデータの指定

      ByteBuffer outputFileData = adp.getEPFReport();
                          //EPF形式データの取得
    }
    catch (JP.co.Hitachi.soft.EURPM.EURPMException ce) {
                                    //エラー処理
      int errid;
```

```
  errid=ce.getErrorCode();
                    //エラーコードをerridに取り出す
  if (errid==441) {
                    //KEEY441-Wの場合のエラー処理
  } else if (errid==301) {
                    //KEEY301-Eの場合のエラー処理
  } else if (errid==302) {
                    //KEEY302-Eの場合のエラー処理
  } else if (errid==   {
                    //以下，そのほかのエラー処理を繰り返す
          :
  }
}
```

10.13.5　クライアント PC への配布印刷のコーディング例

次に示すパラメタを指定して，クライアント PC への配布印刷をするときのコーディング例です。

入力ファイル（EPF 形式データ）：EUR Print Manager のあるマシンに配置
　EPF 形式ファイル名：sample1_EPF.epf
　EPF 形式ファイルパス：c:¥Temp
プロパティ：EUR Print Manager のあるマシンで設定
　印刷方式：5
　クライアント PC の IP アドレス：127.0.0.1

```
import JP.co.Hitachi.soft.EURPM.*;

    try {
      EURPMAdapterForJava obj=new EURPMAdapterForJava();

      String target = request.getRemoteAddr();

      obj.setEPFFileName("sample1_EPF.epf");
                        //EPF形式ファイル名の指定
      obj.setEPFFilePath("c:¥¥Temp");
                        //EPF形式ファイルパスの指定
      obj.setPrintMode(5);
                        //印刷方式の指定
      obj.setClientAddress("127.0.0.1");
                        //クライアントPCのIPアドレスの指定
      obj.printReport();
                        //帳票の出力指示
    }
    catch (JP.co.Hitachi.soft.EURPM.EURPMException ce) {
                                    //エラー処理
      int errid;
      errid=ce.getErrorCode();
                    //エラーコードをerridに取り出す
      if (errid==301) {
                    //KEEY301-Eの場合のエラー処理
      } else if (errid==   {
                    //以下，そのほかのエラー処理を繰り返す
              :
```

```
    }
  }
```

10.13.6 クライアント PC への蓄積データの配布印刷のコーディング例

次に示すパラメタを指定して，クライアント PC への蓄積データの配布印刷をするときのコーディング例です。

入力ファイル（EPF 形式データ）：蓄積データ
　EPF 形式ファイルデータ：bbEPFdata
プロパティ（印刷管理サーバ）：EUR Print Manager - Adapter のあるマシンで設定
　印刷方式：5
　クライアント PC の IP アドレス：127.0.0.1
プロパティ（アプリケーションサーバ）：EUR Print Manager - Report Server Adapter のあるマシンに配置
　ジョブ ID 検索値：EUR2008052200562597800000001000000016

```
import JP.co.Hitachi.soft.EURPM.*;
import JP.co.Hitachi.soft.EURPMLS.*;

    try {
      EURPMAdapterForJava   pmadp   = new EURPMAdapterForJava();
      EURPMLSAdapterForJava rsadp   = new EURPMLSAdapterForJava();

      String target = request.getRemoteAddr();

     rsadp.setSearchJobID("EUR2008052200562597800000001000000016");
                              //ジョブID検索値の指定
      ByteBuffer bbEPFdata = rsadp.memgetSpoolFile();
                              //EPF形式ファイルデータの取得

    pmadp.setEPFFileData(bbEPFdata);
                              //EPF形式ファイルのメモリ入力の指定
      pmadp.setPrintMode(5);
                              //印刷方式の指定
      pmadp.setClientAddress("127.0.0.1");
                              //クライアントIPアドレスの指定
      pmadp.printReport();
                              //帳票の出力指示
    }
    catch (JP.co.Hitachi.soft.EURPM.EURPMException ce) {
                                   //エラー処理
      int errid;
      errid=ce.getErrorCode();
                    //エラーコードをerridに取り出す
      if (errid==301) {
                    //KEEY301-Eの場合のエラー処理
      } else if (errid==   {
                    //以下，そのほかのエラー処理を繰り返す
              :
      }
    catch (JP.co.Hitachi.soft.EURPMLS.EURPMLSException ce) {
```

```
                                        //エラー処理
        int errid;
        errid=ce.getErrorCode();
                        //エラーコードをeridに取り出す
        if (errid==531) {
                        //KEEY531-Eの場合のエラー処理
        } else if (errid==    {
                        //以下，そのほかのエラー処理を繰り返す
                :
        }
      }
```

10.13.7　複数の EPF 形式ファイルを統合して出力するときのコーディング例

次に示すパラメタを指定して，複数の EPF 形式ファイルを統合して出力するときのコーディング例です。出力ファイルは，EUR Print Manager - Adapter のあるマシンに出力されます。

入力ファイル：EUR Print Manager - Adapter のあるマシンに配置
　統合対象の EPF 形式ファイル名：Add_1.epf，Add_2.epf
　統合対象の EPF 形式ファイルのパス：c:¥Input¥EPF
出力ファイル
　出力 EPF 形式ファイルのパス：c:¥Output¥EPF
　出力 EPF 形式ファイル名：sample1.epf
そのほか
　印刷部数：3 部
　プリンタクラス：SampleTest

```
<%@ page import="java.io.*" %>
<%@ page import="java.util.*" %>
<%@ page import="JP.co.Hitachi.soft.EURPM.*" %>
<%@ page contentType="text/html; charset=Shift_JIS" %>
<jsp:useBean id="adapter"
class="JP.co.Hitachi.soft.EURPM.EURPMAdapterForJava"
scope="session" />
                .
                .

<%
  try {
       String hostName = request.getServerName();

       mergeFileNames = (String[])(2);
       Array.set(mergeFileNames, 0, "Add_1.epf");
       Array.set(mergeFileNames, 1, "Add_2.epf");
       adapter.setMergeEPFFileName(mergeFileNames);
                        //統合対象EPF形式ファイル名設定

       adapter.setMergeEPFFilePath("c:¥¥Input¥¥EPF");
                        //統合対象EPF形式ファイルパス設定
                        //統合対象のEPF形式ファイルは次の2ファイルになる
                        //c:¥Input¥EPF¥Add_1.epf
                        //c:¥Input¥EPF¥Add_2.epf
```

```
        adapter.setPrintCopies(3);
                        // 印刷部数設定
        adapter.setPrinterClassName("SampleTest ”);
                        // プリンタクラス名設定

        adapter.setEPFFilePath("c:¥¥Output¥¥EPF") ;
                        // EPF形式ファイル出力パス設定
        adapter.setEPFFileName("sample1.epf");
                        // EPF形式ファイル名設定
                        //出力ファイルは次のファイルになる
                        //c:¥Output¥EPF¥sample1.epf

        adapter.outputMergeEPFReport();
                        //複数EPF形式ファイル統合出力要求
    }
// エラー処理
    catch (JP.co.Hitachi.soft.EURPM.EURPMException e) {
        out.println("<P>エラー発生<br>");
        out.println("<table BORDER CELLSPACING=2 CELLPADDING=4 >");
        out.println("<tr><th>メソッド</th><th>取得結果</th></tr>");
        out.println("<tr><td>エラーコード</td>");
        out.println("<td>" + e.getErrorCode() + "</td></tr>");
        out.println("<tr><td>メッセージ</td>");
        out.println("<td>" + e.getMessage() + "</td></tr>");
        out.println("<tr><td>エラーレベル</td>");
        out.println("<td>" + e.getErrorLevel() + "</td></tr>");
        out.println("<tr><td>メッセージID</td>");
        out.println("<td>" + e.getKey() + "</td></tr>");
        out.println("</table>");
    }
%>
```

10.13.8 分割した印刷データを蓄積するときのコーディング例

次に示すパラメタを指定して，分割した印刷データをサーバに蓄積するときのコーディング例です。

入力ファイル（印刷定義ファイル）：EUR Print Manager のあるマシンに配置
　帳票ファイル名：Report1.fms
入力ファイル（ユーザ定義ファイル）：EUR Print Manager - Adapter のあるマシンに配置
　マッピングデータファイルのパス：c:¥Temp
　マッピングデータファイル名：Report1_1000P.csv
　EURPM 分割定義ファイルのパス：c:¥Temp
　EURPM 分割定義ファイル名：PMPageSplit.txt

```
import java.util.ArrayList;
import JP.co.Hitachi.soft.EURPM.*;

public class SAMPLE {
    public static void main(String[] args) {
        // 変数定義
        int iCnt = 0;
```

```
        EURPMAdapterForJava obj = null;
        ArrayList alJobID = null;

        try {
            // オブジェクト生成
            obj = new EURPMAdapterForJava();

            // 帳票ファイルの指定
            obj.setReportFileName("Report1.fms");
            // マッピングデータファイルの指定
            obj.setDataFileName("Report1_1000P.csv");
            obj.setDataFilePath("c:¥¥Temp");
            // EURPM分割定義ファイルの指定
            obj.setSplitFileName("PMPageSplit.txt");
            obj.setSplitFilePath("c:¥¥Temp");
            // そのほかのパラメタの指定
            obj.setSplitMode(3);
            obj.setPrintMode(2);

            //蓄積実行指示
            obj.printReport();

            // 複数ジョブIDの取得
            alJobID = new ArrayList();
            alJobID = obj.getJobIDList();
            for(iCnt = 0; iCnt < alJobID.size(); iCnt++){
                System.out.println(alJobID.get(iCnt));
            }

        } catch (EURPMException ce) {
            // エラー処理
            int errid;
            errid = ce.getErrorCode();
            if (errid==301) {
            }
        }
    }
}
```

10.13.9 仕分けした印刷データを蓄積するときのコーディング例

次に示すパラメタを指定して，仕分けした印刷データをサーバに蓄積するときのコーディング例です。

入力ファイル（印刷定義ファイル）：EUR Print Manager のあるマシンに配置
　帳票ファイル名：Report1.fms
入力ファイル（ユーザ定義ファイル）：EUR Print Manager - Adapter のあるマシンに配置
　マッピングデータファイルのパス：c:¥Temp
　マッピングデータファイル名：Report1_1000P.csv
　EURPM 仕分け定義ファイルのパス：c:¥Temp
　EURPM 仕分け定義ファイル名：PMDistribute.txt

```
import java.util.ArrayList;
```

```
import JP.co.Hitachi.soft.EURPM.*;

public class SAMPLE {
    public static void main(String[] args) {
        // 変数定義
        int iCnt = 0;
        EURPMAdapterForJava obj = null;
        ArrayList alJobID = null;

        try {
            // オブジェクト生成
            obj = new EURPMAdapterForJava();

            // 帳票ファイルの指定
            obj.setReportFileName("Report1.fms");
            // マッピングデータファイルの指定
            obj.setDataFileName("Report1_1000P.csv");
            obj.setDataFilePath("c:¥¥Temp");
            // EURPM仕分け定義ファイルの指定
            obj.setSplitFileName("PMDistribute.txt");
            obj.setSplitFilePath("c:¥¥Temp");
            // そのほかのパラメタの指定
            obj.setSplitMode(2);
            obj.setPrintMode(2);


            //蓄積実行指示
            obj.printReport();

            // 複数ジョブIDの取得
            alJobID = new ArrayList();
            alJobID = obj.getJobIDList();
            for(iCnt = 0; iCnt < alJobID.size(); iCnt++){
                System.out.println(alJobID.get(iCnt));
            }

        } catch (EURPMException ce) {
            // エラー処理
            int errid;
            errid = ce.getErrorCode();
            if (errid==301) {
            }
        }
    }
}
```

10.13.10 EUR Print Manager - Client Print ActiveX，または EUR Print Manager - Client Preview ActiveX を自動でインストールして帳票を出力するときのコーディング例

最新の EUR Print Manager - Client Print ActiveX，または EUR Print Manager - Client Preview ActiveX を自動でインストールして帳票を出力するときのコーディング例です。

クライアント PC に最新の EUR Print Manager - Client Print ActiveX，または EUR Print Manager - Client Preview ActiveX がインストールされていない場合，クライアント PC の環境に応じてダウンロードパッケージが選択されて，自動でインストールされます。ユーザー単位インストールが可能な環境では，ユーザー単位インストール用のダウンロードパッケージが選択されます。それ以外の環境では，マシン単位インストール用のダウンロードパッケージが選択されます。

EUR Print Manager - Client Print ActiveX，または EUR Print Manager - Client Preview ActiveX のインストールが完了すると，指定した帳票（EPF 形式ファイル）がダウンロードされて，印刷またはプレビュー表示されます。

ダウンロードパッケージ：EUR Print Manager - Adapter のあるマシンに配置
　EUR Print Manager - Client Print ActiveX（マシン単位用）：
　　http://xxx.xxx.xxx.xxx/machine/EURPMPrintAX.cab"
　EUR Print Manager - Client Print ActiveX（ユーザー単位用）：
　　http://xxx.xxx.xxx.xxx/user/EURPMPrintAX.cab
　EUR Print Manager - Client Preview ActiveX（マシン単位用）：
　　http://xxx.xxx.xxx.xxx/machine/EURPMPreViewAX.cab
　EUR Print Manager - Client Preview ActiveX（ユーザー単位用）：
　　http://xxx.xxx.xxx.xxx/user/EURPMPreViewAX.cab
出力ファイル：EUR Print Manager - Adapter のあるマシンに配置
　出力 EPF 形式ファイル名：http://xxx.xxx.xxx/File/EPF/sample.epf

(1) 帳票を印刷する場合

EUR Print Manager - Client Print ActiveX をインストールします。

```
<%@ page import="JP.co.Hitachi.soft.EURPM.*" %>
<%@ page contentType="text/html; charset=Shift_JIS" %>
<jsp:useBean id="adapter"
class="JP.co.Hitachi.soft.EURPM.EURPMAdapterForJava"
scope="session" />
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>
EURPM-CL-AX JSP Sample
</TITLE>
<%
    //EURPM-CL-AXのバージョン取得
    String strVersion = adapter.getPrintAXVersion();
    //EURPM-CL-AXのクラスID取得
    String strClassID = adapter.getPrintAXClassID();
%>
<BODY>
<Script LANGUAGE="javascript">
<!--
    var CABType; // フラグ
    var CABPath; // CAB形式ファイルの格納場所
    var appVersion = window.navigator.appVersion.toLowerCase();

    // OSの判定
    // Windows XPの場合
```

```
    if ( (window.navigator.userAgent).indexOf( "NT 5.1" ) != -1 ) {
        CABType = 0;       //マシン単位インストールフラグ
    } else {               //上記以外の場合
        //ブラウザ判定
        //Internet Explorer 7の場合
        if (appVersion.indexOf("msie 7.0") > -1) {
            CABType = 0;  //マシン単位インストールフラグ
        } else {          //上記以外の場合
            CABType = 1;  //ユーザー単位インストール
        }
    }
    //フラグから使用するCAB形式ファイルを決定する
    if (CABType == 0) {
        //マシン単位インストールの格納場所の設定
       CabPath = "http://xxx.xxx.xxx.xxx/machine/EURPMPrintAX.cab";
    } else {
        //ユーザー単位インストールの格納場所の設定
        CabPath = "http://xxx.xxx.xxx.xxx/user/EURPMPrintAX.cab";
    }

    //OBJECTタグの記述
    document.write("<object");
    //Webサーバで取得したクラスIDを指定
    document.write(" classid=clsid:<%=strClassID%>");
    //CAB形式ファイルのパスおよびWebサーバで取得したバージョンを指定
    document.write(" codebase=" + CabPath +
"#version=<%=strVersion%>");
    document.write(" ID=EURPMPRINTAX");
    document.write(" type=application/x-oleobject>");
    document.write("<BR>");
    document.write("<param name=EPFFileURL value=http://
xxx.xxx.xxx/File/EPF/sample.epf>");
    document.write("<BR>");
    document.write("<param name=LogLevel value=16>");
    document.write("<BR>");
    document.write("</object>");
    document.write("<BR>");
-->
</Script>
</BODY>
</HTML>
```

(2) 帳票をプレビュー表示する場合

EUR Print Manager - Client Preview ActiveX をインストールします。

```
<%@ page import="JP.co.Hitachi.soft.EURPM.*" %>
<%@ page contentType="text/html; charset=Shift_JIS" %>
<jsp:useBean id="adapter"
class="JP.co.Hitachi.soft.EURPM.EURPMAdapterForJava"
scope="session" />
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>
EURPM-CL-AX JSP Sample
</TITLE>
<%
```

```
    //EURPM-CL-PVXのバージョン取得
    String strVersion = adapter. getPreviewAXVersion();
    //EURPM-CL-PVXのクラスID取得
    String strClassID = adapter. getPreviewAXClassID();
%>
<BODY>
<Script LANGUAGE="javascript">
<!--
    var CABType; // フラグ
    var CABPath; // CAB形式ファイルの格納場所
    var appVersion = window.navigator.appVersion.toLowerCase();

    // OSの判定
    // Windows XPの場合
    if ( (window.navigator.userAgent).indexOf( "NT 5.1" ) != -1 ) {
        CABType = 0;      //マシン単位インストールフラグ
    } else {              //上記以外の場合
        //ブラウザ判定
        //Internet Explorer 7の場合
        if (appVersion.indexOf("msie 7.0") > -1) {
            CABType = 0;  //マシン単位インストールフラグ
        } else {          //上記以外の場合
            CABType = 1;  //ユーザー単位インストール
        }
    }
    //フラグから使用するCAB形式ファイルを決定する
    if (CABType == 0) {
        //マシン単位インストールの格納場所の設定
        CabPath = "http://xxx.xxx.xxx.xxx/machine/
EURPMPreViewAX.cab";
    } else {
        //ユーザー単位インストールの格納場所の設定
       CabPath = "http://xxx.xxx.xxx.xxx/user/EURPMPreViewAX.cab";
    }

    //OBJECTタグの記述
    document.write("<object");
    //Webサーバで取得したクラスIDを指定
    document.write(" classid=clsid:<%=strClassID%>");
    //CAB形式ファイルのパスおよびWebサーバで取得したバージョンを指定
    document.write(" codebase=" + CabPath +
"#version=<%=strVersion%>");
    document.write(" ID=EURPMPREVIEWAX");
    document.write(" width=500");
    document.write(" height=500");
    document.write(" type=application/x-oleobject>");
    document.write("<BR>");
    document.write("<param name=EPFFileURL value=http://
xxx.xxx.xxx/File/EPF/sample.epf>");
    document.write("<BR>");
    document.write("<param name=LogLevel value=16>");
    document.write("<BR>");
    document.write("</object>");
    document.write("<BR>");
-->
</Script>
</BODY>
</HTML>
```

11 COBOL 起動部品を使用した帳票出力

この章では，EUR Print Manager で提供する COBOL 起動部品を使用した帳票出力について説明します。

11.1 COBOL 起動部品

11.2 関数一覧

11.3 関数仕様

11.4 環境設定ファイル

11.5 エラー情報

11.6 コーディング例

11.1 COBOL 起動部品

サーバ側で動作する COBOL プログラムから，EUR Print Manager を起動して帳票出力できる部品を提供しています。これを，COBOL **起動部品**といいます。

COBOL 起動部品は，帳票ファイル名などをパラメタに設定し，出力実行関数を呼び出して帳票を出力します。COBOL 起動部品を利用することで，Web/AP サーバ上のサーバアプリケーションから帳票を印刷したり，EPF 形式ファイルに出力したりできます。

11.1.1 COBOL 起動部品の構成

COBOL 起動部品は，次に示す 17 のファイルから構成されます。

表 11-1 COBOL 起動部品のファイル構成

項番	ファイル名	説明
1	Windows **環境の場合** EURPMADC.dll UNIX/Linux **環境の場合** libEURPMADC.so	COBOL 起動部品本体
2	EURPMADC.lib	業務アプリケーションと COBOL 起動部品のリンケージ用ファイル
3	EURPMPARAM1.cbl	PrintReport 関数，および PrintReport2 関数用インタフェース領域定義ファイル
4	EURPMPARAM3.cbl	OutputPDFReport 関数用インタフェース領域定義ファイル
5	EURPMPARAM4.cbl	OutputEURReport 関数用インタフェース領域定義ファイル
6	EURPMPARAM5.cbl	OutputEPFReport 関数用インタフェース領域定義ファイル
7	EURPMPARAM6.cbl	OutputXLSXReport 関数用インタフェース領域定義ファイル
8	EURPMPARAM7.cbl	OutputMergeEPFReport 関数用インタフェース領域定義ファイル
9	EURPMPARAMJOBID.cbl	PrintReport2 関数用インタフェース領域定義ファイル
10	EURPMPARAMCLASS.cbl	GetPrinterClassList 関数用インタフェース領域定義ファイル
11	EURPMPARAMCLASS2.cbl	GetPrinterClassList2 関数用インタフェース領域定義ファイル
		GetPMPrinterClassList 関数用インタフェース領域定義ファイル
12	EURPMPARAMDEST.cbl	GetDestinationList 関数用インタフェース領域定義ファイル

項番	ファイル名	説明
13	EURPMPARAMDEST2.cbl	GetDestinationList2 関数用インタフェース領域定義ファイル
14	EURPMPARAMDESTNAME.cbl	GetPrinterClassList 関数，GetPrinterClassList2 関数，GetPrinterList 関数，および GetTrayClassList 関数用インタフェース領域定義ファイル
15	EURPMPARAMPRINTER.cbl	GetPrinterList 関数用インタフェース領域定義ファイル
		GetPMPrinterList 関数用インタフェース領域定義ファイル
16	EURPMPARAMPRINTERNAME.cbl	GetTrayList 関数用インタフェース領域定義ファイル
		GetPMTrayList 関数用インタフェース領域定義ファイル
17	EURPMPARAMTRAY.cbl	GetTrayList 関数用インタフェース領域定義ファイル
		GetPMTrayList 関数用インタフェース領域定義ファイル

なお，Windows 環境の場合は EURPMADC.dll のインストール先フォルダに，UNIX/Linux 環境の場合は libEURPMADC.so のインストール先ディレクトリに，パスを通す必要があります。

ファイルを格納するフォルダや COBOL 起動部品の設定については，次のマニュアルを参照してください。

- COBOL85 の場合：COBOL85 ユーザーズガイド
- COBOL2002 の場合：COBOL2002 ユーザーズガイド

11.1.2 COBOL 起動部品の呼び出し規約

32 ビットプログラムから呼び出すとき

COBOL 起動部品での呼び出し規約は，すべて C（cdecl）となります。呼び出し元の COBOL プログラムでは，EXTERNAL PROGRAM SECTION の CALL-CONVENTION 構文で，プログラムを cdecl 呼び出し規約にしておく必要があります。

64 ビットプログラムから呼び出すとき

COBOL 起動部品での呼び出し規約は，すべて fastcall となります。

COBOL 起動部品の呼び出し規約の詳細については，次のマニュアルを参照してください。

- COBOL85 の場合：COBOL85 ユーザーズガイド
- COBOL2002 の場合：COBOL2002 ユーザーズガイド

11.2 関数一覧

COBOL 起動部品が提供する関数の一覧を次に示します。

表 11-2 COBOL 起動部品が提供する関数

関数	概要
GetDestinationList	出力先一覧を取得します。
GetDestinationList2	
GetPMPrinterClassList	印刷管理サーバの OS 上のプリンタクラス一覧を取得します。
GetPMPrinterList ※1	印刷管理サーバの OS 上のプリンタ一覧を取得します。
GetPMTrayList ※1	印刷管理サーバの OS 上のトレイ一覧を取得します。
GetPrinterClassList ※2	拠点プリンタクラス一覧を取得します。
GetPrinterClassList2 ※2	
GetPrinterList ※2	OS 上のプリンタ一覧を取得します。
GetTrayList ※2	OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。
OutputEPFReport	EPF 形式ファイルを出力します。
OutputEURReport	EUR 形式ファイルを出力します。
OutputMergeEPFReport	複数の EPF 形式ファイルを統合して出力します。
OutputPDFReport	PDF 形式ファイルを出力します。
OutputXLSXReport	Excel 形式ファイルを出力します。
PrintReport	印刷または蓄積を実行します。
PrintReport2	

注※ 1

印刷管理サーバが UNIX/Linux 環境の場合は指定できません。

注※ 2

対象となる拠点サーバが UNIX/Linux 環境の場合は指定できません。

11.3 関数仕様

COBOL 起動部品が提供する関数の詳細を説明します。

GetDestinationList 関数

出力先の一覧を取得します。

形式

```
------------------宣言部------------------
01 EURPMPARAMDEST.
  02   DESTNUM           PIC  9(9) COMP-X VALUE n.
  02   DESTS             OCCURS n TIMES.
    03  DESTNAME         PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03  FILLER           PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03  SERVERADDR       PIC  X(15) VALUE SPACE.
    03  FILLER           PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03  COMMENT          PIC  X(256) VALUE SPACE.
    03  FILLER           PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
01 RTNCODE                PIC  S9(9) BINARY.

------------------実行部------------------
call 'GetDestinationList'  USING BY REFERENCE EURPMPARAMDEST
                          RETURNING RTNCODE.
```

パラメタ

DESTNUM

パラメタ DESTS の繰り返し回数 n を指定します。n には取得する一覧の最大数を指定してください。

出力先の数が n 個を超える場合は，n 個までの一覧が取得されます。

DESTS

取得した出力先の一覧が格納される領域を指定します。詳細は戻り値 DESTS を参照してください。

n には取得する一覧の最大数を指定してください。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては,「11.5.1　エラー情報一覧」を参照してください。

DESTNUM

取得された出力先の数が格納されます。

DESTS

パラメタ DESTNUM に設定された n 個分の出力先情報を，戻り値 DESTNAME, SERVERADDR，COMMENT に格納します。出力先情報の数が n 個に満たない場合は，戻り値 DESTNUM に取得された個数の出力先情報が返され，戻り値 DESTNUM+1 番目以降の領域は不定になります。出力先情報の数が n 個より多い場合は，パラメタ DESTNUM に指定した n 個の出力先情報が返されます。

DESTNAME

出力先情報の出力先名が設定されます。

SERVERADDR

出力先情報の拠点サーバの IP アドレスが設定されます。

COMMENT

出力先情報の説明が設定されます。

呼び出し例

出力先の一覧を取得する，呼び出し例を次に示します。

```
------------------宣言部------------------
01 EURPMPARAMDEST.
  02  DESTNUM          PIC  9(9) COMP-X VALUE 120.
  02  DESTS            OCCURS 120 TIMES.
    03  DESTNAME       PIC X(80) VALUE SPACE.
    03  FILLER         PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03  SERVERADDR     PIC X(15) VALUE SPACE.
    03  FILLER         PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03  COMMENT        PIC X(256) VALUE SPACE.
    03  FILLER         PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
01 RTNCODE             PIC  S9(9) BINARY.
------------------実行部------------------
DISPLAY '＜出力先一覧(GetDestinationList)＞'
CALL 'GetDestinationList' USING BY REFERENCE EURPMPARAMDEST
                          RETURNING RTNCODE
DISPLAY RTNCODE
IF RTNCODE = ZERO
THEN
  DISPLAY '正常終了'
  DISPLAY DESTNUM
  PERFORM VARYING IX1 FROM 1 BY 1 UNTIL IX1 > DESTNUM
    DISPLAY DESTNAME(IX1)
    DISPLAY SERVERADDR(IX1)
    DISPLAY COMMENT(IX1)
  END-PERFORM
ELSE
  DISPLAY 'エラー発生'
END-IF
```

GetDestinationList2 関数

出力先の一覧を取得します。エラー発生時にエラーメッセージを取得できます。

形式

```
------------------宣言部------------------
01 EURPMPARAMDEST2.
  02 FILLER         PIC  X(4) VALUE '0770'.
  02 FILLER         PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 ERRORMESSAGE   PIC  X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER         PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 FILLER         PIC  X(2) VALUE LOW-VALUE.
  02 DESTNUM        PIC  9(9) COMP-X VALUE n.
  02 DESTS          OCCURS n TIMES.
    03 DESTNAME     PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03 FILLER       PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03 SERVERADDR   PIC  X(15) VALUE SPACE.
    03 FILLER       PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03 COMMENT      PIC  X(256) VALUE SPACE.
    03 FILLER       PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03 FILLER       PIC  X(2) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERADDR   PIC  X(15) VALUE SPACE.
  02 FILLER         PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERPORT   PIC  S9(9) COMP-5 VALUE -1.
01 RTNCODE          PIC  S9(9) BINARY.
------------------実行部------------------
call 'GetDestinationList2'  USING BY REFERENCE EURPMPARAMDEST2
                            RETURNING RTNCODE.
```

パラメタ

DESTNUM

パラメタ DESTS の繰り返し回数 n を指定します。n には取得する一覧の最大数を指定してください。

出力先の数が n 個を超える場合は，n 個までの一覧が取得されます。

DESTS

取得した出力先の一覧が格納される領域を指定します。詳細は戻り値 DESTS を参照してください。

n には取得する一覧の最大数を指定してください。

PMSERVERADDR

印刷管理サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

PMSERVERADDR パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

PMSERVERPORT

印刷管理サーバのポート番号を指定します。

PMSERVERPORT パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては，「11.5.1　エラー情報一覧」を参照してください。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合，エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は，空白が設定されます。

DESTS

パラメタ DESTNUM に設定された n 個分の出力先情報を，戻り値 DESTNAME，SERVERADDR，COMMENT に格納します。出力先情報の数が n 個に満たない場合は，戻り値 DESTNUM に取得された個数の出力先情報が返され，戻り値 DESTNUM+1 番目以降の領域は不定になります。出力先情報の数が n 個より多い場合は，パラメタ DESTNUM に指定した n 個の出力先情報が返されます。

DESTNAME

出力先情報の出力先名が設定されます。

SERVERADDR

出力先情報の拠点サーバの IP アドレスが設定されます。

COMMENT

出力先情報の説明が設定されます。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合，エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は，空白が設定されます。

呼び出し例

出力先の一覧を取得する，呼び出し例を次に示します。

```
------------------宣言部------------------
01 EURPMPARAMDEST.
```

```
  02 FILLER          PIC  X(4) VALUE '0770'.
  02 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 ERRORMESSAGE    PIC  X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 FILLER          PIC  X(2) VALUE LOW-VALUE.
  02  DESTNUM        PIC  9(9) COMP-X VALUE 120.
  02  DESTS          OCCURS 120 TIMES.
    03  DESTNAME     PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03  FILLER       PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03  SERVERADDR   PIC  X(15) VALUE SPACE.
    03  FILLER       PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03  COMMENT      PIC  X(256) VALUE SPACE.
    03  FILLER       PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03 FILLER        PIC  X(2) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERADDR    PIC  X(15) VALUE SPACE.
  02 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERPORT    PIC  S9(9) COMP-5 VALUE -1.
01 RTNCODE           PIC  S9(9) BINARY.
------------------実行部------------------
DISPLAY '＜出力先一覧(GetDestinationList2)＞'
CALL 'GetDestinationList2' USING BY REFERENCE EURPMPARAMDEST
                           RETURNING RTNCODE
DISPLAY RTNCODE
IF RTNCODE = ZERO
THEN
  DISPLAY '正常終了'
  DISPLAY DESTNUM
  PERFORM VARYING IX1 FROM 1 BY 1 UNTIL IX1 > DESTNUM
    DISPLAY DESTNAME(IX1)
    DISPLAY SERVERADDR(IX1)
    DISPLAY COMMENT(IX1)
  END-PERFORM
ELSE
  DISPLAY 'エラー発生'
  DISPLAY ERRORMESSAGE
END-IF
```

GetPMPrinterClassList 関数

印刷管理サーバのプリンタクラスの一覧を取得します。

形式

```
------------------宣言部------------------
01 EURPMPARAMCLASS.
  02 FILLER         PIC  X(4) VALUE '0770'.
  02 FILLER         PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 ERRORMESSAGE   PIC  X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER         PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 FILLER         PIC  X(2) VALUE LOW-VALUE.
  02 CLASSNUM       PIC  9(9) COMP-X VALUE n.
  02 CLASSES        OCCURS n TIMES.
    03 CLASSNAME    PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03 FILLER       PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03 PRINTERNAME  PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03 FILLER       PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
```

```
    03 TRAYNAME    PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03 FILLER      PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03 COMMENT     PIC  X(256) VALUE SPACE.
    03 FILLER      PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERADDR  PIC  X(15) VALUE SPACE.
  02 FILLER        PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERPORT  PIC  S9(9) COMP-5 VALUE -1.
01 RTNCODE         PIC  S9(9) BINARY.
------------------実行部------------------
call 'GetPMPrinterClassList'   USING BY REFERENCE EURPMPARAMCLASS
                               RETURNING RTNCODE.
```

パラメタ

CLASSNUM

パラメタ CLASSES の繰り返し回数 n を指定します。n には取得する一覧の最大数を指定してください。

プリンタクラスの数が n 個を超える場合は，n 個までの一覧が取得されます。

CLASSES

取得したプリンタクラスの一覧が格納される領域を指定します。詳細は戻り値 CLASSES を参照してください。

n には取得する一覧の最大数を指定してください。

PMSERVERADDR

印刷管理サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

PMSERVERADDR パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

PMSERVERPORT

印刷管理サーバのポート番号を指定します。

PMSERVERPORT パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては，「11.5.1　エラー情報一覧」を参照してください。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合，エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は，空白が設定されます。

CLASSNUM

取得されたプリンタクラス数が設定されます。

CLASSES

パラメタ CLASSNUM に設定された n 個分のプリンタクラス情報を，戻り値 CLASSNAME，PRINTERNAME，TRAYNAME，COMMENT に格納します。取得したプリンタクラスの数が n 個に満たない場合は，戻り値 CLASSNUM に取得された個数のプリンタクラス情報が返され，戻り値 CLASSNUM+1 番目以降の領域は不定になります。取得したプリンタクラスの数が n 個より多い場合は，パラメタ CLASSNUM に指定した n 個のプリンタクラス情報が返されます。

CLASSNAME

OS 上のプリンタクラス名が設定されます。

PRINTERNAME

OS 上のプリンタ名が設定されます。

TRAYNAME

OS 上のプリンタクラスのトレイ名が設定されます。

COMMENT

OS 上のプリンタクラスの説明が設定されます。

呼び出し例

印刷管理サーバのプリンタクラスの一覧を取得する，呼び出し例を次に示します。

```
------------------宣言部------------------
01 EURPMPARAMCLASS.
  02   FILLER       PIC  X(4) VALUE '0770'.
  02   FILLER       PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02   ERRORMESSAGE PIC  X(256) VALUE SPACE.
  02   FILLER       PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02   FILLER       PIC  X(2) VALUE LOW-VALUE.
  02   CLASSNUM     PIC  9(9) COMP-X VALUE 120.
  02   CLASSES      OCCURS 120 TIMES.
    03  CLASSNAME   PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03  FILLER      PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03  PRINTERNAME PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03  FILLER      PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03  TRAYNAME    PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03  FILLER      PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03  COMMENT     PIC  X(256) VALUE SPACE.
    03  FILLER      PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERADDR   PIC  X(15) VALUE SPACE.
```

```
  02 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERPORT    PIC  S9(9) COMP-5 VALUE -1.
01 RTNCODE           PIC  S9(9) BINARY.
------------------実行部------------------
DISPLAY '＜プリンタクラス一覧(GetPMPrinterClassList)＞'
CALL 'GetPMPrinterClassList' USING BY REFERENCE EURPMPARAMCLASS
                             RETURNING RTNCODE
DISPLAY RTNCODE
IF RTNCODE = ZERO
THEN
  DISPLAY '正常終了'
  DISPLAY CLASSNUM
  PERFORM VARYING IX1 FROM 1 BY 1 UNTIL IX1 > CLASSNUM
    DISPLAY CLASSNAME(IX1)
    DISPLAY PRINTERNAME(IX1)
    DISPLAY TRAYNAME(IX1)
    DISPLAY COMMENT(IX1)
  END-PERFORM
ELSE
  DISPLAY 'エラー発生'
END-IF
```

GetPMPrinterList 関数

印刷管理サーバに登録された OS 上のプリンタ一覧を取得します。

なお，印刷管理サーバが UNIX/Linux 環境の場合，プリンタ一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Print Manager - Report Server に対して，プリンタ一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

形式

```
------------------宣言部------------------
01 EURPMPARAMPRINTER.
  02 FILLER          PIC  X(4) VALUE '0770'.
  02 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 ERRORMESSAGE    PIC  X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 FILLER          PIC  X(2) VALUE LOW-VALUE.
  02   PRINTERNUM    PIC  9(9) COMP-X VALUE n.
  02   PRINTERS      OCCURS n TIMES.
    03  PRINTERNAME PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03  FILLER      PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03  FILLER      PIC  X(3) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERADDR    PIC  X(15) VALUE SPACE.
  02 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERPORT    PIC  S9(9) COMP-5 VALUE -1.
01 RTNCODE           PIC  S9(9) BINARY.
------------------実行部------------------
call 'GetPMPrinterList' USING BY REFERENCE EURPMPARAMPRINTER
                        RETURNING RTNCODE.
```

パラメタ

PRINTERNUM

パラメタ PRINTERS の繰り返し回数 n を指定します。n には取得する一覧の最大数を指定してください。

プリンタの数が n 個を超える場合は，n 個までの一覧が取得されます。

PRINTERS

取得した OS 上のプリンタの一覧が格納される領域を指定します。n には取得する一覧の最大数を指定してください。詳細は戻り値 PRINTERS を参照してください。

PMSERVERADDR

印刷管理サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

PMSERVERADDR パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

PMSERVERPORT

印刷管理サーバのポート番号を指定します。

PMSERVERPORT パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては，「11.5.1　エラー情報一覧」を参照してください。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合，エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は，空白が設定されます。

PRINTERNUM

取得されたプリンタ数が設定されます。

PRINTERS

パラメタ PRINTERNUM に設定された n 個分のプリンタ情報を，戻り値 PRINTERNAME に格納します。取得したプリンタの数が n 個に満たない場合は，戻り値 PRINTERNUM に取得された個数のプリンタ情報が返され，戻り値 PRINTERNUM + 1 番目以降の領域は不定になります。取得したプリンタの数が n 個より多い場合は，パラメタ PRINTERNUM に指定した n 個のプリンタ情報が返されます。

PRINTERNAME

OS 上のプリンタ名が設定されます。

呼び出し例

印刷管理サーバに登録された OS 上のプリンタ一覧を取得する，呼び出し例を次に示します。

```
------------------宣言部------------------
01 EURPMPARAMPRINTER.
  02 FILLER          PIC  X(4) VALUE '0770'.
  02 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 ERRORMESSAGE    PIC  X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 FILLER          PIC  X(2) VALUE LOW-VALUE.
  02   PRINTERNUM    PIC  9(9) COMP-X VALUE 120.
  02   PRINTERS      OCCURS 120 TIMES.
    03  PRINTERNAME PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03  FILLER       PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03  FILLER       PIC  X(3) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERADDR    PIC  X(15) VALUE SPACE.
  02 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERPORT    PIC  S9(9) COMP-5 VALUE -1.
01 RTNCODE           PIC  S9(9) BINARY.
------------------実行部------------------
DISPLAY '＜プリンタ一覧(GetPMPrinterList)＞'
CALL 'GetPMPrinterList' USING BY REFERENCE EURPMPARAMPRINTER
                        RETURNING RTNCODE
DISPLAY RTNCODE
IF RTNCODE = ZERO
THEN
  DISPLAY '正常終了'
  DISPLAY PRINTERNUM
  PERFORM VARYING IX1 FROM 1 BY 1 UNTIL IX1 > PRINTERNUM
    DISPLAY PRINTERNAME(IX1)
  END-PERFORM
ELSE
  DISPLAY 'エラー発生'
  DISPLAY ERRORMESSAGE
END-IF
```

GetPMTrayList 関数

印刷管理サーバ上のプリンタを指定し，その OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。

なお，印刷管理サーバが UNIX/Linux 環境の場合，トレイ一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Print Manager - Report Server に対して，トレイ一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

形式

```
------------------宣言部------------------
01 EURPMPARAMPRINTERNAME.
  02 PRINTERNAME    PIC  X(80) VALUE SPACE.
  02 FILLER         X(1) VALUE LOW-VALUE.
01 EURPMPARAMTRAY.
  02 FILLER         PIC  X(4) VALUE '0770'.
  02 FILLER         PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 ERRORMESSAGE   PIC  X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER         PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 FILLER         PIC  X(2) VALUE LOW-VALUE.
  02 TRAYNUM        PIC  9(9) COMP-X VALUE n.
  02 TRAYS          OCCURS n TIMES.
    03 TRAYNAME     PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03 FILLER       PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03  FILLER      PIC  X(3) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERADDR   PIC  X(15) VALUE SPACE.
  02 FILLER         PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERPORT   PIC  S9(9) COMP-5 VALUE -1.
01 RTNCODE          PIC  S9(9) BINARY.
------------------実行部------------------
call 'GetPMTrayList' USING BY REFERENCE EURPMPARAMPRINTERNAME
                                        EURPMPARAMTRAY
                     RETURNING RTNCODE.
```

パラメタ

PRINTERNAME

トレイ一覧を取得する OS 上のプリンタ名を，80 バイトの文字列で指定します。プリンタ名が 80 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。

TRAYNUM

パラメタ TRAYS の繰り返し回数 n を指定します。n には取得する一覧の最大数を指定してください。

トレイの数が n 個を超える場合は，n 個までの一覧が取得されます。

TRAYS

取得したトレイ一覧が格納される領域を指定します。n には取得する一覧の最大数を指定してください。詳細は戻り値 TRAYS を参照してください。

PMSERVERADDR

印刷管理サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

PMSERVERADDR パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

PMSERVERPORT

印刷管理サーバのポート番号を指定します。

PMSERVERPORT パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては，「11.5.1　エラー情報一覧」を参照してください

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合，エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は，空白が設定されます。

TRAYNUM

取得されたプリンタのトレイ数が設定されます。

TRAYS

パラメタ TRAYNUM に設定された n 個分のプリンタのトレイ情報を，戻り値 TRAYNAME に格納します。取得したプリンタのトレイ数が n 個に満たない場合は，戻り値 TRAYNUM に取得された個数のプリンタクラス情報が返され，戻り値 TRAYNUM + 1 番目以降の領域は不定になります。取得したプリンタのトレイ数が n 個より多い場合は，パラメタ TRAYNUM に指定した n 個のプリンタのトレイ情報が返されます。

TRAYNAME

OS 上のプリンタのトレイ名が設定されます。

呼び出し例

印刷管理サーバ上のプリンタを指定し，その OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。

```
------------------宣言部------------------
01 EURPMPARAMPRINTERNAME.
  02 PRINTERNAME    PIC  X(80) VALUE SPACE.
  02 FILLER         X(1) VALUE LOW-VALUE.
01 EURPMPARAMTRAY.
  02 FILLER         PIC  X(4) VALUE '0770'.
  02 FILLER         PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 ERRORMESSAGE   PIC  X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER         PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 FILLER         PIC  X(2) VALUE LOW-VALUE.
  02 TRAYNUM        PIC  9(9) COMP-X VALUE 120.
  02 TRAYS          OCCURS 120 TIMES.
    03 TRAYNAME     PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03 FILLER       PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
```

```
    03  FILLER       PIC  X(3) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERADDR    PIC  X(15) VALUE SPACE.
  02 FILLER          PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERPORT    PIC  S9(9) COMP-5 VALUE -1.
01 RTNCODE           PIC  S9(9) BINARY.
------------------実行部------------------
DISPLAY '＜トレイ一覧(GetPMTrayList)＞'
MOVE 'PRINTER1' TO PRINTERNAME
DISPLAY PRINTERNAME
CALL ' GetPMTrayList ' USING BY REFERENCE EURPMPARAMPRINTERNAME
                                          EURPMPARAMTRAY
                                RETURNING RTNCODE
DISPLAY RTNCODE
IF RTNCODE = ZERO
THEN
  DISPLAY '正常終了'
  DISPLAY TRAYNUM
  PERFORM VARYING IX1 FROM 1 BY 1 UNTIL IX1 > TRAYNUM
    DISPLAY TRAYNAME (IX1)
  END-PERFORM
ELSE
  DISPLAY 'エラー発生'
  DISPLAY ERRORMESSAGE
END-IF
```

GetPrinterClassList 関数

指定した出力先の拠点プリンタクラスの一覧を取得します。出力先を指定していない場合は，デフォルトの出力先として登録された拠点サーバに定義されているプリンタクラスの一覧を取得します。

なお，UNIX/Linux 環境の場合，プリンタクラス一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Print Manager - Report Server に対して，プリンタクラス一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

形式

```
------------------宣言部------------------
01 EURPMPARAMDESTNAME.
  02 DESTNAME             PIC  X(80) VALUE SPACE.
  02 FILLER               PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
01 EURPMPARAMCLASS.
  02   CLASSNUM           PIC  9(9) COMP-X VALUE n.
  02   CLASSES            OCCURS n TIMES.
    03  CLASSNAME         PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03  FILLER            PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03  PRINTERNAME       PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03  FILLER            PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03  TRAYNAME          PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03  FILLER            PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03  COMMENT           PIC  X(256) VALUE SPACE.
    03  FILLER            PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
01 RTNCODE                          PIC  S9(9) BINARY.
------------------実行部------------------
```

```
call 'GetPrinterClassList'   USING BY REFERENCE EURPMPARAMDESTNAME
                                                 EURPMPARAMCLASS
                             RETURNING RTNCODE.
```

パラメタ

DESTNAME

拠点プリンタクラス一覧を取得する拠点サーバの出力先名を指定します。

CLASSNUM

パラメタ CLASSES の繰り返し回数 n を指定します。n には取得する一覧の最大数を指定してください。

プリンタクラスの数が n 個を超える場合は，n 個までの一覧が取得されます。

CLASSES

取得したプリンタクラスの一覧が格納される領域を指定します。詳細は戻り値 CLASSES を参照してください。

n には取得する一覧の最大数を指定してください。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては，「11.5.1　エラー情報一覧」を参照してください。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合，エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は，空白が設定されます。

CLASSNUM

取得されたプリンタクラス数が格納されます。

CLASSES

パラメタ CLASSNUM に設定された n 個分のプリンタクラス情報を，戻り値 CLASSNAME，PRINTERNAME，TRAYNAME，COMMENT に格納します。拠点プリンタクラスの数が n 個に満たない場合は，戻り値 CLASSNUM に取得された個数の拠点プリンタクラス情報が返され，戻り値 CLASSNUM+1 番目以降の領域は不定になります。拠点プリンタクラスの数が n 個より多い場合は，パラメタ CLASSNUM に指定した n 個のプリンタクラス情報が返されます。

CLASSNAME

拠点プリンタクラス情報の拠点プリンタクラス名が設定されます。

PRINTERNAME

拠点プリンタクラス情報の拠点サーバのプリンタ名が設定されます。

TRAYNAME

拠点プリンタクラス情報の拠点サーバのトレイ名が設定されます。

COMMENT

拠点プリンタクラス情報の説明が設定されます。

呼び出し例

指定した出力先の拠点プリンタクラスの一覧を取得する，呼び出し例を次に示します。

```
------------------宣言部------------------
01 EURPMPARAMDESTNAME.
  02 DESTNAME           PIC  X(80) VALUE SPACE.
  02 FILLER             PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
01 EURPMPARAMCLASS.
  02  CLASSNUM          PIC  9(9) COMP-X VALUE 120.
  02  CLASSES           OCCURS 120 TIMES.
    03  CLASSNAME       PIC X(80) VALUE SPACE.
    03  FILLER          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03  PRINTERNAME     PIC X(80) VALUE SPACE.
    03  FILLER          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03  TRAYNAME        PIC X(80) VALUE SPACE.
    03  FILLER          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03  COMMENT         PIC X(256) VALUE SPACE.
    03  FILLER          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
01 RTNCODE              PIC  S9(9) BINARY.
------------------実行部------------------
          DISPLAY '＜プリンタクラス一覧(GetPrinterClassList)＞'
          MOVE 'SERVER1' TO DESTNAME
          CALL 'GetPrinterClassList' USING BY REFERENCE
EURPMPARAMDESTNAME
                                                    EURPMPARAMCLASS
                                    RETURNING RTNCODE
          DISPLAY RTNCODE
          IF RTNCODE = ZERO
          THEN
            DISPLAY '正常終了'
            DISPLAY CLASSNUM
            PERFORM VARYING IX1 FROM 1 BY 1 UNTIL IX1 > CLASSNUM
              DISPLAY CLASSNAME(IX1)
              DISPLAY PRINTERNAME(IX1)
              DISPLAY TRAYNAME(IX1)
              DISPLAY COMMENT(IX1)
            END-PERFORM
          ELSE
            DISPLAY 'エラー発生'
          END-IF
```

GetPrinterClassList2 関数

指定した出力先の拠点プリンタクラスの一覧を取得します。出力先を指定していない場合は，デフォルトの出力先として登録された拠点サーバに定義されているプリンタクラスの一覧を取得します。エラー発生時にエラーメッセージを取得できます。

なお，UNIX/Linux 環境の場合，プリンタクラス一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Print Manager - Report Server に対して，プリンタクラス一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

形式

```
------------------宣言部------------------
01 EURPMPARAMDESTNAME.
  02 DESTNAME         PIC  X(80) VALUE SPACE.
  02 FILLER           PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
01 EURPMPARAMCLASS2.
  02 FILLER           PIC  X(4) VALUE '0770'.
  02 FILLER           PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 ERRORMESSAGE     PIC  X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER           PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 FILLER           PIC  X(2) VALUE LOW-VALUE.
  02   CLASSNUM       PIC  9(9) COMP-X VALUE n.
  02   CLASSES        OCCURS n TIMES.
    03  CLASSNAME     PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03  FILLER        PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03  PRINTERNAME   PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03  FILLER        PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03  TRAYNAME      PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03  FILLER        PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03  COMMENT       PIC  X(256) VALUE SPACE.
    03  FILLER        PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERADDR     PIC  X(15) VALUE SPACE.
  02 FILLER           PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERPORT     PIC  S9(9) COMP-5 VALUE -1.
01 RTNCODE            PIC  S9(9) BINARY.
------------------実行部------------------
call 'GetPrinterClassList2'   USING BY REFERENCE EURPMPARAMDESTNAME
                                                  EURPMPARAMCLASS2
                              RETURNING RTNCODE.
```

パラメタ

DESTNAME

拠点プリンタクラス一覧を取得する拠点サーバの出力先名を指定します。

CLASSNUM

パラメタ CLASSES の繰り返し回数 n を指定します。n には取得する一覧の最大数を指定してください。

プリンタクラスの数が n 個を超える場合は，n 個までの一覧が取得されます。

CLASSES

取得したプリンタクラスの一覧が格納される領域を指定します。詳細は戻り値 CLASSES を参照してください。

n には取得する一覧の最大数を指定してください。

PMSERVERADDR

印刷管理サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

PMSERVERADDR パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

PMSERVERPORT

印刷管理サーバのポート番号を指定します。

PMSERVERPORT パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては，「11.5.1　エラー情報一覧」を参照してください。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合，エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は，空白が設定されます。

CLASSNUM

取得されたプリンタクラス数が格納されます。

CLASSES

パラメタ CLASSNUM に設定された n 個分のプリンタクラス情報を，戻り値 CLASSNAME，PRINTERNAME，TRAYNAME，COMMENT に格納します。拠点プリンタクラスの数が n 個に満たない場合は，戻り値 CLASSNUM に取得された個数の拠点プリンタクラス情報が返され，戻り値 CLASSNUM+1 番目以降の領域は不定になります。拠点プリンタクラスの数が n 個より多い場合は，パラメタ CLASSNUM に指定した n 個のプリンタクラス情報が返されます。

CLASSNAME

拠点プリンタクラス情報の拠点プリンタクラス名が設定されます。

PRINTERNAME

拠点プリンタクラス情報の拠点サーバのプリンタ名が設定されます。

TRAYNAME

拠点プリンタクラス情報の拠点サーバのトレイ名が設定されます。

COMMENT

拠点プリンタクラス情報の説明が設定されます。

呼び出し例

指定した出力先の拠点プリンタクラスの一覧を取得する，呼び出し例を次に示します。

```
------------------宣言部------------------
01 EURPMPARAMDESTNAME.
  02 DESTNAME            PIC  X(80) VALUE SPACE.
  02 FILLER              PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
01 EURPMPARAMCLASS.
  02 FILLER              PIC  X(4) VALUE '0770'.
  02 FILLER              PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 ERRORMESSAGE        PIC  X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER              PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 FILLER              PIC  X(2) VALUE LOW-VALUE.
  02  CLASSNUM           PIC  9(9) COMP-X VALUE 120.
  02  CLASSES            OCCURS 120 TIMES.
    03  CLASSNAME        PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03  FILLER           PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03  PRINTERNAME      PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03  FILLER           PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03  TRAYNAME         PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03  FILLER           PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03  COMMENT          PIC  X(256) VALUE SPACE.
    03  FILLER           PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERADDR        PIC  X(15) VALUE SPACE.
  02 FILLER              PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERPORT        PIC  S9(9) COMP-5 VALUE -1.
01 RTNCODE               PIC  S9(9) BINARY.
------------------実行部------------------
DISPLAY '＜プリンタクラス一覧(GetPrinterClassList2)＞'
MOVE 'SERVER1' TO DESTNAME
DISPLAY DESTNAME
CALL 'GetPrinterClassList2' USING BY REFERENCE EURPMPARAMDESTNAME
                                                EURPMPARAMCLASS
                            RETURNING RTNCODE
DISPLAY RTNCODE
IF RTNCODE = ZERO
THEN
  DISPLAY '正常終了'
  DISPLAY CLASSNUM
  PERFORM VARYING IX1 FROM 1 BY 1 UNTIL IX1 > CLASSNUM
    DISPLAY CLASSNAME(IX1)
    DISPLAY PRINTERNAME(IX1)
    DISPLAY TRAYNAME(IX1)
    DISPLAY COMMENT(IX1)
```

```
  END-PERFORM
ELSE
  DISPLAY 'エラー発生'
  DISPLAY ERRORMESSAGE
END-IF
```

GetPrinterList 関数

指定した出力先の拠点サーバに登録された OS 上のプリンタ一覧を取得します。出力先を指定していない場合は，デフォルトの出力先として登録された拠点サーバの OS 上のプリンタ一覧を取得します。

なお，UNIX/Linux 環境の場合，プリンタ一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Print Manager - Report Server に対して，プリンタ一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

形式

```
------------------宣言部------------------
01 EURPMPARAMDESTNAME.
  02 DESTNAME       PIC  X(80) VALUE SPACE.
  02 FILLER         PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
01 EURPMPARAMPRINTER.
  02 FILLER         PIC  X(4) VALUE '0770'.
  02 FILLER         PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 ERRORMESSAGE   PIC  X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER         PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 FILLER         PIC  X(2) VALUE LOW-VALUE.
  02   PRINTERNUM   PIC  9(9) COMP-X VALUE n.
  02   PRINTERS     OCCURS n TIMES.
    03  PRINTERNAME PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03  FILLER      PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03  FILLER      PIC  X(3) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERADDR   PIC  X(15) VALUE SPACE.
  02 FILLER         PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERPORT   PIC  S9(9) COMP-5 VALUE -1.
01 RTNCODE          PIC  S9(9) BINARY.
------------------実行部------------------
call 'GetPrinterList' USING BY REFERENCE EURPMPARAMDESTNAME
                                         EURPMPARAMPRINTER
RETURNING RTNCODE.
```

パラメタ

DESTNAME

OS 上のプリンタ一覧を取得する拠点サーバの出力先名を指定します。

PRINTERNUM

パラメタ PRINTERS の繰り返し回数を指定します。n には取得する一覧の最大数を指定してください。

OS 上のプリンタの数が n 個を超える場合は，n 個までの一覧が取得されます。

PRINTERS

取得した OS 上のプリンタの一覧が格納される領域を指定します。n には取得する一覧の最大数を指定してください。詳細は戻り値 PRINTERS を参照してください。

PMSERVERADDR

印刷管理サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

PMSERVERADDR パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

PMSERVERPORT

印刷管理サーバのポート番号を指定します。

PMSERVERPORT パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては，「11.5.1　エラー情報一覧」を参照してください。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合，エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は，空白が設定されます。

PRINTERNUM

取得された OS 上のプリンタ数が格納されます。

PRINTERS

パラメタ PRINTERNUM に設定された n 個分のプリンタ情報を，戻り値 PRINTERNAME に格納します。OS 上のプリンタの数が n 個に満たない場合は，戻り値 PRINTERNUM に取得された個数のプリンタ情報が返され，戻り値 PRINTERNUM+1 番目以降の領域は不定になります。OS 上のプリンタの数が n 個より多い場合は，パラメタ PRINTERNUM に指定した n 個のプリンタ情報が返されます。

PRINTERNAME

OS 上のプリンタ名が設定されます。

呼び出し例

OS 上のプリンタの一覧を取得する，呼び出し例を次に示します。

```
------------------宣言部------------------
01 EURPMPARAMDESTNAME.
  02 DESTNAME       PIC  X(80) VALUE SPACE.
  02 FILLER         PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
01 EURPMPARAMPRINTER.
  02 FILLER         PIC  X(4) VALUE '0770'.
  02 FILLER         PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 ERRORMESSAGE   PIC  X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER         PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 FILLER         PIC  X(2) VALUE LOW-VALUE.
  02   PRINTERNUM   PIC  9(9) COMP-X VALUE 120.
  02   PRINTERS     OCCURS 120 TIMES.
    03  PRINTERNAME PIC  X(80) VALUE SPACE.
    03  FILLER      PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03  FILLER      PIC  X(3) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERADDR   PIC  X(15) VALUE SPACE.
  02 FILLER         PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERPORT   PIC  S9(9) COMP-5 VALUE -1.
01 RTNCODE          PIC  S9(9) BINARY.
------------------実行部------------------
DISPLAY '＜プリンタ一覧(GetPrinterList)＞'
MOVE 'SERVER1' TO DESTNAME
DISPLAY DESTNAME
CALL 'GetPrinterList' USING BY REFERENCE EURPMPARAMDESTNAME
                                         EURPMPARAMPRINTER
                      RETURNING RTNCODE
DISPLAY RTNCODE
IF RTNCODE = ZERO
THEN
  DISPLAY '正常終了'
  DISPLAY PRINTERNUM
  PERFORM VARYING IX1 FROM 1 BY 1 UNTIL IX1 > PRINTERNUM
    DISPLAY PRINTERNAME(IX1)
  END-PERFORM
ELSE
  DISPLAY 'エラー発生'
  DISPLAY ERRORMESSAGE
END-IF
```

GetTrayList 関数

出力先と OS 上のプリンタを指定し，その OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。出力先を指定していない場合は，デフォルトの出力先として登録された拠点サーバの OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。

なお，UNIX/Linux 環境の場合，トレイ一覧の取得はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Print Manager - Report Server に対して，トレイ一覧の取得を実行した場合はエラーとなります。

形式

```
------------------宣言部------------------
01 EURPMPARAMDESTNAME.
  02 DESTNAME        PIC X(80) VALUE SPACE.
  02 FILLER          X(1) VALUE LOW-VALUE.
01 EURPMPARAMPRINTERNAME.
  02 PRINTERNAME     PIC X(80) VALUE SPACE.
  02 FILLER          X(1) VALUE LOW-VALUE.
01 EURPMPARAMTRAY.
  02 FILLER          PIC X(4) VALUE '0770'.
  02 FILLER          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 ERRORMESSAGE    PIC X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 FILLER          PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
  02 TRAYNUM         PIC 9(9) COMP-X VALUE n.
  02 TRAYS           OCCURS n TIMES.
    03 TRAYNAME      PIC X(80) VALUE SPACE.
    03 FILLER        PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03 FILLER        PIC X(3) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERADDR    PIC X(15) VALUE SPACE.
  02 FILLER          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERPORT    PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
01 RTNCODE           PIC S9(9) BINARY.
------------------実行部------------------
call 'GetTrayList' USING BY REFERENCE EURPMPARAMDESTNAME
                                      EURPMPARAMPRINTERNAME
                                      EURPMPARAMTRAY
                           RETURNING RTNCODE.
```

パラメタ

DESTNAME

OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得する拠点サーバの出力先名を指定します。

PRINTERNAME

トレイ一覧を取得する OS 上のプリンタ名を指定します。

TRAYNUM

パラメタ TRAYS の繰り返し回数 n を指定します。n には取得する一覧の最大数を指定してください。

トレイの数が n 個を超える場合は，n 個までの一覧が取得されます。

TRAYS

取得したトレイ一覧が格納される領域を指定します。n には取得する一覧の最大数を指定してください。詳細は戻り値 TRAYS を参照してください。

PMSERVERADDR

印刷管理サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

PMSERVERADDR パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

PMSERVERPORT

印刷管理サーバのポート番号を指定します。

PMSERVERPORT パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては，「11.5.1　エラー情報一覧」を参照してください。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合，エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は，空白が設定されます。

TRAYNUM

取得されたトレイ数が格納されます。

TRAYS

パラメタ TRAYNUM に設定された n 個分のトレイ情報を，戻り値 TRAYNAME に格納します。OS 上のプリンタのトレイ数が n 個に満たない場合は，戻り値 TRAYNUM に取得された個数のトレイ情報が返され，戻り値 TRAYNUM+1 番目以降の領域は不定になります。OS 上のプリンタのトレイ数が n 個より多い場合は，パラメタ TRAYNUM に指定した n 個のトレイ情報が返されます。

TRAYNAME

OS 上のプリンタのトレイ名が設定されます。

呼び出し例

OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得する，呼び出し例を次に示します。

```
------------------宣言部------------------
01 EURPMPARAMDESTNAME.
  02 DESTNAME        PIC X(80) VALUE SPACE.
  02 FILLER          X(1) VALUE LOW-VALUE.
01 EURPMPARAMPRINTERNAME.
  02 PRINTERNAME     PIC X(80) VALUE SPACE.
  02 FILLER          X(1) VALUE LOW-VALUE.
01 EURPMPARAMTRAY.
  02 FILLER          PIC X(4) VALUE '0770'.
  02 FILLER          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
```

```
  02 ERRORMESSAGE   PIC X(256) VALUE SPACE.
  02 FILLER         PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 FILLER         PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
  02 TRAYNUM        PIC 9(9) COMP-X VALUE 120.
  02 TRAYS          OCCURS 120 TIMES.
    03 TRAYNAME     PIC X(80) VALUE SPACE.
    03 FILLER       PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
    03 FILLER       PIC X(3) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERADDR   PIC X(15) VALUE SPACE.
  02 FILLER         PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  02 PMSERVERPORT   PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
01 RTNCODE          PIC S9(9) BINARY.
------------------実行部------------------
DISPLAY '＜トレイ一覧(GetTrayList)＞'
MOVE 'SERVER1' TO DESTNAME
DISPLAY DESTNAME
MOVE 'PRINTER1' TO PRINTERNAME
DISPLAY PRINTERNAME
CALL ' GetTrayList ' USING BY REFERENCE EURPMPARAMDESTNAME
                                        EURPMPARAMPRINTERNAME
                                        EURPMPARAMTRAY
                      RETURNING RTNCODE
DISPLAY RTNCODE
IF RTNCODE = ZERO
THEN
  DISPLAY '正常終了'
  DISPLAY TRAYNUM
  PERFORM VARYING IX1 FROM 1 BY 1 UNTIL IX1 > TRAYNUM
    DISPLAY TRAYNAME (IX1)
  END-PERFORM
ELSE
  DISPLAY 'エラー発生'
  DISPLAY ERRORMESSAGE
END-IF
```

OutputEPFReport 関数

EPF 形式ファイルを出力します。EPF 形式ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに EPFFILENAME パラメタと EPFFILEPATH パラメタの指定値に従って出力されます。

形式

```
WORKING-STORAGE SECTION.
01 EURPMPARAM.
        02  FILLER                      PIC X(4) VALUE '0850'.
        02  PRINTSTARTPAGE              PIC 9(9) COMP-X.
        02  PRINTENDPAGE                PIC 9(9) COMP-X.
        02  REPORTSETFILE               PIC X(256).
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  MULTIFORMINFO               PIC X(256).
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  EPFFILENAME                 PIC X(256).
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
```

```
02  REPORTSET.
  03  REPORTNAME                PIC X(256).
  03  FILLER                    PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  03  MAPPINGDATA               PIC X(256).
  03  FILLER                    PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  03  USERDEFDATA               PIC X(256).
  03  FILLER                    PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  ERRORMESSAGE                PIC X(256).
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  MAPPINGDATAPATH             PIC X(256).
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  USERDEFDATAPATH             PIC X(256).
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  REPORTSETFILEPATH           PIC X(256).
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  REPORTFILEPATH              PIC X(256).
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  MULTIFORMINFOPATH           PIC X(256).
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  DOCINFOFILE                 PIC X(256).
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  DOCINFOFILEPATH             PIC X(256).
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  EPFFILEPATH                 PIC X(256).
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  PAGENUMBERFORMAT            PIC X(80).
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  FILLER                      PIC X(3) VALUE LOW-VALUE.
02  PRINTCOPIES                 PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  SORTPRINT                   PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  PAPERORIENTATION            PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  PRINTPAGENUMBER             PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  PAGENUMBERLOCATION          PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  FIRSTPAGENUMBER             PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  INITPAGENUMBER              PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  DBINFOFILENAME              PIC X(256).
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  DBINFOFILEPATH              PIC X(256).
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  PRINTERCLASSNAME            PIC X(80).
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  REPLACEITEMCNTLFILENAME     PIC X(256).
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  REPLACEITEMCNTLFILEPATH     PIC X(256).
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  FILLER                      PIC X(3) VALUE LOW-VALUE.
02  PMSERVERADDR                PIC X(15) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  PMSERVERPORT                PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  PSENVFILENAME               PIC X(256).
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  PSENVFILEPATH               PIC X(256).
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  FILLER                      PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02  PRINTDATEFILENAME           PIC X(256).
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  PRINTDATEFILEPATH           PIC X(256).
```

```
        02  FILLER                         PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  FILLER                         PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
01 RTNCODE                                 PIC S9(9) BINARY.

call 'OutputEPFReport'  USING  EURPMPARAM
RETURNING  RTNCODE.
```

パラメタ

PRINTSTARTPAGE

印刷開始ページを指定します。指定できる値は，0 ～ 999,999 です。

PRINTSTARTPAGE パラメタを省略する場合は，0 を指定します。
PRINTSTARTPAGE パラメタの指定を省略した場合は，1 ページから印刷されます。

REPORTSETFILE パラメタを指定した場合，PRINTSTARTPAGE パラメタの指定は無視されます。

複数の帳票ファイルを指定した場合は，PRINTSTARTPAGE パラメタの指定に関係なく，指定した複数の帳票ファイルの全ページが印刷されます。

PRINTENDPAGE

印刷終了ページを指定します。指定できる値は，0 ～ 999,999 です。

PRINTENDPAGE パラメタを省略する場合は，0 を指定します。PRINTENDPAGE パラメタを省略した場合は，最終ページまで印刷されます。

REPORTSETFILE パラメタを指定した場合，PRINTENDPAGE パラメタの指定は無視されます。

複数の帳票ファイルを指定した場合は，PRINTENDPAGE パラメタの指定に関係なく，指定した複数の帳票ファイルの全ページが印刷されます。

REPORTSETFILE

帳票セット指定ファイル名を指定します。

REPORTSETFILE パラメタ，または REPORTNAME パラメタのどちらかは，必ず指定してください。

帳票セット指定ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPORTSETFILE パラメタを省略する場合は，空白を指定します。ただし，REPORTSETFILE パラメタを省略する場合は，REPORTSET パラメタは省略しないでください。

帳票セット指定ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

MULTIFORMINFO

複数様式情報定義ファイル名を指定します。複数様式で帳票を出力する場合は，必ず指定してください。

MULTIFORMINFO パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，複数様式情報定義ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの MULTI キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，MULTIFORMINFOPATH パラメタに指定することもできます。
MULTIFORMINFOPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの MULTI キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの MULTI キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの MULTI キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

複数様式情報定義ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

複数様式情報定義ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

EPFFILENAME

出力する EPF 形式ファイル名を指定します。EPF 形式ファイルを出力する場合は，必ず指定してください。

EPF 形式ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

EPF 形式ファイルの拡張子は，*.epf です。EPF 形式ファイル名は，拡張子を含めて指定してください。ただし，出力した EPF 形式ファイルを使用してヘルパクライアント印刷するときは，次に示す拡張子で EPF 形式ファイル名を指定してください。

- EPF 形式ファイルをプレビューする場合：*.epf
- EPF 形式ファイルをプリンタ印刷する場合：*.epp

REPORTSET

帳票セットの親項目です。

REPORTNAME

帳票ファイル名を指定します。帳票ファイル名（*.fms）を指定してください。

REPORTNAME パラメタ，または REPORTSETFILE パラメタのどちらかは，必ず指定してください。

REPORTNAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，帳票ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，REPORTFILEPATH パラメタに指定することもできます。REPORTFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの FORM キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの FORM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

帳票ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

帳票ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

MAPPINGDATA

マッピングデータファイル名，または可変記号値定義ファイル名を指定します。

MAPPINGDATA パラメタには，REPORTNAME パラメタで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を指定します。なお，指定できるファイル名は，一つだけです。

MAPPINGDATA パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

マッピングデータファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

USERDEFDATA

ユーザ定義データファイル名または可変記号値定義ファイル名を指定します。

USERDEFDATA パラメタには，REPORTNAME パラメタで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を指定します。指定するファイル名は，REPORTNAME パラメタで指定したファイル名と同じ数を指定してください。

USERDEFDATA パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

ユーザ定義データファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

MAPPINGDATAPATH

MAPPINGDATA パラメタまたは帳票セット指定ファイルで指定するマッピングデータファイルのパス，もしくは可変記号値定義ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，MAPPINGDATA パラメタで指定したファイルのパスとなります。

MAPPINGDATA パラメタをフルパスで指定した場合は，MAPPINGDATAPATH パラメタを指定する必要はありません。MAPPINGDATAPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

パスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

USERDEFDATAPATH

USERDEFDATA パラメタで指定するユーザ定義データファイルのパス，または可変記号値定義ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，USERDEFDATA パラメタで指定したファイルのパスとなります。

USERDEFDATA パラメタをフルパスで指定した場合は，USERDEFDATAPATH パラメタを指定する必要はありません。USERDEFDATAPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

パスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPORTSETFILEPATH

REPORTSETFILE パラメタで指定する帳票セット指定ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，REPORTSETFILE パラメタで指定したファイルのパス

となります。

REPORTSETFILE パラメタをフルパスで指定した場合は，REPORTSETFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。REPORTSETFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

帳票セット指定ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPORTFILEPATH

REPORTNAME パラメタで指定する帳票ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，REPORTNAME パラメタで指定したファイルのパスとなります。

REPORTNAME パラメタをフルパスで指定した場合は，REPORTFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。REPORTFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

帳票ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

MULTIFORMINFOPATH

MULTIFORMINFO パラメタで指定する複数様式情報定義ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，MULTIFORMINFO パラメタで指定したファイルのパスとなります。

MULTIFORMINFO パラメタをフルパスで指定した場合は，MULTIFORMINFOPATH パラメタを指定する必要はありません。MULTIFORMINFOPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

複数様式情報定義ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

DOCINFOFILE

文書情報設定ファイル名を指定します。

DOCINFOFILE パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，文書情報設定ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，DOCINFOFILEPATH パラメタに指定することもできます。DOCINFOFILEPATH パラ

メタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DOCINFO キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DOCINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

文書情報設定ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

文書情報設定ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

DOCINFOFILEPATH

DOCINFOFILE パラメタで指定した文書情報設定ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，DOCINFOFILE パラメタで指定したファイルのパスとなります。

DOCINFOFILE パラメタをフルパスで指定した場合は，DOCINFOFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。DOCINFOFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

文書情報設定ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

EPFFILEPATH

EPFFILENAME パラメタで指定した EPF 形式ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，EPFFILENAME パラメタで指定したファイルのパスとなります。

EPFFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，EPFFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。EPFFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

EPF 形式ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PAGENUMBERFORMAT

ページ番号のフォーマットを指定します。ページ番号を「*」，最終ページ番号を「$」で示して出力形式を指定します。

ページ番号および最終ページ番号を全角で表示したいときは全角の記号で，半角で表示したいときは半角の記号で指定します。

ページ番号のフォーマットが 80 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。

PAGENUMBERFORMAT パラメタは，PRINTPAGENUMBER パラメタに 1 が指定されている場合だけ有効になります。ただし，MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は，PAGENUMBERFORMAT パラメタの設定値は無視されます。

PAGENUMBERFORMAT パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

PRINTCOPIES

印刷部数を指定します。指定できる値は，1 ～ 99 です。

PRINTCOPIES パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。PRINTCOPIES パラメタの指定を省略した場合は，1 が仮定されます。

SORTPRINT

印刷部数の単位を指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：部単位で出力します。
- 1：ページ単位で出力します。

SORTPRINT パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。SORTPRINT パラメタの指定を省略した場合は，0 が仮定されます。

複数帳票を出力する場合は，SORTPRINT パラメタの指定に関係なく 0 が仮定されます。

PAPERORIENTATION

用紙の向きを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：帳票を定義したときの情報に従います。
- 1：用紙の向きを縦にして出力します。
- 2：用紙の向きを横にして出力します。

PAPERORIENTATION パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。
PAPERORIENTATION パラメタの指定を省略した場合は，0 が仮定されます。

複数帳票を出力する場合は，PAPERORIENTATION パラメタの指定に関係なく，0 が仮定されます。

PRINTPAGENUMBER

余白へのページ番号印刷を指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：余白へのページ番号は出力しません。
- 1：余白へのページ番号を出力します。

PRINTPAGENUMBER パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。
PRINTPAGENUMBER パラメタの指定を省略した場合は，0 が仮定されます。

ただし，MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は，PRINTPAGENUMBER パラメタの設定値は無視されます。

PAGENUMBERLOCATION

余白へのページ番号の印刷位置を指定します。

PAGENUMBERLOCATION パラメタは，PRINTPAGENUMBER パラメタに 1 が指定されている場合だけ有効になります。ただし，MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は，PAGENUMBERLOCATION パラメタの設定値は無視されます。

指定できる値を次に示します。

- 1：ページ番号を左上に出力します。
- 2：ページ番号を中央上に出力します。
- 3：ページ番号を右上に出力します。
- 4：ページ番号を左下に出力します。
- 5：ページ番号を中央下に出力します。
- 6：ページ番号を右下に出力します。

PAGENUMBERLOCATION パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。

FIRSTPAGENUMBER

ページ番号の初期値を指定します。指定できる値は，1 ～ 999,999 です。

FIRSTPAGENUMBER パラメタは，PRINTPAGENUMBER パラメタに 1 が指定されている場合だけ有効になります。ただし，MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は，FIRSTPAGENUMBER パラメタの設定値は無視されます。

FIRSTPAGENUMBER パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。
FIRSTPAGENUMBER パラメタの指定を省略した場合は，1 が仮定されます。

INITPAGENUMBER

改ページのキーが設定されている場合，そのキーがブレイクするごとにページ番号の開始番号を初期化するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：初期化しません。
- 1：初期化します。

INITPAGENUMBER パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。
INITPAGENUMBER パラメタの指定を省略した場合は，出力する帳票の属性に従います。帳票の属性の初期値は，0 が仮定されます。

ただし，MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は，INITPAGENUMBER パラメタの設定値は無視されます。

DBINFOFILENAME

接続情報ファイル名を指定します。

DBINFOFILENAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，接続情報ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，DBINFOFILEPATH パラメタに指定することもできます。DBINFOFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DBINFO キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DBINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

接続情報ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

接続情報ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

DBINFOFILEPATH

DBINFOFILENAME パラメタで指定した接続情報ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，DBINFOFILENAME パラメタで指定したファイルのパスとなります。

DBINFOFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，DBINFOFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。DBINFOFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

接続情報ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PRINTERCLASSNAME

プリンタクラス名を指定します。

次のことに注意して，プリンタクラス名を指定してください。

- 指定するプリンタクラス名が，80 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。
- プリンタクラス名には「"」および「,」を含めないでください。

印刷方法ごとに指定するプリンタクラス名を次に示します。

- 拠点サーバでの印刷
  拠点プリンタクラス定義ファイルに設定してある拠点プリンタクラス名
- クライアント PC での対話型印刷
  クライアントプリンタクラス定義ファイルに設定してあるクライアントプリンタクラス名
- クライアント PC での自動印刷
  クライアントプリンタクラス定義ファイルに設定してあるクライアントプリンタクラス名
- クライアント PC での対話型印刷プレビュー表示
  クライアントプリンタクラス定義ファイルに設定してあるクライアントプリンタクラス名
- クライアント PC での全自動印刷
  クライアントプリンタクラス定義ファイルに設定してあるクライアントプリンタクラス名

PRINTERCLASSNAME パラメタを省略する場合は，空白を設定します。

REPLACEITEMCNTLFILENAME

置き換え表管理情報ファイル名を指定します。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，置き換え表管理情報ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタに指定することもできます。
REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの REPLACEITEM キーには

指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

置き換え表管理情報ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

置き換え表管理情報ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

REPLACEITEMCNTLFILEPATH

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタで指定した置き換え表管理情報ファイルのパスを指定します。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。
REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

置き換え表管理情報ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PMSERVERADDR

印刷管理サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

PMSERVERADDR パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

PMSERVERPORT

印刷管理サーバのポート番号を指定します。

PMSERVERPORT パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。

PSENVFILENAME

EUR Print Service の動作環境を印刷ジョブごとに変更する場合に，EUR Print Service の環境設定ファイル名を指定します。

EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で，OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，PSENVFILENAME パラメタは，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは，PSENVFILEPATH パラメタに指定することもできます。PSENVFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PSENV キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PSENV キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

EUR Print Service の環境設定ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PSENVFILENAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

PSENVFILEPATH

PSENVFILENAME パラメタで指定した EUR Print Service の環境設定ファイルのパスを指定します。

PSENVFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，PSENVFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。PSENVFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PRINTDATEFILENAME

印刷日時出力定義ファイル名を指定します。

EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で，OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，PRINTDATEFILENAME パラメタは，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの PRINTDATE キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは，PRINTDATEFILEPATH パラメタに指定することもできます。
PRINTDATEFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PRINTDATE キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PRINTDATE キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PRINTDATE キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

印刷日時出力定義ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PRINTDATEFILENAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

印刷日時出力定義ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

PRINTDATEFILEPATH

PRINTDATEFILENAME パラメタで指定した印刷日時出力定義ファイルのパスを指定します。

PRINTDATEFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，
PRINTDATEFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。
PRINTDATEFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

印刷日時出力定義ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては，「11.5.1　エラー情報一覧」を参照してください。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合，エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してくださ

い。

エラーが発生しなかった場合は，空白が設定されます。

エラーメッセージ

EUR Print Service と連携して使用するパラメタでエラーが発生した場合は，次のエラーメッセージが出力されます。メッセージが表示されたときは，EUR Print Service のイベントログ，または eurps ログを参照してください。

メッセージ ID	メッセージ
KEEY225-E	EPF 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(337)

OutputEURReport 関数

EUR 形式ファイルを出力します。EUR 形式ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに EURFILENAME パラメタと EURFILEPATH パラメタの指定値に従って出力されます。

形式

```
WORKING-STORAGE SECTION.
01 EURPMPARAM.
        02  FILLER                     PIC X(4) VALUE '0820'.
        02  REPORTSETFILE              PIC X(256).
        02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  MULTIFORMINFO              PIC X(256).
        02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  EURFILENAME                PIC X(256).
        02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  REPORTSET.
          03  REPORTNAME               PIC X(256).
          03  FILLER                   PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
          03  MAPPINGDATA              PIC X(256).
          03  FILLER                   PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
          03  USERDEFDATA              PIC X(256).
          03  FILLER                   PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  ERRORMESSAGE               PIC X(256).
        02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  MAPPINGDATAPATH            PIC X(256).
        02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  USERDEFDATAPATH            PIC X(256).
        02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  REPORTSETFILEPATH          PIC X(256).
        02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  REPORTFILEPATH             PIC X(256).
        02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  MULTIFORMINFOPATH          PIC X(256).
        02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  DOCINFOFILE                PIC X(256).
        02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
```

```
        02  DOCINFOFILEPATH             PIC X(256).
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  EURFILEPATH                 PIC X(256).
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  DBINFOFILENAME              PIC X(256).
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  DBINFOFILEPATH              PIC X(256).
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  REPLACEITEMCNTLFILENAME     PIC X(256).
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  REPLACEITEMCNTLFILEPATH     PIC X(256).
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  PMSERVERADDR                PIC X(15) VALUE SPACE.
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  PMSERVERPORT                PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
        02  PSENVFILENAME               PIC X(256).
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  PSENVFILEPATH               PIC X(256).
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  FILLER                      PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
01 RTNCODE                              PIC S9(9) BINARY.

call 'OutputEURReport'  USING  EURPMPARAM
RETURNING  RTNCODE.
```

パラメタ

REPORTSETFILE

帳票セット指定ファイル名を指定します。

REPORTSETFILE パラメタ，または REPORTNAME パラメタのどちらかは，必ず指定してください。

帳票セット指定ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPORTSETFILE パラメタを省略する場合は，空白を指定します。ただし，REPORTSETFILE パラメタを省略する場合は，REPORTSET パラメタは省略しないでください。

帳票セット指定ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

MULTIFORMINFO

複数様式情報定義ファイル名を指定します。複数様式で帳票を出力する場合は，必ず指定してください。

MULTIFORMINFO パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，複数様式情報定義ファイル名は，ファイル名だけを指

定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの MULTI キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，MULTIFORMINFOPATH パラメタに指定することもできます。
MULTIFORMINFOPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの MULTI キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの MULTI キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの MULTI キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

複数様式情報定義ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

複数様式情報定義ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

EURFILENAME

出力する EUR 形式ファイル名を指定します。EUR 形式ファイルを出力する場合は，必ず指定してください。

EUR 形式ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPORTSET

帳票セットの親項目です。

REPORTNAME

帳票ファイル名を指定します。帳票ファイル名（*.fms）を指定してください。

REPORTNAME パラメタ，または REPORTSETFILE パラメタのどちらかは，必ず指定してください。

REPORTNAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，帳票ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，REPORTFILEPATH パラメタに指定することもできます。REPORTFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの FORM キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの FORM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

帳票ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

帳票ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

MAPPINGDATA

マッピングデータファイル名，または可変記号値定義ファイル名を指定します。

MAPPINGDATA パラメタには，REPORTNAME パラメタで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を指定します。なお，指定できるファイル名は，一つだけです。

MAPPINGDATA パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

マッピングデータファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

USERDEFDATA

ユーザ定義データファイル名または可変記号値定義ファイル名を指定します。

USERDEFDATA パラメタには，REPORTNAME パラメタで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を指定します。指定するファイル名は，REPORTNAME パラメタで指定したファイル名と同じ数を指定してください。

USERDEFDATA パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

ユーザ定義データファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してく

ださい。

MAPPINGDATAPATH

MAPPINGDATA パラメタまたは帳票セット指定ファイルで指定するマッピングデータファイルのパス，もしくは可変記号値定義ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，MAPPINGDATA パラメタで指定したファイルのパスとなります。

MAPPINGDATA パラメタをフルパスで指定した場合は，MAPPINGDATAPATH パラメタを指定する必要はありません。MAPPINGDATAPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

パスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

USERDEFDATAPATH

USERDEFDATA パラメタで指定するユーザ定義データファイルのパス，または可変記号値定義ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，USERDEFDATA パラメタで指定したファイルのパスとなります。

USERDEFDATA パラメタをフルパスで指定した場合は，USERDEFDATAPATH パラメタを指定する必要はありません。USERDEFDATAPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

パスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPORTSETFILEPATH

REPORTSETFILE パラメタで指定する帳票セット指定ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，REPORTSETFILE パラメタで指定したファイルのパスとなります。

REPORTSETFILE パラメタをフルパスで指定した場合は，REPORTSETFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。REPORTSETFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

帳票セット指定ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPORTFILEPATH

REPORTNAME パラメタで指定する帳票ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，REPORTNAME パラメタで指定したファイルのパスとなります。

REPORTNAME パラメタをフルパスで指定した場合は，REPORTFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。REPORTFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

帳票ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

MULTIFORMINFOPATH

MULTIFORMINFO パラメタで指定する複数様式情報定義ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，MULTIFORMINFO パラメタで指定したファイルのパスとなります。

MULTIFORMINFO パラメタをフルパスで指定した場合は，MULTIFORMINFOPATH パラメタを指定する必要はありません。MULTIFORMINFOPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

複数様式情報定義ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

DOCINFOFILE

文書情報設定ファイル名を指定します。

DOCINFOFILE パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，文書情報設定ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，DOCINFOFILEPATH パラメタに指定することもできます。DOCINFOFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DOCINFO キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DOCINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

文書情報設定ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

文書情報設定ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

DOCINFOFILEPATH

DOCINFOFILE パラメタで指定した文書情報設定ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，DOCINFOFILE パラメタで指定したファイルのパスとなります。

DOCINFOFILE パラメタをフルパスで指定した場合は，DOCINFOFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。DOCINFOFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

文書情報設定ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

EURFILEPATH

EURFILENAME パラメタで指定した EUR 形式ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，EURFILENAME パラメタで指定したファイルのパスとなります。

EUR 形式ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

EURFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，このパラメタを指定する必要はありません。このパラメタを省略する場合は，空白を指定します。

DBINFOFILENAME

接続情報ファイル名を指定します。

DBINFOFILENAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，接続情報ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，DBINFOFILEPATH パラメタに指定することもできます。DBINFOFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DBINFO キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DBINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。

- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

接続情報ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

接続情報ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

DBINFOFILEPATH

DBINFOFILENAME パラメタで指定した接続情報ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，DBINFOFILENAME パラメタで指定したファイルのパスとなります。

DBINFOFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，DBINFOFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。DBINFOFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

接続情報ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPLACEITEMCNTLFILENAME

置き換え表管理情報ファイル名を指定します。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，置き換え表管理情報ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタに指定することもできます。
REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの REPLACEITEM キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

置き換え表管理情報ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

置き換え表管理情報ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

REPLACEITEMCNTLFILEPATH

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタで指定した置き換え表管理情報ファイルのパスを指定します。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。
REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

置き換え表管理情報ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PMSERVERADDR

印刷管理サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

PMSERVERADDR パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

PMSERVERPORT

印刷管理サーバのポート番号を指定します。

PMSERVERPORT パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。

PSENVFILENAME

EUR Print Service の動作環境を印刷ジョブごとに変更する場合に，EUR Print Service の環境設定ファイル名を指定します。

EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で，OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，PSENVFILENAME パラメタは，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは，PSENVFILEPATH パラメタに指定することもできます。PSENVFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PSENV キーには指定が要

りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PSENV キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

EUR Print Service の環境設定ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PSENVFILENAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

PSENVFILEPATH

PSENVFILENAME パラメタで指定した EUR Print Service の環境設定ファイルのパスを指定します。

PSENVFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，PSENVFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。PSENVFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては，「11.5.1　エラー情報一覧」を参照してください。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合，エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は，空白が設定されます。

エラーメッセージ

EUR Print Service と連携して使用するパラメタでエラーが発生した場合は，次のエラーメッセージが出力されます。メッセージが表示されたときは，EUR Print Service のイベ

ントログ，または eurps ログを参照してください。

メッセージ ID	メッセージ
KEEY243-E	EUR 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(337)

OutputMergeEPFReport 関数

複数の EPF 形式ファイルを統合して出力します。

形式

```
WORKING-STORAGE SECTION.
01 EURPMPARAM.
        02  FILLER                        PIC X(4) VALUE '0810'.
        02  PRINTCOPIES                   PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
        02  SORTPRINT                     PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
        02  PAPERORIENTATION              PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
        02  MERGEEPFFILEPATH              PIC X(256).
        02  FILLER                        PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  EPFFILENAME                   PIC X(256).
        02  FILLER                        PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  EPFFILEPATH                   PIC X(256).
        02  FILLER                        PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  SPOOLTITLE                    PIC X(256).
        02  FILLER                        PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  PRINTERCLASSNAME              PIC X(80).
        02  FILLER                        PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  ERRORMESSAGE                  PIC X(256) VALUE SPACE.
        02  FILLER                        PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  PMSERVERADDR                  PIC X(15) VALUE SPACE.
        02  FILLER                        PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  FILLER                        PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
        02  PMSERVERPORT                  PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
        02  EPFFILESSIZE                  PIC S9(9) COMP-X VALUE n.
        02  EPFFILES                      OCCURS n TIMES.
          03  MERGEEPFFILENAME            PIC X(256).
          03  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
          03  FILLER                      PIC X(3) VALUE LOW-VALUE.
01 RTNCODE                               PIC S9(9) BINARY.

call 'OutputMergeEPFReport'  USING  EURPMPARAM
RETURNING  RTNCODE.
```

パラメタ

PRINTCOPIES

印刷部数を指定します。指定できる値は，1 ～ 99 です。

PRINTCOPIES パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。PRINTCOPIES パラメタの指定を省略した場合は，1 が仮定されます。

SORTPRINT

印刷部数の単位を指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：部単位で出力します。
- 1：ページ単位で出力します。

SORTPRINT パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。SORTPRINT パラメタの指定を省略した場合は，0 が仮定されます。

PAPERORIENTATION

用紙の向きを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：統合する EPF 形式ファイルのページごとの属性に従います。
- 1：用紙の向きを縦にして出力します。
- 2：用紙の向きを横にして出力します。

PAPERORIENTATION パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。
PAPERORIENTATION パラメタの指定を省略した場合は，0 が仮定されます。

MERGEEPFFILEPATH

MERGEEPFFILENAME パラメタで指定した EPF 形式ファイルのパスを指定します。

MERGEEPFFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，
MERGEEPFFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。

MERGEEPFFILEPATH パラメタを省略したい場合は，空白を指定します。

EPF 形式ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

EPFFILENAME

出力する EPF 形式ファイル名を指定します。必ず指定してください。

EPF 形式ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

EPF 形式ファイルの拡張子は，*.epf です。EPF 形式ファイル名は，拡張子を含めて指定してください。ただし，出力した EPF 形式ファイルを使用してヘルパクライアント印刷するときは，次に示す拡張子で EPF 形式ファイル名を指定してください。

- EPF 形式ファイルをプレビューする場合：*.epf
- EPF 形式ファイルをプリンタ印刷する場合：*.epp

EPFFILEPATH

EPFFILENAME パラメタで指定した EPF 形式ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，EPFFILENAME パラメタで指定したファイルのパスとなります。

EPFFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，EPFFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。EPFFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

EPF 形式ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

SPOOLTITLE

次のことに注意して，スプールタイトルを指定してください。

- 指定するスプールタイトルが，255 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。
- スプールタイトルには「"」および「,」を含めないでください。

SPOOLTITLE パラメタを省略する場合は，空白を設定します。

SPOOLTITLE パラメタを省略したときや 0 バイトの値を指定したときは，統合後の EPF 形式ファイルのスプールタイトル情報は未設定となります。スプールタイトル情報が未設定の場合，印刷時のスプールタイトルには最初に指定する EPF 形式ファイルの帳票ファイル名が出力されます。

PRINTERCLASSNAME

クライアントプリンタクラス定義ファイルに設定してあるクライアントプリンタクラス名を指定します。ただし，統合後の EPF 形式ファイルをクライアント PC に配布して印刷する場合は指定しないでください。

次のことに注意して，プリンタクラス名を指定してください。

- 指定するプリンタクラス名が，80 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。
- プリンタクラス名には「"」および「,」を含めないでください。

PRINTERCLASSNAME パラメタを省略する場合は，空白を設定します。

PRINTERCLASSNAME パラメタを省略したときや 0 バイトの値を指定したときは，統合対象の EPF 形式ファイルにプリンタクラス名情報が設定されていても，統合後の EPF 形式ファイルのプリンタクラス名情報は未設定となります。

PMSERVERADDR

印刷管理サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

PMSERVERADDR パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

PMSERVERPORT

印刷管理サーバのポート番号を指定します。

PMSERVERPORT パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。

EPFFILESSIZE

統合対象の EPF 形式ファイルの最大数を，2 ～ 10,000 の範囲で指定します。必ず指定してください。

なお，EPFFILESSIZE パラメタに指定した値と同じ値を，EPFFILES パラメタの配列数に設定してください。

EPFFILES

統合対象の EPF 形式ファイル名情報を設定します。

EPFFILES パラメタの配列数 n には，EPFFILESSIZE パラメタに指定した値と同じ値（統合対象の EPF 形式ファイルの最大数）を設定してください。

MERGEEPFFILENAME

統合対象の EPF 形式ファイル名を指定します。必ず指定してください。

EPF 形式ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

EPF 形式ファイルの拡張子は，*.epf です。EPF 形式ファイル名は，拡張子を含めて指定してください。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては，「11.5.1　エラー情報一覧」を参照してください。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合，エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は，空白が設定されます。

OutputPDFReport 関数

PDF 形式ファイルを出力します。PDF 形式ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンまたは EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに，FILEOUTPUTDESTINATION

パラメタ，PDFFILENAME パラメタ，および PDFFILEPATH パラメタの指定値に従って出力されます。ただし，PDF 仕分け定義ファイル（DISTRIBUTEFILENAME パラメタ）が指定されている場合は，PDF 仕分け定義ファイルに記述されている出力先ファイル名に従って，EUR Print Manager が稼働するマシンに PDF 形式ファイルを出力します。

形式

```
WORKING-STORAGE SECTION.
01 EURPMPARAM.
        02  FILLER                      PIC X(4) VALUE '0830'.
        02  SERVERNAME                  PIC X(80).
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  FILLER                      PIC X(3) VALUE LOW-VALUE.
        02  PRINTSTARTPAGE              PIC 9(9) COMP-X.
        02  PRINTENDPAGE                PIC 9(9) COMP-X.
        02  REPORTSETFILE               PIC X(256).
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  MULTIFORMINFO               PIC X(256).
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  DOCBOOKMARKFILE             PIC X(256).
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  PDFFILENAME                 PIC X(256).
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  REPORTSET.
          03  REPORTNAME                PIC X(256).
          03  FILLER                    PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
          03  MAPPINGDATA               PIC X(256).
          03  FILLER                    PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
          03  USERDEFDATA               PIC X(256).
          03  FILLER                    PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
          03  BOOKMARKFILE              PIC X(256).
          03  FILLER                    PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  ERRORMESSAGE                PIC X(256).
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  MAPPINGDATAPATH             PIC X(256).
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  USERDEFDATAPATH             PIC X(256).
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  BOOKMARKFILEPATH            PIC X(256).
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  REPORTSETFILEPATH           PIC X(256).
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  CRYPTOFILENAME              PIC X(256).
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  CRYPTOFILEPATH              PIC X(256).
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  DOCINFOFILE                 PIC X(256).
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  DOCINFOFILEPATH             PIC X(256).
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  REPORTFILEPATH              PIC X(256).
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  MULTIFORMINFOPATH           PIC X(256).
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  PDFFILEPATH                 PIC X(256).
```

```
        02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  PAGENUMBERFORMAT                PIC X(80).
        02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  FILLER                          PIC X(3) VALUE LOW-VALUE.
        02  PRINTPAGENUMBER                 PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
        02  PAGENUMBERLOCATION              PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
        02  FIRSTPAGENUMBER                 PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
        02  INITPAGENUMBER                  PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
        02  CRYPTO                          PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
        02  DBINFOFILENAME                  PIC X(256).
        02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  DBINFOFILEPATH                  PIC X(256).
        02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  ENCRYPTIONPASSWORDKEY           PIC X(32).
        02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  REPLACEITEMCNTLFILENAME         PIC X(256).
        02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  REPLACEITEMCNTLFILEPATH         PIC X(256).
        02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  DISTRIBUTEFILENAME              PIC X(256).
        02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  DISTRIBUTEFILEPATH              PIC X(256).
        02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  SCRIPTCNTLFILENAME              PIC X(256).
        02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  SCRIPTCNTLFILEPATH              PIC X(256).
        02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  VIEWERPREFERENCEFILENAME        PIC X(256).
        02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  VIEWERPREFERENCEFILEPATH        PIC X(256).
        02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  PMSERVERADDR                    PIC X(15) VALUE SPACE.
        02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  PMSERVERPORT                    PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
        02  PSENVFILENAME                   PIC X(256).
        02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  PSENVFILEPATH                   PIC X(256).
        02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  FILLER                          PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
        02  FILEOUTPUTDESTINATION           PIC S9(9) COMP-X VALUE -1.
01 RTNCODE                                  PIC S9(9) BINARY.

call 'OutputPDFReport'  USING  EURPMPARAM
RETURNING  RTNCODE.
```

パラメタ

SERVERNAME

指定しても無視されます。

PRINTSTARTPAGE

印刷開始ページを指定します。指定できる値は，0 ～ 999,999 です。

PRINTSTARTPAGE パラメタを省略する場合は，0 を指定します。

PRINTSTARTPAGE パラメタの指定を省略した場合は，1 ページから印刷されます。

REPORTSETFILE パラメタを指定した場合，PRINTSTARTPAGE パラメタの指定は無視されます。

複数の帳票ファイルを指定した場合は，PRINTSTARTPAGE パラメタの指定に関係なく，指定した複数の帳票ファイルの全ページが印刷されます。

PRINTENDPAGE

印刷終了ページを指定します。指定できる値は，0 ～ 999,999 です。

PRINTENDPAGE パラメタを省略する場合は，0 を指定します。PRINTENDPAGE パラメタを省略した場合は，最終ページまで印刷されます。

REPORTSETFILE パラメタを指定した場合，PRINTENDPAGE パラメタの指定は無視されます。

複数の帳票ファイルを指定した場合は，PRINTENDPAGE パラメタの指定に関係なく，指定した複数の帳票ファイルの全ページが印刷されます。

REPORTSETFILE

帳票セット指定ファイル名を指定します。

REPORTSETFILE パラメタ，または REPORTNAME パラメタのどちらかは，必ず指定してください。

帳票セット指定ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPORTSETFILE パラメタを省略する場合は，空白を指定します。ただし，REPORTSETFILE パラメタを省略する場合は，REPORTSET パラメタは省略しないでください。

帳票セット指定ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

MULTIFORMINFO

複数様式情報定義ファイル名を指定します。複数様式で帳票を出力する場合は，必ず指定してください。

MULTIFORMINFO パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，複数様式情報定義ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの MULTI キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合

は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，MULTIFORMINFOPATH パラメタに指定することもできます。
MULTIFORMINFOPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの MULTI キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの MULTI キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの MULTI キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

複数様式情報定義ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

複数様式情報定義ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

DOCBOOKMARKFILE

文書しおり定義ファイル名を指定します。

文書しおり定義ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

このパラメタを省略する場合は，空白を指定します。

文書しおり定義ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

PDFFILENAME

出力する PDF 形式ファイル名を指定します。

PDFFILENAME パラメタ，または DISTRIBUTEFILENAME パラメタのどちらかは，必ず指定してください。PDFFILENAME パラメタと DISTRIBUTEFILENAME パラメタを同時に指定した場合は，PDFFILENAME パラメタの指定は無視されます。

FILEOUTPUTDESTINATION パラメタが 1（PDF 形式ファイルを EUR Print Manager 稼働マシンに出力する）の場合で，EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定しているときは，PDFFILENAME パラメタにはファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの PDF キーで設定しているフォルダに出力されます。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定しているとき

は，PDFFILENAME パラメタはフルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは，PDFFILEPATH パラメタに指定することもできます。PDFFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合の PDF 形式ファイルの出力先を次に示します。

- フルパスを指定する場合
  PDFFILENAME パラメタで指定したパスに出力されます。なお，環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PDF キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PDF キーで設定しているフォルダを起点とし，そこから PDFFILENAME パラメタで指定したパスに出力されます。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PDF キーで設定しているフォルダに，PDFFILENAME パラメタで指定したファイル名で出力されます。

PDF 形式ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPORTSET

帳票セットの親項目です。

REPORTNAME

帳票ファイル名を指定します。帳票ファイル名（*.fms）を指定してください。

REPORTNAME パラメタ，または REPORTSETFILE パラメタのどちらかは，必ず指定してください。

REPORTNAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，帳票ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，REPORTFILEPATH パラメタに指定することもできます。REPORTFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの FORM キーには指定が要りません。

- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの FORM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

帳票ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

帳票ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

MAPPINGDATA

マッピングデータファイル名，または可変記号値定義ファイル名を指定します。

MAPPINGDATA パラメタには，REPORTNAME パラメタで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を指定します。なお，指定できるファイル名は，一つだけです。

MAPPINGDATA パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

マッピングデータファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

USERDEFDATA

ユーザ定義データファイル名または可変記号値定義ファイル名を指定します。

USERDEFDATA パラメタには，REPORTNAME パラメタで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を指定します。指定するファイル名は，REPORTNAME パラメタで指定したファイル名と同じ数を指定してください。

USERDEFDATA パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

ユーザ定義データファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

BOOKMARKFILE

REPORTNAME パラメタで指定した帳票ファイルに対応したしおり定義ファイル名を指定します。

しおり定義ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

このパラメタを省略する場合は，空白を指定します。

しおり定義ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

MAPPINGDATAPATH

MAPPINGDATA パラメタまたは帳票セット指定ファイルで指定するマッピングデータファイルのパス，もしくは可変記号値定義ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，MAPPINGDATA パラメタで指定したファイルのパスとなります。

MAPPINGDATA パラメタをフルパスで指定した場合は，MAPPINGDATAPATH パラメタを指定する必要はありません。MAPPINGDATAPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

パスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

USERDEFDATAPATH

USERDEFDATA パラメタで指定するユーザ定義データファイルのパス，または可変記号値定義ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，USERDEFDATA パラメタで指定したファイルのパスとなります。

USERDEFDATA パラメタをフルパスで指定した場合は，USERDEFDATAPATH パラメタを指定する必要はありません。USERDEFDATAPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

パスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

BOOKMARKFILEPATH

BOOKMARKFILE パラメタで指定するしおり定義ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，BOOKMARKFILE パラメタで指定したファイルのパスとなります。

しおり定義ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

BOOKMARKFILE パラメタをフルパスで指定した場合は，このパラメタを指定する必要はありません。このパラメタを省略する場合は，空白を指定します。

REPORTSETFILEPATH

REPORTSETFILE パラメタで指定する帳票セット指定ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，REPORTSETFILE パラメタで指定したファイルのパスとなります。

REPORTSETFILE パラメタをフルパスで指定した場合は，REPORTSETFILEPATH パ

ラメタを指定する必要はありません。REPORTSETFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

帳票セット指定ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

CRYPTOFILENAME

暗号化設定ファイル名を指定します。

CRYPTOFILENAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

暗号化設定ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

暗号化設定ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

CRYPTOFILEPATH

CRYPTOFILENAME パラメタで指定する暗号化設定ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，CRYPTOFILENAME パラメタで指定したファイルのパスとなります。

CRYPTOFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，CRYPTOFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。CRYPTOFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

暗号化設定ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

DOCINFOFILE

文書情報設定ファイル名を指定します。

DOCINFOFILE パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，文書情報設定ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，DOCINFOFILEPATH パラメタに指定することもできます。DOCINFOFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DOCINFO キーには指定が要りません。

- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DOCINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

文書情報設定ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

文書情報設定ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

DOCINFOFILEPATH

DOCINFOFILE パラメタで指定した文書情報設定ファイルのパスを指定します。DOCINFOFILE パラメタをフルパスで指定した場合は，DOCINFOFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。DOCINFOFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

指定されたファイルのパスは，DOCINFOFILE パラメタで指定したファイルのパスとなります。

文書情報設定ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPORTFILEPATH

REPORTNAME パラメタで指定する帳票ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，REPORTNAME パラメタで指定したファイルのパスとなります。

REPORTNAME パラメタをフルパスで指定した場合は，REPORTFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。REPORTFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

帳票ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

MULTIFORMINFOPATH

MULTIFORMINFO パラメタで指定する複数様式情報定義ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，MULTIFORMINFO パラメタで指定したファイルのパスとなります。

MULTIFORMINFO パラメタをフルパスで指定した場合は，MULTIFORMINFOPATH パラメタを指定する必要はありません。MULTIFORMINFOPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

複数様式情報定義ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，

「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PDFFILEPATH

PDFFILENAME パラメタで指定した PDF 形式ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，PDFFILENAME パラメタで指定したファイルのパスとなります。

PDFFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，PDFFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。PDFFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

FILEOUTPUTDESTINATION パラメタが 1（PDF 形式ファイルを EUR Print Manager 稼働マシンに出力する）の場合で，かつ EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）の OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を指定している場合は，PDFFILEPATH パラメタの指定は無視されます。

PDF 形式ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PAGENUMBERFORMAT

ページ番号のフォーマットを指定します。ページ番号を「*」，最終ページ番号を「$」で示して出力形式を指定します。

ページ番号および最終ページ番号を全角で表示したいときは全角の記号で，半角で表示したいときは半角の記号で指定します。

ページ番号のフォーマットが 80 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。

PAGENUMBERFORMAT パラメタは，PRINTPAGENUMBER パラメタに 1 が指定されている場合だけ有効になります。ただし，MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は，PAGENUMBERFORMAT パラメタの設定値は無視されます。

PAGENUMBERFORMAT パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

PRINTPAGENUMBER

余白へのページ番号印刷を指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：余白へのページ番号は出力しません。
- 1：余白へのページ番号を出力します。

PRINTPAGENUMBER パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。
PRINTPAGENUMBER パラメタの指定を省略した場合は，0 が仮定されます。

ただし，MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は，PRINTPAGENUMBER パラメタの設定値は無視されます。

PAGENUMBERLOCATION

余白へのページ番号の印刷位置を指定します。

PAGENUMBERLOCATION パラメタは，PRINTPAGENUMBER パラメタに 1 が指定されている場合だけ有効になります。ただし，MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は，PAGENUMBERLOCATION パラメタの設定値は無視されます。

指定できる値を次に示します。

- 1：ページ番号を左上に出力します。
- 2：ページ番号を中央上に出力します。
- 3：ページ番号を右上に出力します。
- 4：ページ番号を左下に出力します。
- 5：ページ番号を中央下に出力します。
- 6：ページ番号を右下に出力します。

PAGENUMBERLOCATION パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。

FIRSTPAGENUMBER

ページ番号の初期値を指定します。指定できる値は，1 ～ 999,999 です。

FIRSTPAGENUMBER パラメタは，PRINTPAGENUMBER パラメタに 1 が指定されている場合だけ有効になります。ただし，MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は，FIRSTPAGENUMBER パラメタの設定値は無視されます。

FIRSTPAGENUMBER パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。
FIRSTPAGENUMBER パラメタの指定を省略した場合は，1 が仮定されます。

INITPAGENUMBER

改ページのキーが設定されている場合，そのキーがブレイクするごとにページ番号の開始番号を初期化するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：初期化しません。
- 1：初期化します。

INITPAGENUMBER パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。
INITPAGENUMBER パラメタの指定を省略した場合は，出力する帳票の属性に従います。帳票の属性の初期値は，0 が仮定されます。

ただし，MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は，INITPAGENUMBER パラメタの設定値は無視されます。

CRYPTO

PDF 形式ファイルを暗号化して出力するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：PDF 形式ファイルを暗号化しません。
- 1：PDF 形式ファイルを暗号化します。

CRYPTO パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。CRYPTO パラメタの指定を省略した場合は，0 が仮定されます。

DBINFOFILENAME

接続情報ファイル名を指定します。

DBINFOFILENAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，接続情報ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，DBINFOFILEPATH パラメタに指定することもできます。DBINFOFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DBINFO キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DBINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

接続情報ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

接続情報ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

DBINFOFILEPATH

DBINFOFILENAME パラメタで指定した接続情報ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，DBINFOFILENAME パラメタで指定したファイルのパスとなります。

DBINFOFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，DBINFOFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。DBINFOFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

接続情報ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

ENCRYPTIONPASSWORDKEY

オーナーパスワードとユーザーパスワードを暗号化した暗号化設定ファイルを使用して，暗号化した PDF 形式ファイルを出力するときにパスワード暗号化鍵を指定します。

パスワード暗号化鍵に指定できる文字は，次のとおりです。

- 半角数字
  0 ～ 9
- 半角英字
  A ～ Z，a ～ z

指定できるパスワード暗号化鍵の長さは，32 バイトまでです。32 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。

ENCRYPTIONPASSWORDKEY パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

REPLACEITEMCNTLFILENAME

置き換え表管理情報ファイル名を指定します。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，置き換え表管理情報ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタに指定することもできます。REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの REPLACEITEM キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

置き換え表管理情報ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

置き換え表管理情報ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

REPLACEITEMCNTLFILEPATH

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタで指定した置き換え表管理情報ファイルのパスを指定します。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，
REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。
REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

置き換え表管理情報ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

DISTRIBUTEFILENAME

PDF 仕分け定義ファイル名を指定します。

PDFFILENAME パラメタ，または DISTRIBUTEFILENAME パラメタのどちらかは，必ず指定してください。PDFFILENAME パラメタと DISTRIBUTEFILENAME パラメタを同時に指定した場合は，PDFFILENAME パラメタの指定は無視されます。

PDF 仕分け定義ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

DISTRIBUTEFILENAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

PDF 仕分け定義ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

DISTRIBUTEFILEPATH

DISTRIBUTEFILENAME パラメタで指定した PDF 仕分け定義ファイルのパスを指定します。

DISTRIBUTEFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，
DISTRIBUTEFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。
DISTRIBUTEFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

PDF 仕分け定義ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

SCRIPTCNTLFILENAME

Acrobat JavaScript 定義ファイル名を指定します。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，Acrobat JavaScript 定義ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの SCRIPTCNT キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，SCRIPTCNTLFILEPATH パラメタに指定することもできます。
SCRIPTCNTLFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの SCRIPTCNT キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの SCRIPTCNT キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの SCRIPTCNT キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

Acrobat JavaScript 定義ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

SCRIPTCNTLFILENAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

Acrobat JavaScript 定義ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

SCRIPTCNTLFILEPATH

SCRIPTCNTLFILENAME パラメタで指定した Acrobat JavaScript 定義ファイルのパスを指定します。

SCRIPTCNTLFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，
SCRIPTCNTLFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。
SCRIPTCNTLFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

Acrobat JavaScript 定義ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

VIEWERPREFERENCEFILENAME

ビューアプレファレンス定義ファイル名を指定します。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，ビューアプレファレンス定義ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの PREFERENCE キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，VIEWERPREFERENCEFILEPATH パラメタに指定することもできます。VIEWERPREFERENCEFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PREFERENCE キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PREFERENCE キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PREFERENCE キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

ビューアプレファレンス定義ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

VIEWERPREFERENCEFILENAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

ビューアプレファレンス定義ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

VIEWERPREFERENCEFILEPATH

VIEWERPREFERENCEFILENAME パラメタで指定したビューアプレファレンス定義ファイルのパスを指定します。

VIEWERPREFERENCEFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，VIEWERPREFERENCEFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。VIEWERPREFERENCEFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

ビューアプレファレンス定義ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PMSERVERADDR

印刷管理サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

PMSERVERADDR パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

PMSERVERPORT

印刷管理サーバのポート番号を指定します。

PMSERVERPORT パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。

PSENVFILENAME

EUR Print Service の動作環境を印刷ジョブごとに変更する場合に，EUR Print Service の環境設定ファイル名を指定します。

EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で，OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，PSENVFILENAME パラメタは，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは，PSENVFILEPATH パラメタに指定することもできます。PSENVFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PSENV キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PSENV キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

EUR Print Service の環境設定ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PSENVFILENAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

PSENVFILEPATH

PSENVFILENAME パラメタで指定した EUR Print Service の環境設定ファイルのパスを指定します。

PSENVFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，PSENVFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。PSENVFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

FILEOUTPUTDESTINATION

PDF 形式ファイルの出力先を，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンにするか，または EUR Print Manager 稼働マシンにするかのどちらかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに出力します。
- 1：EUR Print Manager 稼働マシンに出力します。

FILEOUTPUTDESTINATION パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。
FILEOUTPUTDESTINATION パラメタの指定を省略した場合は，0 が仮定されます。

ただし，DISTRIBUTEFILENAME パラメタを指定した場合は，
FILEOUTPUTDESTINATION パラメタの指定は無視されます。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては，「11.5.1　エラー情報一覧」を参照してください。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合，エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は，空白が設定されます。

エラーメッセージ

EUR Print Service と連携して使用するパラメタでエラーが発生した場合は，次のエラーメッセージが出力されます。メッセージが表示されたときは，EUR Print Service のイベントログ，または eurps ログを参照してください。

メッセージ ID	メッセージ
KEEY223-E	PDF 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(337)

OutputXLSXReport 関数

Excel 形式ファイルを出力します。Excel 出力ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに XLSXFILENAME パラメタと XLSXFILEPATH パラメタの指定値に従って出力されます。

形式

```
WORKING-STORAGE SECTION.
01 EURPMPARAM.
            02  FILLER                     PIC X(4) VALUE '0820'.
            02  ERRORMESSAGE               PIC X(256) VALUE SPACE.
            02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
            02  XLSXFILENAME               PIC X(256) VALUE SPACE.
            02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
            02  XLSXFILEPATH               PIC X(256) VALUE SPACE.
            02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
            02  REPORTNAME                 PIC X(256) VALUE SPACE.
            02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
            02  REPORTFILEPATH             PIC X(256) VALUE SPACE.
            02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
            02  MAPPINGDATA                PIC X(256) VALUE SPACE..
            02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
            02  MAPPINGDATAPATH            PIC X(256) VALUE SPACE.
            02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
            02  USERDEFDATA                PIC X(256) VALUE SPACE.
            02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
            02  USERDEFDATAPATH            PIC X(256 VALUE SPACE.
            02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
            02  DBINFOFILENAME             PIC X(256) VALUE SPACE.
            02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
            02  DBINFOFILEPATH             PIC X(256) VALUE SPACE.
            02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
            02  REPLACEITEMCNTLFILENAME    PIC X(256) VALUE SPACE.
            02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
            02  REPLACEITEMCNTLFILEPATH    PIC X(256) VALUE SPACE.
            02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
            02  PMSERVERADDR               PIC X(15) VALUE SPACE.
            02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
            02  FILLER                     PIC X(3) VALUE LOW-VALUE.
            02  PMSERVERPORT               PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
            02  PRINTSTARTPAGE             PIC 9(9) COMP-X.
            02  PRINTENDPAGE               PIC 9(9) COMP-X.
            02  PSENVFILENAME              PIC X(256).
            02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
            02  PSENVFILEPATH              PIC X(256).
            02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
            02  FILLER                     PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
01 RTNCODE                PIC S9(9) BINARY.
```

```
call 'OutputXLSXReport'  USING  EURPMPARAM
RETURNING  RTNCODE.
```

パラメタ

PRINTSTARTPAGE

印刷開始ページを指定します。指定できる値は，0 ～ 999,999 です。

PRINTSTARTPAGE パラメタを省略する場合は，0 を指定します。
PRINTSTARTPAGE パラメタの指定を省略した場合は，1 ページから印刷されます。

複数の帳票ファイルを指定した場合は，PRINTSTARTPAGE パラメタの指定に関係なく，指定した複数の帳票ファイルの全ページが印刷されます。

PRINTENDPAGE

印刷終了ページを指定します。指定できる値は，0 ～ 999,999 です。

PRINTENDPAGE パラメタを省略する場合は，0 を指定します。PRINTENDPAGE パラメタを省略した場合は，最終ページまで印刷されます。

複数の帳票ファイルを指定した場合は，PRINTENDPAGE パラメタの指定に関係なく，指定した複数の帳票ファイルの全ページが印刷されます。

XLSXFILENAME

出力する Excel 形式ファイル名を指定します。Excel 形式ファイルを出力する場合は，必ず指定してください。

Excel 形式ファイルの拡張子は，*.xlsx です。Excel 形式ファイル名は，拡張子を含めて指定してください。

Excel 形式ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

XLSXFILEPATH

XLSXFILENAME パラメタで指定した Excel 形式ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，XLSXFILENAME パラメタで指定したファイルのパスとなります。

XLSXFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，XLSXFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。XLSXFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

Excel 形式ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPORTNAME

帳票ファイル名を指定します。帳票ファイル名（*.fms）を指定してください。
REPORTNAME パラメタは必ず指定してください。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，帳票ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，REPORTFILEPATH パラメタに指定することもできます。REPORTFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの FORM キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの FORM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

帳票ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

帳票ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

REPORTFILEPATH

REPORTNAME パラメタで指定する帳票ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，REPORTNAME パラメタで指定したファイルのパスとなります。

REPORTNAME パラメタをフルパスで指定した場合は，REPORTFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。REPORTFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

帳票ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

MAPPINGDATA

マッピングデータファイル名，または可変記号値定義ファイル名を指定します。

MAPPINGDATA パラメタには，REPORTNAME パラメタで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を指定します。なお，指定できるファイル名は，一つだけです。

MAPPINGDATA パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

マッピングデータファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

MAPPINGDATAPATH

MAPPINGDATA パラメタまたは帳票セット指定ファイルで指定するマッピングデータファイルのパス，または可変記号値定義ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，MAPPINGDATA パラメタで指定したファイルのパスとなります。

MAPPINGDATA パラメタをフルパスで指定した場合は，MAPPINGDATAPATH パラメタを指定する必要はありません。MAPPINGDATAPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

パスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

USERDEFDATA

ユーザ定義データファイル名または可変記号値定義ファイル名を指定します。

USERDEFDATA パラメタには，REPORTNAME パラメタで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を指定します。指定するファイル名は，REPORTNAME パラメタで指定したファイル名と同じ数を指定してください。

USERDEFDATA パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

ユーザ定義データファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

USERDEFDATAPATH

USERDEFDATA パラメタで指定するユーザ定義データファイルのパス，または可変記号値定義ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，USERDEFDATA パラメタで指定したファイルのパスとなります。

USERDEFDATA パラメタをフルパスで指定した場合は，USERDEFDATAPATH パラメタを指定する必要はありません。USERDEFDATAPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

パスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

DBINFOFILENAME

接続情報ファイル名を指定します。

DBINFOFILENAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，接続情報ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，DBINFOFILEPATH パラメタに指定することもできます。DBINFOFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DBINFO キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DBINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

接続情報ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

接続情報ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

DBINFOFILEPATH

接続情報ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，DBINFOFILENAME パラメタで指定したファイルのパスとなります。

DBINFOFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，DBINFOFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。DBINFOFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

接続情報ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPLACEITEMCNTLFILENAME

置き換え表管理情報ファイル名を指定します。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，置き換え表管理情報ファイル名は，ファイル名だけを

指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタに指定することもできます。
REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの REPLACEITEM キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

置き換え表管理情報ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

置き換え表管理情報ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

REPLACEITEMCNTLFILEPATH

置き換え表管理情報ファイルのパスを指定します。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。
REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

置き換え表管理情報ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PMSERVERADDR

印刷管理サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

PMSERVERADDR パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

PMSERVERPORT

印刷管理サーバのポート番号を指定します。指定できる値は，0 ～ 65,535 です。

PMSERVERPORT パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。

PSENVFILENAME

EUR Print Service の動作環境を印刷ジョブごとに変更する場合に，EUR Print Service の環境設定ファイル名を指定します。

EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で，OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，PSENVFILENAME パラメタは，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは，PSENVFILEPATH パラメタに指定することもできます。PSENVFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PSENV キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PSENV キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

EUR Print Service の環境設定ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PSENVFILENAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

PSENVFILEPATH

PSENVFILENAME パラメタで指定した EUR Print Service の環境設定ファイルのパスを指定します。

PSENVFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，PSENVFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。PSENVFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては，「11.5.1　エラー情報一覧」を参照してください。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合，エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は，空白が設定されます。

エラーメッセージ

EUR Print Service と連携して使用するパラメタでエラーが発生した場合は，次のエラーメッセージが出力されます。メッセージが表示されたときは，EUR Print Service のイベントログ，または eurps ログを参照してください。

メッセージ ID	メッセージ
KEEY263-E	XLSX 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(337)

PrintReport 関数

帳票の印刷，または帳票の印刷データを蓄積します。

形式

```
01 EURPMPARAM.
        02  FILLER                      PIC X(4) VALUE '0870'.
        02  CLIENTADDR                  PIC X(15) VALUE SPACE.
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  SERVERNAME                  PIC X(80) VALUE SPACE.
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  PRINTERNAME                 PIC X(80) VALUE SPACE.
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  TRAYNAME                    PIC X(80) VALUE SPACE.
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  PRINTSTARTPAGE              PIC 9(9) COMP-X VALUE 0.
        02  PRINTENDPAGE                PIC 9(9) COMP-X VALUE 0.
        02  REPORTSETFILE               PIC X(256) VALUE SPACE.
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  MULTIFORMINFO               PIC X(256) VALUE SPACE.
        02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  FILLER                      PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
        02  REPORTSET.
          03  REPORTNAME                PIC X(256) VALUE SPACE.
          03  FILLER                    PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
```

```
  03  MAPPINGDATA                PIC X(256) VALUE SPACE.
  03  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  03  USERDEFDATA                PIC X(256) VALUE SPACE.
  03  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  ERRORMESSAGE                PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  MAPPINGDATAPATH             PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  USERDEFDATAPATH             PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  REPORTSETFILEPATH           PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  CLIENTPRINTERNAME           PIC X(80) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  CLIENTTRAYNAME              PIC X(80) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  DISTRIBUTIONINFOFILE        PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  DISTRIBUTIONINFOFILEPATH    PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  REPORTFILEPATH              PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  MULTIFORMINFOPATH           PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  DOCINFOFILE                 PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  DOCINFOFILEPATH             PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  FAXINFOFILE                 未使用 空白を指定してください。
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  FAXINFOFILEPATH             未使用 空白を指定してください。
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  PAGENUMBERFORMAT            PIC X(80) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  FILLER                      PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02  PRINTCOPIES                 PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  SORTPRINT                   PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  PAPERORIENTATION            PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  PRINTPAGENUMBER             PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  PAGENUMBERLOCATION          PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  FIRSTPAGENUMBER             PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  INITPAGENUMBER              PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  DBINFOFILENAME              PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  DBINFOFILEPATH              PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  FILLER                      PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02  PRINTMODE                   PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  PRINTKIND                   PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  SERVERSELECTMODE            PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  PRINTERSELECTMODE           PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  DISPPRINTDLG                PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  DESTNAME                    PIC X(80) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  SERVERADDR                  PIC X(80) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  PRINTERCLASSNAME            PIC X(80) VALUE SPACE.
```

```
02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  SERVERPRINTERNAME               PIC X(80) VALUE SPACE.
02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  SERVERTRAYNAME                  PIC X(80) VALUE SPACE.
02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  GROUPNAME                       PIC X(80) VALUE SPACE.
02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  REPLACEITEMCNTLFILENAME         PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  REPLACEITEMCNTLFILEPATH         PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  SPOOLFILENAME                   PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  SPOOLLIMIT                      PIC X(8) VALUE SPACE.
02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  FILLER                          PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02  EXECUTABLEPRINTMODE             PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  MAXPRINTCOUNT                   PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  ENABLEGET                       PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  PRINTHOLDMODE                   PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  JOBKEYNUM                       PIC S9(9) COMP-5 VALUE 5.
02  JOBKEYS                         OCCURS 5 TIMES.
  03  JOBKEYCATEGORY                PIC  X(80) VALUE SPACE.
  03  FILLER                        PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  03  JOBKEYDATA                    PIC  X(80) VALUE SPACE.
  03  FILLER                        PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  JOBID                           PIC X(36) VALUE SPACE.
02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  PMSERVERADDR                    PIC X(15) VALUE SPACE.
02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  PMSERVERPORT                    PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  EPFFILENAME                     PIC X(256).
02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  EPFFILEPATH                     PIC X(256).
02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  FILLER                          PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02  JOBKEYNUM2                      PIC S9(9) COMP-5 VALUE 5.
02  JOBKEYS2                        OCCURS 5 TIMES.
  03  JOBKEYCATEGORY2               PIC  X(80) VALUE SPACE.
  03  FILLER                        PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  03  JOBKEYDATA2                   PIC  X(80) VALUE SPACE.
  03  FILLER                        PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  FILLER                          PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02  PSENVFILENAME                   PIC X(256).
02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  PSENVFILEPATH                   PIC X(256).
02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  FILLER                          PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02  PRINTDATEFILENAME               PIC X(256).
02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  PRINTDATEFILEPATH               PIC X(256).
02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  FILLER                          PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02  SPLITMODE                       PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  SPLITFILENAME                   PIC X(256).
02  FILLER                          PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
```

```
        02  SPLITFILEPATH                PIC X(256).
        02  FILLER                       PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  FILLER                       PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
01 RTNCODE                               PIC S9(9) BINARY.

call 'PrintReport'  USING  EURPMPARAM
RETURNING  RTNCODE.
```

パラメタ

CLIENTADDR

印刷を実行するクライアント PC の IP アドレス，または蓄積クライアント印刷実行を要求するクライアント PC の IP アドレスを指定します。

CLIENTADDR パラメタは，PRINTMODE パラメタに 1（印刷方式がクライアント印刷方式）の場合，必ず指定してください。

PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）の場合，CLIENTADDR パラメタの指定は任意です。PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式が拠点サーバ印刷方式）または PRINTMODE パラメタに 4（印刷方式が印刷管理サーバ直接印刷方式）の場合は，CLIENTADDR パラメタを指定しても無視されます。

SERVERNAME

指定しても無視されます。

PRINTERNAME

指定しても無視されます。

TRAYNAME

指定しても無視されます。

PRINTSTARTPAGE

印刷開始ページを指定します。指定できる値は，0 ～ 999,999 です。

PRINTSTARTPAGE パラメタを省略する場合は，0 を指定します。
PRINTSTARTPAGE パラメタの指定を省略した場合は，1 ページから印刷されます。

REPORTSETFILE パラメタを指定した場合，PRINTSTARTPAGE パラメタの指定は無視されます。

複数の帳票ファイルを指定した場合は，PRINTSTARTPAGE パラメタの指定に関係なく，指定した複数の帳票ファイルの全ページが印刷されます。

PRINTENDPAGE

印刷終了ページを指定します。指定できる値は，0 ～ 999,999 です。

PRINTENDPAGE パラメタを省略する場合は，0 を指定します。PRINTENDPAGE パ

ラメタを省略した場合は，最終ページまで印刷されます。

REPORTSETFILE パラメタを指定した場合，PRINTENDPAGE パラメタの指定は無視されます。

複数の帳票ファイルを指定した場合は，PRINTENDPAGE パラメタの指定に関係なく，指定した複数の帳票ファイルの全ページが印刷されます。

REPORTSETFILE

帳票セット指定ファイル名を指定します。

REPORTSETFILE パラメタ，または REPORTNAME パラメタのどちらかは，必ず指定してください。

帳票セット指定ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPORTSETFILE パラメタを省略する場合は，空白を指定します。ただし，REPORTSETFILE パラメタを省略する場合は，REPORTSET パラメタは省略しないでください。

帳票セット指定ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

MULTIFORMINFO

複数様式情報定義ファイル名を指定します。複数様式で帳票を出力する場合は，必ず指定してください。

MULTIFORMINFO パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，複数様式情報定義ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの MULTI キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，MULTIFORMINFOPATH パラメタに指定することもできます。
MULTIFORMINFOPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの MULTI キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの MULTI キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。

- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの MULTI キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

複数様式情報定義ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

複数様式情報定義ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

REPORTSET

帳票セット指定ファイルを指定するためのパラメタの親項目です。

REPORTNAME

帳票ファイル名を指定します。帳票ファイル名（*.fms）を指定してください。

REPORTNAME パラメタ，または REPORTSETFILE パラメタのどちらかは，必ず指定してください。

REPORTNAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，帳票ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，REPORTFILEPATH パラメタに指定することもできます。REPORTFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの FORM キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの FORM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

帳票ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

帳票ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

MAPPINGDATA

マッピングデータファイル名，または可変記号値定義ファイル名を指定します。

MAPPINGDATA パラメタには，REPORTNAME パラメタで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を指定します。なお，指定できるファイル名は，一つだけです。

MAPPINGDATA パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

マッピングデータファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

USERDEFDATA

ユーザ定義データファイル名または可変記号値定義ファイル名を指定します。

USERDEFDATA パラメタには，REPORTNAME パラメタで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を指定します。指定するファイル名は，REPORTNAME パラメタで指定したファイル名と同じ数を指定してください。

USERDEFDATA パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

ユーザ定義データファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

MAPPINGDATAPATH

MAPPINGDATA パラメタまたは帳票セット指定ファイルで指定するマッピングデータファイルのパス，もしくは可変記号値定義ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，MAPPINGDATA パラメタで指定したファイルのパスとなります。

MAPPINGDATA パラメタをフルパスで指定した場合は，MAPPINGDATAPATH パラメタを指定する必要はありません。MAPPINGDATAPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

パスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

USERDEFDATAPATH

USERDEFDATA パラメタで指定するユーザ定義データファイルのパス，または可変記号値定義ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，USERDEFDATA パラメタで指定したファイルのパスとなります。

USERDEFDATA パラメタをフルパスで指定した場合は，USERDEFDATAPATH パラメタを指定する必要はありません。USERDEFDATAPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

パスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPORTSETFILEPATH

REPORTSETFILE パラメタで指定する帳票セット指定ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，REPORTSETFILE パラメタで指定したファイルのパスとなります。

REPORTSETFILE パラメタをフルパスで指定した場合は，REPORTSETFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。REPORTSETFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

帳票セット指定ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

CLIENTPRINTERNAME

クライアント PC の OS 上のプリンタ名を指定します。

CLIENTPRINTERNAME パラメタは，PRINTMODE パラメタに 1（印刷方式がクライアント印刷方式）の場合，および PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は，CLIENTPRINTERNAME パラメタを指定しても無視されます。

CLIENTPRINTERNAME パラメタを指定した場合，対話型印刷はできません。

CLIENTPRINTERNAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

次のことに注意して，プリンタ名を指定してください。

- 指定するプリンタ名が，80 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。
- プリンタ名には「"」および「,」を含めないでください。

CLIENTPRINTERNAME パラメタを指定した場合，かつ DISPPRINTDLG パラメタに 0 または 2 を指定した場合は，DISPPRINTDLG パラメタは強制的に 1（ダイアログを表示しません）が仮定されます。

CLIENTPRINTERNAME パラメタと PRINTERCLASSNAME パラメタでは，CLIENTPRINTERNAME パラメタの指定を優先します。

CLIENTTRAYNAME

クライアントプリンタの OS 上のトレイ名を指定します。

CLIENTTRAYNAME パラメタを指定する場合は，CLIENTPRINTERNAME パラメタ

を必ず指定してください。

CLIENTTRAYNAME パラメタを指定しない場合は，CLIENTPRINTERNAME パラメタで指定したプリンタのデフォルトのトレイから出力されます。また，CLIENTTRAYNAME パラメタに指定したトレイ名が，出力先のプリンタで使用できない場合は，CLIENTPRINTERNAME パラメタで指定したプリンタのデフォルトのトレイから出力されます。

CLIENTTRAYNAME パラメタは，PRINTMODE パラメタに 1（印刷方式がクライアント印刷方式）の場合，および PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は，CLIENTTRAYNAME パラメタを指定しても無視されます。

次のことに注意して，トレイ名を指定してください。

- 指定するトレイ名が，80 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。
- トレイ名には「"」および「,」を含めないでください。

このパラメタを省略する場合は，空白を指定します。

DISTRIBUTIONINFOFILE

仕分け定義情報ファイル名を指定します。

DISTRIBUTIONINFOFILE パラメタは，PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式が拠点サーバ印刷方式）かつ PRINTKIND パラメタに 1（印刷モードが EUR 形式ファイル印刷モード）の場合，および PRINTMODE パラメタが 4（印刷方式が印刷管理サーバ直接印刷方式）の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は，DISTRIBUTIONINFOFILE パラメタを指定しても無視されます。

仕分け定義情報ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

DISTRIBUTIONINFOFILE パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

仕分け定義情報ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

DISTRIBUTIONINFOFILEPATH

DISTRIBUTIONINFOFILE パラメタで指定する帳票セット指定ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，DISTRIBUTIONINFOFILE パラメタで指定したファイルのパスとなります。

DISTRIBUTIONINFOFILE パラメタをフルパスで指定した場合は，DISTRIBUTIONINFOFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。DISTRIBUTIONINFOFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

DISTRIBUTIONINFOFILEPATH パラメタは，PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式

が拠点サーバ印刷方式）かつ PRINTKIND パラメタに 1（印刷モードが EUR 形式ファイル印刷モード）の場合，および PRINTMODE パラメタが 4（印刷方式が印刷管理サーバ直接印刷方式）の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は，DISTRIBUTIONINFOFILEPATH パラメタを指定しても無視されます。

帳票セット指定ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPORTFILEPATH

REPORTNAME パラメタで指定する帳票ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，REPORTNAME パラメタで指定したファイルのパスとなります。

REPORTNAME パラメタをフルパスで指定した場合は，REPORTFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。REPORTFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

帳票ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

MULTIFORMINFOPATH

MULTIFORMINFO パラメタで指定する複数様式情報定義ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，MULTIFORMINFO パラメタで指定したファイルのパスとなります。

MULTIFORMINFO パラメタをフルパスで指定した場合は，MULTIFORMINFOPATH パラメタを指定する必要はありません。MULTIFORMINFOPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

複数様式情報定義ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

DOCINFOFILE

文書情報設定ファイル名を指定します。

DOCINFOFILE パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，文書情報設定ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，DOCINFOFILEPATH パラメタに指定することもできます。DOCINFOFILEPATH パラ

メタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DOCINFO キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DOCINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

文書情報設定ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

文書情報設定ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

DOCINFOFILEPATH

DOCINFOFILE パラメタで指定した文書情報設定ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，DOCINFOFILE パラメタで指定したファイルのパスとなります。

DOCINFOFILE パラメタをフルパスで指定した場合は，DOCINFOFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。DOCINFOFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

文書情報設定ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

FAXINFOFILE

使用できません。空白を指定してください。

FAXINFOFILEPATH

使用できません。空白を指定してください。

PAGENUMBERFORMAT

ページ番号のフォーマットを指定します。ページ番号を「*」，最終ページ番号を「$」で示して出力形式を指定します。

ページ番号および最終ページ番号を全角で表示したいときは全角の記号で，半角で表示したいときは半角の記号で指定します。

ページ番号のフォーマットが 80 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。

PAGENUMBERFORMAT パラメタは，PRINTPAGENUMBER パラメタに 1 が指定されている場合だけ有効になります。ただし，MULTIFORMINFO パラメタを指定した場

合は，PAGENUMBERFORMAT パラメタの設定値は無視されます。

PAGENUMBERFORMAT パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

PRINTCOPIES

印刷部数を指定します。指定できる値は，1 ～ 99 です。

PRINTCOPIES パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。PRINTCOPIES パラメタの指定を省略した場合は，1 が仮定されます。

SORTPRINT

印刷部数の単位を指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：部単位で出力します。
- 1：ページ単位で出力します。

SORTPRINT パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。SORTPRINT パラメタの指定を省略した場合は，0 が仮定されます。

複数帳票を出力する場合は，SORTPRINT パラメタの指定に関係なく 0 が仮定されます。

PAPERORIENTATION

用紙の向きを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：帳票を定義したときの情報に従います。
- 1：用紙の向きを縦にして出力します。
- 2：用紙の向きを横にして出力します。

PAPERORIENTATION パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。
PAPERORIENTATION パラメタの指定を省略した場合は，0 が仮定されます。

複数帳票を出力する場合は，PAPERORIENTATION パラメタの指定に関係なく，0 が仮定されます。

PRINTPAGENUMBER

余白へのページ番号印刷を指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：余白へのページ番号は出力しません。
- 1：余白へのページ番号を出力します。

PRINTPAGENUMBER パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。

PRINTPAGENUMBER パラメタの指定を省略した場合は，0 が仮定されます。

ただし，MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は，PRINTPAGENUMBER パラメタの設定値は無視されます。

PAGENUMBERLOCATION

余白へのページ番号の印刷位置を指定します。

PAGENUMBERLOCATION パラメタは，PRINTPAGENUMBER パラメタに 1 が指定されている場合だけ有効になります。ただし，MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は，PAGENUMBERLOCATION パラメタの設定値は無視されます。

指定できる値を次に示します。

- 1：ページ番号を左上に出力します。
- 2：ページ番号を中央上に出力します。
- 3：ページ番号を右上に出力します。
- 4：ページ番号を左下に出力します。
- 5：ページ番号を中央下に出力します。
- 6：ページ番号を右下に出力します。

PAGENUMBERLOCATION パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。

FIRSTPAGENUMBER

ページ番号の初期値を指定します。指定できる値は，1 ～ 999,999 です。

FIRSTPAGENUMBER パラメタは，PRINTPAGENUMBER パラメタに 1 が指定されている場合だけ有効になります。ただし，MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は，FIRSTPAGENUMBER パラメタの設定値は無視されます。

FIRSTPAGENUMBER パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。
FIRSTPAGENUMBER パラメタの指定を省略した場合は，1 が仮定されます。

INITPAGENUMBER

改ページのキーが設定されている場合，そのキーがブレイクするごとにページ番号の開始番号を初期化するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：初期化しません。
- 1：初期化します。

INITPAGENUMBER パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。
INITPAGENUMBER パラメタの指定を省略した場合は，出力する帳票の属性に従います。帳票の属性の初期値は，0 が仮定されます。

ただし，MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は，INITPAGENUMBER パラメタの設定値は無視されます。

DBINFOFILENAME

接続情報ファイル名を指定します。

DBINFOFILENAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，接続情報ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，DBINFOFILEPATH パラメタに指定することもできます。DBINFOFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DBINFO キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DBINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

接続情報ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

接続情報ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

DBINFOFILEPATH

DBINFOFILENAME パラメタで指定した接続情報ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，DBINFOFILENAME パラメタで指定したファイルのパスとなります。

DBINFOFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，DBINFOFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。DBINFOFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

接続情報ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PRINTMODE

印刷方式を選択します。

指定できる値を次に示します。

- 0：デフォルト印刷方式 ※
- 1：クライアント印刷方式
- 2：蓄積
- 3：拠点サーバ印刷方式
- 4：印刷管理サーバ直接印刷方式
- 5：クライアント配布印刷方式

注※

「0（デフォルト印刷方式）」を定義する場合は，EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）で OPTION セクションの DEFAULTPRINTMODE キーに値を設定してください。

0，1，2，3，4，5 以外の値を指定した場合は，0 が仮定されます。PRINTMODE パラメタを省略した場合は，環境設定ファイル（EURPMADP.ini）で OPTION セクションの PRINTMODE キーに指定されている値をデフォルトとします。

PRINTMODE パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。

PRINTKIND

拠点サーバの印刷方法を選択します。

指定できる値を次に示します。

- 0：EPF 形式ファイルを印刷します。
- 1：EUR 形式ファイルを印刷します。

PRINTKIND パラメタは，PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式が拠点サーバ印刷方式）が指定されている場合だけ有効になります。

PRINTKIND パラメタを省略する場合は，-1 を設定します。PRINTKIND パラメタの指定を省略した場合，または 0，1 以外の値を指定した場合は，0 が仮定されます。

SERVERSELECTMODE

拠点サーバでの印刷を選択します。

指定できる値を次に示します。

- 0：出力先名を指定します。
- 1：拠点サーバの IP アドレスを指定します。

SERVERSELECTMODE パラメタは，PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積），または 3（印刷方式が拠点サーバ印刷方式）が指定されている場合だけ有効になります。

SERVERSELECTMODE パラメタを省略する場合は，-1 を設定します。
SERVERSELECTMODE パラメタの指定を省略した場合，または 0，1 以外の値を指定した場合は，0 が仮定されます。

PRINTERSELECTMODE

プリンタの指定方法を選択します。

指定できる値を次に示します。

- 0：プリンタクラス名を指定します。
- 1：OS 上のプリンタ名を指定します
- 2：帳票振り分け定義を指定します

PRINTERSELECTMODE パラメタは，次の場合に指定が有効になります。

- PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている
- PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式が拠点サーバ印刷方式）が指定されている
- PRINTMODE パラメタに 4（印刷管理サーバ直接印刷方式）が指定されている

PRINTERSELECTMODE パラメタを省略する場合は，-1 を設定します。
PRINTERSELECTMODE パラメタの指定を省略した場合，または 0，1，2 以外の値を指定した場合は，0 が仮定されます。

また，印刷管理サーバによる直接印刷（PRINTMODE パラメタに 4 が指定）の場合，2 の値を指定するとエラーになります。

DISPPRINTDLG

クライアント PC で印刷する場合，ダイアログを表示するかどうかを選択します。指定できる値と印刷時の動作を次に示します。

- 0：印刷先指定ダイアログを表示します（対話型印刷）。
  プレビューボタンを選択すると，プレビューウィンドウが表示されます。
- 1：直接印刷を実行します（自動印刷）。
  印刷実行中に印刷中のダイアログが表示されます。
- 2：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示）。
  印刷メニューまたは印刷ボタンを選択すると，印刷先指定ダイアログが表示されます。
- 3：直接印刷を実行します（全自動印刷）。
  印刷実行中に印刷中のダイアログは表示されません。
- 4：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示限定）。
  印刷は実行できません。

DISPPRINTDLG パラメタを省略した場合，EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）で OPTION セクションの DISPPRINTDLG キーの設定値（0 ～ 4）が仮定されます。環境設定ファイル DISPPRINTDLG キーおよび DISPPRINTDLG パラメタとも省略した場合，0 が仮定されます。

CLIENTPRINTERNAME パラメタを指定した場合，かつ DISPPRINTDLG パラメタに 0 または 2 を指定した場合は，1 が仮定されます。

DISPPRINTDLG パラメタは，PRINTMODE パラメタに 1（印刷方式がクライアント印刷方式），または 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。それ以外の場合は，DISPPRINTDLG パラメタを指定しても無視されます。

DESTNAME

出力先名を指定します。

なお，UNIX/Linux 環境の場合，出力先（拠点サーバ）での印刷はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Print Manager - Report Server に対して，印刷を実行した場合はエラーとなります。

次のことに注意して，出力先名を指定してください。

- 指定する出力先名が，80 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。
- 出力先名には「"」および「,」を含めないでください。

このパラメタを省略する場合は，空白を設定します。

DESTNAME パラメタは，次に示すどちらかの指定がある場合有効になります。それ以外の場合は，DESTNAME パラメタを指定しても無視されます。

- PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式が拠点サーバ印刷方式），かつ SERVERSELECTMODE パラメタに 0（拠点サーバ指定方式が出力先名指定）のとき
- PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積），かつ SERVERSELECTMODE パラメタに 0（拠点サーバ指定方式が出力先名指定）のとき

SERVERADDR

拠点サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

なお，UNIX/Linux 環境の場合，拠点サーバでの印刷はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Print Manager - Report Server に対して，印刷を実行した場合はエラーとなります。

SERVERADDR パラメタを省略する場合は，空白を設定します。

SERVERADDR パラメタは，次に示すどちらかの指定がある場合有効になります。それ以外の場合は，SERVERADDR パラメタを指定しても無視されます。

- PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式が拠点サーバ印刷方式），かつ SERVERSELECTMODE パラメタに 1（拠点サーバ指定方式が IP アドレス指定）のとき
- PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積），かつ SERVERSELECTMODE パラ

メタに 1（拠点サーバ指定方式が IP アドレス指定）のとき

PRINTERCLASSNAME

プリンタクラス名を指定します。

次のことに注意して，プリンタクラス名を指定してください。

- 指定するプリンタクラス名が，80 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。
- プリンタクラス名には「"」および「,」を含めないでください。

印刷方法ごとに指定するパラメタを次に示します。パラメタの組み合わせが異なる場合，指定した値は無効となります。なお，クライアント PC への配布印刷では，指定できません。

- 拠点サーバでの印刷を指定する場合
  PRINTMODE パラメタ：3
  PRINTERSELECTMODE パラメタ：0
  PRINTERCLASSNAME パラメタ：拠点プリンタクラス名
- クライアント PC での対話型印刷を指定する場合
  PRINTMODE パラメタ：1
  DISPPRINTDLG パラメタ：0
  PRINTERCLASSNAME パラメタ：帳票ジョブ名
- クライアント PC での自動印刷を指定する場合
  PRINTMODE パラメタ：1
  DISPPRINTDLG パラメタ：1
  PRINTERCLASSNAME パラメタ：クライアントプリンタクラス名
- クライアント PC での対話型印刷プレビューを指定する場合
  PRINTMODE パラメタ：1
  DISPPRINTDLG パラメタ：2
  PRINTERCLASSNAME パラメタ：帳票ジョブ名
- クライアント PC での全自動印刷を指定する場合
  PRINTMODE パラメタ：1
  DISPPRINTDLG パラメタ：3
  PRINTERCLASSNAME パラメタ：クライアントプリンタクラス名
- 印刷管理サーバでの印刷を指定する場合
  PRINTMODE パラメタ：4
  PRINTERSELECTMODE パラメタ：0
  PRINTERCLASSNAME パラメタ：印刷管理サーバプリンタクラス名
- 拠点サーバまたはクライアント PC での蓄積を指定する場合
  PRINTMODE パラメタ：2
  PRINTERSELECTMODE パラメタ：0
  PRINTERCLASSNAME パラメタ：拠点プリンタクラス名，または蓄積クライアント印刷方式のプリンタクラス名

「クライアント PC での自動印刷」と「蓄積クライアント印刷」の場合，CLIENTPRINTERNAME パラメタと PRINTERCLASSNAME パラメタでは，CLIENTPRINTERNAME パラメタの設定を優先します。

PRINTERCLASSNAME パラメタを省略する場合は，空白を設定します。

SERVERPRINTERNAME

サーバのプリンタ名を指定します。プリンタ名は OS 上のプリンタ名を指定してください。

次のことに注意して，プリンタ名を指定してください。

- 指定するプリンタ名が，80 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。
- プリンタ名には「"」および「,」を含めないでください。

SERVERPRINTERNAME パラメタを省略する場合は，空白を設定します。

SERVERPRINTERNAME パラメタは，次に示す指定がある場合有効になります。それ以外の場合は，SERVERPRINTERNAME パラメタを指定しても無視されます。

- PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式が拠点サーバ印刷方式），かつ PRINTERSELECTMODE パラメタに 1（プリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定）のとき
- PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積），かつ PRINTERSELECTMODE パラメタに 1（プリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定）のとき
- PRINTMODE パラメタに 4（印刷管理サーバ直接印刷方式），かつ PRINTERSELECTMODE パラメタに 1（プリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定）のとき

SERVERTRAYNAME

サーバのプリンタのトレイ名を指定します。トレイ名は OS 上のプリンタ名を指定してください。

SERVERTRAYNAME パラメタを指定するときは，SERVERPRINTERNAME パラメタを必ず指定してください。

Windows 環境の場合

次のことに注意して，トレイ名を指定してください。

- 指定するトレイ名が，80 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。
- トレイ名には「"」および「,」を含めないでください。

SERVERTRAYNAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。SERVERTRAYNAME パラメタを指定しない場合は，SERVERPRINTERNAME パラメタで指定したプリンタのデフォルトのトレイから出力されます。また，SERVERTRAYNAME パラメタに指定したトレイ名が，出力先のプリンタで使用で

きない場合は，SERVERPRINTERNAME パラメタで指定したプリンタのデフォルトのトレイから出力されます。
SERVERTRAYNAME パラメタは，次に示す指定がある場合有効になります。それ以外の場合は，SERVERTRAYNAME パラメタを指定しても無視されます。

- PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式が拠点サーバ印刷方式），かつ PRINTERSELECTMODE パラメタに 1（プリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定）のとき
- PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積），かつ PRINTERSELECTMODE パラメタに 1（プリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定）のとき
- PRINTMODE パラメタに 4（印刷管理サーバ直接印刷方式），かつ PRINTERSELECTMODE パラメタに 1（プリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定）のとき

UNIX/Linux 環境の場合

- 給紙トレイ情報を指定します。SERVERTRAYNAME パラメタを指定しない場合は，プリンタ定義ファイルのキーワード（DefaultCassette）に指定されているデフォルトのトレイから給紙されます。
  プリンタ定義ファイルの詳細については，マニュアル「EUR サーバ帳票出力」を参照してください。
- 指定する給紙トレイ情報を次に示します。

指定内容	給紙トレイ
auto	印刷用紙を自動で給紙します。出力する帳票の用紙サイズからカセットを自動選択します。
manual	手差しトレイから印刷用紙を給紙します。
トレイ番号	トレイ番号の給紙カセットから印刷用紙を給紙します。トレイ番号は，1 ～ n（n はプリンタ定義ファイルのキーワード Cassettes で指定した値）で指定します。 6 以上の値を指定した場合は自動給紙となります。

注意事項

SERVERTRAYNAME パラメタでは次に示す指定があった場合，プリンタのハードウェアによって動作が異なります。

- manual が指定されたとき
- トレイ番号が指定されたとき
- auto が指定されたのに，プリンタのパネルで給紙カセットが選択されたとき

また，帳票の用紙サイズと給紙される用紙のサイズが異なる場合も，プリンタのハードウェアによって動作が異なります。
帳票の用紙サイズと給紙される用紙のサイズを合わせておくか，または帳票の用紙サイズと異なる用紙に出力する場合は，あらかじめ試し印刷を実施してプリンタの動作を確認してください。

GROUPNAME

帳票振り分け定義の振り分けグループ名を指定します。

次のことに注意して，振り分けグループ名を指定してください。

- 指定する振り分けグループ名が，80 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。
- 振り分けグループ名には「"」および「,」を含めないでください。

GROUPNAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

GROUPNAME パラメタは，次に示すどちらかの指定がある場合有効になります。それ以外の場合は，GROUPNAME パラメタを指定しても無視されます。

- PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式が拠点サーバ印刷方式），かつ PRINTKIND パラメタに 0（印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード）のとき
- PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積），かつ PRINTERSELECTMODE パラメタに 2（プリンタ指定方式が帳票名による自動振り分け）のとき

REPLACEITEMCNTLFILENAME

置き換え表管理情報ファイル名を指定します。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，置き換え表管理情報ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタに指定することもできます。
REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの REPLACEITEM キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

置き換え表管理情報ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタは，次に示すどれかの指定がある場合，有効になります。PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式が拠点サーバ印刷方式），かつ PRINTKIND パラメタに 1（印刷モードが EUR 形式ファイル印刷モード）の場合は，REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタを指定しても無視されます。

- PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式が拠点サーバ印刷方式），かつ PRINTKIND パラメタに 0（印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード）のとき
- PRINTMODE パラメタに 1（印刷方式がクライアント印刷方式）のとき
- PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）のとき

置き換え表管理情報ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

REPLACEITEMCNTLFILEPATH

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタで指定した置き換え表管理情報ファイルのパスを指定します。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

置き換え表管理情報ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタは，次に示すどれかの指定がある場合，有効になります。PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式が拠点サーバ印刷方式），かつ PRINTKIND パラメタに 1（印刷モードが EUR 形式ファイル印刷モード）の場合は，REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタを指定しても無視されます。

- PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式が拠点サーバ印刷方式），かつ PRINTKIND パラメタに 0（印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード）のとき
- PRINTMODE パラメタに 1（印刷方式がクライアント印刷方式）のとき
- PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）のとき

SPOOLFILENAME

蓄積ファイルに格納するファイル名を指定します。格納ファイル名が 256 バイトに満たない場合は空白で埋めてください。そのほか，格納ファイルを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

「%N」を指定すると，00000001 から始まる 8 けたの通し番号を設定できます。

SPOOLFILENAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

SPOOLFILENAME パラメタを省略した場合は，自動的にファイル名が生成されます。自動的に生成されるファイル名は「ジョブ ID.epf」※です。

複数の蓄積ファイルに同一ファイル名が指定されている場合，蓄積ファイル取得時に同一パスで取得されると，ファイルが上書きされます。同一パスで取得する可能性のあるファイルは，別の格納ファイル名に指定することをお勧めします。

SPOOLFILENAME パラメタは，PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

注※

「ジョブ ID」の形式を次に示します。
EUR ＋処理実行日時＋通番フォルダ番号 + 通し番号
処理実行日時（17 けた）：YYYYMMDDhhmmssmmm
通番フォルダ番号（7 けた）：0000001 ～ 2000000
通し番号（9 けた）：000000001 ～ 999999999
通番フォルダ番号が 2000000 を超えた場合は，エラー（KEEY430-S）になります。
通し番号が 999999999 を超えた場合は，000000003 に戻ります。

SPOOLLIMIT

蓄積ファイルの蓄積期限日を指定します。

蓄積期限日は，日付または日数で指定してください。

日付で指定する場合

- 「YYYYMMDD」の形式で指定してください。
- 年（西暦）は 4 けた，月と日は 2 けたで入力します。
- 月，または日が 1 ～ 9 の場合は，ゼロ埋めをして入力します。
- 指定できる値の上限は，20380118（2038 年 1 月 18 日）です。
- 過去の日付は指定できません。

（指定例）20120521，20141008

日数で指定する場合

- 「+XXX」の形式で指定してください。
- 「XXX」には，蓄積実行時からの保管日数を指定します。指定できる値は 000 ～ 999 です。
- 2038 年 1 月 18 日を超える日数は指定できません。

（指定例）+030，+999

SPOOLLIMIT パラメタを指定しない場合，蓄積期限日は蓄積を要求した EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPOOLLIMIT キーの指定に従います。蓄積期限日を過ぎた蓄積ファイルは蓄積期限切れファイル削除機能によって削除されます。

SPOOLLIMIT パラメタは，PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

EXECUTABLEPRINTMODE

実行可能印刷方式を指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：拠点サーバでの印刷
- 1：拠点サーバでの印刷，またはクライアント PC での印刷
- 2：クライアント PC での印刷

EXECUTABLEPRINTMODE パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。
EXECUTABLEPRINTMODE パラメタの指定を省略した場合は，1 が仮定されます。

EXECUTABLEPRINTMODE パラメタは，PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

MAXPRINTCOUNT

蓄積ファイルの印刷回数の上限を指定します。指定できる値は，-1 ～ 65,536 です。印刷回数の上限を無限にする場合は，-1 を指定します。印刷を禁止する場合は，0 を指定します。

MAXPRINTCOUNT パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。
MAXPRINTCOUNT パラメタの指定を省略した場合は，-1 が仮定されます。

MAXPRINTCOUNT パラメタは，PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

ENABLEGET

蓄積ファイルを取得するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：蓄積ファイルを取得できません。
- 1：蓄積ファイルを取得できます。

ENABLEGET パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。

ENABLEGET パラメタは，PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

PRINTHOLDMODE

蓄積ファイルを印刷する場合に，蓄積後に続けて印刷するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：蓄積後に続けて印刷しません（印刷保留）。
- 1：蓄積後に続けて拠点サーバで印刷します。
- 2：蓄積後に続けてクライアント PC で印刷します。

PRINTHOLDMODE パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。
PRINTHOLDMODE パラメタの指定を省略した場合は，1 が仮定されます。

PRINTHOLDMODE パラメタは，PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

JOBKEYCATEGORY

蓄積ファイルの検索キーの分類を指定します。

指定できる検索キーは，10 個までです。ただし，検索キーの分類を 6 個以上指定する場合，6 ～ 10 個の項目は JOBKEYS2 構造体の JOBKEYCATEGORY2 パラメタで指定してください。JOBKEYCATEGORY パラメタを指定する場合は，検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず JOBKEYDATA パラメタに指定してください。このとき，要素数が同じになるように指定してください。検索キーを指定しない場合，JOBKEYCATEGORY パラメタと JOBKEYDATA パラメタは，どちらも指定しないでください。どちらかの指定がある場合は，対応する情報がないため，エラーになります。

検索キーの分類は，任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。

- 分類が 80 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。
- 分類には「,」を含めないでください。

JOBKEYCATEGORY パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

JOBKEYCATEGORY パラメタは，PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

JOBKEYDATA

蓄積ファイルの検索キーの値を指定します。

指定できる検索キーは，10 個までです。ただし，検索キーを 6 個以上指定する場合，6 ～ 10 個の項目は JOBKEYS2 構造体の JOBKEYDATA2 パラメタで指定してください。JOBKEYCATEGORY パラメタを指定する場合は，検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず JOBKEYDATA パラメタに指定してください。このとき，要素数が同じになるように指定してください。検索キーを指定しない場合，JOBKEYCATEGORY パラメタと JOBKEYDATA パラメタは，どちらも指定しないでください。どちらかの指定がある場合は，対応する情報がないため，エラーになります。

検索キーの値は，任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。

- 分類が 80 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。
- 分類には「,」を含めないでください。

JOBKEYDATA パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

JOBKEYDATA パラメタは，PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

PMSERVERADDR

印刷管理サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

PMSERVERADDR パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

PMSERVERPORT

印刷管理サーバのポート番号を指定します。

PMSERVERPORT パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。

EPFFILENAME

入力 EPF 形式ファイル名を指定します。

EPFFILENAME パラメタを省略したい場合は，空白を指定します。

EPFFILEPATH

EPFFILENAME パラメタで指定した EPF 形式ファイルのパスを指定します。

EPFFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，EPFFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。

EPFFILEPATH パラメタを省略したい場合は，空白を指定します。

JOBKEYCATEGORY2

蓄積ファイルの検索キーの分類を指定します。

指定できる検索キーは，10 個までです。ただし，指定する検索キーの分類が 5 個以下の場合，1 ～ 5 個の項目は JOBKEYS 構造体の JOBKEYCATEGORY パラメタで指定してください。JOBKEYCATEGORY2 パラメタを指定する場合は，検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず JOBKEYDATA2 パラメタに指定してください。このとき，要素数が同じになるように指定してください。検索キーを指定しない場合，JOBKEYCATEGORY2 パラメタと JOBKEYDATA2 パラメタは，どちらも指定しないでください。どちらかの指定がある場合は，対応する情報がないため，エラーになります。

検索キーの分類は，任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。

- 分類が 80 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。
- 分類には「,」を含めないでください。

JOBKEYCATEGORY2 パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

JOBKEYCATEGORY2 パラメタは，PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

JOBKEYDATA2

蓄積ファイルの検索キーの値を指定します。

指定できる検索キーは，10 個までです。ただし，指定する検索キーが 5 個以下の場合，1 ～ 5 個の項目は JOBKEYS 構造体の JOBKEYDATA パラメタで指定してください。JOBKEYCATEGORY2 パラメタを指定する場合は，検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず JOBKEYDATA2 パラメタに指定してください。このとき，要素数が同じになるように指定してください。検索キーを指定しない場合，JOBKEYCATEGORY2 パラメタと JOBKEYDATA2 パラメタは，どちらも指定しないでください。どちらかの指定がある場合は，対応する情報がないため，エラーになります。

検索キーの値は，任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。

- 分類が 80 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。
- 分類には「,」を含めないでください。

JOBKEYDATA2 パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

JOBKEYDATA2 パラメタは，PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

PSENVFILENAME

EUR Print Service の動作環境を印刷ジョブごとに変更する場合に，EUR Print Service の環境設定ファイル名を指定します。

EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で，OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，PSENVFILENAME パラメタは，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは，PSENVFILEPATH パラメタに指定することもできます。PSENVFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PSENV キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PSENV キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。

- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

EUR Print Service の環境設定ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PSENVFILENAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

PSENVFILEPATH

PSENVFILENAME パラメタで指定した EUR Print Service の環境設定ファイルのパスを指定します。

PSENVFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，PSENVFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。PSENVFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PRINTDATEFILENAME

印刷日時出力定義ファイル名を指定します。

EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で，OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，PRINTDATEFILENAME パラメタは，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの PRINTDATE キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは，PRINTDATEFILEPATH パラメタに指定することもできます。
PRINTDATEFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PRINTDATE キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PRINTDATE キーで設定し

ている起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PRINTDATE キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

印刷日時出力定義ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PRINTDATEFILENAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

印刷日時出力定義ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

PRINTDATEFILEPATH

PRINTDATEFILENAME パラメタで指定した印刷日時出力定義ファイルのパスを指定します。

PRINTDATEFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，
PRINTDATEFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。
PRINTDATEFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

印刷日時出力定義ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

SPLITMODE

蓄積時に，帳票を分割または仕分けするかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：EUR Print Manager の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPLITMODE キーの指定に従います。
- 1：分割または仕分けしないで蓄積します。
- 2：帳票を仕分けして蓄積します。
- 3：帳票を分割して蓄積します。

SPLITMODE パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。

SPLITMODE パラメタは，PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

SPLITFILENAME

帳票を分割または仕分けして蓄積する場合に，EURPM 分割定義ファイルまたは EURPM 仕分け定義ファイルのファイル名を指定します。

ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

SPLITFILENAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

SPLITFILENAME パラメタは，PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合で，かつ次のどちらかの条件に当てはまるときに指定が有効になります。それ以外の場合は，SPLITFILENAME パラメタを指定しても無視されます。

- SPLITMODE パラメタに 2（帳票を仕分けして蓄積）または 3（帳票を分割して蓄積）を指定しているとき。
- SPLITMODE パラメタに 0（EUR Print Manager の環境設定ファイルの指定に従う）を指定していて，かつ EUR Print Manager の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPLITMODE キーに PAGE（分割）または KEY（仕分け）を指定しているとき。

EURPM 分割定義ファイルまたは EURPM 仕分け定義ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

SPLITFILEPATH

SPLITFILENAME パラメタで指定した，EURPM 分割定義ファイルまたは EURPM 仕分け定義ファイルのパスを指定します。

SPLITFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，SPLITFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。SPLITFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

SPLITFILEPATH パラメタは，PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合で，かつ次のどちらかの条件に当てはまるときに指定が有効になります。それ以外の場合は，SPLITFILEPATH パラメタを指定しても無視されます。

- SPLITMODE パラメタに 2（帳票を仕分けして蓄積）または 3（帳票を分割して蓄積）を指定しているとき。
- SPLITMODE パラメタに 0（EUR Print Manager の環境設定ファイルの指定に従う）を指定していて，かつ EUR Print Manager の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPLITMODE キーに PAGE（分割）または KEY（仕分け）を指定しているとき。

パスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては，「11.5.1　エラー情報一覧」を参照してください。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合，エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は，空白が設定されます。

JOBID

蓄積ファイルのジョブ ID が設定されます。PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ参照できます。

帳票を仕分けまたは分割して蓄積した場合など，直前に蓄積した蓄積ファイルが複数ある場合は，最初に蓄積した蓄積ファイルのジョブ ID が参照できます。

エラーメッセージ

EUR Print Service と連携して使用するパラメタでエラーが発生した場合は，次のエラーメッセージが出力されます。メッセージが表示されたときは，EUR Print Service のイベントログ，または eurps ログを参照してください。

メッセージ ID	メッセージ
KEEY221-E	印刷処理でエラーが発生しました。(337)

PrintReport2 関数

帳票の印刷，または帳票の印刷データを蓄積します。また，PrintReport2 関数では，蓄積した印刷データ（蓄積ファイル）のジョブ ID を複数取得できます。

形式

```
01 EURPMPARAM.
        02  FILLER                     PIC X(4) VALUE '0870'.
        02  CLIENTADDR                 PIC X(15) VALUE SPACE.
        02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  SERVERNAME                 PIC X(80) VALUE SPACE.
        02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  PRINTERNAME                PIC X(80) VALUE SPACE.
        02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  TRAYNAME                   PIC X(80) VALUE SPACE.
        02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  PRINTSTARTPAGE             PIC 9(9) COMP-X VALUE 0.
        02  PRINTENDPAGE               PIC 9(9) COMP-X VALUE 0.
        02  REPORTSETFILE              PIC X(256) VALUE SPACE.
        02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  MULTIFORMINFO              PIC X(256) VALUE SPACE.
        02  FILLER                     PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  FILLER                     PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
```

```
02  REPORTSET.
  03  REPORTNAME                PIC X(256) VALUE SPACE.
  03  FILLER                    PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  03  MAPPINGDATA               PIC X(256) VALUE SPACE.
  03  FILLER                    PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
  03  USERDEFDATA               PIC X(256) VALUE SPACE.
  03  FILLER                    PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  ERRORMESSAGE                PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  MAPPINGDATAPATH             PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  USERDEFDATAPATH             PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  REPORTSETFILEPATH           PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  CLIENTPRINTERNAME           PIC X(80) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  CLIENTTRAYNAME              PIC X(80) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  DISTRIBUTIONINFOFILE        PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  DISTRIBUTIONINFOFILEPATH    PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  REPORTFILEPATH              PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  MULTIFORMINFOPATH           PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  DOCINFOFILE                 PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  DOCINFOFILEPATH             PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  FAXINFOFILE                 未使用 空白を指定してください。
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  FAXINFOFILEPATH             未使用 空白を指定してください。
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  PAGENUMBERFORMAT            PIC X(80) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  FILLER                      PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02  PRINTCOPIES                 PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  SORTPRINT                   PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  PAPERORIENTATION            PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  PRINTPAGENUMBER             PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  PAGENUMBERLOCATION          PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  FIRSTPAGENUMBER             PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  INITPAGENUMBER              PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  DBINFOFILENAME              PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  DBINFOFILEPATH              PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  FILLER                      PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02  PRINTMODE                   PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  PRINTKIND                   PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  SERVERSELECTMODE            PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  PRINTERSELECTMODE           PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  DISPPRINTDLG                PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  DESTNAME                    PIC X(80) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
```

```
02  SERVERADDR                  PIC X(80) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  PRINTERCLASSNAME            PIC X(80) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  SERVERPRINTERNAME           PIC X(80) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  SERVERTRAYNAME              PIC X(80) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  GROUPNAME                   PIC X(80) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  REPLACEITEMCNTLFILENAME     PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  REPLACEITEMCNTLFILEPATH     PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  SPOOLFILENAME               PIC X(256) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  SPOOLLIMIT                  PIC X(8) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  FILLER                      PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02  EXECUTABLEPRINTMODE         PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  MAXPRINTCOUNT               PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  ENABLEGET                   PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  PRINTHOLDMODE               PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  JOBKEYNUM                   PIC S9(9) COMP-5 VALUE 5.
02  JOBKEYS                     OCCURS 5 TIMES.
  03  JOBKEYCATEGORY            PIC  X(80) VALUE SPACE.
  03  FILLER                    PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  03  JOBKEYDATA                PIC  X(80) VALUE SPACE.
  03  FILLER                    PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  JOBID                       PIC X(36) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  PMSERVERADDR                PIC X(15) VALUE SPACE.
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  PMSERVERPORT                PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
02  EPFFILENAME                 PIC X(256).
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  EPFFILEPATH                 PIC X(256).
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  FILLER                      PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02  JOBKEYNUM2                  PIC S9(9) COMP-5 VALUE 5.
02  JOBKEYS2                    OCCURS 5 TIMES.
  03  JOBKEYCATEGORY2           PIC  X(80) VALUE SPACE.
  03  FILLER                    PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
  03  JOBKEYDATA2               PIC  X(80) VALUE SPACE.
  03  FILLER                    PIC  X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  FILLER                      PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02  PSENVFILENAME               PIC X(256).
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  PSENVFILEPATH               PIC X(256).
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  FILLER                      PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
02  PRINTDATEFILENAME           PIC X(256).
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  PRINTDATEFILEPATH           PIC X(256).
02  FILLER                      PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
02  FILLER                      PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
```

```
        02  SPLITMODE                      PIC S9(9) COMP-5 VALUE -1.
        02  SPLITFILENAME                  PIC X(256).
        02  FILLER                         PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  SPLITFILEPATH                  PIC X(256).
        02  FILLER                         PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
        02  FILLER                         PIC X(2) VALUE LOW-VALUE.
01 EURPMPARAMJOBID.
        02  JOBIDNUM                       PIC S9(9) COMP-5 VALUE n.
        02  JOBIDS                         OCCURS n TIMES.
          03  JOBID                        PIC  X(36) VALUE SPACE.
          03  FILLER                       PIC X(1) VALUE LOW-VALUE.
          03  FILLER                       PIC X(3) VALUE LOW-VALUE.
01 RTNCODE                                   PIC S9(9) BINARY.

call 'PrintReport2'  USING  EURPMPARAM
                            EURPMPARMJOBID
RETURNING  RTNCODE.
```

パラメタ

CLIENTADDR

印刷を実行するクライアント PC の IP アドレス，または蓄積クライアント印刷実行を要求するクライアント PC の IP アドレスを指定します。

CLIENTADDR パラメタは，PRINTMODE パラメタに 1（印刷方式がクライアント印刷方式）の場合，必ず指定してください。

PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）の場合，CLIENTADDR パラメタの指定は任意です。PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式が拠点サーバ印刷方式）または PRINTMODE パラメタに 4（印刷方式が印刷管理サーバ直接印刷方式）の場合は，CLIENTADDR パラメタを指定しても無視されます。

SERVERNAME

指定しても無視されます。

PRINTERNAME

指定しても無視されます。

TRAYNAME

指定しても無視されます。

PRINTSTARTPAGE

印刷開始ページを指定します。指定できる値は，0 ～ 999,999 です。

PRINTSTARTPAGE パラメタを省略する場合は，0 を指定します。
PRINTSTARTPAGE パラメタの指定を省略した場合は，1 ページから印刷されます。

REPORTSETFILE パラメタを指定した場合，PRINTSTARTPAGE パラメタの指定は無視されます。

複数の帳票ファイルを指定した場合は，PRINTSTARTPAGE パラメタの指定に関係なく，指定した複数の帳票ファイルの全ページが印刷されます。

PRINTENDPAGE

印刷終了ページを指定します。指定できる値は，0 ～ 999,999 です。

PRINTENDPAGE パラメタを省略する場合は，0 を指定します。PRINTENDPAGE パラメタを省略した場合は，最終ページまで印刷されます。

REPORTSETFILE パラメタを指定した場合，PRINTENDPAGE パラメタの指定は無視されます。

複数の帳票ファイルを指定した場合は，PRINTENDPAGE パラメタの指定に関係なく，指定した複数の帳票ファイルの全ページが印刷されます。

REPORTSETFILE

帳票セット指定ファイル名を指定します。

REPORTSETFILE パラメタ，または REPORTNAME パラメタのどちらかは，必ず指定してください。

帳票セット指定ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPORTSETFILE パラメタを省略する場合は，空白を指定します。ただし，REPORTSETFILE パラメタを省略する場合は，REPORTSET パラメタは省略しないでください。

帳票セット指定ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

MULTIFORMINFO

複数様式情報定義ファイル名を指定します。複数様式で帳票を出力する場合は，必ず指定してください。

MULTIFORMINFO パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，複数様式情報定義ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの MULTI キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，MULTIFORMINFOPATH パラメタに指定することもできます。
MULTIFORMINFOPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの MULTI キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの MULTI キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの MULTI キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

複数様式情報定義ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

複数様式情報定義ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

REPORTSET

帳票セット指定ファイルを指定するためのパラメタの親項目です。

REPORTNAME

帳票ファイル名を指定します。帳票ファイル名（*.fms）を指定してください。

REPORTNAME パラメタ，または REPORTSETFILE パラメタのどちらかは，必ず指定してください。

REPORTNAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，帳票ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，REPORTFILEPATH パラメタに指定することもできます。REPORTFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの FORM キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの FORM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの FORM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

帳票ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

帳票ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

MAPPINGDATA

マッピングデータファイル名，または可変記号値定義ファイル名を指定します。

MAPPINGDATA パラメタには，REPORTNAME パラメタで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を指定します。なお，指定できるファイル名は，一つだけです。

MAPPINGDATA パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

マッピングデータファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

USERDEFDATA

ユーザ定義データファイル名または可変記号値定義ファイル名を指定します。

USERDEFDATA パラメタには，REPORTNAME パラメタで指定した帳票ファイルに対応するファイル名を指定します。指定するファイル名は，REPORTNAME パラメタで指定したファイル名と同じ数を指定してください。

USERDEFDATA パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

ユーザ定義データファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

MAPPINGDATAPATH

MAPPINGDATA パラメタまたは帳票セット指定ファイルで指定するマッピングデータファイルのパス，もしくは可変記号値定義ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，MAPPINGDATA パラメタで指定したファイルのパスとなります。

MAPPINGDATA パラメタをフルパスで指定した場合は，MAPPINGDATAPATH パラメタを指定する必要はありません。MAPPINGDATAPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

パスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

USERDEFDATAPATH

USERDEFDATA パラメタで指定するユーザ定義データファイルのパス，または可変記号値定義ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，USERDEFDATA パラメタで指定したファイルのパスとなります。

USERDEFDATA パラメタをフルパスで指定した場合は，USERDEFDATAPATH パラメタを指定する必要はありません。USERDEFDATAPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

パスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPORTSETFILEPATH

REPORTSETFILE パラメタで指定する帳票セット指定ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，REPORTSETFILE パラメタで指定したファイルのパスとなります。

REPORTSETFILE パラメタをフルパスで指定した場合は，REPORTSETFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。REPORTSETFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

帳票セット指定ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

CLIENTPRINTERNAME

クライアント PC の OS 上のプリンタ名を指定します。

CLIENTPRINTERNAME パラメタは，PRINTMODE パラメタに 1（印刷方式がクライアント印刷方式）の場合，および PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は，CLIENTPRINTERNAME パラメタを指定しても無視されます。

CLIENTPRINTERNAME パラメタを指定した場合，対話型印刷はできません。

CLIENTPRINTERNAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

次のことに注意して，プリンタ名を指定してください。

- 指定するプリンタ名が，80 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。
- プリンタ名には「"」および「,」を含めないでください。

CLIENTPRINTERNAME パラメタを指定した場合，かつ DISPPRINTDLG パラメタに 0 または 2 を指定した場合は，DISPPRINTDLG パラメタは強制的に 1（ダイアログを表示しません）が仮定されます。

CLIENTPRINTERNAME パラメタと PRINTERCLASSNAME パラメタでは，

CLIENTPRINTERNAME パラメタの指定を優先します。

CLIENTTRAYNAME

クライアントプリンタの OS 上のトレイ名を指定します。

CLIENTTRAYNAME パラメタを指定する場合は，CLIENTPRINTERNAME パラメタを必ず指定してください。

CLIENTTRAYNAME パラメタを指定しない場合は，CLIENTPRINTERNAME パラメタで指定したプリンタのデフォルトのトレイから出力されます。また，CLIENTTRAYNAME パラメタに指定したトレイ名が，出力先のプリンタで使用できない場合は，CLIENTPRINTERNAME パラメタで指定したプリンタのデフォルトのトレイから出力されます。

CLIENTTRAYNAME パラメタは，PRINTMODE パラメタに 1（印刷方式がクライアント印刷方式）の場合，および PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は，CLIENTTRAYNAME パラメタを指定しても無視されます。

次のことに注意して，トレイ名を指定してください。

- 指定するトレイ名が，80 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。
- トレイ名には「"」および「,」を含めないでください。

このパラメタを省略する場合は，空白を指定します。

DISTRIBUTIONINFOFILE

仕分け定義情報ファイル名を指定します。

DISTRIBUTIONINFOFILE パラメタは，PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式が拠点サーバ印刷方式）かつ PRINTKIND パラメタに 1（印刷モードが EUR 形式ファイル印刷モード）の場合，および PRINTMODE パラメタが 4（印刷方式が印刷管理サーバ直接印刷方式）の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は，DISTRIBUTIONINFOFILE パラメタを指定しても無視されます。

仕分け定義情報ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

DISTRIBUTIONINFOFILE パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

仕分け定義情報ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

DISTRIBUTIONINFOFILEPATH

DISTRIBUTIONINFOFILE パラメタで指定する帳票セット指定ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，DISTRIBUTIONINFOFILE パラメタで指定し

たファイルのパスとなります。

DISTRIBUTIONINFOFILE パラメタをフルパスで指定した場合は，
DISTRIBUTIONINFOFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。
DISTRIBUTIONINFOFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

DISTRIBUTIONINFOFILEPATH パラメタは，PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式が拠点サーバ印刷方式）かつ PRINTKIND パラメタに 1（印刷モードが EUR 形式ファイル印刷モード）の場合，および PRINTMODE パラメタが 4（印刷方式が印刷管理サーバ直接印刷方式）の場合に指定が有効になります。それ以外の場合は，
DISTRIBUTIONINFOFILEPATH パラメタを指定しても無視されます。

帳票セット指定ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPORTFILEPATH

REPORTNAME パラメタで指定する帳票ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，REPORTNAME パラメタで指定したファイルのパスとなります。

REPORTNAME パラメタをフルパスで指定した場合は，REPORTFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。REPORTFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

帳票ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

MULTIFORMINFOPATH

MULTIFORMINFO パラメタで指定する複数様式情報定義ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，MULTIFORMINFO パラメタで指定したファイルのパスとなります。

MULTIFORMINFO パラメタをフルパスで指定した場合は，MULTIFORMINFOPATH パラメタを指定する必要はありません。MULTIFORMINFOPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

複数様式情報定義ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，
「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

DOCINFOFILE

文書情報設定ファイル名を指定します。

DOCINFOFILE パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，文書情報設定ファイル名は，ファイル名だけを指定し

てください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，DOCINFOFILEPATH パラメタに指定することもできます。DOCINFOFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DOCINFO キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DOCINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DOCINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

文書情報設定ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

文書情報設定ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

DOCINFOFILEPATH

DOCINFOFILE パラメタで指定した文書情報設定ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，DOCINFOFILE パラメタで指定したファイルのパスとなります。

DOCINFOFILE パラメタをフルパスで指定した場合は，DOCINFOFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。DOCINFOFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

文書情報設定ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

FAXINFOFILE

使用できません。空白を指定してください。

FAXINFOFILEPATH

使用できません。空白を指定してください。

PAGENUMBERFORMAT

ページ番号のフォーマットを指定します。ページ番号を「*」，最終ページ番号を「$」で示して出力形式を指定します。

ページ番号および最終ページ番号を全角で表示したいときは全角の記号で，半角で表示したいときは半角の記号で指定します。

ページ番号のフォーマットが 80 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。

PAGENUMBERFORMAT パラメタは，PRINTPAGENUMBER パラメタに 1 が指定されている場合だけ有効になります。ただし，MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は，PAGENUMBERFORMAT パラメタの設定値は無視されます。

PAGENUMBERFORMAT パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

PRINTCOPIES

印刷部数を指定します。指定できる値は，1 ～ 99 です。

PRINTCOPIES パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。PRINTCOPIES パラメタの指定を省略した場合は，1 が仮定されます。

SORTPRINT

印刷部数の単位を指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：部単位で出力します。
- 1：ページ単位で出力します。

SORTPRINT パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。SORTPRINT パラメタの指定を省略した場合は，0 が仮定されます。

複数帳票を出力する場合は，SORTPRINT パラメタの指定に関係なく 0 が仮定されます。

PAPERORIENTATION

用紙の向きを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：帳票を定義したときの情報に従います。
- 1：用紙の向きを縦にして出力します。
- 2：用紙の向きを横にして出力します。

PAPERORIENTATION パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。
PAPERORIENTATION パラメタの指定を省略した場合は，0 が仮定されます。

複数帳票を出力する場合は，PAPERORIENTATION パラメタの指定に関係なく，0 が仮定されます。

PRINTPAGENUMBER

余白へのページ番号印刷を指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：余白へのページ番号は出力しません。
- 1：余白へのページ番号を出力します。

PRINTPAGENUMBER パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。
PRINTPAGENUMBER パラメタの指定を省略した場合は，0 が仮定されます。

ただし，MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は，PRINTPAGENUMBER パラメタの設定値は無視されます。

PAGENUMBERLOCATION

余白へのページ番号の印刷位置を指定します。

PAGENUMBERLOCATION パラメタは，PRINTPAGENUMBER パラメタに 1 が指定されている場合だけ有効になります。ただし，MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は，PAGENUMBERLOCATION パラメタの設定値は無視されます。

指定できる値を次に示します。

- 1：ページ番号を左上に出力します。
- 2：ページ番号を中央上に出力します。
- 3：ページ番号を右上に出力します。
- 4：ページ番号を左下に出力します。
- 5：ページ番号を中央下に出力します。
- 6：ページ番号を右下に出力します。

PAGENUMBERLOCATION パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。

FIRSTPAGENUMBER

ページ番号の初期値を指定します。指定できる値は，1 ～ 999,999 です。

FIRSTPAGENUMBER パラメタは，PRINTPAGENUMBER パラメタに 1 が指定されている場合だけ有効になります。ただし，MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は，FIRSTPAGENUMBER パラメタの設定値は無視されます。

FIRSTPAGENUMBER パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。
FIRSTPAGENUMBER パラメタの指定を省略した場合は，1 が仮定されます。

INITPAGENUMBER

改ページのキーが設定されている場合，そのキーがブレイクするごとにページ番号の開始番号を初期化するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：初期化しません。
- 1：初期化します。

INITPAGENUMBER パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。
INITPAGENUMBER パラメタの指定を省略した場合は，出力する帳票の属性に従います。帳票の属性の初期値は，0 が仮定されます。

ただし，MULTIFORMINFO パラメタを指定した場合は，INITPAGENUMBER パラメタの設定値は無視されます。

DBINFOFILENAME

接続情報ファイル名を指定します。

DBINFOFILENAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，接続情報ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，DBINFOFILEPATH パラメタに指定することもできます。DBINFOFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DBINFO キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DBINFO キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの DBINFO キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

接続情報ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

接続情報ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

DBINFOFILEPATH

DBINFOFILENAME パラメタで指定した接続情報ファイルのパスを指定します。指定されたファイルのパスは，DBINFOFILENAME パラメタで指定したファイルのパスとなります。

DBINFOFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，DBINFOFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。DBINFOFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

接続情報ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PRINTMODE

印刷方式を選択します。

指定できる値を次に示します。

- 0：デフォルト印刷方式 ※
- 1：クライアント印刷方式
- 2：蓄積
- 3：拠点サーバ印刷方式
- 4：印刷管理サーバ直接印刷方式
- 5：クライアント配布印刷方式

注※

「0（デフォルト印刷方式）」を定義する場合は，EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）で OPTION セクションの DEFAULTPRINTMODE キーに値を設定してください。

0，1，2，3，4，5 以外の値を指定した場合は，0 が仮定されます。PRINTMODE パラメタを省略した場合は，環境設定ファイル（EURPMADP.ini）で OPTION セクションの PRINTMODE キーに指定されている値をデフォルトとします。

PRINTMODE パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。

PRINTKIND

拠点サーバの印刷方法を選択します。

指定できる値を次に示します。

- 0：EPF 形式ファイルを印刷します。
- 1：EUR 形式ファイルを印刷します。

PRINTKIND パラメタは，PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式が拠点サーバ印刷方式）が指定されている場合だけ有効になります。

PRINTKIND パラメタを省略する場合は，-1 を設定します。PRINTKIND パラメタの指定を省略した場合，または 0，1 以外の値を指定した場合は，0 が仮定されます。

SERVERSELECTMODE

拠点サーバでの印刷を選択します。

指定できる値を次に示します。

- 0：出力先名を指定します。
- 1：拠点サーバの IP アドレスを指定します。

SERVERSELECTMODE パラメタは，PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積），または 3（印刷方式が拠点サーバ印刷方式）が指定されている場合だけ有効になります。

SERVERSELECTMODE パラメタを省略する場合は，-1 を設定します。
SERVERSELECTMODE パラメタの指定を省略した場合，または 0，1 以外の値を指定した場合は，0 が仮定されます。

PRINTERSELECTMODE

プリンタの指定方法を選択します。

指定できる値を次に示します。

- 0：プリンタクラス名を指定します。
- 1：OS 上のプリンタ名を指定します
- 2：帳票振り分け定義を指定します

PRINTERSELECTMODE パラメタは，次の場合に指定が有効になります。

- PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている
- PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式が拠点サーバ印刷方式）が指定されている
- PRINTMODE パラメタに 4（印刷管理サーバ直接印刷方式）が指定されている

PRINTERSELECTMODE パラメタを省略する場合は，-1 を設定します。
PRINTERSELECTMODE パラメタの指定を省略した場合，または 0，1，2 以外の値を指定した場合は，0 が仮定されます。

また，印刷管理サーバによる直接印刷（PRINTMODE パラメタに 4 が指定）の場合，2 の値を指定するとエラーになります。

DISPPRINTDLG

クライアント PC で印刷する場合，ダイアログを表示するかどうかを選択します。指定できる値と印刷時の動作を次に示します。

- 0：印刷先指定ダイアログを表示します（対話型印刷）。
  プレビューボタンを選択すると，プレビューウィンドウが表示されます。
- 1：直接印刷を実行します（自動印刷）。
  印刷実行中に印刷中のダイアログが表示されます。
- 2：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示）。
  印刷メニューまたは印刷ボタンを選択すると，印刷先指定ダイアログが表示されます。
- 3：直接印刷を実行します（全自動印刷）。
  印刷実行中に印刷中のダイアログは表示されません。

- 4：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示限定）。
  印刷は実行できません。

DISPPRINTDLG パラメタを省略した場合，EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）で OPTION セクションの DISPPRINTDLG キーの設定値（0 ～ 4）が仮定されます。環境設定ファイル DISPPRINTDLG キーおよび DISPPRINTDLG パラメタとも省略した場合，0 が仮定されます。
CLIENTPRINTERNAME パラメタを指定した場合，かつ DISPPRINTDLG パラメタに 0 または 2 を指定した場合は，1 が仮定されます。

DISPPRINTDLG パラメタは，PRINTMODE パラメタに 1（印刷方式がクライアント印刷方式），または 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。それ以外の場合は，DISPPRINTDLG パラメタを指定しても無視されます。

DESTNAME

出力先名を指定します。

なお，UNIX/Linux 環境の場合，出力先（拠点サーバ）での印刷はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Print Manager - Report Server に対して，印刷を実行した場合はエラーとなります。

次のことに注意して，出力先名を指定してください。

- 指定する出力先名が，80 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。
- 出力先名には「"」および「,」を含めないでください。

このパラメタを省略する場合は，空白を設定します。

DESTNAME パラメタは，次に示すどちらかの指定がある場合有効になります。それ以外の場合は，DESTNAME パラメタを指定しても無視されます。

- PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式が拠点サーバ印刷方式），かつ SERVERSELECTMODE パラメタに 0（拠点サーバ指定方式が出力先名指定）のとき
- PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積），かつ SERVERSELECTMODE パラメタに 0（拠点サーバ指定方式が出力先名指定）のとき

SERVERADDR

拠点サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

なお，UNIX/Linux 環境の場合，拠点サーバでの印刷はサポートしていません。UNIX/Linux 環境の EUR Print Manager - Report Server に対して，印刷を実行した場合はエラーとなります。

SERVERADDR パラメタを省略する場合は，空白を設定します。

SERVERADDR パラメタは，次に示すどちらかの指定がある場合有効になります。それ以外の場合は，SERVERADDR パラメタを指定しても無視されます。

- PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式が拠点サーバ印刷方式），かつ SERVERSELECTMODE パラメタに 1（拠点サーバ指定方式が IP アドレス指定）のとき
- PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積），かつ SERVERSELECTMODE パラメタに 1（拠点サーバ指定方式が IP アドレス指定）のとき

PRINTERCLASSNAME

プリンタクラス名を指定します。

次のことに注意して，プリンタクラス名を指定してください。

- 指定するプリンタクラス名が，80 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。
- プリンタクラス名には「"」および「,」を含めないでください。

印刷方法ごとに指定するパラメタを次に示します。パラメタの組み合わせが異なる場合，指定した値は無効となります。なお，クライアント PC への配布印刷では，指定できません。

- 拠点サーバでの印刷を指定する場合
  PRINTMODE パラメタ：3
  PRINTERSELECTMODE パラメタ：0
  PRINTERCLASSNAME パラメタ：拠点プリンタクラス名
- クライアント PC での対話型印刷を指定する場合
  PRINTMODE パラメタ：1
  DISPPRINTDLG パラメタ：0
  PRINTERCLASSNAME パラメタ：帳票ジョブ名
- クライアント PC での自動印刷を指定する場合
  PRINTMODE パラメタ：1
  DISPPRINTDLG パラメタ：1
  PRINTERCLASSNAME パラメタ：クライアントプリンタクラス名
- クライアント PC での対話型印刷プレビューを指定する場合
  PRINTMODE パラメタ：1
  DISPPRINTDLG パラメタ：2
  PRINTERCLASSNAME パラメタ：帳票ジョブ名
- クライアント PC での全自動印刷を指定する場合
  PRINTMODE パラメタ：1
  DISPPRINTDLG パラメタ：3
  PRINTERCLASSNAME パラメタ：クライアントプリンタクラス名
- 印刷管理サーバでの印刷を指定する場合
  PRINTMODE パラメタ：4

PRINTERSELECTMODE パラメタ：0
PRINTERCLASSNAME パラメタ：印刷管理サーバプリンタクラス名

- 拠点サーバまたはクライアント PC での蓄積を指定する場合
  PRINTMODE パラメタ：2
  PRINTERSELECTMODE パラメタ：0
  PRINTERCLASSNAME パラメタ：拠点プリンタクラス名，または蓄積クライアント印刷方式のプリンタクラス名

「クライアント PC での自動印刷」と「蓄積クライアント印刷」の場合，CLIENTPRINTERNAME パラメタと PRINTERCLASSNAME パラメタでは，CLIENTPRINTERNAME パラメタの設定を優先します。

PRINTERCLASSNAME パラメタを省略する場合は，空白を設定します。

SERVERPRINTERNAME

サーバのプリンタ名を指定します。プリンタ名は OS 上のプリンタ名を指定してください。

次のことに注意して，プリンタ名を指定してください。

- 指定するプリンタ名が，80 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。
- プリンタ名には「"」および「,」を含めないでください。

SERVERPRINTERNAME パラメタを省略する場合は，空白を設定します。

SERVERPRINTERNAME パラメタは，次に示す指定がある場合有効になります。それ以外の場合は，SERVERPRINTERNAME パラメタを指定しても無視されます。

- PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式が拠点サーバ印刷方式），かつ PRINTERSELECTMODE パラメタに 1（プリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定）のとき
- PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積），かつ PRINTERSELECTMODE パラメタに 1（プリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定）のとき
- PRINTMODE パラメタに 4（印刷管理サーバ直接印刷方式），かつ PRINTERSELECTMODE パラメタに 1（プリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定）のとき

SERVERTRAYNAME

サーバのプリンタのトレイ名を指定します。トレイ名は OS 上のプリンタ名を指定してください。

SERVERTRAYNAME パラメタを指定するときは，SERVERPRINTERNAME パラメタを必ず指定してください。

Windows 環境の場合

次のことに注意して，トレイ名を指定してください。
- 指定するトレイ名が，80 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。
- トレイ名には「"」および「,」を含めないでください。

SERVERTRAYNAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。
SERVERTRAYNAME パラメタを指定しない場合は，SERVERPRINTERNAME パラメタで指定したプリンタのデフォルトのトレイから出力されます。また，SERVERTRAYNAME パラメタに指定したトレイ名が，出力先のプリンタで使用できない場合は，SERVERPRINTERNAME パラメタで指定したプリンタのデフォルトのトレイから出力されます。
SERVERTRAYNAME パラメタは，次に示す指定がある場合有効になります。それ以外の場合は，SERVERTRAYNAME パラメタを指定しても無視されます。
- PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式が拠点サーバ印刷方式），かつ PRINTERSELECTMODE パラメタに 1（プリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定）のとき
- PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積），かつ PRINTERSELECTMODE パラメタに 1（プリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定）のとき
- PRINTMODE パラメタに 4（印刷管理サーバ直接印刷方式），かつ PRINTERSELECTMODE パラメタに 1（プリンタ指定方式が OS 上のプリンタ名指定）のとき

UNIX/Linux 環境の場合
- 給紙トレイ情報を指定します。SERVERTRAYNAME パラメタを指定しない場合は，プリンタ定義ファイルのキーワード（DefaultCassette）に指定されているデフォルトのトレイから給紙されます。
  プリンタ定義ファイルの詳細については，マニュアル「EUR サーバ帳票出力」を参照してください。
- 指定する給紙トレイ情報を次に示します。

指定内容	給紙トレイ
auto	印刷用紙を自動で給紙します。出力する帳票の用紙サイズからカセットを自動選択します。
manual	手差しトレイから印刷用紙を給紙します。
トレイ番号	トレイ番号の給紙カセットから印刷用紙を給紙します。トレイ番号は，1 ～ n（n はプリンタ定義ファイルのキーワード Cassettes で指定した値）で指定します。 6 以上の値を指定した場合は自動給紙となります。

注意事項

SERVERTRAYNAME パラメタでは次に示す指定があった場合，プリンタのハードウェアによって動作が異なります。

- manual が指定されたとき
- トレイ番号が指定されたとき
- auto が指定されたのに，プリンタのパネルで給紙カセットが選択されたとき

また，帳票の用紙サイズと給紙される用紙のサイズが異なる場合も，プリンタのハードウェアによって動作が異なります。
帳票の用紙サイズと給紙される用紙のサイズを合わせておくか，または帳票の用紙サイズと異なる用紙に出力する場合は，あらかじめ試し印刷を実施してプリンタの動作を確認してください。

GROUPNAME

帳票振り分け定義の振り分けグループ名を指定します。

次のことに注意して，振り分けグループ名を指定してください。

- 指定する振り分けグループ名が，80 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。
- 振り分けグループ名には「"」および「,」を含めないでください。

GROUPNAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

GROUPNAME パラメタは，次に示すどちらかの指定がある場合有効になります。それ以外の場合は，GROUPNAME パラメタを指定しても無視されます。

- PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式が拠点サーバ印刷方式），かつ PRINTKIND パラメタに 0（印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード）のとき
- PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積），かつ PRINTERSELECTMODE パラメタに 2（プリンタ指定方式が帳票名による自動振り分け）のとき

REPLACEITEMCNTLFILENAME

置き換え表管理情報ファイル名を指定します。

環境設定ファイル（EURPM.ini）で OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，置き換え表管理情報ファイル名は，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。パスは，REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタに指定することもできます。
REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの REPLACEITEM キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの REPLACEITEM キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

置き換え表管理情報ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタは，次に示すどれかの指定がある場合，有効になります。PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式が拠点サーバ印刷方式），かつ PRINTKIND パラメタに 1（印刷モードが EUR 形式ファイル印刷モード）の場合は，REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタを指定しても無視されます。

- PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式が拠点サーバ印刷方式），かつ PRINTKIND パラメタに 0（印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード）のとき
- PRINTMODE パラメタに 1（印刷方式がクライアント印刷方式）のとき
- PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）のとき

置き換え表管理情報ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

REPLACEITEMCNTLFILEPATH

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタで指定した置き換え表管理情報ファイルのパスを指定します。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。
REPLACEITEMCNTLFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

置き換え表管理情報ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタは，次に示すどれかの指定がある場合，有効になります。PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式が拠点サーバ印刷方式），かつ PRINTKIND パラメタに 1（印刷モードが EUR 形式ファイル印刷モード）の場合は，REPLACEITEMCNTLFILENAME パラメタを指定しても無視されます。

- PRINTMODE パラメタに 3（印刷方式が拠点サーバ印刷方式），かつ PRINTKIND

パラメタに 0（印刷モードが EPF 形式ファイル印刷モード）のとき
- PRINTMODE パラメタに 1（印刷方式がクライアント印刷方式）のとき
- PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）のとき

SPOOLFILENAME

蓄積ファイルに格納するファイル名を指定します。格納ファイル名が 256 バイトに満たない場合は空白で埋めてください。そのほか，格納ファイルを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

「%N」を指定すると，00000001 から始まる 8 けたの通し番号を設定できます。

SPOOLFILENAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

SPOOLFILENAME パラメタを省略した場合は，自動的にファイル名が生成されます。自動的に生成されるファイル名は「ジョブ ID.epf」※です。

複数の蓄積ファイルに同一ファイル名が指定されている場合，蓄積ファイル取得時に同一パスで取得されると，ファイルが上書きされます。同一パスで取得する可能性のあるファイルは，別の格納ファイル名に指定することをお勧めします。

SPOOLFILENAME パラメタは，PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

注※

「ジョブ ID」の形式を次に示します。
EUR ＋処理実行日時＋通番フォルダ番号 + 通し番号
処理実行日時（17 けた）：YYYYMMDDhhmmssmmm
通番フォルダ番号（7 けた）：0000001 ～ 2000000
通し番号（9 けた）：000000001 ～ 999999999
通番フォルダ番号が 2000000 を超えた場合は，エラー（KEEY430-S）になります。
通し番号が 999999999 を超えた場合は，000000003 に戻ります。

SPOOLLIMIT

蓄積ファイルの蓄積期限日を指定します。

蓄積期限日は，日付または日数で指定してください。

日付で指定する場合
- 「YYYYMMDD」の形式で指定してください。
- 年（西暦）は 4 けた，月と日は 2 けたで入力します。
- 月，または日が 1 ～ 9 の場合は，ゼロ埋めをして入力します。
- 指定できる値の上限は，20380118（2038 年 1 月 18 日）です。
- 過去の日付は指定できません。

（指定例）20120521，20141008

日数で指定する場合

- 「+XXX」の形式で指定してください。
- 「XXX」には，蓄積実行時からの保管日数を指定します。指定できる値は 000 ～ 999 です。
- 2038 年 1 月 18 日を超える日数は指定できません。

（指定例）+030，+999

SPOOLLIMIT パラメタを指定しない場合，蓄積期限日は蓄積を要求した EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPOOLLIMIT キーの指定に従います。蓄積期限日を過ぎた蓄積ファイルは蓄積期限切れファイル削除機能によって削除されます。

SPOOLLIMIT パラメタは，PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

EXECUTABLEPRINTMODE

実行可能印刷方式を指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：拠点サーバでの印刷
- 1：拠点サーバでの印刷，またはクライアント PC での印刷
- 2：クライアント PC での印刷

EXECUTABLEPRINTMODE パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。
EXECUTABLEPRINTMODE パラメタの指定を省略した場合は，1 が仮定されます。

EXECUTABLEPRINTMODE パラメタは，PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

MAXPRINTCOUNT

蓄積ファイルの印刷回数の上限を指定します。指定できる値は，-1 ～ 65,536 です。印刷回数の上限を無限にする場合は，-1 を指定します。印刷を禁止する場合は，0 を指定します。

MAXPRINTCOUNT パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。
MAXPRINTCOUNT パラメタの指定を省略した場合は，-1 が仮定されます。

MAXPRINTCOUNT パラメタは，PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

ENABLEGET

蓄積ファイルを取得するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：蓄積ファイルを取得できません。
- 1：蓄積ファイルを取得できます。

ENABLEGET パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。

ENABLEGET パラメタは，PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

PRINTHOLDMODE

蓄積ファイルを印刷する場合に，蓄積後に続けて印刷するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：蓄積後に続けて印刷しません（印刷保留）。
- 1：蓄積後に続けて拠点サーバで印刷します。
- 2：蓄積後に続けてクライアント PC で印刷します。

PRINTHOLDMODE パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。
PRINTHOLDMODE パラメタの指定を省略した場合は，1 が仮定されます。

PRINTHOLDMODE パラメタは，PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

JOBKEYCATEGORY

蓄積ファイルの検索キーの分類を指定します。

指定できる検索キーは，10 個までです。ただし，検索キーの分類を 6 個以上指定する場合，6 ～ 10 個の項目は JOBKEYS2 構造体の JOBKEYCATEGORY2 パラメタで指定してください。JOBKEYCATEGORY パラメタを指定する場合は，検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず JOBKEYDATA パラメタに指定してください。このとき，要素数が同じになるように指定してください。検索キーを指定しない場合，
JOBKEYCATEGORY パラメタと JOBKEYDATA パラメタは，どちらも指定しないでください。どちらかの指定がある場合は，対応する情報がないため，エラーになります。

検索キーの分類は，任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。

- 分類が 80 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。
- 分類には「,」を含めないでください。

JOBKEYCATEGORY パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

JOBKEYCATEGORY パラメタは，PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

JOBKEYDATA

蓄積ファイルの検索キーの値を指定します。

指定できる検索キーは，10 個までです。ただし，検索キーを 6 個以上指定する場合，6 ～ 10 個の項目は JOBKEYS2 構造体の JOBKEYDATA2 パラメタで指定してください。JOBKEYCATEGORY パラメタを指定する場合は，検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず JOBKEYDATA パラメタに指定してください。このとき，要素数が同じになるように指定してください。検索キーを指定しない場合，JOBKEYCATEGORY パラメタと JOBKEYDATA パラメタは，どちらも指定しないでください。どちらかの指定がある場合は，対応する情報がないため，エラーになります。

検索キーの値は，任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。

- 分類が 80 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。
- 分類には「,」を含めないでください。

JOBKEYDATA パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

JOBKEYDATA パラメタは，PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

PMSERVERADDR

印刷管理サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。

PMSERVERADDR パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

PMSERVERPORT

印刷管理サーバのポート番号を指定します。

PMSERVERPORT パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。

EPFFILENAME

入力 EPF 形式ファイル名を指定します。

EPFFILENAME パラメタを省略したい場合は，空白を指定します。

EPFFILEPATH

EPFFILENAME パラメタで指定した EPF 形式ファイルのパスを指定します。

EPFFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，EPFFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。

EPFFILEPATH パラメタを省略したい場合は，空白を指定します。

JOBKEYCATEGORY2

蓄積ファイルの検索キーの分類を指定します。

指定できる検索キーは，10 個までです。ただし，指定する検索キーの分類が 5 個以下の場合，1 ～ 5 個の項目は JOBKEYS 構造体の JOBKEYCATEGORY パラメタで指定して

ください。JOBKEYCATEGORY2 パラメタを指定する場合は，検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず JOBKEYDATA2 パラメタに指定してください。このとき，要素数が同じになるように指定してください。検索キーを指定しない場合，JOBKEYCATEGORY2 パラメタと JOBKEYDATA2 パラメタは，どちらも指定しないでください。どちらかの指定がある場合は，対応する情報がないため，エラーになります。

検索キーの分類は，任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。

- 分類が 80 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。
- 分類には「,」を含めないでください。

JOBKEYCATEGORY2 パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

JOBKEYCATEGORY2 パラメタは，PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

JOBKEYDATA2

蓄積ファイルの検索キーの値を指定します。

指定できる検索キーは，10 個までです。ただし，指定する検索キーが 5 個以下の場合，1 ～ 5 個の項目は JOBKEYS 構造体の JOBKEYDATA パラメタで指定してください。JOBKEYCATEGORY2 パラメタを指定する場合は，検索キーの分類に対応する検索キーの値を必ず JOBKEYDATA2 パラメタに指定してください。このとき，要素数が同じになるように指定してください。検索キーを指定しない場合，JOBKEYCATEGORY2 パラメタと JOBKEYDATA2 パラメタは，どちらも指定しないでください。どちらかの指定がある場合は，対応する情報がないため，エラーになります。

検索キーの値は，任意文字列を指定できます。次のことに注意して指定してください。

- 分類が 80 バイトに満たない場合は，空白で埋めてください。
- 分類には「,」を含めないでください。

JOBKEYDATA2 パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

JOBKEYDATA2 パラメタは，PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

PSENVFILENAME

EUR Print Service の動作環境を印刷ジョブごとに変更する場合に，EUR Print Service の環境設定ファイル名を指定します。

EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で，OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，PSENVFILENAME パラメタは，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは，PSENVFILEPATH パラメタに指定することもできます。PSENVFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PSENV キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PSENV キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PSENV キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

EUR Print Service の環境設定ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PSENVFILENAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

PSENVFILEPATH

PSENVFILENAME パラメタで指定した EUR Print Service の環境設定ファイルのパスを指定します。

PSENVFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，PSENVFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。PSENVFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PRINTDATEFILENAME

印刷日時出力定義ファイル名を指定します。

EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で，OPTION セクションの PATHMODE キーに 0（通常モード）を設定している場合，PRINTDATEFILENAME パラメタは，ファイル名だけを指定してください。このとき，指定するファイルは，PATH セクションの PRINTDATE キーで設定しているフォルダに格納しておいてください。

OPTION セクションの PATHMODE キーに 1（フルパスモード）を設定している場合は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。

パスは，PRINTDATEFILEPATH パラメタに指定することもできます。
PRINTDATEFILEPATH パラメタにパスを指定しない場合は，次のことに注意してください。

- フルパスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PRINTDATE キーには指定が要りません。
- 相対パスを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PRINTDATE キーで設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定してください。
- ファイル名だけを指定する場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PRINTDATE キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定してください。

印刷日時出力定義ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2 ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

PRINTDATEFILENAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

印刷日時出力定義ファイルは，EUR Print Manager 稼働マシンに配置してください。

PRINTDATEFILEPATH

PRINTDATEFILENAME パラメタで指定した印刷日時出力定義ファイルのパスを指定します。

PRINTDATEFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，
PRINTDATEFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。
PRINTDATEFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

印刷日時出力定義ファイルのパスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

SPLITMODE

蓄積時に，帳票を分割または仕分けするかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：EUR Print Manager の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPLITMODE キーの指定に従います。
- 1：分割または仕分けしないで蓄積します。
- 2：帳票を仕分けして蓄積します。
- 3：帳票を分割して蓄積します。

SPLITMODE パラメタを省略する場合は，-1 を指定します。

SPLITMODE パラメタは，PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ有効になります。

SPLITFILENAME

帳票を分割または仕分けして蓄積する場合に，EURPM 分割定義ファイルまたは EURPM 仕分け定義ファイルのファイル名を指定します。

ファイル名を指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

SPLITFILENAME パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

SPLITFILENAME パラメタは，PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合で，かつ次のどちらかの条件に当てはまるときに指定が有効になります。それ以外の場合は，SPLITFILENAME パラメタを指定しても無視されます。

- SPLITMODE パラメタに 2（帳票を仕分けして蓄積）または 3（帳票を分割して蓄積）を指定しているとき。
- SPLITMODE パラメタに 0（EUR Print Manager の環境設定ファイルの指定に従う）を指定していて，かつ EUR Print Manager の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPLITMODE キーに PAGE（分割）または KEY（仕分け）を指定しているとき。

EURPM 分割定義ファイルまたは EURPM 仕分け定義ファイルは，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに配置してください。

SPLITFILEPATH

SPLITFILENAME パラメタで指定した，EURPM 分割定義ファイルまたは EURPM 仕分け定義ファイルのパスを指定します。

SPLITFILENAME パラメタをフルパスで指定した場合は，SPLITFILEPATH パラメタを指定する必要はありません。SPLITFILEPATH パラメタを省略する場合は，空白を指定します。

SPLITFILEPATH パラメタは，PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合で，かつ次のどちらかの条件に当てはまるときに指定が有効になります。それ以外の場合は，SPLITFILEPATH パラメタを指定しても無視されます。

- SPLITMODE パラメタに 2（帳票を仕分けして蓄積）または 3（帳票を分割して蓄積）を指定しているとき。
- SPLITMODE パラメタに 0（EUR Print Manager の環境設定ファイルの指定に従う）を指定していて，かつ EUR Print Manager の環境設定ファイルの OPTION セクションの SPLITMODE キーに PAGE（分割）または KEY（仕分け）を指定しているとき。

パスを指定するときの規則，および注意については，「15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意」を参照してください。

JOBIDNUM

JOBIDS パラメタの繰り返し回数 n を指定します。n には取得する蓄積ファイルのジョブ ID の最大数を指定してください。

蓄積ファイルの数が n を超える場合は，n 個までのジョブ ID が取得されます。

JOBIDS

取得したジョブ ID の一覧が格納される領域を指定します。詳細は，戻り値 JOBIDS を参照してください。

n には取得する蓄積ファイルのジョブ ID の最大数を指定してください。

戻り値

RTNCODE

終了コードが設定されます。終了コードについては，「11.5.1　エラー情報一覧」を参照してください。

ERRORMESSAGE

エラーが発生した場合，エラーメッセージとメッセージ ID が設定されます。エラーメッセージについては，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

エラーが発生しなかった場合は，空白が設定されます。

JOBID

蓄積ファイルのジョブ ID が設定されます。PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合だけ参照できます。

帳票を分割または仕分けして蓄積した場合など，蓄積した蓄積ファイルが複数あるときは，最初に蓄積した蓄積ファイルのジョブ ID を参照できます。

JOBIDNUM

蓄積ファイルのジョブ ID の数が設定されます。最大値は，JOBIDNUM パラメタの指定値です。PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合で，エラーが発生していないときだけ取得できます。PRINTMODE パラメタに 2 以外が指定されている場合やエラーが発生した場合は，JOBIDNUM パラメタに指定した値がそのまま設定されます。

蓄積処理中に警告（KEEY387-W）が発生した場合，配列要素の末尾に設定される文字列「Error」も一つとしてカウントされます。

JOBIDS

蓄積ファイルのジョブ ID が設定されます。PRINTMODE パラメタに 2（印刷方式が蓄積）が指定されている場合で，エラーが発生していないときだけ取得できます。

帳票を分割または仕分けして蓄積した場合など，蓄積した蓄積ファイルが複数あるときは，一つのジョブ ID が一つの配列要素に設定されます。また，蓄積処理中に警告（KEEY387-W）が発生した場合，配列要素の末尾に文字列「Error」が設定されます。

蓄積した蓄積ファイルの数が JOBIDNUM パラメタで指定した数よりも少ない場合は，戻り値 JOBIDNUM の数だけジョブ ID の情報が返され，それ以外の領域は不定となります。

蓄積した蓄積ファイルの数が JOBIDNUM パラメタで指定した数よりも多い場合は，ジョブ ID の情報がファイルの蓄積順に JOBIDNUM パラメタで指定した数だけ返されます。

エラーメッセージ

EUR Print Service と連携して使用するパラメタでエラーが発生した場合は，次のエラーメッセージが出力されます。メッセージが表示されたときは，EUR Print Service のイベントログ，または eurps ログを参照してください。

メッセージ ID	メッセージ
KEEY221-E	印刷処理でエラーが発生しました。(337)

11.4 環境設定ファイル

COBOL 起動部品で指定するファイルのデフォルトの読み込みフォルダなどを，環境設定ファイル（EURPMADP.ini）に指定できます。

環境設定ファイルについては，「16. 実行環境の設定」を参照してください。

11.5 エラー情報

COBOL 起動部品を使用して実行している場合にエラーが発生したときは，引数 RTNCODE に終了コード，引数 ERRORMESSAGE にメッセージが設定されます。

11.5.1 エラー情報一覧

COBOL 起動部品実行時のエラー情報の一覧を次に示します。

表 11-3 COBOL 起動部品実行時のエラー情報の一覧

終了コード	メッセージ文
201	プロパティ（プロパティ名）の指定値に誤りがあります。
202	プロパティ（プロパティ名）が指定されていません。
203	マッピングデータファイルの読み込みに失敗しました。
204	ユーザ定義データファイルの読み込みに失敗しました。
205	パラメタに誤りがあります。
206	必須パラメタの指定がありません。
207	サーバプリンタ名の指定がありません。
208	アダプタと印刷管理サーバとの間で通信エラーが発生しました。
209	印刷処理で警告が発生しました。(nnn)
210	環境設定ファイルに不正があります。詳細コード = [nnnnnn] ※
211	ログファイルの書き込みに失敗しました。
212	印刷管理サーバへの接続に失敗しました。
213	ジョブを起動しました。
214	ジョブを終了しました。
215	メモリ不足が発生しました。
216	通信タイムアウトが発生しました。
217	システムエラーが発生しました。
218	出力先一覧取得処理でエラーが発生しました。（nnn）
219	プリンタクラス一覧取得処理でエラーが発生しました。（nnn）
221	印刷処理でエラーが発生しました。（nnn）
222	クライアントプリンタ名の指定がありません。
223	PDF 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(nnn)
224	PDF 形式ファイル出力処理で警告が発生しました。(nnn)
225	EPF 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(nnn)
226	EPF 形式ファイル出力処理で警告が発生しました。(nnn)

終了コード	メッセージ文
227	PDF 形式ファイルの初期化に失敗しました。
228	EPF 形式ファイルの初期化に失敗しました。
229	PDF 形式ファイルの作成に失敗しました。
230	EPF 形式ファイルの作成に失敗しました。
231	指定された PDF 形式ファイルはほかの人が使用中です。
232	指定された EPF 形式ファイルはほかの人が使用中です。
233	帳票セット指定ファイルのフォーマットが不正です。
234	帳票セット指定ファイルの読み込みに失敗しました。
235	しおり定義ファイルの読み込みに失敗しました。
236	文書しおり定義ファイルの読み込みに失敗しました。
237	印刷管理サーバでコネクション数が限界値をオーバーしました。
238	拠点サーバでコネクション数が限界値をオーバーしました。
239	クライアントでコネクション数が限界値をオーバーしました。
240	仕分け定義情報ファイルの読み込みに失敗しました。
241	指定された EUR 形式ファイルはほかの人が使用中です。
242	EUR 形式ファイルの初期化に失敗しました。
243	EUR 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(nnn)
244	EUR 形式ファイル出力処理で警告が発生しました。(nnn)
245	EUR 形式ファイルの作成に失敗しました。
246	印刷管理サーバの EUR Print Manager のバージョンが不正です。
247	レジストリに不正があります。詳細コード = [nnnnnn] ※
248	暗号化設定ファイルの読み込みに失敗しました。
249	指定されたマッピングデータファイルが存在しません。
250	指定されたユーザ定義データファイルが存在しません。
251	指定されたしおり定義ファイルが存在しません。
252	指定された文書しおり定義ファイルが存在しません。
253	指定された暗号化設定ファイルが存在しません。
254	指定された仕分け定義情報ファイルが存在しません。
255	プリンタ一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)
256	トレイ一覧取得処理でエラーが発生しました。(nnn)
257	蓄積処理でエラーが発生しました。(nnn)
258	蓄積処理で警告が発生しました。(nnn)
259	PDF 仕分け定義ファイルの読み込みに失敗しました。
260	指定された PDF 仕分け定義ファイルが存在しません。

終了コード	メッセージ文
261	EPF 形式ファイルの読み込みに失敗しました。
262	指定された EPF 形式ファイルが存在しません。
263	XLSX 形式ファイル出力処理でエラーが発生しました。(nnn)
264	XLSX 形式ファイル出力処理で警告が発生しました。(nnn)
265	指定された XLSX 形式ファイルはほかの人が使用中です。
266	XLSX 形式ファイルの初期化に失敗しました。
267	XLSX 形式ファイルの作成に失敗しました。
269	統合対象 EPF 形式ファイルの指定数が有効範囲外です。
270	複数 EPF 形式ファイルの統合処理でエラーが発生しました。(nnn)
271	統合対象 EPF 形式ファイルの読み込みに失敗しました。
272	指定された統合対象 EPF 形式ファイルが存在しません。
273	An attempt to load string resource DLL has failed. Error:[nnn]
274	EURPM 仕分け / 分割定義ファイルの読み込みに失敗しました。

注※

環境設定ファイル，およびレジストリに不正がある場合，エラーメッセージに詳細コードが出力されます。詳細コードについては，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

11.5.2 RTNCODE（終了コード）

引数 RTNCODE は，終了コードを返します。終了コードとメッセージの一覧については，「11.5.1 エラー情報一覧」を参照してください。エラーの対処については，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

11.5.3 ERRORMESSAGE（メッセージ）

引数 ERRORMESSAGE は，メッセージ文を返します。終了コードとメッセージの一覧については，「11.5.1 エラー情報一覧」を参照してください。エラーの対処については，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

11.6 コーディング例

COBOL 起動部品のコーディング例を次に示します。

11.6.1 複数様式帳票出力のコーディング例

次に示すパラメタを指定して，拠点サーバで印刷するときのコーディング例です。

入力ファイル（印刷定義ファイル）：EUR Print Manager のあるマシンに配置
　帳票セット指定ファイル名：REPORTSET1.txt ※
　複数様式情報定義ファイル名：MULTIFORMINFO1.txt
そのほかのパラメタ
　印刷ページ範囲：すべて

　注※
　帳票セットファイルで指定するユーザ定義ファイルは，EUR Print Manager - Adapter がインストールされたマシンに配置しておきます。

```
IDENTIFICATION DIVISION.
PROGRAM-ID.
COBOLSAMPLE.
ENVIRONMENT DIVISION.
CONFIGURATION SECTION.
SPECIAL-NAMES.
    CDECL IS CDECL.
EXTERNAL-PROGRAM SECTION.
CALL-CONVENTION.
    'PrintReport' IS CDECL.
DATA DIVISION.
WORKING-STORAGE SECTION.
01 EURPMPARAM.
COPY 'EURPMPARAM1.cbl'
01 RTNCODE                PIC S9(9) BINARY.

PROCEDURE DIVISION.
PROC1 SECTION.
    MOVE SPACE TO PRINTERNAME.
    MOVE SPACE TO TRAYNAME.
    MOVE ZERO TO PRINTSTARTPAGE.
    MOVE ZERO TO PRINTENDPAGE.
    MOVE 'REPORTSET1.txt' TO REPORTSETFILE.
    MOVE 'MULTIFORMINFO1.txt' TO MULTIFORMINFO.
    MOVE SPACE TO REPORTNAME.
    MOVE SPACE TO MAPPINGDATA.
    MOVE SPACE TO USERDEFDATA.

    CALL 'PrintReport' USING BY REFERENCE EURPMPARAM
                       RETURNING RTNCODE.

    EXIT PROGRAM.
```

11.6.2 分割した印刷データを蓄積するときのコーディング例

次に示すパラメタを指定して，分割した印刷データをサーバに蓄積するときのコーディング例です。

入力ファイル（印刷定義ファイル）：EUR Print Manager のあるマシンに配置
　帳票ファイル名：Report1.fms
入力ファイル（ユーザ定義ファイル）：EUR Print Manager - Adapter のあるマシンに配置
　マッピングデータファイルのパス：C:¥Temp
　マッピングデータファイル名：Report1_1000P.csv
　EURPM 分割定義ファイルのパス：C:¥Temp
　EURPM 分割定義ファイル名：PMPageSplit.txt

```
IDENTIFICATION DIVISION.
PROGRAM-ID.
EURPMADCTEST.
ENVIRONMENT DIVISION.
INPUT-OUTPUT SECTION.
FILE-CONTROL.
    SELECT INP-FL ASSIGN DATAFILENAME
        ORGANIZATION LINE SEQUENTIAL.
CONFIGURATION SECTION.
SPECIAL-NAMES.
    CDECL IS CDECL.
EXTERNAL-PROGRAM SECTION.
CALL-CONVENTION.
    'PrintReport2' IS CDECL
DATA DIVISION.

FILE SECTION.
FD INP-FL.
01 INP-REC                PIC X(512).

WORKING-STORAGE SECTION.
01 EURPMPARAM1.
    COPY 'EURPMPARAM1.cbl'.

01 EURPMPARAMJOBID.
    COPY 'EURPMPARAMJOBID.cbl'.

*変数定義
01 RTNCODE                PIC S9(9) BINARY.
01 IX1                    PIC S9(9) BINARY.
01 REPNAME                PIC X(256) VALUE SPACE.
01 MAPNAME                PIC X(256) VALUE SPACE.
01 MAPPATH                PIC X(256) VALUE SPACE.
01 SPLITNAME              PIC X(256) VALUE SPACE.
01 SPLITPATH              PIC X(256) VALUE SPACE.
01 SPMODE                 PIC S9(9) BINARY.
01 PRTMODE                PIC S9(9) BINARY.

PROCEDURE DIVISION.
MAIN SECTION.
```

```
 MAIN-START.
     MOVE ZERO                  TO RTNCODE
     MOVE ZERO                  TO IX1
*    帳票ファイルの指定
     MOVE 'Report1.fms'          TO REPNAME
*    マッピングデータファイルの指定
     MOVE 'Report1_1000P.csv'   TO MAPNAME
     MOVE 'C:¥Temp'              TO MAPPATH
*    EURPM分割定義ファイルの指定
     MOVE PMPageSplit.txt'       TO SPLITNAME
     MOVE 'C:¥Temp'              TO SPLITPATH
*    そのほかのパラメタの指定
     MOVE  3                    TO SPMODE
     MOVE  2                    TO PRTMODE

     MOVE REPNAME               TO REPORTNAME OF EURPMPARAM1
     MOVE MAPNAME               TO MAPPINGDATA OF EURPMPARAM1
    MOVE MAPPATH              TO MAPPINGDATAPATH OF EURPMPARAM1
     MOVE SPLITNAME             TO SPLITFILENAME OF EURPMPARAM1
     MOVE SPLITPATH             TO SPLITFILEPATH OF EURPMPARAM1
     MOVE SPMODE                TO SPLITMODE OF EURPMPARAM1
     MOVE PRTMODE               TO PRINTMODE OF EURPMPARAM1

*    蓄積実行指示
     CALL 'PrintReport2' USING BY REFERENCE EURPMPARAM1
                         EURPMPARAMJOBID
                         RETURNING RTNCODE
*    複数ジョブIDの表示
     PERFORM  VARYING IX1
              FROM 1
              BY 1
              UNTIL IX1 > JOBIDNUM OF EURPMPARAMJOBID
       DISPLAY JOBID OF EURPMPARAMJOBID(IX1)
     END-PERFORM
     STOP RUN.

 MAIN-END.
     EXIT.
```

11.6.3 仕分けした印刷データを蓄積するときのコーディング例

次に示すパラメタを指定して，仕分けした印刷データをサーバに蓄積するときのコーディング例です。

入力ファイル（印刷定義ファイル）：EUR Print Manager のあるマシンに配置
　帳票ファイル名：Report1.fms
入力ファイル（ユーザ定義ファイル）：EUR Print Manager - Adapter のあるマシンに配置
　マッピングデータファイルのパス：C:¥Temp
　マッピングデータファイル名：Report1_1000P.csv
　EURPM 仕分け定義ファイルのパス：C:¥Temp
　EURPM 仕分け定義ファイル名：PMDistribute.txt

```
 IDENTIFICATION DIVISION.
```

```
 PROGRAM-ID.
 EURPMADCTEST.
 ENVIRONMENT DIVISION.
 INPUT-OUTPUT SECTION.
 FILE-CONTROL.
     SELECT INP-FL ASSIGN DATAFILENAME
         ORGANIZATION LINE SEQUENTIAL.
 CONFIGURATION SECTION.
 SPECIAL-NAMES.
     CDECL IS CDECL.
 EXTERNAL-PROGRAM SECTION.
 CALL-CONVENTION.
     'PrintReport2' IS CDECL
 DATA DIVISION.

 FILE SECTION.
 FD INP-FL.
 01 INP-REC                PIC X(512).

 WORKING-STORAGE SECTION.
 01 EURPMPARAM1.
     COPY 'EURPMPARAM1.cbl'.

 01 EURPMPARAMJOBID.
     COPY 'EURPMPARAMJOBID.cbl'.

*変数定義
 01 RTNCODE                PIC S9(9) BINARY.
 01 IX1                    PIC S9(9) BINARY.
 01 REPNAME                PIC X(256) VALUE SPACE.
 01 MAPNAME                PIC X(256) VALUE SPACE.
 01 MAPPATH                PIC X(256) VALUE SPACE.
 01 SPLITNAME              PIC X(256) VALUE SPACE.
 01 SPLITPATH              PIC X(256) VALUE SPACE.
 01 SPMODE                 PIC S9(9) BINARY.
 01 PRTMODE                PIC S9(9) BINARY.

 PROCEDURE DIVISION.
 MAIN SECTION.
 MAIN-START.
     MOVE ZERO               TO RTNCODE
     MOVE ZERO               TO IX1
*    帳票ファイルの指定
     MOVE 'Report1.fms'      TO REPNAME
*    マッピングデータファイルの指定
     MOVE 'Report1_1000P.csv' TO MAPNAME
     MOVE 'C:¥Temp'          TO MAPPATH
 *   EURPM仕分け定義ファイルの指定
     MOVE 'PMDistribute.txt'  TO SPLITNAME
     MOVE 'C:¥Temp'          TO SPLITPATH
*    そのほかのパラメタの指定
     MOVE  2                 TO SPMODE
     MOVE  2                 TO PRTMODE

     MOVE REPNAME            TO REPORTNAME OF EURPMPARAM1
     MOVE MAPNAME            TO MAPPINGDATA OF EURPMPARAM1
    MOVE MAPPATH           TO MAPPINGDATAPATH OF EURPMPARAM1
     MOVE SPLITNAME          TO SPLITFILENAME OF EURPMPARAM1
```

```
     MOVE SPLITPATH           TO SPLITFILEPATH OF EURPMPARAM1
     MOVE SPMODE               TO SPLITMODE OF EURPMPARAM1
     MOVE PRTMODE              TO PRINTMODE OF EURPMPARAM1

*    蓄積実行指示
     CALL 'PrintReport2' USING BY REFERENCE EURPMPARAM1
                         EURPMPARAMJOBID
                         RETURNING RTNCODE
*    複数ジョブIDの表示
     PERFORM  VARYING IX1
              FROM 1
              BY 1
              UNTIL IX1 > JOBIDNUM OF EURPMPARAMJOBID
       DISPLAY JOBID OF EURPMPARAMJOBID(IX1)
     END-PERFORM
     STOP RUN.

 MAIN-END.
     EXIT.
```

12 コマンド起動部品を使用した帳票出力

この章では，EUR Print Manager をコマンド起動するためのコマンド起動部品について説明します。

12.1 **コマンド起動部品**

12.2 eurpmc **コマンドに指定するオプション**

12.3 eurpmc **コマンドの構文**

12.4 **環境設定ファイル**

12.5 **エラー情報**

12.6 **コーディング例**

12.1 コマンド起動部品

サーバ側で動作するプログラムから，EUR Print Manager をコマンド起動できる部品を提供しています。これを，**コマンド起動部品**といいます。

コマンド起動部品では，メソッド種別などをコマンドのオプションに設定することで，帳票を出力できます。

12.1.1 コマンド起動部品のファイル名

（1） Windows 環境の場合

EURPMC.exe

コマンド起動部品のファイルです。EUR Print Manager - Adapter のインストール先フォルダ ¥Program¥ 下にあります。

（2） UNIX/Linux 環境の場合

eurpmc

コマンド起動部品のファイルです。EUR Print Manager - Adapter をインストールしたとき，/opt/eurpm_adp/bin/ にあります。

12.2　eurpmc コマンドに指定するオプション

コマンド起動部品は，eurpmc コマンドにオプションを指定することで，帳票を出力できます。

オプション名のセパレータは，「/」で示しています。UNIX/Linux 環境の場合は，「/」を「-」に置き換えてお読みください。

12.2.1　コマンド起動部品が提供する機能（メソッド）

コマンド起動部品では，出力と情報取得の機能（メソッド）を，/m オプションで次のように指定します。

/m ｛epf | eur | merge | pdf | print | xlsx | getdest | getpmpr | getpmprclass | getpmtray | getpr | getprclass | gettray｝

/m オプションの指定値とその内容を次に示します。また，/m オプションの指定値が，どの ActiveX 起動部品のメソッドと対応しているかも示します。

表 12-1　/m オプションの指定値と対応する ActiveX 起動部品のメソッド

種類	/m オプションの指定値	内容	対応する ActiveX 起動部品のメソッド
出力	epf	プロパティで指定した帳票名およびデータファイルに従って，EPF 形式ファイルを出力します。	OutputEPFReport
	eur	プロパティで指定した帳票名およびデータファイルに従って，EUR 形式ファイルを出力します。	OutputEURReport
	merge	複数の EPF 形式ファイルを統合して出力します。	OutputMergeEPFReport
	pdf	プロパティで指定した帳票名およびデータファイルに従って，PDF 形式ファイルを出力します。	OutputPDFReport
	print	プロパティで指定した帳票名およびデータファイルに従って，帳票を印刷または蓄積します。	PrintPMReport
	xlsx	プロパティで指定した帳票名およびデータファイルに従って，Excel 形式ファイルを出力します。	OutputXLSXReport
情報取得	getdest	出力先の一覧を取得します。	GetDestinationList

種類	/m オプションの指定値	内容	対応する ActiveX 起動部品のメソッド
	getpmpr	印刷管理サーバのプリンタ一覧を取得します。	GetPMPrinterList
	getpmprclass	印刷管理サーバのプリンタクラス一覧を取得します。	GetPMPrinterClassList
	getpmtray	印刷管理サーバのトレイ一覧を取得します。	GetPMTrayList
	getpr	指定した出力先の拠点サーバに登録された OS 上のプリンタ一覧を取得します。	GetPrinterList
	getprclass	指定した出力先の拠点プリンタクラスの一覧を取得します。	GetPrinterClassList
	gettray	出力先と OS 上のプリンタを指定し，その OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。	GetTrayList

12.2.2 コマンド起動部品が提供する機能（プロパティ）

コマンド起動部品で指定できるプロパティオプションについて説明します。

プロパティオプションの指定値は，ActiveX 起動部品のプロパティと対応しています。プロパティオプションの指定値と，対応する ActiveX 起動部品のプロパティを次に示します。

表 12-2 プロパティオプションの内容（指定値）と対応する ActiveX 起動部品のプロパティ

プロパティオプション	内容 （指定値）	対応する ActiveX 起動部品のプロパティ
/alljob	帳票の蓄積時に指定すると，蓄積した蓄積ファイルのジョブ ID の一覧を取得できます。	－
/bm ※1	しおり定義ファイル名 （255 バイト以内の文字列）	BookmarkFileName
/bmf	文書しおり定義ファイル名 （255 バイト以内の文字列）	DocBookmarkFileName
/bmp	文書しおり定義ファイルまたはしおり定義ファイルのパス （255 バイト以内の文字列）	BookmarkFilePath
/c	印刷部数 （1 ～ 99）	PrintCopies
/client	クライアント PC の IP アドレス （255.255.255.255 形式）	ClientAddress

プロパティオプション	内容（指定値）	対応する ActiveX 起動部品のプロパティ
/cry	PDF 形式ファイルの暗号化出力の有無 • 1：PDF 形式ファイルを暗号化する • 0：PDF 形式ファイルを暗号化しない	Crypto
/cryf	暗号化設定ファイル名 （255 バイト以内の文字列）	CryptoFileName
/cryfp	暗号化設定ファイルのパス （255 バイト以内の文字列）	CryptoFilePath
/dest	出力先名 （80 バイト以内の文字列）	DestinationName
/df	文書情報設定ファイル名 （255 バイト以内の文字列）	DocInfoFileName
/dfp	文書情報設定ファイルのパス （255 バイト以内の文字列）	DocInfoFilePath
/dialog	ダイアログの表示モード • dialog：印刷先指定ダイアログを表示する（対話型印刷） • auto：直接印刷を実行する（自動印刷） • preview：プレビューウィンドウを表示する（対話型印刷プレビュー表示） • fullauto：直接印刷を実行する（全自動印刷） • pvonly：印刷を実行できないプレビューウィンドウを表示する（対話型印刷プレビュー表示限定）	DispPrintDlg
/dif	接続情報ファイル名 （255 バイト以内の文字列）	DBInfoFileName
/difp	接続情報ファイルのパス （255 バイト以内の文字列）	DBInfoFilePath
/ds	仕分け定義情報ファイル名 （255 バイト以内の文字列）	DistributionInfoFile
/dsf	PDF 仕分け定義ファイル名 （255 バイト以内の文字列）	DistributeFileName
/dsfp	PDF 仕分け定義ファイルのパス （255 バイト以内の文字列）	DistributeFilePath
/dsp	仕分け定義情報ファイルのパス （255 バイト以内の文字列）	DistributionInfoFilePath
/enc	パスワード暗号化鍵 （32 バイト以内の文字列）	EncryptionPasswordKey
/ep	印刷終了ページ （0 ～ 999,999）	PrintEndPage
/epfn	EPF 形式ファイル名 （255 バイト以内の文字列）	EPFFileName

プロパティ オプション	内容 （指定値）	対応する ActiveX 起動部品のプロパティ
/epfnp	EPF 形式ファイルのパス （255 バイト以内の文字列）	EPFFilePath
/eurn	出力 EUR 形式ファイル名 （255 バイト以内の文字列）	EURFileName
/eurnp	出力 EUR 形式ファイルのパス （255 バイト以内の文字列）	EURFilePath
/exp	実行可能印刷方式 • sv：拠点サーバで印刷する • svcl：拠点サーバでの印刷，またはクライアントで印刷する • cl：クライアントで印刷する	ExecutablePrintMode
/fc	蓄積ファイルとして格納するファイルの，検索キーの分類 （80 バイト以内の文字列を 10 個まで指定できる）	JobKeyCategory
/fd	蓄積ファイルの検索キーの値 （80 バイト以内の文字列を 10 個まで指定できる）	JobKeyDate
/foutdest ※2	ファイルの出力先 • adp：EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに出力する • pm：EUR Print Manager 稼働マシンに出力する	FileOutputDestination
/fp	ページ番号の初期値 （1 ～ 999,999）	FirstPageNumber
/g	蓄積ファイルの取得可否 • get：蓄積ファイルの取得を許可する • noget：蓄積ファイルの取得を許可しない	EnableGet
/group	帳票振り分け定義の振り分けグループ名 （80 バイト以内の文字列）	GroupName
/ip	ページ番号の開始番号の初期化 • reset：初期化する • normal：初期化しない	InitPageNumber
/jsc	Acrobat JavaScript 定義ファイル名 （255 バイト以内の文字列）	ScriptCntlFileName
/jscp	Acrobat JavaScript 定義ファイルのパス （255 バイト以内の文字列）	ScriptCntlFilePath
/lm	蓄積ファイルの蓄積期限日 • 日付で指定する場合 YYYYMMDD 形式 • 日時で指定する場合 +XXX 形式	SpoolLimit
/lsp	印刷先サーバプリンタ名 （80 バイト以内の文字列）	ServerPrinterName

プロパティオプション	内容（指定値）	対応する ActiveX 起動部品のプロパティ
/lst	印刷先サーバプリンタのトレイ名 （80 バイト以内の文字列）	ServerTrayName
/map ※1	マッピングデータファイル名または可変記号値定義ファイル名 （255 バイト以内の文字列）	DataFileName
/mapp	マッピングデータファイルまたは可変記号値定義ファイルのパス （255 バイト以内の文字列）	DataFilePath
/mepfn ※1	統合対象 EPF 形式ファイル名 （255 バイト以内の文字列）	MergeEPFFileName
/mepfnp	統合対象 EPF 形式ファイルのパス （255 バイト以内の文字列）	MergeEPFFilePath
/mfd	複数様式情報定義ファイル名 （255 バイト以内の文字列）	MultiFormInfoDefFileName
/mfdp	複数様式情報定義ファイルのパス （255 バイト以内の文字列）	MultiFormInfoDefFilePath
/mrs	帳票セット指定ファイル名 （255 バイト以内の文字列）	MultiReportSetFileName
/mrsp	帳票セット指定ファイルのパス （255 バイト以内の文字列）	MultiReportSetFilePath
/num	印刷部数の単位 • sort：部単位 • stack：ページ単位	SortPrint
/p	印刷先クライアントプリンタ名 （80 バイト以内の文字列）	ClientPrinterName
/pdfn ※2	出力 PDF 形式ファイル名 （255 バイト以内の文字列）	PDFFileName
/pdfnp	出力 PDF 形式ファイルのパス （255 バイト以内の文字列）	PDFFilePath
/pf ※3	ページ番号のフォーマット （任意のフォーマット文字列）	PageNumberFormat
/pk	拠点サーバ印刷方式の印刷モード • epf：EPF 形式ファイルでの印刷 • eur：EUR 形式ファイルでの印刷	PrintKind
/pl	余白へのページ番号の印刷位置 • topl：ページ番号を左上に出力する • topc：ページ番号を中央上に出力する • topr：ページ番号を右上に出力する • btml：ページ番号を左下に出力する • btmc：ページ番号を中央下に出力する • btmr：ページ番号を右下に出力する	PageNumberLocation

プロパティオプション	内容（指定値）	対応する ActiveX 起動部品のプロパティ
/pm	出力メソッド（/m オプションの指定値 print）の印刷方式 • default：ini ファイルに設定したデフォルト印刷方式で印刷する • cl：クライアント PC で印刷する • spl：蓄積する • sv：拠点サーバで印刷する • pm：印刷管理サーバで直接印刷する • clds：クライアント PC への配布印刷をする	PrintMode
/pmip	印刷管理サーバが複数台ある場合，接続する印刷管理サーバの IP アドレス （255.255.255.255 形式）	PMServerAddress
/pmpn	印刷管理サーバで EUR Print Manager を複数起動する場合，印刷管理サーバのポート番号 （1 ～ 65,535）	PMServerPort
/pn	余白へのページ番号印刷の有無 • on：余白へのページ番号を出力する • off：余白へのページ番号を出力しない	PrintPageNumber
/po ※ 4	用紙の向き • portrait：用紙の向きを縦にして印刷する • landscape：用紙の向きを横にして印刷する	PaperOrientation
/prc ※ 5	プリンタクラス名 （80 バイト以内の文字列）	PrinterClassName
/prdatef	印刷日時出力定義ファイル名 （255 バイト以内の文字列）	PrintDateFileName
/prdatefp	印刷日時出力定義ファイルのパス （255 バイト以内の文字列）	PrintDateFilePath
/prh	蓄積後に続けて印刷するかどうか • hold：続けて印刷しない（印刷保留） • sv：続けて拠点サーバで印刷する • cl：続けてクライアント PC で印刷する	PrintHoldMode
/psenvf	EUR Print Service の環境設定ファイル名 （255 バイト以内の文字列）	PSEnvFileName
/psenvfp	EUR Print Service の環境設定ファイルのパス （255 バイト以内の文字列）	PSEnvFilePath
/pvp	ビューアプレファレンス定義ファイル名 （255 バイト以内の文字列）	ViewerPreferenceFileName
/pvpp	ビューアプレファレンス定義ファイルのパス （255 バイト以内の文字列）	ViewerPreferenceFilePath
/rf ※ 1, ※ 6	帳票ファイル名 （255 バイト以内の文字列）	ReportFileName
/rfp	帳票ファイルのパス （255 バイト以内の文字列）	ReportFilePath

プロパティ オプション	内容 （指定値）	対応する ActiveX 起動部品のプロパティ
/rif	置き換え表管理情報ファイル名 （255 バイト以内の文字列）	ReplaceItemCntlFileName
/rifp	置き換え表管理情報ファイルのパス （255 バイト以内の文字列）	ReplaceItemCntlFilePath
/sf	蓄積ファイルに格納するファイルのファイル名 （255 バイト以内の文字列）	SpoolFileName
/sm	プリンタの指定方法 • class：プリンタクラス名を指定する • printer：OS 上のプリンタ名を指定する • group：帳票名による自動振り分け	PrinterSelectMode
/sp	印刷開始ページ （0 ～ 999,999）	PrintStartPage
/split	分割または仕分けして蓄積するかどうか • default：EUR Print Manager の環境設定ファイルの設定に従う • no：分割または仕分けしない • key：仕分けする • page：分割する	SplitMode
/splitf	EURPM 分割定義ファイルまたは EURPM 仕分け定義ファイル名 （255 バイト以内の文字列）	SplitFileName
/splitfp	EURPM 分割定義ファイルまたは EURPM 仕分け定義ファイルのパス （255 バイト以内の文字列）	SplitFilePath
/sptl	スプールタイトル （255 バイト以内の文字列）	SpoolTitle
/srm	拠点サーバの指定方法 • dest：出力先名を指定する • sv：拠点サーバ IP アドレスを指定する	ServerSelectMode
/svr	拠点サーバの IP アドレス （255.255.255.255 形式）	ServerAddress
/t	印刷先クライアントプリンタのトレイ名 （80 バイト以内の文字列）	ClientTrayName
/usr ※1	ユーザ定義データファイル名 （255 バイト以内の文字列）	UserDataFileName
/usrp	ユーザ定義データファイルのパス （255 バイト以内の文字列）	UserDataFilePath
/xlfn	出力 Excel 形式ファイル名 （255 バイト以内の文字列）	XLSXFileName
/xlfnp	出力 Excel 形式ファイルのパス （255 バイト以内の文字列）	XLSXFilePath

プロパティオプション	内容（指定値）	対応する ActiveX 起動部品のプロパティ
/xp	蓄積ファイルの上限印刷回数 • -1：無限に印刷する • 0：印刷を禁止する • 1 ～ 65,536：印刷回数の上限を指定する	MaxPrintCount

注※ 1

複数のファイルを指定できます。複数のファイルを指定する場合は，コンマ（,）で区切ってください。

なお，/map および /usr オプションを指定する場合は，/rf オプションと指定数を合わせる必要があります。

注※ 2

PDF 仕分け定義ファイル名（/dsf プロパティ）を指定している場合は，指定を省略できます。

注※ 3

Windows 環境の場合と UNIX/Linux 環境の場合では，コマンド起動部品の指定方法が異なります。

- Windows 環境の場合
  ページ番号を「*」，最終ページ番号を「$」で示して出力形式を指定します。
- UNIX/Linux 環境の場合
  ページ番号を「*」，最終ページ番号を「¥$」で示して出力形式を指定します。

詳細については，対応する ActiveX 起動部品のプロパティの PageNumberFormat を参照してください。

注※ 4

指定を省略した場合は，帳票を定義したときの情報になります。

注※ 5

クライアント PC への配布印刷では，指定できません。

注※ 6

帳票セットファイル名（/mrs プロパティ）を指定している場合は，指定を省略できます。

コマンド起動部品を使用して実行している場合にエラーが発生したときは，標準エラー出力へエラーメッセージを出力するかしないかを，次に示すメッセージオプションで指定します。

- /message：エラーメッセージを出力します。
- /nomessage：エラーメッセージを出力しません。

オプションの指定を省略した場合は，/message が仮定されます。

なお，/nomessage が指定されていても，コマンドの終了コードは設定されます。

12.2.3　オプションを指定するときの注意

(1) 大文字と小文字の区別について

オプション，オプションの指定値，およびオプションに指定する文字列は，大文字と小文字を区別します。

例えば，/m オプションを「/M」と指定したり，/m オプションの指定値を「/m PRINT」と指定したりすると，エラーになります。

(2) 同一オプションを複数指定する場合

一つのコマンド構文に同じオプションが複数指定されている場合は，コマンド構文の後方に指定されたオプションが有効となります。

(3) 無効なオプションについて

/m オプションで指定した出力，および情報取得の機能（メソッド）に無効なオプションを指定したときは，無視して実行されます。

(4) 数値項目オプションの指定について

コマンド起動部品のオプションで数値を指定する場合は，次の点に注意してください。

- 半角数値だけで指定してください。半角数値以外の文字（コンマ「,」など）を指定すると，エラーになります。
- 指定可能範囲内の値であれば，前 0 を含む値を指定してもエラーになりません。ただし，指定可能なけた数は 9 けたまでです。10 けた以上の値（"0000000000" など）を指定した場合は，数値の大きさにかかわらず，KEEY904-E エラーになります。

12.3 eurpmc コマンドの構文

eurpmc コマンドの構文は，Windows 環境および UNIX/Linux 環境で共通です。ただし，UNIX/Linux 環境の場合は，eurpmc コマンドを「eurpmc」と指定してください。「.exe」は指定できません。

ここでは，オプション名のセパレータは，「/」で示しています。UNIX/Linux 環境の場合は，「/」を「-」に置き換えてお読みください。

12.3.1 帳票を印刷する場合

```
eurpmc〔.exe〕
〔/message | /nomessage〕
/m print
/rf 帳票ファイル名
〔/map マッピングデータファイル名〕
〔/usr ユーザ定義データファイル名〕
〔/rfp 帳票ファイルのパス〕
〔/mapp マッピングデータファイルのパス〕
〔/usrp ユーザ定義データファイルのパス〕
〔/ds 仕分け定義情報ファイル名〕
〔/dsp 仕分け定義情報ファイルのパス〕
〔/mrs 帳票セット指定ファイル名〕
〔/mrsp 帳票セット指定ファイルのパス〕
〔/mfd 複数様式情報定義ファイル名〕
〔/mfdp 複数様式情報定義ファイルのパス〕
〔/df 文書情報設定ファイル名〕
〔/dfp 文書情報設定ファイルのパス〕
〔/client クライアントPCのIPアドレス〕
〔/sp 印刷開始ページ〕
〔/ep 印刷終了ページ〕
〔/p 印刷先クライアントプリンタ名〕
〔/t 印刷先クライアントプリンタのトレイ名〕
〔/c 印刷部数〕
〔/num {sort|stack}〕
〔/po {portrait|landscape}〕
〔/pn {on|off}〕
〔/pl {topl|topc|topr|btml|btmc|btmr}〕
〔/pf ページ番号のフォーマット〕
〔/fp ページ番号の初期値〕
〔/ip {reset|normal}〕
〔/dif 接続情報ファイル名〕
〔/difp 接続情報ファイルのパス〕
〔/pm {default|cl|sv|pm|clds}〕
〔/pk {epf|eur}〕
〔/srm {dest|sv}〕
〔/sm {class|printer|group}〕
〔/dialog {dialog|auto|preview|fullauto|pvonly}〕
〔/dest 出力先名〕
〔/svr 拠点サーバのIPアドレス〕
〔/prc プリンタクラス名〕
〔/lsp 印刷先サーバプリンタ名〕
〔/lst 印刷先サーバプリンタのトレイ名〕
```

〔/group 帳票振り分け定義の振り分けグループ名〕
〔/rif 置き換え表管理情報ファイル名〕
〔/rifp 置き換え表管理情報ファイルのパス〕
〔/pmip 印刷管理サーバのIPアドレス〕
〔/pmpn 印刷管理サーバのポート番号〕
〔/epfn EPF形式ファイル名〕
〔/epfnp EPF形式ファイルのパス〕
〔/psenvf EUR Print Serviceの環境設定ファイル名〕
〔/psenvfp EUR Print Serviceの環境設定ファイルのパス〕
〔/prdatef 印刷日時出力定義ファイル名〕
〔/prdatefp 印刷日時出力定義ファイルのパス〕

(1) オプション指定時の注意

帳票セット（/rf オプション，/map オプション，/usr オプション）は，複数のファイルを指定する場合，項目を「,」で区切ります。また，/map オプションおよび /usr オプションを指定する場合は，指定する数を /rf オプションと合わせます。

（指定例 1）

- 帳票セットとして次のように指定したい。

/rf	Report1.fms	Report2.fms
/map	Report1.csv	Report2.csv
/usr	utest.csv	03_seikyusyo_u.csv

指定方法
/rf Report1.fms,Report2.fms /map Report1.csv,Report2.csv /usr utest.csv,03_seikyusyo_u.csv

（指定例 2）

- 帳票セットとして次のように指定したい。

/rf	Report1.fms	Report2.fms
/map	Report1.csv	Report2.csv
/usr	指定なし	03_seikyusyo_u.csv

指定方法
/rf Report1.fms,Report2.fms /map Report1.csv,Report2.csv /usr ,03_seikyusyo_u.csv

なお，帳票セット指定ファイル名が指定されている場合は，帳票ファイル名の指定は省略できます。

メッセージオプション（/message | /nomessage）については，「12.2.2　コマンド起動部品が提供する機能（プロパティ）」を参照してください。

/num オプション，/po オプション，/pn オプション，/pl オプション，/ip オプション，/pm オプション，/pk オプション，/srm オプション，/sm オプション，および /dialog オプションに指定する値の内容については，「表 12-2 プロパティオプションの内容（指定

値）と対応する ActiveX 起動部品のプロパティ」を参照してください。

なお，/pm オプションで「cl（クライアント印刷）」または「clds（クライアント配布印刷）」を指定した場合は，必ず /client オプションを指定してください。

そのほかのオプションについては，ActiveX 起動部品の PrintPMReport メソッドを参照してください。

12.3.2 帳票を蓄積する場合

```
eurpmc〔.exe〕
〔/message | /nomessage〕
/m print
/rf 帳票ファイル名
〔/map マッピングデータファイル名〕
〔/usr ユーザ定義データファイル名〕
〔/rfp 帳票ファイルのパス〕
〔/mapp マッピングデータファイルのパス〕
〔/usrp ユーザ定義データファイルのパス〕
〔/mrs 帳票セット指定ファイル名〕
〔/mrsp 帳票セット指定ファイルのパス〕
〔/mfd 複数様式情報定義ファイル名〕
〔/mfdp 複数様式情報定義ファイルのパス〕
〔/df 文書情報設定ファイル名〕
〔/dfp 文書情報設定ファイルのパス〕
〔/client クライアントPCのIPアドレス〕
〔/sp 印刷開始ページ〕
〔/ep 印刷終了ページ〕
〔/p 印刷先クライアントプリンタ名〕
〔/t 印刷先クライアントプリンタのトレイ名〕
〔/c 印刷部数〕
〔/num {sort|stack}〕
〔/po {portrait|landscape}〕
〔/pn {on|off}〕
〔/pl {topl|topc|topr|btml|btmc|btmr}〕
〔/pf ページ番号のフォーマット〕
〔/fp ページ番号の初期値〕
〔/ip {reset|normal}〕
〔/pm {default|spl}〕
〔/srm {dest|sv}〕
〔/sm {class|printer|group}〕
〔/dialog {dialog|auto|preview|fullauto|pvonly}〕
〔/dest 出力先名〕
〔/svr 拠点サーバのIPアドレス〕
〔/prc プリンタクラス名〕
〔/lsp 印刷先サーバプリンタ名〕
〔/lst 印刷先サーバプリンタのトレイ名〕
〔/group 帳票振り分け定義の振り分けグループ名〕
〔/rif 置き換え表管理情報ファイル名〕
〔/rifp 置き換え表管理情報ファイルのパス〕
〔/exp {sv|svcl|cl}〕
〔/sf 蓄積ファイルに格納するファイルのファイル名〕
〔/fc 蓄積ファイルとして格納するファイルの，検索キーの分類〕
〔/fd 蓄積ファイルの検索キーの値〕
〔/lm 蓄積ファイルの蓄積期限日〕
```

```
〔/xp　{-1｜0｜1～65536}〕
〔/g　{get｜noget}〕
〔/prh　{hold｜sv｜cl}〕
〔/pmip 印刷管理サーバのIPアドレス〕
〔/pmpn 印刷管理サーバのポート番号〕
〔/epfn EPF形式ファイル名〕
〔/epfnp EPF形式ファイルのパス〕
〔/psenvf EUR Print Serviceの環境設定ファイル名〕
〔/psenvfp EUR Print Serviceの環境設定ファイルのパス〕
〔/prdatef 印刷日時出力定義ファイル名〕
〔/prdatefp 印刷日時出力定義ファイルのパス〕
〔/split　{default｜no｜key｜page}〕
〔/splitf EURPM分割定義ファイルまたはEURPM仕分け定義ファイル名〕
〔/splitfp EURPM分割定義ファイルまたはEURPM仕分け定義ファイルのパス〕
〔/alljob〕
```

（1）オプション指定時の注意

帳票セット（/rf オプション，/map オプション，/usr オプション）は，複数のファイルを指定する場合，項目を「,」で区切ります。また，/map オプションおよび /usr オプションを指定する場合は，指定する数を /rf オプションと合わせます。

（指定例 1）

- 帳票セットとして次のように指定したい。

/rf	Report1.fms	Report2.fms
/map	Report1.csv	Report2.csv
/usr	utest.csv	03_seikyusyo_u.csv

指定方法
/rf Report1.fms,Report2.fms /map Report1.csv,Report2.csv /usr utest.csv,03_seikyusyo_u.csv

（指定例 2）

- 帳票セットとして次のように指定したい。

/rf	Report1.fms	Report2.fms
/map	Report1.csv	Report2.csv
/usr	指定なし	03_seikyusyo_u.csv

指定方法
/rf Report1.fms,Report2.fms /map Report1.csv,Report2.csv /usr ,03_seikyusyo_u.csv

なお，帳票セット指定ファイル名が指定されている場合は，帳票ファイル名の指定は省略できます。

メッセージオプション（/message｜/nomessage）については，「12.2.2　コマンド起動部品が提供する機能（プロパティ）」を参照してください。

/num オプション，/po オプション，/pn オプション，/pl オプション，/ip オプション，/pm オプション，/srm オプション，/sm オプション，/dialog オプション，/exp オプション，/xp オプション，/g オプション，/prh オプション，および /split オプションに指定する値の内容については，「表 12-2 プロパティオプションの内容（指定値）と対応する ActiveX 起動部品のプロパティ」を参照してください。

なお，/pm オプションで「cl（クライアント印刷）」または「clds（クライアント配布印刷）」を指定した場合は，必ず /client オプションを指定してください。

そのほかのオプションについては，ActiveX 起動部品の PrintPMReport メソッドを参照してください。

(2) 出力結果

出力結果から蓄積ファイルのジョブ ID を確認できます。出力結果は標準出力（stdout）に出力されます。出力結果を次に示します。

なお，出力されたプロパティについては，「9.4　ActiveX 起動部品のプロパティ仕様」を参照してください。

行	書式	説明
1	VVRR▼	フォーマットを変更したときのバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。
2	JobID▼	見出し名称（プロパティ名を含む）が，1 行で常に出力されます。
3	JobID 名▼	取得結果（蓄積ファイルのジョブ ID）が出力されます。 /alljob オプションが指定されている場合，すべての蓄積ファイルのジョブ ID が，改行で区切られて出力されます。なお，蓄積処理中に警告（KEEY387-W）が発生した場合，最終行に文字列「Error」が出力されます。 /alljob オプションが指定されていない場合で，蓄積ファイルが複数あるときは，最初に蓄積した蓄積ファイルのジョブ ID が出力されます。

（凡例）

▼：Windows 環境の場合，改行コード（0x0d+0x0a）を示します。UNIX/Linux 環境の場合，改行コード（0x0a）を示します。

12.3.3　EPF 形式ファイルを出力する場合

```
eurpmc〔.exe〕
〔/message | /nomessage〕
/m epf
/rf 帳票ファイル名
〔/map マッピングデータファイル名〕
〔/usr ユーザ定義データファイル名〕
〔/rfp 帳票ファイルのパス〕
〔/mapp マッピングデータファイルのパス〕
```

〔/usrp ユーザ定義データファイルのパス〕
〔/mrs 帳票セット指定ファイル名〕
〔/mrsp 帳票セット指定ファイルのパス〕
〔/mfd 複数様式情報定義ファイル名〕
〔/mfdp 複数様式情報定義ファイルのパス〕
〔/df 文書情報設定ファイル名〕
〔/dfp 文書情報設定ファイルのパス〕
〔/sp 印刷開始ページ〕
〔/ep 印刷終了ページ〕
〔/c 印刷部数〕
〔/num {sort | stack} 〕
〔/po {portrait | landscape} 〕
〔/pn {on | off} 〕
〔/pl {topl | topc | topr | btml | btmc | btmr} 〕
〔/pf ページ番号のフォーマット〕
〔/fp ページ番号の初期値〕
〔/ip {reset | normal} 〕
〔/dif 接続情報ファイル名〕
〔/difp 接続情報ファイルのパス〕
/epfn EPF形式ファイル名
〔/epfnp EPF形式ファイルのパス〕
〔/prc プリンタクラス名〕
〔/rif 置き換え表管理情報ファイル名〕
〔/rifp 置き換え表管理情報ファイルのパス〕
〔/pmip 印刷管理サーバのIPアドレス〕
〔/pmpn 印刷管理サーバのポート番号〕
〔/psenvf EUR Print Serviceの環境設定ファイル名〕
〔/psenvfp EUR Print Serviceの環境設定ファイルのパス〕
〔/prdatef 印刷日時出力定義ファイル名〕
〔/prdatefp 印刷日時出力定義ファイルのパス〕

(1) オプション指定時の注意

帳票セット（/rf オプション，/map オプション，/usr オプション）は，複数のファイルを指定する場合，項目を「,」で区切ります。また，/map オプションおよび /usr オプションを指定する場合は，指定する数を /rf オプションと合わせます。

（指定例 1）

- 帳票セットとして次のように指定したい。

/rf	Report1.fms	Report2.fms
/map	Report1.csv	Report2.csv
/usr	utest.csv	03_seikyusyo_u.csv

指定方法
/rf Report1.fms,Report2.fms /map Report1.csv,Report2.csv /usr utest.csv,03_seikyusyo_u.csv

（指定例 2）

- 帳票セットとして次のように指定したい。

/rf	Report1.fms	Report2.fms

/map	Report1.csv	Report2.csv
/usr	指定なし	03_seikyusyo_u.csv

指定方法
/rf Report1.fms,Report2.fms /map Report1.csv,Report2.csv /usr
,03_seikyusyo_u.csv

なお，帳票セット指定ファイル名が指定されている場合は，帳票ファイル名の指定は省略できます。

メッセージオプション（/message | /nomessage）については，「12.2.2　コマンド起動部品が提供する機能（プロパティ）」を参照してください。

/num オプション，/po オプション，/pn オプション，/pl オプション，および /ip オプションに指定する値の内容については，「表 12-2 プロパティオプションの内容（指定値）と対応する ActiveX 起動部品のプロパティ」を参照してください。

そのほかのオプションについては，ActiveX 起動部品の OutputEPFReport メソッドを参照してください。

12.3.4　複数の EPF 形式ファイルを統合して出力する場合

```
eurpmc〔.exe〕
〔/message | /nomessage〕
/m merge
/mepfn 統合対象EPF形式ファイル名
〔/mepfnp 統合対象EPF形式ファイルのパス〕
/epfn 出力EPF形式ファイル名
〔/epfnp 出力EPF形式ファイルのパス〕
〔/sptl スプールタイトル〕
〔/c 印刷部数〕
〔/num {sort | stack} 〕
〔/po {portrait | landscape} 〕
〔/prc プリンタクラス名〕
〔/pmip 印刷管理サーバのIPアドレス〕
〔/pmpn 印刷管理サーバのポート番号〕
```

(1) オプション指定時の注意

メッセージオプション（/message | /nomessage）については，「12.2.2　コマンド起動部品が提供する機能（プロパティ）」を参照してください。

/mepfn オプションには，複数のファイルを指定します。ファイル名をコンマ（,）で区切って指定してください。

/num オプションおよび /po オプションに指定する値の内容については，「表 12-2 プロパティオプションの内容（指定値）と対応する ActiveX 起動部品のプロパティ」を参照してください。

そのほかのオプションについては，ActiveX 起動部品の OutputMergeEPFReport メソッ

ドを参照してください。

12.3.5　EUR 形式ファイルを出力する場合

```
eurpmc〔.exe〕
 〔/message | /nomessage〕
 /m eur
 /rf 帳票ファイル名
 〔/map マッピングデータファイル名〕
 〔/usr ユーザ定義データファイル名〕
 〔/rfp 帳票ファイルのパス〕
 〔/mapp マッピングデータファイルのパス〕
 〔/usrp ユーザ定義データファイルのパス〕
 〔/mrs 帳票セット指定ファイル名〕
 〔/mrsp 帳票セット指定ファイルのパス〕
 〔/mfd 複数様式情報定義ファイル名〕
 〔/mfdp 複数様式情報定義ファイルのパス〕
 〔/df 文書情報設定ファイル名〕
 〔/dfp 文書情報設定ファイルのパス〕
 /eurn 出力EUR形式ファイル名
 〔/eurnp 出力EUR形式ファイルのパス〕
 〔/dif 接続情報ファイル名〕
 〔/difp 接続情報ファイルのパス〕
 〔/rif 置き換え表管理情報ファイル名〕
 〔/rifp 置き換え表管理情報ファイルのパス〕
 〔/pmip 印刷管理サーバのIPアドレス〕
 〔/pmpn 印刷管理サーバのポート番号〕
 〔/psenvf EUR Print Serviceの環境設定ファイル名〕
 〔/psenvfp EUR Print Serviceの環境設定ファイルのパス〕
```

(1) オプション指定時の注意

帳票セット（/rf オプション，/map オプション，/usr オプション）は，複数のファイルを指定する場合，項目を「,」で区切ります。また，/map オプションおよび /usr オプションを指定する場合は，指定する数を /rf オプションと合わせます。

（指定例 1）

- 帳票セットとして次のように指定したい。

/rf	Report1.fms	Report2.fms
/map	Report1.csv	Report2.csv
/usr	utest.csv	03_seikyusyo_u.csv

指定方法
/rf Report1.fms,Report2.fms /map Report1.csv,Report2.csv /usr utest.csv,03_seikyusyo_u.csv

（指定例 2）

- 帳票セットとして次のように指定したい。

/rf	Report1.fms	Report2.fms

/map	Report1.csv	Report2.csv
/usr	指定なし	03_seikyusyo_u.csv

指定方法
/rf Report1.fms,Report2.fms /map Report1.csv,Report2.csv /usr
,03_seikyusyo_u.csv

なお，帳票セット指定ファイル名が指定されている場合は，帳票ファイル名の指定は省略できます。

メッセージオプション（/message | /nomessage）については，「12.2.2　コマンド起動部品が提供する機能（プロパティ）」を参照してください。

そのほかのオプションについては，ActiveX 起動部品の OutputEURReport メソッドを参照してください。

12.3.6　PDF 形式ファイルを出力する場合

```
eurpmc〔.exe〕
〔/message | /nomessage〕
/m pdf
/rf 帳票ファイル名
〔/map マッピングデータファイル名〕
〔/usr ユーザ定義データファイル名〕
〔/bm しおり定義ファイル名〕
〔/rfp 帳票ファイルのパス〕
〔/mapp マッピングデータファイルのパス〕
〔/usrp ユーザ定義データファイルのパス〕
〔/bmp 文書しおり定義またはしおり定義ファイルパス〕
〔/bmf 文書しおり定義ファイル名〕
〔/cryf 暗号化設定ファイル名〕
〔/cryfp 暗号化設定ファイルのパス〕
〔/mrs 帳票セット指定ファイル名〕
〔/mrsp 帳票セット指定ファイルのパス〕
〔/mfd 複数様式情報定義ファイル名〕
〔/mfdp 複数様式情報定義ファイルのパス〕
〔/df 文書情報設定ファイル名〕
〔/dfp 文書情報設定ファイルのパス〕
/pdfn 出力PDF形式ファイル名
〔/pdfnp 出力PDF形式ファイルのパス〕
〔/sp 印刷開始ページ〕
〔/ep 印刷終了ページ〕
〔/pn {on | off}〕
〔/pl {topl | topc | topr | btml | btmc | btmr}〕
〔/pf ページ番号のフォーマット〕
〔/fp ページ番号の初期値〕
〔/ip {reset | normal}〕
〔/cry {1 | 0}〕
〔/dif 接続情報ファイル名〕
〔/difp 接続情報ファイルのパス〕
〔/enc パスワード暗号化鍵〕
〔/rif 置き換え表管理情報ファイル名〕
〔/rifp 置き換え表管理情報ファイルのパス〕
```

〔/dsfp PDF仕分け定義ファイルのパス〕
〔/dsf PDF仕分け定義ファイル名〕
〔/jscp Acrobat JavaScript定義ファイルのパス〕
〔/jsc Acrobat JavaScript定義ファイル名〕
〔/pvpp ビューアプレファレンス定義ファイルのパス〕
〔/pvp ビューアプレファレンス定義ファイル名〕
〔/pmip 印刷管理サーバのIPアドレス〕
〔/pmpn 印刷管理サーバのポート番号〕
〔/psenvf EUR Print Serviceの環境設定ファイル名〕
〔/psenvfp EUR Print Serviceの環境設定ファイルのパス〕
〔/foutdest ファイルの出力先〕

(1) オプション指定時の注意

帳票セット（/rf オプション，/map オプション，/usr オプション，/bm オプション）は，複数のファイルを指定する場合，項目を「,」で区切ります。また，/map オプションおよび /usr オプションを指定する場合は，指定する数を /rf オプションと合わせます。

（指定例 1）

- 帳票セットとして次のように指定したい。

/rf	Report1.fms	Report2.fms
/map	Report1.csv	Report2.csv
/usr	utest.csv	03_seikyusyo_u.csv
/bm	shiori1.txt	shiori2.txt

指定方法
/rf Report1.fms,Report2.fms /map Report1.csv,Report2.csv /usr utest.csv,03_seikyusyo_u.csv /bm shiori1.txt,shiori2.txt

（指定例 2）

- 帳票セットとして次のように指定したい。

/rf	Report1.fms	Report2.fms
/map	Report1.csv	Report2.csv
/usr	指定なし	03_seikyusyo_u.csv
/bm	shiori1.txt	shiori2.txt

指定方法
/rf Report1.fms,Report2.fms /map Report1.csv,Report2.csv /usr ,03_seikyusyo_u.csv /bm shiori1.txt,shiori2.txt

なお，帳票セット指定ファイル名が指定されている場合は，帳票ファイル名の指定は省略できます。PDF 仕分け定義ファイル名が指定されている場合は，出力 PDF 形式ファイル名の指定は省略できます。

メッセージオプション（/message | /nomessage）については，「12.2.2　コマンド起動部品が提供する機能（プロパティ）」を参照してください。

/pn オプション，/pl オプション，/ip オプション，および /cry オプションに指定する値の内容については，「表 12-2 プロパティオプションの内容（指定値）と対応する ActiveX 起動部品のプロパティ」を参照してください。

そのほかのオプションについては，ActiveX 起動部品の OutputPDFReport メソッドを参照してください。

12.3.7 Excel 形式ファイルを出力する場合

```
eurpmc〔.exe〕
 〔/message | /nomessage〕
 /m  xlsx
 /rf 帳票ファイル名
 〔/map マッピングデータファイル名〕
 〔/usr ユーザ定義データファイル名〕
 〔/rfp 帳票ファイルのパス〕
 〔/mapp マッピングデータファイルのパス〕
 〔/usrp ユーザ定義データファイルのパス〕
 〔/sp 印刷開始ページ〕
 〔/ep 印刷終了ページ〕
 〔/dif 接続情報ファイル名〕
 〔/difp 接続情報ファイルのパス〕
 /xlfn Excel形式ファイル名
 〔/xlfnp Excel形式ファイルのパス〕
 〔/rif 置き換え表管理情報ファイル名〕
 〔/rifp 置き換え表管理情報ファイルのパス〕
 〔/pmip 印刷管理サーバのIPアドレス〕
 〔/pmpn 印刷管理サーバのポート番号〕
 〔/psenvf EUR Print Serviceの環境設定ファイル名〕
 〔/psenvfp EUR Print Serviceの環境設定ファイルのパス〕
```

(1) オプション指定時の注意

帳票セット（/rf オプション，/map オプション，/usr オプション）は，単数のファイルしか指定できません。また，/map オプションおよび /usr オプションを指定する場合は，指定する数を /rf オプションと合わせます。

メッセージオプション（/message | /nomessage）については，「12.2.2　コマンド起動部品が提供する機能（プロパティ）」を参照してください。

そのほかのオプションについては，ActiveX 起動部品の OutputXLSXReport メソッドを参照してください。

12.3.8 出力先一覧を取得する場合

```
eurpmc〔.exe〕
 〔/message | /nomessage〕
 /m getdest
 〔/pmip    印刷管理サーバのIPアドレス〕
 〔/pmpn    印刷管理サーバのポート番号〕
```

(1) オプション指定時の注意

メッセージオプション（/message | /nomessage）については，「12.2.2　コマンド起動部品が提供する機能（プロパティ）」を参照してください。

そのほかのオプションについては，ActiveX 起動部品の GetDestinationList メソッドを参照してください。

(2) 出力結果

出力先の一覧が標準出力（stdout）に出力されます。出力結果を次に示します。

なお，出力されたプロパティについては，「9.4　ActiveX 起動部品のプロパティ仕様」を参照してください。

行	書式	説明
1	VVRR▼	フォーマットを変更したときのバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。
2	DestinationName,IPAddress,Explanation▼	「,」で区切られた見出し名称（プロパティ名を含む）が，常に出力されます。
3 ～	出力先一覧▼ 〔出力先一覧▼〕…	2 行目に出力された見出し名称（プロパティ名を含む）に設定されている値が「,」で区切られて出力されます。 取得結果は 1 件につき 1 行で，件数分出力されます。取得結果が 0 件のときは出力されません。

（凡例）

▼：Windows 環境の場合，改行コード（0x0d+0x0a）を示します。UNIX/Linux 環境の場合，改行コード（0x0a）を示します。

12.3.9　プリンタクラス一覧を取得する場合

```
eurpmc〔.exe〕
〔/message | /nomessage〕
 /m getprclass
〔/dest 出力先名〕
〔/pmip　印刷管理サーバのIPアドレス〕
〔/pmpn　印刷管理サーバのポート番号〕
```

(1) オプション指定時の注意

メッセージオプション（/message | /nomessage）については，「12.2.2　コマンド起動部品が提供する機能（プロパティ）」を参照してください。

そのほかのオプションについては，ActiveX 起動部品の GetPrinterClassList メソッドを参照してください。

(2) 出力結果

プリンタクラス一覧が標準出力（stdout）に出力されます。出力結果を次に示します。

出力されたプロパティについては，「9.4　ActiveX 起動部品のプロパティ仕様」を参照してください。

なお，出力先を指定していない場合は，デフォルトの出力先として登録された拠点サーバに定義されているプリンタクラスの一覧を取得します。

行	書式	説明
1	VVRR▼	フォーマットを変更したときのバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。
2	PrinterClassName, PrinterName, TrayName, Description▼	「,」で区切られた見出し名称（プロパティ名を含む）が，1 行で常に出力されます。
3 ～	プリンタクラス名 , OS 上のプリンタ名 , OS 上のプリンタのトレイ名 , 説明▼ 〔プリンタクラス名 , OS 上のプリンタ名 , OS 上のプリンタのトレイ名 , 説明▼〕…	2 行目に出力された見出し名称（プロパティ名を含む）に設定されている値が「,」で区切られて出力されます。「SpoolPath」の値には，常に "" が出力されます。 取得結果は 1 件につき 1 行で，件数分出力されます。取得結果が 0 件のときは出力されません。

（凡例）

▼：Windows 環境の場合，改行コード（0x0d+0x0a）を示します。UNIX/Linux 環境の場合，改行コード（0x0a）を示します。

12.3.10　プリンター覧を取得する場合

```
eurpmc〔.exe〕
〔/message | /nomessage〕
/m getpr
〔/dest 出力先名〕
〔/pmip　印刷管理サーバのIPアドレス〕
〔/pmpn　印刷管理サーバのポート番号〕
```

(1) オプション指定時の注意

メッセージオプション（/message | /nomessage）については，「12.2.2　コマンド起動部品が提供する機能（プロパティ）」を参照してください。

そのほかのオプションについては，ActiveX 起動部品の GetPrinterList メソッドを参照してください。

(2) 出力結果

OS 上のプリンタ名が標準出力（stdout）に出力されます。出力結果を次に示します。出力されたプロパティについては，「9.4　ActiveX 起動部品のプロパティ仕様」を参照してください。

なお，出力先を指定していない場合は，デフォルトの出力先として登録された拠点サーバの OS 上のプリンタ一覧を取得します。

行	書式	説明
1	VVRR▼	フォーマットを変更したときのバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。
2	PrinterName▼	見出し名称（プロパティ名を含む）が，1行で常に出力されます。
3 ～	OS上のプリンタ名▼ 〔OS上のプリンタ名▼〕…	2行目に出力されたプロパティに設定されている値が出力されます。 取得結果は1件につき1行で，件数分出力されます。取得結果が0件のときは出力されません。

（凡例）

▼：Windows環境の場合，改行コード（0x0d+0x0a）を示します。UNIX/Linux環境の場合，改行コード（0x0a）を示します。

12.3.11　トレイ一覧を取得する場合

```
eurpmc〔.exe〕
 〔/message | /nomessage〕
 /m gettray
 /lsp 印刷先サーバプリンタ名
 〔/dest 出力先名〕
 〔/pmip　 印刷管理サーバのIPアドレス〕
 〔/pmpn　 印刷管理サーバのポート番号〕
```

(1) オプション指定時の注意

メッセージオプション（/message | /nomessage）については，「12.2.2　コマンド起動部品が提供する機能（プロパティ）」を参照してください。

そのほかのオプションについては，ActiveX起動部品のGetTrayListメソッドを参照してください。

(2) 出力結果

OS上のプリンタのトレイ名が標準出力（stdout）に出力されます。出力結果を次に示します。出力されたプロパティについては，「9.4　ActiveX起動部品のプロパティ仕様」を参照してください。

なお，出力先を指定していない場合は，デフォルトの出力先として登録された拠点サーバのOS上のプリンタのトレイ一覧を取得します。

行	書式	説明
1	VVRR▼	フォーマットを変更したときのバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。
2	TrayName▼	見出し名称（プロパティ名を含む）が，1行で常に出力されます。

行	書式	説明
3 ～	OS 上のプリンタのトレイ名▼ 〔OS 上のプリンタのトレイ名▼〕…	2 行目に出力されたプロパティに設定されている値が出力されます。 取得結果は 1 件につき 1 行で，件数分出力されます。取得結果が 0 件のときは出力されません。

（凡例）

▼：Windows 環境の場合，改行コード（0x0d+0x0a）を示します。UNIX/Linux 環境の場合，改行コード（0x0a）を示します。

12.3.12　印刷管理サーバプリンタクラス一覧を取得する場合

```
eurpmc〔.exe〕
 〔/nomessage | /message〕
 /m  getpmprclass
 〔/pmip    印刷管理サーバのIPアドレス〕
 〔/pmpn    印刷管理サーバのポート番号〕
```

（1）オプション指定時の注意

メッセージオプション（/message | /nomessage）については，「12.2.2　コマンド起動部品が提供する機能（プロパティ）」を参照してください。

（2）出力結果

印刷管理サーバのプリンタクラス一覧が標準出力（stdout）に出力されます。出力結果を次に示します。

なお，出力されたプロパティについては，「9.4　ActiveX 起動部品のプロパティ仕様」を参照してください。

行	書式	説明
1	VVRR ▼	フォーマットを変更したときのバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。
2	PrinterClassName,PrinterName,TrayName, Description ▼	「,」で区切られた見出し名称（プロパティ名を含む）が，1 行で常に出力されます。
3 ～	プリンタクラス名 , OS 上のプリンタ名 , OS 上のプリンタのトレイ名 , 説明▼…	取得値（印刷管理サーバプリンタクラス一覧）が出力されます。 取得結果は 1 件につき 1 行で，件数分出力されます。取得結果が 0 件のときは出力されません。

（凡例）

▼：Windows 環境の場合，改行コード（0x0d+0x0a）を示します。UNIX/Linux 環境の場合，改行コード（0x0a）を示します。

12.3.13　印刷管理サーバプリンター覧を取得する場合

```
eurpmc〔.exe〕
 〔/nomessage | /message〕
 /m  getpmpr
 〔/pmip    印刷管理サーバのIPアドレス〕
 〔/pmpn    印刷管理サーバのポート番号〕
```

(1) オプション指定時の注意

メッセージオプション（/nomessage | /message）については，「12.2.2　コマンド起動部品が提供する機能（プロパティ）」を参照してください。

(2) 出力結果

印刷管理サーバに登録されている OS 上のプリンタ名が標準出力（stdout）に出力されます。出力結果を次に示します。

なお，出力されたプロパティについては，「9.4　ActiveX 起動部品のプロパティ仕様」を参照してください。

行	書式	説明
1	VVRR▼	フォーマットを変更したときのバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。
2	PrinterName▼	見出し名称（プロパティ名を含む）が，1 行で常に出力されます。
3 ～	印刷管理サーバに登録されている OS 上のプリンタ名▼	取得値（印刷管理サーバに登録されている OS 上のプリンタ名）が出力されます。 取得結果は 1 件につき 1 行で，件数分出力されます。取得結果が 0 件のときは出力されません。

（凡例）

▼：Windows 環境の場合，改行コード（0x0d+0x0a）を示します。UNIX/Linux 環境の場合，改行コード（0x0a）を示します。

12.3.14　印刷管理サーバプリンタのトレイ一覧を取得する場合

```
eurpmc〔.exe〕
 〔/nomessage | /message〕
 /m  getpmtray
 /lsp サーバプリンタ名
 〔/pmip    印刷管理サーバのIPアドレス〕
 〔/pmpn    印刷管理サーバのポート番号〕
```

(1) オプション指定時の注意

メッセージオプション（/nomessage | /message）については，「12.2.2　コマンド起動

部品が提供する機能（プロパティ）」を参照してください。

(2) 出力結果

印刷管理サーバ上のプリンタのトレイ名が標準出力（stdout）に出力されます。出力結果を次に示します。

なお，出力されたプロパティについては，「9.4　ActiveX 起動部品のプロパティ仕様」を参照してください。

行	書式	説明
1	VVRR ▼	フォーマットを変更したときのバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。
2	TrayName ▼	見出し名称（プロパティ名を含む）が，1 行で常に出力されます。
3 ～	印刷管理サーバ上のプリンタのトレイ名▼	取得値（印刷管理サーバ上のプリンタのトレイ名）が出力されます。 取得結果は 1 件につき 1 行で，件数分出力されます。取得結果が 0 件のときは出力されません。

（凡例）

▼：Windows 環境の場合，改行コード（0x0d+0x0a）を示します。UNIX/Linux 環境の場合，改行コード（0x0a）を示します。

12.4　環境設定ファイル

コマンド起動部品の場合は，コマンド起動部品で指定するポート番号，サーバマシンのIP アドレスなどを，環境設定ファイル（EURPMADP.ini）に指定できます。

環境設定ファイルについては，「16.　実行環境の設定」を参照してください。

12.5　エラー情報

コマンド起動部品では，エラーを検知すると，メッセージオプション（/message）によって次に示す標準エラーを出力します。

表 12-3　コマンド起動部品の標準エラー出力

エラー種別	発生条件	メッセージ ID
コマンド実行時エラー	コマンド実行時にエラーが発生したとき	KEEY901-E
	コマンド実行時に警告が発生したとき	KEEY908-W
	メモリ不足が発生したとき	KEEY906-E
コマンドシンタックスエラー	不明なオプションを指定したとき	KEEY902-E
	オプションに値の指定がないとき	KEEY903-E
	オプションの指定値が不正なとき	KEEY904-E
	指定が必須のオプションが指定されていないとき	KEEY905-E

12.5.1　eurpmc コマンドの終了コード

eurpmc コマンドを実行すると，終了コードが返されます。終了コード一覧を次に示します。

表 12-4　eurpmc コマンドの終了コード

終了コード	意味
0	eurpmc コマンドが正常に終了しました。
4	eurpmc コマンドの実行中に，警告が発生しました。
8	eurpmc コマンドの実行中に，エラーが発生しました。

eurpmc コマンドを呼び出している API では，eurpmc コマンドの終了コードを参照して，エラーチェックしてください。

12.5.2　エラーメッセージのフォーマット

eurpmc コマンドを実行したとき，標準エラーに出力されるメッセージのフォーマットを次に示します。

エラーメッセージの場合

```
eurpmc: △ KEEY9XX-E △エラーメッセージ▼
```

（凡例）

△：半角空白を示します。

▼：改行（0x0d+0x0a）を示します。

警告メッセージの場合

```
eurpmc: △ KEEY9XX-W △エラーメッセージ▼
```

（凡例）

△：半角空白を示します。

▼：改行（0x0d+0x0a）を示します。

12.6 コーディング例

コマンド起動部品のコーディング例を次に示します。

(1) 分割した印刷データを蓄積する

次に示すパラメタを指定して，分割した印刷データをサーバに蓄積するときのコーディング例を次に示します。

```
EURPMC.exe /m print /mapp "c:¥Temp" /splitf "PMDistribute.txt" /splitfp
"c:¥Temp" /pm spl /split page /alljob /rf Report1.fms /map Report1_1000P.csv
```

入力ファイル（印刷定義ファイル）：EUR Print Manager のあるマシンに配置

帳票ファイル名：Report1.fms

入力ファイル（ユーザ定義ファイル）：EUR Print Manager - Adapter のあるマシンに配置

マッピングデータファイルのパス：c:¥Temp

マッピングデータファイル名：Report1_1000P.csv

EURPM 分割定義ファイルのパス：c:¥Temp

EURPM 分割定義ファイル名：PMPageSplit.txt

(2) 仕分けした印刷データを蓄積する

次に示すパラメタを指定して，仕分けした印刷データをサーバに蓄積するときのコーディング例を次に示します。

```
EURPMC.exe /m print /mapp "c:¥Temp" /splitf "PMDistribute.txt" /splitfp
"c:¥Temp" /pm spl /split key /alljob /rf Report1.fms /map Report1_1000P.csv
```

入力ファイル（印刷定義ファイル）：EUR Print Manager のあるマシンに配置

帳票ファイル名：Report1.fms

入力ファイル（ユーザ定義ファイル）：EUR Print Manager - Adapter のあるマシンに配置

マッピングデータファイルのパス：c:¥Temp

マッピングデータファイル名：Report1_1000P.csv

EURPM 仕分け定義ファイルのパス：c:¥Temp

EURPM 仕分け定義ファイル名：PMDistribute.txt

13 RS- コマンド起動部品を使用した帳票出力

この章では，EUR Print Manager - Report Server をコマンド起動するための RS- コマンド起動部品について説明します。

13.1 RS- コマンド起動部品

13.2 eurpmlsc コマンドに指定するオプション

13.3 eurpmlsc コマンドの構文

13.4 環境設定ファイル

13.5 エラー情報

13.1 RS- コマンド起動部品

サーバ側で動作するプログラムから，EUR Print Manager - Report Server をコマンド起動できる部品を提供しています。これを，RS- **コマンド起動部品**といいます。

RS- コマンド起動部品では，ジョブ ID やメソッド種別などをコマンドのオプションに設定することで，蓄積ファイルを操作します。

13.1.1 RS- コマンド起動部品のファイル名

（1） Windows 環境の場合

EURPMLSC.exe

RS- コマンド起動部品のファイルです。EUR Print Manager - Report Server Adapter のインストール先フォルダ ¥Program¥ 下にあります。

（2） UNIX/Linux 環境の場合

eurpmlsc

RS- コマンド起動部品のファイルです。EUR Print Manager - Report Server Adapter をインストールしたとき，/opt/eurpmls_adp/bin/ にあります。

13.2　eurpmlsc コマンドに指定するオプション

RS- コマンド起動部品は，eurpmlsc コマンドにオプションを指定することで，蓄積ファイルを操作します。

オプション名のセパレータは，「/」で示しています。UNIX/Linux 環境の場合は，「/」を「-」に置き換えてお読みください。

13.2.1　RS- コマンド起動部品が提供する機能（メソッド）

RS- コマンド起動部品では，蓄積操作と構成定義情報取得の機能（メソッド）を，/m オプションで次のように指定します。

/m　{getoutline | getattr | setattr | print | get | del | getprclass | getpr | gettray}

/m オプションの指定値とその内容を次に示します。また，/m オプションの指定値が，どの RS-ActiveX 起動部品のメソッドと対応しているかも示します。

表 13-1　/m オプションの指定値と対応する RS-ActiveX 起動部品のメソッド

種類	/m オプションの指定値	内容	対応する RS-ActiveX 起動部品のメソッド
蓄積操作	getoutline	指定条件に適合する EUR Print Manager - Report Server の蓄積ファイルの一覧を取得します。	GetSpoolFileOutline
	getattr	指定したジョブ ID の蓄積ファイルの属性情報を取得します。	GetSpoolFileAttribute
	setattr	指定したジョブ ID の蓄積ファイルの属性情報を変更します。	SetSpoolFileAttribute
	print	指定したジョブ ID の蓄積ファイルの蓄積データを印刷します。	PrintSpoolReport
	get	指定したジョブ ID の蓄積ファイルを指定したパスに取得します。	GetSpoolFile
	del	指定したジョブ ID の蓄積ファイルを削除したり，蓄積期限を経過した蓄積ファイルを削除したりします。	DeleteSpoolFile

種類	/m オプションの指定値	内容	対応する RS-ActiveX 起動部品のメソッド
構成定義情報取得※	getprclass	PrinterClassList プロパティで指定した EUR Print Manager - Report Server のプリンタクラス一覧を取得します。	GetPrinterClassList
	getpr	ServerPrinterList プロパティで指定した EUR Print Manager - Report Server がある OS 上のプリンタ一覧を取得します。	GetPrinterList
	gettray	ServerTrayList プロパティで指定した EUR Print Manager - Report Server がある OS 上のプリンタのトレイ一覧を取得します。	GetTrayList

注※

UNIX/Linux 環境の場合，構成定義情報取得メソッドは指定できません。

13.2.2 RS- コマンド起動部品が提供する機能（プロパティ）

RS- コマンド起動部品で指定できるプロパティオプションを次に示します。また，各プロパティオプションの指定値が，どの RS-ActiveX 起動部品のプロパティと対応しているかも示します。

表 13-2 プロパティオプションの内容（指定値）と対応する RS-ActiveX 起動部品のプロパティ

プロパティオプション	内容（指定値）	対応する RS-ActiveX 起動部品のプロパティ
/c	印刷部数 （1 ～ 99）	PrintCopies
/ca	蓄積ファイルのジョブ検索キー分類 （80 バイト以内の文字列を 10 個まで指定できる）	JobKeyCategory
/client	蓄積クライアント印刷時のクライアント PC の IP アドレス （255.255.255.255 形式）	ClientAddress
/da	蓄積ファイルのジョブ検索キー値 （80 バイト以内の文字列を 10 個まで指定できる）	JobKeyData

プロパティオプション	内容（指定値）	対応する RS-ActiveX 起動部品のプロパティ
/dialog	蓄積クライアント印刷時のダイアログ表示モード • dialog：印刷先指定ダイアログを表示する（対話型印刷） • auto：直接印刷を実行する（自動印刷） • preview：プレビューウィンドウを表示する（対話型印刷プレビュー表示） • fullauto：直接印刷を実行する（全自動印刷） • pvonly：印刷を実行できないプレビューウィンドウを表示する（対話型印刷プレビュー表示限定）	DispPrintDlg
/dk	蓄積ファイル削除時の削除種別 • direct：通常で削除する • expire：蓄積期限切れファイルを削除する	DeleteKind
/ep	蓄積拠点サーバ印刷の終了ページ （0 ～ 999,999）	PrintEndPage
/exp	蓄積ファイルの実行可能印刷方式 • sv：拠点サーバで印刷する • svcl：拠点サーバでの印刷，またはクライアントで印刷する • cl：クライアントで印刷する	ExecutablePrintMode
/fc	蓄積ファイルを検索するときのジョブ検索キーの分類 （80 バイト以内の文字列を 10 個まで指定できる）	SearchJobKeyCategory
/fd	蓄積ファイルを検索するときのジョブ検索キーの値 （80 バイト以内の文字列を 10 個まで指定できる）	SearchJobKeyData
/g	蓄積ファイルの取得可否 • get：蓄積ファイルの取得を許可する • noget：蓄積ファイルの取得を許可しない	EnableGet
/group	蓄積ファイルの振り分けグループ名 （80 バイト以内の文字列）	GroupName
/id	蓄積ファイルを検索するときのジョブ ID （36 バイト以内の文字列）	SearchJobID
/inc	格納ファイル名で蓄積フォルダのファイル一覧を検索するときの格納ファイル名 （255 バイト以内の文字列）	SearchSpoolFileName
/lm	蓄積ファイルの蓄積期限日 （YYYYMMDD 形式）	SpoolLimit
/lsp	拠点サーバでの OS 上のプリンタ名 （80 バイト以内の文字列）	ServerPrinterName
/lst	拠点サーバでの OS 上のプリンタのトレイ名 （80 バイト以内の文字列）	ServerTrayName

プロパティオプション	内容（指定値）	対応する RS-ActiveX 起動部品のプロパティ
/num	印刷部数の単位 • sort：部単位 • stack：ページ単位	SortPrint
/o	蓄積ファイルを取得するフォルダのパス （255 バイト以内の文字列）	OutputFilePath
/ofn	出力ファイル名 （255 バイト以内の文字列）	OutputFileName
/p	蓄積ファイルのクライアントプリンタ名 （80 バイト以内の文字列）	ClientPrinterName
/pc	プリンタクラス名で蓄積フォルダのファイル一覧を検索するときのプリンタクラス名 （80 バイト以内の文字列）	SearchPrinterClassName
/pm	蓄積印刷方式 • cl：蓄積クライアントで印刷する • sv：蓄積拠点サーバで印刷する	PrintMode
/po	用紙の向き • none：印刷データを蓄積したときのページごとの属性に従う • portrait：用紙の向きを縦にして印刷する • landscape：用紙の向きを横にして印刷する	PaperOrientation
/prc	蓄積ファイルのプリンタクラス名 （80 バイト以内の文字列）	PrinterClassName
/sm	蓄積拠点サーバ印刷方式のプリンタ指定方式 • class：プリンタクラス名を指定する • printer：OS 上のプリンタ名を指定する • group：帳票名による自動振り分け	PrinterSelectMode
/sp	蓄積拠点サーバ印刷の開始ページ （0 ～ 999,999）	PrintStartPage
/sptl	スプールタイトル （255 バイト以内の文字列）	SpoolTitle
/svr	拠点サーバの IP アドレス （255.255.255.255 形式）	ServerAddress
/t	蓄積ファイルのクライアントプリンタのトレイ名 （80 バイト以内の文字列）	ClientTrayName
/te	ファイル作成日時で蓄積ファイルを検索するときの検索終了日時 （YYYYMMDD 形式）	SearchCreateTimeEnd
/ts	ファイル作成日時で蓄積ファイルを検索するときの検索開始日時 （YYYYMMDD 形式）	SearchCreateTimeStart

プロパティオプション	内容（指定値）	対応する RS-ActiveX 起動部品のプロパティ
/xp	蓄積ファイルの印刷上限回数 • -1：無限に印刷する • 0：印刷を禁止する • 1 ～ 65,536：印刷回数の上限	MaxPrintCount

RS- コマンド起動部品を使用して実行している場合にエラーが発生したときは，標準エラー出力へエラーメッセージを出力するかしないかを，次に示すメッセージオプションで指定します。

- /message：エラーメッセージを出力します。
- /nomessage：エラーメッセージを出力しません。

オプションの指定を省略した場合は，/message が仮定されます。

なお，/nomessage が指定されていても，コマンドの終了コードは設定されます。

13.2.3 オプションを指定するときの注意

(1) 大文字と小文字の区別について

オプション，オプションの指定値，およびオプションに指定する文字列は，大文字と小文字を区別します。

例えば，/m オプションを「/M」と指定したり，/m オプションの指定値を「/m GETOUTLINE」と指定したりすると，エラーになります。

(2) 同一オプションを複数指定する場合

一つのコマンド構文に，同じオプションが複数指定されている場合は，コマンド構文の後方に指定されたオプションが有効となります。

(3) 無効なオプションについて

/m オプションで指定した蓄積操作，および構成定義情報取得の機能（メソッド）に無効なプロパティオプションを指定したときは，無視して実行されます。

/m オプションで指定した蓄積操作，および構成定義情報取得の機能（メソッド）を実行するとき，どのプロパティオプションの指定が必要かを表 13-3 に示します。

/m オプションを指定したときに必要なプロパティは，蓄積操作および構成定義情報取得で使用します。表 13-3 の表見出しの番号は，次に示すメソッドに対応しています。

表見出しの番号	対応するメソッド
1	getoutline

表見出しの番号	対応するメソッド
2	getattr
3	setattr
4	print
5	get
6	del
7	getprclass
8	getpr
9	gettray

表 13-3　/m オプションを指定したときに必要なプロパティオプション

プロパティオプション	/m オプション								
	蓄積操作						構成定義情報取得		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
/c	―	―	―	△	△	―	―	―	―
/ca	―	―	△	―	―	―	―	―	―
/client	―	―	△	△	―	―	―	―	―
/da	―	―	△	―	―	―	―	―	―
/dialog	―	―	△	△	―	―	―	―	―
/dk	―	―	―	―	―	△	―	―	―
/ep	―	―	―	△	―	―	―	―	―
/exp	―	―	△	―	―	―	―	―	―
/fc	△	―	―	―	―	―	―	―	―
/fd	△	―	―	―	―	―	―	―	―
/g	―	―	△	―	―	―	―	―	―
/group	―	―	△	△	―	―	―	―	―
/id	△	○	○	○	○	○／―	―	―	―
/inc	△	―	―	―	―	―	―	―	―
/lm	―	―	△	―	―	―	―	―	―
/lsp	―	―	△	△	―	―	―	―	○
/lst	―	―	△	△	―	―	―	―	―
/message | /nomessage	△	△	△	△	△	△	△	△	△
/num	―	―	―	△	△	―	―	―	―
/o	―	―	―	―	△	―	―	―	―
/ofn	―	―	―	―	△	―	―	―	―

プロパティオプション	/m オプション								
	蓄積操作						構成定義情報取得		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
/p	―	―	△	△	―	―	―	―	―
/pc	△	―	―	―	―	―	―	―	―
/pm	―	―	―	△	―	―	―	―	―
/po	―	―	―	△	△	―	―	―	―
/prc	―	―	△	△	△	―	―	―	―
/sm	―	―	△	△	―	―	―	―	―
/sp	―	―	―	△	―	―	―	―	―
/sptl	―	―	―	△	△	―	―	―	―
/svr	△	△	△	△	△	△	△	△	△
/t	―	―	△	△	―	―	―	―	―
/te	△	―	―	―	―	―	―	―	―
/ts	△	―	―	―	―	―	―	―	―
/xp	―	―	△	―	―	―	―	―	―

（凡例）

○：必ず指定します。

△：指定を省略できます。

―：指定できません。

13.3　eurpmlsc コマンドの構文

eurpmlsc コマンドの構文は，Windows 環境および UNIX/Linux 環境で共通です。ただし，UNIX/Linux の場合は，eurpmlsc コマンドを「eurpmlsc」と指定してください。「.exe」は指定できません。

ここでは，オプション名のセパレータは，「/」で示しています。UNIX/Linux 環境の場合は，「/」を「-」に置き換えてお読みください。

13.3.1　蓄積ファイルの一覧を取得する場合

```
eurpmlsc〔.exe〕
〔/message | /nomessage〕
/m getoutline
〔/svr 拠点サーバのIPアドレス〕
〔/id 蓄積ファイルを検索するときのジョブID〕
〔/inc 格納ファイル名で蓄積フォルダのファイル一覧を検索するときの
       格納ファイル名〕
〔/pc プリンタクラス名で蓄積フォルダのファイル一覧を検索するときの
      プリンタクラス名〕
〔/ts ファイル作成日時で蓄積ファイルを検索するときの検索開始日時〕
〔/te ファイル作成日時で蓄積ファイルを検索するときの検索終了日時〕
〔/fc 蓄積ファイルを検索するときのジョブ検索キーの分類〕
〔/fd 蓄積ファイルを検索するときのジョブ検索キーの値〕
```

(1)　オプション指定時の注意

/fc オプションと /fd オプションを入力するときは，項目を「,」で区切って，10 個まで指定できます。

(指定例)

/fc “ 住所 , 氏名 , 年齢 , 電話番号 ”

/fd “ 東京 , 日立 太郎 ,20,123-4567 ”

メッセージオプション（/message | /nomessage）については，「13.2.2　RS- コマンド起動部品が提供する機能（プロパティ）」を参照してください。そのほかのオプションについては，RS-ActiveX 起動部品の GetSpoolFileOutline メソッドを参照してください。

(2)　出力結果

プロパティを「,」で区切って標準出力（stdout）に出力されます。出力結果を次に示します。

なお，出力された各プロパティについては，「9.8　RS-ActiveX 起動部品のプロパティ仕様」を参照してください。

行	書式	説明
1	VVRR▼	フォーマットを変更したときのバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。
2	JobID, SpoolPath, SpoolFileName, PageNum, CreateTime, PrintResult, PrinterClassName▼	「,」で区切られたプロパティ名が，1 行で常に出力されます。
3 ～	JobID プロパティ値 , … , PrinterClassName プロパティ値▼ 〔JobID プロパティ値 , … , PrinterClassName プロパティ値▼〕…	2 行目に出力されたプロパティに設定されている値が「,」で区切られて出力されます。「SpoolPath」の値には，常に "" が出力されます。 取得結果は 1 件につき 1 行で，件数分出力されます。取得結果が 0 件のときは出力されません。

（凡例）

▼：改行コード（0x0d+0x0a）を示します。

13.3.2 蓄積ファイルの属性値を取得する場合

```
eurpmlsc〔.exe〕
 〔/message | /nomessage〕
 /m getattr
 〔/svr 拠点サーバのIPアドレス〕
 /id 蓄積ファイルを検索するときのジョブID
```

(1) オプション指定時の注意

メッセージオプション（/message | /nomessage）については，「13.2.2 RS- コマンド起動部品が提供する機能（プロパティ）」を参照してください。そのほかのオプションについては，RS-ActiveX 起動部品の GetSpoolFileAttribute メソッドを参照してください。

(2) 出力結果

プロパティを「,」で区切って標準出力（stdout）に出力されます。出力結果を次に示します。

なお，出力された各プロパティについては，「9.8 RS-ActiveX 起動部品のプロパティ仕様」を参照してください。

行	書式	説明
1	VVRR▼	フォーマットを変更したときのバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。

行	書式	説明
2	SpoolPath, SpoolFileName, PageNum, CreateTime, PrintResult, PrinterClassName, ClientAddress, DispPrintDlg, SpoolFileSize, CreateLSVersion, CreateIPAddress, SpoolLimit, ExecPrintCount, MaxPrintCount, EnableGet, PrinterSelectMode, ServerPrinterName, ServerTrayName, ClientPrinterName, ClientTrayName, GroupName, ExecutablePrintMode, JobKeyCategory1, JobKeyCategory2, JobKeyCategory3, JobKeyCategory4, JobKeyCategory5, JobKeyCategory6, JobKeyCategory7, JobKeyCategory8, JobKeyCategory9, JobKeyCategory10, JobKeyData1, JobKeyData2, JobKeyData3, JobKeyData4, JobKeyData5, JobKeyData6, JobKeyData7, JobKeyData8, JobKeyData9, JobKeyData10, PrintTime ▼	「,」で区切られたプロパティ名が，1 行で常に出力されます。
3	▼ SpoolPath プロパティ値 , … , PrintTime プロパティ値▼ 〔SpoolPath プロパティ値 , … , PrintTime プロパティ値▼〕…	2 行目に出力されたプロパティに設定されている値が「,」で区切られて出力されます。「SpoolPath」の値には，常に "" が出力されます。 取得結果は 1 件につき 1 行で，件数分出力されます。取得結果が 0 件のときは出力されません。
4	OperationKind, OperationTime, IPAddress, OperationObject, BeforeData, AfterData, PrintResult ▼	「,」で区切られた履歴情報の見出し名が，1 行で常に出力されます。
5 ～	操作種別 , 操作日時 , IP アドレス , 操作対象 , 変更前 , 変更後 , 印刷実行結果▼ 〔操作種別 , 操作日時 , IP アドレス , 操作対象 , 変更前 , 変更後 , 印刷実行結果▼〕…	履歴情報が「,」で区切られて出力されます。取得結果は 1 件につき 1 行で，件数分出力されます。取得結果が 0 件のときは出力されません。

（凡例）

▼：改行コード（0x0d+0x0a）を示します。

13.3.3 蓄積ファイルの属性値を変更する場合

```
eurpmlsc〔.exe〕
〔/message | /nomessage〕
/m setattr
〔/svr 拠点サーバのIPアドレス〕
/id 蓄積ファイルを検索するときのジョブID
〔/prc 蓄積ファイルのプリンタクラス名〕
〔/client 蓄積クライアント印刷時のクライアントPCのIPアドレス〕
〔/dialog {dialog | auto | preview | fullauto | pvonly} 〕
〔/lm 蓄積ファイルの蓄積期限日〕
〔/xp 蓄積ファイルの印刷上限回数〕
〔/g {get | noget} 〕
〔/sm {class | printer | group} 〕
〔/lsp 拠点サーバでのOS上のプリンタ名〕
```

〔/lst 拠点サーバでのOS上のプリンタのトレイ名〕
〔/p 蓄積ファイルのクライアントプリンタ名〕
〔/t 蓄積ファイルのクライアントプリンタのトレイ名〕
〔/group 蓄積ファイルの振り分けグループ名〕
〔/exp {sv | svcl | cl} 〕
〔/ca 蓄積ファイルのジョブ検索キー分類〕
〔/da 蓄積ファイルのジョブ検索キー値〕

(1) オプション指定時の注意

/ca オプションと /da オプションを入力するときは，項目を「,」で区切って，10 個まで指定できます。

(指定例)

/ca “ 住所 , 氏名 , 年齢 , 電話番号 ”

/da “ 東京 , 日立 花子 ,19,123-4567 ”

/dialog オプション，/g オプション，/sm オプション，および /exp オプションに指定する値の内容を次に示します。

オプション	説明
/dialog	蓄積クライアント印刷時のダイアログ表示モードを指定します。 • dialog：対話型印刷 • auto：自動印刷 • preview：対話型印刷プレビュー表示 • fullauto：全自動印刷※1 • pvonly：対話型印刷プレビュー表示限定※2 【参考】 RS-ActiveX 起動部品のプロパティでは，次に該当します。 DispPrintDlg=0（対話型印刷） DispPrintDlg=1（自動印刷印刷） DispPrintDlg=2（対話型印刷プレビュー表示） DispPrintDlg=3（全自動印刷）※1 DispPrintDlg=4（対話型印刷プレビュー表示限定）※2
/g	蓄積ファイルの取得可否を指定します。 • get：(蓄積ファイルの取得を許可します) • noget：(蓄積ファイルの取得を許可しません) 【参考】 RS-ActiveX 起動部品のプロパティでは，次に該当します。 EnableGet=True（蓄積ファイルの取得を許可します） EnableGet=False（蓄積ファイルの取得を許可しません）

オプション	説明
/sm	蓄積拠点サーバ印刷方式のプリンタ指定方式を指定します。 • class：プリンタクラス名指定 • printer：OS 上のプリンタ名指定 • group：帳票名による自動振り分け 【参考】 RS-ActiveX 起動部品のプロパティでは，次に該当します。 PrinterSelectMode=0（プリンタクラス名指定） PrinterSelectMode=1（OS 上のプリンタ名指定） PrinterSelectMode=2（帳票名による自動振り分け）
/exp	蓄積ファイルの実行可能印刷方式を指定します。 • sv：蓄積拠点サーバ印刷 • svcl：蓄積拠点サーバ / 蓄積クライアント印刷 • cl：蓄積クライアント印刷 【参考】 RS-ActiveX 起動部品のプロパティでは，次に該当します。 ExecutablePrintMode=0（蓄積拠点サーバ印刷） ExecutablePrintMode=1（蓄積拠点サーバ / 蓄積クライアント印刷） ExecutablePrintMode=2（蓄積クライアント印刷）

注※ 1　印刷実行時に印刷中のダイアログが表示されません。

注※ 2　印刷は実行できません。

メッセージオプション（/message | /nomessage）については，「13.2.2　RS- コマンド起動部品が提供する機能（プロパティ）」を参照してください。そのほかのオプションについては，RS-ActiveX 起動部品の SetSpoolFileAttribute メソッドを参照してください。

13.3.4　蓄積ファイルを蓄積データ印刷する場合

```
eurpmlsc〔.exe〕
〔/message | /nomessage〕
/m print
〔/svr 拠点サーバのIPアドレス〕
/id 蓄積ファイルを検索するときのジョブID
〔/pm {sv|cl}〕
〔/sp 蓄積拠点サーバ印刷の開始ページ〕
〔/ep 蓄積拠点サーバ印刷の終了ページ〕
〔/sm {class|printer|group}〕
〔/prc プリンタクラス名〕
〔/lsp 拠点サーバでのOS上のプリンタ名〕
〔/lst 拠点サーバでのOS上のプリンタのトレイ名〕
〔/p 蓄積ファイルのクライアントプリンタ名〕
〔/t 蓄積ファイルのクライアントプリンタのトレイ名〕
〔/group 蓄積ファイルの振り分けグループ名〕
〔/client 蓄積クライアント印刷時のクライアントPCのIPアドレス〕
〔/c 印刷部数〕
〔/num {sort|stack}〕
〔/po {none|portrait|landscape}〕
〔/sptl スプールタイトル〕
〔/dialog {dialog | auto | preview | fullauto | pvonly}〕
```

(1) オプション指定時の注意

/id オプションには，複数の蓄積ファイルを指定できます。ジョブ ID をコンマ（,）で区切って指定してください。

/pm オプション，/sm オプション，/num オプション，/po オプション，および /dialog オプションに指定する値の内容を次に示します。

オプション	説明
/pm	蓄積印刷方式を指定します。 • sv：蓄積拠点サーバ印刷 • cl：蓄積クライアント印刷 【参考】 RS-ActiveX 起動部品のプロパティでは，次に該当します。 PrintMode=0（蓄積拠点サーバ印刷） PrintMode=1（蓄積クライアント印刷）
/sm	蓄積拠点サーバ印刷方式のプリンタ指定方式を指定します。 • class：プリンタクラス名指定 • printer：OS 上のプリンタ名指定 • group：帳票名による自動振り分け 【参考】 RS-ActiveX 起動部品のプロパティでは，次に該当します。 PrinterSelectMode=0（プリンタクラス名指定） PrinterSelectMode=1（OS 上のプリンタ名指定） PrinterSelectMode=2（帳票名による自動振り分け）
/num	印刷部数の単位を指定します。 • sort：部単位 • stack：ページ単位 【参考】 RS-ActiveX 起動部品のプロパティでは，次に該当します。 SortPrint=0（部単位） SortPrint=1（ページ単位）
/po	用紙の向きを指定します。 • none：印刷データを蓄積したときのページごとの属性に従う • portrait：用紙の向きを縦にして印刷する • landscape：用紙の向きを横にして印刷する 【参考】 RS-ActiveX 起動部品のプロパティでは，次に該当します。 PaperOrientation=0（印刷データを蓄積したときのページごとの属性に従う） PaperOrientation=1（用紙の向きを縦にして印刷する） PaperOrientation=2（用紙の向きを横にして印刷する）

オプション	説明
/dialog	蓄積クライアント印刷時のダイアログ表示モードを指定します。 • dialog：対話型印刷 • auto：自動印刷 • preview：対話型印刷プレビュー表示 • fullauto：全自動印刷※1 • pvonly：対話型印刷プレビュー表示限定※2 【参考】 RS-ActiveX 起動部品のプロパティでは，次に該当します。 DispPrintDlg=0（対話型印刷） DispPrintDlg=1（自動印刷印刷） DispPrintDlg=2（対話型印刷プレビュー表示） DispPrintDlg=3（全自動印刷）※1 DispPrintDlg=4（対話型印刷プレビュー表示限定）※2

注※1　印刷実行時に印刷中のダイアログが表示されません。
注※2　印刷は実行できません。

メッセージオプション（/message | /nomessage）については，「13.2.2　RS- コマンド起動部品が提供する機能（プロパティ）」を参照してください。そのほかのオプションについては，RS-ActiveX 起動部品の PrintSpoolReport メソッドを参照してください。

13.3.5　蓄積ファイルを取得する場合

```
eurpmlsc〔.exe〕
〔/message | /nomessage〕
/m get
〔/svr 拠点サーバのIPアドレス〕
/id 蓄積ファイルを検索するときのジョブID
〔/ofn 出力ファイル名〕
〔/o 蓄積ファイルを取得するフォルダのパス〕
〔/prc プリンタクラス名〕
〔/c 印刷部数〕
〔/num {sort | stack}〕
〔/po {none | portrait | landscape}〕
〔/sptl スプールタイトル〕
```

(1) オプション指定時の注意

/id オプションには，複数の蓄積ファイルを指定できます。ジョブ ID をコンマ（,）で区切って指定してください。

/num オプションおよび /po オプションに指定する値の内容を次に示します。

オプション	説明
/num	印刷部数の単位を指定します。 • sort：部単位 • stack：ページ単位 【参考】 RS-ActiveX 起動部品のプロパティでは，次に該当します。 SortPrint=0（部単位） SortPrint=1（ページ単位）
/po	用紙の向きを指定します。 • none：印刷データを蓄積したときのページごとの属性に従う • portrait：用紙の向きを縦にして印刷する • landscape：用紙の向きを横にして印刷する 【参考】 RS-ActiveX 起動部品のプロパティでは，次に該当します。 PaperOrientation=0（印刷データを蓄積したときのページごとの属性に従う） PaperOrientation=1（用紙の向きを縦にして印刷する） PaperOrientation=2（用紙の向きを横にして印刷する）

メッセージオプション（/message | /nomessage）については，「13.2.2　RS- コマンド起動部品が提供する機能（プロパティ）」を参照してください。そのほかのオプションについては，RS-ActiveX 起動部品の GetSpoolFile メソッドを参照してください。

13.3.6　蓄積ファイルを削除する場合

```
eurpmlsc〔.exe〕
〔/message | /nomessage〕
/m del
〔/svr 拠点サーバのIPアドレス〕
〔/id 蓄積ファイルを検索するときのジョブID〕
〔/dk {direct | expire}〕
```

(1) オプション指定時の注意

/id オプションを複数指定するときは，項目を「,」で区切ります。

（指定例）

/id “ id001, id002, id003 ”

/dk オプションに指定する値の内容を次に示します。

オプション	説明
/dk	蓄積ファイル削除時の削除種別を指定します。 • direct：通常削除 • expire：蓄積期限切れファイルの削除 【参考】 RS-ActiveX 起動部品のプロパティでは，次に該当します。 DeleteKind=0（通常削除） DeleteKind=1（蓄積期限切れファイルの削除）

メッセージオプション（/message | /nomessage）については，「13.2.2　RS- コマンド起動部品が提供する機能（プロパティ）」を参照してください。そのほかのオプションについては，RS-ActiveX 起動部品の DeleteSpoolFile メソッドを参照してください。

13.3.7　プリンタクラス一覧を取得する場合

```
eurpmlsc〔.exe〕
〔/message | /nomessage〕
/m getprclass
〔/svr 拠点サーバのIPアドレス〕
```

(1) オプション指定時の注意

メッセージオプション（/message | /nomessage）については，「13.2.2　RS- コマンド起動部品が提供する機能（プロパティ）」を参照してください。そのほかのオプションについては，RS-ActiveX 起動部品の GetPrinterClassList メソッドを参照してください。

(2) 出力結果

次に示す情報を「,」で区切って標準出力（stdout）に出力されます。出力結果を次に示します。

なお，出力された各プロパティについては，「9.8　RS-ActiveX 起動部品のプロパティ仕様」を参照してください。

行	書式	説明
1	VVRR ▼	フォーマットを変更したときのバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。
2	PrinterClassName, PrinterName, TrayName, Description ▼	「,」で区切られた見出し名（プロパティ名を含む）が，1 行で常に出力されます。

行	書式	説明
3 ～	プリンタクラス名 , OS 上のプリンタ名 , OS 上のプリンタのトレイ名 , 説明▼ 〔プリンタクラス名 , OS 上のプリンタ名 , OS 上のプリンタのトレイ名 , 説明▼〕…	2 行目に出力された見出し名（プロパティ名を含む）に設定されている値が「,」で区切られて出力されます。「SpoolPath」の値には，常に "" が出力されます。 取得結果は 1 件につき 1 行で，件数分出力されます。取得結果が 0 件のときは出力されません。

（凡例）

▼：改行コード（0x0d+0x0a）を示します。

13.3.8　プリンター一覧を取得する場合

```
eurpmlsc〔.exe〕
〔/message | /nomessage〕
 /m getpr
〔/svr 拠点サーバのIPアドレス〕
```

(1) オプション指定時の注意

メッセージオプション（/message | /nomessage）については，「13.2.2　RS- コマンド起動部品が提供する機能（プロパティ）」を参照してください。そのほかのオプションについては，RS-ActiveX 起動部品の GetPrinterList メソッドを参照してください。

(2) 出力結果

OS 上のプリンタ名が標準出力（stdout）に出力されます。出力結果を次に示します。

なお，出力されたプロパティについては，「9.8　RS-ActiveX 起動部品のプロパティ仕様」を参照してください。

行	書式	説明
1	VVRR ▼	フォーマットを変更したときのバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。
2	PrinterName ▼	プロパティ名が，1 行で常に出力されます。
3 ～	OS 上のプリンタ名▼ 〔OS 上のプリンタ名▼〕…	2 行目に出力されたプロパティに設定されている値が出力されます。 取得結果は 1 件につき 1 行で，件数分出力されます。取得結果が 0 件のときは出力されません。

（凡例）

▼：改行コード（0x0d+0x0a）を示します。

13.3.9　トレイ一覧を取得する場合

```
eurpmlsc〔.exe〕
```

```
〔/message | /nomessage〕
/m gettray
〔/svr 拠点サーバのIPアドレス〕
/lsp 拠点サーバでのOS上のプリンタ名
```

(1) オプション指定時の注意

メッセージオプション（/message | /nomessage）については，「13.2.2 RS- コマンド起動部品が提供する機能（プロパティ）」を参照してください。そのほかのオプションについては，RS-ActiveX 起動部品の GetTrayList メソッドを参照してください。

(2) 出力結果

OS 上のプリンタのトレイ名が標準出力（stdout）に出力されます。出力結果を次に示します。

なお，出力されたプロパティについては，「9.8 RS-ActiveX 起動部品のプロパティ仕様」を参照してください。

行	書式	説明
1	VVRR ▼	フォーマットを変更したときのバージョン情報が「VVRR」形式で常に出力されます。
2	TrayName ▼	プロパティ名が，1 行で常に出力されます。
3 ～	OS 上のプリンタのトレイ名 ▼ 〔OS 上のプリンタのトレイ名▼〕…	2 行目に出力されたプロパティに設定されている値が出力されます。 取得結果は 1 件につき 1 行で，件数分出力されます。取得結果が 0 件のときは出力されません。

（凡例）

▼：改行コード（0x0d+0x0a）を示します。

13.4　環境設定ファイル

RS- コマンド起動部品の場合は，RS- コマンド起動部品で指定するポート番号，サーバマシンの IP アドレスなどを，環境設定ファイル（EURPMLSADP.ini）に指定できます。

環境設定ファイルについては，「16.　実行環境の設定」を参照してください。

13.5　エラー情報

RS- コマンド起動部品では，エラーを検知すると，メッセージオプション（/message）によって次に示す標準エラーを出力します。

表 13-4　RS- コマンド起動部品の標準エラー出力

エラー種別	発生条件	メッセージ ID
コマンド実行時エラー	コマンド実行時にエラーが発生したとき	KEEY801-E
	メモリ不足が発生したとき	KEEY806-E
コマンドシンタックスエラー	不明なオプションを指定したとき	KEEY802-E
	オプションに値の指定がないとき	KEEY803-E
	オプションの指定値が不正なとき	KEEY804-E
	指定が必須のオプションが指定されていないとき	KEEY805-E

13.5.1　eurpmlsc コマンドの終了コード

eurpmlsc コマンドを実行すると，終了コードが返されます。終了コード一覧を次に示します。

表 13-5　eurpmlsc コマンドの終了コード

終了コード	意味
0	eurpmlsc コマンドが正常に終了しました。
8	eurpmlsc コマンドの実行中，エラーが発生しました。

eurpmlsc コマンドを呼び出している API では，eurpmlsc コマンドの終了コードを参照して，エラーチェックしてください。

13.5.2　エラーメッセージのフォーマット

eurpmlsc コマンドを実行したとき，標準エラーに出力されるメッセージのフォーマットを次に示します。

```
eurpmlsc: △ KEEY8XX-E △エラーメッセージ▼
```

（凡例）

△：半角空白を示します。

▼：改行（0x0d+0x0a）を示します。

14 クライアントコマンドを使用した帳票出力

この章では，EUR Print Manager - Client をコマンド起動するためのクライアントコマンドについて説明します。

14.1 クライアントコマンド

14.2 クライアントコマンドのオプション一覧

14.3 クライアントコマンドの形式

14.4 クライアントコマンドの指定例

14.5 エラー情報

14.1 クライアントコマンド

クライアント側で動作するプログラムから，EUR Print Manager - Client をコマンド起動することで，帳票のプレビュー表示や印刷ができます。このときに使用するコマンドを，**クライアントコマンド**といいます。

クライアントコマンドのファイル名を次に示します。

EURPMCEPFViewer.exe

クライアントコマンドのファイルです。EUR Print Manager - Client のインストール先フォルダ下にあります。

14.2　クライアントコマンドのオプション一覧

クライアントコマンドが提供するオプションの一覧を次に示します。

表 14-1　クライアントコマンドのオプション一覧

オプション	指定値※	/r オプションの指定	内容
/e	印刷終了ページ	○	1 ～ 999,999 の数値で指定します。 範囲外の値を指定した場合，および /s オプションに指定した値より小さい値を指定した場合はエラーになります。 /e オプションの指定を省略した場合は，最終ページまで印刷されます。
/nomessage	―	○	印刷時にダイアログを表示しない場合（全自動印刷したい場合）に指定します。
/pr	プリンタ名	○	80 バイト以内の文字列で指定します。
/prc	プリンタクラス名	○	80 バイト以内の文字列で指定します。 /pr オプションと同時に指定した場合は無視されます。
/r	―	―	帳票を自動印刷する場合に指定します。なお，/r オプションを指定した場合は，EPF 形式ファイル名を必ず指定してください。 /r オプションの指定を省略した場合は，帳票をプレビュー表示します。
/s	印刷開始ページ	○	1 ～ 999,999 の数値で指定します。 範囲外の値を指定した場合，および /e オプションに指定した値より大きい値を指定した場合はエラーになります。 /s オプションの指定を省略した場合は，1 ページから印刷されます。
/tr	トレイ名	○	80 バイト以内の文字列で指定します。 /pr オプションと同時に指定した場合に有効になります。 /tr オプションの指定を省略した場合は，/pr オプションで指定したプリンタのデフォルトのトレイから給紙されます。
―	EPF 形式ファイル名	△	EPF 形式ファイル名をフルパスで指定します。 255 バイト以内の文字列で指定してください。 EPF 形式ファイルの指定を省略した場合は，ファイルを表示しない状態で EUR Print Manager - Client が起動します。また，ファイルを複数指定するとエラーとなります。 なお，ファイルの拡張子はコマンド実行時の動作に影響しません。ファイルの拡張子が *.epf であっても，/r オプションを指定した場合は帳票が自動印刷されます。

（凡例）

○：/r オプションの指定が必須です。

△：/r オプションの指定は任意です。

－：該当しません。

注※

半角空白を含む値を指定する場合は，値を「"」で囲んで指定します。

（1） オプションを指定するときの注意

オプションを指定するときの注意を次に示します。

（a） 大文字と小文字の区別

オプション，オプションの指定値，およびオプションに指定する文字列は，大文字と小文字を区別します。

例えば，/r オプションを「/R」と指定すると，エラーになります。

（b） 同一オプションを複数指定する場合

同じオプションが複数指定されている場合は，最後に指定されたオプションの値が有効となります。

（c） 無効なオプションが指定されている場合

無効なオプションが指定されていた場合は，エラーになります。

（2） 帳票の印刷先について

優先順位は次のとおりです。

1. プリンタ名の指定（/pr オプションで指定）
2. プリンタクラス名の指定（/prc オプションで指定）
3. EPF 形式ファイルのプリンタクラス名情報
4. OS のデフォルトのプリンタ

2. または 3. で決定したプリンタクラス名が，クライアント PC のプリンタクラスとして設定されていない場合は，OS のデフォルトのプリンタに出力します。また，プリンタ名またはプリンタクラス名の指定によって決定したプリンタが存在しない場合はエラーになります。

14.3　クライアントコマンドの形式

```
EURPMCEPFViewer〔.exe〕
〔/r〕
〔/nomessage〕
〔/pr プリンタ名〕
〔/tr トレイ名〕
〔/prc プリンタクラス名〕
〔/s 印刷開始ページ〕
〔/e 印刷終了ページ〕
〔EPF形式ファイル名〕
```

〔/r〕

帳票を自動印刷する場合に指定します。
指定を省略した場合は，帳票をプレビュー表示します。

〔/nomessage〕

印刷時にダイアログを表示しない場合（全自動印刷したい場合）に指定します。
/r オプションと同時に指定した場合に有効になります。

〔/pr プリンタ名〕

プリンタ名を 80 バイト以内の文字列で指定します。
/r オプションと同時に指定した場合に有効になります。

〔/tr トレイ名〕

トレイ名を 80 バイト以内の文字列で指定します。
/r オプションおよび /pr オプションと同時に指定した場合に有効になります。
指定を省略した場合は，/pr オプションで指定したプリンタのデフォルトのトレイから給紙されます。

〔/prc プリンタクラス名〕

プリンタクラス名を 80 バイト以内の文字列で指定します。
/r オプションと同時に指定した場合に有効になります。
/pr オプションと同時に指定した場合は無視されます。

〔/s 印刷開始ページ〕

印刷終了ページを 1 ～ 999,999 の数値で指定します。
/r オプションと同時に指定した場合に有効になります。
範囲外の値を指定した場合，および /e オプションに指定した値より大きい値を指定した場合はエラーになります。指定を省略した場合は，1 ページから印刷されます。

〔/e 印刷終了ページ〕

印刷終了ページを 1 ～ 999,999 の数値で指定します。
/r オプションと同時に指定した場合に有効になります。
範囲外の値を指定した場合，および /s オプションに指定した値より小さい値を指定した場合はエラーになります。指定を省略した場合は，最終ページまで印刷されま

す。

〔EPF 形式ファイル名〕

EPF 形式ファイル名をフルパスで指定します。
255 バイト以内の文字列で指定してください。
指定を省略した場合は，ファイルを表示しない状態で EUR Print Manager - Client が起動します。また，ファイルを複数指定するとエラーとなります。
/r オプションを指定した場合は必ず指定してください。

14.4　クライアントコマンドの指定例

クライアントコマンドの指定例を次に示します。

(1) プリンタクラス名を指定して帳票を全自動印刷したい場合

プリンタクラス名：AClass

EPF **形式ファイル名：**EPFFile.epf

ファイルのある場所：C:¥temp¥

```
"C:¥Program Files¥Hitachi¥EURPM
Client¥Program¥EURPMCEPFViewer.exe" /r /nomessage /prc AClass
C:¥temp¥EPFFile.epf
```

(2) プリンタ名とトレイ名を指定して帳票を自動印刷したい場合

プリンタ名：Port C4300

トレイ名：自動

EPF **形式ファイル名：**EPFFile.epf

ファイルのある場所：C:¥temp

```
"C:¥Program Files¥Hitachi¥EURPM
Client¥Program¥EURPMCEPFViewer.exe" /r /pr "Port C4300" /tr 自動
C:¥temp¥EPFFile.epf
```

(3) 帳票のプリンタクラス名情報を使用して自動印刷したい場合

EPF **形式ファイル名：**EPFFile.epf

ファイルのある場所：C:¥temp folder

```
"C:¥Program Files¥Hitachi¥EURPM
Client¥Program¥EURPMCEPFViewer.exe" /r "C:¥temp folder¥EPFFile.epf"
```

(4) 帳票をプレビュー表示したい場合

EPF **形式ファイル名：**EPFFile.epf

ファイルのある場所：C:¥temp¥

```
"C:¥Program Files¥Hitachi¥EURPM
Client¥Program¥EURPMCEPFViewer.exe" C:¥temp¥EPFFile.epf
```

14.5　エラー情報

クライアントコマンドを実行すると，終了コードが返されます。終了コード一覧を次に示します。

表 14-2　クライアントコマンドの終了コード

終了コード	意味
0	クライアントコマンドが正常に終了しました。
100 ～ 199	クライアントコマンドの実行中に，エラーが発生しました。 該当する KEEY メッセージを参照してください。

クライアントコマンドを呼び出している API では，クライアントコマンドの終了コードを参照して，エラーチェックしてください。

また，クライアントコマンドを実行したとき，ダイアログに出力されるメッセージの表示例を次に示します。

ただし，/nomessage オプションを指定してクライアントコマンドを実行した場合は，ダイアログは表示されません。

15 帳票出力で使用するファイル

この章では，EUR Print Managerで扱えるファイルの種類とデータファイルの形式について説明します。

15.1 EUR Print Manager で扱えるファイル

15.2 印刷データファイル

15.3 印刷定義ファイル

15.4 ユーザーデータファイル

15.5 蓄積ファイル

15.6 構成定義ファイル

15.7 ActiveX クライアント情報ファイル

15.8 印刷日時出力定義ファイル

15.9 EURPM 分割定義ファイル

15.10 EURPM 仕分け定義ファイル

15.11 環境設定ファイル

15.12 EURPM 起動管理定義ファイル

15.1　EUR Print Manager で扱えるファイル

EUR Print Manager で扱えるファイルおよび文字コードについて説明します。

15.1.1　EUR Print Manager で扱えるファイルの種類

EUR Print Manager で扱えるファイルの種類を次に示します。

表 15-1　EUR Print Manager で扱えるファイルの種類

ファイルの種類		ファイル形式（拡張子）
印刷データファイル	EPF 形式ファイル	EPF 形式ファイル（*.epf，*.epp）
	EUR 形式ファイル	EUR 形式ファイル（*.eup，*.euv）
	PDF 形式ファイル	PDF 形式ファイル（*.pdf）
	Excel 形式ファイル	Excel 形式ファイル（*.xlsx）
印刷定義ファイル	帳票ファイル	フォームシートファイル（*.fms）
	複数様式情報定義ファイル	テキストファイル（任意）
	文書情報設定ファイル	
	接続情報ファイル	
	置き換え表管理情報ファイル	CSV 形式ファイル（*.csv）
	Acrobat JavaScript 定義ファイル	
	ビューアプレファレンス定義ファイル	
ユーザーデータファイル	マッピングデータファイル，または可変記号値定義ファイル	データファイル（*.csv，*.dat，*.fix），またはテキストファイル（任意）
	ユーザ定義データファイル，または可変記号値定義ファイル	
	しおり定義ファイル	テキストファイル（任意）
	文書しおり定義ファイル	
	仕分け定義情報ファイル	
	暗号化設定ファイル	
	帳票セット指定ファイル	
	PDF 仕分け定義ファイル	CSV 形式ファイル（*.csv）
	EPF 形式ファイル	EPF 形式ファイル（*.epf，*.epp）
蓄積ファイル		なし

ファイルの種類		ファイル形式（拡張子）
構成定義ファイル	出力先定義ファイル	CONF ファイル（*.conf）
	印刷管理サーバプリンタクラス定義ファイル	
	印刷先定義ファイル	
	拠点プリンタクラス定義ファイル	
	帳票振り分け定義ファイル	
	蓄積管理ユーザ定義ファイル	
	クライアントプリンタクラス定義ファイル	
ActiveX クライアント情報ファイル		INF ファイル（*.inf）
印刷日時出力定義ファイル		テキストファイル（任意）
EURPM 分割定義ファイル		
EURPM 仕分け定義ファイル		
環境設定ファイル		INI ファイル（*.ini）
EUR Print Manager 起動管理定義ファイル		CONF ファイル（*.conf）

15.1.2　ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意

EUR Print Manager で扱えるファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意を次に示します。

- ファイル名，およびファイルのパスは，EUR Print Manager が稼働する OS のファイルシステムのファイル名称規則に従って，使用できる文字で指定してください。
  なお，EUR Print Manager では，構成定義ファイルで「"」と「,」を区切り文字に使用しているため，「"」と「,」は使用できません。
- ファイル名をフルパスで指定するときの長さを次に示します。
  - Windows 環境の場合
    255 バイト以下にしてください。
  - UNIX/Linux 環境の場合
    1,023 バイト以下にしてください。
- COBOL 起動部品でファイル名，およびファイルのパスを指定する場合，256 バイトに満たないときは，半角空白で埋めてください。
- ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの大文字・小文字の区別を次に示します。
  - Windows 環境の場合
    大文字・小文字は区別されません。

- UNIX/Linux 環境の場合
  大文字・小文字は区別されます。

- 印刷定義ファイル，ユーザーデータファイル，構成定義ファイル，ActiveX クライアント情報ファイル，および環境設定ファイルを指定するときは，次に示す規則に従ってください。
  - ファイル名を指定するときは，存在するファイルまたは読み込み権限のあるファイルを指定してください。
  - ファイルのパスを指定するときは，存在するフォルダまたは読み込み権限のあるフォルダを指定してください。

15.1.3 EUR Print Manager で扱える文字コード

EUR Print Manager で扱える文字コードを次に示します。

表 15-2 EUR Print Manager で扱える文字コード

対象		エンコーディング				
		Windows	UNIX/Linux			
			Shift-JIS ※1	EUC ※1	UTF-8 ※1	特定しない ※1
EUR Print Manager で扱えるファイルの名前，およびパス		Shift-JIS	Shift-JIS	EUC ※2	UTF-8（BOM なし）※2	Shift-JIS（ASCII 範囲）
印刷データファイルのデータ	EPF 形式ファイル EUR 形式ファイル PDF 形式ファイル Excel 形式ファイル	Shift-JIS	Shift-JIS	EUC ※2	UTF-8（BOM なし）※2	Shift-JIS（ASCII 範囲）

対象		エンコーディング				
		Windows	UNIX/Linux			
			Shift-JIS ※1	EUC ※1	UTF-8 ※1	特定しない ※1
印刷定義ファイルの定義情報	帳票ファイル	Shift-JIS UTF-16（BOM あり）※3	Shift-JIS UTF-16（BOM あり）※3	Shift-JIS UTF-16（BOM あり）※3	Shift-JIS UTF-16（BOM あり）※3	Shift-JIS UTF-16（BOM あり）※3
	複数様式情報定義ファイル 文書情報設定ファイル 接続情報ファイル 置き換え表管理情報ファイル Acrobat JavaScript 定義ファイル ビューアプレファレンス定義ファイル	Shift-JIS UTF-8（BOM あり）※4 UTF-16（BOM あり）※3	Shift-JIS UTF-16（BOM あり）※3	EUC UTF-16（BOM あり）※3	UTF-8（BOM あり） UTF-8（BOM なし） UTF-16（BOM あり）※3	UTF-16（BOM あり）※3, ※5
ユーザーデータファイルの定義情報	マッピングデータファイル ユーザ定義データファイル 可変記号値定義ファイル しおり定義ファイル 文書しおり定義ファイル 仕分け定義情報ファイル 暗号化設定ファイル PDF 仕分け定義ファイル	Shift-JIS UTF-8（BOM あり）※4 UTF-16（BOM あり）※3	Shift-JIS UTF-16（BOM あり）※3	EUC ※6 UTF-16（BOM あり）※3	UTF-8（BOM あり）※6 UTF-8（BOM なし）※6 UTF-16（BOM あり）※3	UTF-16（BOM あり）※3, ※7
	帳票セット指定ファイル	Shift-JIS UTF-8（BOM あり）※2, ※4 UTF-16（BOM あり）※2, ※3	Shift-JIS UTF-16（BOM あり）※2, ※3	EUC ※6 UTF-16（BOM あり）※2, ※3	UTF-8（BOM あり）※6 UTF-8（BOM なし）※6 UTF-16（BOM あり）※2, ※3	UTF-16（BOM あり）※3, ※7

対象		エンコーディング				
		Windows	UNIX/Linux			
			Shift-JIS ※1	EUC ※1	UTF-8 ※1	特定しない ※1
蓄積ファイルの定義情報		Shift-JIS	Shift-JIS	EUC ※2	UTF-8（BOM なし）※2	Shift-JIS（ASCII 範囲）
構成定義ファイルの定義情報	出力先定義ファイル 印刷管理サーバプリンタクラス定義ファイル 印刷先定義ファイル 拠点プリンタクラス定義ファイル 帳票振り分け定義ファイル 蓄積管理ユーザ定義ファイル クライアントプリンタクラス定義ファイル	Shift-JIS	Shift-JIS	EUC ※2	UTF-8（BOM なし）※2	Shift-JIS（ASCII 範囲）
ActiveX クライアント情報ファイルの定義情報		Shift-JIS	Shift-JIS	EUC ※2	UTF-8（BOM なし）※2	Shift-JIS（ASCII 範囲）
印刷日時出力定義ファイルの定義情報		Shift-JIS UTF-8（BOM あり）※2, ※4 UTF-16（BOM あり）※2, ※3	Shift-JIS UTF-16（BOM あり）※2, ※3	EUC ※6 UTF-16（BOM あり）※2, ※3	UTF-8（BOM あり）※6 UTF-8（BOM なし）※6 UTF-16（BOM あり）※2, ※3	UTF-16（BOM あり）※3
EURPM 分割定義ファイルおよび EURPM 仕分け定義ファイルの定義情報		Shift-JIS UTF-8（BOM あり）※4 UTF-16（BOM あり）※2, ※3	Shift-JIS UTF-16（BOM あり）※2, ※3	EUC ※2 UTF-16（BOM あり）※2, ※3	UTF-8（BOM あり）※2 UTF-8（BOM なし）※2 UTF-16（BOM あり）※2, ※3	UTF-16（BOM あり）※2, ※3

対象	エンコーディング				
	Windows	UNIX/Linux			
		Shift-JIS ※1	EUC ※1	UTF-8 ※1	特定しない ※1
環境設定ファイルのキーに指定する情報，および値	Shift-JIS	Shift-JIS	EUC ※2	UTF-8（BOM なし）※2	Shift-JIS（ASCII 範囲）
ログファイルに出力される情報	Shift-JIS	UTF-16（BOM あり）※8	UTF-16（BOM あり）※8	UTF-16（BOM あり）※8	UTF-16（BOM あり）※8

（凡例）

－：該当する項目がないことを示します。

注※ 1

EUR Print Manager のエンコーディングは，OS の言語およびロケール情報によって決まります。詳細については，「付録 E　表示言語とエンコーディング」を参照してください。

なお，OS の言語およびロケール情報が，Shift-JIS，EUC，および UTF-8 のどれにも対応しない場合，EUR Print Manager のエンコーディングを特定しません。そのため，入力データの文字コードの変換ができないので，入力データとして扱えるのは，表 15-2 に示す範囲のデータとなります。

注※ 2

Shift-JIS エンコーディングで表現できる範囲を対象とします。

注※ 3

エンディアンは，BOM で自動判別します。

注※ 4

Windows 環境にはロケールがないため，BOM で自動判別します。

注※ 5

EUR Print Manager の実行環境がエンコーディングを特定しない環境の場合，帳票ファイル以外の印刷定義ファイルには，「UTF-16（BOM あり）」のファイルに加えて，その環境で EUR Print Service がサポートするエンコーディングのファイルを指定できます。EUR Print Service のロケールおよびエンコーディングのサポート範囲については，マニュアル「EUR サーバ帳票出力」を参照してください。

注※ 6

EUR Print Manager - Adapter と EUR Print Manager 間でファイル転送時に文字コードを変換する場合，Shift-JIS エンコーディングで表現できる範囲をサポート範囲とします。文字コードを変換する条件については，「15.1.4　ファイル転送時の文

字コード変換」を参照してください。

注※ 7

EUR Print Manager - Adapter の実行環境がエンコーディングを特定しない環境の場合，ファイル転送時に文字コードを変換しないため，ユーザーデータファイルには「UTF-16（BOM あり）」のファイルに加えて，接続先の EUR Print Manager の実行環境で EUR Print Service がサポートするエンコーディングのファイルを指定できます。文字コードを変換する条件については，「15.1.4　ファイル転送時の文字コード変換」を参照してください。また，EUR Print Service のロケールおよびエンコーディングのサポート範囲については，マニュアル「EUR サーバ帳票出力」を参照してください。

注※ 8

適用 OS ごとのエンディアンを次に示します。

適用 OS	エンディアン
Windows	リトルエンディアン
AIX	ビッグエンディアン
HP-UX	ビッグエンディアン
Linux	リトルエンディアン

15.1.4　ファイル転送時の文字コード変換

EUR Print Manager や EUR Print Manager - Adapter などの各コンポーネント間でファイル転送を行う場合の，ファイルの文字コードの変換規則について説明します。

（1）EUR Print Manager - Adapter と EUR Print Manager 間

EUR Print Manager - Adapter と EUR Print Manager 間でファイル転送を実施する場合の，ファイルの文字コードの変換規則を次の表に示します。

表 15-3　EUR Print Manager - Adapter が Windows 環境で動作する場合のファイルの文字コードの変換規則

EUR Print Manager - Adapter の動作環境（コードページ）	転送するファイルの文字コード	EUR Print Manager の動作環境					
		Windows（コードページ）		UNIX/Linux（エンコーディング）			
		932（日本語環境）	その他	Shift-JIS	EUC	UTF-8	特定しない
932（日本語環境）	Shift-JIS	―	○	―	○	○	○
	UTF-8（BOM あり）	―	―	○	○	―	○
	UTF-16（BOM あり）	―	―	―	―	―	―
その他	UTF-8（BOM あり）	―	―	○	○	―	○
	UTF-16（BOM あり）	―	―	―	―	―	―
	上記以外	―	―	―	―	―	―

（凡例）

○：文字コードを「UTF-16（BOM あり）」に変換します。

―：文字コードを変換しません。

表 15-4　EUR Print Manager - Adapter が UNIX/Linux 環境で動作する場合のファイルの文字コードの変換規則

EUR Print Manager - Adapter の動作環境（エンコーディング）	転送するファイルの文字コード	EUR Print Manager の動作環境					
		Windows（コードページ）		UNIX/Linux（エンコーディング）			
		932（日本語環境）	その他	Shift-JIS	EUC	UTF-8	特定しない
Shift-JIS	Shift-JIS	―	○	―	○	○	○
	UTF-16（BOM あり）	―	―	―	―	―	―

EUR Print Manager - Adapter の動作環境（エンコーディング）	転送するファイルの文字コード	EUR Print Manager の動作環境					
		Windows（コードページ）		UNIX/Linux（エンコーディング）			
		932（日本語環境）	その他	Shift-JIS	EUC	UTF-8	特定しない
EUC	EUC	○	○	○	－	○	○
	UTF-16（BOM あり）	－	－	－	－	－	－
UTF-8	UTF-8（BOM あり）	－	－	○	○	－	○
	UTF-8（BOM なし）	△	△	○	○	－	○
	UTF-16（BOM あり）	－	－	－	－	－	－
上記以外	UTF-16（BOM あり）	－	－	－	－	－	－
	上記以外	－	－	－	－	－	－

（凡例）

○：文字コードを「UTF-16（BOM あり）」に変換します。

△：BOM を付けて転送します。

－：文字コードを変換しません。

注意事項

EUR Print Manager の実行環境と EUR Print Manager - Adapter の実行環境とでエンコーディングが異なる場合で，マッピングデータファイルまたはユーザ定義データファイルの文字コードが「UTF-16」以外のときは，データファイルの区切り方法に「指定した区切り位置でデータを区切る」を指定して定義した帳票は使用しないでください。EUR Print Manager - Adapter から EUR Print Manager にファイルを転送するときに区切り位置の情報がずれてしまうため，帳票を正しく出力できなくなります。

EUR Print Manager の実行環境と EUR Print Manager - Adapter の実行環境とでエンコーディングが異なる場合は，次のどちらかの帳票を使用してください。

- データファイルの区切り方法に「コンマやスペース等区切り文字でデータを区切る」を指定して定義した帳票
- 文字コードが「UTF-16」のマッピングデータファイルまたはユーザ定義データファイルを使用して定義した帳票

(2) EUR Print Manager と EUR Print Manager - Report Server 間

EUR Print Manager と EUR Print Manager - Report Server 間でファイル転送を実施する場合の，ファイルの文字コードの変換規則を次の表に示します。

表 15-5　EUR Print Manager が Windows 環境で動作する場合のファイルの文字コードの変換規則

EUR Print Manager の動作環境（コードページ）	転送するファイルの文字コード	EUR Print Manager - Report Server の動作環境（コードページ）	
		932（日本語環境）	その他
932（日本語環境）	Shift-JIS	－	○
	UTF-8（BOM あり）	－	－
	UTF-16（BOM あり）	－	－
その他	UTF-8（BOM あり）	－	－
	UTF-16（BOM あり）	－	－
	上記以外	－	－

（凡例）
○：文字コードを「UTF-16（BOM あり）」に変換します。
－：文字コードを変換しません。

表 15-6　EUR Print Manager が UNIX/Linux 環境で動作する場合のファイルの文字コードの変換規則

EUR Print Manager の動作環境（エンコーディング）	転送するファイルの文字コード	EUR Print Manager - Report Server の動作環境（コードページ）	
		932（日本語環境）	その他
Shift-JIS	Shift-JIS	－	○
	UTF-16（BOM あり）	－	－
EUC	EUC	○	○
	UTF-16（BOM あり）	－	－
UTF-8	UTF-8（BOM あり）	－	－
	UTF-8（BOM なし）	△	△
	UTF-16（BOM あり）	－	－
上記以外	UTF-16（BOM あり）	－	－
	上記以外	－	－

（凡例）
○：文字コードを「UTF-16（BOM あり）」に変換します。

△：BOM を付けて転送します。
－：文字コードを変換しません。

15.2　印刷データファイル

印刷データファイルは，EUR Designer で設計した帳票ファイル（*.fms）を印刷用のファイル形式に変換したファイルです。

EUR Print Manager で使用できる印刷データファイルの種類と出力できるページ数について，次の表に示します。

表 15-7　印刷データファイルの種類と出力できるページ数の上限

項番	印刷データファイルの種類	拡張子	出力できるページ数の上限
1	EPF 形式ファイル	*.epf, *.epp	999,999 ページ
2	EUR 形式ファイル	*.eup	32,767 ページ
3		*.euv	65,534 ページ
4	PDF 形式ファイル	*.pdf	999,999 ページ
5	Excel 形式ファイル	*.xlsx	100 ページ

15.2.1　EPF 形式ファイル

EPF **形式ファイル**は，EUR Print Manager の独自形式の印刷データファイルです。データを圧縮しているので，サイズが小さく，ネットワークの負荷を軽減できます。

EPF 形式ファイルに出力するときは EUR Print Service を使用します。また，EPF 形式ファイルを表示，印刷する環境で，EUR Print Manager - Report Server または EUR Print Manager - Client が必要です。

EPF 形式ファイルを使った印刷方法を次に示します。

- 拠点サーバでの印刷
- クライアント PC での自動印刷
- クライアント PC での対話型印刷
- クライアント PC での対話型印刷プレビュー表示
- クライアント PC での全自動印刷
- クライアント PC への配布印刷
- Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷
- コマンドを使用したクライアント PC での印刷
- 蓄積したデータの印刷（拠点サーバ）
- 蓄積したデータの印刷（クライアント PC）
- 蓄積したデータの印刷（クライアント PC での配布印刷）

参考

EPF 形式ファイルの互換性
バージョン 05-05 以降で作成した EPF 形式ファイルはそのまま印刷できます。
ただし，画像アイテムやバーコードアイテムなどの画像データを圧縮する設定で出力した EPF 形式ファイルを，プレビュー表示したり印刷したりする場合は，EUR Print Manager - Report Server 08-10 以降または EUR Print Manager - Client 08-10 以降を使用してください。

15.2.2 EUR 形式ファイル

EUR 形式ファイルは，EUR の独自形式の印刷データファイルです。帳票定義ファイルとデータファイルを一つのパッケージにしたファイルで，PDF 形式ファイルや EPF 形式ファイルよりもサイズが小さく，ネットワーク負荷を軽減できます。

EUR 形式ファイルに出力するときは，EUR Print Service Enterprise を使用します。また，EUR 形式ファイルを表示，印刷する環境では，EUR Viewer，EUR Designer，または EUR Developer が必要です。

EUR 形式ファイルを使った印刷方法を次に示します。

- EUR Print Service と連携した拠点サーバでの印刷
- EUR Viewer を使用したクライアント PC での印刷

15.2.3 PDF 形式ファイル

PDF 形式ファイルに出力するときは，EUR Print Service Enterprise を使用します。また，PDF 形式ファイルを表示，印刷する環境では，Adobe Reader が必要です。

PDF 形式ファイルは，Adobe Reader を使用したクライアント PC での印刷で使用します。

15.2.4 Excel 形式ファイル

Excel 形式ファイルに出力するときは，EUR Print Service Enterprise を使用します。また，Excel 形式ファイルを表示，印刷する環境では，Excel が必要です。

Excel 形式ファイルは，Excel を使用したクライアント PC での印刷で使用します。

15.3　印刷定義ファイル

印刷定義ファイルとは，次に示すファイルの総称です。印刷定義ファイルは，EUR Print Manager が稼働するマシンに準備してください。各ファイルの詳細については，マニュアル「EUR 帳票設計」，および「EUR サーバ帳票出力」を参照してください。

- 帳票ファイル
  EUR Designer で定義したフォームシートファイル名（*.fms）です。
- 複数様式情報定義ファイル
  複数様式情報定義ファイルは，様式（帳票フォーマット）や読み込むデータを切り替える条件と，切り替え時の動作を定義しておくファイルです。
- 文書情報設定ファイル
  帳票をプリンタ出力，PDF 形式ファイル出力，および EUR 形式ファイル出力するとき，出力先に表示する帳票名を指定したり，PDF 文書情報を指定したりするファイルです。
- 接続情報ファイル
  接続情報ファイルは，データベースと接続するために必要な情報を定義するファイルです。
- 置き換え表管理情報ファイル
  置き換え表管理情報ファイルは，帳票を設計したときに設定された置き換え表名と，置き換え表ファイルの対応を定義したファイルです。
- Acrobat JavaScript 定義ファイル
  Acrobat JavaScript ファイル群を，イベント名と一緒に一覧として使用するための情報を格納したファイルです。Acrobat JavaScript ファイルは，出力される PDF 形式ファイルに埋め込まれる JavaScript プログラムを指定したファイルです。
- ビューアプレファレンス定義ファイル
  出力された PDF 形式ファイルを参照するとき，ツールバー，メニューバーなど Adobe Reader の GUI を制御したり，ビューアの初期状態を設定しておいたりするファイルです。

15.4 ユーザーデータファイル

ユーザーデータファイルとは，次に示すファイルの総称です。ユーザーデータファイルは，EUR Print Manager - Adapter が稼働するマシンに準備してください。なお帳票セット指定ファイルで指定する帳票ファイルについては，EUR Print Manager が稼働するマシンに準備してください。各ファイルの詳細については，マニュアル「EUR サーバ帳票出力」を参照してください。

- マッピングデータファイル，およびユーザ定義データファイル
  帳票に取り込むデータファイルです。
- 可変記号値定義ファイル
  データベースからデータを検索し，条件に合ったデータを抽出するときに必要な，検索条件の可変記号とその値（可変記号値）を定義するためのファイルです。
- しおり定義ファイル，および文書しおり定義ファイル
  PDF 形式ファイルのしおりには，「PDF 形式ファイルを示すしおり」と「サブ文書の情報を示すしおり」があります。「サブ文書の情報を示すしおり」の文字列，表示するページの倍率などを指定したファイルがしおり定義ファイルです。
  「PDF 形式ファイルを示すしおり」の文字列，表示するページの倍率などを指定したファイルが文書しおり定義ファイルです。
- 仕分け定義情報ファイル
  JP1 と連携して仕分け印刷するときの情報を設定したファイルです。
- 暗号化設定ファイル
  PDF 形式ファイルの改ざん，および給与明細など情報の漏えいを防ぐために，PDF 形式ファイルを暗号化するセキュリティ属性を設定したファイルです。
- 帳票セット指定ファイル
  複数の帳票ファイルを統合する順番と帳票に読み込むデータファイルを指定しておくファイルです。
- PDF 仕分け定義ファイル
  PDF 形式ファイルを仕分け出力する情報を設定したファイルです。

15.5　蓄積ファイル

蓄積印刷するときは，サーバの蓄積フォルダに印刷データを格納します。蓄積ファイルに印刷データを格納するには，サーバに EUR Print Manager - Report Server が必要です。EUR Print Manager - Report Server 05-06 以降で蓄積ファイルに格納できる印刷データファイルの種類は，EPF 形式ファイルだけです。

蓄積ファイルを操作するには，EUR Print Manager - Report Server Adapter が必要です。

蓄積ファイルは，EUR Print Manager - Report Server Adapter の RS-ActiveX 起動部品，RS-Java 起動部品，または RS- コマンド起動部品によって，次に示す操作ができます。また，蓄積管理 GUI を使用しても同様の操作ができます。

蓄積ファイルの操作メソッド，および動作に関するプロパティについては，「2.3　蓄積ファイルの操作」を参照してください。蓄積管理 GUI を使用した蓄積ファイルの操作については，「3.4　蓄積管理 GUI の操作」を参照してください。

● 蓄積フォルダにある蓄積ファイルの一覧取得

サーバの蓄積フォルダ内にある蓄積ファイルの一覧を取得できます。ファイル一覧は，蓄積ファイルごとに次の情報を取得します。

- 蓄積フォルダからの相対パス
- 格納ファイル名
- 格納ファイルのページ数
- 作成日時
- 印刷結果 ※
- プリンタクラス名

注※

メソッドを発行した時点で，最後に印刷を実行したときの結果です。蓄積拠点サーバ印刷の場合は「印刷データをスプールへ出力した結果」を指し，蓄積クライアント印刷の場合は「印刷データをクライアント PC へ配信した結果」を示します。

また，蓄積ファイルの一覧取得では，検索条件を指定してファイルだけを一覧で取得することもできます。指定できる検索条件を次に示します。指定されたすべての条件を満たす（AND）ファイルの一覧を取得します。

- ジョブ ID 検索値
- 格納ファイル名
- プリンタクラス名
- 作成日時（開始・終了の範囲指定）
- ジョブ検索キー ※

注※

ジョブ検索キーは，蓄積ファイルに対してユーザーが任意で設定できる検索項目

です。蓄積するときに，検索キーの分類と値をペアにして，5 個まで指定できます。設定されたジョブ検索キーを蓄積ファイルの一覧取得時に指定することで，対象の蓄積ファイルを検索します。検索時は，分類と値が共に一致する蓄積ファイルを検索します。

注意事項

蓄積ファイルの一覧を取得するときは，取得する情報数によって処理時間が異なります。一度に取得する件数は，10,000 件までを推奨します。

● 蓄積ファイルの属性値取得

指定されたジョブ ID に該当する蓄積ファイルの属性値を取得できます。取得できる属性値を次に示します。

- 蓄積ファイルが格納されているフォルダからの相対パス
- 蓄積ファイルに格納された印刷データの名称
- 蓄積ファイルに格納された印刷データのサイズ ※ 1
- 蓄積ファイルに格納された印刷データのページ数
- 作成日時
- 蓄積期限日
- 取得可否情報
- 印刷日時 ※ 2
- 蓄積を指示したマシンの IP アドレス
- 蓄積ファイルのフォーマットのバージョン情報
- 印刷実行回数
- 印刷上限回数
- 実行できる印刷方式
- 拠点サーバでの印刷時のプリンタ指定方法
- 拠点サーバ，またはクライアント PC での印刷時のプリンタクラス名
- 拠点サーバでの印刷時の OS 上のプリンタ名
- 拠点サーバでの印刷時の OS 上のトレイ名
- 拠点サーバでの印刷時の帳票振り分け定義名
- クライアント PC での印刷時のダイアログ表示モード
- クライアント PC での印刷時のクライアント PC の IP アドレス
- クライアント PC での印刷時の OS 上のプリンタ名
- クライアント PC での印刷時の OS 上のトレイ名
- ジョブ検索キーの分類
- ジョブ検索キーの値
- 最後に実行した蓄積印刷の結果
- 履歴情報 ※ 3

注※ 1

蓄積ファイルに格納された印刷データ（EPF 形式ファイル）を取得した場合，蓄

積実行時および操作時の情報の一部を EPF 形式ファイルに反映するため，属性値として取得したサイズと実際のファイルサイズとは異なります。

注※ 2

印刷結果に関係なく最後に印刷を実行した日時を指します。

注※ 3

蓄積ファイルに対して操作したときの履歴情報です。「蓄積ファイルの印刷」,「蓄積ファイルの取得」，および「蓄積ファイルの属性値の変更」を行ったとき，属性値に追加されます。取得される履歴情報を次に示します。

・操作種別（拠点サーバ印刷／クライアント印刷／ ActiveX クライアント印刷／取得／変更）

・操作日時

・操作を指示したマシン（EUR Print Manager - Report Server Adapter が動作するマシン）の IP アドレス

・「属性値の変更」操作時の操作対象の属性名

・「属性値の変更」操作時の変更前の属性値

・「属性値の変更」操作時の変更後の属性値

・印刷実行結果

なお，操作種別の「ActiveX クライアント印刷」は，属性値の変更で印刷結果を「1：印刷済み」または「2：印刷エラー」に変更した場合に設定されます。印刷結果を「0：未印刷」に変更した場合は，操作種別は「変更」となります。

● 蓄積ファイルの属性値変更

指定されたジョブ ID に該当する蓄積ファイルの属性値を変更できます。変更できる属性値を次に示します。

- 蓄積期限日
- 取得可否情報
- 印刷上限回数
- 実行できる印刷方式
- 拠点サーバでの印刷時のプリンタ指定方法
- 拠点サーバ，またはクライアント PC での印刷時のプリンタクラス名
- 拠点サーバでの印刷時の OS 上のプリンタ名
- 拠点サーバでの印刷時の OS 上のトレイ名
- 拠点サーバでの印刷時の帳票振り分け定義名
- クライアント PC での印刷時のクライアント PC の IP アドレス
- クライアント PC での印刷時のダイアログ表示モード
- クライアント PC での印刷時の OS 上のプリンタ名
- クライアント PC での印刷時の OS 上のトレイ名
- ジョブ検索キーの分類
- ジョブ検索キーの値

● 蓄積ファイルの取得

指定されたジョブ ID に該当する蓄積ファイルを，蓄積時に指定したファイル名で任

意のフォルダに取得できます。蓄積するときに蓄積ファイルの取得可否の属性を指定することで，蓄積ファイルの取得を許可するかどうかを制御できます。

● 蓄積ファイルの削除
指定されたジョブ ID に該当する蓄積ファイルを削除できます。

● 蓄積期限切れ蓄積ファイルの一括削除
拠点サーバの蓄積フォルダ内にある蓄積期限切れ蓄積ファイルを検索して，一括削除できます。
蓄積期限切れ蓄積ファイルは，環境設定ファイル（EURPMLSADP.ini）で OPTION セクションの ESFAUTODEL キーを設定することで，次に示すタイミングで自動的に削除することもできます。
- EUR Print Manager - Report Server が起動されたとき
- EUR Print Manager - Report Server が稼働するマシンの日付が変わったあと，EUR Print Manager - Report Server に対して最初の要求があったとき

15.6　構成定義ファイル

構成定義ファイルとは，次に示すファイルの総称です。

- 出力先定義ファイル
- 印刷管理サーバプリンタクラス定義ファイル
- 印刷先定義ファイル
- 拠点プリンタクラス定義ファイル
- 帳票振り分け定義ファイル
- 蓄積管理ユーザ定義ファイル
- クライアントプリンタクラス定義ファイル

構成定義ファイルを更新した場合は，EUR Print Manager を再起動してください。

15.6.1　出力先定義ファイル

出力先定義ファイル（Destination.conf）は，拠点サーバの出力先名と，IP アドレスの対応を定義するためのファイルです。帳票を出力する拠点サーバを，出力先名で指定するときに使用します。

（1）Windows 環境の場合

出力先定義ファイルは，EUR Print Manager の［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログで設定します。出力先の設定については，「4.1　拠点サーバの設定」を参照してください。

出力先定義ファイルの格納先は，次のどちらかです。

- EUR Print Manager のインストール先フォルダ下の Conf フォルダ（デフォルト）
- 環境設定ファイル（EURPM.ini）の［PATH］セクションの［CONF］キーで指定したフォルダ下

（2）UNIX/Linux 環境の場合

出力先定義ファイルは次の手順で設定します。

1. /opt/eurpm/sample **下にある出力先定義ファイル**（Destination.conf）**のサンプルを任意の場所に保存する。**
2. **出力先定義ファイルを編集する。**
   出力先定義ファイルは，マシンのロケールに応じたエンコードで編集してください。
3. **必要な内容を設定した出力先定義ファイルを，同じファイル名**（Destination.conf）**で次の場所に格納する。**
   次のどちらかに格納してください。
   - /etc/opt/eurpm/Conf ディレクトリ（デフォルト）
   - 環境設定ファイル（EURPM.ini）の［PATH］セクションの［CONF］キーで指定

したディレクトリ下

出力先定義ファイルの格納先には，EUR Print Manager を利用するユーザーが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

(a) 出力先定義ファイルの形式

出力先名,**IP アドレス**,**説明**

出力先名

出力先名を入力します。出力先名を指定しない場合は，デフォルトの出力先として登録されます。

IP アドレス

出力先名と対応する拠点サーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で入力します。

説明

出力先の説明を入力します。

(b) 出力先定義ファイルのサンプルの内容

```
TOKYO,192.168.0.1,TOKYO_Server
OSAKA,192.168.0.2,OSAKA_Server
NAGOYA,192.168.0.3,NAGOYA_Server
SENDAI,192.168.0.4,SENDAI_Server
FUKUOKA,192.168.0.5,FUKUOKA_Server
,192.168.0.6,DEFAULT_Server
```

15.6.2 印刷管理サーバプリンタクラス定義ファイル

印刷管理サーバプリンタクラス定義ファイル（PMPrinterClass.conf）は，印刷管理サーバによる直接印刷方式では，プリンタクラスを定義するためのファイルです。印刷管理サーバの帳票の出力先を，プリンタクラス名で指定するときに使用します。

(1) Windows 環境の場合

印刷管理サーバプリンタクラス定義ファイルは，EUR Print Manager の［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログで設定します。プリンタクラスの設定については，「4.2 印刷管理サーバのプリンタクラスの設定」を参照してください。

印刷管理サーバプリンタクラス定義ファイルの格納先は，次のどちらかです。

- EUR Print Manager のインストール先フォルダ下の Conf フォルダ（デフォルト）
- 環境設定ファイル（EURPM.ini）の［PATH］セクションの［CONF］キーで指定したフォルダ下

(2) UNIX/Linux 環境の場合

印刷管理サーバプリンタクラス定義ファイルは次の手順で設定します。

1. /opt/eurpm/sample **下にある印刷管理サーバプリンタクラス定義ファイル（PMPrinterClass.conf）のサンプルを任意の場所に保存する。**
2. **印刷管理サーバプリンタクラス定義ファイルを編集する。**
   印刷管理サーバプリンタクラス定義ファイルは，マシンのロケールに応じたエンコードで編集してください。
3. **必要な内容を設定した印刷管理サーバプリンタクラス定義ファイルを，同じファイル名（PMPrinterClass.conf）で次の場所に格納する。**
   次のどちらかに格納してください。
   - /etc/opt/eurpm/Conf ディレクトリ（デフォルト）
   - 環境設定ファイル（EURPM.ini）の［PATH］セクションの［CONF］キーで指定したディレクトリ下

   印刷管理サーバプリンタクラス定義ファイルの格納先には，EUR Print Manager を利用するユーザーが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

(a) 印刷管理サーバプリンタクラス定義ファイルの形式

プリンタクラス名,プリンタ名,トレイ名,説明

プリンタクラス名
プリンタクラス名を入力します。プリンタクラス名を指定しない場合は，デフォルトのプリンタクラス名として登録されます。

プリンタ名
プリンタクラス名と対応する印刷管理サーバのプリンタ名を入力します。

トレイ名
プリンタクラス名と対応する印刷管理サーバのプリンタのトレイ名を入力します。

説明
プリンタクラスの説明を入力します。

(b) 印刷管理サーバプリンタクラス定義ファイルのサンプルの内容

```
standard,OSPrinter1,,standardFMS
color,OSPrinter2,,colorFMS
A3,OSPrinter3,2,A3FMS
Red,OSPrinter1,1,RedPaper
Blue,OSPrinter1,3,BluePaper
manual,OSPrinter1,manual,
AUTO,OSPrinter1,auto,
```

15.6.3 印刷先定義ファイル

印刷先定義ファイル（PrintDest.conf）は，帳票の蓄積先や蓄積ファイルの格納ファイル名などの蓄積時に指定する情報を，印刷先として定義するためのファイルです。印刷データを分割または仕分けして蓄積する場合に使用します。印刷先を定義しておくことで，蓄積先や格納ファイル名などの情報を印刷データごとに個別に指定できます。

(1) 印刷先定義ファイルの設定方法

印刷先定義ファイルは次の手順で設定します。

1. **印刷先定義ファイル（PrintDest.conf）のサンプルを任意の場所に保存する。**
2. **印刷先定義ファイルを編集する。**
   印刷先定義ファイルは，マシンのロケールに応じたエンコードで編集してください。
3. **必要な内容を設定した印刷先定義ファイルを，同じファイル名（PrintDest.conf）で次の場所に格納する。**

   Windows 環境の場合

   次のどちらかに格納してください。
   ・EUR Print Manager のインストール先フォルダ下の Conf フォルダ（デフォルト）
   ・環境設定ファイル（EURPM.ini）の［PATH］セクションの［CONF］キーで指定したフォルダ下

   UNIX/Linux 環境の場合

   次のどちらかに格納してください。
   ・/etc/opt/eurpm/Conf ディレクトリ（デフォルト）
   ・環境設定ファイル（EURPM.ini）の［PATH］セクションの［CONF］キーで指定したディレクトリ下

   印刷先定義ファイルの格納先には，EUR Print Manager を利用するユーザーが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

(2) 印刷先定義ファイルの設定項目

印刷先定義ファイルの設定項目を次の表に示します。

表 15-8 印刷先定義ファイルの設定項目

セクション	キー	指定できる値	指定	属性情報	説明
Common	PrintDestNumber	1～1,024	必須	－	印刷先定義数を指定します。
Dest*n* ※1	PrintDestName	文字列（255 バイト）※2	必須	－	印刷先名を指定します。

セクション	キー	指定できる値	指定	属性情報	説明
	ServerSelectMode	• 0 • 1	任意	－	拠点サーバの指定方法を指定します。 • 0 出力先名を指定します。 • 1 IP アドレスを指定します。
	DestinationName	文字列（80 バイト）※2	任意	－	出力先名を指定します。
	ServerAddress	255.255.255.255 形式	任意	－	拠点サーバの IP アドレスを指定します。
	PrintHoldMode	• 0 • 1 • 2	任意	○	蓄積後に続けて印刷するかどうかを指定します。 • 0 印刷しません。 • 1 拠点サーバで印刷します。 • 2 クライアント PC で印刷します。
	PrinterClassName	文字列（80 バイト）※2	任意	○	プリンタクラス名を指定します。
	PrinterSelectMode	• 0 • 1 • 2	任意	○	プリンタの指定方法を指定します。 • 0 プリンタクラス名で指定します。 • 1 プリンタ名で指定します。 • 2 帳票振り分け定義で指定します。
	ServerPrinterName	文字列（80 バイト）※2	任意	○	帳票を印刷するサーバのプリンタ名を指定します。
	ServerTrayName	文字列（80 バイト）※2	任意	○	帳票を印刷するサーバのトレイ名を指定します。
	GroupName	文字列（80 バイト）※2	任意	○	帳票振り分け定義の振り分けグループ名を指定します。

セクション	キー	指定できる値	指定	属性情報	説明
	ClientAddress	255.255.255.255 形式	任意	○	帳票を印刷するクライアント PC の IP アドレスを指定します。
	ClientPrinterName	文字列（80 バイト）※2	任意	○	帳票を印刷するクライアント PC のプリンタ名を指定します。
	ClientTrayName	文字列（80 バイト）※2	任意	○	帳票を印刷するクライアント PC のトレイ名を指定します。
	DispPrintDlg	• 0 • 1 • 2 • 3 • 4	任意	○	クライアント PC で帳票を印刷するときのダイアログ表示モードを指定します。 • 0 印刷先指定ダイアログを表示します（対話型印刷）。 • 1 印刷中にダイアログを表示します（自動印刷）。 • 2 プレビューウィンドウを表示します（対話型プレビュー表示）。 • 3 ダイアログを表示しないで印刷します（全自動印刷）。 • 4 プレビューウィンドウを表示します。印刷は実行できません（対話型プレビュー表示限定）。
	SpoolFileName	文字列（255 バイト）※3	任意	○	蓄積ファイルの格納ファイル名を指定します。
	JobKeyCategory*n*※4	文字列（80 バイト）※5	任意	○	蓄積ファイルのジョブ検索キーの分類を指定します。 指定した場合，起動部品で指定したジョブ検索キーの分類はすべて無効になります。

セクション	キー	指定できる値	指定	属性情報	説明
	JobKeyData*n* ※4	文字列（80 バイト）※5	任意	○	蓄積ファイルのジョブ検索キーの値を指定します。指定した場合，起動部品で指定したジョブ検索キーの値はすべて無効になります。
	ExecutablePrintMode	• 0 • 1 • 2	任意	○	実行可能印刷方式を指定します。 • 0 拠点サーバで印刷します。 • 1 拠点サーバ，またはクライアント PC で印刷します。 • 2 クライアント PC で印刷します。
	MaxPrintCount	-1 ～ 65,536	任意	○	蓄積ファイルの印刷上限回数を指定します。 • -1 無限に印刷できます。 • 0 印刷を禁止します。 • 1 ～ 65,536 指定した回数印刷できます。
	EnableGet	• 0 • 1	任意	○	蓄積ファイルの取得可否を指定します。 • 0 取得できません。 • 1 取得できます。

（凡例）

○：属性情報として設定されます。

－：属性情報として設定されません。

注※ 1

n の範囲は，「1 ～印刷先定義数（Common セクションの PrintDestNumber キーの値）」です。

注※ 2

「"」，および「,」は指定できません。

注※ 3

ファイル名に指定できない文字，「"」，および「,」は指定できません。

また，「%N」を指定すると，00000001 から始まる 8 けたの通し番号を設定できます。

（指定例）UserA_%N.epf

注※ 4

n の範囲は，「1 ～ 10」です。連続した番号で指定してください。*n* が指定されていない場合は，*n* 以降の指定内容は無視されます。
例えば，次のように指定した場合は「JobKeyCategory1」および「JobKeyData1」だけが有効になります。

```
JobKeyCategory1="Country"
JobKeyData1="Japan"
JobKeyCategory2=""
JobKeyData2="Tokyo"
JobKeyCategory3="Branch"
JobKeyData13="Kanazawa"
```

注※5
「,」は指定できません。

(3) 印刷先定義ファイルの注意事項

- 印刷先定義ファイルは，「キー＝値」の形式で記述してください。
- キーは大文字と小文字を区別しません。
- 値の指定がない場合，そのキーの指定は無視されます。
- 同じ印刷先名を複数の印刷先に指定した場合は，先に定義した印刷先（Dest*n* セクションの *n* が小さい方の印刷先）の設定内容が有効となります。

(4) 印刷先定義ファイルのサンプルの内容

このサンプルでは，次の運用を想定しています。

印刷先名	内容
TOKYO_RS_PRINT	蓄積後，拠点サーバ「TOKYO」のプリンタクラス「Printer2」で帳票を印刷します。
OSAKA_RS_PRINT	蓄積後，拠点サーバ「OSAKA」のプリンタクラス「Printer1」で帳票を印刷します。
OSAKA_CL_PRINT	蓄積後，拠点サーバ「OSAKA」からクライアント PC（IP アドレス：111.111.111.111）に帳票を転送して直接印刷します。プリンタは蓄積時の起動部品の指定に従います。起動部品の指定がない場合は，デフォルトのプリンタで印刷します。
OSAKA_CL_DIALOLOG	蓄積後，拠点サーバ「OSAKA」からクライアント PC（IP アドレス：111.111.111.111）に帳票を転送して対話型印刷します。
TOKYO_RS_SPOOL_UserA	拠点サーバ「TOKYO」に帳票を蓄積します。蓄積ファイルには次の属性情報を設定※します。 ジョブ検索キーの分類：User ジョブ検索キーの値：UserA また，蓄積ファイルの格納ファイル名には通し番号を設定します。
TOKYO_RS_SPOOL_UserB	拠点サーバ「TOKYO」に帳票を蓄積します。蓄積ファイルには次の属性情報を設定※します。 ジョブ検索キーの分類：User ジョブ検索キーの値：UserB また，蓄積ファイルの格納ファイル名には通し番号を設定します。

注

出力先名「TOKYO」および「OSAKA」は，EUR Print Manager の［EUR Print Manager 構成定義］ダイアログまたは出力先定義ファイルで定義してください。
また，プリンタクラス名はそれぞれの拠点サーバで定義してください。EUR Print Manager - Report Server の［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログまたは拠点プリンタクラス定義ファイルで定義できます。

注※

設定した属性情報（ジョブ検索キーの分類と値）を，蓄積管理ユーザ名，および確認キーとして利用することで，蓄積ファイルにアクセスできるユーザーを制御することもできます。詳細については，「5. 蓄積ファイルのセキュリティ管理」を参照してください。

サンプルの内容を次に示します。

```
//Set Print Destination Number
[Common]
PrintDestNumber=6

//TOKYO Server Spool & Server Print
[Dest1]
PrintDestName="TOKYO_RS_PRINT"
ServerSelectMode=0
PrinterSelectMode=0
DestinationName="TOKYO"
PrintHoldMode=1
PrinterClassName="Printer2"

//OSAKA Server Spool & Server Print
[Dest2]
PrintDestName="OSAKA_RS_PRINT"
ServerSelectMode=0
PrinterSelectMode=0
DestinationName="OSAKA"
PrintHoldMode=1
PrinterClassName ="Printer1"

//OSAKA Server Spool & Client Auto Print
[Dest3]
PrintDestName="OSAKA_CL_PRINT"
ServerSelectMode=0
DestinationName="OSAKA"
PrintHoldMode=2
ClientAddress="111.111.111.111"
DispPrintDlg=1

//OSAKA Server Spool & Client Dialog Print
[Dest4]
PrintDestName="OSAKA_CL_DIALOG"
ServerSelectMode=0
DestinationName="OSAKA"
PrintHoldMode=2
ClientAddress="111.111.111.222"
DispPrintDlg=0

//TOKYO Server Spool Only for UserA
```

```
[Dest5]
PrintDestName="TOKYO_RS_SPOOL_UserA"
ServerSelectMode=0
DestinationName="TOKYO"
PrintHoldMode=0
JobKeyCategory1="User"
JobKeyData1="UserA"
SpoolFileName="%N.epf"

//TOKYO Server Spool Only for UserB
[Dest6]
PrintDestName="TOKYO_RS_SPOOL_UserB"
ServerSelectMode=0
DestinationName="TOKYO"
PrintHoldMode=0
JobKeyCategory1="User"
JobKeyData1="UserB"
SpoolFileName="%N.epf"
```

15.6.4　拠点プリンタクラス定義ファイル

拠点プリンタクラス定義ファイル（ServerPrinterClass.conf）は，拠点サーバのプリンタとトレイの組み合わせを定義するためのファイルです。複数のプリンタやトレイを効率良く管理したいときに使用します。

拠点プリンタクラス定義ファイルは，EUR Print Manager - Report Server の［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログの［プリンタクラス］タブで設定します。拠点プリンタクラスの設定については，「4.3　拠点プリンタクラスの設定」を参照してください。

拠点プリンタクラス定義ファイルの格納先は，次のどちらかです。

- EUR Print Manager - Report Server のインストール先フォルダ下の Conf フォルダ（デフォルト）
- 環境設定ファイル（EURPMLS.ini）の［PATH］セクションの［CONF］キーで指定したフォルダ下

15.6.5　帳票振り分け定義ファイル

帳票振り分け定義ファイル（Distribution.conf）は，帳票名ごとにプリンタを定義したファイルです。帳票振り分け定義を指定すると，帳票名ごとに自動的にプリンタを指定でき，同じ名前の帳票を別のプリンタで印刷できます。

帳票振り分け定義ファイルは，EUR Print Manager - Report Server の［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログの［帳票振り分け］タブで設定します。帳票振り分け定義の設定については，「4.4　帳票振り分け定義の設定」を参照してください。

帳票振り分け定義ファイルの格納先は，次のどちらかです。

- EUR Print Manager - Report Server のインストール先フォルダ下の Conf フォルダ（デフォルト）
- 環境設定ファイル（EURPMLS.ini）の［PATH］セクションの［CONF］キーで指定したフォルダ下

15.6.6　蓄積管理ユーザ定義ファイル

蓄積管理ユーザ定義ファイル（userdef.conf）は，蓄積管理ユーザの認証情報，および蓄積ファイルへのアクセス制限情報が定義されたファイルです。蓄積ファイルにアクセスする蓄積管理ユーザを管理できます。

蓄積管理ユーザについては，「5.　蓄積ファイルのセキュリティ管理」を参照してください。

（1）Windows 環境の場合

蓄積管理ユーザ定義ファイルは，［EUR Print Manager - Report Server 構成定義］ダイアログの［蓄積管理ユーザ定義］タブで定義します。蓄積管理ユーザの設定については，「5.2　蓄積管理ユーザを定義する（Windows 環境の場合）」を参照してください。

蓄積管理ユーザ定義ファイルの格納先は，次のどちらかです。

- EUR Print Manager - Report Server のインストール先フォルダ下の Conf フォルダ（デフォルト）
- 環境設定ファイル（EURPMLS.ini）の［PATH］セクションの［CONF］キーで指定したフォルダ下

（2）UNIX/Linux 環境の場合

蓄積管理ユーザ定義ファイルは，/etc/opt/eurpmls/sample 下にあるサンプルファイルを基に設定します。蓄積管理ユーザの設定については，「5.3　蓄積管理ユーザを定義する（UNIX/Linux 環境の場合）」を参照してください。

(a) 蓄積管理ユーザ定義ファイルの設定項目

蓄積管理ユーザ定義ファイルの設定項目を次の表に示します。

蓄積管理ユーザ定義ファイルは，「キー＝値」の形式で記述してください。また，キーは大文字と小文字を区別しません。蓄積管理ユーザの設定については，「5.3　蓄積管理ユーザを定義する（UNIX/Linux 環境の場合）」を参照してください。また，蓄積管理ユーザを設定する場合の注意事項については，「5.1　セキュリティ管理の概要」を参照してください。

表 15-9 蓄積管理ユーザ定義ファイルの設定項目

セクション	キー	指定できる値	省略値	説明
Common	GroupCategoryConfNum	0 ～ 1,024	0	蓄積管理ユーザ数を指定します。なお，デフォルト蓄積管理ユーザは数に含めません。
	GroupCategory	文字列	―	蓄積管理ユーザ名に使用するジョブ検索キーの分類名を指定します。
GroupCategoryConf*n* ※1	GroupKey	文字列	―	蓄積管理ユーザ名を指定します。
	CheckString	文字列	―	蓄積管理ユーザの確認キーを指定します。
	GroupFilter	• NONE • ALL • CATEGORY	NONE	蓄積ファイルのアクセス制限方式を指定します。指定できる値とその意味は次のとおりです。 • NONE すべての蓄積ファイルを表示します。 • ALL すべての蓄積ファイルを表示しません。 • CATEGORY GroupFilterName キーで指定したジョブ検索キーの分類名を持つ蓄積ファイルを表示します。
	GroupFilterName	文字列	―	アクセス許可に使用するジョブ検索キーの分類名を指定します。GroupFilter キーに CATEGORY を指定した場合に指定します。
	GroupFilterKeyNum	0 ～ 1,024	0	アクセスを許可するジョブ検索キーの数を指定します。
	GroupFilterKey*n* ※2	文字列	―	アクセスを許可するジョブ検索キーを指定します。
	GroupFilterKeyNull	• ENABLE • DISENABLE	ENABLE	GroupFilterKey キーを指定していない蓄積ファイルにアクセスするかどうかを指定します。指定できる値とその意味は次のとおりです。 • ENABLE アクセスします。 • DISENABLE アクセスしません。

セクション	キー	指定できる値	省略値	説明
	GroupFilterKeyOwner	• ENABLE • DISENABLE	DISENABLE	GroupKey キーで指定した蓄積管理ユーザ名が GroupCategory キーに指定したジョブ検索キーの分類名と一致する場合，蓄積ファイルにアクセスするかどうかを指定します。指定できる値とその意味は次のとおりです。 • ENABLE アクセスします。 • DISENABLE アクセスしません。
Default	GroupFilter	• NONE • ALL • CATEGORY	NONE	蓄積ファイルのアクセス制限方式を指定します。指定できる値とその意味は次のとおりです。 • NONE すべての蓄積ファイルを表示します。 • ALL すべての蓄積ファイルを表示しません。 • CATEGORY GroupFilterName キーで指定したジョブ検索キーの分類名を持つ蓄積ファイルを表示します。
	GroupFilterName	文字列	－	アクセス許可に使用するジョブ検索キーの分類名を指定します。GroupFilter キーに CATEGORY を指定した場合に指定します。
	GroupFilterKeyNum	0 ～ 1,024	0	アクセスを許可するジョブ検索キーの数を指定します。
	GroupFilterKey*n*※2	文字列	－	アクセスを許可するジョブ検索キーを指定します。
	GroupFilterKeyNull	• ENABLE • DISENABLE	DISENABLE	GroupFilterName キーのジョブ検索キーを持たない蓄積ファイルにアクセスするかどうかを指定します。指定できる値とその意味は次のとおりです。 • ENABLE アクセスします。 • DISENABLE アクセスしません。
	GroupFilterKeyOwner	• ENABLE • DISENABLE	ENABLE	GroupCategory キーのジョブ検索キーを持たない蓄積ファイルにアクセスするかどうかを指定します。指定できる値とその意味は次のとおりです。 • ENABLE アクセスします。 • DISENABLE アクセスしません。

（凡例）

－：省略値はありません。

注※1

n の範囲は，「1 ～蓄積管理ユーザ数（Common セクションの GroupCategoryConfNum キーの値）」です。

注※2

n の範囲は，「1 ～アクセス許可するジョブ検索キーの数（GroupCategoryConf セクションの GroupFilterKeyNum キーの値）」です。

(b) 蓄積管理ユーザ定義ファイルのサンプルの内容

このサンプルでは，次の 5 種類の帳票を管理する場合を想定しています。

帳票	説明
部署 A の管理資料	部署 A のリーダがアクセスできる帳票です。
部署 A の公開資料	部署 A に所属するユーザがアクセスできる帳票です。また，部署 B のリーダもアクセスできます。
部署 B の管理資料	部署 B のリーダがアクセスできる帳票です。
部署 B の公開資料	部署 B に所属するユーザがアクセスできる帳票です。また，部署 A のリーダもアクセスできます。
公開先の情報を持たない資料	公開先を設定していない帳票です。

サンプルの内容を次に示します。

```
[Common]
GroupCategoryConfNum=5
GroupCategory="ユーザ"

[GroupCategoryConf1]
GroupKey="システム管理者"
CheckString="pwadmin"
GroupFilter=NONE

[GroupCategoryConf2]
GroupKey="部署Ａ＿リーダ"
CheckString="pwleader"
GroupFilter=CATEGORY
GroupFilterName="公開先"
GroupFilterKeyNum=3
GroupFilterKey1="部署Ａ＿管理"
GroupFilterKey2="部署Ａ＿公開"
GroupFilterKey3="部署Ｂ＿公開"
GroupFilterKeyNull=ENABLE
GroupFilterKeyOwner=ENABLE

[GroupCategoryConf3]
GroupKey="部署Ａ＿一般"
CheckString="pwsub"
GroupFilter=CATEGORY
GroupFilterName="公開先"
GroupFilterKeyNum=1
GroupFilterKey1="部署Ａ＿公開"
```

```
GroupFilterKeyNull=DISENABLE
GroupFilterKeyOwner=ENABLE

[GroupCategoryConf4]
GroupKey="部署Ｂ__リーダ"
CheckString="pwleader"
GroupFilter=CATEGORY
GroupFilterName="公開先"
GroupFilterKeyNum=3
GroupFilterKey1="部署Ｂ__管理"
GroupFilterKey2="部署Ｂ__公開"
GroupFilterKey3="部署Ａ__公開"
GroupFilterKeyNull=ENABLE
GroupFilterKeyOwner=ENABLE

[GroupCategoryConf5]
GroupKey="部署Ｂ__一般"
CheckString="pwsub"
GroupFilter=CATEGORY
GroupFilterName="公開先"
GroupFilterKeyNum=1
GroupFilterKey1="部署Ｂ__公開"
GroupFilterKeyNull=DISENABLE
GroupFilterKeyOwner=DISENABLE

[Default]
GroupFilter=ALL
GroupFilterKeyOwner=DISENABLE
```

この内容で蓄積管理ユーザ定義として定義する場合，各ユーザの帳票へのアクセス可否は次のようになります。

帳票	属性		ユーザ					
	ユーザ	公開先	システム管理者	部署 A __リーダ	部署 A __一般	部署 B __リーダ	部署 B __リーダ	デフォルト蓄積管理ユーザ
01	部署 A __リーダ	部署 A __管理	○	○	×	×	×	×
02	部署 A __リーダ	部署 A __公開	○	○	○	○	×	×
03	部署 A __一般	部署 A __管理	○	○	○	×	×	×
04	部署 A __一般	部署 A __公開	○	○	○	○	×	×
05	部署 B __リーダ	部署 B __管理	○	×	×	○	×	×
06	部署 B __リーダ	部署 B __公開	○	○	×	○	○	×

帳票	属性		ユーザ					
	ユーザ	公開先	システム管理者	部署 A __リーダ	部署 A __一般	部署 B __リーダ	部署 B __リーダ	デフォルト蓄積管理ユーザ
07	部署 B __一般	部署 B __管理	○	×	×	○	×	×
08	部署 B __一般	部署 B __公開	○	○	×	○	○	×
09	－	－	○	○	×	○	×	×
10	部署 A __リーダ	部署 B __管理	○	○	×	○	×	×
11	部署 A __リーダ	部署 B __公開	○	○	×	○	○	×
12	部署 A __一般	部署 B __管理	○	×	○	○	×	×
13	部署 A __一般	部署 B __公開	○	○	○	○	○	×
14	部署 B __リーダ	部署 A __管理	○	○	×	○	×	×
15	部署 B __リーダ	部署 A __公開	○	○	○	○	×	×
16	部署 B __一般	部署 A __管理	○	○	×	×	×	×
17	部署 B __一般	部署 A __公開	○	○	○	○	×	×

（凡例）

－：属性情報がありません。

○：アクセスできます。

×：アクセスできません。

(c) 蓄積管理ユーザ定義ファイルの格納先

蓄積管理ユーザ定義ファイルの格納先は，次のどちらかです。

- /etc/opt/eurpmls/Conf ディレクトリ（デフォルト）
- 環境設定ファイル（EURPMLS.ini）の［PATH］セクションの［CONF］キーで指定したフォルダ下

15.6.7 クライアントプリンタクラス定義ファイル

クライアントプリンタクラス定義ファイル（ClientPrinterClass.conf）は，クライアント PC のプリンタとトレイの組み合わせを定義するためのファイルです。複数のプリンタやトレイを効率良く管理したいときに使用します。

クライアントプリンタクラス定義ファイルは，EUR Print Manager - Client の［EUR Print Manager - Client 構成定義］ダイアログで設定します。クライアントプリンタクラスの設定については，「4.5　クライアントプリンタクラスの設定」を参照してください。

クライアントプリンタクラス定義ファイルの格納先は，次のどちらかです。

- EUR Print Manager - Client のインストール先フォルダ下の Conf フォルダ（デフォルト）
- 環境設定ファイル（EURPMCL.ini）の［PATH］セクションの［CONF］キーで指定したフォルダ下

15.7　ActiveX クライアント情報ファイル

ActiveX **クライアント情報ファイル**は，ActiveX 情報を管理するファイルです。

EUR Print Manager - Adapter または EUR Print Manager - Client が，EUR Print Manager - Client ActiveX のクラス ID およびバージョン情報を取得するときに参照します。

15.7.1　ActiveX クライアント情報ファイルの配置

EUR Print Manager - Client で使用する ActiveX クライアント情報ファイルは，EUR Print Manager - Client のサーバ配置インストールでインストールされます。

EUR Print Manager - Adapter で使用する ActiveX クライアント情報ファイルは，EUR Print Manager - Adapter のインストーラではインストールされません。

EUR Print Manager - Adapter で ActiveX クライアント情報ファイルを参照する機能を実行する場合は，EUR Print Manager - Adapter が稼働するマシンに，次に示す手順でファイルを配置してください。

1. **サーバ配置のインストーラでインストールする。**
   Windows 環境で EUR Print Manager - Client のサーバ配置インストールを実行してください。次の ActiveX クライアント情報ファイルが格納されます。

   EUR Print Manager - Client Print ActiveX の ActiveX クライアント情報ファイル
   - ファイル名：EURPMPrintAX.inf
   - 格納先　　：EUR Print Manager - Client Print ActiveX のインストール先フォルダ ¥Components

   EUR Print Manager - Client Preview ActiveX の ActiveX クライアント情報ファイル
   - ファイル名：EURPMPreViewAX.inf
   - 格納先　　：EUR Print Manager - Client Preview ActiveX のインストール先フォルダ ¥Components

2. **EUR Print Manager - Adapter が稼働するマシンへ，操作 1. でインストールしたファイルをコピーする。**
   サーバ配置インストーラでインストールしたファイルを，EUR Print Manager - Adapter が稼働するマシンにコピーしてください。
   EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンで，EUR Print Manager - Client のサーバ配置インストールを実行した場合は，コピーは不要です。

   ファイル名：
   　EURPMPrintAX.inf，EURPMPreViewAX.inf

   コピー先

Windows 環境の場合：EUR Print Manager - Adapter のインストール先フォルダ
UNIX/Linux 環境の場合：/etc/opt/eurpm_adp

3. **アクセス権を設定する。**
ActiveX クライアント情報ファイルと格納先のアクセス権限を，EUR Print Manager - Adapter を利用するユーザーが読み書きできるように，環境に応じて設定してください。
同一マシンに，サーバ配置インストールでインストールされた EUR Print Manager - Client の ActiveX クライアント情報ファイルと，EUR Print Manager - Adapter 用に配置された ActiveX クライアント情報ファイルがある場合，EUR Print Manager - Client サーバ配置インストールでインストールされた ActiveX クライアント情報ファイルの情報が優先されます。

15.7.2　ActiveX クライアント情報ファイルの用途

ActiveX クライアント情報ファイルは，EUR Print Manager - Adapter での次の機能を使用します。

表 15-10　ActiveX 起動部品

メソッド名	用途
GetPrintAXVersion メソッド	EURPMPrintAX.ocx のバージョンを取得
GetPrintAXClassID メソッド	EURPMPrintAX.ocx のクラス ID を取得
GetPreviewAXVersion メソッド	EURPMPreViewAX.ocx のバージョンを取得
GetPreviewAXClassID メソッド	EURPMPreViewAX.ocx のクラス ID を取得

表 15-11　Java 起動部品 EURPMAdapterForJava クラス

メソッド名	用途
getPrintAXVersion メソッド	EURPMPrintAX.ocx のバージョンを取得
getPrintAXClassID メソッド	EURPMPrintAX.ocx のクラス ID を取得
getPreviewAXVersion メソッド	EURPMPreViewAX.ocx のバージョンを取得
getPreviewAXClassID メソッド	EURPMPreViewAX.ocx のクラス ID を取得

各メソッドの詳細については，「9.3　ActiveX 起動部品のメソッド仕様」および「10.4 EURPMAdapterForJava クラスのメソッド仕様」を参照してください。

ActiveX クライアント情報ファイルの形式を次に示します。

● **EUR Print Manager - Client Print ActiveX の ActiveX クライアント情報ファイル（EURPMPrintAX.inf）**

```
[CABINFO]
CLASSID=印刷用ActiveX実行ファイルのバージョン
VERSION=印刷用ActiveX実行ファイルのクラスID
```

● EUR Print Manager - Client Preview ActiveX の ActiveX クライアント情報ファイル（EURPMPreViewAX.inf）

```
[CABINFO]
CLASSID=プレビュー用ActiveX実行ファイルのバージョン
VERSION=プレビュー用ActiveX実行ファイルのクラスID
```

CABINFO セクションの CLASSID キー，および VERSION キーの値は編集できません。製品バージョンに応じた ActiveX クライアント情報ファイルを使用してください。

15.7.3 ActiveX クライアント情報ファイルの配置に関する注意

EUR Print Manager - Client で使用する ActiveX クライアント情報ファイルは，EUR Print Manager - Client のサーバ配置インストーラでインストールされますが，EUR Print Manager - Adapter で使用する ActiveX クライアント情報ファイルは，EUR Print Manager - Adapter のインストーラではインストールされません。

EUR Print Manager - Adapter の ActiveX クライアント情報ファイルを使用する場合は，EUR Print Manager - Client のサーバ配置インストールから取り出した ActiveX クライアント情報ファイルを EUR Print Manager - Adapter マシンに配置してください。また，UNIX/Linux 環境のように，EUR Print Manager - Client をサーバ配置したマシンと EUR Print Manager - Adapter をインストールしたマシンが異なる場合は，EUR Print Manager - Client のサーバ配置インストールから取り出した ActiveX クライアント情報ファイルを EUR Print Manager - Adapter マシンにコピーしてください。

コピー先を次に示します。

- Windows 環境の場合
  ＜ EUR Print Manager - Adapter のインストール先フォルダ＞
- UNIX/Linux 環境の場合
  /etc/opt/eurpm_adp/

EUR Print Manager - Client をサーバ配置したマシンと EUR Print Manager - Adapter をインストールしたマシンが同じ場合は，EUR Print Manager - Client の ActiveX クライアント情報ファイルが使用されるため問題ありません。

15.8　印刷日時出力定義ファイル

印刷日時出力定義ファイルは，プリンタでの印刷実行時の日時情報を帳票に出力するために必要な情報を定義するファイルです。

印刷日時出力定義ファイルでは，日時情報として出力する文字列について，次の内容を設定できます。

- 文字列の内容
- 文字のフォント名
- 文字の大きさ
- 文字列の出力位置
- 文字の色

15.8.1　印刷日時出力定義ファイルの作成

作成した印刷日時出力定義ファイルは，EUR Print Manager が稼働するマシンに準備してください。また，印刷実行時にファイルの格納先を次のどちらかの方法で指定してください。

- 起動部品（印刷ジョブごとに指定する場合）
- EUR Print Manager の環境設定ファイル（EUR Print Manager のサービスごとに指定する場合）

(1) 印刷日時出力定義ファイルの形式

印刷日時出力定義ファイルの形式を次に示します。

```
[PRINTDATETIME]
キー=値
  :
```

(2) 印刷日時出力定義ファイルの設定項目

印刷日時出力定義ファイルの設定項目を次の表に示します。

表 15-12　印刷日時出力定義ファイルの設定項目

セクション	キー	指定できる値	省略値	説明
PRINTDATETIME	TEXT	文字列	－	日時情報として出力する文字列を 259 文字以内で指定します。指定を省略した場合は，エラーとなります。 なお，TEXT キーには，印刷時の日時に合わせて変換できる書式指定コードを指定できます。詳細は，表 15-12 を参照してください。

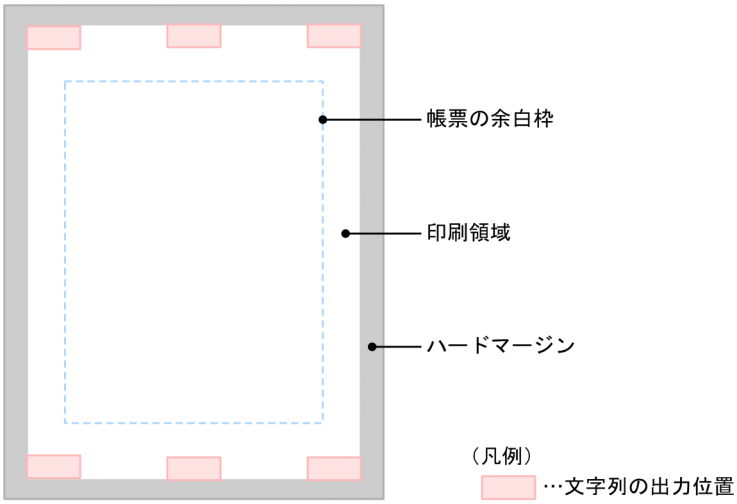
セクション	キー	指定できる値	省略値	説明
	FONT	文字列	ＭＳ ゴシック	文字のフォント名を 31 文字以内で指定します。
	SIZE	3 ～ 256	12	文字の大きさを指定します。 （単位：ポイント）
	POS	• topl • topc • topr • botl • botc • botr	topl	文字列の出力位置を指定します。指定できる値とその意味は次のとおりです。 • topl 印刷領域※の左上に出力します。 • topc 印刷領域※の中央上に出力します。 • topr 印刷領域※の右上に出力します。 • botl 印刷領域※の左下に出力します。 • botc 印刷領域※の中央下に出力します。 • botr 印刷領域※の右下に出力します。
	COLOR	000000 ～ FFFFFF	000000	文字の色を 6 けたの 16 進数で指定します。 1 ～ 2 けたは赤色の明度，3 ～ 4 けたは緑色の明度，5 ～ 6 けたは青色の明度を表します。 例えば，「000000」は黒色，「FF0000」は赤色を表します。

（凡例）

－：省略値はありません。

注※

印刷領域とは，印刷用紙からプリンタのハードマージンを除いた領域のことです。印刷領域と文字列の出力位置との関係を，次の図に示します。



また，TEXT キーに指定できる書式指定コードを次の表に示します。

表 15-13　TEXT キーに指定できる書式指定コード

項番	書式指定コード	説明	変換後の値の例	備考
1	%a	曜日（省略形）	**日本語環境** 日 **英語環境** Sun	—
2	%A	曜日	**日本語環境** 日曜日 **英語環境** Sunday	—
3	%b	月（省略形）	**日本語環境** 1 **英語環境** Jan	—
4	%B	月	**日本語環境** 1 月 **英語環境** January	—
5	%c	日付と時刻	**日本語環境** 2010/08/24 10:48:30 **英語環境** 08/24/10 10:48:30	「%x %X」を指定した場合と同じです。

項番	書式指定コード	説明	変換後の値の例	備考
6	%#c	日付※1と時刻	**日本語環境** 2010年8月24日 10:48:30 **英語環境** Tuesday, August 24, 2010 10:48:30	「%#x %X」を指定した場合と同じです。
7	%d	日	01	―
8	%#d	日※2	1	―
9	%H	時間（24時間表記）	01	―
10	%#H	時間（24時間表記）※2	1	―
11	%I	時間（12時間表記）	01	―
12	%#I	時間（12時間表記）※2	1	―
13	%m	月（10進数）	01	―
14	%#m	月（10進数）※2	1	―
15	%M	分（10進数）	01	―
16	%#M	分（10進数）※2	1	―
17	%p	午前または午後	**日本語環境** 午前 **英語環境** AM	―
18	%S	秒（10進数）	01	―
19	%#S	秒（10進数）※2	1	―
20	%x	日付	**日本語環境** 2010/08/24 **英語環境** 08/24/10	**日本語環境** 「%y/%m/%d」を指定した場合と同じです。 **英語環境** 「%m/%d/%y」を指定した場合と同じです。
21	%#x	日付※1	**日本語環境** 2010年8月24日 **英語環境** Tuesday, August 24, 2010	**日本語環境** 「%Y年%B%#d日」を指定した場合と同じです。 **英語環境** 「%A, %B %d, %Y」を指定した場合と同じです。
22	%X	時刻	10:48:30	「%H:%M:%S」を指定した場合と同じです。
23	%y	西暦（下2けた）	05	―
24	%#y	西暦（下2けた）※2	5	―

項番	書式指定コード	説明	変換後の値の例	備考
25	%Y	西暦（4 けた）	0794	―
26	%#Y	西暦（4 けた）※2	794	―
27	%%	パーセント記号	%	―

注※ 1

英語環境の場合は，曜日の情報を含みます。

注※ 2

値が 1 けたになる場合，頭に「0」を付けません。

(3) 印刷日時出力定義ファイルの注意事項

- 設定項目の大文字・小文字は区別しません。
- 表 15-12 に記載されていないセクションやキーを指定した場合は，設定内容は無視されます。
- PRINTDATETIME セクションを複数指定した場合や，同じキーを複数指定した場合は，先に指定した内容が有効となります。
- コメントは「#」に続けて記載してください。「#」以降の改行または EOF までの内容がコメントとして扱われます。
- 「#」を含む値を指定する場合は，値の前後を「"」で囲んで指定してください。

15.8.2　印刷日時出力定義ファイルの指定例

印刷日時出力定義ファイルの指定例を次に示します。

```
[PRINTDATETIME]
TEXT=%c
FONT=ＭＳ ゴシック
SIZE=12
POS=topr
COLOR=000000
```

15.9　EURPM 分割定義ファイル

EURPM **分割定義ファイル**は，帳票を分割するときのページ数や分割後の印刷データの印刷先などを定義するファイルです。

(1) 形式

EURPM 分割定義ファイルの形式を次に示します。

```
[SPLIT]
キー=値
   :
```

(2) 設定項目

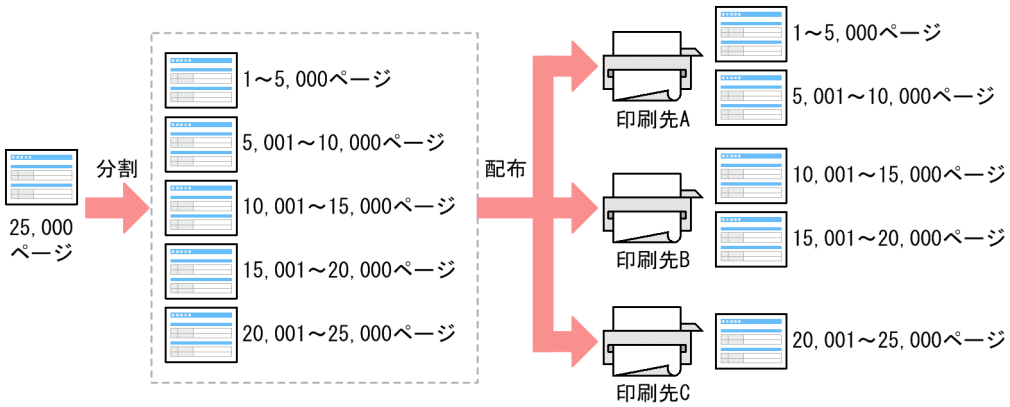
EURPM 分割定義ファイルの設定項目を次の表に示します。

表 15-14　EURPM 分割定義ファイルの設定項目

セクション	キー	指定できる値	指定	省略値	説明
SPLIT	PAGENUMBER	1 ～ 999,999	必須	－	分割ページ数を指定します。
	PRINTDESTNUMBER	1 ～ 1,024	必須	－	印刷先の数を指定します。
	DISTRIBUTEMETHOD	• PAGE • ORDER	任意	PAGE	印刷先が複数ある場合の配布方法を指定します。 • PAGE ページ方式※1で配布します。 • ORDER 順次方式※2で配布します。
	PRINTDEST*n*※3	文字列（255 バイト）	必須	－	印刷先を指定します。 なお，印刷先は印刷先定義ファイルで定義します。印刷先定義ファイルの詳細については，「15.6.3　印刷先定義ファイル」を参照してください。

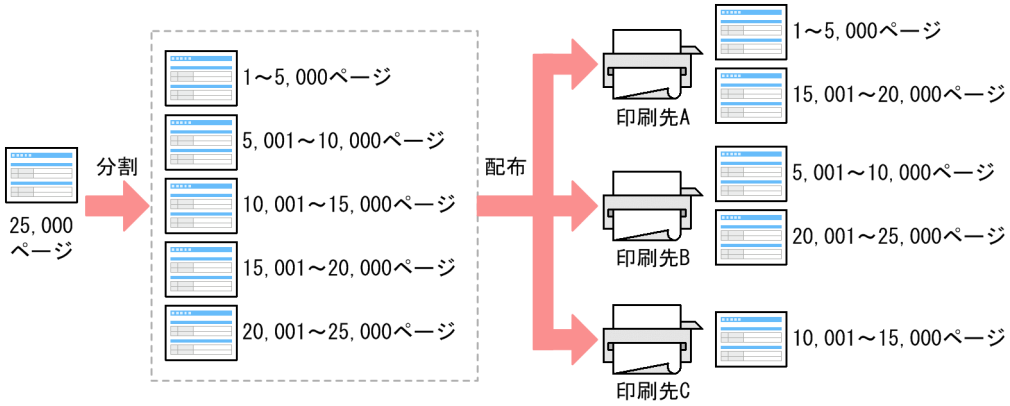
注※ 1

各印刷先で帳票のページ番号が連続するように，印刷データを配布する方法です。ページ方式で配布するときの配布イメージを次の図に示します。



注※ 2

分割された順に印刷データを配布する方法です。
順次方式で配布するときの配布イメージを次の図に示します。



注※ 3

n の範囲は，「1 ～印刷先の数（PRINTDESTNUMBER キーの値）」です。

（3） 作成手順

EURPM 分割定義ファイルは次の手順で設定します。

1. **EURPM 分割定義ファイルのサンプル（PMPageSplit.txt）を任意の場所に保存する。**
2. **EURPM 分割定義ファイルを編集する。**
   EURPM 分割定義ファイルは，マシンのロケールに応じたエンコードで編集してください。
3. **必要な内容を設定した EURPM 分割定義ファイルを次の場所に格納する。**

   印刷ジョブごとに指定する場合

EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンの任意のディレクトリ

EUR Print Manager のサービスごとに指定する場合

環境設定ファイル（EURPM.ini）の［PATH］セクションの［SPLIT］キーで指定したディレクトリ

EURPM 分割定義ファイルの格納先には，EUR Print Manager を利用するユーザーが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

なお，作成した EURPM 分割定義ファイルは次の方法で指定してください。

印刷ジョブごとに指定する場合

EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンの任意のディレクトリと，EURPM 分割定義ファイルのファイル名を起動部品で指定します。使用する起動部品を次に示します。

- ActiveX 起動部品
  SplitFileName プロパティ，および SplitFilePath プロパティ
- Java 起動部品
  setSplitFileName メソッド，および setSplitFilePath メソッド
- COBOL 起動部品
  PrintReport 関数または PrintReport2 関数の SPLITFILENAME パラメタ，および SPLITFILEPATH パラメタ
- コマンド起動部品
  /splitf オプション，および /splitfp オプション

EUR Print Manager のサービスごとに指定する場合

EURPM 分割定義ファイルのファイル名を，環境設定ファイル（EURPM.ini）の［NAME］セクションの［SPLIT］キーで指定します。

(4) サンプルの内容

このサンプルでは，指定した帳票を 500 ページごとに分割し，印刷先「TOKYO_RS_SPOOL_UserA」と「TOKYO_RS_SPOOL_UserB」にページ配布方式で配布することを想定しています。

サンプルの内容を次に示します。

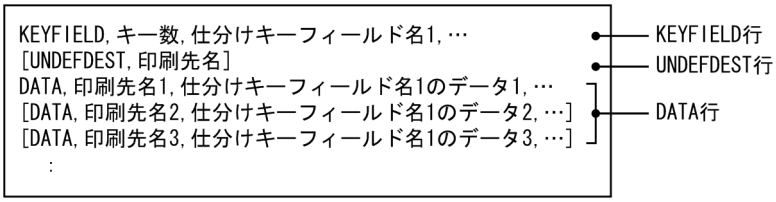
```
[SPLIT]
PAGENUMBER=500
PRINTDESTNUMBER=2
DISTRIBUTEMETHOD=PAGE
PRINTDEST1="TOKYO_RS_SPOOL_UserA"
PRINTDEST2="TOKYO_RS_SPOOL_UserB"
```

15.10　EURPM 仕分け定義ファイル

EURPM **仕分け定義ファイル**は，帳票を仕分けするときのキーワードやキーワードに対応する印刷先などを定義するファイルです。

(1) 形式

EURPM 仕分け定義ファイルの形式を次に示します。



(2) 設定項目

EURPM 仕分け定義ファイルの設定項目を次に示します。

(a) KEYFIELD 行

必ず 1 行目に指定してください。KEYFIELD 行の指定を省略したり，KEYFIELD 行を複数指定したりした場合はエラーになります。

KEYFIELD

KEYFIELD を指定します。大文字と小文字は区別しません。

キー数

キーワードの数を指定します。

1 以上の整数で指定してください。

仕分けキーフィールド名

キーワードが含まれている，マッピングデータファイルのフィールドを指定します。「キー数」で指定した数だけコンマ（,）で区切って指定してください。ただし，同じフィールドを複数指定できません。

(b) UNDEFDEST 行

UNDEFDEST 行は，DATA 行で指定したキーワードと一致しないページ（不一致ページ），および総集計ページの印刷先を指定する場合に指定します。指定する場合は，必ず 2 行目に指定してください。UNDEFDEST 行の指定を省略した場合は，不一致ページおよび総集計ページを出力しません。

UNDEFDEST

UNDEFDEST を指定します。大文字と小文字は区別しません。

印刷先名

不一致ページおよび総集計ページの印刷先を指定します。
なお，印刷先は印刷先定義ファイルで定義します。印刷先定義ファイルの詳細については，「15.6.3　印刷先定義ファイル」を参照してください。

(c) DATA 行

DATA 行には，印刷先とキーワードの組み合わせを指定します。必ず指定してください。

DATA

DATA を指定します。大文字と小文字は区別しません。

印刷先名

「仕分けキーフィールド名のデータ」で指定したキーワードと一致するページの印刷先を指定します。
なお，印刷先は印刷先定義ファイルで定義します。印刷先定義ファイルの詳細については，「15.6.3　印刷先定義ファイル」を参照してください。

仕分けキーフィールド名のデータ

キーワードを指定します。
KEYFIELD 行の「仕分けキーフィールド名」に対応するキーワードを，「キー数」で指定した数だけコンマ（,）で区切って指定してください。
なお，指定するときには次の点に注意してください。

- キーワードに「"」が含まれている場合は，「"」を二つ続けて記述し，キーワードの両端を「"」で囲んで指定してください。
  「E"UR」とする場合は，「"E""UR"」と指定します。
- キーワードに区切り文字が含まれている場合は，キーワードの両端を「"」で囲んで指定してください。
  「,」が区切り文字の場合，「EU,R」とするときは，「"EU,R"」と指定します。

(3) 作成手順

EURPM 仕分け定義ファイルは次の手順で設定します。

1. **EURPM 仕分け定義ファイルのサンプル（PMDistribute.txt）を任意の場所に保存する。**
2. **EURPM 仕分け定義ファイルを編集する。**
   EURPM 仕分け定義ファイルは，マシンのロケールに応じたエンコードで編集してください。
3. **必要な内容を設定した EURPM 仕分け定義ファイルを次の場所に格納する。**

   印刷ジョブごとに指定する場合

   EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンの任意のディレクトリ

   EUR Print Manager のサービスごとに指定する場合

   環境設定ファイル（EURPM.ini）の［PATH］セクションの［SPLIT］キーで指

定したディレクトリ
EURPM 仕分け定義ファイルの格納先には，EUR Print Manager を利用するユーザーが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

なお，作成した EURPM 仕分け定義ファイルは次の方法で指定してください。

印刷ジョブごとに指定する場合

EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンの任意のディレクトリと，EURPM 仕分け定義ファイルのファイル名を起動部品で指定します。使用する起動部品を次に示します。

- ActiveX 起動部品
  SplitFileName プロパティ，および SplitFilePath プロパティ
- Java 起動部品
  setSplitFileName メソッド，および setSplitFilePath メソッド
- COBOL 起動部品
  PrintReport 関数または PrintReport2 関数の SPLITFILENAME パラメタ，および SPLITFILEPATH パラメタ
- コマンド起動部品
  /splitf オプション，および /splitfp オプション

EUR Print Manager のサービスごとに指定する場合

EURPM 仕分け定義ファイルのファイル名を，環境設定ファイル（EURPM.ini）の［NAME］セクションの［SPLIT］キーで指定します。

(4) サンプルの内容

このサンプルでは，次のルールで帳票を仕分けして出力することを想定しています。

- マッピングデータファイルの「Office」フィールドの値が「HeadOffice」のページは，印刷先「TOKYO_RS_PRINT」に出力する。
- マッピングデータファイルの「Office」フィールドの値が「BranchOsaka」のページは，印刷先「OSAKA_RS_PRINT」に出力する。
- 上記のどちらにも当てはまらないページは，印刷先「OSAKA_CL_PRINT」に出力する。

サンプルの内容を次に示します。

```
KEYFIELD,1,"Office"
UNDEFDEST, "OSAKA_CL_PRINT"
DATA,"TOKYO_RS_PRINT","HeadOffice"
DATA,"OSAKA_RS_PRINT","BranchOsaka"
```

15.11　環境設定ファイル

環境設定ファイルは，EUR Print Manager の動作環境を設定します。

環境設定ファイルには，次の八つがあります。環境設定ファイルについては，「16.　実行環境の設定」を参照してください。

- EUR Print Manager：EURPM.ini
- EUR Print Manager - Adapter：EURPMADP.ini
- EUR Print Manager - Report Server：EURPMLS.ini
- EUR Print Manager - Report Server Adapter：EURPMLSADP.ini
- EUR Print Manager - Client：EURPMCL.ini
- EURPM 制御コマンド：EURPMCTRL.ini
- EURPM-RS 制御コマンド：EURPMLSCTRL.ini
- 蓄積管理 GUI：EURPMRSGUI.ini

なお，EUR Print Manager から EUR Print Service の環境設定ファイルを指定することで，EUR Print Service の動作環境を EUR Print Manager のサービスごと，または印刷ジョブごとに変更できます。

EUR Print Service の環境設定ファイルについては，「16.10　EPF 形式ファイルを出力する場合の実行環境の設定」およびマニュアル「EUR サーバ帳票出力」を参照してください。

15.12　EURPM 起動管理定義ファイル

EURPM **起動管理定義ファイル**は，起動対象の EUR Print Manager とその起動方法が定義されたファイルです。

EUR Print Manager の起動や停止を管理するときに使用します。

15.12.1　Windows 環境の場合

EURPM 起動管理定義ファイルは，Windows 環境では，次のどちらかで作成または管理できます。EURPM 起動管理定義ファイルは，EUR Print Manager のインストール先フォルダ下に格納されています。

- ［EUR Print Manager 起動管理］ダイアログ
- EURPM 制御コマンド

［EUR Print Manager 起動管理］ダイアログで管理する場合の詳細については，「6.2　［EUR Print Manager 起動管理］ダイアログを使用して管理する（Windows 環境の場合）」を参照してください。EURPM 制御コマンドで管理する場合の詳細については，「6.3　EURPM 制御コマンドを使用して管理する」を参照してください。

15.12.2　UNIX/Linux 環境の場合

EURPM 起動管理定義ファイルは，UNIX/Linux 環境では，EURPM 制御コマンドで作成または管理できます。EURPM 起動管理定義ファイルは，/etc/opt/eurpm ディレクトリ下に格納されています。詳細については，「6.3　EURPM 制御コマンドを使用して管理する」を参照してください。

16 実行環境の設定

この章では，EUR Print Manager，EUR Print Manager - Adapter，EUR Print Manager - Report Server，EUR Print Manager - Report Server Adapter，EUR Print Manager - Client，EURPM 制御コマンド，EURPM-RS 制御コマンド，および EPF 形式ファイルを出力する場合の EUR Print Service の実行環境の設定について説明します。

16.1 **環境設定ファイルの項目一覧**

16.2 **環境設定ファイル**（EUR Print Manager）

16.3 **環境設定ファイル**（EUR Print Manager - Adapter）

16.4 **環境設定ファイル**（EUR Print Manager - Report Server）

16.5 **環境設定ファイル**（EUR Print Manager - Report Server Adapter）

16.6 **環境設定ファイル**（**蓄積管理** GUI）

16.7 **環境設定ファイル**（EUR Print Manager - Client）

16.8 **環境設定ファイル**（EURPM **制御コマンド**）

16.9 **環境設定ファイル**（EURPM-RS **制御コマンド**）

16.10 EPF **形式ファイルを出力する場合の実行環境の設定**

16.11 **環境設定ファイルの詳細コード**

16.1 環境設定ファイルの項目一覧

EUR Print Manager および各コンポーネントの動作や，ほかのプログラムと通信するときの接続先，送信データサイズ，および接続上限時間などは，環境設定ファイルで設定します。

ここでは，EUR Print Manager，EUR Print Manager - Adapter，EUR Print Manager - Report Server，EUR Print Manager - Report Server Adapter，EUR Print Manager - Client，EURPM 制御コマンド，および EURPM-RS 制御コマンドの環境設定ファイルの項目一覧，ならびに EPF 形式ファイルを出力する場合の EUR Print Service の環境設定ファイルの項目一覧を次に示します。

なお，EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイルでは，帳票の出力要求時に有効になる指定項目のうち，一部の指定項目のデフォルト値を設定できます。そのため，EUR Print Manager - Adapter の接続先となるプログラム（EUR Print Manager，EUR Print Manager - Report Server，および EUR Print Manager - Client）の動作に影響を与えることがあります。

（1） EUR Print Manager の環境設定ファイルの項目一覧

EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）の項目一覧を次に示します。

表 16-1 EUR Print Manager の環境設定ファイルの項目一覧

セクション	キー	説明	参照先
PORT	EURPM	EUR Print Manager のポート番号を指定します。	16.2.1
	EURPMLS	EUR Print Manager - Report Server のポート番号を指定します。	16.2.2
	EURPMCL	EUR Print Manager - Client のポート番号を指定します。	16.2.3
PATH	FORM	帳票ファイルがあるフォルダを指定します。	16.2.4
	CONF	構成定義ファイルがあるフォルダを指定します。	16.2.5
	TEMP	EUR Print Manager の作業フォルダを指定します。	16.2.6
	MULTI	複数様式情報定義ファイルがあるフォルダを指定します。	16.2.7
	DOCINFO	文書情報設定ファイルがあるフォルダを指定します。	16.2.8
	DBINFO	接続情報ファイルがあるフォルダを指定します。	16.2.9
	REPLACEITEM	置き換え表管理情報ファイルがあるフォルダを指定します。	16.2.10
	SCRIPTCNT	Acrobat JavaScript 定義ファイルがあるフォルダを指定します。	16.2.11
	PREFERENCE	ビューアプレファレンス定義ファイルがあるフォルダを指定します。	16.2.12

セクション	キー	説明	参照先
	PSENV	EUR Print Service の環境設定ファイルがあるフォルダを指定します。	16.2.13
	PDF	EUR Print Manager 稼働マシンに PDF 形式ファイルを出力する場合の，デフォルトの出力先フォルダを指定します。	16.2.14
	PRINTDATE	印刷日時出力定義ファイルがあるフォルダを指定します。	16.2.15
	SPLIT	EURPM 分割定義ファイル，または EURPM 仕分け定義ファイルがあるフォルダを指定します。	16.2.16
ERROR	LOGFILE	ログファイル（EURPM.log）※の出力先フォルダを指定します。	16.2.17
	LOGLEVEL	実行ログの出力レベルを指定します。	16.2.18
	LOGSIZE	ログファイル（EURPM.log）※のファイルサイズの上限を指定します。	16.2.19
OPTION	PATHMODE	EUR Print Manager のパスモードを指定します。	16.2.20
	TEMPFILEDEL	印刷実行時に生成した一時ファイルを削除するかどうかを指定します。	16.2.21
	SOCKBUFFSIZE	ソケット通信に使用する通信バッファサイズの上限を指定します。	16.2.22
	SPLITMODE	蓄積時に，帳票を分割または仕分けするかどうかを指定します。	16.2.23
THREAD	GENERAL	EUR Print Manager の並列処理数を指定します。	16.2.24
	EURPS	EUR Print Service の並列処理数を指定します。	16.2.25
TIMEOUT	CONNECT	タイムアウト監視で，切断するまでの時間を指定します。	16.2.26
	ERRIGNORE	切断を検知してもエラーを出力しない時間を指定します。	16.2.27
ENV	PSENVFILENAME	EUR Print Service の環境設定ファイルのファイル名を指定します。	16.2.28
FILE	PRINTDATE	印刷日時出力定義ファイル名を指定します。	16.2.29
	SPLIT	EURPM 分割定義ファイル，または EURPM 仕分け定義ファイル名を指定します。	16.2.30

注※

EUR Print Manager を複数起動している場合，ログファイル名は「EURPM_< 識別名 >.log」になります。

(2) EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイルの項目一覧

EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）の項目一覧を次に示します。

表 16-2 EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイルの項目一覧

セクション	キー	説明	参照先
PORT	EURPM	EUR Print Manager のポート番号を指定します。	16.3.1
IPADDRESS	EURPM	EUR Print Manager が稼働するサーバの IP アドレスを指定します。	16.3.2
ERROR	LOGFILE ※	ログファイル（EURPMADP.log）の出力先フォルダを指定します。	16.3.3
	LOGLEVEL	実行ログの出力レベルを指定します。	16.3.4
	LOGSIZE	ログファイル（EURPMADP.log）のファイルサイズの上限を指定します。	16.3.5
OPTION	PRINTMODE	印刷方法が未指定の場合の印刷方法を指定します。	16.3.6
	DEFAULTPRINTMODE	デフォルト印刷方式を指定します。	16.3.7
	SOCKBUFFSIZE	ソケット通信に使用する通信バッファサイズの上限を指定します。	16.3.8
	DATABUFFSIZE	ファイル転送時の分割転送のサイズを指定します。	16.3.9
	DISPPRINTDLG	クライアント印刷方式のダイアログ表示モードを指定します。	16.3.10
	FILEOUTPUTDESTINATION	PDF 形式ファイルの出力先を，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンにするか，または EUR Print Manager 稼働マシンにするかのどちらかを指定します。	16.3.11
	SPOOLLIMIT	帳票の蓄積期限日を指定します。	16.3.12
TIMEOUT	OUTPUT	印刷または蓄積を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。	16.3.13
	EPFOUTPUT	EPF 形式ファイル生成を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。	16.3.14
	EUROUTPUT	EUR 形式ファイル生成を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。	16.3.15
	PDFOUTPUT	PDF 形式ファイル生成を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。	16.3.16
	DESTLIST	出力先一覧を取得するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。	16.3.17
	PRTCLSLIST	プリンタクラス一覧，プリンタ一覧，またはトレイ一覧を取得するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。	16.3.18
	XLSXOUTPUT	Excel 形式ファイル生成を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。	16.3.19
	MERGEOUTPUT	複数の EPF 形式ファイルの統合を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。	16.3.20

注※

LOGFILE キーは，UNIX/Linux 環境のログファイル出力先指定にも対応しています。

(3) EUR Print Manager - Report Server の環境設定ファイルの項目一覧

EUR Print Manager - Report Server の環境設定ファイル（EURPMLS.ini）の項目一覧を次に示します。

表 16-3 EUR Print Manager - Report Server の環境設定ファイルの項目一覧

セクション	キー	説明	参照先
PORT	EURPMLS	EUR Print Manager - Report Server のポート番号を指定します。	16.4.1
	EURPMCL	EUR Print Manager - Client のポート番号を指定します。	16.4.2
PATH	CONF	構成定義ファイルがあるフォルダを指定します。	16.4.3
	TEMP	EUR Print Manager - Report Server の作業フォルダを指定します。	16.4.4
	ESF	EUR Print Manager - Report Server の蓄積フォルダを絶対パスで指定します。	16.4.5
ERROR	LOGFILE	ログファイル（EURPMLS.log）の出力先フォルダを指定します。	16.4.6
	LOGLEVEL	実行ログの出力レベルを指定します。	16.4.7
	LOGSIZE	ログファイル（EURPMLS.log）のファイルサイズの上限を指定します。	16.4.8
OPTION	TEMPFILEDEL	印刷実行時に生成した一時ファイルを削除するかどうかを指定します。	16.4.9
	ESFAUTODEL	期限が切れた蓄積ファイルを自動削除するかどうかを指定します。	16.4.10
	SOCKBUFFSIZE	ソケット通信に使用する通信バッファサイズの上限を指定します。	16.4.11
	SPLOUTLINELIMIT	蓄積ファイルの一覧を分割して取得する場合の上限時間を指定します。	16.4.12
	ESFID	複数の EUR Print Manager - Report Server で同じ蓄積フォルダを使用する場合の管理 ID を指定します。	16.4.13
THREAD	GENERAL	EUR Print Manager - Report Server の並列処理数を指定します。	16.4.14
	EURPS	EUR Print Service の並列処理数を指定します。	16.4.15
	PRINTEXECMODE	EPF 形式ファイルの印刷処理をスレッドで行うか，またはプロセスを起動して行うかのどちらかを指定します。	16.4.16
TIMEOUT	CONNECT	タイムアウト監視で，切断するまでの時間を指定します。	16.4.17
	ERRIGNORE	切断を検知してもエラーを出力しない時間を指定します。	16.4.18

（4） EUR Print Manager - Report Server Adapter の環境設定ファイルの項目一覧

EUR Print Manager - Report Server Adapter の環境設定ファイル（EURPMLSADP.ini）の項目一覧を次に示します。

表 16-4 EUR Print Manager - Report Server Adapter の環境設定ファイルの項目一覧

セクション	キー	説明	参照先
PORT	EURPMLS	EUR Print Manager - Report Server Adapter のポート番号を指定します。	16.5.1
IPADDRESS	EURPMLS	EUR Print Manager - Report Server が稼働するサーバの IP アドレスを指定します。EUR Print Manager - Report Server Adapter の ServerAddress プロパティが未指定の場合に指定します。	16.5.2
ERROR	LOGFILE ※	ログファイル（EURPMLSADP.log）の出力先フォルダを指定します。	16.5.3
	LOGLEVEL	実行ログの出力レベルを指定します。	16.5.4
	LOGSIZE	ログファイル（EURPMLSADP.log）のファイルサイズの上限を指定します。	16.5.5
TIMEOUT	PRINT	EUR Print Manager - Report Server に蓄積ファイルの印刷を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。	16.5.6
	GETFILE	EUR Print Manager - Report Server に蓄積ファイルの取得を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。	16.5.7
	FILELIST	EUR Print Manager - Report Server から蓄積ファイル一覧を取得するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。	16.5.8
	FILEOPERATE	EUR Print Manager - Report Server から蓄積ファイルの属性の取得・設定，および蓄積ファイルの削除をするときの通信タイムアウト監視時間を指定します。	16.5.9
	DELETE	EUR Print Manager - Report Server に期限が切れた蓄積ファイル一括削除を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。	16.5.10
	PRTCLSLIST	EUR Print Manager - Report Server からプリンタクラス一覧，プリンター一覧，トレイ一覧を取得するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。	16.5.11
PATH	OUTPUTFILE	蓄積ファイルを取得するフォルダを指定します。EUR Print Manager - Report Server Adapter の OutputFilePath プロパティが未指定の場合に指定します。	16.5.12
OPTION	SOCKBUFFSIZE	ソケット通信に使用する通信バッファサイズの上限を指定します。	16.5.13

注※

LOGFILE キーは，UNIX/Linux 環境のログファイル出力先指定にも対応しています。

(5) 蓄積管理 GUI の環境設定ファイルの項目一覧

蓄積管理 GUI の環境設定ファイル（EURPMRSGUI.ini）の項目一覧を次に示します。

表 16-5 蓄積管理 GUI の環境設定ファイルの項目一覧

セクション	キー	説明	参照先
OPTION	PATH	EUR Print Manager - Client Print ActiveX および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX のダウンロードパッケージ（cab ファイル）の格納場所を指定します。	16.6.1
	PATH_MACHINE	クライアント PC の環境によってマシン単位でのインストールとユーザー単位でのインストールを切り替える場合に，マシン単位インストール用のダウンロードパッケージ（cab ファイル）の格納場所を指定します。	16.6.2
	EPFDATAMAXSIZE	ダウンロードする EPF 形式ファイルのファイルサイズの上限を指定します。	16.6.3
	DEFAULTPRINTDLG	［このマシンで印刷］を選択して印刷する場合に表示されるダイアログを，EUR Print Manager のプリンタ選択ダイアログにするか，または OS の印刷ダイアログにするかのどちらかを指定します。	16.6.4

(6) EUR Print Manager - Client の環境設定ファイルの項目一覧

EUR Print Manager - Client の環境設定ファイル（EURPMCL.ini）の項目一覧を次に示します。

表 16-6 EUR Print Manager - Client の環境設定ファイルの項目一覧

セクション	キー	説明	参照先
PORT	EURPMCL	EUR Print Manager - Client のポート番号を指定します。	16.7.1
PATH	CONF	構成定義ファイルがあるフォルダを指定します。	16.7.2
	TEMP	EUR Print Manager - Client の作業フォルダを指定します。	16.7.3
ERROR	LOGFILE	ログファイル（EURPMCL.log）の出力先フォルダを指定します。	16.7.4
	LOGLEVEL	実行ログの出力レベルを指定します。	16.7.5
	LOGSIZE	ログファイル（EURPMCL.log）のファイルサイズの上限を指定します。	16.7.6
	EVENTLOGLEVEL	イベントログの出力レベルを指定します。	16.7.7

セクション	キー	説明	参照先
OPTION	TEMPFILEDEL	印刷実行時に生成した一時ファイルを削除するかどうかを指定します。	16.7.8
	SOCKBUFFSIZE	ソケット通信に使用する通信バッファサイズの上限を指定します。	16.7.9
TIMEOUT	CONNECT	タイムアウト監視で，切断するまでの時間を指定します。	16.7.10
	ERRIGNORE	切断を検知してもエラーを出力しない時間を指定します。	16.7.11

(7) EURPM 制御コマンドの環境設定ファイルの項目一覧

EURPM 制御コマンドの環境設定ファイル（EURPMCTRL.ini）の項目一覧を次に示します。

表 16-7 EURPM 制御コマンドの環境設定ファイルの項目一覧

セクション	キー	説明	参照先
PATH	TEMP	EURPM 制御コマンドの作業フォルダを指定します。	16.8.1
ERROR	LOGFILE	ログファイル（EURPMCTRL.log）の出力先フォルダを指定します。	16.8.2
	LOGLEVEL	実行ログの出力レベルを指定します。	16.8.3
	LOGSIZE	ログファイル（EURPMCTRL.log）のファイルサイズの上限を指定します。	16.8.4
TIMEOUT	START	EUR Print Manager を起動するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。	16.8.5
	STOP	EUR Print Manager を停止するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。	16.8.6

(8) EURPM-RS 制御コマンドの環境設定ファイルの項目一覧

EURPM-RS 制御コマンドの環境設定ファイル（EURPMLSCTRL.ini）の項目一覧を次に示します。なお，EURPM-RS 制御コマンドは UNIX/Linux 環境の場合だけサポートしています。

表 16-8 EURPM-RS 制御コマンドの環境設定ファイルの項目一覧（UNIX/Linux 環境の場合）

セクション	キー	説明	参照先
PATH	TEMP	EURPM-RS 制御コマンドの作業フォルダを指定します。	16.9.1
ERROR	LOGFILE	ログファイル（EURPMLSCTRL.log）の出力先フォルダを指定します。	16.9.2
	LOGLEVEL	実行ログの出力レベルを指定します。	16.9.3

セクション	キー	説明	参照先
	LOGSIZE	ログファイル（EURPMLSCTRL.log）のファイルサイズの上限を指定します。	16.9.4
TIMEOUT	START	EUR Print Manager - Report Server を起動するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。	16.9.5
	STOP	EUR Print Manager - Report Server を停止するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。	16.9.6

（9） EPF 形式ファイルを出力する場合に設定が必要な EUR Print Service の環境設定ファイルの項目一覧

EUR Print Manager を使用して EPF 形式ファイルを出力する場合に設定が必要な，EUR Print Service の環境設定ファイルの項目一覧を次に示します。

表 16-9　EPF 形式ファイルを出力する場合に設定が必要な EUR Print Service の環境設定ファイルの項目一覧

環境変数	説明	参照先
EURPS_EPFDPI	EPF 形式ファイルを出力するときの解像度（DPI 値）を指定します。	16.10.1
EURPS_EPF_IMAGE_COMPRESS	EPF 形式ファイルを出力するときに，画像データを圧縮するかどうかを指定します。	16.10.2

上記以外の EUR Print Service の環境設定ファイルの項目については，マニュアル「EUR サーバ帳票出力」を参照してください。

16.2 環境設定ファイル（EUR Print Manager）

EUR Print Manager の動作環境は，環境設定ファイル（EURPM.ini）で設定します。

環境設定ファイルを変更した場合は，EUR Print Manager を再起動してください。

環境設定ファイルの格納場所

- Windows 環境の場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）は，EUR Print Manager のインストール先フォルダ下に作成されます。
  ファイルの内容を追加，変更する場合は，メモ帳などのテキスト編集エディタを開いて編集したあと，上書き保存してから使用してください。
- UNIX/Linux 環境の場合
  次に示す環境設定ファイル（EURPM.ini）のサンプルを，/opt/eurpm/sample 下に提供しています。必要な内容を設定したあと，同じファイル名で /etc/opt/eurpm 下に格納してください。
  なお，/etc/opt/eurpm には，EUR Print Manager を利用するユーザーが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

＜環境設定ファイル（EURPM.ini）のサンプルの内容＞

```
[PORT]

[PATH]

[ERROR]

[OPTION]
SOCKBUFFSIZE=64

[THREAD]

[TIMEOUT]

[ENV]

[FILE]
```

＜環境設定ファイル（EURPM.ini）の設定手順＞

環境設定ファイルは次の手順で設定します。

1. /opt/eurpm/sample 下にある環境設定ファイル（EURPM.ini）のサンプルを任意の場所に保存する。
2. 環境設定ファイルを編集する。
   環境設定ファイルは，マシンのロケールに応じたエンコードで編集してください。
3. 必要な内容を設定した環境設定ファイルを，サンプルと同じファイル名（EURPM.ini）で /etc/opt/eurpm 下に格納する。
   /etc/opt/eurpm には，EUR Print Manager を利用するユーザーが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

環境設定ファイルの構文

変数名=値

環境設定ファイルに指定する情報は,「"」で囲まないでください。

環境設定ファイルの指定例（Windows 環境の場合）

```
[PORT]
EURPM=22314
EURPMLS=22313
EURPMCL=23035

[PATH]
FORM=C:¥EURPM¥Form
CONF=C:¥EURPM¥Conf
TEMP=C:¥EURPM¥Temp
MULTI=C:¥EURPM¥Multi
DOCINFO=C:¥EURPM¥DocInfo
DBINFO=C:¥EURPM¥DBInfo
REPLACEITEM=C:¥EURPM¥ReplaceItem
SCRIPTCNT=C:¥EURPM¥ScriptCnt
PREFERENCE=C:¥EURPM¥Preference
PSENV=C:¥EURPM¥PSEnv
PDF=C:¥EURPM¥PDF
PRINTDATE=C:¥EURPM¥PrintDate
SPLIT=C:¥EURPM¥Split

[ERROR]
LOGFILE=C:¥EURPM¥Log
LOGLEVEL=4
LOGSIZE=750

[OPTION]
PATHMODE=0
TEMPFILEDEL=1
SOCKBUFFSIZE=64
SPLITMODE=PAGE

[THREAD]
GENERAL=200
EURPS=1

[TIMEOUT]
CONNECT=300
ERRIGNORE=300

[ENV]
PSENVFILENAME=EURPS_ENV

[FILE]
PRINTDATE=PRINTDATETIME.txt
SPLIT=PMPageSplit.txt
```

16.2.1 EURPM

EUR Print Manager のポート番号を指定します。EURPM キーを省略した場合は,22314 が仮定されます。

16.2.2 EURPMLS

EUR Print Manager - Report Server のポート番号を指定します。EURPMLS キーを省略した場合は，22313 が仮定されます。

16.2.3 EURPMCL

EUR Print Manager - Client のポート番号を指定します。EURPMCL キーを省略した場合は，23035 が仮定されます。

16.2.4 FORM

帳票ファイルがあるフォルダを指定します。

FORM キーを省略した場合，次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
  EUR Print Manager のインストール先フォルダ下の Form フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
  /etc/opt/eurpm/Form

16.2.5 CONF

構成定義ファイルがあるフォルダを指定します。

CONF キーを省略した場合，次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
  EUR Print Manager のインストール先フォルダ下の Conf フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
  /etc/opt/eurpm/Conf

16.2.6 TEMP

EUR Print Manager の作業フォルダを指定します。

TEMP キーを省略した場合，次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
  EUR Print Manager のインストール先フォルダ下の Temp¥Manager フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
  /tmp

16.2.7 MULTI

複数様式情報定義ファイルがあるフォルダを指定します。

MULTI キーを省略した場合，次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
  EUR Print Manager のインストール先フォルダ下の Multi フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
  /etc/opt/eurpm/Multi

16.2.8 DOCINFO

文書情報設定ファイルがあるフォルダを指定します。

DOCINFO キーを省略した場合，次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
  EUR Print Manager のインストール先フォルダ下の DocInfo フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
  /etc/opt/eurpm/DocInfo

16.2.9 DBINFO

接続情報ファイルがあるフォルダを指定します。

DBINFO キーを省略した場合，次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
  EUR Print Manager のインストール先フォルダ下の DBInfo フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
  /etc/opt/eurpm/DBInfo

16.2.10 REPLACEITEM

置き換え表管理情報ファイルがあるフォルダを指定します。

REPLACEITEM キーを省略した場合，次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
  EUR Print Manager のインストール先フォルダ下の ReplaceItem フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
  /etc/opt/eurpm/ReplaceItem

16.2.11 SCRIPTCNT

Acrobat JavaScript 定義ファイルがあるフォルダを指定します。

SCRIPTCNT キーを省略した場合，次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
  EUR Print Manager のインストール先フォルダ下の ScriptCnt フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
  /etc/opt/eurpm/ScriptCnt

16.2.12 PREFERENCE

ビューアプレファレンス定義ファイルがあるフォルダを指定します。

PREFERENCE キーを省略した場合，次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
  EUR Print Manager のインストール先フォルダ下の Preference フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
  /etc/opt/eurpm/Preference

16.2.13 PSENV

EUR Print Manager のサービスごとに EUR Print Service の環境設定ファイルを指定する場合，EUR Print Service の環境設定ファイルを格納したフォルダを指定します。

PSENV キーを省略した場合，次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
  EUR Print Manager のインストール先フォルダ下の PSEnv フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
  /etc/opt/eurpm/PSEnv

16.2.14 PDF

EUR Print Manager 稼働マシンに PDF 形式ファイルを出力する場合の，デフォルトの出力先フォルダを指定します。なお，指定するフォルダには，必ず書き込み権限を設定してください。

PDF キーを省略した場合，次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
  EUR Print Manager のインストール先フォルダ下の PDF フォルダ

- UNIX/Linux 環境のとき
  /etc/opt/eurpm/PDF

16.2.15 PRINTDATE（PATH セクション）

印刷日時出力定義ファイルを格納したフォルダを指定します。

PRINTDATE キーを省略した場合，次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
  EUR Print Manager のインストール先フォルダ下の PrintDate フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
  /etc/opt/eurpm/PrintDate

16.2.16 SPLIT（PATH セクション）

EURPM 分割定義ファイル，または EURPM 仕分け定義ファイルを格納したフォルダを指定します。

SPLIT キーを省略した場合，次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
  EUR Print Manager のインストール先フォルダ下の Split フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
  /etc/opt/eurpm/Split

16.2.17 LOGFILE

ログファイル（EURPM.log）の出力先フォルダを指定します。EUR Print Manager が複数起動している場合は，ログファイル名が「EURPM_< 識別名 >.log」になります。

LOGFILE キーを省略した場合，次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
  EUR Print Manager のインストール先フォルダ下の Log フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
  /var/opt/eurpm

16.2.18 LOGLEVEL

実行ログの出力レベルを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：ログ出力しません。

- 4：起動，終了，実行時パラメタ，エラーを出力します。
- 8：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告を出力します。
- 16：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告，情報を出力します。

LOGLEVEL キーを省略した場合，8 が仮定されます。

注意事項

出力レベルを 16 に指定すると，トレース情報が大量に出力されるため，性能が落ちるおそれがあります。障害調査時以外には指定しないでください。

16.2.19 LOGSIZE

ログファイル（EURPM.log）のファイルサイズの上限を指定します。EUR Print Manager が複数起動している場合は，ログファイル名が「EURPM_< 識別名 >.log」になります。指定できる値は 750 ～ 2,000,000 です。単位は KB です。

LOGSIZE キーを省略した場合，または指定できない値を指定した場合は，750 が仮定されます。

16.2.20 PATHMODE

EUR Print Manager のパスモードを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：通常パスモードを指定します。
- 1：フルパスモードを指定します。

PATHMODE キーを省略した場合，または 0，1 以外の値を指定した場合は 0 が仮定されます。PATHMODE キーを指定するときの注意事項を次に示します。

(1)「0（通常パスモード）」を指定する場合

- 帳票出力時には，パスを指定しないでファイル名だけを指定してください。
- 帳票出力時に指定するファイルは，次の表に示すように，EUR Print Manager の環境設定ファイルで設定しているフォルダに格納しておいてください。

表 16-10 帳票出力時に指定するファイルとファイルの格納先を設定する EUR Print Manager の環境設定ファイルのキー

帳票出力時に指定するファイル	EUR Print Manager の環境設定ファイルの PATH セクションのキー
接続情報ファイル	DBINFO
文書情報設定ファイル	DOCINFO

帳票出力時に指定するファイル	EUR Print Manager の環境設定ファイルの PATH セクションのキー
帳票ファイル	FORM
複数様式情報定義ファイル	MULTI
ビューアプレファレンス定義ファイル	PREFERENCE
印刷日時出力定義ファイル	PRINTDATE
EUR Print Service の環境設定ファイル	PSENV
置き換え表管理情報ファイル	REPLACEITEM
Acrobat JavaScript 定義ファイル	SCRIPTCNT
EURPM 分割定義ファイル，または EURPM 仕分け定義ファイル	SPLIT

- PDF 形式ファイルの出力先を EUR Print Manager 稼働マシンにしているときは，EUR Print Manager の環境設定ファイルの PDF キーで設定しているフォルダにファイルが出力されます。PDF キーの詳細については，「16.2.14　PDF」を参照してください。

(2)「1（フルパスモード）」を指定する場合

- 帳票出力時には，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。指定方法は次のとおりです。

  フルパスで指定する場合

  ファイル名をフルパスで指定します。なお，表 16-10 に示した EUR Print Manager の環境設定ファイルの設定は無視されます。

  相対パスで指定する場合

  表 16-10 に示した EUR Print Manager の環境設定ファイルのキーに設定している起点フォルダ下にあるファイル名を指定します。

  ファイル名だけで指定する場合

  表 16-10 に示した EUR Print Manager の環境設定ファイルのキーに設定しているフォルダにあるファイル名を指定します。

- PDF 形式ファイルの出力先を EUR Print Manager 稼働マシンにしているとき，ファイルの出力先は，次のようになります。
  - **ファイル名をフルパスで指定する場合**
    起動部品で指定したパスに出力されます。なお，環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PDF キーには指定が要りません。
  - **ファイル名を相対パスで指定する場合**
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PDF キーで設定しているフォルダを起点とし，そこから起動部品で指定したパスに出力されます。
  - **ファイル名だけを指定する場合**
    環境設定ファイル（EURPM.ini）の PATH セクションの PDF キーで設定しているフォルダに，起動部品で指定したファイル名で出力されます。

PDF キーの詳細については，「16.2.14　PDF」を参照してください。

16.2.21　TEMPFILEDEL

印刷実行時に生成した一時ファイルを削除するかどうかを指定します。

EUR Print Manager は，印刷実行時には TEMP キーで設定した作業フォルダに一時ファイルを生成できます。一時ファイルは，障害対策のために使用します。

指定できる値を次に示します。

- 0：常に削除します。
- 1：正常終了時は削除します。異常終了時は削除しません。
- 2：常に削除しません。

TEMPFILEDEL キーを省略した場合，または 0，1，2 以外の値を指定した場合は 1 が仮定されます。

16.2.22　SOCKBUFFSIZE

ソケット通信に使用する通信バッファサイズの上限を指定します。

指定できる値は，1 ～ 2,000,000 です。単位は KB です。通信バッファサイズの上限を無制限にしたい場合は，0 を指定してください。

SOCKBUFFSIZE キーを省略した場合，または 0，もしくは 1 ～ 2,000,000 以外の値を指定した場合は 64 が仮定されます。

注意事項

KEEY316-E，KEEY317-E，KEEY318-E，KEEY330-E，または KEEY335-E の通信エラーが発生し，かつ EURPM ログのエラー詳細情報に「errno=10055」が出力されているときは，ソケットのバッファが不足していることを示しています。エラーが発生したときは，SOCKBUFFSIZE キーに指定されている値を小さく（8 ～ 64）して再試行してください。なお，指定した値によっては，通信性能が変わることがあります。通信性能が劣化する場合は値を変更してチューニングしてください。

16.2.23　SPLITMODE

蓄積時に，帳票を分割または仕分けするかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- NO：分割または仕分けしないで蓄積します。
- KEY：帳票を仕分けして蓄積します。
- PAGE：帳票を分割して蓄積します。

SPLITMODE キーを省略した場合，または NO，KEY，PAGE 以外の値を指定した場合は NO が仮定されます。

なお，起動部品で帳票を分割または仕分けするかどうかを指定している場合は，起動部品の指定が優先されます。帳票を分割または仕分けするかどうかを指定する起動部品のプロパティ，メソッド，パラメタ，およびコマンドのオプションを次に示します。

- ActiveX 起動部品：SplitMode プロパティ
- Java 起動部品：setSplitMode メソッド
- COBOL 起動部品：SPLITMODE パラメタ
- コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /split オプション

注意事項

SPLITMODE キーに KEY または PAGE を指定すると，蓄積時に起動部品で分割または仕分けの設定を指定しないかぎり，すべての帳票が分割または仕分けして出力されます。

16.2.24 GENERAL

EUR Print Manager の並列処理数を指定します。指定できる値は 1 ～ 5,000 です。

GENERAL キーを省略した場合，または 1 ～ 5,000 以外の値を指定した場合は，200 が仮定されます。

GENERAL キーに正しい値を設定しても，マシン環境およびほかのプログラムの実行環境によって，設定したとおりの動作をしない場合があります。

16.2.25 EURPS

EUR Print Service の並列処理数を指定します。指定できる値は 1 ～ 5,000 です。

EURPS キーを省略した場合，または 1 ～ 5,000 以外の値を指定した場合は，1 が仮定されます。

EURPS キーに正しい値を設定しても，マシン環境およびほかのプログラムの実行環境によって，設定したとおりの動作をしない場合があります。

EUR Print Service を実行するときは，CPU 使用率が非常に高くなります。CPU に応じて EURPS キーを設定すると，高い並列処理効果が得られます。

EUR Print Manager と EUR Print Manager - Report Server を同一マシンで稼働させる場合は，次に示すキーに同じ値を指定してください。

- EUR Print Manager の環境設定ファイルの THREAD セクションに設定されている EURPS キー
- EUR Print Manager - Report Server の環境設定ファイルの THREAD セクションに設

定されている EURPS キー

16.2.26 CONNECT

意図しない接続元が，データ通信を行わないで EURPM と接続したままの状態になった場合，切断するまでの時間を指定します（タイムアウト監視）。

指定できる値は，0 ～ 3,600 です。単位は秒です。

CONNECT キーに 0 を指定した場合，タイムアウト監視はしません。

CONNECT キーを省略した場合，または 0 ～ 3,600 以外の値を指定した場合は，600（10 分）が仮定されます。

注意事項

通信に時間が掛かり，タイムアウトで切断されてしまう場合は，CONNECT キーの値（タイムアウトの監視時間）を大きくして再試行してください。
なお，指定した値によっては，意図しない接続を切断するのに時間が掛かり，その間ジョブを受け付けられなくなったり，EUR Print Manager を停止できなくなったりします。その場合は，値を変更してチューニングしてください。

16.2.27 ERRIGNORE

ソケットを接続してデータを通信しないで切断する処理（生死監視）が実行された場合に，切断を検知してもエラーを出力しない時間を指定します。

なお，何らかのデータを通信したあとに切断を検知した場合は，エラーが出力されます。

指定できる値は，0 ～ 3,600 です。単位は秒です。

ERRIGNORE キーに 0 を指定した場合，切断を検知したとき必ずエラーが出力されます。

ERRIGNORE キーを省略した場合，または 0 ～ 3,600 以外の値を指定した場合は，3 が仮定されます。

注意事項

通信ポートの監視を実行する場合，KEEY316-E のエラーが発生したときは，ERRIGNORE キーの値（切断を検知した場合にエラーを出力しない時間）を大きくして再試行してください。
なお，指定した値によっては，EUR Print Manager - Adapter との接続が何らかの不具合により切断された場合に，切断を検知できなくなることがあります。その場合は，値を変更してチューニングしてください。

16.2.28　PSENVFILENAME

EUR Print Manager のサービスごとに EUR Print Service の環境設定ファイルを指定する場合，EUR Print Service の環境設定ファイルのファイル名を指定します。

PSENVFILENAME キーの指定方法は，PATHMODE キーの設定によって異なります。PATHMODE キーの詳細については，「16.2.20　PATHMODE」を参照してください。PSENVFILENAME キーの指定方法を次に示します。

PATHMODE キーに「0（通常パスモード）」を設定する場合

ファイル名だけを指定します。

EUR Print Service の環境設定ファイルは，PSENV キーで設定したフォルダに格納してください。

PATHMODE キーに「1（フルパスモード）」を設定する場合

フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定します。

フルパスで指定する場合

ファイル名をフルパスで指定します。なお，PSENV キーには指定が要りません。

相対パスで指定する場合

PSENV キーで設定しているフォルダを起点とし，そのフォルダ下にあるファイル名を指定します。

ファイル名だけで指定する場合

PSENV キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定します。

PSENVFILENAME キーを省略した場合，EUR Print Manager から EUR Print Service の環境設定ファイルを指定しないことになります。

なお，起動部品で EUR Print Service の環境設定ファイルを指定している場合は，起動部品の指定が優先されます。EUR Print Service の環境設定ファイルを指定する起動部品のプロパティ，メソッド，パラメタ，およびコマンドのオプションを次に示します。

- ActiveX 起動部品：PSEnvFileName プロパティ
- Java 起動部品：setPSEnvFileName メソッド
- COBOL 起動部品：PSENVFILENAME パラメタ
- コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /psenvf オプション

16.2.29　PRINTDATE（FILE セクション）

印刷日時出力定義ファイル名を指定します。

PRINTDATE キーの指定方法は，PATHMODE キーの設定によって異なります。PATHMODE キーの詳細については，「16.2.20　PATHMODE」を参照してください。PRINTDATE キーの指定方法を次に示します。

PATHMODE キーに「0（通常パスモード）」を設定する場合

ファイル名だけを指定します。
印刷日時出力定義ファイルは，PATH セクションの PRINTDATE キーで設定したフォルダに格納してください。

PATHMODE キーに「1（フルパスモード）」を設定する場合

フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定します。

フルパスで指定する場合

ファイル名をフルパスで指定します。なお，PATH セクションの PRINTDATE キーには指定が要りません。

相対パスで指定する場合

PATH セクションの PRINTDATE キーで設定しているフォルダを起点とし，そのフォルダ下にあるファイル名を指定します。

ファイル名だけで指定する場合

PATH セクションの PRINTDATE キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定します。

FILE セクションの PRINTDATE キーを省略した場合，EUR Print Manager から印刷日時出力定義ファイルを指定しないことになります。この場合，印刷実行時の日時情報を帳票に出力しません。

なお，起動部品で印刷日時出力定義ファイルを指定している場合は，起動部品の指定が優先されます。印刷日時出力定義ファイルを指定する起動部品のプロパティ，メソッド，パラメタ，およびコマンドのオプションを次に示します。

- ActiveX 起動部品：PrintDateFileName プロパティ
- Java 起動部品：setPrintDateFileName メソッド
- COBOL 起動部品：PRINTDATEFILENAME パラメタ
- コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /prdatef オプション

16.2.30 SPLIT（FILE セクション）

EURPM 分割定義ファイルまたは EURPM 仕分け定義ファイル名を指定します。

SPLIT キーの指定方法は，PATHMODE キーの設定によって異なります。PATHMODE キーの詳細については，「16.2.20 PATHMODE」を参照してください。SPLIT キーの指定方法を次に示します。

PATHMODE キーに「0（通常パスモード）」を設定する場合

ファイル名だけを指定します。
EURPM 分割定義ファイルまたは EURPM 仕分け定義ファイルは，PATH セクションの SPLIT キーで設定したフォルダに格納してください。

PATHMODE キーに「1（フルパスモード）」を設定する場合

フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定します。

フルパスで指定する場合

ファイル名をフルパスで指定します。なお，PATH セクションの SPLIT キーには指定が要りません。

相対パスで指定する場合

PATH セクションの SPLIT キーで設定しているフォルダを起点とし，そのフォルダ下にあるファイル名を指定します。

ファイル名だけで指定する場合

PATH セクションの SPLIT キーで設定しているフォルダにあるファイル名を指定します。

FILE セクションの SPLIT キーを省略した場合，EUR Print Manager から EURPM 分割定義ファイルまたは EURPM 仕分け定義ファイルを指定しないことになります。

なお，起動部品で EURPM 分割定義ファイルまたは EURPM 仕分け定義ファイルを指定している場合は，起動部品の指定が優先されます。EURPM 分割定義ファイルまたは EURPM 仕分け定義ファイルを指定する起動部品のプロパティ，メソッド，パラメタ，およびコマンドのオプションを次に示します。

- ActiveX 起動部品：SplitFileName プロパティ
- Java 起動部品：setSplitFileName メソッド
- COBOL 起動部品：SPLITFILENAME パラメタ
- コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /splitf オプション

16.3 環境設定ファイル（EUR Print Manager - Adapter）

EUR Print Manager - Adapter の動作環境は，環境設定ファイル（EURPMADP.ini）で設定します。

環境設定ファイルを変更した場合は，EUR Print Manager - Adapter を使用しているプログラムを再起動してください。

環境設定ファイルの格納場所

- Windows 環境の場合
  環境設定ファイル（EURPMADP.ini）は，EUR Print Manager - Adapter のインストール先フォルダ下に作成されます。
  ファイルの内容を追加，変更する場合は，メモ帳などのテキスト編集エディタを開いて編集したあと，上書き保存してから使用してください。
- UNIX/Linux 環境の場合
  次に示す環境設定ファイル（EURPMADP.ini）のサンプルを，/opt/eurpm_adp/sample 下に提供しています。必要な内容を設定したあと，同じファイル名で /etc/opt/eurpm_adp 下に格納してください。
  なお，/etc/opt/eurpm_adp には，EUR Print Manager - Adapter を利用するユーザーが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

＜環境設定ファイル（EURPMADP.ini）のサンプルの内容＞

```
[PORT]

[IPADDRESS]
EURPM=

[ERROR]

[OPTION]
SOCKBUFFSIZE=64
DISPPRINTDLG=2

[TIMEOUT]
```

環境設定ファイルの構文

変数名=値

環境設定ファイルに指定する情報は，「"」で囲まないでください。

環境設定ファイルの指定例（Windows 環境の場合）

```
[PORT]
EURPM=22314

[IPADDRESS]
```

```
EURPM=127.0.0.1

[ERROR]
LOGFILE=C:¥EURPMADP¥Log
LOGLEVEL=4
LOGSIZE=750

[OPTION]
PRINTMODE=0
DEFAULTPRINTMODE=3
SOCKBUFFSIZE=64
DATABUFFSIZE=100
DISPPRINTDLG=2
FILEOUTPUTDESTINATION=0
SPOOLLIMIT=20120521

[TIMEOUT]
OUTPUT=300
EPFOUTPUT=300
EUROUTPUT=300
PDFOUTPUT=300
DESTLIST=300
PRTCLSLIST=300
XLSXOUTPUT=300
MERGEOUTPUT=300
```

16.3.1 EURPM（PORT セクション）

EUR Print Manager のポート番号を指定します。EURPM キーを省略した場合，22314 が仮定されます。

起動部品で印刷管理サーバのポート番号を指定している場合は，起動部品の指定が優先されます。印刷管理サーバのポート番号を指定する起動部品のプロパティ，メソッド，パラメタ，およびコマンドのオプションを次に示します。

- ActiveX 起動部品：PMServerPort プロパティ
- Java 起動部品：setPMServerPort メソッド
- COBOL 起動部品：PMSERVERPORT パラメタ
- コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /pmpn オプション

16.3.2 EURPM（IPADDRESS セクション）

EUR Print Manager が稼働するサーバの IP アドレスを指定します。255.255.255.255 形式で指定します。

EUR Print Manager と EUR Print Manager - Adapter が同じマシンで稼働する場合，EUR Print Manager と EUR Print Manager - Adapter 間のファイル転送時間を短縮できます。ファイル転送時間を短縮する場合は，「18.1.7　ファイル転送時間を省略する場合の注意」を参照してください。

起動部品で印刷管理サーバの IP アドレスを指定している場合は，起動部品の指定が優先されます。印刷管理サーバの IP アドレスを指定する起動部品のプロパティ，メソッド，

パラメタ，およびコマンドのオプションを次に示します。

- ActiveX 起動部品：PMServerAddress プロパティ
- Java 起動部品：setPMServerAddress メソッド
- COBOL 起動部品：PMSERVERADDR パラメタ
- コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /pmip オプション

16.3.3 LOGFILE

ログファイル（EURPMADP.log）の出力先フォルダを指定します。

LOGFILE キーを省略した場合，次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
  EUR Print Manager - Adapter のインストール先フォルダ下の Log フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
  /var/opt/eurpm_adp

16.3.4 LOGLEVEL

実行ログの出力レベルを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：ログ出力しません。
- 4：起動，終了，実行時パラメタ，エラーを出力します。
- 8：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告を出力します。
- 16：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告，情報を出力します。

LOGLEVEL キーを省略した場合は，8 が仮定されます。

注意事項

出力レベルを 16 に指定すると，トレース情報が大量に出力されるため，性能が落ちるおそれがあります。障害調査時以外には指定しないでください。

16.3.5 LOGSIZE

ログファイル（EURPMADP.log）のファイルサイズの上限を指定します。指定できる値は 750 ～ 2,000,000 です。単位は KB です。

LOGSIZE キーを省略した場合，または指定できない値を指定した場合は 750 が仮定されます。

16.3.6 PRINTMODE

印刷方法が未指定の場合の印刷方法を指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：デフォルト印刷方式※で印刷します。
- 1：クライアント PC で印刷します。
- 2：蓄積します。
- 3：拠点サーバで印刷します。
- 4：印刷管理サーバ直接印刷方式で印刷します。
- 5：クライアント PC で配布印刷します。

注※

「0（デフォルト印刷方式）」を定義する場合は，環境設定ファイル（EURPMADP.ini）で OPTION セクションの DEFAULTPRINTMODE キーに値を設定してください。

PRINTMODE キーを省略した場合，または 0，1，2，3，4，5 以外の値を指定した場合は 0 が仮定されます。

起動部品で印刷方法を指定している場合は，起動部品の指定が優先されます。印刷方法を指定する起動部品のプロパティ，メソッド，パラメタ，およびコマンドのオプションを次に示します。

- ActiveX 起動部品：PrintMode プロパティ
- Java 起動部品：setPrintMode メソッド
- COBOL 起動部品：PrintReport 関数（PRINTMODE パラメタ）
- コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /pm オプション

16.3.7 DEFAULTPRINTMODE

デフォルト印刷方式を指定します。

指定できる値を次に示します。

- 1：クライアント PC で印刷します。
- 2：蓄積します。
- 3：拠点サーバで印刷します。
- 4：印刷管理サーバ直接印刷方式で印刷します。
- 5：クライアント PC で配布印刷します。

DEFAULTPRINTMODE キーを省略した場合，または 1，2，3，4，5 以外の値を指定した場合は 3 が仮定されます。

16.3.8 SOCKBUFFSIZE

ソケット通信に使用する通信バッファサイズの上限を指定します。

指定できる値は，1 ～ 2,000,000 です。単位は KB です。通信バッファサイズの上限を無制限にしたい場合は，0 を指定してください。

SOCKBUFFSIZE キーを省略した場合，または 0，もしくは 1 ～ 2,000,000 以外の値を指定した場合は 64 が仮定されます。

SOCKBUFFSIZE キーを指定するときの注意事項を次に示します。

- KEEY208-E の通信エラーが発生し，かつ EURPM ログのエラー詳細情報に「errno=10055」が出力されているときは，ソケットのバッファが不足していることを示しています。エラーが発生したときは，SOCKBUFFSIZE キーに指定されている値を小さく（8 ～ 64）して再試行してください。
  なお，指定した値によっては，通信性能が変わることがあります。通信性能が劣化する場合は値を変更してチューニングしてください。

16.3.9 DATABUFFSIZE

ファイルを転送するときの分割転送のサイズを指定します。

指定できる値は，1 ～ 10,000 です。単位は KB です。

DATABUFFSIZE キーを省略した場合，または 0，もしくは 1 ～ 10,000 以外の値を指定した場合は 100 が仮定されます。

DATABUFFSIZE キーを指定するときの注意事項を次に示します。

- EUR Print Manager - Adapter でファイル転送が実行されるプロパティ（ファイル）を指定したジョブを実行する場合，ファイル転送されるファイルごとに，指定したサイズの 10 ～ 15 倍のメモリが EUR Print Manager - Adapter，および EUR Print Manager 稼働マシンの両方に必要となります。
  - PDF 形式ファイル出力の場合：約 15 倍
  - PDF 形式ファイル以外のファイル出力，および印刷実行の場合：約 10 倍

  転送の対象になるファイルを次に示します。
  - マッピングデータファイル（可変値記号ファイル）
  - ユーザ定義データファイル（可変値記号ファイル）
  - 文書しおり定義ファイル
  - しおり定義ファイル
  - 仕分け定義情報ファイル
  - PDF 仕分け定義ファイル
  - 暗号化設定ファイル
  - 帳票セット指定ファイルで指定したマッピングデータファイル，ユーザ定義データ

ファイル，しおり定義ファイル
- EPF 形式ファイル

- EUR Print Manager の印刷およびファイル出力実行時に，KEEY314-S のメモリ不足エラーが発生した場合は，DATABUFFSIZE キーの値（ファイル転送時の分割転送サイズ）を小さくして再試行してください。
  なお，指定した値によっては，通信性能が変わることがあります。通信性能が劣化する場合は値を変更してチューニングしてください。
- EUR Print Manager - Adapter の印刷およびファイル出力実行時に，KEEY215-S または KEEY906-E のメモリ不足エラー，もしくは KEEY217-S のシステムエラーが発生した場合は，DATABUFFSIZE キーの値（ファイル転送時の分割転送サイズ）を小さくして再試行してください。
  なお，指定した値によっては，通信性能が変わることがあります。通信性能が劣化する場合は値を変更してチューニングしてください。

16.3.10 DISPPRINTDLG

クライアント PC で印刷する場合のダイアログの表示モードを指定します。

指定できる値と印刷時の動作を次に示します。

- 0：印刷先指定ダイアログを表示します（対話型印刷）。
  プレビューボタンを選択すると，プレビューウィンドウが表示されます。
- 1：直接印刷を実行します（自動印刷）。
  印刷実行中に印刷中のダイアログを表示します。
- 2：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示）。
  印刷メニューまたは印刷ボタンを選択すると，印刷先指定ダイアログが表示されます。
- 3：直接印刷を実行します（全自動印刷）。
  印刷実行中に印刷中のダイアログを表示しません。
- 4：プレビューウィンドウを表示します（対話型印刷プレビュー表示限定）。
  印刷は実行できません。

DISPPRINTDLG キーを省略した場合，または 0 ～ 4 以外の値を指定した場合は 0 が仮定されます。

起動部品でダイアログの表示モードを指定している場合は，起動部品の指定が優先されます。ダイアログの表示モードを指定する起動部品のプロパティ，メソッド，パラメタ，およびコマンドのオプションを次に示します。

- ActiveX 起動部品：DispPrintDlg プロパティ
- Java 起動部品：setDispPrintDlg メソッド
- COBOL 起動部品：PrintReport 関数（DISPPRINTDLG パラメタ）
- コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /dialog オプション

16.3.11 FILEOUTPUTDESTINATION

PDF 形式ファイルの出力先を，EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンにするか，または EUR Print Manager 稼働マシンにするかのどちらかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：EUR Print Manager - Adapter 稼働マシンに出力します。
- 1：EUR Print Manager 稼働マシンに出力します。

FILEOUTPUTDESTINATION キーを省略した場合，または 0，1 以外の値を指定した場合は 0 が仮定されます。

起動部品で PDF 形式ファイルの出力先を指定している場合は，起動部品の指定が優先されます。PDF 形式ファイルの出力先を指定する起動部品のプロパティ，メソッド，パラメタ，およびコマンドのオプションを次に示します。

- ActiveX 起動部品：FileOutputDestination プロパティ
- Java 起動部品：setFileOutputDestination メソッド
- COBOL 起動部品：FILEOUTPUTDESTINATION パラメタ
- コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /foutdest オプション

なお，EUR Print Manager 稼働マシンに PDF 形式ファイルを出力する場合，PDF の出力先フォルダは，起動部品の指定値だけでなく，EUR Print Manager の環境設定ファイルの PATHMODE キーおよび PDF キーの設定値によって決まります。PATHMODE キーの詳細については「16.2.20　PATHMODE」を，PDF キーの詳細については「16.2.14　PDF」を参照してください。

16.3.12 SPOOLLIMIT

蓄積ファイルの蓄積期限日を指定します。日付または日数で指定してください。

指定方法を次に示します。

日付で指定する場合

- 「YYYYMMDD」の形式で指定してください。
- 年（西暦）は 4 けた，月と日は 2 けたで入力します。
- 月，または日が 1 ～ 9 の場合は，ゼロ埋めをして入力します。
- 指定できる値の上限は，20380118（2038 年 1 月 18 日）です。

（指定例）20120521，20141008

日数で指定する場合

- 「+XXX」の形式で指定してください。
- 「XXX」には，蓄積実行時からの保管日数を指定します。指定できる値は 000 ～ 999 です。

- 2038 年 1 月 18 日を超える日数は指定できません。

（指定例）+030，+999

SPOOLLIMIT キーを省略した場合，または指定できない値を指定した場合は，蓄積時から 30 日後が蓄積期限日として設定されます。

起動部品で蓄積ファイルの蓄積期限日を指定している場合は，起動部品の指定が優先されます。蓄積期限日を指定する起動部品のプロパティ，メソッド，パラメタ，およびコマンドのオプションを次に示します。

- ActiveX 起動部品：SpoolLimit プロパティ
- Java 起動部品：setSpoolLimit メソッド
- COBOL 起動部品：PrintReport 関数（SPOOLLIMIT パラメタ）
- コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /lm オプション

16.3.13 OUTPUT

印刷または蓄積を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。指定できる値は，0 ～ 86,400（24 時間）です。単位は秒です。

OUTPUT キーを省略した場合，0 を指定した場合，または 0 ～ 86,400 以外の値を指定した場合は，タイムアウト監視はしません。

16.3.14 EPFOUTPUT

EPF 形式ファイル生成を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。指定できる値は，0 ～ 86,400（24 時間）です。単位は秒です。

EPFOUTPUT キーを省略した場合，0 を指定した場合，または 0 ～ 86,400 以外の値を指定した場合は，タイムアウト監視はしません。

16.3.15 EUROUTPUT

EUR 形式ファイル生成を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。指定できる値は，0 ～ 86,400（24 時間）です。単位は秒です。

EUROUTPUT キーを省略した場合，0 を指定した場合，または 0 ～ 86,400 以外の値を指定した場合は，タイムアウト監視はしません。

16.3.16 PDFOUTPUT

PDF 形式ファイル生成を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。指定できる値は，0 ～ 86,400（24 時間）です。単位は秒です。

PDFOUTPUT キーを省略した場合，0 を指定した場合，または 0 ～ 86,400 以外の値を指定した場合は，タイムアウト監視はしません。

16.3.17 DESTLIST

出力先一覧を取得するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。指定できる値は，0 ～ 86,400（24 時間）です。単位は秒です。

DESTLIST キーを省略した場合，0 を指定した場合，または 0 ～ 86,400 以外の値を指定した場合は，タイムアウト監視はしません。

16.3.18 PRTCLSLIST

プリンタクラス一覧，プリンタ一覧，またはトレイ一覧を取得するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。指定できる値は，0 ～ 86,400（24 時間）です。単位は秒です。

PRTCLSLIST キーを省略した場合，0 を指定した場合，または 0 ～ 86,400 以外の値を指定した場合は，タイムアウト監視はしません。

16.3.19 XLSXOUTPUT

Excel 形式ファイル生成を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。指定できる値は，0 ～ 86,400（24 時間）です。単位は秒です。

XLSXOUTPUT キーを省略した場合，0 を指定した場合，または 0 ～ 86,400 以外の値を指定した場合は，タイムアウト監視はしません。

16.3.20 MERGEOUTPUT

複数の EPF 形式ファイルの統合を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。指定できる値は，0 ～ 86,400（24 時間）です。単位は秒です。

MERGEOUTPUT キーを省略した場合，0 を指定した場合，または 0 ～ 86,400 以外の値を指定した場合は，タイムアウト監視はしません。

16.4 環境設定ファイル（EUR Print Manager - Report Server）

EUR Print Manager - Report Server の動作環境は，環境設定ファイル（EURPMLS.ini）で設定します。

環境設定ファイルを変更した場合は，EUR Print Manager - Report Server を再起動してください。

環境設定ファイルの格納場所

- Windows 環境の場合
  環境設定ファイル（EURPMLS.ini）は，EUR Print Manager - Report Server のインストール先フォルダ下に作成されます。
  ファイルの内容を追加，変更する場合は，メモ帳などのテキスト編集エディタを開いて編集したあと，上書き保存してから使用してください。
- UNIX/Linux 環境の場合
  次に示す環境設定ファイル（EURPMLS.ini）のサンプルを，/opt/eurpmls/sample 下に提供しています。必要な内容を設定したあと，同じファイル名で /etc/opt/eurpmls 下に格納してください。
  なお，/etc/opt/eurpmls には，EUR Print Manager - Report Server を利用するユーザーが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

＜環境設定ファイル（EURPMLS.ini）のサンプルの内容＞

```
[PORT]

[PATH]

[ERROR]

[OPTION]
SOCKBUFFSIZE=64

[THREAD]

[TIMEOUT]
```

環境設定ファイルの構文

変数名=値

環境設定ファイルに指定する情報は，「"」で囲まないでください。

環境設定ファイルの指定例

```
[PORT]
EURPMLS=22313
EURPMCL=23035
```

```
[PATH]
CONF=C:¥EURPMLS¥Conf
TEMP=C:¥EURPMLS¥Temp
ESF=C:¥EURPMLS¥ESF

[ERROR]
LOGFILE=C:¥EURPMLS¥Log
LOGLEVEL=4
LOGSIZE=750

[OPTION]
TEMPFILEDEL=1
ESFAUTODEL=1
SOCKBUFFSIZE=64
SPLOUTLINELIMIT=0
ESFID=0

[THREAD]
GENERAL=200
EURPS=1
PRINTEXECMODE=0

[TIMEOUT]
CONNECT=300
ERRIGNORE=300
```

16.4.1 EURPMLS

EUR Print Manager - Report Server のポート番号を指定します。EURPMLS キーを省略した場合は，22313 が仮定されます。

16.4.2 EURPMCL

EUR Print Manager - Client のポート番号を指定します。EURPMCL キーを省略した場合は，23035 が仮定されます。

16.4.3 CONF

構成定義ファイルがあるフォルダを指定します。

CONF キーを省略した場合，次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
  EUR Print Manager - Report Server のインストール先フォルダ下の Conf フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
  /etc/opt/eurpmls/Conf

16.4.4 TEMP

EUR Print Manager - Report Server の作業フォルダを指定します。

TEMP キーを省略した場合，次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
  EUR Print Manager - Report Server のインストール先フォルダ下の Temp¥Server フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
  /tmp

16.4.5 ESF

EUR Print Manager - Report Server の蓄積フォルダを絶対パスで指定します。指定する蓄積フォルダは EUR Print Manager - Report Server サービスのアカウントが書き込める必要があります。

ESF キーを省略した場合，次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
  EUR Print Manager - Report Server のインストール先フォルダ下の ESF
- UNIX/Linux 環境のとき
  /etc/opt/eurpmls/ESF

蓄積フォルダには蓄積するたびに蓄積ファイルが格納されるので，蓄積専用のディスクを用意して，ESF キーに指定することをお勧めします。

16.4.6 LOGFILE

ログファイル（EURPMLS.log）の出力先フォルダを指定します。

LOGFILE キーを省略した場合，次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
  EUR Print Manager - Report Server のインストール先フォルダ下の Log フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
  /var/opt/eurpmls

16.4.7 LOGLEVEL

実行ログの出力レベルを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：ログ出力しません。
- 4：起動，終了，実行時パラメタ，エラーを出力します。
- 8：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告を出力します。
- 16：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告，情報を出力します。

LOGLEVEL キーを省略した場合，8 が仮定されます。

注意事項

出力レベルを 16 に指定すると，トレース情報が大量に出力されるため，性能が落ちるおそれがあります。障害調査時以外には指定しないでください。

16.4.8 LOGSIZE

ログファイル（EURPMLS.log）のファイルサイズの上限を指定します。指定できる値は 750 ～ 2,000,000 です。単位は KB です。

LOGSIZE キーを省略した場合，または 750 ～ 2,000,000 以外の値を指定した場合は，750 が仮定されます。

16.4.9 TEMPFILEDEL

印刷実行時に生成した一時ファイルを削除するかどうかを指定します。

EUR Print Manager - Report Server は，印刷実行時には TEMP キーで設定した作業フォルダに一時ファイルを生成できます。一時ファイルは，障害対策のために使用します。

指定できる値を次に示します。

- 0：常に削除します。
- 1：正常終了時は削除します。異常終了時は削除しません。
- 2：常に削除しません。

TEMPFILEDEL キーを省略した場合，または 0，1，2 以外の値を指定した場合は 1 が仮定されます。

16.4.10 ESFAUTODEL

期限が切れた蓄積ファイルを自動削除するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：自動削除しません。
- 1：自動削除します。

ESFAUTODEL キーを省略した場合，または 0，1 以外の値を指定した場合は 1 が仮定されます。

16.4.11 SOCKBUFFSIZE

ソケット通信に使用する通信バッファサイズの上限を指定します。

指定できる値は，1 ～ 2,000,000 です。単位は KB です。通信バッファサイズの上限を無制限にしたい場合は，0 を指定してください。

SOCKBUFFSIZE キーを省略した場合，または 0，もしくは 1 ～ 2,000,000 以外の値を指定した場合は 64 が仮定されます。

注意事項

KEEY426-E，KEEY459-E，または KEEY462-E の通信エラーが発生し，かつ EURPM ログのエラー詳細情報に「errno=10055」が出力されているときは，ソケットのバッファが不足していることを示しています。エラーが発生したときは，SOCKBUFFSIZE キーに指定されている値を小さく（8 ～ 64）して再試行してください。
なお，指定した値によっては，通信性能が変わることがあります。通信性能が劣化する場合は値を変更してチューニングしてください。

16.4.12 SPLOUTLINELIMIT

蓄積ファイルの一覧を取得する場合の上限時間を指定します。指定した時間を経過すると，一覧を取得できなくなります。

指定できる値は，0 または 60 ～ 3,600 です。単位は秒です。取得時間を制限しない場合は，0 を指定してください。

SPLOUTLINELIMIT キーを省略した場合，または 60 ～ 3,600 以外の値を指定した場合は 0 が仮定されます。

16.4.13 ESFID

複数の EUR Print Manager - Report Server が蓄積フォルダを共有する場合の管理 ID を指定します。管理 ID には EUR Print Manager - Report Server ごとに異なる値を指定してください。同じ値を指定した場合，蓄積フォルダを正常に操作できません。

指定できる値は，0 ～ 99 です。

ESFID キーを省略した場合，または 0 ～ 99 以外の値を指定した場合は 0 が仮定されます。

16.4.14 GENERAL

EUR Print Manager - Report Server の並列処理数を指定します。指定できる値は 1 ～ 5,000 です。

GENERAL キーを省略した場合，または 1 ～ 5,000 以外の値を指定した場合は，200 が仮定されます。

GENERAL キーに正しい値を設定しても，マシン環境およびほかのプログラムの実行環境によって，設定したとおりの動作をしない場合があります。

16.4.15 EURPS

EUR Print Service の並列処理数を指定します。指定できる値は 1 ～ 5,000 です。

EURPS キーを省略した場合，または 1 ～ 5,000 以外の値を指定した場合は，1 が仮定されます。

EURPS キーに正しい値を設定しても，マシン環境およびほかのプログラムの実行環境によって，設定したとおりの動作をしない場合があります。

EUR Print Service を実行するときは，CPU 使用率が非常に高くなります。CPU に応じて EURPS キーを設定すると，高い並列処理効果が得られます。

EUR Print Manager と EUR Print Manager - Report Server を同一マシンで稼働させる場合は，次に示すキーに同じ値を指定してください。

- EUR Print Manager の環境設定ファイルの THREAD セクションに設定されている EURPS キー
- EUR Print Manager - Report Server の環境設定ファイルの THREAD セクションに設定されている EURPS キー

16.4.16 PRINTEXECMODE

EPF 形式ファイルの印刷処理をスレッドで行うか，またはプロセスを起動して行うかのどちらかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：スレッドで行います。
- 1：プロセスを起動して行います。

PRINTEXECMODE キーを省略した場合，または 0，1 以外の値を指定した場合は 0 が仮定されます。

1 を指定したとき，起動されたプロセスの実行ログは，EUR Print Manager - Report Server のログファイル「EURPMLS.log」に出力されます。

参考

連続して印刷すると，メモリ不足のエラーになることがあります。連続実行によるメモリ不足を回避したい場合は，PRINTEXECMODE キーに 1 を指定してください。ただし，メモリ不足は回避できますが，印刷処理時間の性能は，帳票によって 1% ～ 50% 程度劣化します。
Windows Server 2003 x64，および Windows Server 2003 R2 x64 の場合，
PRINTEXECMODE キーに 0 を指定するとメモリ不足のエラーが発生しやすくなります。
メモリ不足を回避するときは，PRINTEXECMODE キーに 1 を指定することを推奨します。
なお，印刷処理でメモリが解放されないという現象については，Microsoft(R) 社から配布される修正モジュールによって解消される場合もあります。

16.4.17 CONNECT

意図しない接続元が，データ通信を行わないで EURPM-RS と接続したままの状態になった場合，切断するまでの時間を指定します（タイムアウト監視）。

指定できる値は，0 ～ 3,600 です。単位は秒です。

CONNECT キーに 0 を指定した場合，タイムアウト監視はしません。

CONNECT キーを省略した場合，または 0 ～ 3,600 以外の値を指定した場合は，600（10 分）が仮定されます。

注意事項

通信に時間が掛かり，タイムアウトで切断されてしまう場合は，CONNECT キーの値（タイムアウトの監視時間）を大きくして再試行してください。
なお，指定した値によっては，意図しない接続を切断するのに時間が掛かり，その間ジョブを受け付けられなくなったり，EUR Print Manager - Report Server を停止できなくなったりします。その場合は，値を変更してチューニングしてください。

16.4.18 ERRIGNORE

ソケットを接続してデータを通信しないで切断する処理（生死監視）が実行された場合に，切断を検知してもエラーを出力しない時間を指定します。

なお，何らかのデータを通信したあとに切断を検知した場合は，エラーが出力されます。

指定できる値は，0 ～ 3,600 です。単位は秒です。

ERRIGNORE キーに 0 を指定した場合，切断を検知したとき必ずエラーが出力されます。

ERRIGNORE キーを省略した場合，または 0 ～ 3,600 以外の値を指定した場合は，3 が仮定されます。

注意事項

通信ポートの監視を実行する場合，KEEY426-E のエラーが発生したときは，ERRIGNORE キーの値（切断を検知した場合にエラーを出力しない時間）を大きくして再試行してください。
なお，指定した値によっては，EUR Print Manager および EUR Print Manager - Report Server Adapter との接続が何らかの不具合により切断された場合に，切断を検知できなくなることがあります。その場合は，値を変更してチューニングしてください。

16.5　環境設定ファイル（EUR Print Manager - Report Server Adapter）

EUR Print Manager - Report Server Adapter の動作環境は，環境設定ファイル（EURPMLSADP.ini）で設定します。

環境設定ファイルを変更した場合は，EUR Print Manager - Report Server Adapter を使用しているプログラムを再起動してください。

環境設定ファイルの格納場所

- Windows 環境の場合
  環境設定ファイル（EURPMLSADP.ini）は，EUR Print Manager - Report Server Adapter のインストール先フォルダ下に作成されます。
  ファイルの内容を追加，変更する場合は，メモ帳などのテキスト編集エディタを開いて編集したあと，上書き保存してから使用してください。
- UNIX/Linux 環境の場合
  次に示す環境設定ファイル（EURPMLSADP.ini）のサンプルを，/etc/opt/eurpmls_adp/sample 下に提供しています。必要な内容を設定したあと，同じファイル名で /etc/opt/eurpmls_adp 下に格納してください。
  なお，/etc/opt/eurpmls_adp には，EUR Print Manager - Report Server Adapter を利用するユーザーが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

＜環境設定ファイル（EURPMLSADP.ini）のサンプルの内容＞

```
[PORT]

[IPADDRESS]
EURPMLS=

[ERROR]

[TIMEOUT]

[PATH]

[OPTION]
SOCKBUFFSIZE=64
```

環境設定ファイルの構文

変数名=値

環境設定ファイルに指定する情報は，「"」で囲まないでください。

環境設定ファイルの指定例（Windows 環境の場合）

```
[PORT]
EURPMLS=22313
```

```
[IPADDRESS]
EURPMLS=127.0.0.1

[ERROR]
LOGFILE=C:¥EURPMLSADP¥Log
LOGLEVEL=4
LOGSIZE=750

[TIMEOUT]
PRINT=300
GETFILE=30
FILELIST=30
FILEOPERATE=30
DELETE=30
PRTCLSLIST=30

[PATH]
OUTPUTFILE=C:¥EURPMLSADP¥OutputFile

[OPTION]
SOCKBUFFSIZE=64
```

16.5.1 EURPMLS（PORT セクション）

EUR Print Manager - Report Server のポート番号を指定します。EURPMLS キーを省略した場合，22313 が仮定されます。

16.5.2 EURPMLS（IPADDRESS セクション）

EUR Print Manager - Report Server が稼働するサーバの IP アドレスを 255.255.255.255 形式で指定します。ServerAddress プロパティを指定していた場合は，ServerAddress プロパティの設定が有効になります。

EUR Print Manager - Report Server と EUR Print Manager - Report Server Adapter が同じマシンで稼働する場合，EUR Print Manager - Report Server と EUR Print Manager - Report Server Adapter 間のファイル転送時間を短縮できます。ファイル転送時間を短縮する場合は，「18.1.7　ファイル転送時間を省略する場合の注意」を参照してください。

EURPMLS キーと RS-ActiveX 起動部品の ServerAddress プロパティ，または RS-Java 起動部品の setServerAddress メソッドが設定されていないとき，次に示すメソッドのどれかを実行するとエラー（KEEY502-E）になります。

- RS-ActiveX 起動部品
  DeleteSpoolFile メソッド，GetPrinterClassList メソッド，GetPrinterList メソッド，GetSpoolFile メソッド，GetSpoolFileAttribute メソッド，GetSpoolFileOutline メソッド，GetTrayList メソッド，PrintSpoolReport メソッド，SetSpoolFileAttribute メソッド
- RS-Java 起動部品
  deleteSpoolFile メソッド，getPrinterClassList メソッド，getPrinterList メソッド，

getSpoolFile メソッド，getSpoolFileAttribute メソッド，getSpoolFileOutline メソッド，getTrayList メソッド，printSpoolReport メソッド，setSpoolFileAttribute メソッド

16.5.3 LOGFILE

ログファイル（EURPMLSADP.log）の出力先フォルダを指定します。

LOGFILE キーを省略した場合，次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
  EUR Print Manager - Report Server Adapter のインストール先フォルダ下の Log フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
  /var/opt/eurpmls_adp

16.5.4 LOGLEVEL

実行ログの出力レベルを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：ログ出力しません。
- 4：起動，終了，実行時パラメタ，エラーを出力します。
- 8：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告を出力します。
- 16：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告，情報を出力します。

LOGLEVEL キーを省略した場合は，8 が仮定されます。

注意事項

出力レベルを 16 に指定すると，トレース情報が大量に出力されるため，性能が落ちるおそれがあります。障害調査時以外には指定しないでください。

16.5.5 LOGSIZE

ログファイル（EURPMLSADP.log）のファイルサイズの上限を指定します。指定できる値は 750 ～ 2,000,000 です。単位は KB です。

LOGSIZE キーを省略した場合，または 750 ～ 2,000,000 以外の値を指定した場合は 750 が仮定されます。

16.5.6 PRINT

EUR Print Manager - Report Server に蓄積ファイルの印刷を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。指定できる値は，0 ～ 86,400（24 時間）です。単位は秒です。

PRINT キーを省略した場合，0 を指定した場合，または 0 ～ 86,400 以外の値を指定した場合は，タイムアウト監視はしません。

16.5.7 GETFILE

EUR Print Manager - Report Server に蓄積ファイルの取得を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。指定できる値は，0 ～ 600（10 分）です。単位は秒です。

GETFILE キーを省略した場合，30（秒）が仮定されます。

0 を指定した場合，または 0 ～ 600 以外の値を指定した場合は，タイムアウト監視はしません。

16.5.8 FILELIST

EUR Print Manager - Report Server から蓄積ファイル一覧を取得するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。指定できる値は，0 ～ 600（10 分）です。単位は秒です。

FILELIST キーを省略した場合，30（秒）が仮定されます。

0 を指定した場合，または 0 ～ 600 以外の値を指定した場合は，タイムアウト監視はしません。

16.5.9 FILEOPERATE

EUR Print Manager - Report Server から蓄積ファイルの属性の取得・設定，および蓄積ファイルの削除をするときの通信タイムアウト監視時間を指定します。指定できる値は，0 ～ 600（10 分）です。単位は秒です。

FILEOPERATE キーを省略した場合，30（秒）が仮定されます。

0 を指定した場合，または 0 ～ 600 以外の値を指定した場合は，タイムアウト監視はしません。

16.5.10 DELETE

EUR Print Manager - Report Server に期限が切れた蓄積ファイル一括削除を要求するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。指定できる値は，0 ～ 600（10 分）です。単位は秒です。

DELETE キーを省略した場合，30（秒）が仮定されます。

0 を指定した場合，または 0 ～ 600 以外の値を指定した場合は，タイムアウト監視はしません。

16.5.11 PRTCLSLIST

EUR Print Manager - Report Server からプリンタクラス一覧，プリンタ一覧，トレイ一覧を取得するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。指定できる値は，0 ～ 600（10 分）です。単位は秒です。

PRTCLSLIST キーを省略した場合，30（秒）が仮定されます。

0 を指定した場合，または 0 ～ 600 以外の値を指定した場合は，タイムアウト監視はしません。

16.5.12 OUTPUTFILE

蓄積ファイルを取得するフォルダを指定します。RS-ActiveX 起動部品の OutputFilePath プロパティ，または RS-Java 起動部品の setOutputFilePath メソッドを指定していた場合は，OutputFilePath プロパティまたは setOutputFilePath メソッドの設定が有効になります。

OUTPUTFILE キーと RS-ActiveX 起動部品の OutputFilePath プロパティ，または RS-Java 起動部品の setOutputFilePath メソッドが設定されていないとき，次に示すメソッドを実行するとエラー（KEEY502-E）になります。

- RS-ActiveX 起動部品
  GetSpoolFile メソッド
- RS-Java 起動部品
  getSpoolFile メソッド

16.5.13 SOCKBUFFSIZE

ソケット通信に使用する通信バッファサイズの上限を指定します。

指定できる値は，1 ～ 2,000,000 です。単位は KB です。通信バッファサイズの上限を無制限にしたい場合は，0 を指定してください。

SOCKBUFFSIZE キーを省略した場合，または 0，もしくは 1 ～ 2,000,000 以外の値を指定した場合は 64 が仮定されます。

注意事項

KEEY503-E の通信エラーが発生し，かつ EURPM ログのエラー詳細情報に「errno=10055」が出力されているときは，ソケットのバッファが不足していることを示しています。エラーが発生したときは，SOCKBUFFSIZE キーに指定されている値を小さく（8 ～ 64）して再試行してください。
なお，指定した値によっては，通信性能が変わることがあります。通信性能が劣化する場合は値を変更してチューニングしてください。

16.6　環境設定ファイル（蓄積管理 GUI）

蓄積管理 GUI の動作環境は，環境設定ファイル（EURPMRSGUI.ini）で設定します。

環境設定ファイルを変更した場合は，蓄積管理 GUI を再起動してください。

環境設定ファイルの格納場所

- Windows 環境の場合
  環境設定ファイル（EURPMRSGUI.ini）は，EUR Print Manager - Report Server Adapter のインストール先フォルダ下に作成されます。
  ファイルの内容を追加，変更する場合は，メモ帳などのテキスト編集エディタを開いて編集したあと，上書き保存してから使用してください。
- UNIX/Linux 環境の場合
  次に示す環境設定ファイル（EURPMRSGUI.ini）のサンプルを，/etc/opt/eurpmls_adp/sample 下に提供しています。必要な内容を設定したあと，同じファイル名で /etc/opt/eurpmls_adp 下に格納してください。

なお，/etc/opt/eurpmls_adp には，EUR Print Manager - Report Server Adapter を利用するユーザーが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

＜環境設定ファイル（EURPMRSGUI.ini）のサンプルの内容＞

```
[OPTION]
```

環境設定ファイルの構文

変数名=値

環境設定ファイルに指定する情報は，「"」で囲まないでください。

環境設定ファイルの指定例（Windows 環境の場合）

```
[OPTION]
PATH=http://192.168.1.1/EURPMRSGUI/USER/
PATH_MACHINE=http://192.168.1.1/EURPMRSGUI/MACHINE/
EPFDATAMAXSIZE=1000000
DEFAULTPRINTDLG=YES
```

16.6.1　PATH

EUR Print Manager - Client Print ActiveX および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX をダウンロードパッケージからインストールする場合に，ダウンロードパッケージ（cab ファイル）の格納場所の URL を指定します。

クライアントインストール，または MSI インストーラによってインストールする場合は，cab ファイルの格納場所を指定する必要はありません。

PATH キーを省略した場合は，ダウンロードパッケージによるインストールは実施されません。

16.6.2 PATH_MACHINE

EUR Print Manager - Client Print ActiveX および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX をダウンロードパッケージからインストールする場合で，クライアント PC の環境によってマシン単位でのインストールとユーザー単位でのインストールを切り替えるときに，マシン単位インストール用のダウンロードパッケージ（cab ファイル）の格納場所の URL を指定します。

PATH_MACHINE キーを指定した場合，PATH キーにはユーザー単位インストール用のダウンロードパッケージの格納場所の URL を必ず指定してください。PATH キーを省略した場合は，PATH_MACHINE キーを指定していても，ダウンロードパッケージによるインストールは実施されません。

クライアントインストール，または MSI インストーラによってインストールする場合，およびインストール方法の切り替えが不要な場合は，PATH_MACHINE キーを指定する必要はありません。

PATH_MACHINE キーを省略した場合は，PATH キーの指定内容だけが有効になります。

16.6.3 EPFDATAMAXSIZE

ダウンロードする EPF 形式ファイルのファイルサイズの上限を指定します。指定できる値は 750 ～ 2,000,000 です。単位は KB です。

EPFDATAMAXSIZE キーを省略した場合，または 750 ～ 2,000,000 以外の値を指定した場合は 2,000,000 が仮定されます。

16.6.4 DEFAULTPRINTDLG

［このマシンで印刷］を選択して印刷する場合に表示されるダイアログを，EUR Print Manager のプリンタ選択ダイアログにするか，または OS の印刷ダイアログにするかのどちらかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- YES：印刷実行時，OS の印刷ダイアログを表示します。
- NO：印刷実行時，EUR Print Manager のプリンタ選択ダイアログを表示します。

DEFAULTPRINTDLG キーを省略した場合，または指定できる値以外の文字を指定した場合は，YES が仮定されます。

16.7 環境設定ファイル（EUR Print Manager - Client）

EUR Print Manager - Client の動作環境は，環境設定ファイル（EURPMCL.ini）で設定します。

環境設定ファイルを変更した場合は，EUR Print Manager - Client を再起動してください。

環境設定ファイルの格納場所

環境設定ファイル（EURPMCL.ini）は，EUR Print Manager - Client のインストール先フォルダ下に作成されます。
ファイルの内容を追加，変更する場合は，メモ帳などのテキスト編集エディタを開いて編集したあと，上書き保存してから使用してください。

＜環境設定ファイル（EURPMCL.ini）のサンプルの内容＞

```
[PORT]

[PATH]

[ERROR]

[OPTION]
SOCKBUFFSIZE=64

[TIMEOUT]
```

環境設定ファイルの構文

変数名=値

環境設定ファイルに指定する情報は，「"」で囲まないでください。

環境設定ファイルの指定例

```
[PORT]
EURPMCL=23035

[PATH]
CONF=C:¥EURPMCL¥Conf
TEMP=C:¥EURPMCL¥Temp

[ERROR]
LOGFILE=C:¥EURPMCL¥Log
LOGLEVEL=4
LOGSIZE=750
EVENTLOGLEVEL=0

[OPTION]
TEMPFILEDEL=1
SOCKBUFFSIZE=64
```

```
[TIMEOUT]
CONNECT=300
ERRIGNORE=300
```

16.7.1 EURPMCL

EUR Print Manager - Client のポート番号を指定します。EURPMCL キーを省略した場合は，23035 が仮定されます。

16.7.2 CONF

構成定義ファイルがあるフォルダを指定します。

CONF キーを省略した場合，EUR Print Manager - Client のインストール先フォルダ下の Conf フォルダが仮定されます。

16.7.3 TEMP

EUR Print Manager - Client の作業フォルダを指定します。

TEMP キーを省略した場合，EUR Print Manager - Client のインストール先フォルダ下の Temp¥Client フォルダが仮定されます。

16.7.4 LOGFILE

ログファイル（EURPMCL.log）の出力先フォルダを指定します。

LOGFILE キーを省略した場合，EUR Print Manager - Client のインストール先フォルダ下の Log フォルダが仮定されます。

16.7.5 LOGLEVEL

実行ログの出力レベルを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：ログ出力しません。
- 4：起動，終了，実行時パラメタ，エラーを出力します。
- 8：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告を出力します。
- 16：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告，情報を出力します。

LOGLEVEL キーを省略した場合，8 が仮定されます。

注意事項

出力レベルを 16 に指定すると，トレース情報が大量に出力されるため，性能が落ちるおそれがあります。障害調査時以外には指定しないでください。

16.7.6 LOGSIZE

ログファイル（EURPMCL.log）のファイルサイズの上限を指定します。指定できる値は 750 ～ 2,000,000 です。単位は KB です。

LOGSIZE キーを省略した場合，または 750 ～ 2,000,000 以外の値を指定した場合は，750 が仮定されます。

16.7.7 EVENTLOGLEVEL

イベントログの出力レベルを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：プログラムの起動，プログラムの終了，およびエラーを出力します。
- 1：プログラムの起動，プログラムの終了，エラー，ジョブの起動，ジョブの終了，および印刷の正常終了を出力します。

EVENTLOGLEVEL キーを省略した場合，または 0，1 以外の値を指定した場合は，0 が仮定されます。

16.7.8 TEMPFILEDEL

印刷実行時に生成した一時ファイルを削除するかどうかを指定します。

EUR Print Manager - Client は，印刷実行時には TEMP キーで設定した作業フォルダに一時ファイルを生成できます。一時ファイルは，障害対策のために使用します。

指定できる値を次に示します。

- 0：常に削除します。
- 1：正常終了時は削除します。異常終了時は削除しません。
- 2：常に削除しません。

TEMPFILEDEL キーを省略した場合，または 0，1，2 以外の値を指定した場合は 1 が仮定されます。

16.7.9 SOCKBUFFSIZE

ソケット通信に使用する通信バッファサイズの上限を指定します。

指定できる値は，1 ～ 2,000,000 です。単位は KB です。通信バッファサイズの上限を無制限にしたい場合は，0 を指定してください。

SOCKBUFFSIZE キーを省略した場合，または 0，もしくは 1 ～ 2,000,000 以外の値を指定した場合は 64 が仮定されます。

注意事項

KEEY115-E の通信エラーが発生し，かつ EURPM ログのエラー詳細情報に「errno=10055」が出力されているときは，ソケットのバッファが不足していることを示しています。エラーが発生したときは，SOCKBUFFSIZE キーに指定されている値を小さく（8 ～ 64）して再試行してください。
なお，指定した値によっては，通信性能が変わることがあります。通信性能が劣化する場合は値を変更してチューニングしてください。

16.7.10 CONNECT

意図しない接続元が，データ通信を行わないで EUR Print Manager - Client と接続したままの状態になった場合，切断するまでの時間を指定します（タイムアウト監視）。

指定できる値は，0 ～ 3,600 です。単位は秒です。

CONNECT キーに 0 を指定した場合，タイムアウト監視はしません。

CONNECT キーを省略した場合，または 0 ～ 3,600 以外の値を指定した場合は 600（10 分）が仮定されます。

注意事項

通信に時間が掛かり，タイムアウトで切断されてしまう場合は，CONNECT キーの値（タイムアウトの監視時間）を大きくして再試行してください。
なお，指定した値によっては，意図しない接続を切断するのに時間が掛かり，その間ジョブを受け付けられなくなったり，EUR Print Manager - Client を停止できなくなったりします。その場合は，値を変更してチューニングしてください。

16.7.11 ERRIGNORE

ソケットを接続してデータを通信しないで切断する処理（生死監視）が実行された場合に，切断を検知してもエラーを出力しない時間を指定します。

なお，何らかのデータを通信したあとに切断を検知した場合は，エラーが出力されます。

指定できる値は，0 ～ 3,600 です。単位は秒です。

ERRIGNORE キーに 0 を指定した場合，切断を検知したとき必ずエラーが出力されま

す。

ERRIGNORE キーを省略した場合，または 0 ～ 3,600 以外の値を指定した場合は 3 が仮定されます。

注意事項

通信ポートの監視を実行する場合，KEEY115-E のエラーが発生したときは，ERRIGNORE キーの値（切断を検知した場合にエラーを出力しない時間）を大きくして再試行してください。
なお，指定した値によっては，EUR Print Manager および EUR Print Manager - Report Server との接続が何らかの不具合により切断された場合に，切断を検知できなくなることがあります。その場合は，値を変更してチューニングしてください。

16.8 環境設定ファイル（EURPM 制御コマンド）

EURPM 制御コマンドの動作環境は，環境設定ファイル（EURPMCTRL.ini）で設定します。

EURPM 制御コマンドの環境設定ファイルを変更した場合は，次に EURPM 制御コマンドを実行したときから有効になります。

環境設定ファイルのサンプルの格納場所

環境設定ファイル（EURPMCTRL.ini）のサンプルを次の場所に格納しています。

- Windows 環境の場合
  EUR Print Manager のインストール先フォルダ下
- UNIX/Linux 環境の場合
  /opt/eurpm/sample 下

環境設定ファイル（EURPMCTRL.ini）のサンプルの内容を次に示します。

＜環境設定ファイル（EURPMCTRL.ini）のサンプルの内容＞

```
[PATH]

[ERROR]

[TIMEOUT]
```

環境設定ファイル（EURPMCTRL.ini）の設定手順

環境設定ファイルの設定手順を次に示します。

1. 環境設定ファイル（EURPMCTRL.ini）のサンプルを任意の場所に保存します。
2. 環境設定ファイルを編集します。
   環境設定ファイルは，マシンのロケールに応じたエンコードで編集してください。
3. 必要な内容を設定した環境設定ファイルを，サンプルと同じファイル名（EURPMCTRL.ini）で次に格納します。

- Windows 環境の場合
  EUR Print Manager のインストール先フォルダ下
- UNIX/Linux 環境の場合
  /etc/opt/eurpm 下

なお，格納場所には，EUR Print Manager を利用するユーザーが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

環境設定ファイルの構文

変数名=値

環境設定ファイルに指定する情報は，「"」で囲まないでください。

環境設定ファイルの指定例

```
[PATH]
TEMP=/tmp

[ERROR]
LOGFILE=/var/opt/eurpm
LOGLEVEL=4
LOGSIZE=750

[TIMEOUT]
START=300
STOP=120
```

注意事項

EUR Print Manager を複数起動している場合は，環境設定ファイル（EURPMCTRL.ini）の［PATH］セクションの TEMP キーの値は変更できません。変更したときには，EURPM 制御コマンドの機能が使用できなくなります。

16.8.1 TEMP

EURPM 制御コマンドの作業フォルダを指定します。

TEMP キーを省略した場合，次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
  EUR Print Manager のインストール先フォルダ下の Temp¥Manager フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
  /tmp

16.8.2 LOGFILE

ログファイル（EURPMCTRL.log）の出力先フォルダを指定します。

LOGFILE キーを省略した場合，次のフォルダが仮定されます。

- Windows 環境のとき
  EUR Print Manager のインストール先フォルダ下の Log フォルダ
- UNIX/Linux 環境のとき
  /var/opt/eurpm

16.8.3 LOGLEVEL

実行ログの出力レベルを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：ログ出力しません。
- 4：起動，終了，実行時パラメタ，エラーを出力します。
- 8：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告を出力します。
- 16：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告，情報を出力します。

LOGLEVEL キーを省略した場合，8 が仮定されます。

注意事項

出力レベルを 16 に指定すると，トレース情報が大量に出力されるため，性能が落ちるおそれがあります。障害調査時以外には指定しないでください。

16.8.4 LOGSIZE

ログファイル（EURPMCTRL.log）のファイルサイズの上限を指定します。指定できる値は 750 ～ 2,000,000 です。単位は KB です。

LOGSIZE キーを省略した場合，または指定できない値を指定した場合は，750 が仮定されます。

16.8.5 START

EUR Print Manager を起動するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。指定できる値は，0 ～ 600（10 分）です。単位は秒です。

0 を指定した場合，または 0 ～ 600 以外の値を指定した場合は，タイムアウト監視はしません。

START キーを省略した場合，120 が仮定されます。

16.8.6 STOP

EUR Print Manager を停止するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。指定できる値は，0 ～ 600（10 分）です。単位は秒です。

0 を指定した場合，または 0 ～ 600 以外の値を指定した場合は，タイムアウト監視はしません。

STOP キーを省略した場合，120 が仮定されます。

16.9 環境設定ファイル（EURPM-RS 制御コマンド）

EURPM-RS 制御コマンドの動作環境は，環境設定ファイル（ EURPMLSCTRL.ini）で設定します。

EURPM-RS 制御コマンドの環境設定ファイルを変更した場合は，次に EURPM-RS 制御コマンドを実行したときから有効になります。

なお，EURPM-RS 制御コマンドは UNIX/Linux 環境の場合だけサポートしています。

環境設定ファイルのサンプルの格納場所

環境設定ファイル（EURPMLSCTRL.ini）のサンプルを次の場所に格納しています。

/opt/eurpmls/sample下

環境設定ファイル（EURPMLSCTRL.ini）のサンプルの内容を次に示します。

＜環境設定ファイル（EURPMLSCTRL.ini）のサンプルの内容＞

```
[PATH]

[ERROR]

[TIMEOUT]
```

環境設定ファイル（EURPMLSCTRL.ini）の設定手順

環境設定ファイルの設定手順を次に示します。

1. 環境設定ファイル（EURPMLSCTRL.ini）のサンプルを任意の場所に保存します。
2. 環境設定ファイルを編集します。
   環境設定ファイルは，マシンのロケールに応じたエンコードで編集してください。
3. 必要な内容を設定した環境設定ファイルを，サンプルと同じファイル名（EURPMLSCTRL.ini）で次に格納します。
   /etc/opt/eurpmls 下

なお，格納場所には，EUR Print Manager - Report Server を利用するユーザーが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

環境設定ファイルの構文

変数名=値

環境設定ファイルに指定する情報は，「"」で囲まないでください。

環境設定ファイルの指定例

```
[PATH]
TEMP=/tmp

[ERROR]
LOGFILE=/var/opt/eurpmls
LOGLEVEL=4
LOGSIZE=750

[TIMEOUT]
START=300
STOP=120
```

16.9.1 TEMP

EURPM-RS 制御コマンドの作業フォルダを指定します。

TEMP キーを省略した場合，次のフォルダが仮定されます。

/tmp

16.9.2 LOGFILE

ログファイル（EURPMLSCTRL.log）の出力先フォルダを指定します。

LOGFILE キーを省略した場合，次のフォルダが仮定されます。

/var/opt/eurpmls

16.9.3 LOGLEVEL

実行ログの出力レベルを指定します。

指定できる値を次に示します。

- 0：ログ出力しません。
- 4：起動，終了，実行時パラメタ，エラーを出力します。
- 8：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告を出力します。
- 16：起動，終了，実行時パラメタ，エラー，警告，情報を出力します。

LOGLEVEL キーを省略した場合，または指定できない値を指定した場合は 8 が仮定されます。

注意事項

出力レベルを 16 に指定すると，トレース情報が大量に出力されるため，性能が落ちるおそれがあります。障害調査時以外には指定しないでください。

16.9.4 LOGSIZE

ログファイル（EURPMLSCTRL.log）のファイルサイズの上限を指定します。指定できる値は 750 ～ 2,000,000 です。単位は KB です。

LOGSIZE キーを省略した場合，または指定できない値を指定した場合は，750 が仮定されます。

16.9.5 START

EUR Print Manager - Report Server を起動するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。指定できる値は，0 ～ 600（10 分）です。単位は秒です。

0 を指定した場合，または 0 ～ 600 以外の値を指定した場合は，タイムアウト監視はしません。

START キーを省略した場合，または数値以外の値を指定した場合は 120 が仮定されます。

16.9.6 STOP

EUR Print Manager - Report Server を停止するときの通信タイムアウト監視時間を指定します。指定できる値は，0 ～ 600（10 分）です。単位は秒です。

0 を指定した場合，または 0 ～ 600 以外の値を指定した場合は，タイムアウト監視はしません。

STOP キーを省略した場合，または数値以外を指定した場合は 120 が仮定されます。

16.10　EPF 形式ファイルを出力する場合の実行環境の設定

EUR Print Manager を使用して EPF 形式ファイルを出力する場合の実行環境は，前提製品である EUR Print Service の環境設定ファイルで設定します。

環境設定ファイルの格納場所

EUR Print Service の環境設定ファイルは，ユーザーの利用目的に応じて指定できます。EUR Print Service の環境設定ファイルの指定方法と格納場所を次の表に示します。

表 16-11　EUR Print Service の環境設定ファイルの指定方法と格納場所

項番	指定方法	ファイル名	格納場所
1	印刷ジョブごとに指定	任意	起動部品で指定したパス • ActiveX 起動部品：PSEnvFileName プロパティ • Java 起動部品：setPSEnvFileName メソッド • COBOL 起動部品：PSENVFILENAME パラメタ • コマンド起動部品：eurpmc コマンドの /psenvf オプション
2	EUR Print Manager のサービスごとに指定		EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）で指定したパス
3	任意の場所にファイルを格納して指定		EUR Print Service の環境変数 EURPS_ENVFILE で指定したパス
4	デフォルト	Windows 環境の場合 EURPS_ENV UNIX/Linux 環境の場合 eurps_env	Windows 環境の場合 EUR Print Service のインストール先フォルダ下 UNIX/Linux 環境の場合 /etc/opt/eurps 下

EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）については，「16.2　環境設定ファイル（EUR Print Manager)」を参照してください。また，EUR Print Service の環境変数については，マニュアル「EUR サーバ帳票出力」を参照してください。

環境設定ファイルの設定手順

EUR Print Service の環境設定ファイルの指定方法がデフォルトの場合を例に説明します。

• Windows 環境の場合

環境設定ファイル（EURPS_ENV）は，EUR Print Service のインストール先フォルダ下に作成されます。

ファイルの内容を追加，変更する場合は，メモ帳などのテキスト編集エディタを開いて編集したあと，上書き保存してから使用してください。

- UNIX/Linux 環境の場合
  次に示す環境設定ファイル（eurps_env）のサンプルを，/opt/eurps/sample 下に提供しています。必要な内容を設定したあと，同じファイル名で /etc/opt/eurps 下に格納してください。
  なお，/etc/opt/eurps には，EUR Print Manager の実行ユーザーが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

＜環境設定ファイル（eurps_env）の設定手順＞

環境設定ファイルは次の手順で設定します。

1. /opt/eurps/sample 下にある環境設定ファイル（eurps_env）のサンプルを任意の場所に保存する。
2. 環境設定ファイルを編集する。
   環境設定ファイルは，マシンのロケールに応じたエンコードで編集してください。
3. 必要な内容を設定した環境設定ファイルを，サンプルと同じファイル名（eurps_env）で /etc/opt/eurps 下に格納する。
   /etc/opt/eurps には，EUR Print Manager の実行ユーザーが読み書きできるようにアクセス権を設定してください。

環境設定ファイルの構文

変数名=値

環境設定ファイルに指定する情報は，「"」で囲まないでください。

環境設定ファイルの指定例

```
EURPS_EPFDPI=600
EURPS_EPF_IMAGE_COMPRESS=ON
```

16.10.1 EURPS_EPFDPI

EPF 形式ファイルを出力するときの解像度（DPI 値）を指定します。

指定できる値は，1 ～ 2,147,483,647 です。単位は dpi です。

EURPS_EPFDPI を省略した場合，または 1 ～ 2,147,483,647 以外の値を指定した場合は，1440 が仮定されます。

帳票にバーコードアイテムが含まれる場合，1440 よりも小さい値を指定すると，出力される EPF 形式ファイルのサイズが小さくなり，プレビュー表示速度や印刷速度が向上します。

注意事項

- 出力するプリンタの解像度と同じ値を指定することをお勧めします。
- システム運用中に変更した場合，解像度が異なる環境で生成した EPF 形式ファイルを統合して出力しようとするとエラーとなります。また，解像度が異なる環境で蓄積した印刷データを，一つの印刷データとして取得または印刷しようとするとエラーとなります。

16.10.2 EURPS_EPF_IMAGE_COMPRESS

EPF 形式ファイルを出力するときに，画像アイテムやバーコードアイテムなどの画像データを圧縮するかどうかを指定します。

指定できる値を次に示します。

- ON（または on）：画像データを圧縮します。
- OFF（または off）：画像データを圧縮しません。

EURPS_EPF_IMAGE_COMPRESS を省略した場合，または上記以外の値を指定した場合は，OFF（または off）が仮定されます。

画像データが含まれている帳票の場合に ON（または on）を指定すると，中間ファイルや EPF 形式ファイルのサイズが小さくなり，プレビュー表示速度や印刷速度が向上します。

注意事項

- EURPS_EPF_IMAGE_COMPRESS に ON（または on）を指定して出力した EPF 形式ファイルをプレビュー表示や印刷する場合は，EUR Print Manager - Report Server 08-10 以降または EUR Print Manager - Client 08-10 以降を使用してください。
  08-10 よりも前のバージョンの EUR Print Manager - Report Server または EUR Print Manager - Client を使用した場合は，画像データの表示や印刷ができません。プレビュー表示や印刷に 08-10 よりも前のバージョンの EUR Print Manager - Report Server または EUR Print Manager - Client を使用する場合は，必ず EURPS_EPF_IMAGE_COMPRESS に OFF（または off）を指定してください。
- EUR Print Service 08-30 以降を使用して帳票を出力する場合で，帳票に含まれる画像データが次の 3 種類のバーコードだけのときは，バーコードの回転角度と EURPS_EPF_IMAGE_COMPRESS の設定によって，出力される EPF 形式ファイルのファイルサイズが変わります。
  ・NW-7 バーコード
  ・CODE39 バーコード
  ・CODE128 バーコード
  バーコードの回転角度が 0 ° の場合
  EURPS_EPF_IMAGE_COMPRESS に OFF（または off）を指定する方が，出力される EPF 形式ファイルのファイルサイズが小さくなります。
  バーコードの回転角度が 90 ° または 270 ° の場合
  EURPS_EPF_IMAGE_COMPRESS に ON（または on）を指定する方が，出力される EPF 形式ファイルのファイルサイズが小さくなります。

16.11 環境設定ファイルの詳細コード

環境設定ファイルでエラーが発生した場合，エラーメッセージで詳細コードが出力されます。詳細コードについては，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

17 障害対策

この章では，障害が発生した場合の対処方法について説明します。また，障害時に取得するログについて説明します。

17.1 保守情報の採取

17.2 ログの取得

17.1 保守情報の採取

解決できない障害が発生した場合は，次に示す保守情報をできるだけ採取して，保守員に連絡してください。

(1) 連絡時に必要な保守情報

連絡時に必要な保守情報を次に示します。

● EUR Print Manager 製品のバージョン情報

● プラットフォームと OS バージョン情報（修正情報およびパッチ情報を含む）

- Windows 環境の場合
  ［システムのプロパティ］ダイアログの［全般］タブで，「システム：」に表示されている情報が対象です。［システムのプロパティ］ダイアログは，スタートメニューの［コントロールパネル］から［システム］を選択すると，表示されます。
  （Windows XP の表示例）
  Microsoft Windows XP
  Professional
  Version 2002
  Service Pack 2
  （Windows Server 2003 の表示例）
  Microsoft Windows Server 2003 R2
  Standard Edition
  Service Pack 1
- AIX 環境の場合
  次に示すコマンドを実行して表示されたバージョン情報が対象です。
  # oslevel -r
  （実行結果の例）
  5200_00
- HP-UX 環境の場合
  次に示すコマンドを実行して表示されたバージョン情報が対象です。
  # uname -r
  （実行結果の例）
  B.11.23
- Linux 環境の場合
  次に示すコマンドを実行して表示された OS のリリース番号が対象です。
  # uname -r
  （実行結果の例）
  2.6.9_11.EL

● システム構成（ハードウェア構成，ソフトウェア構成）

● 障害情報（画面のハードコピー，印刷結果，出力ファイルなど）

● 障害の発生時刻

● 障害の再現性の有無

● エラーメッセージ（画面のハードコピー，エラーコード）

(2) 発生した現象によって必要な保守情報

● 動作環境

管理者に問い合わせて，EUR Print Manager をインストールしたマシンの情報を入手してください。

- メーカー名
- 製品名と型番
- 搭載 CPU の種類，CPU クロック数，CPU 数
- 搭載メモリ容量
- 搭載 HDD 容量

● アダプタ言語種別

管理者に問い合わせて，業務アプリケーションの言語種別を入手してください。

- ActiveX 起動部品（VBScript，Visual Basic，Visual Basic .NET など）
- Java 起動部品（JSP，Java など）
- COBOL 起動部品（COBOL）
- コマンド起動部品（コマンド入力による直接実行）
- RS-ActiveX 起動部品（ASP，Visual Basic，Visual Basic .NET など）
- RS-Java 起動部品（JSP，Java など）
- RS- コマンド起動部品（コマンド入力による直接実行）

● 環境設定情報

EUR 関連製品の各コンポーネントの環境設定ファイル情報を採取します。

- EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）
  Windows 環境の場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）は，EUR Print Manager のインストール先フォルダ下にあります。
  UNIX/Linux 環境の場合
  環境設定ファイル（EURPM.ini）は，/etc/opt/eurpm 下にあります。
- EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）
  Windows 環境の場合
  環境設定ファイル（EURPMADP.ini）は，EUR Print Manager - Adapter のインストール先フォルダ下にあります。
  UNIX/Linux 環境の場合
  環境設定ファイル（EURPMADP.ini）は，/etc/opt/eurpm_adp 下にあります。
- EUR Print Manager - Report Server の環境設定ファイル（EURPMLS.ini）
  Windows 環境の場合
  環境設定ファイル（EURPMLS.ini）は，EUR Print Manager - Report Server のイ

ンストール先フォルダ下にあります。
UNIX/Linux 環境の場合
環境設定ファイル（EURPMLS.ini）は，/etc/opt/eurpmls 下にあります。

- EUR Print Manager - Report Server Adapter の環境設定ファイル（EURPMLSADP.ini）
  Windows 環境の場合
  環境設定ファイル（EURPMLSADP.ini）は，EUR Print Manager - Report Server Adapter のインストール先フォルダ下にあります。
  UNIX/Linux 環境の場合
  環境設定ファイル（EURPMLSADP.ini）は，/etc/opt/eurpmls_adp 下にあります。
- EUR Print Manager - Client の環境設定ファイル（EURPMCL.ini）
  環境設定ファイル（EURPMCL.ini）は，EUR Print Manager - Client のインストール先フォルダ下にあります。
- 蓄積管理 GUI の環境設定ファイル（EURPMRSGUI.ini）
  Windows 環境の場合
  環境設定ファイル（EURPMRSGUI.ini）は，EUR Print Manager - Report Server Adapter のインストール先フォルダ下にあります。
  UNIX/Linux 環境の場合
  環境設定ファイル（EURPMRSGUI.ini）は，/etc/opt/eurpmls_adp 下にあります。
- EURPM 制御コマンドの環境設定ファイル（EURPMCTRL.ini）
  環境設定ファイル（EURPMCTRL.ini）は，/etc/opt/eurpm 下にあります。
- EURPM-RS 制御コマンドの環境設定ファイル（EURPMLSCTRL.ini）
  環境設定ファイル（EURPMLSCTRL.ini）は，/etc/opt/eurpmls 下にあります。
- EUR Print Service の環境設定ファイル
  EUR Print Service の環境設定ファイルは，ユーザーの利用目的に応じて指定できます。EUR Print Service の環境設定ファイルの指定方法と格納場所については，「16.10　EPF 形式ファイルを出力する場合の実行環境の設定」およびマニュアル「EUR サーバ帳票出力」を参照してください。

● 構成定義ファイル

EUR Print Manager の各コンポーネントの構成定義ファイル情報を採取します。

- EUR Print Manager の構成定義ファイル
  出力先定義ファイル（Destination.conf），および印刷管理サーバプリンタクラス定義ファイル（PMPrinterClass.conf）の情報を採取します。
  Windows 環境の場合
  出力先定義ファイルおよび印刷管理サーバプリンタクラス定義ファイルは，EUR Print Manager のインストール先フォルダ下の Conf フォルダ，または環境設定ファイル（EURPM.ini）の［PATH］セクションの［CONF］キーで指定したフォルダ下にあります。
  UNIX/Linux 環境の場合
  出力先定義ファイルおよび印刷管理サーバプリンタクラス定義ファイルは，/etc/opt/

eurpm/Conf ディレクトリ，または環境設定ファイル（EURPM.ini）の［PATH］セクションの［CONF］キーで指定したディレクトリ下にあります。

- EUR Print Manager - Report Server の構成定義ファイル
  拠点プリンタクラス定義ファイル（ServerPrinterClass.conf），および帳票振り分け定義ファイル（Distribution.conf）の情報を採取します。
  拠点プリンタクラス定義ファイル，および帳票振り分け定義ファイルは，EUR Print Manager - Report Server のインストール先フォルダ下の Conf フォルダ，または環境設定ファイル（EURPMLS.ini）の［PATH］セクションの［CONF］キーで指定したフォルダ下にあります。
- EUR Print Manager - Client の構成定義ファイル
  クライアントプリンタクラス定義ファイル（ClientPrinterClass.conf）の情報を採取します。
  クライアントプリンタクラス定義ファイルは，EUR Print Manager - Client のインストール先フォルダ下の Conf フォルダ，または環境設定ファイル（EURPMCL.ini）の［PATH］セクションの［CONF］キーで指定したフォルダ下にあります。

● イベントログファイルまたは syslog

Windows 環境の場合は，イベントビューアで，システムとアプリケーションのイベントログファイルを出力してください。イベントログファイルについては，「17.2.1　イベントログ」を参照してください。

UNIX/Linux 環境の場合は，syslog を採取してください。syslog については，「17.2.2 syslog」を参照してください。

● EURPM ログファイル

- EUR Print Manager の各コンポーネントが出力したログファイル
  ログファイルについては，「17.2.3　EURPM ログ」を参照してください。

● 環境変数

次に示すコマンドを実行して表示された情報を採取します。

- Windows 環境の場合
  > set
  （実行結果の例）
  ALLUSERSPROFILE=C:¥Documents and Settings¥All Users
  APPDATA=C:¥Documents and Settings¥196084¥Application Data
  　　:
- UNIX/Linux 環境の場合
  # env
  （実行結果の例）
  SHELL=/bin/bash
  LANG=ja_JP.UTF-8
  　　:

● ネットワーク情報
管理者に問い合わせて，マシンの IP アドレス情報を入手してください。

(3) 障害が再現する場合に追加採取する保守情報

(a) プリンタ情報

管理者に問い合わせて，出力先プリンタの次の情報を入手してください。

- メーカー名
- プリンタの名称と型番
- ドライバの名称とバージョン情報

(b) 入力ファイル

次のファイルのうち，帳票出力時に指定したファイルを採取します。

- 帳票ファイル
- マッピングデータファイル
- ユーザ定義データファイル
- 文書情報設定ファイル
- 文書しおり定義ファイル
- しおり定義ファイル
- 暗号化設定ファイル
- プリンタ定義ファイル
- 仕分け定義情報ファイル
- 帳票セット指定ファイル
- 複数様式情報定義ファイル
- 接続情報ファイル
- 置き換え表管理情報ファイル
- 置き換え表ファイル
- 画像ファイル
- PDF 仕分け定義ファイル
- Acrobat JavaScript 定義ファイル
- Acrobat JavaScript ファイル
- ビューアプレファレンス定義ファイル
- EPF 形式ファイル
- 印刷日時出力定義ファイル
- EURPM 分割定義ファイル
- EURPM 仕分け定義ファイル

(c) 出力ファイル

次のファイルのうち，帳票として出力したファイルを採取します。

- EPF 形式ファイル
- EUR 形式ファイル

- PDF 形式ファイル
- Excel 形式ファイル

(d) 一時ファイル

障害の状況によって，一時ファイルが残ることがあります。次のファイルがある場合は，そのファイルを採取してください。環境設定ファイルで出力フォルダを変更している場合は，変更したフォルダから採取します。

- EUR Print Manager，EUR Print Manager - Report Server，EUR Print Manager - Client の場合

  Windows 環境のとき

  デフォルトの格納先は，各コンポーネントのインストール先フォルダ下の Temp フォルダです。フォルダ名が「EURPM」で始まるフォルダ内のファイルをすべて採取します。

  UNIX/Linux 環境のとき

  デフォルトの格納先は，/Tmp ディレクトリです。ディレクトリ名が「EURPM」で始まるディレクトリ内のファイルをすべて採取します。
- EUR Print Manager - Client でヘルパクライアント印刷をする場合

  Internet Explorer のインターネット一時ファイルのフォルダに格納されているファイルを採取します。
- EUR Print Manager - Client Print ActiveX，EUR Print Manager - Client Preview ActiveX の場合

  デフォルトの場合は，次のフォルダ下の，フォルダ名の先頭 2 バイトが「EPF」で始まるフォルダに格納されているすべてのファイルを採取します。

  C:¥Documents and Settings¥ 実行ユーザー名 ¥Local Settings¥Temp
- EUR Print Service の場合

  EUR Print Manager サービスの実行ユーザーが system アカウントのとき

  デフォルトの場合は，「C:¥WINNT¥Temp」と，フォルダ名の先頭 2 バイトが「EU」で始まるフォルダに格納されているすべてのファイルを採取します。

  EUR Print Manager サービスの実行ユーザーが特定のユーザーアカウントのとき

  デフォルトの場合は，「C:¥Documents and Settings¥ 実行ユーザー名 ¥Local Settings¥Temp」で，フォルダ名の先頭 2 バイトが「EU」で始まるフォルダに格納されているすべてのファイルを採取します。

(e) トレースログ

EUR Print Manager の各コンポーネントのトレース情報を採集します。トレース情報は，EUR Print Manager のログの出力レベルを「16（情報ログ）」に設定すると，出力されます。

注意事項

出力レベルを 16 に指定すると，トレース情報が大量に出力されるため，性能が落ちるおそれがあります。障害調査時以外には指定しないでください。

17.2　ログの取得

EUR Print Manager では，実行時に発生したエラー情報（イベントログまたは syslog）や，エラーの詳細情報（EURPM ログ）を出力します。

出力されるログについて説明します。

17.2.1　イベントログ

Windows 環境では，エラーが発生した場合，発生した障害の情報を，イベントログとして出力します。イベントログは，Windows 上の管理ツールのイベントビューアで参照します。

イベントログでは，次に示す情報を出力します。

表 17-1　イベントログに出力される情報

項目	内容
日付	イベントログを出力した日付
時刻	イベントログを出力した時刻
ユーザー	サービスを実行したユーザーの ID
コンピュータ	サービスを実行したコンピュータ名
イベント ID	メッセージのエラーレベルの ID ERROR レベル：1003 WARNING レベル：1002 INFORMATION レベル：1001
ソース	「EUR Print Manager」
種類	メッセージのエラーレベル ERROR レベル：エラー WARNING レベル：警告 INFORMATION レベル：情報
分類	EUR Print Manager の場合：EURPM ※ EUR Print Manager - Report Server の場合：EURPMLS EUR Print Manager - Client の場合：EURPMCL
説明	メッセージ文
データ	出力しない

注※

EUR Print Manager が複数起動している場合は，ログファイル名が「EURPM_< 識別名 >.log」になります。

メッセージ文については，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

(1) クライアント PC に出力されるイベントログ

EUR Print Manager - Client を使用してクライアント PC で帳票出力する場合，次の情報がイベントログとして出力されます。

- EUR Print Manager - Client の開始と終了
- ジョブの実行
- エラーメッセージや警告メッセージの出力

EUR Print Manager - Client の環境設定ファイル（EURPMCL.ini）でイベントログの出力レベルを設定することで，上記の情報に加えて次の情報もイベントログに出力できます。

- ジョブの開始と終了（KEEY161-I および KEEY162-I）
- 印刷の正常終了（KEEY163-I）

EUR Print Manager - Client の環境設定ファイルの詳細については，「16.7　環境設定ファイル（EUR Print Manager - Client）」を参照してください。

エラーメッセージ（KEEY102-E，KEEY111-E，KEEY140-E を除く）や警告メッセージの出力時，ジョブの終了時，および印刷の正常終了時には，メッセージに続いて次の付加情報が出力されます。ただし，エラーが発生したタイミングによっては出力されないこともあります。

蓄積ジョブ ID（SPOOLJOBID）

印刷データの蓄積時のジョブ ID です。蓄積された EPF 形式ファイルを印刷した場合に値が出力されます。それ以外の場合は，値は空のまま出力されます。
なお，出力される値は，EPF 形式ファイルをプレビュー表示した場合に，［プロパティ］ダイアログの［蓄積ジョブ ID］に表示される値と同じです。

帳票名（TITLE）

印刷データの帳票名です。印刷時に文書情報設定ファイルを指定した場合に値が出力されます。それ以外の場合は，値は空のまま出力されます。
なお，出力される値は，EPF 形式ファイルをプレビュー表示した場合に，［プロパティ］ダイアログの［スプールタイトル］に表示される値と同じです。

帳票ファイル名（REPORTFILENAME）

印刷データのファイル名です。複数のファイルを指定している場合は，先頭ページのファイル名が出力されます。
なお，出力される値は，EPF 形式ファイルをプレビュー表示した場合に，［プロパティ］ダイアログの［先頭ページの帳票ファイル名］に表示される値と同じです。

なお，［プロパティ］ダイアログについては，「4.6.3(3) ［プロパティ］ダイアログの設定項目」を参照してください。

出力例を次に示します。

● ジョブ正常終了時

```
KEEY137-I ジョブを終了しました。
SPOOLJOBID=[EUR20080602041503358000000001000000016]
TITLE=[文書A]
REPORTFILENAME=[帳票A.fms]
```

17.2.2　syslog

UNIX/Linux 環境では，EUR Print Manager および EUR Print Manager - Report Server の起動・停止の情報を syslog に出力します。また，EURPM ログに出力できないタイミングでの障害発生時に，発生した障害情報を syslog に出力します。

syslog の形式は，EURPM ログと同じです。「17.2.3(3)　EURPM ログに出力される情報」を参照してください。

EUR Print Manager の場合

EUR Print Manager を複数起動している場合は，syslog に EUR Print Manager の識別名を次の形式で出力します。

EURPMID = EURPM**識別名**

syslog の出力先や出力するかどうかなど，syslog の出力設定については，該当する OS のマニュアルを参照ください。

! 注意事項

EUR Print Manager および EUR Print Manager - Report Server が，メッセージを EURPM ログに出力できなかった場合，syslog に出力します。また，そのメッセージに日本語文字列が含まれる場合，文字化けすることがあります。

17.2.3　EURPM ログ

EUR Print Manager では，エラーが発生した場合，発生した障害の情報を，EUR Print Manager のコンポーネントごとに，EURPM ログとして出力します。

EURPM ログには，イベントログよりも詳細な情報が出力されます。また，詳細なトレースログも出力されます。

コンポーネントごとに出力される EURPM ログファイルを次に示します。

表 17-2 出力されるログファイル

コンポーネント	EURPM ログファイル名	デフォルトの出力先
EUR Print Manager	EURPM.log ※	• Windows 環境の場合 EUR Print Manager のインストール先フォルダ下の Log フォルダ • UNIX/Linux 環境の場合 /var/opt/eurpm
EUR Print Manager - Adapter	EURPMADP.log	• Windows 環境の場合 EUR Print Manager - Adapter のインストール先フォルダ下の Log フォルダ • UNIX/Linux 環境の場合 /var/opt/eurpm_adp
EUR Print Manager - Report Server	EURPMLS.log	• Windows 環境の場合 EUR Print Manager - Report Server のインストール先フォルダ下の Log フォルダ • UNIX/Linux 環境の場合 /var/opt/eurpmls
EUR Print Manager - Report Server Adapter	EURPMLSADP.log	• Windows 環境の場合 EUR Print Manager - Report Server Adapter のインストール先フォルダ下の Log フォルダ • UNIX/Linux 環境の場合 /var/opt/eurpmls_adp
EUR Print Manager - Client	EURPMCL.log	EUR Print Manager - Client のインストール先フォルダ下の Log フォルダ
EUR Print Manager - Client Print ActiveX	EURPMPrintAX.log	環境変数 TMP に指定されたフォルダ，環境変数 TEMP に指定されたフォルダ，およびカレントフォルダのどれか
EUR Print Manager - Client Preview ActiveX	EURPMPreViewAX.log	
EURPM 制御コマンド	EURPMCTRL.log	/var/opt/eurpm
EURPM-RS 制御コマンド	EURPMLSCTRL.log	/var/opt/eurpmls

注※

EUR Print Manager を複数起動している場合，ログファイル名は「EURPM_< 識別名 >.log」になります。

(1) 出力レベルの指定

EURPM ログファイルに出力するログの量を，出力レベルで制御できます。出力レベルは，各コンポーネントの環境設定ファイルで指定します。

各コンポーネントの出力レベルの指定場所を次に示します。

表 17-3 各コンポーネントの出力レベル指定

コンポーネント	出力レベルの指定場所
EUR Print Manager	EURPM.ini の LOGLEVEL キー
EUR Print Manager - Adapter	EURPMADP.ini の LOGLEVEL キー
EUR Print Manager - Report Server	EURPMLS.ini の LOGLEVEL キー
EUR Print Manager - Report Server Adapter	EURPMLSADP.ini の LOGLEVEL キー
EUR Print Manager - Client	EURPMCL.ini の LOGLEVEL キー
EUR Print Manager - Client Print ActiveX	EURPMPrintAX.ocx の LogLevel パラメタ
EUR Print Manager - Client Preview ActiveX	EURPMPreViewAX.ocx の LogLevel パラメタ
EURPM 制御コマンド	EURPMCTRL.ini の LOGLEVEL キー
EURPM-RS 制御コマンド	EURPMLSCTRL.ini の LOGLEVEL キー

出力レベルには，次の値を設定します。出力レベルの標準は「8」です。

表 17-4 出力レベル

レベル	出力内容
0	ログを出力しない
4	・起動ログ ・終了ログ ・エラーログ
8	・起動ログ ・終了ログ ・エラーログ ・警告ログ
16	・起動ログ ・終了ログ ・エラーログ ・警告ログ ・情報ログ

注意事項

出力レベルを 16 に指定すると，トレース情報が大量に出力されるため，性能が落ちるおそれがあります。障害調査時以外には指定しないでください。

出力されるログの内容を次に示します。

(a) 起動ログ

ジョブごとの起動メッセージが出力されます。

- EUR Print Manager - Client，EUR Print Manager - Client Print ActiveX，EUR Print Manager - Client Preview ActiveX の場合

メッセージ ID：KEEY136-I
- EUR Print Manager - Adapter の場合
  メッセージ ID：KEEY213-I
- EUR Print Manager の場合
  メッセージ ID：KEEY355-I
- EUR Print Manager - Report Server の場合
  メッセージ ID：KEEY424-I
- EUR Print Manager - Report Server Adapter の場合
  メッセージ ID：KEEY508-I
- EURPM 制御コマンドまたは EURPM-RS 制御コマンドの場合
  メッセージ ID：KEEY033-I

(b) 終了ログ

ジョブごとの終了メッセージが出力されます。メッセージ文については，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

- EUR Print Manager - Client，EUR Print Manager - Client Print ActiveX，EUR Print Manager - Client Preview ActiveX の場合
  メッセージ ID：KEEY137-I
- EUR Print Manager - Adapter の場合
  メッセージ ID：KEEY214-I
- EUR Print Manager の場合
  メッセージ ID：KEEY356-I
- EUR Print Manager - Report Server の場合
  メッセージ ID：KEEY425-I
- EUR Print Manager - Report Server Adapter の場合
  メッセージ ID：KEEY509-I
- EURPM 制御コマンドまたは EURPM-RS 制御コマンドの場合
  メッセージ ID：KEEY034-I

(c) エラーログ

エラー発生時に，エラーメッセージとエラー詳細情報ログが出力されます。メッセージ文については，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

- メッセージ ID：KEEYxxx-E（xxx はメッセージ番号を示します）

(d) 警告ログ

警告発生時に，警告のメッセージと警告詳細情報ログが出力されます。メッセージ文については，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

- メッセージ ID：KEEYxxx-W（xxx はメッセージ番号を示します）

(e) 情報ログ

情報メッセージ，トレースログおよび詳細情報ログが出力されます。メッセージ文については，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

- メッセージ ID：KEEYxxx-I（xxx はメッセージ番号を示します）

(2) ファイルサイズの指定

EURPM ログファイルのファイルサイズの上限を指定できます。

EURPM ログファイルのファイルサイズは，各コンポーネントの環境設定ファイルに指定します。各コンポーネントの環境設定ファイルについては，表 17-3 を参照してください。

指定できるファイルサイズは，750 ～ 2,000,000KB です。ファイルサイズの標準は，750KB です。

EURPM ログファイルには，指定したファイルサイズを超えた場合，ログをバックアップファイルに保存する機能があります。バックアップファイルがある場合，既存のバックアップファイルは削除されます。

(3) EURPM ログに出力される情報

EURPM ログは，次の形式で出力されます。

[通番] , [日付，時刻] , [nnn] , [エラーレベル] , [xx…xx : : yy…yy] , [nnnn] , [タスク通番] , [プロセス ID] , [スレッド ID] , ログ出力文字列

出力される情報を次に示します。

表 17-5 EURPM ログに出力される情報

項目	内容
通番	000000001 ～ 999999999 のログの通し番号を出力します。
日付，時刻	EURPM ログを出力した日付，時刻が YY/MM/DD hh:mm:ss ttt 形式で出力されます。
nnn	数字が出力されます。
エラーレベル	次のレベルが出力されます。 PARAM：実行時パラメタログ ERROR：エラー WARNING：警告 INFORMATION：情報，起動 / 停止ログ
xx…xx : : yy…yy	文字列が出力されます。
nnnn	数字が出力されます。

項目	内容
タスク通番	次のタスクの種類に応じて，タスク番号が出力されます。 0：メインタスク 1：ソケット接続待機タスク 2：ソケット監視タスク 3 ～ 999999999：ジョブタスク
プロセス ID	1 ～ 9999999999 のプロセス ID が出力されます。
スレッド ID	1 ～ 9999999999 のスレッド ID が出力されます。
ログ出力文字列	ログの詳細情報が出力されます。ログ出力文字列に「KEEY」で始まるメッセージが出力された場合は，マニュアル「EUR Print Manager メッセージ」を参照してください。

17.2.4 ログの出力例

EURPM ログの出力例を次に示します。ここで説明するイベントログの出力例では，半角かたかなを全角かたかなで示しています。実際にイベントログが出力されるときは，半角かたかなで表示されます。

● 起動ログの出力例

```
[000000001],[05/10/05 21:35:57 794],[997],[INFO
],[CEURPMGLog::MessagePut                        ],[0150],[
2],[      1824],[      2092],KEEY355-I ジョブを起動しました。
```

● 終了ログの出力例

```
[000001025],[05/10/05 21:35:57 794],[997],[INFO
],[CEURPMGLog::MessagePut                        ],[0150],[
2],[      1824],[      2092],KEEY356-I ジョブを終了しました。
```

● エラーログの出力例

```
[000000003],[05/10/05 20:53:54 026],[999],[ERROR
],[CEURPMGLog::MessagePut                        ],[0050],[
2],[      1824],[      2092],KEEY339-E 指定された帳票ファイルが印刷管
理サーバに存在しません。
```

● 警告ログの出力例

```
[000000010],[05/10/05 20:53:58
026],[998],[WARNING],[CEURPMGLog::MessagePut
],[0050],[        2],[      1824],[      2092],KEEY393-W 印刷管理
サーバで EUR Print Service を実行しているときに警告が発生しました。
```

● 情報ログの出力例

```
[000000020],[05/10/05 21:53:58 026],[997],[INFO
],[CEURPMGLog::MessagePut                        ],[0050],[
2],[      1824],[      2092],KEEY343-I サービスを停止しました。
```

17.2.5　ログファイル出力時にエラーが発生した場合のメッセージ

ログファイルの出力時にエラーが発生し，エラーによってログファイルにメッセージを書き込めなかった場合，EUR Print Manager と EUR Print Manager - Report Server は，そのメッセージをイベントログ（Windows 環境の場合）または syslog（UNIX/Linux 環境の場合）に出力します。

18 使用上の注意

この章では，EUR Print Manager での使用上の注意について説明します。

18.1 帳票出力する場合の注意

18.2 蓄積フォルダの指定についての注意

18.3 実行環境についての注意

18.4 実行ユーザーとアクセス権

18.5 Windows 環境での注意

18.6 UNIX/Linux 環境での注意

18.7 蓄積管理 GUI についての注意

18.8 エラーメッセージについての注意

18.1 帳票出力する場合の注意

18.1.1 使用できない機能

Windows Server 2003 x64，Windows Server 2003 R2 x64 で使用する場合，次の機能は使用できません。

- エラーリカバリ印刷
- JP1 と連携した仕分け印刷

また，Windows Server 2008 で使用する場合，次の機能は使用できません。

- エラーリカバリ印刷
- JP1 と連携した仕分け印刷
- PDF 形式ファイル暗号化出力機能

18.1.2 連続して印刷する場合の注意

連続して印刷をすると，メモリ不足のエラーになることがあります。メモリ不足のエラーが発生した場合は，次の対処を行ってください。

(1) 拠点サーバでの印刷のとき

EUR Print Manager - Report Server を再起動してください。

連続実行によるメモリ不足を回避したい場合は，環境設定ファイル（EURPMLS.ini）の THREAD セクションの PRINTEXECMODE キーに 1 を指定してください。ただし，メモリ不足は回避できますが，印刷処理時間が掛かります。

なお，印刷処理でメモリが解放されないという現象については，Microsoft(R) 社から配布される修正モジュールによって解消される場合もあります。

(2) クライアント PC での印刷のとき

時間を置いて再度印刷をするか，EUR Print Manager - Client を再起動してください。

18.1.3 JP1 と連携した仕分け印刷をする場合の注意

EUR Print Manager - Report Server の実行ユーザーを，ログインユーザーに変更してください。

18.1.4 ヘルパクライアント印刷をする場合の注意

ヘルパクライアント印刷をする場合，Web サーバからダウンロードした印刷データ（EPF 形式ファイル）は，Internet Explorer のインターネット一時ファイルのフォルダ

下に格納されます。

18.1.5　EPF 形式ファイルを出力および印刷する場合の注意

(1) ファイルサイズの上限について

EPF 形式ファイルのファイルサイズの上限は，印刷用のデータ形式に変換した状態で 2GB までです。実際の EPF 形式ファイルのファイルサイズは，2GB より小さくなります。

印刷用のデータ形式に変換した状態で 2GB を超えた場合はエラーとなり，EPF 形式ファイルの出力や印刷はできません。ファイルサイズが上限を超えそうな場合は，解像度（DPI 値）や画像データの圧縮有無といった EPF 形式ファイル出力時の設定を変更することで，EPF 形式ファイルのファイルサイズを小さくできます。詳細については，「16.10　EPF 形式ファイルを出力する場合の実行環境の設定」を参照してください。

(2) プレビュー表示や印刷で使用する製品のバージョンについて

画像アイテムやバーコードアイテムなどの画像データを圧縮する設定で出力した EPF 形式ファイルをプレビュー表示や印刷する場合は，EUR Print Manager - Report Server 08-10 以降または EUR Print Manager - Client 08-10 以降を使用してください。

08-10 よりも前のバージョンの EUR Print Manager - Report Server または EUR Print Manager - Client を使用した場合は，画像データの表示や印刷ができません。

(3) OS の印刷ダイアログの初期設定について

ActiveX 部品の DefaultPrintDlg パラメタで YES を選択したときは，印刷時に OS の印刷ダイアログが表示されます。プリンタドライバによっては，OS の印刷ダイアログの初期設定に，EPF 形式ファイル中の情報が反映されないことがあります。印刷時の属性は，OS の印刷ダイアログで設定してください。

(4) 一時ファイルの作成場所について

印刷時には，システムの一時フォルダ，または EUR Print Service の環境設定ファイルおよび環境変数の「EURPS_TMPPATH」で指定した場所に一時ファイルを作成します。環境変数の指定方法については，マニュアル「EUR サーバ帳票出力」を参照してください。

18.1.6　ActiveX 部品の EPFFileURL パラメタに関する注意

EPFFileURL パラメタに，動的に EPF 形式ファイルを生成するためのユーザープログラムの URL を指定する場合，HTTP レスポンスの HTTP ヘッダの ContentLength 項目には，生成した EPF 形式ファイルのファイルサイズを正しく指定してください。間違って指定した場合は，ダウンロードの進捗画面が正しく表示されません。

また，EPFTempDataMode パラメタに「1（ダウンロードする EPF 形式ファイルを一時ファイルとして保存しない）」を指定した場合に，ContentLength 項目を正しく指定していないときは，ファイルデータを正常にダウンロードできないおそれがあります。

18.1.7 ファイル転送時間を省略する場合の注意

EUR Print Manager や EUR Print Manager - Adapter などの各コンポーネントが同じマシン上で稼働している場合，ファイル転送を省略し，ファイルの入出力に掛かる時間を短縮できます。

（1）EUR Print Manager と EUR Print Manager - Adapter 間

EUR Print Service に渡す入力ファイルや出力ファイル（EUR 形式ファイル，PDF 形式ファイルなど）のファイル転送を省略できます。

ファイル転送を省略するには，次の条件をすべて満たす必要があります。

- EUR Print Manager と EUR Print Manager - Adapter が同じマシン上で稼働する
  EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）で設定する IPADDRESS セクションの EURPM キー（EUR Print Manager が稼働するマシンの IP アドレス）の設定値が「127」で始まるとき，同一マシンと判断されます。
- EUR Print Manager と EUR Print Manager - Adapter が同一ロケールで稼働する
  EUR Print Manager - Adapter の実行環境で環境変数 LANG の値が同じとき，同一ロケールと判断されます。ただし，同じロケールでも，サポートしていないロケールでは動作を保証しません。
- Java 起動部品のメモリ入出力メソッドを使用しない
  EUR Print Manager - Adapter の Java 起動部品のメモリ入出力に関する次のメソッドは使用できません。

出力	メソッド名	機能	メモリ入出力
EPF 形式ファイル出力	setDataFileData	マッピング用のデータまたは可変記号値定義データを設定する	入力
	setUserDataFileData	ユーザ定義用のデータまたは可変記号値定義データを設定する	入力
	getEPFReport	EPF 形式データを取得する	出力
	getMergeEPFReport	複数の EPF 形式ファイルを統合した EPF 形式データを取得する	出力
EUR 形式ファイル出力	setDataFileData	マッピング用のデータまたは可変記号値定義データを設定する	入力
	setUserDataFileData	ユーザ定義用のデータまたは可変記号値定義データを設定する	入力
	getEURReport	EUR 形式データを取得する	出力

出力	メソッド名	機能	メモリ入出力
PDF形式ファイル出力	setDataFileData	マッピング用のデータまたは可変記号値定義データを設定する	入力
	setUserDataFileData	ユーザ定義用のデータまたは可変記号値定義データを設定する	入力
	setBookmarkFileData	しおり定義データを設定する	入力
	setDocBookmarkFileData	文書しおり定義データを設定する	入力
	setCryptoFileData	暗号化設定データを設定する	入力
	setDistributeFileData	PDF仕分けデータを設定する	入力
	getPDFReport	PDFデータを取得する	出力
Excel形式ファイル出力	setDataFileData	マッピング用のデータまたは可変記号値定義データを設定する	入力
	setUserDataFileData	ユーザ定義用のデータまたは可変記号値定義データを設定する	入力
	getXLSXReport	Excel形式データを取得する	出力
印刷（拠点プリンタ印刷，蓄積印刷）	setDataFileData	マッピング用のデータまたは可変記号値定義データを設定する	入力
	setUserDataFileData	ユーザ定義用のデータまたは可変記号値定義データを設定する	入力
	setDistributionInfoFileData	仕分け定義情報データを設定する	入力
印刷（クライアントプリンタ印刷）	setDataFileData	マッピング用のデータまたは可変記号値定義データを設定する	入力
	setUserDataFileData	ユーザ定義用のデータまたは可変記号値定義データを設定する	入力

（2） EUR Print Manager と EUR Print Manager - Report Server 間

EUR Print Manager と EUR Print Manager - Report Server が同一マシンで稼働するとき，蓄積される印刷データファイルのファイル転送を省略できます。

EUR Print Manager - Adapter の DestinationName で指定された出力先名の EUR Print Manager の出力先定義での IP アドレス，または ServerAddress プロパティの設定値が「127」で始まるときは，同一マシンと判断されます。

（3） EUR Print Manager - Report Server と EUR Print Manager - Report Server Adapter 間

ファイル転送を省略するには，次の条件をすべて満たす必要があります。

- EUR Print Manager - Report Server と EUR Print Manager - Report Server Adapter が同じマシン上で稼働する

EUR Print Manager - Report Server Adapter の ServerAddress プロパティの設定値が「127」で始まるとき，同一マシンと判断されます。ServerAddress プロパティを省略していたときは，EUR Print Manager - Report Server Adapter の環境設定ファイル（EURPMLSADP.ini）の IPADDRESS セクションの EURPMLS キーの設定値が仮定されます。

● EUR Print Manager - Report Server と EUR Print Manager - Report Server Adapter が同一ロケールで稼働する
EUR Print Manager - Report Server Adapter の実行環境で環境変数 LANG の値が同じとき，同一ロケールと判断されます。ただし，同じロケールでも，サポートしていないロケールでは動作を保証しません。

18.1.8 エンコーディングが異なる環境でファイル転送する場合の注意

EUR Print Manager の実行環境と EUR Print Manager - Adapter の実行環境とでエンコーディングが異なる場合で，マッピングデータファイルまたはユーザ定義データファイルの文字コードが「UTF-16」以外のときは，データファイルの区切り方法に「指定した区切り位置でデータを区切る」を指定して定義した帳票は使用しないでください。
EUR Print Manager - Adapter から EUR Print Manager にファイルを転送するときに区切り位置の情報がずれてしまうため，帳票を正しく出力できなくなります。

EUR Print Manager の実行環境と EUR Print Manager - Adapter の実行環境とでエンコーディングが異なる場合は，次のどちらかの帳票を使用してください。

- データファイルの区切り方法に「コンマやスペース等区切り文字でデータを区切る」を指定して定義した帳票
- 文字コードが「UTF-16」のマッピングデータファイルまたはユーザ定義データファイルを使用して定義した帳票

18.1.9 COBOL 起動部品を使用する場合の注意

COBOL 起動部品のパラメタの文字列項目（PIC X 項目）には，「クラス１　」や「トレイ１」のように，文字列の後ろに空白を付けた値を指定できません。

COBOL 起動部品のパラメタの文字列項目は固定長のため，指定したい文字列が項目長に満たない場合は，項目長を満たすまで文字列の後ろに空白を入れます。指定した文字列を判別するときは，文字列の後ろにある空白をすべて削除します。そのため，文字列の後ろに空白を付けた値を指定しても，指定値として扱われるのは文字列の後ろの空白を除いた値になります。

例を次に示します。

例 1　PRINTERCLASSNAME（PrintReport 関数）の場合

```
MOVE "クラス1  " TO PRINTERCLASSNAME
```

「クラス１　」と指定しても，「クラス 1」が指定値として扱われます。

例 2　SERVERTRAYNAME（PrintReport 関数）の場合

```
MOVE "トレイ1 " TO SERVERTRAYNAME
```

「トレイ１」と指定しても，「トレイ 1」が指定値として扱われます。

18.1.10　コマンド構文に指定できる文字列の長さ

コマンド起動部品および RS- コマンド起動部品でのコマンドの構文に指定できる文字列の長さは，約 30KB までです。

18.1.11　複数様式定義ファイルを指定して印刷する場合の注意

複数様式定義ファイルで traycode（給紙トレイ番号）キーワード※を使用する場合は，次の印刷方式を使用してください。これら以外の印刷方式では，traycode キーワードは無視されます。

- EUR Print Service と連携した拠点サーバでの印刷
- 印刷管理サーバでの印刷

なお，複数様式定義ファイルで traycode キーワードを定義した場合，EUR Print Manager から指定するトレイ名，およびプリンタクラスで定義されたトレイ名は無効になります。

注※

traycode キーワードの詳細については，マニュアル「EUR サーバ帳票出力」を参照してください。

18.1.12　印刷およびファイル出力実行時のファイル転送の分割転送サイズ

印刷およびファイル出力実行時に，KEEY314-S のメモリ不足エラーが発生した場合は，EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）の［OPTION］セクションの DATABUFFSIZE キーの値（ファイル転送時の分割転送サイズ）を小さくして再試行してください。なお，指定した値によっては，通信性能が変わる場合があります。通信性能が劣化する場合は値を変更することでチューニングしてください。

18.1.13 ページ数の多い帳票を出力する場合の注意

ページ数の多い帳票を出力する場合，一度に出力するページ数によっては出力速度に影響が出ることがあります。実際に出力する帳票データを使用してテストし，性能を確認してください。

18.1.14 Web ブラウザを使用して帳票を印刷またはプレビュー表示する場合の注意

- 32 ビット版の Internet Explorer を使用してください。64 ビット版の Internet Explorer では，帳票の印刷やプレビュー表示はできません。
- Internet Explorer 8 または Internet Explorer 9 で帳票をプレビュー表示しているときに，メニューバーの［表示］－［拡大］からページの拡大または縮小を実行すると，帳票の表示が不正になります。Internet Explorer のウィンドウを最小化して元のサイズに戻すと，帳票を正しく表示できます。
- Internet Explorer 9 で EUR Print Manager - Client Print ActiveX を使用して帳票を印刷すると，プリンタ選択ダイアログがデスクトップの左上隅に表示されます。

18.2　蓄積フォルダの指定についての注意

EUR Print Manager - Report Server をデフォルトのフォルダにインストールした場合，蓄積ファイル取得フォルダのデフォルトは "¥Program Files ¥HITACHI ¥EURPM Report Server ¥ESF¥" になります。蓄積フォルダを指定する際は，次の項目に注意してください。

- 蓄積フォルダには必要なディスク量を確保してください。蓄積フォルダに必要なディスク量については「2.1.3　蓄積ファイルの格納先の設定」を参照してください。
- 複数の EUR Print Manager - Report Server で蓄積フォルダを共有する場合，環境設定ファイル（EURPMLS.ini）の OPTION セクションの ESFID キーには，EUR Print Manager - Report Server ごとに異なる値を設定してください。同じ値が設定されていると印刷データの蓄積が正しく行われないため，エラーが発生することがあります。

18.3 実行環境についての注意

18.3.1 環境設定ファイルを更新した場合の注意

環境設定ファイルを更新した場合は，次のコンポーネントを再起動してください。

- EUR Print Manager
- EUR Print Manager - Adapter を使用しているプログラム
- EUR Print Manager - Report Server
- EUR Print Manager - Report Server Adapter を使用しているプログラム
- EUR Print Manager - Client

ただし，EURPM 制御コマンドの環境設定ファイルを変更した場合は，コンポーネントの再起動は必要ありません。EURPM 制御コマンドの環境設定ファイルは，次に EURPM 制御コマンドを実行したときから有効になります。

注意事項

EUR Print Manager を複数起動している場合は，環境設定ファイル（EURPMCTRL.ini）の［PATH］セクションの TEMP キーの値は変更できません。変更したときには，EURPM 制御コマンドの機能が使用できなくなります。

18.3.2 構成定義ファイルを更新した場合の注意

構成定義ファイルを更新した場合は，次のコンポーネントを再起動してください。

- EUR Print Manager
- EUR Print Manager - Report Server
- EUR Print Manager - Client

18.4 実行ユーザーとアクセス権

各コンポーネントが使用するファイルの操作権限を，それぞれの実行ユーザーに与えてください。入力ファイルには読み取りアクセス権，出力ファイルには書き込みアクセス権が必要です。

各コンポーネントの実行ユーザーの一覧を次に示します。

表 18-1 コンポーネントの実行ユーザーの一覧

コンポーネント	実行ユーザー
EUR Print Manager	**Windows 環境の場合** ローカルシステムアカウント (SYSTEM) ※1 **UNIX/Linux 環境の場合** EURPM 制御コマンドの実行ユーザー
EUR Print Manager - Adapter	使用するアプリケーションプログラムの実行ユーザー※2
EUR Print Manager - Report Server	**Windows 環境の場合** ローカルシステムアカウント (SYSTEM) ※1 **UNIX/Linux 環境の場合** EURPM-RS 制御コマンドの実行ユーザー
EUR Print Manager - Report Server Adapter	使用するアプリケーションプログラムの実行ユーザー※2
EUR Print Manager - Client	ログインユーザー※1
EUR Print Manager - Client Print ActiveX	使用するアプリケーションプログラムの実行ユーザー
EUR Print Manager - Client Preview ActiveX	使用するアプリケーションプログラムの実行ユーザー

注※1

デフォルトの実行ユーザーです。

注※2

IIS と ASP Script でブラウザから出力する場合，匿名ログオンを使用したときの実行ユーザーは匿名ユーザー（IUSER），認証ログインを使用したときの実行ユーザーはログインユーザーです。

EUR Print Service の実行ユーザーを次に示します。

- EUR Print Service が印刷管理サーバ上にある場合
  実行ユーザーは EUR Print Manager の実行ユーザーです。
- EUR Print Service が拠点サーバ上にある場合
  実行ユーザーは EUR Print Manager - Report Server の実行ユーザーです。

18.4.1 実行ユーザーがローカルシステムアカウントの場合，またはファイルの転送をスキップする場合

実行ユーザーがローカルシステムアカウントの場合は，入出力ファイルにネットワークドライブ上のパスを指定しないでください。また，ユーザーデータファイルおよび印刷データファイルの転送をスキップする場合，ファイルの指定にネットワークドライブ上のパスを指定しないでください。

18.4.2 EUR Print Manager - Client を新規にインストールした場合の注意

EUR Print Manager - Client の実行時に，次に示す条件をすべて満たした場合にエラーが発生します。

- デフォルトのフォルダ（C:¥Program Files¥HITACHI¥EURPM Client）にインストールしたとき
- Users グループに属するユーザーで Windows にログインしたとき

EUR Print Manager - Client を新規インストールした直後の状態では，環境設定ファイルの [PATH] セクションの CONF キー，TEMP キー，および [ERROR] セクションの LOGFILE キーが未設定です。そのため，各キーには次に示すフォルダが仮定されます。

表 18-2 キーの設定を省略した場合に仮定されるフォルダの一覧

セクション	キー	キーの設定を省略した場合に仮定されるフォルダ
PATH	CONF	C:¥Program Files¥HITACHI¥EURPM Client¥Conf
	TEMP	C:¥Program Files¥HITACHI¥EURPM Client¥Temp¥Client
ERROR	LOGFILE	C:¥Program Files¥HITACHI¥EURPM Client¥Log

しかし，Users グループに属するユーザーは Program Files フォルダへの書き込み権限がないためにエラーが発生します。

次に示すどちらかの方法でエラーを解消してください。

- Users グループに属するユーザーが書き込み権限のあるフォルダを，各キーに指定する
- C:¥Program Files¥HITACHI¥EURPM Client に，Users グループに属するユーザーの書き込み権限を与える

なお，Windows Vista および Windows 7 の場合は，リダイレクト機能によってこのエラーは発生しません。ユーザーごとの書き込み可能な領域にフォルダが仮定されます。

18.5　Windows 環境での注意

18.5.1　Windows 環境共通の注意事項

Windows 環境で EUR Print Manager を使用する場合の共通する注意について，次に示します。

- 製品のインストールは，管理者権限を持つユーザーで実行してください。インストールに必要なユーザー権限については，「表 B-1　製品のインストールに必要なユーザー権限」を参照してください。
- ［EUR Print Manager 起動管理］ダイアログを使用する場合は，管理者権限を持つユーザーで実行してください。
- EURPM 制御コマンドを使用する場合は，管理者権限を持つユーザーで実行してください。例えば，コマンドプロンプトから EURPM 制御コマンドを実行するときには，コマンドプロンプトは管理者権限を持つユーザーが起動してください。

18.5.2　Windows Server 2008 での注意

(1) EUR Print Manager を使用する場合の注意

Windows Server 2008 で EUR Print Manager を使用する場合の注意について，次に示します。

- インストール時に，OS から実行許可についてのダイアログが表示される場合があります。このときには，実行を許可する応答をしてください。
- EUR Print Manager をデフォルトフォルダにインストールした場合，環境設定ファイルは管理者権限で編集してください。
- EUR Print Manager のインストール先にデフォルトフォルダを指定した場合の，各ファイルのインストール先を次に示します。なお，OS が 64 ビット版の場合は，「Program Files」を「Program Files (x86)」に読み替えてください。
  - 帳票ファイル
    C:¥Program Files¥HITACHI¥EUR Print Manager¥Form
  - 複数様式情報定義ファイル
    C:¥Program Files¥HITACHI¥EUR Print Manager¥Multi
  - 文書情報設定ファイル
    C:¥Program Files¥HITACHI¥EUR Print Manager¥DocInfo
  - 接続情報ファイル
    C:¥Program Files¥HITACHI¥EUR Print Manager¥DBInfo
  - 置き換え表管理情報ファイル
    C:¥Program Files¥HITACHI¥EUR Print Manager¥ReplaceItem
  - Acrobat JavaScript 定義ファイル
    C:¥Program Files¥HITACHI¥EUR Print Manager¥ScriptCnt

- ビューアプレファレンス定義ファイル
  C:¥Program Files¥HITACHI¥EUR Print Manager¥Preference

また，各ファイルの出力先は次に示すフォルダに設定されます。

- ログファイル
  C:¥Program Files¥HITACHI¥EUR Print Manager¥Log
- 一時ファイル
  C:¥Program Files¥HITACHI¥EUR Print Manager¥Temp
- 構成定義ファイル
  C:¥Program Files¥HITACHI¥EUR Print Manager¥Conf

- ローカルシステムアカウントでログインしたユーザー，または管理者権限を持たないユーザーが EUR Print Manager を実行する場合は，次の点に注意してください。
  - デフォルトのログファイルの出力先に対して書き込み権限を設定するか，または環境設定ファイルを変更して，ログファイルの出力先を書き込み権限のあるフォルダに設定してください。ログファイルフォルダに書き込み権限がないと，ログファイルは出力されません。
  - デフォルトの一時ファイル出力先に対して書き込み権限を設定するか，または環境設定ファイルを変更して，一時ファイル出力先を書き込み権限のあるフォルダに設定してください。一時ファイル出力先に書き込み権限がないと，エラーになります。
- 管理者権限を持たないユーザーが EUR Print Manager 構成定義ファイルを実行する場合は，デフォルトの構成定義ファイルのフォルダに対して書き込み権限を設定するか，または環境設定ファイルを変更して構成定義ファイルのフォルダを書き込み権限のあるフォルダに設定することをお勧めします。
  フォルダに書き込み権限がないと，次に示す別フォルダにユーザーごとのファイルが出力されます。
  C:¥Users¥< ログインユーザー >¥AppData¥Local¥VirtualStore¥
- 管理者権限を持たないユーザーが印刷定義ファイルを作成する場合は，デフォルトのフォルダに対して書き込み権限を設定するか，または環境設定ファイルを変更して印刷定義ファイルのフォルダを書き込み権限のあるフォルダに設定してください。

(2) EUR Print Manager - Adapter を使用する場合の注意

- インストール時に，OS から実行許可についてのダイアログが表示される場合があります。このときには，実行を許可する応答をしてください。
- EUR Print Manager をデフォルトフォルダにインストールした場合，環境設定ファイルは管理者権限で編集してください。
- EUR Print Manager のインストール先にデフォルトフォルダを指定した場合，ファイルの出力先は次に示すフォルダに設定されます。なお，OS が 64 ビット版の場合は，「Program Files」を「Program Files (x86)」に読み替えてください。
  C:¥Program Files¥HITACHI¥EURPM Adapter¥Log
- 管理者権限を持たないユーザーがジョブを実行する場合は，デフォルトのログファイルの出力先に対して書き込み権限を設定するか，または環境設定ファイルを変更してログファイルの出力先を書き込み権限のあるフォルダに設定することをお勧めします。
  フォルダに書き込み権限がないと，次に示す別フォルダにユーザーごとのファイルが

出力されます。
C:¥Users¥< ログインユーザー >¥AppData¥Local¥VirtualStore¥

- 管理者権限を持たないユーザーがジョブを実行する場合は，出力するファイルの出力先に，書き込み権限を設定してください。

（3） EUR Print Manager - Report Server を使用する場合の注意

- インストール時に，OS から実行許可についてのダイアログが表示される場合があります。このときには，実行を許可する応答をしてください。
- EUR Print Manager - Report Server をデフォルトフォルダにインストールした場合，環境設定ファイルは，管理者権限で編集してください。
- EUR Print Manager - Report Server のインストール先にデフォルトフォルダを指定した場合，各ファイルの出力先は次に示すフォルダに設定されます。なお，OS が 64 ビット版の場合は，「Program Files」を「Program Files (x86)」に読み替えてください。
  - ログファイル
    C:¥Program Files¥HITACHI¥EURPM Local Server¥Log
  - 一時ファイル
    C:¥Program Files¥HITACHI¥EURPM Local Server¥Temp
  - 蓄積フォルダ
    C:¥Program Files¥HITACHI¥EURPM Local Server¥ESF
  - 構成定義ファイル
    C:¥Program Files¥HITACHI¥EURPM Local Server¥Conf
- ローカルシステムアカウントでログインしたユーザー，または管理者権限を持たないユーザーで EUR Print Manager - Report Server を実行する場合は，次の点に注意してください。
  - デフォルトのログファイル出力先に対して書き込み権限を設定するか，または環境設定ファイルを変更して，ログファイル出力先を書き込み権限のあるフォルダに設定してください。ログファイルフォルダに書き込み権限がないと，ログファイルは出力されません。
  - デフォルトの一時ファイル出力先に対して書き込み権限を設定するか，または環境設定ファイルを変更して，一時ファイル出力先を書き込み権限のあるフォルダに設定してください。一時ファイル出力先に書き込み権限がないと，エラーになります。
  - デフォルトの蓄積フォルダに対して書き込み権限を設定するか，または環境設定ファイルを変更して，蓄積フォルダを書き込み権限のあるフォルダに設定してください。蓄積フォルダに書き込み権限がないと，エラーになります。
- 管理者権限を持たないユーザーが EUR Print Manager - Report Server 構成定義ファイルを実行する場合は，デフォルトの構成定義ファイルのフォルダに対して書き込み権限を設定するか，または環境設定ファイルを変更して，構成定義ファイルのフォルダを書き込み権限のあるフォルダに設定することをお勧めします。
  フォルダに書き込み権限がないと，次に示す別フォルダにユーザーごとのファイルが出力されます。
  C:¥Users¥< ログインユーザー >¥AppData¥Local¥VirtualStore¥

（4） EUR Print Manager - Report Server Adapter を使用する場合の注意

- インストール時に，OS から実行許可についてのダイアログが表示される場合があります。このときには，実行を許可する応答をしてください。
- EUR Print Manager - Report Server をデフォルトフォルダにインストールした場合，環境設定ファイルは管理者権限で編集してください。
- EUR Print Manager - Report Server のインストール先にデフォルトフォルダを指定した場合，ファイルの出力先は次に示すフォルダに設定されます。なお，OS が 64 ビット版の場合は，「Program Files」を「Program Files (x86)」に読み替えてください。
  C:¥Program Files¥HITACHI¥EURPM Local Server Adapter¥Log
- 管理者権限を持たないユーザーがジョブを実行する場合は，デフォルトのログファイルの出力先フォルダに対して書き込み権限を設定するか，または環境設定ファイルを変更して，ログファイルの出力先を書き込み権限のあるフォルダに設定することをお勧めします。
  フォルダに書き込み権限がないと，次に示す別フォルダにユーザーごとのファイルが出力されます。
  C:¥Users¥< ログインユーザー >¥AppData¥Local¥VirtualStore¥
- 管理者権限を持たないユーザーがジョブを実行する場合は，出力するファイルの出力先に，書き込み権限を設定してください。

18.5.3 64 ビット版の Windows Server での注意

（1） 出力する場合の注意

64 ビット版の Windows Server で，次に示す条件を満たすときは，OS の仕様によって印刷に失敗することがあります。

- 32 ビット印刷プログラム（EUR Print Manager と EUR Print Manager - Report Server を含む）で，印刷を複数回実行したとき（実行する印刷プログラムが同じプログラムかどうかは関係ありません）
- 先に実行したユーザーと異なる実行ユーザー ID で印刷したとき

なお，32 ビット印刷プログラムがサービスプログラム※の場合は，次に示す注意が必要です。

- サービスプログラムとそれ以外のプログラムでは，実行ユーザー ID をローカルシステムアカウント以外のユーザー（例：ログオンユーザー）に設定しても，異なるユーザーとして OS に認識されます。
- サービスプログラム同士※の場合，実行ユーザー ID がローカルシステムアカウントの場合は，同一ユーザーとして認識されるため問題は発生しません。

印刷に失敗したときは，印刷プログラムの実行ユーザー ID を一つにしてください。
EUR Print Manager と EUR Print Manager - Report Server のデフォルトの実行ユー

ザー ID はローカルシステムアカウントです。なお，32 ビット印刷プログラムが両方ともサービスプログラム※の場合は，実行ユーザー ID はローカルシステムアカウントで統一する必要があります。

実行ユーザー ID の変更方法については，OS のマニュアルを参照してください。

注※　EUR Print Manager と EUR Print Manager - Report Server を含みます。または，サービスプログラムから起動されるプログラムです。

（2） EUR Print Manager - Adapter を使用する場合の注意

64 ビット版の Windows Server で EUR Print Manager - Adapter を使用する場合，呼び出すプログラムの動作モードに応じて，次のモジュールを使用してください。

32 ビットプログラムから呼び出すとき
- ActiveX 起動部品（32 ビット版）
- Java 起動部品（32 ビット版）
- COBOL 起動部品（32 ビット版）
- コマンド起動部品（32 ビット版）

64 ビットプログラムから呼び出すとき
- ActiveX 起動部品（64 ビット版）
- Java 起動部品（64 ビット版）
- COBOL 起動部品（64 ビット版）
- コマンド起動部品（32 ビット版）

  コマンド起動部品（64 ビット版）は提供していません。

（3） EUR Print Manager - Report Server Adapter を使用する場合の注意

64 ビット版の Windows Server で EUR Print Manager - Report Server Adapter を使用する場合，呼び出すプログラムの動作モードに応じて，次のモジュールを使用してください。

32 ビットプログラムから呼び出すとき
- ActiveX 起動部品（32 ビット版）
- Java 起動部品（32 ビット版）
- コマンド起動部品（32 ビット版）

64 ビットプログラムから呼び出すとき
- ActiveX 起動部品（64 ビット版）
- Java 起動部品（64 ビット版）
- コマンド起動部品（32 ビット版）

  コマンド起動部品（64 ビット版）は提供していません。

18.5.4 Windows Vista および Windows 7 での注意

(1) 管理者権限の設定

- インストール時に，インストール実行許可についてのダイアログが表示されるので，実行を許可する応答をしてください。
- 次に示すコンポーネントを，管理者権限を持つユーザーが実行する際は，実行許可についてのダイアログが表示されます。実行を許可する応答をしてください。
  - EUR Print Manager - Report Server Adapter
  - EUR Print Manager - Report Server Adapter が提供するツール
  - EUR Print Manager - Client
  - EUR Print Manager - Client が提供するツール
- クライアントプリンタクラスを設定する場合は，管理者権限で設定するか，クライアントプリンタクラス定義ファイルの格納先をシステムフォルダ下以外のフォルダに指定してください。
- EUR Print Manager - Adapter, EUR Print Manager - Report Server Adapter または EUR Print Manager - Client をデフォルトフォルダにインストールした場合，それぞれの環境設定ファイル（EURPMADP.ini，EURPMLSADP.ini および EURPMCL.ini）は管理者権限で編集してください。
- EUR Print Manager -Client Print ActiveX または EUR Print Manager -Client Preview ActiveX を管理者権限以外で実行した場合，ログファイル（EURPMPrintAX.log および EURPMPreViewAX.log）および一時ファイルの出力先は，環境変数 TMP または TEMP のどちらかに指定されたフォルダ下の Low フォルダとなります。

(2) OS のリダイレクト機能

EUR Print Manager - Adapter，EUR Print Manager - Report Server Adapter または EUR Print Manager - Client をデフォルトフォルダにインストールした場合，デフォルトの出力先がシステムフォルダ下になるファイルを次に示します。なお，OS が 64 ビット版の場合は，「Program Files」を「Program Files (x86)」に読み替えてください。

- EUR Print Manager - Adapter のログファイル
  C:¥Program Files¥HITACHI¥EURPM Adapter¥Log
- EUR Print Manager - Report Server Adapter のログファイル
  C:¥Program Files¥HITACHI¥EURPM Local Server Adapter¥Log
- EUR Print Manager - Client のログファイル
  C:¥Program Files¥HITACHI¥EURPM Client ¥Log
- EUR Print Manager - Client の一時ファイル
  C:¥Program Files¥HITACHI¥EURPM Client ¥Temp
- クライアントプリンタクラス定義ファイル
  C:¥Program Files¥HITACHI¥EURPM Client ¥Conf

C:¥Program Files 下または C:¥Program Files (x86) 下のファイルを作成・更新すると，OS のリダイレクト機能によって，ユーザーごとの書き込み可能な領域にファイルが格納されます。

ログインユーザーごとの EUR Print Manager - Adapter のログファイルの出力先を次に示します。

C:¥Users¥< ログインユーザー >¥AppData¥Local¥VirtualStore¥Program Files¥HITACHI¥EURPM Adapter¥Log

また，ログインユーザーごとの EUR Print Manager - Report Server Adapter のログファイルの出力先を次に示します。

C:¥Users¥< ログインユーザー >¥AppData¥Local¥VirtualStore¥Program Files¥HITACHI¥EURPM Local Server Adapter¥Log

18.6 UNIX/Linux 環境での注意

(1) EUR Print Manager を異なるロケールで使用する場合

EURPM 起動管理定義の環境設定ファイルのパスに日本語が含まれていると文字を正しく判別できません。EURPM 制御コマンドで該当する起動管理定義を定義し直してください。

(2) Java 起動部品またはコマンド起動部品を使用する場合

EUR Print Manager - Adapter または EUR Print Manager - Report Server Adapter を使用する場合，呼び出すプログラムの動作モードに応じて，次のモジュールを使用してください。

32 ビットプログラムから呼び出すとき

- Java 起動部品（32 ビット版）
- コマンド起動部品（32 ビット版）

64 ビットプログラムから呼び出すとき

- Java 起動部品（64 ビット版）
- コマンド起動部品（32 ビット版）

コマンド起動部品（64 ビット版）は提供していません。

(3) EUR Print Manager または EUR Print Manager - Report Server を HP-UX 環境で使用する場合

OS の問題によって，EUR Print Manager または EUR Print Manager - Report Server が応答しなくなることがあります。このようなときには次の手順で対応してください。

1. ps コマンドで EUR Print Manager または EUR Print Manager - Report Server のプロセス ID を確認します。
   - EUR Print Manager の場合

```
# ps -ef | grep eurpmd
root プロセスID 1 0 hh:mm:ss ? 0:00 /opt/eurpm/bin/eurpmd
```

   - EUR Print Manager - Report Server の場合

```
# ps -ef | grep eurpmls
root プロセスID 1 0 hh:mm:ss ? 0:00 /opt/eurpm/bin/eurpmls
```

2. kill コマンドで EUR Print Manager または EUR Print Manager - Report Server のプロセス ID に停止シグナルを送ります。

```
# kill -9 プロセス ID
```

なお，この OS の問題は次のどちらかを実施すると回避できます。

- 対策パッチ「PHCO_31553」を適用する
- 環境変数「PTHREAD_COMPAT_MODE=1」を設定する

対策パッチの適用および環境変数の設定方法については，OS のマニュアルを参照してください。

（4） EUR Print Manager - Adapter または EUR Print Manager - Report Server Adapter を Linux 5 環境で使用する場合

Linux 5 のバージョン 5.1 で Java 起動部品を使用する場合，RPM パッケージ（glibc-2.5-18.el5_1.1 以降）をインストールしてください。

18.7　蓄積管理 GUI についての注意

（1）蓄積ファイルの一覧をソート表示する場合

取得した蓄積ファイルの一覧をソート表示する場合，一覧に表示されている蓄積ファイルの件数が 5,000 件程度になるようにしてください。一覧に表示されている蓄積ファイルの件数が多い（約 10,000 件以上）と，正しくソートできないことがあります。

一覧に表示されている蓄積ファイルの件数が 5,000 件を超えている場合，検索条件を設定するなどして，表示される蓄積ファイルを絞り込んでください。検索条件の設定方法については，「3.4.8　蓄積ファイルの検索」を参照してください。

（2）OS が Windows 7 の場合

ディスプレイに表示される文字の大きさを変更しないでください。Windows 7 の場合は，「小 -100%（規定）」が規定の大きさです。規定以外の大きさで帳票をプレビュー表示すると，帳票の表示が不正になります。

ディスプレイに表示される文字の大きさは，［コントロールパネル］から，［デスクトップのカスタマイズ］－［ディスプレイ］を選択すると確認できます。

（3）Web ブラウザに Internet Explorer 7 を使用する場合

- 32 ビット版の Internet Explorer を使用してください。64 ビット版の Internet Explorer では，帳票の印刷やプレビュー表示はできません。
- ［拡大レベルの変更］で「100%」を指定して使用してください。また，帳票のプレビュー表示中に拡大レベルを変更しないでください。拡大レベルに 100% 以外を指定した状態で帳票をプレビュー表示すると，帳票の表示が不正になります。

（4）Web ブラウザに Internet Explorer 8 を使用する場合

- 32 ビット版の Internet Explorer を使用してください。64 ビット版の Internet Explorer では，帳票の印刷やプレビュー表示はできません。
- 蓄積管理 GUI で次の操作を行うと，EUR Print Manager - Client Print ActiveX または EUR Print Manager - Client Preview ActiveX の実行を許可するかどうかを確認するダイアログが表示されます。
  - プレビュー表示
  - ［印刷］画面から［このマシンで印刷］を選択して印刷を実行

  ダイアログが表示されたら実行を許可してください。ただし，ダイアログの応答後には画面が初期表示に戻ります。
  なお，蓄積管理 GUI を使用する前に，Internet Explorer のアドオンの管理機能で EUR Print Manager - Client Print ActiveX および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX の実行を許可しておくこともできます。
- メニューバーの［表示］－［拡大］で「100%」を指定して使用してください。また，帳票のプレビュー表示中に倍率を変更しないでください。倍率に 100% 以外を指定し

た状態で帳票をプレビュー表示すると，帳票の表示が不正になります。

(5) Web ブラウザに Internet Explorer 9 を使用する場合

- 32 ビット版の Internet Explorer を使用してください。64 ビット版の Internet Explorer では，帳票の印刷やプレビュー表示はできません。
- 蓄積管理 GUI で次の操作を行うと，EUR Print Manager - Client Print ActiveX または EUR Print Manager - Client Preview ActiveX の実行を許可するかどうかを確認するダイアログが表示されます。
  - プレビュー表示
  - ［印刷］画面から［このマシンで印刷］を選択して印刷を実行

  ダイアログが表示されたら実行を許可してください。ただし，ダイアログの応答後には画面が初期表示に戻ります。
  なお，蓄積管理 GUI を使用する前に，Internet Explorer のアドオンの管理機能で EUR Print Manager - Client Print ActiveX および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX の実行を許可しておくこともできます。
- メニューバーの［表示］－［拡大］で「100%」を指定して使用してください。また，帳票のプレビュー表示中に倍率を変更しないでください。倍率に 100% 以外を指定した状態で帳票をプレビュー表示すると，帳票の表示が不正になります。
- ［印刷］画面から［このマシンで印刷］を選択して印刷を実行すると，プリンタ選択ダイアログがデスクトップの左上隅に表示されます。

18.8 エラーメッセージについての注意

EUR Print Manager - Client の起動時にマシンの負荷状態が大きい場合に，エラーメッセージ KEEY116-E が表示されることがあります。EUR Print Manager - Client を再起動してください。

付録

付録 A　旧バージョンとの互換性

付録 B　インストール

付録 C　アンインストール

付録 D　システムの負荷分散と多重化

付録 E　表示言語とエンコーディング

付録 F　EUR Print Manager と対応する各製品のバージョン

付録 G　このマニュアルの参考情報

付録 H　用語解説

付録 A　旧バージョンとの互換性

旧バージョンがインストールされた環境にバージョン 8 をインストールする場合の，各製品の旧バージョンとの互換性について説明します。

付録 A.1　EUR Print Manager，および EUR Print Manager - Adapter の互換性

EUR Print Manager，および EUR Print Manager - Adapter の互換性について説明します。

（1） Windows 環境の場合

EUR Print Manager および EUR Print Manager - Adapter の旧バージョンとバージョン 8 との互換性について説明します。

- バージョン 1 との互換性
  EUR Print Manager，および EUR Print Manager - Adapter は，バージョン 1 とバージョン 8 では機能の互換性がありません。
  バージョン 1 がインストールされているサーバにバージョン 8 をインストールすると，エラーメッセージが表示されてインストールが中止されます。バージョン 1 からバージョン 8 へ移行する場合は，バージョン 1 をアンインストールしてから，バージョン 8 をインストールしてください。
- バージョン 5 またはバージョン 7 との互換性
  EUR Print Manager および EUR Print Manager - Adapter は，バージョン 5 またはバージョン 7 とバージョン 8 では機能の互換性があります。
  バージョン 5 またはバージョン 7 からバージョン 8 への移行は，上書きインストールで実行できます。

同じバージョンは上書きインストールできます。

バージョン 8 では，EUR Print Manager をインストールすると EUR Print Service - EUR Print Format option もインストールされます。コントロールパネルの［アプリケーションの追加と削除］には，［EUR Print Manager］および［EUR Print Manager EPF 形式ファイル出力機能］が追加されます。

EUR Print Manager をアンインストールする場合は，コントロールパネルの［アプリケーションの追加と削除］で［EUR Print Manager］を選択してアンインストールを実行してください。EUR Print Manager および EUR Print Service - EUR Print Format option の両方がアンインストールされます。EUR Print Manager および EUR Print Service - EUR Print Format option は，一方だけをアンインストールすることはできません。

［EUR Print Manager EPF 形式ファイル出力機能］を選択してアンインストールを実行した場合は，EUR Print Manager を再インストールしてから，コントロールパネルの［アプリケーションの追加と削除］で［EUR Print Manager］を選択して，再度アンインストールを実行してください。

（2） UNIX/Linux 環境の場合

EUR Print Manager のバージョン 7 とバージョン 8 との互換性について説明します。

- バージョン 7 の EUR Print Manager との互換性
  バージョン 7 の EUR Print Manager だけがインストールされている場合，バージョン 7 とバージョン 8 では機能の互換性があります。バージョン 7 からバージョン 8 への移行は，上書きインストールで実行できます。なお，EUR Print Manager には，バージョン 7 より前のバージョンはありません。
- バージョン 7 の EUR Print Manager および EUR Print Service - EUR Print Format option との互換性
  バージョン 7 の EUR Print Manager および EUR Print Service - EUR Print Format option がインストールされている場合，バージョン 7 とバージョン 8 では機能の互換性がありません。バージョン 8 をインストールする場合は，まず EUR Print Service - EUR Print Format option をアンインストールしてください。そのあと，バージョン 8 の EUR Print Manager を上書きインストールしてください。

また，EUR Print Manager - Adapter は，バージョン 5 またはバージョン 7 と，バージョン 8 では機能の互換性があります。なお，EUR Print Manager - Adapter には，バージョン 5 より前のバージョンはありません。

同じバージョンは上書きインストールできます。

バージョン 8 では，EUR Print Manager をインストールすると同時に EUR Print Service - EUR Print Format option もインストールされます。ただし，PP の一覧には EUR Print Manager だけが表示されます。

付録 A.2　EUR Print Manager - Report Server，および EUR Print Manager - Report Server Adapter の互換性

EUR Print Manager - Report Server，および EUR Print Manager - Report Server Adapter の互換性について説明します。

（1） Windows 環境の場合

EUR Print Manager - Report Server の旧バージョンとバージョン 8 との互換性について説明します。

- バージョン 1 との互換性

EUR Print Manager - Report Server は，バージョン 1 とバージョン 8 では機能の互換性がありません。
バージョン 1 がインストールされているサーバにバージョン 8 をインストールすると，エラーメッセージが表示されてインストールが中止されます。バージョン 1 からバージョン 8 へ移行する場合は，バージョン 1 をアンインストールしてから，バージョン 8 をインストールしてください。

- バージョン 5 またはバージョン 7 との互換性
  EUR Print Manager - Report Server は，バージョン 5 またはバージョン 7 と，バージョン 8 では機能の互換性があります。
  バージョン 5 またはバージョン 7 から，バージョン 8 への移行は，上書きインストールで実行できます。

EUR Print Manager - Report Server Adapter は，バージョン 5 またはバージョン 7 と，バージョン 8 では機能の互換性があります。なお，EUR Print Manager - Report Server Adapter には，バージョン 5 より前のバージョンはありません。

バージョン 5 またはバージョン 7 から，バージョン 8 への移行は，上書きインストールで実行できます。

同じバージョンは上書きインストールできます。

(2) UNIX/Linux 環境の場合

EUR Print Manager - Report Server には，バージョン 8 より前のバージョンはありません。

EUR Print Manager - Report Server Adapter のバージョン 7 からバージョン 8 への移行は，上書きインストールで実行できます。

なお，同じバージョンは上書きインストールできます。

付録 A.3　EUR Print Manager - Client の互換性

EUR Print Manager - Client の旧バージョンとバージョン 8 との互換性について説明します。

- バージョン 1 との互換性
  EUR Print Manager - Client は，バージョン 1 とバージョン 8 では機能の互換性がありません。同じ PC 上でバージョン 1 とバージョン 8 は共存できます。
  バージョン 1 がインストールされている PC にバージョン 8 をインストールすると，バージョン 8 が新規にインストールされます。
- バージョン 5 またはバージョン 7 との互換性
  EUR Print Manager - Client は，バージョン 5 またはバージョン 7 と，バージョン 8 では機能の互換性があります。
  バージョン 5 またはバージョン 7 から，バージョン 8 への移行は，上書きインストー

ルで実行できます。

同じバージョンは上書きインストールできます。

付録 A.4　EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX の互換性

EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX は，旧バージョンとバージョン 8 では機能の互換性があります。

旧バージョンからバージョン 8 への移行は，次の方法で実施してください。

クライアントインストールによってインストールした場合

新しいバージョンの EUR Print Manager - Client を上書きインストールしてください。新しいバージョンの EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX も同時にインストールされます。同じバージョンも上書きインストールできます。

クライアントインストールの詳細については，「付録 B.9　EUR Print Manager - Client のインストール」を参照してください。

ダウンロードパッケージによってインストールした場合

旧バージョンのインストール単位によって移行方法が異なります。移行方法を次の表に示します。

表 A-1　EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX の移行方法（ダウンロードパッケージによってインストールした場合）

インストール単位		移行方法
移行前	移行後	
マシン単位	マシン単位	マシン単位インストール用のダウンロードパッケージを使用して上書きインストールしてください。
	ユーザー単位	EUR Print Manager - Client ActiveX 削除ツールを使用して旧バージョンをアンインストールしたあと，ユーザー単位インストール用のダウンロードパッケージを使用してインストールしてください。 旧バージョンのアンインストール方法については，「付録 C.6(2)(a)　EUR Print Manager - Client ActiveX 削除ツールを使用してアンインストールする」を参照してください。
ユーザー単位	マシン単位	ブラウザのメニューから旧バージョンをアンインストールしたあと，マシン単位インストール用のダウンロードパッケージを使用してインストールしてください。 旧バージョンのアンインストール方法については，「付録 C.6(2)(b)　ブラウザのメニューからアンインストールする」を参照してください。

インストール単位		移行方法
移行前	移行後	
	ユーザー単位	ユーザー単位インストール用のダウンロードパッケージを使用して上書きインストールしてください。

インストール単位については，「付録 B.11(1)(a)　ダウンロードパッケージの種類」を参照してください。

MSI インストーラによってインストールした場合

新しいバージョンのインストーラで上書きインストールしてください。同じバージョンも上書きインストールできます。

EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX のインストール方法については，「付録 B.11　EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX のインストール」を参照してください。

付録 B　インストール

EUR Print Manager の各製品のインストール方法と，インストール後のフォルダ構成について説明します。

製品のインストールに必要なユーザー権限を，次の表に示します。

表 B-1　製品のインストールに必要なユーザー権限

OS	実行ユーザー	サーバ製品				クライアント製品		
		EPM	EPM -AD	EPM -RS	EPM-RS-AD	EPM -CL	EPM-CL-AX	EPM-CL-PVX
Windows Server 2003	Administrators グループに属するユーザー	○	○	○	○	－	－	－
	Power Users グループに属するユーザー	×	×	×	○	－	－	－
Windows Server 2008	管理者権限を持つユーザー	○	○	○	○	－	－	－
Windows XP	Administrators グループに属するユーザー	－	○	－	○	○	○	○
	Power Users グループに属するユーザー	－	×	－	○	○	○	○
Windows Vista	管理者権限を持つユーザー	－	○	－	○	○	○	○
	標準ユーザー権限を持つユーザー	－	×	－	×	×	△	△
Windows 7	管理者権限を持つユーザー	－	○	－	○	○	○	○
	標準ユーザー権限を持つユーザー	－	×	－	×	×	△	△
UNIX/ Linux	スーパーユーザー	○	○	○	○	－	－	－

（凡例）

EPM：EUR Print Manager

EPM-AD：EUR Print Manager - Adapter

EPM-RS：EUR Print Manager - Report Server

EPM-RS-AD：EUR Print Manager - Report Server Adapter

EPM-CL：EUR Print Manager - Client

EPM-CL-AX：EUR Print Manager - Client Print ActiveX
EPM-CL-PVX：EUR Print Manager - Client Preview ActiveX
○：インストールできます。
△：ユーザー単位インストール用のダウンロードパッケージによってインストールする場合だけインストールできます。
×：インストールできません。
－：サポートしていません。

付録 B.1　EUR Print Manager のインストール

EUR Print Manager は，英語版の OS にもインストールできます。日本語版と英語版のどちらの場合も，次の方法でインストールできます。ここでは日本語版の OS へのインストールを例に説明します。なお，Windows 環境の場合と UNIX/Linux 環境の場合とでインストール方法は異なります。

インストールに必要なユーザー権限については，「表 B-1　製品のインストールに必要なユーザー権限」を参照してください。

（1） Windows 環境の場合

EUR Print Manager をインストールするときは，ほかのユーザーアプリケーションプログラムを終了させてください。また，インストールする前に，インストール時に必要なディスクの空き容量を確認してください。

Windows Server 2008 にインストールする場合，OS から実行許可についてのダイアログが表示されることがあります。このときには，実行を許可する応答をしてください。

EUR Print Manager のインストールを開始するには，製品媒体の中にある「Setup.exe」を実行します。「EUR Print Manager セットアッププログラムへようこそ。」と表示されたら，画面の指示に従ってインストールを完了させてください。

（a） 上書きインストール時の注意

- アイコンのキャッシュファイルの状態によっては，EUR Print Manager のアイコンが正しく表示されない場合があります。この場合，次の操作でアイコンのキャッシュファイルを再作成してください。
  1. **Windows のデスクトップ上でマウスを右クリックし，表示されたリストボックスから［プロパティ］をクリックします。**
     ［画面のプロパティ］ダイアログが表示されます。
  2. **［設定］タブをクリックし，［画面の色］のリストボックスから「True Color（16 ビット）」をクリックします。または，［画面の色］のリストボックスから「True Color（24 ビット）」もしくは「True Color（32 ビット）」をクリックします。適用 OS によっては，［画面の色］のリストボックスから「中（16 ビット）」，「高（24 ビット）」，または「最高（32 ビット）」をクリックします。**
     変更内容を保存するかどうかを確認するメッセージダイアログが表示されます。
  3. **［はい］をクリックします。**

［画面のプロパティ］ダイアログが表示されます。

4. **［OK］をクリックします。**

- 上書きインストールを実行した場合，環境設定ファイルは上書きされません。
- 同一マシン上に EUR Print Manager - Report Server がインストールしてある場合，上書きインストールを行うときには，［コントロールパネル］－［管理ツール］－［サービス］から EUR Print Manager - Report Server のサービスを停止させてください。なお，EUR Print Manager のサービスは，インストーラによって自動的に停止します。

（2） UNIX/Linux 環境の場合

EUR Print Manager をインストールするときは，日立 PP インストーラを使用してください。ここでは，日立 PP インストーラの使用方法と PP のインストール方法を説明します。

（a） 日立 PP インストーラの起動

日立 PP インストーラは，提供された媒体に格納されています。次のことに注意して実行してください。

- デバイススペシャルファイル名や CD-ROM のマウントディレクトリは，OS，ハード，および環境によって異なります。OS のマニュアルや使用環境を確認して実行してください。
- 日立 PP インストーラ実行時の言語種別と実行するターミナルの言語を一致させてください。

（b） PP のインストール

日立 PP インストーラのメインメニューで［I］を選択すると，インストール画面が表示されます。インストール画面の例を次に示します。

```
      PP-NO.        VR              PP-NAME
<@>001 型名       バージョン番号    EUR Print Manager
   :
F) Forward B) Backward J) Down K) Up Space) Select/Unselect I) Install Q) Quit
```

EUR Print Manager にカーソルを移動させ，スペースキーで選択します。選択した PP の左側には，「<@>」が表示されます。続いて［I］を入力すると最下行に次のメッセージが表示されます。

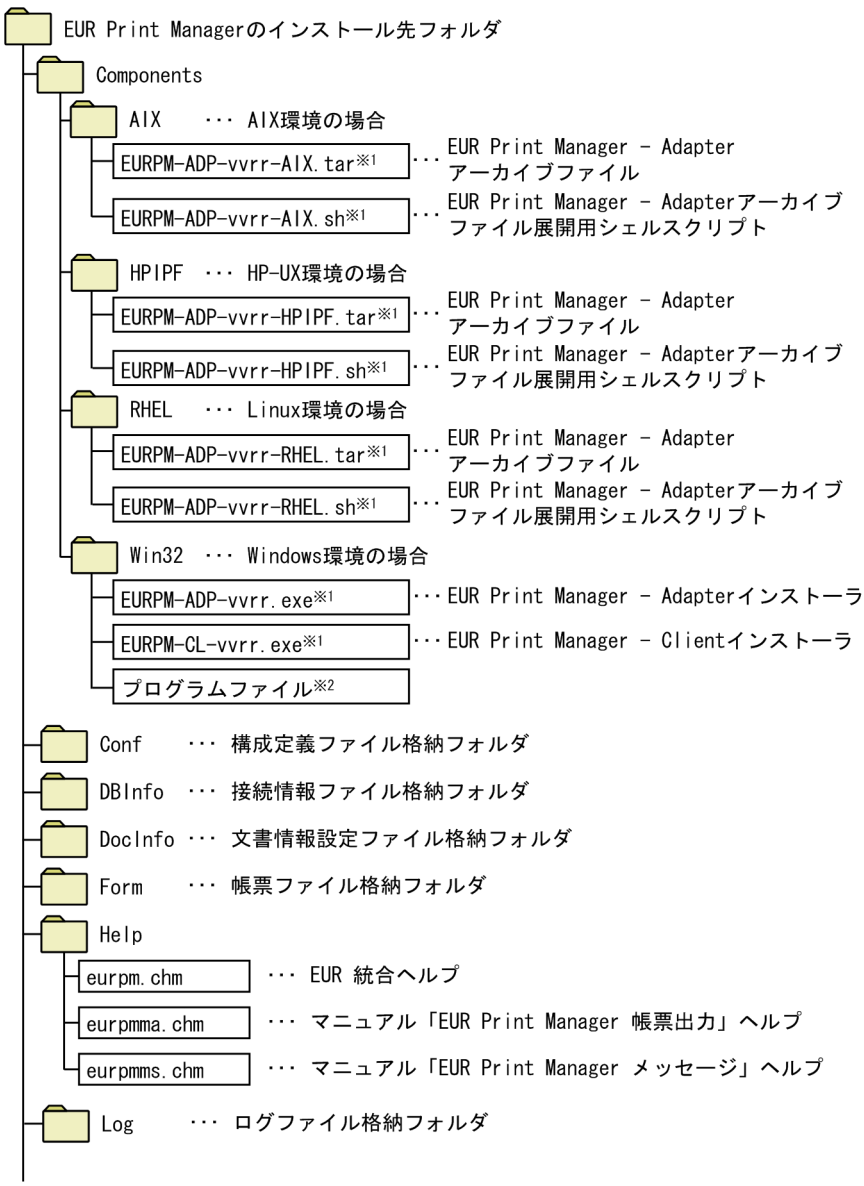
```
Install PP? (y: install,  n: cancel)==>
```

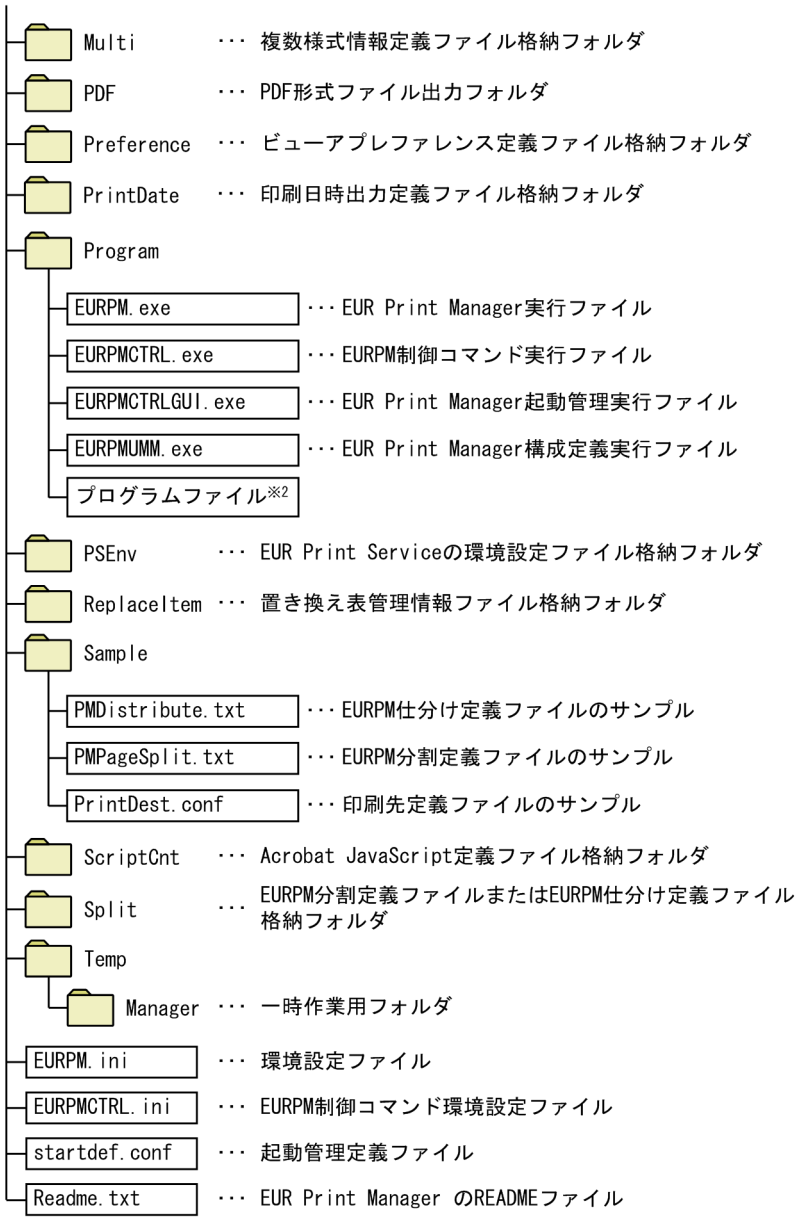
ここで，［y］または［Y］を選択するとインストールが開始されます。［y］または［Y］以外を選択すると，インストールが中止されインストール画面に戻ります。

付録 B.2　EUR Print Manager のインストール後に作成されるフォルダ

EUR Print Manager をインストールして作成されるフォルダ構造を次に示します。

図 B-1　EUR Print Manager インストール後のフォルダ構造（Windows 環境の場合）





注※1　vvrrには対応するバージョン・リビジョン番号が表示されます。

注※2　プログラムファイルには，EURPS-EPF-vvrr.exe，EURPM_eng.dll，EURPMCTRL_eng.dll，EURPMCTRLGUI_eng.dll，EURPMUMM_eng.dll，eurpmhcc.dll，libeurpmzs.dllがあります。

表 B-2　EUR Print Manager インストール後のディレクトリ構造（UNIX/Linux 環境の場合）

ディレクトリ名，またはファイル名	内容	オーナー	グループ	アクセス権
/opt/eurpm/	EUR Print Manager のベースディレクトリ	root	※ 1	drwxr-xr-x
bin/	実行ファイル格納ディレクトリ	root	※ 1	drwxr-xr-x
eurpmctrl	EURPM 制御コマンド実行ファイル	root	※ 1	-rwxr-xr-x
eurpmd	EUR Print Manager 実行ファイル	root	※ 1	-rwxr-xr-x
Components/	コンポーネント格納ディレクトリ	root	※ 1	drwxr-xr-x
AIX/	AIX 用ディレクトリ	root	※ 1	drwxr-xr-x
EURPM-ADP-vvrr-AIX.tar ※ 2	EUR Print Manager - Adapter アーカイブファイル	root	※ 1	-rw-r--r--
EURPM-ADP-vvrr-AIX.sh ※ 2	EUR Print Manager - Adapter アーカイブファイル展開用シェルスクリプト	root	※ 1	-rwxr--r--
HPIPF/	HP-UX 用ディレクトリ	root	※ 1	drwxr-xr-x
EURPM-ADP-vvrr-HPIPF.tar ※ 2	EUR Print Manager - Adapter アーカイブファイル	root	※ 1	-rw-r--r--
EURPM-ADP-vvrr-HPIPF.sh ※ 2	EUR Print Manager - Adapter アーカイブファイル展開用シェルスクリプト	root	※ 1	-rwxr--r--
RHEL/	Linux 用ディレクトリ	root	※ 1	drwxr-xr-x
EURPM-ADP-vvrr-RHEL.tar ※ 2	EUR Print Manager - Adapter アーカイブファイル	root	※ 1	-rw-r--r--
EURPM-ADP-vvrr-RHEL.sh ※ 2	EUR Print Manager - Adapter アーカイブファイル展開用シェルスクリプト	root	※ 1	-rwxr--r--
Win32/	Windows 用ディレクトリ	root	※ 1	drwxr-xr-x
EURPM-ADP-vvrr.exe ※ 2	EUR Print Manager - Adapter インストーラ	root	※ 1	-rw-r--r--
EURPM-CL-vvrr.exe ※ 2	EUR Print Manager - Client インストーラ	root	※ 1	-rw-r--r--
lib/	共有ライブラリディレクトリ	root	※ 1	drwxr-xr-x

ディレクトリ名，またはファイル名	内容	オーナー	グループ	アクセス権
libeurpmhcc.a ※3	プログラムファイル	root	※1	-rwxr-xr-x
libeurz.a ※4	プログラムファイル	root	※1	-rwxr-xr-x
sample/	サンプルディレクトリ	root	※1	drwxr-xr-x
EURPM.ini	EUR Print Manager の環境設定ファイルのサンプル	root	※1	-rw-r--r--
EURPMCTRL.ini	EURPM 制御コマンドの環境設定ファイルのサンプル	root	※1	-rw-r--r--
Destination.conf	構成定義ファイルのサンプル	root	※1	-rw-r--r--
PMPrinterClass.conf	構成定義ファイルのサンプル	root	※1	-rw-r--r--
PrintDest.conf	構成定義ファイル（印刷先定義ファイル）のサンプル	root	※1	-rw-r--r--
PMDistribute.txt	EURPM 仕分け定義ファイルのサンプル	root	※1	-rw-r--r--
PMPageSplit.txt	EURPM 分割定義ファイルのサンプル	root	※1	-rw-r--r--
/opt/eurps/	プログラムファイル用ディレクトリ	root	※1	drwxr-xr-x
eurpsepf/	プログラムファイル用ディレクトリ	root	※1	drwxr-xr-x
libeurpsepf.so	プログラムファイル	root	※1	-rwxr-xr-x
/etc/opt/	定義ファイル保存ディレクトリ	root	※1	drwxr-xr-x
eurpm/	EUR Print Manager および EURPM 制御コマンドの環境設定ファイル保存ディレクトリ EURPM 起動管理定義ファイル保存ディレクトリ	root	※1	drwxrwxrwx
Conf/	構成定義ファイル格納ディレクトリ	root	※1	drwxrwxrwx
DBInfo/	接続情報ファイル格納ディレクトリ	root	※1	drwxrwxrwx
DocInfo/	文書情報設定ファイル格納ディレクトリ	root	※1	drwxrwxrwx
Form/	帳票ファイル格納ディレクトリ	root	※1	drwxrwxrwx
Multi/	複数様式情報定義ファイル格納ディレクトリ	root	※1	drwxrwxrwx

ディレクトリ名，またはファイル名	内容	オーナー	グループ	アクセス権
PDF/	PDF 形式ファイル出力ディレクトリ	root	※ 1	drwxrwxrwx
Preference/	ビューアプレファレンス定義ファイル格納ディレクトリ	root	※ 1	drwxrwxrwx
PrintDate/	印刷日時出力定義ファイル格納ディレクトリ	root	※ 1	drwxrwxrwx
PSEnv/	EUR Print Service の環境設定ファイル格納ディレクトリ	root	※ 1	drwxrwxrwx
ReplaceItem/	置き換え表管理情報ファイル格納ディレクトリ	root	※ 1	drwxrwxrwx
ScriptCnt/	Acrobat JavaScript 定義ファイル格納ディレクトリ	root	※ 1	drwxrwxrwx
Split/	EURPM 分割定義ファイルまたは EURPM 仕分け定義ファイル格納ディレクトリ	root	※ 1	drwxrwxrwx
startdef.conf ※ 5	起動管理定義ファイル	※ 5	※ 5	※ 5
/var/opt/	EUR Print Manager および EURPM 制御コマンドのディレクトリ	root	※ 1	drwxr-xr-x
eurpm/	EUR Print Manager および EURPM 制御コマンドのログファイル出力ディレクトリ	root	※ 1	drwxrwxrwx

注※ 1

グループは，OS ごとに次のような値となります。

AIX 版：system

HP-UX 版：sys

Linux 版：root

注※ 2

vvrr には対応するバージョン・リビジョン番号が表示されます。

注※ 3

OS ごとに次のようなファイル名となります。

AIX 版：libeurpmhcc.a

HP-UX 版：libeurpmhcc.so

Linux 版：libeurpmhccv2-3.4.0.so

注※ 4

OS ごとに次のようなファイル名となります。

AIX 版：libeurz.a
HP-UX 版：libeurz.so
Linux 版：libeurz.so

注※ 5
起動管理定義ファイルは，EURPM 制御コマンドを初めて実行した時に作成されます。なお，ファイルの「オーナー」,「グループ」,「アクセス権」については EURPM 制御コマンドを実行したユーザーの設定に従います。

付録 B.3　EUR Print Manager - Adapter のインストール

EUR Print Manager - Adapter は，英語版の OS にもインストールできます。日本語版と英語版のどちらの場合も，次の方法でインストールできます。ここでは日本語版の OS へのインストールを例に説明します。なお，Windows 環境の場合と UNIX/Linux 環境の場合とでインストール方法は異なります。

インストールに必要なユーザー権限については，「表 B-1　製品のインストールに必要なユーザー権限」を参照してください。

（1） Windows 環境の場合

EUR Print Manager - Adapter のインストーラは，EUR Print Manager のインストール時に指定したフォルダに格納されます。EUR Print Manager - Adapter のインストーラのファイル名，および格納場所を次に示します。

- ファイル名：EURPM-ADP-vvrr.exe ※
- 格納場所：EUR Print Manager のインストール先フォルダ ¥Components¥ 下

注※
vvrr には対応するバージョン・リビジョン番号が表示されます。

EUR Print Manager - Adapter のインストーラをインストールするサーバに配布します。

EUR Print Manager - Adapter をインストールするときは，ほかのユーザーアプリケーションプログラムを終了させてください。また，インストールする前に，インストール時に必要なディスクの空き容量を確認してください。

Windows Server 2008，Windows Vista，または Windows 7 にインストールする場合，OS から実行許可についてのダイアログが表示されることがあります。このときには，実行を許可する応答をしてください。

EURPM-ADP-vvrr.exe を実行すると，日立自己展開型プログラムが起動します。［インストール実行］ボタンをクリックし，画面の指示に従ってインストールを完了させてください。

64 ビット版の ActiveX 起動部品を使用する場合は，インストール後に次のコマンドを実行して OS への ActiveX 登録をしてください。

EUR Print Manager - Adapter のインストール先フォルダ
¥Program(x64)¥regsvr32.exe /s /c EUR Print Manager - Adapter のインストール先フォルダ ¥Program(x64)¥EURPMADP.ocx

(a) 上書きインストール時の注意

アイコンのキャッシュファイルの状態によっては，EUR Print Manager のアイコンが正しく表示されない場合があります。この場合，次の操作でアイコンのキャッシュファイルを再作成してください。

1. **Windows のデスクトップ上でマウスを右クリックし，表示されたリストボックスから［プロパティ］をクリックします。**
   ［画面のプロパティ］ダイアログが表示されます。
2. **［設定］タブをクリックし，［画面の色］のリストボックスから「True Color（16 ビット）」をクリックします。または，［画面の色］のリストボックスから「True Color（24 ビット）」もしくは「True Color（32 ビット）」をクリックします。適用 OS によっては，［画面の色］のリストボックスから「中（16 ビット）」，「高（24 ビット）」，または「最高（32 ビット）」をクリックします。**
   変更内容を保存するかどうかを確認するメッセージダイアログが表示されます。
3. **［はい］をクリックします。**
   ［画面のプロパティ］ダイアログが表示されます。
4. **［OK］をクリックします。**

(2) UNIX/Linux 環境の場合

EUR Print Manager - Adapter をインストールするときは，日立 PP インストーラを使用してください。ここでは，日立 PP インストーラの使用方法と PP のインストール方法を説明します。

(a) 日立 PP インストーラの起動

EUR Print Manager のインストール時に，EUR Print Manager のインストール先フォルダ ¥Components¥ 下の AIX フォルダ，HPIPF フォルダ，または RHEL フォルダ下に格納されている次に示すファイルを AIX，HP-UX，または Linux マシンの同一ディレクトリへファイル転送します。

- EURPM-ADP-vvrr-pppp.tar（アーカイブファイル）
- EURPM-ADP-vvrr-pppp.sh（アーカイブ展開用シェルスクリプト）

注※

vvrr には対応するバージョン・リビジョン番号が表示されます。
pppp には次のプラットフォーム名が表示されます。
AIX の場合：AIX
HP-UX の場合：HPIPF

Linux の場合：RHEL

転送された EURPM-ADP-vvrr-pppp.sh を実行すると，アーカイブファイルが展開されて日立 PP インストーラが起動されます。

参考

Linux 環境の場合，日立 PP インストーラ実行時は，ncurses パッケージ（32 ビット版）を使用します。次に示すコマンドを実行して，ncurses パッケージがインストールされていることを確認してください。

```
#rpm -q --qf '%{NAME}-%{ARCH}¥n' ncurses
```

ncurses パッケージがインストールされている場合は「ncurses-i386」と表示されます。
ncurses パッケージがインストールされていない場合は「package ncurses is not installed」と表示されます。
ncurses パッケージがインストールされていない場合は，必要に応じて関連パッケージも含めて ncurses パッケージをインストールしたあと，日立 PP インストーラを実行してください。
なお，64 ビットマシン環境に EUR Print Manager - Adapter をインストールする場合も 32 ビット版の ncurses パッケージをインストールしてください。

(b) PP のインストール

日立 PP インストーラのメインメニューで［I］を選択すると，インストール画面が表示されます。インストール画面の例を次に示します。

```
     PP-NO.       VR              PP-NAME
<@>001 型名       バージョン番号    EUR Print Manager - Adapter
   :
F) Forward B) Backward J) Down K) Up Space) Select/Unselect I) Install Q) Quit
```

EUR Print Manager - Adapter にカーソルを移動させ，スペースキーで選択します。選択した PP の左側には，「<@>」が表示されます。続いて［I］を入力すると最下行に次のメッセージが表示されます。

```
Install PP? (y: install, n: cancel)==>
```

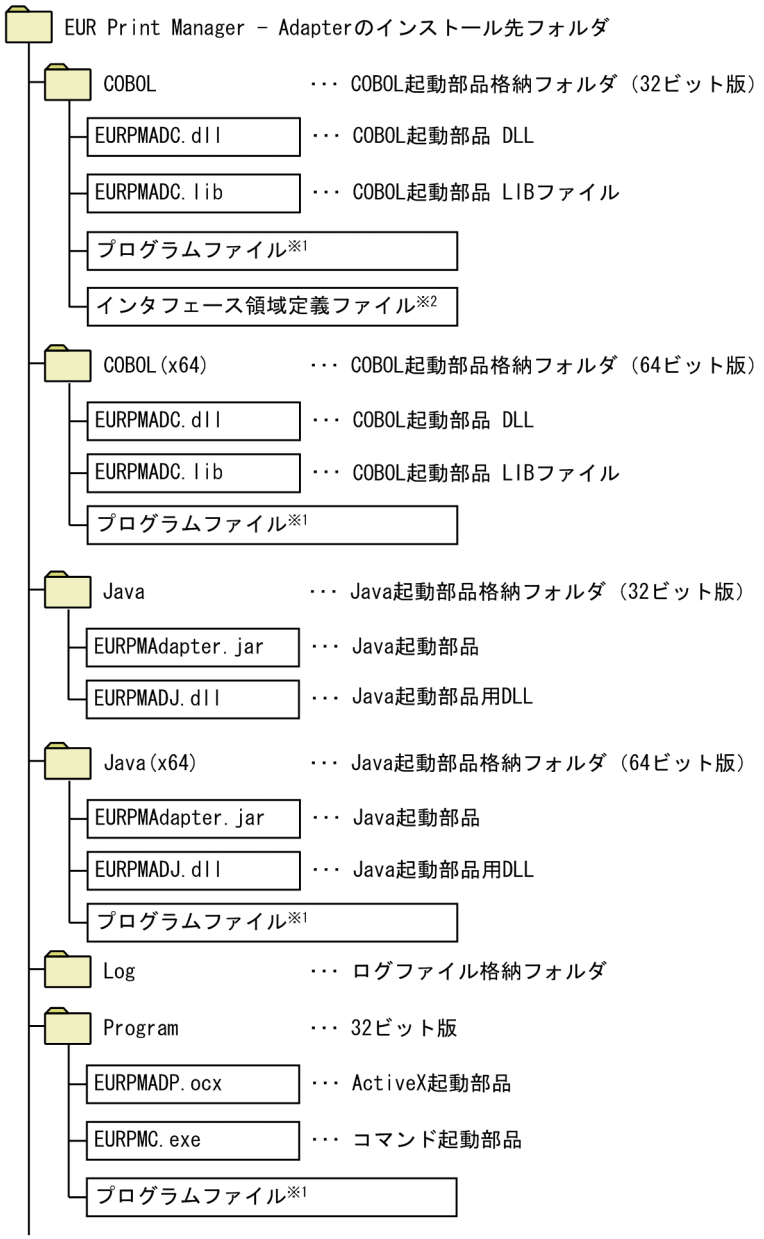
ここで，［y］または［Y］を選択するとインストールが開始されます。［y］または［Y］以外を選択すると，インストールが中止されインストール画面に戻ります。

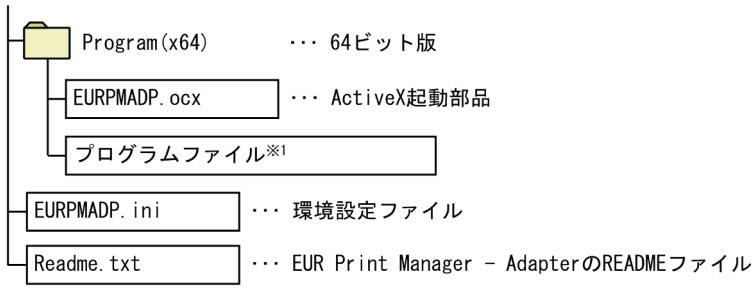
付録 B.4　EUR Print Manager - Adapter のインストール後に作成されるフォルダ

EUR Print Manager - Adapter をインストールして作成されるフォルダ構造を次に示し

ます。

図 B-2　EUR Print Manager - Adapter インストール後のフォルダ構造（Windows 環境の場合）





注※1 プログラムファイルには，EURPMADC_eng.dll，EURPMPARAMC.h，EURPMADJ_eng.dll，EURPMADP_eng.dll，REGSVR32.exeがあります。

注※2 インタフェース領域定義ファイルには，EURPMPARAM1.cbl，EURPMPARAM3.cbl，EURPMPARAM4.cbl，EURPMPARAM5.cbl，EURPMPARAM6.cbl，EURPMPARAM7.cbl，EURPMPARAMDEST.cbl，EURPMPARAMDEST2.cbl，EURPMPARAMDESTNAME.cbl，EURPMPARAMJOBID.cbl，EURPMPARAMCLASS.cbl，EURPMPARAMCLASS2.cbl，EURPMPARAMPRINTER.cbl，EURPMPARAMPRINTERNAME.cbl，EURPMPARAMTRAY.cblがあります。

表 B-3　EUR Print Manager - Adapter インストール後のディレクトリ構造（UNIX/Linux 環境の場合）

ディレクトリ名，またはファイル名	内容	オーナー	グループ	アクセス権
/opt/eurpm_adp/	EUR Print Manager - Adapter のベースディレクトリ	root	※ 1	drwxr-xr-x
bin/	コマンド起動部品ディレクトリ	root	※ 1	drwxr-xr-x
eurpmc	コマンド起動部品	root	※ 1	-rwxr-xr-x
java/	Java 起動部品ディレクトリ	root	※ 1	drwxr-xr-x
EURPMAdapter.jar	Java 起動部品（32 ビット版・64 ビット版共通）	root	※ 1	-rw-r--r--
lib/	共有ライブラリディレクトリ	root	※ 1	drwxr-xr-x
libEURPMADJ.so	Java 起動部品共有ライブラリ（32 ビット版）	root	※ 1	-rwxr-xr-x
libEURPMADC.so	COBOL 起動部品共有ライブラリ	root	※ 1	-rwxr-xr-x
lib64/	共有ライブラリディレクトリ	root	※ 1	drwxr-xr-x
libEURPMADJ.so	Java 起動部品共有ライブラリ（64 ビット版）	root	※ 1	-rwxr-xr-x

ディレクトリ名，またはファイル名	内容	オーナー	グループ	アクセス権
sample/	サンプルディレクトリ	root	※ 1	drwxr-xr-x
EURPMADP.ini	環境設定ファイル	root	※ 1	-rw-r--r--
EURPMPARAMC.h	プログラムファイル	root	※ 1	-rw-r--r--
インタフェース領域定義ファイル※ 2		root	※ 1	-rw-r--r--
/etc/opt/	各種定義ファイル保存ディレクトリ	root	※ 1	drwxr-xr-x
eurpm_adp/	• 環境設定ファイル保存ディレクトリ • ActiveX クライアント情報ファイル（EURPM-CL-AX）保存ディレクトリ • ActiveX クライアント情報ファイル（EURPM-CL-PVX）保存ディレクトリ	root	※ 1	drwxr-xr-x
/var/opt/	ファイル入出力デフォルトディレクトリ	root	※ 1	drwxr-xr-x
eurpm_adp/	EURPM ログファイル出力ディレクトリ	root	※ 1	drwxrwxrwx

注※ 1

グループは，OS ごとに次のような値となります。

AIX 版：system

HP-UX 版：sys

Linux 版：root

注※ 2

インタフェース領域定義ファイルには，次のファイルがあります。

・EURPMPARAM1.cbl
・EURPMPARAM3.cbl
・EURPMPARAM4.cbl
・EURPMPARAM5.cbl
・EURPMPARAM6.cbl
・EURPMPARAM7.cbl
・EURPMPARAMCLASS.cbl
・EURPMPARAMCLASS2.cbl
・EURPMPARAMDEST.cbl
・EURPMPARAMDEST2.cbl
・EURPMPARAMDESTNAME.cbl
・EURPMPARAMJOBID.cbl
・EURPMPARAMPRINTER.cbl

・EURPMPARAMPRINTERNAME.cbl
・EURPMPARAMTRAY.cbl

付録 B.5　EUR Print Manager - Report Server のインストール

EUR Print Manager - Report Server は，英語版の OS にもインストールできます。日本語版と英語版のどちらの場合も，次の方法でインストールできます。ここでは日本語版の OS へのインストールを例に説明します。なお，Windows 環境の場合と UNIX/Linux 環境の場合とでインストール方法は異なります。

インストールに必要なユーザー権限については，「表 B-1　製品のインストールに必要なユーザー権限」を参照してください。

(1) Windows 環境の場合

EUR Print Manager - Report Server をインストールするときは，ほかのユーザーアプリケーションプログラムを終了させてください。また，インストールする前に，インストール時に必要なディスクの空き容量を確認してください。

Windows Server 2008 にインストールする場合，OS から実行許可についてのダイアログが表示されることがあります。このときには，実行を許可する応答をしてください。

EUR Print Manager - Report Server のインストールを開始するには，製品媒体の中にある「Setup.exe」を実行します。「EUR Print Manager - Report Server セットアッププログラムへようこそ。」と表示されたら，画面の指示に従ってインストールを完了させてください。

(a) 上書きインストール時の注意

- アイコンのキャッシュファイルの状態によっては，EUR Print Manager - Report Server のアイコンが正しく表示されない場合があります。この場合，次の操作でアイコンのキャッシュファイルを再作成してください。
  1. **Windows のデスクトップ上でマウスを右クリックし，表示されたリストボックスから［プロパティ］をクリックします。**
     ［画面のプロパティ］ダイアログが表示されます。
  2. **［設定］タブをクリックし，［画面の色］のリストボックスから「True Color（16 ビット）」をクリックします。または，［画面の色］のリストボックスから「True Color（24 ビット）」もしくは「True Color（32 ビット）」をクリックします。適用 OS によっては，［画面の色］のリストボックスから「中（16 ビット）」，「高（24 ビット）」，または「最高（32 ビット）」をクリックします。**
     変更内容を保存するかどうかを確認するメッセージダイアログが表示されます。
  3. **［はい］をクリックします。**
     ［画面のプロパティ］ダイアログが表示されます。
  4. **［OK］をクリックします。**
- 上書きインストールを実行した場合，環境設定ファイルは上書きされません。

- 同一マシン上に EUR Print Manager がインストールしてある場合，上書きインストールを行うときには，［コントロールパネル］－［管理ツール］－［サービス］から EUR Print Manager のサービスを停止してください。なお，EUR Print Manager - Report Server のサービスは，インストーラによって自動的に停止します。

（2） UNIX/Linux 環境の場合

EUR Print Manager - Report Server をインストールするときは，日立 PP インストーラを使用してください。ここでは，日立 PP インストーラの使用方法と PP のインストール方法を説明します。

（a） 日立 PP インストーラの起動

日立 PP インストーラは，提供された媒体に格納されています。次のことに注意して実行してください。

- デバイススペシャルファイル名や CD-ROM のマウントディレクトリは，OS，ハード，および環境によって異なります。OS のマニュアルや使用環境を確認して実行してください。
- 日立 PP インストーラ実行時の言語種別と実行するターミナルの言語を一致させてください。

（b） PP のインストール

日立 PP インストーラのメインメニューで［I］を選択すると，インストール画面が表示されます。インストール画面の例を次に示します。

```
      PP-NO.        VR              PP-NAME
<@>001 型名       バージョン番号    EUR Print Manager - Report Server
   :
F) Forward B) Backward J) Down K) Up Space) Select/Unselect I) Install Q) Quit
```

EUR Print Manager - Report Server にカーソルを移動させ，スペースキーで選択します。選択した PP の左側には，「<@>」が表示されます。続いて［I］を入力すると最下行に次のメッセージが表示されます。

```
Install PP? (y: install,  n: cancel)==>
```

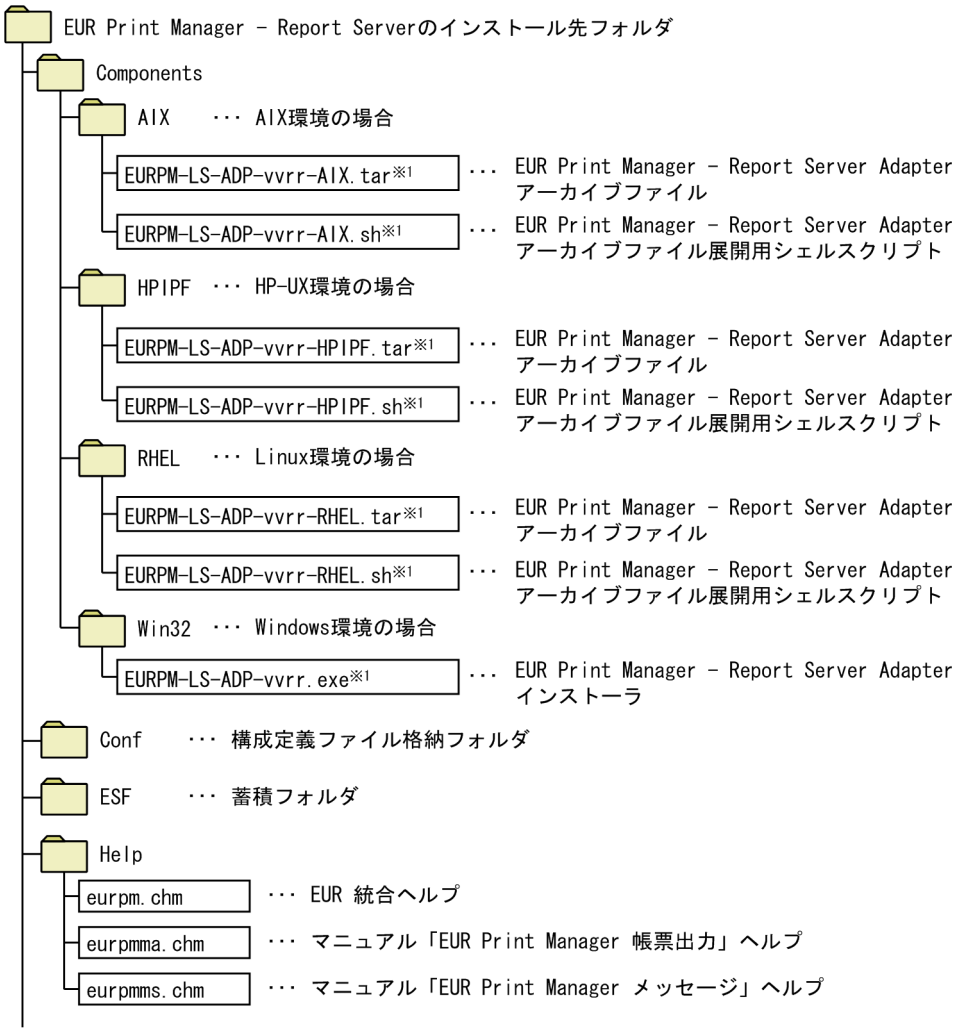
ここで，［y］または［Y］を選択するとインストールが開始されます。［y］または［Y］以外を選択すると，インストールが中止されインストール画面に戻ります。

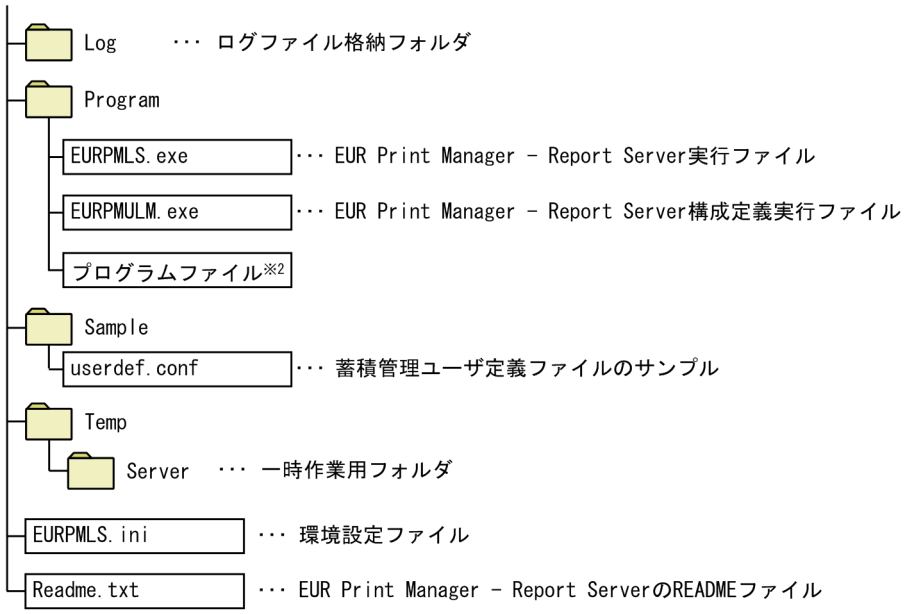
付録 B.6　EUR Print Manager - Report Server のインストール後に作成されるフォルダ

EUR Print Manager - Report Server をインストールして作成されるフォルダ構造を次に

示します。

図 B-3　EUR Print Manager - Report Server インストール後のフォルダ構造（Windows 環境の場合）





注※1　vvrrには対応するバージョン・リビジョン番号が表示されます。

注※2　プログラムファイルには，EURPMLS_eng.dll，EURPMULM_eng.dll，EURPMEPF_7.dll，EURPMEPF_7_eng.dll，EURPMGDCU_7.dll，eurpmhcc.dll，EURPMLSPrintEPF.exe，EURPMLSPrintEPF_eng.dll，libeurpmzs.dllがあります。

表 B-4　EUR Print Manager - Report Server インストール後のディレクトリ構造（UNIX/Linux 環境の場合）

ディレクトリ名，またはファイル名	内容	オーナー	グループ	アクセス権
/opt/eurpmls/	EUR Print Manager - Report Server のベースディレクトリ	root	※ 1	drwxr-xr-x
bin/	実行ファイル格納ディレクトリ	root	※ 1	drwxr-xr-x
eurpmlsctrl	EURPM-RS 制御コマンド実行ファイル	root	※ 1	-rwxr-xr-x
eurpmlsd	EUR Print Manager-RS 実行ファイル	root	※ 1	-rwxr-xr-x
Components/	コンポーネント格納ディレクトリ	root	※ 1	drwxr-xr-x
AIX/	AIX 用ディレクトリ	root	※ 1	drwxr-xr-x

ディレクトリ名，またはファイル名	内容	オーナー	グループ	アクセス権
EURPM-LS-ADP-vvrr-AIX.tar ※2	EUR Print Manager - Report Server Adapter アーカイブファイル	root	※1	-rw-r--r--
EURPM-LS-ADP-vvrr-AIX.sh ※2	EUR Print Manager - Report Server Adapter アーカイブファイル展開用シェルスクリプト	root	※1	-rwxr--r--
HPIPF/	HP-UX 用ディレクトリ	root	※1	drwxr-xr-x
EURPM-LS-ADP-vvrr-HPIPF.tar ※2	EUR Print Manager - Report Server Adapter アーカイブファイル	root	※1	-rw-r--r--
EURPM-LS-ADP-vvrr-HPIPF.sh ※2	EUR Print Manager - Report Server Adapter アーカイブファイル展開用シェルスクリプト	root	※1	-rwxr--r--
RHEL/	Linux 用ディレクトリ	root	※1	drwxr-xr-x
EURPM-LS-ADP-vvrr-RHEL.tar ※2	EUR Print Manager - Report Server Adapter アーカイブファイル	root	※1	-rw-r--r--
EURPM-LS-ADP-vvrr-RHEL.sh ※2	EUR Print Manager - Report Server Adapter アーカイブファイル展開用シェルスクリプト	root	※1	-rwxr--r--
Win32/	Windows 用ディレクトリ	root	※1	drwxr-xr-x
EURPM-LS-ADP-vvrr.exe ※2	EUR Print Manager - Report Server Adapter インストーラ	root	※1	-rw-r--r--
lib/	共有ライブラリディレクトリ	root	※1	drwxr-xr-x
libeurpmhcc.a ※3	プログラムファイル	root	※1	-rwxr-xr-x

ディレクトリ名，またはファイル名	内容	オーナー	グループ	アクセス権
libeurz.a ※4	プログラムファイル	root	※1	-rwxr-xr-x
sample/	サンプルディレクトリ	root	※1	drwxr-xr-x
EURPMLS.ini	EUR Print Manager - Report Server の環境設定ファイルのサンプル	root	※1	-rw-r--r--
EURPMLSCTRL.ini	EURPM-RS 制御コマンドの環境設定ファイルのサンプル	root	※1	-rw-r--r--
userdef.conf	蓄積管理ユーザ定義ファイルのサンプル	root	※1	-rw-r--r--
/etc/opt/	定義ファイル保存ディレクトリ	root	※1	drwxr-xr-x
eurpmls/	EUR Print Manager - Report Server および EURPM-RS 制御コマンドの環境設定ファイル保存ディレクトリ	root	※1	drwxrwxrwx
Conf/	構成定義ファイル格納ディレクトリ	root	※1	drwxrwxrwx
ESF/	蓄積ファイル格納ディレクトリ	root	※1	drwxrwxrwx
lsstartdef.conf ※5	プログラムファイル	※5	※5	※5
/var/opt/	EUR Print Manager - Report Server および EURPM-RS 制御コマンドのディレクトリ	root	※1	drwxr-xr-x
eurpmls/	EUR Print Manager - Report Server および EURPM-RS 制御コマンドのログファイル出力ディレクトリ	root	※1	drwxrwxrwx

注※1

グループは，OS ごとに次のような値となります。

AIX 版：system
HP-UX 版：sys
Linux 版：root

注※ 2
vvrr には対応するバージョン・リビジョン番号が表示されます。

注※ 3
OS ごとに次のようなファイル名となります。
AIX 版：libeurpmhcc.a
HP-UX 版：libeurpmhcc.so
Linux 版：libeurpmhccv2-3.4.0.so

注※ 4
OS ごとに次のようなファイル名となります。
AIX 版：libeurz.a
HP-UX 版：libeurz.so
Linux 版：libeurz.so

注※ 5
プログラムファイルは，EURPM-RS 制御コマンドを初めて実行した時に作成されます。なお，ファイルの「オーナー」,「グループ」,「アクセス権」については EURPM-RS 制御コマンドを実行したユーザーの設定に従います。

付録 B.7　EUR Print Manager - Report Server Adapter のインストール

EUR Print Manager - Report Server Adapter は，英語版の OS にもインストールできます。日本語版と英語版のどちらの場合も，次の方法でインストールできます。ここでは日本語版の OS へのインストールを例に説明します。なお，Windows 環境の場合と UNIX/Linux 環境の場合とでインストール方法は異なります。

インストールに必要なユーザー権限については,「表 B-1　製品のインストールに必要なユーザー権限」を参照してください。

(1) Windows 環境の場合

EUR Print Manager - Report Server Adapter のインストーラは, EUR Print Manager - Report Server のインストール時に指定したフォルダに格納されます。EUR Print Manager - Report Server Adapter のインストーラのファイル名，および格納場所を次に示します。

- ファイル名：EURPM-LS-ADP-vvrr.exe ※
- 格納場所：EUR Print Manager - Report Server のインストール先フォルダ ¥Components¥

注※
vvrr には対応するバージョン・リビジョン番号が表示されます。

EUR Print Manager - Report Server Adapter のインストーラをインストールするサーバに配布します。

EUR Print Manager - Report Server Adapter をインストールするときは，ほかのユーザーアプリケーションプログラムを終了させてください。また，インストールする前に，インストール時に必要なディスクの空き容量を確認してください。

Windows Server 2008，Windows Vista，または Windows 7 にインストールする場合，OS から実行許可についてのダイアログが表示されることがあります。このときには，実行を許可する応答をしてください。

EURPM-LS-ADP-vvrr.exe を実行すると，日立自己展開型プログラムが起動します。［インストール実行］ボタンをクリックし，画面の指示に従ってインストールを完了させてください。

64 ビット版の ActiveX 起動部品を使用する場合は，インストール後に次のコマンドを実行して OS への ActiveX 登録をしてください。

EUR Print Manager - Report Server Adapter のインストール先フォルダ¥Program(x64)¥regsvr32.exe /s /c EUR Print Manager - Report Server Adapter のインストール先フォルダ¥Program(x64)¥EURPMLSADP.ocx

(a) 上書きインストール時の注意

アイコンのキャッシュファイルの状態によっては，EUR Print Manager - Report Server のアイコンが正しく表示されない場合があります。この場合，次の操作でアイコンのキャッシュファイルを再作成してください。

1. **Windows のデスクトップ上でマウスを右クリックし，表示されたリストボックスから［プロパティ］をクリックします。**
   ［画面のプロパティ］ダイアログが表示されます。
2. **［設定］タブをクリックし，［画面の色］のリストボックスから「True Color（16 ビット）」をクリックします。または，［画面の色］のリストボックスから「True Color（24 ビット）」もしくは「True Color（32 ビット）」をクリックします。適用 OS によっては，［画面の色］のリストボックスから「中（16 ビット）」，「高（24 ビット）」，または「最高（32 ビット）」をクリックします。**
   変更内容を保存するかどうかを確認するメッセージダイアログが表示されます。
3. **［はい］をクリックします。**
   ［画面のプロパティ］ダイアログが表示されます。
4. **［OK］をクリックします。**

(2) UNIX/Linux 環境の場合

EUR Print Manager - Report Server Adapter をインストールするときは，日立 PP インストーラを使用してください。ここでは，日立 PP インストーラの使用方法と PP のイン

ストール方法を説明します。

(a) 日立 PP インストーラの起動

EUR Print Manager - Report Server のインストール時に，EUR Print Manager - Report Server のインストール先フォルダ ¥Components¥ の AIX フォルダ, HPIPF フォルダ，または RHEL フォルダに格納されている次に示すファイルを，AIX，HP-UX，または Linux マシンの同一ディレクトリにファイル転送します。

- EURPM-LS-ADP-vvrr-pppp.tar（アーカイブファイル）
- EURPM-LS-ADP-vvrr-pppp.sh（アーカイブ展開用シェルスクリプト）

注※

vvrr には対応するバージョン・リビジョン番号が表示されます。
pppp には次のプラットフォーム名が表示されます。
AIX の場合：AIX
HP-UX の場合：HPIPF
Linux の場合：RHEL

転送された EURPM-LS-ADP-vvrr-pppp.sh を実行すると，アーカイブファイルが展開されて日立 PP インストーラが起動されます。

参考

Linux 環境の場合，日立 PP インストーラ実行時は，ncurses パッケージ（32 ビット版）を使用します。次に示すコマンドを実行して，ncurses パッケージがインストールされていることを確認してください。

```
#rpm -q --qf '%{NAME}-%{ARCH}¥n' ncurses
```

ncurses パッケージがインストールされている場合は「ncurses-i386」と表示されます。
ncurses パッケージがインストールされていない場合は「package ncurses is not installed」と表示されます。
ncurses パッケージがインストールされていない場合は，必要に応じて関連パッケージも含めて ncurses パッケージをインストールしたあと，日立 PP インストーラを実行してください。
なお, 64 ビットマシン環境に EUR Print Manager - Report Server をインストールする場合も 32 ビット版の ncurses パッケージをインストールしてください。

(b) PP のインストール

日立 PP インストーラのメインメニューで［I］を選択すると，インストール画面が表示されます。インストール画面の例を次に示します。

```
      PP-NO.        VR              PP-NAME
<@>001 型名       バージョン番号    EUR Print Manager - Report Server Adapter
   :
F) Forward B) Backward J) Down K) Up Space) Select/Unselect I) Install Q) Quit
```

EUR Print Manager - Report Server Adapter にカーソルを移動させ，スペースキーで選択します。選択した PP の左側には，「<@>」が表示されます。続いて［I］を入力すると最下行に次のメッセージが表示されます。

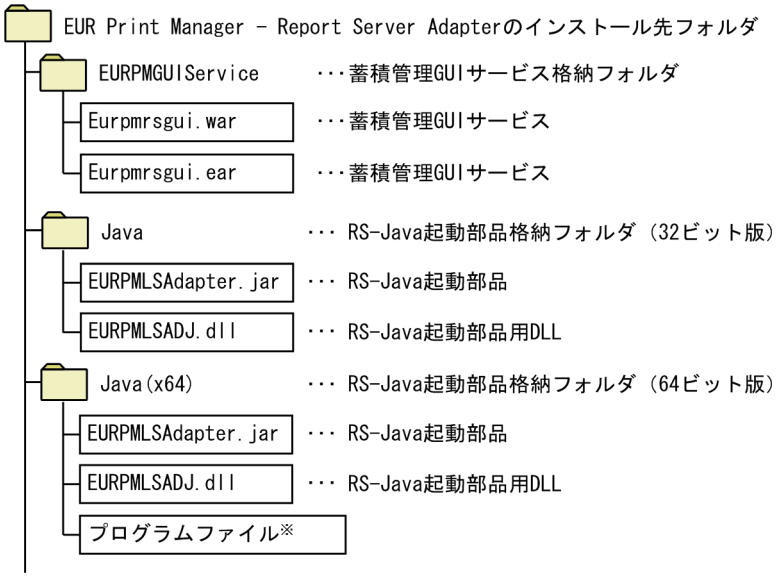
```
Install PP? (y: install,  n: cancel)==>
```

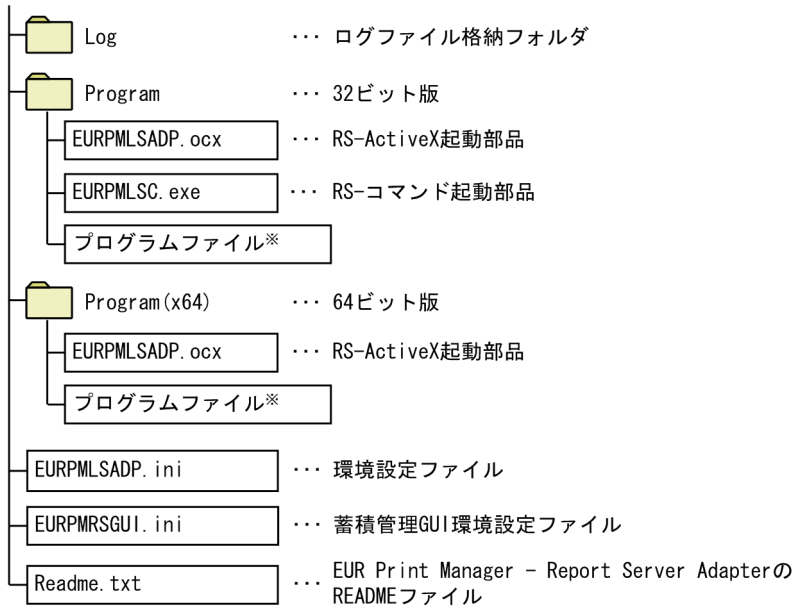
ここで，［y］または［Y］を選択するとインストールが開始されます。［y］または［Y］以外を選択すると，インストールが中止されインストール画面に戻ります。

付録 B.8　EUR Print Manager - Report Server Adapter のインストール後に作成されるフォルダ

EUR Print Manager - Report Server Adapter をインストールして作成されるフォルダ構造を次に示します。

図 B-4　EUR Print Manager - Report Server Adapter インストール後のフォルダ構造（Windows 環境の場合）





注※ プログラムファイルには，EURPMLSADJ_eng.dll，EURPMLSADP_eng.dll，REGSVR32.exeがあります。

表 B-5　EUR Print Manager - Report Server Adapter インストール後のディレクトリ構造（UNIX/Linux 環境の場合）

ディレクトリ名，またはファイル名	内容	オーナー	グループ	アクセス権
/opt/eurpmls_adp/	EUR Print Manager - Report Server Adapter のベースディレクトリ	root	※	drwxr-xr-x
bin/	RS-コマンド起動部品ディレクトリ	root	※	drwxr-xr-x
eurpmlsc	RS-コマンド起動部品	root	※	-rwxr-xr-x
EURPMGUIService/	蓄積管理 GUI サービスディレクトリ	root	※	drwxr-xr-x
Eurpmrsgui.war	蓄積管理 GUI サービス	root	※	-rwxr-xr-x
Eurpmrsgui.ear	蓄積管理 GUI サービス	root	※	-rwxr-xr-x
java/	RS-Java 起動部品ディレクトリ	root	※	drwxr-xr-x

ディレクトリ名，またはファイル名	内容	オーナー	グループ	アクセス権
EURPMLSAdapter.jar	RS-Java 起動部品（32 ビット版・64 ビット版共通）	root	※	-rw-r--r--
lib/	共有ライブラリディレクトリ	root	※	drwxr-xr-x
libEURPMLSADJ.so	RS-Java 起動部品共有ライブラリ（32 ビット版）	root	※	-rwxr-xr-x
lib64/	共有ライブラリディレクトリ	root	※	drwxr-xr-x
libEURPMLSADJ.so	RS-Java 起動部品共有ライブラリ（64 ビット版）	root	※	-rwxr-xr-x
sample/	サンプルディレクトリ	root	※	drwxr-xr-x
EURPMLSADP.ini	環境設定ファイル	root	※	-rw-r--r--
EURPMRSGUI.ini	蓄積管理 GUI 環境設定ファイル	root	※	-rw-r--r--
/etc/opt/	各種定義ファイル保存ディレクトリ	root	※	drwxr-xr-x
eurpmls_adp/	環境設定ファイル保存ディレクトリ	root	※	drwxr-xr-x
/var/opt/	ファイル入出力デフォルトディレクトリ	root	※	drwxr-xr-x
eurpmls_adp/	EURPM ログファイル出力ディレクトリ	root	※	drwxrwxrwx

注※

グループは，OS ごとに次のような値となります。

AIX 版：system

HP-UX 版：sys

Linux 版：root

付録 B.9　EUR Print Manager - Client のインストール

EUR Print Manager - Client は，Windows XP，Windows Vista，および Windows 7 の日本語版，英語版の両方にインストールできます。日本語版と英語版のどちらの場合も，次の方法でインストールできます。ここでは日本語版の OS へのインストールを例に説明します。

インストールに必要なユーザー権限については，「表 B-1　製品のインストールに必要な

ユーザー権限」を参照してください。また，Windows Vista または Windows 7 にインストールする場合，OS から実行許可についてのダイアログが表示されることがあります。このときには，実行を許可する応答をしてください。

- **クライアントインストール**
  セットアッププログラムからクライアント PC に直接インストールする方法です。
  EUR Print Manager - Client をクライアント PC にそのままインストールしたい場合は，クライアントインストールでインストールします。
- **サーバ配置インストール**
  クライアント PC に配布するセットアッププログラム（**配布用インストーラ**）をインストールする方法です。配布用インストーラは，1 ファイルのセットアッププログラムなので，簡単に配布できます。クライアント PC に EUR Print Manager - Client を配布する場合は，サーバ配置インストールでインストールします。
- **クライアントインストールとサーバ配置インストールの同時実行**
  EUR Print Manager - Client と，クライアント PC に配布するセットアッププログラム（配布用インストーラ）を同時にインストールする方法です。一つの PC でクライアント PC と配布用サーバを共用する場合は，クライアントインストールとサーバ配置インストールの同時実行をします。
- **上書きインストール時の注意**
  Windows 7 の場合，上書きインストールの終了後に［プログラムの互換性アシスタント］ダイアログが表示されることがあります。インストールは正しく行われていますので，［このプログラムは正しくインストールされました］ボタンをクリックしてダイアログを閉じてください。
  また，アイコンのキャッシュファイルの状態によっては，EUR Print Manager - Client のアイコンが正しく表示されない場合があります。この場合，次の操作でアイコンのキャッシュファイルを再作成してください。
  1. **Windows のデスクトップ上でマウスを右クリックし，表示されたリストボックスから［プロパティ］をクリックします。**
     ［画面のプロパティ］ダイアログが表示されます。
  2. **［設定］タブをクリックし，［画面の色］のリストボックスから「True Color（16 ビット）」をクリックします。または，［画面の色］のリストボックスから「True Color（24 ビット）」もしくは「True Color（32 ビット）」をクリックします。適用 OS によっては，［画面の色］のリストボックスから「中（16 ビット）」，「高（24 ビット）」，または「最高（32 ビット）」をクリックします。**
     変更内容を保存するかどうかを確認するメッセージダイアログが表示されます。
  3. **［はい］をクリックします。**
     ［画面のプロパティ］ダイアログが表示されます。
  4. **［OK］をクリックします。**

注意事項

- EUR Print Manager - Client をインストールするときは，ほかのユーザーアプリケーションプログラムを終了させてください。また，インストールする前に，インストール時に必要なディスクの空き容量を確認してください。
- EUR Print Manager - Client を新規インストールした直後の環境設定ファイル（EURPMCL.ini）は，次に示す情報が未設定です。そのため，EUR Print Manager - Client をインストールしたフォルダ配下のフォルダがデフォルトで設定されます。
  ・PATH セクションの CONF キー：Conf フォルダ
  ・PATH セクションの TEMP キー：Temp フォルダ
  ・ERROR セクションの LOGFILE キー：Log フォルダ
  Users グループに属するユーザーでも EUR Print Manager - Client の実行はできますが，デフォルトのインストール先である C:¥Program Files¥HITACHI¥EURPM Client に EUR Print Manager - Client をインストールした場合，Users グループに属するユーザーには，C:¥Program Files フォルダに対して書き込み権限がないためエラーが発生します。環境設定ファイルの PATH セクションの CONF キー，PATH セクションの TEMP キー，ERROR セクションの LOGFILE キーに指定するフォルダは，Users グループに属するユーザーが書き込み権限のあるフォルダを指定するか，デフォルトのフォルダに Users グループに属するユーザーに対して書き込み権限を与えてください。
- EUR Print Manager - Client をダウンロードパッケージでインストールしたあと，クライアントインストールでのインストールはできません。また，クライアントインストールでのインストールをしたあと，ダウンロードパッケージでのインストールもできません。インストール方法を変更したい場合は，一度 EUR Print Manager - Client をアンインストールしてから，変更したいインストール方法でインストールしてください。

インストール方法について説明します。

（1）インストール方法

EUR Print Manager - Client のインストーラは，EUR Print Manager のインストール時に指定したフォルダに格納されます。EUR Print Manager - Client のインストーラのファイル名，および格納場所を次に示します。

- ファイル名：EURPM-CL-vvrr.exe ※
- 格納場所：EUR Print Manager のインストール先フォルダ ¥Components¥Win32¥

注※
vvrr には対応するバージョン・リビジョン番号が表示されます。

EUR Print Manager - Client のインストール方法を次に示します。

1. EUR Print Manager - Client **のインストーラの配布**
   EUR Print Manager - Client のインストーラをインストールするサーバに配布します。
2. EUR Print Manager - Client **セットアッププログラムの開始**
   EURPM-CL-vvrr.exe を実行します。日立自己展開型プログラムが起動するので，

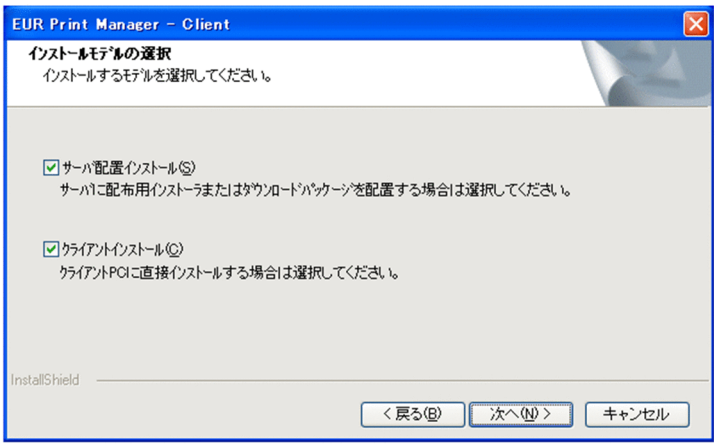
［インストール実行］ボタンをクリックします。

3. **ユーザー情報の入力**
画面の指示に従って，ユーザー名と会社名を入力します。［次へ］ボタンをクリックすると，［登録情報の確認］ダイアログが表示されるので，登録した情報が正しければ［はい］ボタンをクリックします。

4. **インストール先の選択**
ファイルをインストールするフォルダを選択します。「C:¥Program Files¥HITACHI¥EURPM Client」が表示されます。［次へ］ボタンをクリックします。

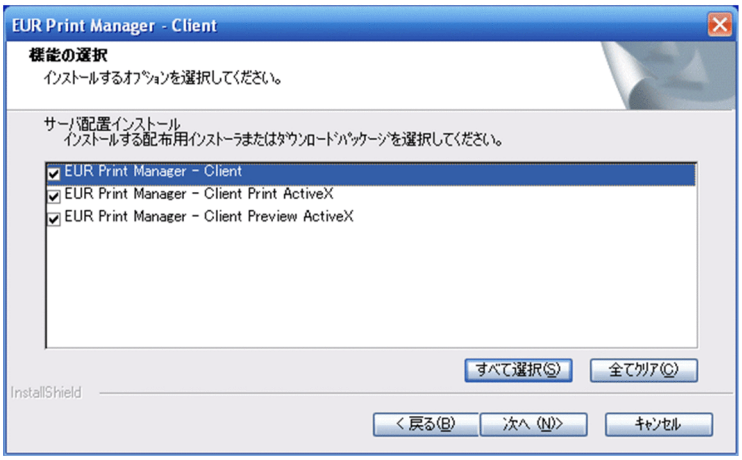
5. **プログラムフォルダの選択**
プログラムフォルダを選択します。［プログラム フォルダ］テキストボックスには，「EUR Print Manager - Client」が表示されています。［次へ］ボタンをクリックします。

6. **インストールモデルの選択**
［インストールモデルの選択］ダイアログが表示されます。
- クライアントインストールをする場合は，［クライアントインストール］チェックボックスを選択して，［次へ］ボタンをクリックします。
- サーバ配置インストールをする場合は，［サーバ配置インストール］チェックボックスを選択して，［次へ］ボタンをクリックします。
- クライアントインストールとサーバ配置インストールを同時にする場合は，［クライアントインストール］チェックボックスと［サーバ配置インストール］チェックボックスを選択して，［次へ］ボタンをクリックします。



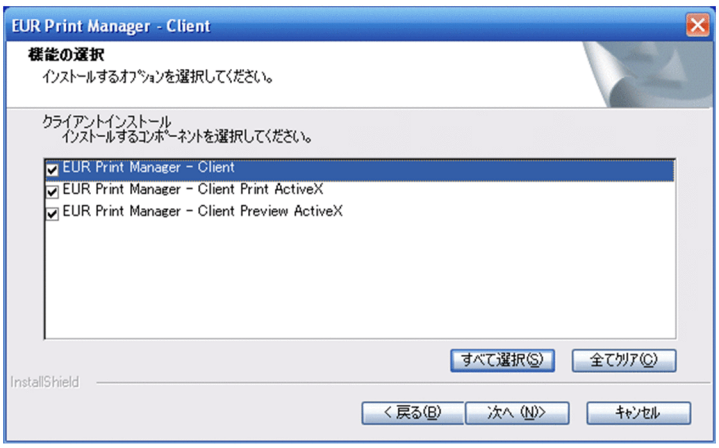
7. **インストールするコンポーネントの選択（サーバ配置インストール）**
［サーバ配置インストール］チェックボックスを選択した場合は，［サーバ配置インストール］ダイアログが表示されるので，インストールするコンポーネントのチェックボックスを選択して［次へ］ボタンをクリックします。
印刷方法ごとにインストールするコンポーネントを次に示します。

- クライアント PC での印刷方式（対話型印刷，対話型印刷プレビュー表示，自動印刷，全自動印刷，配布印刷）を使用して印刷する場合，［EUR Print Manager - Client］チェックボックスをオンにします。
- クライアント PC の Web ブラウザを使用して印刷する場合，［EUR Print Manager - Client Print ActiveX］チェックボックスをオンにします。
- クライアント PC の Web ブラウザでプレビュー画面を表示して印刷する場合，［EUR Print Manager - Client Preview ActiveX］チェックボックスをオンにします。



8. **インストールするコンポーネントの選択（クライアントインストール）**
［クライアントインストール］チェックボックスを選択した場合は，［クライアントインストール］ダイアログが表示されるので，インストールするコンポーネントのチェックボックスを選択して［次へ］ボタンをクリックします。
印刷方法ごとにインストールするコンポーネントを次に示します。
   - クライアント PC での印刷方式（対話型印刷，対話型印刷プレビュー表示，自動印刷，全自動印刷，配布印刷）を使用して印刷する場合，［EUR Print Manager - Client］チェックボックスをオンにします。
   - クライアント PC の Web ブラウザを使用して印刷する場合，［EUR Print Manager - Client Print ActiveX］チェックボックスをオンにします。
   - クライアント PC の Web ブラウザでプレビュー画面を表示して印刷する場合，［EUR Print Manager - Client Preview ActiveX］チェックボックスをオンにします。

   EUR Print Manager - Client Print ActiveX または EUR Print Manager - Client Preview ActiveX をインストールする場合は，OS への ActiveX 登録をします。



9. **インストールの開始**
   登録した情報が［現在の設定］テキストボックスに表示されます。登録した情報を確認して，［次へ］ボタンをクリックするとインストールが開始されます。

(2) 配布用インストーラのインストール

配布用インストーラは，インストール時に指定したフォルダに格納されます。配布用インストーラのファイル名，および格納場所を次に示します。

- ファイル名：EURPM-CL.exe
- 格納場所：インストール先フォルダ ¥Components¥

配布用インストーラをクライアント PC に配布します。

EURPM-CL.exe を実行すると，インストーラが起動します。「EUR Print Manager - Client セットアッププログラムへようこそ。」と表示されたら，画面の指示に従ってインストールを完了させてください。

配布用インストーラを使用したインストールでは，EUR Print Manager - Client だけがインストールされ，コンポーネント（EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX）はインストールされません。

EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX をインストールしたい場合は，次のどちらかの方法でインストールしてください。

- ダウンロードパッケージを使用してインストールする
- MSI インストーラを使用してインストールする

インストール方法の詳細については，「付録 B.11　EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX のインストール」を参照してください。

付録 B.10　EUR Print Manager - Client のインストール後に作成されるフォルダ

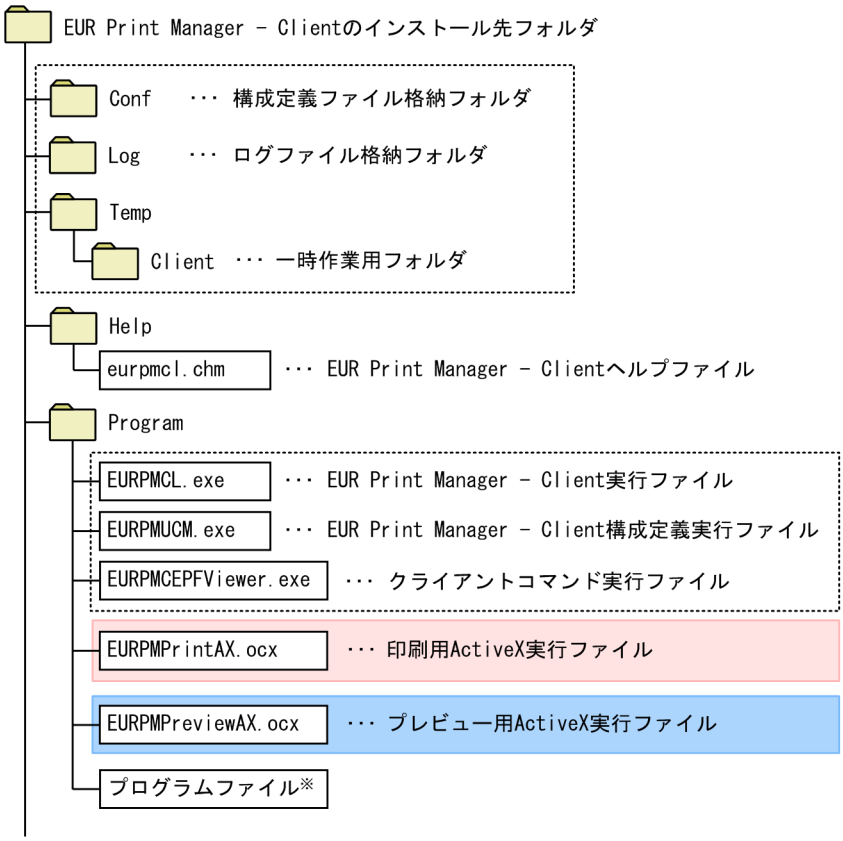
EUR Print Manager - Client をインストールしたときに作成されるフォルダ構造について説明します。フォルダ構造は，クライアントインストールしたときと，配布用インストーラでインストールしたときで異なります。

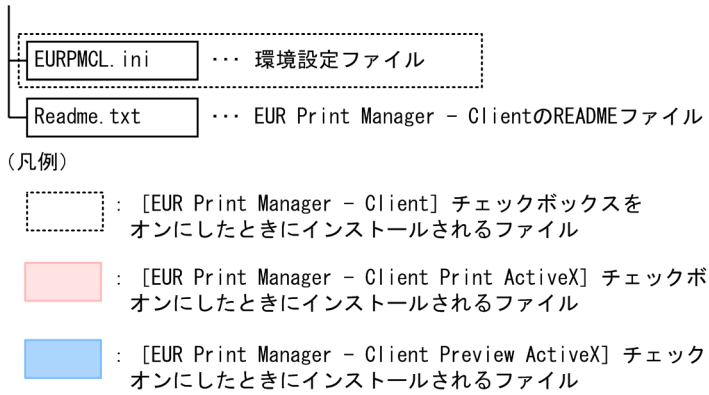
(1) クライアントインストールのフォルダ構造

クライアントインストールでインストールしたときに作成されるフォルダ構造を次に示します。

ただし，［クライアントインストール］ダイアログで選択したコンポーネントごとに，インストールされるファイルは異なります。

図 B-5　クライアントインストール後のフォルダ構造





注　　特に指定のないフォルダまたはファイルは，必ずインストールされます。

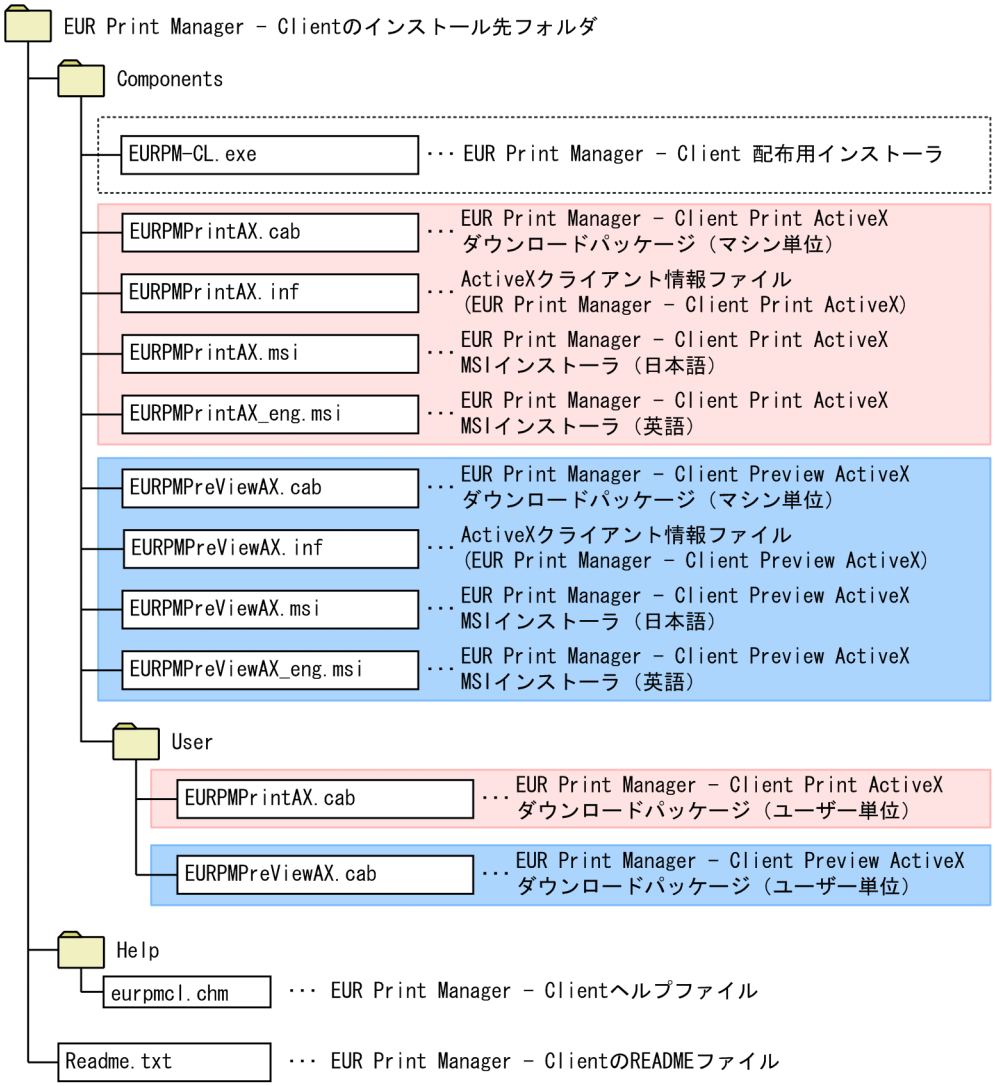
注※ プログラムファイルには，EURPMCEPFViewer_eng.dll，EURPMCL_eng.dll，
EURPMEPF_7.dll，EURPMEPF_eng_7.dll，EURPMGDCU_7.dll，EURPMUCM_eng.dll，
libeurpmzs.dll，REGSVR32.exeがあります。

(2) サーバ配置インストールのフォルダ構造

サーバ配置インストールでインストールしたときに作成されるフォルダ構造を次に示します。

ただし，［サーバ配置インストール］ダイアログで選択したコンポーネントごとに，インストールされるファイルは異なります。

図 B-6　サーバ配置インストール後のフォルダ構造



（凡例）

：［EUR Print Manager - Client］チェックボックスを
オンにしたときにインストールされるファイル

：［EUR Print Manager - Client Print ActiveX］チェックボックスを
オンにしたときにインストールされるファイル

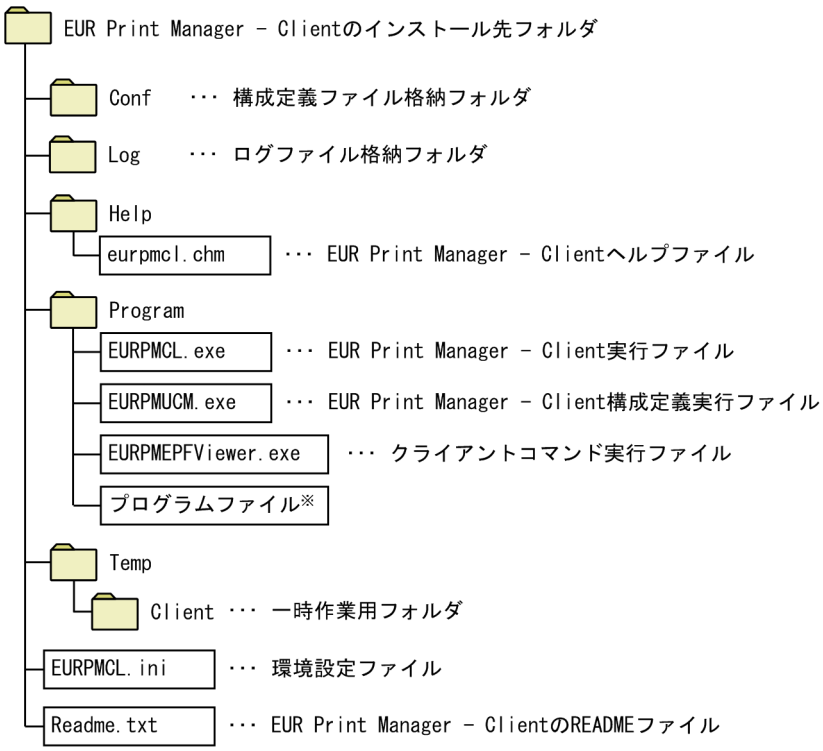
：［EUR Print Manager - Client Preview ActiveX］チェックボックスを
オンにしたときにインストールされるファイル

注　特に指定のないフォルダまたはファイルは，必ずインストールされます。

(3) 配布用インストーラを使ったインストールのフォルダ構造

配布用インストーラを使用してインストールしたときに作成されるフォルダ構造を次に示します。

図 B-7　配布用インストーラを使ったインストール後のフォルダ構造



注※　プログラムファイルには，EURPMCEPFViewer_eng.dll，EURPMCL_eng.dll，EURPMEPF_7.dll，EURPMEPF_eng_7.dll，EURPMGDCU_7.dll，EURPMUCM_eng.dll，libeurpmzs.dllがあります。

付録 B.11　EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX のインストール

EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX をインストールするには，次の二つの方法があります。

- ダウンロードパッケージを使用したインストール
- MSI インストーラを使用したインストール

インストールに必要なユーザー権限については，「表 B-1　製品のインストールに必要なユーザー権限」を参照してください。また，Windows Vista または Windows 7 にインス

トールする場合，OS から実行許可についてのダイアログが表示されることがあります。このときには，実行を許可する応答をしてください。

それぞれのインストール方法について説明します。

(1) ダウンロードパッケージを使用したインストール

(a) ダウンロードパッケージの種類

ダウンロードパッケージには，「マシン単位インストール用」と「ユーザー単位インストール用」の 2 種類があります。

マシン単位インストール用のダウンロードパッケージ

EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX をマシン単位でインストールするときに使用します。
マシン単位でインストールすると，すべてのユーザーが EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX を利用できるようになります。

ダウンロードパッケージの格納先

- EUR Print Manager - Client Print ActiveX
  インストール先フォルダ ¥Components¥EURPMPrintAX.cab
- EUR Print Manager - Client Preview ActiveX
  インストール先フォルダ ¥Components¥EURPMPreViewAX.cab

ユーザー単位インストール用のダウンロードパッケージ

EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX をユーザー単位でインストールするときに使用します。
ユーザー単位でインストールすると，インストールしたユーザーだけが EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX を利用できるようになります。
なお，ユーザー単位でのインストールは，クライアント PC が次の条件を満たす場合だけ実施できます。

- OS
  Windows Vista または Windows 7
- ブラウザ
  Internet Explorer 8 または Internet Explorer 9

ダウンロードパッケージの格納先

- EUR Print Manager - Client Print ActiveX
  インストール先フォルダ ¥Components¥User¥EURPMPrintAX.cab
- EUR Print Manager - Client Preview ActiveX
  インストール先フォルダ ¥Components¥User¥EURPMPreViewAX.cab

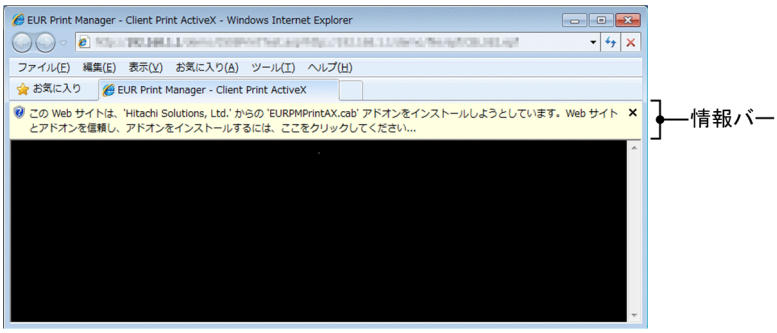
ダウンロードパッケージは，EUR Print Manager - Client をサーバ配置インストールで

インストールして取得します。EUR Print Manager - Client のインストール方法については，「付録 B.9　EUR Print Manager - Client のインストール」を参照してください。

(b) インストール方法

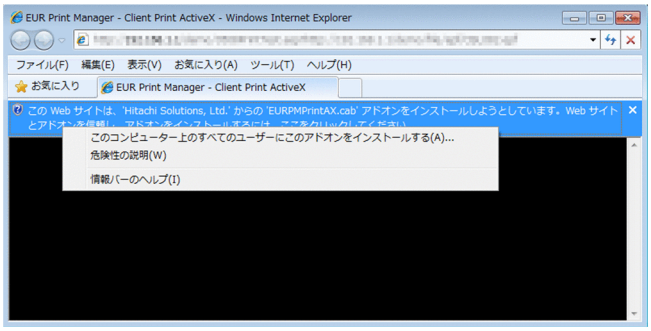
インストール方法を次に示します。

1. **EUR Print Manager - Client Print ActiveX ダウンロードパッケージ（EURPMPrintAX.cab）または EUR Print Manager - Client Preview ActiveX ダウンロードパッケージ（EURPMPreViewAX.cab）を，Web サーバの任意の場所に配置します。**
   新しいバージョンの EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX に移行する場合は，新しいバージョンのダウンロードパッケージに置き換えてください。
2. **HTML ページの <object> タグにダウンロードパッケージの cab ファイルの名前やバージョンなどを記述します。**
   新しいバージョンの EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX に移行する場合は，<object> タグのダウンロードパッケージのバージョンを書き換えてください。
3. **HTML ページをクライアント PC で開きます。**
   情報バーが表示されます。

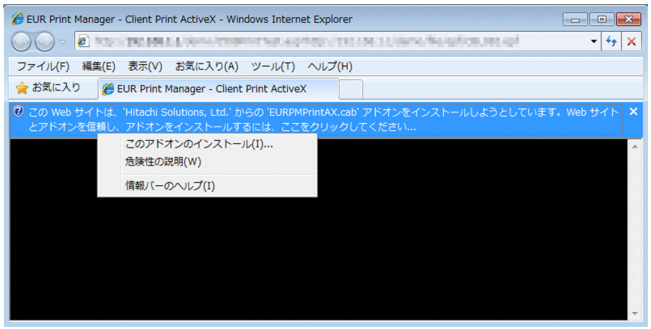


4. **情報バーをクリックします。**
   ポップアップメニューが表示されます。
   ポップアップメニューで［このコンピューター上のすべてのユーザーにこのアドオンをインストールする］または［このアドオンのインストール］を選択すると，EUR Print Manager - Client Print ActiveX または EUR Print Manager - Client Preview ActiveX がインストールされます。

■マシン単位でインストールする場合



■ユーザー単位でインストールする場合



このコンピューター上のすべてのユーザーにこのアドオンをインストールする

マシン単位でインストールする場合に表示されます。

このアドオンのインストール

ユーザー単位でインストールする場合に表示されます。

<object> タグの記述内容については，「8.1.2(1)　Web ブラウザ上で帳票を印刷する ActiveX 部品（EURPMPrintAX.ocx）を使用するときの <object> タグの記述例」および「8.1.2(2)　Web ブラウザ上で帳票を表示・印刷する ActiveX 部品（EURPMPreViewAX.ocx）を使用するときの <object> タグの記述例」を参照してください。

注意事項

- 同一マシンに対して「マシン単位でのインストール」と「ユーザー単位でのインストール」の両方を実施しないでください。環境不正となり動作を保証できません。
  なお，誤って異なるインストール単位のダウンロードパッケージを使用して上書きインストールすると，インストール時にエラーメッセージが表示されることがあります。このときは，［続行］ボタンをクリックしてインストールを完了させてください。［中断］ボタンをクリックしてしまうと，ユーザー単位でインストールしたプログラムをアンインストールできなくなります。
- 「マシン単位でのインストール」と「ユーザー単位でのインストール」の両方を実施してしまった場合は，次の手順でプログラムをすべてアンインストールしたあと，再度インストールを実施してください。
  1. EUR Print Manager - Client ActiveX 削除ツールで，マシン単位でインストールしたプログラムをアンインストールする。
  2. ブラウザのメニューから，ユーザー単位でインストールしたプログラムをアンインストールする。
- ユーザー単位でのインストールができる環境とできない環境が混在している場合は，ユーザーアプリケーションプログラムで，インストールに使用するダウンロードパッケージを切り替えてください。切り替え処理の例については，「9.11.7　EUR Print Manager - Client Print ActiveX，または EUR Print Manager - Client Preview ActiveX を自動でインストールして帳票を出力するときのコーディング例」（ActiveX 起動部品の場合），または「10.13.10　EUR Print Manager - Client Print ActiveX，または EUR Print Manager - Client Preview ActiveX を自動でインストールして帳票を出力するときのコーディング例」（Java 起動部品の場合）を参照してください。

（2） MSI インストーラを使用したインストール

MSI インストーラを使用したインストール方法には，次の二つの方法があります。

- MSI ファイルをダブルクリックして実行する
- msiexec コマンドで MSI ファイルを指定して実行する

プログラムをすべてのユーザーが使用できるようにするためには，msiexec コマンドを使用して，次のどちらかの方法でインストールしてください。次の方法以外でインストールした場合は，インストールを実行したユーザーだけしか使用できません。また，インストールは Administrators グループに属するユーザー，または管理者権限を持つユーザーが実行してください。

- 「ALLUSERS」プロパティに「1」または「2」を指定
  指定例
  ```
  "msiexec /i *.msi ALLUSERS=1"
  ```
- 「/j（アドバタイズ指定）」オプションで「m（全ユーザー）」を指定
  指定例
  ```
  "msiexec /jm *.msi" ※
  ```

  注※
  　このコマンドの実行だけでは，遅延インストールとなり実際のインストールは，

対象プログラムの初回起動時に実行されます。即時インストールしたい場合は，指定例に示したコマンド実行後に，"msiexec /i *.msi " でインストールを実行してください。

MSI ファイルには，日本語版と英語版があります。インストール時に GUI に表示される言語が異なるだけで，インストールされるファイルは同じです。必要に応じてどちらかを選択してください。

EUR Print Manager - Client Print ActiveX の場合

EURPMPrintAX.msi（日本語版）
EURPMPrintAX_eng.msi（英語版）

EUR Print Manager - Client Preview ActiveX の場合

EURPMPreViewAX.msi（日本語版）
EURPMPreViewAX_eng.msi（英語版）

MSI ファイルを実行すると，インストーラが起動されます。画面の指示に従ってインストールを完了させてください。

参考

- msiexec コマンドのオプションに「/q」を指定して実行すると，サイレントインストールができます。
- OS に Windows Server 2003 を使用している場合，Active Directory の IntelliMirror 機能を使用して，ActiveX ファイル配布インストールをすることもできます。ActiveX ファイル配布インストールの詳細については，Windows のマニュアルを参照してください。

付録 C　アンインストール

EUR Print Manager の各製品のアンインストール方法について説明します。

製品のアンインストールに必要なユーザー権限を，次の表に示します。なお，アンインストールは半角英数字のログインユーザーで行ってください。

表 C-1　製品のアンインストールに必要なユーザー権限

OS	実行ユーザー	サーバ製品				クライアント製品		
		EPM	EPM -AD	EPM -RS	EPM-RS-AD	EPM -CL	EPM-CL-AX	EPM-CL-PVX
Windows Server 2003	Administrators グループに属するユーザー	○	○	○	○	－	－	－
	Power Users グループに属するユーザー	×	×	×	○	－	－	－
Windows Server 2008	管理者権限を持つユーザー	○	○	○	○	－	－	－
Windows XP	Administrators グループに属するユーザー	－	○	－	○	○	○	○
	Power Users グループに属するユーザー	－	×	－	○	○	○	○
Windows Vista	管理者権限を持つユーザー	－	○	－	○	○	○	○
	標準ユーザー権限を持つユーザー	－	×	－	×	×	△	△
Windows 7	管理者権限を持つユーザー	－	○	－	○	○	○	○
	標準ユーザー権限を持つユーザー	－	×	－	×	×	△	△
UNIX/ Linux	スーパーユーザー	○	○	○	○	－	－	－

（凡例）

EPM：EUR Print Manager

EPM-AD：EUR Print Manager - Adapter

EPM-RS：EUR Print Manager - Report Server

EPM-RS-AD：EUR Print Manager - Report Server Adapter

EPM-CL：EUR Print Manager - Client

EPM-CL-AX：EUR Print Manager - Client Print ActiveX
EPM-CL-PVX：EUR Print Manager - Client Preview ActiveX
○：アンインストールできます。
△：ユーザー単位インストール用のダウンロードパッケージによってインストールした場合だけアンインストールできます。
×：アンインストールできません。
－：サポートしていません。

付録 C.1　EUR Print Manager のアンインストール

EUR Print Manager には，Windows 環境と UNIX/Linux 環境があります。

UNIX/Linux 環境の場合は，EUR Print Manager のアンインストールを実行する前に，必ず次の操作を実行してください。

- 起動中の EUR Print Manager をすべて停止してください。
- EURPM 制御コマンドで EUR Print Manager の起動管理定義をすべて削除してください。

アンインストールに必要なユーザー権限については，「表 C-1　製品のアンインストールに必要なユーザー権限」を参照してください。

（1） Windows 環境の場合

コントロールパネルの［アプリケーションの追加と削除］メニューから実行してください。

アンインストールを実行すると，次に示す情報が削除されます。

● 対象製品関連ファイル（フォルダを含む）

● スタートメニュー

● レジストリ

注意事項

アンインストールを実行すると，環境設定ファイル（EURPM.ini）は削除されます。環境設定ファイル（EURPM.ini）を削除したくない場合は，ほかのフォルダに退避してください。

（2） UNIX/Linux 環境の場合

EUR Print Manager をアンインストールするには，次に示すコマンドで日立 PP インストーラを起動してください。

```
/etc/hitachi_setup
```

メインメニューで［D］を選択すると，PP 削除画面が表示されます。PP 削除画面の例を次に示します。

```
      PP-NO.        VR              PP-NAME
<@>001 型名        バージョン番号    EUR Print Manager
   :
F) Forward B) Backward J) Down K) Up Space) Select/Unselect D) Delete Q) Quit
```

EUR Print Manager にカーソルを移動させ，スペースキーで選択します。選択した PP の左側には，「<@>」が表示されます。このとき，複数の PP 選択もできます。続いて［D］を入力すると最下行に次のメッセージが表示されます。

```
Delete PP? (y: delete, n: cancel)==>
```

ここで，［y］または［Y］を選択すると PP 削除が開始されます。［y］または［Y］以外を選択すると，PP 削除が中止され PP 削除画面に戻ります。

付録 C.2　EUR Print Manager - Adapter のアンインストール

EUR Print Manager - Adapter には，Windows 環境と UNIX/Linux 環境があります。

アンインストールに必要なユーザー権限については，「表 C-1　製品のアンインストールに必要なユーザー権限」を参照してください。

（1） Windows 環境の場合

コントロールパネルの［アプリケーションの追加と削除］メニューから実行してください。

アンインストールを実行すると，次に示す情報が削除されます。

- 対象製品関連ファイル（フォルダを含む）
- レジストリ

注意事項

アンインストールを実行すると，環境設定ファイル（EURPMADP.ini）は削除されます。環境設定ファイル（EURPMADP.ini）を削除したくない場合は，ほかのフォルダに退避してください。

---

64 ビット版の ActiveX 起動部品の ActiveX 登録をしている場合は，EUR Print Manager - Adapter をアンインストール前に，ユーザーは次のコマンドを実行して ActiveX 登録を解除してください。

EUR Print Manager - Adapter のインストール先フォルダ

¥Program(x64)¥regsvr32.exe /u /s /c EUR Print Manager - Adapter のインストール先フォルダ ¥Program(x64)¥EURPMADP.ocx

（2） UNIX/Linux 環境の場合

EUR Print Manager - Adapter をアンインストールするには，次に示すコマンドで日立 PP インストーラを起動してください。

```
/etc/hitachi_setup
```

メインメニューで［D］を選択すると，PP 削除画面が表示されます。PP 削除画面の例を次に示します。

```
      PP-NO.       VR              PP-NAME
<@>001  型名       バージョン番号    EUR Print Manager
    :
F) Forward B) Backward J) Down K) Up Space) Select/Unselect D) Delete Q) Quit
```

EUR Print Manager にカーソルを移動させ，スペースキーで選択します。選択した PP の左側には，「<@>」が表示されます。このとき，複数の PP 選択もできます。続いて［D］を入力すると最下行に次のメッセージが表示されます。

```
Delete PP? (y: delete,  n: cancel)==>
```

ここで，［y］または［Y］を選択すると PP 削除が開始されます。［y］または［Y］以外を選択すると，PP 削除が中止され PP 削除画面に戻ります。

付録 C.3　EUR Print Manager - Report Server のアンインストール

EUR Print Manager - Report Server には，Windows 環境と UNIX/Linux 環境があります。

UNIX/Linux 環境の場合は，起動中の EUR Print Manager - Report Server をすべて停止してからアンインストールを実行してください。

アンインストールに必要なユーザー権限については，「表 C-1　製品のアンインストールに必要なユーザー権限」を参照してください。

（1） Windows 環境の場合

コントロールパネルの［アプリケーションの追加と削除］メニューから実行してください。

アンインストールを実行すると，次に示す情報が削除されます。

● 対象製品関連ファイル（フォルダを含む）

● スタートメニュー

● レジストリ

注意事項

アンインストールを実行すると，環境設定ファイル（EURPMLS.ini）は削除されます。環境設定ファイル（EURPMLS.ini）を削除したくない場合は，ほかのフォルダに退避してください。

（2） UNIX/Linux 環境の場合

EUR Print Manager - Report Server をアンインストールするには，次に示すコマンドで日立 PP インストーラを起動してください。

```
/etc/hitachi_setup
```

メインメニューで［D］を選択すると，PP 削除画面が表示されます。PP 削除画面の例を次に示します。

```
      PP-NO.        VR              PP-NAME
<@>001  型名       バージョン番号    EUR Print Manager - Report Server
    :
F) Forward B) Backward J) Down K) Up Space) Select/Unselect D) Delete Q) Quit
```

EUR Print Manager - Report Server にカーソルを移動させ，スペースキーで選択します。選択した PP の左側には，「<@>」が表示されます。このとき，複数の PP 選択もできます。続いて［D］を入力すると最下行に次のメッセージが表示されます。

```
Delete PP? (y: delete, n: cancel)==>
```

ここで，［y］または［Y］を選択すると PP 削除が開始されます。［y］または［Y］以外を選択すると，PP 削除が中止され PP 削除画面に戻ります。

付録 C.4　EUR Print Manager - Report Server Adapter のアンインストール

EUR Print Manager - Report Server Adapter には，Windows 環境と UNIX/Linux 環境があります。

アンインストールに必要なユーザー権限については，「表 C-1　製品のアンインストールに必要なユーザー権限」を参照してください。

(1) Windows 環境の場合

コントロールパネルの［アプリケーションの追加と削除］メニューから実行してください。

アンインストールを実行すると，次に示す情報が削除されます。

- 対象製品関連ファイル（フォルダを含む）
- レジストリ

注意事項

アンインストールを実行すると，環境設定ファイル（EURPMLSADP.ini）は削除されます。環境設定ファイル（EURPMLSADP.ini）を削除したくない場合は，ほかのフォルダに退避してください。

---

64 ビット版の ActiveX 起動部品の ActiveX 登録をしている場合は，EUR Print Manager - Report Server Adapter をアンインストール前に，ユーザーは次のコマンドを実行して ActiveX 登録を解除してください。

```
EUR Print Manager - Report Server Adapter のインストール先フォルダ
¥Program(x64)¥regsvr32.exe /u /s /c EUR Print Manager - Report
Server Adapter のインストール先フォルダ ¥Program(x64)¥EURPMLSADP.ocx
```

(2) UNIX/Linux 環境の場合

EUR Print Manager - Report Server Adapter をアンインストールするには，次に示すコマンドで日立 PP インストーラを起動してください。

```
/etc/hitachi_setup
```

メインメニューで［D］を選択すると，PP 削除画面が表示されます。PP 削除画面の例を次に示します。

```
      PP-NO.       VR              PP-NAME
<@>001 型名       バージョン番号    EUR Print Manager - Report Server
    :
F) Forward B) Backward J) Down K) Up Space) Select/Unselect D) Delete Q) Quit
```

EUR Print Manager - Report Server にカーソルを移動させ，スペースキーで選択します。選択した PP の左側には，「<@>」が表示されます。このとき，複数の PP 選択もできます。続いて［D］を入力すると最下行に次のメッセージが表示されます。

```
Delete PP? (y: delete,  n: cancel)==>
```

ここで，［y］または［Y］を選択すると PP 削除が開始されます。［y］または［Y］以外を選択すると，PP 削除が中止され PP 削除画面に戻ります。

付録 C.5　EUR Print Manager - Client のアンインストール

EUR Print Manager - Client は，コントロールパネルの［アプリケーションの追加と削除］メニューからアンインストールします。

アンインストールに必要なユーザー権限については，「表 C-1　製品のアンインストールに必要なユーザー権限」を参照してください。

アンインストールを実行すると，次に示す情報が削除されます。

- 対象製品関連ファイル（フォルダを含む）
- スタートメニュー
- レジストリ

注意事項

アンインストールを実行すると，環境設定ファイル（EURPMCL.ini）は削除されます。環境設定ファイル（EURPMCL.ini）を削除したくない場合は，ほかのフォルダに退避してください。

また，EUR Print Manager - Client Print ActiveX または EUR Print Manager - Client Preview ActiveX をインストールしている場合は，自動でアンインストールされます。

ただし，次に示す場合は，EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX は自動でアンインストールされません。

- ダウンロードパッケージからインストールした場合
- MSI インストーラを使用してインストールした場合

ダウンロードパッケージまたは MSI インストーラからインストールした，EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX のアンインストール方法については，「付録 C.6　EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX のアンインストール」を参照してください。

付録 C.6　EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX のアンインストール

EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client

Preview ActiveX のアンインストール方法は，インストール方法によって異なります。

アンインストールに必要なユーザー権限については，「表 C-1　製品のアンインストールに必要なユーザー権限」を参照してください。

(1) クライアントインストールでインストールした場合

EUR Print Manager - Client のアンインストール時に，自動でアンインストールされます。

(2) ダウンロードパッケージからインストールした場合

アンインストール方法は，EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX のインストール単位によって異なります。インストール単位については，「付録 B.11(1)(a)　ダウンロードパッケージの種類」を参照してください。

マシン単位でインストールした場合

EUR Print Manager - Client ActiveX 削除ツールを使用してアンインストールしてください。

ユーザー単位でインストールした場合

ブラウザのメニューからアンインストールしてください。

それぞれのアンインストール方法について説明します。

(a) EUR Print Manager - Client ActiveX 削除ツールを使用してアンインストールする

EUR Print Manager - Client ActiveX **削除ツール**とは，ダウンロードパッケージからインストールした EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX をアンインストールするツールです。

アンインストールは，Administrators グループに属するユーザー，Power Users グループに属するユーザー，または管理者権限を持つユーザーで，かつ半角英数字のログインユーザー名で行ってください。

EUR Print Manager - Client ActiveX 削除ツールを使ってアンインストールする手順を次に示します。

1. **EUR Print Manager - Client ActiveX 削除ツールの実行**
   EUR Print Manager - Client ActiveX 削除ツールを次の方法で実行します。
   スタートメニューの［ファイル名を指定して実行］を選択し，テキストボックスに「EURPMXRM_AX.exe」または「EURPMXRM_PVX.exe」を入力したあと，［OK］ボタンをクリックしてください。
2. **削除の確認**
   削除を確認するダイアログが表示されます。［OK］ボタンをクリックすると，EUR Print Manager - Client Print ActiveX, および EUR Print Manager - Client Preview

ActiveX が削除されます。
削除が完了すると，EUR Print Manager - Client ActiveX 削除ツールはクライアント PC から削除されます。

アンインストールを実行すると，次に示す情報が削除されます。

- EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX の実行ファイル
- EUR Print Manager - Client ActiveX 削除ツール
- レジストリ

削除中にエラーが発生すると，次のようなエラーメッセージを表示します。エラーが出た場合は，アンインストールし直してください。

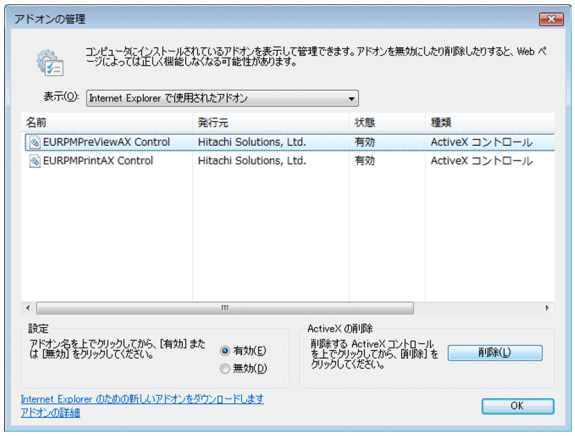
メッセージ	要因
EUR Print Manager - Client ActiveX 削除ツールの初期化に失敗しました。 処理を中止します。	対象製品関連フォルダがありません。
ダウンロードされた EUR Print Manager - Client ActiveX が見つかりません。 処理を中止します。	EURPMPrintAX.ocx または EURPMPreViewAX.ocx がありません。
ファイルアクセス権限がありません。 処理を中止します。	ファイルの削除権限がありません。
EUR Print Manager - Client ActiveX は使用中です。 処理を中止します。	EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX の関連ファイルは使用中です。
ファイルアクセスに失敗しました。 処理を中止します。	ファイルにアクセスできません。
EUR Print Manager - Client ActiveX のバックアップに失敗しました。 処理を中止します。	一時フォルダが取得できないか，または一時フォルダに保存する一時ファイルが取得できません。 EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX の関連ファイルをコピーできません。
EUR Print Manager - Client ActiveX の削除に失敗しました。 処理を中止します。	EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX の関連ファイルを削除できません。

(b) ブラウザのメニューからアンインストールする

ブラウザのメニューからアンインストールする手順を次に示します。

1. **メニューから［ツール］－［アドオンの管理］－［アドオンを有効または無効にする］を選択します。**
［アドオンの管理］ダイアログが表示されます。

2. EUR Print Manager - Client Print ActiveX，または EUR Print Manager - Client Preview ActiveX プログラムファイルを選択して，［削除］ボタンをクリックします。
   複数のプログラムファイルを一度に選択できないため，EUR Print Manager - Client Print ActiveX と EUR Print Manager - Client Preview ActiveX の両方をインストールしている場合は一つずつ削除してください。



EURPMPrintAX Control
: EUR Print Manager - Client Print ActiveX のプログラムファイルです。

EURPMPreViewAX Control
: EUR Print Manager - Client Preview ActiveX のプログラムファイルです。

EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX がアンインストールされます。

（3） MSI インストーラを使用してインストールした場合

次のどちらかの方法でアンインストールします。

- コントロールパネルの［アプリケーションの追加と削除］メニューからアンインストールする
- msiexec コマンドのオプションに「/x」を指定して実行する

画面の指示に従ってアンインストールしてください。

参考

msiexec コマンドのオプションに「/x」および「/q」を指定して実行すると，サイレントアンインストールができます。

付録 D　システムの負荷分散と多重化

印刷管理サーバで複数の EUR Print Manager を同時に起動したり，印刷管理サーバを複数台設定したりすることで，システムの負荷分散と多重化が図れます。

システムの負荷分散と多重化を実現するためのシステム構成とその構築方法について説明します。

付録 D.1　システム構成の概要

システムの負荷分散と多重化を実現するためのシステム構成は次のとおりです。また，それぞれの構成を組み合わせることもできます。

ロードバランサを使用して処理の自動振り分けを行う構成

複数台の印刷管理サーバを設定し，ロードバランサによって処理を並列で実行させて負荷分散する構成です。印刷管理サーバへの処理の振り分けはロードバランサが自動的に行います。そのため，帳票の種類や業務によって特定の印刷管理サーバに処理を振り分けたい場合には適していませんが，手軽に負荷分散できます。

なお，一方の印刷管理サーバで障害が発生した場合，ロードバランサの設定変更によって処理を切り替えることができ，EUR Print Manager - Adapter の設定変更は必要ありません。

詳細については，「付録 D.2　ロードバランサを使用した構成」を参照してください。

EUR Print Manager - Adapter の IP アドレス指定で処理の振り分けを行う構成

複数台の印刷管理サーバを設定し，処理を並列で実行させて負荷分散する構成です。EUR Print Manager - Adapter で印刷管理サーバの IP アドレスを指定することで，印刷管理サーバへの処理の振り分けを行うため，帳票の種類や業務によって明示的に制御できます。

なお，一方の印刷管理サーバで障害が発生した場合，事前に業務アプリケーション側で設定しておくことにより，EUR Print Manager - Adapter のプロパティを変更して処理を切り替えられます。

詳細については，「付録 D.3　IP アドレス指定で処理の振り分けを行う構成」を参照してください。

EUR Print Manager - Adapter のポート番号指定で処理の振り分けを行う構成

1 台の印刷管理サーバで EUR Print Manager を複数起動する構成です。印刷管理サーバを 1 台で構成するため，処理の並列実行による負荷分散はできません。

EUR Print Manager - Adapter で印刷管理サーバのポート番号を指定することで，EUR Print Manager への処理の振り分けを行うため，帳票の種類や業務によって明示的に制御できます。

なお，一方の EUR Print Manager で障害が発生した場合，事前に業務アプリケーション側で設定しておくことにより，EUR Print Manager - Adapter のプロパティ

を変更して処理を切り替えられます。
詳細については，「付録 D.4　ポート番号指定で処理の振り分けを行う構成」を参照してください。

それぞれの構成の特徴を次の表にまとめて示します。

表 D-1　システムの負荷分散と多重化の各構成の特徴

特徴		ロードバランサを使用した構成	IP アドレス指定で処理の振り分けを行う構成	ポート番号指定で処理の振り分けを行う構成
システム構成	印刷管理サーバの台数	複数台設定できます。	複数台設定できます。	1 台の設定です。
	ロードバランサ	必要です。	不要です。	不要です。
負荷分散		○	○	×
印刷管理サーバでの明示的な処理の振り分け		×	○	○
障害時の切り替え		○	○※	○※

（凡例）
○：できます。
×：できません。

注※
事前に業務アプリケーション側で設定し，障害時には EUR Print Manager - Adapter のプロパティを変更する必要があります。

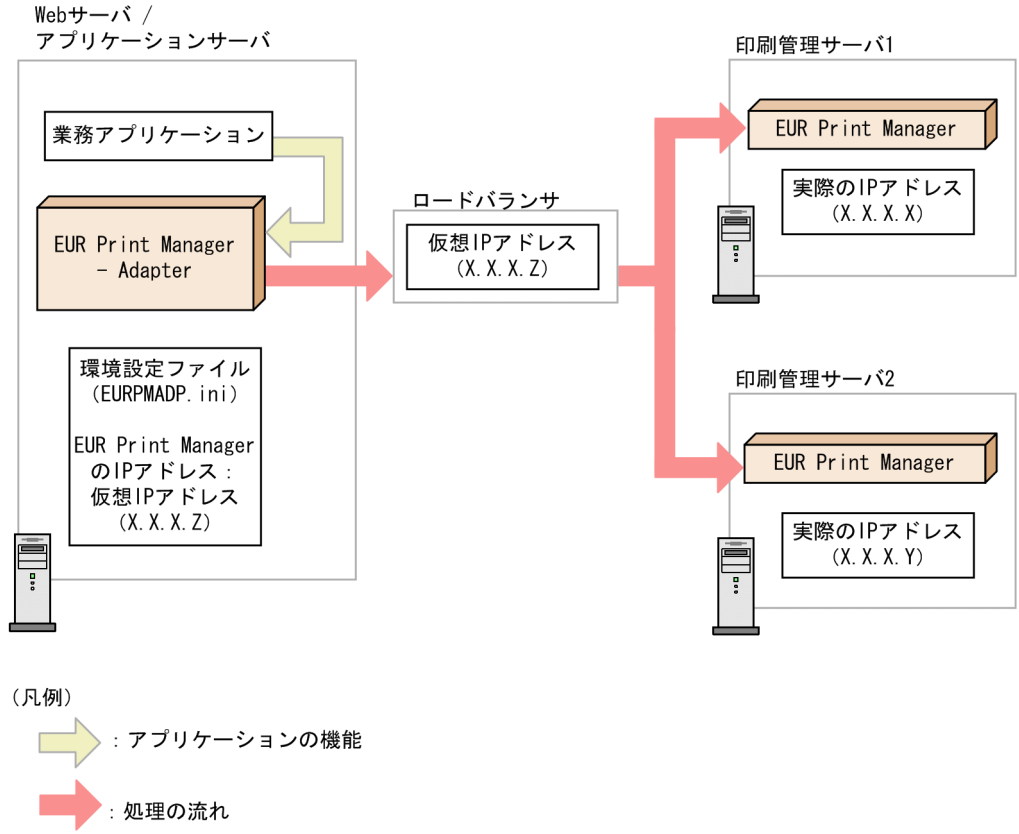
付録 D.2　ロードバランサを使用した構成

複数台の印刷管理サーバを設定し，ロードバランサによってシステムの負荷分散と多重化ができます。ロードバランサによって，処理は自動的にそれぞれの EUR Print Manager に振り分けられて負荷分散されます。ロードバランサの負荷分散仕様については，使用するロードバランサのマニュアルを参照してください。

なお，Web サーバやアプリケーションサーバを複数構成にして，負荷分散の効果を高めることもできます。

ロードバランサを使用して，EUR Print Manager で処理の自動振り分けを行う構成例を次に示します。

図 D-1　ロードバランサを使用した構成例



印刷管理サーバの IP アドレス設定

それぞれの印刷管理サーバに異なる IP アドレスを設定します。

この例では，印刷管理サーバ 1 に X.X.X.X.，印刷管理サーバ 2 に X.X.X.Y. と設定します。

ロードバランサの設定

ロードバランサには仮想 IP アドレスを設定します。仮想 IP アドレスに対して，印刷管理サーバの IP アドレスを対応付けます。

（設定例）

- ロードバランサの仮想 IP アドレス（X.X.X.Z）への対応付け 1
  印刷管理サーバ 1 の IP アドレス（X.X.X.X）
- ロードバランサの仮想 IP アドレス（X.X.X.Z）への対応付け 2
  印刷管理サーバ 1 の IP アドレス（X.X.X.Y）

ロードバランサの設定方法は，使用するロードバランサのマニュアルを参照してください。

EUR Print Manager - Adapter の設定

EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）の，IPADDRESS セクションの EURPM キーにロードバランサの仮想 IP アドレスを指定します。EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイルについての詳細は，「16.3　環境設定ファイル（EUR Print Manager - Adapter）」を参照してください。

付録 D.3　IP アドレス指定で処理の振り分けを行う構成

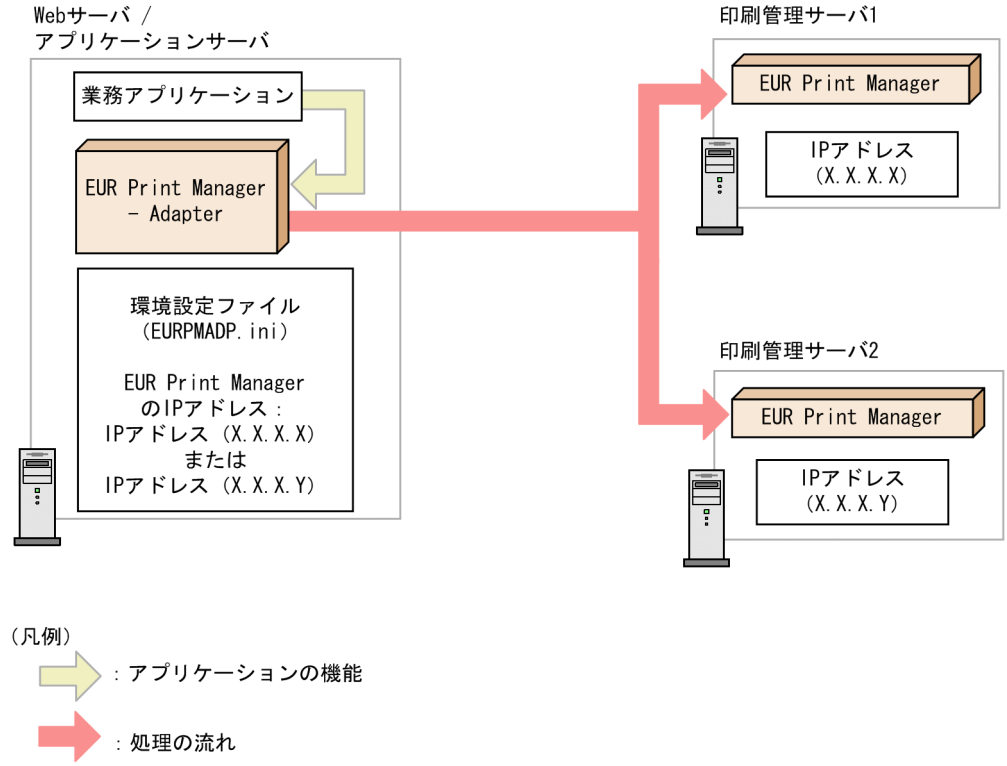
複数台の印刷管理サーバを設定し，処理を並列実行して負荷分散と多重化ができます。EUR Print Manager - Adapter に設定されている印刷管理サーバの IP アドレスを指定してジョブを実行することで，処理は指定した EUR Print Manager にジョブ単位で振り分けられて負荷分散されます。次のような振り分け例があります。

- EUR Print Manager を順番に振り分ける
- 業務種別ごとに専用の EUR Print Manager を振り分ける
- 帳票種別ごとに EUR Print Manager を振り分ける

なお，Web サーバやアプリケーションサーバを複数構成にして，負荷分散の効果を高めることもできます。

IP アドレスを指定して，EUR Print Manager の処理を振り分ける構成例を次に示します。

図 D-2　IP アドレス指定で処理の振り分けを行う構成例



印刷管理サーバの IP アドレス設定

それぞれの印刷管理サーバに異なる IP アドレスを設定します。

この例では，印刷管理サーバ 1 に X.X.X.X.，印刷管理サーバ 2 に X.X.X.Y. と設定します。

EUR Print Manager - Adapter の設定

EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）の，IPADDRESS セクションの EURPM キーには，デフォルトに設定する EUR Print Manager の IP アドレスを指定します。EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイルについての詳細は，「16.3　環境設定ファイル（EUR Print Manager - Adapter）」を参照してください。

業務アプリケーションの設定

業務アプリケーションから EUR Print Manager - Adapter を呼び出す処理の際に，印刷管理サーバの IP アドレスを指定するように設定します。IP アドレスの指定を省略した場合は，デフォルトの EUR Print Manager に処理が振り分けられます。

参考

印刷管理サーバの IP アドレスのプロパティの指定はアプリケーションサーバで設定します。詳細については，次の章を参照してください。

- 「9.　ActiveX 起動部品および RS-ActiveX 起動部品を使用した帳票出力」
- 「10.　Java 起動部品および RS-Java 起動部品を使用した帳票出力」
- 「11.　COBOL 起動部品を使用した帳票出力」
- 「12.　コマンド起動部品を使用した帳票出力」

付録 D.4　ポート番号指定で処理の振り分けを行う構成

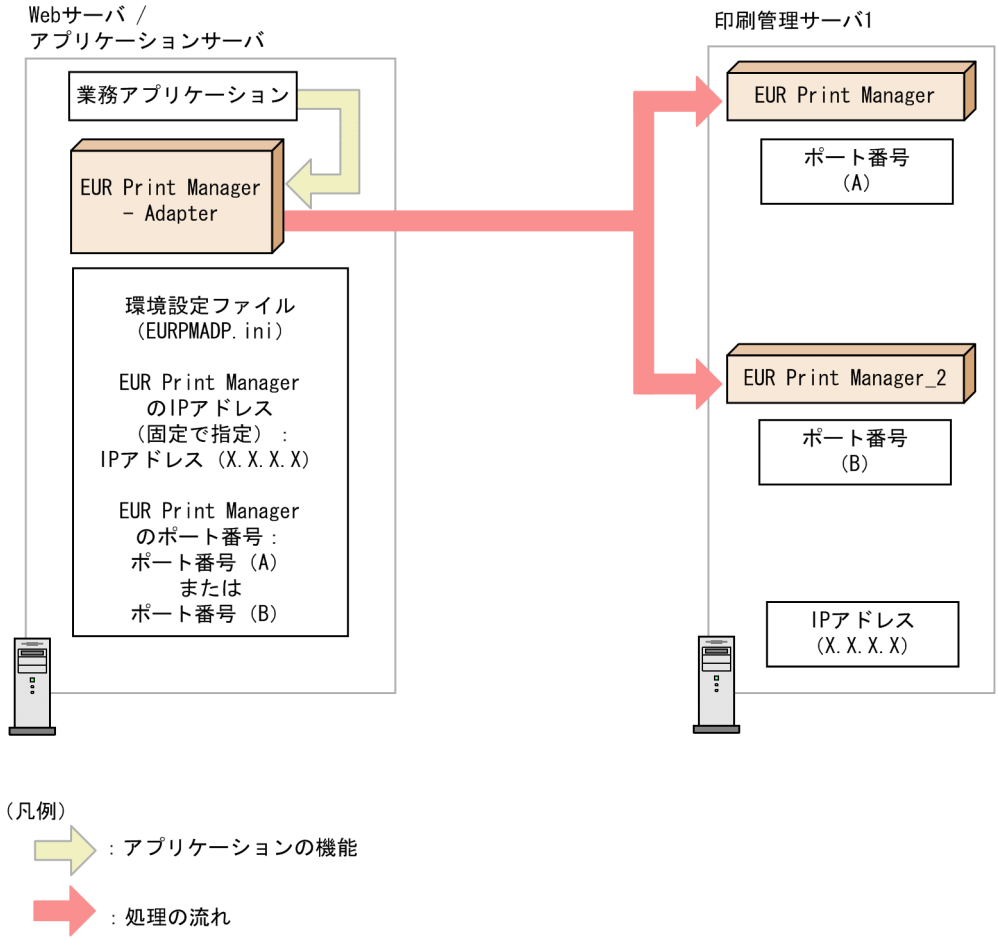
1 台の印刷管理サーバ上に複数の EUR Print Manager を起動し，EUR Print Manager - Adapter に設定されている印刷管理サーバのポート番号を指定してジョブを実行することで，処理は指定した EUR Print Manager にジョブ単位で振り分けられます。次のような振り分け例があります。

- EUR Print Manager を順番に振り分ける
- 業務種別ごとに専用の EUR Print Manager を振り分ける
- 帳票種別ごとに EUR Print Manager を振り分ける

なお，Web サーバやアプリケーションサーバを複数構成にすることもできます。

ポート番号を指定して，EUR Print Manager での処理を振り分ける構成例を次に示します。

図 D-3　ポート番号指定で処理の振り分けを行う構成例



EUR Print Manager のポート番号の設定

EUR Print Manager を複数起動する場合，1 台のサーバマシンで同じポート番号を使用できないため，EUR Print Manager を追加するときには，EUR Print Manager の環境設定ファイル（EURPM.ini）の，PORT セクションの EURPM キーに，EUR Print Manager ごとに異なるポート番号を指定します。EUR Print Manager の追加方法の詳細については，「6.　EUR Print Manager の起動管理」を参照してください。なお，EUR Print Manager の環境設定ファイルについての詳細は，「16.2　環境設定ファイル（EUR Print Manager）」を参照してください。

EUR Print Manager の複数起動

EURPM 制御コマンド，または Windows 環境の場合は［EURPM 起動管理］画面で，EUR Print Manager を複数起動します。EUR Print Manager の起動方法についての詳細は，「6.　EUR Print Manager の起動管理」を参照してください。なお，EUR Print Manager を自動で起動することもできます。EUR Print Manager の自

動起動についての詳細は，「6.1.1　自動起動の設定」を参照してください。

EUR Print Manager - Adapter の設定

EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル（EURPMADP.ini）の，PORT セクションの EURPM キーには，デフォルトに設定する EUR Print Manager のポート番号を指定します。EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイルについての詳細は，「16.3　環境設定ファイル（EUR Print Manager - Adapter）」を参照してください。

業務アプリケーションの設定

業務アプリケーションから EUR Print Manager - Adapter を呼び出す処理の際に，印刷管理サーバのポート番号を指定するように設定します。ポート番号の指定を省略した場合は，デフォルトの EUR Print Manager に処理が振り分けられます。

参考

印刷管理サーバのポート番号のプロパティの指定はアプリケーションサーバで設定します。詳細については，次の章を参照してください。

- 「9.　ActiveX 起動部品および RS-ActiveX 起動部品を使用した帳票出力」
- 「10.　Java 起動部品および RS-Java 起動部品を使用した帳票出力」
- 「11.　COBOL 起動部品を使用した帳票出力」
- 「12.　コマンド起動部品を使用した帳票出力」

付録 E　表示言語とエンコーディング

EUR Print Manager の表示言語およびエンコーディングは，OS の言語およびロケール情報によって決まります。EUR Print Manager の表示言語およびエンコーディングの決定方法について，OS の種類ごとに説明します。

(1) Windows 環境の場合

● 表示言語

プログラムを実行するユーザーの言語識別子（LANGID）の値によって決まります。言語識別子（LANGID）の値と EUR Print Manager の表示言語との対応を，次の表に示します。

表 E-1　EUR Print Manager の表示言語（Windows 環境の場合）

OS の言語	言語識別子（LANGID）の値	EUR Print Manager の表示言語
日本語	0x0411（1041）	日本語
英語	0x0409（1033）	英語
上記以外	上記以外	

なお，MUI を適用した英語版の OS の場合，言語識別子（LANGID）の値はユーザーごとに設定できます。設定方法の詳細については，OS のマニュアルを参照してください。

● エンコーディング

OS の言語およびロケール情報に関係なく，Shift-JIS になります。

(2) UNIX/Linux 環境の場合

● 表示言語

環境変数 LANG の設定値によって決まります。環境変数 LANG の設定値と EUR Print Manager の表示言語との対応を，次の表に示します。

表 E-2　EUR Print Manager の表示言語（UNIX/Linux 環境の場合）

OS の種類	環境変数 LANG の設定値	EUR Print Manager の表示言語
AIX	Ja_JP	日本語
	ja_JP	
	JA_JP	
	ja_JP.IBM-eucJP	
	JA_JP.UTF-8	
	上記以外	英語
HP-UX	ja_JP.SJIS	日本語

OS の種類	環境変数 LANG の設定値	EUR Print Manager の表示言語
	ja_JP.eucJP	
	ja_JP.utf8	
	上記以外	英語
Linux	ja_JP	日本語
	ja_JP.eucjp	
	ja_JP.EUC-JP	
	ja_JP.utf8	
	ja_JP.UTF-8	
	上記以外	英語

● エンコーディング

環境変数 LANG の設定値と，それに対応する言語およびロケール情報によって決まります。環境変数 LANG の設定値と EUR Print Manager のエンコーディングとの対応を，次の表に示します。

表 E-3　EUR Print Manager のエンコーディング（UNIX/Linux 環境の場合）

OS の種類	環境変数 LANG の設定値	言語およびロケール情報	EUR Print Manager のエンコーディング
AIX	Ja_JP	IBM-943	Shift-JIS
	ja_JP	IBM-eucJP	EUC
	JA_JP	UTF-8	UTF-8
	ja_JP.IBM-eucJP	IBM-eucJP	EUC
	JA_JP.UTF-8	UTF-8	UTF-8
	―	上記以外	特定しない
HP-UX	ja_JP.SJIS	SJIS	Shift-JIS
	ja_JP.eucJP	eucJP	EUC
	ja_JP.utf8	utf8	UTF-8
	―	上記以外	特定しない
Linux	ja_JP	EUC-JP	EUC
	ja_JP.eucjp		
	ja_JP.EUC-JP		
	ja_JP.utf8	UTF-8	UTF-8
	ja_JP.UTF-8		
	―	上記以外	特定しない

（凡例）

―：環境変数 LANG の設定値に限定されないことを示します。

付録 F　EUR Print Manager と対応する各製品のバージョン

EUR Print Manager と対応する各製品のバージョンを次に示します。

付録 F.1　Windows 環境で EUR Print Manager 08-70 を使用する場合

Windows 版 EUR Print Manager 08-70 を使用する場合に必要な製品のバージョンを印刷方式ごとに示します。

表 F-1　Windows 版 EUR Print Manager 08-70 に対応する各製品のバージョン

印刷方式	EPM-RS	EPM-CL	EPS	EPSE	EPS-CO
拠点サーバで印刷する場合	08-00 以降※1, ※2, ※3	―	08-00 以降※3, ※4	08-00 以降※3, ※4	―
EUR Print Service と連携した拠点サーバで印刷する場合	08-00 以降※2	―	―	08-00 以降※4	―
クライアント PC で自動印刷する場合	―	05-05 以降または 07-50 以降※1	08-00 以降※3, ※4	08-00 以降※3, ※4	―
クライアント PC で対話型印刷をする場合	―	05-05 以降または 07-50 以降※1	08-00 以降※3, ※4	08-00 以降※3, ※4	―
クライアント PC へ配布印刷する場合	―	07-70 以降※1	08-00 以降※4	08-00 以降※4	―
ActiveX クライアント印刷をする場合	―	05-05 以降または 07-50 以降※1	08-00 以降※4	08-00 以降※4	―
ヘルパクライアント印刷をする場合	―	05-06 以降または 07-50 以降※1	08-00 以降※4	08-00 以降※4	―
EUR Viewer を使用してクライアント PC で印刷する場合	―	―	―	08-00 以降※4	―
Adobe Reader を使用してクライアント PC で印刷する場合	―	―	―	08-00 以降※4	―
Adobe Reader を使用してクライアント PC で暗号化 PDF を印刷する場合	―	―	―	08-00 以降※4	08-00 以降

印刷方式	EPM-RS	EPM-CL	EPS	EPSE	EPS-CO
Adobe Reader を使用したクライアント PC での印刷で PDF 形式ファイル出力の JavaScript 埋め込み機能を使用する場合	―	―	―	08-00 以降※ 4	―
Adobe Reader を使用したクライアント PC での印刷で PDF 形式ファイル出力のビューアプレファレンス埋め込み機能を使用する場合	―	―	―	08-00 以降※ 4	―
Excel を使用してクライアント PC で印刷する場合	―	―	―	08-10 以降※ 4	―
蓄積印刷をする場合	08-00 以降※ 1, ※ 3	―	08-00 以降※ 3, ※ 4, ※ 5	08-00 以降※ 3, ※ 4, ※ 5	―
蓄積した印刷データを各拠点のプリンタで印刷する場合	08-00 以降※ 1, ※ 2	―	―	―	―
蓄積した印刷データをクライアント PC で印刷する場合	08-00 以降※ 1, ※ 3	05-06 以降または 07-50 以降※ 1	―	―	―
蓄積した印刷データをクライアント PC へ配布印刷する場合	08-00 以降※ 1	07-70 以降※ 1	08-00 以降※ 4	08-00 以降※ 4	―
クライアント PC の Web ブラウザを使用して蓄積したデータを印刷する場合	08-00 以降※ 1	05-06 以降または 07-50 以降※ 1	―	―	―
ヘルパクライアントを使用した蓄積印刷をする場合	08-00 以降※ 1	05-06 以降または 07-50 以降※ 1	―	―	―
印刷管理サーバで印刷する場合	―	―	08-00 以降※ 4	08-00 以降※ 4	―

（凡例）

EPM-RS：EUR Print Manager - Report Server

EPM-CL：EUR Print Manager - Client

EPS：EUR Print Service

EPSE：EUR Print Service Enterprise

EPS-CO：EUR Print Service - Cipher option

―：必要ありません。

注※ 1

画像データを圧縮する設定で出力した EPF 形式ファイルを，プレビュー表示したり印刷したりする場合は，EUR Print Manager - Report Server 08-10 以降または EUR Print Manager - Client 08-10 以降を使用してください。

注※ 2

Windows 版の EUR Print Manager - Report Server が対象です。

注※ 3

プリンタでの印刷実行時の日時情報を帳票に出力する場合（印刷日時出力定義ファイルを指定して印刷する場合）は，uCosminexus EUR Print Service 08-50 以降または uCosminexus EUR Print Service Enterprise 08-50 以降を使用してください。さらに，帳票の出力先が拠点サーバのプリンタのときは，EUR Print Manager - Report Server 08-50 以降を使用してください。

注※ 4

EUR Print Service の環境設定ファイルを指定して印刷する場合は，EUR Print Service 08-20 以降または EUR Print Service Enterprise 08-20 以降を使用してください。

注※ 5

帳票を分割または仕分けして蓄積する場合は，EUR Print Service 08-70 以降または EUR Print Service Enterprise 08-70 以降を使用してください。

付録 F.2　UNIX/Linux 環境で EUR Print Manager 08-70 を使用する場合

UNIX/Linux 版 EUR Print Manager 08-70 を使用する場合に必要な製品のバージョンを印刷方式ごとに示します。

表 F-2　UNIX/Linux 版 EUR Print Manager 08-70 に対応する各製品のバージョン

印刷方式	EPM-RS	EPM-CL	EPS	EPSE	EPS-CO
拠点サーバで印刷する場合	08-00 以降※ 1, ※ 2, ※ 3	―	08-00 以降※ 3, ※ 4	08-00 以降※ 3, ※ 4	―
EUR Print Service と連携した拠点サーバで印刷する場合	08-00 以降※ 2	―	―	08-00 以降※ 4	―
クライアント PC で自動印刷する場合	―	05-05 以降または 07-50 以降※ 1	08-00 以降※ 3, ※ 4	08-00 以降※ 3, ※ 4	―
クライアント PC で対話型印刷をする場合	―	05-05 以降または 07-50 以降※ 1	08-00 以降※ 3, ※ 4	08-00 以降※ 3, ※ 4	―
クライアント PC へ配布印刷する場合		07-70 以降※ 1	08-00 以降※ 4	08-00 以降※ 4	
ActiveX クライアント印刷をする場合	―	05-05 以降または 07-50 以降※ 1	08-00 以降※ 4	08-00 以降※ 4	―

印刷方式	EPM-RS	EPM-CL	EPS	EPSE	EPS-CO
ヘルパクライアント印刷をする場合	－	05-06 以降または 07-50 以降※1	08-00 以降※4	08-00 以降※4	－
EUR Viewer を使用してクライアント PC で印刷する場合	－	－	－	08-00 以降※4	－
Adobe Reader を使用してクライアント PC で印刷する場合	－	－	－	08-00 以降※4	－
Adobe Reader を使用してクライアント PC で暗号化 PDF を印刷する場合	－	－	－	08-00 以降※4	08-00 以降
Adobe Reader を使用したクライアント PC での印刷で PDF 形式ファイル出力の JavaScript 埋め込み機能を使用する場合	－	－	－	08-00 以降※4	－
Adobe Reader を使用したクライアント PC での印刷で PDF 形式ファイル出力のビューアプレファレンス埋め込み機能を使用する場合	－	－	－	08-00 以降※4	－
Excel を使用したクライアント PC で印刷する場合	－	－	－	08-10 以降※4	－
蓄積印刷をする場合	08-00 以降※1, ※2, ※3	－	08-00 以降※3, ※4, ※5	08-00 以降※3, ※4, ※5	－
蓄積した印刷データを各拠点のプリンタで印刷する場合	08-00 以降※1, ※2	－	－	－	－
蓄積した印刷データをクライアント PC で印刷する場合	08-00 以降※1, ※3	05-06 以降または 07-50 以降※1	－	－	－
蓄積した印刷データをクライアント PC へ配布印刷する場合	08-00 以降※1	07-70 以降※1	08-00 以降※4	08-00 以降※4	－
クライアント PC の Web ブラウザを使用して蓄積したデータを印刷する場合	08-00 以降※1	05-06 以降または 07-50 以降※1	－	－	－
ヘルパクライアントを使用した蓄積印刷をする場合	08-00 以降	05-06 以降または 07-50 以降※1	－	－	－
印刷管理サーバで印刷する場合	－	－	08-00 以降※4	08-00 以降※4	－

（凡例）

EPM-RS：EUR Print Manager - Report Server
EPM-CL：EUR Print Manager - Client
EPS：EUR Print Service
EPSE：EUR Print Service Enterprise
EPS-CO：EUR Print Service - Cipher option
－：必要ありません。

注※ 1

画像データを圧縮する設定で出力した EPF 形式ファイルを，プレビュー表示したり印刷したりする場合は，EUR Print Manager - Report Server 08-10 以降または EUR Print Manager - Client 08-10 以降を使用してください。

注※ 2

Windows 版の EUR Print Manager - Report Server が対象です。

注※ 3

プリンタでの印刷実行時の日時情報を帳票に出力する場合（印刷日時出力定義ファイルを指定して印刷する場合）は，uCosminexus EUR Print Service 08-50 以降または uCosminexus EUR Print Service Enterprise 08-50 以降を使用してください。さらに，帳票の出力先が拠点サーバのプリンタのときは，EUR Print Manager - Report Server 08-50 以降を使用してください。

注※ 4

EUR Print Service の環境設定ファイルを指定して印刷する場合は，EUR Print Service 08-20 以降または EUR Print Service Enterprise 08-20 以降を使用してください。

注※ 5

帳票を分割または仕分けして蓄積する場合は, EUR Print Service 08-70 以降または EUR Print Service Enterprise 08-70 以降を使用してください。

付録 G　このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

付録 G.1　関連マニュアル

このマニュアルの関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

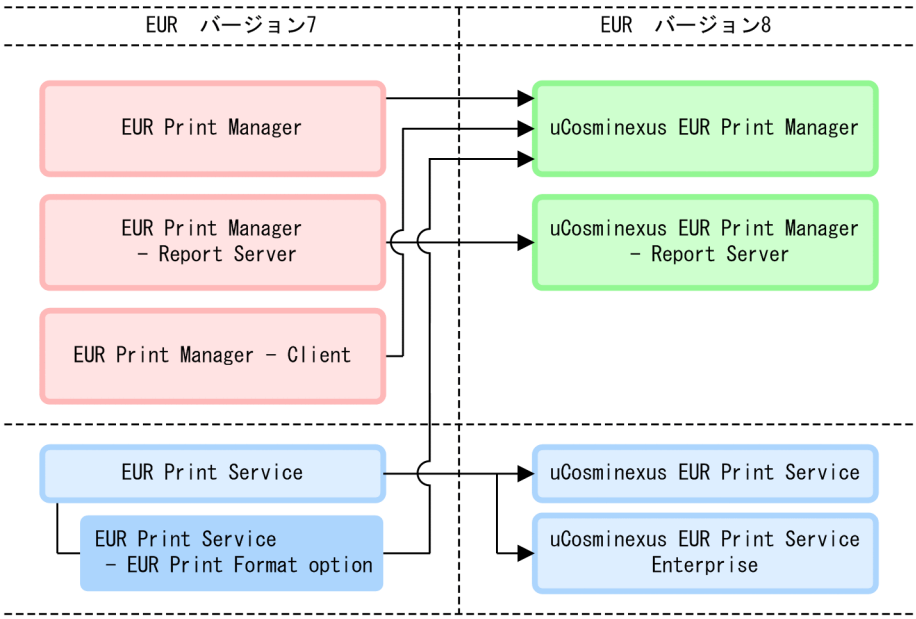
- uCosminexus EUR Print Manager メッセージ（3020-7-539）
- uCosminexus EUR 概説（3020-7-531）
- はじめての帳票作成（3020-7-532）
- uCosminexus EUR 帳票設計（3020-7-533）
- uCosminexus EUR クライアント帳票出力（3020-7-535）
- uCosminexus EUR サーバ帳票出力（3020-7-536）
- uCosminexus EUR メッセージ（3020-7-537）
- COBOL85 ユーザーズガイド（3020-3-852）
- COBOL2002 ユーザーズガイド（3020-3-D42）
- COBOL85　使用の手引（3000-3-354）
- COBOL2002　使用の手引　手引編（3000-3-D42）
- COBOL2002　使用の手引　操作編（3000-3-D43）
- COBOL2002　操作ガイド（3020-3-D41）

なお，このマニュアルでは，マニュアル名について次のように表記しています。

マニュアル名	表記
uCosminexus EUR Print Manager メッセージ	EUR Print Manager メッセージ
uCosminexus EUR 概説	EUR 概説
uCosminexus EUR 帳票設計	EUR 帳票設計
uCosminexus EUR クライアント帳票出力	EUR クライアント帳票出力
uCosminexus EUR サーバ帳票出力	EUR サーバ帳票出力
uCosminexus EUR メッセージ	EUR メッセージ

付録 G.2　EUR バージョン 8 での製品体系の変更

EUR バージョン 8 での製品体系の変更について，次の図に示します。



付録 G.3　EUR バージョン 8 でのマニュアル体系の変更

EUR バージョン 8 では，マニュアル体系を変更しました。体系変更後の各マニュアルの記載内容を次の表に示しますので，利用目的に応じてご利用ください。

マニュアル名		記載内容の概略
バージョン 7	バージョン 8	
EUR Print Manager 帳票出力	EUR Print Manager 帳票出力	EUR Print Manager を使用した帳票出力について説明しています。
	EUR Print Manager メッセージ	EUR Print Manager のメッセージについて説明しています。

付録 G.4　このマニュアルでの表記

このマニュアルでの表記を次に示します。

(1) 製品名の表記

このマニュアルでは，uCosminexus EUR の各製品について，次のように表記しています。

製品名称	表記
uCosminexus EUR Print Manager	EUR Print Manager
uCosminexus EUR Print Manager - Report Server	EUR Print Manager - Report Server
uCosminexus EUR Print Manager - Client	EUR Print Manager - Client
uCosminexus EUR Designer	EUR Designer
uCosminexus EUR Developer	EUR Developer
uCosminexus EUR Viewer	EUR Viewer
uCosminexus EUR Print Service	EUR Print Service
uCosminexus EUR Print Service Enterprise	
uCosminexus EUR Print Service - Cipher option	EUR Print Service - Cipher option

なお，uCosminexus EUR Print Service と uCosminexus EUR Print Service Enterprise を区別するときは，uCosminexus EUR Print Service Enterprise を EUR Print Service Enterprise と表記することがあります。

また，このマニュアルでは，uCosminexus EUR 以外の製品名称について，次のように表記しています。

製品名称	表　記	
Adobe(R) Flash(R) Player	Adobe Flash Player	
Adobe(R) Reader(R)	Adobe Reader	
AIX 5L V5.3	AIX	UNIX
AIX V6.1		
AIX V7.1		
HP-UX 11i V2(IPF)	HP-UX	
HP-UX 11i V3(IPF)		
JP1/Network Printing System/Distributor　07-00 以降 JP1/Network Printing System/Distributor　06-51-/A 以降	JP1	
Red Hat Enterprise Linux AS 4	Linux AS 4	Linux
Red Hat Enterprise Linux ES 4	Linux ES 4	
Red Hat Enterprise Linux 5	Linux 5	
Red Hat Enterprise Linux 5 Advanced Platform		
uCosminexus Application Server Enterprise	uCosminexus Application Server	
uCosminexus Application Server Standard		

(2) Windows 以外のディレクトリの表記

このマニュアルでは，適用 OS で共通する操作の場合，「フォルダ」と表記しています。UNIX または Linux 環境で操作する場合は，「フォルダ」を「ディレクトリ」に置き換えてお読みください。

付録 G.5　このマニュアルで使用する略語

このマニュアルで使用する英略語の正式名称を次に示します。

英略語	正式名称
API	Application Programming Interface
ASP	Active Server Pages
BOM	Byte Order Mark
COBOL	Common Business Oriented Language
CPU	Central Processing Unit
CSV	Comma Separated Value
DLL	Dynamic Link Library
dpi	dot per inch
EPF	EUR Print Format report
EUR	End-User Reporting
GMT	Greenwich Mean Time
GUI	Graphical User Interface
HDD	Hard Disk Drive
HTML	HyperText Markup Language
HTTP	Hyper Text Transfer Protocol
ID	Identifier
IP	Internet Protocol
IPF	Itanium(R) Processor Family
JDK	Java™ Development Kit
JIS	Japanese Industrial Standards
JSP	Java Server Pages
MFC	Microsoft Foundation Class
MSI	Microsoft Windows Installer
MUI	Multi User Interface
OS	Operating System
PC	Personal Computer
PDF※	Portable Document Format

英略語	正式名称
RPM	RPM Package Manager
URL	Uniform Resource Locator
Web	WWW（World Wide Web）

注※

PDF とは，特定のプラットフォームに依存しないで文書を表示するために Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）によって開発されたドキュメントフォーマットです。

付録 G.6　適用 OS の違いによる機能相違点の表記

このマニュアルでは，適用 OS によって機能差がある場合，次に示す表記を使用して，それぞれの説明に OS 名を明記しています。

表　記	意　　味
Windows 環境の場合	Windows Server 2003，Windows Server 2008，Windows XP，Windows Vista，および Windows 7 に該当します。
UNIX 環境の場合	AIX 5L V5.3，AIX V6.1，AIX V7.1，HP-UX 11i V2(IPF)，および HP-UX 11i V3(IPF) に該当します。ただし，機能差がある場合は，「AIX 環境の場合」，または「HP-UX 環境の場合」と表記します。
Linux 環境の場合	Red Hat Enterprise Linux AS 4，Red Hat Enterprise Linux ES 4，Red Hat Enterprise Linux 5，および Red Hat Enterprise Linux 5 Advanced Platform に該当します。

付録 G.7　関連するプログラムプロダクト

次に示す関連ソフトウェアと連携することで，帳票を出力したり，閲覧したりできます。

連携できる EUR Print Service のバージョン

- P-24D2-5784　uCosminexus EUR Print Service 08-00 以降
- P-24D2-5984　uCosminexus EUR Print Service Enterprise 08-00 以降
- P-1MD2-5181　uCosminexus EUR Print Service 08-00 以降
- P-1MD2-5381　uCosminexus EUR Print Service Enterprise 08-00 以降
- P-1JD2-5181　uCosminexus EUR Print Service 08-00 以降
- P-1JD2-5381　uCosminexus EUR Print Service Enterprise 08-00 以降
- P-9SD2-5181　uCosminexus EUR Print Service 08-00 以降
- P-9SD2-5381　uCosminexus EUR Print Service Enterprise 08-00 以降

注意事項

- Excel を使用してクライアント PC で印刷する場合は,「uCosminexus EUR Print Service Enterprise 08-10 以降」が必要です。
- EUR Print Service の環境設定ファイルを EUR Print Manager のサービスごと，または印刷ジョブごとに指定して印刷する場合は,「uCosminexus EUR Print Service 08-20 以降」または「uCosminexus EUR Print Service Enterprise 08-20 以降」が必要です。
- プリンタでの印刷実行時の日時情報を帳票に出力する場合（印刷日時出力定義ファイルを指定して印刷する場合）は,「uCosminexus EUR Print Service 08-50 以降」または「uCosminexus EUR Print Service Enterprise 08-50 以降」が必要です。
- 帳票を分割または仕分けして蓄積する場合は,「uCosminexus EUR Print Service 08-70 以降」または「uCosminexus EUR Print Service Enterprise 08-70 以降」が必要です。

PDF 形式ファイルを閲覧できる Adobe Reader のバージョン

Windows 版 Adobe(R) Reader(R) 7.0 以降　日本語版

Excel 形式ファイルを編集および閲覧できる Excel のバージョン

Microsoft(R) Office Excel(R) 2007

JP1 と連携して仕分け印刷できる JP1/Network Printing System/Distributor のバージョン

Windows Server 2003 Editions の場合

P-2412-6M74　JP1/Network Printing System/Distributor 07-00 以降

Java 起動部品が前提とする JDK のバージョン

JDK 1.4，JDK 5.0，または JDK 6.0

COBOL 起動部品を使用して帳票を出力できる COBOL のバージョン

Windows Server 2003 Editions および Windows Server 2003 R2 の場合

P-2436-6314　COBOL2002 Net Server Suite 01-01-/C 以降

Windows Server 2003 x64 および Windows Server 2003 R2 x64 の場合

- P-2936-2314　COBOL2002 Net Developer(64) 01-00 以降
- P-2936-5314　COBOL2002 Net Server Runtime(64) 01-00 以降
- P-2936-6314　COBOL2002 Net Server Suite(64) 01-00 以降

AIX 環境の場合

P-1M36-1111　COBOL2002 Net Server Suite 01-00-/A 以降

HP-UX 環境の場合

P-1J36-1111　COBOL2002 Net Server Suite 01-01-/C 以降

Linux 環境の場合

次のどちらかの製品を使用してください。

- P-9S34-1133　COBOL85 Version 3.0 03-05-/A 以降
- P-9S36-1111　COBOL2002 Net Server Suite 01-01 以降

付録 G.8　KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト），1MB（メガバイト），1GB（ギガバイト），1TB（テラバイト）はそれぞれ 1,024 バイト，$1{,}024^2$ バイト，$1{,}024^3$ バイト，$1{,}024^4$ バイトです。

付録 H　用語解説

(英字)

ActiveX

Microsoft のインターネット技術の総称です。Microsoft の Web ブラウザの Internet Explorer と，Web サーバの IIS で利用できる技術で構成されます。

COBOL

事務処理用のプログラミング言語です。英文に似た記述方法で，企業の会計処理に使われる大型計算機に多く使用されています。

EPF 形式ファイル

EUR Print Manager の独自形式の印刷データファイルです。データを圧縮しているので，サイズが小さく，ネットワークの負荷を軽減できます。

EUR Print Manager - Client ActiveX 削除ツール

ダウンロードパッケージからインストールした EUR Print Manager - Client Print ActiveX，および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX をアンインストールするツールです。

EUR 形式ファイル

EUR の独自形式の印刷データファイルです。帳票定義ファイルとデータファイルを一つのパッケージにしたファイルで，PDF 形式よりもサイズが小さく，ネットワーク負荷を軽減できます。

Java

オブジェクト指向のプログラミング言語で，特定の OS に依存しないで動作します。また，Web 上でプログラムを実行できます。

Java サーブレット

Web/AP サーバで実行するための Java プログラムです。サーブレットを追加することで，Web/AP サーバの機能を拡張できます。

JSP

Java Server Pages の略で，HTML に Java プログラムを埋め込んだファイルのことです。Web/AP サーバ側で Java のコードが実行され，実行結果が，HTML ファイルでクライアントに転送されます。Java サーブレットとは違い，HTML ファイルの中に Java プログラムを埋め込んで実行するので，簡単に編集できます。また，コンパイルの必要がありません。

Office Open XML

Microsoft が提唱している文書フォーマットです。Microsoft(R) Office 2007 で使用されています。

XLSX 形式ファイル

Microsoft(R) Office Excel(R) 2007 で用いられているファイル形式です。

XML

マークアップ言語の一つです。国際標準の構造化文書の技術として，W3C により勧告されています。

（ア行）

印刷管理サーバ

印刷処理情報を振り分けるサーバです。Web サーバやアプリケーションサーバとは別に配置できます。印刷管理サーバでは帳票から印刷用のデータを生成し，各拠点のサーバやクライアント PC のサーバに振り分けます。

印刷先定義

帳票の蓄積先や蓄積ファイルの格納ファイル名などの情報を定義することを印刷先定義といいます。印刷データを分割または仕分けして蓄積する場合に定義します。

（カ行）

拠点サーバ

各拠点に配置されたサーバです。印刷管理サーバから帳票を受信して，各拠点のプリンタに出力します。

構成定義

EUR Print Manager のコンポーネントの構成情報を定義することを構成定義といいます。

（サ行）

仕分け

あらかじめ指定したキーワードによって帳票を分類して出力することです。

（タ行）

ダウンロードパッケージ

ソフトウェアの配布などのためのファイル圧縮形式です。キャビネットファイル（*.cab）ともいいます。ダブルクリックでフォルダのように開けます。

蓄積

帳票を任意の時点で印刷，および再印刷できるようにするため，サーバに帳票の印刷データをためておくことを蓄積といいます。

蓄積印刷

帳票の印刷データをサーバに蓄積しておき，任意の時点で印刷データを呼び出して印刷することを蓄積印刷といいます。一度印刷したデータの再印刷もできます。蓄積した帳票の印刷は，拠点サーバとクライアント PC のどちらでもできます。

蓄積ファイル

帳票を蓄積するとき，帳票の印刷データと一緒に次の属性情報が蓄積されます。

- 帳票の蓄積に関する情報
- 印刷時の設定に関する情報
- 印刷履歴情報

印刷データと属性情報を組み合わせたものを，蓄積ファイルといいます。

帳票ファイル

EUR Designer で作成した帳票を保存したファイル（*.fms）です。

（ハ行）

配布用インストーラ

クライアントに EUR Print Manager - Client をインストールするための，1 ファイルのセットアッププログラムです。

ファイル入力

EUR Print Manager - Adapter の Java 起動部品を設定するために，ユーザーデータファイルの内容をパスで指定することをファイル入力といいます。

振り分けグループ

帳票名ごとに自動的にプリンタを定義して印刷するために，帳票名を分類するグループのことです。帳票名ごとに自動的にプリンタを定義することは帳票振り分け定義といいます。

プリンタクラス

プリンタとトレイを組み合わせたものです。帳票出力時にプリンタクラスを指定すれば，プリンタとトレイを一度に指定できるので，出力先を効率良く設定できます。プリンタクラスは拠点サーバとクライアント PC の両方で設定できます。

（マ行）

メモリ入力

EUR Print Manager - Adapter の Java 起動部品を設定するために，ユーザーデータファイルの内容をデータで指定することをメモリ入力といいます。

索引

数字

64 ビット版の Windows Server での注意 1028

A

ActiveX〔用語解説〕 1115
ActiveX 起動部品 304
　構文 305
　実行時のエラー情報一覧 440
　提供するクラス 304
　ファイル名 304
　プログラム ID とコントロール名 304
ActiveX 起動部品が提供するプロパティ一覧〔出力メソッド〕 309
ActiveX 起動部品が提供するプロパティ一覧〔情報取得メソッド〕 315
ActiveX 起動部品が提供するメソッド一覧 307
ActiveX 起動部品の構文
　ActiveX 起動部品を構築する場合 305
　EURPMADPLib.EURPMAdapter クラスを生成する場合 305
ActiveX クライアント情報ファイル 914
　配置 914
　配置に関する注意 916
　用途 915
ActiveX 部品 280
ActiveX 部品（EURPMPreViewAX.ocx）
　クラス ID〔MSI インストーラによるインストールの場合〕 282
　クラス ID〔クライアントインストールの場合〕 282
　クラス ID〔ダウンロードパッケージの場合〕 283
ActiveX 部品（EURPMPrintAX.ocx）
　クラス ID〔MSI インストーラによるインストールの場合〕 281
　クラス ID〔クライアントインストールの場合〕 281
　クラス ID〔ダウンロードパッケージの場合〕 281
ActiveX 部品の EPFFileURL パラメタに関する注意 1015
ActiveX 部品のパラメタ一覧 286
ActiveX 部品のファイル名 280
ActiveX 部品のプロパティ一覧 287
ActiveX 部品のメソッド一覧 287
Adobe Reader を使用したクライアント PC での印刷 62
Adobe Reader を使用したクライアント PC での印刷手順 63

B

BOOKMARKFILE〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 724
BookmarkFileName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 337
BOOKMARKFILEPATH〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 725
BookmarkFilePath プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 337

C

CLASSES〔GetPrinterClassList2 関数（COBOL 起動部品）〕 683
CLASSES〔GetPrinterClassList 関数（COBOL 起動部品）〕 680
CLASSNUM〔GetPMPrinterClassList 関数（COBOL 起動部品）〕 672
CLASSNUM〔GetPrinterClassList2 関数（COBOL 起動部品）〕 682
CLASSNUM〔GetPrinterClassList 関数（COBOL 起動部品）〕 680
CLIENTADDR〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品）〕 777
CLIENTADDR〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品）〕 747

ClientAddress プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 338
ClientAddress プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 410
CLIENTPRINTERNAME〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 781
CLIENTPRINTERNAME〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 751
ClientPrinterName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 339
ClientPrinterName プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 411
CLIENTTRAYNAME〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 782
CLIENTTRAYNAME〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 751
ClientTrayName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 339
ClientTrayName プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 411
COBOL〔用語解説〕 1115
COBOL 起動部品 664
　実行時のエラー情報の一覧 807
　提供する関数 666
　ファイル構成 664
　呼び出し規約 665
COBOL 起動部品を使用する場合の注意 1018
CONF〔EUR Print Manager - Client の環境設定ファイル〕 980
CONF〔EUR Print Manager - Report Server の環境設定ファイル〕 964
CONF〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 942
CONNECT〔EUR Print Manager - Client の環境設定ファイル〕 982
CONNECT〔EUR Print Manager - Report Server の環境設定ファイル〕 969
CONNECT〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 950
CreateIPAddress プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 412
CreateLSVersion プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 413
CreateTime プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 413
CRYPTO〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 730
CRYPTOFILENAME〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 726
CryptoFileName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 340
CRYPTOFILEPATH〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 726
CryptoFilePath プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 341
Crypto プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 340
CurrentPage プロパティ〔ActiveX 部品〕 299

D

DATABUFFSIZE〔EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル〕 958
DataFileName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 341
DataFilePath プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 342
DBINFO〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 943
DBINFOFILE〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 730
DBINFOFILENAME〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 700
DBINFOFILENAME〔OutputEURReport 関数（COBOL 起動部品)〕 711
DBINFOFILENAME〔OutputXLSXReport 関数（COBOL 起動部品)〕 741
DBINFOFILENAME〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 787
DBINFOFILENAME〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 757
DBInfoFileName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 342
DBINFOFILEPATH〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 700

DBINFOFILEPATH〔OutputEURReport 関数（COBOL 起動部品)〕 712
DBINFOFILEPATH〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 730
DBINFOFILEPATH〔OutputXLSXReport 関数（COBOL 起動部品)〕 741
DBINFOFILEPATH〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 787
DBINFOFILEPATH〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 757
DBInfoFilePath プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 343
DEFAULTPRINTDLG〔蓄積管理 GUI の環境設定ファイル〕 978
DefaultPrintDlg パラメタ〔ActiveX 部品〕 289
DEFAULTPRINTMODE〔EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル〕 957
DELETE〔EUR Print Manager - Report Server Adapter の環境設定ファイル〕 974
DeleteKind プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 414
DeleteSpoolFile メソッド〔RS-ActiveX 起動部品〕 396
deleteSpoolFile メソッド〔RS-Java 起動部品〕 584
DestinationName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 343
DESTLIST〔EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル〕 962
DESTNAME〔GetPrinterClassList2 関数（COBOL 起動部品)〕 682
DESTNAME〔GetPrinterClassList 関数（COBOL 起動部品)〕 680
DESTNAME〔GetPrinterList 関数（COBOL 起動部品)〕 685
DESTNAME〔GetTrayList 関数（COBOL 起動部品)〕 688
DESTNAME〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 790
DESTNAME〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 760
DESTNUM〔GetDestinationList2 関数（COBOL 起動部品)〕 669
DESTNUM〔GetDestinationList 関数（COBOL 起動部品)〕 667
DESTS〔GetDestinationList2 関数（COBOL 起動部品)〕 669
DESTS〔GetDestinationList 関数（COBOL 起動部品)〕 667
DISPPRINTDLG〔EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル〕 959
DISPPRINTDLG〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 789
DISPPRINTDLG〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 759
DispPrintDlg プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 344
DispPrintDlg プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 415
DISTRIBUTEFILENAME〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 732
DistributeFileName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 344
DISTRIBUTEFILEPATH〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 732
DistributeFilePath プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 345
DISTRIBUTIONINFOFILE〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 782
DISTRIBUTIONINFOFILE〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 752
DISTRIBUTIONINFOFILEPATH〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 782
DISTRIBUTIONINFOFILEPATH〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 752
DistributionInfoFilePath プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 346
DistributionInfoFile プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 345

DOCBOOKMARKFILE
〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 722
DocBookmarkFileName プロパティ
〔ActiveX 起動部品〕 346
DOCINFO〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 943
DOCINFOFILE〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 696
DOCINFOFILE〔OutputEURReport 関数（COBOL 起動部品）〕 710
DOCINFOFILE〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 726
DOCINFOFILE〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品）〕 783
DOCINFOFILE〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品）〕 753
DocInfoFileName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 347
DOCINFOFILEPATH〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 697
DOCINFOFILEPATH〔OutputEURReport 関数（COBOL 起動部品）〕 711
DOCINFOFILEPATH〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 727
DOCINFOFILEPATH〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品）〕 784
DOCINFOFILEPATH〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品）〕 754
DocInfoFilePath プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 347

E

ENABLEGET〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品）〕 797
ENABLEGET〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品）〕 767
EnableGet プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 348
EnableGet プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 415
ENCRYPTIONPASSWORDKEY
〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 731
EncryptionPasswordKey プロパティ
〔ActiveX 起動部品〕 348
EPFDATAMAXSIZE〔蓄積管理 GUI の環境設定ファイル〕 978
EPFDataMaxSize パラメタ〔ActiveX 部品〕 289
EPFFILENAME〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 693
EPFFILENAME〔OutputMergeEPFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 716
EPFFILENAME〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品）〕 799
EPFFILENAME〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品）〕 769
EPFFileName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 349
EPFFILEPATH〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 697
EPFFILEPATH〔OutputMergeEPFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 717
EPFFILEPATH〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品）〕 799
EPFFILEPATH〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品）〕 769
EPFFilePath プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 349
EPFFILES〔OutputMergeEPFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 718
EPFFILESSIZE〔OutputMergeEPFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 718
EPFFileURL パラメタ〔ActiveX 部品〕 289
EPFOUTPUT〔EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル〕 961
EPFTempDataMode パラメタ〔ActiveX 部品〕 290
EPF 形式ファイル 889
EPF 形式ファイル〔用語解説〕 1115
EPF 形式ファイルを出力および印刷する場合の注意 1015

EPF 形式ファイルを出力する場合の実行環境の設定 990
Err.Description プロパティ 444
Err.Number プロパティ 443
ERRIGNORE〔EUR Print Manager - Client の環境設定ファイル〕 982
ERRIGNORE〔EUR Print Manager - Report Server の環境設定ファイル〕 969
ERRIGNORE〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 950
ESF〔EUR Print Manager - Report Server の環境設定ファイル〕 965
ESFAUTODEL〔EUR Print Manager - Report Server の環境設定ファイル〕 966
ESFID〔EUR Print Manager - Report Server の環境設定ファイル〕 967
EURFILENAME〔OutputEURReport 関数（COBOL 起動部品）〕 707
EURFileName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 350
EURFILEPATH〔OutputEURReport 関数（COBOL 起動部品）〕 711
EURFilePath プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 350
EUROUTPUT〔EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル〕 961
EURPM（IPADDRESS セクション）〔EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル〕 955
EURPM（PORT セクション）〔EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル〕 955
EURPM（PORT セクション）〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 941
EURPM-RS 制御コマンド 270
EURPM-RS 制御コマンドのオプション一覧 272
EURPM-RS 制御コマンドの形式と指定例 273
EURPM-RS 制御コマンドの終了コード 276
EURPM-RS 制御コマンドのファイル名 272
EURPM-RS 制御コマンドを使用して管理する 272
EURPM.Exec 304
EURPM.ini〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 940
EURPMAdapterForJava クラス 458
　コンストラクタ 458
　メソッド一覧 459
EURPMADP.ini〔EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル〕 954
EURPMADP.ocx 304
eurpmc 816
EURPMC.exe 816
EURPMCEPFViewer.exe 870
EURPMCL.ini〔EUR Print Manager - Client の環境設定ファイル〕 979
EURPMCL〔EUR Print Manager - Client の環境設定ファイル〕 980
EURPMCL〔EUR Print Manager - Report Server の環境設定ファイル〕 964
EURPMCL〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 942
eurpmctrl 255
EURPMCTRL.exe 255
EURPMCTRL.ini〔EURPM 制御コマンドの環境設定ファイル〕 984
eurpmc コマンドの構文 826
　EPF 形式ファイルを出力する場合 830
　EUR 形式ファイルを出力する場合 833
　Excel 形式ファイルを出力する場合 836
　PDF 形式ファイルを出力する場合 834
　印刷管理サーバプリンタ一覧を取得する場合 841
　印刷管理サーバプリンタクラス一覧を取得する場合 840
　印刷管理サーバプリンタのトレイ一覧を取得する場合 841
　出力先一覧を取得する場合 836
　帳票を印刷する場合 826
　帳票を蓄積する場合 828
　トレイ一覧を取得する場合 839

複数の EPF 形式ファイルを統合して出力する場合 832
プリンター覧を取得する場合 838
プリンタクラス一覧を取得する場合 837
eurpmc コマンドの終了コード 844
EURPMException クラス 470
メソッド一覧 470
EURPMLS（IPADDRESS セクション）〔EUR Print Manager - Report Server Adapter の環境設定ファイル〕 972
EURPMLS（PORT セクション）〔EUR Print Manager - Report Server Adapter の環境設定ファイル〕 972
EURPMLS.Exec 386
EURPMLS.ini〔EUR Print Manager - Report Server の環境設定ファイル〕 963
EURPMLS〔EUR Print Manager - Report Server の環境設定ファイル〕 964
EURPMLS〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 942
EURPMLSAdapterForJava クラス 575
コンストラクタ 575
メソッド一覧 576
EURPMLSADP.ini〔EUR Print Manager - Report Server Adapter の環境設定ファイル〕 971
EURPMLSADP.ocx 386
eurpmlsc 848
EURPMLSC.exe 848
EURPMLSCTRL.ini〔EURPM-RS 制御コマンドの環境設定ファイル〕 987
eurpmlsc コマンドの構文 856
蓄積ファイルの一覧を取得する場合 856
蓄積ファイルの属性値を取得する場合 857
蓄積ファイルの属性値を変更する場合 858
蓄積ファイルを削除する場合 863
蓄積ファイルを取得する場合 862
蓄積ファイルを蓄積データ印刷する場合 860
トレイ一覧を取得する場合 865
プリンター覧を取得する場合 865
プリンタクラス一覧を取得する場合 864
eurpmlsc コマンドの終了コード 868
EURPMLSException クラス 583
メソッド一覧 583
EURPMPreViewAX.ocx 280
EURPMPrintAX.ocx 280
EURPMRSGUI.ini〔蓄積管理 GUI の環境設定ファイル〕 977
EURPM 起動管理定義ファイル 929
EURPM 起動管理定義ファイル〔UNIX/Linux 環境の場合〕 929
EURPM 起動管理定義ファイル〔Windows 環境の場合〕 929
EURPM 仕分け定義ファイル 925
EURPM 制御コマンド 248
EURPM 制御コマンドのオプション一覧 255
EURPM 制御コマンドの形式と指定例 257
EURPM 制御コマンドの終了コード 267
EURPM 制御コマンドのファイル名 255
EURPM 制御コマンドを使用して管理する 255
EURPM 分割定義ファイル 922
EURPM ログ 1005
出力例 1010
出力レベルの指定 1006
EUR Print Manager - Adapter 12
EUR Print Manager - Adapter の IP アドレス指定で処理の振り分けを行う構成 1093
EUR Print Manager - Adapter のアンインストール 1085
EUR Print Manager - Adapter のインストール 1051
EUR Print Manager - Adapter のポート番号指定で処理の振り分けを行う構成 1093
EUR Print Manager - Client ActiveX 削除ツール 1090
EUR Print Manager - Client ActiveX 削除ツール〔用語解説〕 1115

EUR Print Manager - Client Preview ActiveX 47
EUR Print Manager - Client Print ActiveX 47
EUR Print Manager - Client Print ActiveX, および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX のアンインストール 1089
EUR Print Manager - Client Print ActiveX, および EUR Print Manager - Client Preview ActiveX のインストール 1077
[EUR Print Manager - Client 構成定義] ダイアログ 201
EUR Print Manager - Client のアンインストール 1089
EUR Print Manager - Clientのインストール 1068
EUR Print Manager - Report Server 2
EUR Print Manager - Report Server Adapter のアンインストール 1087
EUR Print Manager - Report Server Adapter のインストール 1063
EUR Print Manager - Report Server 構成定義ダイアログ〔[蓄積管理ユーザ定義] タブ〕 235
EUR Print Manager - Report Server 構成定義ダイアログ〔[帳票振り分け] タブ〕 193
EUR Print Manager - Report Server 構成定義ダイアログ〔[プリンタクラス] タブ〕 186
EUR Print Manager - Report Server のアンインストール 1086
EUR Print Manager - Report Server のインストール 1057
EUR Print Manager - Report Server の起動管理 269
[EUR Print Manager 起動管理] ダイアログ 248
[EUR Print Manager 起動管理] ダイアログを使用して管理する 250
[EUR Print Manager 構成定義] ダイアログ〔[出力先] タブ〕 172
[EUR Print Manager 構成定義] ダイアログ〔[プリンタクラス] タブ〕 178
EUR Print Manager で扱えるファイルの種類 878
EUR Print Manager で扱える文字コード 880
EUR Print Manager と対応する各製品のバージョン 1103
EUR Print Manager とは 2
EUR Print Manager のアンインストール 1084
EUR Print Manager のインストール 1044
EUR Print Manager の概要 1
EUR Print Manager の起動管理 247
EUR Print Service と連携した拠点サーバでの印刷 19
EUR Print Service と連携した拠点サーバでの印刷手順 21
EURPS_EPF_IMAGE_COMPRESS〔EUR Print Service の環境設定ファイル〕 992
EURPS_EPFDPI〔EUR Print Service の環境設定ファイル〕 991
EURPS〔EUR Print Manager - Report Server の環境設定ファイル〕 968
EURPS〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 949
EUR Viewer を使用したクライアント PC での印刷 59
EUR Viewer を使用したクライアント PC での印刷手順 60
EUR 形式ファイル 890
EUR 形式ファイル〔用語解説〕 1115
EVENTLOGLEVEL〔EUR Print Manager - Client の環境設定ファイル〕 981
Excel 形式ファイル 890
Excel を使用した印刷 229
Excel を使用したクライアント PC での印刷 66
Excel を使用したクライアント PC での印刷手順 67
ExclusionPrinterDriver プロパティ〔ActiveX 部品〕 299

ExclusionPrinterName プロパティ〔ActiveX 部品〕 300
ExecPrintCount プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 416
EXECUTABLEPRINTMODE〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品）〕 797
EXECUTABLEPRINTMODE〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品）〕 767
ExecutablePrintMode プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 350
ExecutablePrintMode プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 416

F

FAXINFOFILE〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品）〕 784
FAXINFOFILE〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品）〕 754
FAXINFOFILEPATH〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品）〕 784
FAXINFOFILEPATH〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品）〕 754
FILELIST〔EUR Print Manager - Report Server Adapter の環境設定ファイル〕 974
FILEOPERATE〔EUR Print Manager - Report Server Adapter の環境設定ファイル〕 974
FILEOUTPUTDESTINATION〔EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル〕 960
FILEOUTPUTDESTINATION〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 736
FileOutputDestination プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 351
FIRSTPAGENUMBER〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 699
FIRSTPAGENUMBER〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 729
FIRSTPAGENUMBER〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品）〕 786
FIRSTPAGENUMBER〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品）〕 756
FirstPageNumber プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 351
FORM〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 942

G

GENERAL〔EUR Print Manager - Report Server の環境設定ファイル〕 967
GENERAL〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 949
getClientAddress メソッド〔RS-Java 起動部品〕 584
getClientPrinterName メソッド〔RS-Java 起動部品〕 585
getClientTrayName メソッド〔RS-Java 起動部品〕 585
getCreateIPAddress メソッド〔RS-Java 起動部品〕 586
getCreateLSVersion メソッド〔RS-Java 起動部品〕 586
getCreateTimeMulti メソッド〔RS-Java 起動部品〕 588
getCreateTime メソッド〔RS-Java 起動部品〕 587
GetDestinationList2 関数〔COBOL 起動部品〕 669
GetDestinationList 関数〔COBOL 起動部品〕 667
GetDestinationList メソッド〔ActiveX 起動部品〕 316
getDestinationList メソッド〔Java 起動部品〕 471
getDispPrintDlg メソッド〔RS-Java 起動部品〕 588
getEnableGet メソッド〔RS-Java 起動部品〕 589
getEPFReport メソッド〔Java 起動部品〕 472
getErrorCode メソッド〔Java 起動部品〕 570

getErrorCode メソッド〔RS-Java 起動部品〕 640
getErrorLevel メソッド〔Java 起動部品〕 570
getErrorLevel メソッド〔RS-Java 起動部品〕 640
getEURReport メソッド〔Java 起動部品〕 472
getExecPrintCount メソッド〔RS-Java 起動部品〕 590
getExecutablePrintMode メソッド〔RS-Java 起動部品〕 590
GETFILE〔EUR Print Manager - Report Server Adapter の環境設定ファイル〕 974
getGroupName メソッド〔RS-Java 起動部品〕 591
GetJobIDList メソッド〔ActiveX 起動部品〕 318
getJobIDList メソッド〔Java 起動部品〕 473
GetJobID メソッド〔ActiveX 起動部品〕 317
getJobID メソッド〔Java 起動部品〕 473
getJobID メソッド〔RS-Java 起動部品〕 591
getJobKeyCategory メソッド〔RS-Java 起動部品〕 592
getJobKeyData メソッド〔RS-Java 起動部品〕 592
getKey メソッド〔Java 起動部品〕 570
getKey メソッド〔RS-Java 起動部品〕 640
getMaxPrintCount メソッド〔RS-Java 起動部品〕 593
getMergeEPFReport メソッド 〔Java 起動部品〕 474
getMessage メソッド〔Java 起動部品〕 571
getMessage メソッド〔RS-Java 起動部品〕 641
getOutputData メソッド〔Java 起動部品〕 571
getOutputData メソッド〔RS-Java 起動部品〕 641
getPageNumMulti メソッド〔RS-Java 起動部品〕 594
getPageNum メソッド〔RS-Java 起動部品〕 594
getPDFReport メソッド〔Java 起動部品〕 474
GetPMPrinterClassList 関数〔COBOL 起動部品〕 671
GetPMPrinterClassList メソッド〔ActiveX 起動部品〕 319
getPMPrinterClassList メソッド〔Java 起動部品〕 475
GetPMPrinterList 関数〔COBOL 起動部品〕 674
GetPMPrinterList メソッド〔ActiveX 起動部品〕 320
getPMPrinterList メソッド〔Java 起動部品〕 476
GetPMTrayList 関数〔COBOL 起動部品〕 676
GetPMTrayList メソッド〔ActiveX 起動部品〕 322
getPMTrayList メソッド〔Java 起動部品〕 477
GetPreviewAXClassID メソッド〔ActiveX 起動部品〕 323
getPreviewAXClassID メソッド〔Java 起動部品〕 478
GetPreviewAXVersion メソッド〔ActiveX 起動部品〕 324
getPreviewAXVersion メソッド〔Java 起動部品〕 479
GetPrintAXClassID メソッド〔ActiveX 起動部品〕 325
getPrintAXClassID メソッド〔Java 起動部品〕 480
GetPrintAXVersion メソッド〔ActiveX 起動部品〕 326
getPrintAXVersion メソッド〔Java 起動部品〕 481
GetPrinterClassList2 関数〔COBOL 起動部品〕 682
GetPrinterClassList 関数〔COBOL 起動部品〕 679

GetPrinterClassList メソッド〔ActiveX 起動部品〕 327
getPrinterClassList メソッド〔Java 起動部品〕 481
GetPrinterClassList メソッド〔RS-ActiveX 起動部品〕 397
getPrinterClassList メソッド〔RS-Java 起動部品〕 595
getPrinterClassNameMulti メソッド〔RS-Java 起動部品〕 596
getPrinterClassName メソッド〔RS-Java 起動部品〕 595
GetPrinterList 関数〔COBOL 起動部品〕 685
GetPrinterList メソッド〔ActiveX 起動部品〕 328
getPrinterList メソッド〔Java 起動部品〕 483
GetPrinterList メソッド〔RS-ActiveX 起動部品〕 399
getPrinterList メソッド〔RS-Java 起動部品〕 596
getPrinterSelectMode メソッド〔RS-Java 起動部品〕 597
getPrintResultMulti メソッド〔RS-Java 起動部品〕 598
getPrintResult メソッド〔RS-Java 起動部品〕 598
getPrintTime メソッド〔RS-Java 起動部品〕 599
getServerPrinterName メソッド〔RS-Java 起動部品〕 600
getServerTrayName メソッド〔RS-Java 起動部品〕 600
GetSpoolFileAttribute メソッド〔RS-ActiveX 起動部品〕 401
getSpoolFileAttribute メソッド〔RS-Java 起動部品〕 601
getSpoolFileNameMulti メソッド〔RS-Java 起動部品〕 603
getSpoolFileName メソッド〔RS-Java 起動部品〕 602
GetSpoolFileOutline メソッド〔RS-ActiveX 起動部品〕 402
getSpoolFileOutline メソッド〔RS-Java 起動部品〕 603
getSpoolFileSize メソッド〔RS-Java 起動部品〕 604
GetSpoolFile メソッド〔RS-ActiveX 起動部品〕 400
getSpoolFile メソッド〔RS-Java 起動部品〕 601
getSpoolHistory メソッド〔RS-Java 起動部品〕 604
getSpoolLimit メソッド〔RS-Java 起動部品〕 605
getSpoolPathMulti メソッド〔RS-Java 起動部品〕 606
getSpoolPath メソッド〔RS-Java 起動部品〕 606
GetTrayList 関数〔COBOL 起動部品〕 687
GetTrayList メソッド〔ActiveX 起動部品〕 330
getTrayList メソッド〔Java 起動部品〕 484
GetTrayList メソッド〔RS-ActiveX 起動部品〕 404
getTrayList メソッド〔RS-Java 起動部品〕 607
getXLSXReport メソッド〔Java 起動部品〕 486
GROUPNAME〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品）〕 794
GROUPNAME〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品）〕 764
GroupName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 352
GroupName プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 417
GUI による蓄積管理とは 130

H

HScroll メソッド〔ActiveX 部品〕 296

I

Initialize メソッド〔RS-ActiveX 起動部品〕 406
initialize メソッド〔RS-Java 起動部品〕 608
INITPAGENUMBER〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 699
INITPAGENUMBER〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 729
INITPAGENUMBER〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 786
INITPAGENUMBER〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 756
InitPageNumber プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 352
IP アドレス指定で処理の振り分けを行う構成〔システムの負荷分散と多重化〕 1096

J

Java〔用語解説〕 1115
Java 起動部品 456
EURPMAdapterForJava クラス 458
EURPMException クラス 470
JDK バージョン 456
実行時の例外情報一覧 643
設定方法 456
提供するパッケージ 457
Java サーブレット〔用語解説〕 1115
JOBIDNUM〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 804
JOBIDS〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 804
JobID プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 418
JOBKEYCATEGORY〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 798
JOBKEYCATEGORY〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 768
JOBKEYCATEGORY2〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 799
JOBKEYCATEGORY2〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 769
JobKeyCategory プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 353
JobKeyCategory プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 418
JOBKEYDATA〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 798
JOBKEYDATA〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 768
JOBKEYDATA2〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 800
JOBKEYDATA2〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 770
JobKeyData プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 354
JobKeyData プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 419
JP1 と連携した仕分け印刷をしたい場合〔拠点サーバでの印刷〕 3
JP1と連携した仕分け印刷をする場合の注意 1014
JSP〔用語解説〕 1115

L

LOGFILE〔EURPM-RS 制御コマンドの環境設定ファイル〕 988
LOGFILE〔EURPM 制御コマンドの環境設定ファイル〕 985
LOGFILE〔EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル〕 956
LOGFILE〔EUR Print Manager - Client の環境設定ファイル〕 980
LOGFILE〔EUR Print Manager - Report Server Adapter の環境設定ファイル〕 973
LOGFILE〔EUR Print Manager - Report Server の環境設定ファイル〕 965
LOGFILE〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 945
LogFile パラメタ〔ActiveX 部品〕 290
LOGLEVEL〔EURPM-RS 制御コマンドの環境設定ファイル〕 988
LOGLEVEL〔EURPM 制御コマンドの環境設定ファイル〕 986

LOGLEVEL〔EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル〕 956
LOGLEVEL〔EUR Print Manager - Client の環境設定ファイル〕 980
LOGLEVEL〔EUR Print Manager - Report Server Adapter の環境設定ファイル〕 973
LOGLEVEL〔EUR Print Manager - Report Server の環境設定ファイル〕 965
LOGLEVEL〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 945
LogLevel パラメタ〔ActiveX 部品〕 291
LOGSIZE〔EURPM-RS 制御コマンドの環境設定ファイル〕 989
LOGSIZE〔EURPM 制御コマンドの環境設定ファイル〕 986
LOGSIZE〔EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル〕 956
LOGSIZE〔EUR Print Manager - Client の環境設定ファイル〕 981
LOGSIZE〔EUR Print Manager - Report Server Adapter の環境設定ファイル〕 973
LOGSIZE〔EUR Print Manager - Report Server の環境設定ファイル〕 966
LOGSIZE〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 946
LogSize パラメタ〔ActiveX 部品〕 291

M

MAPPINGDATA〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 694
MAPPINGDATA〔OutputEURReport 関数（COBOL 起動部品)〕 708
MAPPINGDATA〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 724
MAPPINGDATA〔OutputXLSXReport 関数（COBOL 起動部品)〕 739
MAPPINGDATA〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 780
MAPPINGDATA〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 750
MAPPINGDATAPATH〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 695
MAPPINGDATAPATH〔OutputEURReport 関数（COBOL 起動部品)〕 709
MAPPINGDATAPATH〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 725
MAPPINGDATAPATH〔OutputXLSXReport 関数（COBOL 起動部品)〕 740
MAPPINGDATAPATH〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 780
MAPPINGDATAPATH〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 750
MAXPRINTCOUNT〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 797
MAXPRINTCOUNT〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 767
MaxPrintCount プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 354
MaxPrintCount プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 420
memgetSpoolFile メソッド〔RS-Java 起動部品〕 608
MERGEEPFFILENAME〔OutputMergeEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 718
MergeEPFFileName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 355
MERGEEPFFILEPATH〔OutputMergeEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 716
MergeEPFFilePath プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 355
MERGEOUTPUT〔EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル〕 962
MSI インストーラによるインストールでの使用方法
    EUR Print Manager - Client Preview ActiveX 284
    EUR Print Manager - Client Print ActiveX 284
MULTI〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 943

MULTIFORMINFO〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 693
MULTIFORMINFO〔OutputEURReport 関数（COBOL 起動部品)〕 706
MULTIFORMINFO〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 721
MULTIFORMINFO〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 778
MULTIFORMINFO〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 748
MultiFormInfoDefFileName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 356
MultiFormInfoDefFilePath プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 356
MULTIFORMINFOPATH〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 696
MULTIFORMINFOPATH〔OutputEURReport 関数（COBOL 起動部品)〕 710
MULTIFORMINFOPATH〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 727
MULTIFORMINFOPATH〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 783
MULTIFORMINFOPATH〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 753
MultiReportSetFileName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 357
MultiReportSetFilePath プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 357

N

NoPrint パラメタ〔ActiveX 部品〕 291
NoSetPrinterDlg パラメタ〔ActiveX 部品〕 292

O

Office Open XML〔用語解説〕 1115
OUTPUT〔EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル〕 961
OutputEPFReport 関数〔COBOL 起動部品〕 690
OutputEPFReport メソッド〔ActiveX 起動部品〕 332
outputEPFReport メソッド〔Java 起動部品〕 487
OutputEURReport 関数〔COBOL 起動部品〕 705
OutputEURReport メソッド〔ActiveX 起動部品〕 332
outputEURReport メソッド〔Java 起動部品〕 487
OUTPUTFILE〔EUR Print Manager - Report Server Adapter の環境設定ファイル〕 975
OutputFileName プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 420
OutputFilePath プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 421
OutputMergeEPFReport 関数〔COBOL 起動部品〕 715
OutputMergeEPFReport メソッド〔ActiveX 起動部品〕 333
outputMergeEPFReport メソッド〔Java 起動部品〕 488
OutputPDFReport 関数〔COBOL 起動部品〕 718
OutputPDFReport メソッド〔ActiveX 起動部品〕 334
outputPDFReport メソッド〔Java 起動部品〕 489
OutputXLSXReport 関数〔COBOL 起動部品〕 737
OutputXLSXReport メソッド〔ActiveX 起動部品〕 335
outputXLSXReport メソッド〔Java 起動部品〕 489

P

PAGENUMBERFORMAT〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 697

PAGENUMBERFORMAT
〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 728
PAGENUMBERFORMAT〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 784
PAGENUMBERFORMAT〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 754
PageNumberFormat プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 358
PAGENUMBERLOCATION
〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 699
PAGENUMBERLOCATION
〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 729
PAGENUMBERLOCATION〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 786
PAGENUMBERLOCATION〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 756
PageNumberLocation プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 358
PageNum プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 421
PAPERORIENTATION
〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 698
PAPERORIENTATION
〔OutputMergeEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 716
PAPERORIENTATION〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 785
PAPERORIENTATION〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 755
PaperOrientation プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 359
PaperOrientation プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 422
PATH_MACHINE〔蓄積管理 GUI の環境設定ファイル〕 978
PATH〔蓄積管理 GUI の環境設定ファイル〕 977
PATHMODE〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 946
PDF〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 944
PDFFILENAME〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 722
PDFFileName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 360
PDFFILEPATH〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 728
PDFFilePath プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 360
PDFOUTPUT〔EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル〕 961
PDF 形式ファイル 890
PMSERVERADDR〔GetDestinationList2 関数（COBOL 起動部品)〕 669
PMSERVERADDR
〔GetPMPrinterClassList 関数（COBOL 起動部品)〕 672
PMSERVERADDR〔GetPMPrinterList 関数（COBOL 起動部品)〕 675
PMSERVERADDR〔GetPMTrayList 関数（COBOL 起動部品)〕 677
PMSERVERADDR〔GetPrinterClassList2 関数（COBOL 起動部品)〕 683
PMSERVERADDR〔GetPrinterList 関数（COBOL 起動部品)〕 686
PMSERVERADDR〔GetTrayList 関数（COBOL 起動部品)〕 688
PMSERVERADDR〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 702
PMSERVERADDR〔OutputEURReport 関数（COBOL 起動部品)〕 713
PMSERVERADDR
〔OutputMergeEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 717
PMSERVERADDR〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 735
PMSERVERADDR〔OutputXLSXReport 関数（COBOL 起動部品)〕 742
PMSERVERADDR〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 799
PMSERVERADDR〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 769

PMServerAddress プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 361
PMSERVERPORT〔GetDestinationList2 関数（COBOL 起動部品)〕 669
PMSERVERPORT〔GetPMPrinterClassList 関数（COBOL 起動部品)〕 672
PMSERVERPORT〔GetPMPrinterList 関数（COBOL 起動部品)〕 675
PMSERVERPORT〔GetPMTrayList 関数（COBOL 起動部品)〕 677
PMSERVERPORT〔GetPrinterClassList2 関数（COBOL 起動部品)〕 683
PMSERVERPORT〔GetPrinterList 関数（COBOL 起動部品)〕 686
PMSERVERPORT〔GetTrayList 関数（COBOL 起動部品)〕 689
PMSERVERPORT〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 702
PMSERVERPORT〔OutputEURReport 関数（COBOL 起動部品)〕 713
PMSERVERPORT〔OutputMergeEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 718
PMSERVERPORT〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 735
PMSERVERPORT〔OutputXLSXReport 関数（COBOL 起動部品)〕 742
PMSERVERPORT〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 799
PMSERVERPORT〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 769
PMServerPort プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 361
PREFERENCE〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 944
PRINT〔EUR Print Manager - Report Server Adapter の環境設定ファイル〕 974
PRINTCOPIES〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 698
PRINTCOPIES〔OutputMergeEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 715
PRINTCOPIES〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 785
PRINTCOPIES〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 755
PrintCopies プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 362
PrintCopies プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 422
PRINTDATE（FILE セクション）〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 951
PRINTDATE（PATH セクション）〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 945
PRINTDATEFILENAME〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 703
PRINTDATEFILENAME〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 801
PRINTDATEFILENAME〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 771
PrintDateFileName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 362
PRINTDATEFILEPATH〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 704
PRINTDATEFILEPATH〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 802
PRINTDATEFILEPATH〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 772
PrintDateFilePath プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 363
PRINTENDPAGE〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 692
PRINTENDPAGE〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 721
PRINTENDPAGE〔OutputXLSXReport 関数（COBOL 起動部品)〕 738
PRINTENDPAGE〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 778
PRINTENDPAGE〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 747
PrintEndPage パラメタ〔ActiveX 部品〕 292

PrintEndPage プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 364
PrintEndPage プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 423
PrintEPF メソッド〔ActiveX 部品〕 296
PrinterClassList プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 423
PRINTERCLASSNAME〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 701
PRINTERCLASSNAME〔OutputMergeEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 717
PRINTERCLASSNAME〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 791
PRINTERCLASSNAME〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 761
PrinterClassName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 364
PrinterClassName プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 424
PRINTERNAME〔GetTrayList 関数（COBOL 起動部品)〕 688
PRINTERNAME〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 777
PRINTERNAME〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 747
PrinterName パラメタ〔ActiveX 部品〕 293
PRINTERNUM〔GetPrinterList 関数（COBOL 起動部品)〕 685
PRINTERS〔GetPrinterList 関数（COBOL 起動部品)〕 686
PRINTERSELECTMODE〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 789
PRINTERSELECTMODE〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 759
PrinterSelectMode プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 366
PrinterSelectMode プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 425
PRINTEXECMODE〔EUR Print Manager - Report Server の環境設定ファイル〕 968
PRINTHOLDMODE〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 798
PRINTHOLDMODE〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 767
PrintHoldMode プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 366
PRINTKIND〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 788
PRINTKIND〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 758
PrintKind プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 367
PRINTMODE〔EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル〕 957
PRINTMODE〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 788
PRINTMODE〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 758
PrintMode プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 367
PrintMode プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 426
PRINTPAGENUMBER〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 698
PRINTPAGENUMBER〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 728
PRINTPAGENUMBER〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 786
PRINTPAGENUMBER〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 755
PrintPageNumber プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 368
PrintPMReport メソッド〔ActiveX 起動部品〕 335
PrintReport2 関数〔COBOL 起動部品〕 774
PrintReport 関数〔COBOL 起動部品〕 744
printReport メソッド〔Java 起動部品〕 490
PrintResult プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 426
PrintSpoolReport メソッド〔RS-ActiveX 起動部品〕 407

printSpoolReport メソッド〔RS-Java 起動部品〕 609
PRINTSTARTPAGE〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 692
PRINTSTARTPAGE〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 720
PRINTSTARTPAGE〔OutputXLSXReport 関数（COBOL 起動部品）〕 738
PRINTSTARTPAGE〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品）〕 777
PRINTSTARTPAGE〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品）〕 747
PrintStartPage パラメタ〔ActiveX 部品〕 293
PrintStartPage プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 368
PrintStartPage プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 427
PrintTime プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 427
PRTCLSLIST〔EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル〕 962
PRTCLSLIST〔EUR Print Manager - Report Server Adapter の環境設定ファイル〕 975
PSENV〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 944
PSENVFILENAME〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 951
PSENVFILENAME〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 702
PSENVFILENAME〔OutputEURReport 関数（COBOL 起動部品）〕 713
PSENVFILENAME〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 735
PSENVFILENAME〔OutputXLSXReport 関数（COBOL 起動部品）〕 743
PSENVFILENAME〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品）〕 800
PSENVFILENAME〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品）〕 770
PSEnvFileName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 369
PSENVFILEPATH〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 703
PSENVFILEPATH〔OutputEURReport 関数（COBOL 起動部品）〕 714
PSENVFILEPATH〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 736
PSENVFILEPATH〔OutputXLSXReport 関数（COBOL 起動部品）〕 743
PSENVFILEPATH〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品）〕 801
PSENVFILEPATH〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品）〕 771
PSEnvFilePath プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 370

R

REPLACEITEM〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 943
REPLACEITEMCNTLFILENAME〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 701
REPLACEITEMCNTLFILENAME〔OutputEURReport 関数（COBOL 起動部品）〕 712
REPLACEITEMCNTLFILENAME〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 731
REPLACEITEMCNTLFILENAME〔OutputXLSXReport 関数（COBOL 起動部品）〕 741
REPLACEITEMCNTLFILENAME〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品）〕 794
REPLACEITEMCNTLFILENAME〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品）〕 764
ReplaceItemCntlFileName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 370
REPLACEITEMCNTLFILEPATH〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 702

REPLACEITEMCNTLFILEPATH〔OutputEURReport 関数（COBOL 起動部品）〕 713
REPLACEITEMCNTLFILEPATH〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 732
REPLACEITEMCNTLFILEPATH〔OutputXLSXReport 関数（COBOL 起動部品）〕 742
REPLACEITEMCNTLFILEPATH〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品）〕 795
REPLACEITEMCNTLFILEPATH〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品）〕 765
ReplaceItemCntlFilePath プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 372
ReportFileName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 372
REPORTFILEPATH〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 696
REPORTFILEPATH〔OutputEURReport 関数（COBOL 起動部品）〕 709
REPORTFILEPATH〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 727
REPORTFILEPATH〔OutputXLSXReport 関数（COBOL 起動部品）〕 739
REPORTFILEPATH〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品）〕 783
REPORTFILEPATH〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品）〕 753
ReportFilePath プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 373
REPORTNAME〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 694
REPORTNAME〔OutputEURReport 関数（COBOL 起動部品）〕 707
REPORTNAME〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 723
REPORTNAME〔OutputXLSXReport 関数（COBOL 起動部品）〕 739
REPORTNAME〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品）〕 779
REPORTNAME〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品）〕 749
REPORTSET〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 694
REPORTSET〔OutputEURReport 関数（COBOL 起動部品）〕 707
REPORTSET〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 723
REPORTSET〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品）〕 779
REPORTSET〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品）〕 749
REPORTSETFILE〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 692
REPORTSETFILE〔OutputEURReport 関数（COBOL 起動部品）〕 706
REPORTSETFILE〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 721
REPORTSETFILE〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品）〕 778
REPORTSETFILE〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品）〕 748
REPORTSETFILEPATH〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 695
REPORTSETFILEPATH〔OutputEURReport 関数（COBOL 起動部品）〕 709
REPORTSETFILEPATH〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 725
REPORTSETFILEPATH〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品）〕 781
REPORTSETFILEPATH〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品）〕 751
RS-ActiveX 起動部品 386
    構文 387
    実行時のエラー情報一覧 442
    提供するクラス 386
    ファイル名 386
    プログラム ID とコントロール名 386
RS-ActiveX 起動部品が提供するプロパティ一覧 390

RS-ActiveX 起動部品が提供するメソッド一覧 389
RS-ActiveX 起動部品の構文
EURPMLSADPLib.EURPMLSAdapter クラスを生成する場合 387
RS-ActiveX 起動部品を構築する場合 387
RS-Java 起動部品 573
EURPMLSAdapterForJava クラス 575
EURPMLSException クラス 583
JDK バージョン 573
実行時の例外情報一覧 645
設定方法 573
提供するパッケージ 574
RS- コマンド起動部品 848
エラー情報 868
オプションを指定するときの注意 853
ファイル名 848
RS- コマンド起動部品が提供する機能（プロパティ） 850
RS- コマンド起動部品が提供する機能（メソッド） 849

S

SCRIPTCNT〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 944
SCRIPTCNTLFILENAME〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 733
ScriptCntlFileName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 373
SCRIPTCNTLFILEPATH〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 733
ScriptCntlFilePath プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 374
SearchCreateTimeEnd プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 428
SearchCreateTimeStart プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 429
SearchJobID プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 429
SearchJobKeyCategory プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 430
SearchJobKeyData プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 431
SearchPrinterClassName プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 431
SearchSpoolFileName プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 432
SendResultURL パラメタ〔ActiveX 部品〕 293
SERVERADDR〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品）〕 790
SERVERADDR〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品）〕 760
ServerAddress プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 375
ServerAddress プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 432
SERVERNAME〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 720
SERVERNAME〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品）〕 777
SERVERNAME〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品）〕 747
ServerPrinterList プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 433
SERVERPRINTERNAME〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品）〕 792
SERVERPRINTERNAME〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品）〕 762
ServerPrinterName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 375
ServerPrinterName プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 433
SERVERSELECTMODE〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品）〕 788
SERVERSELECTMODE〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品）〕 758
ServerSelectMode プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 376

ServerTrayList プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 434
SERVERTRAYNAME〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品）〕 792
SERVERTRAYNAME〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品）〕 762
ServerTrayName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 376
ServerTrayName プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 434
setBookmarkFileData メソッド〔Java 起動部品〕 491
setBookmarkFileName メソッド〔Java 起動部品〕 493
setBookmarkFilePath メソッド〔Java 起動部品〕 493
setClientAddress メソッド〔Java 起動部品〕 494
setClientAddress メソッド〔RS-Java 起動部品〕 609
setClientPrinterName メソッド〔Java 起動部品〕 495
setClientPrinterName メソッド〔RS-Java 起動部品〕 610
setClientTrayName メソッド〔Java 起動部品〕 496
setClientTrayName メソッド〔RS-Java 起動部品〕 611
setCryptoFileData メソッド〔Java 起動部品〕 497
setCryptoFileName メソッド〔Java 起動部品〕 498
setCryptoFilePath メソッド〔Java 起動部品〕 499
setCrypto メソッド〔Java 起動部品〕 496
setDataFileData メソッド〔Java 起動部品〕 499
setDataFileName メソッド〔Java 起動部品〕 501
setDataFilePath メソッド〔Java 起動部品〕 501
setDBInfoFileName メソッド〔Java 起動部品〕 502
setDBInfoFilePath メソッド〔Java 起動部品〕 503
setDeleteKind メソッド〔RS-Java 起動部品〕 612
setDestinationName メソッド〔Java 起動部品〕 503
setDispPrintDlg メソッド〔Java 起動部品〕 504
setDispPrintDlg メソッド〔RS-Java 起動部品〕 613
setDistributeFileData メソッド〔Java 起動部品〕 505
setDistributeFileName メソッド〔Java 起動部品〕 506
setDistributeFilePath メソッド〔Java 起動部品〕 507
setDistributionInfoFileData メソッド〔Java 起動部品〕 508
setDistributionInfoFilePath メソッド〔Java 起動部品〕 509
setDistributionInfoFile メソッド〔Java 起動部品〕 507
setDocBookmarkFileData メソッド〔Java 起動部品〕 510
setDocBookmarkFileName メソッド〔Java 起動部品〕 511
setDocInfoFileName メソッド〔Java 起動部品〕 511
setDocInfoFilePath メソッド〔Java 起動部品〕 512
setEnableGet メソッド〔Java 起動部品〕 513
setEnableGet メソッド〔RS-Java 起動部品〕 614
setEncryptionPasswordKey メソッド〔Java 起動部品〕 513
setEPFFileData メソッド〔Java 起動部品〕 514
setEPFFileName メソッド〔Java 起動部品〕 515
setEPFFilePath メソッド〔Java 起動部品〕 516

setEURFileName メソッド〔Java 起動部品〕 516
setEURFilePath メソッド〔Java 起動部品〕 517
setExecutablePrintMode メソッド〔Java 起動部品〕 517
setExecutablePrintMode メソッド〔RS-Java 起動部品〕 615
setFileOutputDestination メソッド〔Java 起動部品〕 518
setFirstPageNumber メソッド〔Java 起動部品〕 519
setGroupName メソッド〔Java 起動部品〕 519
setGroupName メソッド〔RS-Java 起動部品〕 615
setInitPageNumber メソッド〔Java 起動部品〕 520
setJobKeyCategory メソッド〔Java 起動部品〕 521
setJobKeyCategory メソッド〔RS-Java 起動部品〕 616
setJobKeyData メソッド〔Java 起動部品〕 522
setJobKeyData メソッド〔RS-Java 起動部品〕 617
setMaxPrintCount メソッド〔Java 起動部品〕 522
setMaxPrintCount メソッド〔RS-Java 起動部品〕 618
setMergeEPFFileName メソッド〔Java 起動部品〕 523
setMergeEPFFilePath メソッド〔Java 起動部品〕 524
setMultiBookmarkFileName メソッド〔Java 起動部品〕 524
setMultiDataFileName メソッド〔Java 起動部品〕 525
setMultiFormInfoDefFileName メソッド〔Java 起動部品〕 526
setMultiFormInfoDefFilePath メソッド〔Java 起動部品〕 527
setMultiReportFileName メソッド〔Java 起動部品〕 528
setMultiReportSetFileName メソッド〔Java 起動部品〕 529
setMultiReportSetFilePath メソッド〔Java 起動部品〕 529
setMultiUserDataFileName メソッド〔Java 起動部品〕 530
setOutputFileName メソッド〔RS-Java 起動部品〕 618
setOutputFilePath メソッド〔RS-Java 起動部品〕 619
setPageNumberFormat メソッド〔Java 起動部品〕 531
setPageNumberLocation メソッド〔Java 起動部品〕 532
setPaperOrientation メソッド〔Java 起動部品〕 533
setPaperOrientation メソッド〔RS-Java 起動部品〕 620
setPDFFileName メソッド〔Java 起動部品〕 534
setPDFFilePath メソッド〔Java 起動部品〕 535
setPMServerAddress メソッド〔Java 起動部品〕 535
setPMServerPort メソッド〔Java 起動部品〕 536
setPrintCopies メソッド〔Java 起動部品〕 537
setPrintCopies メソッド〔RS-Java 起動部品〕 621
setPrintDateFileName メソッド〔Java 起動部品〕 537
setPrintDateFilePath メソッド〔Java 起動部品〕 539
setPrintEndPage メソッド〔Java 起動部品〕 539
setPrintEndPage メソッド〔RS-Java 起動部品〕 621
setPrinterClassName メソッド〔Java 起動部品〕 540

setPrinterClassName メソッド〔RS-Java 起動部品〕 622
setPrinterSelectMode メソッド〔Java 起動部品〕 541
setPrinterSelectMode メソッド〔RS-Java 起動部品〕 623
setPrintHoldMode メソッド〔Java 起動部品〕 542
setPrintKind メソッド〔Java 起動部品〕 543
setPrintMode メソッド〔Java 起動部品〕 544
setPrintMode メソッド〔RS-Java 起動部品〕 624
setPrintPageNumber メソッド〔Java 起動部品〕 544
setPrintStartPage メソッド〔Java 起動部品〕 545
setPrintStartPage メソッド〔RS-Java 起動部品〕 625
setPSEnvFileName メソッド〔Java 起動部品〕 546
setPSEnvFilePath メソッド〔Java 起動部品〕 547
setReplaceItemCntlFileName メソッド〔Java 起動部品〕 548
setReplaceItemCntlFilePath メソッド〔Java 起動部品〕 549
setReportFileName メソッド〔Java 起動部品〕 550
setReportFilePath メソッド〔Java 起動部品〕 551
setScriptCntlFileName メソッド〔Java 起動部品〕 551
setScriptCntlFilePath メソッド〔Java 起動部品〕 552
setSearchCreateTimeEnd メソッド〔RS-Java 起動部品〕 626
setSearchCreateTimeStart メソッド〔RS-Java 起動部品〕 627
setSearchJobIDMulti メソッド〔RS-Java 起動部品〕 629
setSearchJobID メソッド〔RS-Java 起動部品〕 628
setSearchJobKeyCategory メソッド〔RS-Java 起動部品〕 630
setSearchJobKeyData メソッド〔RS-Java 起動部品〕 631
setSearchPrinterClassName メソッド〔RS-Java 起動部品〕 632
setSearchSpoolFileName メソッド〔RS-Java 起動部品〕 633
setServerAddress メソッド〔Java 起動部品〕 553
setServerAddress メソッド〔RS-Java 起動部品〕 633
setServerPrinterName メソッド〔Java 起動部品〕 554
setServerPrinterName メソッド〔RS-Java 起動部品〕 634
setServerSelectMode メソッド〔Java 起動部品〕 554
setServerTrayName メソッド〔Java 起動部品〕 555
setServerTrayName メソッド〔RS-Java 起動部品〕 635
setSortPrint メソッド〔Java 起動部品〕 557
setSortPrint メソッド〔RS-Java 起動部品〕 636
setSplitFileData メソッド〔Java 起動部品〕 558
setSplitFileName メソッド〔Java 起動部品〕 558
setSplitFilePath メソッド〔Java 起動部品〕 559
setSplitMode メソッド〔Java 起動部品〕 560
SetSpoolFileAttribute メソッド〔RS-ActiveX 起動部品〕 408
setSpoolFileAttribute メソッド〔RS-Java 起動部品〕 637
setSpoolFileName メソッド〔Java 起動部品〕 561
setSpoolLimit メソッド〔Java 起動部品〕 561

setSpoolLimit メソッド〔RS-Java 起動部品〕 638
setSpoolTitle メソッド〔Java 起動部品〕 562
setSpoolTitle メソッド〔RS-Java 起動部品〕 638
setUserDataFileData メソッド〔Java 起動部品〕 563
setUserDataFileName メソッド〔Java 起動部品〕 565
setUserDataFilePath メソッド〔Java 起動部品〕 565
setViewerPreferenceFileName メソッド〔Java 起動部品〕 566
setViewerPreferenceFilePath メソッド〔Java 起動部品〕 567
setXLSXFileName メソッド〔Java 起動部品〕 568
setXLSXFilePath メソッド〔Java 起動部品〕 568
ShowScrollBar パラメタ〔ActiveX 部品〕 294
SOCKBUFFSIZE〔EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル〕 958
SOCKBUFFSIZE〔EUR Print Manager - Client の環境設定ファイル〕 981
SOCKBUFFSIZE〔EUR Print Manager - Report Server Adapter の環境設定ファイル〕 975
SOCKBUFFSIZE〔EUR Print Manager - Report Server の環境設定ファイル〕 966
SOCKBUFFSIZE〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 948
SORTPRINT〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 698
SORTPRINT〔OutputMergeEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 716
SORTPRINT〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 785
SORTPRINT〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 755
SortPrint プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 377
SortPrint プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 435
SPLIT（FILE セクション）〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 952
SPLIT（PATH セクション）〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 945
SPLITFILENAME〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 803
SPLITFILENAME〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 772
SplitFileName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 378
SPLITFILEPATH〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 803
SPLITFILEPATH〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 773
SplitFilePath プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 379
SPLITMODE〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 948
SPLITMODE〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 802
SPLITMODE〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 772
SplitMode プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 379
SPLOUTLINELIMIT〔EUR Print Manager - Report Server の環境設定ファイル〕 967
SPOOLFILENAME〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 796
SPOOLFILENAME〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 765
SpoolFileName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 380
SpoolFileName プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 436
SpoolFileSize プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 436
SpoolHistory プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 436
SPOOLLIMIT〔EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル〕 960

SPOOLLIMIT〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 796
SPOOLLIMIT〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 766
SpoolLimit プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 380
SpoolLimit プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 437
SpoolPath プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 438
SPOOLTITLE〔OutputMergeEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 717
SpoolTitle プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 381
SpoolTitle プロパティ〔RS-ActiveX 起動部品〕 438
START〔EURPM-RS 制御コマンドの環境設定ファイル〕 989
START〔EURPM 制御コマンドの環境設定ファイル〕 986
STOP〔EURPM-RS 制御コマンドの環境設定ファイル〕 989
STOP〔EURPM 制御コマンドの環境設定ファイル〕 986

T

TEMP〔EURPM-RS 制御コマンドの環境設定ファイル〕 988
TEMP〔EURPM 制御コマンドの環境設定ファイル〕 985
TEMP〔EUR Print Manager - Client の環境設定ファイル〕 980
TEMP〔EUR Print Manager - Report Server の環境設定ファイル〕 964
TEMP〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 942
TEMPFILEDEL〔EUR Print Manager - Client の環境設定ファイル〕 981
TEMPFILEDEL〔EUR Print Manager - Report Server の環境設定ファイル〕 966
TEMPFILEDEL〔EUR Print Manager の環境設定ファイル〕 948
TempFileDel パラメタ〔ActiveX 部品〕 294
TotalPage プロパティ〔ActiveX 部品〕 301
TRAYNAME〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 777
TRAYNAME〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 747
TrayName パラメタ〔ActiveX 部品〕 294
TRAYNUM〔GetTrayList 関数（COBOL 起動部品)〕 688
TRAYS〔GetTrayList 関数（COBOL 起動部品)〕 688
TurnPage メソッド〔ActiveX 部品〕 297

U

UNIX/Linux 環境での注意 1032
UserDataFileName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 382
UserDataFilePath プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 382
USERDEFDATA〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 695
USERDEFDATA〔OutputEURReport 関数（COBOL 起動部品)〕 708
USERDEFDATA〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 724
USERDEFDATA〔OutputXLSXReport 関数（COBOL 起動部品)〕 740
USERDEFDATA〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 780
USERDEFDATA〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品)〕 750
USERDEFDATAPATH〔OutputEPFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 695
USERDEFDATAPATH〔OutputEURReport 関数（COBOL 起動部品)〕 709
USERDEFDATAPATH〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品)〕 725
USERDEFDATAPATH〔OutputXLSXReport 関数（COBOL 起動部品)〕 740
USERDEFDATAPATH〔PrintReport2 関数（COBOL 起動部品)〕 781

USERDEFDATAPATH〔PrintReport 関数（COBOL 起動部品）〕 750
UserParam パラメタ〔ActiveX 部品〕 295

V

VIEWERPREFERENCEFILENAME〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 734
ViewerPreferenceFileName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 383
VIEWERPREFERENCEFILEPATH〔OutputPDFReport 関数（COBOL 起動部品）〕 734
ViewerPreferenceFilePath プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 384
VScroll メソッド〔ActiveX 部品〕 297

W

Web/AP サーバの設定〔蓄積管理 GUI〕 133
Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷 45
Web ブラウザを使用して帳票を印刷またはプレビュー表示する場合の注意 1020
Windows 7 での注意 1030
Windows Server 2008 での注意 1025
Windows Vista での注意 1030
Windows 環境共通の注意事項 1025

X

XLSXFILENAME〔OutputXLSXReport 関数（COBOL 起動部品）〕 738
XLSXFileName プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 384
XLSXFILEPATH〔OutputXLSXReport 関数（COBOL 起動部品）〕 738
XLSXFilePath プロパティ〔ActiveX 起動部品〕 384
XLSXOUTPUT〔EUR Print Manager - Adapter の環境設定ファイル〕 962
XLSX 形式ファイル〔用語解説〕 1115
XML〔用語解説〕 1116

Z

Zoom パラメタ〔ActiveX 部品〕 295
Zoom メソッド〔ActiveX 部品〕 298

あ

アンインストール 1083

い

[一覧] タブ〔蓄積管理 GUI〕 145
一覧表示〔蓄積管理 GUI〕 145
イベントログ 1003
印刷〔蓄積管理 GUI〕 166
印刷管理サーバ〔用語解説〕 1116
印刷管理サーバでの直接印刷 8
印刷管理サーバのプリンタクラスの削除 184
印刷管理サーバのプリンタクラスの設定 178
印刷管理サーバのプリンタクラスの登録 180
印刷管理サーバのプリンタクラスの変更 182
印刷管理サーバプリンタクラス定義ファイル 898
印刷管理サーバを使用した直接印刷 69
[印刷先指定]（Web ブラウザを使用した印刷）ダイアログ 223
[印刷先指定]（対話型印刷）ダイアログ 213
[印刷先指定] ダイアログ
    プレビューウィンドウのメニュー〔対話型印刷〕 215
    プレビューウィンドウのメニュー〔ヘルパクライアント印刷〕 225
印刷先定義 [用語解説] 1116
印刷先定義ファイル 900
印刷実行時のファイル転送の分割転送サイズ 1019
[印刷状態確認] タブ〔蓄積管理 GUI〕 146
印刷データファイル 889
印刷データを蓄積する手順 88
印刷データを蓄積する手順〔拠点サーバで印刷する場合〕 89
印刷データを蓄積する手順〔クライアント PCで印刷またはプレビュー表示する場合〕 94

印刷データを蓄積する手順〔クライアントPC の Web ブラウザ，ヘルパクライアント，およびクライアント PC への配布印刷を使用して印刷する場合〕 98
印刷日時出力定義ファイル 917
形式 917
作成 917
指定例 921
設定項目 917
注意事項 921
インストール 1043
インストール後のディレクトリ構造
EUR Print Manager（UNIX/Linux 環境の場合） 1048
EUR Print Manager - Adapter（UNIX/Linux 環境の場合） 1055
EUR Print Manager - Report Server（UNIX/Linux 環境の場合） 1060
EUR Print Manager - Report Server Adapter（UNIX/Linux 環境の場合） 1067
インストール後のフォルダ構造
EUR Print Manager 1046
EUR Print Manager - Adapter（Windows 環境の場合） 1054
EUR Print Manager - Report Server（Windows 環境の場合） 1059
EUR Print Manager - Report Server Adapter（Windows 環境の場合） 1066

え

英語環境用のインタフェースを提供 11
エラー情報〔EUR Print Manager - Report Server〕 275
エラー情報〔EUR Print Manager〕 265
エラー情報一覧〔ActiveX 起動部品〕 440
エラー情報一覧〔RS-ActiveX 起動部品〕 442
エンコーディング〔UNIX/Linux 環境の場合〕 1102
エンコーディング〔Windows 環境の場合〕 1101
エンコーディングが異なる環境でファイル転送する場合の注意 1018

か

各拠点に配置したサーバでの印刷 2
[拡大率の指定] ダイアログ 218
稼働状態を確認する〔EUR Print Manager - Report Server〕 274
稼働状態を確認する〔EUR Print Manager〕 258
環境設定ファイル（EURPM-RS 制御コマンド） 987
構文 987
指定例 988
設定手順 987
環境設定ファイル（EURPM 制御コマンド） 984
構文 984
指定例 985
設定手順 984
環境設定ファイル（EUR Print Manager） 940
格納場所 940
構文 941
指定例 941
環境設定ファイル（EUR Print Manager - Adapter） 954
格納場所 954
構文 954
指定例 954
環境設定ファイル（EUR Print Manager - Client） 979
格納場所 979
構文 979
指定例 979
環境設定ファイル（EUR Print Manager - Report Server） 963
格納場所 963
構文 963
指定例 963
環境設定ファイル（EUR Print Manager - Report Server Adapter） 971
格納場所 971

構文 971
指定例 971
環境設定ファイル（EUR Print Service）
格納場所 990
構文 991
指定例 991
設定手順 990
環境設定ファイル（蓄積管理 GUI） 977
格納場所 977
構文 977
指定例 977
環境設定ファイルの項目一覧 932
EURPM-RS 制御コマンド 938
EURPM 制御コマンド 938
EUR Print Manager 932
EUR Print Manager - Adapter 933
EUR Print Manager - Client 937
EUR Print Manager - Report Server 935
EUR Print Manager - Report Server Adapter 936
EUR Print Service 939
蓄積管理 GUI 937
環境設定ファイルの詳細コード 994
環境設定ファイルを更新した場合の注意 1022

き

起動管理定義 248
起動管理定義の削除 254
起動管理定義の登録 251
起動管理定義の登録内容を確認する〔EUR Print Manager〕 263
起動管理定義の変更 253
起動管理定義を削除する〔EUR Print Manager〕 262
起動管理定義を登録する〔EUR Print Manager〕 260
起動管理定義を変更する〔EUR Print Manager〕 261
起動管理の概要〔EUR Print Manager - Report Server〕 270
起動管理の概要〔EUR Print Manager〕 248
起動する〔EUR Print Manager - Report Server〕 273
起動する〔EUR Print Manager〕 257
業務アプリケーションとの連携 12,137
拠点サーバ〔用語解説〕 1116
拠点サーバでの印刷 14
拠点サーバでの印刷手順 15
拠点サーバのサーバ情報の取得〔蓄積管理 GUI〕 150
拠点サーバの削除 177
拠点サーバの設定 172
拠点サーバの登録 174
拠点サーバのプリンタで印刷する〔蓄積したデータの印刷〕 119
拠点サーバの変更 176
拠点プリンタクラス定義ファイル 906
拠点プリンタクラスの削除 192
拠点プリンタクラスの設定 186
拠点プリンタクラスの登録 187
拠点プリンタクラスの変更 190

く

クライアント PC での印刷 4
クライアント PC でのコマンド実行によって帳票を印刷したい場合〔クライアント PC での印刷〕 8
クライアント PC での自動印刷 25
クライアント PC での対話型印刷 30
クライアント PC の Web ブラウザから帳票を印刷したい場合〔クライアント PC での印刷〕 7
クライアント PC の設定〔蓄積管理 GUI〕 135
クライアント PC のプリンタで印刷する〔蓄積したデータの印刷〕 122
クライアント PC への配布印刷 35
クライアントインストール 1069
クライアントインストール後のフォルダ構造 1074
クライアントインストールでの使用方法
EUR Print Manager - Client Preview ActiveX 284

EUR Print Manager - Client Print ActiveX 284
クライアントコマンド 55,870
エラー情報 876
ファイル名 870
クライアントコマンドのオプション一覧 871
クライアントコマンドの形式 873
クライアントコマンドの指定例 875
クライアントプリンタクラス定義ファイル 912
格納先 913
設定 207
設定〔配布されたクライアントプリンタクラス定義ファイルの場合〕 207
デフォルトの格納先 207
クライアントプリンタクラスの削除 206
クライアントプリンタクラスの設定 201
クライアントプリンタクラスの設定の配布 206
クライアントプリンタクラスの追加 203
クライアントプリンタクラスの変更 205

こ

構成定義 172
構成定義〔用語解説〕 1116
構成定義ファイル 897
構成定義ファイルを更新した場合の注意 1022
コマンド起動部品 816
エラー情報 844
オプションを指定するときの注意 825
ファイル名 816
コマンド起動部品が提供する機能（プロパティ） 818
コマンド起動部品が提供する機能（メソッド） 817
コマンド構文に指定できる文字列の長さ 1019
コマンドを使用したクライアント PC での印刷 55
コマンドを使用したクライアント PC での印刷手順 56

さ

サーバ情報表示〔蓄積管理 GUI〕 144
サーバ配置インストール 1069
サーバ配置インストール後のフォルダ構造 1076
[サービスの選択] ダイアログ〔拠点サーバの設定〕 172
[サービスの選択] ダイアログ〔プリンタクラスの設定〕 178
[サービスの追加] ダイアログ 252
[サービスの変更] ダイアログ 254

し

システムの負荷分散と多重化 1093
[指定ページへジャンプ] ダイアログ 217
自動起動の設定〔EUR Print Manager - Report Server〕 270
自動起動の設定〔EUR Print Manager〕 248
自動起動の設定をする〔EUR Print Manager〕 264
出力先定義ファイル 897
出力先の設定と帳票の印刷 171
[出力先の追加] ダイアログ 175
[出力先の変更] ダイアログ 176
出力先名 9
出力先をわかりやすい任意の名前で管理したい場合〔拠点サーバでの印刷〕 3
障害対策
保守情報の採取 996
ログの取得 1003
状態表示領域〔蓄積管理 GUI〕 147
使用できない機能 1014
仕分け [用語解説] 1116

せ

セキュリティ管理の概要 232

た

ダウンロードパッケージ 284
ダウンロードパッケージ〔用語解説〕 1116
ダウンロードパッケージでの使用方法

EUR Print Manager - Client Preview ActiveX 285
EUR Print Manager - Client Print ActiveX 284
ダウンロードパッケージの配置 285

ち

蓄積〔用語解説〕 1116
蓄積印刷 78
蓄積印刷〔用語解説〕 1116
蓄積管理 GUI 130
蓄積管理 GUI についての注意 1034
蓄積管理 GUI の機能 131
蓄積管理 GUI の表示方法 137
蓄積管理ユーザ 232
蓄積管理ユーザ定義 131,232
[蓄積管理ユーザ定義の追加] ダイアログ 239
蓄積管理ユーザ定義の変更 241
[蓄積管理ユーザ定義の変更] ダイアログ 242
蓄積管理ユーザ定義ファイル 907
蓄積管理ユーザの削除 244
蓄積管理ユーザの設定〔蓄積管理 GUI〕 149
蓄積管理ユーザの登録 236
蓄積管理ユーザを定義する（UNIX/Linux 環境の場合） 245
蓄積管理ユーザを定義する（Windows 環境の場合） 235
蓄積期限が切れた蓄積ファイルの一括削除 114
蓄積期限が切れた蓄積ファイルの一括削除〔蓄積管理 GUI〕 158
蓄積したデータの統合 116
蓄積ファイル 79
蓄積ファイル〔用語解説〕 1117
蓄積ファイルの一覧取得 102
蓄積ファイルの一覧取得〔蓄積管理 GUI〕 150
蓄積ファイルの格納先の設定 82
蓄積ファイルの検索〔蓄積管理 GUI〕 158
蓄積ファイルの削除 113
蓄積ファイルの削除〔蓄積管理 GUI〕 157
蓄積ファイルの取得 109
蓄積ファイルのセキュリティ管理 231
蓄積ファイルの属性値の参照〔蓄積管理 GUI〕 151
蓄積ファイルの属性値の取得 104
蓄積ファイルの属性値の変更 106
蓄積ファイルの属性値の変更〔蓄積管理 GUI〕 153
蓄積ファイルのメモリ取得 112
蓄積ファイルを格納するフォルダに必要なディスク容量 82
算出例 83
蓄積ファイル数 83
蓄積ファイルのデータ量 83
帳票の印刷
Adobe Reader を使用した印刷 229
EUR Viewer を使用した印刷 228
Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷〔自動印刷〕 221
Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷〔ダイアログでの印刷〕 222
Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷〔プレビュー画面からの印刷〕 221
Web ブラウザを使用したクライアント PC での印刷〔ヘルパクライアント印刷〕 224
印刷管理サーバを使用した印刷 229
印刷方法と必要な製品 209
拠点サーバでの印刷 210
クライアント PC での自動印刷または全自動印刷 211
クライアント PC での対話型印刷 211
クライアント PC での対話型印刷プレビュー表示 219
クライアント PC への配布印刷 220
コマンドを使用したクライアント PC での印刷 227
帳票ファイル 889
帳票ファイル〔用語解説〕 1117
[帳票振り分け] タブ 193
帳票振り分け定義 10

帳票振り分け定義の削除 200
帳票振り分け定義の設定 193
[帳票振り分け定義の追加] ダイアログ 196
帳票振り分け定義の登録 194
帳票振り分け定義の変更 197
[帳票振り分け定義の変更] ダイアログ 198
帳票振り分け定義ファイル 906
帳票名ごとに出力するプリンタを変更したい場合〔拠点サーバでの印刷〕 3
帳票を OS 上のプリンタで指定して印刷したい場合〔拠点サーバでの印刷〕 3
帳票を自動印刷する手順 26
帳票を自動で印刷したい場合〔クライアント PC での印刷〕 4
帳票を受信するたびに印刷先を選択したい場合〔クライアント PC での印刷〕 5
帳票を対話型印刷する手順 32
帳票を配布印刷する手順 37
帳票を複数のクライアント PC に配布して印刷したい場合〔クライアント PC での印刷〕 6

つ

ツリー領域〔蓄積管理 GUI〕 142

て

停止する〔EUR Print Manager - Report Server〕 273
停止する〔EUR Print Manager〕 258
デフォルト蓄積管理ユーザ 232

は

配布用インストーラ 1069
配布用インストーラ〔用語解説〕 1117
配布用インストーラを使ったインストール後のフォルダ構造 1077

ひ

表示言語〔UNIX/Linux 環境の場合〕 1101
表示言語〔Windows 環境の場合〕 1101
表示言語とエンコーディング 1101

ふ

ファイル出力実行時のファイル転送の分割転送サイズ 1019
ファイル転送時間を省略する場合の注意 1016
ファイル転送時の文字コード変換 884
ファイル入力〔用語解説〕 1117
ファイル名，およびファイルのパスを指定するときの注意 879
複雑なプリンタ出力を画面で定義 9
複数の EPF 形式ファイルの統合 72
複数の形式のファイルを出力 10
複数の帳票を統合して出力 11
複数様式定義ファイルを指定して印刷する場合の注意 1019
振り分けグループ〔用語解説〕 1117
プリンタクラス 10
プリンタクラス〔用語解説〕 1117
[プリンタクラス] タブ 186
[プリンタクラスの追加] ダイアログ 181
[プリンタクラスの追加] ダイアログ〔拠点プリンタクラス〕 189
[プリンタクラスの追加] ダイアログ〔クライアントプリンタクラス〕 204
[プリンタクラスの変更] ダイアログ 183
[プリンタクラスの変更] ダイアログ〔拠点プリンタクラス〕 191
[プリンタクラスの変更] ダイアログ〔クライアントプリンタクラス〕 205
プリンタ非表示の設定 208
フルパスで指定するときの長さ 879
プレビューウィンドウ 214
プレビューウィンドウのメニュー〔対話型印刷プレビュー表示〕 219
プレビュー表示〔蓄積管理 GUI〕 163
[プロパティ] ダイアログ 215

へ

ページ数の多い帳票を出力する場合の注意 1020
ヘルパクライアント印刷 8

ヘルパクライアント印刷をする場合の注意 1014

ほ

ポート番号指定で処理の振り分けを行う構成〔システムの負荷分散と多重化〕 1098

め

メイン画面〔蓄積管理 GUI〕 141
メニュー領域〔蓄積管理 GUI〕 141
メモリ入力〔用語解説〕 1117

り

リストビュー領域〔蓄積管理 GUI〕 144

れ

連続して印刷する場合の注意 1014

ろ

ロードバランサを使用した構成〔システムの負荷分散と多重化〕 1094
ロードバランサを使用して処理の自動振り分けを行う構成 1093